

高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第157集

若宮ノ東遺跡Ⅱ

都市計画道路高知南国線建設工事に伴う発掘調査報告書Ⅱ
(第1分冊)

2023.3

高 知 県

(公財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

若宮ノ東遺跡Ⅱ

都市計画道路高知南国線建設工事に伴う発掘調査報告書Ⅱ

(第1分冊)

2023.3

高 知 県

(公財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

序

公益財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターでは、平成 28 年度から高知県中央東土木事務所の業務委託を受けた都市計画道路高知南国線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査を実施しています。

一連の調査によって若宮ノ東遺跡が弥生時代から近世にかけての大規模な遺跡であり、高知県の歴史を復元するうえで欠くことのできない遺跡であることが明らかとなりました。弥生時代では後期前葉から古墳時代前期初頭にかけての竪穴建物跡を 100 棟以上検出し、田村遺跡群の後を継ぐ集落跡であることが明らかとなり、今回報告します文字が刻書された弥生土器は漢字の普及について一石を投じるものです。飛鳥時代では評衙跡の可能性のある県下最大規模の掘立柱建物跡、続く奈良時代から平安時代では正倉と考えられる建物跡がみつき、律令期を通して重要な地点であったことが窺われます。中世では溝で囲まれた屋敷群がみつき、有力者の存在を示しています。

最後になりましたが、今回の調査では高知県中央東土木事務所、南国市教育委員会をはじめ地元の皆様には多大なご理解とご協力を得ることができました。また、発掘作業・整理作業に従事した作業員の皆様に対しましても厚く御礼を申し上げます。

令和5年3月

公益財団法人高知県文化財団 埋蔵文化財センター
所 長 松田 直則

例 言

1. 本書は都市計画道路高知南国線の建設に伴い、平成28～30年度、令和3年度に実施した5～7区の発掘調査報告書である。
2. 本調査は、高知県中央東土木事務所から受託し、公益財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した。
3. 若宮ノ東遺跡は長岡台地の縁辺部に立地する弥生時代から近世までの複合遺跡で、弥生時代後期の集落跡、古代の官衙関連遺構、中世の屋敷群など多くの遺構・遺物が確認されている。調査面積は平成28年度(1E区)が86㎡、平成29年度(6-1区・7-1-1区・7-1-2区・7-3区)が1,850㎡、平成30年度(5区・7-4区)が1,230㎡、令和3年度(7-1-3区・7-2区)が356㎡である。
4. 発掘調査・整理作業は次の体制で行った。

平成28年度

総 括 : 公益財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター所長 松田直則
総 務 : 同次長兼総務課長 東勝彦, 同総務係長 吉森和子
調 査 総 括 : 同調査課長兼調査第一班長 吉成承三
調 査 担 当 : 同調査第二班長 坂本憲昭, 同専門調査員 江間盛男, 同主任調査員 徳平涼子
同調査補助員 大原直美・片岡和美・前田早苗
事務補助員 : 廣内美登利・奥宮千恵子

平成29年度

総 括 : 公益財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター所長 松田直則
総 務 : 同次長兼総務課長 和田安弘, 同総務係長 吉森和子, 同主幹 三谷有紀
調 査 総 括 : 同調査課長兼調査第一班長 吉成承三
調 査 担 当 : 同調査第二班長 坂本憲昭, 同調査員 矢野雅子
同調査補助員 大賀幸子・岡林真史
事務補助員 : 廣内美登利

平成30年度

総 括 : 公益財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター所長 松田直則
総 務 : 同次長兼総務課長 和田安弘, 同総務係長 吉森和子
調 査 総 括 : 同調査課長兼調査第一班長 吉成承三
調 査 担 当 : 同調査第二班長 坂本憲昭, 同専門調査員 久家隆芳, 同調査員 下木千佳
同調査補助員 坂本憲彦・大賀幸子・岡林真史・野崎益範
事務職員 : 今田琴美
事務補助員 : 北村幸絵・笹野女怜

令和元年度(平成31年度)

総 括 : 公益財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター所長 松田直則
総 務 : 同次長兼総務課長 和田安弘, 同総務係長 吉森和子, 同主査 門田香織
調 査 総 括 : 同調査課長兼調査第一班長 吉成承三
調 査 担 当 : 同調査第二班長 坂本憲昭, 同専門調査員 西村豊史・久家隆芳
同調査補助員 大賀幸子・岡林真史・田上修造
事務職員 : 今田琴美

例言

事務補助員：北村幸絵

令和2年度

総括：公益財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター所長 松田直則

総務：同次長兼総務課長 橋田歩, 同主査 門田香織

調査総括：同調査課長兼調査第一班長 吉成承三

調査担当：同調査第二班長 坂本憲昭, 同専門調査員 久家隆芳, 同調査員 綾部侑真
調査補助員 大賀幸子・岡林真史・幾野雄也

事務職員：今田琴美

事務補助員：北村幸絵

令和3年度

総括：公益財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター所長 松田直則

総務：同次長兼総務課長 橋田歩, 同主査 門田香織

調査総括：同調査課長 吉成承三

調査担当：同チーフ 坂本憲昭・久家隆芳, 同調査員 綾部侑真・宮地啓介
同調査補助員 大賀幸子・岡林真史

事務職員：今田琴美

事務補助員：北村幸絵

令和4年度

総括：公益財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター所長 松田直則

総務：同次長兼総務課長 橋田歩, 同主査 門田香織

調査総括：同調査課長 吉成承三

調査担当：同チーフ 久家隆芳, 同調査員 下木千佳・宮地啓介
同調査補助員 大賀幸子・松田克純

事務職員：今田琴美

事務補助員：北村幸絵

5. 本書の執筆は、以下の内容で久家が執筆した。平成28・29年度調査分は坂本が遺構の基礎整理、遺物の選び出し、実測図の点検および観察所見を記載した。平成30年度分・令和3年度調査分については久家が遺構の基礎整理、遺物の選び出しを行った。実測図の点検および観察所見の記載は久家と宮地で行った。第I章は坂本、第II章は久家、第III章はパリノ・サーヴェイ株式会社、株式会社パレオラボが執筆した。編集は久家が行った。

現場写真については各担当職員が行い、遺物写真については平成28・29年度調査分は坂本、平成30年度・令和3年度調査分は久家が撮影した。

6. 遺構についてはST(竪穴建物跡)、SB(掘立柱建物跡)、SA(柵跡)、SK(土坑跡)、SG(土器棺墓)、SD(溝跡)、P(柱穴)、SX(性格不明遺構)等で表記した。掘立柱建物跡の復元については、大賀幸子(同調査補助員)の協力による。また、掲載している遺構平面図の縮尺はそれぞれに記しており、方位Nは世界測地系のGNである。遺構の主軸方位については、真北から計測した。

7. 遺物については弥生土器は縮尺1/4、須恵器・土師器・土師質土器・陶磁器、土製品、石製品、金属製品は縮尺1/3を基本として掲載し、一部の遺物については適宜縮尺を変えているが、各挿図にはスケールを表記している。

8. 調査にあたっては、高知県中央東土木事務所のご協力をいただいた。また、地元住民の方々には遺跡に対するご理解とご協力をいただき、厚く感謝の意を表したい。
9. 発掘作業・整理作業について、多くの方々に労を厭わず作業に従事していただいた。厚く感謝の意を表したい。
10. 現地調査および報告書作成にあたっては、多くの方々のご協力やご教示を賜った。記して感謝の意を表したい。(順不同、敬称略)
阿辻哲次、岩橋孝典、大橋泰夫、加藤友康、川尻秋生、黒濟玉恵、佐藤信、館野和己、田中史生、出原恵三、禰宜田佳男、平川南、松村さを里、三上喜孝、宮里修、矢越葉子、柳田康雄、矢野雅子、山路直充、油利崇、吉村武彦
南国市教育会、(公財)高知県文化財団埋蔵文化財センターの諸氏
11. 出土遺物は平成28年度を「16-3NW」、平成29年度を「17-1NW」、平成30年度を「18-1NW」、令和3年度を「21-1NW」と注記し、高知県立埋蔵文化財センターで保管している。

本文目次

第Ⅰ章 調査の経過.....	1
第Ⅱ章 調査成果.....	3
第1節 調査の方法と基本層序.....	3
1. 調査の方法.....	3
2. 基本層序.....	3
第2節 5区.....	7
1. ST.....	7
2. SB.....	86
3. SK.....	111
4. SD.....	122
5. SX.....	123
6. ピット.....	124
7. 遺構外出土遺物.....	127
第3節 6-1区.....	129
1. ST.....	129
2. SB.....	153
3. SA.....	160
4. SK.....	160
5. SD.....	171
6. SX.....	181
7. ピット.....	186
8. 遺構外出土遺物.....	186
第4節 7区.....	189
1. ST.....	189
2. SB.....	263
3. SA.....	315
4. SK.....	321
5. SG.....	344
6. SD.....	345
7. ピット.....	358
8. 遺構外出土遺物.....	364
第5節 小結 5区の大型掘立柱建物跡をめぐって.....	373
第Ⅲ章 自然科学分析.....	383
第1節 若宮ノ東遺跡の自然科学分析.....	383
第2節 若宮ノ東遺跡出土の赤色顔料の自然科学分析.....	389

挿図目次

図 1	南国市位置図	1
図 2	報告書所収調査区位置図	2
図 3	グリッド設定図	4
図 4	6-1区調査区北壁	5
図 5	7-4区調査区北壁	6
図 6	1E区 ST1 遺物出土状態図	7
図 7	1E区 ST1 平面図・断面図	8
図 8	1E区 ST1 出土遺物実測図_1	9
図 9	1E区 ST1 出土遺物実測図_2	11
図10	1E区 ST1 出土遺物実測図_3	12
図11	1E区 ST1 出土遺物実測図_4	13
図12	1E区 ST1 出土遺物実測図_5	14
図13	1E区 ST1 出土遺物実測図_6	16
図14	1E区 ST1 出土遺物実測図_7	17
図15	1E区 ST1 出土遺物実測図_8	19
図16	1E区 ST1 出土遺物実測図_9	21
図17	1E区 ST1 出土遺物実測図_10	22
図18	1E区 ST1 出土遺物実測図_11	23
図19	1E区 ST1 出土遺物実測図_12	24
図20	1E区 ST1 出土遺物実測図_13	25
図21	1E区 ST1 出土遺物実測図_14	26
図22	1E区 ST1 出土遺物実測図_15	27
図23	1E区 ST1 出土遺物実測図_16	28
図24	5区 ST1～7 平面図	29
図25	5区 ST1 平面図・断面図	30
図26	5区 ST1 出土遺物実測図_1	31
図27	5区 ST1 出土遺物実測図_2	32
図28	5区 ST2 平面図・断面図	34
図29	5区 ST2 出土遺物実測図	34
図30	5区 ST3 平面図・断面図	35
図31	5区 ST3 出土遺物実測図	35
図32	5区 ST4 平面図・断面図	36
図33	5区 ST4 出土遺物実測図	37
図34	5区 ST6 平面図・断面図	39
図35	5区 ST6 出土遺物実測図_1	41

插图目次

图36	5区	ST6	出土遺物実測図_2	43
图37	5区	ST6	出土遺物実測図_3	44
图38	5区	ST6	出土遺物実測図_4	45
图39	5区	ST7	平面図・断面図	46
图40	5区	ST7	出土遺物実測図	47
图41	5区	ST4・6	出土遺物実測図	47
图42	5区	ST4・7	出土遺物実測図	48
图43	5区	SX1	出土遺物実測図	50
图44	5区	ST5	平面図・断面図	51
图45	5区	ST5	出土遺物実測図	51
图46	5区	ST8・9・16・17・18	平面図・断面図	52
图47	5区	ST8	平面図	53
图48	5区	ST8	出土遺物実測図	55
图49	5区	ST9	平面図	56
图50	5区	ST9	出土遺物実測図_1	56
图51	5区	ST9	出土遺物実測図_2	57
图52	5区	ST8・9	出土遺物実測図	57
图53	5区	SX2	出土遺物実測図_1	58
图54	5区	SX2	出土遺物実測図_2	59
图55	5区	SX2	出土遺物実測図_3	60
图56	5区	SX2	出土遺物実測図_4	61
图57	5区	SX2	出土遺物実測図_5	62
图58	5区	SX2	出土遺物実測図_6	63
图59	5区	SX2	出土遺物実測図_7	64
图60	5区	SX2	出土遺物実測図_8	65
图61	5区	SX2	出土遺物実測図_9	66
图62	5区	SX2	出土遺物実測図_10	67
图63	5区	SX2	出土遺物実測図_11	67
图64	5区	ST10	平面図・断面図	68
图65	5区	ST10	出土遺物実測図_1	68
图66	5区	ST10	出土遺物実測図_2	69
图67	5区	ST11・12	平面図・断面図	70
图68	5区	ST11	出土遺物実測図	71
图69	5区	ST12	出土遺物実測図	71
图70	5区	ST11・12	出土遺物実測図	72
图71	5区	ST13	平面図・断面図	73
图72	5区	ST13	出土遺物実測図_1	74
图73	5区	ST13	出土遺物実測図_2	75

図74	5区	ST14	平面図・断面図	76
図75	5区	ST14	出土遺物実測図	76
図76	5区	ST15	平面図・断面図	77
図77	5区	ST15	出土遺物実測図_1	78
図78	5区	ST15	出土遺物実測図_2	79
図79	5区	ST15	出土遺物実測図_3	80
図80	5区	ST15	出土遺物実測図_4	81
図81	5区	ST15	出土遺物実測図_5	81
図82	5区	ST19	平面図・断面図	83
図83	5区	SX3	出土遺物実測図	85
図84	5区	SB1	エレベーション図	87
図85	5区	SB1_P8・12・15	遺物出土状態図・エレベーション図	99
図86	5区	SB1	出土遺物実測図_1	100
図87	5区	SB1	出土遺物実測図_2	101
図88	5区	SB2	平面図・エレベーション図	102
図89	5区	SB3	平面図・エレベーション図	102
図90	5区	SB3	出土遺物実測図	102
図91	5区	SB4	平面図・エレベーション図	103
図92	5区	SB5	平面図・エレベーション図	103
図93	5区	SB5	出土遺物実測図	103
図94	5区	SB6	平面図・エレベーション図	104
図95	5区	SB6	出土遺物実測図_1	104
図96	5区	SB6	出土遺物実測図_2	105
図97	5区	SB7	平面図・エレベーション図	106
図98	5区	SB8	平面図・エレベーション図	106
図99	5区	SB9	平面図・エレベーション図	107
図100	5区	SB10	平面図・エレベーション図	107
図101	5区	SB11	平面図・エレベーション図	108
図102	5区	SB12	平面図・エレベーション図	108
図103	5区	SB13	平面図・エレベーション図	109
図104	5区	SB14	平面図・エレベーション図	109
図105	5区	SB15	平面図・エレベーション図	110
図106	1E区	SK1・2・3	平面図・エレベーション図	111
図107	1E区	SK5・6	平面図・断面図	111
図108	1E区	SK4・14・15	平面図・断面図	112
図109	1E区	SK13	平面図・断面図	112
図110	5区	SK2	出土遺物実測図	113
図111	5区	SK3	出土遺物実測図	113

挿図目次

図112	5区	SK4	出土遺物実測図	113
図113	5区	SK5	出土遺物実測図	113
図114	5区	SK6	出土遺物実測図	113
図115	5区	SK7	出土遺物実測図	113
図116	5区	SK8	平面図・エレベーション図	114
図117	5区	SK8	出土遺物実測図	114
図118	5区	SK11・14	平面図・断面図	115
図119	5区	SK11	出土遺物実測図	115
図120	5区	SK13	平面図・断面図	115
図121	5区	SK14	出土遺物実測図	116
図122	5区	SK15	平面図・断面図	116
図123	5区	SK15	出土遺物実測図	116
図124	5区	SK17	平面図・断面図	116
図125	5区	SK18	平面図・断面図	117
図126	5区	SK18	出土遺物実測図	117
図127	5区	SK19	平面図・エレベーション図	117
図128	5区	SK19	出土遺物実測図	117
図129	5区	SK22・SX2	出土遺物実測図	118
図130	5区	SK25	出土遺物実測図	118
図131	5区	SK26	出土遺物実測図	119
図132	5区	SK27	出土遺物実測図	119
図133	5区	SK29	平面図・エレベーション図	121
図134	5区	SK29	出土遺物実測図	121
図135	5区	SD1～3	断面図	122
図136	5区	SD1	出土遺物実測図	122
図137	5区	SD2	出土遺物実測図	122
図138	5区	SD1・2	出土遺物実測図	122
図139	5区	SX4	出土遺物実測図	123
図140	5区	ピット	出土遺物実測図	125
図141	5区	遺構外出土遺物実測図_1		126
図142	5区	遺構外出土遺物実測図_2		127
図143	6-1区	ST1	平面図・断面図	130
図144	6-1区	ST1	出土遺物実測図_1	131
図145	6-1区	ST1	出土遺物実測図_2	132
図146	6-1区	ST1	出土遺物実測図_3	133
図147	6-1区	ST2	平面図・断面図	134
図148	6-1区	ST2	重複平面図	135
図149	6-1区	ST2	出土遺物実測図_1	136

図150	6-1区	ST2	出土遺物実測図_2	137
図151	6-1区	ST3	平面図・断面図	138
図152	6-1区	ST3	出土遺物実測図_1	139
図153	6-1区	ST3	出土遺物実測図_2	140
図154	6-1区	ST3	出土遺物実測図_3	141
図155	6-1区	ST2・3	出土遺物実測図	142
図156	6-1区	ST4	平面図・エレベーション図	142
図157	6-1区	ST4	出土遺物実測図	142
図158	6-1区	ST5	平面図・断面図	143
図159	6-1区	ST5	出土遺物実測図	143
図160	6-1区	ST9・10	平面図・断面図	144
図161	6-1区	ST9	出土遺物実測図	144
図162	6-1区	ST10	出土遺物実測図	145
図163	6-1区	ST11・12	平面図	145
図164	6-1区	ST11	平面図・断面図	146
図165	6-1区	ST11	出土遺物実測図	147
図166	6-1区	ST12	平面図・断面図	148
図167	6-1区	ST12	出土遺物実測図	149
図168	6-1区	ST11・12	出土遺物実測図	149
図169	6-1区	ST13	平面図・断面図	150
図170	6-1区	ST13	出土遺物実測図	151
図171	6-1区	ST14	平面図・断面図	152
図172	6-1区	ST14	出土遺物実測図	152
図173	6-1区	ST15	平面図・断面図	153
図174	6-1区	ST15	出土遺物実測図	153
図175	6-1区	SB1	平面図・エレベーション図	154
図176	6-1区	SB1	柱穴断面図	155
図177	6-1区	SB1	出土遺物実測図	157
図178	6-1区	SB2	平面図・エレベーション図	157
図179	6-1区	SB3	平面図・エレベーション図	158
図180	6-1区	SB3	出土遺物実測図	158
図181	6-1区	SB4	平面図・エレベーション図	159
図182	6-1区	SB5	平面図・エレベーション図	159
図183	6-1区	SB6	平面図・エレベーション図	160
図184	6-1区	SB7	平面図・エレベーション図	160
図185	6-1区	SB8	平面図・エレベーション図	161
図186	6-1区	SB8	出土遺物実測図	161
図187	6-1区	SB9	平面図・エレベーション図	161

挿図目次

図 188	6-1 区	SB10	平面図・エレベーション図	161
図 189	6-1 区	SB11	平面図・エレベーション図	162
図 190	6-1 区	SB11	出土遺物実測図	162
図 191	6-1 区	SB12	平面図・エレベーション図	163
図 192	6-1 区	SB12	出土遺物実測図	163
図 193	6-1 区	SA1	平面図・エレベーション図	164
図 194	6-1 区	SK1	平面図・エレベーション図	164
図 195	6-1 区	SK2・3	平面図・エレベーション図	165
図 196	6-1 区	SK2	出土遺物実測図	165
図 197	6-1 区	SK3	出土遺物実測図	165
図 198	6-1 区	SK4	平面図・エレベーション図	165
図 199	6-1 区	SK8	平面図・エレベーション図	166
図 200	6-1 区	SK11・13	平面図・エレベーション図	166
図 201	6-1 区	SK11	出土遺物実測図	166
図 202	6-1 区	SK12	平面図・エレベーション図	167
図 203	6-1 区	SK14・15	平面図・断面図・エレベーション図	167
図 204	6-1 区	SK14	出土遺物実測図	168
図 205	6-1 区	SK19・SD12	平面図・断面図	169
図 206	6-1 区	SK21	平面図・断面図	170
図 207	6-1 区	SK22	平面図・断面図	170
図 208	6-1 区	SK23	平面図・断面図	170
図 209	6-1 区	SK24	平面図・断面図	170
図 210	6-1 区	SK25	平面図・断面図	170
図 211	6-1 区	SK26	平面図・断面図	171
図 212	6-1 区	SK26	出土遺物実測図	171
図 213	6-1 区	SK27	平面図・エレベーション図	171
図 214	6-1 区	SK27	出土遺物実測図	171
図 215	6-1 区	SK28	出土遺物実測図	171
図 216	6-1 区	SK29	平面図・エレベーション図	172
図 217	6-1 区	SK29	出土遺物実測図	172
図 218	6-1 区	SK30	平面図・エレベーション図	172
図 219	6-1 区	SK 変遷	図	173
図 220	6-1 区	SD1	出土遺物実測図	174
図 221	6-1 区	SD2	出土遺物実測図	174
図 222	6-1 区	SD3・8・9・10	断面図	174
図 223	6-1 区	SD3	出土遺物実測図_1	175
図 224	6-1 区	SD3	出土遺物実測図_2	176
図 225	6-1 区	SD3・P157	平面図	177

図226	6-1区	SD4	断面図	177
図227	6-1区	SD4	出土遺物実測図	177
図228	6-1区	SD5	出土遺物実測図	178
図229	6-1区	SD14	出土遺物実測図	179
図230	6-1区	SD21	平面図・エレベーション図	181
図231	6-1区	SD23	出土遺物実測図	181
図232	6-1区	SD	変遷図	182
図233	6-1区	SX1・2	平面図・断面図	183
図234	6-1区	SX1	出土遺物実測図	184
図235	6-1区	SX2	出土遺物実測図	184
図236	6-1区	SX3	平面図・断面図	185
図237	6-1区	SX3	出土遺物実測図	185
図238	6-1区	ピット	出土遺物実測図	187
図239	6-1区	遺構外	出土遺物実測図	188
図240	7区	ST1	平面図・断面図	189
図241	7区	ST1	出土遺物実測図	189
図242	7区	ST2	平面図・断面図	190
図243	7区	ST2	出土遺物実測図	191
図244	7区	ST3	平面図・エレベーション図	192
図245	7区	ST3	出土遺物実測図	192
図246	7区	ST4	平面図・断面図	193
図247	7区	ST4	出土遺物実測図	193
図248	7区	ST5	平面図・断面図	194
図249	7区	ST5	出土遺物実測図	194
図250	7区	ST6	平面図・断面図	195
図251	7区	ST6	出土遺物実測図_1	196
図252	7区	ST6	出土遺物実測図_2	197
図253	7区	ST6	出土遺物実測図_3	198
図254	7区	ST6	出土遺物実測図_4	199
図255	7区	ST7	平面図・断面図	200
図256	7区	ST7	出土遺物実測図	200
図257	7区	ST8	平面図・断面図	202
図258	7区	ST8	出土遺物実測図_1	204
図259	7区	ST8	出土遺物実測図_2	205
図260	7区	ST9	平面図・断面図	206
図261	7区	ST9	出土遺物実測図_1	208
図262	7区	ST9	出土遺物実測図_2	209
図263	7区	ST9	出土遺物実測図_3	210

挿図目次

図264	7区	ST10	平面図・断面図	211
図265	7区	ST10	出土遺物実測図	211
図266	7区	ST11	平面図・断面図	212
図267	7区	ST11	平面図	213
図268	7区	ST11	出土遺物実測図	214
図269	7区	ST12	平面図・断面図	215
図270	7区	ST12	出土遺物実測図_1	216
図271	7区	ST12	出土遺物実測図_2	217
図272	7区	ST13	平面図・断面図	219
図273	7区	ST13	出土遺物実測図	220
図274	7区	ST14	平面図・断面図	222
図275	7区	ST14	出土遺物実測図	223
図276	7区	ST15	平面図・エレベーション図	224
図277	7区	ST15	出土遺物実測図_1	225
図278	7区	ST15	出土遺物実測図_2	225
図279	7区	ST16	平面図・断面図	226
図280	7区	ST16	出土遺物実測図_1	227
図281	7区	ST16	出土遺物実測図_2	227
図282	7区	ST17	平面図・エレベーション図	228
図283	7区	ST17	出土遺物実測図	228
図284	7区	ST18	平面図・断面図	229
図285	7区	ST18	遺物出土状態図	229
図286	7区	ST18	出土遺物実測図	230
図287	7区	ST19	平面図・断面図	231
図288	7区	ST19	出土遺物実測図	232
図289	7区	ST20・21	平面図・断面図	233
図290	7区	ST20	出土遺物実測図	234
図291	7区	ST21	出土遺物実測図	235
図292	7区	ST22	平面図・断面図	236
図293	7区	ST22	出土遺物実測図_1	238
図294	7区	ST22	出土遺物実測図_2	239
図295	7区	ST23	平面図・断面図	240
図296	7区	ST23	出土遺物実測図_1	242
図297	7区	ST23	出土遺物実測図_2	243
図298	7区	ST24	平面図・断面図	244
図299	7区	ST24	出土遺物実測図_1	246
図300	7区	ST24	出土遺物実測図_2	247
図301	7区	ST24	出土遺物実測図_3	248

図302	7区	ST24	出土遺物実測図_4	249
図303	7区	ST24	出土遺物実測図_5	250
図304	7区	ST25	平面図・断面図	251
図305	7区	ST25	出土遺物実測図	252
図306	7区	土器集中	遺物出土状態図	253
図307	7区	土器集中	出土遺物実測図_1	254
図308	7区	土器集中	出土遺物実測図_2	255
図309	7区	SB1	平面図・エレベーション図	257
図310	7区	SB2	平面図・エレベーション図	257
図311	7区	SB3	平面図・エレベーション図	257
図312	7区	SB4	平面図・エレベーション図	258
図313	7区	SB5	平面図・エレベーション図	258
図314	7区	SB6	平面図・エレベーション図	258
図315	7区	SB6	出土遺物実測図	258
図316	7区	SB7	平面図・エレベーション図	259
図317	7区	SB7	断面図	259
図318	7区	SB8	平面図・エレベーション図	260
図319	7区	SB9	平面図・エレベーション図	260
図320	7区	SB10	平面図・エレベーション図	261
図321	7区	SB11	平面図・エレベーション図	261
図322	7区	SB11	出土遺物実測図	262
図323	7区	SB12	平面図・エレベーション図	262
図324	7区	SB12	断面図	263
図325	7区	SB12	出土遺物実測図	263
図326	7区	SB13	平面図・エレベーション図	264
図327	7区	SB13	出土遺物実測図	264
図328	7区	SB14	平面図・エレベーション図	265
図329	7区	SB15	平面図・エレベーション図	266
図330	7区	SB15	出土遺物実測図	266
図331	7区	SB16	平面図・エレベーション図	266
図332	7区	SB17	平面図・エレベーション図	267
図333	7区	SB18	平面図・エレベーション図	267
図334	7区	SB18	出土遺物実測図	268
図335	7区	SB19	平面図・エレベーション図	268
図336	7区	SB19	出土遺物実測図	268
図337	7区	SB20	平面図・エレベーション図	269
図338	7区	SB20	断面図	270
図339	7区	SB21	平面図・エレベーション図	272

挿図目次

図 340	7区	SB21	断面図	272
図 341	7区	SB22	平面図・エレベーション図	273
図 342	7区	SB23	平面図・エレベーション図	273
図 343	7区	SB24	平面図・エレベーション図	274
図 344	7区	SB24	出土遺物実測図	274
図 345	7区	SB25	平面図・エレベーション図	274
図 346	7区	SB26	平面図・エレベーション図	275
図 347	7区	SB26	出土遺物実測図	275
図 348	7区	SB27	平面図・エレベーション図	276
図 349	7区	SB27	出土遺物実測図	276
図 350	7区	SB27	断面図	276
図 351	7区	SB28	平面図・エレベーション図	277
図 352	7区	SB28	出土遺物実測図	277
図 353	7区	SB28	断面図	278
図 354	7区	SB29	出土遺物実測図	279
図 355	7区	SB30	平面図・エレベーション図	280
図 356	7区	SB31	平面図・エレベーション図	280
図 357	7区	SB31	出土遺物実測図	280
図 358	7区	SB32	平面図・エレベーション図	281
図 359	7区	SB32	出土遺物実測図	281
図 360	7区	SB33	平面図・エレベーション図	282
図 361	7区	SB33	出土遺物実測図	282
図 362	7区	SB34	出土遺物実測図_1	283
図 363	7区	SB34	出土遺物実測図_2	284
図 364	7区	SB34	出土遺物実測図_3	285
図 365	7区	SB35	平面図・エレベーション図	286
図 366	7区	SB35	出土遺物実測図	286
図 367	7区	SB36	平面図・エレベーション図	286
図 368	7区	SB36	出土遺物実測図	286
図 369	7区	SB37	平面図・エレベーション図	288
図 370	7区	SB37	出土遺物実測図	288
図 371	7区	SB38	平面図・エレベーション図	288
図 372	7区	SB38	出土遺物実測図	288
図 373	7区	SB39	平面図・エレベーション図	289
図 374	7区	SB39	出土遺物実測図	289
図 375	7区	SB40	平面図・エレベーション図	290
図 376	7区	SB40	出土遺物実測図	290
図 377	7区	SB41	平面図・エレベーション図	292

図378	7区	SB41	出土遺物実測図	292
図379	7区	SB42	平面図・エレベーション図	293
図380	7区	SB43	平面図・エレベーション図	294
図381	7区	SB43	出土遺物実測図	294
図382	7区	SB44	平面図・エレベーション図	294
図383	7区	SB45	平面図・エレベーション図	295
図384	7区	SB45	出土遺物実測図	295
図385	7区	SB46	平面図・エレベーション図	296
図386	7区	SB47	平面図・エレベーション図	296
図387	7区	SB48	平面図・エレベーション図	297
図388	7区	SB48	出土遺物実測図	297
図389	7区	SB49	平面図・エレベーション図	297
図390	7区	SB49	出土遺物実測図	297
図391	7区	SB50	平面図・エレベーション図	298
図392	7区	SB51	平面図・エレベーション図	299
図393	7区	SB52	平面図・エレベーション図	299
図394	7区	SB52	出土遺物実測図	299
図395	7区	SB53	平面図・エレベーション図	300
図396	7区	SB54	平面図・エレベーション図	300
図397	7区	SB55	平面図・エレベーション図	301
図398	7区	SB55	出土遺物実測図	301
図399	7区	SB56	平面図・エレベーション図	302
図400	7区	SB57	平面図・エレベーション図	302
図401	7区	SB57_P760	遺物出土状態図	302
図402	7区	SB57	出土遺物実測図	302
図403	7区	SB58	平面図・エレベーション図	303
図404	7区	SB58	出土遺物実測図	304
図405	7区	SB59	平面図・エレベーション図	305
図406	7区	SB59	出土遺物実測図	305
図407	7区	SB60	平面図・エレベーション図	306
図408	7区	SB61	平面図・エレベーション図	307
図409	7区	SB61	出土遺物実測図	307
図410	7区	SB62	平面図・エレベーション図	308
図411	7区	SB63	平面図・エレベーション図	309
図412	7区	SB63	出土遺物実測図	309
図413	7区	SB64	平面図・エレベーション図	309
図414	7区	SB64	出土遺物実測図	309
図415	7区	SB65	平面図・エレベーション図	310

挿図目次

図 416	7区	SB65	出土遺物実測図	310
図 417	7区	SB66	平面図・エレベーション図	311
図 418	7区	SB67	平面図・エレベーション図	311
図 419	7区	SB68	平面図・エレベーション図	312
図 420	7区	SB68	出土遺物実測図	312
図 421	7区	SA1	平面図・エレベーション図	313
図 422	7区	SA2	平面図・エレベーション図	313
図 423	7区	SA4	出土遺物実測図	313
図 424	7区	SA5	平面図・エレベーション図	313
図 425	7区	SA6	出土遺物実測図	314
図 426	7区	SA7	出土遺物実測図	314
図 427	7区	SA8	平面図・エレベーション図	315
図 428	7区	SA8_P856	遺物出土状態図	315
図 429	7区	SA8	出土遺物実測図	316
図 430	7区	SA9	平面図・エレベーション図	316
図 431	7区	SA9	出土遺物実測図	316
図 432	7区	SA10	平面図・エレベーション図	317
図 433	7区	SA11	平面図・エレベーション図	317
図 434	7区	SA11	出土遺物実測図	317
図 435	7区	SK2	出土遺物実測図	318
図 436	7区	SK7	平面図・断面図	318
図 437	7区	SK9	平面図・断面図	318
図 438	7区	SK10	平面図・エレベーション図	318
図 439	7区	SK11	平面図・断面図	319
図 440	7区	SK11	出土遺物実測図	320
図 441	7区	SK12	平面図・断面図	321
図 442	7区	SK12	遺物出土状態図	321
図 443	7区	SK12	出土遺物実測図_1	322
図 444	7区	SK12	出土遺物実測図_2	323
図 445	7区	SK13	平面図・エレベーション図	324
図 446	7区	SK13	出土遺物実測図	324
図 447	7区	SK14	平面図・断面図	325
図 448	7区	SK16	平面図・エレベーション図	326
図 449	7区	SK16	出土遺物実測図	326
図 450	7区	SK19	平面図・断面図	326
図 451	7区	SK19	出土遺物実測図	326
図 452	7区	SK20	平面図・エレベーション図	327
図 453	7区	SK20	出土遺物実測図	327

図454	7区	SK21	平面図・断面図	327
図455	7区	SK25	平面図・エレベーション図	328
図456	7区	SK25	出土遺物実測図	328
図457	7区	SK29・36・42	平面図・断面図	328
図458	7区	SK29	出土遺物実測図	329
図459	7区	SK29・36	出土遺物実測図	330
図460	7区	SK29・42	出土遺物実測図	330
図461	7区	SK30	平面図・断面図・遺物出土状態図・エレベーション図	331
図462	7区	SK30	出土遺物実測図	331
図463	7区	SK31	平面図・エレベーション図	332
図464	7区	SK31	出土遺物実測図	332
図465	7区	SK32	遺物出土状態図	332
図466	7区	SK32	出土遺物実測図_1	333
図467	7区	SK32	出土遺物実測図_2	334
図468	7区	SK34	平面図・断面図	334
図469	7区	SK34	出土遺物実測図	335
図470	7区	SK35	平面図・エレベーション図	336
図471	7区	SK36	平面図・エレベーション図	336
図472	7区	SK36	出土遺物実測図	336
図473	7区	SK37・38	出土遺物実測図	337
図474	7区	SK39	平面図・断面図	337
図475	7区	SK40	平面図・断面図	337
図476	7区	SK40	出土遺物実測図	337
図477	7区	SK42	平面図・エレベーション図	338
図478	7区	SK42	出土遺物実測図	338
図479	7区	SK45・46	平面図・断面図	338
図480	7区	SK45	出土遺物実測図	339
図481	7区	SK46	出土遺物実測図	340
図482	7区	SK48	平面図・断面図	340
図483	7区	SK52	平面図・断面図	341
図484	7区	SK52	出土遺物実測図	341
図485	7区	SK54	平面図・エレベーション図	341
図486	7区	SK54	出土遺物実測図	341
図487	7区	SG1	平面図・断面図	342
図488	7区	SG1	出土遺物実測図	343
図489	7区	SG2	平面図・断面図	344
図490	7区	SG2	出土遺物実測図	344
図491	7区	SD2	エレベーション図	345

挿図目次

図492	7区	SD2	出土遺物実測図	345
図493	7区	SD5	エレベーション図	345
図494	7区	SD5	出土遺物実測図	345
図495	7区	SD12	断面図	346
図496	7区	SD24	断面図	346
図497	7区	SD24	出土遺物実測図	346
図498	7区	SD25	断面図	347
図499	7区	SD25	出土遺物実測図_1	347
図500	7区	SD25	出土遺物実測図_2	348
図501	7区	SD32	断面図	348
図502	7区	SD32	出土遺物実測図	348
図503	7区	SD33	出土遺物実測図	349
図504	7区	SD34	断面図	349
図505	7区	SD34	出土遺物実測図	349
図506	7区	SD35	エレベーション図	350
図507	7区	SD35	出土遺物実測図	350
図508	7区	P119	遺物出土状態図	351
図509	7区	P776	平面図・断面図	351
図510	7区	ピット	平面図・エレベーション図_1	352
図511	7区	ピット	平面図・エレベーション図_2	353
図512	7区	ピット	平面図・エレベーション図_3	354
図513	7区	ピット	平面図・エレベーション図_4	355
図514	7区	ピット	出土遺物実測図_1	356
図515	7区	ピット	出土遺物実測図_2	357
図516	7区	ピット	出土遺物実測図_3	358
図517	7区	ピット	出土遺物実測図_4	359
図518	7区		遺構外出土遺物実測図_1	361
図519	7区		遺構外出土遺物実測図_2	362
図520	7区		遺構外出土遺物実測図_3	363
図521	7区		遺構外出土遺物実測図_4	364
図522	7区		遺構外出土遺物実測図_5	365
図523	7区		遺構外出土遺物実測図_6	366
図524	7区		遺構外出土遺物実測図_7	367
図525	7区		遺構外出土遺物実測図_8	368
図526	7区		遺構外出土遺物実測図_9	368
図527	7区		遺構外出土遺物実測図_10	370
図528	7区		遺構外出土遺物実測図_11	371
図529			若宮ノ東遺跡_官衙跡1	373

図530	1区SD5 断面図・出土遺物実測図	374
図531	1区SB1と官衙跡1	375
図532	1区SB1 平面図・エベレーション図	376
図533	1区SB1 出土遺物実測図	377
図534	東部官衙群掘立柱建物跡配置図_1	378
図535	東部官衙群掘立柱建物跡配置図_2	381
図536	暦年較正結果	384
図537	年代測定試料・炭化材の顕微鏡写真	387
図538	測定位置と測定位置の実体顕微鏡写真	388
図539	赤色顔料の蛍光X線分析結果	388
図540	赤色顔料の蛍光X線分析結果	390
図541	分析対象試料(a)および赤色顔料の生物顕微鏡写真(b)	391

表目次

表 1	7区ST 8 支柱穴計測表	203
表 2	7区ST11 支柱穴計測表	212
表 3	7区ST13 支柱穴計測表	219
表 4	7区ST15 支柱穴計測表	224
表 5	放射性炭素年代測定結果	384
表 6	赤色顔料分析対象一覧	389
表 7	ST 計測表	395
表 8	SB 計測表	397
表 9	SA 計測表	400
表 10	SK 計測表	401
表 11	SG 計測表	406
表 12	SX 計測表	406
	遺物観察表(土器・陶磁器類)	409
	遺物観察表(土製品)	480
	遺物観察表(石製品)	484
	遺物観察表(金属製品)	487

付図目次

- 付図1 若宮ノ東遺跡 5～7区遺構平面図(S=1/200)
- 付図2 若宮ノ東遺跡 5～7区西側遺構平面図(S=1/100)
- 付図3 若宮ノ東遺跡 5～7区東側遺構平面図(S=1/100)
- 付図4 若宮ノ東遺跡 5～7区上層遺構平面図(S=1/300)
- 付図5 若宮ノ東遺跡 5～7区SB・SA遺構平面図①(S=1/300)
- 付図6 若宮ノ東遺跡 5～7区SB・SA遺構平面図②(S=1/300)
- 付図7 若宮ノ東遺跡 5～7区SB・SA遺構平面図③(S=1/300)
- 付図8 若宮ノ東遺跡 5区SB1遺構平面図・断面図(S=1/80)
- 付図9 若宮ノ東遺跡 7区SB・SA遺構平面図・エレベーション図(S=1/100)

第I章 調査の経過

第1節 調査の経過

都市計画道路高知南国線建設に伴う若宮ノ東遺跡発掘調査は、事業主体である高知県から公益財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターが業務委託を受け、平成28年度より用地買収が行われ調査可能な部分から調査を開始し、令和3年度まで継続して行われた。

今回の報告書では1E・5～7区までを報告している。1E区は5区として設定した区画の南西隅にあたる。平成28年度に調査した1区の大型柱穴列を検出した部分と隣接している。大型柱穴列は調査時点では建物の側柱と考えられたため、検出された柱穴に対応すると考えられる部分のみ確認を急遽行うこととなり1E区として調査を行った。5区は東半部分が平成28年度時点では屋敷地となっていたため調査区全体の調査は建物移転完了後の平成30年度に行われた。調査では7間×2間の大型掘立柱建物跡が検出され、平成28年度に1区で検出された大型柱穴列とそれに沿う溝跡から、溝と堀により区画された古代官衙の中心施設の可能性が高いと判断された。高知県では発見例の無い貴重な資料であることから高知県教育委員会に報告し、調査後の方途の確認を行った。結果、工事計画では検出面以下の掘削はなく盛土による道路建設であるため、埋戻しにより地下保存できることが判明した。高知県教育委員会、文化庁に確認の上、遺構・遺構面を元の表土高まで砂による埋戻しを行うこととして、事業施工者で委託元である高知県中央東土木事務所の了解の上これを行った。



図1 南国市位置図

6・7区は住吉通りから東側に位置し、若宮ノ東遺跡の東端部にあたる。調査区は現況道路によって北側を6区、南側を7区とした。7-1区については現況区画ごとに調査区を設定し枝番号を1～3まで付けて調査を行った。各調査区の調査年度は平成29年度が6-1区、7-1-1区、7-1-2区7-3区、平成30年度が7-4区、令和3年度が7-1-3区、7-2区である。

第2節 発掘調査体制

平成28年度(1E区)

吉成承三(調査課長)

坂本憲昭(調査第二班長), 江間盛男(専門調査員), 徳平涼子(主任調査員)

大原直美・片岡和美・前田早苗(調査補助員)

平成29年度(6-1区・7-1-1区・7-1-2区・7-3区)

吉成承三(調査課長)

坂本憲昭(調査第二班長), 矢野雅子(調査員)

大賀幸子・岡林真史(調査補助員)

平成30年度(5区・7-4区)

吉成承三(調査課長)

坂本憲昭(調査第二班長), 久家隆芳(専門調査員), 下木千佳(調査員)

坂本憲彦・大賀幸子・岡林真史・野崎益範(調査補助員)

令和3年度(7-1-3区・7-2区)

吉成承三(調査課長)

坂本憲昭・久家隆芳(チーフ)

大賀幸子(調査補助員)

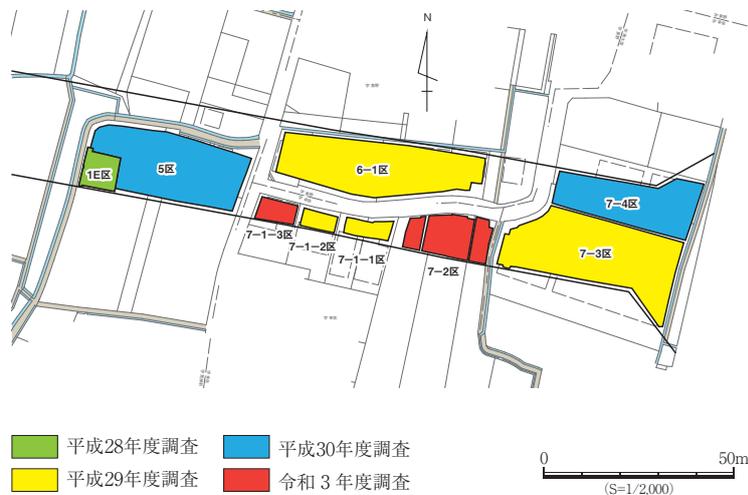


図2 報告書所収調査区位置図

第Ⅱ章 調査成果

第1節 調査の方法と基本層序

1. 調査の方法

試掘確認調査の結果をもとに表土は重機で掘削し、遺構検出及び遺構掘削については人力により掘削した。遺構完掘後、高所作業車により全景写真を撮影し、空中写真測量によって平面図を作成した。その他、必要に応じて断面図、遺物出土状態図を任意の縮尺で作成した。

グリッドの設定は世界測地系に基づく公共座標により100m四方の大グリッド、20m四方の中グリッド、4m四方の小グリッドを設定した。測量は世界測地系第4座標系(IV系)の基準点を使用し、X=64,300m, Y=11,700m(北緯33°34'47", 東経133°37'33", 真北方向角-0°04'10")を原点とし、A1(100mグリッド:大グリッド)を組んだ。大中小グリッドの間は「-」で区切って表記している。このグリッド、座標を使用して遺構の平面図、遺物出土状態等の実測、出土遺物の取り上げを行った。

遺構名は、基本的には検出及び調査順に大調査区毎に連番を付し、調査時に付した遺構名で報告した。竪穴建物跡をST、掘立柱建物跡をSB、柵列跡をSA、土坑跡をSK、溝跡をSD、土器棺墓をSG、性格不明遺構をSX、ピット・柱穴をPの略号としてそれぞれ使用した。SB・SAは整理作業時に付した。なお、掘立柱建物跡については復元できそうなものを積極的に取り上げた。また、同じ柱穴を複数の掘立柱建物跡の復元に使用したのものもある。

2. 基本層序

5区は発掘調査前は宅地であったため、表土から約40cmは盛土および攪乱層の部分が多く、一部は耕作土と考えられる褐灰色(10YR4/1)細粒砂質シルトの部分もあった。攪乱は北側が激しかった。表土・盛土・攪乱層を除去すると遺構検出面となり、遺物包含層はみられなかった。そのため、調査区の断面図は図示していない。遺構は標高約7.6mで検出でき、検出面の土層(層厚約50cm)は明黄褐色(10YR7/6)細粒砂質シルトであり、以下は砂礫層となる。竪穴建物跡の残存する深さを考えるとかなり削平されているものと推測される。一方、5区SB1の柱穴の深さは1mを超えるものも多くあることから、SB1構築段階で少なくとも一度は整地(削平)を受けていると考えられる。

6-1区は発掘調査前は宅地であったため、表土から約40cmは攪乱層である。攪乱層を除去すると遺物包含層が約20cm残存していた。遺物包含層を除去した標高約7.8mが遺構検出面である。

6-1区の基本層序は調査区北壁で確認した。第1層は表土層、第2層は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに黒褐色(2.5Y3/2)粘土質シルトを少量含む(遺物包含層)、第3層は暗褐色(7.5YR3/3)細粒砂質シルトと黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに黒褐色(2.5Y3/2)粘土質シルトを少量含む(遺物包含層)、第4層は暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトに0.5～25.0cm大の礫を多く含む(地山)である。

7区の発掘調査前は7-1-1区・7-1-2区・7-1-3区は宅地であり、7-2区は駐車場および耕作地であった。また、7-3区および7-4区にはアパートが建っていた。7区の基本層序は7-4区の調査区北壁で確認した。第1層は盛土、第2層は耕作土、第3層は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト、第4層は暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトに礫を含む、第5層は黒色(10YR1.7/1)細粒砂質シルトに暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトを少量含む、第6層は暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトに黒色

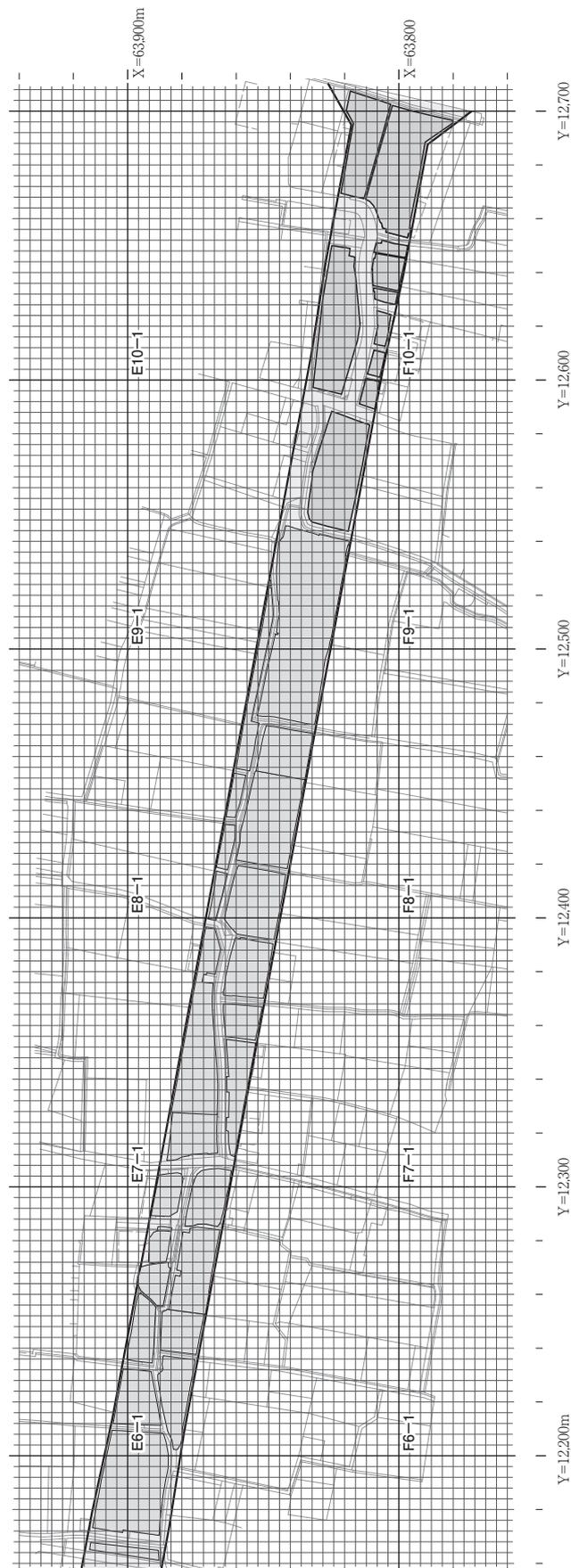
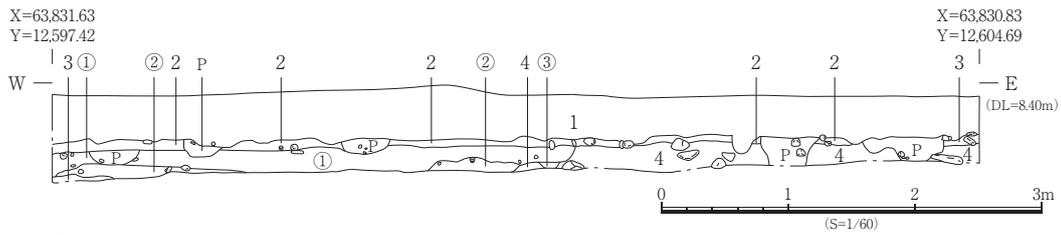


図3 グリッド設定図(S=1/2,500)



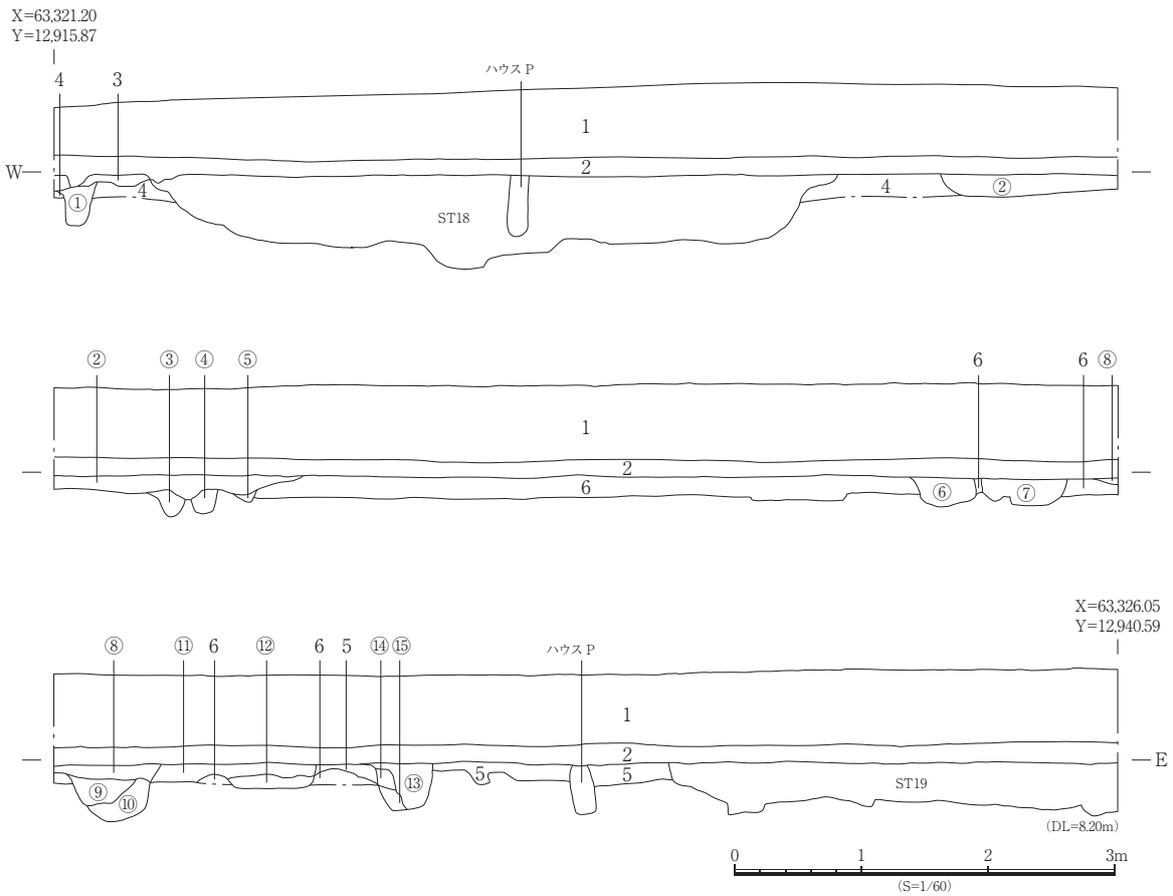
- 層位
- 第1層 表土層
 - 第2層 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに黒褐色 (2.5Y3/2) 粘土質シルトを少量含む (遺物包含層)
 - 第3層 暗褐色 (7.5YR3/3) 細粒砂質シルトと黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに黒褐色 (2.5Y3/2) 粘土質シルトを少量含む (遺物包含層)
 - 第4層 暗褐色 (10YR3/3) 細粒砂質シルトに0.5~25.0cm大の礫を多く含む (地山)

- 遺構埋土
- ① 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトに0.5~10.0cm大の礫を含む (ST14)
 - ② 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトに暗褐色 (10YR3/3) 細粒砂質シルトと0.5~7.0cm大の礫を含む (ST14)
 - ③ 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトに暗褐色 (10YR3/3) 細粒砂質シルトと0.5~7.0cm大の礫を含む (ST14_壁溝)

図4 6-1区調査区北壁

(10Y1.7/1)細粒砂質シルトを少量含む。7-3区および7-4区は地表面から60~80cmは盛土および攪乱層であり、その下には約10cmの遺物包含層がみられた。包含層直下を遺構検出面と認識しているものの、遺物包含層の上面から掘削された遺構も存在すると考えられる。7-1-1区は約60cmの盛土、約20cmの旧表土層を除去すると遺構検出面となる。遺構検出レベルは7-1-1区では約7.6m、7-1-2区では約7.6m、7-1-3区では7.7m、7-2区では7.8m、7-3区では7.8m、7-4区では7.9mである。

2. 基本層序



層位

- 第1層 盛土
- 第2層 耕作土
- 第3層 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト
- 第4層 暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトに礫を含む
- 第5層 黒色(10YR1.7/1)細粒砂質シルトに暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトを少量含む
- 第6層 暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトに黒色(10YR1.7/1)細粒砂質シルトを少量含む

遺構埋土

- ① 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト
- ② 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトを含む
- ③ 黒色(10YR1.7/1)細粒砂質シルト
- ④ 黒色(10YR1.7/1)細粒砂質シルト
- ⑤ 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトを含む(P717)

- ⑥ 黒色(10YR1.7/1)極細粒砂質シルトに暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトと褐色(10YR4/4)細粒砂質シルトを含む(P722)
- ⑦ 黒色(10YR1.7/1)極細粒砂質シルトに暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトと褐色(10YR4/4)細粒砂質シルトを含む(P731・P738)
- ⑧ 黒色(10YR1.7/1)極細粒砂質シルトに黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトを含む(P637)
- ⑨ 黒色(10YR1.7/1)極細粒砂質シルトに暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトと褐色(10YR4/4)細粒砂質シルトを含む(P637)
- ⑩ 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト(P637)
- ⑪ 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトに5.0cm以下の礫を少量含む(遺構埋土)
- ⑫ 黒色(10YR1.7/1)細粒砂質シルトに暗褐色(10YR3/4)細粒砂質シルトを少量含む(ピット)
- ⑬ 黒色(10YR1.7/1)細粒砂質シルトに黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトを少量含む(P650)
- ⑭ 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト(P650)
- ⑮ 黒色(10YR1.7/1)細粒砂質シルトに黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトを少量含む(P650)

図5 7-4区調査区北壁

第2節 5区

1.ST

1E区ST1

5区の南西部に位置する。1E区は1区の柱穴列(1区SA1)の性格を確定するために平成28年度に調査区を追加して調査を実施した。平成30年度に東半部を調査した。1E区ST1は一辺約6.60mの隅丸方形を呈する竪穴建物跡であり、床面積は約43.5㎡である。検出面から床面までの深さは約30cmを測り、埋土は黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルト他である。主軸方向はN-10°-Wである。南半分は調査区外へとひろがる。床面では壁溝(1E区ST1_SD1)、支柱穴を検出した。壁溝(1E区ST1_SD1)と壁から約1.60m内側の小溝(1E区ST1_SD2)の2条を検出した。壁溝(1E区ST1_SD1)は幅約22cm、床面からの深さは約8cmを測る。埋土は黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトである。支柱穴は壁際から約2.00m内側の四隅に配置されたものと推測され、北西の支柱穴(1E区ST1_P3)と北東の支柱穴(1E区ST1_P6)を検出した。これらの支柱穴は小溝(1E区ST1_SD2)で連結される。支柱穴(1E区ST1_P3)は長軸約73cm、短軸約56cmの楕円形を呈し、床面からの深さは約62cmを測る。埋土は黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトである。支柱穴(1E区ST1_P6)は長軸約54cm、短軸の検出長は約25cmの楕円形を呈し、床面からの深さは約62cmを測る。埋土は黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトである。

埋土からは多量の遺物が出土し、壁際に集中する傾向が認められる。平成28年度調査時には土器集中1～5に区分し取り上げるとともに特徴的な遺物については個別で出土地点を測量し取り上げ

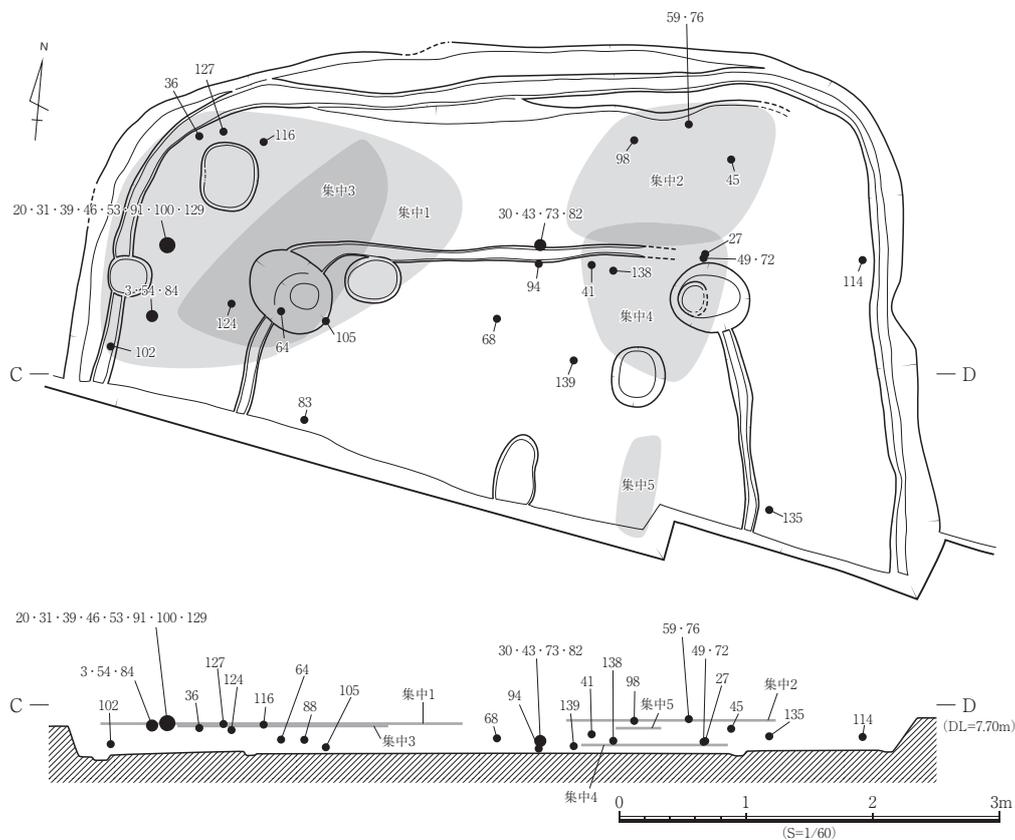


図6 1E区 ST1 遺物出土状態図

た。平成30年度調査時は特徴的な遺物についてのみ個別で出土地点を測量し取り上げた。

図示した出土遺物は、弥生土器の壺(1~33)・甕(34~100)・鉢(101~130)・高杯(131・132)・有孔土器(133)・製塩土器(134), ミニチュア土器(135~137), 土製紡錘車(138~141), 叩石(142~144)である。

1は壺である。直立した頸部を持つ。口唇部は面取りし, 下端部を僅かに摘み出す。頸部外面はタテハケ調整, 内面はナデ調整である。口縁部内面はハケ調整である。頸部外面にヘラによる山形文の線刻がみられる。2は壺である。垂直気味の頸部から口縁部は水平ちかく外反させ, 口唇部を面取りする。全体的に摩耗する。頸部外面はタテハケ調整, 内面はナデ調整か。3は壺である。短い頸部から口縁部は大きくひろく。口唇部は面取りし, 2条の凹線文をめぐらせる。口縁部にはヨコナデ調整を施し, ナデ痕跡が残存する。頸部外面はタテハケ調整, 内面はナデ調整である。4は壺である。体部は卵倒形を呈し, 頸部は短く直立し口縁部は大きくひろがる。口唇部はハケ状原体により面取りを施し, 上端部を摘み上げる。体部外面は叩き調整後, タテハケ調整を施す。一部はミガキ状を呈する。頸部外面はタテハケ調整後, ヨコナデ調整を加える。体部と同様に一部はミガキ状を呈する。体部内面上半部はナデ調整, 下半部はハケ調整である。口縁部は内外面ともナデ調整を施し, 一部はミガキ状を呈する。5は壺である。丸みを持った肩部から口縁部は大きく外反し, 口唇部は面取りされる。体部外面は叩き調整後, やや粗いハケ調整を施す。内面はヨコハケ調整を施し, 粘土接合痕跡以下は縦方向のナデ調整を施す。6は壺の口縁部である。口唇部はハケ状原体により面取りを施し, 上端部は摘み上げ凹面状を呈する。口縁部にはヨコナデ調整を施す。頸部外面はタテハケ調整, 内面はヨコハケ調整後, ヘラミガキ調整を疎らに施す。7は壺の口縁部である。口唇部は面取りし, 下方に拡張する。口唇部には櫛描波状文を施す。頸胴部境には刺突文がめぐる。口縁部内面はハケ調整後, ヘラミガキ調整を施す。8は壺である。頸部は短く直立し口縁部は大きく外反する。口唇部は面取りし, 擬口縁状となる。複合口縁壺あるいは装飾壺の可能性がある。体部は扁球形を呈する。体部外面には叩き調整後ハケ調整, さらにナデ調整を施す。叩き目は腰部付近に残存するのみである。内面は最大径部以下はハケ調整, 上半部はナデ調整である。肩部内面には粘土接合痕跡が認められる。底部は角

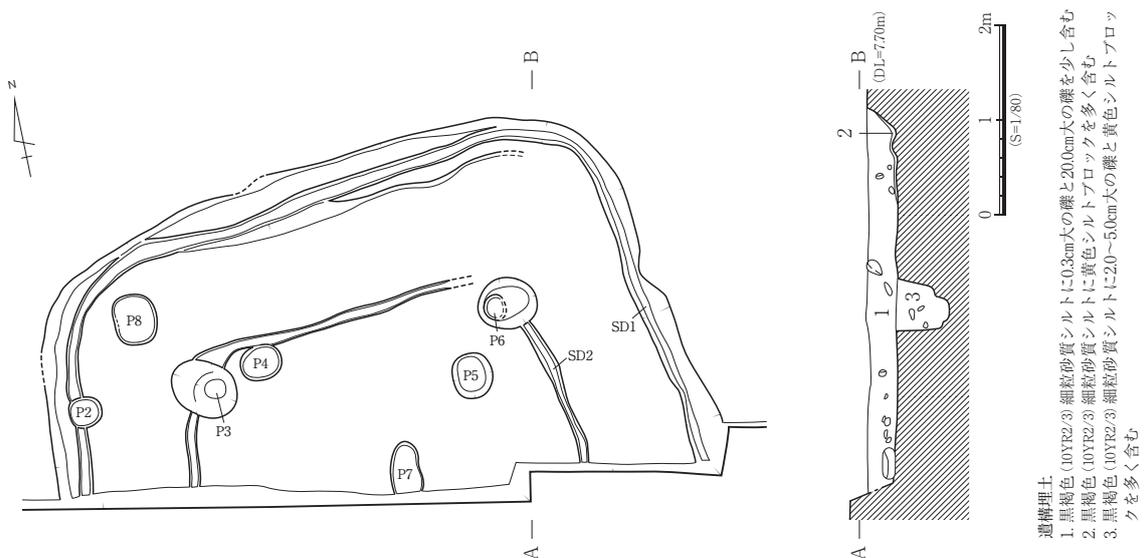


図7 1E区 ST1 平面図・断面図

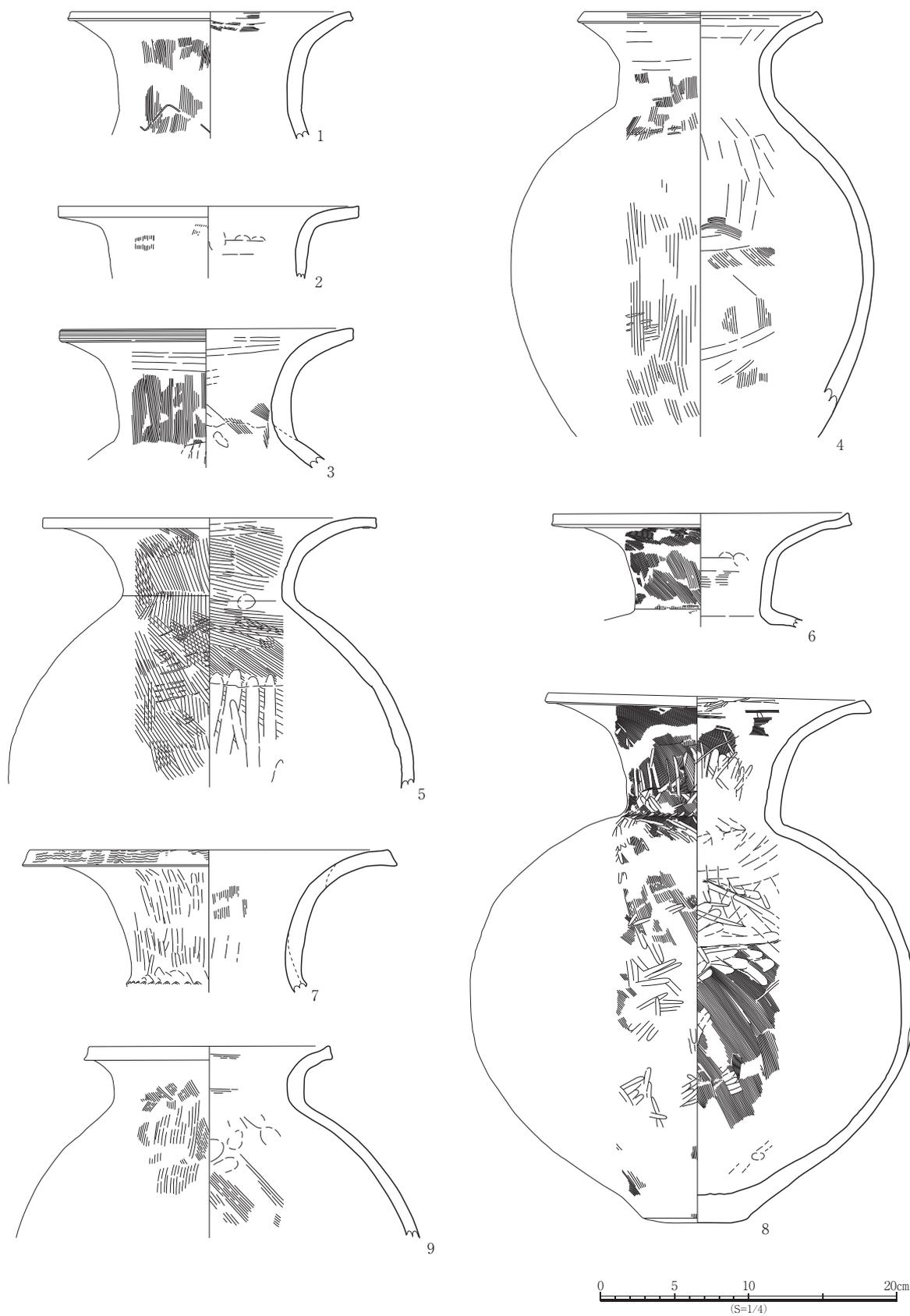


図8 1E区 ST1 出土遺物実測図_1

の取れた平底であり、外底面は軽くナデ調整を施す程度である。9は短頸の広口壺である。口唇部は面取りされ、上下に僅かに拡張し、凹面状を呈する。肩部内面には指頭圧痕が目立つ。体部外面は斜め方向のハケ調整である。10は壺である。体部は長胴形を呈し、口縁部は直立気味にのび、あまりひらかず、口唇部は面取りされる。内外面ともハケ調整を施し、端部はヨコナデ調整で仕上げる。底部は安定感のある平底で、外底面には叩き目を重ねる。体部外面は叩き調整後、ハケ調整を施す。最大径部より上方はやや右下がり方向、下方は右下がり方向の叩き目である。内面上半部には幅約2.5cmの粘土接合痕跡が明瞭に残存している。胴部外面には環状の煤が付着し、内面下半部にはおこげが付着しており煮沸の用に供されている。11は壺である。体部は長胴形を呈し、口縁部は短くあまりひらかず、口唇部は丸くおさめる。口縁部は内外面とも粗いハケ調整を施す。底部は角の取れた平底を呈し、外底面には叩き目がみられる。外面は右下がり方向の叩き調整後、ナデ調整を施す。特に下半部はヘラナデ調整により叩き目はほとんど消されている。内面上半部はナデ調整、下半部はハケ調整である。また、内面上半部には幅約2cmの粘土接合痕跡が明瞭に残存する。12は壺の口縁部である。口唇部はハケ状原体により面取りし、上下に僅かに拡張する。内外面ともハケ調整を施す。13は壺である。体部は球形を指向する。底部はやや平らな部分は残すもののほぼ丸底である。外底面は叩き調整後、ナデ調整を施す。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部は面取りする。口縁部外面は上胴部からの一連の叩き調整後、指頭により成形する。内面はナデ調整であり、底部および肩部付近には指頭圧痕が目立つ。また、内面上半部には粘土接合痕跡が認められる。14は壺である。体部は長胴形を呈する。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部は面取りする。上端部を摘み上げ、拡張する。口縁部外面はタテハケ調整後、ヨコナデ調整を加える。内面はヨコナデ調整を施す。口縁部にはナデ痕跡が明瞭に残る。底部は角の取れた平底を呈し、外底面は未調整にちかい。体部外面は叩き調整後、タテハケ調整を施す。内面は粗いハケ調整であり、肩部には指頭圧痕がみられ、粘土帯接合痕跡が認められる。また、鋭利な工具で焼成前に肩部外面に線刻を施す。また、頸部外面には18本の短線、「8」の字、その左に縦方向の直線の3つを組み合わせる。祭祀に供されたものか。15は壺である。口縁部は緩やかな「く」の字状を呈し、口唇部は凹面状を呈する。口縁部外面はタテハケ調整後、ヨコナデ調整で仕上げる。内面はハケ調整である。体部外面は叩き調整後、タテハケ調整を密に施す。内面は粗いヨコハケ調整後、縦方向のナデ調整を施す。16は壺である。口縁部は緩やかに外反する。口唇部は指頭により連続して摘み、成形する。体部外面は叩き調整後、タテハケ調整を密に施し、叩き目はほとんど消されている。内面は肩部の粘土接合痕跡付近を境に口縁部側はヨコハケ調整、底部側はナデ調整である。口縁部外面はタテハケ調整を密に施し、内面はヨコハケ調整である。17は壺である。体部はやや肩の張った長胴形か。口縁部は外反し、口唇部は面取りを施す。体部外面は叩き板によりナデ調整を施す。頸部の調整に特徴がある。内面は縦方向のナデ調整を施す。下半部はヨコナデ調整(粗いハケ調整)後、縦方向のナデ調整を加える。18は壺である。口縁部は短く外反し、口唇部はルーズな面取りを施す。外面は叩き調整後、ハケ調整を施す。口頸部はタテハケ調整を施す。内面はハケ調整後、ナデ調整を施す。頸部内面に粘土接合痕跡が認められる。19は壺である。頸部は内傾気味に短く、口縁部は短く大きくひらく。口唇部はルーズな面取りを施す。体部外面はハケ調整を密に施し、残存部には叩き目はまったくみられない。内面はハケ調整後、縦方向のナデ調整を施す。肩部内面はヨコハケ調整を施す。口縁部内面はハケ調整を施し、鈍い稜が3条認められる。20は壺である。体部は肩の張った長胴形を呈する。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部は面取りする。下方に摘み出し、拡張す

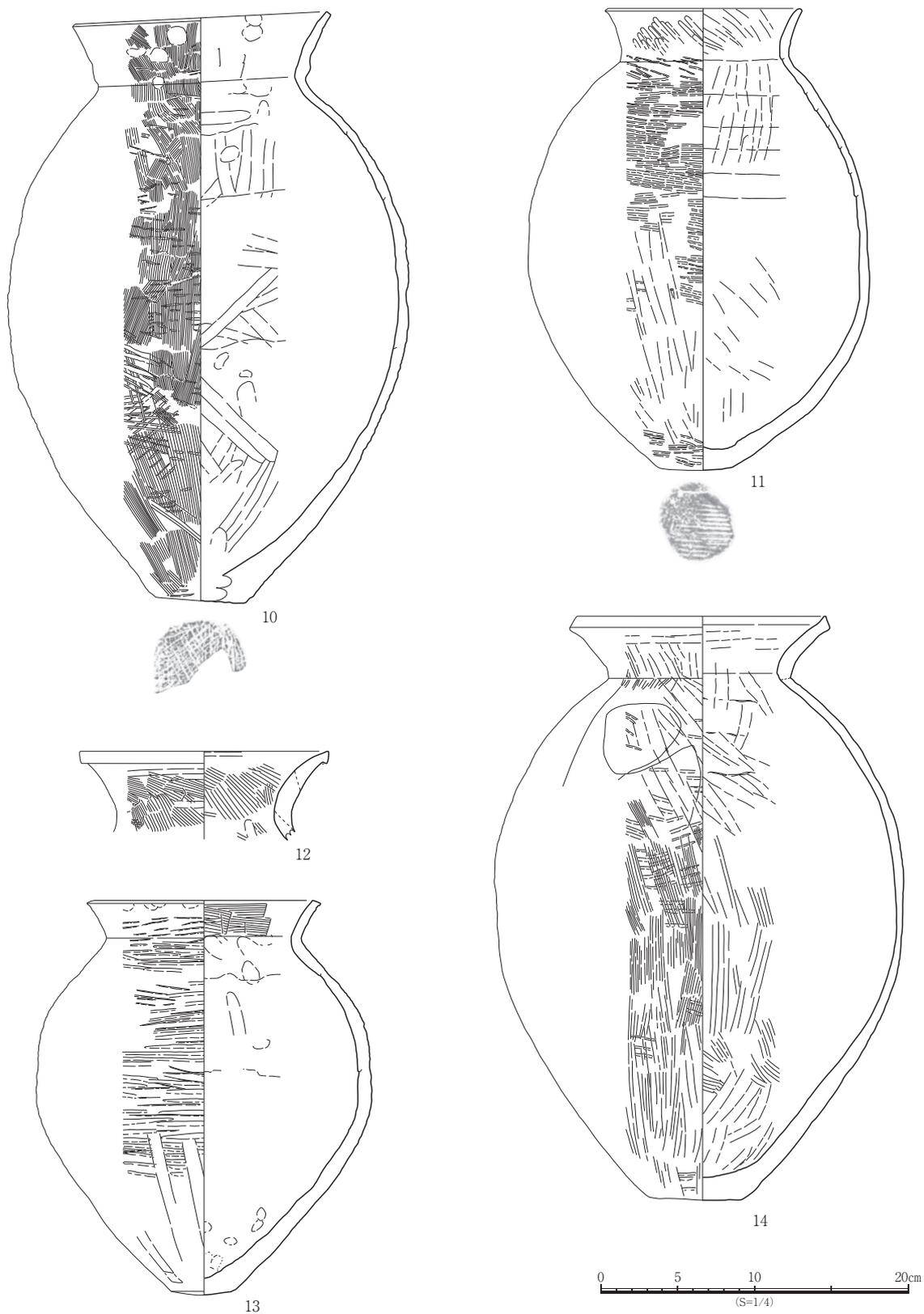


图9 1E区 ST1 出土遺物実測図_2

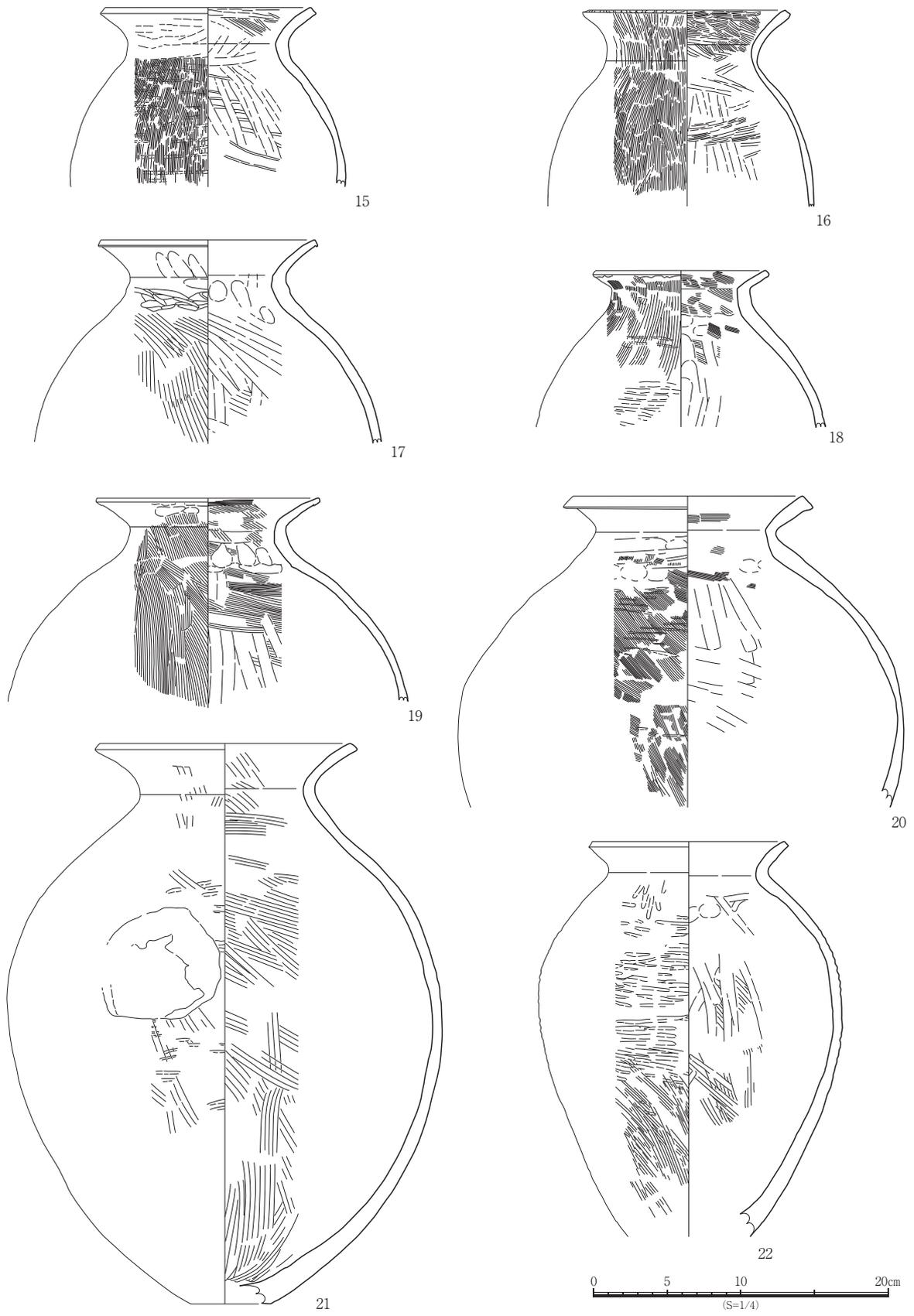


图10 1E区 ST1 出土遺物実測图_3



図11 1E区 ST1 出土遺物実測図_4

る。体部外面は叩き調整後、ハケ調整である。内面はハケ調整後ナデ調整である。肩部内面のナデ調整は上から下にむけて施す。肩部内面には粘土接合痕跡が認められ、幅約 1.5 cm を基準とする。器壁は厚く、全体的にしっかりとした作りである。21 は壺である。体部は球形を指向する。体部外面は叩き調整後、粗いハケ調整を施す。内面は粗いハケ調整で仕上げ、上半部は横方向、下半部は縦方向を基調とする。上胴部に穿孔か。焼成後の穿孔なら破断面の状況から内側から打ち割ったことになる。頸部外面、口縁部内面も粗いハケ調整を施す。22 は壺である。上胴部に最大径部を持つ。口縁部

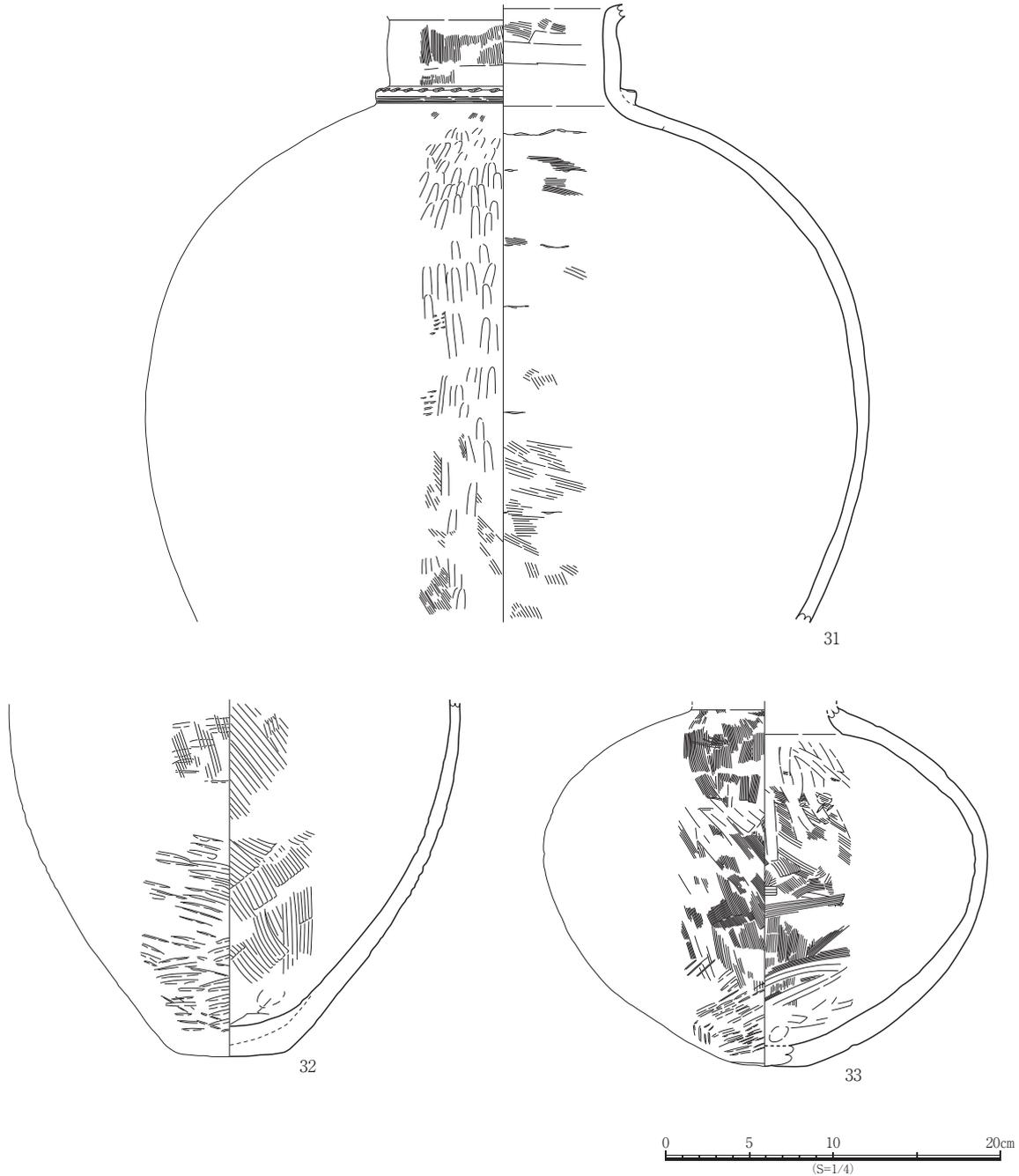


図12 1E区 ST1 出土遺物実測図_5

は「く」の字状を呈し、口唇部は面取りする。体部外面は叩き調整後に腰部付近にはタテハケ調整を加える。内面の最大径部以下はタテハケ調整後、ナデ調整を施す。肩部内面はナデ調整であり、粘土接合痕跡がみられる。23は壺である。頸部は細く締まり、口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部は面取りする。口縁部外面はタテハケ調整、内面はヨコハケ調整を施す。体部外面はタテハケ調整およびヘラミガキ調整を施す。僅かな凹凸がみられ、下地に叩き目があることを示している。かなり丁寧に叩き目を消している。内面はナデ調整である。24は壺である。体部はやや肩の張った長胴形か。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部はハケ状原体により面取りする。口縁部外面はタテハケ調整、内面は斜め方向のハケ調整である。体部外面は叩き調整後、ハケ調整を施す。内面は斜め方向のハケ調整後、縦方向のナデ調整を加える。25は壺である。体部は長胴形を呈し、口縁部は「く」の字状を呈する。口唇部はハケ状原体により面取りする。口縁部外面はタテハケ調整後、ヨコナデ調整を施す。内面はヨコハケ調整およびヨコナデ調整である。体部外面は叩き調整後、ハケ調整を疎らに施す。叩き調整は3分割で施したとみられ、肩部の叩き目は右下がり方向、中位は右上がり方向、下位は水平方向である。内面は斜め方向の粗いハケ調整を施し、肩部はヨコナデ調整であり、粘土帯接合痕跡が認められる。粘土帯の幅は約4cmである。26は壺の口縁部である。口縁部は「く」の字状を呈し、端部付近で外反する。口唇部は面取りを施し、ナデ痕跡がみられる。口縁部外面はヨコナデ調整であり、端部付近には叩き目か。内面は斜め方向の粗いハケ調整後、ヨコナデ調整を加える。体部外面はハケ調整、内面はナデ調整である。全体的にシャープなつくりである。27は壺である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部はハケ状原体により面取りする。下方に若干拡張する。体部外面は叩き調整後、ハケ調整を密に施す。内面はヨコハケ調整である。搬入品の可能性がある。28は複合口縁壺である。二次口縁部は直立気味に立ち上がり、口唇部はルーズな面取りを施す。二次口縁部は内外面ともヘラナデ調整を施す。体部外面にはヘラミガキ調整を施す。29は長頸壺である。頸部外面はタテハケ調整後、縦方向のヘラミガキ調整を密に施し、内面はハケ調整である。体部外面はハケ調整後、ミガキ調整である。叩き調整が施されていた可能性がある。内面はナデ調整であり、肩部には幅約3cmの粘土帯接合痕跡が認められる。30は壺である。体部は長胴形を呈する。体部外面は叩き調整後、斜め方向のハケ調整を施す。内面はハケ調整を施すものの凹凸がみられる。肩部内面はハケ調整およびナデ調整、指頭圧痕が認められる。内面には幅約5cmの粘土帯接合痕跡が認められる。31は壺である。体部は肩の張った長胴形を呈する。頸部は直立する。頸胴部境に断面形が三角形の刻目突帯を貼付する。外面は叩き調整後、ハケ調整を施し、さらにヘラミガキ調整を加える。ミガキ調整は比較的密に施す。頸部外面はタテハケ調整である。内面はやや荒れる。内面には幅約4.5cmの粘土帯接合痕跡が6～7条認められる。32は壺である。底部は角の取れた平底を呈し、外底面には軽くナデ調整を施す。外面は叩き調整後、ハケ調整およびナデ調整を施す。底部付近はナデ調整である。残存部位では3分割で叩き調整を施し、底部付近と肩部は右上がり方向、中位は右下がり方向の叩き目である。内面は粗いハケ調整で仕上げ、底面はナデ調整である。底部の粘土接合痕跡は明瞭である。33は壺である。体部は偏球形を呈する。底部は平らな部分の残る丸底であり、外底面には叩き目がみられる。外面は叩き調整後、ハケ調整を施す。内面は不定方向のハケ調整であり、肩部はナデ調整である。

34は小型の甕である。上胴部に最大径部を持つ。口縁部は短く外反する。外反度合いは弱い。口唇部を掴む。内外面はタテハケ調整を全面に施す。口縁部と体部ではハケ調整に使用する工具が異なる。口縁部外面はタテハケ調整後、指頭により成形する。35は小型の甕である。口縁部は「く」の字状

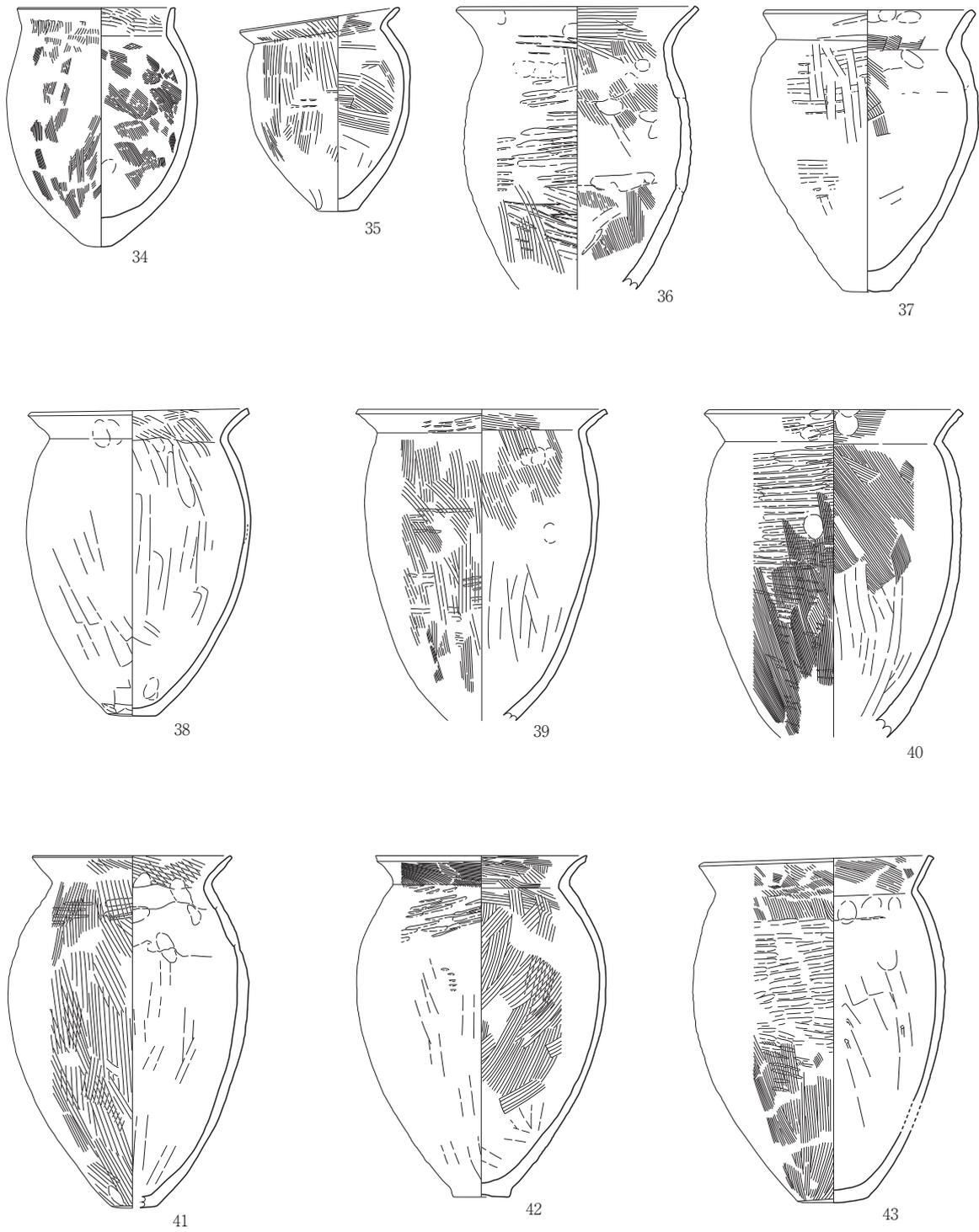


图13 1E区 ST1 出土遺物実測図_6



图14 1E区 ST1 出土遺物実測図_7

を呈し、口唇部はハケ状原体により面取りを施す。外面は叩き調整後、タテハケ調整を全面に施す。底部付近はナデ調整である。内面はヨコハケ調整を施し、肩部にはナデ調整を加える。また、底部付近はナデ調整で仕上げる。残存率は良好である。36は甕である。口縁部は屈曲度合いの弱い「く」の字状を呈し、口唇部は面取りする。外面は叩き調整後、下半部にはタテハケ調整を加える。肩部から口縁部にかけては叩き調整後、ナデ調整で仕上げる。幅約4cmの粘土帯接合痕跡が認められ、パーツ毎に調整が異なる。口縁部はヨコハケ調整であり、肩部にはハケ調整後、ナデ調整を施し指頭圧痕がみられる。下半部はハケ調整である。37は甕である。上胴部に最大径部を持つ。口縁部は屈曲度合いの弱い「く」の字状を呈し、口唇部にはルーズな面取りを施す。外面は叩き調整後、ハケ調整を施す。内面はハケ調整を全面に施す。底面付近はナデ調整である。38は甕である。上胴部に最大径部を持つ。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部には面取りを施す。底部は平底で、外底面はナデ調整で仕上げる。外面は叩き調整後、縦方向のヘラナデ調整を密に施す。内面は縦方向のナデ調整、底部付近は粗いハケ調整を施す。39は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部には面取りを施す。口縁部外面は叩き調整後、指頭により成形する。頸部の締まり具合は弱い。体部外面は叩き調整後、タテハケ調整を密に施す。内面の肩部はタテハケ調整、下半部は縦方向のナデ調整を施す。40は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部にはハケ状原体により面取りを施す。口縁部外面は叩き調整後、指頭により成形する。内面はヨコハケ調整で頸部との境は比較的稜が立つ。体部内面は斜め方向のハケ調整後、下半部はナデ調整を加える。41は長胴の甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、内外面とも斜め方向のハケ調整で仕上げる。底部は角の取れた平底を呈し、外底面にはナデ調整を施す。外面は叩き調整後、タテハケ調整を密に施す。内面はハケ調整およびナデ調整である。肩部内面には粘土接合痕跡が認められる。42は長胴の甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、上端部を摘み上げる。内外面ともヨコハケ調整である。底部は平底で直立部を有する。外底面には叩き目がみられる。体部外面は叩き調整後、肩部以下にタテハケ調整を施す。内面はハケ調整およびナデ調整である。器壁がうすく軽い。43は甕である。上胴部に最大径部を持つ。口縁部は「く」の字状を呈する。口縁部外面は叩き調整後ハケ調整を施し、内面はハケ調整を施す。底部は角の取れた平底を呈し、外底面にはハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後、タテハケ調整を施す。叩き調整は3分割で施す。内面上半部はナデ調整、下半部はケズリ調整である。肩部内面には粘土接合痕跡が認められる。44は甕である。口縁部は「く」の字状を呈する。口縁部外面は叩き調整後、指頭により成形する。底部はほぼ丸底であり、外底面にはハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後、下半部にタテハケ調整を施す。肩部内面には粘土接合痕跡が認められる。45は甕である。上胴部に最大径部を持つ。口縁部は屈曲度合いの弱い「く」の字状を呈する。口縁部は内外面ともハケ調整で仕上げる。底部は平底で、外底面は叩き調整後、ナデおよびハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後、タテハケ調整を全面に施す。内面はナデ調整であり、頸部にはハケ調整か。46は甕である。口縁部は屈曲度合いの弱い「く」の字状を呈する。口縁部外面は叩き調整後、ヨコナデ調整、内面はヨコハケ調整を施す。底部は平底であり、外底面には叩き目がみられる。体部外面は叩き調整後、タテハケ調整を施す。ハケ調整を下半部、頸部に施す。内面はナデ調整で仕上げる。肩部内面には粘土接合痕跡が認められる。全体的に歪む。47は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部は面取りする。口縁部外面は叩き調整後、指頭により成形する。内面はヨコハケ調整である。底部は角の取れた平底であり、外底面は未調整と考えられる。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。外面は4分割で叩き調整を施す。内面はナデ調整である。頸部内面はハ



图15 1E区 ST1 出土遺物実測図_8

ケ調整である。肩部内面には粘土接合痕跡が認められる。48は甕である。体部は怒り肩の長胴形を呈する。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部は面取りする。口縁部外面は叩き調整後、粗いハケ調整を施す。内面はヨコハケ調整である。体部外面は叩き調整後、タテハケ調整を施す。ハケ調整は下半部、頸部に施す。内面はハケ調整後、縦方向のナデ調整を施す。肩部内面に接合痕跡が認められる。49は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部は端部を連続的に摘むことで面取りする。口縁部外面は叩き調整後、指頭により成形する。内面はヨコハケ調整である。底部は角の取れた平底であり、外底面は叩き調整後、ナデ調整である。体部外面は叩き調整後、タテハケ調整を施す。内面はナデ調整である。内底面には指頭圧痕が顕著に認められる。肩部内面には粘土接合痕跡がみられる。50は甕である。口縁部は緩やかな「く」の字状を呈し、口唇部は面取りする。底部は角の取れた平底で、外底面に叩き目が認められる。内面下半部は、タテハケ調整後、ナデ調整を施す。51は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、内面の口頸部境には稜が立つ。口唇部は面取りする。体部外面は叩き調整後、タテハケ調整を施す。内面はハケ調整およびナデ調整で仕上げる。また、指頭圧痕が顕著である。52は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部は面取りする。口縁部外面はタテハケ調整、内面はヨコハケ調整である。体部外面は叩き調整後、タテハケ調整を施す。内面下半部以下はヘラケズリ調整を施す。底面付近はナデ調整である。器壁がうすく軽い。53は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部は端部を連続的に摘むことで面取りする。口縁部外面は叩き調整後、タテハケ調整を施し、指頭により成形する。底部は角の取れた平底で外底面に叩き目を重ねる。体部外面は叩き調整後、タテハケ調整を施す。内面上半部はハケ調整後、縦方向のナデ調整を施す。下半部はナデ調整である。54は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部は面取りする。口縁部外面は叩き調整後、指頭により成形し、内面は粗いヨコハケ調整である。体部は最大径部を中位に持つ長胴形を呈する。体部外面は叩き調整後、タテハケ調整を疎らに施す。底部は角の取れた平底で外底面に叩き目が認められる。55は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部は面取りする。口縁部外面は上胴部からの一連の叩き調整後、指頭により成形し、内面は粗いヨコハケ調整である。体部は最大径部を中位に持つ長胴形を呈する。底部は丸みを持った平底で、外底面は叩き調整後ナデ調整である。56は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部は面取りする。口縁部外面はタテハケ調整後、ヨコナデ調整を施す。内面は粗いヨコハケ調整である。体部外面は叩き調整後、全面にタテハケ調整を施す。内面は全面にタテハケ調整を施す。肩部内面に粘土接合痕跡がみられる。57は甕である。口縁部は緩やかな「く」の字状を呈し、口唇部は面取りする。口縁部外面はタテハケ調整後、ヨコナデ調整を施す。内面は粗いヨコハケ調整である。体部外面は叩き調整後、全面にタテハケ調整を施す。内面はナデ調整である。肩部内面に粘土接合痕跡が認められる。形態的には壺形土器に類似する。58は甕である。口縁部は長い「く」の字状を呈し、口唇部はルーズな面取りを施す。口縁部外面は叩き調整後、指頭により成形する。内面はヨコハケ調整およびナデ調整で仕上げる。底部は角の取れた平底を呈し、外底面には叩き目がみられる。体部外面は叩き調整後、軽くナデ調整を施す程度であり、大部分は叩き調整のみである。全体的に雑な作りである。59は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部はハケ状原体により面取りする。口縁部外面は叩き調整後、指頭により成形する。内面はヨコハケ調整である。体部外面は叩き調整後、全面にタテハケ調整を施す。内面はハケ調整後、ナデ調整を施す。60は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部は面取りする。口縁部外面は、叩き調整後、タテハケ調整を施し、内面はヨコハケ調整である。体部内面上半部は粗いハケ調整、下半部はナデ調整である。63は甕であ

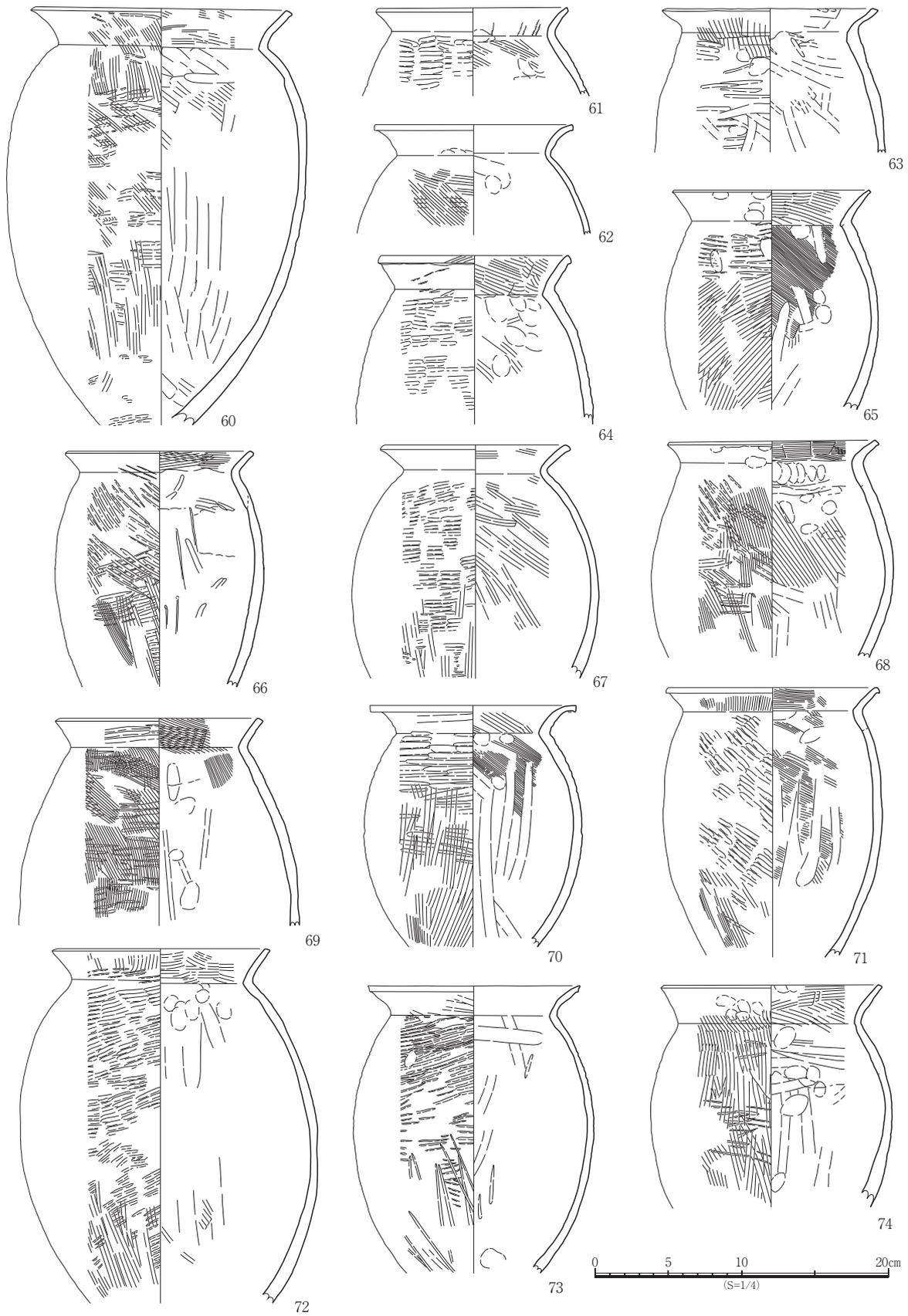


图16 1E区 ST1 出土遺物実測図_9

る。口縁部は屈曲度合いの弱い「く」の字状を呈する。口唇部は指頭により連続して摘み、調整する。口縁部外面は叩き板で縦方向に調整する。内面も叩き板で横方向に調整し、ナデ調整で仕上げる。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面は叩き板で調整する。66は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部にはルーズな面取りを施す。口縁部外面は上胴部からの一連の叩き調整後、指頭により成形する。内面はヨコハケ調整である。体部外面は叩き調整後、タテハケ調整を施す。上半部の叩き目は急な右下がり方向、下半部が水平方向である。内面は肩部以下にはヘラケズリ調整を施す。68は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部にはルーズな面取りを施す。口縁部外面はタテハケ調整後、ナデ調整を施す。内面はヨコハケ調整である。体部外面は叩き調整後、タテハケ調整を施



図17 1E区 ST1 出土遺物実測図_10

す。上半部の叩き目は急な右下がり方向，下半部が水平方向である。内面は粗いハケ調整を施す。72は長胴の甕である。口縁部は「く」の字状を呈し，口唇部にはルーズな面取りを施す。口縁部外面は上胴部からの一連の叩き調整後，下半部にはタテハケ調整を施す。内面は粗いヨコハケ調整である。体部外面は叩き調整後，タテハケ調整を施す。内面上半部はナデ調整である。下半部はハケ調整後，ナデ調整を施す。肩部内面にはヨコハケ調整を施し，指頭圧痕が顕著である。73は甕である。体部は中位に最大径部を持つ。口縁部は「く」の字状を呈し，口唇部には面取りを施し，上端部を摘み上げる。内外面ともヨコナデ調整で仕上げ，内面の口頸部境には稜が立つ。体部外面は叩き調整後，下半部にヘラナデ調整を施す。内面は，丁寧にナデ調整を施す。74は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し，口唇部には面取りを施す。口縁部外面は叩き調整後，タテハケ調整を施す。内面は粗いヨコハケ調整である。体部外面は叩き調整後，タテハケ調整を施す。内面は縦方向のナデ調整であり，肩部は横方向のヘラナデ調整を施す。80は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し，口唇部にはルーズな面取りを施す。口縁部外面はタテハケ調整，内面はヨコハケ調整を施す。体部外面の上半部は斜め方向のハケ調整，下半部は叩き調整後，ハケ調整を施す。内面の上半部は斜め方向のハケ調整であり，下半部はヘラケズリ調整である。胎土等の特徴から搬入品と考えられる。88は甕である。口縁部はやや緩やかな「く」の字状を呈し，口唇部にはルーズな面取りを施す。口縁部外面はヨコナデ調整，内面はヨコハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後，全面にタテハケ調整を施す。内面はヨコハケ調整後，ナデ調整を施す。頸部はヨコハケ調整を施す。搬入品か。91は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し，口唇部は丸くおさめる。口縁部外面は斜め方向のハケ調整，内面はヨコハケ調整である。体部外面は叩き

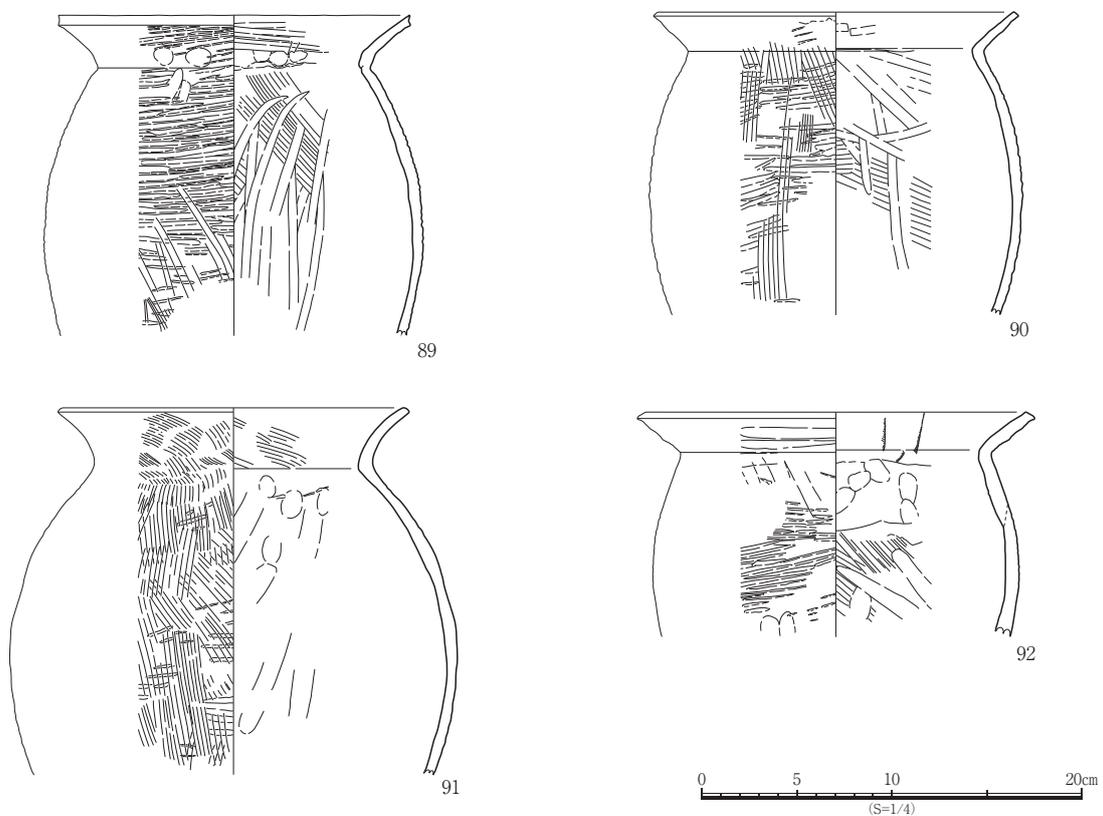


図18 1E区 ST1 出土遺物実測図_11

調整後、全面にハケ調整を施す。内面はナデ調整で下地にハケが僅かに認められる。肩部内面に粘土
 接合痕跡が認められる。

101は鉢である。角の取れた平底であり、口縁部付近で内湾気味となる。体部外面の傾斜変換点以
 下はタテハケ調整、口縁部付近はナデ調整である。内面はハケ調整を施す。102は鉢である。角の取
 れた平底から体部は直線的にひろがる。体部外面は叩き調整後、ナデ調整か。内面はナデ調整か。摩
 耗のため調整等の観察が困難である。103は鉢である。底部は平底であり、外底面はナデ調整で平滑
 に仕上げる。体部外面は叩き調整後、ナデ調整である。内面はハケ調整を施す。104は鉢である。底部
 は平底であり、体部は口縁部付近で若干、内湾気味となる。体部外面は叩き調整後、ナデ調整である。
 内面はハケ調整を施す。105は鉢である。底部は尖底であり、体部は半球形を呈する。口唇部は尖ら
 せる。体部外面は叩き調整後、粗いタテハケ調整およびナデ調整である。内面は放射状にハケ調整を
 施す。106は鉢である。底部は平底であり、体部は半球形を呈する。口唇部は尖らせる。体部外面はナ

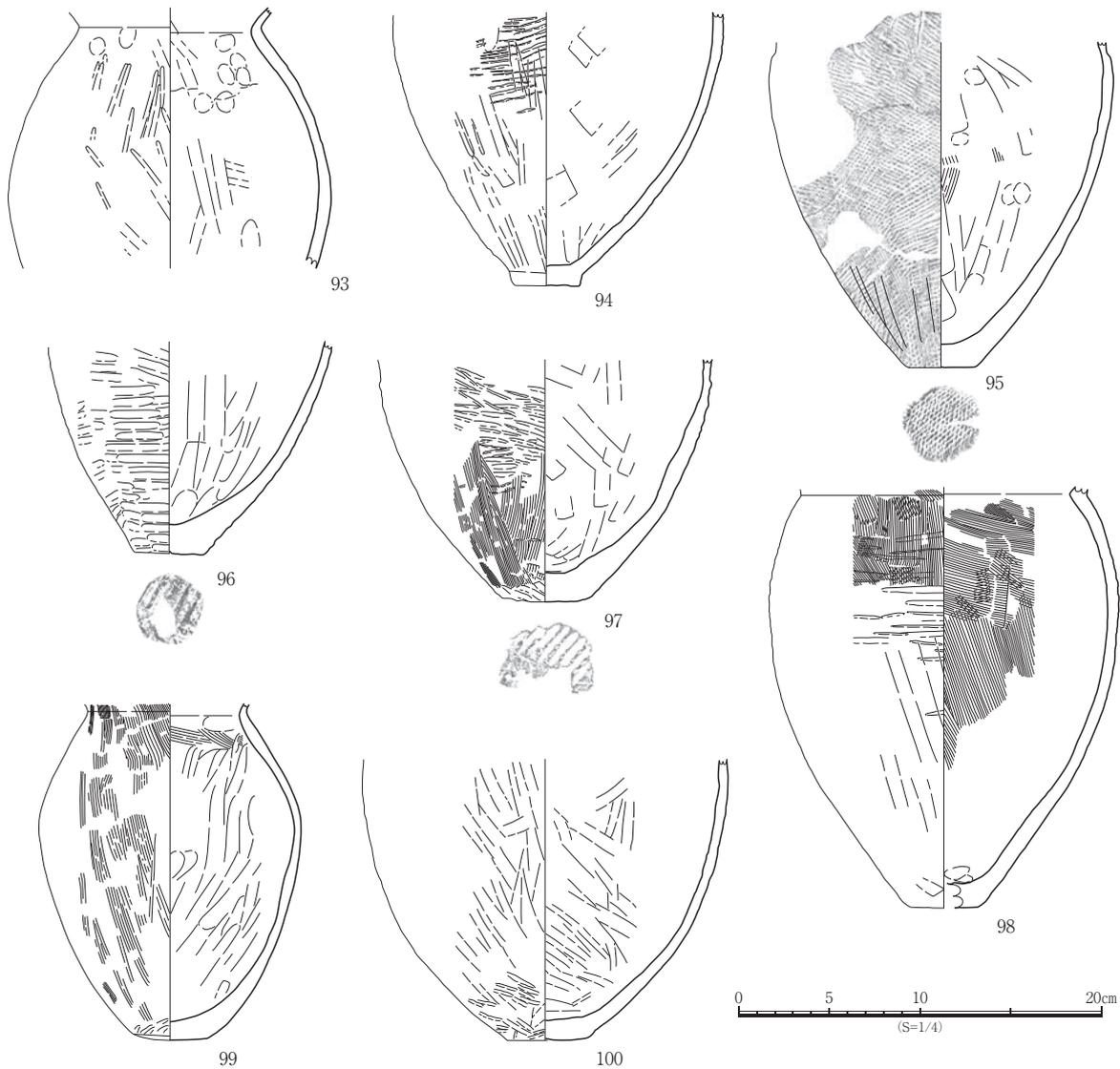


図19 1E区 ST1 出土遺物実測図_12

デ調整で仕上げる。底部付近は工具により強くナデ調整を施すことで形を整え、ミガキ状を呈する。内面は工具によるナデ調整を施す。口縁部はナデ調整で仕上げる。107は鉢である。底部は角の取れた平底で外底面にはナデ調整を施す。体部は口縁部付近で内湾気味にひろがり、外面の調整と対応する。体部外面は叩き調整後、ヘラナデ調整を施す。口縁部はナデ調整で仕上げる。108は鉢である。底部はほぼ丸底で、外底面にはナデ調整を施す。体部は直線的にひろがり、外面はヘラナデ調整を施す。口縁部にはタテハケ調整は及ばない。内面はヘラナデ調整である。109は鉢である。円盤状の底部を持ち、下端部を指頭で摘み出すことで、外底面の周囲は凹む。体部は深く、口縁部付近で直立させ、口唇部を尖らせる。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はナデ調整である。110は鉢である。ほぼ丸底の底部から体部はひろがり、上半部は直立する。口縁部を外反させ、口唇部は丸くおさめる。外面はタテハケ調整後、ヘラミガキ調整を施す。口縁部はヨコナデ調整である。内面は丁寧なミガキ調整を全面に施す。体部は縦方向、口縁部は横方向のヘラミガキ調整である。111は鉢である。底部は角の取れた平底を呈し、外底面には叩き目が認められる。口縁部を僅かに外反させ、口唇

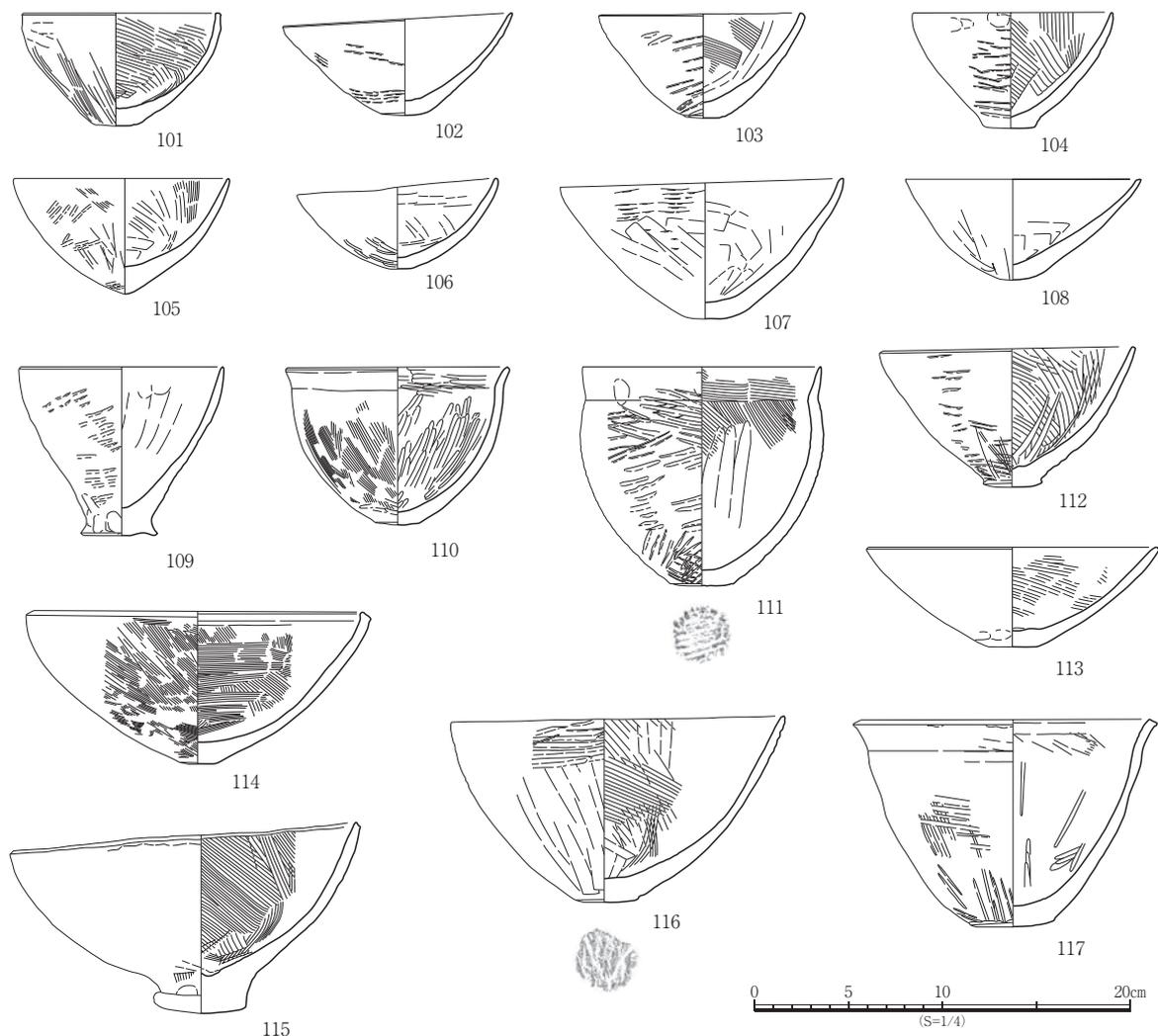


図20 1E区 ST1 出土遺物実測図_13

部を尖らせる。体部外面は叩き調整後，ナデ調整を施す。内面はナデ調整，肩部はハケ調整後ナデ調整，口縁部はヨコハケ調整である。112は鉢である。底部は円盤状の平底である。体部は外上方へ立ち上がる。体部外面は叩き調整後，ナデ調整である，内面は粗いハケ調整を全面に施す。内底面には棒状工具により縦方向に浅い凹みをつくる。113は鉢である。底部は角の取れた平底である。内底面の指頭圧痕と腰部の弱い屈曲から内底面を親指で押し出し，腰部に残りの4指を使い丸底化を試み

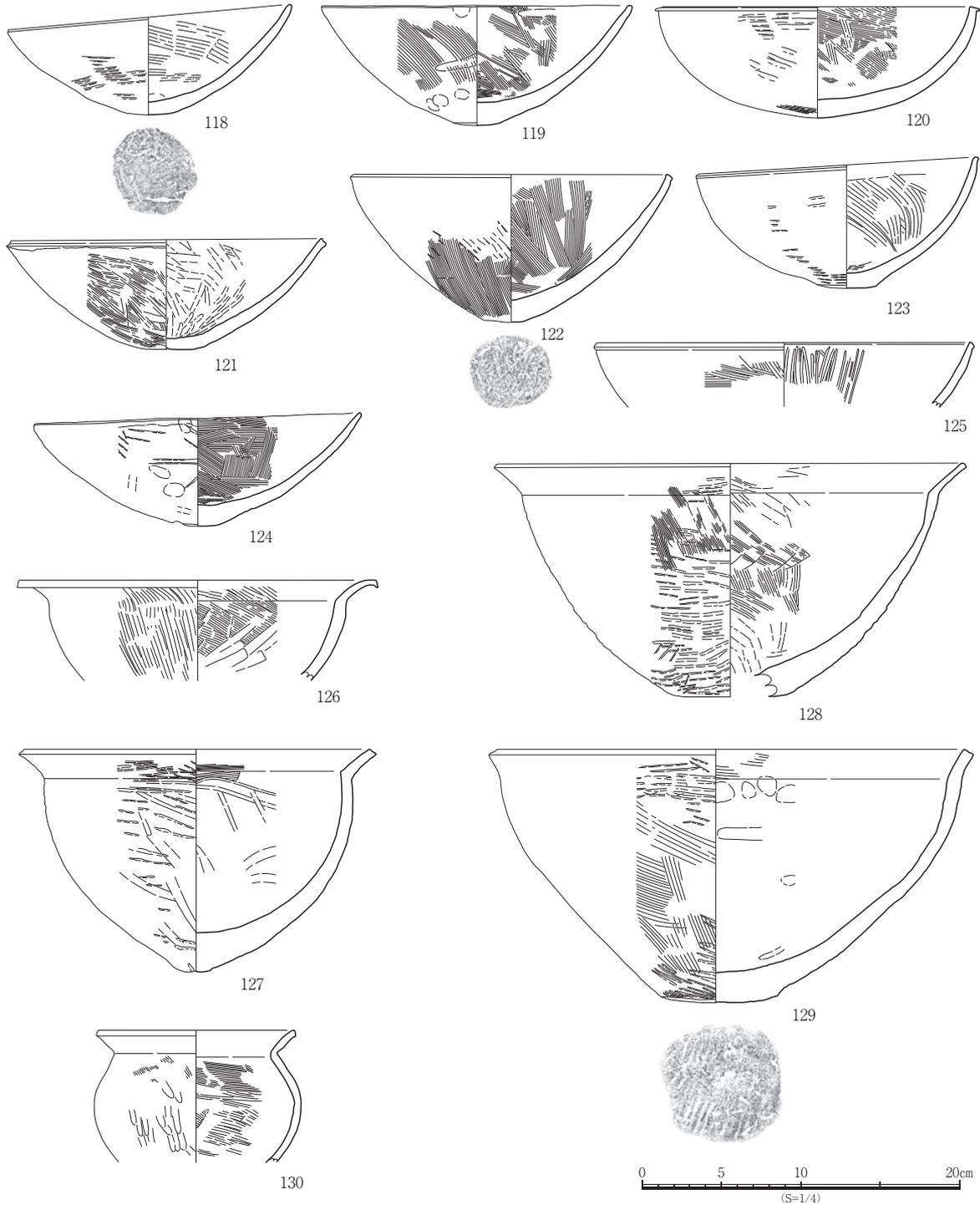


図21 1E区 ST1 出土遺物実測図_14

る。体部外面は摩耗のため、調整等の観察は困難である。内面はハケ調整である。114は鉢である。丸みを持った平底から体部は外上方へのび、口縁部付近で直立させる。口唇部はハケ状原体により面取りし、内傾させる。内外面とも全面ハケ調整で仕上げる。外面は縦方向、内面は横方向をそれぞれ基調とする。ほぼ完形である。115は鉢である。底部は柱状に突出する。外底面および体部外面にはナデ調整を施す。内面はハケ調整である。116は鉢である。底部は角の取れた平底を呈し、外底面には叩き目が認められる。体部外面は叩き調整後、タテハケ調整を施す。内面はやや粗いハケ調整を施し、内底面には指頭圧痕が認められる。117は鉢である。底部は角の取れた平底を呈し、外底面にはナデ調整を施す。体部は外上方へのび、口縁部を僅かに外反させる。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はヘラミガキ調整を全面に密に施す。118は浅めの鉢である。腰部、外底面にナデ調整を施すことで丸底とする。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面は粗いハケ調整であり、内底面には指頭圧痕が認められる。119は浅めの鉢である。腰部、外底面にナデ調整を施すことで丸底とする。体部外面は上半部がタテハケ調整、下半部がナデ調整である。内面はハケ調整である。120は浅めの鉢である。底

部は丸底を呈し、外底面にはハケ調整を施す。口縁部の上端を摘み上げ、下端を摘み出す。口唇部には沈線がめぐる。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はハケ調整で仕上げる。121は浅めの鉢である。底部は角の取れた平底を呈し、外底面はナデ調整およびハケ調整を施す。口縁部の上端を摘み上げ、下端を摘み出す。体部外面はハケ調整を施す。内面の口縁部はハケ調整、体部はナデ調整である。ほぼ完存である。122は鉢である。外底面はナデ調整を施すことで丸底とする。口縁部の上端を摘み上げる。体部外面は右下がり方向

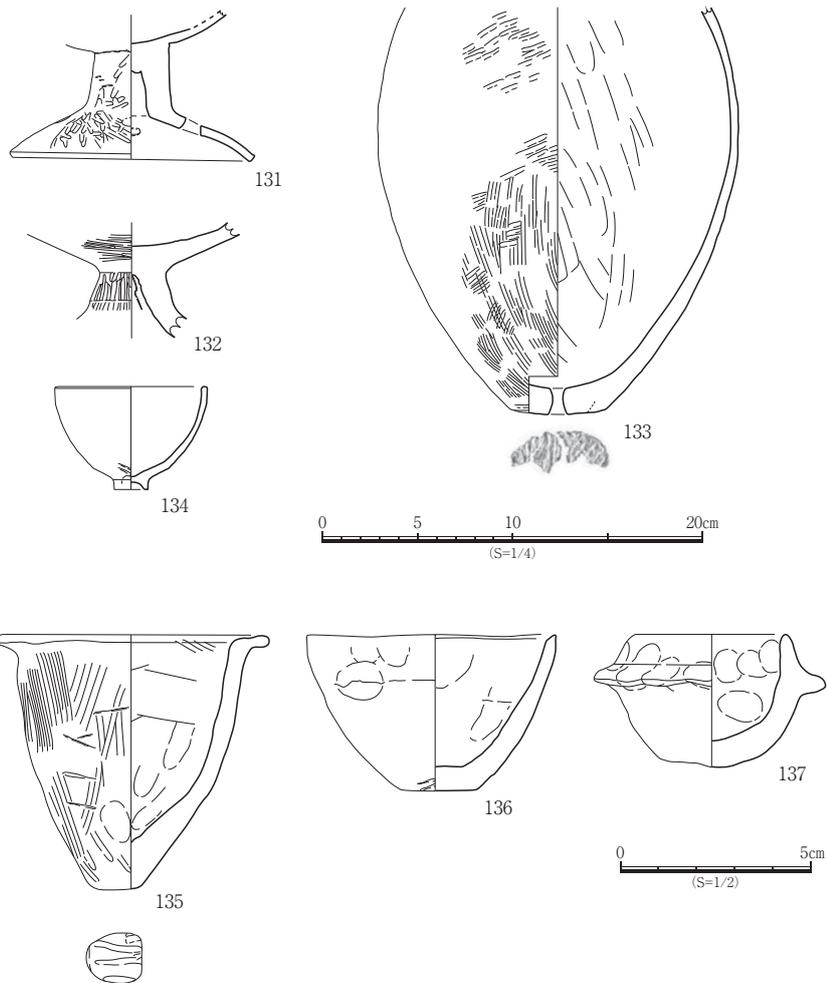


図22 1E区 ST1 出土遺物実測図_15

の叩き調整後、タテハケ調整を密に施す。内面はタテハケ調整を密に施し、内底面はナデ調整を施す。123は鉢である。底部は角の取れた平底を呈する。外底面にはナデ調整を施し、片側の端部を押し潰し、丸底化を試みる。口縁部の上端を摘み上げる。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はハケ調整で仕上げる。124は浅めの鉢である。底部は丸底を呈する。外底面にはナデ調整を施し、丸底化するものの体部と底部の境は凹む。口縁部の上端を摘み上げるも、雑である。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はハケ調整で仕上げる。125は鉢である。口唇部には丸みを帯びた面取りを施す。外面は斜め方向から横方向のハケ調整を施し、口縁部にはヨコナデ調整を加える。内面は斜め方向のハケ調整後、縦方向のヘラミガキ調整を施す。シャープなつくりである。126は外反口縁の鉢である。口唇部はハケ状原体により面取りを施す。口縁部外面はタテハケ調整後、ヨコナデ調整を施す。内面は斜め方向のハケ調整後、ヨコナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後、タテハケ調整を密に施す。内面はハケ調整後、ナデ調整を施す。127は外反口縁の鉢である。口唇部は面取りする。口縁部外面は体部からの一連の叩き調整後、指頭により成形する。底部は角の取れた平底であり、外底面には叩き目が認められる。体部外面は右下がり方向の叩き調整後、ハケ調整を施す。内面はハケ調整およびナデ調整で仕上げる。128は外反口縁の鉢である。口縁部外面は叩き調整後、指頭により成形する。内面はナデ調整か。底部は角の取れた平底であり、外底面には叩き目が認められる。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施し、頸部にはハケ調整を施す。内面はハケ調整であり、内底面はナデ調整である。129は大型の外反口縁の鉢である。底部は角の取れた平底であり、外底面には叩き目が認められる。体部外面は右下がり方向の叩き調整後、ハケ調整を施す。内面はナデ調整か。注口が付く可能性がある。130は鉢である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部は面取りする。口縁部は内外面ともヨコナデ調整を施す。体部外面はハケ調整後、ヘラミガキ調整を施す。内面はヨコハケ調整

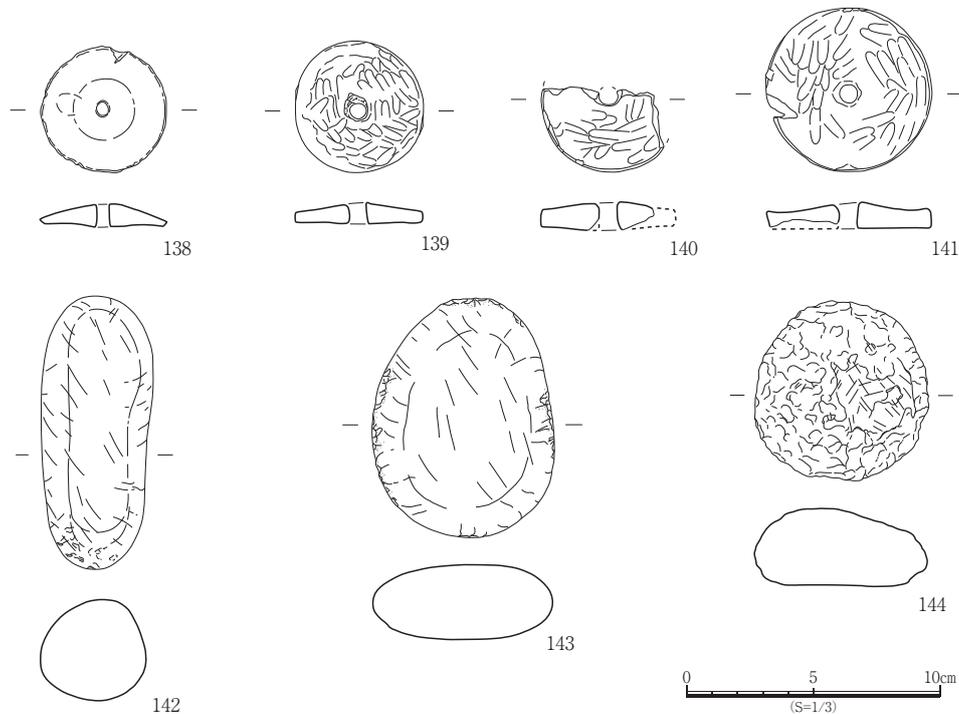


図23 1E区 ST1 出土遺物実測図_16

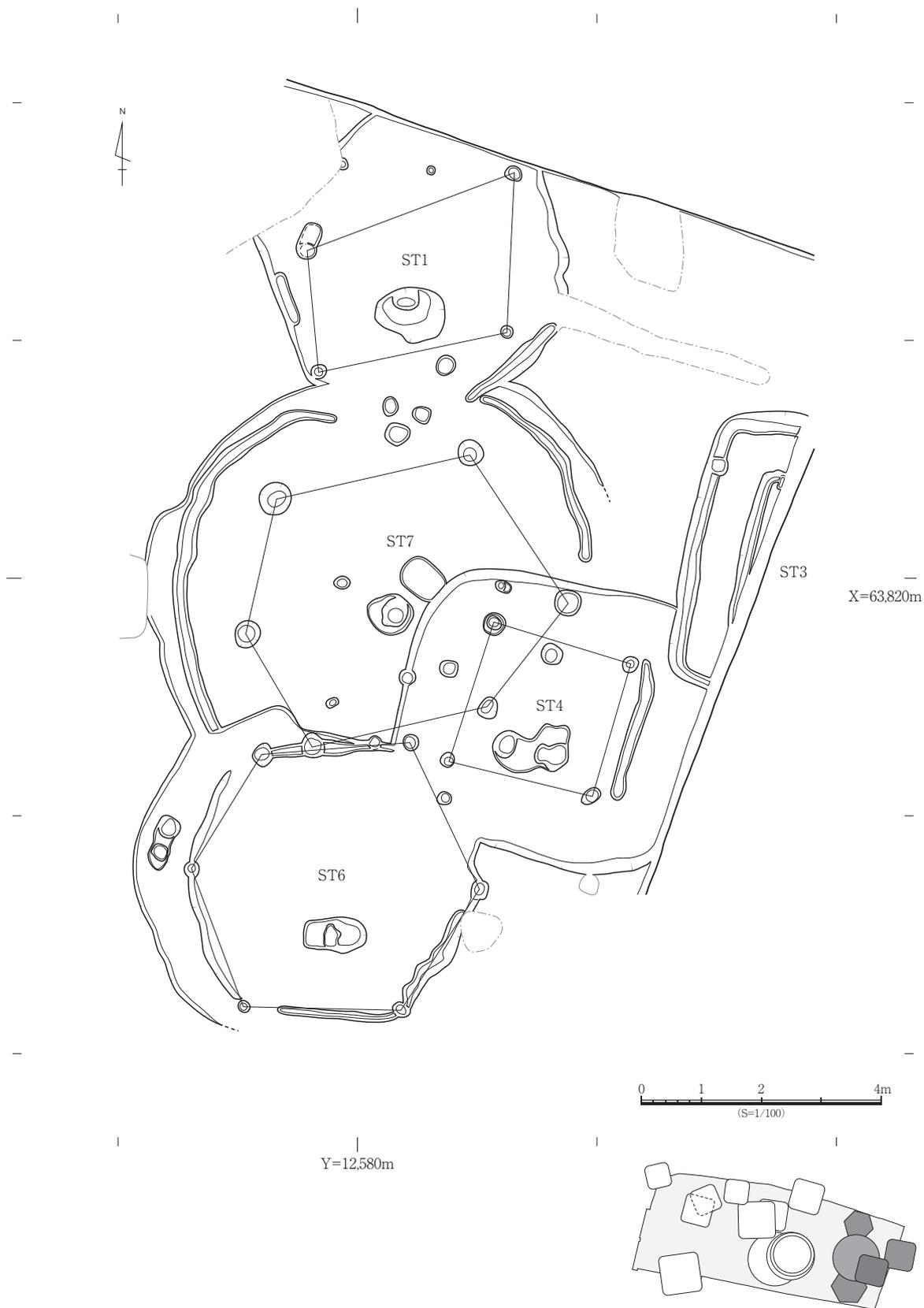


図24 5区 ST1~7 平面図

を施す。131は高杯である。杯部内面にはヘラミガキ調整を施す。脚柱部は中空であり、杯底部から粘土を押し込む。脚部外面はナデ調整、ヘラミガキ調整である。内面はナデ調整である。4ヶ所に円孔を穿つ。132は高杯である。杯部、脚柱部ともに外面にはヘラミガキ調整を施す。杯部内面は摩耗のため、調整等の観察は困難であるが、ヘラミガキ調整と推測される。脚柱部内面には弱いしぼり目が認められる。また、脚柱部と裾部の境には円孔が穿たれる。133は有孔土器である。底部に内外面から穿った円孔がみられる。焼成前穿孔か。体部は長胴形を呈し、底部は角の取れた平底を呈する。外底面には叩き目が認められる。体部外面は叩き調整後、ハケ調整を施す。内面はナデ調整である。形態的には甕である。134は製塩土器である。杯部は碗形を呈する。外底面に脚が付く。器壁はうすく、脆い印象を受ける。脚部は中空で欠損する。135は甕形土器をモデルとしたミニチュア土器である。外面は叩き調整後、タテハケ調整を施す。底部付近はミガキ状となる。外底面には強いヘラミガキ調整を疎らに施す。内面はナデ調整を施す。口縁部から肩部にかけてハケ調整を施す。136は鉢形土器をモデルとしたミニチュア土器である。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はナデ調整である。137はミニチュア土器である。羽釜形を呈する。内外面ともナデ調整を施す。何をモデルとしたものか。138は紡錘車である。平面形は円形を呈し、中央に円孔を穿つ。断面形は扁平な三角形を呈する。内外面ともナデ調整で仕上げる。ごく一部が欠損するのみである。139は紡錘車である。平面形は円形を呈し、中央に円孔を穿つ。断面形は扁平な三角形を呈し、縁辺は面取りする。全面をヘラミガキ調整で仕上げる。140は紡錘車である。平面形は円形を呈し、中央に円孔を穿つ。断面形は扁平な三角形を呈し、縁辺は面取りする。全面をヘラミガキ調整で仕上げる。141は紡錘車である。平面形は円形を呈し、中央に円孔を穿つ。断面形は扁平な三角形を呈し、縁辺は面取りする。全面をヘラミガキ調整で仕上げる。142は砂岩製の叩石である。棒状の河原石を利用し、両先端部に弱い敲打痕跡が認められる。143は砂岩製の叩石である。扁平な河原石を利用する。側面に4ヶ所、敲打痕跡が認められる。144は砂岩製の叩石である。

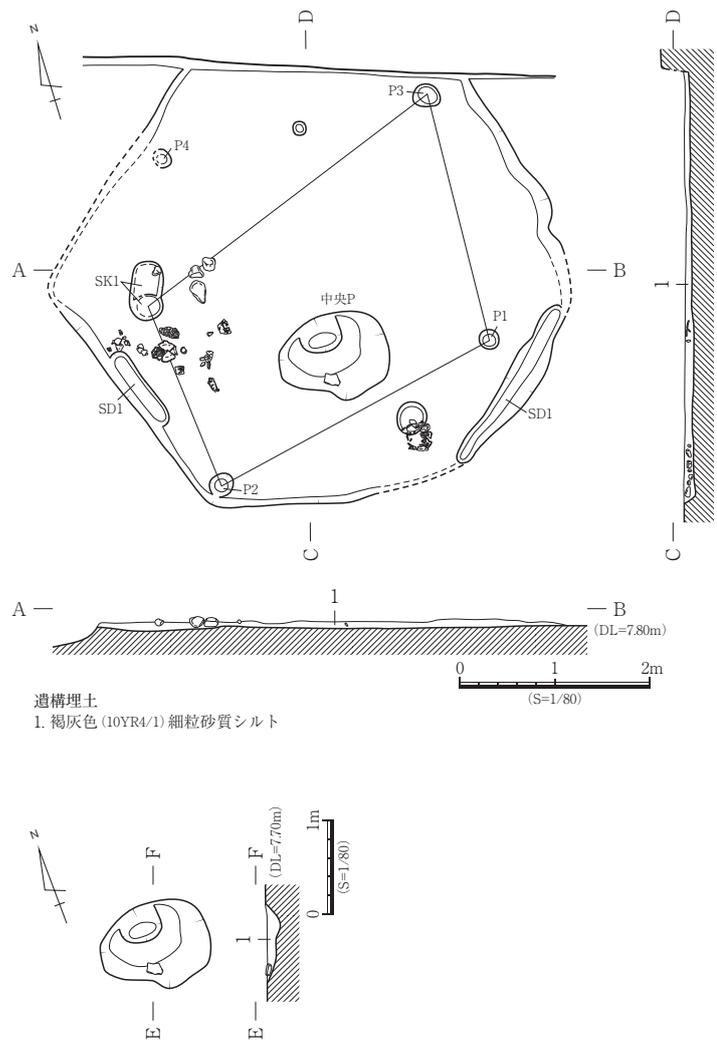


図25 5区 ST1 平面図・断面図

扁平な河原石を利用する。主として側面を激しく使用し原形を留めない。

ST1

ST1は調査区北東部で検出した竪穴建物跡である。ST7を切り、攪乱に切られる。ベッド状遺構よりも上部は削平を受けているものと推測され、低床部の床面しか残存していない。平面形は多角形(六角形)を呈していたものと推測される。検出した低床部の一辺約2.50m、床面積約16.2㎡を測る。検出面からの深さは約11cmを測り、埋土は細粒砂質シルトで中央付近は褐灰色(10YR4/1)を呈し、周囲にいくにつれ、にぶい黄褐色(10YR5/3)へと漸移する。ベッド状遺構が削平されているとすれば、本来の床面積は一回り大きくなる。床面では、中央ピット、支柱穴(ST1_P1~3・SK1)、壁溝(ST1_SD1)

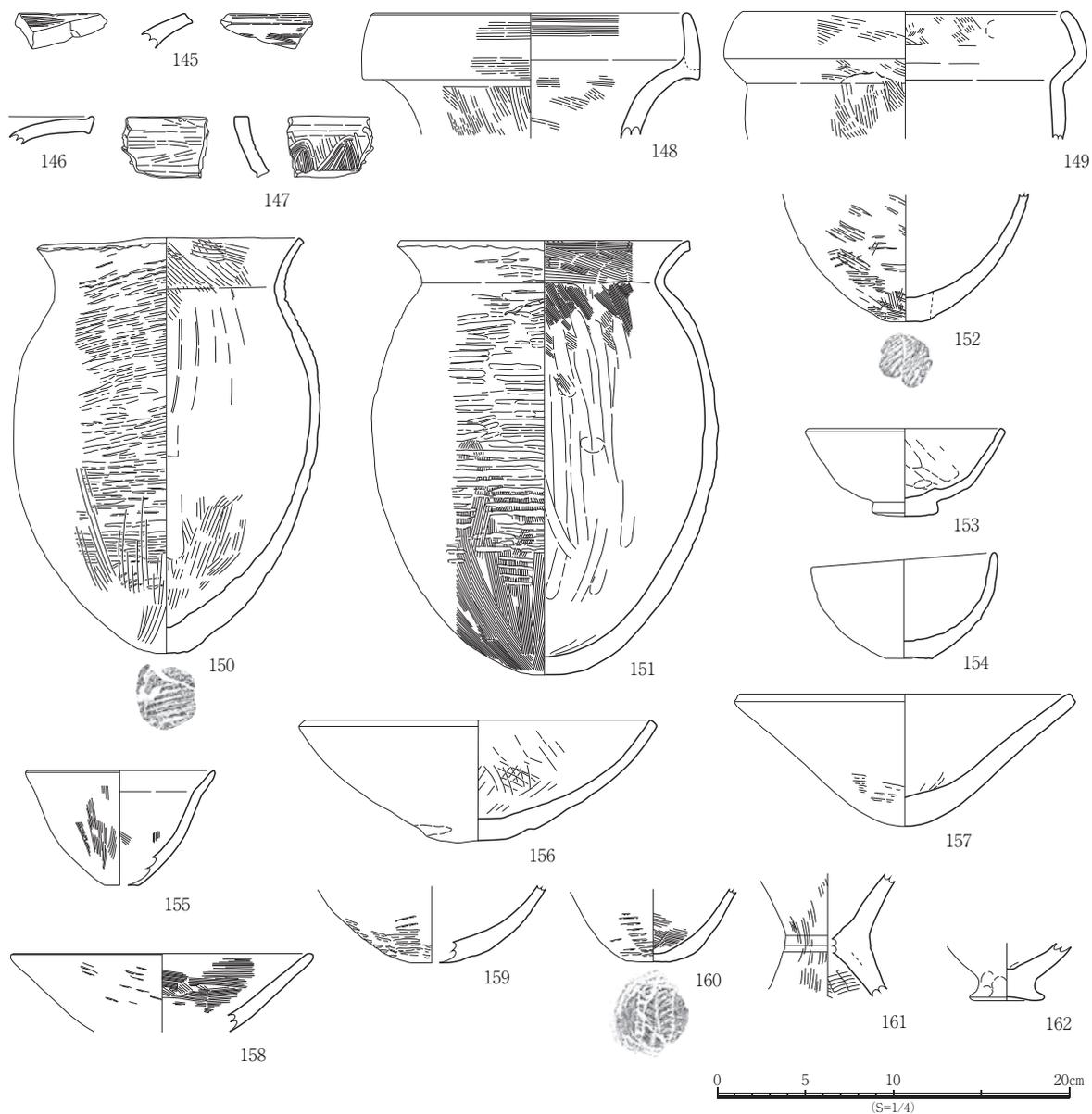


図26 5区 ST1 出土遺物実測図_1

を検出した。中央ピットは床面のやや南に位置する。長軸約1.18 m、短軸約0.96 mの不整楕円形を呈する。検出面からの深さは約16cm、埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。主柱穴(ST1_P2・3)は頂点に配置され、その他のものはずれる。壁溝(ST1_SD1)は一部で検出したのみである。

図示した出土遺物は、弥生土器の壺(145~149)・甕(150~152)・鉢(153~160・162)・高杯(161)、石包丁(163)、叩石(164)、砥石(165)、鉄鏃(166)である。

145は壺である。口唇部はハケ状原体により面取りを施し、凹面状を呈する。外面はハケ調整を施す。内面はナデ調整後、ヘラミガキ調整を施す。146は壺である。口唇部はハケ状原体により面取りを施し、僅かに拡張する。内外面ともナデ調整を施す。ナデ痕跡が一部にみられる。147は複合口縁壺である。二次口縁部は一次口縁端部の上面に付す。口唇部には面取りを施す。ハケ状原体によるものか。外面はヨコナデ調整、内面には粗いハケ調整を施す。外面には4条1単位の櫛描波状文を施す。148は複合口縁壺である。一次口縁部は大きく外反し、端部外面に二次口縁部を付す。接合部には粘土紐を付加し、突出させる。一次口縁部は外面にはタテハケ調整、内面には短いストロークのヨコハケ調整を施す。二次口縁部は内外面ともヨコハケ調整を施す。149は複合口縁壺である。頸部は直立し、外面はタテハケ調整、内面はナデ調整で仕上げる。二次口縁部は一次口縁端部の上面に付し、緩やかな「く」の字状を呈する。口唇部は丸みを帯びる。外面は一次口縁部、二次口縁部ともハケ調整を施す。内面は一次口縁部がナデ調整、二次口縁部がハケ調整か。150は甕である。口縁部は緩やかな

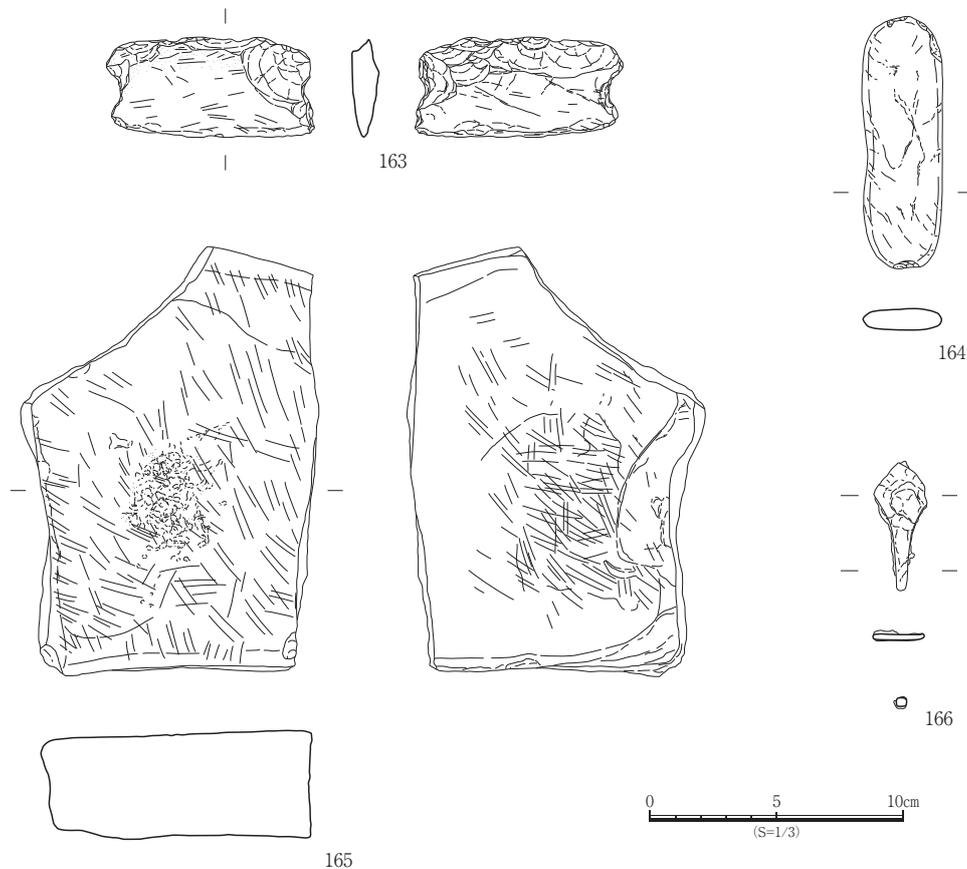


図27 5区 ST1 出土遺物実測図_2

「く」の字状を呈し、口唇部には面取りを施す。口縁部外面は上胴部からの一連の叩き調整後、指頭により成形する。内面には斜め方向のハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後、ハケ調整を疎らに施す。内面にはナデ調整を施し、底部付近にはハケ調整を施す。底部は丸みを帯びた平底であり、外底面には叩き目がみられる。151は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部には面取りを施す。口縁部外面は上胴部からの一連の叩き調整後、指頭により成形する。内面はハケ調整である。体部外面は叩き調整後、下半部にタテハケ調整を施す。内面はハケ調整後、ナデ調整を施す。底部は丸底である。152は甕の底部である。底部は丸みを持った平底であり、外底面には叩き目がみられる。外面は叩き調整後、タテハケ調整を施し、内面にはナデ調整を施す。被熱痕跡がみられ、放射状薪配置による痕跡か。153は鉢である。底部は突出した平底である。体部は内外面ともナデ調整である。外面上半部にキレツが認められる。内外面ともに凹凸がある。154は鉢である。底部は角の取れた平底である。体部は内外面ともナデ調整か。155は鉢である。底部は角の取れた平底である。口縁部は僅かに外反させ、口唇部は丸くおさめる。口縁部は内外面ともヨコナデ調整で仕上げる。体部は中位を内側から押し出し、成形する。外面はタテハケ調整、内面はナデ調整およびハケ調整である。156は鉢である。口唇部には面取りを施す。口縁部は内外面ともヨコナデ調整で仕上げる。底部はほぼ丸底であり、ナデ調整を施す。体部外面はナデ調整を施し、内面には粗いタテハケ調整を施す。口縁部の成形痕跡に対応する外面にキレツがみられる。157は鉢である。口唇部には面取りを施し、凹面状を呈する。底部は丸底であり、厚い。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はナデ調整である。158は鉢である。口唇部は丸くおさめる。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はヨコハケ調整を施す。159は鉢である。底部は丸底であり、外底面にはナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面にはナデ調整を施す。160は鉢である。底端部の片側を押し潰し、丸みを持たせた平底であり、外底面には葉脈痕が重複する。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面には短いストロークのヨコハケ調整を施す。161は高杯である。外面は杯部、脚部ともタテハケ調整後、縦方向のヘラミガキ調整を疎らに施す。杯部内面はナデ調整、脚部内面はハケ調整およびナデ調整である。また、杯部と脚部の境にヘラ描きの凹線文を1条めぐらせる。162は脚付き鉢である。脚部は指頭により成形する。内外面ともナデ調整で仕上げる。蓋の可能性がある。163は頁岩製の打製石包丁である。刃部は片刃である。一面は自然面を大きく残し、他面は主要剥離面を大きく残す。両端には紐掛け用の抉りを入れる。摩滅が認められる。刃部にはコーングロスの付着がみられる。164はST1_中央Pから出土した片岩製の叩石である。棒状の河原石を用いる。両先端部の使用痕跡が認められる。165はST1_中央Pから出土した砥石である。扁平な砂岩を利用する。一部は欠損する。両面とも砥石として使用し、一面の中央部に敲打痕跡が集中する。使用被熱している。166は圭頭式の鉄鏝である。鏝身の断面形は扁平、茎部の断面形は正方形を呈する。ほぼ完存である。

ST2

ST2は調査区南東部で検出した竪穴建物跡である。大部分が調査区外へとひろがっており、平面形・規模等は不明である。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物は、弥生土器の壺(167)・鉢(168~170)、ミニチュア土器(171)である。

167は壺である。口唇部には面取りを施す。内外面ともヨコハケ調整を密に施す。168は鉢である。外面は斜め方向のハケ調整、内面はナデ調整である。169は鉢である。口縁部を外反させる。口縁部

外面はヨコナデ調整で仕上げる。叩き目状の痕跡が一部にみられる。内面はヨコハケ調整である。体部外面は斜め方向のハケ調整、内面はヨコハケ調整を施す。170は鉢である。底部は平底であり、外底面には葉脈痕が認められる。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はナデ調整で仕上げる。171はミニチュア土器である。外面はナデ調整、内面はヨコハケ調整を施す。

ST3

ST3は調査区東端部に位置する。攪乱に切られるものの攪乱は床面までには至っていなかった。大半は調査区外へとひろがる。一辺約4.85mの隅丸方形を呈した竪穴建物跡と推測される。床面積は約23.5㎡と推測される。検出面からの深さは約30cmを測り、埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-12°-Eである。床面では壁溝(ST3_SD1・2)と主柱穴(ST3_P1)を検出した。壁溝は高床部とベッド状遺構の縁辺にそれぞれ巡る。主柱穴(ST3_P1)は低床部の北西部隅で検出した直径約26cmのピットであり、低床部の四隅に配置されたものと推測される。壁溝(ST3_SD1・2)は2条とも幅24~28cm、検出面からの深さは3~7cmを測る。ベッド状遺構の幅は約64cm、低床部との比高差は約10cmを測る。

図示した出土遺物は、弥生土器の壺(172)・甕(173~176)・底部(177・178)・鉢(179・180)である。

172は壺である。内外面とも摩耗し、調整等は不明瞭である。173は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部には面取りを施す。口縁部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面にはヨコナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面は粗い斜め方向のハケ調整を施す。若干異和感のある土器である。174は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部はハケ状原体による面取りを施す。口縁部外面は上胴部からの一連の叩き調整後、指頭により成形する。内面にはヨコハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後、ナデ調整である。内面にはタテハケ調整後、ナデ調整を施す。175は低床部から出土した甕である。口縁部は「く」の字状を呈する。口唇部には面取りを施し、上端部を尖らせる。口縁部外面は上胴部からの一連の叩き調整後、指頭により成形する。内面にはヨコハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はタテハケ調整後、ナデ調整を施す。

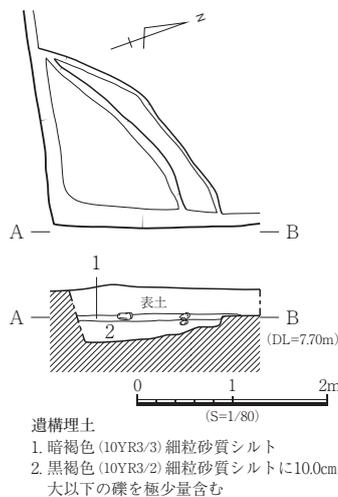


図28 5区 ST2 平面図・断面図

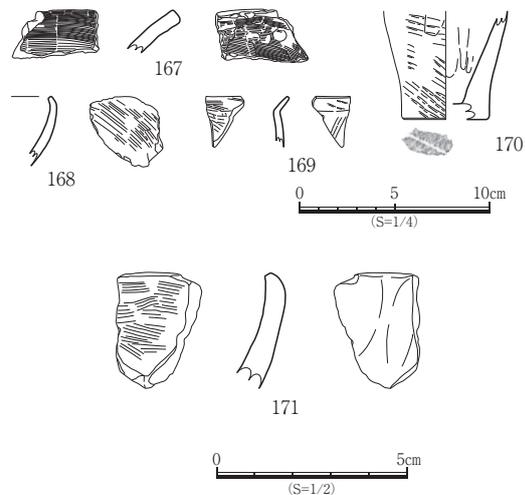


図29 5区 ST2 出土遺物実測図

176は甕である。口縁端部を摘み上げる。外面はタテハケ調整後、ヨコナデ調整を施す。内面にはヨコナデ調整を施す。搬入品か。177はST3_SD1から出土した底部である。平底であり、外底面にはナデ調整を施す。外面は叩き調整後、タテハケ調整を施す。内面はナデ調整である。内底面には指頭圧痕がみられる。178は底部である。角の取れた平底であり、外底面にはナデ調整を施し、平滑に仕上げる。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面にはナデ調整を施す。179は鉢である。口縁部を短く僅かに外反させる。口縁部は内外面ともヨコハケ調整を施す。体部外面はヨコハケ調整、内面はヨコハケ調整後、ミガキ調整を施す。180は鉢である。口唇部には面取りを施す。内外面ともナデ調整を施す。内面は平滑に仕上げる。

ST4

ST4は調査区東部で検出した竪穴建物跡であり、ST3および6に切られ、ST7を切る。一部は調査区外へひろがる。長軸約4.94m、短軸約4.68mの隅丸方形を呈し、検出面からの深さは約22cmを測る。床面積は約23.1㎡である。主軸方向はN-18°-Eである。埋土は大きく2層に分けることができ、上層は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルト、下層は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。焼土と炭化物が集中して分布する部分を3ヶ所検出したものの、原位置は保持しておらず二次堆積である。そのうちの1ヶ所は中央ピットと重なる。床面では中央ピット、主柱穴(ST4_P1~3, ST7_P4)、壁溝(ST4_SD1)を検出した。中央ピットは床面のやや南寄りに位置する。長軸約1.28m、短軸約0.78m、検出面

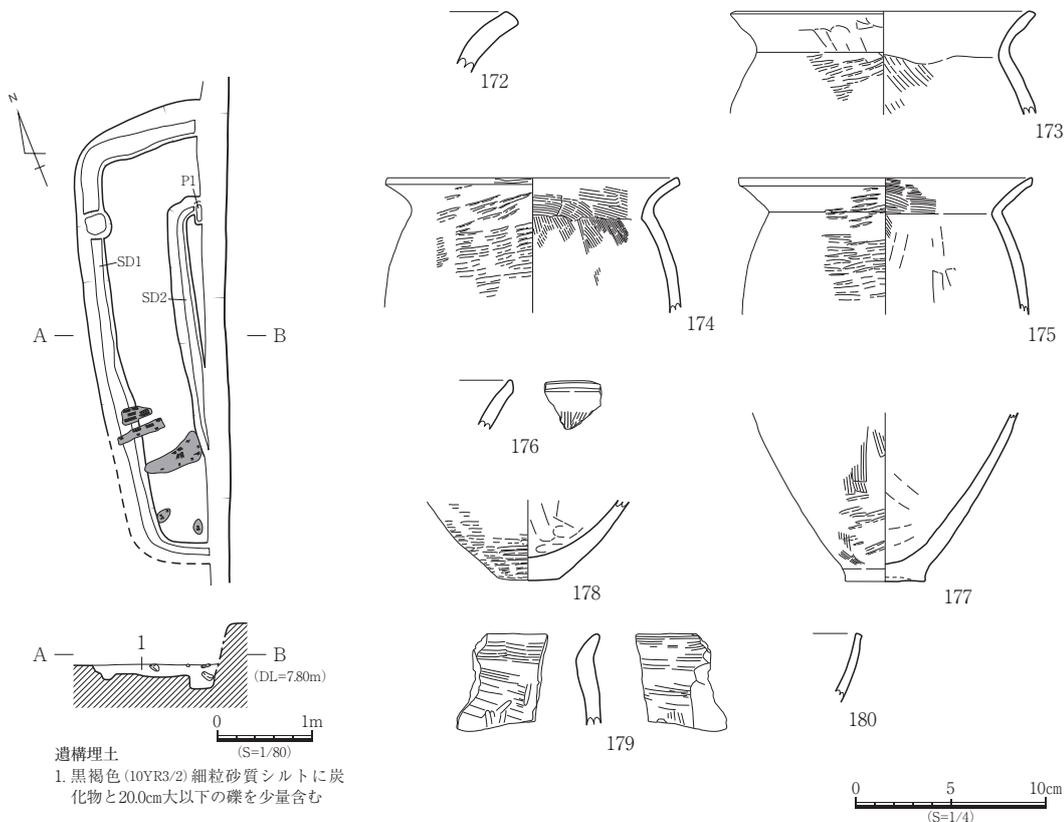


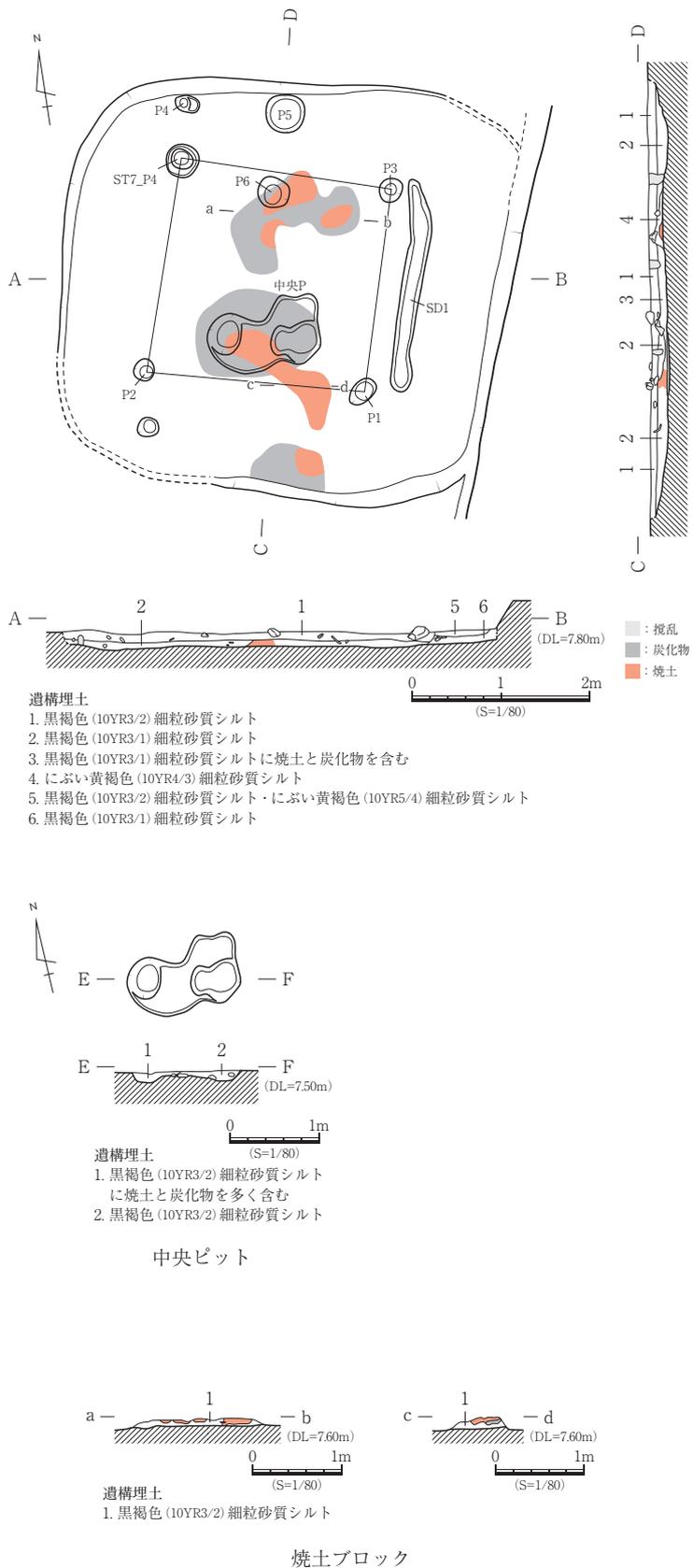
図30 5区 ST3 平面図・断面図

図31 5区 ST3 出土遺物実測図

からの深さは約 12 cmを測る。不整形を呈し、2ヶ所に凹みが存在する。支柱穴は配置からST4_P1～3, ST7_P4である。また、焼土ブロックで検出した木材について樹種同定を行った結果、クスノキ科であった⁽¹⁾。

図示した出土遺物は、弥生土器の壺(181～184)・甕(185・186)・底部(187・200・201)・鉢(188～199・203)・高杯(202)である。

181は壺である。口縁部はヨコナデ調整を施す。外面はナデ調整で指頭圧痕がみられる。内面にはヘラナデ調整を施す。182は壺である。口唇部はハケ状原体により面取りを施す。口縁部外面にはタテハケ調整、内面にはヨコハケ調整を施す。体部外面はハケ調整、内面はナデ調整を施す。口頸部境内面には粘土接合痕跡が認められる。183は壺である。口縁部は大きく外反し、端部上面に粘土を貼付し、上方へ拡張する。接合面は剥離しており、複合口縁壺となるのか、拡張させるのみかは不明である。口縁部外面には不揃いの刺突文を施す。内面はヨコハケ調整後あるいはナデ調整後にヘラミガキ調整を施す。184は壺である。口縁部は大きく外反させ、口唇部を上下に拡張させる。外面には6条1単位の櫛



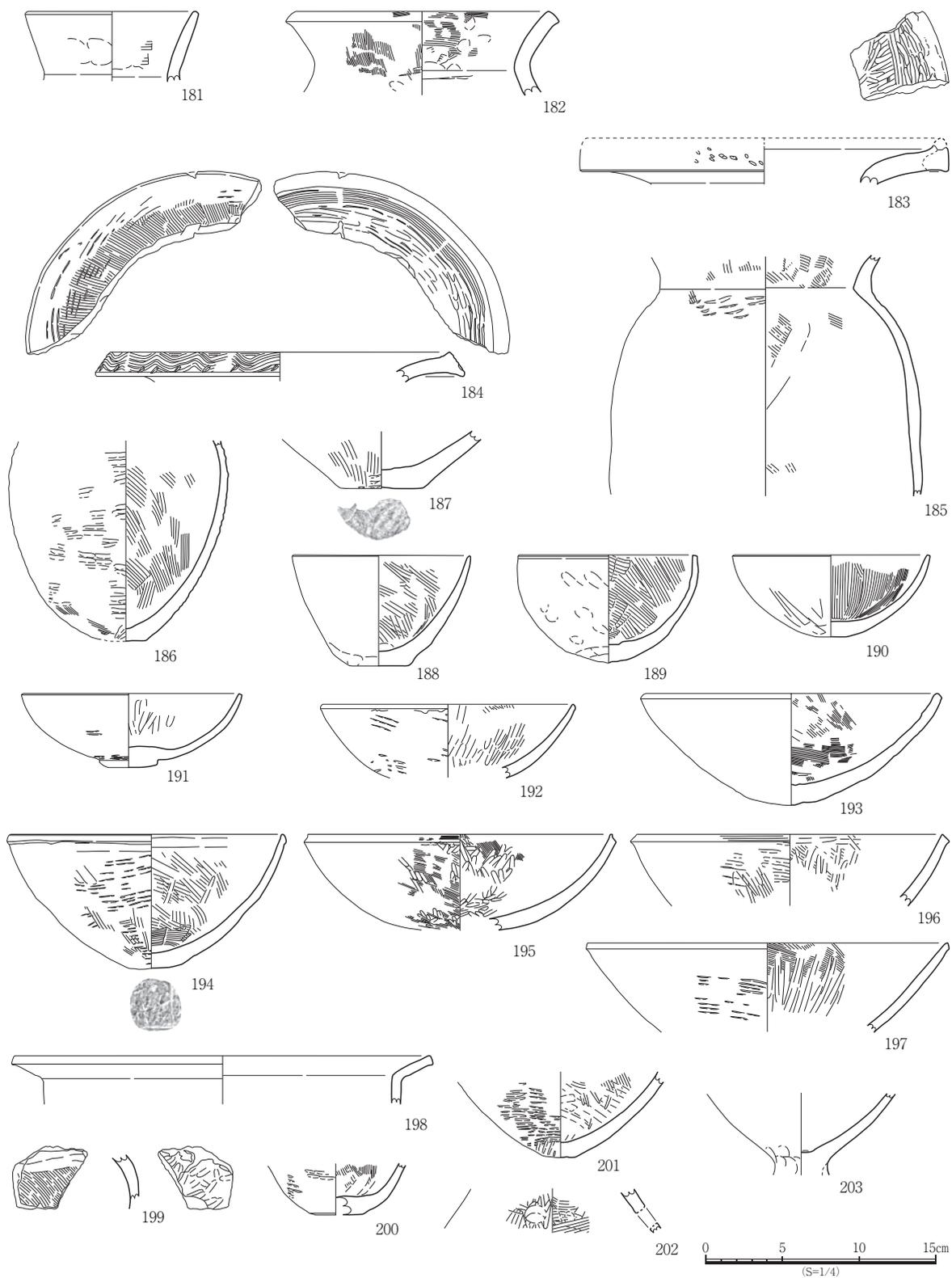


図33 5区 ST4 出土遺物実測図

描波状文、刺突文を施す。外面は叩き調整後、タテハケ調整およびヨコナデ調整を施す。内面はヨコハケ調整後、横方向のヘラミガキ調整を施す。内面口縁端部に沿って粗いハケ調整を施し、櫛描直線文状を呈する。185は甕である。口縁部外面には叩き調整後、ハケ調整を施し、内面にはハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後、ハケ調整を施す。内面はハケ調整後、ナデ調整である。内面の口頸部境は比較的稜が立つ。内外面とも摩耗する。胎土、形態ともやや異質である。186は甕である。底部は角の取れた平底であり、ハケ調整により丸底を呈する部分がある。体部外面には叩き調整後、ナデ調整を施す。内面にはハケ調整を施す。187はST4_P7から出土した底部である。角の取れた平底であり、外底面には叩き目がみられる。体部外面は叩き調整後、粗いタテハケ調整を施す。内面はナデ調整か。188は鉢である。口唇部はうすく仕上げる。底部は平底である。体部外面はナデ調整、内面はハケ調整を施す。189は鉢である。底部はナデ調整により丸底とする。体部外面はナデ調整であり、キレツが認められる。内面は全面に強いハケ調整を施す。ほぼ完存である。190は鉢である。口唇部はルーズな調整である。底部は、ほぼ丸底である。体部外面にはヘラナデ調整を施し、上半部にはキレツがみられる。内面にはタテハケ調整を施し、内底面にはナデ調整を施す。191は鉢である。口唇部にはルーズな面取りを施す。底部は突出した平底であり、片側の底端部を押し潰す。外底面には様々な圧痕がみられる。体部外面には叩き調整後、ナデ調整を丁寧に施す。内面はナデ調整である。全体的に歪み、本来はさらに深かったと推測される。192は鉢である。口唇部を尖らせる。体部外面には叩き調整後、ナデ調整を施す。内面にはハケ調整後、ヘラミガキ調整を密に施す。193は鉢である。口唇部には面取りを施す。底部は強いナデ調整により丸底とする。体部外面はナデ調整か。内面にはハケ調整を施す。外面はやや摩耗する。194は鉢である。口唇部には面取りを施し、やや尖らせる。底部は角の取れた平底であり、外底面には叩き目がみられる。鉢の外底面に叩き目が認められるのは珍しい。体部外面には叩き調整後、ナデ調整およびハケ調整を施す。内面にはハケ調整後、ヘラミガキ調整を疎らに施す。195は鉢である。口唇部を摘み上げる。体部は内外面ともハケ調整後、ヘラミガキ調整を施す。196は鉢である。口唇部にはハケ状原体により面取りを施す。体部外面には叩き調整後、ハケ調整を施す。内面にはハケ調整後、ヘラミガキ調整を施す。197は鉢である。口唇部には面取りを施す。体部外面には叩き調整後、ナデ調整を施す。内面にはハケ調整後、縦方向のヘラミガキ調整を施す。198は鉢である。口縁部を外反させ、口唇部には面取りを施す。内外面とも摩耗により調整等は不明瞭である。199は鉢である。外面にはヘラミガキ調整を密に施し、黒色磨研状を呈する。内面にはヨコナデ調整および斜め方向のハケ調整を施す。搬入品か。200は底部である。平らな部分の残る丸底である。ナデ調整により丸底化を試みる。体部外面には叩き調整後、ナデ調整を施す。内面にはハケ調整およびナデ調整を施す。201は底部である。平らな部分の残る丸底である。叩くことで丸底化を図る。体部外面には叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はハケ調整およびナデ調整である。内面にはミガキ状の痕跡もみられるものの、かなり疎らである。202は高杯である。外面はヘラミガキ調整を丁寧に施す。内面にはハケ調整を施す。円孔を穿つ。203はST4_P5から出土した脚付き鉢である。内外面ともナデ調整である。脚部外面には指頭圧痕が認められる。脚部は接合面で剥離か。製塩土器か。

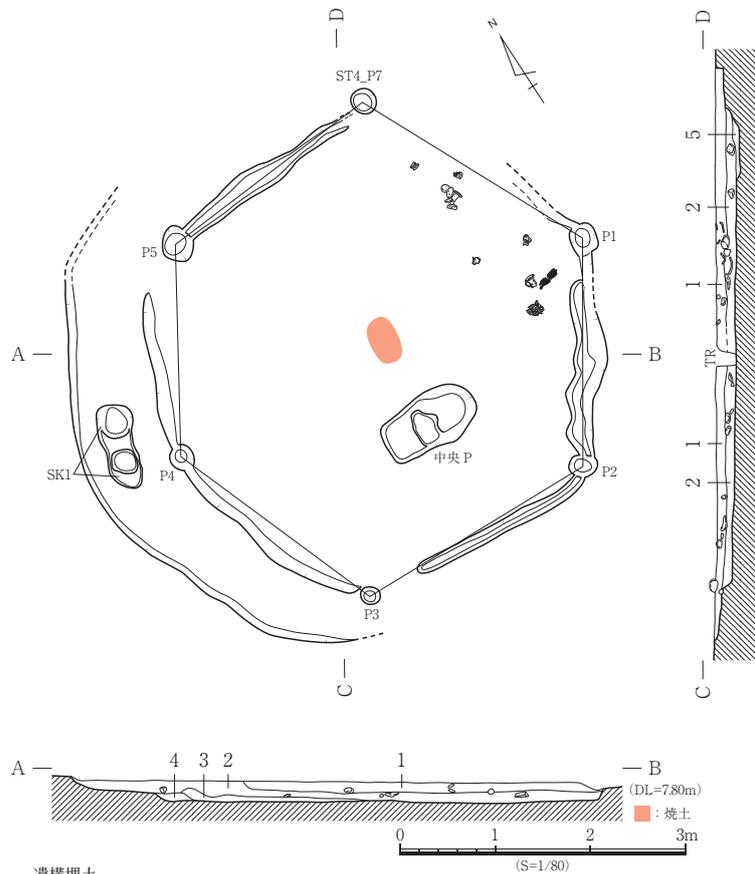
ST6

ST6は調査区東部で検出した平面形が多角形(六角形)の竪穴建物跡であり、ST4および7を切る。

一辺約3.00 m, 床面積は約23.3㎡である。主軸方向はN-90°である。検出面からの深さは約23cmであり, 埋土は2層に大別でき, 上層は灰黄褐色(10YR4/2)細粒砂質シルトに明黄褐色(10YR7/6)細粒砂質シルトが混じる。下層は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。床面では中央ピット, 主柱穴(ST6_P1~5, ST4_P7), ベッド状遺構を検出した。中央ピットは床面のやや南に位置する。東西方向に長い隅丸長方形を呈していた可能性があるものの東辺は弧状を呈する。床面からの深さは約4 cmを測り, 埋土は褐灰色(10YR4/1)細粒砂質シルトである。また, 中央ピットの北約40 cmの位置で長軸約0.50m, 短軸約0.30mの範囲にわたる焼土面を検出した。この焼土面が竪穴建物跡の床面中央に位置し, 中央ピットとともに複合型の燃焼施設を構成する。西辺でベッド状遺構を検出した。本来は全周すると推測される。ベッド状遺構は幅約80cm, 低床部との比高差は約10 cmを測る。

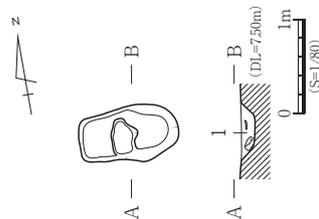
図示した出土遺物は, 弥生土器の壺(204~215)・甕(216~228)・底部(229~240)・鉢(241~252・254)・有孔土器(253)・高杯(255~257), 支脚(258~262), ミニチュア土器(263), 粘土塊(264)である。

204は壺である。頸部は短く直立し, 口縁端部を短く外反させる。口唇部はハケ状原体により面取りを施す。口縁部外面はナデ調整, 内面はハケ調整を施す。205は壺である。口縁部は大きく外反し,



遺構埋土

1. 灰黄褐色(10YR4/2)細粒砂質シルトに明黄褐色(10YR7/6)細粒砂質シルトのブロックと10.0cm大以下の礫を少量含み20.0cm大以下の礫を極少量含む
2. 黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトに1.0cm大以下の礫を少量含み20.0cm大以下の礫を極少量含む
3. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトに2.0cm大以下の礫と炭化物を少量含む
4. 灰黄褐色(10YR4/2)細粒砂質シルトに3.0cm大以下の礫を少量含む
5. 褐灰色(10YR4/1)細粒砂質シルトに明黄褐色(10YR6/6)細粒砂質シルトと黄褐色(10YR8/6)細粒砂質シルトをブロック状にやや多く含む



遺構埋土

1. 褐灰色(10YR4/1)細粒砂質シルトに20.0cm大以下の礫を極少量含む

図34 5区 ST6 平面図・断面図

口唇部を摘み上げる。外面はタテハケ調整である。内面は摩耗により調整等は不明瞭である。206は壺である。口唇部には面取りを施す。内外面ともハケ調整を施す。207はST6_SK1から出土した鉢あるいは壺である。口縁部は外反し、口唇部には面取りを施す。外面はハケ調整後、ナデ調整を施す。内面はハケ調整である。搬入品か。208は壺である。口縁部は大きく外反し、口唇部には面取りを施す。口縁部は内外面ともヨコナデ調整で仕上げる。頸部外面はタテハケ調整を施し、内面にはヨコハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後、ハケ調整を施し、内面はヨコハケ調整およびナデ調整を施す。肩部内面には接合痕跡が認められる。209は壺である。口縁部は大きく外反し、口唇部には面取りを施し凹面状を呈する。口唇部には4条1単位の櫛描波状文を施す。外面にはハケ調整、内面にはハケ調整後、ヘラミガキ調整を密に施す。210は壺である。口唇部には面取りを施し、凹面状を呈する。内外面ともヨコナデ調整で仕上げる。211は二重口縁壺である。外面は縦方向のヘラミガキ調整、内面はナデ調整である。212は壺である。口縁部は外反し、口唇部には面取りを施す。口縁端部からやや下がった位置に断面形が三角形の突帯を貼付する。外面は摩耗のため調整等は不明瞭であるものの、口縁部はナデ調整を施し、頸部にはハケメがみられる。器壁は厚く、大型のものと推測される。内面はナデ調整である。213は二重口縁壺である。二次口縁部は一次口縁端部に付し、接合部は下方に突出させる。一次口縁部は内外面とも縦方向のヘラミガキ調整を密に施す。二次口縁部外面は縦方向のヘラミガキ調整、内面は横方向のヘラミガキ調整である。214は壺である。頸部は緩やかにひろがり、口縁部を大きく内湾させる。口唇部は凹面状を呈する。口縁部外面には横方向のヘラミガキ調整、内面にはヨコナデ調整を施す。頸部は内外面ともハケ調整後、ヘラミガキ調整を施す。215は複合口縁壺である。頸部は緩やかにひろがり、口縁部は内傾する。口唇部にはルーズな面取りを施す。一次口縁部外面にはタテハケ調整を施す。内面は摩耗のため、調整等は不明瞭であるもののハケ調整か。二次口縁部外面はヨコハケ調整、内面はハケ調整か。

216は甕である。口縁部を上方へ拡張させ、内外面ともヨコナデ調整で仕上げる。217は小型の甕である。口縁部は緩やかな「く」の字状を呈する。口縁部は内外面ともナデ調整を施す。体部外面にはナデ調整、内面には粗いハケ調整およびナデ調整を施す。218は甕である。口縁部は「く」の字状を呈する。口縁部外面にはナデ調整、内面にはヨコハケ調整を施す。体部外面には叩き調整後、ヘラナデ調整を施す。内面にはハケ調整後、ナデ調整を施す。219は甕である。口縁部は緩やかな「く」の字状を呈する。口縁部外面は上胴部からの一連の叩き調整後、指頭により成形する。内面はハケ調整である。体部外面は叩き調整後、ハケ調整を施し、内面には斜め方向のハケ調整を施す。220は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部はハケ状原体により面取りを施す。口縁部外面は叩き調整後、ハケ調整を施す。内面にはヨコハケ調整を施す。体部外面には叩き調整後、ナデ調整を施す。内面は粗いハケ調整である。頸部内面には接合痕跡がみられる。221は甕である。口縁部は緩やかな「く」の字状を呈し、口唇部にはルーズな面取りを施す。口縁部外面は上胴部からの一連の叩き調整後、指頭により成形する。内面はヨコハケ調整である。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はハケ調整後、ナデ調整を施す。肩部内面には接合痕跡がみられる。222は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部はハケ状原体により面取りを施す。口縁部外面は上胴部からの一連の叩き調整後、ハケ調整を施す。内面にはハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施し、内面にはハケ調整後、ナデ調整を施す。内面の口頸部境は比較的稜が立つ。223は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部にはルーズな面取りを施す。口縁部外面は上胴部からの一連の叩き調整後、指頭により成形する。

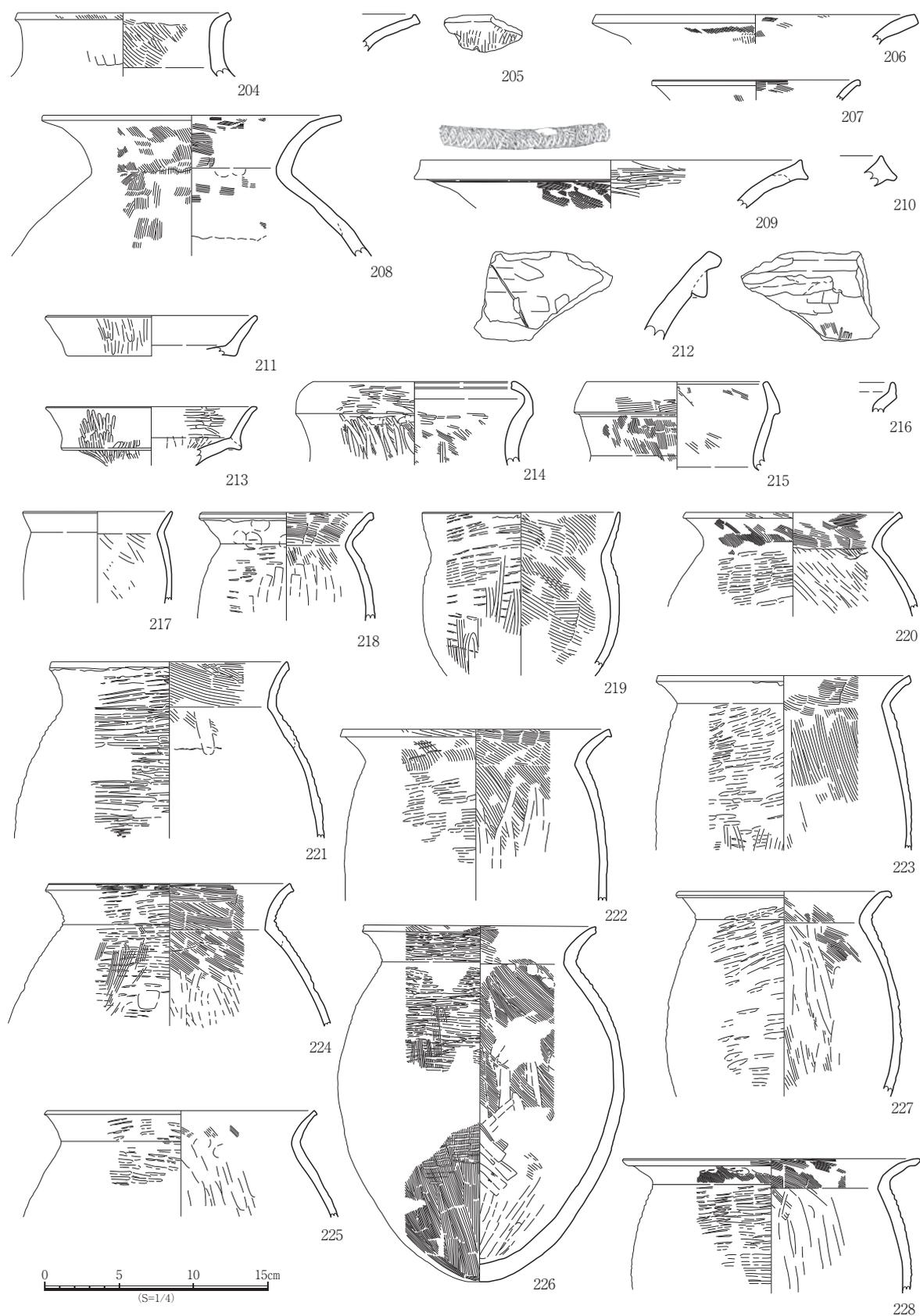


図35 5区 ST6 出土遺物実測図_1

内面はハケ調整である。体部外面は叩き調整後、上半部にはナデ調整を施し、下半部にはハケ調整を疎らに加える。内面は上半部にはタテハケ調整、下半部にはハケ調整後ナデ調整か。224は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部はハケ状原体により面取りを施す。口縁部外面は上胴部からの一連の叩き調整後、指頭により成形する。内面はハケ調整である。体部外面には叩き調整後、タテハケ調整を疎らに施す。内面は上半部にはハケ調整、下半部にはハケ調整後ナデ調整を施す。肩部内面には接合痕跡がみられる。また、内面にはモミ圧痕が認められる。225は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部はハケ状原体により面取りを施す。口縁部外面は上胴部からの一連の叩き調整後、指頭により成形する。内面はハケ調整である。体部外面には叩き調整後、ナデ調整、内面にはナデ調整を施す。226は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部はハケ状原体により面取りを施す。口縁部外面は上胴部からの一連の叩き調整後、指頭により成形する。内面はハケ調整である。体部外面には叩き調整後、ハケ調整を施す。内面にはハケ調整後ナデ調整を施し、下半部にはヘラケズリ調整を施す。底部はハケ調整により丸底とする。227は甕である。口縁部は「く」の字状を呈する。口縁部外面は上胴部からの一連の叩き調整後、指頭により成形する。内面にはハケ調整を施す。体部外面には叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はハケ調整後、ナデ調整である。228は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部はハケ状原体により面取りを施す。口縁部外面は上胴部からの一連の叩き調整後、ハケ調整を施す。内面にはハケ調整を施す。体部外面には叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はハケ調整後ナデ調整である。肩部内面には接合痕跡がみられる。229は底部である。直立部を持つ平底であり、外底面はナデ調整により平滑となる。体部外面は叩き調整後、ハケ調整およびナデ調整を施す。内面はナデ調整であり、平滑となる。230は底部である。ナデ調整により丸底とする。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面にはナデ調整を施し、内底面にはヘラの静止痕跡がみられる。231は底部である。角の取れた平底であり、片側を押し潰す。外底面にはナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はハケ調整である。232は底部である。ナデ調整により丸底とする。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はハケ調整およびナデ調整である。233は底部である。ナデ調整により丸底とする。体部外面には叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はナデ調整であり、一部はミガキ状となる。234は底部である。ナデ調整により丸底とする。体部外面にはハケ調整後、ナデ調整を施す。内面にはハケ調整を密に施す。235は底部である。ほぼ丸底か。外底面には叩き目がみられる。体部外面はハケ調整、内面はハケ調整後、ナデ調整を施す。236は底部である。角の取れた平底であり、外底面にはナデ調整を施す。うっすらと叩き目状のものがみえる。体部外面には叩き調整後、ナデ調整を施し、底部付近にはハケ調整を施す。内面はハケ調整後、ナデ調整を施す。237は底部である。角の取れた平底であり、外底面にはナデ調整を施す。体部内面にはハケ調整を施す。238は底部である。角の取れた平底であり、外底面には叩き目がみられる。体部外面は叩き調整を施す。内面はナデ調整およびハケ調整である。239は底部である。僅かに上げ底となる。外底面にはナデ調整を施す。体部外面には叩き調整後、ハケ調整を施す。内面はナデ調整である。240は底部である。丸底である。体部外面は叩き調整後、ハケ調整を施す。内面はハケ調整後、ナデ調整である。

241は鉢である。底部は角の取れた平底である。体部外面は叩き調整後、ナデ調整である。内面はハケ調整を施す。242は鉢である。体部は内外面ともナデ調整であり、外面には指頭圧痕が顕著に認められる。全体的に歪む。243は鉢である。口唇部にはルーズな面取りを施す。内底面を押し出し丸底とする。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はヘラナデ調整であり、一部はミガキ状を呈

する。244は鉢である。体部外面には叩き調整後、ナデ調整を施す。内面は粗いハケ調整を施し、一部はミガキ状を呈する。底部付近はハケ調整後、ナデ調整である。245は鉢である。口唇部は尖らせる。底部は平らな部分の残る丸底であり、ナデ調整により丸底化を試みる。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はハケ調整およびナデ調整である。246は鉢である。口唇部は尖らせる。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はナデ調整であり、一部はミガキ状を呈する。247は鉢である。体部は内外面ともナデ調整で仕上げ、内面は平滑となる。248は鉢である。底部は角の取れた平底である。体部外面は叩き調整後、上半部にナデ調整を施す。内面はナデ調整およびハケ調整である。249はST6_P5から出土した鉢である。口縁部は緩やかな「く」の字状を呈し、口唇部を僅かに摘み上げる。外面は斜め方向のハケ調整で仕上げる。内面は口縁部にハケ調整、体部にナデ調整を施す。250は鉢である。口縁部は内面のヘラナデ調整によりひらく。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はハケ調整後、ナデ調整を施す。251は鉢である。底部は丸底であり、外底面は強いナデ調整により丸底化を試みる。口唇部には面取りを施す。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はハケ調整後、ヘラミガキ調整を施す。内底面にはナデ調整を施す。252は鉢である。口縁部は緩やかな「く」の字状を呈し、口唇部には面取りを施す。口縁部は内外面ともハケ調整で仕上げる。体部外面は叩き調整後、ハケ調整を施す。内面はナデ調整である。253は有孔土器である。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はハケ調整であり、内底面にはナデ調整を施す。また、底部には焼成前に1穴穿孔する。254は脚付き鉢である。外面は叩き調整後、ナデ調整を施し、指頭圧痕がみられる。杯部内面はヘラナデ調整であり、ヘラの静止痕跡が認められる。脚部内面は粘土を押し付け、ハケ調整およびナデ調整を施す。製塩土器か。255は高杯の脚部の破片である。外面はミガキ調整、内面はナデ調整およびハケ調整を施す。焼成前に円孔を穿つ。256は高杯である。外面はミガキ調整を密に施し、内面はナデ調整およびハケ調整を施す。焼成前に円孔を穿つ。257は高杯である。脚端部はハケ状原体によ

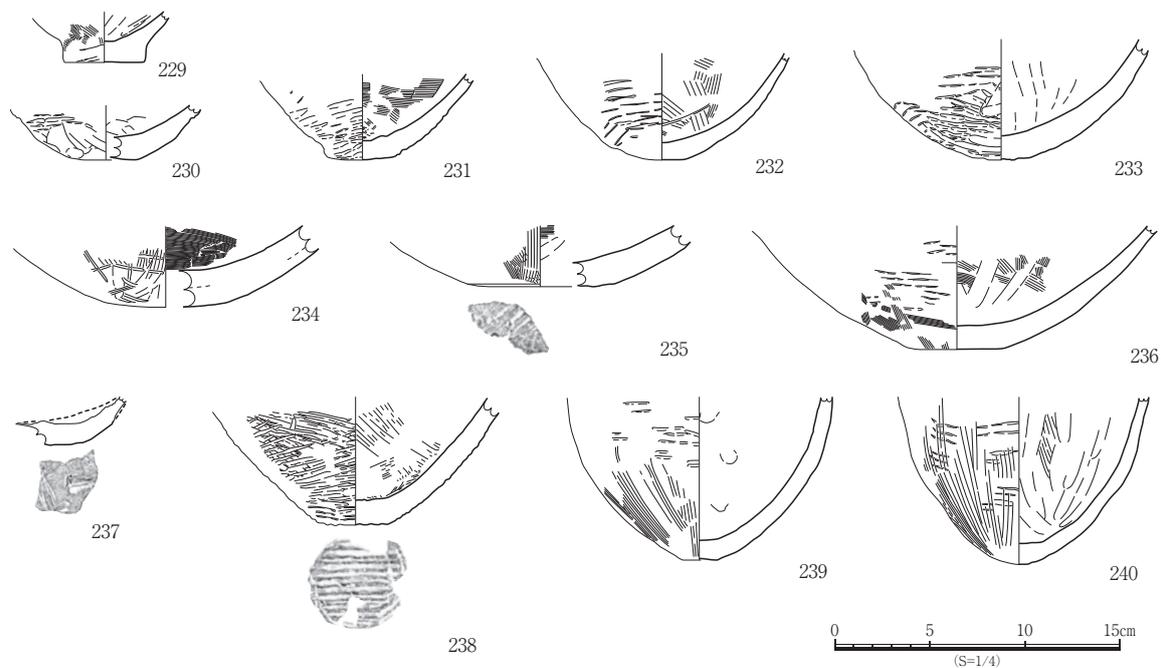


図36 5区 ST6 出土遺物実測図_2

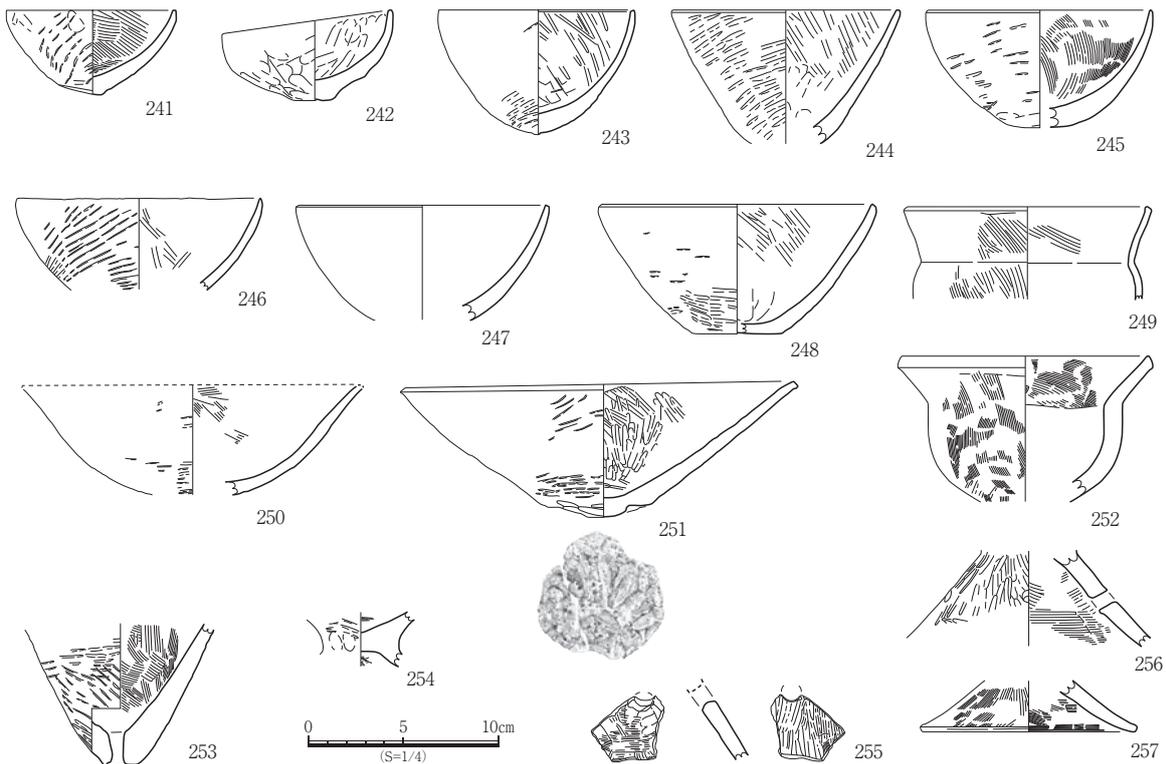


図37 5区 ST6 出土遺物実測図_3

り面取りを施す。内外面ともハケ調整を施す。258は支脚である。指頭により成形し、特に下半部は凹凸が激しい。脚部は中空で、裾部は「ハ」の字形にひらく。体部は中実で断面形は楕円形を呈する。2本の指で受け部とするものの、両方とも先端部は欠損する。背部には摘みを付す。259は支脚である。指頭により成形する。残存部は中空である。上端部を大きくひらき、受け部とする。260は支脚の脚部である。指頭により成形し、中空である。裾部は「ハ」の字形にひらく。261は支脚の体部から脚部の破片である。指頭により成形し、体部は中空である。裾部は「ハ」の字形にひらく。下から粘土を押し付け、脚部と体部を分ける。前傾姿勢である。262は支脚である。指頭により成形し、低い中実の円柱状を呈する。上端部と下端部を僅かに拡張する。上面は僅かに凹み、若干傾斜する。完存である。263はミニチュア土器である。鉢形土器をモデルとする。手捏ね成形であり、外面には指頭圧痕が顕著にみられる。264は粘土塊である。ヘラナデ調整および指ナデによる痕跡が認められる。多数の圧痕がみられる。土器あるいは土製品のパーツか。

ST7

ST7は調査区東部で検出した。ST1・4・6およびP80に切られる。また、削平を受けており、ベッド状遺構の多くは削平されていた。本来は全周していたものと推測される。平面形は円形を呈していたと考えられる。長軸約7.80mを測り、床面積は約47.7㎡である。床面では中央ピット(ST7_中央P1・2)、支柱穴(ST7_P1~3・5・6, ST4_P5)、壁溝(ST7_SD1・2)を検出した。中央ピット1は床面の中央に位置する。平面形は不整円形を呈し、北東部を除きテラスから稜を持つ。断面形は漏斗状を呈する。床面からの深さは約41cmを測る。埋土は上層と下層に分層でき、上層は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シ

ルト、下層は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトに浅黄色(2.5Y7/4)細粒砂質シルトを含む。中央ピット2は中央ピット1の北東に近接する。長軸約0.82m, 短軸約0.59mの隅丸長方形を呈する。床面からの深さは約4cmを測る。両中央ピットで複合型の燃焼施設を構成する可能性がある。支柱穴は規模・配置からST7_P1~3・5・6・ST4_P5と考えられる。支柱穴は円形から不整円形を呈し、直径38~56cm, 床面からの深さは40~49cmと比較的規模は大きく深い。各支柱穴間の距離は不揃いであり、本STの支柱穴となるか不確かなものも含んでいる。壁溝(ST7_SD1・2)は幅21~28cm, 床面からの深さは3~6cmである。検出長は約10.50mである。一部途切れ全周しない可能性がある。また、壁際と壁溝との間に幅20~40cm, 床面との比高差数cmのテラスが巡る。本来は全周するものと推測される。

図示した出土遺物は、弥生土器の壺(265~271)・甕(272~276)・底部(277・278)・鉢(279~284)・高杯(286~291)・器台(292), 粘土塊(285)である。

265は壺である。口縁部を緩やかに外反させ、口唇部には面取りを施す。口縁端部付近はヨコナデ調整で仕上げる。外面はタテハケ調整, 内面はナデ調整およびヨコハケ調整を施す。266は壺である。口縁部を緩やかに外反させる。口縁部外面はタテハケ調整, 内面はヨコハケ調整である。267は壺である。口唇部には面取りを施し、上下に拡張する。内外面ともヨコナデ調整で仕上げる。268は壺である。口唇部にはハケ状原体により面取りを施し、上下に僅かに拡張する。口縁端部付近は内外面ともヨコナデ調整を施し、口縁部は内外面ともハケ調整を施す。269はST7_P4から出土した壺である。口縁部を外反させ、口唇部には面取りを施す。内外面ともハケ調整を施し、口縁端部はヨコナデ調整で仕上げる。270は壺である。口縁部は大きく外反し、口唇部は下方へ拡張する。口唇部には7条1単位の繊細な櫛描波状文を描き、ハケ状原体による刻目を施した小判形の浮文を貼り付ける。外面はハケ調整およびナデ調整を施す。内面はヨコハケ調整後、ヘラミガキ調整を施す。271は壺であ

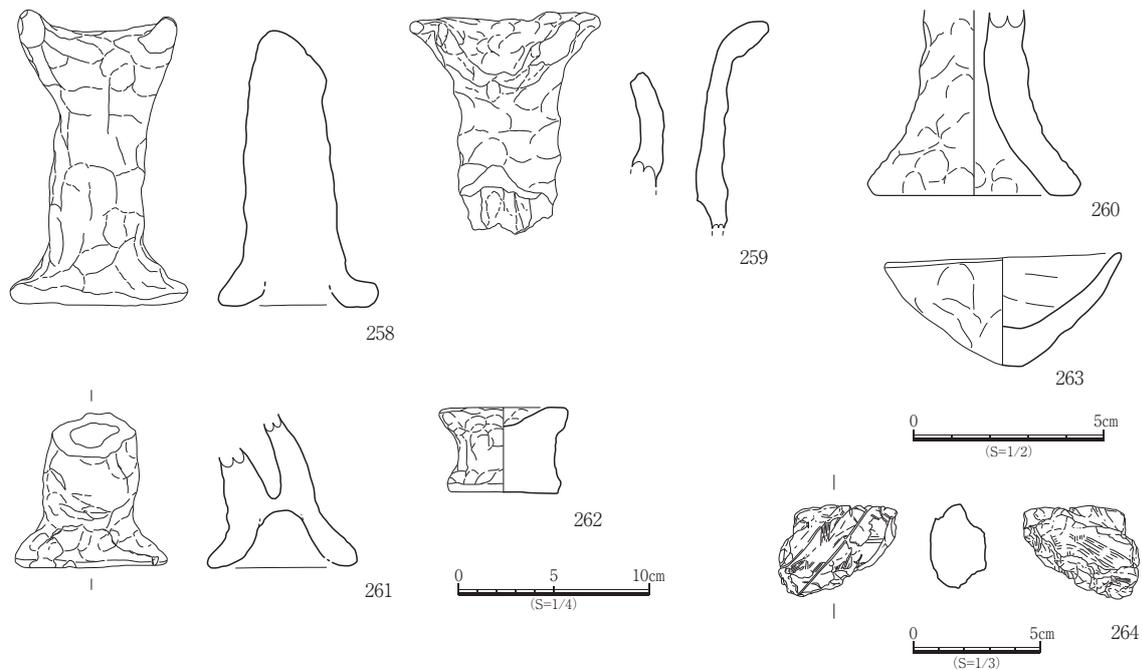
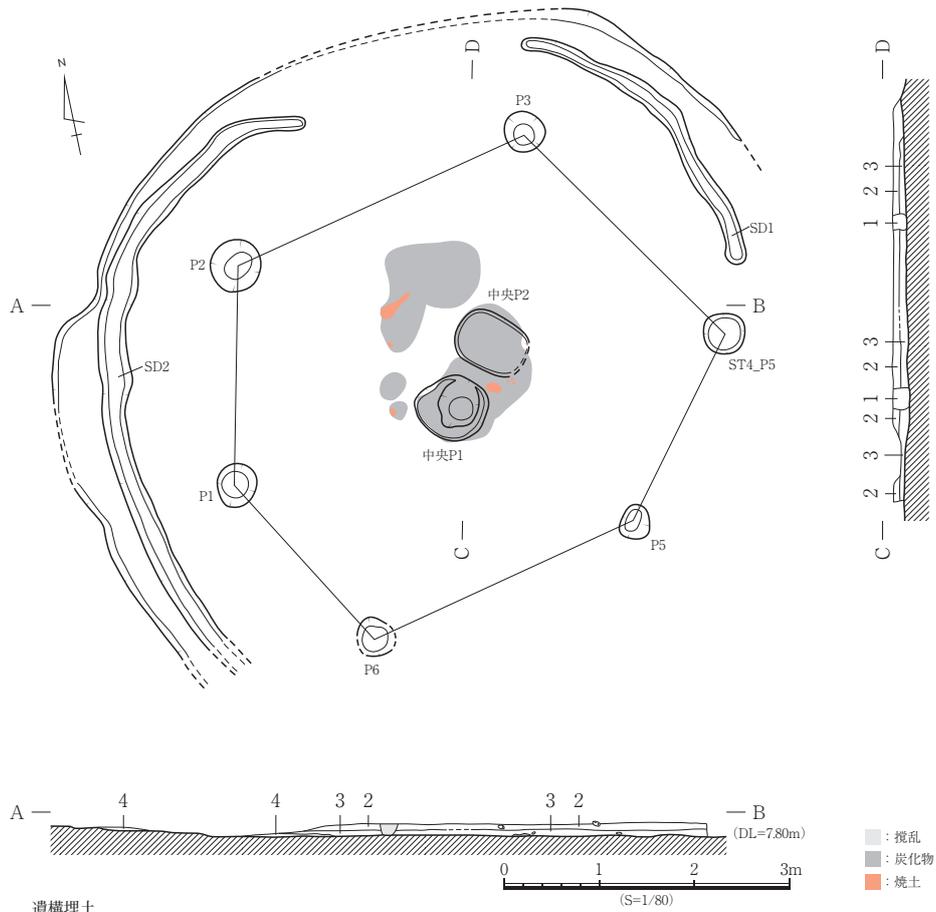
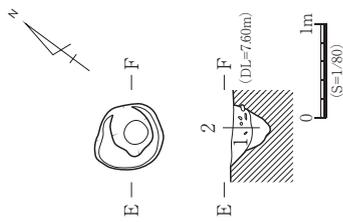


図38 5区 ST6 出土遺物実測図_4



遺構埋土

1. 黒褐色 (10YR3/1) 細粒砂質シルトに炭化物と地山ブロックを少量含む
2. 黒褐色 (7.5YR3/2) 細粒砂質シルトに炭化物を少量含む
3. 黒褐色 (10YR3/2) 細粒砂質シルトに炭化物と地山ブロックを少量含む
4. 灰黄褐色 (10YR5/2) 細粒砂質シルト・明黄褐色 (10YR7/6) 細粒砂質シルト (地山)



遺構埋土

1. 黒褐色 (10YR3/2) 細粒砂質シルトに炭化物と地山ブロックを少量含む
2. 黒褐色 (10YR3/2) 細粒砂質シルト・浅黄色 (2.5Y7/4) 細粒砂質シルトに地山ブロックを少量含む

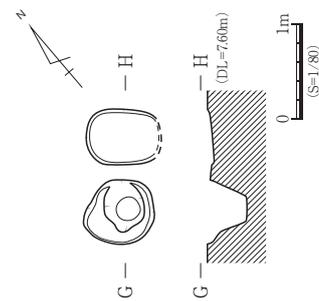


図39 5区 ST7 平面図・断面図

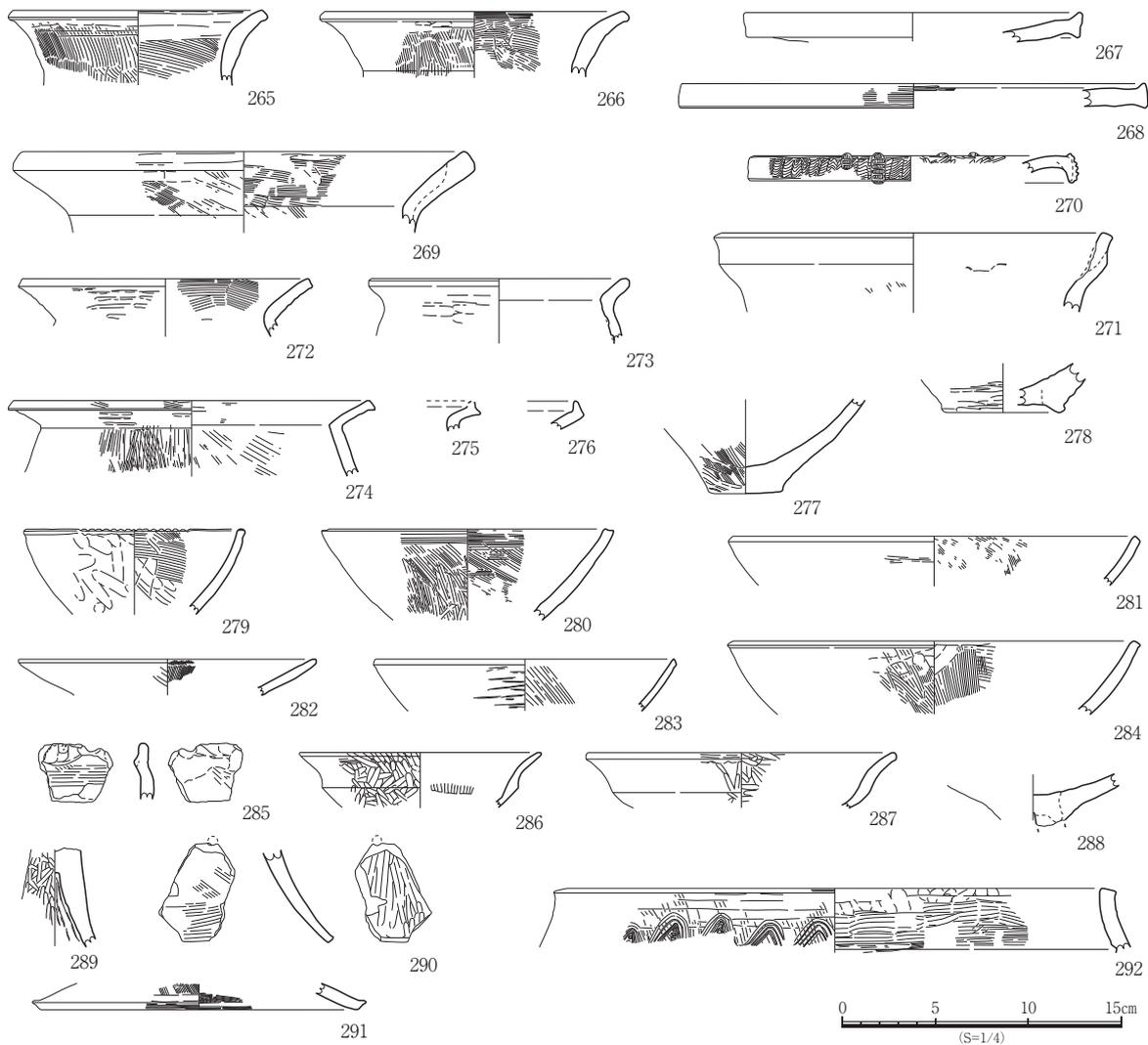


図40 5区 ST7 出土遺物実測図

る。二重口縁状を呈する。口唇部には面取りを施す。一次口縁部の外面はナデ調整あるいはミガキ調整を施す。内面はナデ調整か。二次口縁部の外面はヨコナデ調整を施す。内面には接合痕跡がみられる。外面はやや摩耗し、内面は器面が剥離する。272はST7_P3から出土した甕である。口唇部には面取りを施す。外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はヨコハケ調整を施す。273は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部は丸くおさめる。口縁部は内外面ともヨコナデ調整を施す。体部外面はヨコナデ調整を施し、内面はナデ調整を施すものの、剥離がみられる。274はST7_中央P1から出土した甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部はハケ状原体により面取りを施す。口縁部外面は叩き調整後、ナデ調整を施し、内面はハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後、ハケ調整を施し、内面はハケ調整を施す。内面は摩耗する。275は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部上端を摘み上げ、下端を摘み出す。口

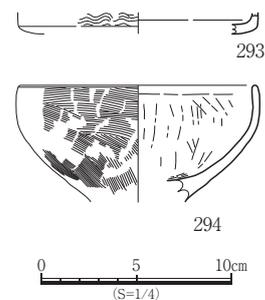


図41 5区 ST4・6 出土遺物実測図

唇部は凹面状を呈する。ナデ調整で仕上げる。276は甕である。口唇部を摘み上げる。内外面ともヨコナデ調整である。277は底部である。平底で外底面には何かの圧痕がみられる。底端部は僅かに突出する。体部外面は叩き調整後、ハケ調整を施し、内面はナデ調整を施す。278は底部である。角の取れた平底状を呈し、粘土板が剥離したかあるいは上げ底となる。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施し、内面はナデ調整を施す。

279は鉢である。口唇部には刻目を施す。体部外面はナデ調整を施し、キレツが認められる。内面にはハケ調整を施し、下半部にはナデ調整を施す。内面の一部はミガキ状を呈する。280はST7_中央P1から出土した鉢である。口唇部は凹面状から沈線状を呈する。口縁部は内外面ともヨコハケ調整を施す。体部は内外面ともハケ調整である。281はST7_中央P1から出土した鉢である。口唇部には面取りを施す。体部外面はハケ調整あるいはナデ調整を施し、キレツがみられる。内面はハケ調整である。内外面とも摩耗する。282は鉢である。口縁部外面にはヨコナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施し、内面はハケ調整を施す。搬入品か。283はST7_P6から出土した鉢である。口唇部を僅かに摘み上げる。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施し、内面はハケ調整を施す。284は鉢である。口唇部には面取りを施す。口縁部は内外面ともヨコナデ調整を施す。体部は内外面ともハケ調整である。285は粘土塊である。ハケ調整およびナデ調整を施す。キレツが認められる。286はST7_中央P1から出土した高杯である。杯部と口縁部の境には鋭い稜が立つ。外面はハ

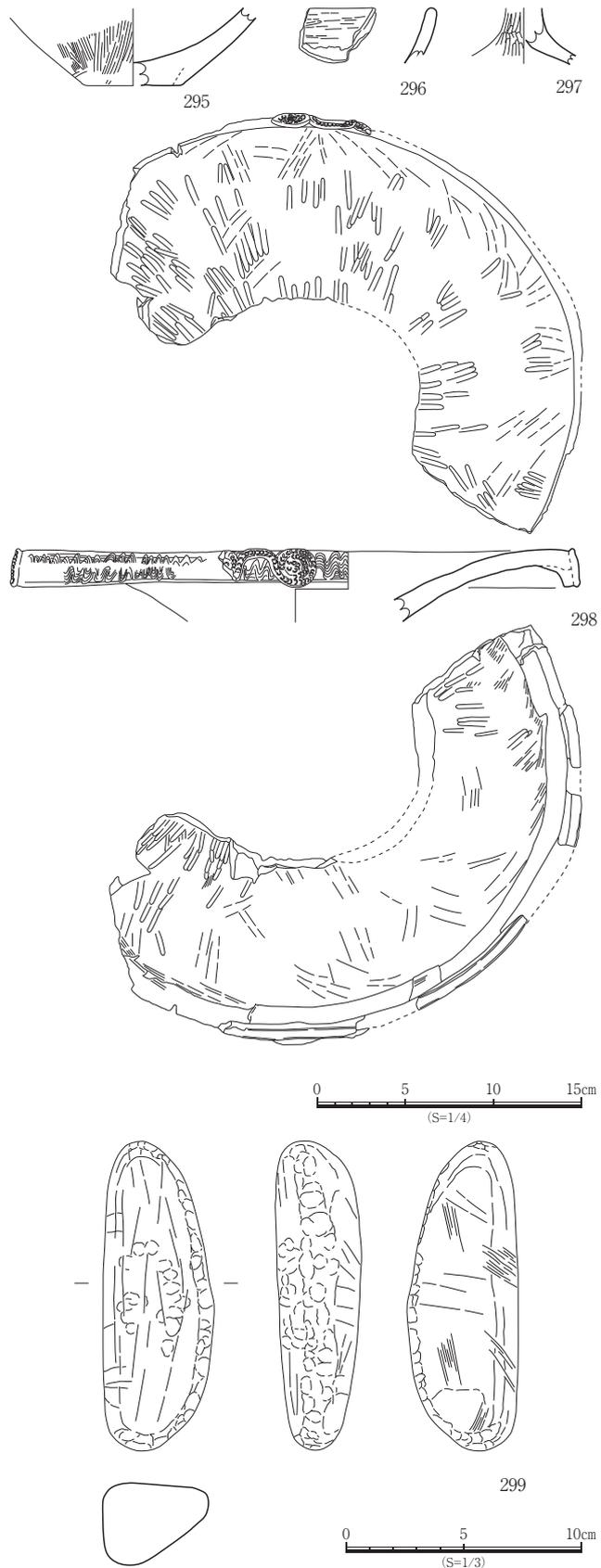


図42 5区 ST4・7 出土遺物実測図

ラミガキ調整を密に施す。一次調整はハケ調整か。内面はハケ調整後、ヨコナデ調整を施す。二重口縁壺の可能性はある。287は高杯である。杯部と口縁部の境の稜は鈍い。外面はヨコナデ調整後、ヘラミガキ調整を施す。内面はハケ調整後、ヘラミガキ調整を施す。288は高杯である。粘土接合痕跡は明瞭である。内外面とも摩耗のため、調整等は不明である。289は高杯の脚部である。外面にはヘラミガキ調整を密に施す。内面にはしぼり目がみられる。ベンガラを塗布か。290は高杯の裾部の破片である。端部には面取りを施す。外面はヘラミガキ調整である。内面はハケ調整を施し、端部付近にはナデ調整を施す。脚部と裾部の境に円孔を穿つ。291は高杯の裾部である。端部にはハケ状原体により面取りを施し、端部を摘み上げる。内外面ともハケ調整を施し、端部付近はヨコナデ調整で仕上げる。全体的にシャープなつくりである。搬入品か。292はST7_P3から出土した器台の口縁部である。接合面で剥離する。口縁部は内傾し、口唇部には面取りを施す。外面はハケ調整後、ヨコナデ調整を施す。内面にはヨコハケ調整を施す。外面には4条1単位の櫛描波状文と竹管文を描く。

以下にはST4あるいはST6に帰属する遺物を図示した。293はST4・6から出土した弥生土器の壺である。外面はハケ調整後、ナデ調整か。内面はナデ調整である。外面には櫛描波状文を施す。294はST4・6から出土した弥生土器の低脚高杯である。杯部は椀形を呈する。外面はハケ調整、内面はナデ調整である。また、内底面にはハケ調整を施す。

以下にはST4あるいはST7に帰属する遺物を図示した。295は弥生土器の底部である。角の取れた平底であり、外底面は軽くナデ調整を施す程度であり、様々な圧痕がみられる。体部外面はタテハケ調整、内面はナデ調整である。296は弥生土器の鉢である。口唇部は丸くおさめる。体部外面はナデ調整か。内面はヨコハケ調整後、ナデ調整を施す。297は弥生土器の高杯である。外面は縦方向のヘラミガキ調整、内面にはナデ調整を施す。断面には粘土接合痕跡が認められる。298は弥生土器の器台である。ST7_中央P1、上層、下層、床面等から出土しており、ST7に伴う可能性が高い。口縁部は大きく外反し、口縁端部下端に粘土を付加し、拡張する。口唇部にはハケ状原体により面取りを施し、5条1単位の櫛描波状文を描き、双頭渦文を貼り付ける。双頭渦文は粘土紐上に竹管文を重ねて施す。外面にはハケ調整後、ヘラミガキ調整を施す。内面にはヘラミガキ調整を施す。伊予型の大型器台と考えられる。胎土は高知平野のものと推測される。299は砂岩製の叩石である。断面形が三角形を呈した棒状の自然石を利用し、握り易い形状である。

SX1

SX1は、複数の遺構(ST4・6・7等)が重複しており、検出時にそれぞれの平面プランを確定することはできなかったため、SX1として調査を進めた。各遺構の平面形等が確定した段階で新たに遺構番号を付した。

図示した出土遺物は、弥生土器の壺(300～303)・甕(304・305)・鉢(306～309)・高杯(310)・器台(311)、鉢(312)であり、ST4・6・7のいずれかの遺物である。

300は壺である。口縁部は大きく外反させ、口唇部には面取りを施す。外面は摩耗により、調整等は不明である。内面はヘラミガキ調整か。301は複合口縁壺である。二次口縁部は僅かに内湾し、口唇部にはルーズな面取りを施す。一次口縁部は外面にハケ調整を施し、内面にはハケ調整およびナデ調整を施す。二次口縁部は外面にハケ調整、内面にヨコナデ調整を施す。302は壺である。口唇部には面取りを施す。鋤状の突帯がめぐる。外面はヨコナデ調整を施し、一部にナデ痕跡がみられる。

内面には粗いヨコハケ調整を施す。3～5条1単位の櫛描波状文を描く。303は壺の底部である。丸底である。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施し、底部付近にはハケ調整を施す。内面はハケ調整である。304は甕である。口縁部はカーブを描いて外反する。口唇部には面取りを施し、上端部を摘み上げる。口縁部は内外面ともヨコナデ調整を施す。頸部外面はタテハケ調整、内面はヨコナデ調整である。305は凹線文系の甕である。口唇部を上下に拡張させ、2条の凹線文をめぐらせる。306は鉢である。コップ状の器形を呈する。底部は丸底である。体部外面には叩き調整後、ナデ調整を施す。内面は粗い斜め方向のハケ調整およびナデ調整を施す。307は鉢である。口唇部には面取りを施す。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施し、底部付近にはハケ調整を疎らに施す。内面は上半部にはハケ調整、下半部にはナデ調整を施す。308は鉢である。口縁部は大きくひらき、口唇部は尖らせる。底部は突出した平底であり、外底面にはナデ調整を施す。体部外面には叩き調整後、ナデ調整を施す。内面は大きく剥離する。309は鉢である。口縁部を外反させ、口唇部を尖らせる。口縁部は内外面ともヨコナデ調整を施し、内面はミガキ状を呈する部分がある。体部は内外面ともナデ調整後、ミガキ調整である。310は高杯である。外面はタテハケ調整後、縦方向のヘラミガキ調整を施す。内面はナデ調整であり、しぼり目がみられる。脚部と裾部の境付近に円孔を穿つ。311は器台である。口縁部は直線的に大きくひらき、口唇部にはハケ状原体により面取りを施し、上方へ拡張させる。内外面ともヨコナデ調整を施す。やや摩耗する。

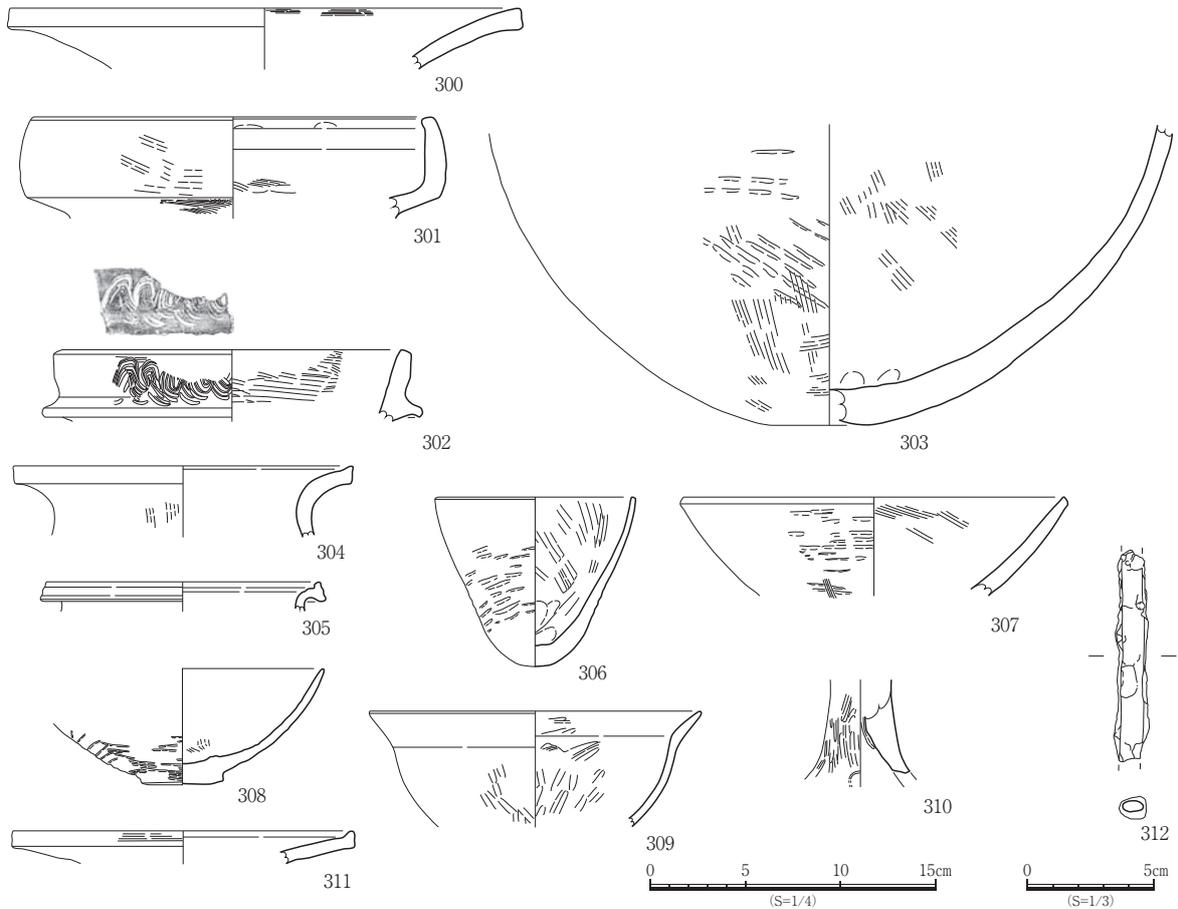


図43 5区 SX1 出土遺物実測図

ST5

ST5は調査区の北東部で検出した。平面形からSTとして調査を行ったものの堅穴建物跡ではなく、土坑と考えられる。

図示した出土遺物は、不明の青銅製品(313)である。

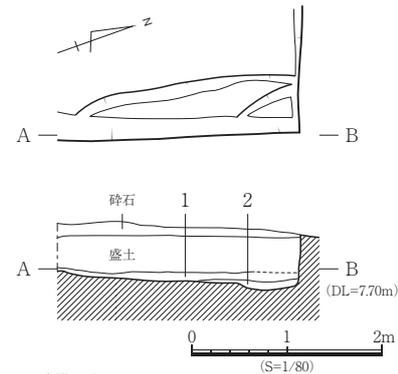


図44 5区 ST5 平面図・断面図

ST8

ST8は調査区中央部で検出した、堅穴建物跡である。平面形は隅丸方形あるいは不整円形と推測される。長軸約8.00mを測り、床面積は約50.2㎡である。主軸方向はN-78°-Wである。床面では中央ピット(SX2_中央P1)、支柱穴(SX2_P19・21・30・32・33・35)および各支柱穴を連結する小溝(SX2_SD2)を検出した。SX2_中央P1は床面の中央やや南寄りに位置する。

図示した出土遺物は、弥生土器の壺(314～322)・甕(323・324)・底部(325～329)・鉢(330～337)・蓋か(338)、土製紡錘車(339)である。

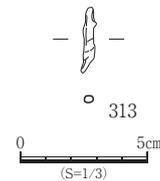


図45 5区 ST5 出土遺物実測図

314は壺である。口縁部は短く外反し、口唇部には面取りを施す。口縁端部は僅かに肥厚する。内外面ともナデ調整およびハケ調整である。315は壺である。口縁部は大きくひらき、口唇部には面取りを施す。口縁部外面はハケ調整であり、内面は摩耗のため調整等は不明である。316は壺である。口縁部は大きくひらき、口唇部には面取りを施し、僅かに拡張させる。振幅の小さい5条1単位の櫛描波状文を描く。口縁部は内外面ともハケ調整であり、口縁端部はヨコナデ調整で仕上げる。317は壺である。口縁部は大きくひらき、口唇部には面取りを施し、僅かに拡張させる。3条1単位の櫛描波状文を2段に施す。外面はヨコナデ調整およびヘラミガキ調整を施し、内面にはヘラミガキ調整を施す。318は壺である。口唇部には面取りを施し、僅かに上方に拡張させる。5条1単位の櫛描波状文を施す。内外面ともハケ調整で仕上げる。319は壺である。口縁部は大きくひらき、口唇部はハケ状原体により面取りを施し、凹面状を呈する。口縁端部を僅かに摘み上げる。外面はヨコナデ調整およびハケ調整、内面はヘラミガキ調整である。320は壺である。口縁部に粘土を貼付し肥厚させ、肥厚部の下端は突帯状を呈する。口唇部は丸くおさめる。外面の肥厚部はナデ調整、頸部はタテハケ調整を施す。内面はナデ調整である。内面にはヘラによる静止痕跡がみられる。また、外面は摩耗する。搬入品か。321は壺である。口縁部は屈曲し内湾する。外面はハケ調整、内面はナデ調整である。322は壺である。口縁部は直立し、口唇部には面取りを施す。内外面ともハケ調整を施す。

323は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部はハケ状原体により面取りを施す。口縁部外面は上胴部からの一連の叩き調整後、指頭により成形する。内面はヨコハケ調整である。体部外面はハケ調整を丁寧に施し、下地に叩き目があると推測される。内面はナデ調整であり、ヘラによる調整痕跡が認められる。324は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部にはルーズな面取りを施す。口縁部外面は上胴部からの一連の叩き調整後、指頭により成形する。内面はヨコハケ調整である。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面にはハケ調整後、ナデ調整を施す。また、内面にはモミ

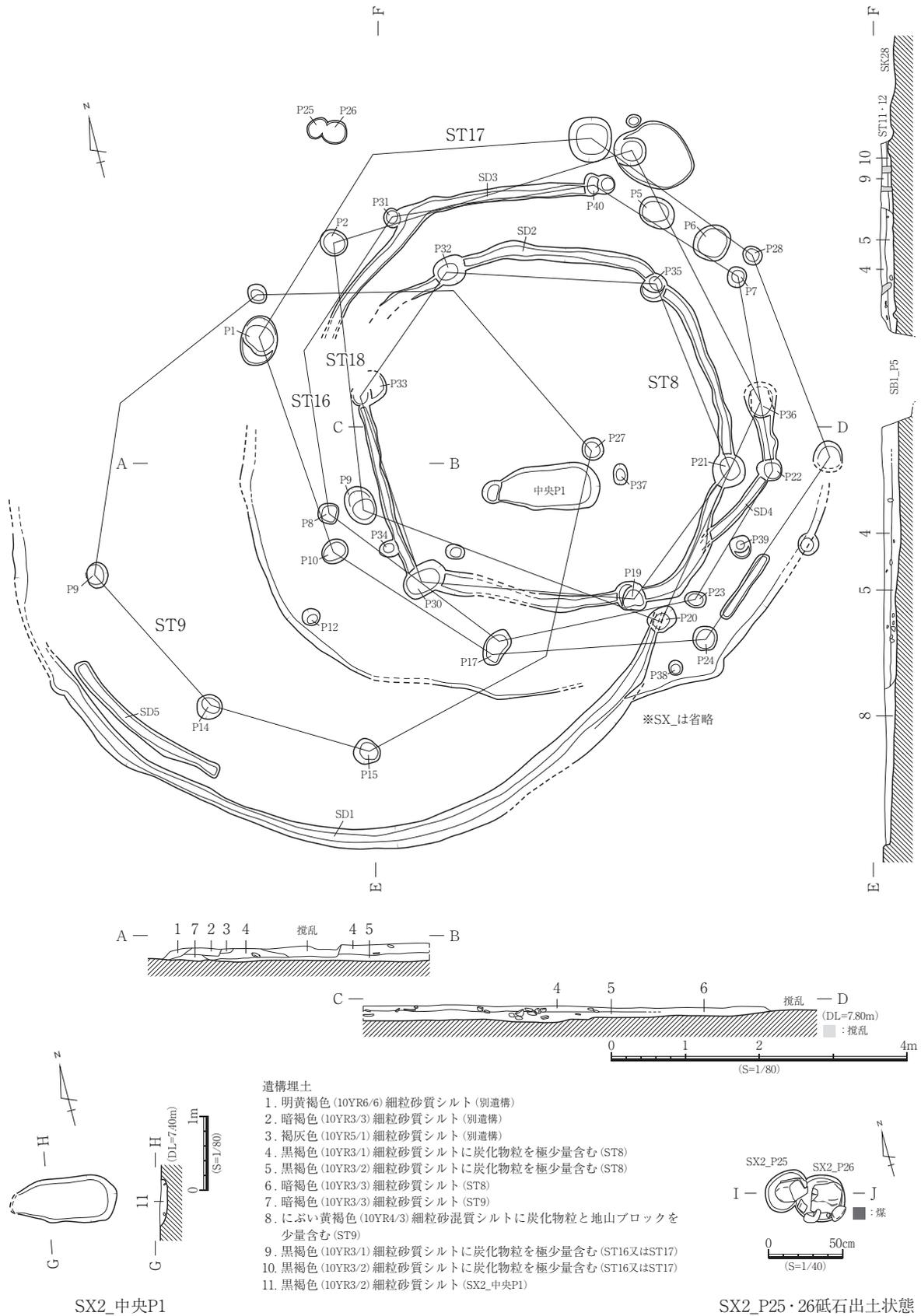


図46 5区 ST8・9・16・17・18 平面図・断面図

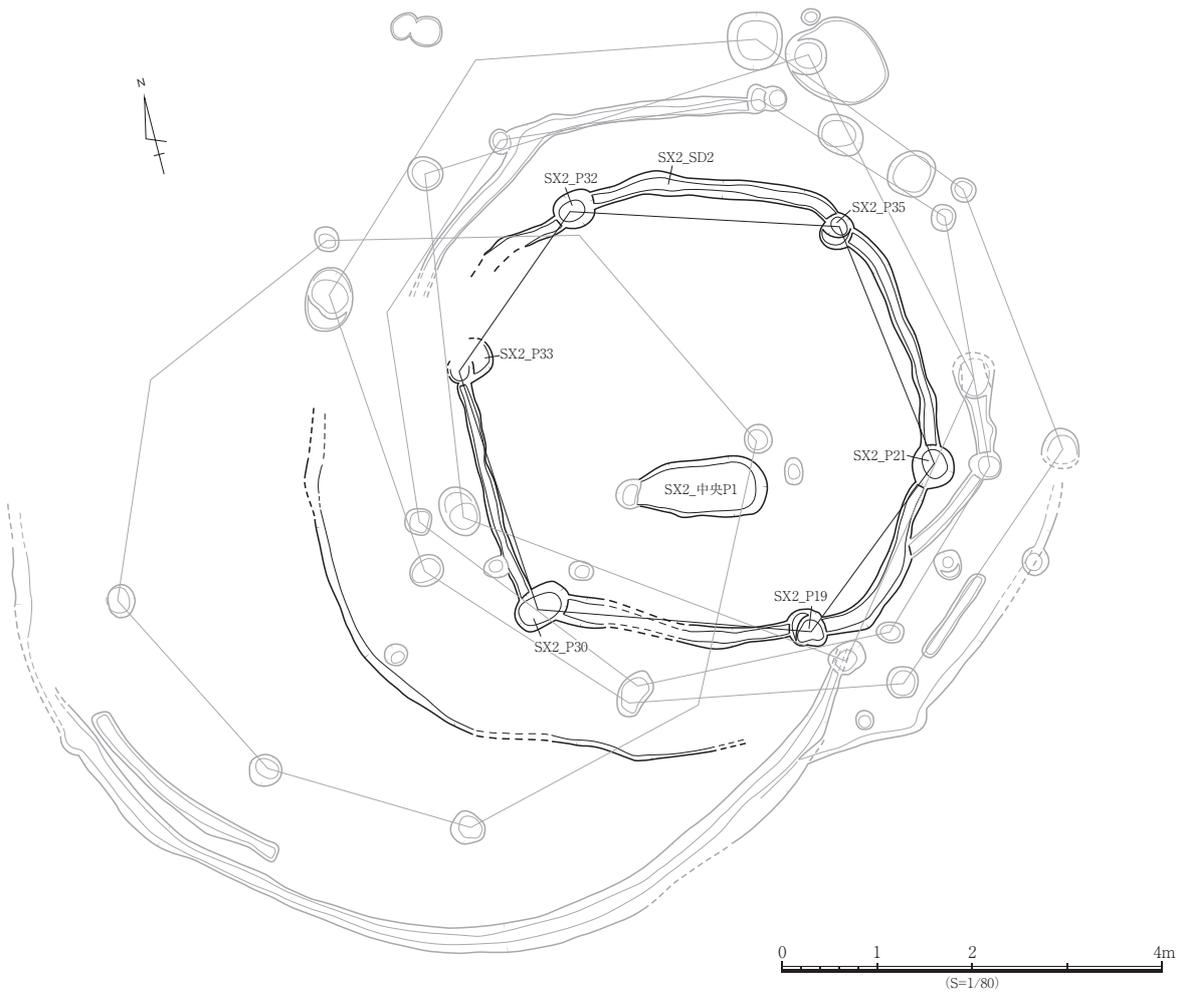
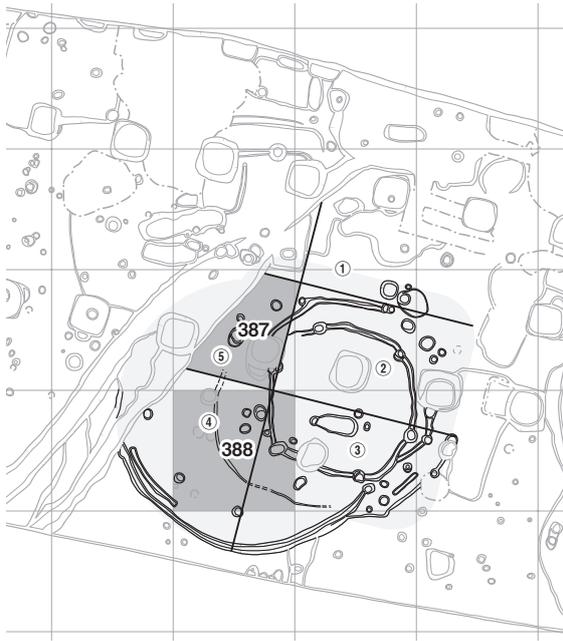


図47 5区 ST8 平面図

圧痕が認められる。325は底部である。平底で、外底面にはナデ調整を施す。体部外面はハケ調整、内面はナデ調整である。326は底部である。外底面にはナデ調整を施す。体部外面はヨコハケ調整であり、叩き目の可能性がある。内面にはナデ調整を施し、ミガキ状を呈する部分がある。327は底部である。平底で、外底面にはナデ調整か。底面と体部の境が比較的明瞭である。体部外面はハケ調整後、ヘラミガキ調整を施す。内面は荒れており、ナデ調整か。328は底部である。僅かに上げ底となり、外底面にはナデ調整を施す。体部外面には叩き調整後、ナデ調整を施し、内面にはナデ調整を施す。329は底部である。ほぼ丸底を呈し、ナデ調整により丸底化を図る。体部外面には叩き調整後、ナデ調整を施す。内面にはハケ調整後、ナデ調整を施す。

330は鉢である。体部はやや深めで、口唇部は尖らせ気味に仕上げる。底部は平らな部分の残る丸底であり、外底面にはナデ調整を施す。体部外面はナデ調整、内面はナデ調整および粗いハケ調整である。331は鉢である。底部は角の取れた平底であり、外底面にはナデ調整を施す。体部外面にはナデ調整を施し、内面は全面にハケ調整を施す。内底面にはナデ調整を施す。332は鉢の体部片である。外面にはハケ調整およびナデ調整を施す。内面はハケ調整である。また、内面に赤色顔料が付着する。333は鉢である。口唇部は面取りにより凹面状を呈する。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面には粗いハケ調整後、ナデ調整を施す。334は鉢である。口唇部は面取りにより凹面状を呈する。外面には叩き調整後、ハケ調整を施し、口縁部にはナデ調整を施す。内面はハケ調整を施す。335は鉢である。口縁部は外反させる。口縁部外面には叩き調整後、ナデ調整を丁寧に施す。内面はハケ調整である。体部外面には叩き調整後、ハケ調整を密に施す。内面にはナデ調整を施す。底部は平らな部分の残る丸底であり、外底面は叩き調整後ナデ調整を施す。また、内底面には爪の圧痕あるいはヘラによる調整痕跡が認められる。336は鉢である。体部は偏球形を呈し、口縁部は短く外反する。口縁部外面は上胴部からの一連の叩き調整後、指頭により成形する。内面はナデ調整か。体部外面には叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はナデ調整か。肩部内面に接合痕跡がみられる。内外面とも摩耗する。337は脚付き鉢か。杯部内面はヘラミガキ調整を施し、黒色磨研状を呈する。短い中実の脚部から短い裾部がひろがる。脚部外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整である。338は蓋か。頂部外面はナデ調整である。外面には叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はハケ調整である。339は紡錘車である。指頭により成形する。中心部が厚く、縁辺にいくにしたがいうすくなり、断面形は扁平な三角形を呈する。中央に下から1穴穿孔する。

ST9

ST9は調査区中央部で検出した平面形が不整円形の竪穴建物跡であり、長軸約9.00mを測り、床面積は約63.5㎡である。SX2の竪穴建物跡では最も古い。他の竪穴建物跡に切られ、南西部しか残存していない。また、床面標高も高いため後世の削平を受けており、床面で検出した遺構は壁溝(SX2_SD1・5)と支柱穴(SX2_P9・14・15・27他)のみである。混入としてはあるが、埋土中の遺物はないと考えられる。

図示した出土遺物は、弥生土器の高杯(340)、パーツか(341)、高杯の未成品か(342)、支脚(343)である。

340は高杯である。裾端部には面取りを施す。外面にはミガキ調整を施し、内面にはハケ調整およびナデ調整を施す。341はパーツか。扁平な皿状を呈し、端部は厚さを減じ、尖らせる。外面は叩き調

整後、ハケ調整およびミガキ調整を施す。内面はハケ調整で、段差がみられる。壺のパーツか。449と類似する。342は高杯の未成品と考えられる。杯部は扁平な円盤で上面はナデ調整を施し、指頭圧痕が認められる。端部に口縁部を付すものと推測される。外面はハケ調整で指頭圧痕が認められる。脚部は「ハ」の字形にひろがる。外面はヘラミガキ調整およびナデ調整である。内面はハケ調整およびナデ調整である。343は支脚である。指頭により成形し、全体的に指頭圧痕が顕著にみられる。短い2本の指で受け部とし、水平方向および垂直方向ともに僅かに捻れる。頂部背後には摘みをつくり出す。体部は中空で断面形は円形である。裾部は大きくひろがり、接地面はひろい。側面に被熱痕跡が認められる。残存率は良好である。

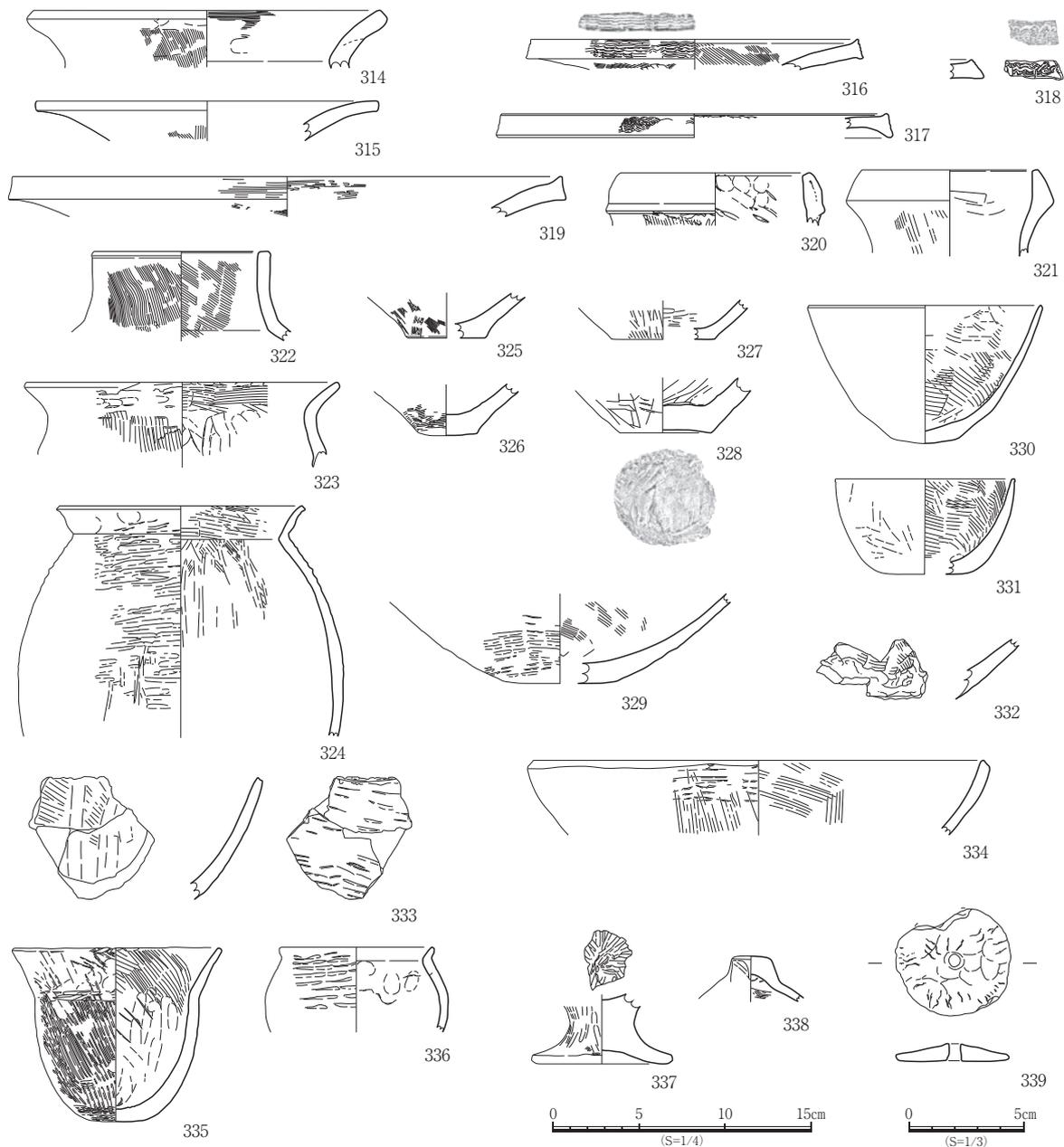


図48 5区 ST8 出土遺物実測図

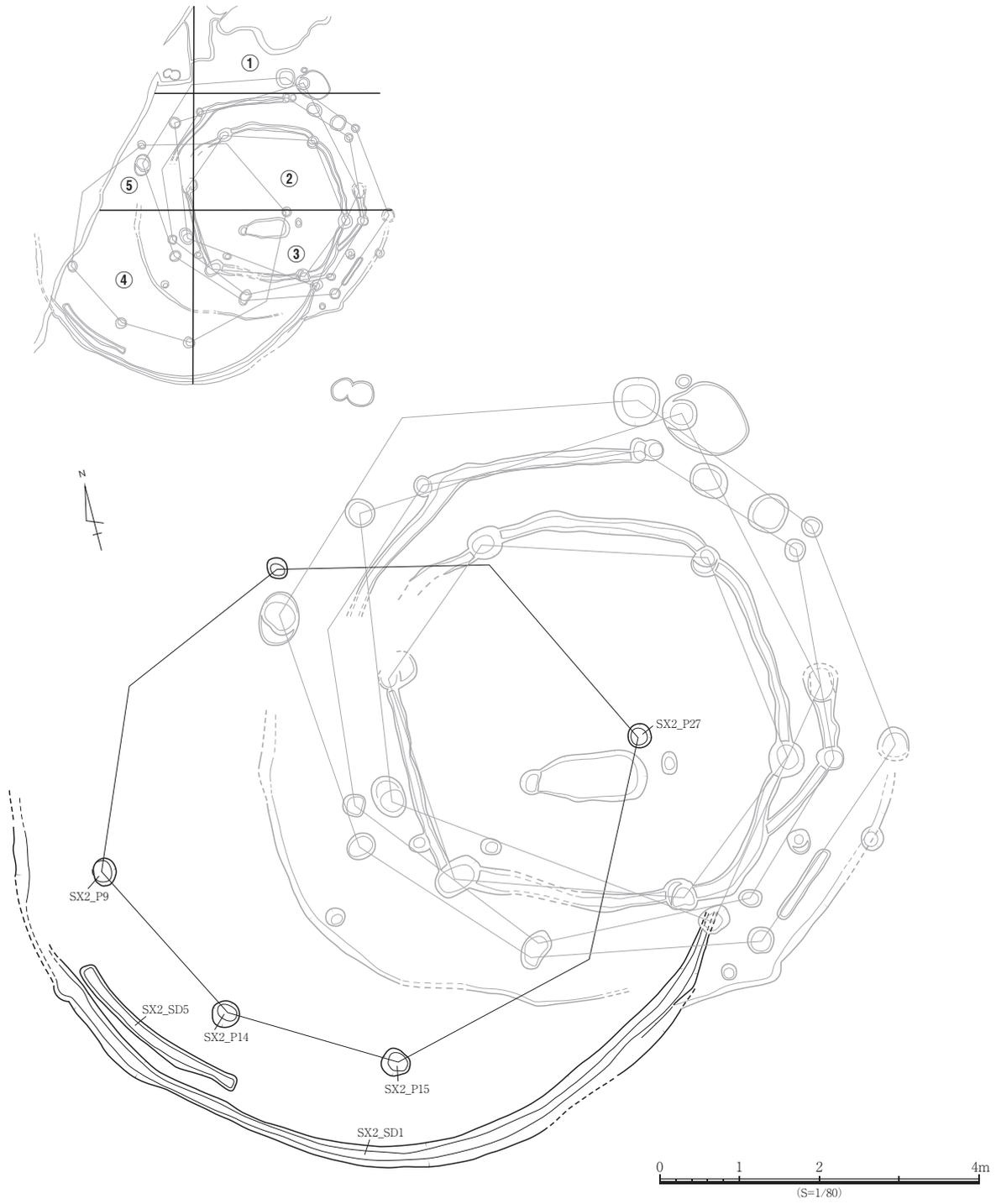


图49 5区 ST9 平面图

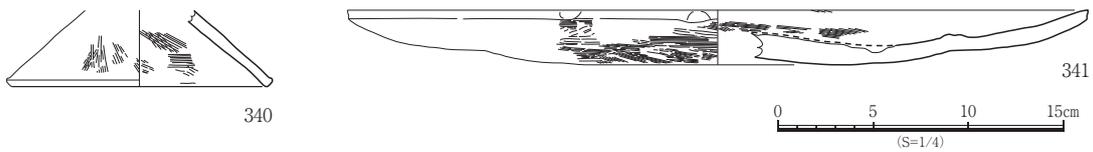


图50 5区 ST9 出土遺物実測図_1

以下にはST8あるいはST9に帰属する遺物を図示した。344は弥生土器の壺である。口縁部は直線的にひろがる。口縁部は内外面ともヨコナデ調整を施す。頸部外面にはハケ調整後、ヘラミガキ調整を施す。内面にはハケ調整およびナデ調整を施す。345は弥生土器の壺である。口縁部は緩やかに外反し、口唇部には面取りを施す。口縁部は内外面ともヨコナデ調整で仕上げる。頸部外面はハケ調整、内面はハケ調整後、ナデ調整である。346は弥生土器の壺である。口唇部を上下に拡張させ、5条1単位の櫛描波状文を描く。内外面ともヨコナデ調整を施し、ミガキ状を呈する部分がある。347は弥生土器の壺である。口縁部は内傾する。内外面とも摩耗のため調整等は不明である。348は弥生土器の壺である。体部は偏球形を呈する。外面にはヘラミガキ調整か。内面の上半部はナデ調整でしぼり目がみられる。下半部はハケ調整を施す。また、肩部内面には接合痕跡がみられる。349は弥生土器の甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口縁端部を僅かに摘み上げ、2条の凹線文をめぐらせる。内外面ともヨコナデ調整を施す。350は弥生土器の底部である。ハケ調整により丸底とする。体部外面は叩き調整後、ハケ調整を施し、内面にはナデ調整を施す。351は弥生土器の鉢である。口唇部には面取りを施す。体部外面には叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はハケ調整である。底部付近にはヘラケズリ調整を施し、底径を小さくする。外底面には凹凸が認められる。352は弥生土器の鉢である。口の広い浅めの器形である。口唇部には面取りを施す。体部外面はナデ調整、内面はハケ調整およびナデ調整である。底部は突出した平底であり、外底面にはナデ調整を施す。353は弥生土器の高杯の杯部である。外面はナデ調整であり、一部にハケメがみられる。内面にはハケ調整後、ナデ

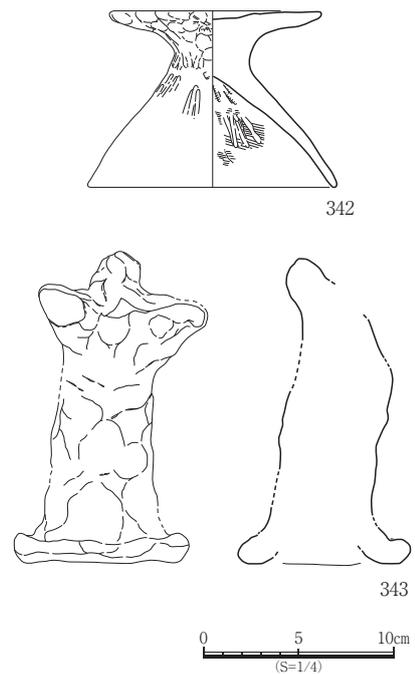


図51 5区 ST9 出土遺物実測図_2

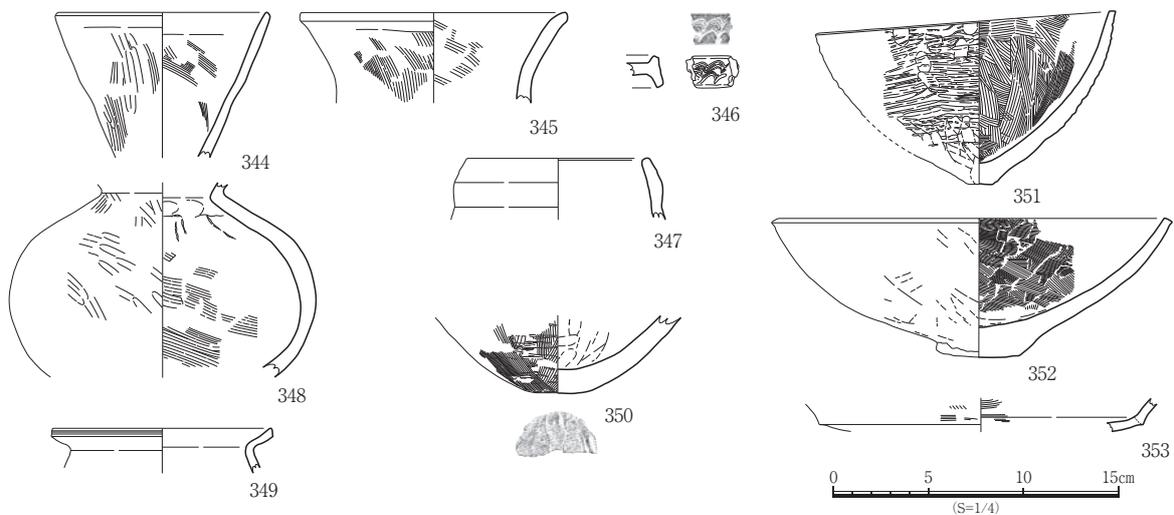


図52 5区 ST8・9 出土遺物実測図

調整あるいはヘラミガキ調整を施す。

ST16

ST16は調査区中央部で検出した平面形が円形の竪穴建物跡である。長軸約7.50mを測り、床面積

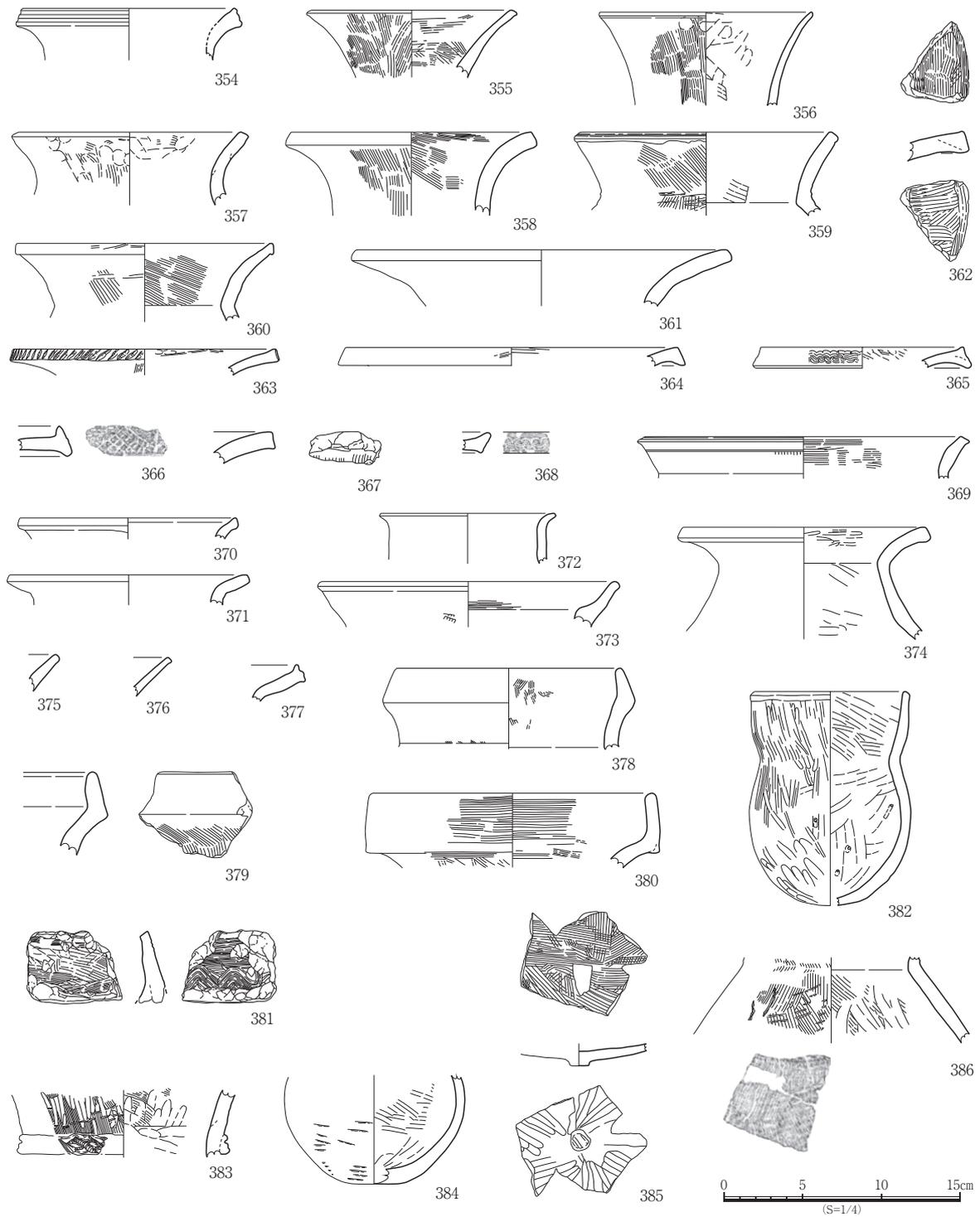


図53 5区 SX2 出土遺物実測図_1

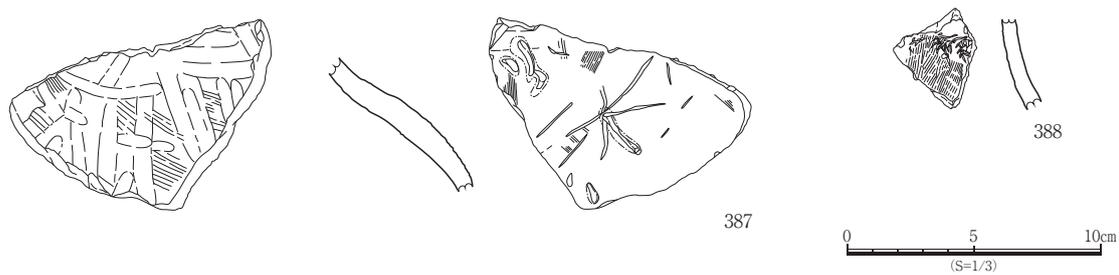


図54 5区 SX2 出土遺物実測図_2

は約44.1㎡である。床面では壁溝(SX2_SD3)と支柱穴(SX2_P7・8・17・22・23・31・40)を検出した。中央ピットはSX2_中央P1を共有する可能性がある。ST16はST8とほぼ重複している。中央ピットを共有し、建て替えの可能性がある。規模もほとんど変わらない。床面では支柱穴(SX2_P7・20・22・30・31・40)、支柱穴を連結する小溝(SX2_SD3)を検出したのみである⁽²⁾。建て替えの可能性がある。

ST17

ST17は調査区中央部で検出した竪穴建物跡である。平面形は隅丸方形か。主軸方向はN-74°-Wである。支柱穴(SX2_P1・10・17・24・28)のみを検出した。ST9と支柱穴の配置が類似していることから、同形態・同規模の竪穴建物跡の可能性はある。

ST18

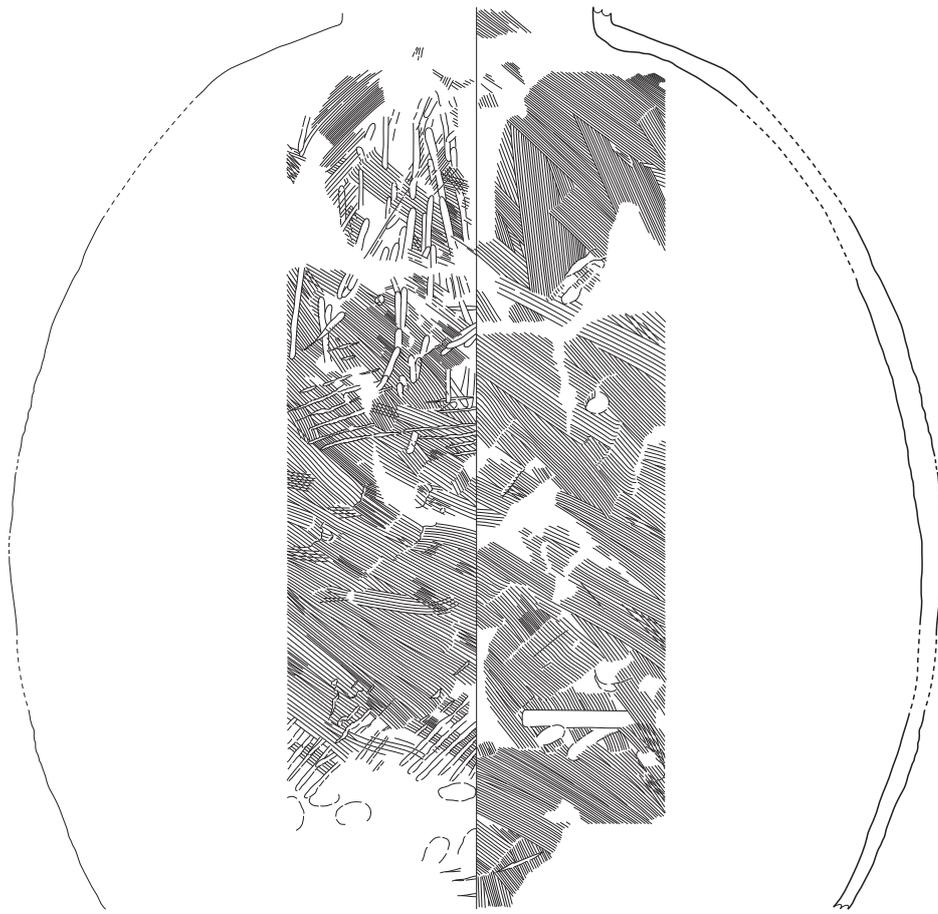
ST18は調査区中央部で検出した竪穴建物跡である。平面形および規模は不明である。支柱穴(SX2_P2・9・20・36他)のみを検出した。

SX2

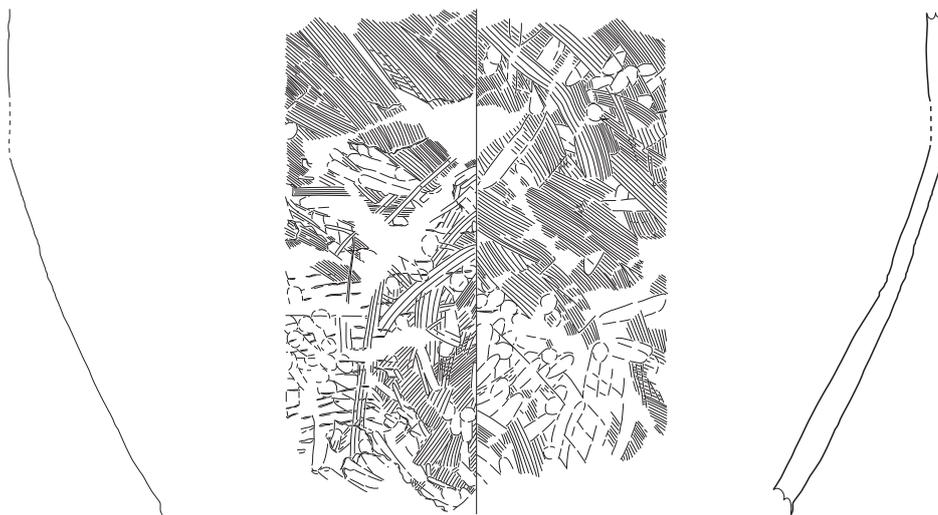
SX2は、複数の遺構(ST8・9・16等)が重複しており、検出時にそれぞれの平面プランを確定することはできなかったため、SX2として調査を進めた。各遺構の平面形等が確定した段階で新たに遺構番号を付した。重複の状況を考慮し設定したサブトレンチの断面および上面遺構(SB1の柱穴、SD1・2)の壁の状況を参考に主に人工層位(上層と下層、概ね層厚10cm)により掘削していった。出土遺物は平面プランが不確定だったことから、サブトレンチ・バンクで区画された範囲(都合、①～⑤に区分)ごとに上層と下層に分けて取り上げた。検出面から約10cmを掘削し、精査した結果、ST8の一部を検出することができた。床面で検出した遺構からはST8・9・16・17・18の5棟の竪穴建物跡を復元することができる。SX2の中ではST9が最も古くST8が最も新しい。SX2は4棟の竪穴建物跡が重複し、さらに1棟の竪穴建物跡と一部で切り合っており、ST9→ST16・ST17→ST8→ST11・12となる。

図示した出土遺物は、弥生土器の壺(354～390)・甕(391～404)・鉢(405～422)・有孔土器(423)・体部片(424～426)・底部(427～440)・高杯(441)・器台(442)・脚部(443)、支脚(444～448)、パーツか(449)、ミニチュア土器(450～456)、砥石(457)、叩石(458)、台石(459)、鉄斧(460)、鉈(461・462)、土師器の皿(463)である。

354は凹線文系の壺である。口縁部は緩やかに外反し、口唇部を僅かに肥厚させ、2条の凹線文をめぐらせる。内外面とも摩耗のため、調整等は不明である。355は壺である。口縁部は外反し、口唇部



389



390

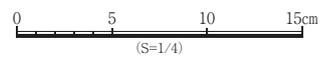


图55 5区 SX2 出土遺物実測图_3

には面取りを施す。内外面ともハケ調整を施す。356は壺である。口縁部は外反させる。外面にはハケ調整を施し、内面にはナデ調整およびハケ調整を施す。357は壺である。口縁部は緩やかに短く外反し、口唇部には面取りを施す。口縁部外面には指頭圧痕がみられる。358は壺である。口縁部は外反し、口唇部には面取りを施す。外面はタテハケ調整、内面はヨコハケ調整を施す。内外面とも摩耗する。359は壺である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部はハケ状原体により面取りを施す。口縁部外面はハケ調整、内面はハケ調整後、ナデ調整を施す。体部外面には叩き調整後、ハケ調整、内面にはナデ調整を施す。360は壺である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部はハケ状原体により面取りを施し、口縁端部を摘み上げる。口縁部は内外面ともハケ調整を施し、口縁端部付近は内外面ともヨコナデ調整で仕上げる。361は壺である。口縁部は大きくひらく。内外面とも摩耗のため、調整等は不明である。362は壺である。口縁部は大きくひらき、口唇部はハケ状原体により面取りを施す。内外面ともハケ調整を施す。363は壺である。口縁部は大きくひらき、口唇部には面取りを施し、ハケ状原体により刻目を入れる。内外面とも摩耗のため、調整等は不明瞭である。ハケ調整か。364は壺である。口縁部は大きくひらき、口唇部にはハケ状原体により面取りを施し、下方へ拡張させる。外面はナデ調整、内面はハケ調整である。365は壺である。口縁部は大きくひらき、口唇部には面取りを施し、僅かに拡張させる。5条1単位の櫛描波状文を施す。口縁部外面はヨコナデ調整およびヘラミガキ調整を施す。内面にはミガキ調整を施す。366は壺である。口縁部は大きくひらき、口唇部には面取りを施し、上下に拡張させる。複合鋸歯文を施す。外面にはヨコナデ調整、内面にはナデ調

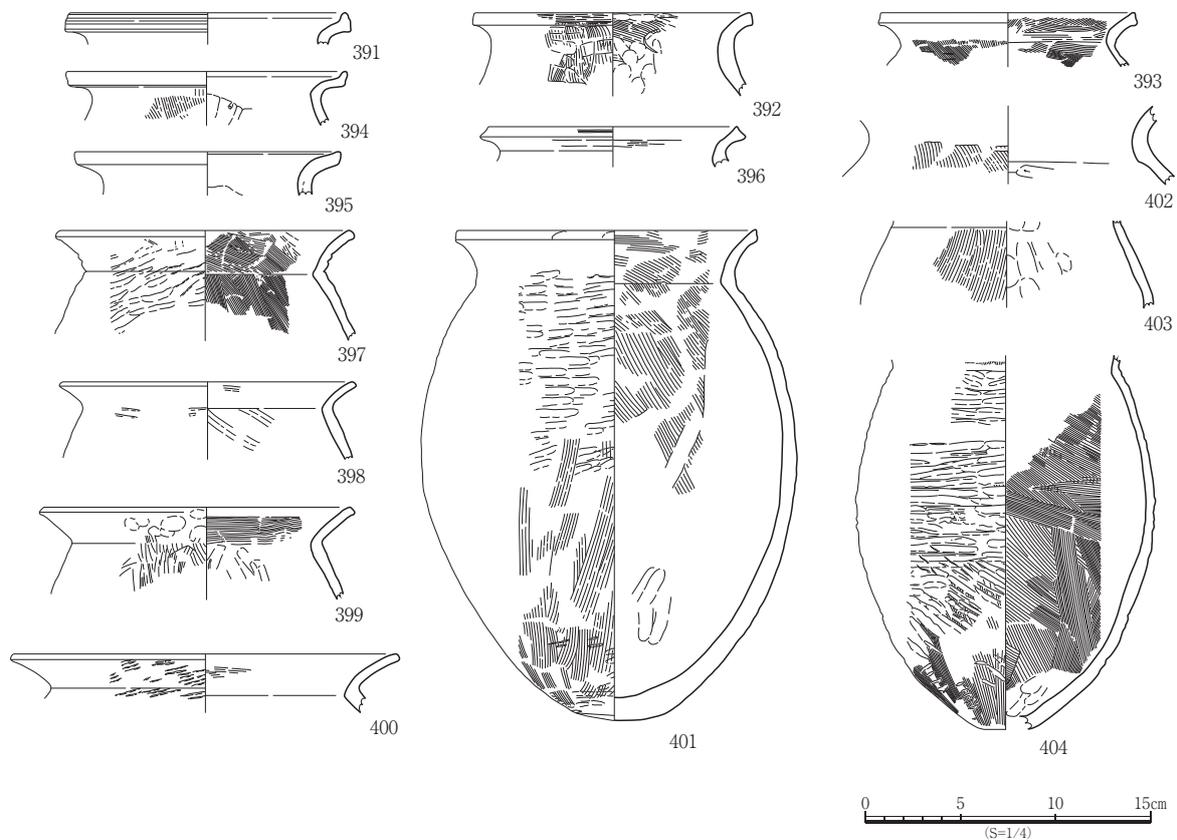


図56 5区 SX2 出土遺物実測図_4

整を施す。367はSX2_P17から出土した壺である。口縁部は大きくひらき、口唇部には面取りを施し、凹面状を呈する。外面にはハケ調整、内面にはヨコナデ調整を施す。口縁部は内外面ともヨコナデ調整により仕上げる。368は壺である。口唇部には面取りを施し、上方へ拡張させる。4～6条1単位の櫛描波状文を施す。外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整である。369は壺である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部にはハケ状原体により面取りを施す。外面にはヨコナデ調整、内面にはハケ調整を施す。口縁部下に沈線が1条めぐり。370は壺である。口縁端部を僅かに摘み上げる。内外面ともヨコナデ調整である。371は壺である。口縁端部を外反させ、口唇部には面取りを施す。内外面ともヨコナデ調整を施す。372はSX2_P6から出土した壺である。直立した頸部で、口縁部は短く外反させる。内外面ともナデ調整か。373は壺か。口縁部は僅かに屈曲し、ひろがる。外面はヨコナデ調整およびハケ調整を施す。内面はヨコナデ調整であり、ナデ痕跡がみられる。二重口縁か。374は壺である。頸部は窄まり、口縁部は外反する。口唇部には面取りを施す。外面は摩耗のため、調整等は不明である。口縁部内面は横方向のヘラミガキ調整、体部内面にはナデ調整を施し、一部はミガキ状を呈する。375はSX2_P30から出土した壺である。外面はヨコナデ調整であり、内面は摩耗のため調整等は不明である。376はSX2_P30から出土した壺である。口縁部外面はヘラミガキ調整、内面はハケ調整およびナデ調整である。口縁部は内外面ともヨコナデ調整で仕上げる。377は壺である。口縁部は大きくひろがり、口唇部を拡張し、2条の凹線文をめぐらせる。内外面ともヨコナデ調整である。378は複

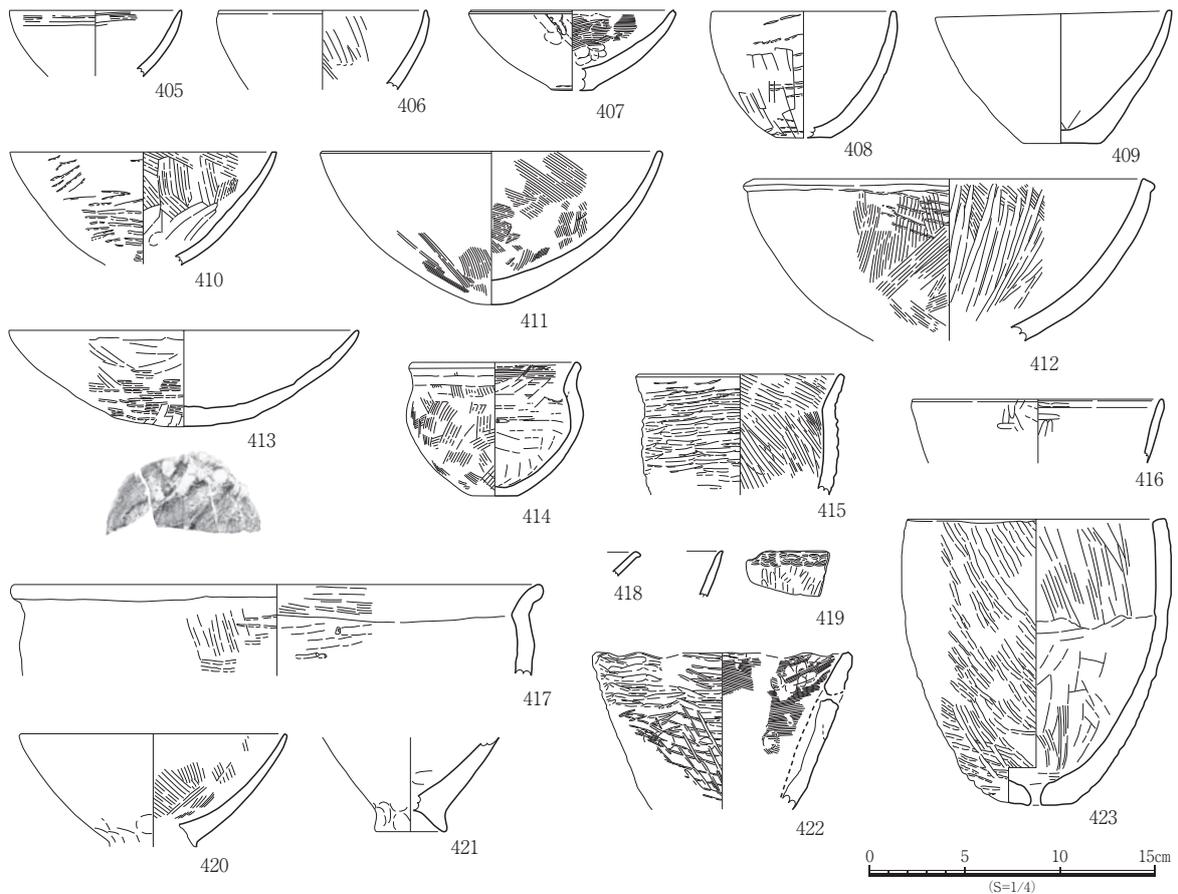


図57 5区 SX2 出土遺物実測図_5

合口縁壺である。一次口縁部の外面はハケ調整, 内面はナデ調整およびハケ調整を施す。二次口縁部の外面はナデ調整, 内面はナデ調整およびハケ調整を施す。379は複合口縁壺である。一次口縁部の外面はハケ調整, 内面はハケ調整後, ナデ調整を施す。二次口縁部は内外面ともヨコナデ調整を施す。二次口縁部は内傾し, 一次口縁部との境には比較的シャープな稜がめぐる。380は複合口縁壺である。二次口縁部は僅かに内傾し, 口唇部は丸くおさめる。一次口縁部は内外面ともハケ調整を施す。二次口縁部外面はハケ調整, 内面はヘラナデ調整である。一次口縁部と二次口縁部との境はヨコナデ調整により突出させる。381は複合口縁壺の二次口縁部である。口唇部には面取りを施し, 凹面状を呈する。外面にはヨコナデ調整, 内面にはヨコナデ調整および粗いハケ調整を施し, 一部はミガキ状を呈する。外面には5条1単位の櫛描直線文と5条1単位の櫛描波状文を描く。接合面で剥離している。382は小型の壺である。口縁部は直立気味にのびる。外面は粗いハケ調整後, ヘラミガキ調整を施す。内面は口縁部には粗いハケ調整, 体部にはケズリ調整およびナデ調整を施す。底部は丸底であり, 外底面はヘラケズリ調整あるいはヘラナデ調整を施す。383は壺である。外面はハケ調整後, ヘラミガキ調整を施す。内面はハケ調整後, ナデ調整か。頸部と体部の境には斜格子の刻目突帯を貼付する。384は壺である。体部は球形を呈する。体部外面には叩き調整後, ナデ調整を施し, 内面にはハケ調整を施す。底部は丸底であり, 外底面にはナデ調整を施す。また, 体部には焼成後穿孔か。385は壺である。底部はボタン状の突出した平底であり, 外底面にはヘラミガキ調整を施す。体部外面はミガキ調整, 内面はハケ調整である。386は壺である。体部外面には叩き調整後, ハケ調整を密に施す。内面にはハケ調整後, ナデ調整を施す。外面には植物質の圧痕が認められる。387は壺の頸部から肩部にかけての破片である。SX2の⑤区画の下層から出土した。⑤区画のST11・12部分は近世の溝(SD1・

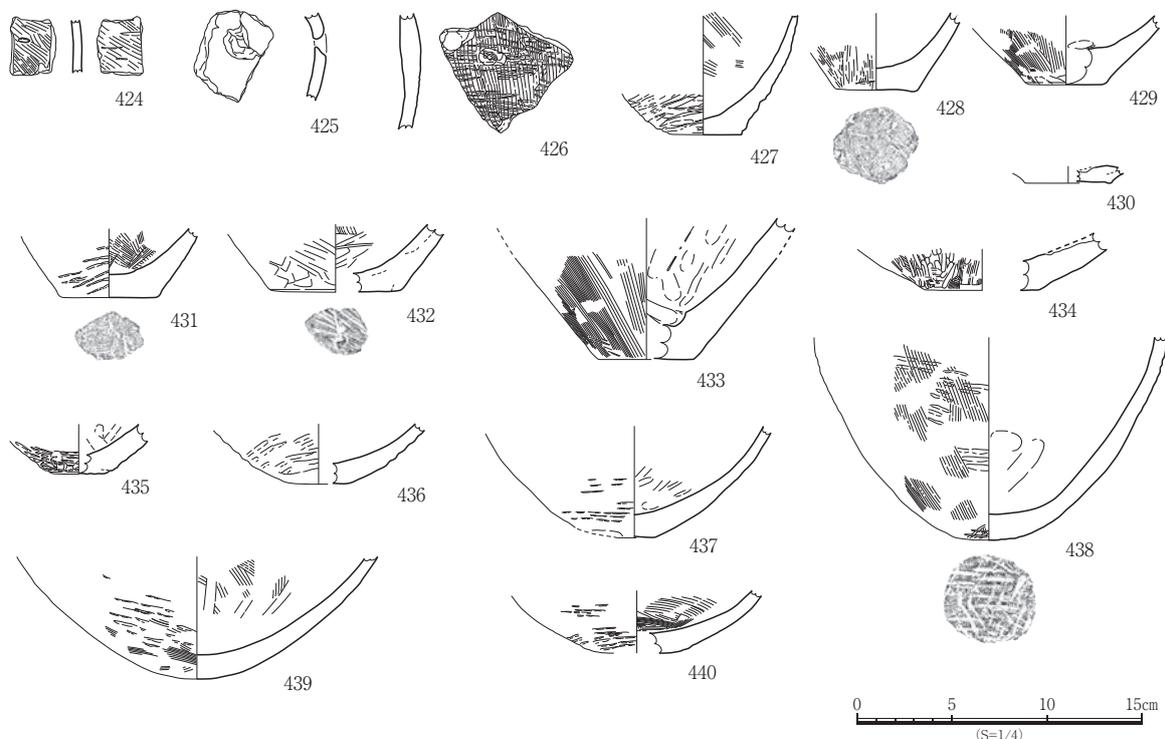


図58 5区 SX2 出土遺物実測図_6

2)として掘削している。したがって、ST8に帰属する可能性が高いものの、ST9の可能性もある。外面はやや摩耗し、調整は不明瞭である。ハケ調整、ナデ調整か。内面にはハケ調整後、ナデ調整を施す。外面には二文字の刻書が認められる。また、破断面も若干ローリングを受ける。388は壺の頸部から肩部にかけての破片である。SX2の検出時に出土した。検出時は、4mグリッドで遺物の取り上げを行った。ST8に帰属する可能性が高いものの、確定することは難しい。外面はタテハケ調整、内面には斜め方向のハケ調整を施す。頸部に刻書が認められる。389は大型壺である。頸部径は胴部径に比し、かなり小さい。体部は長胴形を呈する。外面は叩き調整後、ハケ調整を全面に施す。さらに上半部に縦方向のヘラミガキ調整を疎らに施す。内面はハケ調整を全面に施す。内外面ともハケ調整の方向は横方向にちかい斜め方向を基本とする。390は大型壺である。底部付近の破片と考えられる。外面は叩き調整後、ハケ調整およびナデ調整を施す。内面はハケ調整およびナデ調整を施す。

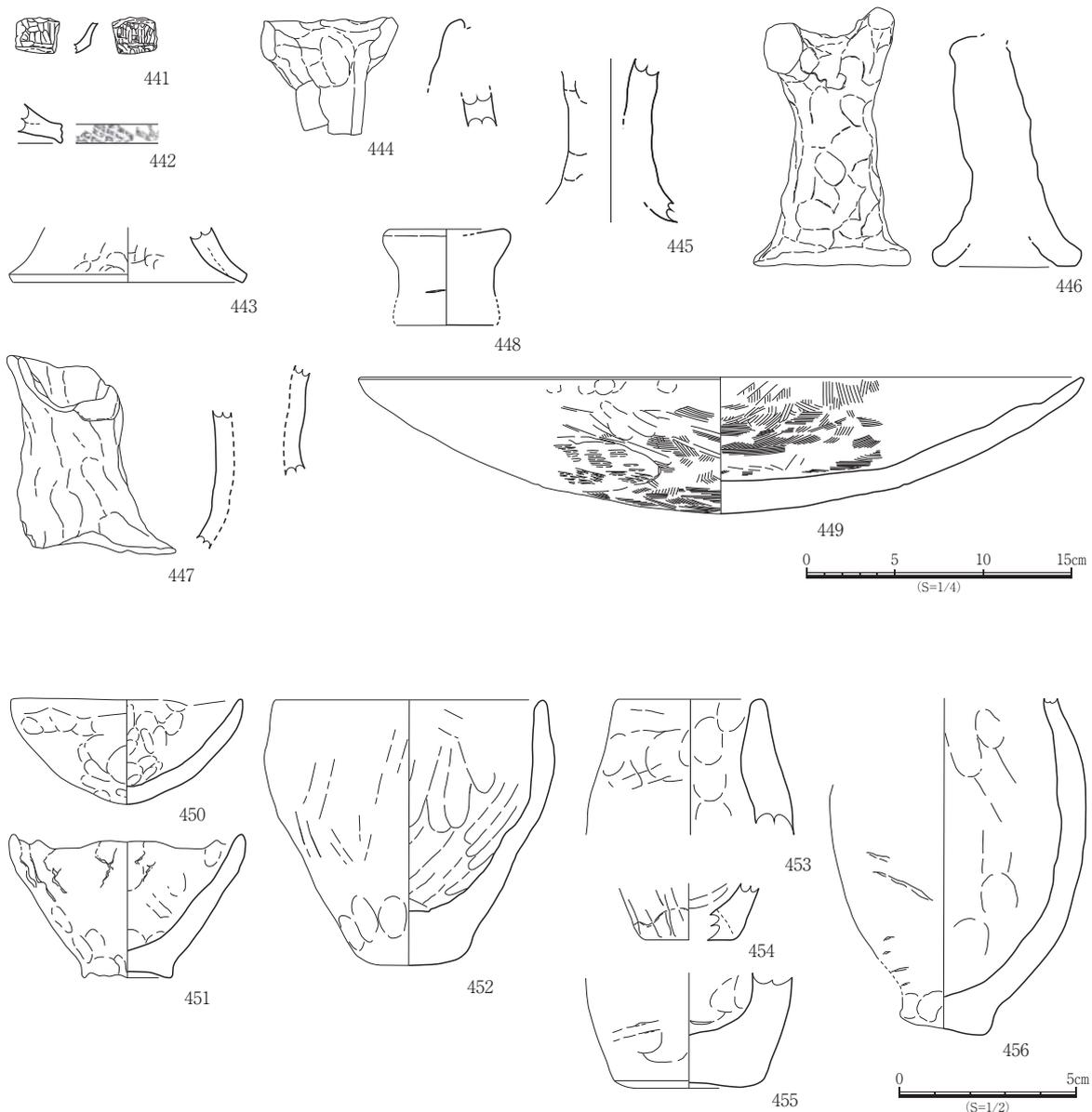


図59 5区 SX2 出土遺物実測図_7

391は凹線文系の甕である。口唇部は上方へ拡張させ、2条の凹線文をめぐらせる。内外面ともヨコナデ調整を施す。392は甕である。口縁部は緩やかな「く」の字状を呈し、口唇部はハケ状原体により面取りを施す。外面にはハケ調整、内面にはハケ調整およびナデ調整を施す。393は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部には面取りを施し、凹面状を呈する。口縁部外面にはヨコナデ調整を施す。

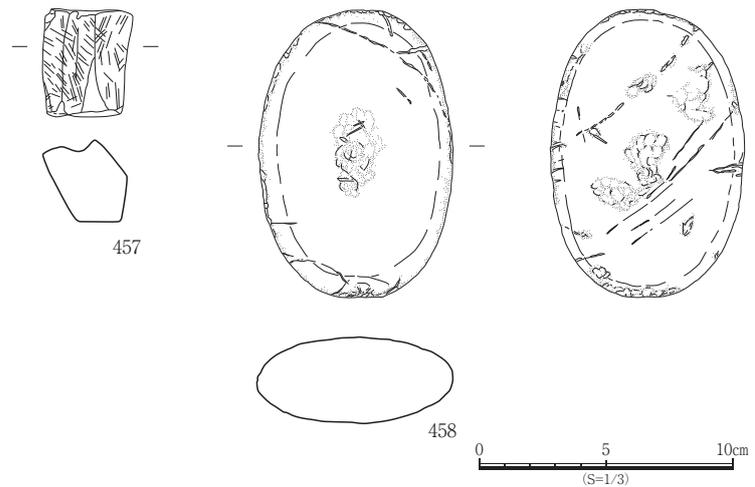


図60 5区 SX2 出土遺物実測図_8

内面はハケ調整を施す。体部外面には叩き調整後ハケ調整を施し、内面にはハケ調整を施す。全体的にシャープなつくりである。394は甕である。口縁部は水平近く屈曲し、口縁端部を摘み上げる。口縁部は内外面ともヨコナデ調整を施す。体部外面にはタテハケ調整、内面にはヘラケズリ調整か。395は甕である。口縁部は水平近く屈曲させる。内外面ともナデ調整を施す。外面にはハケメ状のものがみられる。396は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部は凹面状を呈する。口縁端部を摘み上げる。内外面ともヨコナデ調整を施す。397は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部には面取りを施す。口縁部外面は上胴部からの一連の叩き調整後、指頭により成形する。内面はハケ調整である。体部外面には叩き調整後、ナデ調整を施し、内面にはハケ調整を施す。398はSX2_P33から出土した甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部にはルーズな面取りを施す。外面は摩耗のため、調整等は不明瞭である。口縁部外面は叩き調整後、ナデ調整か。内面にはハケ調整を施す。399は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部には面取りを施す。口縁部外面には叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はヨコハケ調整である。体部外面はハケ調整である。内面にはヘラケズリ調整を施す。肩部外面に鋭い工具により焼成前に施されたと推測される3条の沈線がみられる。線刻か。400はSX2_P5から出土した甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部には面取りを施す。口縁部外面は上胴部からの一連の叩き調整後、指頭により成形する。内面はハケ調整である。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施し、内面はナデ調整を施す。401は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部を摘み上げる。口縁部外面はナデ調整、内面はハケ調整である。体部外面は叩き調整後、ハケ調整を施す。内面はハケ調整後ナデ調整を施す。底部は平らな部分が残る丸底であり、ナデ調整により丸底化を試みる。頸部外面に接合痕跡がみられる。402は甕である。口縁部は内外面ともヨコナデ調整を施す。内面にはナデ痕跡がみられる。体部外面はハケ調整、内面は頸部直下まで横方向のヘラケズリ調整を施す。搬入品か。403は甕である。体部は撫で肩を呈する。頸部と体部の境にはヨコナデ調整が1条入る。体部外面はタテハケ調整を施す。内面はナデ調整であり、指頭圧痕、しぼり目がみられる。胎土に金ウンモ片を含む。搬入品である。404は甕である。体部は長胴形を呈する。体部外面は叩き調整後、ハケ調整を施す。内面はハケ調整を施し、内底面にはナデ調整を施す。底部は角の取れた平底か。

405は鉢である。口縁部は内外面ともヨコナデ調整を施し、口唇部を尖らせシャープに仕上げる。体部は内外面ともナデ調整を施し、内面はミガキ状を呈する。406はSX2_P17から出土した鉢である。体部は内外面ともナデ調整を施す。口縁部外面は沈線状となる。407は鉢である。底部は角の取れた平底であり、僅かに段を持つ。外底面にはナデ調整を施す。体部外面はナデ調整、内面はハケ調整を施し、内底面にはナデ調整を施す。408は鉢である。底部は角の取れた平底であり、外底面にはナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面にはナデ調整を施す。409は鉢である。底部は角の取れた平底であり、外底面にはナデ調整を施す。内外面とも摩耗する。ナデ調整か。410は鉢である。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はハケ調整を施し、内底面付近にはナデ調整を施す。411はSX2_SD1から出土した鉢である。体部は半球形を呈し、口唇部は丸みを持つ。底部はほぼ丸底である。体部外面の上半部はナデ調整、下半部はハケ調整である。内面はハケ調整を施す。412は鉢である。口縁端部を摘み上げる。体部外面は叩き調整後、ハケ調整を施す。内面はハケ調整後、ヘラミガキ調整か。413はSX2_P5から出土した浅めの鉢である。口唇部は尖らせる。底部はほぼ丸底であり、強いナデ調整により丸底化を試みる。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面は荒れており、ハケ調整か。414は鉢である。体部は上胴部に最大径部を有し、口縁部は僅かに外反する。口縁部外面はヨコナデ調整、内面はハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後、ハケ調整、内面はナデ調整を施す。底部は平らな部分が残る丸底であり、外底面にはナデ調整を施す。415は鉢である。口縁部は僅かに外反し、口唇部にはルーズな面取りを施す。口縁部外面は上胴部からの一連の叩き調整後、指頭により成形する。内面はハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後、ナデ調整



図61 5区 SX2 出土遺物実測図_9

を施す。内面はハケ調整を施す。416はSX2_P6から出土した鉢である。口唇部は尖らせる。体部は内外面ともミガキ調整で仕上げる。417は大型の鉢である。口縁部を短く外反させ、口唇部には面取りを施す。口縁部外面はナデ調整、内面はハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後、ハケ調整を施す。内面はヘラケズリ調整である。418は鉢である。口縁端部を摘み出す。外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整を施す。419は鉢である。口唇部を尖らせる。外面はミガキ調整、内面はナデ調整である。口縁部外面には4～5条1単位の櫛描波状文を2段に配置する。420は脚付き鉢である。体部外面はナデ調整、内面はハケ調整を施す。脚部は接合面で剥離する。421は脚付き鉢である。脚部は指頭により短く作出し、あまりひらかない。外面はナデ調整を施す。内面はナデ調整およびヘラミガキ調整を施す。422はSX2_P6から出土した鉢である。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はヨコハケ調整後、ナデ調整を疎らに施す。口縁部からやや下がった位置に焼成前の穿孔がみられる。総じて雑な作りである。支脚の可能性はある。423は有孔土器である。器形は長胴形の甕の下半部と類似する。底部は角の取れた平底であり、外底面にはナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はハケ調整を施し、内底面付近にはナデ調整を施す。内面に接合痕跡がみられる。底部に焼成前に1穴穿孔が認められる。424は体部片である。外面は叩き調整後、ハケ調整、内面はハケ調整を施す。また、内面にはモミ圧痕が認められる。425は体部片である。内外面ともナデ調整か。焼成後、内面から穿孔か。426は体部片である。外面は叩き調整後、ハケ調整を施す。内面はナデ調整およびハケ調整を施す。外面にモミ圧痕が認められる。アワあるいはキビの圧痕もあるか。427はSX2_P24から出土した底部である。平底であり、外底面にはナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はハケ調整およびナデ調整を施す。428は底部である。平底であり、外底面にはハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後、ハケ調整を施す。内面はナデ調整である。429はSX2_P19から出土した底部である。平底であり、外底面にはナデ調整を施す。体部外面はハケ調整を施す。下地に叩き目か。内面はナデ調整である。430は底部である。角の取れた平底であり、外底面にはナデ調整を施す。体部は内外面ともナデ調整を施す。底部は焼成後の穿孔により破損か。431はSX2_P21から出土した底部である。平底であり、外底面にはハケ調整およびナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後、ナデ調整、内面はハケ調整を施す。432はSX2_SD1から出土した底部である。平底であり、外底面には粗いハケ調整を施す。体部外面はヘラナデ調整を施し、内面はハケ調整およびナデ調整を施す。433は底部である。平底であり、外底面にはナデ調整を施す。体部外面はハケ調整を密に施す。内面はナデ調整である。434は底部である。角の取れた平底であり、外底面にはハケ調整およびナデ調整を施す。体部外面はハケ調整後、ヘラミガキ調整を施す。内面はナデ調整か。内面には剥

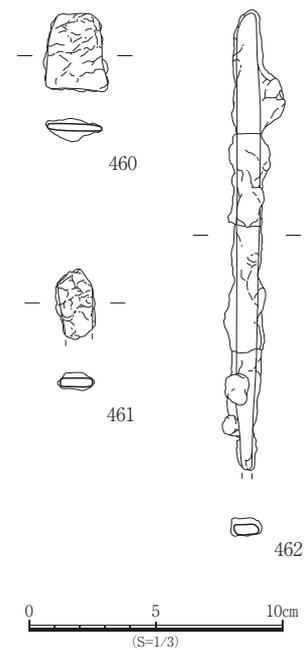


図62 5区 SX2
出土遺物実測図_10

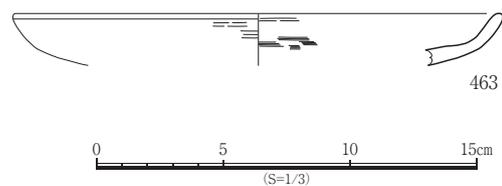


図63 5区 SX2 出土遺物実測図_11

離がみられる。435はSX2_P19から出土した底部である。角の取れた平底であり、外底面にはナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はナデ調整を施す。436はSX2_P40から出土した底部である。ほぼ丸底である。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はナデ調整を施す。437は底部である。指頭により丸底とする。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はミガキ調整か。438は底部である。平らな部分が残る丸底である。底端部に叩き調整、ハケ調整により丸底とする。体部外面は叩き調整後、ハケ調整を施す。内面はナデ調整である。内面にはおこげが付着

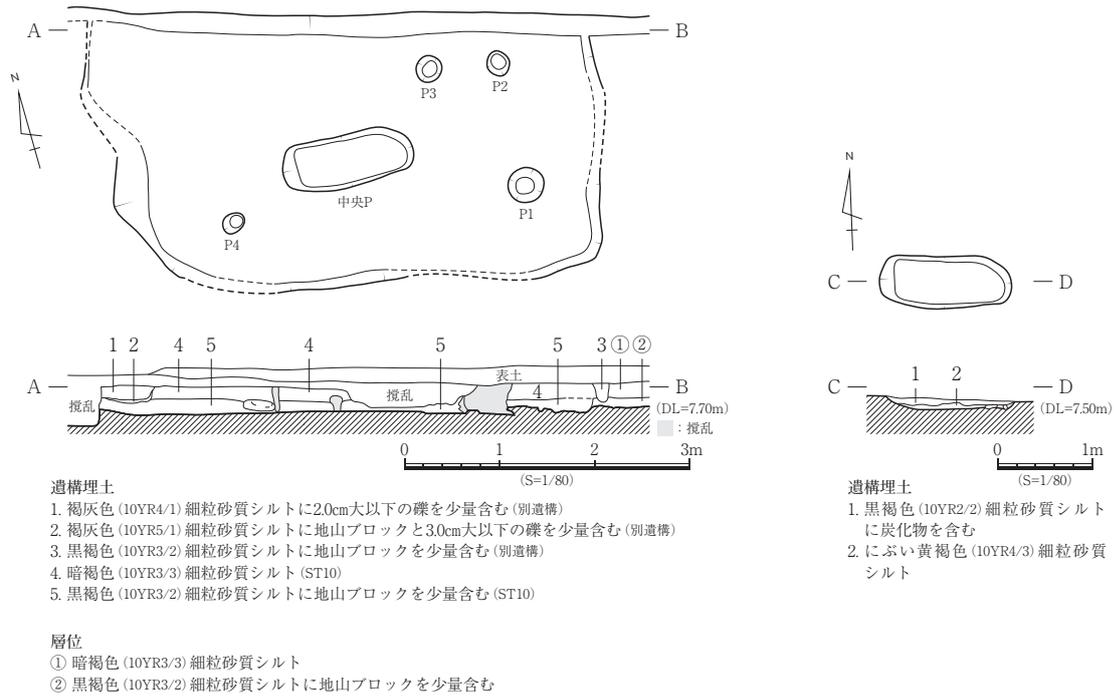


図64 5区 ST10 平面図・断面図

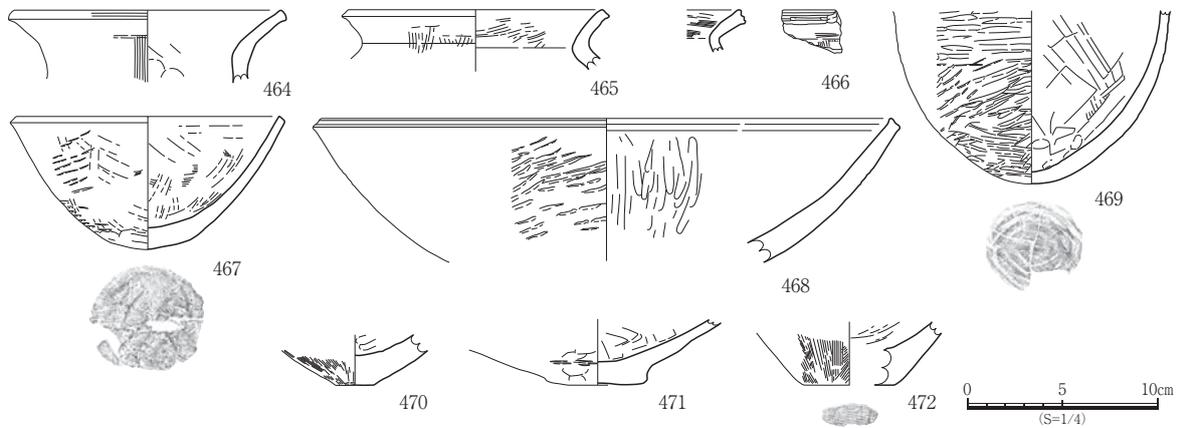


図65 5区 ST10 出土遺物実測図_1

する。439は底部である。ハケ調整により丸底とする。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はハケ調整後、ナデ調整を施す。440はSX2_P35から出土した底部である。底端部を押し潰して丸底とする。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はハケ調整を施す。

441は高杯である。口縁部は鈍い稜を持ち外反する。外面はハケ調整後、ヘラミガキ調整を施す。内面はヘラミガキ調整を施す。搬入品か。442は器台と考えられる。口縁端部には面取りを施し、斜格子文を描く。内外面ともヘラミガキ調整を施す。443はSX2_中央P1から出土した脚部である。裾部は「ハ」の字形にひらき、端部には面取りを施す。内外面ともナデ調整であり、内面にはしぼり目が

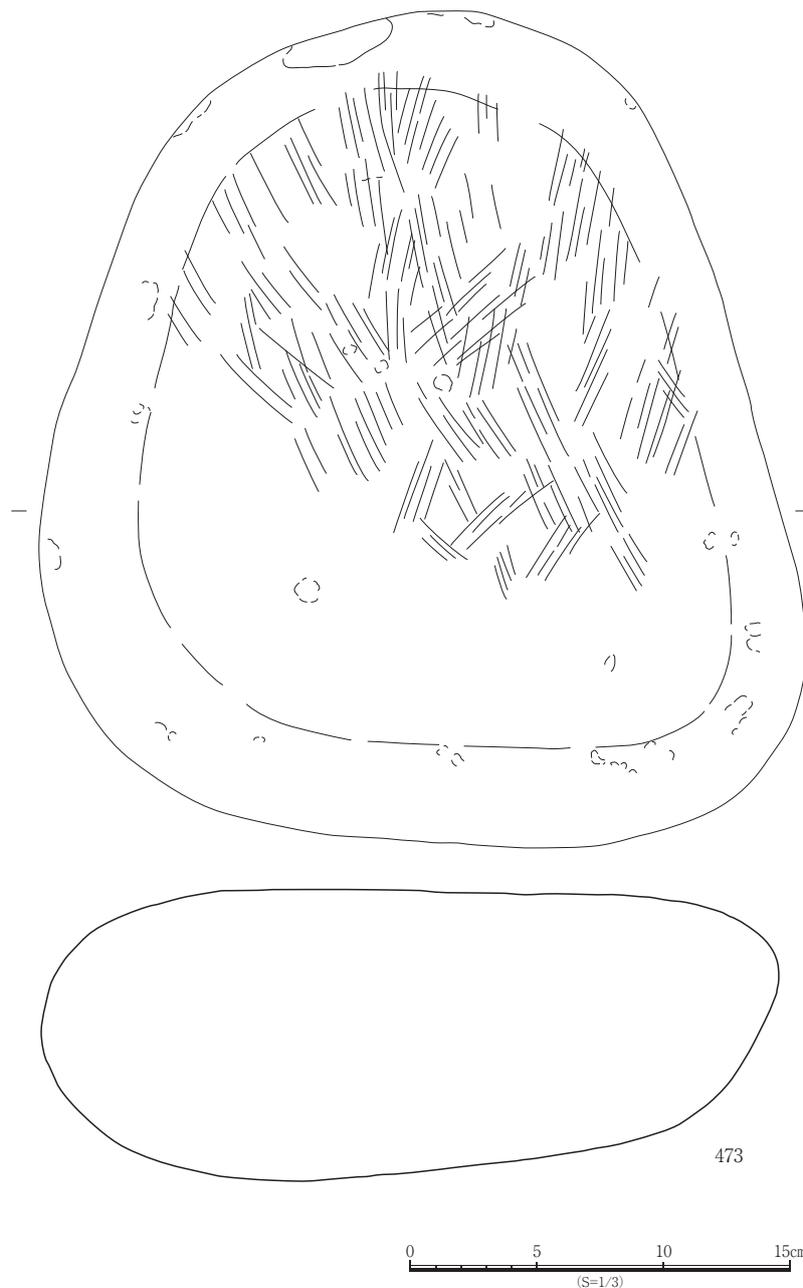
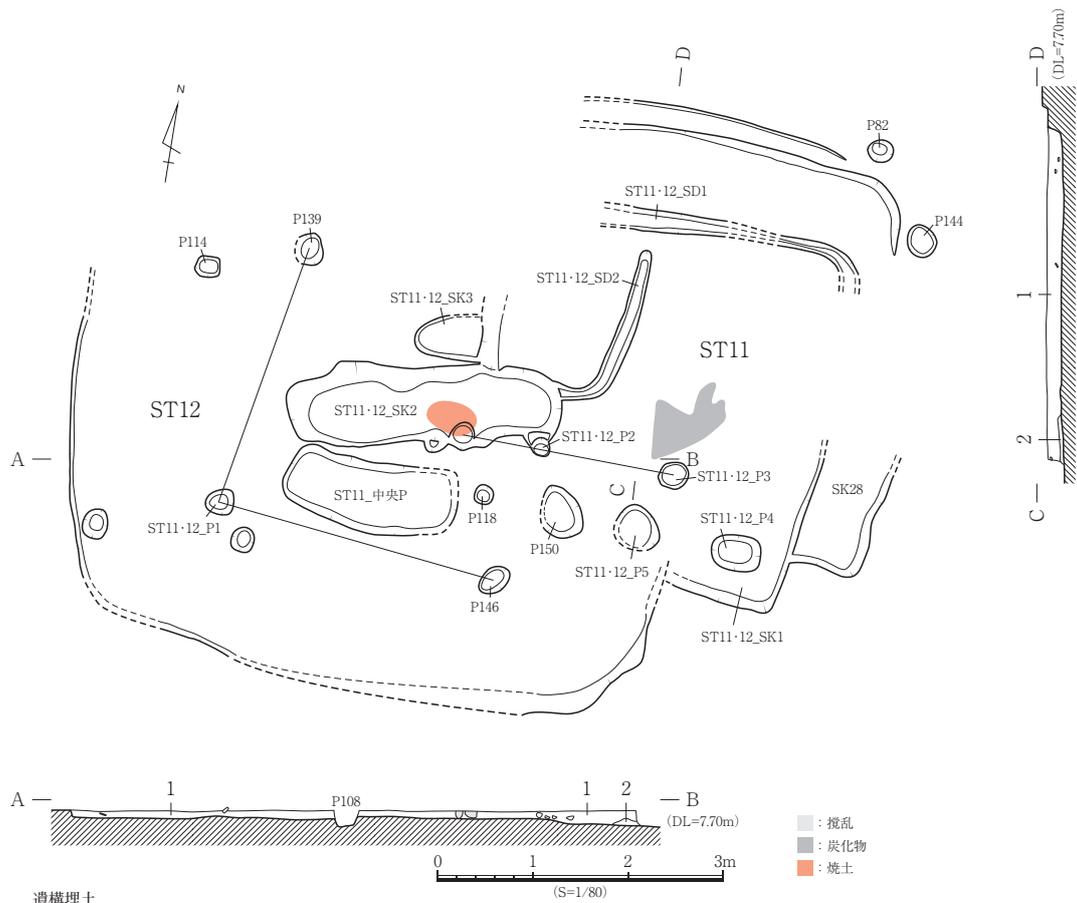
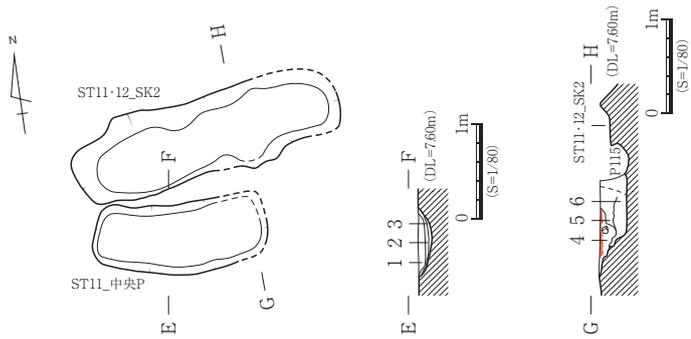


図66 5区 ST10 出土遺物実測図_2



遺構埋土

1. 黒褐色(10YR3/2) 細粒砂質シルトに地山ブロックと炭化物を少量含む
2. 黒色(10YR2/1) 細粒砂質シルトに炭化材と炭化物を多く含む



遺構埋土

1. 黒褐色(10YR3/2) 細粒砂質シルトに地山ブロックと炭化物を少量含む
2. 地山ブロックを少量含む炭化物層
3. におい黄褐色(10YR5/4) 細粒砂質シルトに礫を含む(地山か?)
4. 黒褐色(10YR3/1) 細粒砂質シルト・におい黄褐色(10YR4/3) 細粒砂質シルト・明黄褐色(10YR7/6) 細粒砂質シルト・黒色(10YR2/1) 細粒砂質シルトをブロック状に含む
5. におい黄褐色(10YR4/3) 細粒砂質シルト
6. 黒褐色(10YR3/2) 細粒砂質シルト

図67 5区 ST11・12 平面図・断面図

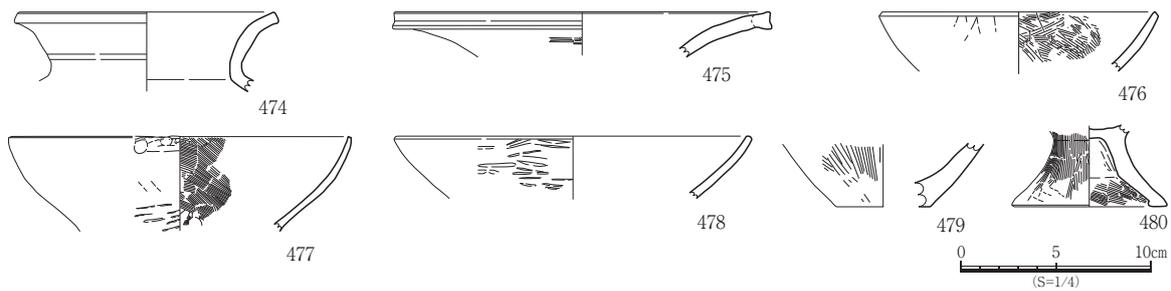


図68 5区 ST11 出土遺物実測図

みられる。支脚か。444はやや小型の支脚である。内外面ともナデ調整を施し、凹凸は少ない。2本の指で受け部とする。背部の摘みは剥離する。指の付け根まで中空であり、体部の断面形は楕円形を呈する。445はSX2_中央P1から出土した支脚である。内外面ともナデ調整を施し、凹凸は少ない。体部の断面形は円形を呈し、中空である。内面にはしぼり目がみられる。446は支脚である。僅かに前傾し、水平方向および垂直方向に僅かに捻れる。指頭により成形する。2本の指で受け部とする。背部の摘みは剥離する。体部は断面形が円形の筒をつくり、前後から圧力をかけ体部を成形するため断面形は楕円形となる。脚部は「ハ」の字形にひらき、上からの圧で接地面はひろくなる。被熱により変色している部分がある。447は支脚である。指頭により成形し、ナデ調整により凹凸がみられる。体部の断面形は楕円形を呈し、中空である。上端部を大きくひらき、受け部とする。裾部は「ハ」の字形にひらく。被熱により変色している部分がある。448は器高の低いタイプの支脚である。指頭により成形する。中実の円柱状を呈する。上面は僅かに凹み、僅かに傾斜する。449は壺のパーツか。扁平な皿状を呈し、端部は厚さを減じ、尖らせる。外面は叩き調整後、ハケ調整およびヘラミガキ調整を施す。接合面で剥離した面にも叩き目がみられる。内面はハケ調整で、段差がみられる。341と類似し、土器製作途上のものか。450はミニチュア土器である。鉢形土器をモデルとする。手捏ね成形である。451はミニチュア土器である。鉢形土器をモデルとする。手捏ね成形である。452はミニチュア土器である。鉢形土器をモデルとする。手捏ね成形である。453はミニチュア土器である。口縁部にむかってすぼまる。外面は叩き調整後、指頭により成形する。内面はナデ調整を施す。454はミニチュア土器である。底部は角の取れた平底である。内外面ともナデ調整である。455はSX2_中央P1から出土したミニチュア土器か。底部は角の取れた平底であり、外底面は未調整にちかい。外面は叩き調整後、ナデ調整か。内面はナデ調整を施す。器壁は厚い。456はミニチュア土器である。壺形土器をモデルとする。体部は長胴形を

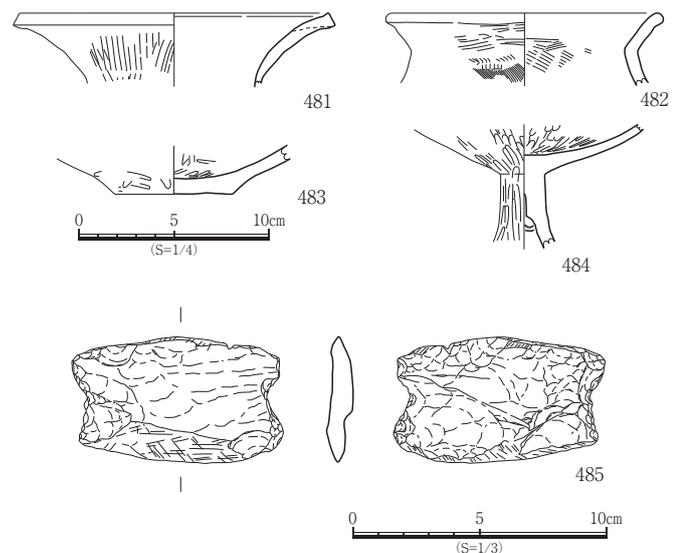


図69 5区 ST12 出土遺物実測図

呈し、底部は直立部を持った平底であり、僅かに上げ底となる。外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はナデ調整を施す。

457はSX2_P29から出土した泥岩製の砥石である。断面形は五角形を呈する。上下は欠損する。断面形が「U」の字状を呈する使用痕跡も認められる。全体的に使い込まれている。458は砂岩製の叩石である。扁平な自然石を利用する。周囲と両面の中央部を使用し、特に上端部と下端部を使用する。赤色顔料が付着か。459は砂岩製の台石である。厚みのある不整形の自然石を利用する。中央部を中心に砥石として使用し、赤色顔料の付着がみられる。被熱により破損する。460は小型の鉄斧である。平面形は刃部が最大幅の台形を呈する。断面形は扁平な長方形を呈する。462は鉈である。断面形は扁平な長方形を呈する。残存率は良好である。463は皿である。口縁部は内外面ともヨコナデ調整を施し、外面の一部はミガキ状を呈する。底部外面はナデ調整、内面はハケ調整である。弥生土器の鉢か。

ST10

ST10は調査区北東部で検出した竪穴建物跡であり、北半分は調査区外である。攪乱、SK7、SD1・2に切られる。一辺約5.20mの隅丸方形を呈していたと考えられる。床面積は約27.0㎡である。主軸方向はN-13°-Eである。検出面からの深さは約20cmであり、埋土は上層と下層に分層でき、上層は暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルト、下層は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。床面では中央ピツ

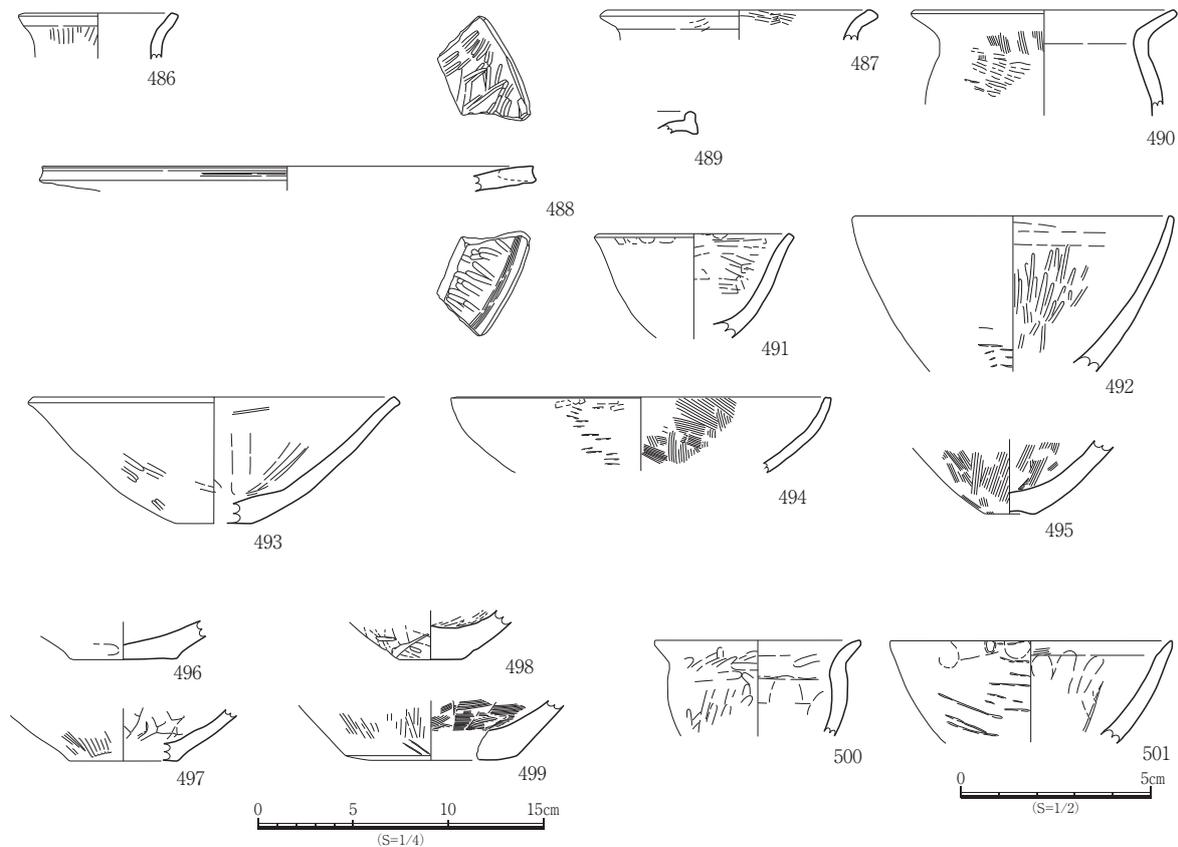
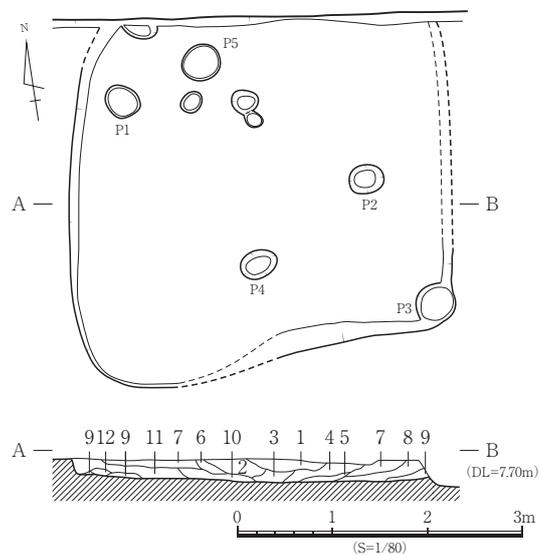


図70 5区 ST11・12 出土遺物実測図

ト、支柱穴(ST10_P1・4)を検出した。中央ピットは床面中央南寄りに位置する。長軸約1.36m、短軸約0.58mの長楕円形を呈し、床面からの深さは約12cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト、にぶい黄褐色(10YR4/3)細粒砂質シルトである。ピットを4基検出したが、規模・配置からST10_P1・4が支柱穴である。ST10_P1は直径32cmの円形で床面からの深さは約25cmを測る。

図示した出土遺物は、弥生土器の壺(464)・甕(465・466)・鉢(467・468)・底部(469～472)、台石(473)である。

464は壺である。直立した頸部から口縁部は外反させ、口唇部にはハケ状原体により面取りを施す。内面は摩耗のため、調整等は不明である。口縁部外面はヨコナデ調整、頸部外面はハケ調整を施す。465は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部には面取りを施す。口縁部外面はヨコナデ調整、内面はハケ調整後、ナデ調整を施す。体部外面はヨコナデ調整、内面はナデ調整である。466は凹線文系の甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部には2条の凹線文を施す。外面はナデ調整およびハケ調整、内面はハケ調整を施す。467は鉢である。体部は半球形を呈する。口唇部には面取りを施す。底部はハケ調整により丸底とする。体部外面は叩き調整後、ナデ調整、内面はハケ調整後、ヘラミガキ調整を施す。468は大型の鉢である。体部は深めの皿状を呈する。口唇部を摘み上げ、摘み出し、凹面状を呈する。体部外面は叩き調整後、ナデ調整、内面はヘラミガキ調整を施す。469は底部である。丸底である。体部外面は叩き調整後、ナデ調整、内面はヘラナデ調整およびナデ調整を施す。470は底部である。平底であり、外底面にはナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後、ハケ調整を施し、内面はナデ調整を施す。471は底部である。突出した平底であり、片側を押し潰す。外底面はナデ調整であり、中央部は僅かに凹む。体部外面は叩き調整後、ナデ調整、内面はヘラナデ調整を施す。472は底部である。角の取れた平底であり、外底面にはハケ調整を施す。体部外面はハケ調整、内面はナデ調整である。473は砂岩製の台石である。扁平な河原石を利用する。使用により平滑となっている部分があるものの、使用頻度は低い。



遺構埋土

1. 暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトににぶい黄褐色(10YR4/3)細粒砂質シルトと炭化物を少量含む
2. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトに暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトを含みにぶい黄褐色(10YR4/3)細粒砂質シルトのブロックを少量含む
3. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに炭化物を含む
4. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトににぶい黄褐色(10YR4/3)細粒砂質シルトを少量含む
5. 黒褐色(10YR3/2)極細粒砂質シルト
6. 黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトに炭化物を含む
7. 暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトににぶい黄褐色(10YR4/3)細粒砂質シルトを少量含む
8. 暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトに0.3cm大のにぶい黄褐色(10YR4/3)細粒砂質シルトを含む
9. 暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトににぶい黄褐色(10YR4/3)細粒砂質シルトを含む
10. 黒色(10YR2/1)極細粒砂質シルトににぶい黄褐色(10YR4/3)細粒砂質シルトのブロックを少量含む
11. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに0.3cm大のにぶい黄褐色(10YR4/3)細粒砂質シルトを含む
12. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトににぶい黄褐色(10YR4/3)細粒砂質シルトを少量含む

ST11

ST11とST12は調査区中央部で検出した竪穴建物跡であり、両遺構は重複しサブトレンチの断面観察や検出時に各STの平面形、

図71 5区 ST13 平面図・断面図

先後関係を把握できなかった。そのため床面で検出した遺構についてはST11と12で分けずに遺構名を付して調査を行った。

ST11は平面形が一辺5.00～6.00mの隅丸方形を呈する竪穴建物跡と考えられる。床面積は約24.2㎡である。主軸方向はN-9°-Eである。4周にベッド状遺構が巡っていた可能性がある。中央ピットはSD1・2によって壊されている可能性がある。位置的に中央ピットがあったと推測される部分に炭化物のひろがりを検出している。支柱穴は判然としないもののST11・12_P3等があげられる。ST11・12_SD1は規模・方向からST11に伴うならば間仕切りの小溝と考えられる。

図示した出土遺物は、弥生土器の壺(474・475)・鉢(476～478)・底部(479)・脚部(480)である。

474は壺である。口縁部を外反させ、口唇部には面取りを施す。内外面とも摩耗する。ナデ調整か。475は壺である。口縁部は大きくひらき、口唇部を摘み上げ、摘み出し、凹面状を呈する。外面はミガキ調整を施す。内面は摩耗のため調整等は不明である。476は鉢である。体部外面はナデ調整、内面はハケ調整である。477は鉢である。体部は外上方へのび、口縁部付近で直立気味に傾きを変える。体部外面の下半部は叩き調整後ナデ調整を施す。内面はハケ調整を密に施す。外面の調整の違いと傾きの変化が対応する。478は鉢である。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はナデ調整か。479は底部である。平底であり、外底面にはナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後、ハケ調整を施し、

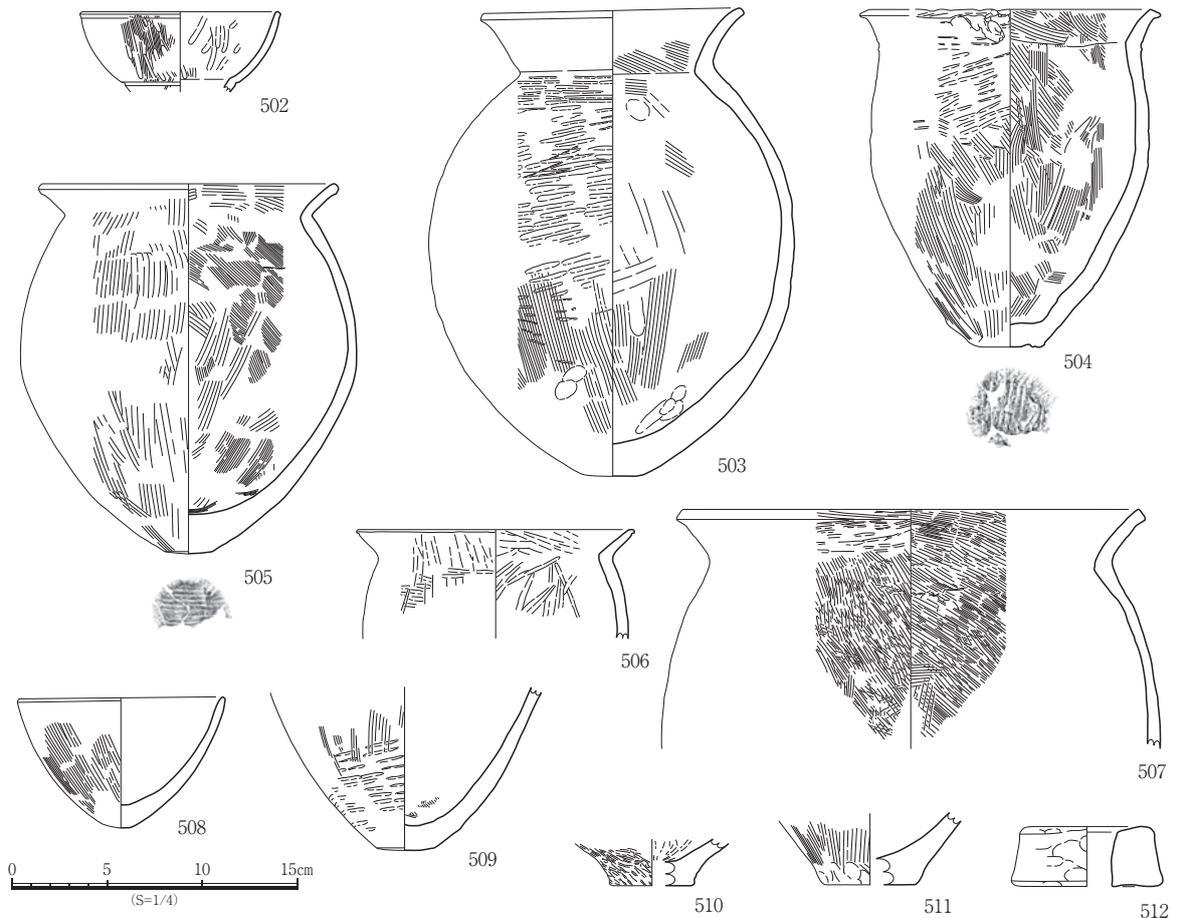


図72 5区 ST13 出土遺物実測図_1

内面はナデ調整を施す。480は脚部である。「ハ」の字形にひらく。上からの圧により端部は押し潰れ、接地面はひろくなる。外面はハケ調整後、ナデ調整を施す。内面の脚部はナデ調整、裾部はハケ調整を施す。杯部は接合面で剥離する。

ST12

ST12は平面形が一辺約6.15mの隅丸方形を呈する竪穴建物跡と考えられる。床面積は約37.8㎡である。主軸方向はN-20°-Wである。ST11_中央P, ST11・12_P1, P139, P146 他が支柱穴と考えられる。北東部の支柱穴は検出できていないが、4本柱で上屋を支える構造であったと推測される。ST11_中央Pは中央ピットであり、床面中央部のやや南寄りに位置する。埋土に炭化物層がみられる。

図示した出土遺物は、弥生土器の壺(481)・甕(482)・底部(483)・高杯(484), 石包丁(485)である。

481は壺である。口縁部は大きくひらき、口唇部には面取りを施し、凹面状を呈する。口縁部は内外面ともヨコナデ調整で仕上げる。頸部外面は粗いタテハケ調整を2段に施す。内面はヨコナデ調整である。482は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部は丸くおさめる。口縁部外面はヘラナデ調整、内面はナデ調整を施す。体部は内外面ともハケ調整を施す。483は底部である。平底であり、外底面にはヘラケズリ調整あるいは強いナデ調整を施す。底端部は比較的鋭い稜となる。体部外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整およびヘラミガキ調整を施す。484は高杯である。杯部は内外面とも放射状のヘラミガキ調整を密に施す。脚部は中実で細い。外面はヘラミガキ調整を密に施す。脚柱部の外面はヘラミガキ調整を密に施し、内面はヘラケズリ調整およびナデ調整を施す。485は頁岩製の打製石包丁である。両面とも主要剥離面を残す。両端部には紐掛け用の抉りを入れる。背部には刃潰しがみられる。両刃で刃部を磨き、使用部分にはコーングロスが付着する。ステップ剥離がみられる。ほぼ完存である。

以下にはST11あるいはST12に帰属する遺物を図示した。486はST11・12_中央Pから出土した弥生土器の壺である。直立した頸部から口縁部は僅かに外反する。口縁部は内外面ともヨコナデ調整である。頸部外面は粗いタテハケ調整、内面はナデ調整を施す。487はST11・12_SK1から出土した弥生土器の甕である。口唇部にはハケ状原体により面取りを施す。外面は叩き調整後、指頭により成形する。内面はハケ調整を施す。488は弥生土器の壺である。口縁部は水平ちかくひろがり、ハケ状原体による面取りを施し、凹面状を呈する。口縁部外面はハケ調整後、ヘラミガキ調整を施し、内面はヘラミガキ調整を施す。口縁端部は内外面ともヨコナデ調整を施す。シャープなつくりである。489はST11・12_中央Pから出土した弥生土器の甕である。口縁部を上方へ拡張する。内外面ともヨコナデ調整を施す。490は弥生土器の甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部は丸くおさめる。口縁部外面はタテハケ調整を施し、端部付近はヨコナデ調整で仕上げる。内面はヨコナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施し、内面はナデ調整を施す。491は弥生土器の鉢である。体

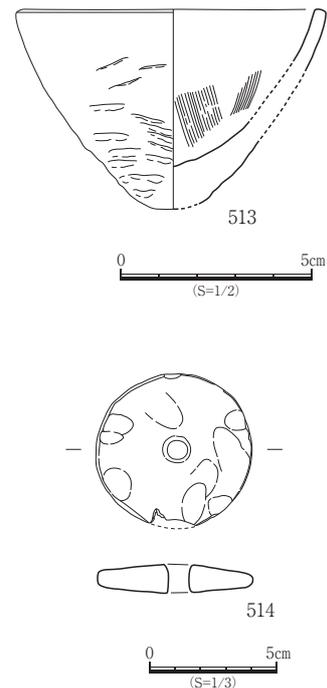
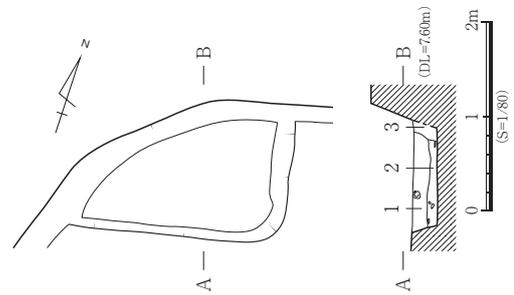


図73 5区 ST13
出土遺物実測図_2

部は内外面ともナデ調整を施す。内底面には白色から銀色の付着物が認められる。492はST11・12_P2から出土した弥生土器の鉢である。体部外面は荒れる。叩き調整後、ナデ調整か。内面の口縁部付近はナデ調整、体部はヘラミガキ調整を施す。493は弥生土器の鉢である。口縁部は大きく直線的にひらき、口唇部には面取りを施す。底部は角の取れた平底であり、外底面にはナデ調整を施し、内底面には指頭圧痕がみられる。体部は内外面ともナデ調整を施す。494は弥生土器の鉢である。口唇部には面取りを施す。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施し、内面はハケ調整を施す。495は弥生土器の底部である。僅かに上げ底であり、外底面にはナデ調整を施す。体部は内外面ともハケ調整を施す。内底面には指頭圧痕が認められる。496は弥生土器の底部である。角の取れた平底であり、外底面にはナデ調整を施す。体部は内外面ともナデ調整を施す。497はST11・12_中央Pから出土した弥生土器の底部である。角の取れた平底であり、外底面にはナデ調整を施す。体部外面は粗いタテハケ調整を施し、内面はヘラケズリ調整を施す。498は弥生土器の底部である。角の取れた平底であり、外底面にはナデ調整を施す。体部は内外面ともナデ調整を施す。499は弥生土器の底部である。角の取れた平底であり、外底面にはナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後、粗いハケ調整およびナデ調整を施す。内面はハケ調整である。底部は接合面で剥離する。500はミニチュア土器である。鉢形土器をモデルとする。外面はミガキ調整を施し、内面はナデ調整およびミガキ調整を施す。501はST11・12_SK1から出土したミニチュア土器である。鉢形土器をモデルとする。



遺構埋土

1. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト
2. 黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトに炭化物を少量含む
3. 暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトに地山ブロックと炭化物を少量含む

図74 5区 ST14 平面図・断面図

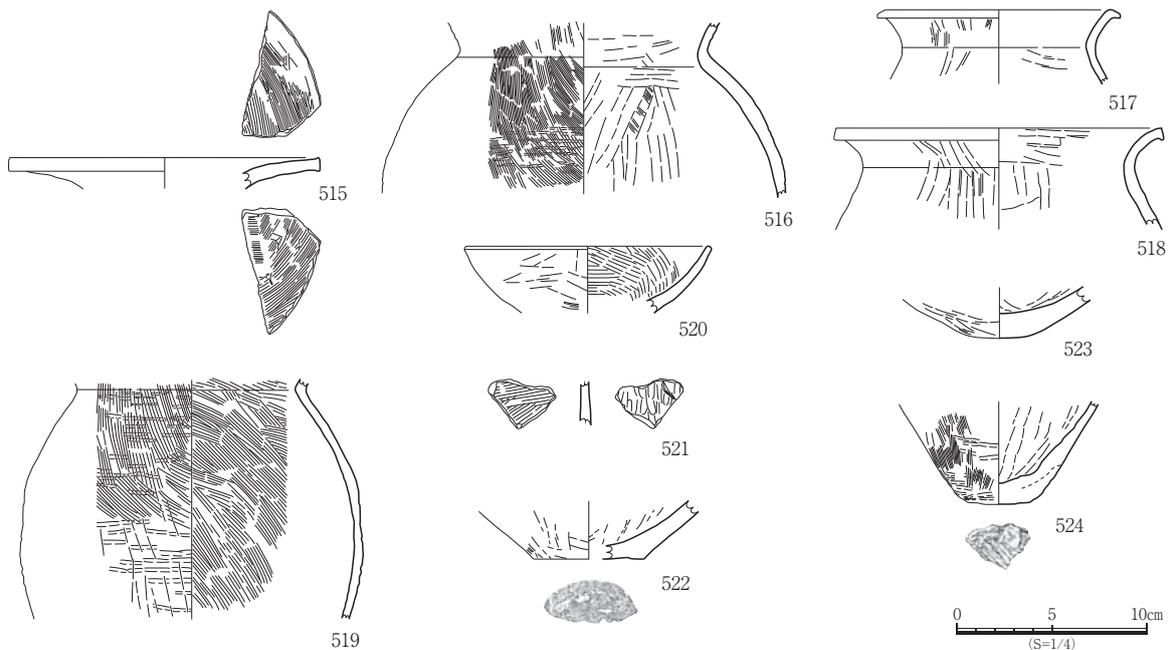


図75 5区 ST14 出土遺物実測図

外面は叩き調整後、ナデ調整を施し、内面はナデ調整を施す。

ST13

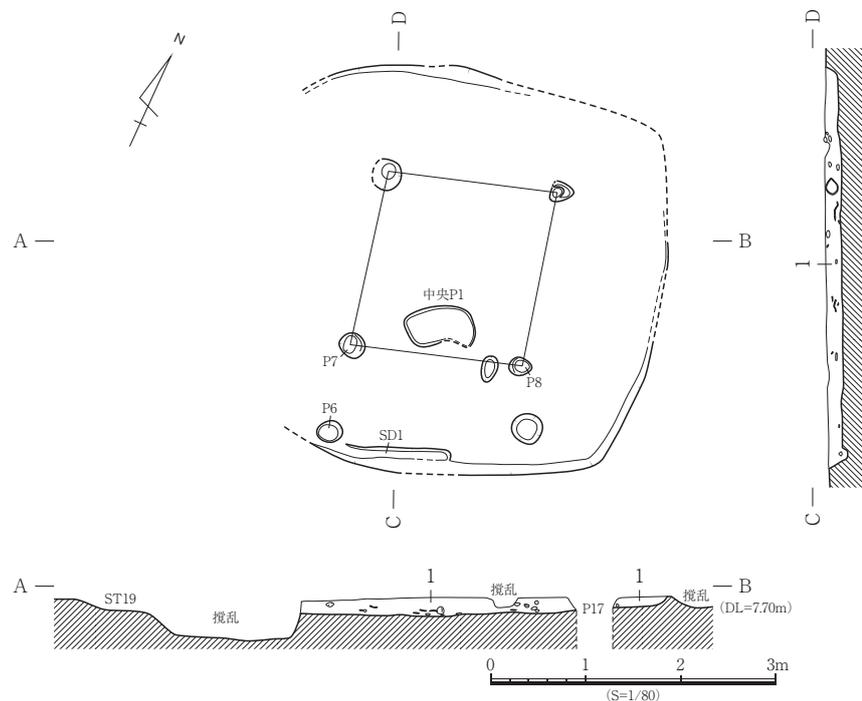
ST13は調査区中央部北で検出した平面形が隅丸方形の竪穴建物跡であり、調査区外へひろがる。P16・34、攪乱に切られる。一辺約4.00mを測り、床面積は約16.0㎡である。主軸方向はN-14° -Eである。

図示した出土遺物は、弥生土器の壺(502)・甕(503~507)・鉢(508)・底部(509~511)、支脚(512)、ミニチュア土器(513)、土製紡錘車(514)である。

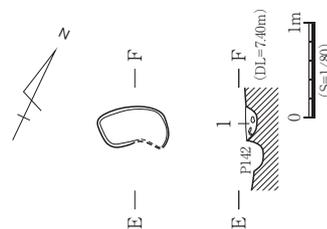
502はST13_P1から出土した壺である。口縁部は内湾し、口唇部は丸くおさめる。口縁部外面はタテハケ調整後、縦方向のミガキ調整を施す。内面は縦方向のヘラミガキ調整を施す。口縁部と頸部の境にヘラ描き沈線が

1条めぐる。503は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部にはルーズな面取りを施す。口縁部はやや長めである。口縁部外面はナデ調整、内面はヨコハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後、下半部にタテハケ調整を加える。内面はハケ調整およびナデ調整を施す。外面のハケ調整の範囲と内面の調整の変化は対応する。底部は平らな部分が残る丸底であり、

外底面にはナデ調整を施す。504は甕である。口縁部は緩やかな「く」の字状を呈し、口唇部は指頭で摘みながら成形する。口縁部外面は叩き調整後、ナデ調整を施し、内面はハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後、ナデ調整およびハケ調



遺構埋土
1. 暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトに炭化物と5.0~10.0cm大の礫を少量含み20.0cm大の礫を極少量含む



遺構埋土
1. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルト

図76 5区 ST15 平面図・断面図

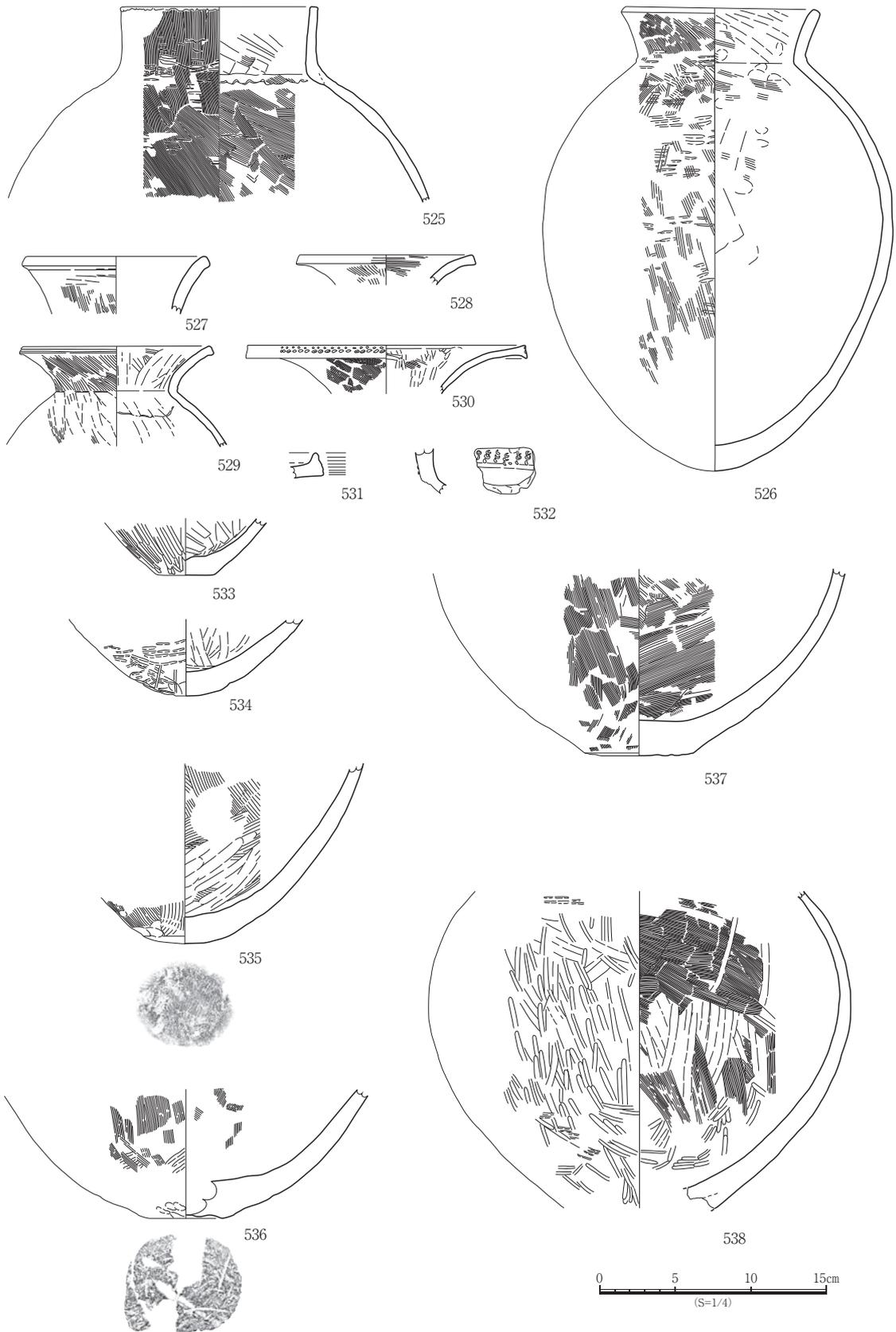


图77 5区 ST15 出土遺物実測図_1

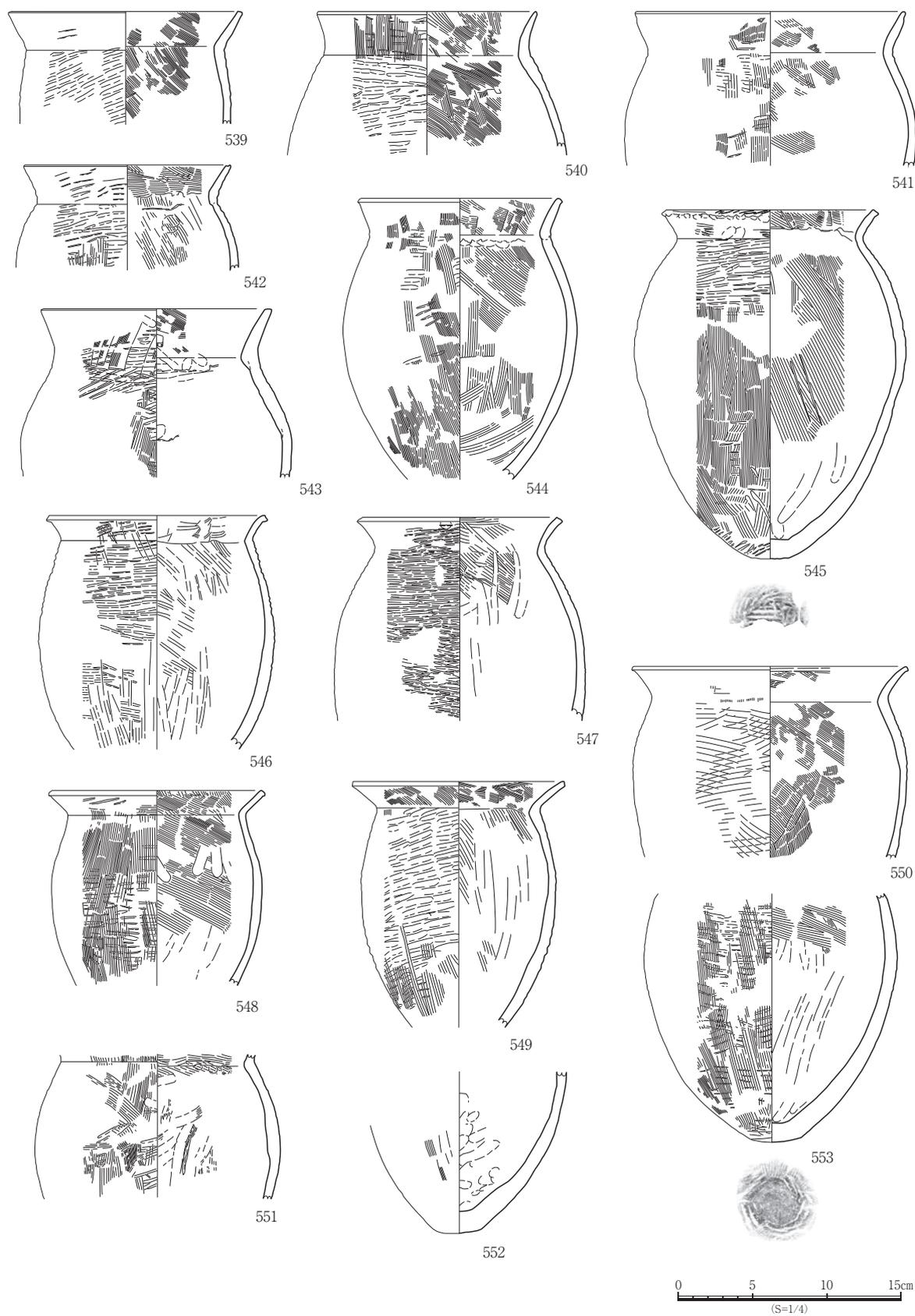


图78 5区 ST15 出土遺物実測図_2

整を施す。内面はハケ調整を施す。底部は角の取れた平底であり、外底面には叩き目がみられる。505は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部にはルーズな面取りを施す。口縁部外面は粗いタテハケ調整後、ナデ調整を施す。内面はハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後、粗いハケ調整を密に施す。内面はハケ調整およびナデ調整を施す。底部は平底で厚く、外底面には叩き目がみられる。506は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口縁部外面は上胴部からの一連の叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はヘラナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はヘラナデ調整を施す。507は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部はハケ状原体により面取りを施す。口縁部外面は上胴部からの一連の叩き調整後、指頭により成形する。内面はハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後、ハケ調整を施す。内面はハケ調整を施す。肩部内面には接合痕跡がみられる。508は鉢である。底部は丸底である。内外面とも摩耗のため、調整等は不明である。体部外面はハケ調整を施す。搬入品か。509は底部である。角の取れた平底であり、外底面にはナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後、ハケ調整を施し、底部付近はナデ調整を施す。内外面とも摩耗する。510は底部である。平底であり、外底面にはナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はナデ調整であり、内底面に指頭圧痕がみられる。511は底部である。平底であり、底部と腰部の境に弱い傾斜変換点を持つ。外底面にはナデ調整を施す。体部外面は粗いタテハケ調整を施す。内面はナデ調整を施す。512は器高の低いタイプの支脚である。中心の孔は貫通する。ナデ調整で仕上げる。被熱により変色する。513はミニチュア土器である。鉢形土器をモデルとする。外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はナデ調整およびハケ調整を施す。底部は尖り気味の丸底である。514は紡錘車である。平面形は円形、断面形は扁平な三角形を呈する。縁辺には面取りを施す。中央には直径約1.0cmの円孔を穿つ。ナデ調整で仕上げる。

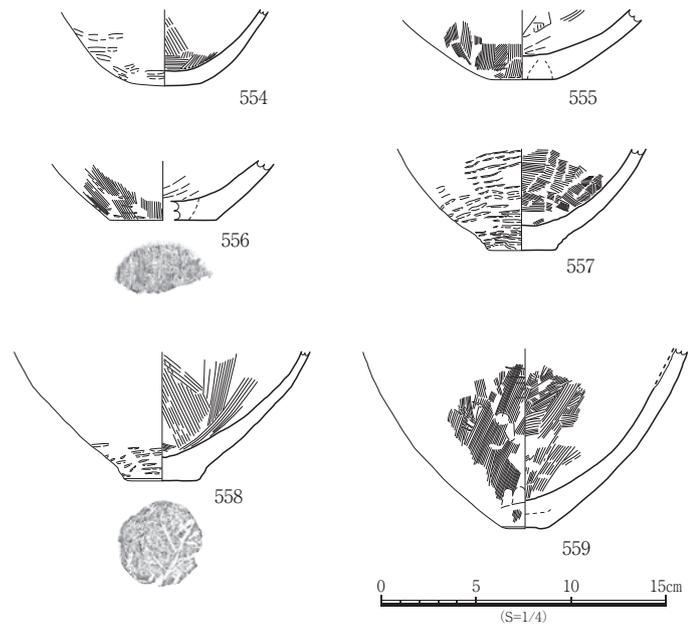


図79 5区 ST15 出土遺物実測図_3

ST14

ST14は調査区北西部で検出した平面形が隅丸方形の竪穴建物跡と推測され、大部分は調査区外へひろがる。規模は不明である。主軸方向はN-10°-Wである。

図示した出土遺物は、弥生土器の壺(515・516)・甕(517～519)・鉢(520)・体部片(521)・底部(522～524)である。

515は壺である。口縁部は大きくひろがり、口唇部には面取りを施す。内外面ともハケ調整を施す。516は壺である。頸部外面はハケ調整、内面はヘラナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後、ハケ調

整を施す。内面はハケ調整後、ナデ調整を施す。内面には接合痕跡がみられる。517は甕である。口縁部は緩やかな「く」の字状を呈し、口唇部には面取りを施す。内外面とも摩耗のため調整等は不明瞭である。口縁部外面はハケ調整か、内面はナデ調整か。体部外面はハケ調整か、内面はナデ調整か。518は甕である。口縁部は緩やかな「く」の字状を呈し、口唇部には面取りを施す。口縁部は内外面ともヘラナデ調整を施す。体部外面はヘラナデ調整、内面はナデ調整である。519は甕である。外面は叩き調整後、上半部には粗いハケ調整、下半部にはヘラナデ調整を施す。ハケメは上半部に多い。内面はハケ調整を施す。520は鉢である。器形は丸みを持った皿状を呈する。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はハケ調整を施す。521は体部片である。外面はミガキ調整、内面はハケ調整である。外面に線刻か。522は底部である。僅かに上げ底となり、外底面にはハケ調整を施す。底端部は稜が立つ。体部外面はハケ調整およびナデ調整を施し、内面はヘラナデ調整を施す。523は底部である。ほぼ丸底である。体部は内外面ともヘラナデ調整である。524は底部である。角の取れた平底であり、外底面には叩き目がみられる。体部外面は叩き調整後、ハケ調整を施す。内面はヘラナデ調整を施す。

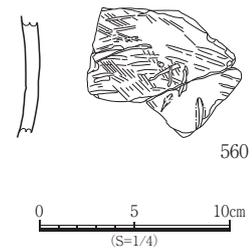


図80 5区 ST15
出土遺物実測図_4

ST15

ST15・19は調査区西部で検出した竪穴建物跡であり、両遺構は重複しサブトレンチの断面観察や検出時に各STの平面形、先後関係を把握できなかった。

ST15は攪乱、P17・18に切られる。平面形は一辺約4.36mの隅丸方形を呈すると考えられ、床面積は約19.0㎡と推測される。検出面からの深さは約14cmを測り、埋土は暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトである。主軸方向は、N-20°-Wである。床面では中央ピット、支柱穴(ST15_P7・8他)、壁溝(ST15_SD1)を検出した。中央ピットは床面中央やや南寄りに位置する。長軸約0.70m、短軸約0.39mの隅丸長方形を呈する。床面からの深さは約11cmであり、埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。支柱穴は対角線上の4基のピット(ST15_P7・8他)が該当する。南辺で壁溝(ST15_SD1)を検出した。幅約25cm、床面からの深さ約4cmを測る。

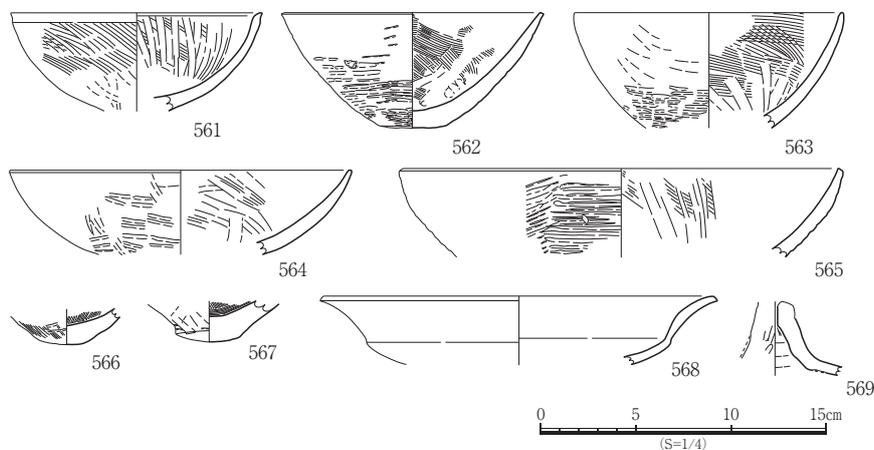


図81 5区 ST15 出土遺物実測図_5

図示した出土遺物は、弥生土器の壺(525～538)・甕(539～553)・底部(554～559)・体部片(560)・鉢(561～567)・高杯(568・569)である。

525は壺である。口縁部は直立し、口唇部には面取りを施す。口縁部外面は叩き調整後、ハケ調整を施し、内面はハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後、ハケ調整を施し、内面はハケ調整を施す。肩部内面には接合痕跡が認められる。526は壺である。口縁部は短く外上方へのび、口唇部には面取りを施す。端部を僅かに摘み上げる。口縁部外面は叩き調整後、ハケ調整を施し、内面はヘラナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後、ハケ調整およびナデ調整を施す。内面はハケ調整およびナデ調整を施す。底部はナデ調整により丸底とする。527は壺である。口縁部は緩やかに外反させ、口唇部は丸みを持つ。口縁部は内外面ともヨコナデ調整を施す。頸部外面はハケ調整、内面はナデ調整を施す。528は壺である。口縁部は大きくひらき、口唇部はハケ状原体により面取りを施す。口縁部は内外面ともヨコナデ調整を施す。頸部は内外面ともハケ調整を施す。529は壺である。口縁部は長めの「く」の字状を呈し、口唇部はハケ状原体により面取りを施す。口縁部外面はハケ調整、内面はハケ調整後、ナデ調整を施す。また、口縁端部はヨコナデ調整で仕上げる。体部外面はヘラナデ調整、内面はナデ調整を施す。肩部内面には接合痕跡がみられる。530は壺である。口縁部は大きくひらき、口唇部には面取りを施し、僅かに拡張する。口縁端部はヨコナデ調整で仕上げる。口唇部には2段の刺突文を施す。口縁部外面は斜め方向のハケ調整、内面にはハケ調整後ミガキ調整を施す。器壁はうすくシャープなつくりである。531は壺である。口唇部を上方へ拡張させ、4条の凹線文を施す。摩耗のため調整等は不明である。532は壺である。3段の竹管文を施す。摩耗のため、調整等は不明である。接合面で剥離する。533は壺の底部である。平底であり、外底面にはナデ調整を施す。底端部には鈍い稜がめぐる。体部外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整を施す。内底面には指頭圧痕がみられる。534は壺の底部である。丸底である。外底面には植物質の圧痕がみられる。体部外面は叩き調整後、ナデ調整、内面はナデ調整を施す。535は壺の底部である。ほぼ丸底であり、外底面にはハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後、タテハケ調整を施す。内面はハケ調整を施し、底部付近はナデ調整を施す。536は壺の底部である。丸底であり、外底面には叩き目がみられる。体部外面は叩き調整後、ハケ調整を施す。底部付近はナデ調整を施す。内面はハケ調整およびナデ調整を施す。537は壺の底部である。角の取れた平底であり、外底面には弱いハケ調整を施す。体部は内外面ともハケ調整を施す。538は壺である。体部は球形を呈する。外面は叩き調整後、ハケ調整を施し、さらにミガキ調整を施す。内面はハケ調整後、ナデ調整を施し、一部はミガキ状を呈する。底部は接合面で剥離する。

539は甕である。口縁部は緩やかな「く」の字状を呈し、口唇部には面取りを施す。口縁部外面は上胴部からの一連の叩き調整後、指頭により成形する。内面はハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はハケ調整を施す。540は甕である。口縁部は緩やかな「く」の字状を呈する。口縁部外面は上胴部からの一連の叩き調整後、ハケ調整を施す。内面はハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施し、内面はハケ調整を施す。肩部内面には接合痕跡が認められる。541は甕である。口縁部は緩やかな「く」の字状を呈する。口縁部外面は上胴部からの一連の叩き調整後、ハケ調整を施す。内面はハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後、タテハケ調整を施す。内面は斜め方向のハケ調整を施す。542は甕である。口縁部は「く」の字状を呈する。口縁部外面は上胴部からの一連の叩き調整後、指頭により成形する。内面はハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後、タテハケ調整を施し、内面はハケ調整を施す。肩部内面には口縁部を付加した接合痕跡がみられる。543は甕

である。口縁部は緩やかな「く」の字状を呈し、口唇部には面取りを施す。口縁部外面は上胴部からの一連の叩き調整後、タテハケ調整を施す。内面はハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後、ハケ調整およびナデ調整を施す。内面はナデ調整および弱いタテハケ調整を施す。頸部内面には口縁部を付加した接合痕跡がみられる。肩部内面にも接合痕跡がみられる。幅約5cmの粘土帯を使用か。544は甕である。口縁部は「く」の字状を呈する。口縁部外面は上胴部からの一連の叩き調整後、タテハケ調整を施す。内面はハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後、ハケ調整を施し、内面はハケ調整を施す。頸部内面には口縁部を付加した接合痕跡がみられる。545は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部はハケ状原体により面取りを施す。口縁部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後、ハケ調整を施す。底部付近にはナデ調整を施す。内面はハケ調整を施し、底部付近はナデ調整を施す。底部はほぼ丸底であり、外底面には叩き目がみられる。頸部内面には口縁部を付加した接合痕跡がみられる。黒斑が認められる。被熱により変色および煤が付着し、内底部にはおこげが付着する。546は甕である。口縁部は「く」の字状を呈する。口縁部外面は上胴部からの一連の叩き調整後、指頭により成形する。内面はハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後、上半部はナデ調整、下半部には粗いハケ調整を施す。内面の上半部はハケ調整、下半部はナデ調整を施す。547は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部には面取りを施す。口縁部外面は上胴部からの一連の叩き調整後、指頭により成形する。内面は斜め方向の粗いハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を疎らに施す。内面はハケ調整後ナデ調整を施す。白吹き痕跡が認められる。548は甕である。口縁部は「く」の字状を呈する。口縁部外面は上胴部からの一連の叩き調整後、ナデ調整を比較的密に施す。内面はハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後、ハケ調整を施す。内面の上半部はハケ調整、下半部はナデ調整を施す。549は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部にはルーズな面取りを施す。口縁部は内外面ともハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後、下半部にタテハケ調整を施す。内面はハケ調整後、ナデ調整を施す。550は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部にはヨコナデ調整を施す。口縁部外面は叩き調整後、タテハケ調整、さらにヨコナデ調整で仕上げる。内面はハケ調整

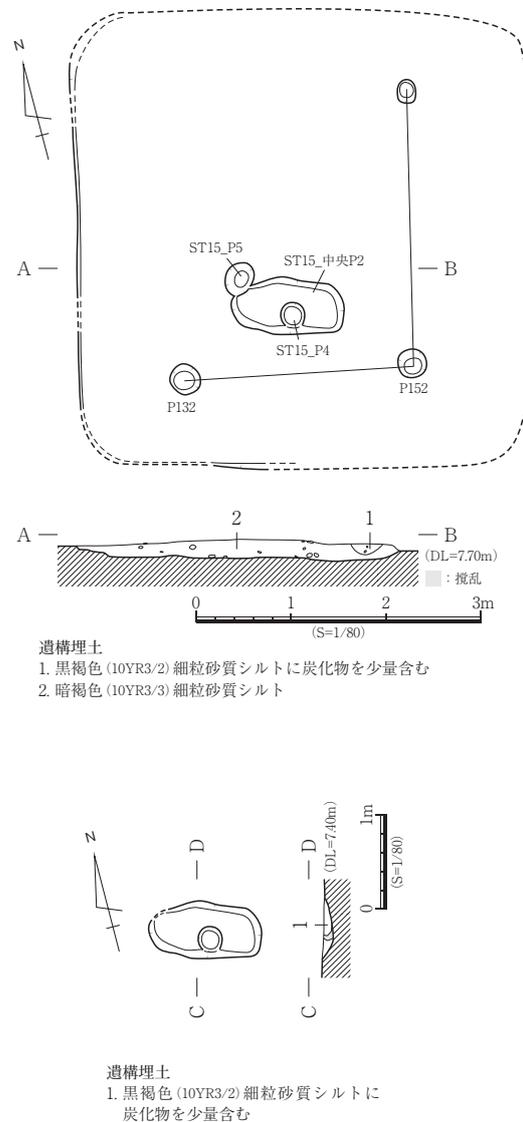


図82 5区 ST19 平面図・断面図

後、ヨコナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はハケ調整を施す。上胴部外面には白吹き痕跡がみられる。551は甕である。体部外面は叩き調整後、ハケ調整およびナデ調整を施す。内面はハケ調整およびナデ調整を施し、肩部内面までヘラケズリ調整を施す。552は甕の底部である。丸みを持った平底であり、外底面にはナデ調整を施す。体部外面にはハケ調整およびナデ調整を施す。内面はナデ調整である。553は甕である。底部は平らな部分が残る丸底であり、外底面は叩き調整後、ナデ調整を施す。周縁に潰れた叩き目がみられる。体部外面は叩き調整後、ハケ調整を施す。内面の上半部はハケ調整、下半部はナデ調整を施す。554は底部である。平らな部分が残る丸底であり、ナデ調整により丸底化を試みる。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施し、内面はハケ調整を施す。555は底部である。角の取れた平底であり、外底面にはナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後、ハケ調整を施す。内面はハケ調整およびナデ調整を施す。556は底部である。平底であり、外底面にはハケ調整およびナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後、ハケ調整を施す。内面はナデ調整か。557は底部である。平底であり、外底面はナデ調整を施すか、あるいは上から押し付けたか。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はヨコハケ調整を施し、内底面付近にはナデ調整を施す。558は底部である。平底であり、外底面には葉脈痕がみられる。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施し、内面にはハケ調整を施す。559は底部である。角の取れた平底であり、外底面には凹凸がみられる。ナデ調整か、未調整にちかい。体部外面は叩き調整後、ハケ調整を施す。内面はハケ調整およびナデ調整を施す。560は体部片である。外面は叩き調整後、ハケ調整を施す。内面はハケ調整である。内外面とも若干摩耗する。また、外面には線刻か。561は鉢である。体部は半球形を呈し、口唇部を摘み出し、ヨコナデ調整で仕上げる。体部外面の上半部は粗いハケ調整を施し、下半部はナデ調整を施す。内面はハケ調整後、ミガキ調整を施す。562は鉢である。体部は内湾気味に立ち上がる。底部は強いナデ調整により丸底化を試みる。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はハケ調整で、内底面にはナデ調整を施す。563は鉢である。体部は半球形を呈する。外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はハケ調整を施し、下半部にはナデ調整を施す。564は鉢である。やや深めの皿状を呈する。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はハケ調整を施す。565は鉢である。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はハケ調整後、ヘラミガキ調整を施す。566は鉢の底部である。丸底であり、外底面は叩き目か。体部外面は叩き調整後、ハケ調整を施す。内面はハケ調整である。567は鉢の底部である。腰部に屈曲部を持つ。丸底か。外底面にはナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はハケ調整である。568は高杯である。杯部から口縁部は大きく外反する。全体的に摩耗し、調整等は不明瞭である。569は高杯である。脚部外面はミガキ調整、内面はナデ調整であり、しぼり目がみられる。杯部は接合面で剥離する。

ST19

ST19は西辺のみ検出した。中央ピットと西辺との位置関係から平面形は一辺約4.70mの隅丸方形を呈するものと考えられる。床面積は約22.0㎡である。主軸方向はN-16°-Eである。床面では中央ピット(ST15_中央P2)、支柱穴を検出した。中央ピットは床面中央やや南寄りに位置する。長軸約1.20m、短軸約0.60mの隅丸長方形を呈する。床面からの深さは約8cmであり、埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。P132・152は規模・配置から支柱穴と考えられる。対角線上に支柱穴を配置す

るパターンと推測される。

図示した出土遺物はない。

SX3

SX3は、複数の遺構(ST11・12・13等)が重複しており、検出時にそれぞれの平面プランを確定することはできなかったため、SX3として調査を進めた。各遺構の平面形等が確定した段階で新たに遺構番号を付した。

図示した出土遺物は、弥生土器の壺(570・573)・甕(572・574)・把手付広片口皿(571)・鉢(575～579)・底部(580～583), 土師質土器の焙烙(584)である。

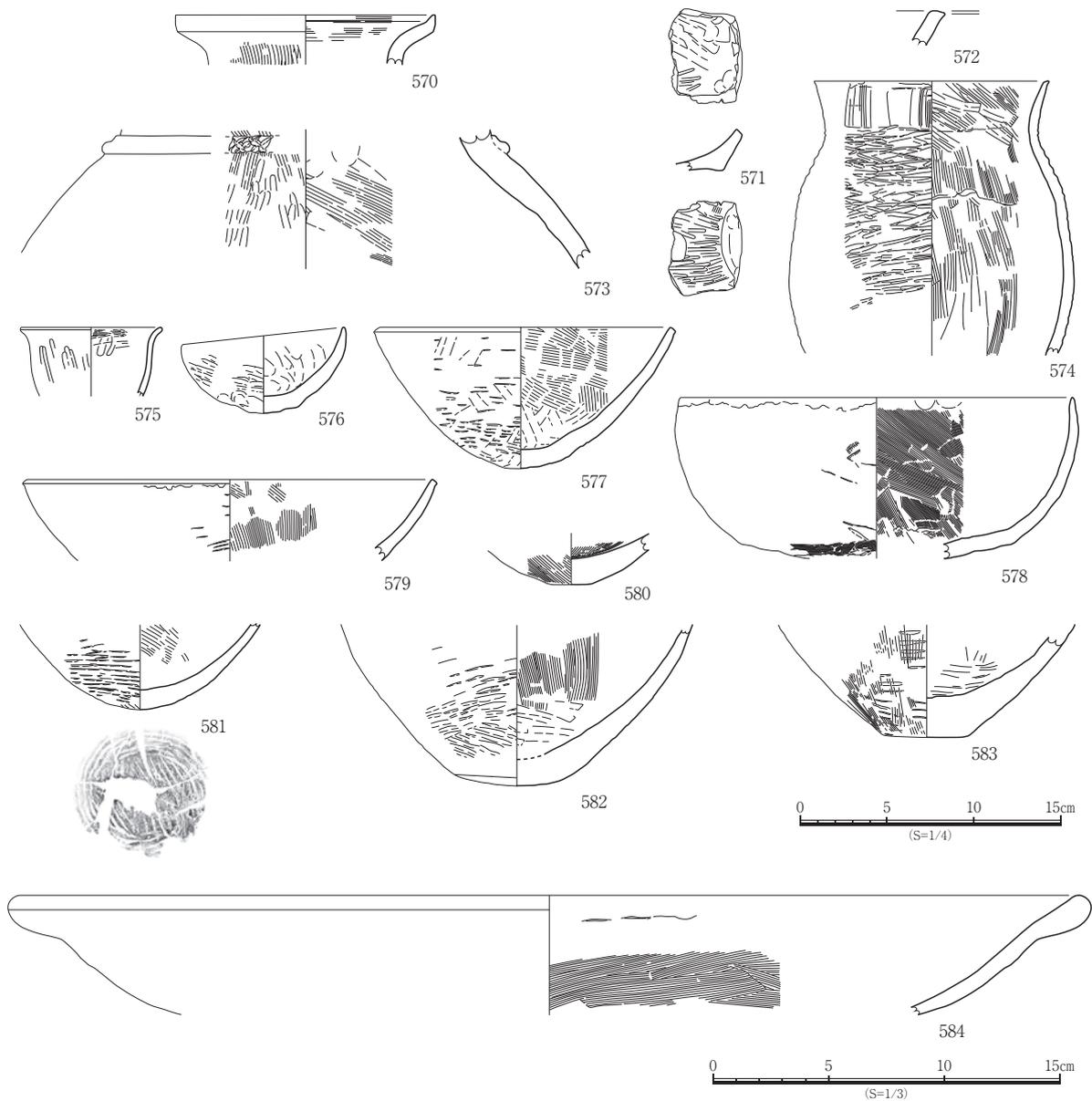


図83 5区 SX3 出土遺物実測図

570は壺である。口縁部は受け口状を呈する。口縁部外面はヨコナデ調整を施す。頸部外面はやや粗いハケ調整を施し、内面はハケ調整後、ナデ調整を施す。571は把手付広片口皿である。甕形土器の底部を縦方向に切断したような器形を呈し、切断面を指頭により調整する。体部外面はヘラミガキ調整を施し、内面はナデ調整およびヘラミガキ調整を施す。赤色顔料等の付着は認められない。572は甕である。口縁端部を僅かに摘み出す。内外面ともヨコナデ調整を施す。573は壺である。体部外面はタテハケ調整後、縦方向のヘラミガキ調整を施す。頸部と胴部の境には斜格子の刻目を施した扁平な突帯を貼り付ける。574は甕である。口縁部は緩やかな「く」の字状を呈し、口唇部には面取りを施す。口縁部外面は上胴部からの一連の叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はハケ調整を施す。上胴部内面に接合痕跡がみられる。575は鉢である。口縁部を外反させ、外面はヨコナデ調整、内面はヨコハケ調整を施す。体部外面は縦方向のミガキ調整を施し、内面はナデ調整を施し、平滑となる。器壁はうすい。576は鉢である。底部は丸底であり、体部外面は叩き調整が施され、指頭圧痕が認められる。内面はナデ調整であり、内底面には指頭圧痕がみられる。577は鉢である。体部は半球形を呈する。底部はナデ調整により丸底とする。口唇部には面取りを施す。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はハケ調整を施し、内底面付近はハケ調整後ナデ調整を施す。578は鉢である。平らな底部から体部は直立気味に立ち上がり、口縁端部はナデ調整により仕上げる。外底面はハケ調整および強いナデ調整を施す。体部外面はナデ調整、内面はハケ調整を施す。内底面にはハケ調整後、ナデ調整を施す。胎土も器形も珍しい。579は鉢である。口唇部にはルーズな面取りを施す。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はハケ調整を施し、口縁端部はナデ調整で仕上げる。580は底部である。外底面はナデ調整を施す。ナデ調整およびハケ調整により丸底とする。体部外面は叩き調整後、粗いハケ調整を施す。内面はハケ調整である。581は底部である。丸底であり、外底面には叩き目がみられる。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面は粗いハケ調整を施し、内底面にはナデ調整を施す。582は底部である。平らな部分が残る丸底であり、ナデ調整により丸底化を試みる。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はハケ調整を施し、内底面付近にはナデ調整を施す。583は底部である。角が取れた平底であり、外底面はナデ調整により平滑となる。体部外面は叩き調整後ハケ調整を施し、内面はナデ調整を施す。584は焙烙である。口縁部は内外面ともロクロ成形で仕上げる。体部外面はナデ調整を施し、凹凸がみられる。内面は粗いヨコハケ調整を施す。外面には煤が付着する。

2.SB

SB1 (付図8)

SB1は調査区中央部で検出した桁行7間(約20.58m)、梁行2間(約5.88m)の東西棟の掘立柱建物跡であり、床面積は約121.0㎡である。主軸方向はN-77° 44' -Wを示し、香長条理の方位と一致している。P1～18で構成される。柱間寸法は、桁行約3.00m、梁行約3.00mである。すべての柱筋の通りはよい。平面形は一辺約1.00m強の隅丸方形を呈する。柱は断面観察から直径約40cmと推測される。遺構検出面は細粒砂質シルト層であり、その下には砂礫層が堆積している。柱穴の断面形は砂礫層でオーバーハングとなる柱穴がみられたことから、掘方を掘削後に柱を埋置するまでの間に崩れたものと考えられる。また、掘方の側面には足あるいは手を掛けた窪みがみられた。

各柱穴の埋土は以下に示した通りである⁽³⁾。掘方の埋土は掘削した土砂を埋め戻している。明確

な互層状の堆積は認められなかったものの、埋め戻しの単位として層状を呈していた部分はみられた。また、埋土には人頭大の河原石が多量に含まれていた。柱を安定的に支えるために意図的に配置したものは認められなかったものの、単に掘方を掘削した時に得られた以上の量がみられたことから故意に埋土に混入させたと考えられる。当調査区を含め、周辺の地山には砂礫層がみられ、人頭大の河原石の入手も可能である。一方、柱痕跡の埋土には柱を抜き取った際に入り込んだとみられる黄色系の土層がみられた。他の遺構埋土ではみられない土層であり、特徴的なものである。

P1 はほぼ中央で直径約 40cm のほぼ円形を呈した柱痕跡を検出した。柱痕跡は掘方の底面までは及んでおらず、16 層上面までである。柱の寸法により高さを調整したと推測される。埋土は層状を呈する部分とブロック状を呈する部分がある。P2 はほぼ中央で直径約 40cm の不整形円形を呈した柱痕跡を検出した。柱痕跡は掘方の底面までは及んでおらず、11 層上面までである。断面図を作成した箇所では先細る断面形を呈している。やや斜めに傾いている可能性がある。埋土は層状を呈する。P3 はほぼ中央で直径約 40cm の不整形円形を呈した柱痕跡を検出した。柱痕跡は断面図を作成した箇所では先細る断面形を呈し掘方の底面よりも下にめり込んでいる。やや斜めに傾いている可能性がある。埋土は層状を呈する。P4 は中央やや南寄りで直径約 40cm のほぼ円形を呈した柱痕跡を検出した。柱痕跡は中位で分層が困難で不明瞭な部分があったものの、掘方の底面まで認められた。P5 は中央で長軸約 70cm、短軸約 60cm の不整形円形を呈した柱痕跡を検出した。柱痕跡は中位で止まる。下層 (13) は砂分が多く、柱を抜いた際に壁が崩れ、柱痕跡が不明瞭となった可能性がある。P6 は中央やや南寄りで長軸約 70cm、短軸約 60cm の不整形円形を呈した柱痕跡を検出した。当初、柱掘方は中央より南半分を掘削したが、柱掘方が隅丸方形となり、半掘部が狭くなったため底面まで分層できなかつた。そこで東半分を掘削し、南北方向の断面図を作成した。柱痕跡の北壁は垂直

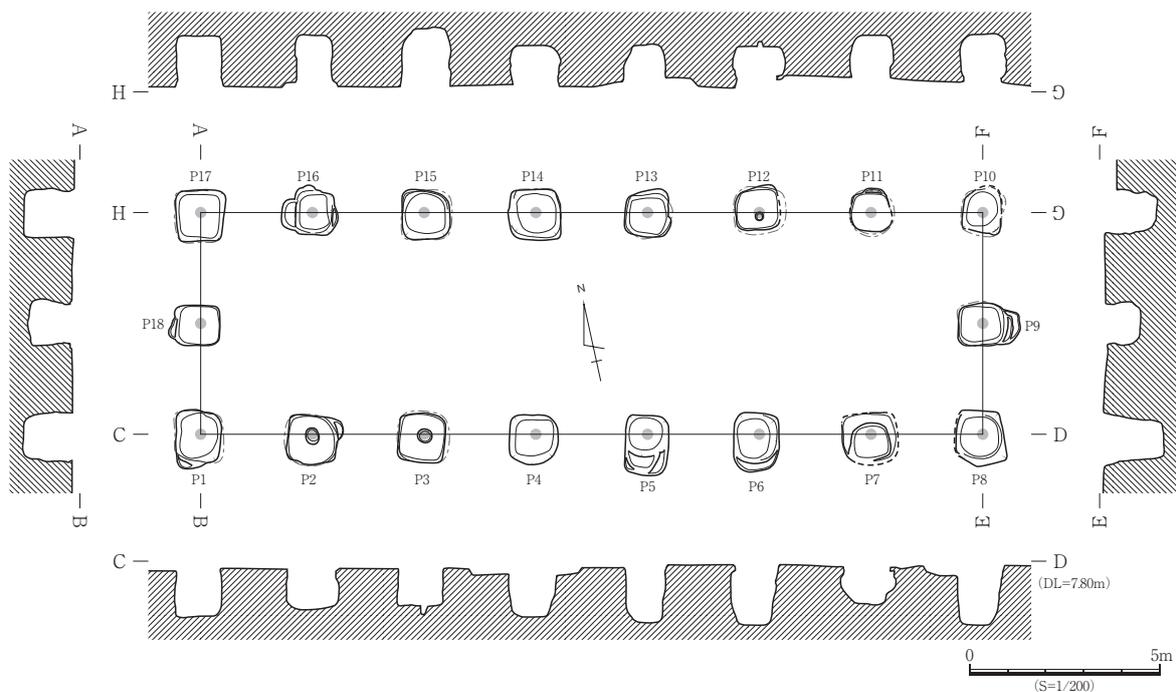


図84 5区 SB1 エレベーション図

であるものの、南は上部では南方向にひろがることから柱を南に傾けて抜いたか、南に傾いた可能性がある。柱掘方の南側のテラス部分と柱痕跡のラインが一致していることには注意を払っておきたい。P7は中央および南西で二つの柱穴を検出した。ともに直径約40cmの円形を呈し、そのうち中央のものが柱痕跡と考えられる。P5およびP6の柱痕跡と同様、中位で止まる。やはり下層(6)は砂分が多いため、柱を抜いた際に壁が崩れ、柱痕跡が不明瞭となった可能性がある。P8の掘方の断面形は均整のとれた長方形から逆台形を呈する。埋土には礫を多量に含み、分層は困難であった。また、明瞭な柱痕跡は検出できなかった。P9の柱痕跡は中央で検出した。直径約40cmの円形を呈し、北東部が僅かに突出する。上部では若干ひろくものの、垂直に下がる。柱下には礎板のような痕跡がみられた。残りの柱穴ではみられず、この柱穴の特徴である。埋土は層状に埋められている。P10の柱痕跡は柱掘方のほぼ中央に位置し、柱は底面まで達していない。柱穴の上半部は北側に傾斜する堆積が認められた。途中まで抜いた後、北側へ倒して抜いた可能性がある。掘方の埋土は細分できなかったが、挟在物が層状を成すものが多くみられた。P11は中央やや南寄り直径約40cmのほぼ円形を呈した柱痕跡を検出した。柱痕跡は断面図を作成した箇所では先細る断面形を呈し、底面まで達していない。やや斜めに傾いている可能性がある。掘方の埋土は層状を呈する。P12の柱痕跡は断面図を作成した箇所では先細る断面形を呈し掘方の底面よりも下にめり込んでいる。やや斜めに傾いている可能性がある。東側の掘方の埋土は分層できなかった。P13の柱痕跡は断面図を作成した箇所ではやや先細る断面形を呈し、底面まで達していない。やや斜めに傾いている可能性がある。掘方の埋土は層状を成す。P14の柱痕跡は柱掘方のほぼ中央に位置し、底面まで達していない。断面形は長方形を呈するものの、幅が狭いことから柱痕跡の中心からややズレた位置で半掘したと考えられる。掘方の埋土は層状を成す。P15の柱痕跡は柱掘方のほぼ中央に位置し、底面まで達していない。上面は抜き取りの際に乱れたか。掘方の埋土は上半部は層状を成すものの、下半部の分層は困難であった。P16の柱痕跡は柱掘方のほぼ中央で検出した。掘方の埋土は層状を成す。P17の柱痕跡は柱掘方の中央やや北寄りで検出した。断面形は長方形を呈し、上部は西方向へひろがっており、抜き上げ、西方へ倒して抜いた可能性がある。また、柱は底面まで達しない。断面観察では柱痕跡を検出面まで分層することは困難であった。上層部は抜き取りの際に乱れた可能性がある。掘方の埋土は層状を成す。P18は抜き取り穴状の遺構がみられるものの、断面でも柱痕跡を確認していない。柱掘方の中央ではなく、偏った位置に柱が建っていたことも考えられるが、他の柱穴ではほぼ中央に柱を立てていることを考えると、P18もほぼ中央に柱を立てていたと考えられる。埋土は層状を成す。

P1の埋土

1. 黄褐色(2.5Y5/3)細粒砂質シルトに黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトブロックと明黄褐色(10YR6/6)細粒砂質シルトブロックを少量含む。(柱痕跡)
2. 暗灰黄色(2.5Y5/2)細粒砂質シルトに淡黄色(2.5Y8/3)細粒砂質シルトブロックと橙色(5YR6/8)細粒砂質シルトブロックを少量含み黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトブロックを極少量含む。(柱痕跡)
3. にぶい黄褐色(10YR5/3)細粒砂質シルトに明黄褐色(10YR7/6)細粒砂質シルトブロックと黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトブロックと淡黄色(5Y8/3)細粒砂質シルトブロックを含む。(柱痕跡)
4. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト・灰黄色(2.5Y6/2)細粒砂質シルトに黄橙色(10YR7/8)細粒砂質シ

- ルトブロックを極少量含み1.0～5.0cm大以下の礫を少量含む。
5. 黄灰色(2.5Y5/1)細粒砂質シルト・浅黄色(2.5Y7/4)細粒砂質シルトに黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトブロックと明黄褐色(10YR7/6)細粒砂質シルトブロックを少量含む。
 6. にぶい黄褐色(10YR5/3)細粒砂質シルト・黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトが混じる。
 7. 黄灰色(2.5Y5/1)細粒砂質シルトに浅黄色(2.5Y7/4)細粒砂質シルトブロックと2.0cm大以下の礫を少量含む。
 8. 黄灰色(2.5Y5/1)細粒砂質シルトに黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトブロックとにぶい黄褐色(10YR4/3)細粒砂質シルトブロックと明黄褐色(10YR7/6)細粒砂質シルトブロックを少量含む。
 9. 黄灰色(2.5Y4/1)細粒砂質シルト・浅黄色(2.5Y7/3)シルト質細粒砂に黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトブロックと橙色(2.5YR7/6)細粒砂質シルトブロックを少量含む。
 10. 褐灰色(10YR4/1)細粒砂質シルトに明黄褐色(10YR7/6)細粒砂質シルトブロックを極少量含み1.0cm大以下の礫を少量含む。
 11. 灰黄色(2.5Y6/2)細粒砂質シルトブロック・黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトブロック・明黄褐色(10YR7/6)細粒砂質シルトブロック・淡黄色(2.5Y8/3)細粒砂質シルトブロックが混じる。
 12. 褐灰色(10YR4/1)細粒砂質シルトに明黄褐色(10YR7/6)細粒砂質シルトブロックを極少量含み2.0cm大以下の礫をやや多く含む。
 13. 褐灰色(10YR4/1)細粒砂質シルトに黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトブロックと明黄褐色(10YR7/6)細粒砂質シルトブロックと2.0cm大以下の礫を少量含む。
 14. 褐灰色(10YR4/1)細粒砂質シルトに黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトブロックと明黄褐色(10YR7/6)細粒砂質シルトブロックを少量含み0.5cm大以下の礫をやや多く含む。
 15. 灰黄褐色(10YR4/2)細粒砂質シルトに黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトブロックと明黄褐色(2.5Y6/6)細粒砂質シルトブロックを少量含み5.0cm大以下の礫を少量含む。
 16. 灰オリーブ色(5Y6/2)中粒砂質細粒砂に5.0cm大以下の礫を多く含む。

P2の埋土

1. 暗灰黄色(2.5Y5/2)細粒砂質シルト・黄灰色(2.5Y4/1)細粒砂質シルトブロックに淡黄色(2.5Y8/3)細粒砂質シルトブロックを含む。(柱痕跡)
2. 橙色(7.5YR6/8)細粒砂質シルトである。(柱痕跡)
3. 灰黄褐色(10YR4/2)細粒砂質シルトに明黄褐色(10YR7/6)細粒砂質シルトブロックと黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトブロックと淡黄色(5Y8/3)細粒砂質シルトブロックを含む。(柱痕跡)
4. 灰黄褐色(10YR6/2)細粒砂質シルトに黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトブロックを少量含む。(柱痕跡)
5. 灰黄褐色(10YR6/2)細粒砂質シルトににぶい黄橙色(10YR7/4)細粒砂質シルトブロックを極少量含む。(柱痕跡)
6. 黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。
7. 黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトに明黄褐色(10YR7/6)細粒砂質シルトブロックを少量含み15.0cm大以下の礫をやや多く含む。
8. 褐灰色(10YR5/1)細粒砂質シルト・明黄褐色(10YR7/6)細粒砂質シルト・褐色(10YR4/4)細粒砂質シルト・黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトに5.0cm大以下の礫を少量含む。

9. 褐灰色(10YR5/1)細粒砂質シルト・明黄褐色(10YR7/6)細粒砂質シルトをやや多くと褐色(10YR4/4)細粒砂質シルト・黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトに5.0cm大以下の礫を少量含む
10. にぶい黄橙色(10YR7/4)中粒砂質シルトに黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトが層状に入る。
11. 灰黄色(2.5Y6/2)～浅黄色(2.5Y7/4)粘土質中粒砂に2.0cm大以下の礫を多く含み5.0cm大の礫を少量含む。

P3の埋土

1. 褐灰色(10YR4/1)細粒砂質シルトに20.0cm大以下の礫をやや多く含む。(柱痕跡)
2. 灰黄色(2.5Y6/2)細粒砂質粘土・黒色(10YR2/1)粘土ブロックを少量・にぶい黄橙色(10YR7/4)シルトが混じる。(柱痕跡)
3. 灰黄色(2.5Y6/2)細粒砂質粘土に黒色(10YR2/1)粘土ブロックを含む。(柱痕跡)
4. 浅黄色(2.5Y7/4)粘土質細粒砂である。(柱痕跡)
5. 褐灰色(10YR4/1)細粒砂質シルトに3.0cm大以下の礫を少量含む。
6. にぶい黄橙色(10YR6/3)細粒砂質シルトブロック・明黄褐色(10YR7/6)シルトブロックが混じる。
7. オリーブ黄色(5Y6/3)細粒砂質シルトに黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトブロックを少量含む。
8. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトに浅黄色(2.5Y7/4)細粒砂質粘土ブロックを少量含む。
9. にぶい黄色(2.5Y6/3)細粒砂質シルトに黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトブロックを少量含む。
10. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトに浅黄色(2.5Y7/4)細粒砂質粘土ブロックを少量含む。
11. 黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトブロック・にぶい黄橙色(10YR7/4)細粒砂質シルトブロックが混じる。
12. 明黄褐色(10YR7/6)シルト質粘土である。
13. 灰黄色(2.5Y6/2)細粒砂に1.0cm大以下の礫を多量に含む。
14. にぶい黄色(2.5Y6/3)細粒砂質シルトに3.0cm大以下の礫を少量含む。

P4の埋土

1. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトに黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトブロックと明黄褐色(10YR7/6)細粒砂質シルトブロックを極少量含む。
2. にぶい黄橙色(10YR6/4)細粒砂質粘土・褐灰色(10YR5/1)細粒砂質シルトに明黄褐色(10YR6/8)地山礫ブロックと灰白色(10YR8/1)シルトブロックをやや多く含む。(柱痕跡)
3. 浅黄色(2.5Y7/4)シルト質細粒砂・褐灰色(10YR4/1)細粒砂質シルトの互層状となる。
4. 浅黄色(2.5Y7/4)中粒砂に5.0cm大以下の礫をやや多く含む。
5. にぶい黄色(2.5Y6/3)細粒砂質シルトに褐灰色(10YR4/1)細粒砂質シルトが層状に入り明黄褐色(10YR7/6)細粒砂質シルトブロックを極少量含む。
6. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトである。
7. 明黄褐色(10YR7/6)細粒砂質シルトと黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトをブロック状に少量含み褐色(10YR4/4)細粒砂質シルトと黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトを層状に含む。(柱痕跡)
8. 浅黄色(2.5Y7/4)粘土質細粒砂に10.0cm大以下の礫を多量に含む。

P5の埋土

1. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト・黄灰色(2.5Y5/1)細粒砂質シルトに淡黄色(2.5Y8/4)細粒砂質シルトブロックと橙色(5YR6/8)細粒砂質シルトブロックを極少量含む。(柱痕跡)
2. 橙色(5YR6/8)細粒砂質シルト・淡黄色(2.5Y8/4)細粒砂質シルト・明黄褐色(10YR7/6)細粒砂質シルト・黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトに褐灰色(10YR5/1)細粒砂質シルトを含む。(柱痕跡)
3. 橙色(5YR6/8)細粒砂質シルト・褐灰色(10YR5/1)細粒砂質シルト・橙色(7.5YR6/6)細粒砂質シルト・黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトが混じる。(柱痕跡)
4. 灰黄褐色(10YR5/2)細粒砂質シルト・黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトが混じる。(柱痕跡)
5. 灰黄褐色(10YR4/2)細粒砂質シルトに黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトブロックを少量含む。
6. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトに黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトブロックを少量含む。
7. 灰黄褐色(10YR6/2)細粒砂質シルト・黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトに明黄褐色(10YR7/6)細粒砂質シルトブロックを極少量含む。
8. 灰黄色(2.5Y6/2)細粒砂質シルト・黄灰色(2.5Y5/1)細粒砂質シルトに1.0cm大以下の礫をやや多く含む。
9. 黒色(10YR2/1)シルトである。
10. にぶい黄褐色(10YR5/4)細粒砂質シルトに黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトブロックを少量含む。
11. 褐灰色(10YR4/1)細粒砂質シルト・にぶい黄色(2.5Y6/3)粘土質細粒砂に黒色(10YR2/1)シルトブロックと明黄褐色(2.5Y7/6)細粒砂質シルトブロックを少量含み1.0cm大以下の礫をやや多く含む。
12. 灰黄褐色(10YR5/2)粘土質中粒砂に黒色(10YR2/1)粘土質中粒砂を含む。
13. 黄褐色(2.5Y5/3)粘土質細粒砂に1.0cm大以下の礫をやや多く含み明黄褐色(2.5Y7/6)細粒砂質シルトブロックを極少量と黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトブロックを少量含む。(未分層)

P6の埋土

1. 灰黄褐色(10YR5/2)細粒砂質シルト・黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトに淡黄色(2.5Y8/4)細粒砂質シルトと橙色(5YR6/8)細粒砂質シルトと黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトのブロックを少量含む。(柱痕跡)
2. 明黄褐色(10YR7/6)地山礫である。(柱痕跡)
3. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトである。
4. 暗灰黄色(2.5Y5/2)細粒砂質シルトに黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトブロックを含む。
5. 褐灰色(10YR4/1)細粒砂質シルトに黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトブロックを含む。
6. 褐灰色(10YR4/1)中粒砂質シルトに黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトブロックを含む。
7. にぶい黄褐色(10YR5/3)粗粒砂質シルトである。
8. にぶい黄色(2.5Y6/4)粗粒砂質シルトである。(未分層)
9. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトである。

P7の埋土

1. 黄灰色(2.5Y4/1)細粒砂質シルトに10.0cm大以下の礫を少量含み1.0cm大以下の黄橙色地山礫を極

少量含む。(柱痕跡)

2. 黄灰色(2.5Y4/1)細粒砂質シルトに淡黄色(2.5Y8/4)粘質土と黄灰色(2.5Y5/1)粘質土を粒状に含む。
(柱痕跡)
3. 暗灰黄色(2.5Y5/2)細粒砂質シルトである。(柱痕跡)
4. 黒色(10YR1.7/1)細粒砂質シルトに5.0cm大以下の礫を少量含む。
5. 灰黄色(2.5Y6/2)細粒砂質シルトに3.0cm大以下の礫をやや多く含む。
6. にぶい黄色(2.5Y6/3)シルト質中粒砂である。

P8の埋土

1. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。
2. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト・褐色(10YR5/1)細粒砂質シルトに明黄褐色(10YR6/6)細粒砂質シルトブロックと黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトブロックを少量含む。
3. 黄褐色(2.5Y5/3)シルト質細粒砂に黄橙色(10YR7/8)細粒砂質シルトブロックを極少量含む。
4. 浅黄色(2.5Y7/4)シルト質細粒砂・黄褐色(2.5Y5/3)細粒砂質シルトに黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトブロックと明黄褐色(10YR7/6)細粒砂質シルトブロックを少量含み1.0cm大以下の礫をやや多く含む。
5. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトブロック・明黄褐色(10YR6/6)細粒砂質シルトブロックに3.0cm大以下の礫をやや多く含む。
6. 灰黄褐色(10YR4/2)細粒砂質シルトににぶい黄橙色(10YR7/2)細粒砂が層状に入り黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトと明黄褐色(10YR7/6)細粒砂質シルトをブロック状に少量含む。
7. 灰黄褐色(10YR4/2)細粒砂質シルトに黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトブロックと明黄褐色(10YR7/6)細粒砂質シルトブロックを少量含む。
8. 灰オリーブ色(5Y5/2)中粒砂に明黄褐色(10YR6/6)細粒砂質シルトブロックを少量含み1.0cm大以下の礫をやや多く含む。
9. 灰黄褐色(10YR4/2)細粒砂質シルトに明黄褐色(10YR6/6)細粒砂質シルトブロックと黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトブロックを少量含む。
10. 褐色(10YR4/1)細粒砂質シルトブロック・明黄褐色(10YR6/6)細粒砂質シルトブロックに10.0～15.0cm大の礫を少量含む。

P9の埋土

1. 浅黄色(2.5Y7/3)細粒砂質粘土に明黄褐色(2.5Y6/6)粘土粒を含み黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトブロックを極少量含む。(柱痕跡)
2. 灰黄褐色(10YR6/2)細粒砂質粘土に浅黄色(2.5Y7/3)細粒砂質粘土ブロックを含む。(柱痕跡)
3. 明黄褐色(10YR6/6)細粒砂質シルトに浅黄色(2.5Y7/3)細粒砂質粘土が層状に入る。(礎板か)
4. 灰オリーブ色(5Y6/2)細粒砂質シルトに黒色(10YR2/1)シルトブロックと明黄褐色(10YR7/6)シルトブロックを少量含む。
5. 褐色(10YR4/1)細粒砂質シルトに黒色(10YR2/1)シルトブロックと20.0cm大以下の礫を極少量含む。

6. 褐灰色(10YR4/1)細粒砂質シルトに黒色(10YR2/1)シルトブロックと明黄褐色(10YR6/6)シルトブロックを少量含む。
7. 灰黄色(2.5Y7/2)細粒砂質シルトと褐灰色(10YR4/1)細粒砂質シルトが層状に入り灰黄色(2.5Y7/2)細粒砂質シルトをブロック状に含む。
8. にぶい黄褐色(10YR5/3)細粒砂質シルトブロック・明黄褐色(10YR7/6)細粒砂質シルトブロックに黒色(10YR2/1)シルトブロックを極少量含む。
9. 灰黄色(2.5Y7/2)細粒砂質シルトに明黄褐色(10YR7/6)シルトブロックを少量含み黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトブロックを層状に含む。
10. 浅黄色(2.5Y7/4)細粒砂質シルトに1.0cm大以下の礫をやや多く含む。
11. 黒褐色(10YR3/1)シルトである。

P10の埋土

1. 淡黄色(2.5Y8/4)細粒砂質シルト・褐灰色(10YR6/1)細粒砂質シルトが混じる。
2. 褐灰色(10YR4/1)細粒砂質シルトに黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトブロックと明黄褐色(10YR6/6)細粒砂質シルトブロックを少量含む。
3. 淡黄色(2.5Y8/4)細粒砂質シルトに褐灰色(10YR4/1)細粒砂質シルトブロックと明黄褐色(10YR6/8)細粒砂質シルトブロックを少量含む。
4. 褐灰色(10YR4/1)細粒砂質シルトに黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトブロックと明黄褐色(10YR6/6)細粒砂質シルトブロックと淡黄色(2.5Y8/4)細粒砂質シルトブロックを少量含む。
5. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルト・黄灰色(2.5Y5/1)細粒砂質シルト・黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトブロック・明黄褐色(10YR6/6)細粒砂質シルトブロックが混じる。
6. 褐灰色(10YR4/1)細粒砂質シルトに明黄褐色(10YR6/6)細粒砂質シルトブロックと黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトブロックと10.0cm大以下の礫を少量含む。
7. 褐灰色(10YR4/1)細粒砂質シルト・明褐色(7.5Y5/6)細粒砂質シルトブロック・黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトブロックが混じる。
8. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト・灰黄色(2.5Y6/2)細粒砂質シルトブロック・明黄褐色(10YR6/6)細粒砂質シルトブロックが混じる。
9. 褐灰色(10YR4/1)細粒砂質シルトに黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトブロックと明黄褐色(2.5Y7/6)細粒砂質シルトブロックをやや多く含み淡黄色(2.5Y8/4)細粒砂質シルトブロックを含む。
10. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト・明黄褐色(10YR6/6)細粒砂質シルトブロックを少量と灰黄褐色(10YR6/2)細粒砂質シルトブロックを少量含む。
11. にぶい黄色(2.5Y6/3)細粒砂質シルト・黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトブロック・明黄褐色(10YR7/6)細粒砂質シルトブロックが混じる。
12. 暗灰黄色(2.5Y5/2)細粒砂・明黄褐色(10YR7/6)細粒砂質シルト・黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトに2.0cm大以下の礫を少量含む。
13. 灰黄色(2.5Y7/2)細粒砂・黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトブロック・明黄褐色(10YR7/6)細粒砂質シルトブロックが混じる。

P11の埋土

1. 暗灰黄色(2.5Y5/2)細粒砂質シルトに明黄褐色(10YR7/6)細粒砂質シルトブロックを少量含む。
2. にぶい黄橙色(10YR6/4)細粒砂質シルト・明黄褐色(10YR7/6)細粒砂質シルトに黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトブロックを少量含む。
3. にぶい黄褐色(10YR4/3)細粒砂質シルトに明黄褐色(10YR6/6)細粒砂質シルトと黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトをブロック状に少量含む。(柱痕跡)
4. 褐灰色(10YR4/1)細粒砂質シルトに黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトブロックと明黄褐色(10YR7/6)シルトブロックを少量含む。(柱痕跡)
5. にぶい黄色(2.5Y6/3)細粒砂質シルトに明黄褐色(10YR7/6)細粒砂質シルトブロックと黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトブロックを少量含む。(柱痕跡)
6. オリーブ黄色(5Y6/3)中粒砂質シルトにオリーブ色(5Y6/8)中粒砂質シルトと灰白色(5Y8/2)中粒砂質シルトのブロックを少量含む。(柱痕跡)
7. 灰黄褐色(10YR4/2)細粒砂質シルトに灰白色(5Y8/2)細粒砂質シルトブロックとオリーブ色(5Y5/6)細粒砂質シルトブロックを少量含む。(柱痕跡)
8. 灰黄褐色(10YR5/2)細粒砂質シルトに黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトブロックと明黄褐色(10YR7/6)シルトブロックを少量含む。
9. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト・暗灰黄色(2.5Y5/2)細粒砂質シルト・浅黄色(2.5Y7/4)細粒砂質シルトが混じる。
10. 灰黄褐色(10YR5/2)粘土質細粒砂に黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトブロックと明黄褐色(10YR7/6)細粒砂質シルトブロックを少量含み10.0cm大以下の礫を少量含む。
11. にぶい黄色(2.5Y6/3)粘土質細粒砂に黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトブロックと明黄褐色(10YR7/6)細粒砂質シルトブロックを少量含み2.0cm大以下の礫をやや多く含む。
12. 浅黄色(2.5Y7/3)粘土質細粒砂に黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトブロックと明黄褐色(10YR7/6)細粒砂質シルトブロックを少量含み2.0cm大以下の礫をやや多く含む。
13. にぶい黄色(2.5Y6/3)細粒砂質粘土である。

P12の埋土

1. 褐灰色(10YR4/1)細粒砂質シルトに黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトブロックと明黄褐色(10YR7/6)シルトブロックを含み3.0cm大以下の礫を少量含む。(柱痕跡)
2. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトに明黄褐色(10YR7/6)シルトブロックと黒色(10YR2/1)シルトブロックを少量含む。(柱痕跡)
3. 灰黄色(2.5Y6/2)細粒砂質シルト・明黄褐色(10YR7/6)シルトブロック・黒色(10YR2/1)シルトブロックが混じる。(柱痕跡)
4. 淡黄色(2.5Y8/4)細粒砂質粘土粒・オリーブ色(5Y6/6)細粒砂質粘土ブロックが混じる。
5. 黄褐色(2.5Y5/3)細粒砂質粘土である。(柱痕跡)
6. 黄灰色(2.5Y6/1)細粒砂である。
7. 褐灰色(10YR4/1)細粒砂質シルト・にぶい黄色(2.5Y6/3)シルト質細粒砂・黒色(10YR2/1)シルト・明黄褐色(10YR6/6)シルトが混じる。

8. 黒色(10YR2/1)シルトとにぶい黄橙色(10YR7/4)細粒砂質シルトが層状に入り褐灰色(10YR4/1)細粒砂質シルト・にぶい黄色(2.5Y6/3)シルト質細粒砂・黒色(10YR2/1)シルト・明黄褐色(10YR6/6)シルトを含む。
9. 浅黄色(2.5Y7/4)細粒砂～中粒砂質シルトににぶい黄橙色(10YR6/4)細粒砂質粘土を含む。
10. 浅黄色(2.5Y7/4)中粒砂質粘土に2.0cm大以下の礫をやや多く含む。
11. 灰黄色(2.5Y6/2)細粒砂ににぶい黄橙色(10YR6/4)シルトブロックを少量含む。

P13の埋土

1. 褐灰色(10YR4/1)細粒砂質シルトに黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトブロックと明赤褐色(5YR5/6)細粒砂質シルトブロックを少量含む。(柱痕跡)
2. 明赤褐色(5YR5/6)細粒砂質シルトブロック・淡黄色(2.5Y8/3)細粒砂質シルトブロックである。(柱痕跡)
3. 褐灰色(10YR4/1)細粒砂質シルト・明赤褐色(5YR5/6)細粒砂質シルトブロック・淡黄色(2.5Y8/3)細粒砂質シルトブロックが層状に入る。(柱痕跡)
4. にぶい黄褐色(10YR5/4)細粒砂質シルトに黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトが層状に入る。
5. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトである。
6. にぶい黄褐色(10YR5/3)細粒砂質シルトに黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトブロックを少量含み黄橙色(10YR8/6)細粒砂質シルトブロックを極少量含む。
7. 灰黄色(2.5Y6/2)細粒砂質シルトに黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトブロックと黄橙色(10YR8/6)細粒砂質シルトブロックを極少量含み1.0cm大以上の礫をやや多く含む。
8. にぶい黄色(2.5Y6/3)中粒砂質シルトブロックに黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトブロックと黄橙色(10YR8/6)細粒砂質シルトブロックを極少量含み0.5cm大以下の礫をやや多く含み10.0cm大以下の礫を極少量含む。
9. にぶい黄色(2.5Y6/3)粘土質中粒砂に3.0cm大以下の礫をやや多く含む。

P14の埋土

1. にぶい黄褐色(10YR4/3)細粒砂質シルトに明黄褐色(10YR7/6)細粒砂質シルトブロックと黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトブロックを含み3.0cm大以下の礫を少量含む。(柱痕跡)
2. 褐灰色(10YR4/1)細粒砂質シルトに明黄褐色(10YR7/6)細粒砂質シルトブロックと橙色(5YR6/8)細粒砂質シルトブロックと灰白色(2.5Y8/2)細粒砂質シルトブロックをやや多く含む。(柱痕跡)
3. 暗灰黄色(2.5Y4/2)細粒砂質シルトに明黄褐色(2.5Y7/6)細粒砂質シルトブロックと黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトブロックを少量含む。(柱痕跡)
4. 黄灰色(2.5Y5/1)細粒砂質シルトに浅黄色(2.5Y7/3)細粒砂質シルトブロックを多く含み橙色(7.5YR6/8)細粒砂質シルトブロックを極少量含み橙色(7.5YR6/8)地山礫を含む。
5. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトに明黄褐色(2.5Y7/6)細粒砂質シルトブロックを少量と黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトブロックを極少量含む。
6. 褐灰色(10YR4/1)細粒砂質シルトに1.0cm・3.0cm大の礫を少量含む。
7. にぶい黄褐色(10YR4/3)細粒砂質シルトに黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトブロックと明黄褐色

- (10YR6/6)細粒砂質シルトブロックを少量含む。
8. 褐灰色(10YR5/1)細粒砂質シルトに明黄褐色(10YR6/6)細粒砂質シルトと1.0cm大以下の礫をやや多く含む。
 9. にぶい黄色(2.5Y6/3)細粒砂質シルトに明黄褐色(10YR7/6)細粒砂質シルトブロックと褐灰色(10YR5/1)細粒砂質シルトブロックを少量含み1.0cm大以下の礫をやや多く含む。
 10. 暗灰黄色(2.5Y5/2)粘土質中粒砂に明黄褐色(10YR7/6)細粒砂質シルトブロックを極少量含み10.0cm大以下の礫をやや多く含む。
 11. 灰黄褐色(10YR4/2)細粒砂質シルトに明黄褐色(10YR7/6)細粒砂質シルトブロックと黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトブロックを少量含む。
 12. 暗灰黄色(2.5Y5/2)粘土質中粒砂である。

P15の埋土

1. にぶい黄色(2.5Y6/4)細粒砂質シルト・黄灰色(2.5Y5/1)細粒砂質シルトに黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトブロックを少量含み5.0cm大以下の礫を少量含む。
2. 黄灰色(2.5Y4/1)細粒砂質シルトに浅黄色(2.5Y7/4)細粒砂質シルトブロックを少量含む。
3. 明黄褐色(10YR7/6)細粒砂質シルト・褐灰色(10YR4/1)細粒砂質シルトに灰白色(10YR8/1)細粒砂質シルトと橙色(5YR6/8)シルトをブロック状に含む。(柱痕跡)
4. 灰黄褐色(10YR4/2)細粒砂質シルトに黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトと明黄褐色(10YR6/6)細粒砂質シルトをブロック状に少量含む。(柱痕跡)
5. 明黄褐色(10YR6/6)細粒砂質シルト・褐灰色(10YR4/1)細粒砂質シルトに黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトブロックを少量含む。(柱痕跡)
6. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトである。(礎盤か)
7. 明黄褐色(10YR7/6)細粒砂質シルトに褐灰色(10YR4/1)細粒砂質シルトをブロック状に含み3.0cm大以下の礫をやや多く含む。
8. 黄褐色(2.5Y5/3)細粒砂質シルトに明黄褐色(10YR7/6)細粒砂質シルトをブロック状に含む。
9. にぶい黄色(2.5Y6/3)シルト質細粒砂に褐灰色(10YR4/1)細粒砂質シルトをブロック状に含み1.0cm大以下の礫をやや多く含む。
10. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルト・明黄褐色(10YR7/6)細粒砂質シルトが層状に入る。
11. 淡黄色(2.5Y8/4)細粒砂質シルト・褐灰色(10YR5/1)細粒砂質シルトに黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトブロックを少量含む。
12. 褐灰色(10YR4/1)細粒砂質シルト・黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト・褐色(10YR4/4)細粒砂質シルト・にぶい黄橙色(10YR7/4)細粒砂質シルトが混じる。
13. にぶい黄橙色(10YR7/4)～灰黄褐色(10YR6/2)細粒砂に5.0cm・10.0cm大の礫を少量と1.0cm大の礫をやや多く含む。

P16の埋土

1. 灰黄褐色(10YR4/2)細粒砂質シルトである。(柱痕跡)

2. 灰黄褐色(10YR4/2)細粒砂質シルトに黒色(10YR1.7/1)粘質土ブロックを含み 1.0 cm大以下の礫を少量含む。(柱痕跡)
3. 灰黄褐色(10YR4/2)細粒砂質シルトに橙色(5YR6/8)粘質土ブロックと淡黄色(2.5Y8/4)粘質土ブロックを含む。(柱痕跡)
4. 淡黄色(2.5Y8/4)細粒砂質シルト・褐灰色(10YR4/1)細粒砂質シルトを粒状に含む。(柱痕跡)
5. 褐灰色(10YR5/1)細粒砂質シルトに 10.0cm大の礫を少量含む。(柱痕跡)
6. 灰白色(10YR8/2)細粒砂質シルトに橙色(5YR6/8)細粒砂質シルトブロックと淡黄色(2.5Y8/4)細粒砂質シルトブロックと黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトブロックを少量含む。(柱痕跡)
7. 灰黄色(2.5Y6/2)粘土質中粒砂に黄褐色(10YR5/6)粘土質中粒砂ブロックを少量含む。(柱痕跡)
8. 灰黄褐色(10YR4/2)粗粒砂質細粒砂に 5.0cm大の礫を極少量含み 2.0cm大の礫を多く含む。
9. 明黄褐色(10YR7/6)粗粒砂質シルトに暗褐色(10YR3/3)シルトブロックを含む。
10. 暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトに黒色(10YR1.7/1)シルトブロックを含み 1.0 cm大以下の礫を多く含む。
11. 暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトに黒色(10YR1.7/1)シルトブロックを含み 1.0 cm大以下の礫を少量含む。
12. にぶい黄色(2.5Y6/4)粗粒砂質シルトに 1.0cm大以下の礫を多く含む。
13. にぶい黄色(2.5Y6/3)粘土質細粒砂に 5.0cm大以下の礫を多く含む。
14. 灰黄色(2.5Y6/2)粘土質中粒砂である。

P17の埋土

1. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルト・灰オリーブ色(5Y5/2)細粒砂質シルトに黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトブロックと淡黄色(2.5Y8/4)細粒砂質シルトブロックを少量含み橙色(5YR6/8)細粒砂質シルトブロックを極少量含む。(柱痕跡)
2. 褐灰色(10YR4/1)細粒砂質シルトに黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトブロックと浅黄色(2.5Y7/4)細粒砂質シルトブロックを少量含む。(柱痕跡)
3. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。
4. 灰黄褐色(10YR5/2)細粒砂質シルトに黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトブロックと浅黄橙色(10YR8/3)細粒砂質シルトブロックを少量含み 1.0cm大以下の礫を少量含む。
5. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトに淡黄色(2.5Y8/4)細粒砂質シルトブロックをやや多く含む。
6. 灰黄色(2.5Y7/2)細粒砂に黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトが層状に入り 2.0 cm大以下の礫をやや多く含む。(東西セクション)
6. 褐灰色(10YR4/1)細粒砂に黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトブロックと明黄褐色(2.5Y7/6)細粒砂質シルトブロックを少量含み 1.0cm大以下の礫を少量含む。(南北セクション)
7. 暗灰黄色(2.5Y5/2)シルト質細粒砂(0.5 cm大の礫をやや多く含む)・褐灰色(10YR4/1)細粒砂質シルトが混じる。
8. 灰黄褐色(10YR4/2)細粒砂質シルト・灰黄褐色(10YR6/2)シルト質細粒砂に黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトを層状またはブロック状に淡黄色(2.5Y8/4)細粒砂質シルトをブロック状に含む。
9. 褐灰色(10YR4/1)細粒砂質シルトに明黄褐色(10YR6/6)細粒砂質シルトブロックを少量含み 3.0 cm

大の礫を少量と1.0cm大の礫を多く含む。

10. 褐灰色(10YR4/1)細粒砂質シルトに黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトブロックを含み2.0cm大以下の礫を少量含む。
11. 褐灰色(10YR4/1)細粒砂質粘土に5.0cm大以下の礫をやや多く含む。
12. 灰黄色(2.5Y7/2)細粒砂と黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトの互層に2.0cm大以下の礫をやや多く含む。
13. 黄褐色(2.5Y5/3)中粒砂に黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトが層状に入り5.0cm大以下の礫をやや多く～多く含む。

P18(南北)の埋土

1. 黄橙色(10YR8/6)細粒砂質シルト・黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルト・にぶい黄褐色(10YR5/3)細粒砂質シルトを層状およびブロック状に含む。(柱痕跡)
2. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトに明黄褐色(10YR7/6)細粒砂質粘土ブロックを少量含む。
3. 褐灰色(10YR4/1)細粒砂質シルト・にぶい黄橙色(10YR6/4)細粒砂質シルトをブロック状に含む。
4. 灰黄色(2.5Y6/2)中粒砂質シルト・褐灰色(10YR4/1)細粒砂質シルトが混ざる。
5. 灰黄色(2.5Y6/2)細粒砂質シルトに明黄褐色(10YR7/6)細粒砂質粘土ブロックと黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトブロックを少量含み1.0cm大以下の山礫を多く含む。
6. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトに明黄褐色(10YR7/6)細粒砂質粘土ブロックを少量含む。
7. 褐灰色(10YR5/1)細粒砂質シルトに明黄褐色(10YR7/6)細粒砂質粘土ブロックをやや多く含む。
8. 黄灰色(2.5Y5/1)細粒砂質シルトに明黄褐色(10YR7/6)細粒砂質粘土ブロックを少量含む。
9. にぶい黄色(2.5Y6/3)細粒砂ににぶい黄色(2.5Y6/3)シルトを少量含み2.0cm大以下の礫を少量含む。

P18(東西)の埋土

1. 灰黄褐色(10YR5/2)細粒砂質シルトに黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトブロックと明黄褐色(10YR7/6)細粒砂質シルトブロックを少量含み5.0cm大の礫を少量と1.0cm大の礫をやや多く含む。
2. 暗灰黄色(2.5Y5/2)細粒砂質シルト・明黄褐色(10YR7/6)細粒砂質シルトを層状に含む。
3. 灰黄褐色(10YR5/2)細粒砂質シルトに黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトブロックと明黄褐色(10YR7/6)細粒砂質シルトブロックを少量含み5.0cm大の礫を少量と1.0cm大の礫をやや多く含む。
4. にぶい黄褐色(10YR5/3)細粒砂質シルトに黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトブロックと明黄褐色(10YR7/6)細粒砂質シルトブロックを少量含み5.0cm大の礫と1.0cm大の礫を少量含む。
5. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。
6. 灰黄色(2.5Y6/2)中粒砂・黄橙色(10YR8/6)細粒砂質シルトに黄橙色(10YR8/6)細粒砂質シルトブロックと黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトブロックを少量含む。

図示した出土遺物は、須恵器の体部(585～588)、弥生土器の壺(589～599・614)・甕(600～607)・鉢(608～610)・底部(612)・不明(613)・高杯(611・615・616)、ミニチュア土器(617)、鉄製の楔か(618)、土錘(619)である。SB1の詳細な時期を決定できる遺物はみられない。

585はSB1(P1)から出土した体部片である。検出面から約120cmまでの深さから出土した。外面には平行叩き調整、内面には同心円状の当て具痕跡がみられる。焼成がややあまい。586はSB1(P5)か

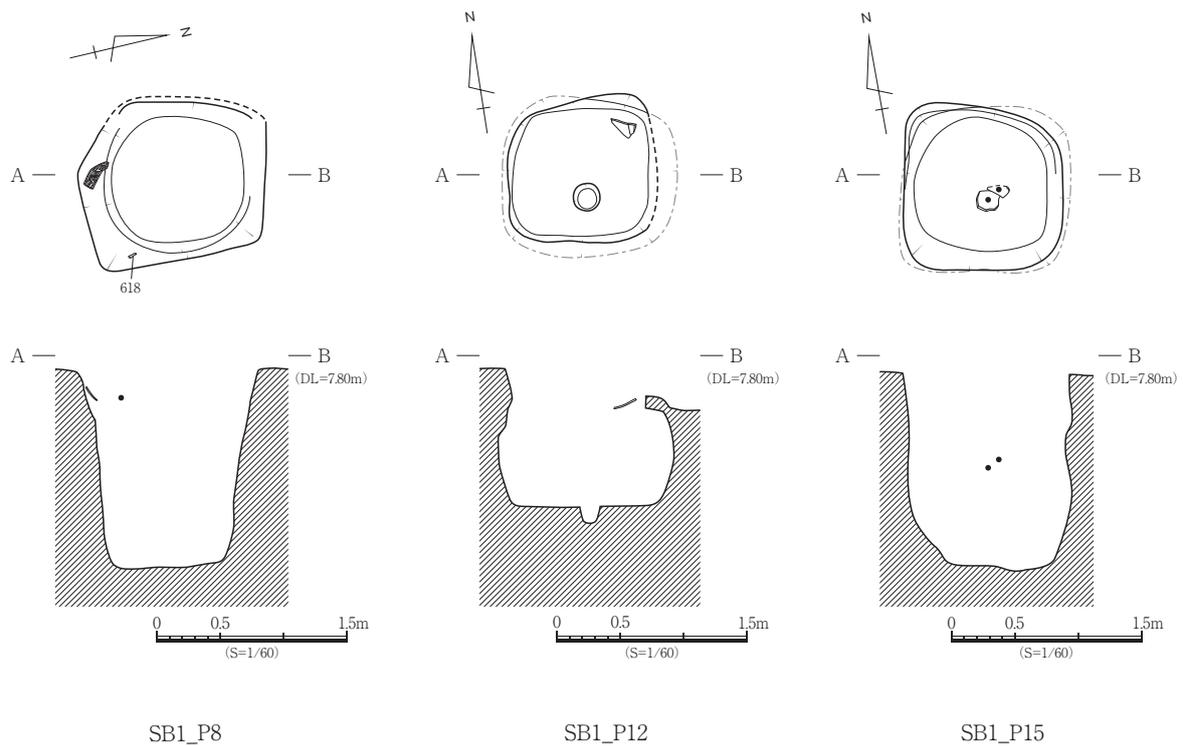


図85 5区 SB1_P8・12・15 遺物出土状態図・エレベーション図

ら出土した体部片である。検出面から約40cmまでの深さから出土した。外面には平行叩き調整、内面には同心円状の当て具痕跡がみられる。外面には自然釉が付着する。587はSB1 (P5)から出土した体部片である。検出面から約40cmまでの深さから出土した。外面は平行叩き調整後、カキ目を施す。内面には同心円状の当て具痕跡がみられ、叩き調整が強くエッジが器壁に食い込む。588はSB1 (P8他)から出土した大甕の体部片である。P8, P12, P15から出土した破片が接合できた。P8, P12から出土した破片は柱掘方の壁際、検出面直下から出土した。柱を埋置し、埋め切る間に埋めたものと推測される。P15から出土した破片は柱痕跡の埋土からの出土である。柱を抜き取った際に入り込んだもので、他の破片同様、本来は柱掘方に埋められたものと推測される。外面は格子叩き調整、内面は同心円状の当て具痕跡がみられる。589はSB1 (P4)から出土した壺である。口唇部は玉縁状を呈する。外面は叩き調整後、粗いハケ調整およびナデ調整を施す。内面はヨコハケ調整を施す。混入品である。590はSB1 (P1)から出土した壺である。口唇部には面取りを施す。ナデ痕跡がみられる。内外面ともヨコナデ調整を施す。混入品である。591はSB1 (P1 柱痕跡)から出土した壺である。口縁部は大きくひらく。内外面とも摩耗のため、調整等は不明である。混入品である。592はSB1 (P3)から出土した壺である。口縁部は大きくひらき、口唇部には面取りを施す。ナデ痕跡がみられる。口縁部は内外面ともヨコナデ調整を施す。頸部外面は粗いタテハケ調整、内面はヨコハケ調整である。混入品である。593はSB1 (P1)から出土した壺である。口縁部は大きくひらき、口唇部はハケ状原体により面取りを施す。外面は斜め方向のハケ調整後、ナデ調整を施す。内面はヨコハケ調整を施す。混入品である。594はSB1 (P4)から出土した壺である。口縁部は大きくひらき、口唇部には面取りを施す。口縁端部はヨコナデ調整を施す。頸部外面は縦方向のミガキ調整を施す。内面は斜め方向のミガキ調

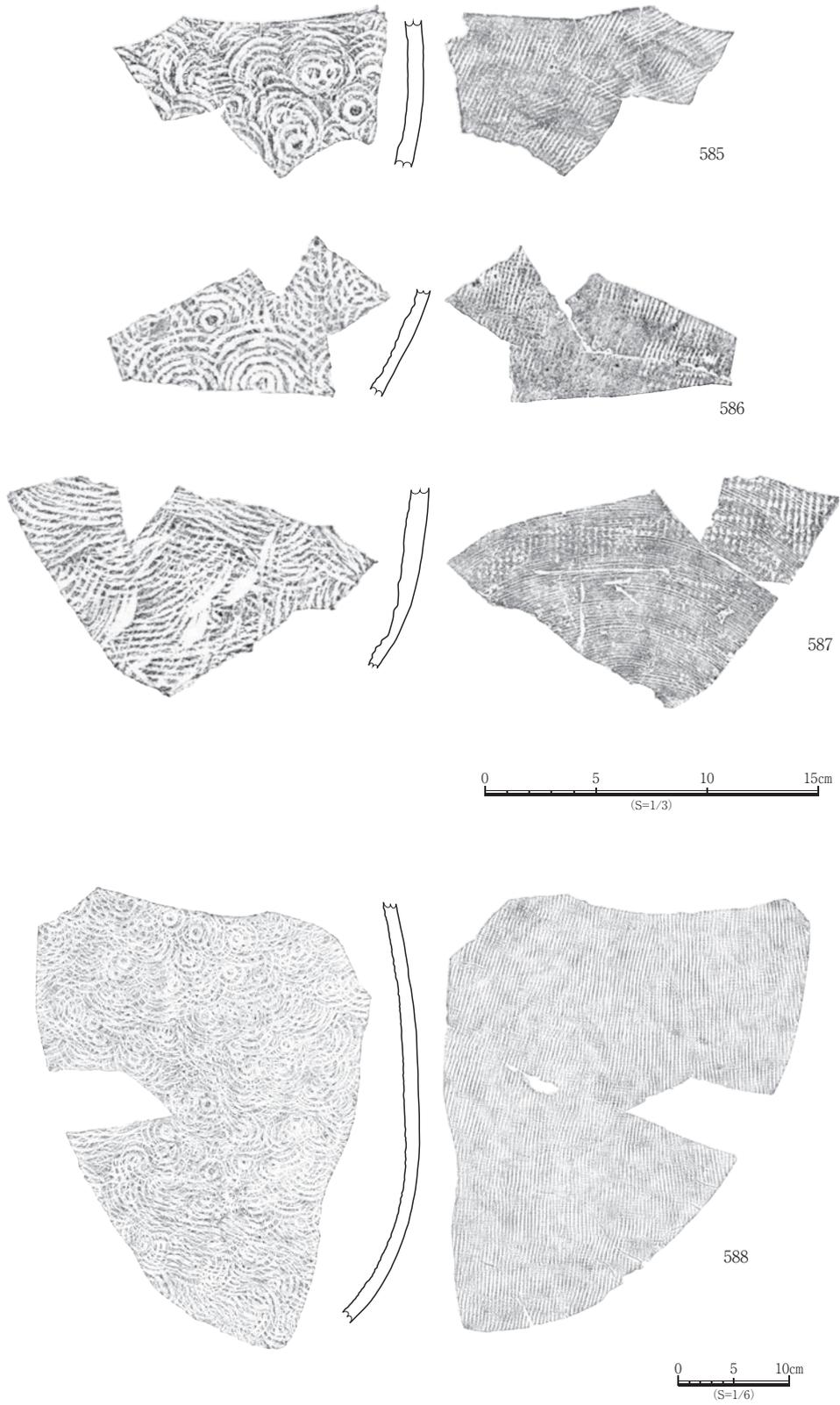


图86 5区 SB1 出土遺物実測図_1

整を施す。混入品である。595はSB1 (P14)から出土した壺である。口縁端部を摘み上げる。内外面ともヨコナデ調整を施す。混入品である。596はSB1 (P8)から出土した壺である。口縁端部を摘み出す。頸部外面は粗いタテハケ調整を施す。内面は摩耗のため調整等は不明である。混入品である。597はSB1 (P9)から出土した壺である。口縁部は受け口状を呈する。口縁部外面は横方向のヘラミガキ調整, 内面はヨコナデ調整を施す。頸部外面はタテハケ調整後, 縦方向のミガキ調整を施す。内面は斜め方向のハケ調整後, ミガキ調整を施す。混入品である。598はSB1 (P1)から出土した壺である。口縁端部を摘み出す。口唇部には7条1単位の櫛描波状文を施す。外面はヨコハケ調整後, ヘラミガキ調整を施す。内面はヘラミガキ調整を施す。混入品である。599はSB1 (P13)から出土した複合口縁壺である。一次口縁部と二次口縁部の接合部は突出し, 鏝状を呈する。内外面ともヨコナデ調整である。

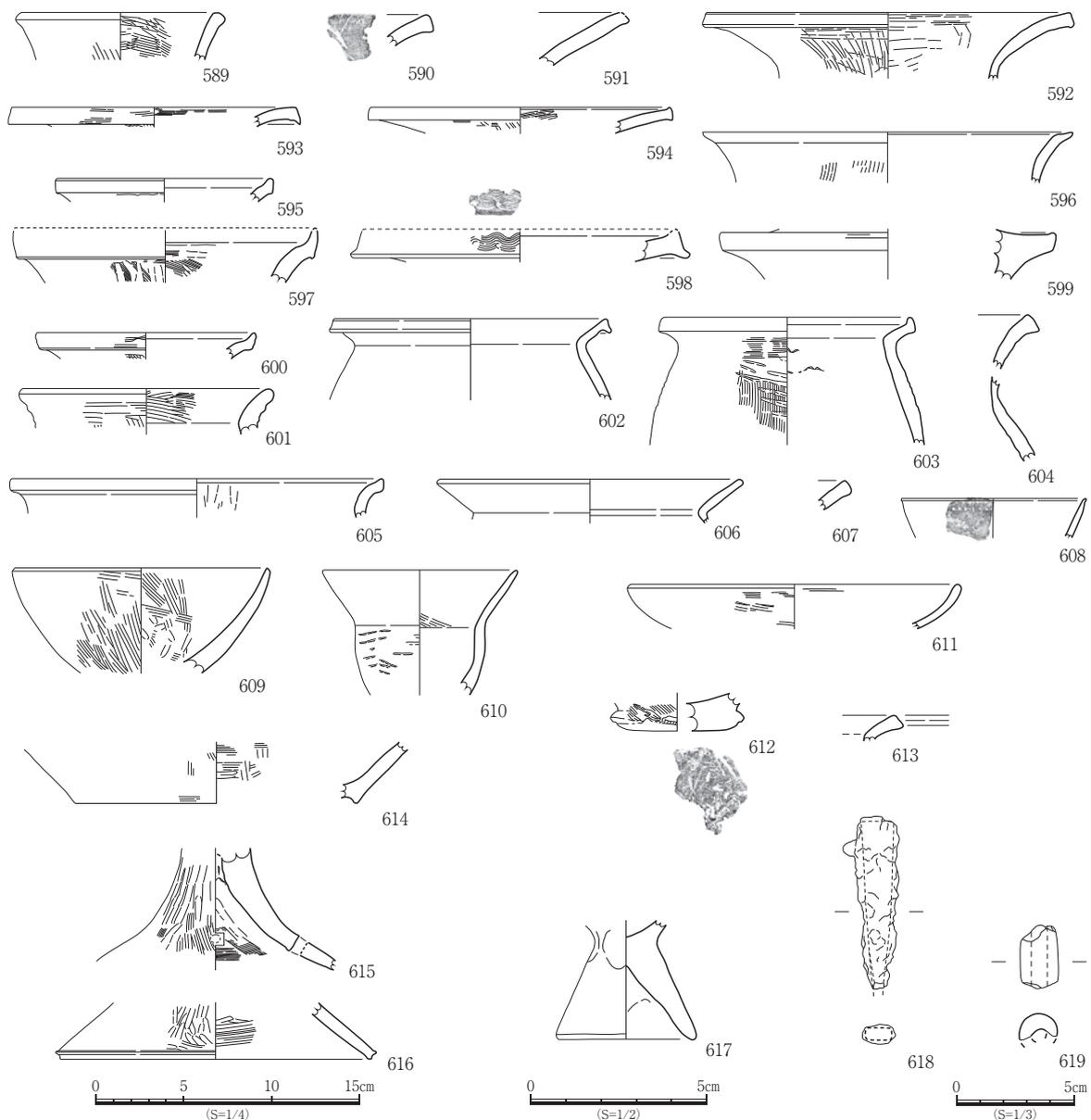


図87 5区 SB1 出土遺物実測図_2

混入品である。600はSB1 (P3)から出土した甕である。口縁端部を摘み上げ、上方へ拡張し、3条の沈線をめぐらせる。内外面ともヨコナデ調整を施し、ナデ痕跡がみられる。外面には列点文状にもみえるもののハケ調整の可能性もある。混入品である。601はSB1 (P1)から出土した甕である。外面は叩き調整後、ナデ調整、内面はヨコハケ調整を施す。混入品である。602はSB1 (P4)から出土した甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部下端を摘み出す。口縁部外面はヨコナデ調整、内面にはナデ調整を施す。体部は内外面ともナデ調整を施す。混入品である。603はSB1 (P4)から出土した甕であ

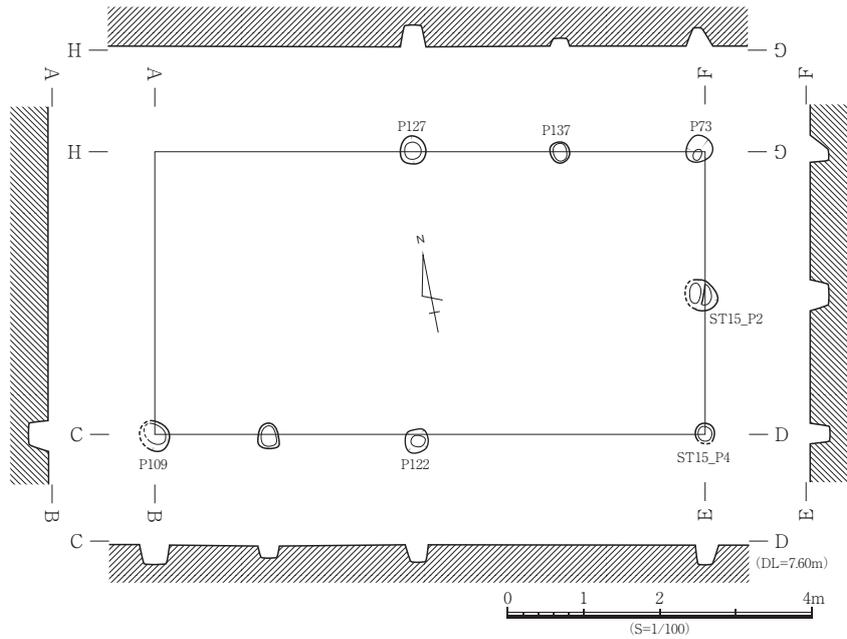


図88 5区 SB2 平面図・エレベーション図

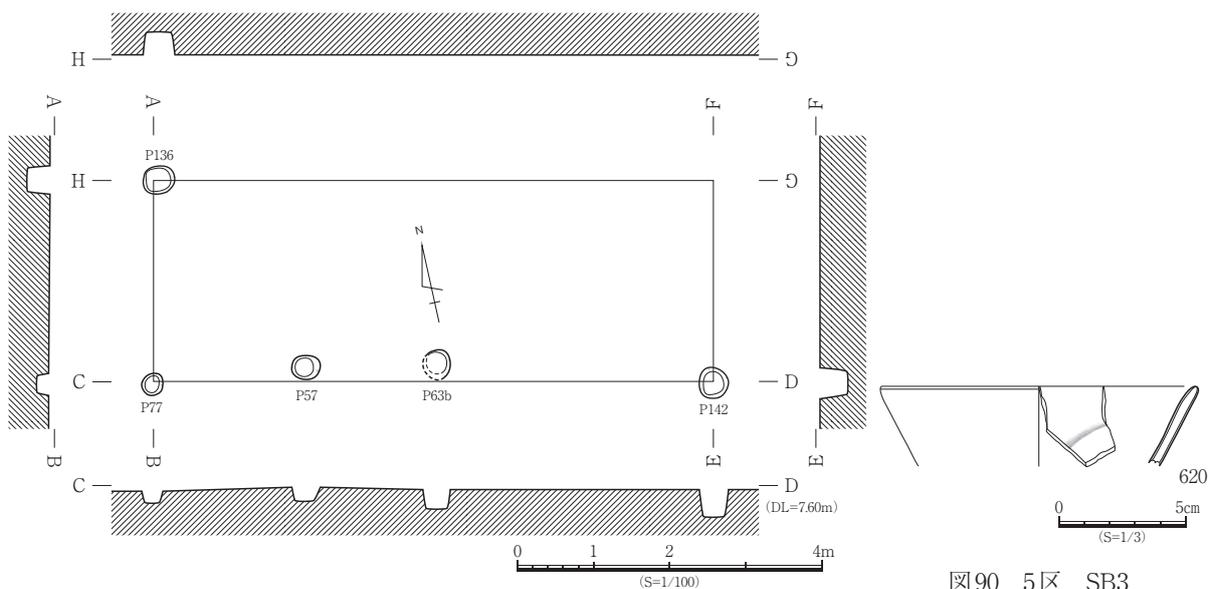


図89 5区 SB3 平面図・エレベーション図

図90 5区 SB3
出土遺物実測図

る。口縁部は「く」の字状を呈し、口縁端部を摘み上げる。口縁部外面にはヨコハケ調整を施し、内面はヨコハケ調整か。体部外面は叩き調整後、タテハケ調整を施し、内面はナデ調整を施す。肩部内面には接合痕跡がみられる。混入品である。604はSB1(P5)から出土した甕である。口縁部は緩やかな「く」の字状を呈する。内外面とも摩耗のため、調整等は不明である。605はSB1(P14)から出土した。口縁端部を摘み上げる。内外面ともヨコナデ調整を施す。混入品である。606はSB1(P5)から出土した甕である。口縁部は「く」の字状を呈する。口縁部は内外面ともヨコナデ調整を施す。内面は頸部直下までヘラケズリ調整か。搬入品か。607はSB1(P14)から出土した甕である。口唇部はハケ状原体により面取りを施す。外面は叩き調整後、ナデ調整、内面はヨコハケ調整を施す。混入品である。608はSB1(P5)から出土した鉢である。口縁端部を僅かに摘み出す。口縁部外面には6条1単位の櫛描波状文を施す。外面はナデ調整あるいはヘラミガキ調整を施す。内面はヨコナデ調整を施し、ナデ痕跡がみられる。混入品である。609はSB1(P2)から出土した鉢である。体部は半球形を呈する。体部外面はタテハケ調整を施し、内面はハケ調整後、ヘラミガキ調整を施す。混入品である。610はSB1(P9)か

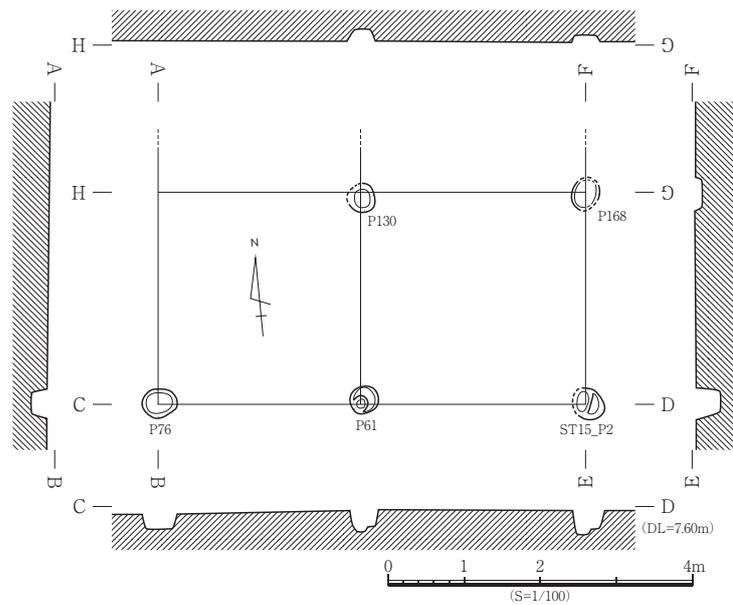


図91 5区 SB4 平面図・エレベーション図

610はSB1(P9)か

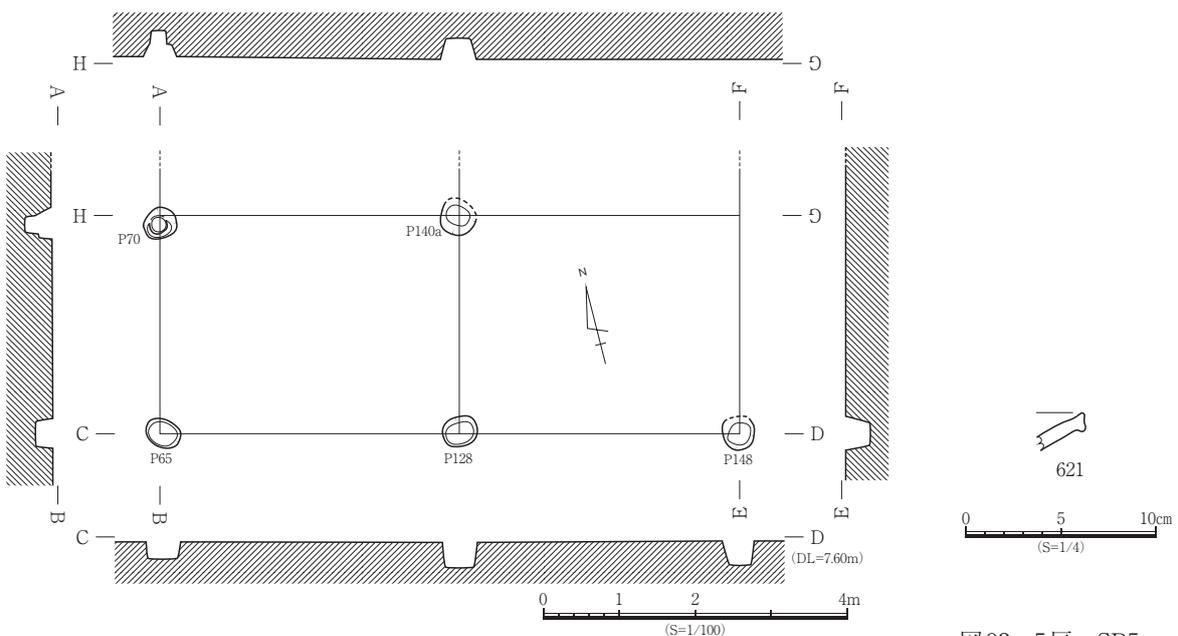


図92 5区 SB5 平面図・エレベーション図

図93 5区 SB5
出土遺物実測図

ら出土した鉢である。口縁部を外反させ、口唇部を尖らせる。口縁部外面はナデ調整か。内面はハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はナデ調整か。混入品である。611はSB1 (P5)から出土した高杯か。口唇部は丸くおさめる。外面はヨコハケ調整、内面の口縁部はヨコハケ調整、体部はナデ調整である。内面はやや摩耗する。612はSB1 (P5)から出土した底部である。底端部は接合面で剥離し、剥離面にはハケメがみられる。外底面は未調整か。体部内面はナデ調整を施す。混入品である。613はSB1 (P10)から出土した。口唇部はハケ状原体により面取りを施し、弱い沈線状を呈する。内外面ともヨコナデ調整を施す。混入品である。614はSB1 (P17)から出土した二重口縁壺か。二次口縁部は外上方へのびる。外面はタテハケ調整後、ナデ調整あるいはヘラミガキ調整を施す。内面はヨコハケ調整後、縦方向のヘラミガキ調整を施す。混入品である。615はSB1 (P5)から出土した高杯である。「ハ」の字形を呈する。脚部外面はタテハケ調整後、縦方向のヘラミガキ調整を疎らに施す。内面はナデ調整を施し、しぼり目がみられる。裾部内面はヨコハケ調整である。裾部に円孔を穿つ。混入品である。616はSB1 (P2柱痕跡)から出土した高杯である。「ハ」の字形にひらき、端部は凹面状を呈する。外面はハケ調整後、縦方向のヘラミガキ調整を施す。内面はヘラナデ調整を施し、端部付近はヨコナデ調整を施す。杯部と脚部の境には指頭圧痕がみられる。混入品である。617はSB1 (P8)から出土したミニチュア土器である。高杯形がモデルである。内外面ともナデ調整を施す。混入品である。618はSB1 (P8)から出土した鉄製の楔か。先端部は欠損する。体部の断面形は長方形を呈し、先端部の断面形は正方形である。619はSB1 (P5)から出土した管状土錘である。両端部を欠損する。中央には直径約0.7cmの孔が貫通する。

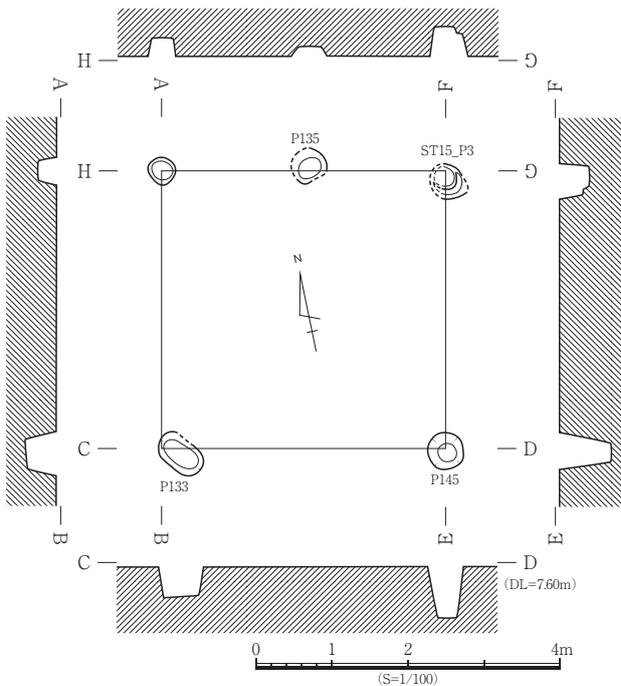


図94 5区 SB6 平面図・エレベーション図

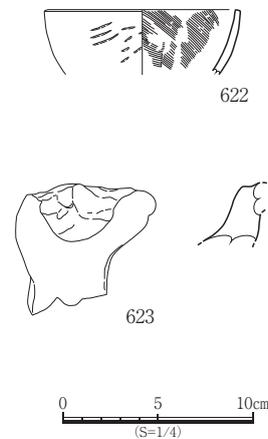


図95 5区 SB6 出土遺物実測図_1

SB2

SB2は調査区西部で検出した桁行4間(約7.24m), 梁行2間(約3.74m)の東西棟の掘立柱建物跡であり, 床面積は27.1㎡である。主軸方向はN-78° 59' -Wである。P73・109・122・127・137・ST15_P2・ST15_P4他で構成される。柱穴は直径約30cmの円形から不整円形であり, 検出面からの深さは10～34cmである。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物はない。

SB3

SB3は調査区西部で検出した桁行3間(約7.36m), 梁行1間(約2.66m)の東西棟の掘立柱建物跡であり, 床面積は約19.6㎡である。主軸方向はN-77° 37' -Wである。P57・63b・77・136・142で構成される。柱穴は直径約40cmの円形から不整円形であり, 検出面からの深さは16～38cmである。埋土は灰黄褐色(10YR4/2)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物は, 青磁の碗(620)であり, P142から出土した。やや緑色がかった釉薬を施す。内面には劃花文を描く。貫入が認められる。

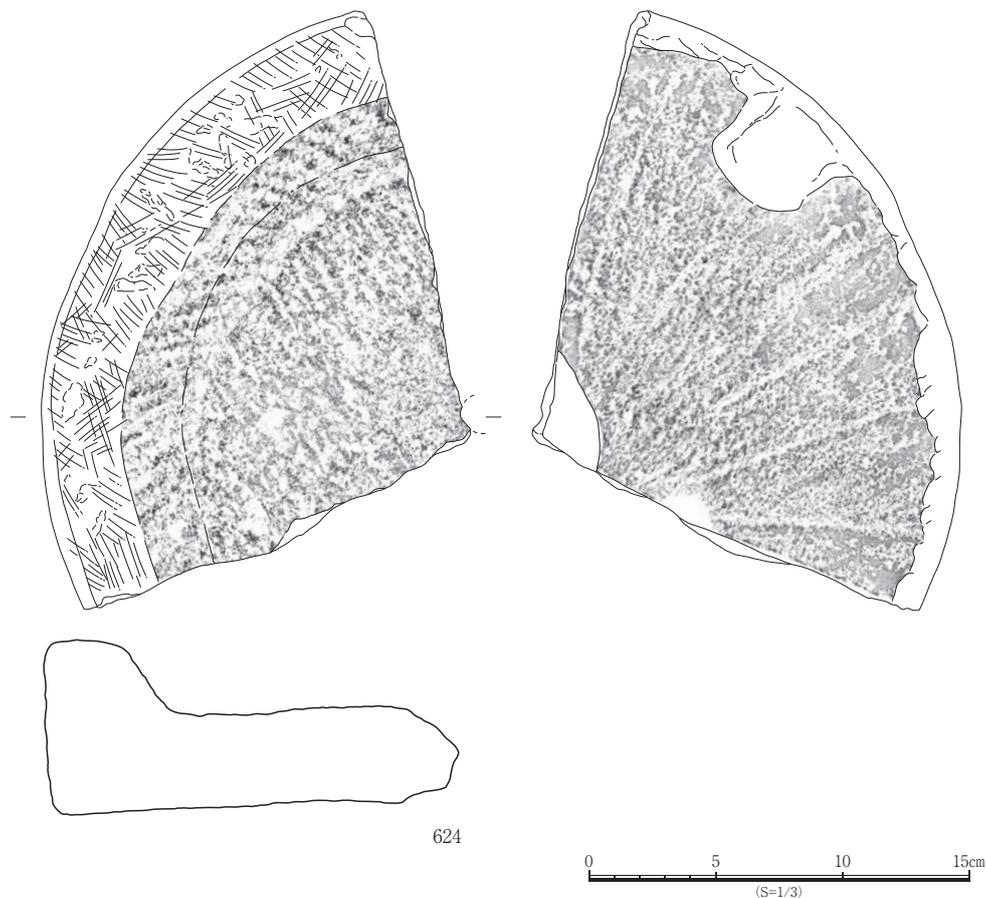


図96 5区 SB6 出土遺物実測図_2

SB4

SB4は調査区西部で検出した掘立柱建物跡である。桁行2間(約5.62m)、梁行は1間(約2.81m)以上検出した東西棟の建物跡である。主軸方向はN-84°31'-Wである。P61・76・130・168・ST15_P2で構成される。柱間寸法は、桁行2.65・2.95m、梁行2.80mである。柱穴は直径約40cmの円形から不整形円形であり、検出面からの深さは9～34cmである。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物はない。

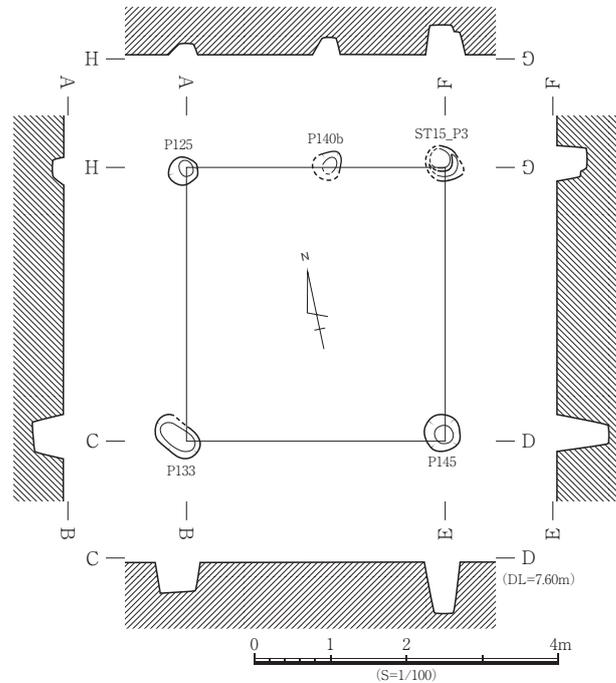


図97 5区 SB7 平面図・エレベーション図

SB5

SB5は調査区西部で検出した掘立柱建物跡である。桁行2間(約7.62m)、梁行は1間(約2.89m)以上検出した東西棟の建物跡である。主軸方向はN-75°52'-Wである。P65・70・128・140a・148で構成される。柱穴は直径約40cmの不整形円形であり、検出面からの深さは22～34cmである。埋土は褐灰色(10YR4/1)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物は、弥生土器の甕(621)であり、P65から出土した。口唇部はハケ状原体により面取りを施す。外面は叩き調整後、ナデ調整を施し、内面はナデ調整を施す。ナデ痕跡がみられる。

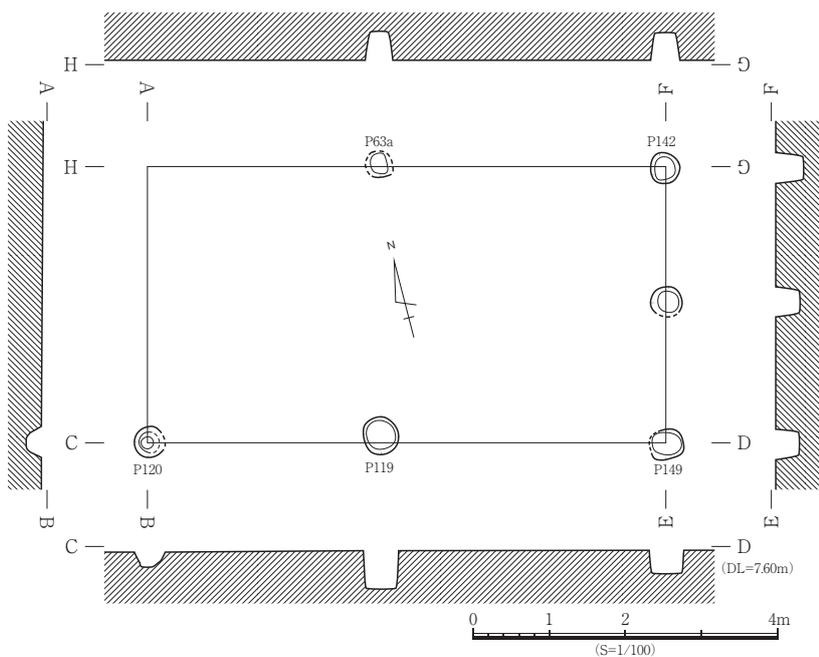


図98 5区 SB8 平面図・エレベーション図

SB6

SB6は調査区西部で検出した桁行1間(約3.68m)、梁行2間(約3.73m)の南北棟の

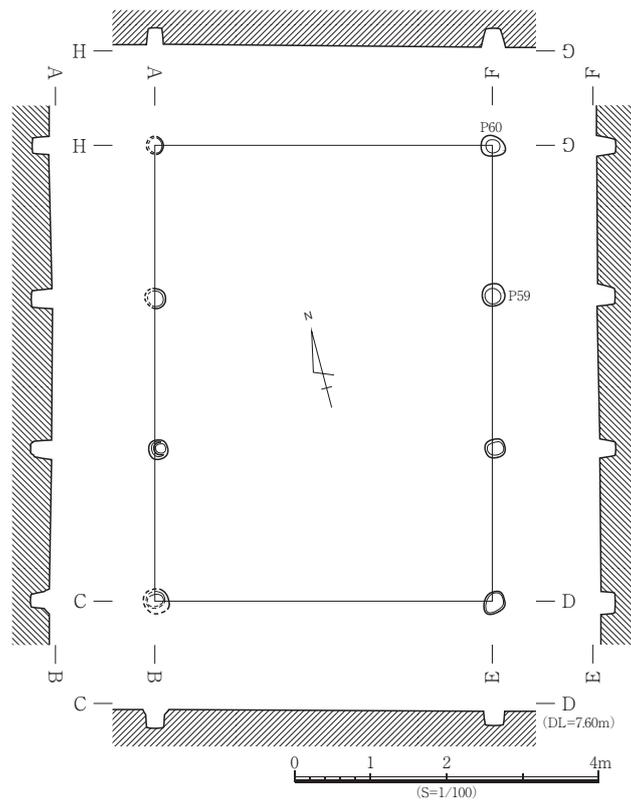


図99 5区 SB9 平面図・エレベーション図

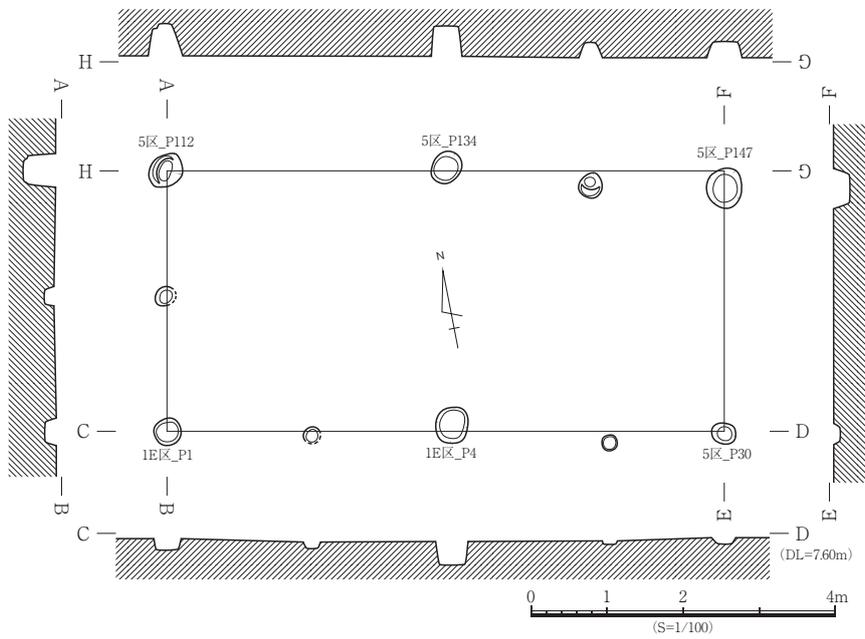


図100 5区 SB10 平面図・エレベーション図

掘立柱建物跡であり、床面積は約 13.7 m²である。主軸方向はN-11° 36′ -Eである。P133・135・145・ST15_P3他で構成される。柱穴は直径約 40 cmの円形から不整形であり、検出面からの深さは13～68 cmである。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物は、弥生土器の鉢(622)、支脚(623)、石臼(624)である。

622はP135から出土した鉢である。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面は斜め方向のハケ調整を施す。623はP145から出土した支脚である。指頭により成形する。上端部をひらき、断面形が楕円形の指をつくり、受け部とする。中空の脚部に棒状の粘土を詰める。背部の摘みは剥離する。側面に被熱による変色が認められる。混入品である。624はP133から出土した砂岩製の石臼である。中央に軸の孔がみられる。把手は側方打ち込みで側面にホゾ穴を有する。使用により擦り目は摩滅する。

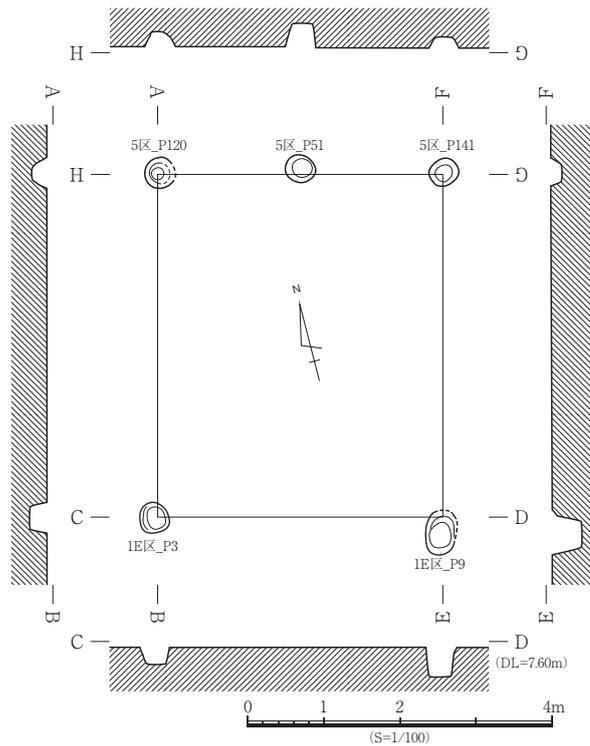


図101 5区 SB11 平面図・エレベーション図

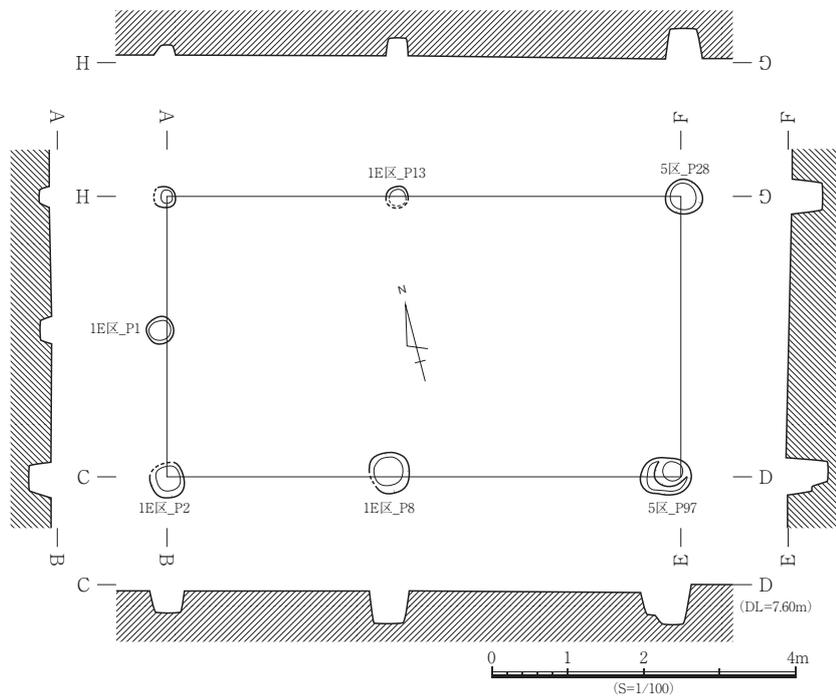


図102 5区 SB12 平面図・エレベーション図

SB7

SB7は調査区西部で検出した桁行1間(約3.63m), 梁行2間(約3.40m)の南北棟の掘立柱建物跡であり, 床面積は約12.3㎡である。主軸方向はN-11° 48' -Eである。P125・133・140b・145・ST15_P3で構成される。柱穴は直径約40cmの円形から不整形であり, 検出面からの深さは16~68cmである。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物はない。

SB8

SB8は調査区西部で検出した桁行2間(約6.82m), 梁行2間(約3.66m)の東西棟の掘立柱建物跡であり, 床面積は24.9㎡である。主軸方向はN-75° 28' -Wである。P63a・119・120・142・149他で構成される。柱穴は直径約40cmの円形から不整形円形であり, 検出面からの深さは20~51cmである。埋土は褐灰色(7.5YR4/1)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物はない。

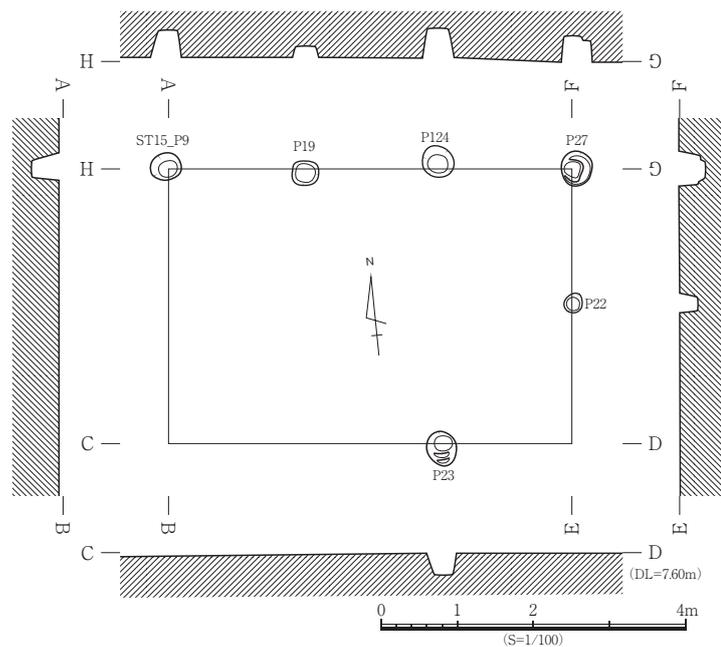


図103 5区 SB13 平面図・エレベーション図

SB9

SB9は調査区西部で検出した桁行3間(約6.04m), 梁行1間(約4.44m)の南北棟の掘立柱建物跡であり, 床面積は約26.8㎡である。主軸方向はN-14° 36' -Eである。P59・60他で構成される。柱穴は直径約30cmの円形から不整形であり, 検出面からの深さは18~28cmである。埋土は褐灰色(10YR4/1)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物はない。

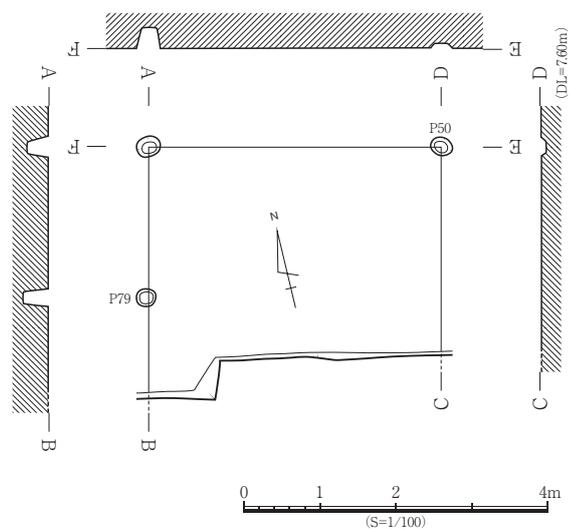


図104 5区 SB14 平面図・エレベーション図

SB10

SB10は調査区西部で検出した桁行4間(約7.33m), 梁行2間(約3.45m)の東西棟の掘立柱建物跡で

あり、床面積は約 25.3 m²である。主軸方向はN-79° 04' -Wである。P1 (1E区)・4 (1E区)・30・112・134・147 他で構成される。柱穴は直径約 20・40 cmの円形から不整形であり、検出面からの深さは8～42 cmである。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物はない。

SB11

SB11 は調査区西部で検出した桁行1間(約4.54m)、梁行2間(約3.75m)の南北棟の掘立柱建物跡であり、床面積は約 17.0 m²である。主軸方向はN-14° 16' -Eである。P3 (1E区)・9 (1E区)・51・120・141で構成される。柱穴は直径約 40 cmの円形から楕円形であり、検出面からの深さは14～39cmである。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物はない。

SB12

SB12 は調査区西部で検出した桁行2間(約6.76m)、梁行2間(約3.71m)の東西棟の掘立柱建物跡であり、床面積は約 25.1 m²である。主軸方向はN-75° 41' -Wである。P1 (1E区)・2 (1E区)・8 (1E区)・13 (1E区)・28・97 他で構成される。柱穴は直径約 40 cmの円形から楕円形であり、検出面からの深さは13～55 cmである。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物はない。

SB13

SB13は調査区西部で検出した桁行3間(約5.30m)、梁行2間(約3.64m)の東西棟の掘立柱建物跡であり、床面積は約19.3m²である。主軸方向はN-84° 16' -Wである。P19・22・23・27・124・ST15_P9で構成される。柱穴は直径約40cmの円形から不整形であり、検出面からの深さは15～39cmである。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物はない。

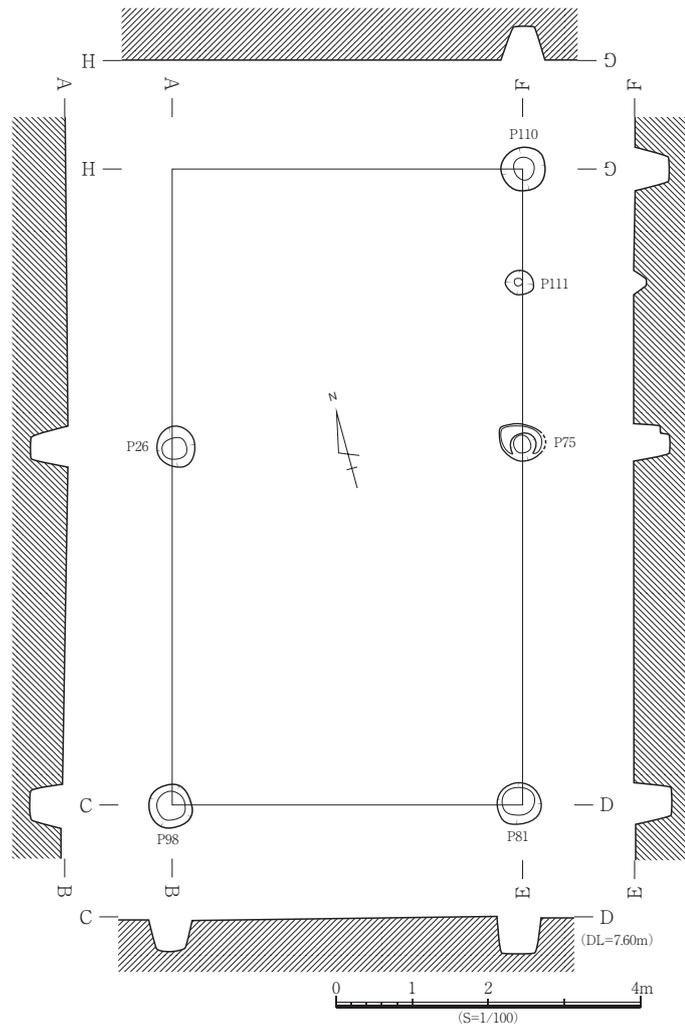


図105 5区 SB15 平面図・エレベーション図

SB14

SB14は調査区西部で検出した掘立柱建物跡である。桁行は2間(約1.92m)以上、梁行1間(約3.84m)の南北棟の建物跡である。主軸方向はN-13° 19' -Eである。P50・79他で構成される。柱穴は直径約30cmの円形から不整形円形であり、検出面からの深さは9～35cmである。埋土は褐灰色(10YR4/1)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物はない。

SB15

SB15は調査区中央部で検出した桁行3間(約8.43m)、梁行1間(約4.61m)の南北棟の掘立柱建物跡であり、床面積は約38.8㎡である。主軸方向はN-15° 04' -Eである。P26・75・81・98・110・111で構成される。柱穴は直径約60cmの円形から不整形であり、検出面からの深さは16～50cmである。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物はない。

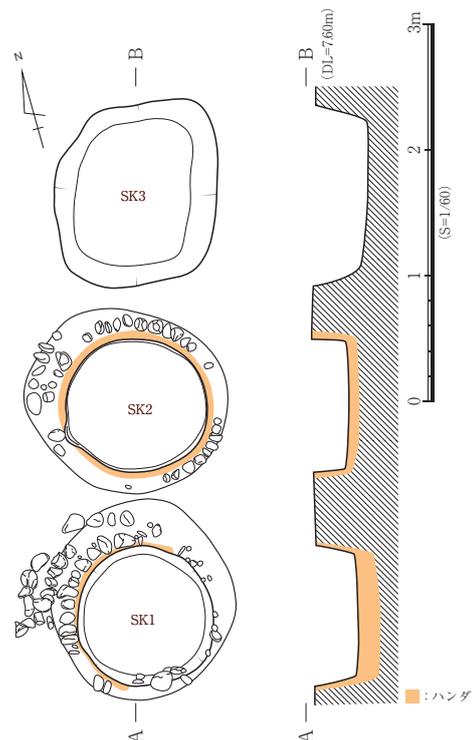


図106 1E区 SK1・2・3
平面図・エレベーション図

3.SK

SK1

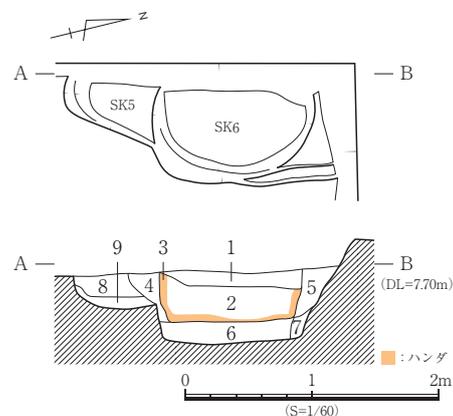
SK1は1E区で検出した平面形が円形のハンダ土坑である。長軸の検出長は約1.58m、短軸の検出長は約1.42mを測り、検出面からの深さは約53cmである。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SK2

SK2は1E区で検出した平面形が楕円形のハンダ土坑である。長軸の検出長は約1.57m、短軸の検出長は約1.43mを測り、検出面からの深さは約62cmである。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。



遺構埋土

1. 黒褐色(10YR2/3)シルト質細粒砂に3.0～5.0cm大の円礫を多く含む(SK6)
2. 黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトに5.0～10.0cm大の円礫を多く含むハンダを非常に多く含む(SK6)
3. 明黄褐色(10YR6/6)シルト質粗粒砂(SK6_ハンダ)
4. 褐色(10YR4/4)シルト質細粒砂に10.0cm大の礫を含む(SK6_掘方)
5. 暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトに1.0～3.0cm大の礫を含む(SK6_掘方)
6. 黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトに中粒砂と1.0cm大の礫を多く含む(SK6_掘方)
7. 暗褐色(10YR3/3)粘土質シルトに粗粒砂を含む(SK6_掘方)
8. 黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトに3.0cm大の礫を含む(SK5)
9. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト(SK5)

図107 1E区 SK5・6 平面図・断面図

SK3

SK3は1E区で検出した平面形が隅丸方形の土坑である。長軸の検出長は約 1.46 m, 短軸の検出長は約 1.28 mを測り, 検出面からの深さは約 41 cmである。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-16° -Eである。

図示した出土遺物はない。

SK4

SK4は1E区で検出した土坑である。長軸の検出長は約 1.17 m, 短軸の検出長は約 0.54 mを測り, 検出面からの深さは約 53 cmである。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SK5

SK5は1E区で検出した土坑である。長軸の検出長は約 0.73 m, 短軸の検出長は約 0.47 mを測り, 検出面からの深さは約 22 cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SK6

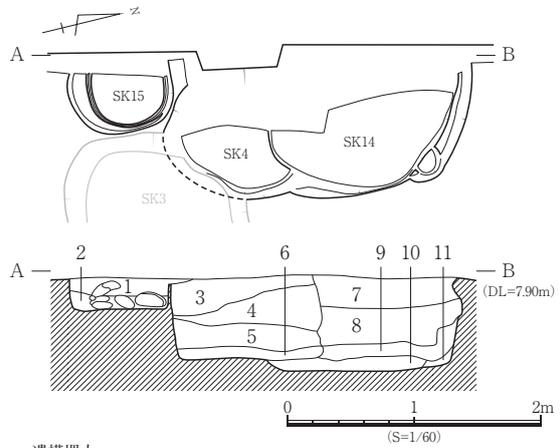
SK6は1E区で検出したハンダ土坑である。平面形は直径約 1.35 mの円形か。検出面からの深さは約 41 cmである。埋土は黒褐色(10YR2/3)シルト質細粒砂である。

図示した出土遺物はない。

SK7

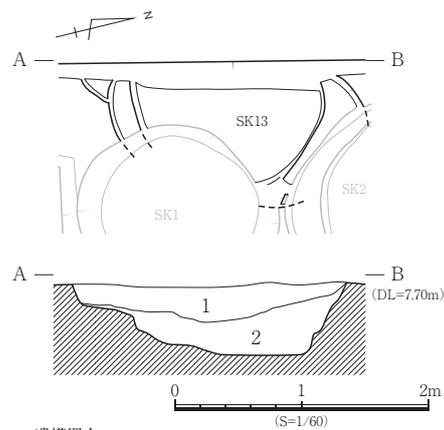
SK7は1E区で検出した土坑である。平面形は不整隅丸長方形か。長軸の検出長は約 1.32 m, 短軸の検出長は約 0.50 mを測り, 検出面からの深さは約 5 cmである。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-12° -Eである。

図示した出土遺物はない。



- 遺構埋土
1. 黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトに5.0~20.0cm大の円礫を非常に多く含む(SK15)
 2. 黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを含む(SK15掘方か)
 3. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを含み3.0~10.0cm大の礫を非常に多く含む(SK4)
 4. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトに黄色シルトブロックと5.0~10.0cm大の礫を含む(SK4)
 5. 灰黄褐色(10YR4/2)粘土質シルトに10.0~15.0cm大の円礫を含む(SK4)
 6. 明黄褐色(10YR6/6)粘土質シルトに5.0cm大の礫を多く含む(SK4)
 7. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトに1.0cm大の礫を少量含む(SK14)
 8. 黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを多く含む(SK14)
 9. 黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを非常に多く含む(SK14)
 10. 黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトに黄色シルトブロックと炭化物を含む(SK14)
 11. 暗褐色(10YR3/4)粘土質シルトに粗粒砂と1.0~5.0cm大の礫を含む(SK14)

図108 1E区 SK4・14・15 平面図・断面図



- 遺構埋土
1. 黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトに0.5cm大の黄色礫と3.0~5.0cm大の円礫を多く含む
 2. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを含み5.0~15.0cm大の円礫を非常に多く含む

図109 1E区 SK13 平面図・断面図

SK8

SK8は1E区で検出した平面形が楕円形の土坑である。長軸約1.56m、短軸の検出長は約0.85mを測り、検出面からの深さは約9cmである。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-10°-Eである。

図示した出土遺物はない。

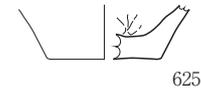


図110 5区 SK2 出土遺物実測図

SK9

SK9は1E区で検出した土坑である。平面形は長方形か。長軸の検出長は約1.75m、短軸約0.76mを測り、検出面からの深さは約23cmである。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-75°-Wである。

図示した出土遺物はない。

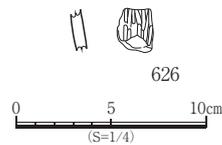


図111 5区 SK3 出土遺物実測図

SK10

SK10は1E区で検出した平面形が隅丸方形の土坑である。長軸の検出長は約0.92m、短軸の検出長は約0.79mを測り、検出面からの深さは約23cmである。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-74°-Wである。

図示した出土遺物はない。

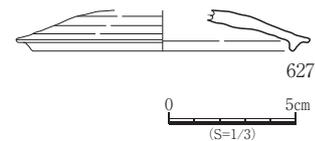


図112 5区 SK4 出土遺物実測図

SK11

SK11は1E区で検出した土坑である。平面形は隅丸方形か。長軸の検出長は約0.79m、短軸の検出長は約0.70mを測り、検出面からの深さは約12cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質細粒砂である。主軸方向はN-19°-Eである。

図示した出土遺物はない。

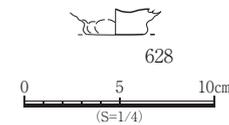


図113 5区 SK5 出土遺物実測図

SK12

SK12は1E区で検出した平面形が楕円形の土坑である。長軸の検出長は約0.88m、短軸の検出長は約0.70mを測り、検出面からの深さは約6cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質細粒砂である。主軸方向はN-16°-Wである。

図示した出土遺物はない。

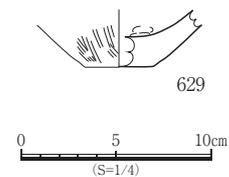


図114 5区 SK6 出土遺物実測図

SK13

SK13は1E区で検出した土坑である。平面形は円形あるいは隅丸長方形か。長軸約2.02m、短軸の検出長は約0.83

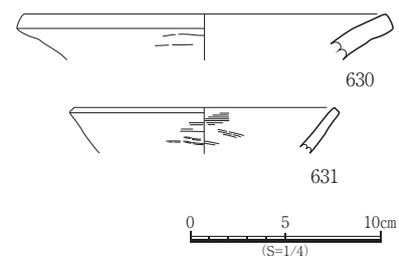


図115 5区 SK7 出土遺物実測図

mを測り、検出面からの深さは約43cmである。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルト他である。
 図示した出土遺物はない。

SK14

SK14は1E区で検出した土坑である。平面形は隅丸方形か。長軸の検出長は約1.69m、短軸の検出長は約0.74mを測り、検出面からの深さは約63cmである。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物はない。

SK15

SK15は1E区で検出した土坑である。平面形は直径約0.82mの円形か。検出面からの深さは約23cmである。埋土は黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SK1

SK1は5区西部で検出した平面形が不整隅丸方形の土坑である。長軸の検出長は約1.64m、短軸の検出長は約1.42mを測り、検出面からの深さは約23cmである。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-84° -Eである。

図示した出土遺物はない。

SK2

SK2は5区西部で検出した平面形が不整隅丸方形の土坑である。長軸の検出長は約1.24m、短軸の検出長は約0.98mを測り、検出面からの深さは約10cmである。主軸方向はN-17° -Eである。

図示した出土遺物は、弥生土器の底部(625)である。平底であり、外底面にはナデ調整を施す。底端部には稜が立つ。体部は内外面ともナデ調整を施す。

SK3

SK3は5区東部の攪乱である。

図示した出土遺物は、弥生土器の体部片(626)である。外面は縦方向のヘラミガキ調整、内面はナデ調整である。外面にはベンガラが付着が認められる。高杯の脚部か、あるいは壺の頸部か。

SK4

SK4は5区中央部で検出した平面形が円形の土坑で

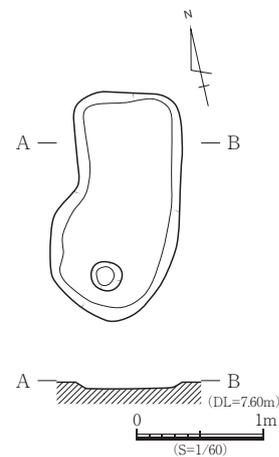


図116 5区 SK8
 平面図・エレベーション図

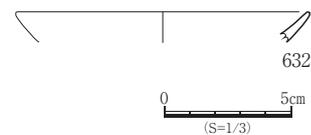


図117 5区 SK8 出土遺物実測図

ある。SK25を切る。長軸の検出長は約1.09 m、短軸の検出長は約1.06 mを測り、検出面からの深さは約7cmである。主軸方向はN-26° -Eである。

図示した出土遺物は、須恵器の蓋(627)である。内面にかえりを付す。天井部外面は回転ヘラケズリ調整か。口縁部および内面は回転ナデ調整で仕上げる。

SK5

SK5は5区東部で検出した平面形が隅丸方形の土坑である。長軸の検出長は約1.85 m、短軸の検出長は約1.06 mを測り、検出面からの深さは約10 cmである。主軸方向はN-78° -Wである。

図示した出土遺物は、弥生土器の底部(628)である。平底であり、外底面にはナデ調整を施す。内面はナデ調整を施す。端部は接合面で剥離している。

SK6

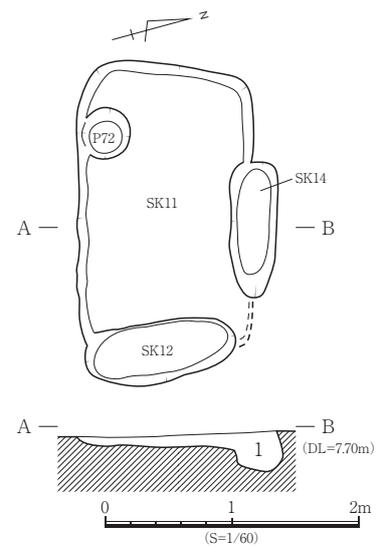
SK6は5区中央部で検出した平面形が不整楕円形の土坑である。長軸の検出長は約1.24 m、短軸の検出長は約0.88 mを測り、検出面からの深さは6～28 cmである。埋土は褐灰色(10YR4/1)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-88° -Wである。

図示した出土遺物は、弥生土器の底部(629)である。角の取れた平底であり、外底面にはナデ調整を施す。体部外面はタテハケ調整、内面はナデ調整を施す。

SK7

SK7は5区中央部で検出した平面形が不整隅丸三角形の土坑である。長軸の検出長は約1.14 m、短軸の検出長は約0.84 mを測り、検出面からの深さは約26 cmである。埋土は褐灰色(10YR5/1)細粒砂質シルト他である。主軸方向はN-20° -Eである。

図示した出土遺物は、弥生土器の壺(630)・鉢(631)である。630は壺である。口縁部は大きくひらき、口唇部はハケ状原体により面取りを施す。内外面ともヨコナデ調整を施す。631は鉢である。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はヨコハケ調整およびナデ調整を施す。



遺構埋土
1. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトに地山ブロックを含む

図118 5区 SK11・14
平面図・断面図

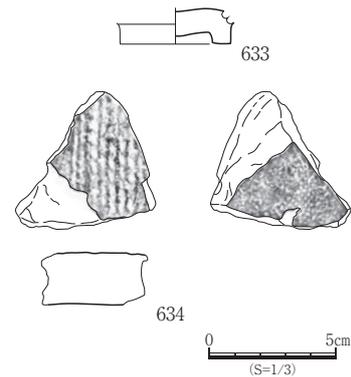
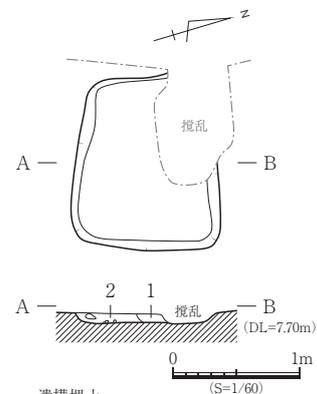


図119 5区 SK11 出土遺物実測図



遺構埋土
1. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルト
2. 灰黄褐色(10YR6/2)細粒砂質シルトと灰黄褐色(10YR5/2)細粒砂質シルトが層状に堆積し黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトブロックを含む

図120 5区 SK13 平面図・断面図

SK8

SK8は5区西部で検出した平面形が不整隅丸長方形の土坑であり、複数の土坑が重複している可能性がある。長軸の検出長は約1.84m、短軸の検出長は0.82~1.00mを測り、検出面からの深さは約11cmである。埋土は黒褐色(10YR2/3)極細粒砂質シルトである。主軸方向はN-21°-Eである。

図示した出土遺物は、陶器の皿(632)であり、ロクロ成形である。

SK9

SK9は5区西部で検出した土坑であり、ピットが重複したものである。西側のピットは直径約0.56mの不整円形で、検出面からの深さは約5cmである。東側のピットは直径約0.48mの不整円形で、検出面からの深さは約5cmである。

ともに図示した出土遺物はない。

SK10

SK10は5区中央部北壁際で検出した土坑である。SB1を区画する柵を構成する柱穴の一つである。検出面から底までは深いことが予測され、北側は調査予定範囲であることから、底まで掘り切っていない。

図示した出土遺物はない。

SK11

SK11は5区中央部で検出した平面形が隅丸長方形の土坑である。SK12、SK14と重複するものの、新旧関係は判然としない。長軸の検出長は約2.26m、短軸の検出長は約1.40mを測り、検出面からの深さは約10cmである。埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-72°-Wである。

図示した出土遺物は、青磁の碗(633)、平瓦(634)である。633は碗である。削り出し高台である。高台および外底面は露胎となる。内面には透明感のある灰オリーブ色の釉薬を施す。畳付は摩滅する。634は平瓦である。凸面には縄目痕、凹面には布目の圧痕がみられる。

SK12

SK12は5区中央部で検出した平面形が長楕円形の土坑

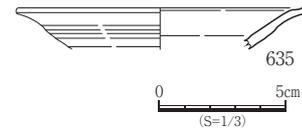


図121 5区 SK14 出土遺物実測図

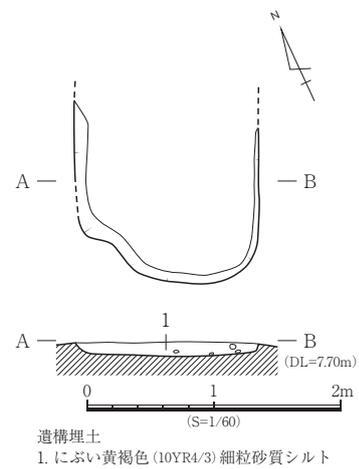


図122 5区 SK15 平面図・断面図

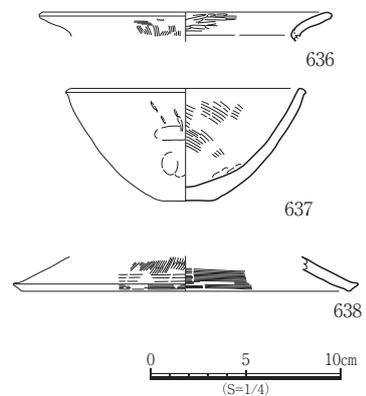


図123 5区 SK15 出土遺物実測図

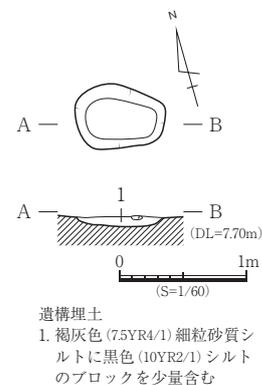


図124 5区 SK17 平面図・断面図

である。長軸の検出長は約1.21 m, 短軸の検出長は約0.48 mを測り, 検出面からの深さは約21cmである。主軸方向はN-7° -Eである。

図示した出土遺物はない。

SK13

SK13は5区東部で検出した平面形が隅丸長方形の土坑である。SK26と重複するものの, 新旧関係は判然としない。長軸の検出長は約1.39 m, 短軸の検出長は約1.18 mを測り, 検出面からの深さは約10 cmである。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-74° -Wである。

図示した出土遺物はない。

SK14

SK14は5区中央部で検出した平面形が長楕円形の土坑である。SK11と重複するものの, 新旧関係は判然としない。長軸の検出長は約1.08 m, 短軸の検出長は約0.39 mを測り, 検出面からの深さは約29 cmである。埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-73° -Wである。

図示した出土遺物は, 陶器の皿(635)である。ロクロ成形であり, 口縁部内面および内底面境に沈線がみられる。透明釉を施釉する。

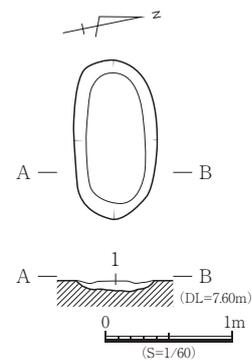


図125 5区 SK18 平面図・断面図

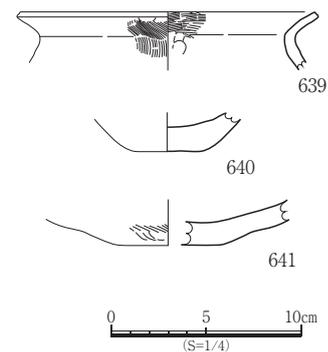


図126 5区 SK18 出土遺物実測図

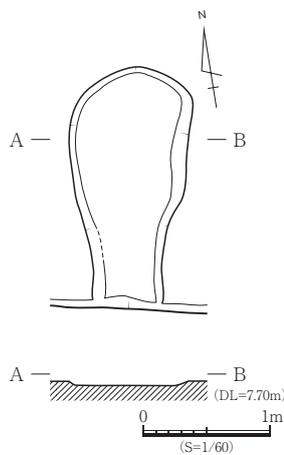


図127 5区 SK19
平面図・エレベーション図

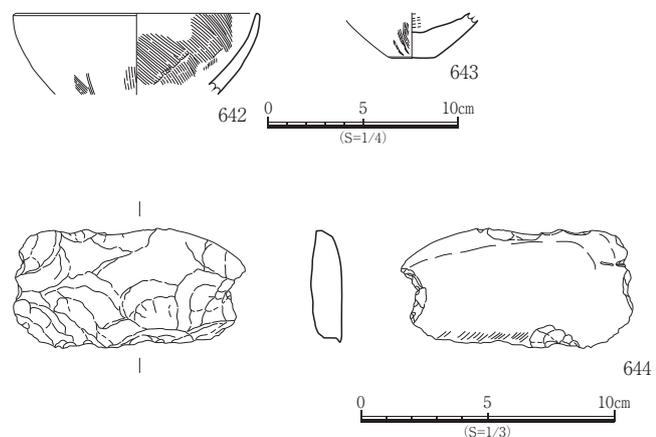


図128 5区 SK19 出土遺物実測図

SK15

SK15は5区東部で検出した土坑である。SK26と重複するものの、新旧関係は判然としない。平面形は不整隅丸長方形か。長軸の検出長は約1.36m、短軸の検出長は約1.46mを測り、検出面からの深さは約10cmである。埋土はにぶい黄褐色(10YR4/3)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-23°-Eである。

図示した出土遺物は、弥生土器の甕(636)・鉢(637)・高杯(638)である。

636は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部を丸くおさめる。外面はタテハケ調整およびヨコナデ調整を施す。内面はヨコハケ調整後、横方向のヘラミガキ調整を施す。637は鉢である。体部は半球形を呈する。内底面から押し出すことで成形する。底部は角の取れた平底であり、外底面にはナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面は斜め方向のハケ調整を施し、内底面付近にはナデ調整を施す。638は高杯である。裾部は大きくひらき、脚端部にはハケ状原体による面取りを施す。裾部外面はタテハケ調整、内面はヨコハケ調整を施す。搬入品か。蓋として使用か。

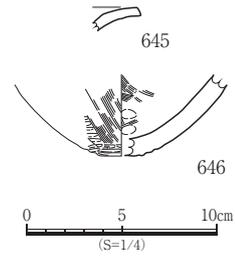
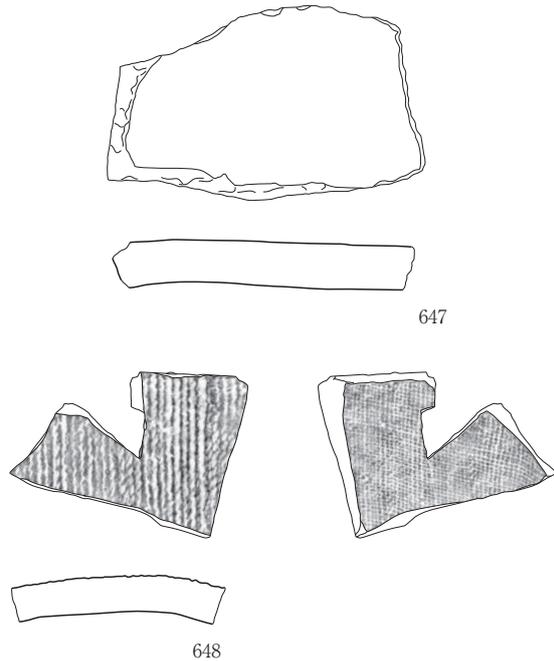


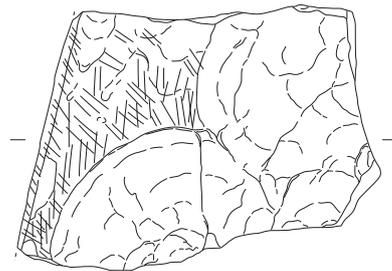
図129 5区 SK22・SX2
出土遺物実測図



SK17

SK17は5区西部で検出した平面形が不整楕円形の土坑である。長軸の検出長は約0.77m、短軸の検出長は約0.52mを測り、検出面からの深さは約7cmである。埋土は褐灰色(7.5YR4/1)細粒砂質シルト他である。主軸方向はN-71°-Wである。

図示した出土遺物はない。



SK18

SK18は5区西部で検出した平面形が楕円形の土坑である。長軸の検出長は約1.27m、短軸の検出長は約0.70mを測り、検出面からの深さは約8cmである。埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-79°-Wである。

図示した出土遺物は、弥生土器の甕(639)・

図130 5区 SK25 出土遺物実測図

底部(640・641)である。

639は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部にはルーズな面取りを施す。口縁部外面はタテハケ調整、内面にはヨコハケ調整を施す。体部外面はタテハケ調整、内面はナデ調整を施す。640は底部である。角の取れた平底であり、外底面にはナデ調整を施す。体部は内外面ともナデ調整を施す。641は底部である。角の取れた平底であり、外底面にはナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後、ナデ調整、内面はナデ調整を施す。

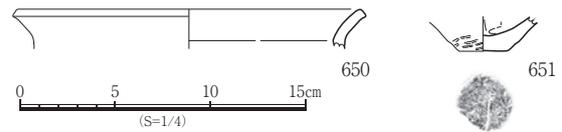


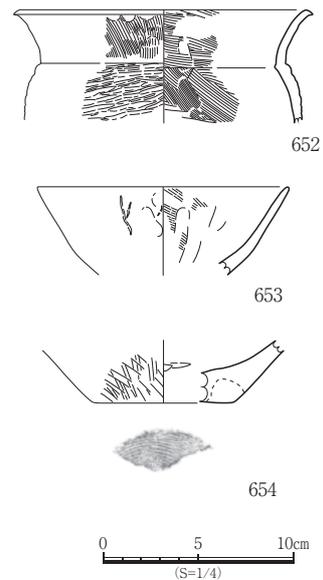
図131 5区 SK26 出土遺物実測図

SK19

SK19は5区中央部で検出した溝跡と考えられる。幅0.56～0.94m，検出面からの深さは約6cmであり，埋土は黒褐色(7.5YR3/1)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-10° -Eである。検出長は約1.90mである。

図示した出土遺物は、弥生土器の鉢(642)・底部(643)，石包丁(644)である。

642は鉢である。体部は半球形を呈する。口唇部は丸くおさめる。体部外面の上半部はナデ調整，下半部はタテハケ調整を施す。内面は斜め方向のハケ調整である。643は底部である。角の取れた平底であり，外底面は叩き調整後，ナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後，ナデ調整を施す。内面はヘラナデ調整を施す。644は礫岩製の打製石包丁である。一面は自然面，他面は主要剥離面を大きく残す。両端部に紐掛け用の抉りを入れる。片刃であり，コーングロスの付着がみられる。完存である。



SK20

SK20は5区中央部で検出した土坑である。調査区外へひろがる。長軸の検出長は約0.36m，短軸約0.33mを測り，検出面からの深さは約6cmである。埋土は黒褐色(7.5YR3/1)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-11° -Eである。

図示した出土遺物はない。

SK21

SK21は5区中央部で検出した土坑である。調査区外へひろがる。長軸の検出長は約0.35m，短軸約0.44mを測り，検出面からの深さは約12cmである。埋土は黒褐色(7.5YR3/1)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-15° -Eである。

図示した出土遺物はない。

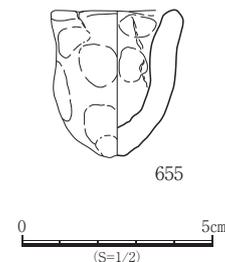


図132 5区 SK27 出土遺物実測図

SK22

SK22は5区東部で検出した土坑である。平面形は隅丸長方形か。長軸の検出長は約2.90 m, 短軸約1.32 mを測り, 検出面からの深さは約8cmである。主軸方向はN-17° -Eである。

図示した出土遺物は, 弥生土器の壺(645)・底部(646)である。

645は壺である。口縁部は大きくひらき, 口唇部には面取りを施す。口縁部は内外面ともヨコナデ調整で仕上げる。口縁部外面はタテハケ調整, 内面はヨコハケ調整を施す。646は底部である。底部の形状等は残存部位からは判然としない。体部外面は叩き調整後, ハケ調整を施す。内面はナデ調整であり, ハケメがみられる。

SK23

SK23は5区東部で検出した平面形が不整隅丸方形の土坑である。長軸の検出長は約1.04 m, 短軸の検出長は約0.91 mを測り, 検出面からの深さは約6 cmである。埋土は黒褐色(7.5YR3/2)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-2° -Wである。

図示した出土遺物はない。

SK24

SK24は5区東部で検出した平面形が不整楕円形の土坑である。長軸の検出長は約1.55 m, 短軸の検出長は約1.20 mを測り, 検出面からの深さは約11cmである。埋土はにぶい黄褐色(10YR4/3)細粒砂質シルト他である。主軸方向はN-74° -Eである。

図示した出土遺物はない。

SK25

SK25は5区中央部で検出した平面形が不整円形の土坑である。SK4に切られる。長軸の検出長は約1.14 m, 短軸の検出長は約0.96 mを測り, 検出面から約1.20mの深さまで掘削したものの, 斜め方向に掘られており, 崩落の危険性があったため底まで完掘はしていない。主軸方向はN-25° -Eである。近世以降の便所の跡か。

図示した出土遺物は, 平瓦(647・648), 砥石(649)である。

647は平瓦である。両面ともナデ調整である。激しく煤が付着し, 破断面にも煤が付着する。648は平瓦である。須恵質である。凸面には縄目痕, 凹面には布目の圧痕がみられる。649は砂岩製の砥石である。両面および側面を使用する。側面は光沢を帯びる。被熱により破損か。

SK26

SK26は5区東部で検出した平面形が隅丸長方形の土坑である。長軸の検出長は約2.16 m, 短軸の検出長は約1.50 mを測り, 検出面からの深さは約4cmである。主軸方向はN-75° -Eである。

図示した出土遺物は, 弥生土器の甕(650)・底部(651)である。

650は甕である。口縁部は「く」の字状を呈する。外面はヨコナデ調整, 内面はナデ調整を施す。651は底部である。角の取れた平底であり, 外底面にはナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後, ナデ調整を施す。内面はナデ調整を施す。

SK27

SK27は5区中央部で検出した平面形が不整形の土坑であり、複数の遺構が重複しているものと推測される。長軸の検出長は約3.58 m、短軸の検出長は約2.01 mを測り、検出面からの深さは約7cmである。主軸方向はN-83° -Wである。

図示した出土遺物は、弥生土器の甕(652)・鉢(653)・底部(654)、ミニチュア土器(655)である。

652は甕である。口縁部は緩やかな「く」の字状を呈し、口唇部には面取りを施す。口縁部外面は叩き調整後、タテハケ調整を施し、内面はヨコハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はハケ調整を施す。653は鉢である。口唇部を尖らせる。体部外面はナデ調整、内面はヨコハケ調整後、ナデ調整を施す。654は底部である。角の取れた平底であり、外底面にはハケ調整を施す。体部外面には叩き調整後、タテハケ調整を施し、内面にはナデ調整を施す。655はミニチュア土器である。甕形土器がモデルか。指を差し込み、指頭により成形する。内面にはしぼり目がみられる。

SK29

SK29は5区中央部で検出した平面形が不整隅丸方形の土坑である。長軸の検出長は約1.04 m、短軸の検出長は約0.89 mを測り、検出面からの深さは約5cmである。主軸方向はN-25° -Eである。

図示した出土遺物は、弥生土器の壺(656)・鉢(657)・底部(658)である。

656は壺である。口縁部は大きくひらき、口唇部はハケ状原体により面取りを施す。外面はヨコハケ調整、内面はヨコナデ調整である。657は鉢である。体部は半球形を呈し、口唇部は丸くおさめる。底部は角の取れた平底であり、僅かな段部を持つ。外底面にはナデ調整を施す。体部は内外面ともナデ調整を施す。658は底部である。平底であり、外底面にはナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はナデ調整であり、内底面には工具痕跡がみられる。

SK30

SK30は5区中央部で検出した平面形が隅丸方形の土坑である。長軸の検出長は約0.62 m、短軸の検出長は約0.58 mを測り、検出面からの深さは約12cmである。主軸方向はN-14° -Eである。

図示した出土遺物はない。

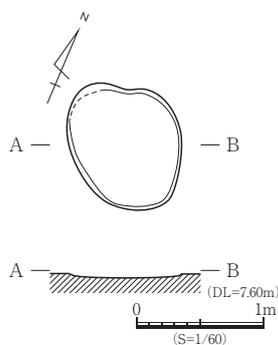


図133 5区 SK27
平面図・エレベーション図

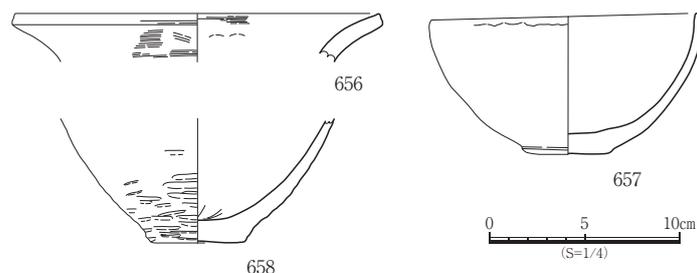
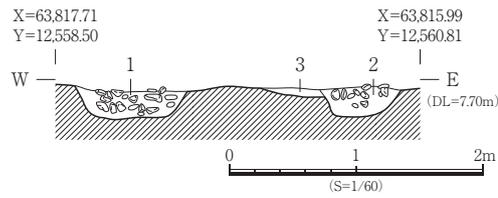


図134 5区 SK29 出土遺物実測図

SK31

SK31は5区西部で検出した平面形が楕円形の土坑として検出したものの、ピットが連結したものであった。北のピットは直径約0.36mの円形を呈し、検出面からの深さは約13cmである。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。南のピットは、直径約0.38mの円形を呈し、検出面からの深さは約11cmである。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。



遺構埋土

1. 黒褐色(7.5YR3/1)細粒砂質シルトに20.0cm大以下の河原石を含む(SD1)
2. 褐灰色(10YR4/1)細粒砂質シルトに10.0cm大以下の河原石を含む(SD2)
3. 黒褐色～暗褐色(10YR3/2～3/3)細粒砂質シルトに10.0cm大以下の河原石を極少量含む(SD3)

図135 5区 SD1～3 断面図

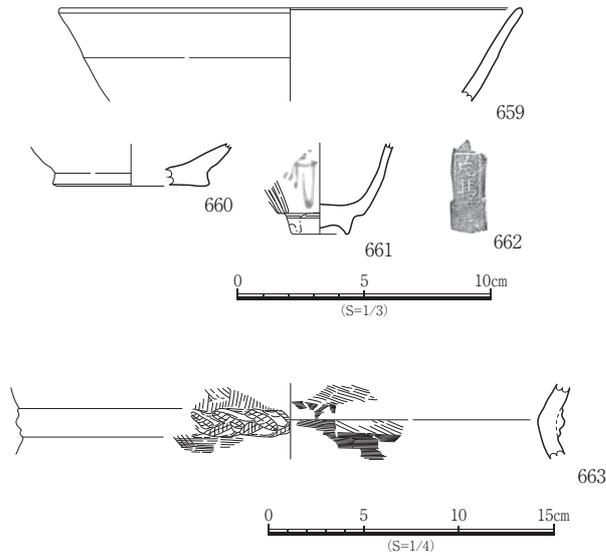


図136 5区 SD1 出土遺物実測図

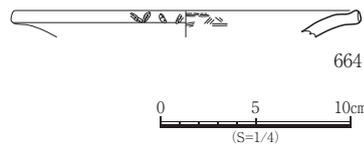


図137 5区 SD2 出土遺物実測図

SK32

SK32は5区で検出した平面形が不整形の土坑である。長軸の検出長は約0.87m、短軸の検出長は約0.25mを測り、検出面からの深さは約5cmである。主軸方向はN-13°-Wである。

図示した出土遺物はない。

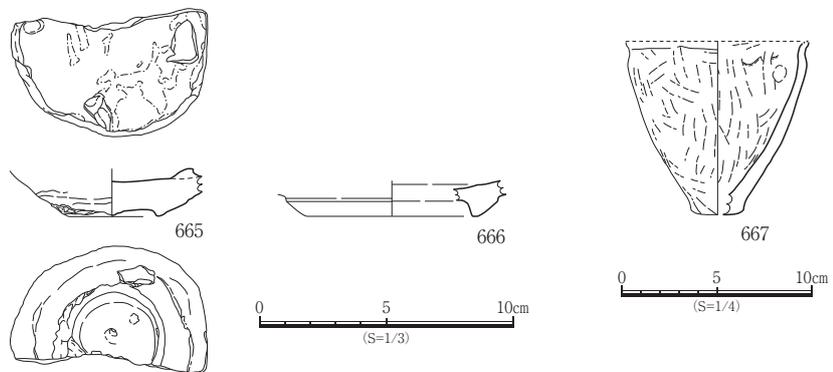


図138 5区 SD1・2 出土遺物実測図

4.SD

SD1

SD1は5区中央部で検出した南北方向の溝

跡である。SD2を切る。幅0.55～0.95m，検出面からの深さは約27cmであり，埋土は黒褐色(7.5YR3/1)細粒砂質シルトである。検出長は約4.10mである。主軸方向はN-46°-Eである。

図示した出土遺物は，陶器の碗(659)，土師器の椀(660)，磁器の瓶(661)，平瓦(662)，弥生土器の壺(663)である。

659は碗である。ロクロ成形である。内外面にピンホールがみられる。660は椀である。摩耗のため，調整等は不明である。また，底部の切離し手法も不明である。661は瓶である。外面は縦方向のケズリ調整を施す。「寿」の染付けを施す。高台は露胎である。662は平瓦である。端部の上端と下端に面取りを施し，側面に刻印が認められる。キラ粉がみられる。663は壺である。頸部外面はタテハケ調整，内面はハケ調整を施し，体部は内外面ともハケ調整を施す。頸部と胴部の境にはハケ状原体による綾杉文を施した扁平な突帯を貼付する。破断面には粘土接合痕跡がみられる。

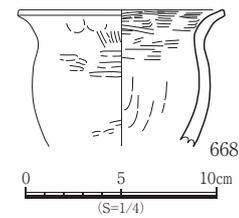


図139 5区 SX4
出土遺物実測図

SD2

SD2は5区中央部で検出した南北方向の溝跡である。SD1に切られる。幅0.54～0.87m，検出面からの深さは約23cmであり，埋土は褐灰色(10YR4/1)細粒砂質シルトである。検出長は約2.60mである。主軸方向はN-37°-Eである。

図示した出土遺物は，弥生土器の壺(664)である。口縁部は大きく外反し，口唇部にはハケ状原体による刻目を山形文状に施す。口縁部は内外面ともヨコナデ調整か。頸部外面はナデ調整，内面はミガキ調整を施す。

以下にはSD1あるいはSD2に帰属する遺物を図示した。665は陶器の皿である。ロクロ成形である。二次被熱により，発泡状態の部分があり，釉薬は溶解し，ピンホールがみられる。また，溶着片が付着する。666は陶器の皿である。ロクロ成形である。667は弥生土器の鉢である。体部はコップ状を呈し，口縁部を短く外反させる。底部はほぼ丸底を呈する。底端部は意識的に角をつくっている可能性がある。体部は内外面ともナデ調整を施す。

SD3

SD3は5区中央部で検出した南北方向の溝跡である。SD1と2に切られる。幅約90cm，検出面からの深さは約6cmであり，埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルト他である。検出長は約0.80mである。主軸方向はN-1°-Eである。

図示した出土遺物はない。

5.SX

SX4

SX4は5区北東部で検出した溝状の遺構である。溝状のシミか。

図示した出土遺物は，弥生土器の小型の甕(668)である。口縁部は緩やかな「く」の字状を呈し，口唇部には面取りを施す。口縁部外面はハケ調整後，指頭により成形する。内面はヨコハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後，ナデ調整を施し，内面はナデ調整を施す。

6. ピット

P20は、5区中央部北壁際で検出した遺構である。SB1を区画する柵を構成する柱穴の一つである。検出面から底までは深いことが予測され、北側は調査予定範囲であることから、底まで掘り切っていない。

669はP20から出土した弥生土器の壺である。頸部は外上方へのび、口縁部を短く外反させ、口唇部は丸くおさめる。口縁部は内外面ともヨコナデ調整で仕上げる。頸部外面は縦方向のヘラミガキ調整、内面はヨコナデ調整を施す。670はP45から出土した弥生土器の甕である。口縁部は緩やかな「く」の字状を呈し、口唇部にはハケ状原体による面取りを施す。内外面ともヨコナデ調整を施す。671はP95から出土した弥生土器の壺である。口縁部は水平ちかく外反させ、口唇部を摘み上げる。内外面ともナデ調整を施す。672はP20から出土した弥生土器の壺である。口唇部を下方へ拡張し、5条1単位の櫛描波状文および刺突文を施す。外面はヘラミガキ調整、内面はヨコナデ調整を施す。673はP20から出土した弥生土器の甕である。口縁端部を上方へ拡張し、2条の凹線文を施す。内外面ともヨコナデ調整を施す。674はP95から出土した弥生土器の甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部は丸くおさめる。口縁部外面は叩き調整後、ハケ調整を施す。内面はナデ調整である。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施し、下半部にはタテハケ調整を施す。内面はヨコハケ調整後、ナデ調整を施す。底部は角の取れた平底であり、外底面は叩き調整後、ナデ調整を施す。675はP95から出土した弥生土器の鉢である。体部は半球形を呈し、口縁端部を摘み上げる。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施し、内面はハケ調整を施す。底部はほぼ丸底を呈し、ヘラナデ調整により丸底化を試みる。676はP158から出土した弥生土器の鉢である。体部は半球形を呈し、口唇部には面取りを施す。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はナデ調整後、ヘラミガキ調整を疎らに施す。底部は角の取れた平底であり、外底面は未調整にちかく軽くナデ調整を施す程度である。677はP74から出土した弥生土器の底部である。角の取れた平底であり、外底面にはナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を丁寧に施し、内面にはヘラナデ調整を施す。678はP151から出土した弥生土器の底部である。ほぼ丸底であり、外底面にはナデ調整を施す。体部外面はタテハケ調整およびナデ調整を施す。内面はナデ調整である。679はP95から出土した支脚である。短い中実の脚部から裾部は水平にひらく。指頭により成形し、指頭圧痕がみられる。上面はナデ調整により平滑に仕上げられていることから脚付き鉢の可能性がある。680はP92から出土した弥生土器の低脚の高杯である。裾部は「ハ」の字形を呈する。外面は縦方向のヘラミガキ調整、内面はナデ調整およびハケ調整を施す。杯部内底面には工具の静止痕跡がみられる。681はP101から出土した弥生土器の甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部にはハケ状原体により面取りを施す。外面はヨコナデ調整、内面はヨコハケ調整である。682はP83から出土した土師器の杯である。回転ナデ成形である。683はP34から出土した土師質土器の皿である。回転ナデ成形である。外底面にはナデ調整を丁寧に施す。684はP115から出土した陶器の鉢である。ロクロナデ成形である。685はP37から出土した管状土錘である。半分以上を欠損するものの、本来は円柱状を呈していたと推測される。穿孔は小口面から斜めに入る。686はP72から出土した平瓦である。凹面には縄目痕がみられる。凸面は摩耗のため調整等は不明である。687はP108から出土した平瓦である。凸面には縄目痕、凹面には布目の圧痕がみられる。688はP108から出土した平瓦である。側面は斜めに面取りされる。凸面には縄目痕、凹面には布目の圧痕がみられる。被熱により変色する。激しく煤が付着し、破断面にも煤が付着する。

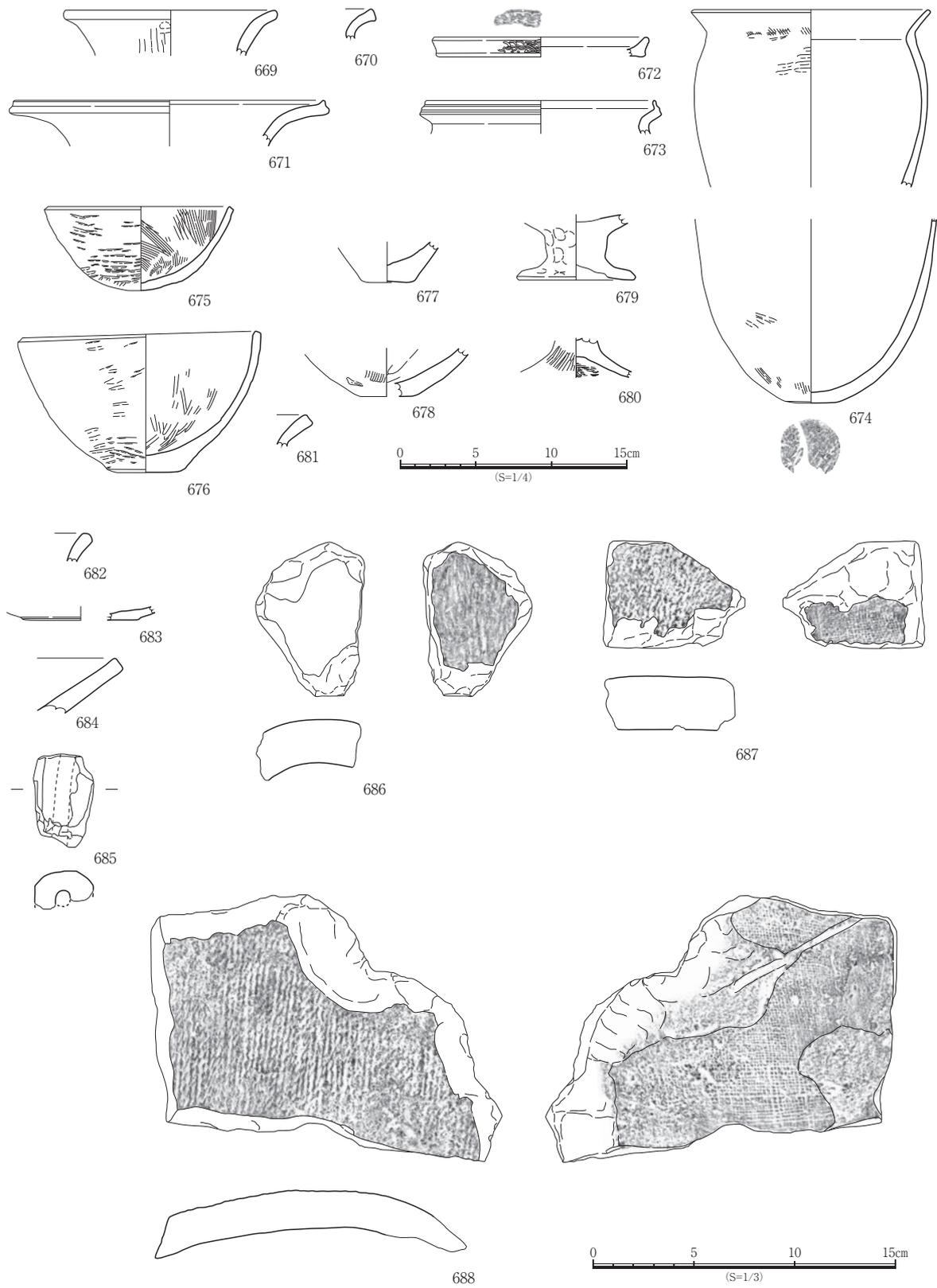


図140 5区 ピット 出土遺物実測図

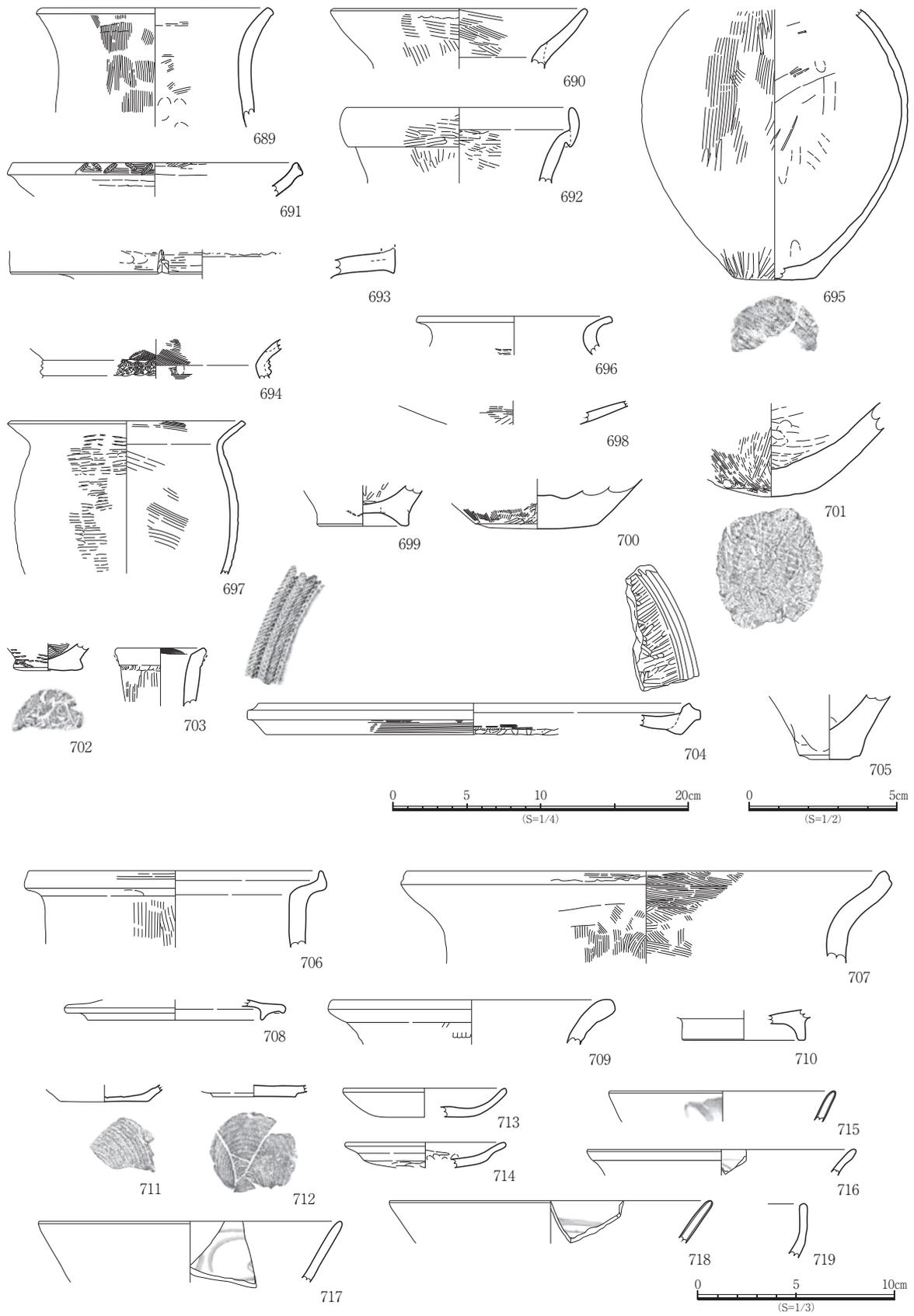


图141 5区 遺構外出土遺物実測図_1

7. 遺構外出土遺物

図示した出土遺物は、弥生土器の壺・甕・鉢・底部・高杯・器台、ミニチュア土器、土師器の甕、須恵器の蓋・壺、緑釉陶器の碗、土師質土器の皿、瓦器の皿、青磁の碗、陶器の皿、磁器のミニチュア、叩石である。

689は弥生土器の壺である。頸部は直立し、口縁部を僅かに外反させ、口唇部には面取りを施す。頸部外面は叩き調整後、タテハケ調整を密に施す。内面はナデ調整およびハケ調整を施す。690は弥生土器の壺である。口縁部は内湾してひろがり、口唇部にはルーズな面取りを施す。内外面ともハケ調整を施す。691は弥生土器の壺である。口唇部にはハケ状原体により面取りを施し、刻目を山形文状に入れる。外面は横方向のヘラミガキ調整を施し、内面にはヨコナデ調整を施し、ミガキ状を呈する部分がある。692は弥生土器の複合口縁壺である。口縁部はやや内傾し、外面は粗いヨコハケ調整、内面はヨコナデ調整を施す。頸部外面は縦方向のヘラミガキ調整を施す。内面は斜め方向のハケ調整後、ヘラミガキ調整を施す。693は弥生土器の複合口縁壺である。二次口縁部は接合面で剥離する。口唇部にはハケ状原体により面取りを施す。内外面ともヨコナデ調整を施す。694は弥生土器の壺である。頸部は内外面とも斜め方向のハケ調整を施す。体部外面は斜め方向のハケ調整、内面はヨコハケ調整を施す。頸部と胴部の境にはハケ状原体による斜格子文を施した扁平な突帯を貼付する。695は弥生土器の壺である。体部は最大径部を上胴部から中位に持つ。底部は角の取れた平底であり、外底面にはヘラミガキ調整を施す。体部外面はタテハケ調整を施し、底部付近は縦方向のヘラミガキ調整を施す。内面はヘラケズリ調整である。器壁はうすい。696は弥生土器の甕である。口唇部にはルーズな面取りを施す。口縁部は内外面ともヨコナデ調整を施す。体部外面は叩き調整、内面はナデ調整である。697は弥生土器の甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部にはルーズな面取りを施す。口縁部外面は上胴部からの一連の叩き調整後、指頭により成形する。内面はハケ調整である。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施し、内面はハケ調整を施す。698は弥生土器の鉢である。外面は叩き調整後、ナデ調整を施し、内面はナデ調整を施す。内面には赤色顔料が付着する。699は弥生土器の底部である。上げ底であり、外底面にはヘラミガキ調整を施す。外面は荒れ、調整等は不明瞭である。内面にはヘラミガキ調整を施す。700は弥生土器の壺の底部である。角の取れた平底であり、底面はやや丸みを持つ。外底面はナデ調整か、あるいは上から押し付けて平滑とする。体部外面はタテハケ調整後、縦方向のヘラミガキ調整を施し、内面は強いナデ調整を施す。701は弥生土器の壺の底部である。丸底であり、外底面は叩き調整後、ナデ調整を施す。外底端部にハケ調整を施し、丸底とする。体部外面は叩き調整後、ハケ調整を施す。内面はナデ調整である。702は弥生土器の底部である。突出した平底である。外底面は未調整にちかく、植物質の圧痕がみられる。体部外面は叩き調整後ナデ調整を施し、内面はハケ調整を施す。703は弥生土器の高杯である。外面は縦方向のミガキ調整、内面はナデ調整である。杯部は接合面で剥離する。704は弥生土器の器台である。口縁端部に粘土を貼付し、拡張する。断面には接合痕跡がみられる。下端部には貼付のための指頭圧痕がみられる。口縁部を文様帯とする。上端部と下端部には面取りを施す。列点文、半截竹管文、むきを変えた半截竹管文を上

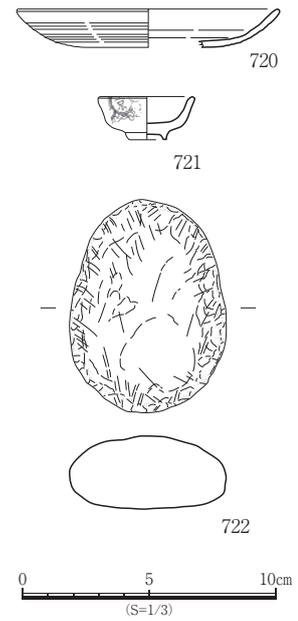


図142 5区 遺構外
出土遺物実測図_2

下に組み合わせて「S」の字状の文様帯を配置する。外面はヨコハケ調整, 内面はヘラミガキ調整である。705はミニチュア土器である。鉢形土器がモデルか。内外面ともナデ調整を施す。706は土師器の甕である。口縁部を上方へ拡張させる。口縁部外面はヨコハケ調整, 内面はヨコナデ調整である。体部外面はタテハケ調整, 内面はナデ調整を施す。707は土師器の甕である。口縁部は内湾気味に外反し, 上方へ摘み上げる。口唇部にはハケ状原体により面取りを施す。口縁部外面はナデ調整, 内面はヨコハケ調整を施す。体部外面はタテハケ調整, 内面はヨコハケ調整である。708は須恵器の蓋である。内面にかえりを付す。内外面とも回転ナデ調整で仕上げる。709は須恵器の壺である。口縁端部を僅かに肥厚させる。内外面とも回転ナデ調整で仕上げる。710は緑釉陶器の碗である。内外面とも回転ナデ調整を施す。残存部には灰黄色の釉薬を施す。711は土師質土器の皿である。回転ナデ成形であり, 外底面には回転糸切り痕跡がみられる。712は土師質土器の皿である。回転ナデ成形であり, 外底面には回転糸切り痕跡がみられる。713は土師質土器の皿である。回転ナデ成形であり, 外底面は回転糸切り後, ナデ調整を施す。714は瓦器の皿である。口縁部は内外面ともヨコナデ調整で仕上げる。体部外面には指頭圧痕がみられ, 内面はミガキ調整を施す。炭素の吸着が弱い。715は青磁の碗である。外面には蓮弁文を施す。716は青磁の碗である。口縁部は僅かに玉縁状を呈する。内面には劃花文を施す。717は青磁の碗である。内面には劃花文を施す。貫入がみられる。718は青磁の碗である。光沢のあるオリブ灰色の釉薬を施す。内面には劃花文を施す。719は青磁の碗である。光沢のある釉薬を施す。貫入がみられる。720は陶器の皿である。ロクロ成形である。口縁部に灯芯油痕跡がみられ, 灯明皿として使用されたと考えられる。721は磁器のミニチュアである。外面には染付を施す。畳付は釉剥ぎか。722は砂岩製の叩石である。全面に敲打痕跡が認められる。完存である。

注

- 1 『若宮ノ東遺跡Ⅰ』第Ⅳ章2, 参照。
- 2 支柱穴間を小溝で連結するという特徴から考えるとこのSX2_P20はST16の支柱穴ではない可能性がある。一方, ST8の支柱穴とされているST8_19がST16の支柱穴の候補となってくる。このピットはテラスを持ち, 重複している可能性があり, ST16とST8の支柱穴となる可能性も十分ある。
- 3 柱穴は半掘あるいは4分割して調査をすすめた。各柱穴とも深く, 断面観察時の作業スペースを十分確保できなかつたため下層については分層できなかつた柱穴がある。

第3節 6-1区

1.ST

ST1

ST1は調査区西部で検出した平面形が方形の竪穴建物跡であり、南半は調査区外にひろがる。東西約7.86m、南北の検出長は約5.27mを測り、床面積は約61.7㎡である。主軸方向はN-11° -Eである。検出面から床面までの深さは約27cmであり、埋土は黒色(10YR1.7/1)細粒砂質シルト他である。床面では中央ピット(ST1_SK1)、支柱穴(ST1_P6・8・10・12、ST1_P2・5・9・13他)、壁溝(ST1_SD1)等の遺構を検出した。中央ピット(ST1_SK1)は床面中央やや南寄りで検出した。長軸約1.70m、短軸約0.64mの長楕円形を呈する。床面からの深さは約16cmであり、埋土は黒色(10YR1.7/1)細粒砂質シルト他である。ST1_P11と複合型の燃焼施設を構成する可能性がある。ST1_P11は長軸約60cm、短軸約52cmの不整円形を呈し、床面からの深さは約25cmを測る。埋土は黒色(10YR1.7/1)細粒砂質シルトである。

支柱穴は対角線上に配置されたST1_P6・8・10・12の4本柱で構成される。支柱穴(ST1_P6)は、長軸約60cm、短軸約50cmの楕円形を呈し、床面からの深さは約49cmを測る。支柱穴(ST1_P8)は、長軸約35cm、短軸約30cmの円形を呈し、床面からの深さは約41cmを測る。支柱穴(ST1_P10)は、長軸約30cm、短軸約25cmの楕円形を呈し、床面からの深さは約48cmを測る。支柱穴(ST1_P12)は、直径約40cmの不整円形を呈し、床面からの深さは約44cmを測る。これらの他にST1_P2・5・9・13他の五角形に配置されたピット、炉跡(ST1_P11)の組み合わせが考えられるものの竪穴建物跡の平面形とは整合しないことから五角形あるいは円形の竪穴建物が存在していた可能性がある。壁溝(ST1_SD1)は北西部隅で途切れる。幅約30cm、床面からの深さは1～6cmを測る。検出長は約15.22mである。埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物は、弥生土器の壺(723～727・734)・甕(728～731)・高杯(732)、不明土製品(733)、投弾(735)である。

723はST1_P12から出土した細頸長頸壺である。口縁部は、外反気味にのびる。外面にはタテハケ調整を施す。724はST1_P11から出土した壺である。口縁部は、やや内傾気味の頸部から外反する。外面はナデ調整後、タテハケ調整を施す。内面はヨコハケ調整およびナデ調整を施す。725はST1_P11から出土した壺である。口縁部は、緩やかに外反させる。外面はナデ調整で指頭圧痕が認められる。内面はヨコハケ調整である。726は壺である。体部の中位に最大径部を持つ。底部はやや尖底状の丸底である。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はハケ調整後、ナデ調整を施す。727は壺である。張りの強い下体部である。底部は角の取れた厚い平底を呈し、外底面にはナデ調整を施す。体部外面はハケ調整後、ミガキ調整か。内面は斜め方向のハケ調整を施す。内底面には指頭圧痕がみられる。728は甕である。口縁部は、緩やかに外反させ、口唇部には面取りを施す。体部外面は叩き調整後、ハケ調整を施す。下半部のハケ調整は密である。内面の上半部はナデ調整であり、指頭圧痕が認められる。下半部にはヘラケズリ調整を施す。内面の調整は粘土接合痕跡で分かれる。729は甕である。口縁部は、「く」の字状を呈し、口唇部にはハケ状原体により面取りを施す。上胴部に最大径部を持つ。底部は平底であり、外底面にはナデ調整を施す。口縁部は、内外面ともナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後、ハケ調整を施す。内面の上半部はナデ調整、下半部はヘラケズリ調整か。ほぼ完存する。730は甕である。口縁部は屈曲度合いの弱い「く」の字状を呈する。口縁部外面は叩き調整後、指頭により成形する。底部は平底であり、外底面にはハケ調整およびナデ調整を施す。体部外面

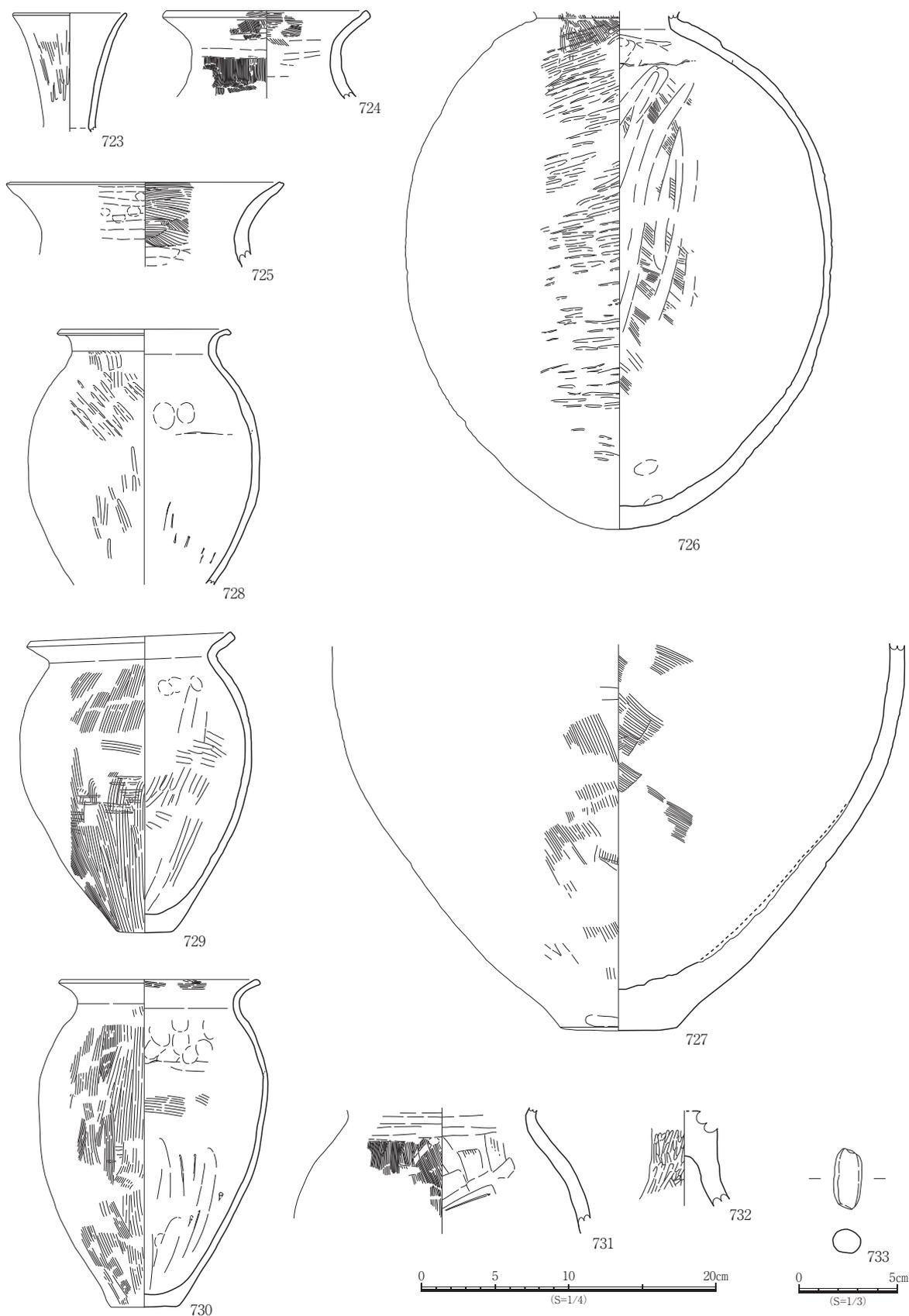


图144 6-1区 ST1 出土遺物実測図_1

は叩き調整後、タテハケ調整を施す。内面の上半部にはヨコハケ調整および指頭圧痕がみられる。下半部にはヘラケズリ調整を施す。731は甕である。頸部外面にヨコナデ調整を施す。体部外面には細かいハケ調整を施し、内面には粗いヘラケズリ調整を施す。732は高杯である。脚部外面は縦方向のヘラミガキ調整を施す。分割成形である。733はST1_P6から出土した。全体は棒状を呈し、断面形は楕円形状を呈する。完存である。何かを模したものと推測するが、用途等は不明である。734は大型壺である。体部は球形を呈し、全体的に均整の取れた器形である。外面はハケ調整およびナデ調整後、ミガキ調整を施す。内面は全面にハケ調整を施し、肩部はナデ調整を加える。粘土帯の輪積みの痕跡



図145 6-1区 ST1 出土遺物実測図_2

が明瞭に残る。また、肩部外面には周囲とは色調の異なる火襷状の痕跡が認められる。頸部と胴部の境にはハケ状原体による斜格子文を施した扁平な突帯を貼り付ける。角の取れた平底で外底面にはナデ調整を施し、比較的丁寧に調整されている。735は砂岩製の投弾であり、表面の一部は剥離する。

ST2

ST2は調査区中央部で検出した竪穴建物跡である。ST3を切る。床面で壁溝・小溝を複数検出していることから隅丸方形の竪穴建物跡が重複していると考えられる。検出面から床面までの深さは約24cmであり、埋土は黒色(10YR1.7/1)細粒砂質シルト他である。大きくはST2_AとST2_Bの2棟に区分でき、ST2_Bは1回もしくは2回の建て替えが行われたと推測される。ST2_AはST2_Bに切られる。

ST2_Aの平面形は一辺約5.60mの隅丸方形を呈していたと推測され、床面積は約31.3㎡である。主軸方向はN-3°-Eである。当建物跡に属するものは壁溝(ST2_SD1)のみである。壁溝(ST2_SD1)は幅約25cm、検出面から床面までの深さは1～6cmであり、検出長は約6.84mである。埋土は黒色(10YR1.7/1)細粒砂質シルト他である。

ST2_Bの平面形は一辺約4.80mの隅丸方形を呈していたと推測され、床面積は約23.0㎡である。主軸方向はN-4°-Wである。床面で中央ピット(ST2_中央P)、支柱穴(ST2_P4・10)、小溝(ST2_SD3)等の遺構を検出した。中央ピット(ST2_中央P)は床面中央やや南寄りで検出した。長軸約1.74m、短軸約0.78mの不整隅丸長方形を呈する。床面からの深さは約7cmであり、埋土は黒色(10YR1.7/1)細粒砂質シルト他である。中央部北壁に接して一部がピット状を呈する。直径約40cmの不整円形を呈し、床面からの深さは約18cmを測る。支柱穴(ST2_P4)は、直径約25cmの不整円形を呈し、床面からの深さは約27cmを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。支柱穴(ST2_P10)は、直径約30cmの不整円形を呈し、床面からの深さは約40cmを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。小溝(ST2_SD3)は幅約30cm、床面からの深さは4～8cmを測る。検出長は約10.86mであり、4周を巡る。埋土は黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルト他である。ST2_P4・10はともにST2_SD3内に掘り込まれている。この小溝に重複する形で小溝(ST2_SD2・4)を検出した。小溝(ST2_SD2)は南辺で検出した。幅約15cm、床面からの深さは約3cmを測る。検出長は約2.52mである。埋土は黒色(10YR1.7/1)細粒砂質シルトである。ST2_SD3に切られる。小溝(ST2_SD4)は北辺で検出した。幅約20cm、床面からの深さは3～9cmを測る。検出長は約1.66mである。埋土は黒色(10YR1.7/1)細粒砂質シルトである。ST2_SD3に切られる。ST2_P1は直径約30cmの不整円形を呈し、床面からの深さは約30cmを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。ST2_SD4に重複していることから支柱穴と考えられる。

図示した出土遺物は、弥生土器の壺(736～740)・甕(741)・底部(742～745)・鉢(746～751)・高杯(752)、土玉(753)、ミニチュア土器(754)、磨石(755・756)である。

736は壺である。口縁部は、外反気味に斜めにひらく。外面はタテハケ調整、内面はヨコナデ調整を施す。737は壺である。口縁部は、直立気味の頸部から大きくひらく。口唇部を上方へ拡張し、弱い凹線状を呈する。外面はヨコナデ調整、内面はナデ調整である。738は壺である。口縁部を緩やかに

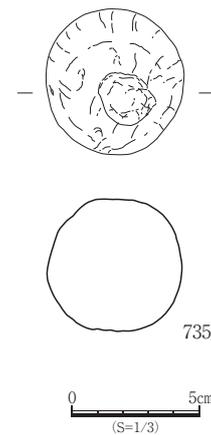
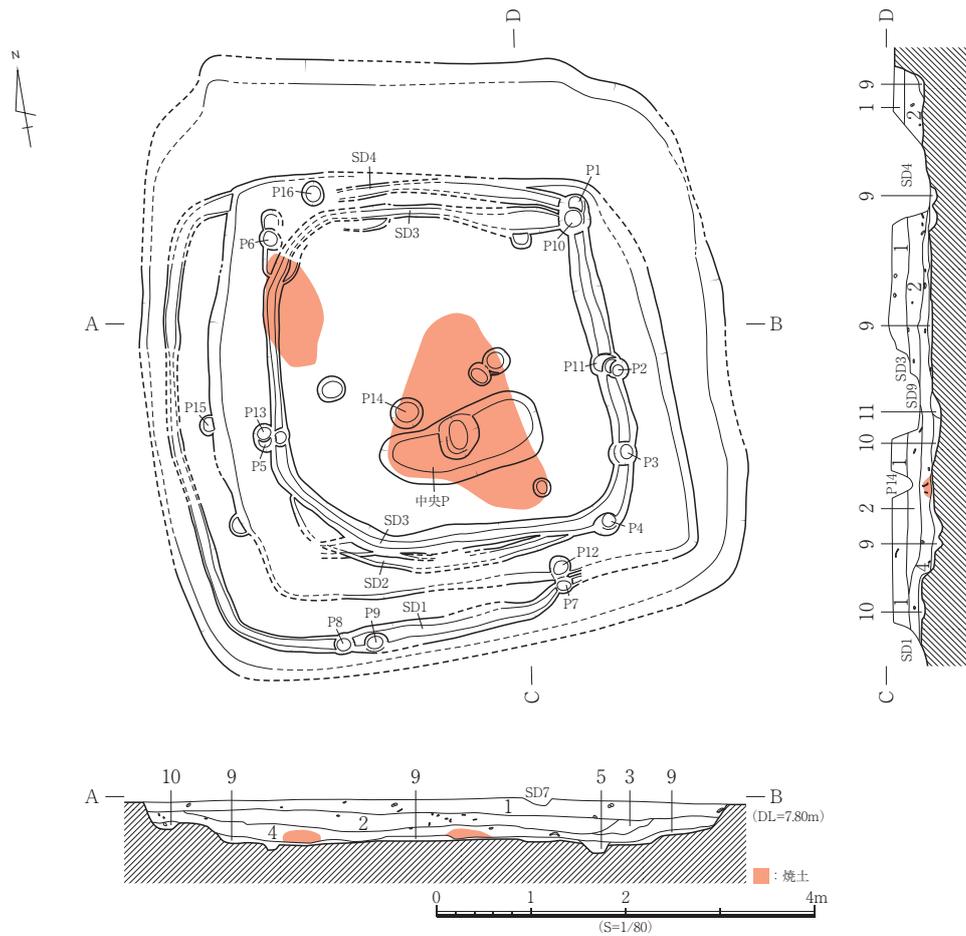


図146 6-1区 ST1
出土遺物実測図_3



遺構埋土

1. 黒色 (10YR1.7/1) 細粒砂質シルトに褐灰色 (10YR4/1) 細粒砂質シルトと黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトを少量含み炭化物を多く含み1.0~3.0cm大の礫を少量含む
2. 黒色 (10YR1.7/1) 細粒砂質シルトに褐灰色 (10YR4/1) 細粒砂質シルトと黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトを少量含み焼土を多く含む
3. 黒色 (10YR1.7/1) 細粒砂質シルトに褐灰色 (10YR4/1) 細粒砂質シルトと黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトを少量含み暗褐色 (10YR3/3) 細粒砂質シルトをブロック状に多く含む
4. 黒色 (10YR2/1) 細粒砂質シルトに黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトと黒色 (10YR1.7/1) 細粒砂質シルトを少量含み焼土と炭化物を多く含み明赤褐色 (5YR5/8) 細粒砂質シルトの焼土を含む
5. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトに暗褐色 (10YR3/4) 細粒砂質シルトを少量含み黒色 (10YR1.7/1) 細粒砂質シルトをブロック状に多く含み炭化物を含む
6. 黒色 (10YR1.7/1) 細粒砂質シルトに炭化物を含む (ST2_中央P)
7. 黒色 (10YR1.7/1) 細粒砂質シルトに黒色 (10YR2/1) 細粒砂質シルトと暗褐色 (10YR3/3) 細粒砂質シルトを少量含む (ST2_中央P)
8. 黒色 (10YR2/1) 細粒砂質シルトに暗褐色 (10YR3/3) 細粒砂質シルトをブロック状に含み炭化物を含む (ST2_中央P)
9. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトに暗褐色 (10YR3/4) 細粒砂質シルトを少量含み黒色 (10YR1.7/1) 細粒砂質シルトをブロック状に含み炭化物を少量含む (ST2_貼床、ST2_SD3・4)
10. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトに暗褐色 (10YR3/4) 細粒砂質シルトを少量含み黒色 (10YR1.7/1) 細粒砂質シルトをブロック状に多く含む (ST2_中央P・SD1)
11. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトに暗褐色 (10YR3/4) 細粒砂質シルトを少量含み黒色 (10YR1.7/1) 細粒砂質シルトをブロック状に含み炭化物を少量含む (ST2_中央P)

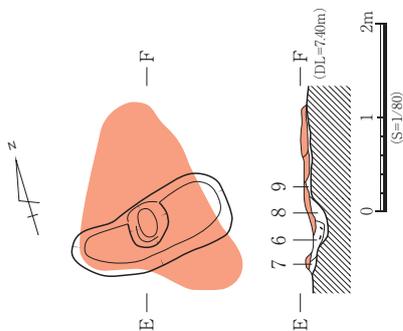


図147 6-1区 ST2 平面図・断面図

外反させ、二次口縁部を付加する。内外面とも摩耗のため、調整等は不明である。739は複合口縁壺である。口縁部を緩やかに内傾させ、二次口縁部を付加する。体部は球形状を呈し、外面は叩き調整後、ハケ調整を施す。内面はタテハケ調整を施す。740は壺である。口縁部は、直線気味に内傾し、口唇部は僅かに凹面状となる。内外面ともヨコナデ調整で仕上げ、ナデ痕跡がみられる。台付き鉢か。搬入品(讃岐産)の可能性がある。741は甕である。口縁部は、屈曲度合の弱い「く」の字状を呈する。口縁部外面はタテハケ調整、内面はヨコハケ調整を施す。体部外面は、叩き調整後タテハケ調整を施し、内面はヘラナデ調整を施す。742は底部である。

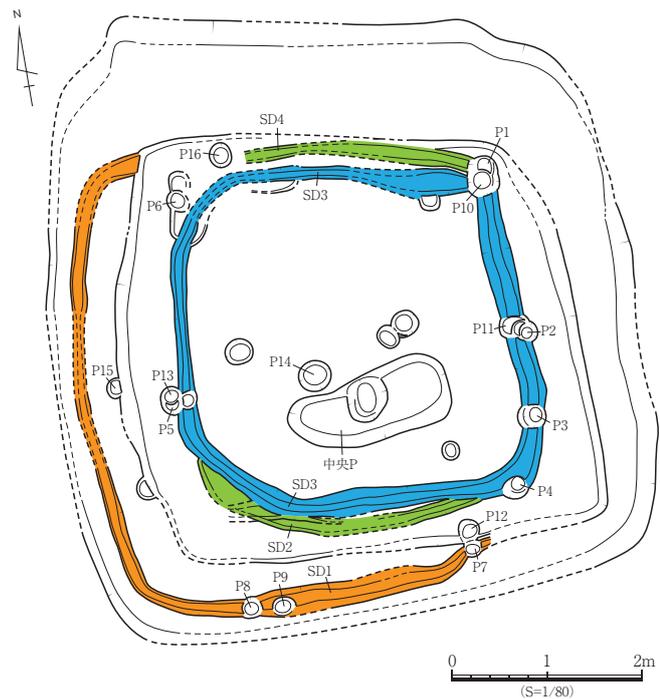


図148 6-1区 ST2 重複平面図

角の取れた平底を呈する。体部外面はナデ調整、内面は放射状のハケ調整を施す。743は底部である。角の取れた平底であり、僅かに突出する。外底面には葉脈痕が認められる。体部は内外面ともナデ調整を施す。744は底部である。角の取れた小径な平底である。外底面は叩き調整後、ナデ調整を施し、平滑に仕上げる。体部外面は叩き調整後、タテハケ調整を施し、内面はハケ調整およびナデ調整を施す。745は底部である。角の取れた平底であり、底部と体部の境は鈍いながらみられる。外底面には葉脈痕がみられる。体部外面は叩き調整後ナデ調整を施し、内面はナデ調整を施す。746は鉢である。体部は内湾気味に立ち上がる。底部は高台状を呈し、外底面はナデ調整により平滑となる。体部外面はヘラミガキ調整、内面はヘラケズリ調整を施す。外面にはキレットが認められる。747は鉢である。底部は尖り気味の丸底である。体部外面は叩き調整後、タテハケ調整を施す。内面はタテハケ調整を施し、内底面に放射状のハケ調整を施す。748は鉢である。底部は丸底である。体部外面は叩き調整後、粗いハケ調整を施す。内面は不定方向のハケ調整を施す。749は鉢である。口縁部は、内湾気味である。体部外面はハケ調整を施す。内面は摩耗のため、調整等は不明瞭である。また、外底面は剥離する。750は鉢である。体部は内湾気味に立ち上がり、底部から体部にかけて緩やかに屈曲する。底部は突出気味の丸底であり、外底面には様々な圧痕がみられる。体部外面はナデ調整、内面はタテハケ調整である。751は鉢である。体部は斜め上方へ立ち上がる。底部は小径な平底であり、外底面はナデ調整により平滑とする。体部外面はナデ調整、内面はハケ調整である。752は高杯である。外面にはタテハケ調整を施す。支脚の可能性がある。753は直径約2.0cmの土玉であり、中央部に穿孔がみられる。754はミニチュア土器である。鉢形土器がモデルと推測される。体部外面は叩き調整、内面はナデ調整である。755は砂岩製の磨石である。石杵状を呈する。両面・端部に敲打痕跡が認められる。全体的に磨滅し、ベンガラがうすく付着する。756は砂岩製の磨石である。扁平な小判状を呈する。両端部に敲打痕跡が認められ、ベンガラが厚く付着する。また、側縁にもベンガラがうすく付着する。

ST3

ST3は調査区中央部で検出した平面形が不整隅丸方形の竪穴建物跡である。ST2に切られる。長軸約6.55m，短軸約6.15mを測り，床面積は約40.0㎡である。主軸方向はN-28°-Eである。検出面から床面までの深さは約42cmであり，埋土は黒色(10YR1.7/1)細粒砂質シルト他である。床面では中央ピット(ST3_中央P)，支柱穴(ST3_P1・3・4・6)，壁溝(ST3_SD1・2)等の遺構を検出した。中央ピット(ST3_中央P)は床面中央やや東寄りで検出した。長軸約1.28m，短軸約0.92mの隅丸長方形を呈する。床面

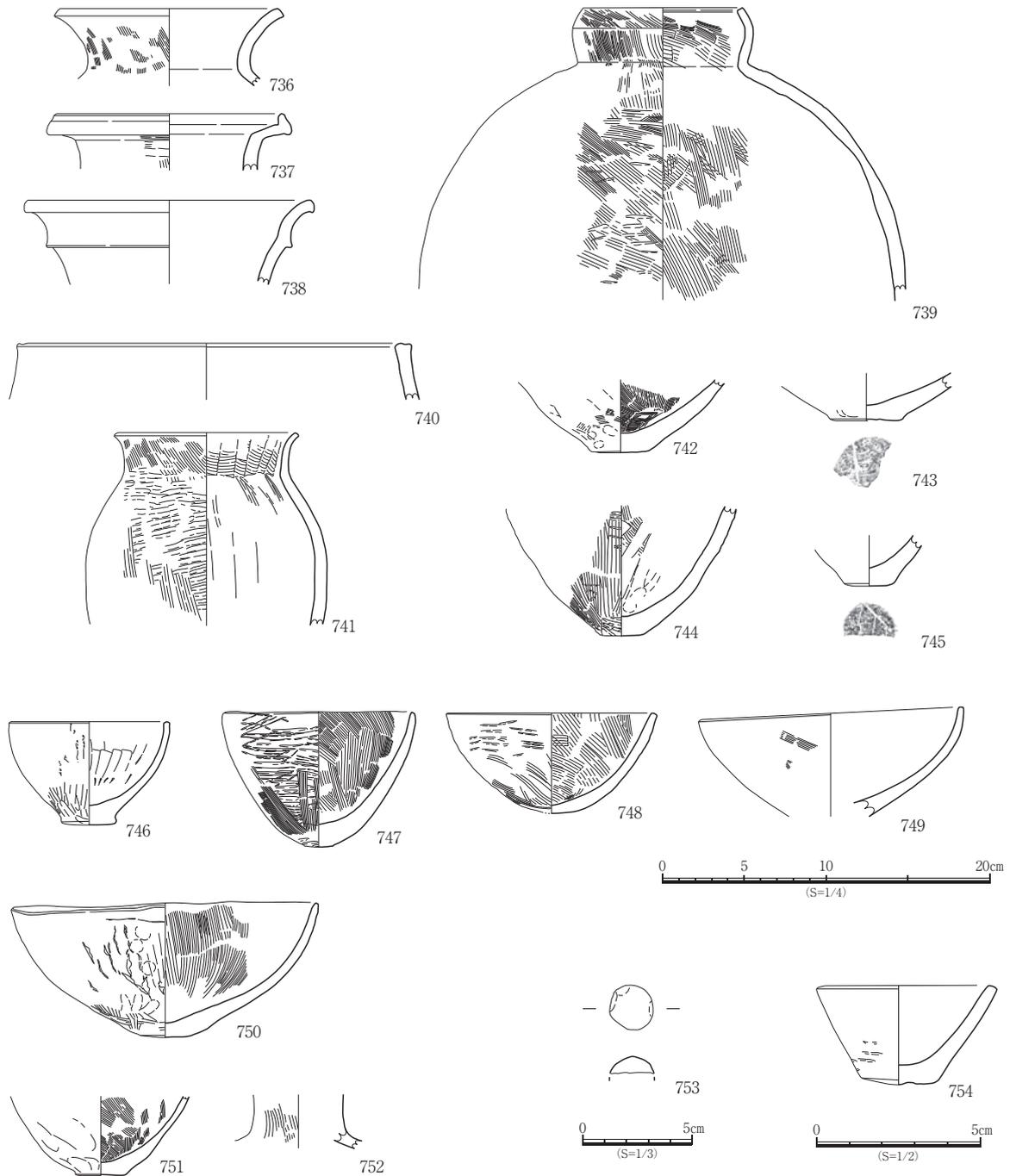


図149 6-1区 ST2 出土遺物実測図_1

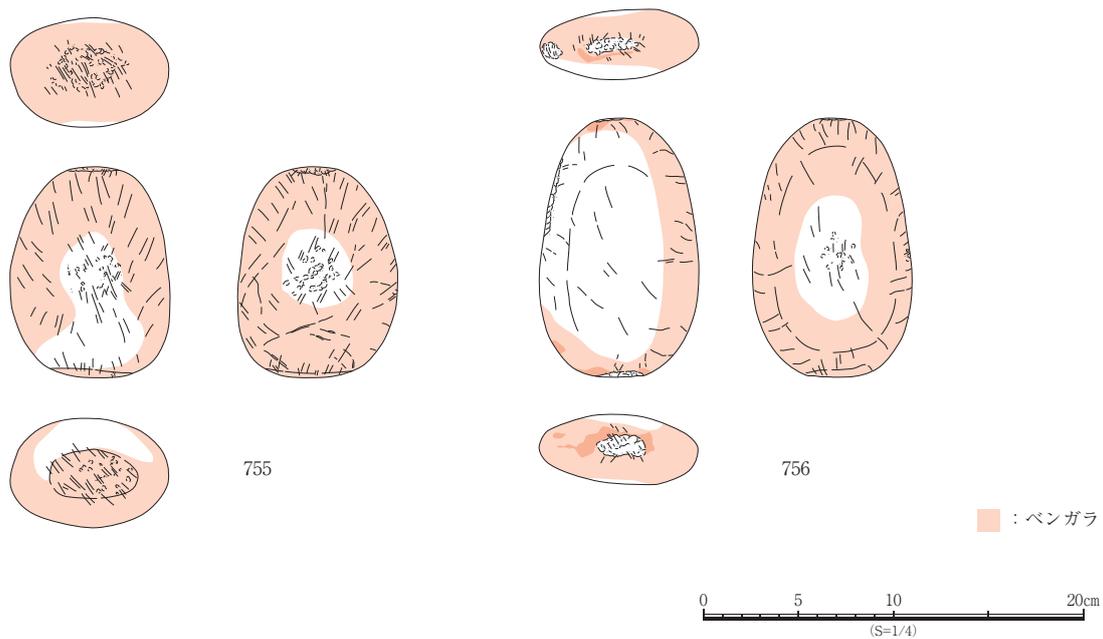


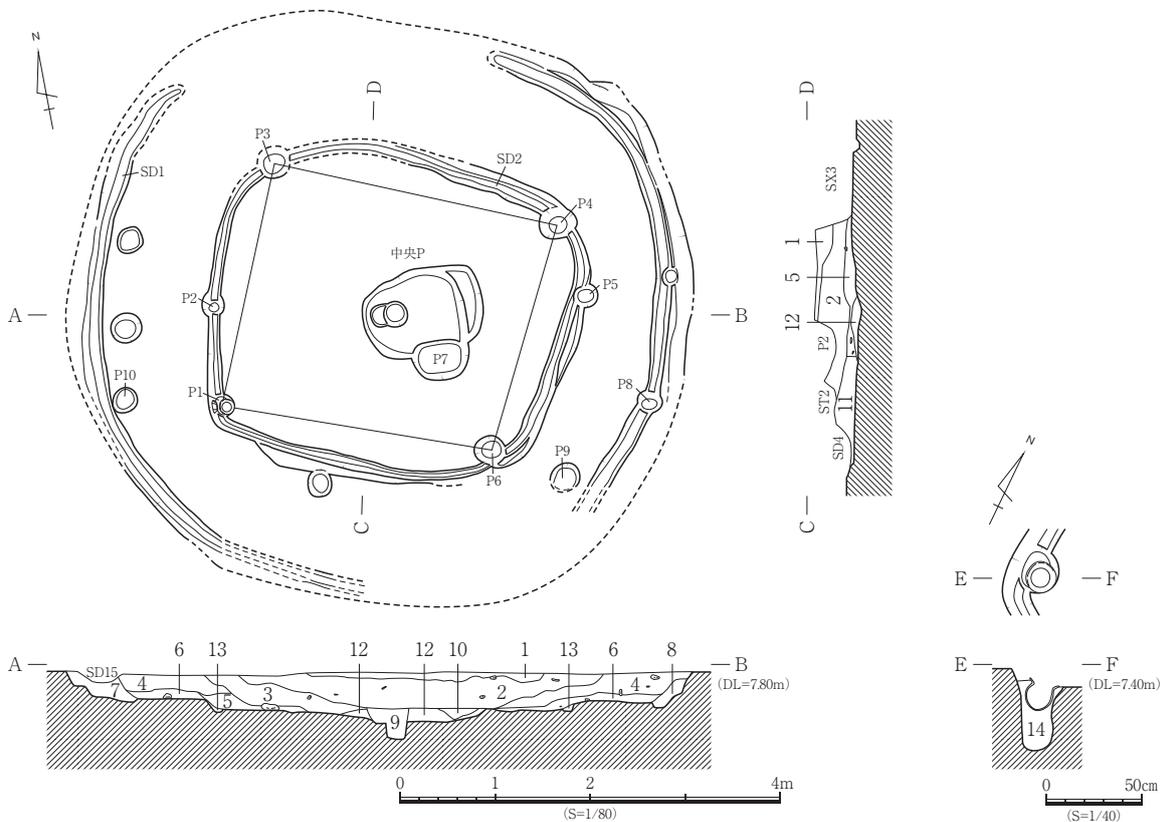
図150 6-1区 ST2 出土遺物実測図_2

からの深さは約12cmであり、東辺にテラスを有する。埋土は黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルト他である。支柱穴(ST3_P1)は、直径約20cmの不整円形を呈し、床面からの深さは約37cmを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト他である。柱を抜き取った後に甕(762)を埋設していた。支柱穴(ST3_P3)は、直径約30cmの不整円形を呈し、床面からの深さは約44cmを測る。支柱穴(ST3_P4)は、長軸約40cm、短軸約35cmの不整円形を呈し、床面からの深さは約46cmを測る。支柱穴(ST3_P6)は、直径約30cmの不整円形を呈し、床面からの深さは約44cmを測る。壁溝(ST3_SD1)は北西部と南東部で途切れる。幅約20cm、床面からの深さは1～5cmを測る。検出長は約6.04mである。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。壁溝(ST3_SD2)は長方形に巡り、支柱穴を連結する。幅約20cm、床面からの深さは1～15cmを測る。検出長は約12.00mである。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は、弥生土器の壺(757～760)・甕(761～765)・底部(766・767)・鉢(768～772)・高杯(773・774)、支脚(775)、土玉(776)、鉄鎌(777・778)、台石(779)である。

757は壺である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部は僅かに拡張し面取りを施す。体部外面はタテハケ調整、内面はナデ調整を施す。758は複合口縁壺である。口縁部は、大きく外反し、直立気味に上方へ拡張する。二次口縁部を付加し、口唇部は丸くおさめる。摩耗のため、調整等は不明である。759は壺である。口縁部は外方へひらき、端部は内傾気味に上方へ拡張させ、口唇部には面取りを施す。内外面ともヘラミガキ調整を施す。口縁部に歪な櫛描波状文を施す。760は壺である。体部は算盤玉形から楕円形状を呈する。体部外面は縦方向のヘラミガキ調整を施し、内面にはしほり目がみられる。赤色顔料を塗布する。761は甕である。口縁部は、外方へひらく。体部は丸みを帯びる。体部外面は叩き調整後、タテハケ調整を施す。内面はハケ調整およびヘラナデ調整を施す。762はST3_P1から出土した甕である。口縁部は、ひらき気味に外反し、口唇部には面取りを施す。底部は小径な平底を呈する。体部外面は叩き調整後、タテハケ調整を施し、内面はタテハケ調整を施す。763は甕である。口縁部は短く外反し、口唇部には面取りを施す。体部外面は強い叩き調整後、粗いハケ調整

を施す。内面はハケ調整である。764は甕である。体部の中位に最大径部を持つ。口縁部は、「く」の字状を呈する。体部外面は叩き調整後、タテハケ調整を施す。内面はヘラケズリ調整を施す。765は甕である。口縁部は、「く」の字状を呈し、体部は撫で肩状を呈する。体部外面の上半部は斜め方向のハケ調整、下半部はタテハケ調整を施す。内面の上半部はヨコハケ調整、下半部はタテハケ調整を施す。766は底部である。体部は鋭角気味に立ち上がる。底部は厚く小径な平底であり、外底面にはナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後、ハケ調整を施す。内面はハケ調整を施す。767は底部である。僅かに上げ底となり、外底面にはナデ調整を施す。体部外面はヘラナデ調整、内面はナデ調整である。内底面には指頭圧痕が認められる。768は鉢である。底部は円盤状に突出気味の小径な平底であり、外底面にはナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面は底央から放射状のヘラミガキ調整を施す。769は鉢である。体部は緩く立ち上がり、口縁部は内湾気味となる。底部は高台状の小径な平底である。体部外面はナデ調整であり、底部付近には叩き目がみられる。内面はヘラナデ



遺構埋土

1. 黒色 (10YR1.7/1) 細粒砂質シルト
2. 黒色 (10YR1.7/1) 細粒砂質シルトに黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトをブロック状に多く含み炭化物を含む
3. 黒色 (10YR2/1) 細粒砂質シルト・黒色 (10YR1.7/1) 細粒砂質シルトに黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトをブロック状に含み炭化物と焼土を含む
4. 黒色 (10YR2/1) 細粒砂質シルト・黒色 (10YR1.7/1) 細粒砂質シルトに黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトを少量含む
5. 黒色 (10YR2/1) 細粒砂質シルト・黒色 (10YR1.7/1) 細粒砂質シルトに炭化物を多く含み明赤褐色 (5YR5/8) 細粒砂質シルトの焼土を含む (一部貼床)
6. 黒色 (10YR2/1) 細粒砂質シルト・暗褐色 (10YR3/4) 細粒砂質シルトに黒色 (10YR1.7/1) 細粒砂質シルトをブロック状に少量含む (貼床)
7. 黒色 (10YR2/1) 細粒砂質シルトにぶい黄褐色 (10YR4/3) 細粒砂質シルトをブロック状に含み黒色 (10YR1.7/1) 細粒砂質シルトを少量含む
8. 黒色 (10YR2/1) 細粒砂質シルトに暗褐色 (10YR3/4) 細粒砂質シルトをブロック状に少量含む
9. 黒色 (10YR2/1) 細粒砂質シルト・黒色 (10YR1.7/1) 細粒砂質シルトに黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトをブロック状に含み炭化物と焼土を多く含む
10. 黒色 (10YR1.7/1) 細粒砂質シルトに黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトをブロック状に多く含み炭化物を含む
11. 黒色 (10YR1.7/1) 細粒砂質シルトに黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトをブロック状に少量含み炭化物を含む
12. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルト・黒褐色 (10YR3/2) 細粒砂質シルトに焼土と炭化物を多く含む (ST3_中央P)
13. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに暗褐色 (10YR3/3) 細粒砂質シルトと黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトを少量含み0.5~3.0cm大の礫を含む (ST3_SD2)
14. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに暗褐色 (10YR3/3) 細粒砂質シルトと黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトを少量含み0.5~3.0cm大の礫と炭化物を含む (ST3_P1)

図151 6-1区 ST3 平面図・断面図

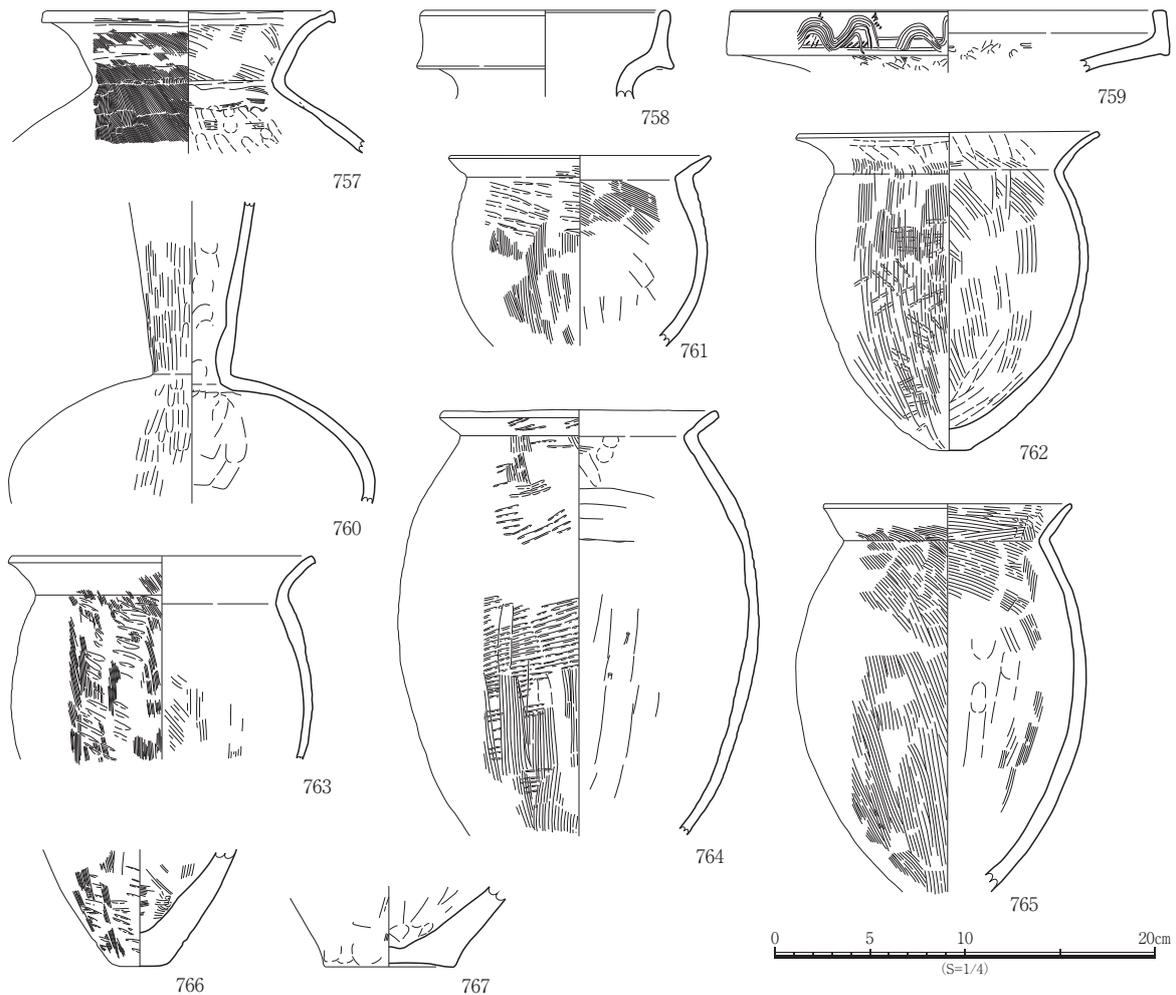


図152 6-1区 ST3 出土遺物実測図_1

調整であり、内底面に放射状の工具の静止痕跡がみられる。770は中型の鉢である。体部は浅鉢状を呈し、口唇部は丸くおさめる。底部は円盤状に突出気味の小径な平底である。体部外面は叩き調整後、タテハケ調整を施す。内面はハケ調整を施す。771は鉢である。口唇部を僅かに上方へ拡張し弱い凹面状を呈する。体部は緩やかに内湾する。口縁部はナデ調整を施す。体部外面はハケ調整後、ヘラミガキ調整を施す。内面はヘラミガキ調整を施す。シャープなつくりである。772は脚付き鉢である。底部は外傾する輪高台状を呈する。体部外面はナデ調整、内面は粗いヨコハケ調整である。773は高杯である。脚部は円錐形状を呈する。上部内面には粘土充填痕跡が認められる。外面には弱い叩き調整の痕跡、内面にはしぼり目がみられる。774は高杯である。裾部は大きくひらき、端部には面取りを施す。また、直径約0.7cmの円孔を穿つ。外面は縦方向のヘラミガキ調整および横方向のヘラミガキ調整を施す。内面はナデ調整を施す。775は支脚である。脚部は「ハ」の字形にひらき、底面は丸みを帯びた平坦状を成す。残存部は中空である。手捏ね成形であり、指頭圧痕が認められる。776は土玉である。断面形は僅かに楕円形状を呈する。中央部には焼成前に直径約0.3cmの円孔を穿つ。完存である。777は圭頭式の鉄鏝である。鏝身部は短い菱形状を呈する。茎部の断面形は方形を呈する。778は圭頭式の鉄鏝か。残存部は板状を呈する(先端部欠損)。779は砂岩製の台石である。扁平の隅丸

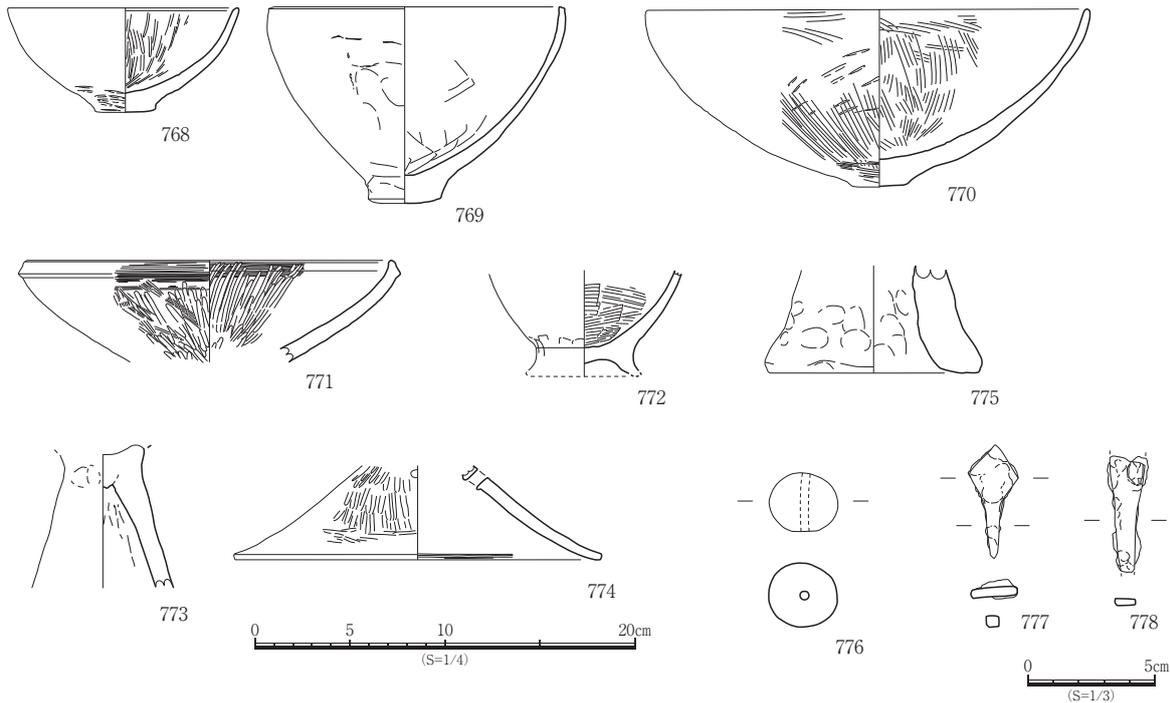


図153 6-1区 ST3 出土遺物実測図_2

方形状を呈し、3面に擦痕が認められる。また、側面は砥石状に研磨される。

以下にはST2あるいはST3に帰属する遺物を図示した。780は弥生土器の鉢である。体部は浅い椀状を呈する。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はハケ調整およびナデ調整を施す。781は弥生土器の鉢である。口唇部は僅かに上方をむき、凹面状を呈する。底部は摘み出し状の歪な形状を呈する。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はハケ調整である。

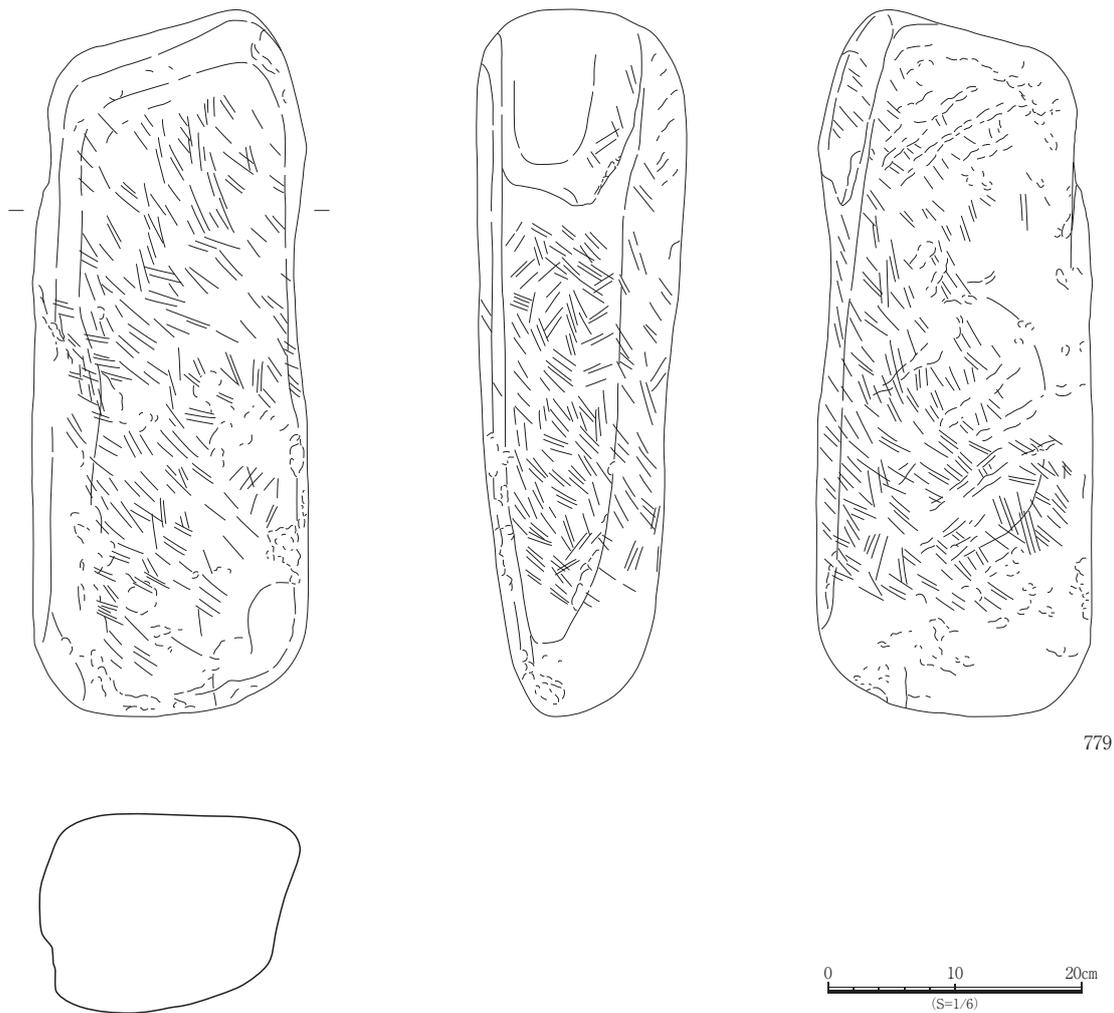
ST4

ST4は調査区中央部で検出した遺構である。大部分は調査区外へひろがり、平面形・規模等は不明である。竪穴建物跡の一部あるいは土坑と考えられる。

図示した出土遺物は、ミニチュア土器(782)である。鉢形土器をモデルとする。体部は杯状を呈し、底部は丸みを帯びる。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はナデ調整である。ほぼ完存である。

ST5

ST5は調査区西部で検出した平面形が方形の竪穴建物跡である。東西の検出長は約3.20m、南北の検出長は約2.90mを測る。主軸方向はN-7°-Eである。検出面から床面までの深さは約38cmであり、埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト他である。床面ではベッド状遺構、支柱穴(ST5_P2)、小溝(ST5_SD1)等の遺構を検出した。幅約1.00mのベッド状遺構が巡り、低床部との比高差は約16cmを測る。支柱穴(ST5_P2)は、対角線上に位置し、低床部の四隅に配置されていると考えられる。支柱穴(ST5_P2)は直径約40cmの不整円形を呈し、床面からの深さは約42cmを測る。小溝(ST5_SD1)はベッ



779

図154 6-1区 ST3 出土遺物実測図_3

ト直下を方形に巡り、主柱穴を連結すると推測される。幅約30cm, 床面からの深さは1~6cmを測る。検出長は約4.08mである。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は、弥生土器の高杯(783)である。円柱状の脚部に竹管状工具による貫通痕跡が認められる。外面は縦方向のヘラナデ調整を施し、内面にはしほり目がみられる。分割成形である。

ST9

ST9は調査区西部で検出した平面形が隅丸方形あるいは六角形の竪穴建物跡である。ST10を切る。隅丸方形と推定した場合は長軸約4.60m, 短軸約4.30mを測り、床面積は約19.7㎡である。六角形とした場合は一辺約2.35mを測り、床面積は14.3㎡である。主軸方向はN-33°-Wである。検出面から床面までの深さは約24cmであり、埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト他である。床面では、主柱穴(ST9_P1・2・3), 壁溝(ST9_SD1)等の遺構を検出した。主柱穴(ST9_P1)は、直径約20cmの円形を呈し、床面からの深さは約37cmを測る。主柱穴(ST9_P2)は、直径約25cmの円形を呈し、床面からの深さは約35cmを測る。主柱穴(ST9_P3)は、直径約30cmの円形を呈し、床面からの深さは約34cmを測る。壁溝(ST9_SD1)は壁あるいはベッド状遺構直下を巡り、主柱穴を連結する。幅約20cm, 床面からの深

さは1～2cmを測る。検出長は約6.72mである。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。また、調査時に中央ピットとしていた遺構があるものの、断面図(ABライン)ではST9を切り、主軸方向は竪穴建物跡(ST9・10)とは一致せず、むしろSD21と一致し、SD21で囲まれた範囲のほぼ中央に位置することからSD21に関連すると考え、ST9あるいはST10に附属するものではないと判断した。

図示した出土遺物は、弥生土器の壺(784)・甕(785)・鉢(786～789)、ミニチュア土器(790)である。

784はST9_中央Pから出土した壺である。口縁部は、緩やかに外反し、口唇部は上方に面取りを施す。外面はタテハケ調整、内面はヨコハケ調整を施す。785は甕である。口縁部は、頸部から外反させ、口唇部には面取りを施す。内面の口縁部と頸部の境には稜が立つ。口縁部外面には指頭圧痕がみられ、内面にはヨコハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施し、内面にはハケ調整を施す。786は鉢である。体部はコップ形を呈し、底部は丸底化を指向する。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施し、内面にはヨコハケ調整を施す。外面にはキレツがみられる。787は鉢である。体部は椀状を呈し、底部は丸底である。体部外面には指頭圧痕がみられ、内面はハケ調整を施す。内底面には放射状のハケ調整を施す。外面にはキレツがみられる。788は鉢である。体部は杯状を呈する。口唇部には面取りを施す。底部は平底状を呈する。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はナデ調整を施す。下半部には焼成後の穿孔が認められる。789は鉢である。体部は斜め上方へ立ち上がり、底部は丸みを帯びた尖底状を呈する。体部外面はナデ調整、内面はヨコハケ調整を施す。790はミニチュア土器である。鉢形土器がモデルである。体部は盃状を呈し、底部は丸底である。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はナデ調整である。器壁は厚い。

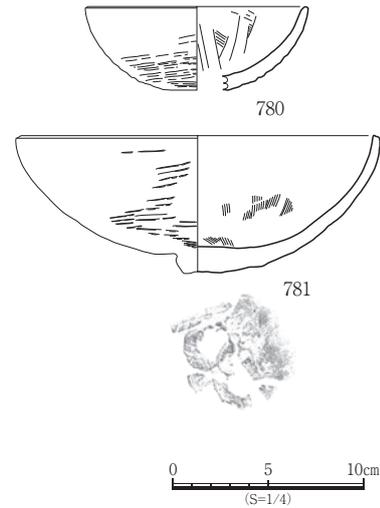


図155 6-1区 ST2・3
出土遺物実測図

ST10

ST10は調査区西部で検出した竪穴建物跡である。ST9に大部分を切られ、平面形・規模等は不明である。また、SD21を切る。検出面から床面までの深さは約13cmであり、埋土は黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-29°-Wである。床面では主柱穴の可能性のあるピット(ST10_P1・2)を検出した。ST10_P1は、直径約30cmの不整形を呈し、床面からの深さは約54cmを測る。ST10_P2は、直径約20cmの不整形円形を呈し、床面からの深さは約49cmを測る。なお、調査時に中央ピットを検出しているものの主軸方向、断面図等から本建物跡に伴うものではなく、SD21に伴うものと判断した。

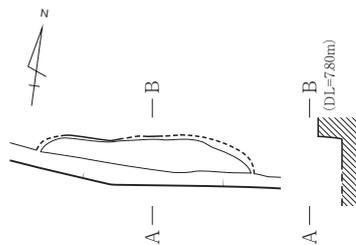


図156 6-1区 ST4
平面図・エレベーション図

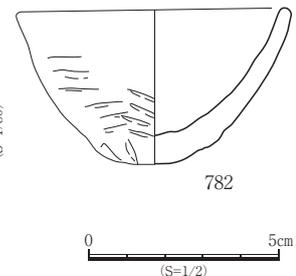


図157 6-1区 ST4
出土遺物実測図

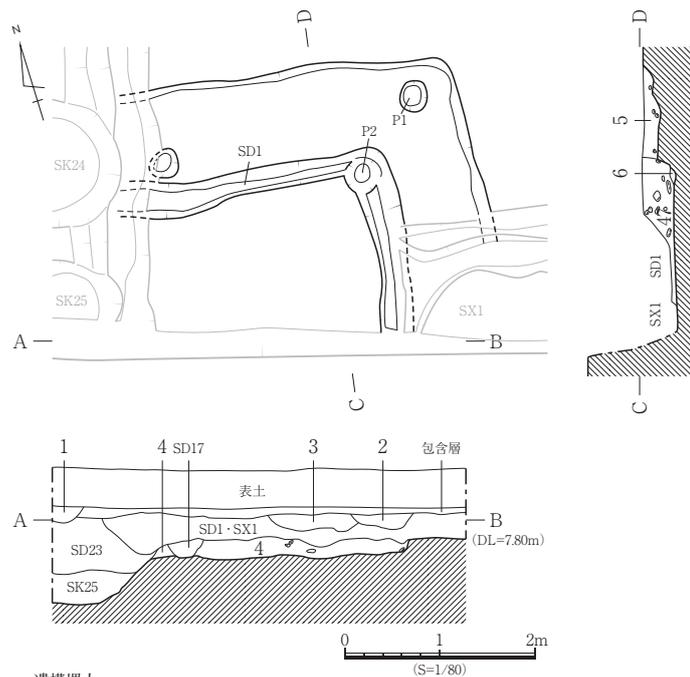
図示した出土遺物は、弥生土器の鉢(791)である。体部は浅鉢状を呈する。底部は丸底である。体部外面は叩き調整後、ナデ調整である。内面はヨコハケ調整を施す。

ST11

ST11は調査区中央部で検出した平面形がやや歪な五角形を呈する竪穴建物跡である。平面形が方形のST12を切る。長軸約7.50m, 短軸約7.20mを測り, 床面積は約40.0㎡である。主軸方向はN-11°-Wである。検出面から床面までの深さは約36cmであり, 埋土は黒色(10YR1.7/1)細粒砂質シルト他である。床面では中央ピット(ST11_中央P), 支柱穴(ST11_P6・7・8・9他), 壁溝(ST11_SD1・2)等の遺構を検出した。中央ピット(ST11_中央P)

は床面中央やや南寄りで検出した。長軸約1.50m, 短軸約0.88mの不整隅丸長方形を呈する。東部にテラスを有する。床面からの深さは約13cmであり, 埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト他である。支柱穴(ST11_P6)は, 直径約30cmの円形を呈し, 床面からの深さは約44cmを測る。埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトである。支柱穴(ST11_P7)は, 長軸約65cm, 短軸約60cmの不整円形を呈し, 床面から約10cm下がった面から直径約25cmの円形を呈するピットが掘り込まれる。床面からの深さは約58cmを測り, このピットが支柱穴と考えられる。埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトである。支柱穴(ST11_P8)は, 直径約30cmの円形を呈し, 床面からの深さは約34cmを測る。埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトである。支柱穴(ST11_P9)は, 直径約30cmの円形を呈し, 床面からの深さは約52cmを測る。埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトである。また, ST11_P11は床面の中央部で検出した土坑である。長軸約94cm, 短軸約80cmの不整隅丸方形を呈し, 床面からの深さは約11cmを測る。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。壁溝(ST11_SD1・2)は東部と南西部の壁際で検出した。総じて浅く, 本来は全周していたと推測される。壁溝(ST11_SD1)は幅約20cm, 床面からの深さは1~2cmと浅い。検出長は約1.72mである。壁溝(ST11_SD2)は幅約25cm, 床面からの深さは2~9cmを測る。検出長は約2.70mである。

図示した出土遺物は、弥生土器の壺(792)・甕(793~797)・鉢(798~802)・底部(803~807), 支脚(808~810), 不明土製品(811), 石包



- 遺構埋土
1. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに黒褐色(10YR3/2)粘土質シルトを少量含む(ピット)
 2. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトと黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトを少量含み0.5~3.0cm大の礫を含む(ピット)
 3. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトに黒褐色(10YR3/2)粘土質シルトと1.0~8.0cm大の礫を含む(ピット)
 4. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに1.0~15.0cm大の礫を多く含み炭化物を含む(ST5)
 5. 暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトに1.0~5.0cm大の礫を多く含む(ST5)
 6. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに1.0~5.0cm大の礫を含む(ST5)

図158 6-1区 ST5 平面図・断面図

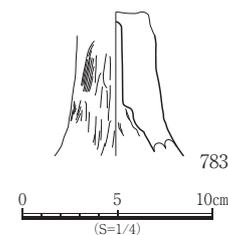
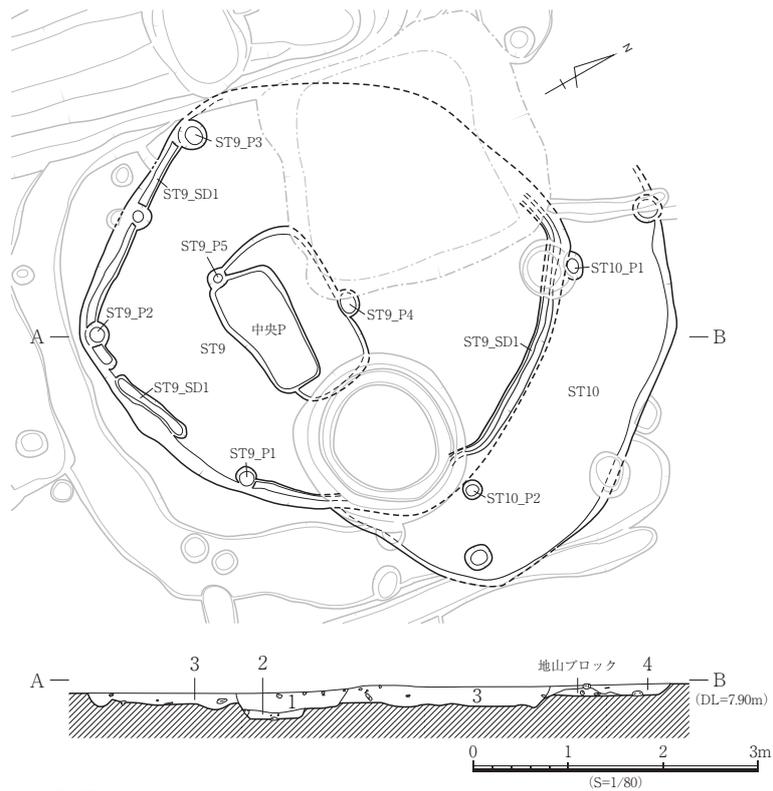


図159 6-1区 ST5 出土遺物実測図

丁(812), 叩石(813)である。

792は細頸長頸壺である。頸部外面は縦方向の細いヘラミガキ調整を施し, 内面はナデ調整を施す。肩部外面はヘラミガキ調整, 内面はヨコハケ調整である。また, 肩部内面には指頭圧痕がみられる。793はST11_P11から出土した甕である。口縁部は短く外反し, 口唇部は僅かに凹面状を呈する。体部外面は叩き調整後, 粗いタテハケ調整を施し, 内面にはタテハケ調整を施す。794は甕である。口縁部は丸みを帯びて外反し, 口唇部を僅かに拡張させ凹面状を呈する。内外面とも摩耗し, 調整等是不明瞭である。795は甕である。口縁部は短く外方へひらく。口唇部には

面取りを施す。口縁部内面はヨコハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後, 口頸部にはタテハケ調整, 上胴部にはヨコハケ調整を施す。内面はナデ調整である。796は甕である。口縁部は, 「く」の字状を呈し, 口唇部は丸くおさめる。口縁部内面はヨコハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後, ナデ調



遺構埋土
 1. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに明褐色(7.5YR5/6)細粒砂質シルトの焼土と炭化物を含む(SK)
 2. 黒色(10YR1.7/1)細粒砂質シルトに炭化物を多く含む(SK)
 3. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに0.5~10.0cm大の礫を含む(ST9)
 4. 黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトに0.5~10.0cm大の礫を含む(ST10)

図160 6-1区 ST9・10 平面図・断面図

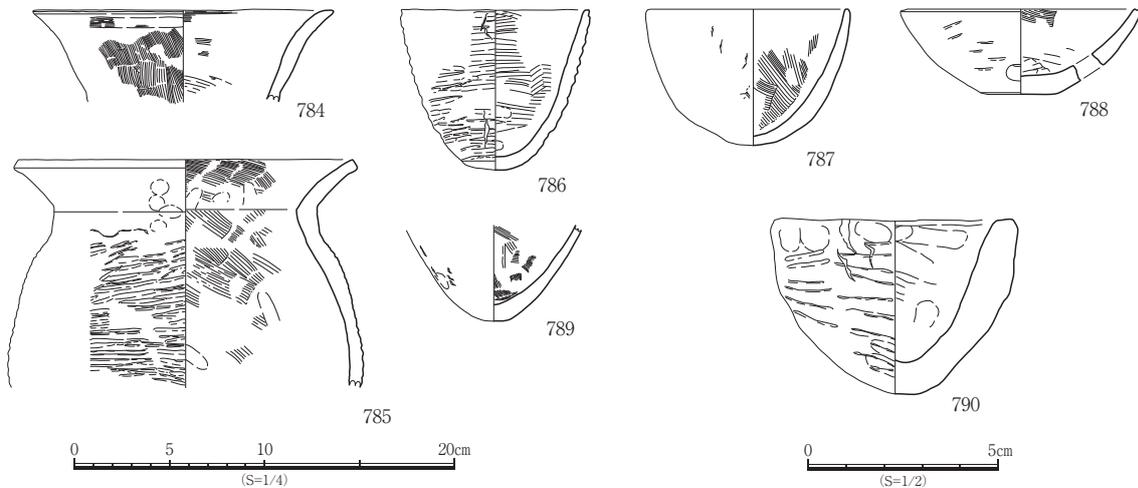


図161 6-1区 ST9 出土遺物実測図

整を施し、内面にはハケ調整およびナデ調整を施す。797は甕である。体部は丸みを帯びて立ち上がる。底部は小径な平底であり、外底面は叩き調整後、ナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後、タテハケ調整を施す。内面はハケ調整を施し、内底面には指頭圧痕がみられる。798は鉢である。口唇部は僅かに外反し、内面に面取りを施す。底部は丸底である。体部外面はタテハケ調整、内面はナデ調整である。799は鉢である。体部は椀状を呈する。底部は丸みを帯びた尖底状を呈する。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施し、内面はハケ調整を施す。800は鉢である。体部は緩やかに斜めにひらく。口縁端部を摘み上げる。底部は丸みを帯びた小径な平底状を呈する。体部外面はハケ調整およびナデ調整後、ヘラミガキ調整を疎らに施す。内面はナデ調整後、ヘラミガキ調整を疎らに施す。また、内面には爪状圧痕が認められる。801は鉢である。口縁部は、緩やかに外反させる。底部は尖底状を呈する。口縁部外面はタテハケ調整、内面はヨコハケ調整を施す。体部外面はタテハケ調整、内面はナデ調整を施す。丁寧な作りである。ほぼ完存である。802は鉢である。体部は半球形を呈する。口唇部は丸くおさめる。底部は厚い丸底である。体部は内外面ともハケ調整を施す。803はST11_中央Pから出土した底部である。丸底化を指向し、外底面にはナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面は不定方向のハケ調整を施す。804は底部である。尖底状の小径な平底である。体部外面は細かいタテハケ調整を施す。内面はハケ調整およびナデ調整を施す。全体的に丁寧に仕上げる。805は底部である。ほぼ丸底を呈する。体部外面には弱いハケ調整を施す。内面は摩耗のため、調整等は不明瞭であり、爪状圧痕がみられる。806は底部である。丸みを帯びる。体部外面はヘラナデ調整、内面はハケ調整およびナデ調整を施す。807は底部である。小径な角の取れた平底を呈する。外底面は叩き調整後、ナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はハケ調整を施す。808は支脚である。手捏ね成形である。体部の断面形は楕円形を呈し、中空である。上端部を押し込み、受け部を作出する。受け部の断面形は楕円形を呈するものの、欠損する。809は支脚である。脚部は円柱状を呈し、裾部で僅かにひらく。手捏ね成形で指頭圧痕が顕著である。810は支脚である。脚部は「ハ」の字形にひらく。外面は叩き調整後、指頭により成形する。指頭圧痕が顕著であり、全体的に歪む。811は篋状の土製品である。断面形は扁平であ

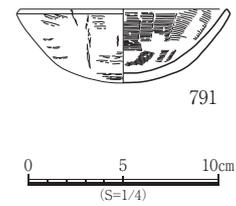


図162 6-1区 ST10
出土遺物実測図

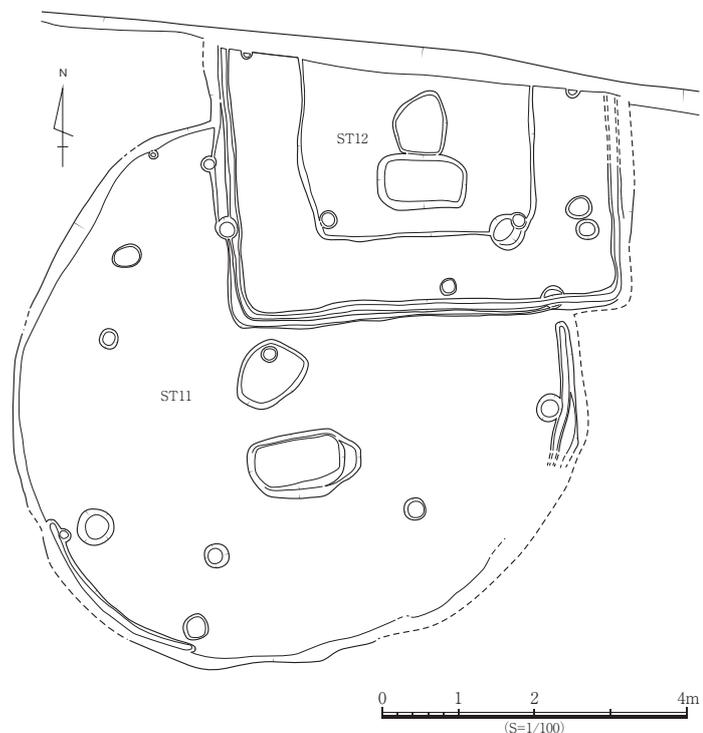
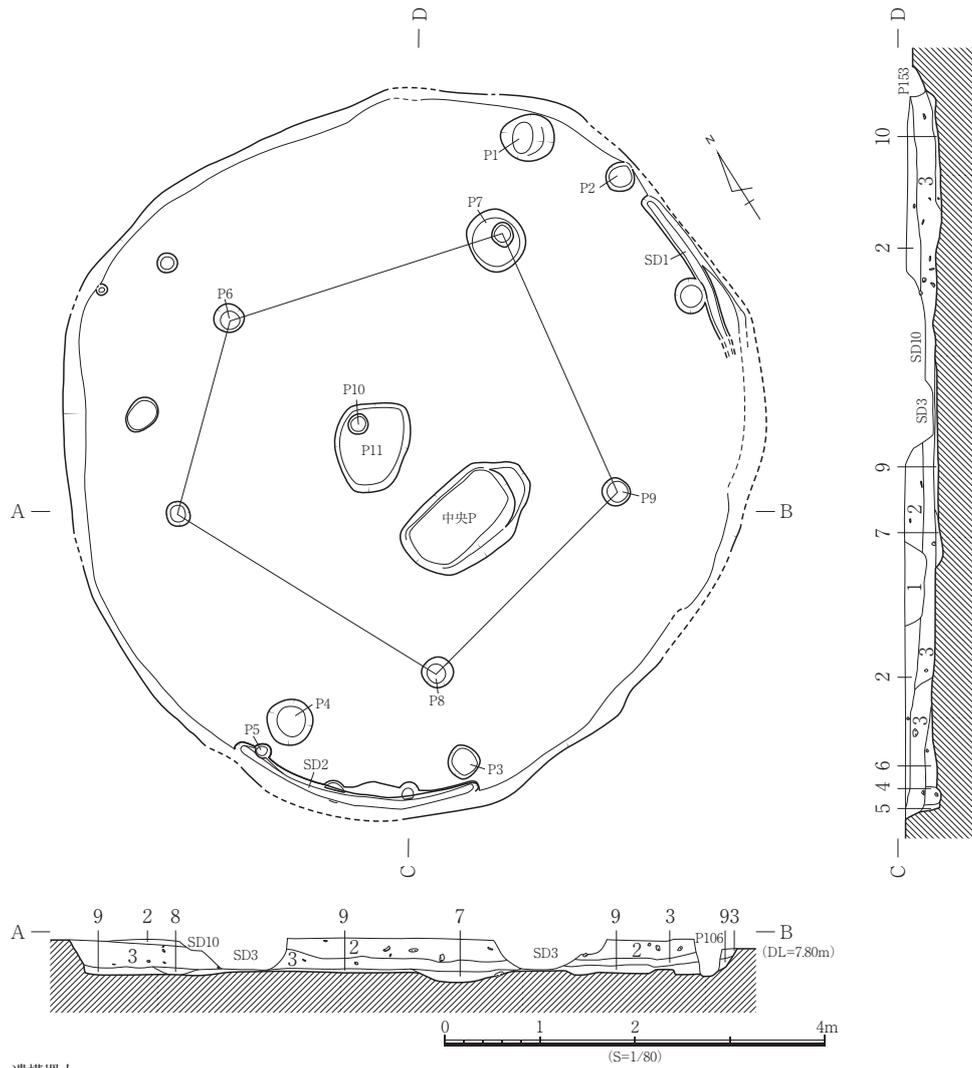


図163 6-1区 ST11・12 平面図



遺構埋土

1. 黒色 (10YR2/1) 細粒砂質シルトに0.5~3.0cm大の礫と炭化物を含む (P157)
2. 黒色 (10YR1.7/1) 細粒砂質シルト・黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに1.0~10.0cm大の礫を含む
3. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに黒色 (10YR1.7/1) 細粒砂質シルトを多く含み1.0~6.0cm大の礫と炭化物を含む
4. 黒色 (10YR2/1) 細粒砂質シルトに0.5~3.0cm大の礫を含む (ST11_ビット)
5. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルト・暗褐色 (10YR3/3) 細粒砂質シルトににぶい黄褐色 (10YR4/3) 細粒砂質シルトをブロック状に含み炭化物を含む (ST11_SD2)
6. 暗褐色 (10YR3/3) 細粒砂質シルトに黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトを少量含みにぶい黄褐色 (10YR4/3) 細粒砂質シルトをブロック状に少量含む
7. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルト・黒色 (10YR1.7/1) 細粒砂質シルトに炭化物を含む (ST11_中央P)
8. 暗褐色 (10YR3/4) 細粒砂質シルト・黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトに黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトを多く含む (ST11_ビット)
9. 暗褐色 (10YR3/4) 細粒砂質シルト・黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトに黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトを少量含む (ST11_貼床)
10. 黒色 (10YR1.7/1) 細粒砂質シルト・黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルト (ST11_貼床)

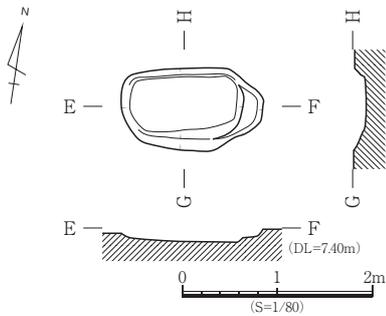


図164 6-1区 ST11 平面図・断面図

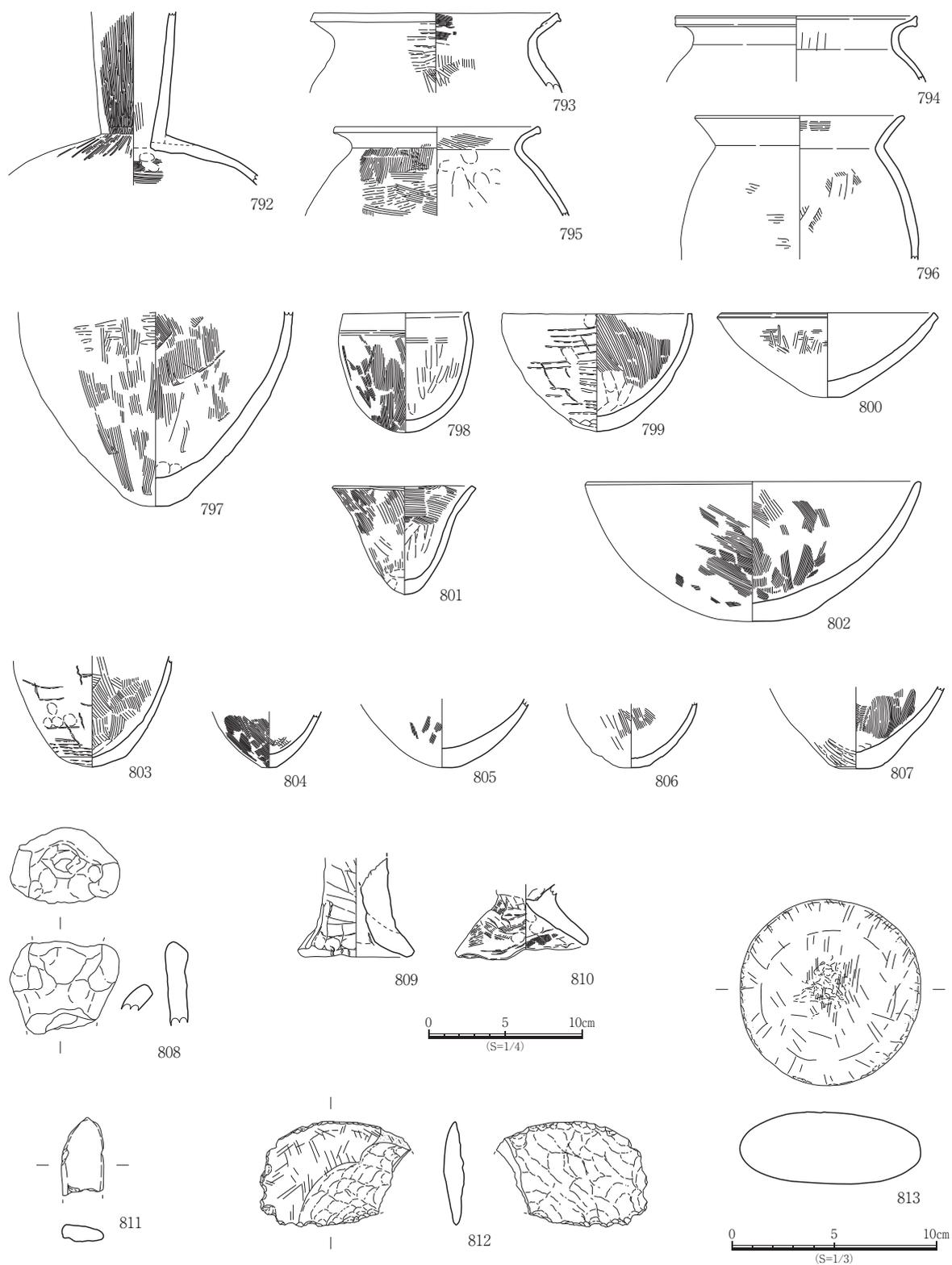
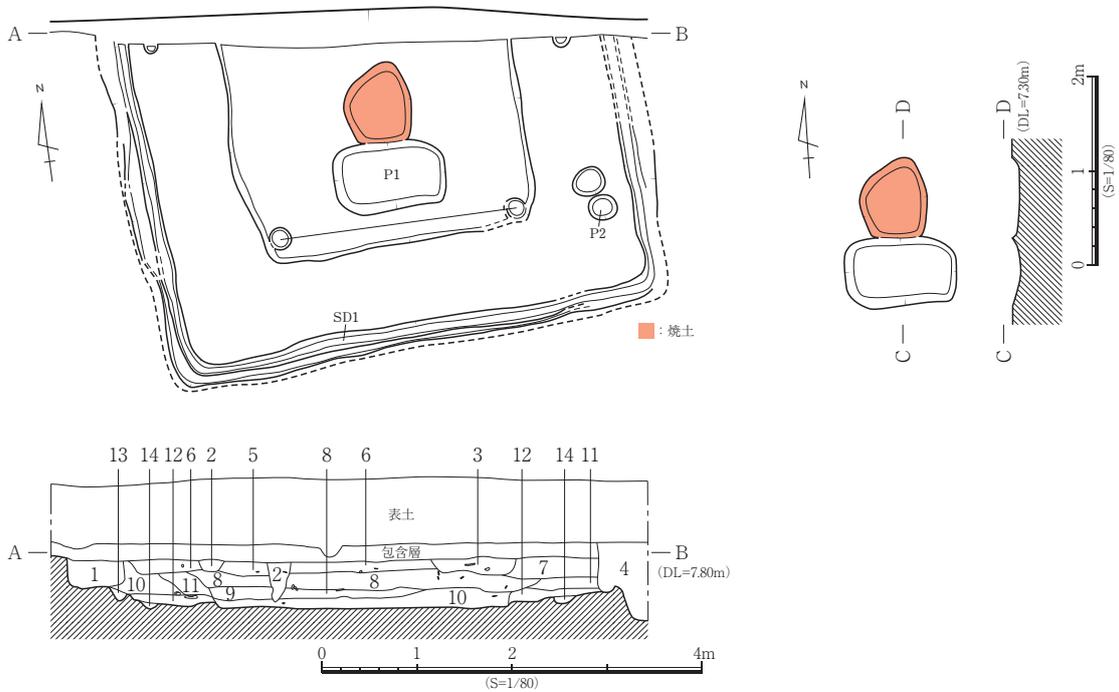


图165 6-1区 ST11 出土遺物実測図

り、端部は欠損する。片面にはナデ調整を施し、比較的平滑に仕上げ、他面は軽くナデ調整を施す程度であり、面を意識している。用途は不明である。812は砂岩製の打製石包丁である。円礫を打欠いた剥片を利用する。両面とも剥離痕跡を残す。一部に自然面がみられる。また、周縁には調整打痕跡がみられる。813はST11_中央Pから出土した砂岩製の叩石である。扁平な円礫を利用する。両平坦面および周縁に敲打痕跡がみられる。完存である。

ST12

ST12は調査区中央部で検出した平面形が方形の竪穴建物跡であり、北半は調査区外である。ST11に切られる。東西約5.60m、南北の検出長は約3.90mを測り、床面積は約31.3㎡である。主軸方向はN-2°-Wである。検出面から床面までの深さは約53cmであり、埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト他である。床面では中央ピット(ST12_P1)、支柱穴、壁溝(ST12_SD1)、ベッド状遺構等の遺構を検出した。中央ピット(ST12_P1)は床面中央やや南寄りで見出した。長軸約1.18m、短軸約0.76mの



遺構埋土

1. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに0.5~2.0cm大の礫を含む(P94)
2. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトに0.5~3.0cm大の礫を含む(ピット)
3. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに黒褐色(10YR3/2)粘土質シルトと1.0~8.0cm大の礫を含む(SD18)
4. (SK4)
5. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトに炭化物を含む(SD19)
6. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトに炭化物を含む(ST12)
7. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトに黒色(10YR1.7/1)細粒砂質シルトを少量含む褐色(10YR4/4)細粒砂を多く含む(ST12)
8. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに黒色(10YR1.7/1)細粒砂質シルトと褐色(10YR4/4)細粒砂を少量含む炭化物と1.0~8.0cm大の礫を含む(ST12)
9. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトに黒色(10YR1.7/1)粒砂質シルトブロックを多く含む褐色(10YR4/4)細粒砂質シルトブロックを少量含む炭化物を含む(ST12)
10. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトに黒色(10YR1.7/1)細粒砂質シルトと褐色(10YR4/4)細粒砂質シルトのブロックを少量含む炭化物を含む(ST12)
11. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトに黒色(10YR1.7/1)細粒砂質シルトを少量含む褐色(10YR4/4)細粒砂を多く含む(ST12)
12. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト・褐色(10YR4/4)細粒砂質シルトに炭化物と0.5~6.0cm大の礫を含む(ST12)
13. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトと暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトを少量含む0.5~3.0cm大の礫を含む(ST12_SD1)
14. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト・褐色(10YR4/4)細粒砂質シルト(ST12_SD1)

図166 6-1区 ST12 平面図・断面図

隅丸長方形を呈する。床面からの深さは約10cmであり、埋土は黒色(10YR1.7/1)細粒砂質シルトである。主柱穴は、低床部の四隅に配置されていたと推測される。直径約25cmの円形を呈し、床面からの深さは約42・53cmを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト・黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトである。ベッド状遺構は4周に巡ると推測される。幅約0.80m、低床部との比高差は約13cmである。壁溝(ST12_SD1)は壁際に巡る。幅約20cm、床面からの深さは1～7cmを測る。検出長は約10.16mである。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物は、弥生土器の鉢(814・815)である。

814は鉢である。体部は斜め上方へ立ち上がる。底部は小径な平底であり、外底面にはナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後、ハケ調整を施し、内面はハケ調整を施す。ほぼ完存である。815は浅鉢状の鉢である。底部は突出気味の平底状を呈し、外底面にはナデ調整を施す。体部外面はナデ調整、内面はハケ調整である。

以下にはST11あるいはST12に帰属する遺物を図示した。816・817は弥生土器の壺である。頸部と体部の境には斜格子状に刻目を施した粘土帯を貼付する。体部は内外面ともハケ調整およびナデ調整を施す。焼成後に穿孔された可能性がある。816と817には接点はないものの、同一個体と考えられる。818は弥生土器の甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部にはハケ状原体により面取りを施す。口縁部外面は斜め方向のハケ調整、内面はヨコハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後、タテハケ調整を施し、内面はヨコハケ調整を施す。

ST13

ST13は調査区東部で検出した平面形が隅丸方形と推測される竪穴建物跡であり、南半は調査区外である。東西約6.00m、南北の検出長は約2.80mを測り、床面積は約36.0㎡である。主軸方向はN-16°-Wである。検出面から床面までの深さは約39cmであり、埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト他である。床面では主柱穴(ST13_P1～4)、ベッド状遺構、壁溝(ST13_SD1)、小溝(ST13_SD2)等の遺構を検

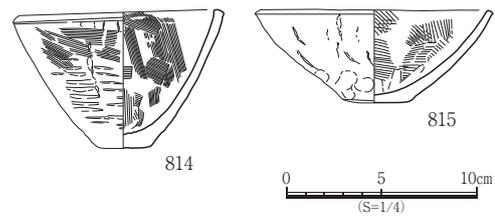


図167 6-1区 ST12 出土遺物実測図

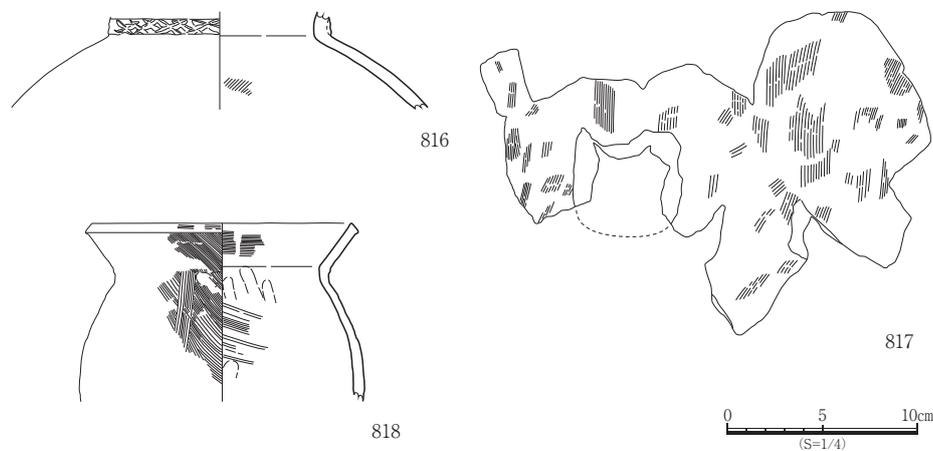
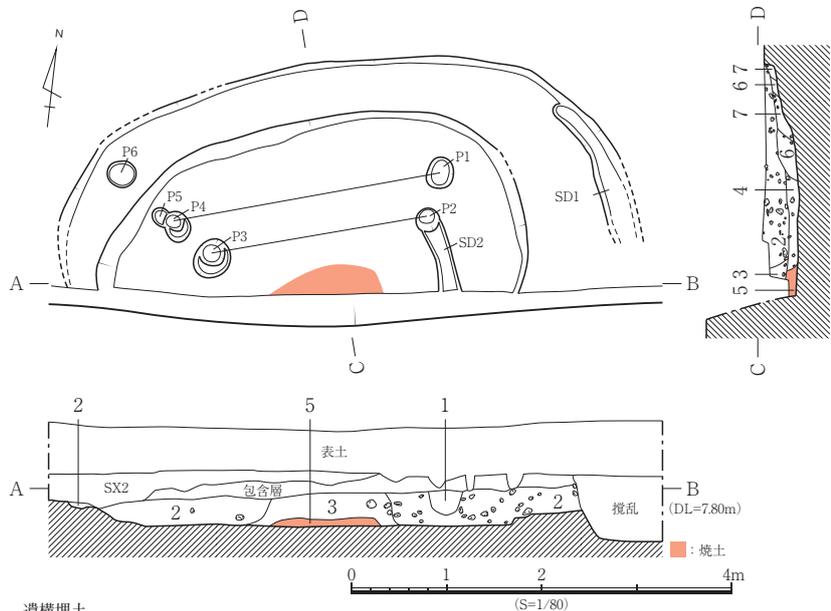


図168 6-1区 ST11・12 出土遺物実測図

出した。支柱穴(ST13_P1)は、長軸約35cm、短軸約25cmの楕円形を呈し、床面からの深さは約33cmを測る。支柱穴(ST13_P2)は、直径約25cmの円形を呈し、床面からの深さは約35cmを測る。支柱穴(ST13_P3)は、長軸約45cm、短軸約40cmの不整楕円形を呈し、床面からの深さは約48cmを測る。支柱穴(ST13_P4)は、長軸約30cm、短軸約25cmの不整円形を呈し、床面からの深さは約48cmを測る。ベッド状遺構は幅0.50～0.80m、低床部との比高差は約8cmを測る。壁溝(ST13_SD1)は、壁際に巡る。幅約30cm、床面からの深さは4～9cmを測る。検出長は約1.44mである。小溝(ST13_SD2)は低床部で検出したものである。幅約20cm、床面からの深さは6～9cmを測る。検出長は約0.80mである。また、床面中央付近に焼土が集中していた。

図示した出土遺物は、弥生土器の壺(819)・甕(820・821)・鉢(822)、土製勾玉(823)、砥石(824)、鉄鏃(825)である。

819は複合口縁壺である。口縁部は短くひらき、端部上面に二次口縁部を付加し、口唇部には面取りを施す。外面にヘラ描きによる不連続の波状文を施す。二次口縁部外面はヨコナデ調整か。内面はヨコハケ調整を施す。820はST13_P3から出土した甕である。口縁部を弱く外反させ、口唇部を僅かに肥厚させる。口縁部外面は上胴部からの一連の叩き調整である。内面には粗いヨコハケ調整を施す。体部外面は叩き調整、内面は粗いタテハケ調整である。821は甕である。口縁部は短い「く」の字状を呈し、口唇部には面取りを施す。口縁部外面はナデ調整、内面はハケ調整およびヘラナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はヘラナデ調整を施す。822は鉢である。体部は半球形を呈し、底部は丸みを帯びる。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施し、内面はナデ調整であり、平滑に仕上げる。器壁は厚い。823は土製の勾玉である。肥厚気味の頭部に直径約0.4cmの円孔を穿つ。腹部は緩やかな曲線状を呈する。尾部は欠損する。824は細粒砂岩製の砥石である。直方体状を呈し、一部は欠損する。長辺の両面と側面が研磨され、線状の擦痕が認められる。825は圭頭式の鉄鏃である。茎部の断面形は長方形を呈する。



遺構埋土

1. (P113)
2. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに炭化物と1.0～12.0cm大の礫を含む(ST13)
3. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトに1.0～10.0cm大の礫を含む(ST13)
4. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトを少量含み1.0～5.0cm大の礫を含む(ST13)
5. 暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトに褐色(7.5YR4/4)細粒砂質シルトを多く含み1.0～3.0cm大の礫を少量含む(ST13・焼土)
6. 黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトに1.0～3.0cm大の礫を含む(ST13)
7. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに地山をブロック状に少量含み1.0～3.0cm大の礫を含む(ST13)

図169 6-1区 ST13 平面図・断面図

ST14

ST14は調査区西部で検出した平面形が円形あるいは隅丸方形の竪穴建物跡である。SK21に切られる。東西の検出長は約4.30m、南北の

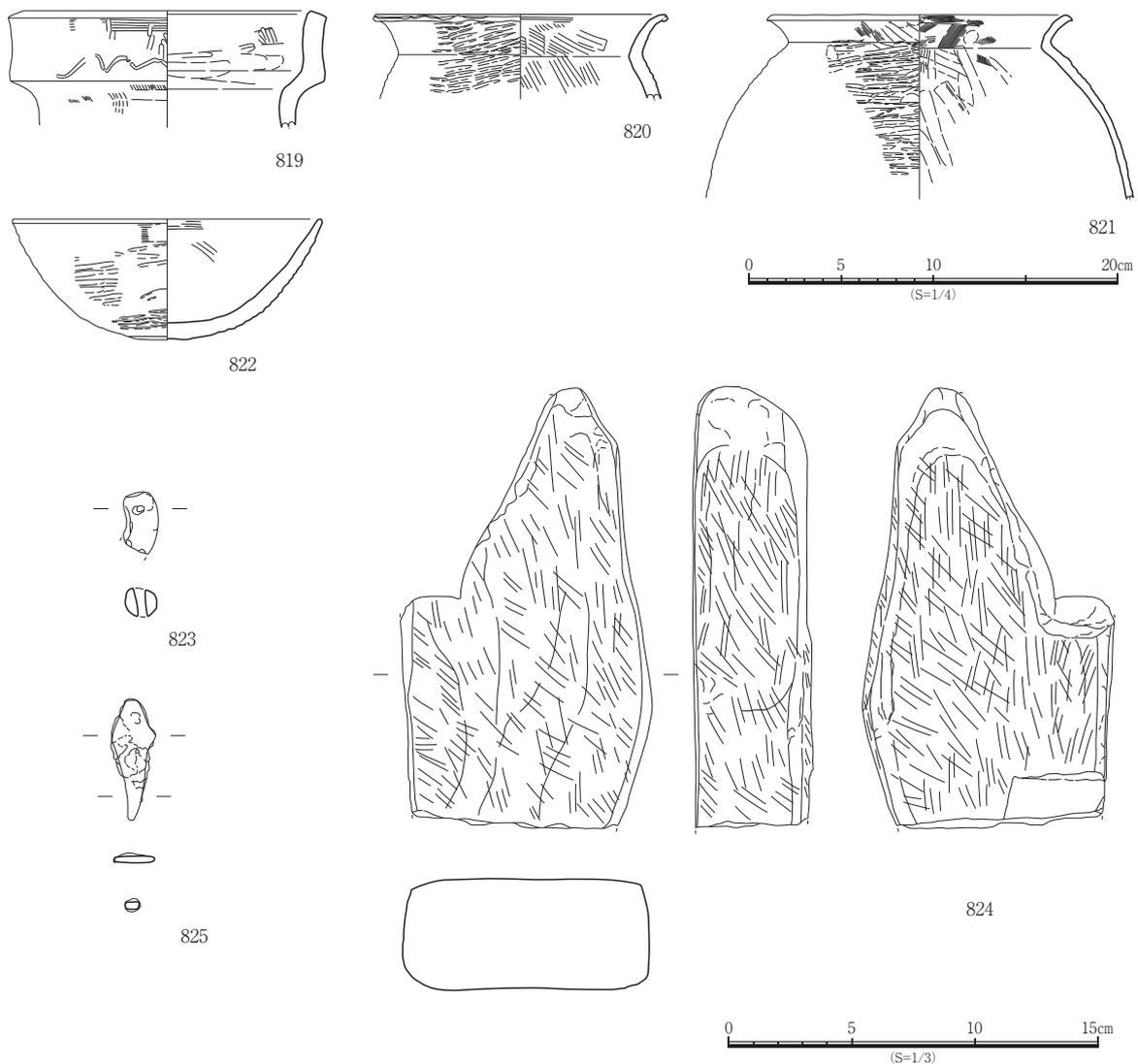


図170 6-1区 ST13 出土遺物実測図

検出長は約2.90mを測る。検出面から床面までの深さは約17cmであり、埋土は黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルト他である。主軸方向(中央ピットの短軸での計測)はN-35°-Eである。床面では中央ピット(ST14_P5)、支柱穴(ST14_P1)、壁溝(ST14_SD1)等の遺構を検出した。中央ピット(ST14_P5)は長軸約1.44m、短軸約0.92mの楕円形を呈する。床面からの深さは約15cmである。支柱穴(ST14_P1)は、長軸約30cm、短軸約25cmの不整円形を呈し、床面からの深さは約6cmを測る。壁溝(ST14_SD1)は、壁際に検出した。幅約20cm、床面からの深さは2~5cmを測る。検出長は約2.16mである。

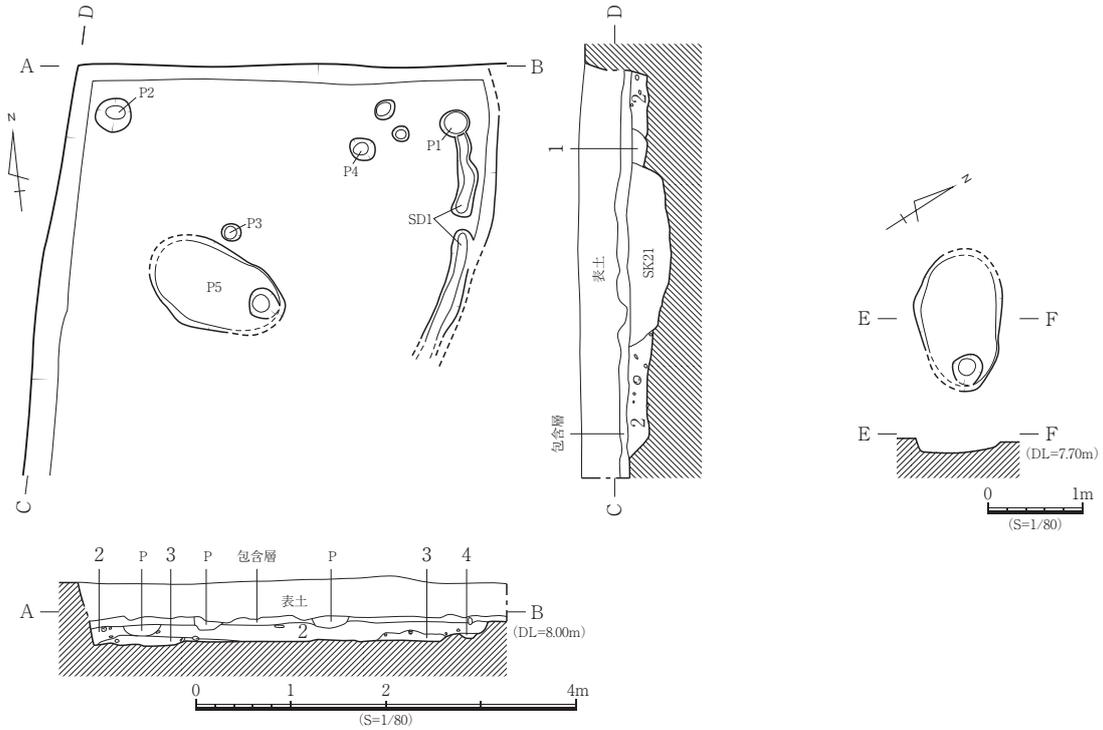
図示した出土遺物は、弥生土器の甕(826・827)、砥石(828)である。

826は甕である。口縁部は、緩やかな「く」の字状を呈する。口縁部外面は叩き調整、内面はハケ調整である。体部は長胴形を呈し、外面は叩き調整後タテハケ調整、内面はヘラナデ調整である。底部は厚く小径な平底で、外底面には叩き目がみられる。827は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部には面取りを施す。口縁部外面は叩き調整後、ハケ調整を施し、内面はヨコハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はハケ調整である。828はST14_P4から出土した白色泥岩製の

砥石である。四角柱を呈し、片側端部は欠損する。長辺の4面が研磨され、線状の擦痕が認められる。

ST15

ST15は調査区中央部で検出した竪穴建物跡であり、南半は調査区外である。SX2に切られる。平



遺構埋土

1. 黒色 (10YR1.7/1) 細粒砂質シルト (SD20)
2. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトに0.5~10.0cm大の礫を含む (ST14)
3. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトに暗褐色 (10YR3/3) 細粒砂質シルトと0.5~7.0cm大の礫を含む (ST14)
4. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトに暗褐色 (10YR3/3) 細粒砂質シルトと0.5~7.0cm大の礫を含む (ST14_SD1)

図171 6-1区 ST14 平面図・断面図

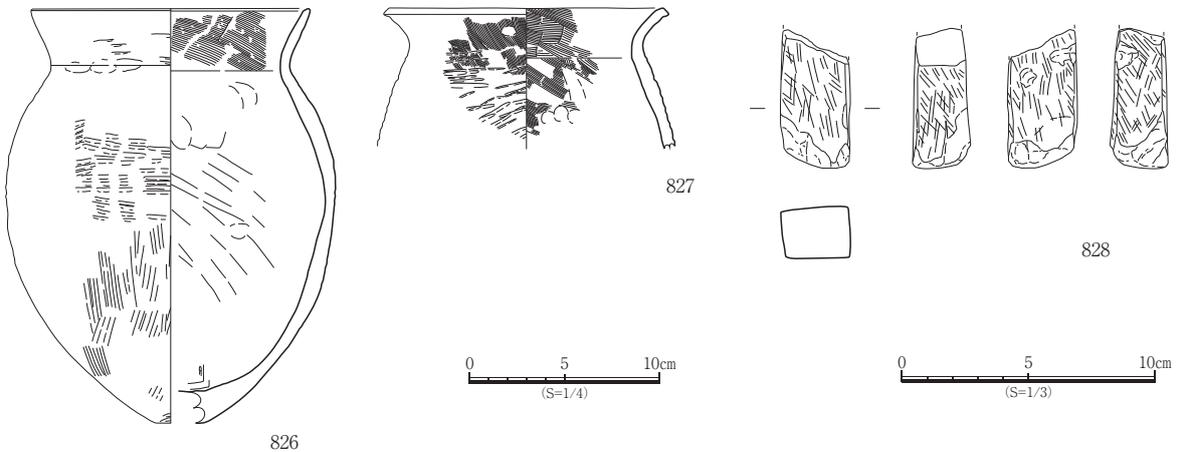
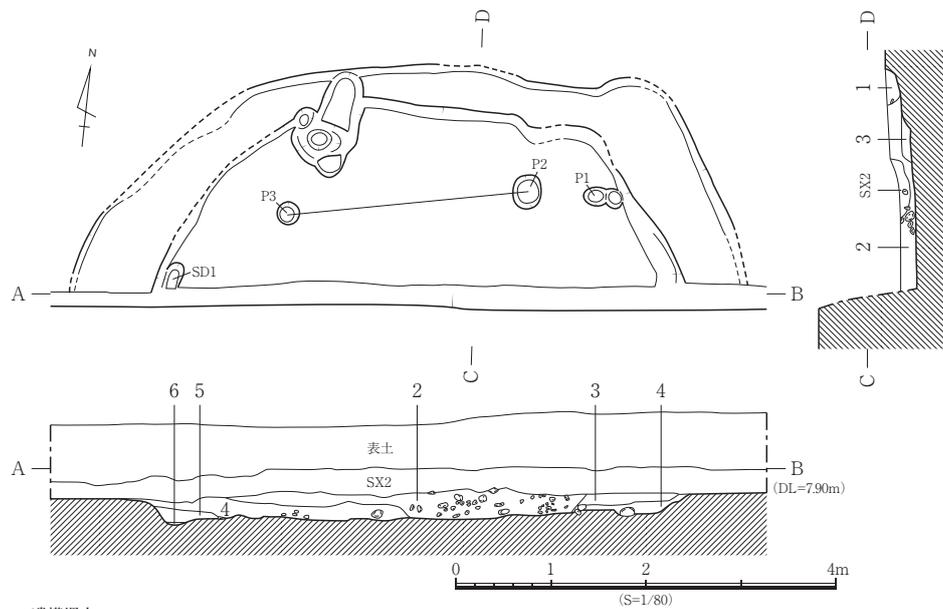


図172 6-1区 ST14 出土遺物実測図



遺構埋土

1. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに0.5~2.0cm大の礫を含む (P190)
2. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルト・暗褐色 (10YR3/3) 細粒砂質シルトに1.0~15.0cm大の礫を含む (ST15)
3. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトにふい黄褐色 (10YR4/3) 細粒砂質シルトをブロック状に含み1.0~3.0cm大の礫を含む (ST15)
4. 黒色 (10YR1.7/1) 細粒砂質シルトに炭化物粒と1.0~15.0cm大の礫を少量含む (ST15)
5. 黒色 (10YR1.7/1) 細粒砂質シルトに暗褐色 (10YR3/3) 細粒砂質シルトをブロック状に含み1.0~3.0cm大の礫を含む (ST15)
6. 黒色 (10YR1.7/1) 細粒砂質シルト・ふい黄褐色 (10YR4/3) 細粒砂質シルト (ST15_SD1)

図173 6-1区 ST15 平面図・断面図

面形は六角形か。一辺約5.00mを測り、床面積は約64.9㎡である。主軸方向はN-3°-Wである。検出面から床面までの深さは約34cmであり、埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト他である。床面では支柱穴(ST15_P2・3)、ベッド状遺構、壁溝(ST15_SD1)等の遺構を検出した。支柱穴(ST15_P2)は、長軸約40cm、短軸約30cmの楕円形を呈し、床面からの深さは約53cmを測る。支柱穴(ST15_P3)は、直径約25cmの円形を呈し、床面からの深さは約32cmを測る。ベッド状遺構は幅0.30~0.80m、低床部との比高差は約15cmを測る。壁溝(ST15_SD1)は、ベッド際で検出した。幅約20cm、床面からの深さは5~6cmを測る。検出長は約0.30mである。

図示した出土遺物は、弥生土器の鉢(829・830)である。

829は鉢である。底部は丸みを帯びた平底である。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面は全面にハケ調整を施し、内底面にはヘラナデ調整を施す。830は鉢である。体部は緩やかに斜め上方へ立ち上がり、底部は丸みを帯びた平底を呈する。体部外面はハケ調整を施す。下地に叩き調整か。内面はハケ調整であり、内底面はナデ調整である。

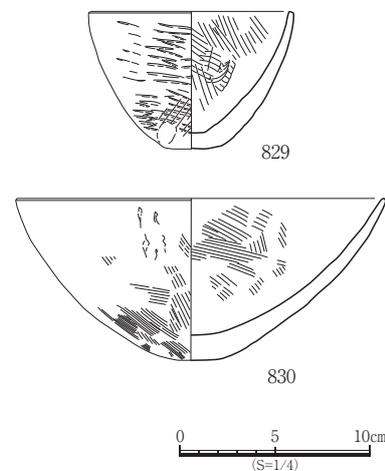


図174 6-1区 ST15 出土遺物実測図

2.SB

SB1

SB1は調査区中央部で検出した桁行4間(約7.09m)、梁行2間(約4.01m)の東西棟の掘立柱建物跡であり、床面積は約

28.4㎡である。主軸方向はN-12° 32' -Wである。SB1_P1～12で構成される。柱間寸法は、桁行1.70～1.85 m, 梁行1.95～2.10 mである。柱穴は直径90～100cmの隅丸方形であり、検出面からの深さは62～88 cmである。埋土は黒色(10YR1.7/1)細粒砂質シルト他である。すべての柱穴において上面で柱痕跡を検出した。柱穴を中央で検出したものは少なく、ほとんどの柱痕跡は縁辺での検出である。

図示した出土遺物は、須恵器の杯(831), 石包丁(832・833)である。

831はSB1_P5から出土した杯である。口縁部は内傾気味に短く立ち上がり、受け部は斜め上方へのびる。内外面とも回転ナデ調整で仕上げる。832はSB1_P4から出土した結晶片岩製の打製石包丁である。長方形を呈し、短辺に抉りを入れる。周縁には調整剥離痕跡がみられる。両刃である。833はSB1_P10から出土した砂岩製の打製石包丁である。円礫の打欠きによる楕円形状の剥片を利用する。主要剥離面、自然面を残す。両端に抉りを入れる。周縁に調整剥離痕跡がみられる。両刃である。完存する。

SB2

SB2は調査区東端部で検出した桁行3間(約4.36m), 梁行2間(約3.48m)の東西棟の掘立柱建物跡であり、床面積は約15.2㎡である。主軸方向はN-4° 23' -Eである。SB2_P1～10で構成される。柱穴は直径50～80 cmの隅丸方形から不整円形であり、検出面からの深さは31～86 cmである。埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト他である。すべての柱穴において上面で柱痕跡を検出したものの、ほとんどの柱痕跡は縁辺での検出である。

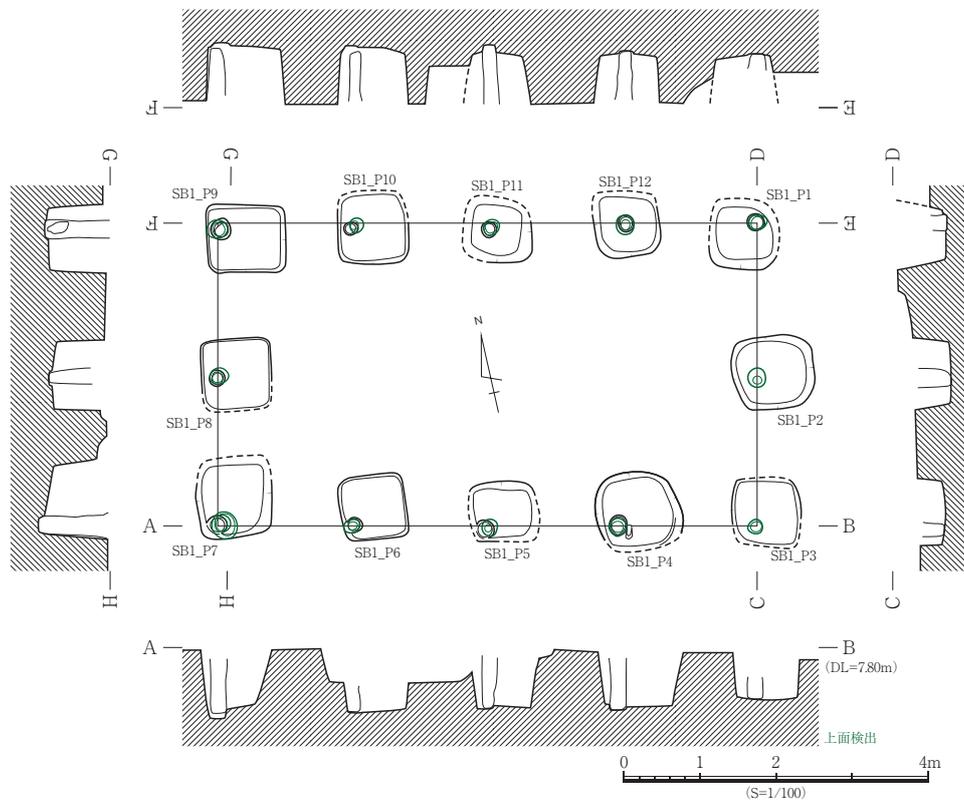


図175 6-1区 SB1 平面図・エレベーション図

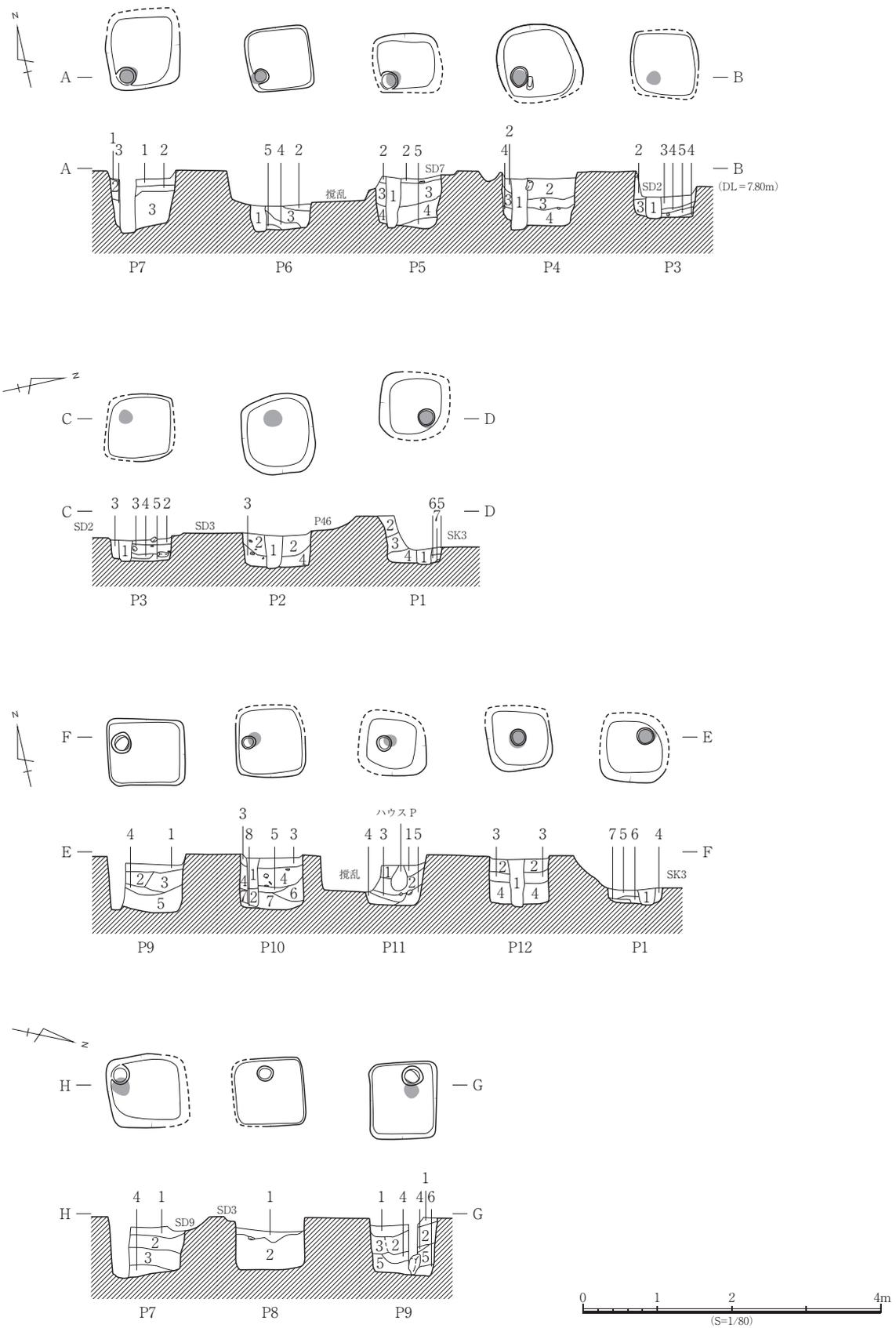


図176 6-1区 SB1 柱穴断面図

図示した出土遺物はない。

SB3

SB3は調査区西端部で検出した桁行2間(約5.80m)、梁行2間(約4.95m)の南北棟の掘立柱建物跡であり、床面積は約28.7㎡である。主軸方向はN-2°54'-Eである。P70・ST5_P1・ST9_P3他で構成される。柱穴は直径30～50cmの円形から不整形円形であり、検出面からの深さは9～45cmである。埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物は、ST9_P3から出土したミニチュア土器(834)である。手捏ね成形であり、指頭圧痕が顕著である。

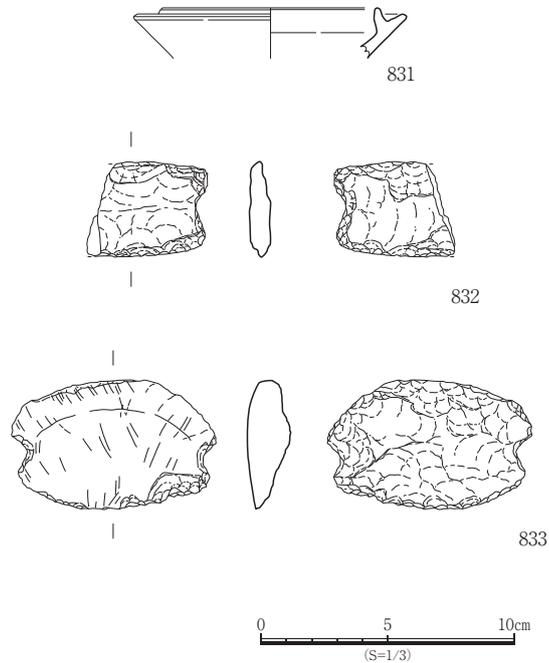


図177 6-1区 SB1 出土遺物実測図

SB4

SB4は調査区西端部で検出した桁行2間(約5.03m)、梁行2間(約3.31m)の東西棟の掘立柱建物跡であり、床面積は約16.6㎡である。主軸方向はN-73°31'-Wである。P10・11他で構成される。柱穴は直径20～60cmの円形から楕円形であり、検出面からの深さは4～19cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物はない。

SB5

SB5は調査区北西部で検出した桁行3間(約5.59m)、梁行1間(約3.36m)の東西棟の掘立柱建物跡

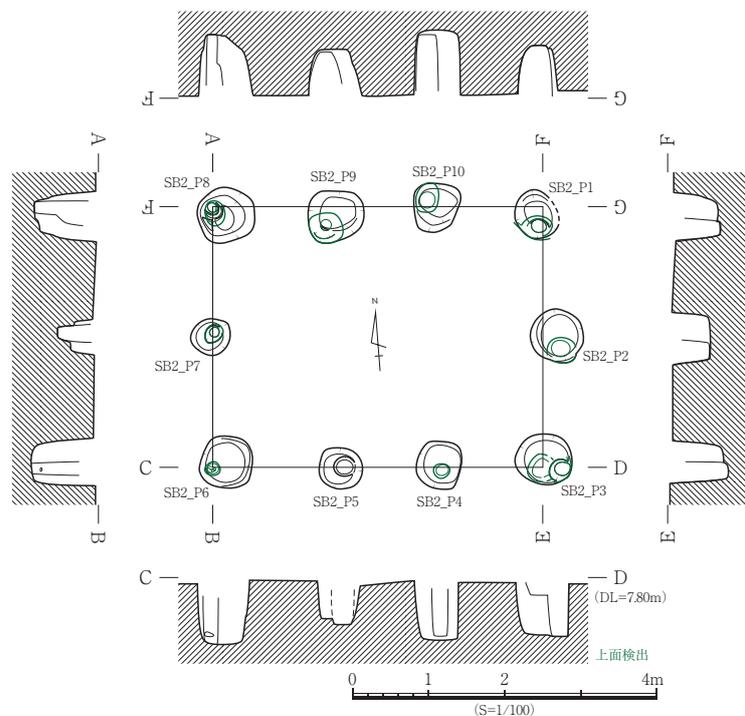


図178 6-1区 SB2 平面図・エレベーション図

であり、床面積は約18.8㎡である。主軸方向はN-76° 30' -Wである。P64他で構成される。柱穴は直径20～40cmの円形から不整形であり、検出面からの深さは7～20cmである。埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物はない。

SB6

SB6は調査区中央部北寄りで検出した桁行2間(約6.04m)、梁行2間(約2.99m)の東西棟の掘立柱建物跡であり、床面積は約18.0㎡である。主軸方向はN-77° 8' -Wである。ST3_P10・P100他で構成される。柱穴は直径約30cmの円形から不整形円形であり、検出面からの深さは15～35cmである。埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物はない。

SB7

SB7は調査区中央部北寄りで検出した桁行2間(約5.07m)、梁行2間(約3.66m)の東西棟の掘立柱建物跡であり、床面積は約18.6㎡である。主軸方向はN-78° 39' -Wである。P17・30・123・150・187他で構成される。柱穴は直径25～30cmの円形から楕円形であり、検出面からの深さは13～40cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物はない。

SB8

SB8は調査区中央部北寄りで検出した桁行2間(約4.85m)、梁行2間(約3.70m)の東西棟の掘立柱建物跡であり、床面積は約17.9㎡である。主軸方向はN-79° 27' -Wである。P16・24・29・37・52・78・121他で構成される。柱穴は直径25～60cmの円形から不整形であり、検出面からの深さは9～56cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物は、P29から出土した土師質土器の皿(835)である。口縁部は短く外方にひらく。

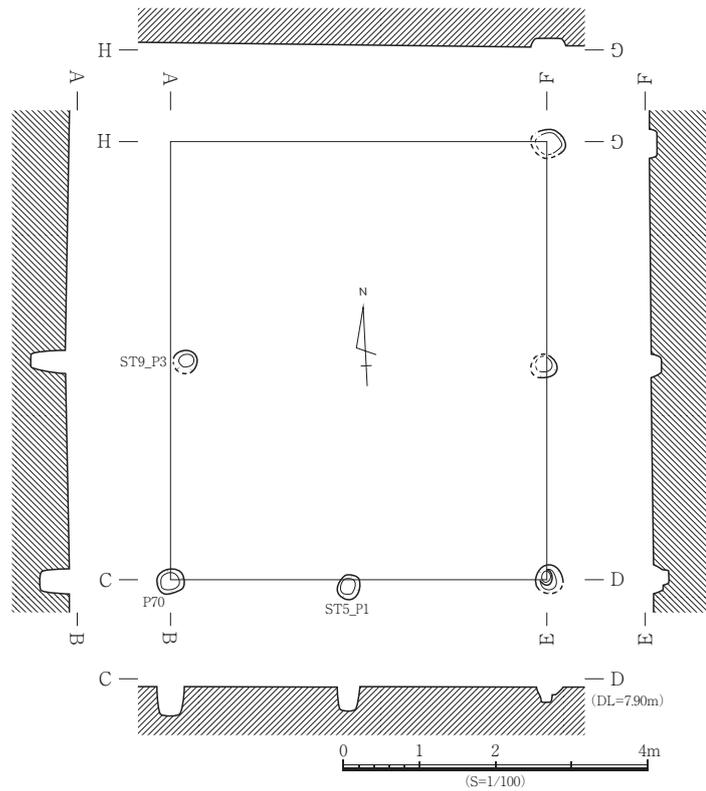


図179 6-1区 SB3 平面図・エレベーション図

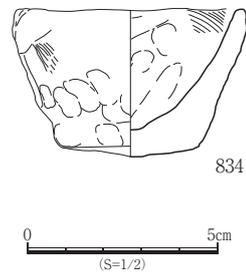


図180 6-1区 SB3 出土遺物実測図

内外面とも回転ナデ調整で仕上げ、外底面には回転糸切り痕跡が認められる。

SB9

SB9は調査区中央部北寄りで検出した桁行は3間(約6.66m)以上、梁行2間(約3.72m)の南北棟の掘立柱建物跡である。主軸方向はN-17° 17' -Eである。P23・36・119・124他で構成される。柱間寸法は、桁行1.40～3.50m、梁行1.70～2.00mである。柱穴は直径20～35cmの円形から不整形円形であり、検出面からの深さは3～28cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物はない。

SB10

SB10は調査区中央部北寄りで検出した桁行3間(約6.16m)、梁行2間(約3.41m)の南北棟の掘立柱建物跡であり、床面積は約21.0㎡である。主軸方向はN-16° 29' -Eである。P21・34・35・43・55・79・108・120で構成される。柱穴は直径25～40cmの円形から不整形円形であり、検出面からの深さは9～31cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物はない。

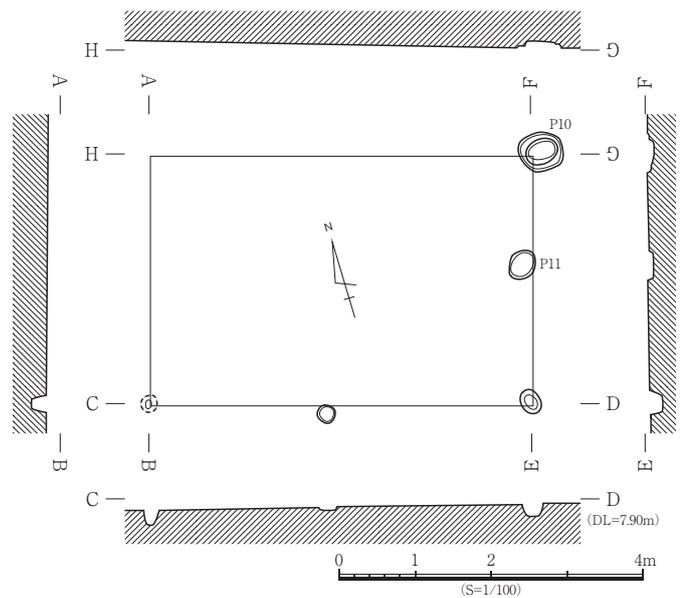


図181 6-1区 SB4 平面図・エレベーション図

SB11

SB11は調査区東部で検出した桁行4間(約10.14m)、梁行3間(約6.11m)の東西棟の掘立柱建物跡であり、床面積は約62.0㎡である。主軸方向はN-77° 14' -Wである。P109・110・143・148他で構成される。柱穴は直径20～50cmの円形から不整形円形であり、検出面からの深さは7～58cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物は、P143から出土した弥生土器の底部(836)である。小径な上げ底を呈する。内外面ともナデ調整である。

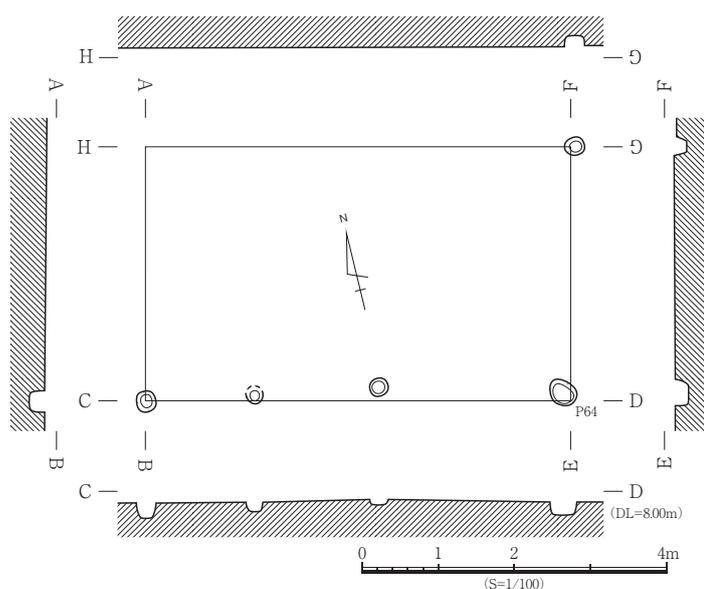


図182 6-1区 SB5 平面図・エレベーション図

SB12

SB12は調査区東部で検出した桁行4間(約8.49m), 梁行1間(約4.59m)の東西棟の掘立柱建物跡であり, 床面積は約38.9㎡である。主軸方向はN-77° 14' -Wである。ST12_P3・P112・136・142・145他で構成される。柱穴は直径30~50cmの円形から不整形であり, 検出面からの深さは13~48cmである。埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物は, P136 から出土した土師器の椀(837)である。体部は内湾気味に立ち上がり, 口縁部は僅かに外反する。底部には輪高台を貼り付ける。内外面とも回転ナデ調整を施し, 外面下半部は回転ヘラケズリ調整である。外底面には回転ヘラ切り痕跡が認められる

3.SA

SA1

SA1は調査区中央部で検出した柵である。P41・72・73・90・164で構成され, 検出長は約7.25mである。主軸方向はN-13° 29' -Eである。柱間寸法は0.90~3.30mである。柱穴は直径60~80cmであり, 検出面からの深さは34~54cmを測り, 埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物はない。

4.SK

SK1

SK1は調査区西部で検出した平面形が不整円形の土坑である。長軸の検出長は約1.95m, 短軸の検出長は約1.93mを測り, 検出面からの深さは約45cmである。埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SK2

SK2は調査区中央部で検出し

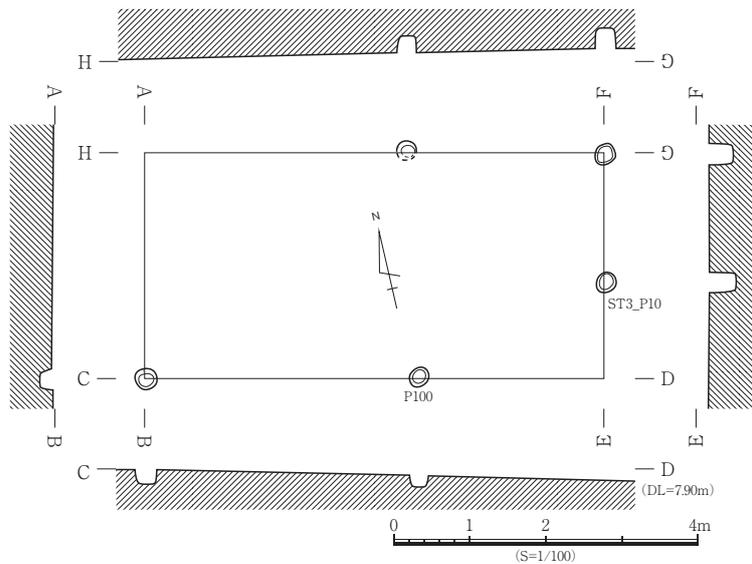


図183 6-1区 SB6 平面図・エレベーション図

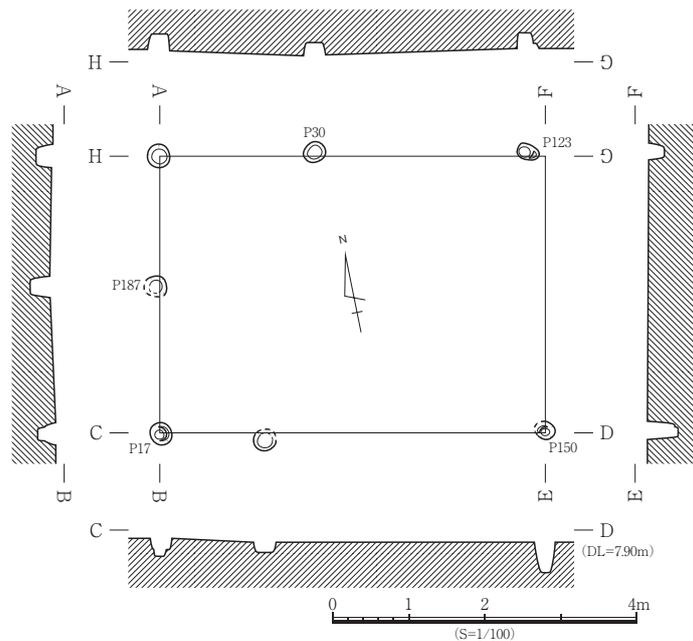


図184 6-1区 SB7 平面図・エレベーション図

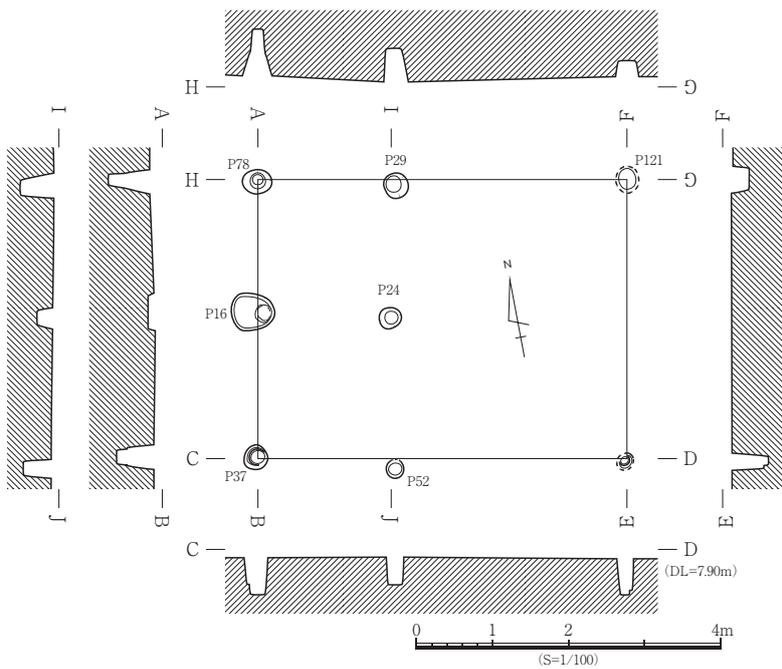


図185 6-1区 SB8 平面図・エレベーション図



図186 6-1区 SB8
出土遺物実測図

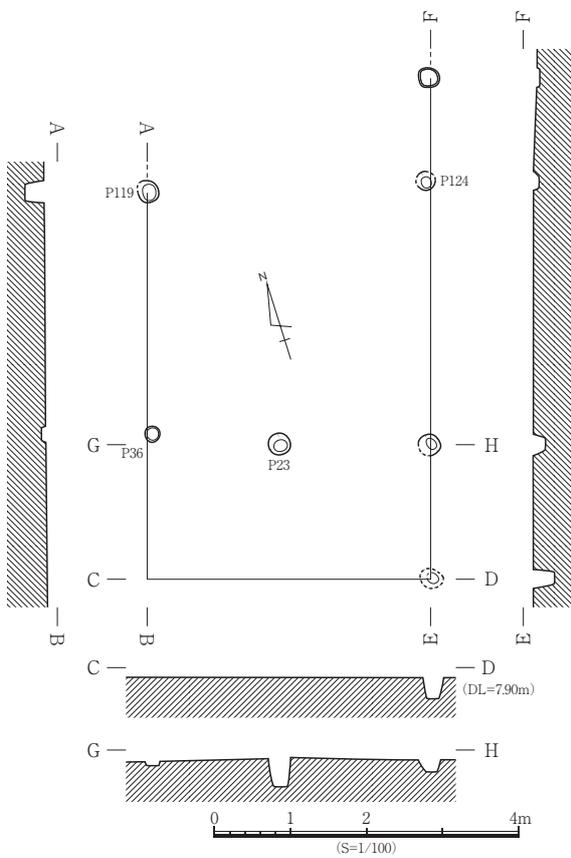


図187 6-1区 SB9 平面図・エレベーション図

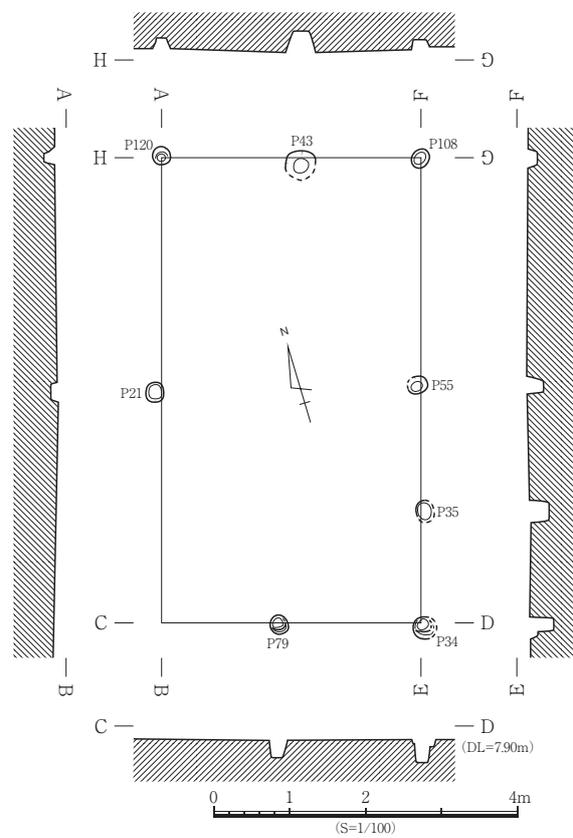


図188 6-1区 SB10 平面図・エレベーション図

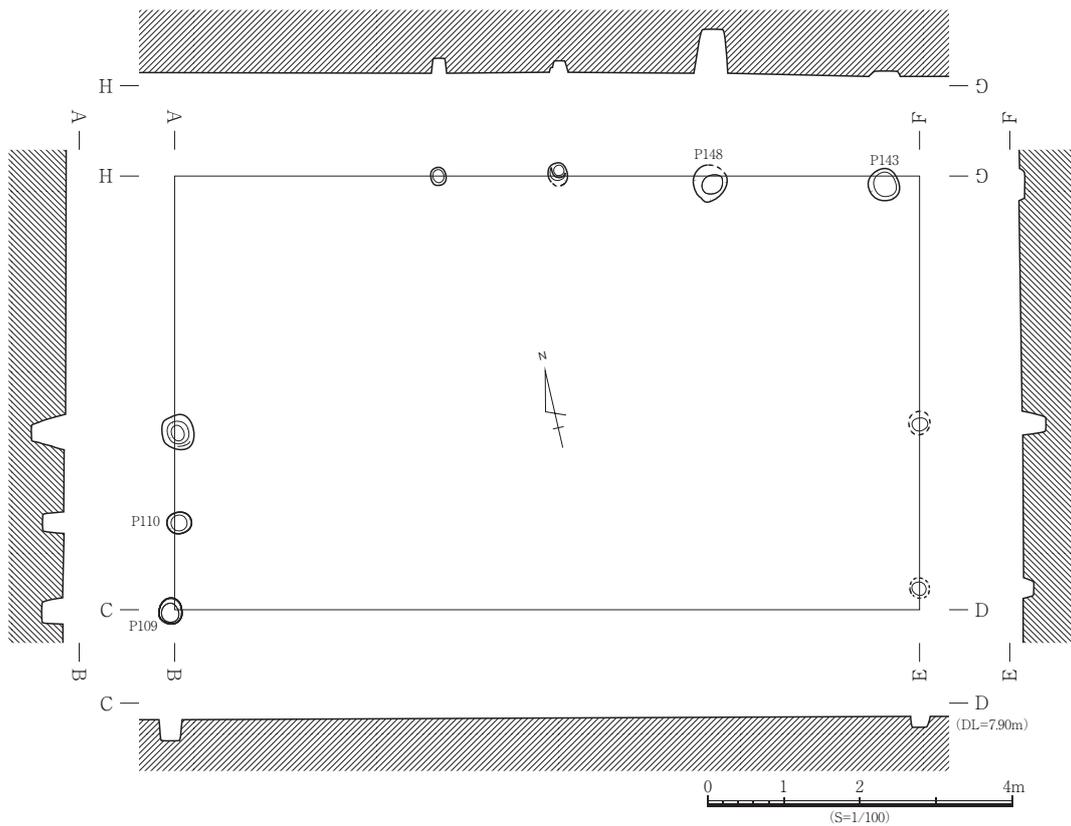


図189 6-1区 SB11 平面図・エレベーション図

た平面形が不整円形の土坑である。長軸の検出長は約 2.47 m，短軸の検出長は約 2.39 m を測り，検出面からの深さは約 46cm である。

図示した出土遺物は，陶器の皿(838)である。口縁部は輪花状を呈する。高台は削り出しで低く，高台周辺にはヘラケズリ調整を施す。外面下半は露胎である。見込みに砂目積み痕跡が4ヶ所みられる。唐津産で17世紀初頭の可能性がある。

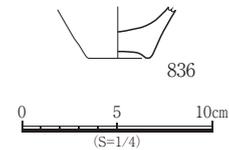


図190 6-1区 SB11 出土遺物実測図

SK3

SK3 南は調査区中央部で検出した平面形が不整円形の土坑である。長軸の検出長は約 2.72 m，短軸の検出長は約 2.03 m を測り，検出面からの深さは約 48cm である。SK3 北は調査区中央部で検出した平面形が不整円形の土坑である。長軸の検出長は約 2.14 m，短軸の検出長は約 1.16 m を測り，検出面からの深さは約 44cm である。

図示した出土遺物は，陶器の碗(839・840)である。

839は京焼き風の碗である。黄色みがかかった透明釉を施し，畳付のみ露胎である。貫入がみられる。840は碗である。外面に銅緑釉を施釉し，下位は露胎となる。内面には透明釉を施す。内野山窯産で18世紀の可能性がある。

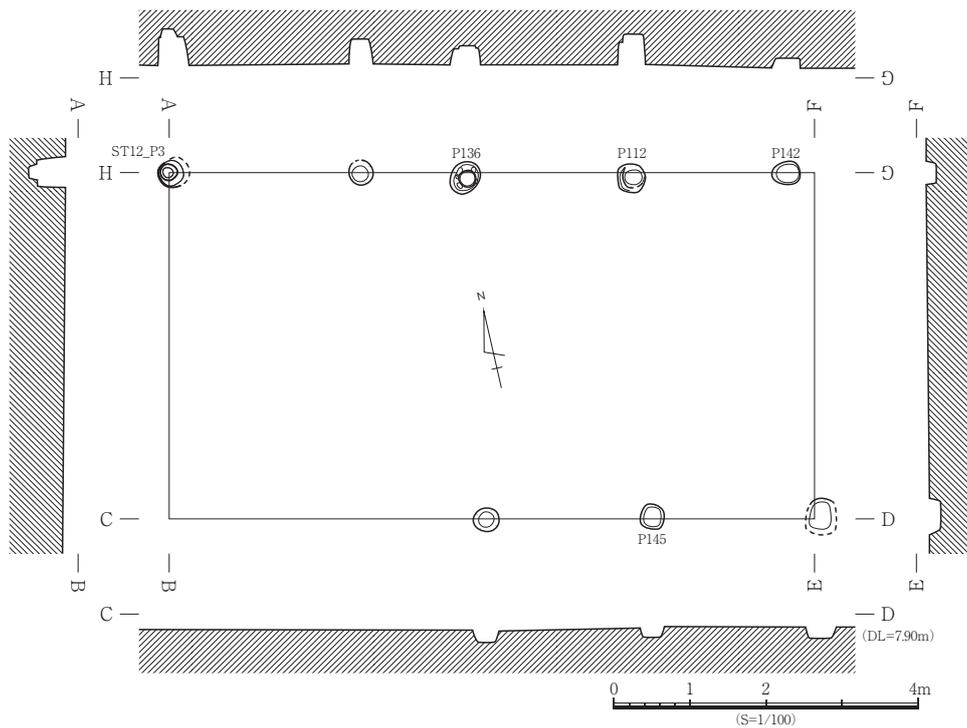


図191 6-1区 SB12 平面図・エレベーション図

SK4

SK4は調査区中央部で検出した土坑である。平面形は不整形か。南西部は隅丸方形状を呈し、別の土坑と重複しているか、あるいはSK4の掘方か。長軸の検出長は約2.71m、短軸の検出長は約1.34mを測り、検出面からの深さは約66cmである。主軸方向はN-82°-Wである。

図示した出土遺物はない。

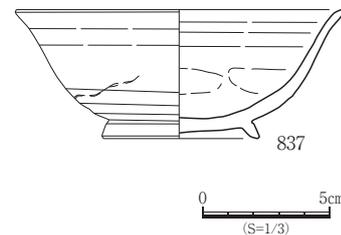


図192 6-1区 SB12
出土遺物実測図

SK5

SK5は調査区中央部で検出した平面形が不整形の土坑である。長軸の検出長は約1.90m、短軸の検出長は約1.78mを測り、検出面からの深さは約44cmである。埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SK6

SK6は調査区中央部で検出した平面形が不整形の土坑である。長軸の検出長は約2.72m、短軸の検出長は約2.23mを測り、検出面からの深さは約44cmである。

図示した出土遺物はない。

SK7

SK7は調査区中央部で検出した土坑である。平面形は不整形円形か。長軸の検出長は約2.30m、短軸の検出長は約1.64mを測り、検出面からの深さは約39cmである。

図示した出土遺物はない。

SK8

SK8は調査区中央部で検出した平面形が溝状の土坑である。長軸の検出長は約4.29m、短軸の検出長は約0.90mを測り、検出面からの深さは約14cmである。主軸方向はN-28°-E・N-82°-Wである。

図示した出土遺物はない。

SK9

SK9は調査区中央部で検出した土坑である。平面形は不整形円形か。長軸の検出長は約1.48m、短軸の検出長は約1.24mを測り、検出面からの深さは約18cmである。主軸方向はN-22°-Eである。

図示した出土遺物はない。

SK10

SK10は調査区中央部で検出した土坑である。平面形は楕円形か。長軸の検出長は約2.00m、短軸の検出長は約0.98mを測り、検出面からの深さは約7cmである。主軸方向はN-75°-Wである。

図示した出土遺物はない。

SK11

SK11は調査区中央部で検出した平面形が不整形円形の土坑である。長軸の検出長は約2.03m、短軸の検出長は約1.92mを測り、検出面からの深さは約37cmである。

図示した出土遺物は、備前焼の播鉢(841・842)である。

841は播鉢である。口縁部は肥厚し外面に2条の凹線を施す。口唇部内面は凹面状を呈する。櫛条原体により播目を施す。焼成は須恵質である。842は播鉢である。口縁端部から大きく上方へ拡張し、外面に2条の凹線を施す。

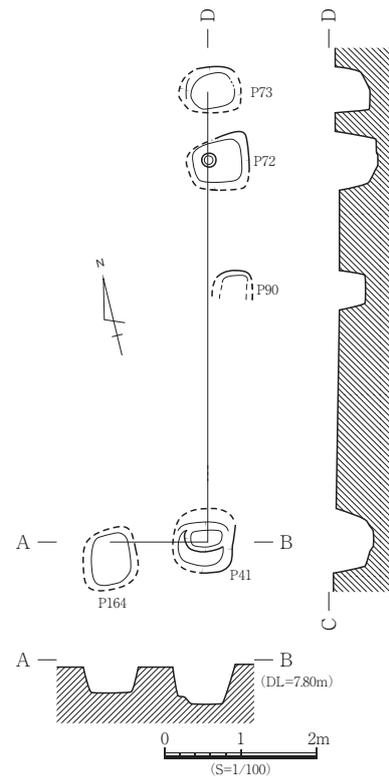


図193 6-1区 SA1

平面図・エレベーション図

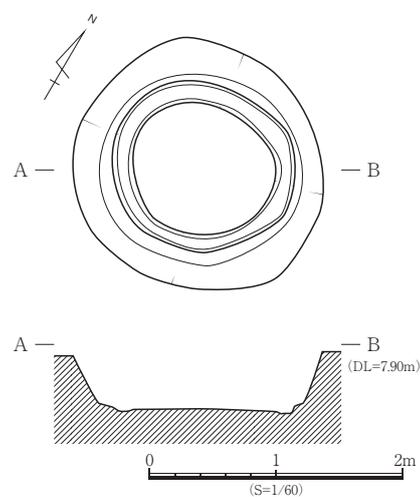


図194 6-1区 SK1 平面図・エレベーション図

SK12

SK12は調査区中央部で検出した平面形が隅丸長方形の土坑である。長軸の検出長は約1.96m、短軸の検出長は約1.52mを測り、検出面からの深さは約13cmである。主軸方向はN-5°-Eである。

図示した出土遺物はない。

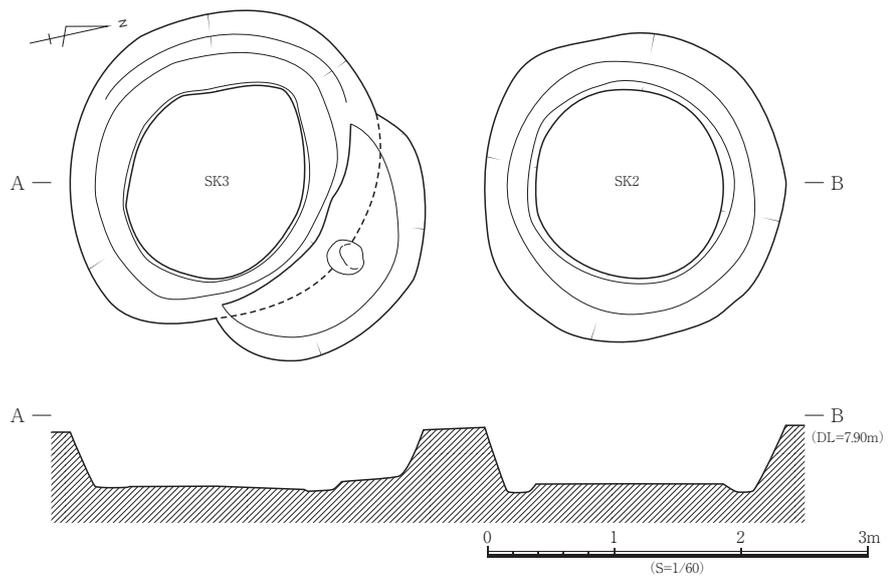


図195 6-1区 SK2・3 平面図・エレベーション図

SK13

SK13は調査区中央部で検出した平面形が不整形円形の土坑である。長軸の検出長は約2.13m、短軸の検出長は約1.95mを測り、検出面からの深さは約60cmである。

図示した出土遺物はない。

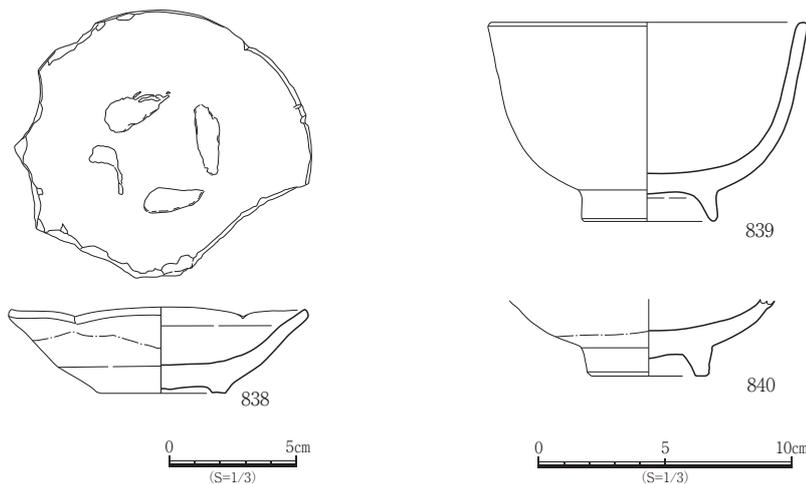


図196 6-1区 SK2 出土遺物実測図

図197 6-1区 SK3 出土遺物実測図

SK14

SK14は調査区中央部で検出した平面形が不整形楕円形の土坑である。長軸の検出長は約2.26m、短軸の検出長は約1.96mを測り、検出面からの深さは約64cmである。埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は、陶器の碗(843)である。体部は浅く丸みを帯びる。畳付の一部まで施釉し、内面には貫入がみられる。また、見込みには

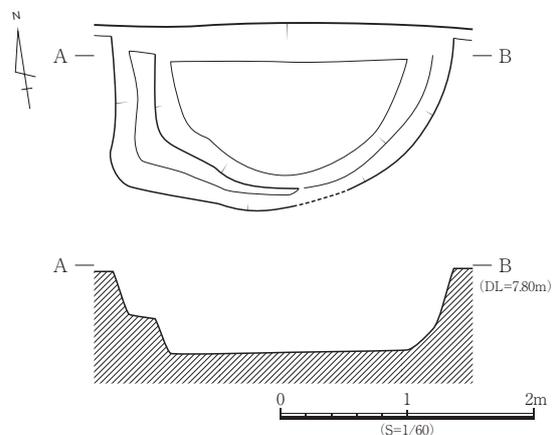


図198 6-1区 SK4 平面図・エレベーション図

砂目積み痕跡が認められる。

SK15

SK15は調査区中央部で検出した平面形が不整形の土坑である。長軸の検出長は約2.12m, 短軸の検出長は約2.10mを測り, 検出面からの深さは約60cmである。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

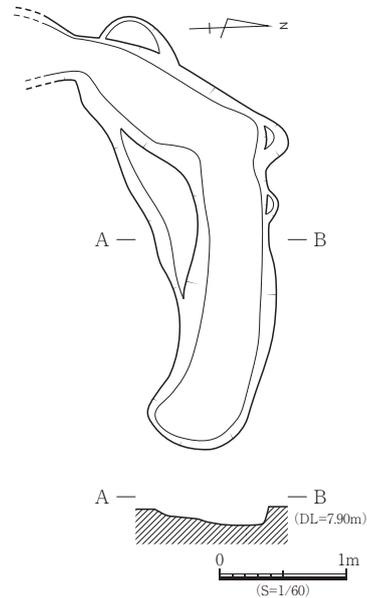


図199 6-1区 SK8 平面図・エレベーション図

SK16

SK16は調査区中央部で検出した平面形が溝状の土坑である。長軸の検出長は約0.98m, 短軸の検出長は約0.37mを測り, 検出面からの深さは約13cmである。主軸方向はN-9°-Eである。

図示した出土遺物はない。

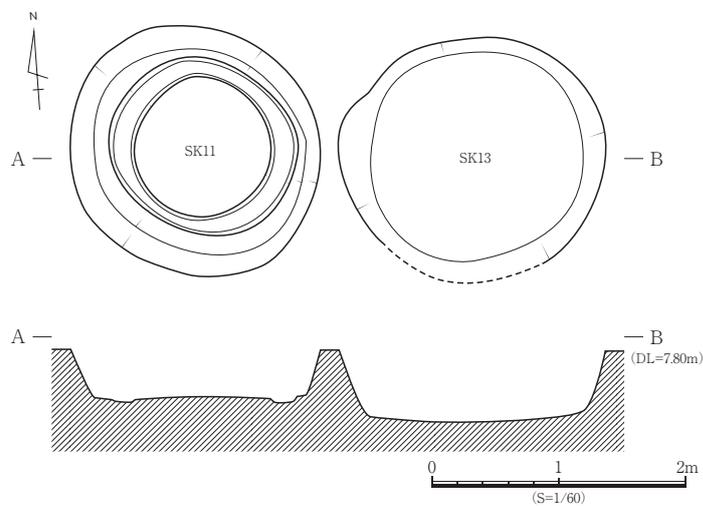


図200 6-1区 SK11・13 平面図・エレベーション図

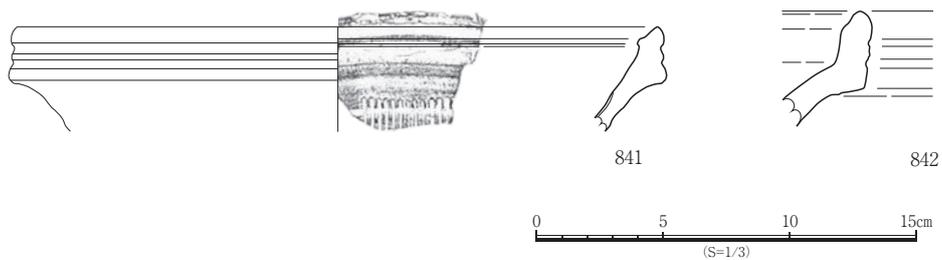


図201 6-1区 SK11 出土遺物実測図

SK17

SK17は調査区中央部で検出した平面形が隅丸長方形の土坑である。長軸の検出長は約1.23 m, 短軸の検出長は約1.02 mを測り, 検出面からの深さは約9cmである。主軸方向はN-2° -Wである。

図示した出土遺物はない。

SK18

SK18は調査区中央部で検出した土坑である。平面形は溝状か。長軸の検出長は約1.28 m, 短軸の検出長は約0.97 mを測り, 検出面からの深さは約16 cmである。主軸方向はN-5° -Eである。

図示した出土遺物はない。

SK19

SK19は調査区中央部で検出した平面形が溝状の土坑である。長軸の検出長は約6.12 m, 短軸の検出長は0.84 ~ 1.59 mを測り, 検出面からの深さは13 ~ 24cmである。埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト他である。主軸方向はN-68° -Wである。

図示した出土遺物はない。

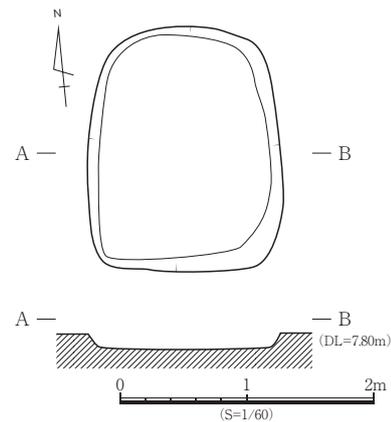
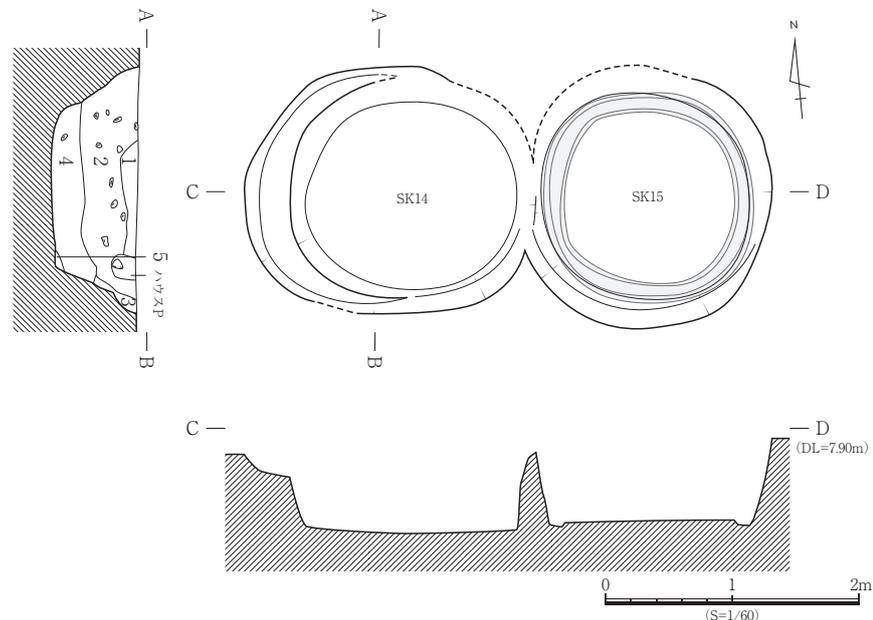


図202 6-1区 SK12
平面図・エレベーション図

SK20

SK20は調査区中央部で検出した平面形が溝状の土坑である。長軸の検出長は約2.03 m, 短軸の検出長は約0.56 mを測り, 検出面からの深さは約5 ~ 10cmである。埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-77° -Eである。

図示した出土遺物はない。



- 遺構埋土
1. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトに暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトをブロック状に含む(SK14)
 2. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルト・褐色(10YR4/1)細粒砂質シルトににぶい黄褐色(10YR5/3)粘土質シルトとにぶい黄褐色(10YR4/3)粘土質シルトをブロック状に含む2.0~7.0cm大の礫を含む(SK14)
 3. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトににぶい黄褐色(10YR4/3)細粒砂質シルトをブロック状に含む(SK14)
 4. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトににぶい黄褐色(10YR5/3)粘土質シルトとにぶい黄褐色(10YR4/3)粘土質シルトを少量含みにぶい黄褐色(10YR5/4)粘土を一部ブロック状に含む(SK14)
 5. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト・黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト(SK14)

図203 6-1区 SK14・15 平面図・断面図・エレベーション図

SK21

SK21は調査区西部で検出した平面形が不整形の土坑である。ST14を切る。長軸の検出長は約2.14 m, 短軸の検出長は0.68～1.60 mを測り, 検出面からの深さは約45・51 cmである。埋土は黒色(10YR1.7/1)細粒砂質シルト他である。主軸方向はN-80° -Eである。5区で検出した大型掘立柱建物跡(5区SB1)を区画する溝跡の一部か。

図示した出土遺物はない。

SK22

SK22は調査区中央部で検出した平面形が溝状の土坑である。長軸の検出長は約1.72 m, 短軸の検出長は0.38～0.41 mを測り, 検出面からの深さは約22cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト他である。主軸方向はN-12° -Eである。

図示した出土遺物はない。

SK23

SK23は調査区西部で検出した平面形が楕円形の土坑である。長軸の検出長は約1.45 m, 短軸の検出長は約1.00 mを測り, 検出面からの深さは約31 cmである。埋土は黒色(10YR1.7/1)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-85° -Wである。SD23の底面に掘削されたものか。

図示した出土遺物はない。

SK24

SK24は調査区西部で検出した平面形が不整円形の土坑である。長軸の検出長は約1.46 m, 短軸の検出長は約1.37 mを測り, 検出面からの深さは約60 cmである。埋土は黒色(10YR1.7/1)細粒砂質シルト他である。SD23の底面に掘削されたものか。

図示した出土遺物はない。

SK25

SK25は調査区西部で検出した土坑である。平面形は不整円形か。長軸の検出長は約1.44 m, 短軸の検出長は約0.67 mを測り, 検出面からの深さは約25 cmである。埋土は黒色(10YR1.7/1)細粒砂質シルト他である。主軸方向はN-71° -Wである。SD23の底面に掘削されたものか。

図示した出土遺物はない。

SK26

SK26は調査区中央部で検出した平面形が不整隅丸方形の土坑である。長軸の検出長は約1.08 m, 短軸の検出長は約0.92 mを測り, 検出面からの深さは約15cmである。埋土は黒色(10YR1.7/1)細粒砂質シルト他である。主軸方

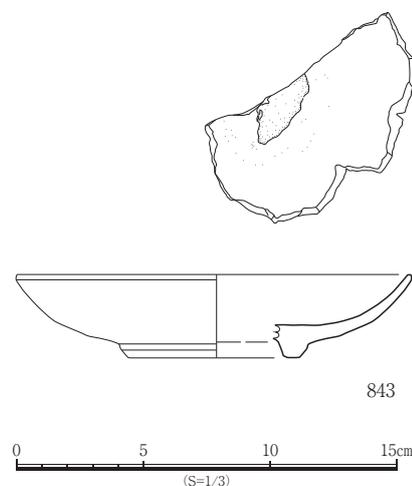


図204 6-1区 SK14 出土遺物実測図

向はN-77° -Wである。

図示した出土遺物は、弥生土器の底部(844)である。壺の底部で丸底である。外面はハケ調整, 内面はハケ調整およびナデ調整である。

SK27

SK27は調査区西部で検出した平面形が不整隅丸方形の土坑である。長軸の検出長は約0.83m, 短軸の検出長は約0.88mを測り, 検出面からの深さは約20cmである。主軸方向はN-10° -Eである。

図示した出土遺物は、弥生土器の高杯(845)である。外面には縦方向のヘラミガキ調整を施す。内面にはしぼり目がみられる。脚部と裾部の境に直径約0.9cmの円孔を穿つ。

SK28

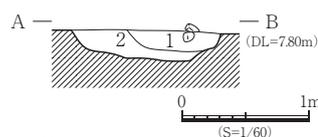
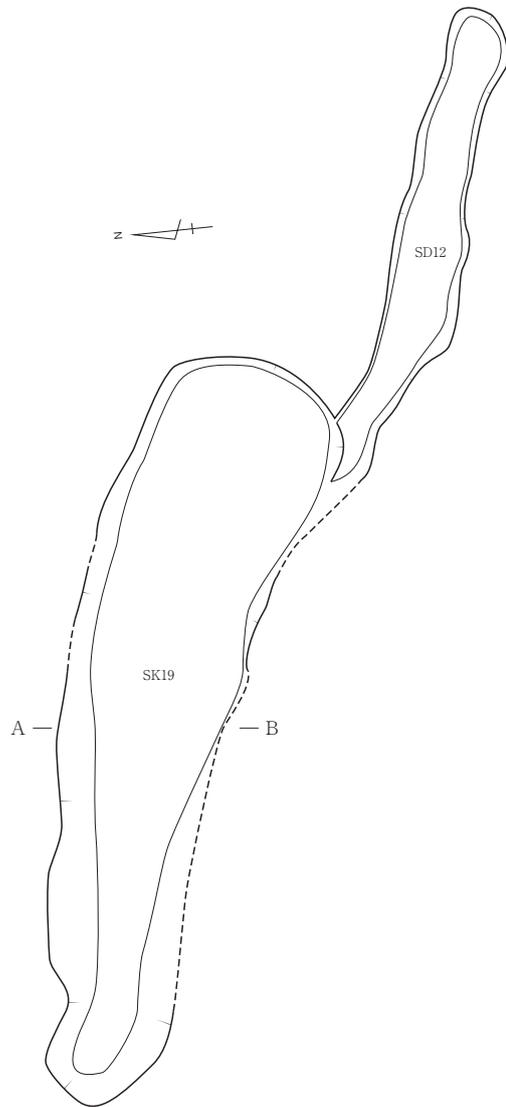
SK28は調査区中央部で検出した土坑である。複数の別遺構と重複しているため平面形は不明である。長軸の検出長は約2.56m, 短軸の検出長は約1.30mを測り, 検出面からの深さは約10・20cmである。主軸方向はN-6° -Eである。

図示した出土遺物は、弥生土器の壺(846)である。口縁部は大きくひらき, 端部を上方へ拡張する。外面には凹線文を施す。内外面ともヨコナデ調整を施す。搬入品(讃岐産)の可能性ある。

SK29

SK29は調査区中央部で検出した平面形が溝状の土坑である。長軸の検出長は約2.64m, 短軸の検出長は約0.73mを測り, 検出面からの深さは約13cmである。埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-2° -Eである。

図示した出土遺物は、弥生土器の小型鉢(847)である。口縁部は、やや受け口状を呈する。体部は張りがなく上方へ立ち上がる。底部は平底である。口縁部外面は叩き調整後, ナデ調整を施し, 内面はヨコハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後, ハケ調整を施し, 内面はハケ調整である。

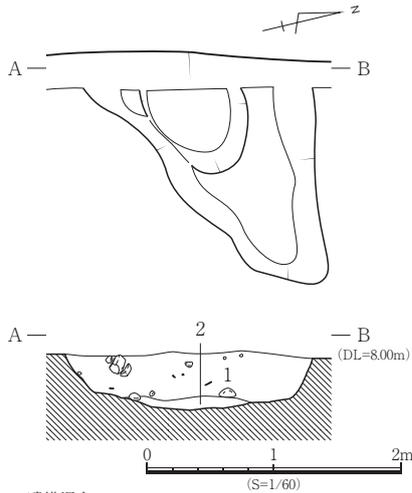


- 遺構埋土
1. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトに黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトをブロック状に含み1.0~30.0cm大の礫を含む(SD12)
 2. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトに黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトを少量含む(SK19)

図205 6-1区 SK19・SD12 平面図・断面図

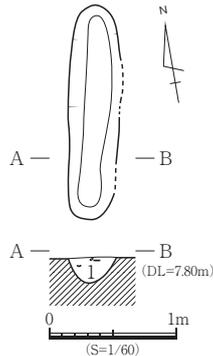
SK30

SK30は調査区中央部で検出した土坑である。平面形は不整形か。長軸の検出長は約4.12m、短軸の検出長は約4.10mを測り、検出面からの深さは約5・18cmである。主軸方向はN-76°-Wである。図示した出土遺物はない。



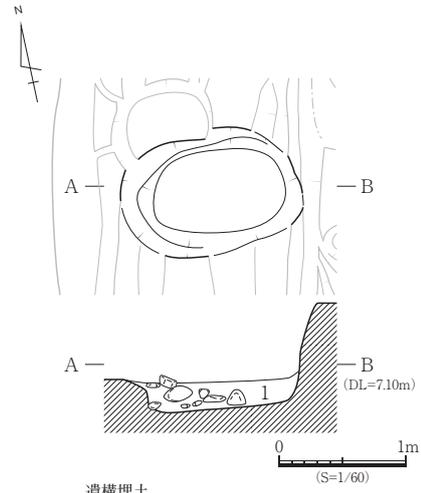
遺構埋土
1. 黒色(10YR1.7/1)細粒砂質シルトに1.0~15.0cm大の礫を含む
2. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに0.5~5.0cm大の礫を含む

図206 6-1区 SK21 平面図・断面図



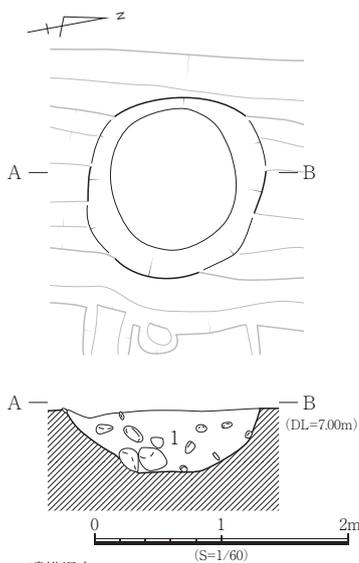
遺構埋土
1. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトと黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトを少量含み0.5~3.0cm大の礫と炭化物を含む

図207 6-1区 SK22 平面図・断面図



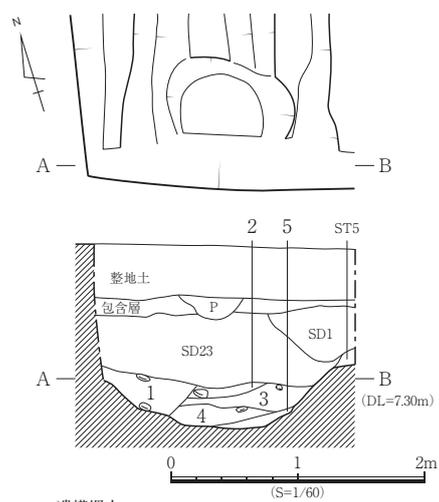
遺構埋土
1. 黒色(10YR1.7/1)細粒砂質シルトに1.0~30.0cm大の礫を多く含む

図208 6-1区 SK23 平面図・断面図



遺構埋土
1. 黒色(10YR1.7/1)細粒砂質シルトに明黄褐色(10YR6/6)砂質シルトを少量含み炭化物と1.0~30.0cm大の礫を多く含む

図209 6-1区 SK24 平面図・断面図



遺構埋土
1. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト(SK25)
2. 黒色(10YR1.7/1)細粒砂質シルト(SK25)
3. 黒色(10YR1.7/1)細粒砂質シルトに1.0~5.0cm大の礫を含む(SK25)
4. 黒色(10YR1.7/1)細粒砂質シルトに1.0~10.0cm大の礫を含む(SK25)
5. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに0.5~3.0cm大の礫を含む(SK25)

図210 6-1区 SK25 平面図・断面図

近世土坑群の変遷

近世以降の大型円形土坑は2基1対あるいは3基1対で構築されることが多く、6-1区で検出したものも2基1対の構成をとるものが多い。調査区中央部で検出した土坑ではSK2とSK3のペア、SK5とSK6のペア、SK7とSK3と重複する土坑のペアの3組に区分可能である。検出時の切り合い関係から、古いものから順にSK2とSK3のペア、SK5とSK6のペア、SK7とSK3と重複する土坑のペアとなる。また、調査区中央部東寄りで検出した土坑群はSK11とSK13のペア、SK14とSK15のペアの2組がみられるものの、新旧関係は不明であり、同時併存の可能性もある。

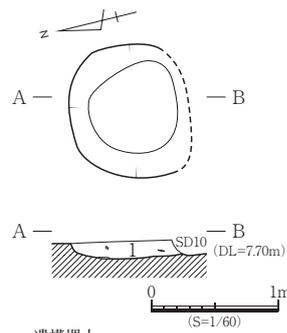


図211 6-1区 SK26
平面図・断面図

遺構埋土
1. 黒色(10YR1.7/1)細粒砂質シルト
に黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト
を少量含む炭化物を含む

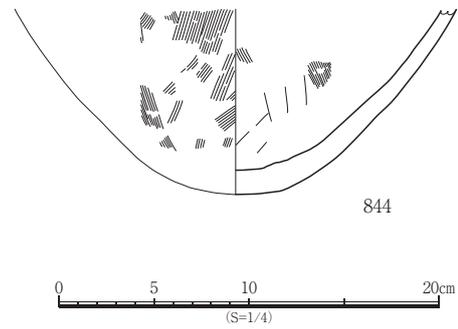


図212 6-1区 SK26 出土遺物実測図

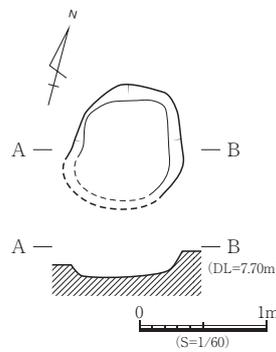


図213 6-1区 SK27
平面図・エレベーション図

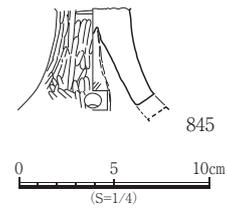


図214 6-1区 SK27
出土遺物実測図

5.SD

SD1

SD1は調査区南部の西半で検出した東西方向の溝跡であり、調査区の南西部で南へ90°向きを変える。調査区外へのびるものの、南に位置する7区では検出していないことから現在の道の下でさらに向きを変えるものと推測される。SD2・14、SX1を切る。SD1の東端はSD14の東肩と一致することには注意を払いたい。

幅0.56~1.06mである。検出長は約24.49mである。主軸方向はN-79°-Wである。検出面からの深さは22~48cmであり、埋土は直径約20cm大以下の礫を多量に含む黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物は、弥生土器の甕(848)・体部片(849)である。

848は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部は尖らせる。体部外面は叩き調整、内面はナデ調整であり、

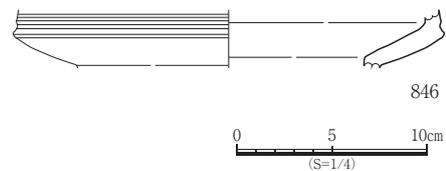


図215 6-1区 SK28 出土遺物実測図

粘土帯接合痕跡がみられる。混入品と考えられる。849 は体部片である。外面はナデ調整, 内面はナデ調整およびミガキ調整である。外面には線刻か。混入品と考えられる。

SD2

SD2は調査区南部中央で検出した溝跡である。SD1に切れ、SD14・SX1を切る。「L」の字形に検出した。南は調査区外へのびるものの、7区ではこの続きを検出しておらず、溝跡の方向から考えると西方向へのびるものと推測される。また、90°北に向きを変える。他の溝と重複や攪乱があることから接続は不明である。SD3・14と接続あるいは同様の軌跡を描くものと推測される。幅0.57～1.11mであり、検出長は約14.49mである。主軸方向はN-79°-W・N-14°-Eである。検出面からの深さは29～48cmであり、埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は、鉄釘(850)である。体部の断面形は方形を呈する。端部は欠損する。

SD3

SD3は調査区を東西方向に掘削された溝跡であり、東方向は調査区外へのびる。また、P157を迂回するように溝をクランク状に曲げる。幅0.30～1.56mで

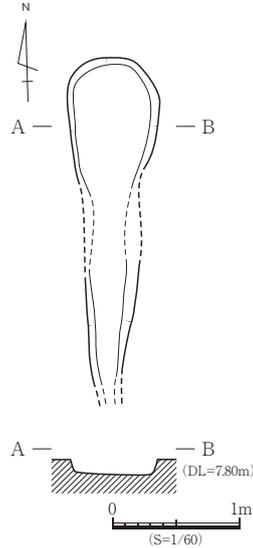


図216 6-1区 SK29
平面図・エレベーション図

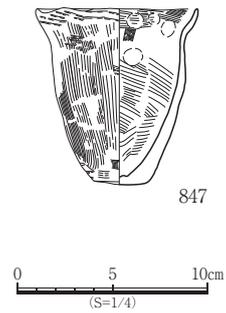


図217 6-1区 SK29
出土遺物実測図

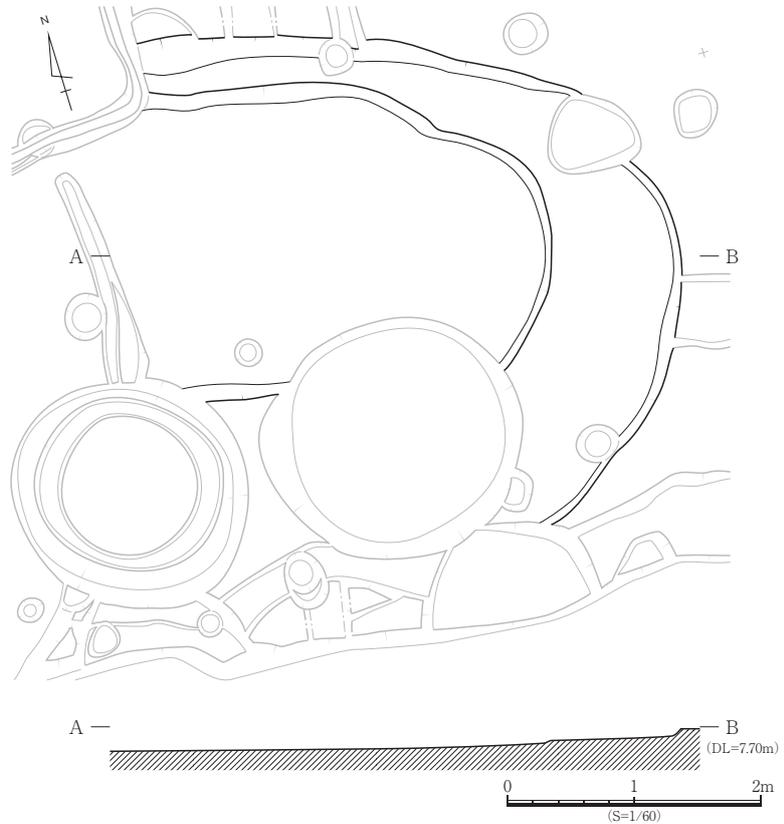


図218 6-1区 SK30 平面図・エレベーション図

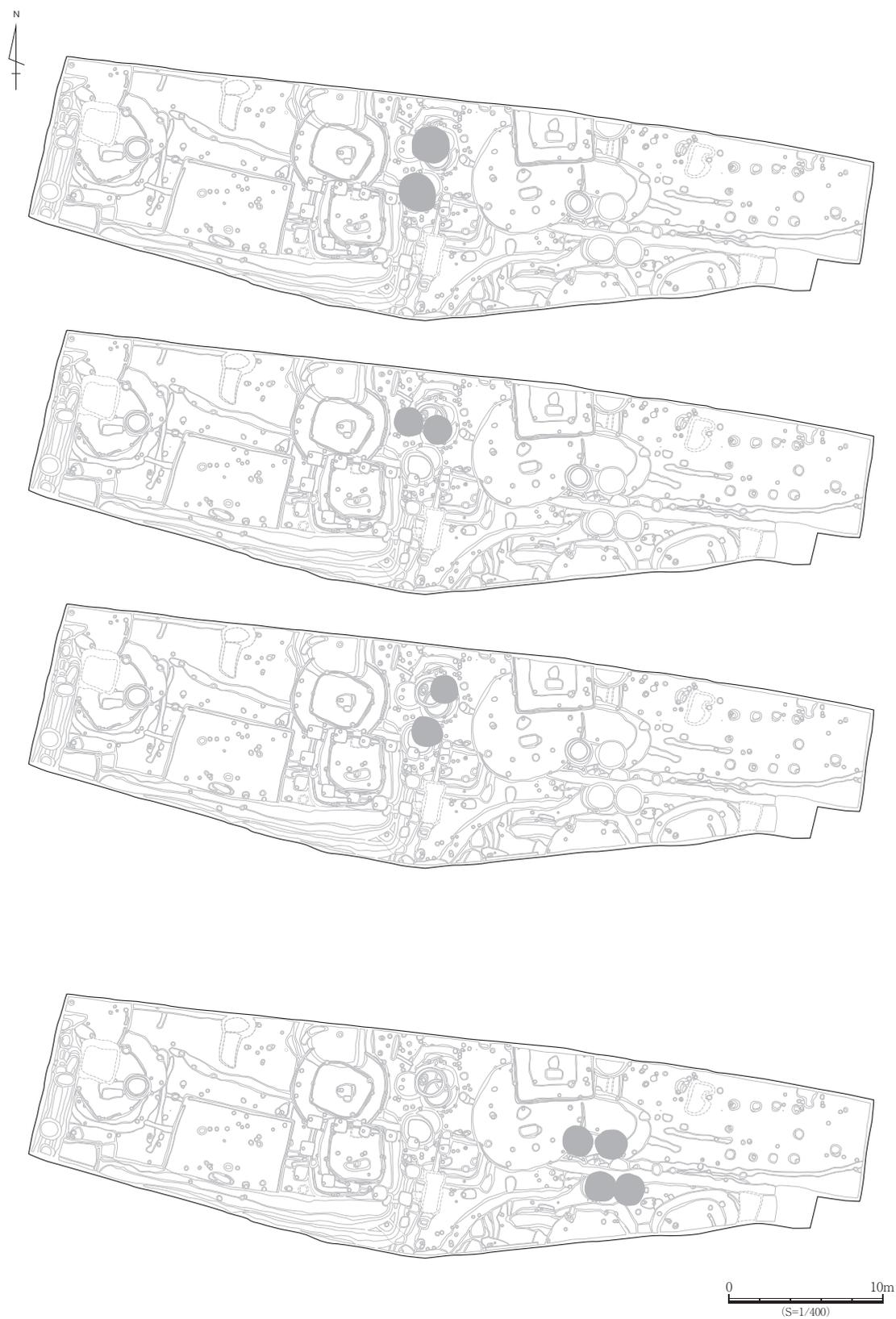


図219 6-1区 SK変遷図

あり、西部の幅は狭くなる。検出長は約 48 mである。主軸方向は N-83° -Wである。検出面からの深さは5~34cmであり、東から西に向かって浅くなる。埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト他である。P157はST11の断面で確認したため、平面形は不明瞭である。直径約40cmの円形状か。埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトである。祠等の痕跡か。

図示した出土遺物は、土師質土器の杯(851)、陶器の天目茶碗(852)・皿(853)、磁器の皿(854)、備前焼の播鉢(855)、平瓦(856)、弥生土器の甕(857)である。

851は杯である。体部は内湾気味に立ち上がる。内外面とも回転ナデ調整を施し、ロクロ目痕がみられる。外底面には回転糸切り痕跡がみられる。852は天目茶碗である。腰部から斜め上方へ立ち上がり、体部で屈折し、口縁部は短くひらく。内外面に施釉し、外面下部は釉剥ぎを施す。瀬戸産で大窯Ⅳ期か。二次被熱の可能性が有る。853は皿である。外面上位に透明釉を施釉し、下位は露胎となる。内面に銅緑釉を施釉し、見込みに蛇の目の釉剥ぎを施し、砂目積み痕跡が認められる。内野山窯産で17世紀後半の可能性が有る。854は皿あるいは鉢である。外底面に断面形が方形状の輪高台を貼付する。ロクロ成形である。条痕(圈線)がみられる。外面下部は露胎となる。見込みには砂目積み痕跡が4ヶ所にみられる。唐津産で17世紀初頭の可能性が有る。855は播鉢である。口縁部は肥厚し、顎部を拡張させ、外面に2条の凹線を施す。回転ナデ調整を施し、外面下部にはヘラケズリ調整を施す。内面には間断のない放射状の播目を施す。856は平瓦である。凸面には縄目痕、凹面には布目の圧痕がみられる。857は甕である。口縁部は外反気味にひらき、体部は短胴気味である。口縁部内面にはヨコハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後、ハケ調整を施し、内面にはハケ調整を施す。外面にはタールおよび煤が付着する。

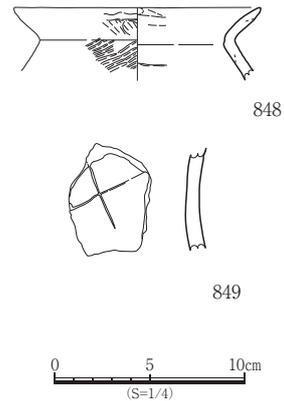


図220 6-1区 SD1
出土遺物実測図

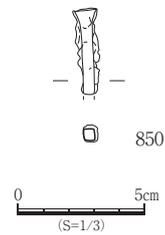


図221 6-1区 SD2
出土遺物実測図

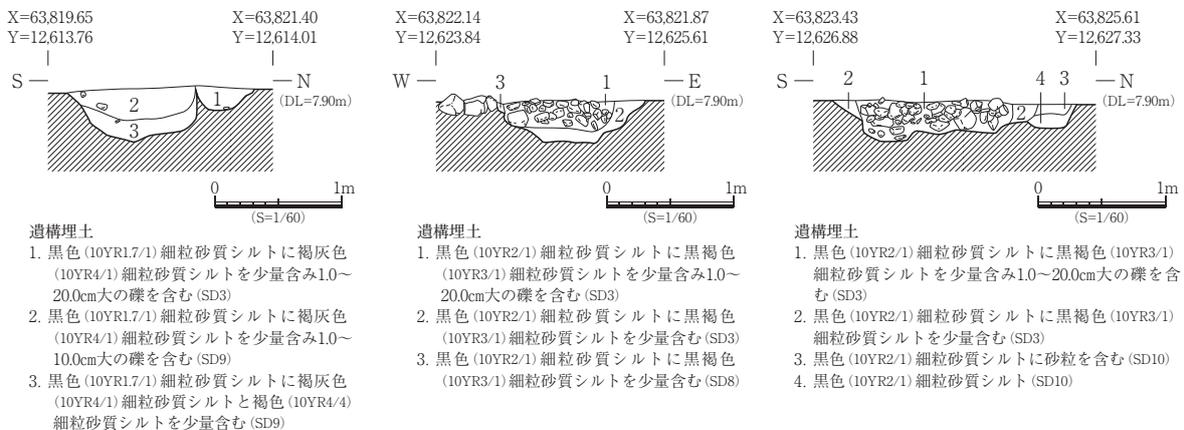


図222 6-1区 SD3・8・9・10 断面図

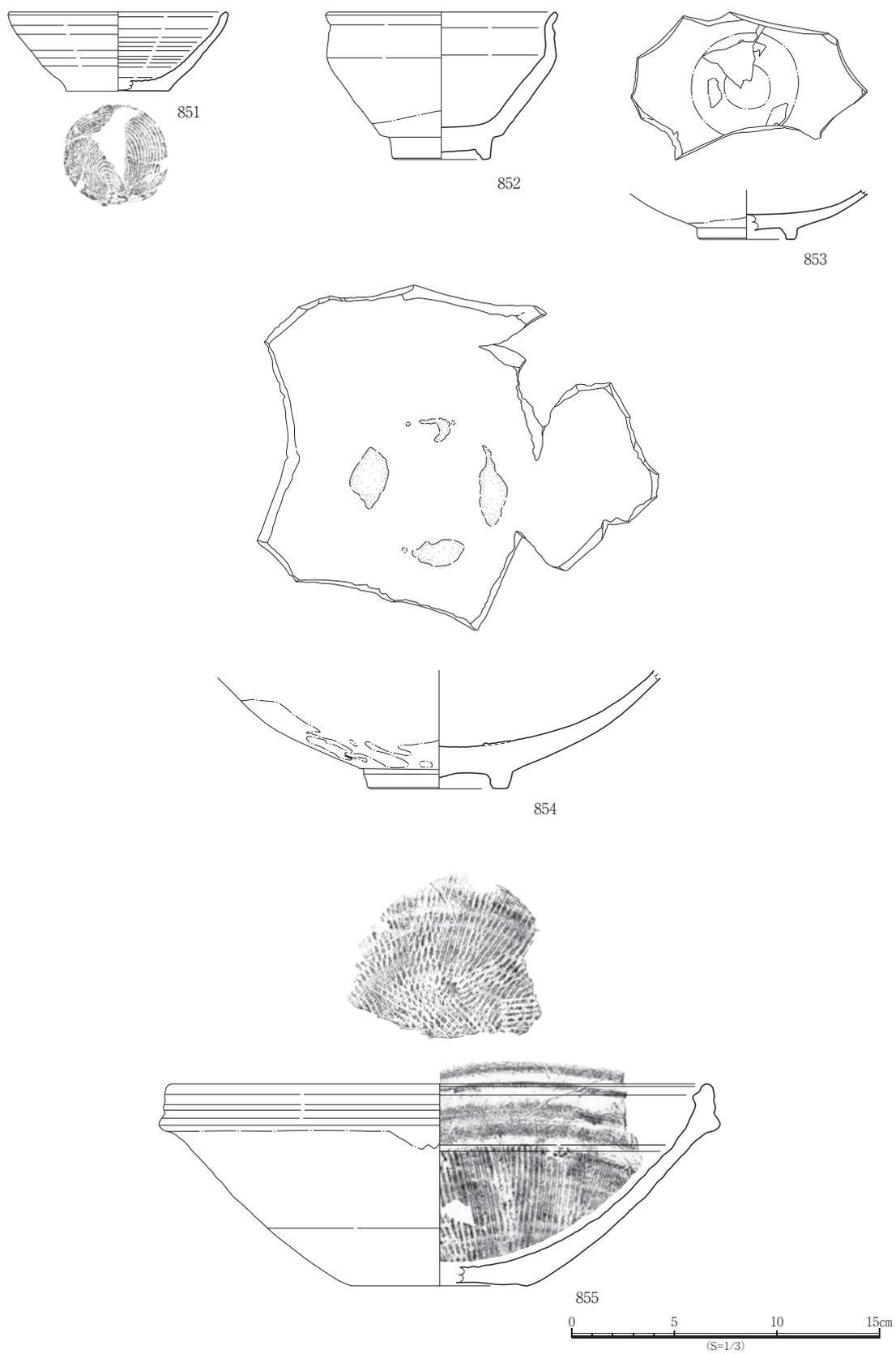


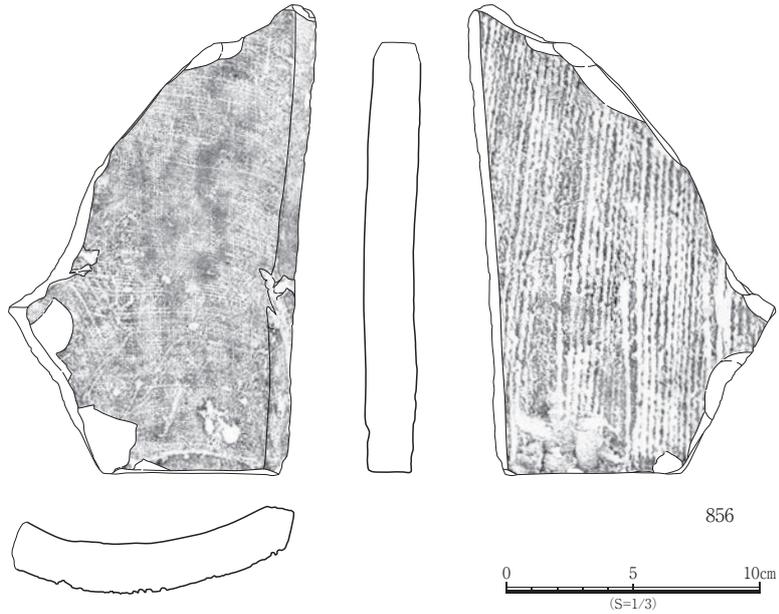
図223 6-1区 SD3 出土遺物実測図_1

SD4

SD4は調査区中央部で検出した東西方向の溝跡である。SD11・16を切る。幅0.36～1.32mである。検出長は約21.60mである。主軸方向はN-74°-Wである。検出面からの深さは3～48cmであり、埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。SD11と16の間におけるSD4の幅は約1.30mとひろく、深さも約48cmを測ることから、2条の溝跡が重複している可能性がある。

図示した出土遺物は、陶器の皿(858)、十能(859)である。

858は皿である。口縁部は、僅かに内傾する。白濁釉を施す。内面および口縁部外面を除き露胎となる。見込みに高台置付状の釉剥ぎ(砂目積み痕跡)が認められる。唐津産で17世紀初頭の可能性がある。859は十能である。先端部は欠損する。基部(把手状)は筒状で残存下部に直径約0.5cmの目釘状の茎孔痕跡がみられる。



SD5

SD5は調査区東部で検出した溝跡である。調査時には一連の溝跡として調査したものの、整理作業時にSK12よりも西側をSD5aとし、東側をSD5bとした。東西方向から南方向へ向きを変え、調査区外へ続く。7区で検出していないことから現在の道路と同様の軌跡を描くと推測される。

SD5aは調査区中央部で検出した。幅0.31～1.06mであり、検出長は約13.59mである。主軸方向はN-45°-E・N-84°-Wである。検出面からの深さは4～17cmであり、調査区の南壁付近が若干深い。SD5bは、調査区東部で検出した東西方向の溝跡で

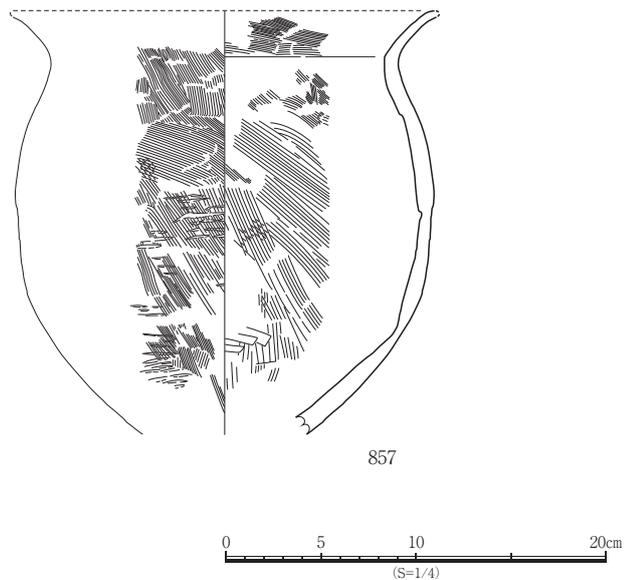


図224 6-1区 SD3 出土遺物実測図_2

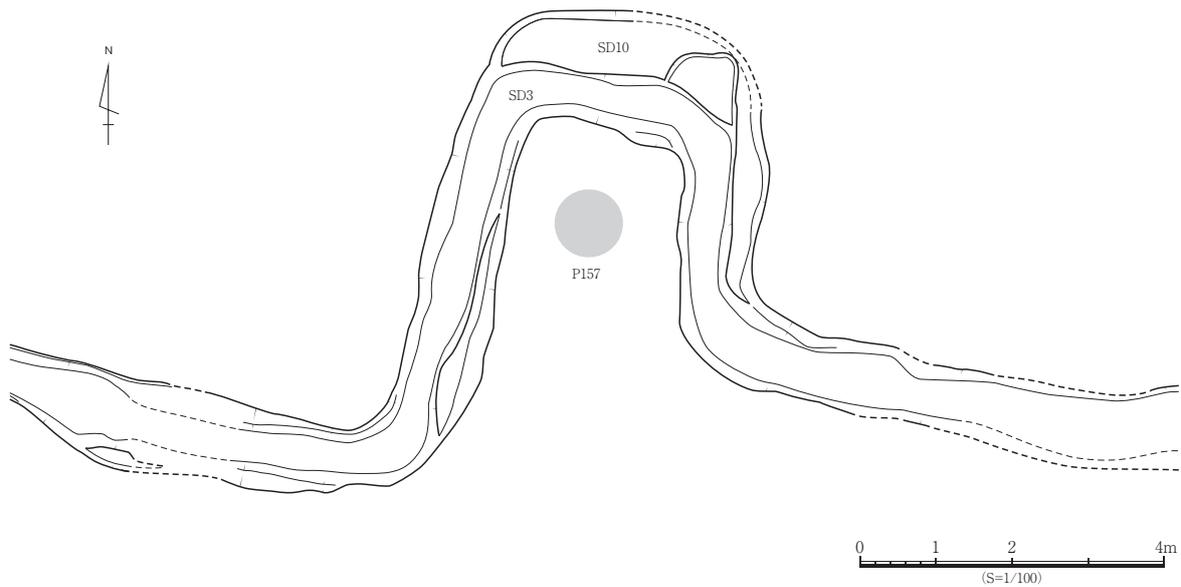


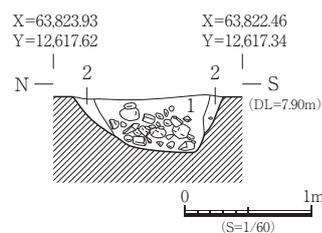
図225 6-1区 SD3・P157 平面図

ある。幅0.25～0.67 mであり，検出長は約 14.16 mである。主軸方向はN-87° -Wである。検出面からの深さは4～13cmであり，埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は，磁器の皿(860)である。外底面に断面形が逆三角形の削り出し輪高台を貼付する。ロクロ成形である。白濁釉を施釉し，外面下部は露胎となる。内面には松葉文を描く。見込みには蛇の目の釉剥ぎを施す。

SD7

SD7は調査区中央部で検出した南北方向の溝跡である。幅0.39～0.74 mである。検出長は約 3.87 mである。主軸方向はN-23° -Eである。検出面からの深さは7～12 cmである。図示した出土遺物はない。



遺構埋土
 1. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトに1.0～20.0cm大の礫を多く含む
 2. 黒色(10YR1.7/1)細粒砂質シルトに褐灰色(10YR4/1)細粒砂質シルトを多く含む

図226 6-1区 SD4 断面図

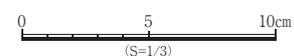
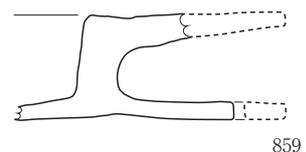
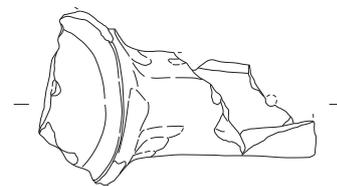
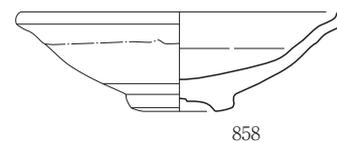


図227 6-1区 SD4 出土遺物実測図

SD8

SD8は調査区中央部で検出した「L」の字形の溝跡である。幅0.38～0.50 mである。検出

長は約16.23mである。主軸方向はN-84° -W・N-15° -Eである。検出面からの深さは3～10cmである。

図示した出土遺物はない。

SD9

SD9は調査区中央部で検出した東西方向の溝跡である。幅0.59～0.85mである。検出長は約8.87mである。主軸方向はN-77° -W・N-86° -Eである。検出面からの深さは14～34cmであり、埋土は黒色(10YR1.7/1)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SD10

SD10は調査区中央部で検出したクランク状の溝跡である。幅0.39～0.67mである。検出長は約20.25mである。主軸方向はN-82° -Wである。検出面からの深さは9～21cmであり、埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SD11

SD11は調査区中央部で検出した南北方向の溝跡である。幅0.44～0.49mである。検出長は約2.64mである。主軸方向はN-11° -Eである。検出面からの深さは13～26cmである。

図示した出土遺物はない。

SD11・13・15・16は規模、それぞれの間隔等から農耕に関連する溝跡と考えられる。

SD12

SD12は調査区中央部で検出した東西方向の溝跡である。幅0.35～0.58mである。検出長は約8.61mである。主軸方向はN-63° -Wである。検出面からの深さは7～10cmであり、埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SD13

SD13は調査区東部で検出した南北方向の溝跡である。幅0.20～0.28mである。検出長は約3.60mである。主軸方向はN-8° -Eである。検出面からの深さは4～6cmである。

図示した出土遺物はない。

SD14

SD14は調査区中央部で検出した南北方向の溝跡である。SD2・3に切られる。検出長は約5.24m

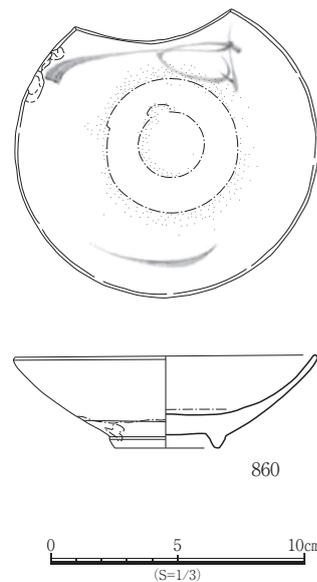


図228 6-1区 SD5 出土遺物実測図

である。主軸方向はN-17° -Eである。検出面からの深さは7～12cmである。

図示した出土遺物は、土師器の甕(861)である。口縁部は外方へひらき、内外面ともナデ調整を施す。口縁部外面には炭化物が付着する。

SD15

SD15は調査区中央部で検出した南北方向の溝跡である。幅0.36～0.51 mである。検出長は約10.50 mである。主軸方向はN-10° -Eである。検出面からの深さは7～9cmである。

図示した出土遺物はない。

SD16

SD16は調査区西部で検出した南北方向の溝跡である。幅0.26～0.53 mである。検出長は約6.50 mである。主軸方向はN-13° -Eである。検出面からの深さは5～8 cmであり、埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SD17

SD17は調査区西部で検出した南北方向の溝跡である。幅0.64～0.84 mである。検出長は約7.02 mである。主軸方向はN-13° -Eである。検出面からの深さは28～38cmである。SD17は他の南北方向の溝跡(SD11・13・15・16)とは規模等、明らかに異なる。

図示した出土遺物はない。

SD18

SD18は調査区中央部で検出した南北方向の溝跡である。幅約0.88 mである。検出長は約1.89 mである。主軸方向はN-13° -Eである。検出面からの深さは11～14 cmであり、埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SD19

SD19は調査区中央部で検出した南北方向の溝跡である。幅約0.47 mである。検出長は約0.93 mである。主軸方向はN-18° -Eである。検出面からの深さは4～6cmである。

図示した出土遺物はない。

SD20

SD20は調査区西部で検出した東西方向の溝跡である。幅0.33～0.41 mである。検出長は約1.95 mである。主軸方向はN-61° -Eである。検出面からの深さは5～11cmであり、埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

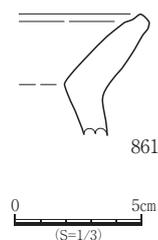


図229 6-1区 SD14
出土遺物実測図

SD21

SD21は調査区西部で検出した溝跡である。ST10に切られる。幅0.64～0.90mである。検出長は約11.34mであり、隅丸形状に巡り、東辺・南辺・西辺の一部を検出した。本来は全周していた可能性がある。主軸方向はN-77° -W・N-16° -Eである。検出面からの深さは4～9cmであり、埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。溝で区画された範囲のほぼ中央で土坑(ST9_中央P)を検出している。ST9_中央Pは平面形が隅丸長方形の土坑が重複する。北の土坑は長軸約1.78m、短軸約0.90mを測る。検出面からの深さは約16cmであり、埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-7° -Wである。南の土坑は長軸約1.40m、短軸約0.76mを測る。検出面からの深さは約22cmであり、埋土は黒色(10YR1.7/1)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-1° -Wである。

主軸方向が溝跡のものと類似していることから両者は一連の遺構の可能性があり、方形周溝墓と推測される。

図示した出土遺物はない。

SD22

SD22は調査区東部で検出した東西方向の溝跡である。幅0.30～0.42mである。検出長は約4.56mである。主軸方向はN-80° -Wである。検出面からの深さは6～10cmであり、埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SD23

SD23は調査区西部で検出した南北方向の溝跡である。検出長は約1.82mである。検出長は約8.50mである。主軸方向はN-13° -Eである。検出面からの深さは54～79cmであり、埋土は黒色(10YR1.7/1)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は、砂岩製の砥石(862)である。残存部は正形状の直方体を呈し、両面が使用され、線状の擦痕が認められる。

溝跡群の変遷

以上のように当調査区では多くの溝跡を検出した。特徴的な配置をしている。方向、規模等を参考に調査時の所見とは若干異なった解釈を行い、その変遷を4段階で示した。1段階：南北方向の幅の狭い溝跡が等間隔(概ね約8m)に掘削される。耕作に関連する溝跡と考えられる。2段階：東西方向に緩やかな弧を描くように掘削される。さらに規模の違い等から2つに分けることができる。2a段階：SX1とSX2が該当する。2b段階：幅の狭い溝跡が平行に走る。2a段階と2b段階は同時併存なのか先後関係があるのか不明である。3段階：クランク状に掘削された溝跡の段階。もっとも特徴的な軌跡を描く。古地図等を参考にすると周辺の取水・排水は北から取水し西へ折れ、さらに南へと階段状に水路をまわしている。南西方向へ向かって標高が低くなっている微地形をみても合理的な方法である。当調査区で検出した溝跡群も概ねこの原理に則ったものと考えられる。4段階：緩やかな「S」の字状に掘削される。クランク状であったものが弛緩したものと推測される。各段階の詳細な時期を決め得る遺物に恵まれていないものの、概ね中世後期から近世の範囲内での変遷と推測される。若

宮ノ東遺跡は調査対象地の現況は大部分が耕作地であった。当調査区の成果は、いつの時点で耕作地となっていたのかを検討する材料となる。

6.SX

SX1

SX1は調査区南部で検出した性格不明遺構である。SD1・2に切られる。幅1.36～1.88m、検出長は約22.62mを測る溝状の遺構である。東端はSD2・14で止まり、西方向へは調査区外へのびる。7区では検出していないことから現在の道路下を西方向へのびると考えられる。主軸方向はN-82°-Wで、東西方向を指向する。検出面からの深さは24～53cmを測り、埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト他である。SX2と対になる可能性がある。

図示した出土遺物は、陶器の皿(863)・碗(864)・鉢(865・866)、備前焼の

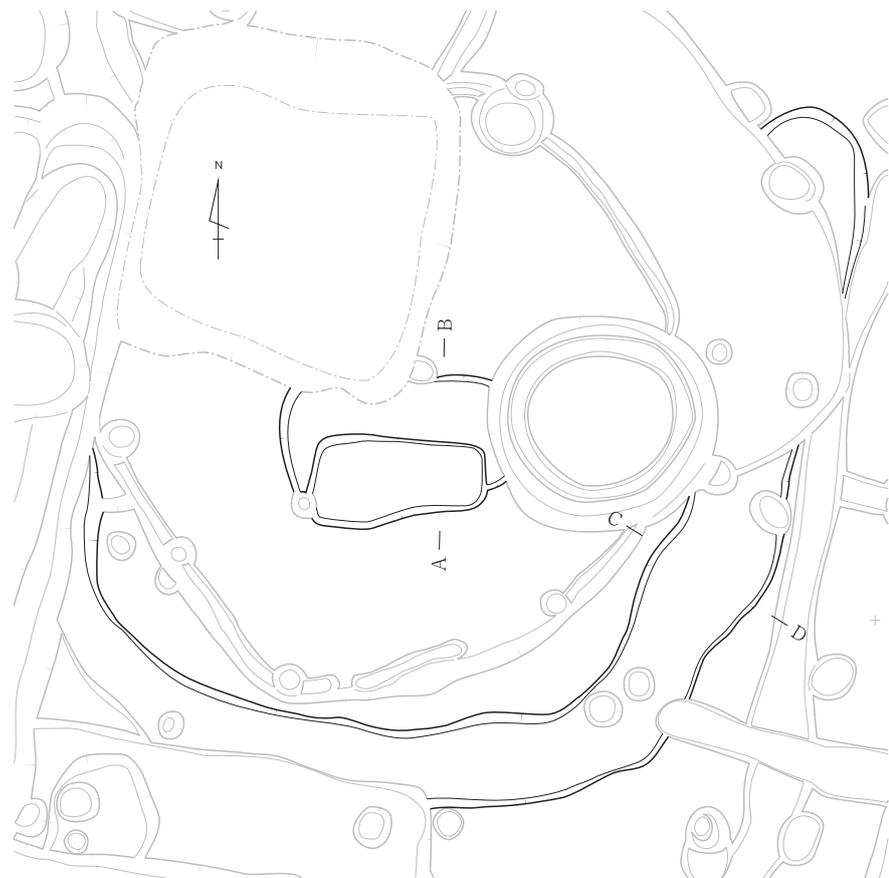


図230 6-1区 SD21 平面図・エレベーション図

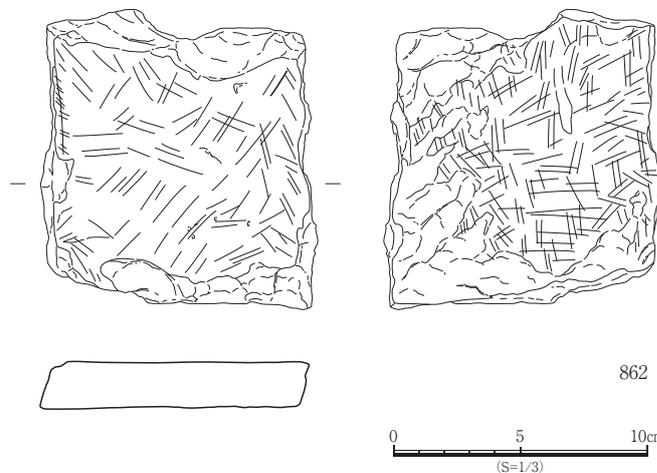


図231 6-1区 SD23 出土遺物実測図

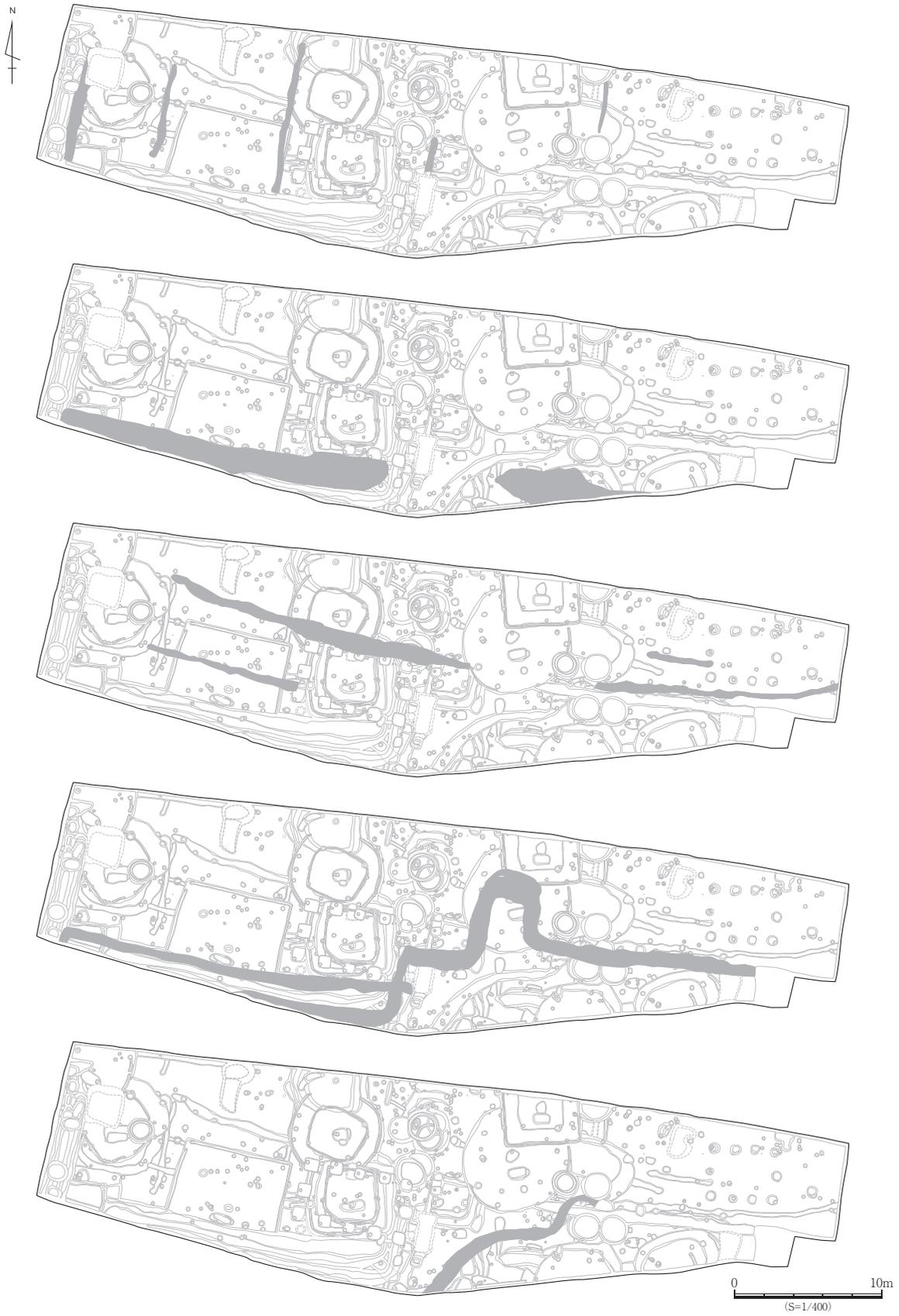


图232 6-1区 SD变遷図

播鉢(867)である。

863は皿である。透明灰釉を全面に施釉する。見込みには砂目積み痕跡がみられ、高台内の4ヶ所に粗砂が付着する。唐津産で17世紀初頭の可能性がある。864は碗である。透明の灰釉を畳付を除き全面に施釉する。畳付に粗砂が付着する。865は鉢である。高台脇と腰部に沈線がみられる。内面には刷毛目文を施す。外面下位は露胎となる。見込みには砂目積み痕跡が認められる。肥前産で17世紀後半の可能性がある。866は鉢である。口縁部は折り曲げ、玉縁状となる。鉄釉を施す。867は播鉢である。口縁部は肥厚し外面に1条の凹線を施す。口唇部内面は凹面状を呈する。ロクロ成形で、内面にはナデ痕跡が段状となる。また、内面には幅広の播目を施す。近世初頭の可能性がある。

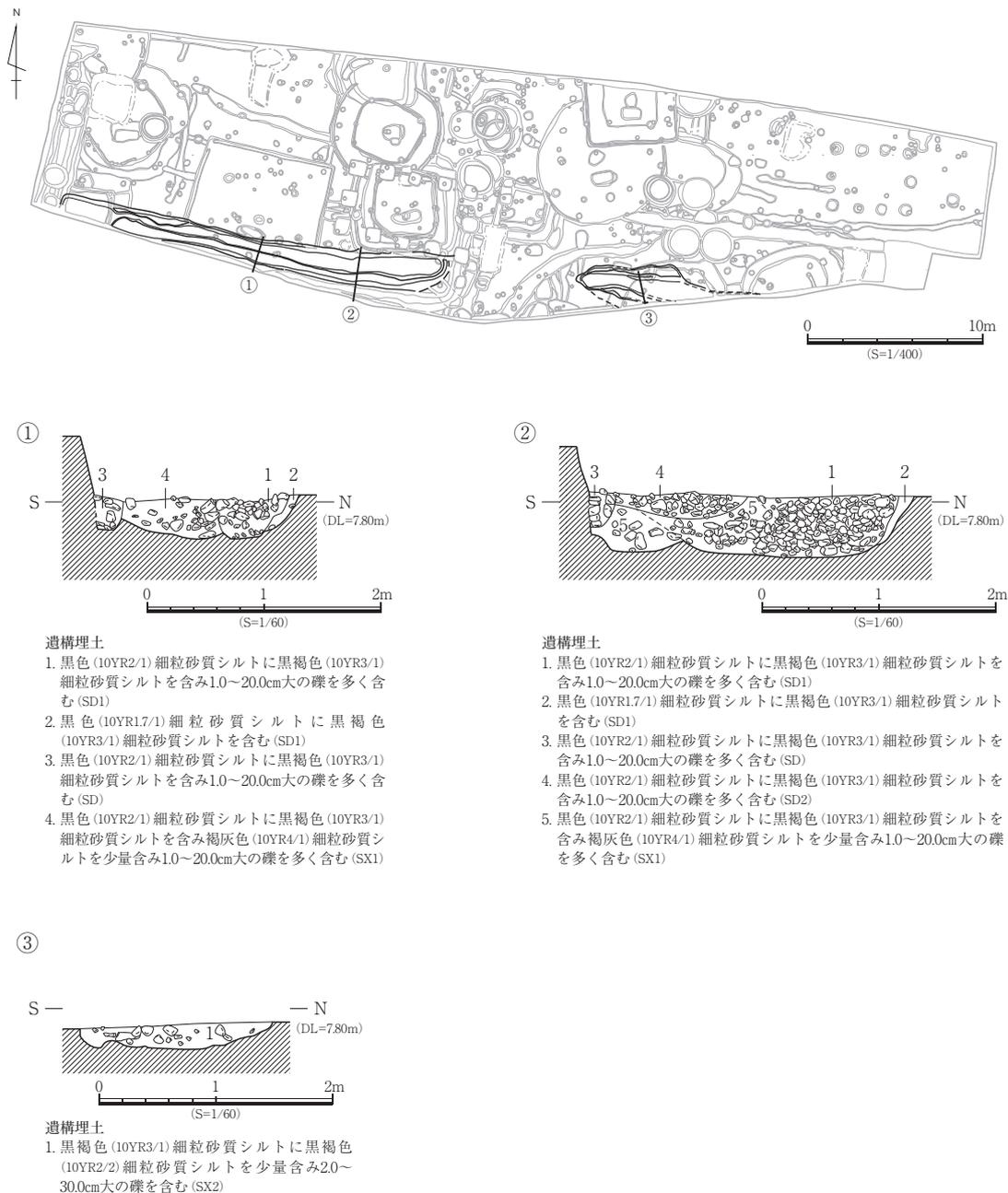


図233 6-1区 SX1・2 平面図・断面図

SX2

SX2は調査区南西部で検出した性格不明遺構である。ST15を切る。幅1.38～2.28m、検出長は約10.50mを測る溝状の遺構である。主軸方向はN-82°-Wである。検出面からの深さは17～29cmを測り、埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルト他である。SX1とSX2の北肩のラインはほぼ一致し、遺構の形状も類似していることから両者は同時に併存していた可能性が高く、SX1とSX2の間は土橋状となる。北から入るのか、南から入るのか関連する遺構が周辺になく確定できない。

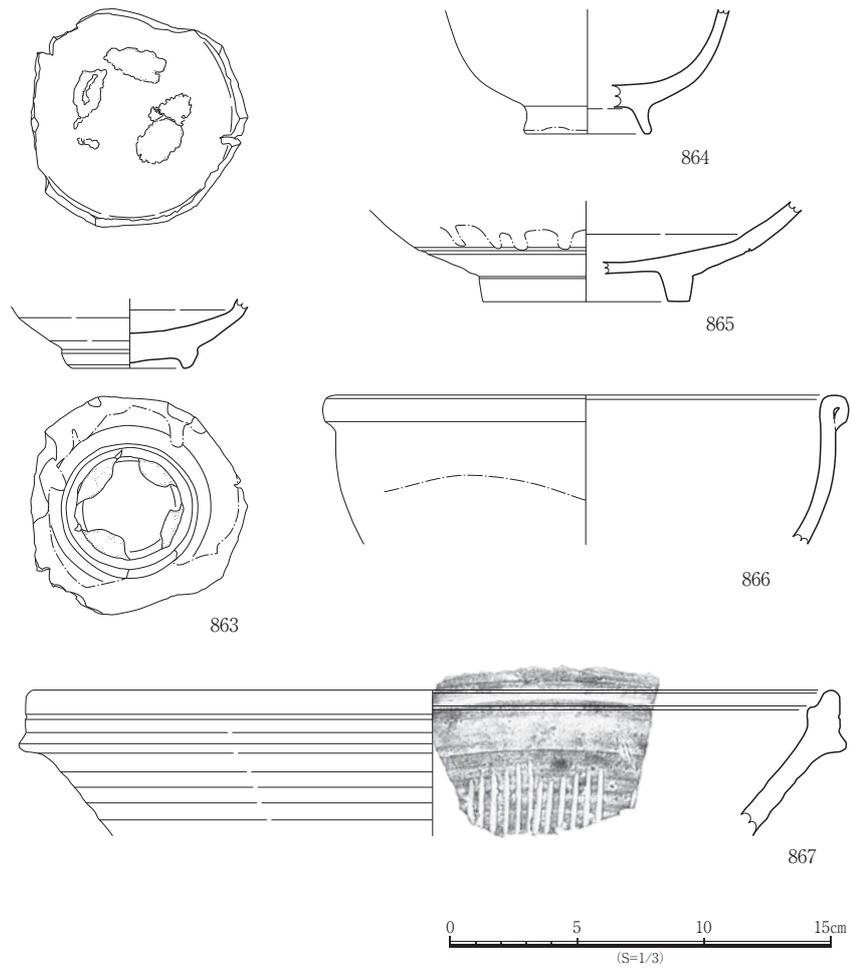


図234 6-1区 SX1 出土遺物実測図

図示した出土遺物は、土師質土器の皿(868)、弥生土器の底部(869・870)である。

868は皿である。体部は丸みを帯びてひろく。ロクロ成形である。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。口縁部にはタールが付着し、灯明皿として使用されたと考えられる。869は壺の底部である。ほぼ丸底である。体部外面は叩き調整、内面はナデ調整である。870は底部である。小径で厚い平底を呈する。体部外面は叩き調整後、粗いハケ調整を施し、内面はナデ調整である。

SX3

SX3は調査区中央部で検出した性格不明遺構である。長軸約3.34m、短軸約5.60mを測る。主軸方向はN-5°-Eである。検出面からの深さは約50cmを測り、埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物は、陶器の皿(871)、須恵

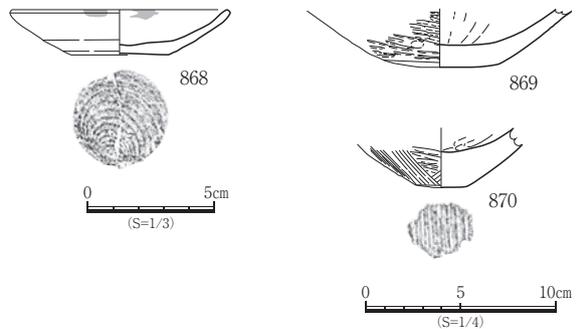
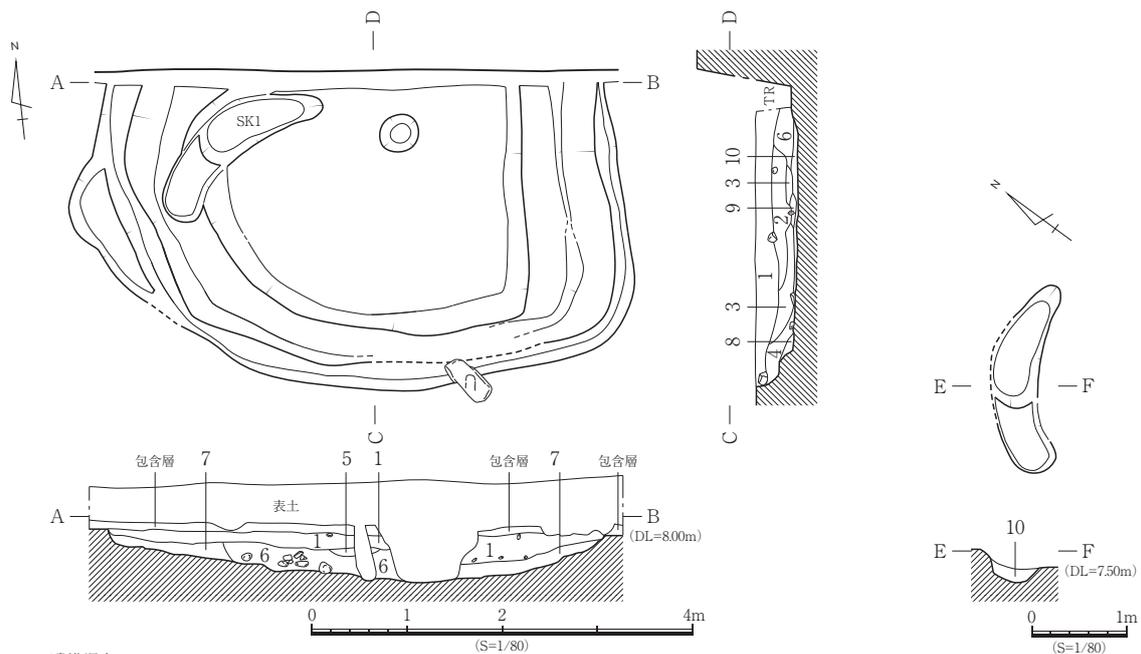


図235 6-1区 SX2 出土遺物実測図



遺構埋土

1. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト・黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに0.5~12.0cm大の礫を含む(SX3)
2. 黒色(10YR1.7/1)細粒砂質シルトに黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトを少量含み0.5~2.0cm大の礫を含む(SX3)
3. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトに鉄分を含む土を少量含む(SX3)
4. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトに黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトを含む(SX3)
5. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト(SX3)
6. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトに黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトと鉄分を含む土を少量含み褐色(10YR4/1)粘土質シルトをブロック状に含み1.0~15.0cm大の礫を少量と炭化物を含む(SX3)
7. 黒色(10YR1.7/1)細粒砂質シルトに黄褐色(10YR4/3)細粒砂質シルトをブロック状に含む(SX3)
8. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト(SX3)
9. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトに黄褐色(10YR4/3)粘土質シルトをブロック状に含む(SX3)
10. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトに黄褐色(10YR4/3)粘土質シルトを少量含む(SX3)

図236 6-1区 SX3 平面図・断面図

器の蓋(872), 瓦質土器の三足鍋(873)である。

871は皿である。灰釉を全面に施釉する。畳付の3ヶ所に粗砂が付着する。唐津産で17世紀初頭の可能性がある。872は蓋である。口縁部は丸みを帯び、内面にかえりを付す。内外面とも回転ナデ調整を施す。873は三足鍋の脚部である。脚部の断面形は歪な多角形状を呈する。付け根部分から剥離する。

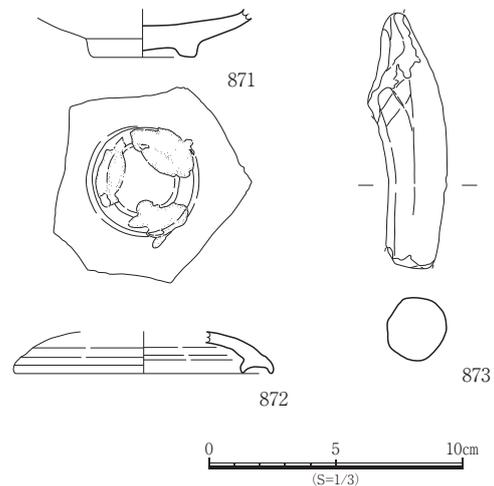


図237 6-1区 SX3 出土遺物実測図

SX4

SX4は調査区東部で検出した性格不明遺構である。長軸の検出長は約1.20m, 短軸0.63~1.38mを測る。主軸方向はN-10°-Eである。検出面からの深さは約20cmを測り、埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

7. ピット

874はP162から出土した弥生土器の壺である。直立気味の頸部から口縁部は大きく外方へひらく。口縁端部は上方へ拡張させ、凹面状を呈する。外面にはヨコナデ調整を施す。875はP177から出土した有孔土器である。僅かに平坦面を有する丸底である。体部外面は叩き調整後、タテハケ調整を施し、内面はナデ調整を施す。底部には焼成後、直径約0.7cmの孔を内外面から穿つ。876はP180から出土した土師器の椀か。低い円盤状高台を有する。内外面とも回転ナデ調整で仕上げる。外底面に回転糸切り痕跡がみられる。877はP165から出土した土師器の杯である。口縁部は僅かに外反する。内外面とも回転ナデ調整を施す。878はP133から出土した龍泉窯系の青磁の碗である。全体に施釉し、外面に蓮弁文を施す。I-5類であり、13世紀代のものである。879はP85から出土した平瓦である。凸面には縄目痕がみられ、凹面にはナデ調整を施す。880はP87から出土した圭頭式の鉄鏃である。茎部の断面形は方形を呈する。小型のものである。

8. 遺構外出土遺物

図示した出土遺物は、弥生土器の鉢・底部、須恵器の壺、備前焼の甕・体部片、陶器の碗、十能、軒丸瓦、石包丁、鉄鏃、鉄釘である。

881は弥生土器の鉢である。体部は椀状を呈する。底部は小径な円盤状を呈した平底である。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施し、内面はナデ調整を施す。外面に微小な粘土粒が付着する。882は弥生土器の鉢である。口縁部は短く外方へひらく。体部は丸みを帯びる。体部外面はナデ調整、内面は粗いハケ調整およびナデ調整を施す。883は弥生土器の平底の底部である。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施し、内面はナデ調整を施す。884は弥生土器の底部である。しっかりとした平底であり、外底面には指頭圧痕がみられる。体部外面は縦方向のヘラナデ調整、内面はナデ調整を施す。885は須恵器の壺である。口縁部は肩部から短く外反し、口唇部は下方へ拡張する。体部外面は格子状叩き調整、内面には同心円状の当て具痕跡がみられる。自然釉が付着する。886は備前焼の甕である。口縁端部を折り返し、肥厚させる。肥厚部下半は稜状に面取りを施す。887と同一個体の可能性がある。887は備前焼の体部片である。体部外面には「大」の刻書がみられる。886と同一個体の可能性がある。888は陶器の京焼き風の碗である。体部は高台脇から丸みを帯びて立ち上がる。畳付は露胎となる。また、細微な貫入が認められる。889は十能である。基部(把手状)は円筒状で上下に直径約0.5cmの目釘状の茎孔痕跡がみられる。外面にはタール、内面には煤が付着する。先端部は欠損する。890は軒丸瓦である。瓦当には左巻きの三巴文を施す。巴頭は明瞭で、尾部は圏線状を成す。891は結晶片岩製の打製石包丁である。片側が欠損するものの、長方形状を呈するものと推測される。両刃である。周縁には調整剥離を施す。892は方頭式の鉄鏃である。鏃身の断面形は扁平な長方形を呈する。茎部は欠損する。893は鉄釘である。頭部は逆「L」の字形を呈する。体部の断面形は長方形を呈する。両端部は欠損する。体部の中央は腐食等の影響を受ける。894は鉄釘である。頭部は僅かに逆「L」の字形を呈する。体部の断面形は方形状を呈する。ほぼ完存である。895は鉄釘である。頭部は僅かに肥厚する。体部の断面形は楕円形状を呈する。腐食が著しい。

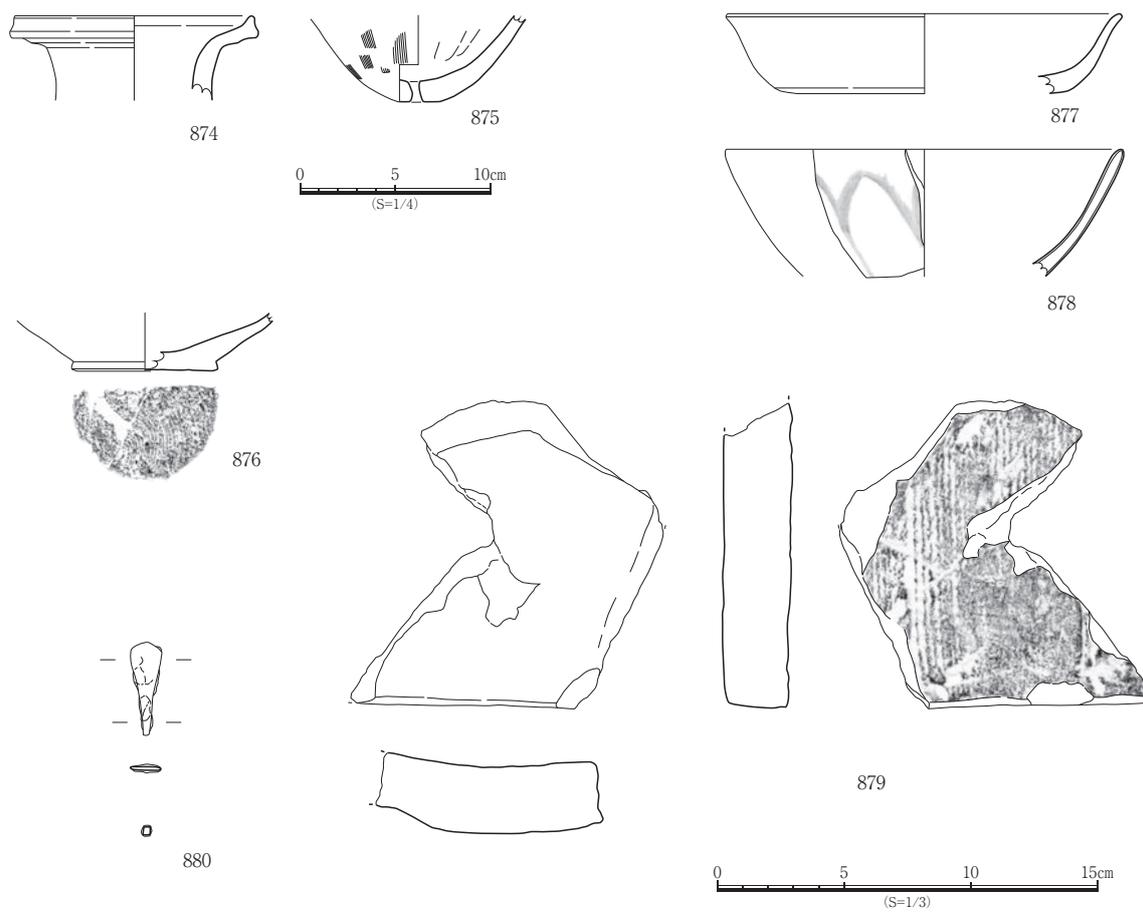


図238 6-1区 ピット 出土遺物実測図

第3節 6-1区

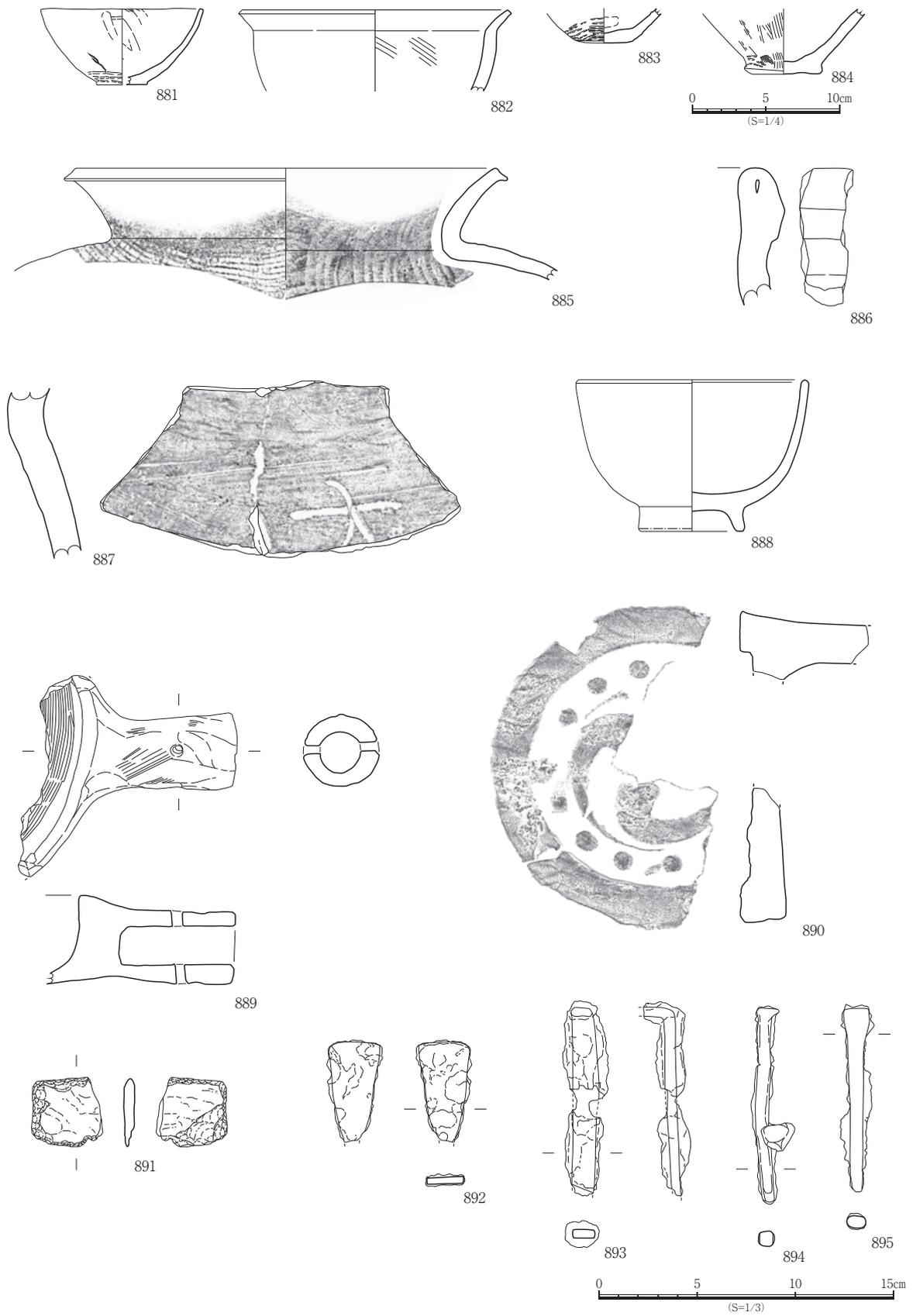


図239 6-1区 遺構外出土遺物実測図

第4節 7区

1.ST

ST1

ST1は7-1-1区で検出した竪穴建物跡である。約半分は調査区外である。平面形は一辺約4.00mの隅丸方形を呈し、床面積は約16.0㎡と推測される。主軸方向はN-8°-Wである。検出面から床面までの深さは約34cmであり、埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルト他である。床面では主柱穴(ST1_P1・8)等の遺構を検出した。主柱穴(ST1_P1)は、直径約58cmの不整円形を呈し、床面からの深さは約28cmを測る。埋土は黒色(10YR2/1)極細粒砂質シルトである。主柱穴(ST1_P8)は、直径約40cmの不整円形を呈し、床面からの深さは約15cmを測る。埋土は黒褐色(10YR2/1)極細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は、弥生土器の甕(896・897)・鉢(898)・底部(899・900)である。

896は甕である。口縁部は「く」の字状を呈する。口縁部は叩き調整後、粗いタテハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内

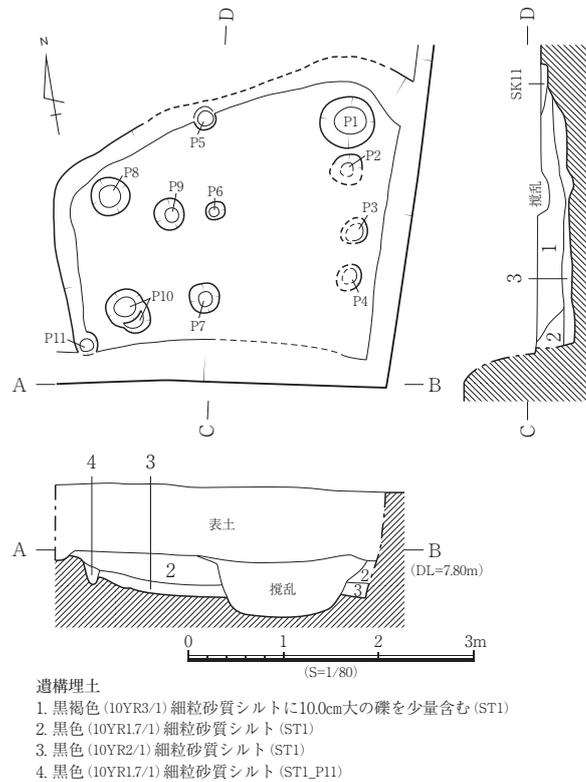


図240 7区 ST1 平面図・断面図

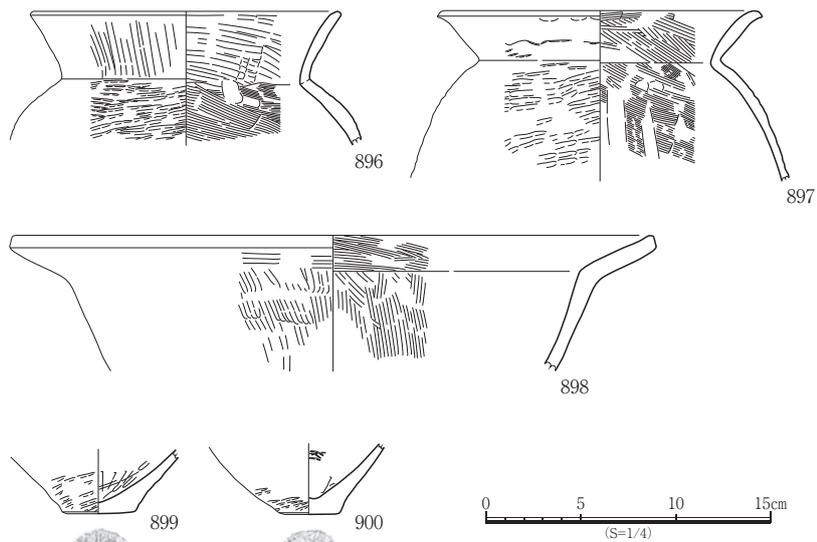
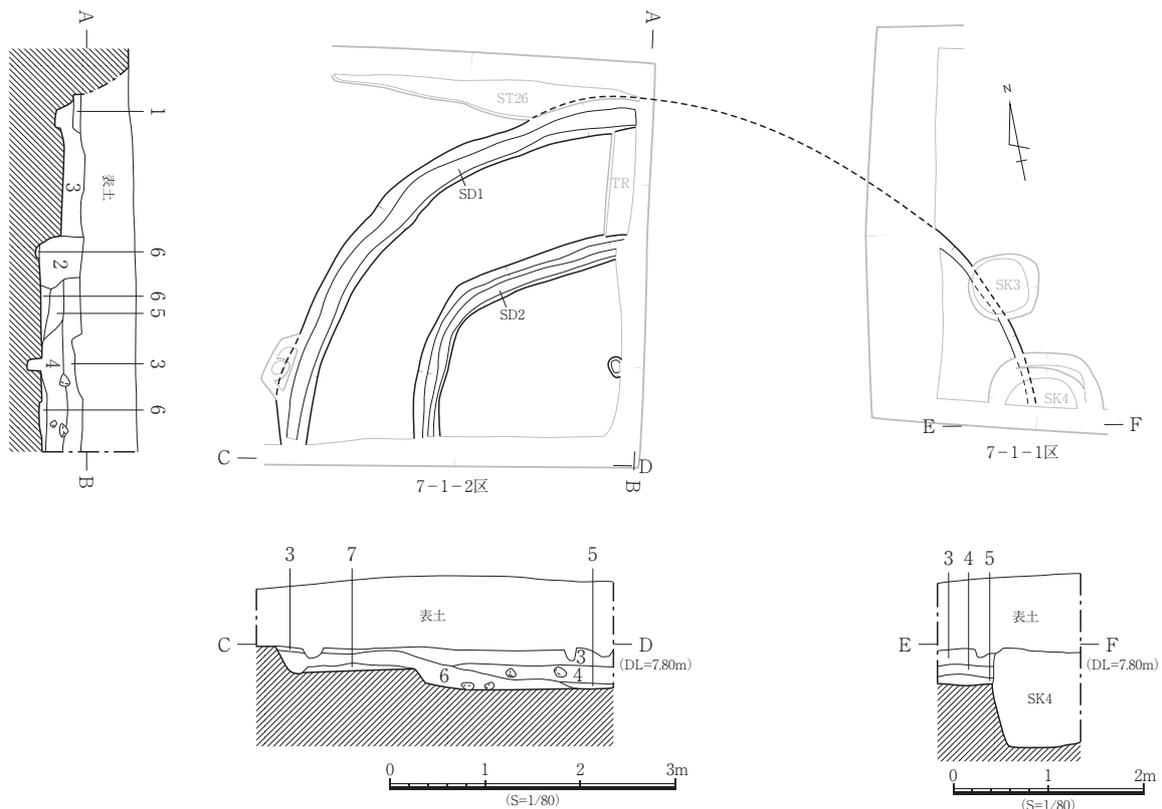


図241 7区 ST1 出土遺物実測図

面はヨコハケ調整後、ナデ調整を施す。肩部内面には指頭圧痕がみられる。897は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部には面取りを施す。ハケ状工具によるか。口縁部は叩き調整後、指頭により成形する。内面の口頸部境には稜が立つ。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。また、タテハケ調整を疎らに施す。内面はハケ調整後、縦方向のナデ調整を施す。肩部内面には指頭圧痕がみられる。898は鉢である。口縁部を大きく外反させ、口唇部には面取りを施す。上部を僅かに摘み上げる。体部は内外面ともヘラナデ調整およびタテハケ調整を施し、ミガキ状を呈する。899は底部である。平底であり、外底面には葉脈痕がみられる。体部外面は叩き調整後ナデ調整、内面はヘラナデ調整を施す。900は底部である。平底であり、外底面には様々な圧痕がみられる。体部外面は叩き調整後ナデ調整、内面はヘラナデ調整である。

ST2

ST2は7-1-1区と7-1-2区にまたがって検出した竪穴建物跡である。ST26に切られる。大部分は調査区外である。平面形は直径約7.90mの円形を呈し、床面積は約49.0㎡と推測される。検出面から床面までの深さは約37cmであり、埋土は黒色(7.5YR2/1)細粒砂質粘性シルト他である。床面では壁溝(ST2_SD1)、小溝(ST2_SD2)等の遺構を検出した。壁溝(ST2_SD1)は幅約40cm、床面からの深さは2～



遺構埋土

- | | |
|-------------------------------------|---------------------------------------|
| 1. 黒褐色 (7.5YR3/1) 細粒砂質粘性シルト (ST26) | 5. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質粘性シルト (ST2) |
| 2. にぶい黄橙色 (10YR6/3) 細粒砂質粘性シルト (ピット) | 6. 黒褐色 (10YR3/1) 細粒砂質粘性シルト (ST2) |
| 3. 黒色 (7.5YR2/1) 細粒砂質粘性シルト (ST2) | 7. 黒褐色 (10YR3/1) 細粒砂質粘性シルトに礫を含む (ST2) |
| 4. 黒色 (7.5YR1.7/1) 細粒砂質粘性シルト (ST2) | |

図242 7区 ST2 平面図・断面図

9 cmを測る。検出長は約 5.49mである。埋土は黒色(7.5YR2/1)細粒砂質粘性シルトである。小溝(ST2_SD2)は壁から約 1.40m内側で検出した。鈍角で曲がり、多角形となる可能性を残す。幅約 30cm, 床面からの深さは 1~2cmを測る。検出長は約 3.10mである。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質粘性シルトである。

図示した出土遺物は、弥生土器の壺(901・902)・甕(903・904)・鉢(905・906)である。

901は壺である。口縁部は緩やかにひろがる。口唇部には、ハケ状原体による面取りを施す。口縁部外面は叩き調整後タテハケ調整、内面にはヨコハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後ナデ調整、内面はヨコハケ調整である。902は壺の頸部である。ハケ状原体による斜格子の刻目を施した突帯を貼付する。外面はヨコハケ調整後ヘラミガキ調整を施し、内面にはヨコハケ調整を施す。903・904は小型の甕であり、接点はないものの同一個体と考えられる。口縁部は「く」の字状に短く外反する。口縁部は内外面ともハケ調整で仕上げる。体部外面には叩き調整後、タテハケ調整を疎らに施す。内面にはヨコハケ調整を施す。肩部内面には粘土接合痕跡がみられる。905は鉢である。指頭により短い脚を作出する。体部外面は縦方向のヘラミガキ調整、内面は横方向のヘラミガキ調整である。内底面にもミガキ調整が及ぶ。906は鉢である。底部は強いナデ調整により丸底とする。体部外面は叩き調整後ナデ調整、内面はヘラナデ調整である。

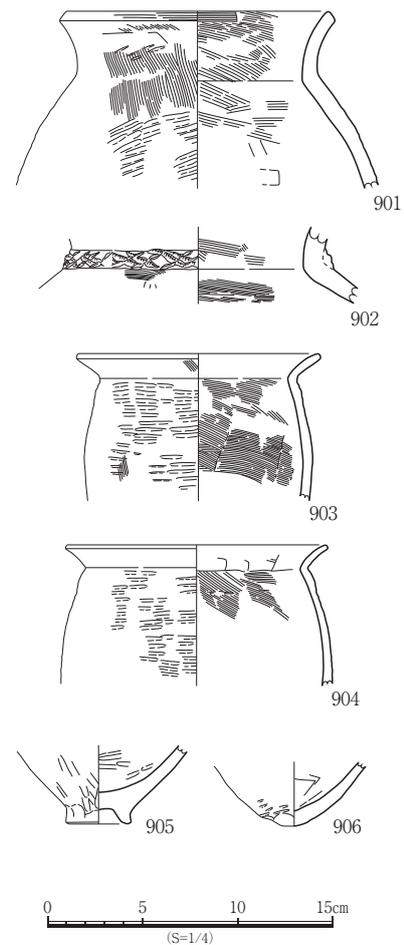


図243 7区 ST2 出土遺物実測図

ST3

ST3は7-3区の南東部で検出した竪穴建物跡である。大部分は調査区外である。平面形は直径約 5.20mの円形を呈し、床面積は約 21.2 m²と推測される。検出面から床面までの深さは約 15cmであり、埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト他である。床面では支柱穴(ST3_P1・2)、壁溝(ST3_SD1)等の遺構を検出した。支柱穴(ST3_P1)は、長軸約 34cm, 短軸約 29cmの不整楕円形を呈し、床面からの深さは約 11cmを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。支柱穴(ST3_P2)は、長軸約 37cm, 短軸約 32cmの不整円形を呈し、床面からの深さは約 15cmを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。ST3_P1あるいはST3_P2のうちの1基が支柱穴となる可能性があり、また、両方とも支柱穴となり建て替えられた可能性もある。壁溝(ST3_SD1)は幅約 16cm, 床面からの深さは 5~8cmを測る。検出長は約 4.36mである。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は、弥生土器の甕(907)・鉢(908・909)・体部(910)・底部(911・912)、須恵器の蓋(913)である。

907は甕である。底部は角の取れた平底を呈し、外底面にはハケ調整を施すか。体部外面は叩き調整後、タテハケ調整を施す。内面はハケ調整およびナデ調整を施す。また、内底面には指頭圧痕が認

められる。908は鉢である。口唇部は、内傾させ尖らせる。底部は角の取れた平底を呈し、直立部を持つ。外底面にはナデ調整を施す。体部は内外面ともナデ調整で仕上げる。909は鉢である。指頭により短い脚を作出させ、僅かに上げ底状を呈する。体部外面はタテハケ調整、内面はナデ調整である。910は壺の体部片である。外面は叩き調整後、ヘラミガキ調整を施す。内面はナデ調整であり、指頭圧痕がみられる。外面には半截竹管文、線刻が認められる。911は大型壺の底部である。平底で直立部を持つ。外底面にはナデ調整を施し、僅かに上げ底状を呈する。体部外面は叩き調整後ナデ調整を

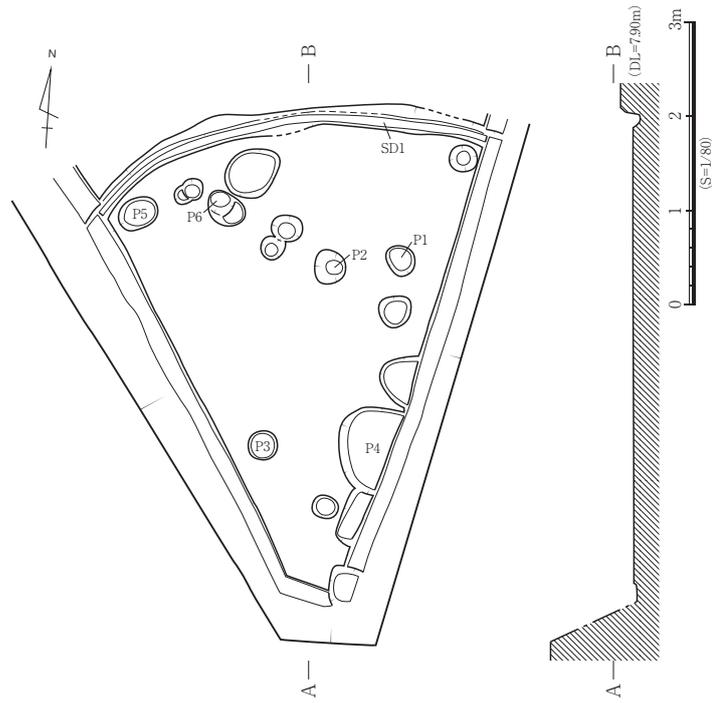


図244 7区 ST3 平面図・エレベーション図

施し、一部はミガキ状を呈する。内面はナデ調整を施し、平滑に仕上げる。912は壺の底部である。角の取れた平底を呈し、外底面はナデ調整を施す。下地に叩き目か。体部外面は叩き調整後、タテハケ調整を密に施す。内面はハケ調整およびナデ調整を施す。内底面には指頭圧痕が認められる。器壁はうすい。913は蓋である。短小なかえりを付す。口縁部は厚く、シャープさに欠ける。内外面とも回転ナデ調整を施す。天井部外面の調整は自然釉が付着しているため観察できない。混入品である。

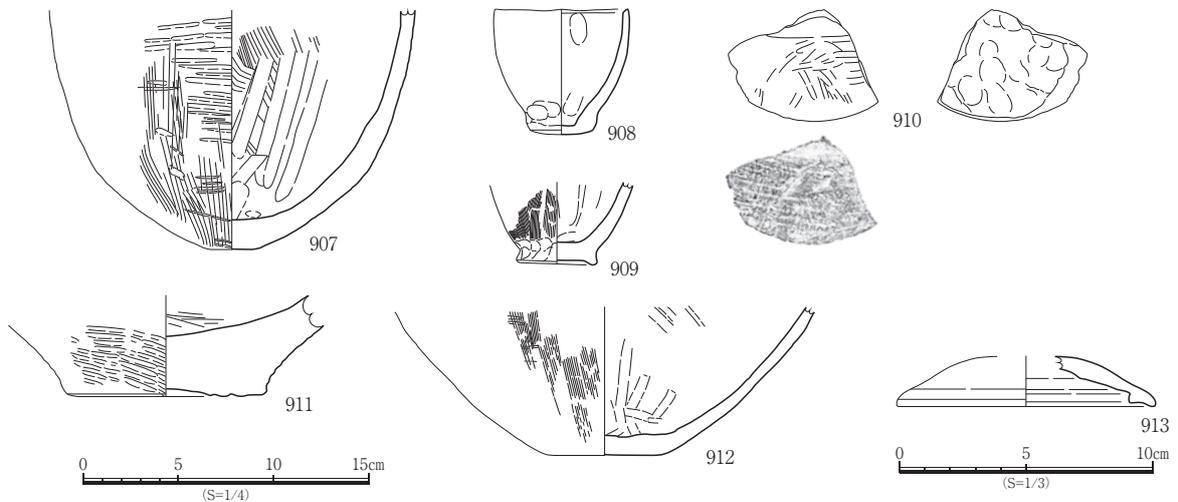


図245 7区 ST3 出土遺物実測図

ST4

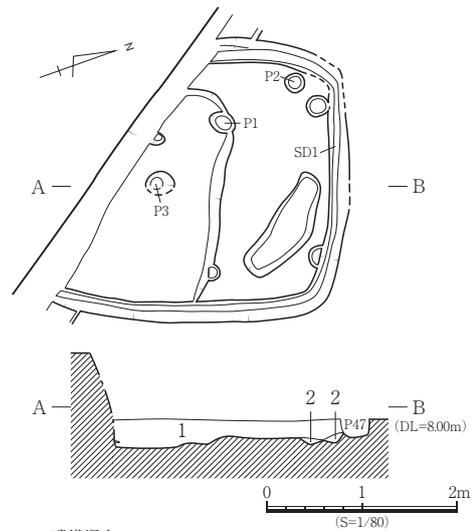
ST4は7-3区南東部で検出した竪穴建物跡である。調査区外へひろがる。平面形は隅丸長方形を呈する。長軸の検出長は約3.10m，短軸約2.97mを測る。床面積は約10.0㎡と推測される。主軸方向はN-22°-Eである。検出面から低床部までの深さは約30cmであり，埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト他である。北辺にベッド状遺構を有する。幅約1.10m，低床部との比高差は約5cmである。支柱穴は低床部の長軸に2基と推測され，そのうちの1基(ST4_P3)を検出した。直径約30cmの不整円形を呈し，床面からの深さは約12cmである。壁溝(ST4_SD1)は幅約23cm，床面からの深さは2~7cmを測る。検出長は約6.30mである。埋土は黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物は，弥生土器の壺(914)・甕(915)・鉢(916)である。

914は小型の壺である。口縁部は「く」の字状を呈する。体部は球形を呈する。口縁部は内外面とも横方向のヘラミガキ調整で仕上げる。体部外面は上半部には横方向のヘラミガキ調整，下半部には縦方向のヘラミガキ調整を施す。内面はナデ調整である。915は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し，口唇部には面取りを施す。口縁部外面は叩き調整後ナデ調整を施し，内面はヨコハケ調整を施す。体部外面には叩き調整後，タテハケ調整を施す。内面にはハケ調整を施し，上半部と下半部では異なった原体を使用している。鉢の可能性もある。916は鉢である。体部は深く，やや内湾する。口唇部には面取りを施す。底部は角の取れた平底を呈し，外底面には叩き調整後ナデ調整を施す。体部外面には叩き調整後ハケ調整，内面には粗いハケ調整およびヘラナデ調整を施す。

ST5

ST5は7-3区南東部で検出したカマドを設置した竪穴建物跡である。ST7を切る。平面形は隅丸方形を呈し，カマドとは反対の壁は湾曲する。入り口か。長軸約5.10m，短軸約4.90mであり，床面積は24.9㎡である。主軸方向はN-44°-Wである。床面で礫を周囲に配置



遺構埋土

1. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトと暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトを少量含み0.5~4.0cm大の礫を含む
2. 黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルト・褐色(10YR4/4)細粒砂質シルトに黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトと3.0cm大以下の礫を少量含む

図246 7区 ST4 平面図・断面図

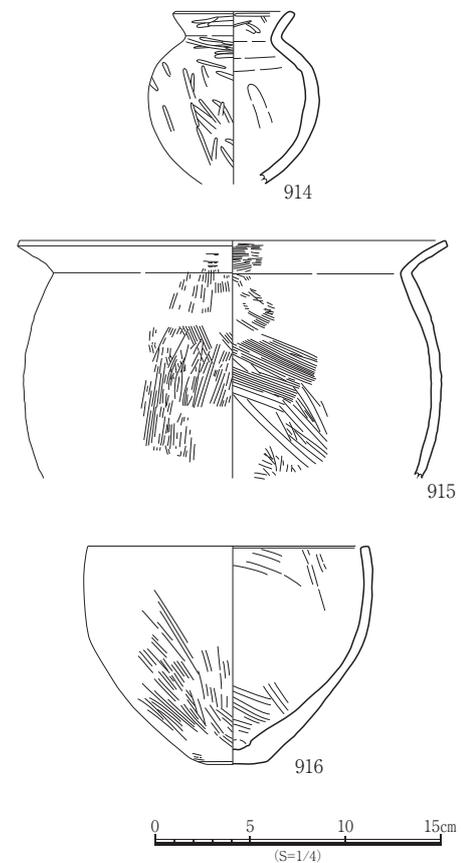
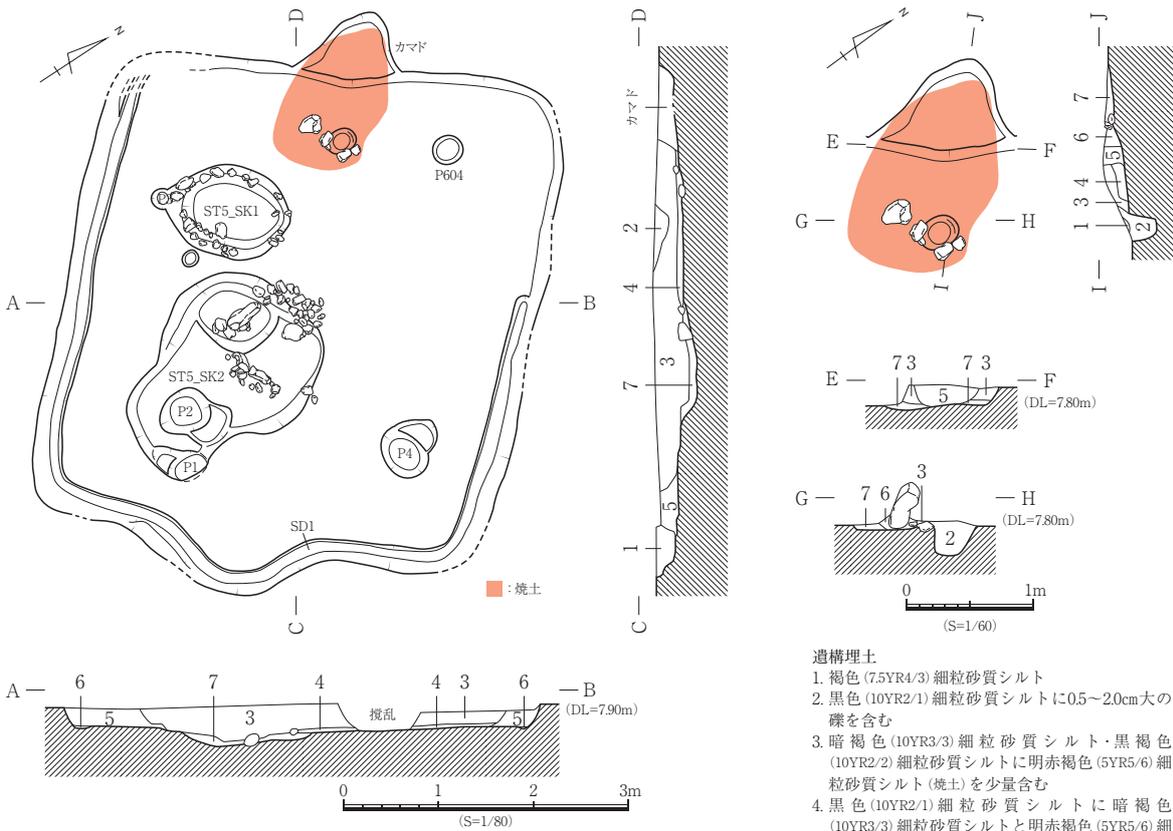


図247 7区 ST4 出土遺物実測図



遺構埋土

1. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトと黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトを少量含み0.5~3.0cm大の礫を含む(P512)
2. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトに0.5~3.0cm大の礫を含む(P488)
3. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトに褐色(10YR4/4)砂質シルトブロックと炭化物と0.5~10.0cm大の礫を含む(ST5)
4. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトに褐色(10YR4/4)砂質シルトブロックを含む(ST5)
5. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト・黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトに褐色(10YR4/4)砂質シルトブロックを少量含む(ST5)
6. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト・黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルト(ST5_SD1)
7. 黒色(10YR1/7)細粒砂質シルトに黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトを少量含み炭化物を含む(ST5_SK2)

遺構埋土

1. 褐色(7.5YR4/3)細粒砂質シルト
2. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトに0.5~2.0cm大の礫を含む
3. 暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルト・黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに明赤褐色(5YR5/6)細粒砂質シルト(焼土)を少量含む
4. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトに暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトと明赤褐色(5YR5/6)細粒砂質シルト(焼土)を少量含み0.5~2.5cm大の礫を含む
5. 黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトに黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトブロックを少量含み明赤褐色(5YR5/6)細粒砂質シルト(焼土)と明褐色(7.5YR5/6)細粒砂質シルト(焼土)を多量に含み0.5~1.0cm大の礫を含み
6. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト・暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトに1.0~10.0cm大の礫を含む
7. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトに褐色(10YR4/4)砂質シルトを少量含み1.0~8.0cm大の礫を含む

図248 7区 ST5 平面図・断面図

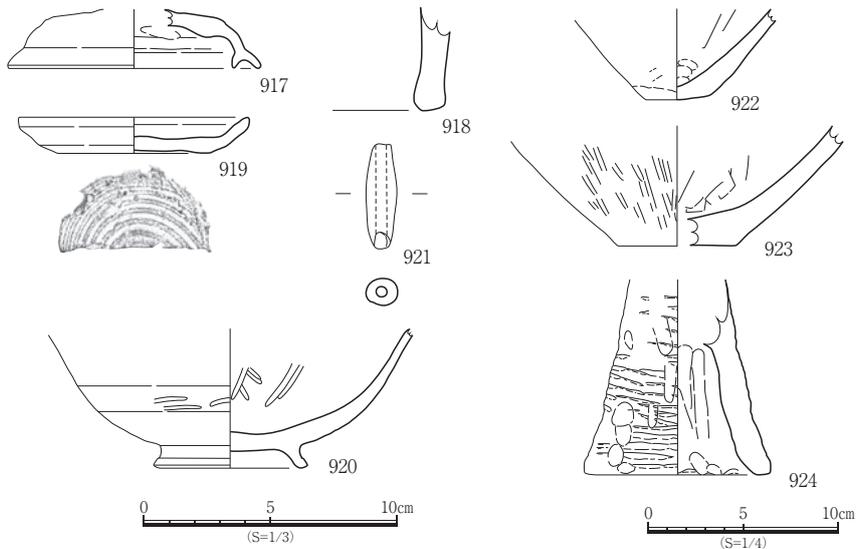
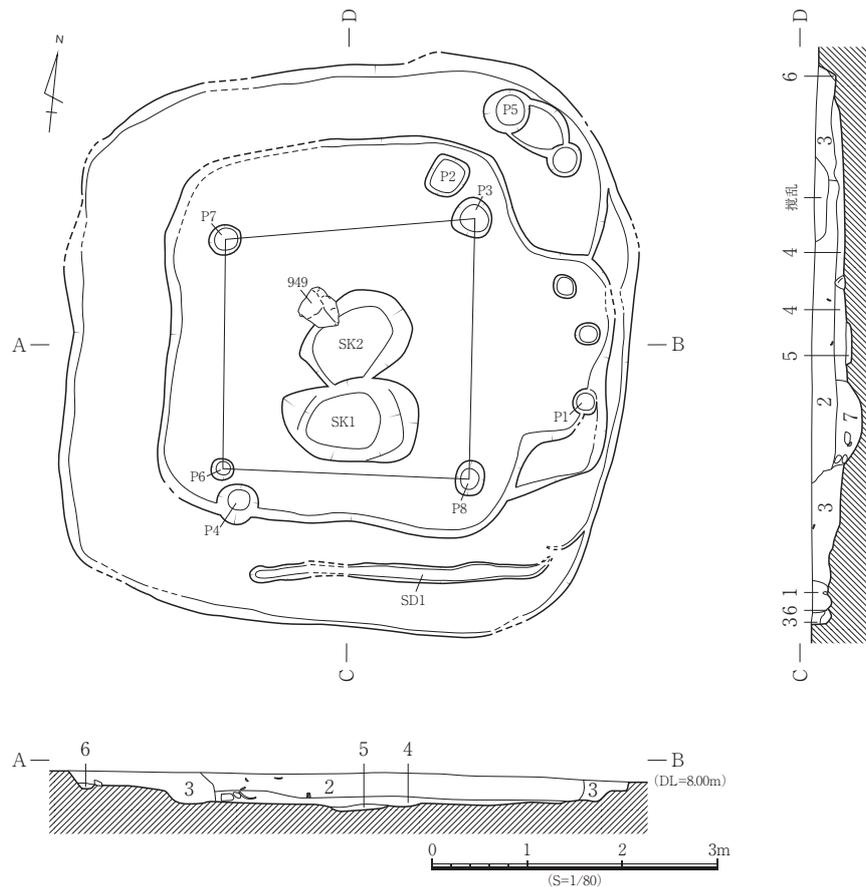


図249 7区 ST5 出土遺物実測図

した土坑(ST5_SK1・2)を検出したが本STには伴わない。カマドは西壁の中央に造られている。長軸約1.72m, 短軸約1.03mを測る。最大で長軸約25cmの礫が焚き口部分で5個出土した。床面では支柱穴(P604・ST5_P2・4), 壁溝(ST5_SD1)を検出した。壁溝(ST5_SD1)は幅約30cm, 床面からの深さは1~2cmを測る。検出長は約11.52mである。埋土は黒褐色(10YR2/1)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物は, 須恵器の蓋(917), 土師器の甑(918), 土師質土器の皿(919)・椀(920), 土錘(921), 弥生土器の底部(922・923), 支脚(924)である。

917は蓋であり, かえりを付す。内外面とも回転ナデ調整で仕上げる。天井部外面の調整は自然釉が付着しているため, 不明瞭である。918は甑である。端部には面取りを施す。内外面ともヨコナデ調整を施し, 外面にはナデ痕跡がみられる。919は皿である。口縁部は浅く斜め上方へひらき, 内外面とも回転ナデ調整を施す。内底面には「の」の字状のナデ調整が認められる。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。920は椀である。「ハ」の字形にひらく有段の高台を貼り付ける。体部外面の上半部には回転ナデ調整, 腰部には回転ヘラケズリ調整を施す。内面はヘラミガキ調整である。切離し手法は



遺構埋土

1. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトと黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトを少量含み炭化物と0.5~3.0cm大の礫を含む(P491)
2. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトに炭化物と0.5~15.0cm大の礫を多く含む(ST6)
3. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに炭化物と0.5~15.0cm大の礫を多く含む(ST6)
4. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに0.5~10.0cm大の礫を含む(ST6)
5. 黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトに明赤褐色(2.5YR5/6)細粒砂質シルト(焼土)と炭化物を含む(ST6)
6. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに暗褐色(10YR3/4)細粒砂質シルトを少量含む(ST6_壁溝)
7. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトに0.5~3.0cm大の礫を含む(ST6_SK1)

図250 7区 ST6 平面図・断面図

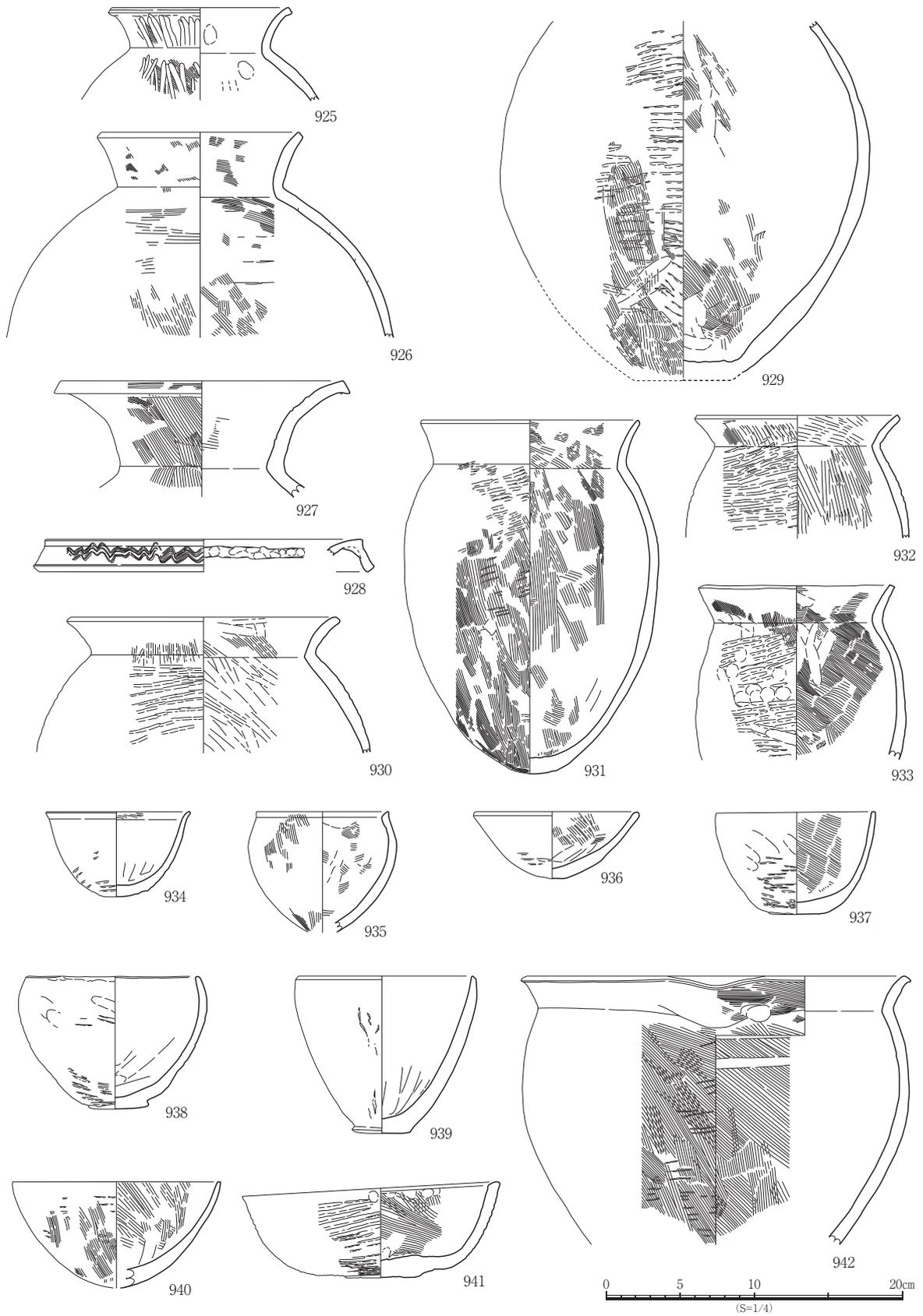


图251 7区 ST6 出土遺物実測図_1

回転糸切りか。921は管状土錘である。僅かに紡錘形状を呈した円筒形で、断面形は楕円形状を呈する。両端を欠損する。922は鉢の底部か。平底で中央が僅かに凸状を呈する。外底面にはナデ調整を施し、モミ圧痕がみられる。体部外面はナデ調整、内面はヘラナデ調整である。923は壺の底部である。平底で外底面にはナデ調整を施す。体部外面には縦方向のヘラミガキ調整、内面にはハケ調整およびナデ調整を施す。924は支脚である。脚部は僅かにひらき、端部は上から押し付けることで平坦面とする。残存部は中空である。外面は叩き調整後、指頭により成形する。内面はナデ調整である。

ST6

ST6は7-3区南東部で検出した竪穴建物跡である。ST7を切る。平面形は長軸約5.90m、短軸約5.80mの隅丸方形を呈する。床面積は約34.8㎡と推測される。主軸方向はN-3°-Wである。検出面から床面までの深さは約32cmであり、埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト他である。床面では中央ピット(ST6_SK1)、土杭(ST6_SK2)、ベッド状遺構、小溝(ST6_SD1)、主柱穴(ST6_P3・6・7・8)等を検出した。中央ピット(ST6_SK1)は床面の中央やや南寄りで検出した。平面形は長軸約1.40m、短軸約0.90mの不整隅丸長方形を呈し、両端部にテラスを持つ。床面からの深さは約19cmを測り、埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトである。この中央ピットの北側に接する形で土坑(ST6_SK2)を検出した。平面形は長軸約1.15m、短軸約0.84mの不整隅丸方形を呈し、床面からの深さは約8cmを測り、埋

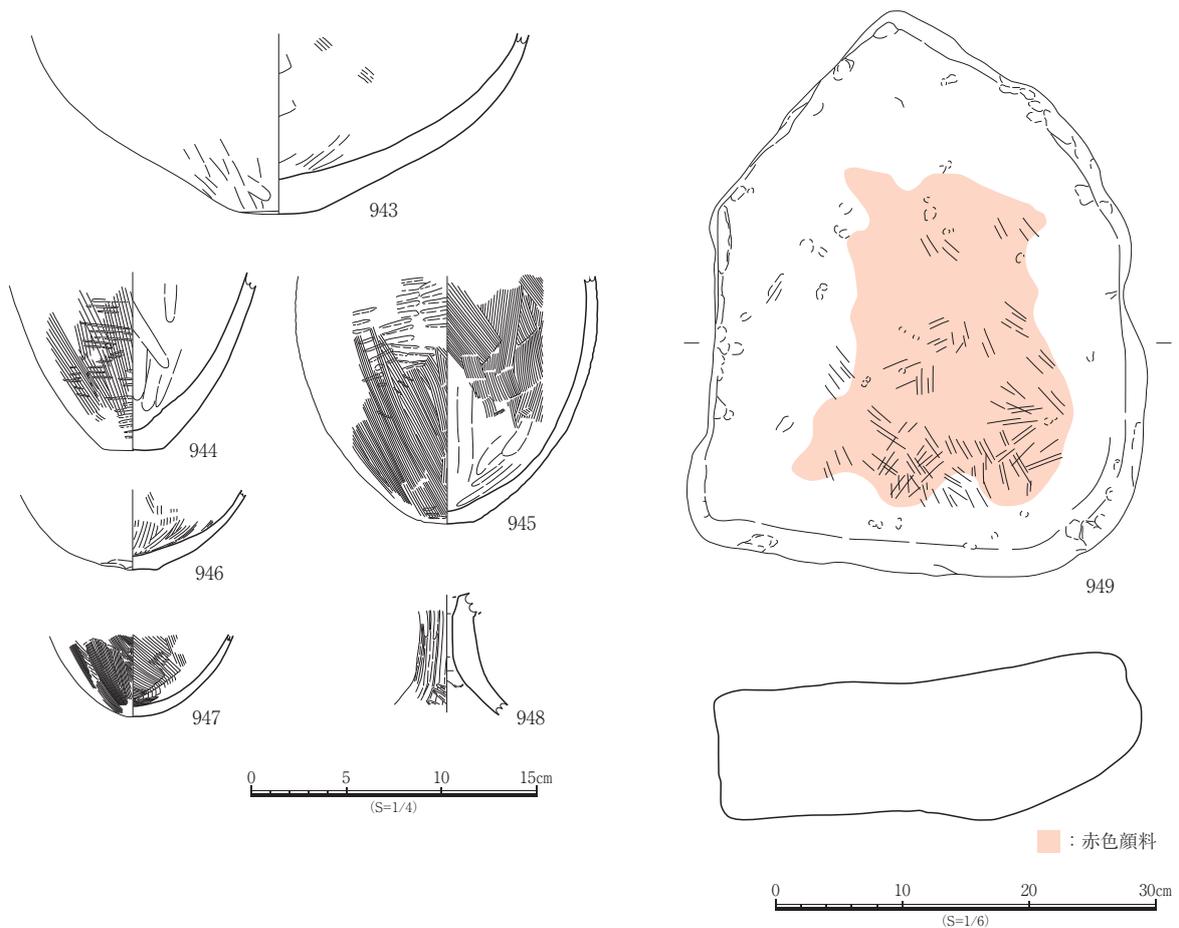


図252 7区 ST6 出土遺物実測図_2

土は黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルト他である。複合型の燃焼施設を構成する可能性がある。ベッド状遺構は東の一部を除いて検出した。幅約0.90m, 低床部との比高差は約11cmである。小溝(ST6_SD1)は南辺のベッド上で検出した。幅約18cm, 床面からの深さは3~5cmを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。検出長は約3.10mである。主柱穴は低床部の四隅に配置されている。主柱穴(ST6_P3)は北東部隅で検出した。直径約40cmの不整円形を呈し、床面からの深さは約39cmである。主柱穴(ST6_P6)は南西部隅で検出した。直径約24cmの円形を呈し、床面からの深さは約36cmである。主柱穴(ST6_P7)は北西部隅で検出した。直径約33cmの不整円形を呈し、床面からの深さは約37cmである。主柱穴(ST6_P8)は南東部隅で検出した。長軸約37cm, 短軸約30cmの楕円形を呈し、床面からの深さは約41cmである。

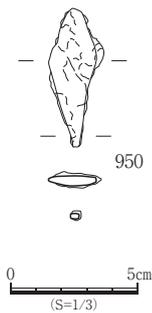


図253 7区 ST6
出土遺物実測図_3

図示した出土遺物は、弥生土器の壺(925~929)・甕(930~933)・鉢(934~942)・底部(943~947)・高杯(948), 台石(949), 鉄鍬(950), 土師質土器の皿(951~958)・柱状高台(959)・杯(960・961)・椀(962・963), 須恵器の杯(964)・甕(965), 丸瓦(966)である。

925は壺である。口縁部は肥厚させ、口唇部は沈線状となる。口縁部外面にはヨコナデ調整後、縦方向のヘラミガキ調整を密に施す。内面はヨコナデ調整である。体部外面はハケ調整後、縦方向のヘラミガキ調整、内面にはナデ調整を施す。926は壺である。口縁部を僅かに外反させ、口唇部にはルーズな面取りを施す。口縁部外面はハケ調整、内面はヨコハケ調整である。体部外面には叩き調整後、ハケ調整を施す。内面はハケ調整であり、幅約2.5cmの粘土接合痕跡がみられる。927は壺である。口縁部を大きく外反させ、口唇部はハケ状原体による面取りを施す。頸部外面はタテハケ調整、内面はヨコハケ調整である。928は壺である。粘土帯を付加し、下垂口縁とする。内外面ともヨコナデ調整で仕上げ、端部を平坦面とする。外面には3~6条1単位の櫛描波状文を施す。内面の接合部には粘土帯を貼り付け補強する。929は壺である。体部は楕円形を呈し、外面は叩き調整後タテハケ調整、内面はハケ調整である。内底面にはナデ調整を施す。930は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部にはルーズな面取りを施す。口縁部外面はタテハケ調整後、ヨコナデ調整を施す。内面はナデ調整である。体部外面には叩き調整後、ナデ調整を施す。内面は斜め方向の粗いハケ調整を施す。931は甕である。口縁部は緩やかな「く」の字状を呈する。口縁部外面はナデ調整、内面はハケ調整である。体部は長胴形を呈し、外面には叩き調整後タテハケ調整を密に施し、内面には全面にハケ調整を施す。内底面はナデ調整である。底部はハケ調整により、ほぼ丸底に仕上げる。932は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部にはルーズな面取りを施す。口縁部外面には叩き調整後、粗いタテハケ調整を施す。内面は斜め方向の粗いハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後、上半部にはナデ調整、下半部にはタテハケ調整を疎らに施す。内面は粗いタテハケ調整である。933は甕である。口縁部は緩やかな「く」の字状を呈し、口唇部にはルーズな面取りを施す。口縁部外面はタテハケ調整、内面はヨコハケ調整である。体部外面には叩き調整後ナデ調整、内面には斜め方向のハケ調整を施す。

934は半球形を呈する鉢である。口縁部を僅かに外反させる。体部外面には叩き調整後、ナデ調整を施す。一部にタテハケ調整を施す。内面はヘラナデ調整を施し、平滑とする。底部は丸底で外底面にはナデ調整を施す。935は小型の鉢である。口唇部は内傾し、面取りを施す。体部外面にはハケ調

整後ナデ調整を施し、ミガキ状を呈する。内面はハケ調整後、ナデ調整である。936は鉢である。体部外面には叩き調整後、ナデ調整を施す。内面には粗いハケ調整を施し、下半部にはナデ調整を施す。底部はナデ調整により丸底とする。937は断面形が逆台形状を呈した鉢である。底部は角の取れた平底を呈し、安定感がある。外底面にはナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後ナデ調整、内面はハケ調整を施す。また、内底面にはナデ調整を施す。938は鉢である。体部は半球形を呈し、口縁部は内湾する。体部外面には叩き調整後ナデ調整を施し、内面にはナデ調整を施す。底部は円盤状の平底を

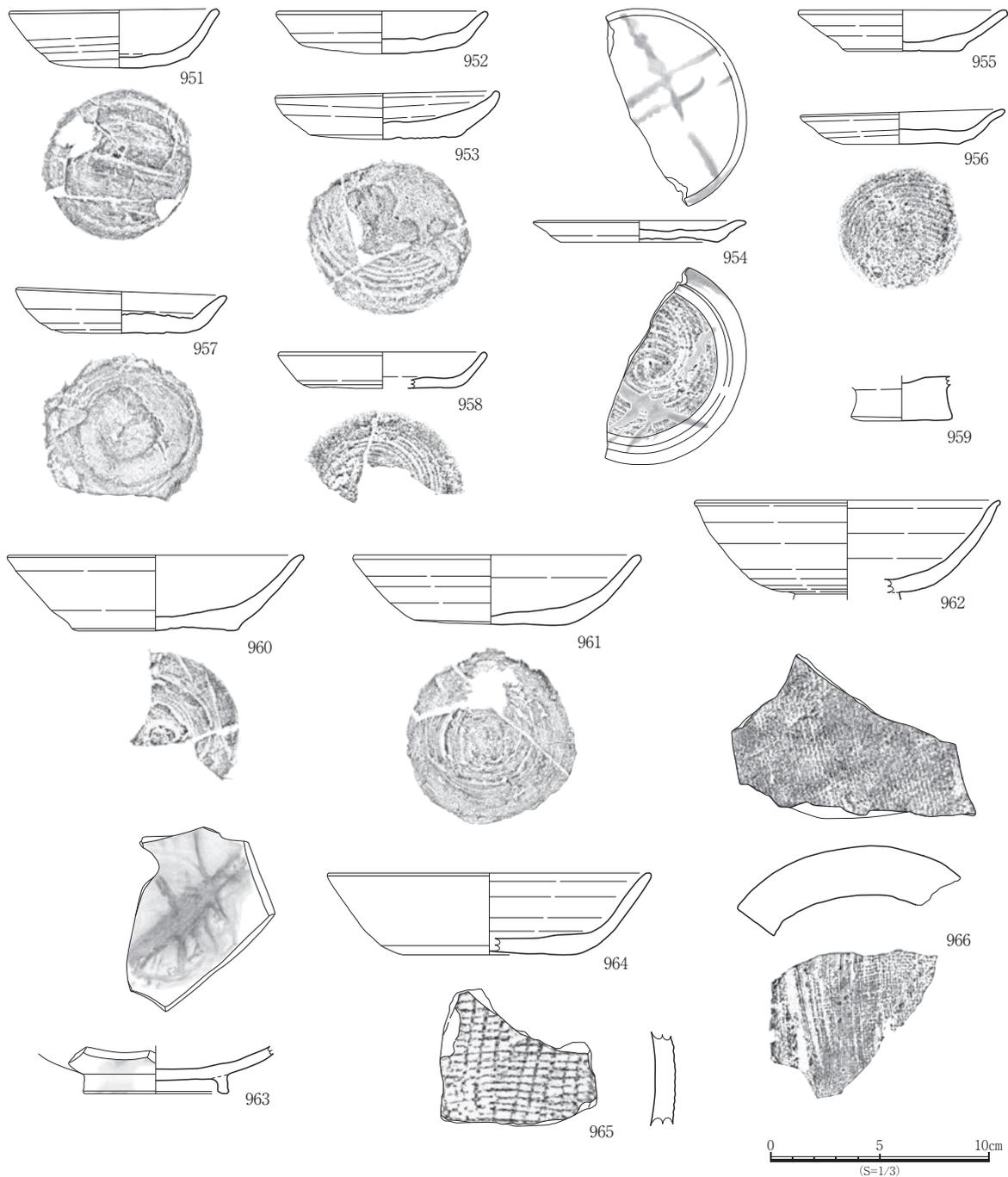
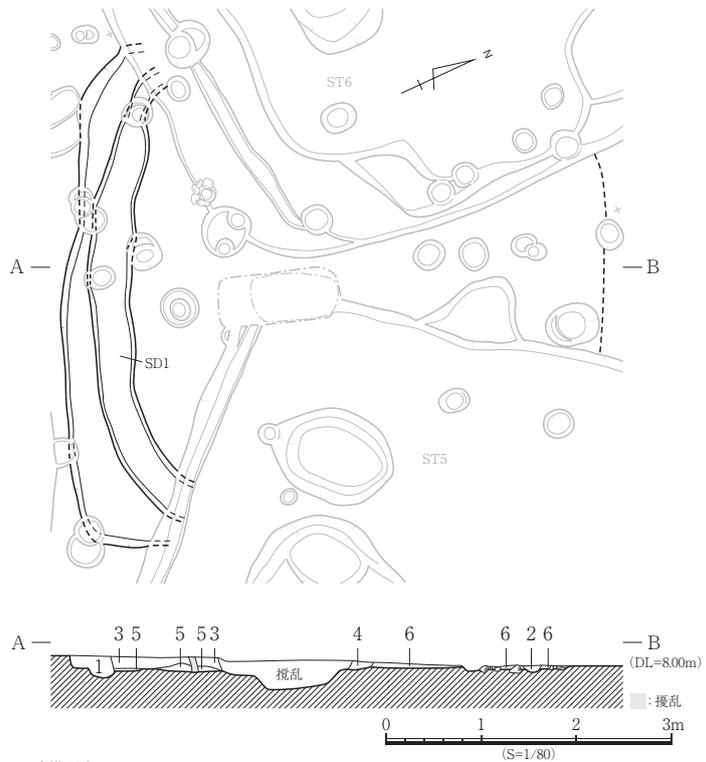


図254 7区 ST6 出土遺物実測図_4

呈し、上から押し付けることで外底面は平坦面となる。キレツが認められる。火襻状の黒斑がみられる。939は深めの鉢である。口唇部を尖らせる。体部は内外面ともナデ調整であり、外面には深いキレツが認められる。底部は平底を呈し、上から押し付けることで外底面は平坦面となる。器壁は厚い。940は半球形を呈する鉢である。体部外面には叩き調整後、タテハケ調整を密に施す。内面はハケ調整およびナデ調整である。底部は丸底である。941は浅い鉢である。口唇部は内傾した平坦面となる。体部外面には叩き調整後、ナデ調整を施す。内面にはハケ調整を施す。内底面には指およびヘラによる強いナデ調整を施す。底部は平底で外底面にはナデ調整を施す。特徴的な器形である。942は大型の片口鉢である。口縁部を外反させ、口唇部には面取りを施す。指頭により注口を付す。口縁部は内外面ともヨコハケ調整を施す。体部外面には叩き調整後、ハケ調整を密に施す。内面にはハケ調整を施す。943は壺の底部である。ほぼ丸底を呈する。体部外面はナデ調整、内面はハケ調整およびナデ調整である。腰部外面の対向位置に煤が付着する。煮沸の用に供されたか。944は甕の底



遺構埋土

1. 黒色 (10YR2/1) 細粒砂質シルト・暗褐色 (10YR3/3) 細粒砂質シルトに2.0cm以下の礫を少量含む (ピット)
2. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに0.5~2.0cm大の礫を含む (ピット)
3. 黒色 (10YR2/1) 細粒砂質シルトに0.5~2.0cm大の礫を含む (ST7)
4. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルト・暗褐色 (10YR3/3) 細粒砂質シルトに炭化物を含む
5. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルト・黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルト・黒褐色 (10YR3/2) 細粒砂質シルトに1.0~2.0cm大の礫を含む (ST7, SD1)
6. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルト・暗褐色 (10YR3/4) 細粒砂質シルトに0.5~5.0cm大の礫を含む (ST7)

図255 7区 ST7 平面図・断面図

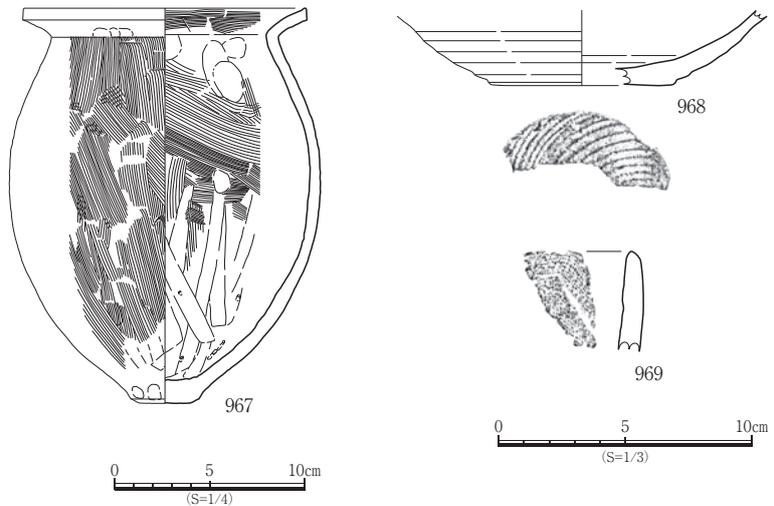


図256 7区 ST7 出土遺物実測図

部である。角の取れた平底を呈し、外底面にはナデ調整を施す。体部外面には叩き調整後、タテハケ調整を密に施す。内面にはナデ調整を施す。945は甕の底部である。ほぼ丸底を呈し、外底面にはナデ調整を施す。体部外面には叩き調整後、タテハケ調整を下半部に密に施す。内面はハケ調整およびナデ調整を施す。煤の付着状況等から煮沸の用に供されている。946は鉢の底部である。強いナデ調整により丸底とする。体部外面はナデ調整、内面はタテハケ調整である。外面には深いキレツが認められる。947は底部である。ハケ調整を施すことにより丸底とする。体部は内外面ともハケ調整を施す。948は高杯である。脚部は円柱状を呈し、中空である。外面は縦方向のヘラミガキ調整を密に施す。内面はヘラケズリ調整およびナデ調整である。949は砂岩製の台石である。中央部は淡い赤褐色に発色する。赤色顔料を精製した可能性がある。950は圭頭式の鉄鏝である。鏝身の横断面形は扁平な菱形を呈し、茎部の断面形は長方形を呈する。茎部よりも鏝身の方が厚い。腐蝕生成物が付着か。

951は皿である。口縁部は、斜め上方へ低く立ち上がり、口唇部は丸くおさめる。底部は丸みを帯びる。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には簧状圧痕が認められる。杯か。混入品である。952は皿である。口縁部は外反気味にひらき、口唇部は丸くおさめる。底部は丸みを帯びる。内外面とも回転ナデ調整を施す。混入品である。953は皿である。口縁部は内湾気味に緩やかにひらき、口唇部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には静止糸切り痕跡が認められる。混入品である。ほぼ完存である。954は皿である。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。内外面に火襷が認められる。灯明皿か。混入品である。955は皿である。底部は屈曲し平高台状となる。内外面とも回転ナデ調整を施し、内底面は凹状となる。切離し手法はヘラ切りか。混入品である。956は皿である。口縁部は、僅かに外反する。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。混入品である。957は皿である。口縁部は丸みを帯びてひらく。内外面とも回転ナデ調整を施す。内底面にはヨコナデ調整を施す。外底面には回転ヘラ切り痕跡が認められる。混入品である。958は皿である。口縁部は内湾気味にひらく。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。赤色塗彩か。混入品である。959は柱状高台である。断面形は台形を呈する。混入品である。960は杯である。体部は斜め上方へ低く立ち上がる。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転ヘラ切り痕跡が認められる。混入品である。961は杯である。体部は斜め上方へ低く立ち上がる。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転ヘラ切り痕跡が認められる。混入品である。962は椀である。口唇部を僅かに外反させる。体部は内湾気味に立ち上がる。内外面とも回転ナデ調整を施す。内底面には火襷が認められる。混入品である。963は椀である。断面形が方形状の高台を貼り付ける。内外面とも回転ナデ調整を施す。内外面には火襷が認められる。混入品である。964は杯である。体部は斜め上方へ低く立ち上がる。内外面とも回転ナデ調整を施す。底部には粘土盤接合痕跡が認められる。外面に火襷状の痕跡がみられる。混入品である。965は甕である。外面に格子状叩きが認められる。混入品である。966は丸瓦である。凸面には縄目痕、凹面には布目の圧痕が認められる。混入品である。

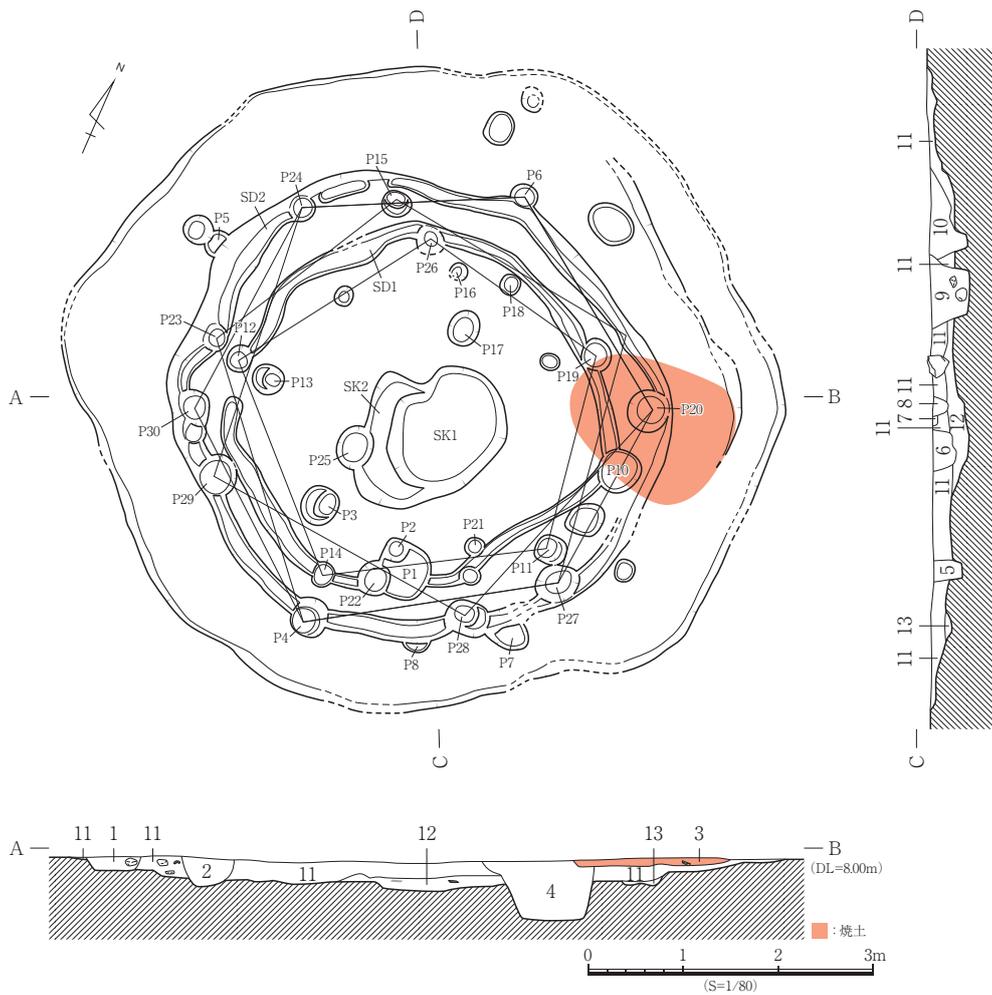
ST7

ST7は7-3区南東部で検出した竪穴建物跡である。ST5・6に切られる。平面形は一辺約5.60mの隅丸方形か。床面積は約31.3㎡と推測される。主軸方向はN-25°-Eである。検出面から床面までの深さは約19cmであり、埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトである。床面では溝(ST7_SD1)を検出し

た。幅約40cm、床面からの深さは3～5cmを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト他である。検出長は約4.10mである。本STに伴うかは不明である。

図示した出土遺物は、弥生土器の甕(967)、土師質土器の杯(968)、製塩土器(969)である。

967は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部を摘み上げる。口縁部外面にはナデ調整、内面にはヨコハケ調整を施す。体部は中位に最大径部を持つ長胴形を呈する。外面は叩き調整後、ハケ調整を密に施す。内面は上半部にはハケ調整、下半部にはヘラケズリ調整を施す。また、肩部内面にはナデ調整を施し、指頭圧痕がみられる。底部は直立部を持つ平底で、外底面にはナデ調整を施す。



遺構埋土

1. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトに0.5～3.0cm大の礫を含む(P508)
2. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトに0.5～3.0cm大の礫を含む(P507)
3. 黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルト・橙色(7.5YR6/6)細粒砂質シルトに0.5～5.0cm大の礫を含む(焼土)
4. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトに0.5～3.0cm大の礫を含む(P521)
5. (P521)
6. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトと黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトを少量含み0.5～3.0cm大の礫を含む(P510)
7. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトに0.5～3.0cm大の礫を含む(ピット)
8. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトに0.5～3.0cm大の礫を含む(P511)
9. (P519)
10. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトに炭化物と0.5～3.0cm大の礫を含む(P509)
11. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトに0.5～8.0cm大の礫を多く含む(ST8)
12. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトに褐色(10YR4/4)細粒砂質シルトを少量含み炭化物を多く含み0.5～2.5cm大の礫を含む(ST8_SK1)
13. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトに暗褐色(10YR3/4)細粒砂質シルトを少量含む(ST8_SD2)

図257 7区 ST8 平面図・断面図

表1 7区ST8 主柱穴計測表

遺構 番号	長径/ 直径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	埋 土
P4	41	37	53	黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト
P6	28	24	38	黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト
P11	33	30	48	黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト
P12	29	25	28	黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト
P14	27	22	5	黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに炭化物を含む
P15	31	26	42	-
P19	34	31	33	-
P20	45	43	39	-
P23	28	24	19	-
P24	27	25	33	-
P26	31	26	14	黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトに炭化物を含む
P27	48	45	45	-
P28	45	35	34	黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに炭化物を含む
P29	45	42	20	黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに炭化物を含む
P30	36	32	14	-

968 は杯である。体部は緩やかに立ち上がる。底部は扁平な円盤状を呈し、外底面には回転糸切り痕跡が認められる。内外面とも回転ナデ調整を施す。混入品である。969 は製塩土器である。口唇部はやや尖端状を呈する。内面には布目の圧痕が認められる。混入品である。

ST8

ST8は7-3区東部で検出した竪穴建物跡である。中央ピットは2基(ST8_SK1・2)、壁溝あるいは小溝が2条(ST8_SD1・2)あり、主柱穴の組み合わせも4セット復元できることから、2～4棟の竪穴建物跡が重複していると考えられる。主柱穴の可能性のあるピットについては表に規模等を記した。主柱穴の組み合わせはa(ST8_P4・6・20・24・27・30)、b(ST8_P6・20・24・28・29)、c(ST8_P4・15・23・27)、d(ST8_P11・12・14・19・26)の4セットである。中央ピット(ST8_SK1)は長軸約1.34m、短軸約1.11mの楕円形を呈する。床面からの深さは約15cmであり、埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト他である。主軸方向はN-60° -Eである。中央ピット(ST8_SK2)は長軸約1.36m、短軸の検出長は約0.80mの隅丸長方形を呈する。床面からの深さは約15cmであり、埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト他である。主軸方向はN-82° -Wである。以上の組み合わせの一例として、一辺約3.80mの六角形を呈し、幅0.70～1.00m、低床部との比高差約20cmのベッド状遺構を持つ。床面積は約38.3㎡と推測される。検出面から床面までの深さは約32cmであり、埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトである。小溝はST8_SD2、主柱穴のセットはa、中央ピットはST8_SK2である。

図示した出土遺物は、弥生土器の鉢(970～974)・底部(975)、支脚(976・977)、土師質土器の皿(978)・椀(979)、白磁の碗(980)、土錘(981)、土師質土器の椀(982)、白磁の皿(983)、土師器の甕(984)、瓦質土器の羽釜(985)、叩石(986・987)、砥石(988)である。

970 は鉢である。上半部は内湾する。砂粒をほとんど含まない胎土である。摩耗により調整等は不明である。口縁部はヨコナデ調整か。971 は鉢である。口唇部は尖らせる。体部外面は叩き調整後、夕

第4節 7区

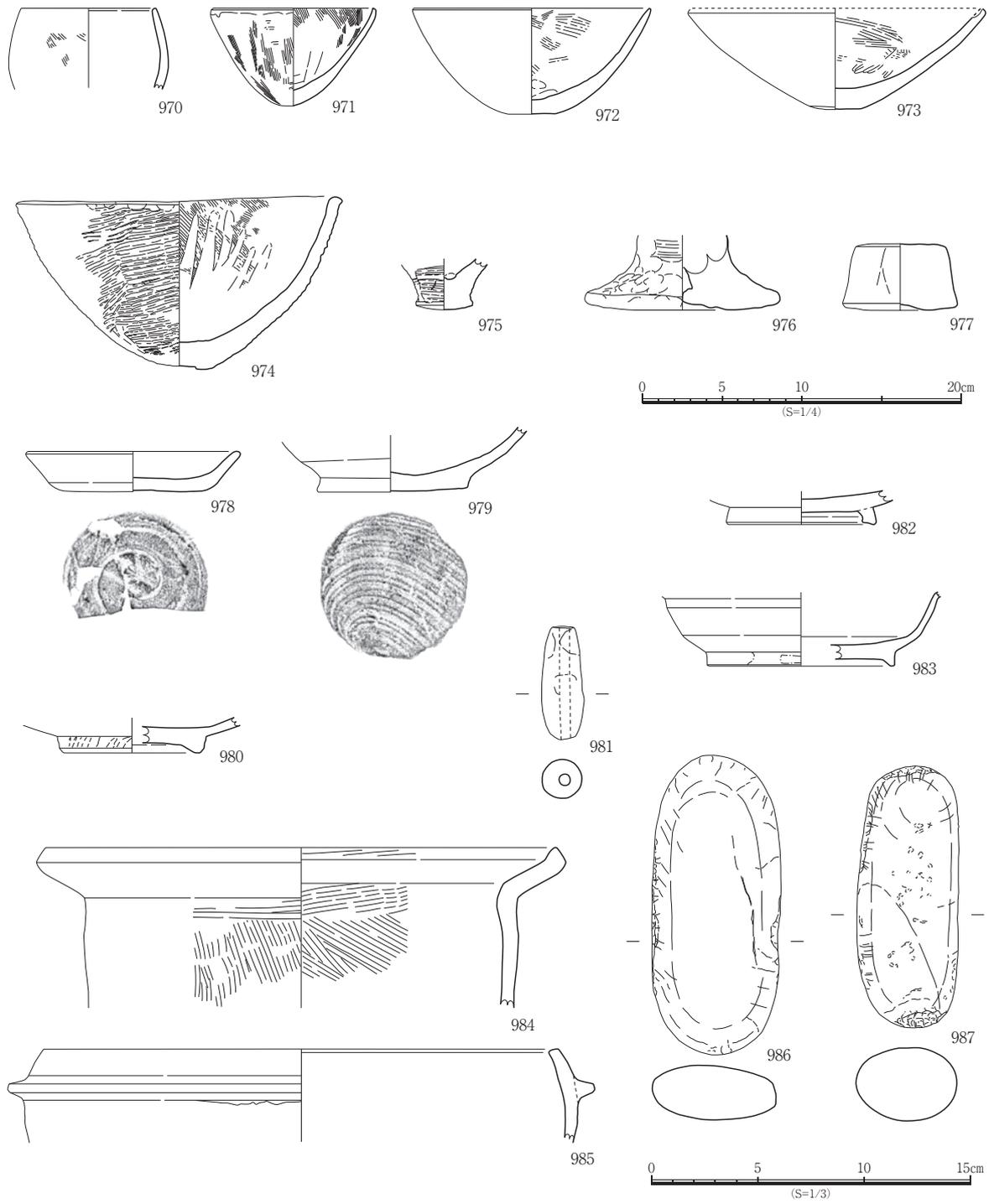


图258 7区 ST8 出土遺物実測図_1

テハケ調整を施す。内面はハケ調整およびナデ調整を施す。底部はハケ調整およびナデ調整により丸底とする。外面にはキレツが認められる。972は半球形を呈する鉢である。体部外面にはナデ調整、内面にはハケ調整を施す。底部はほぼ丸底を呈し、外底面にはナデ調整を施す。キレツが認められる。摩耗する。973は浅い鉢である。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面は粗いハケ調整後、内底面を中心にヘラミガキ調整を施す。底部はほぼ丸底を呈し、外底面にはナデ調整を施す。974は半球形の鉢である。口唇部にはルーズな面取りを施す。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はハケ調整後、下半部を中心にヘラミガキ調整を密に施す。底部はほぼ丸底を呈する。外底面は叩き調整後、ナデ調整を施す。975は多角形状の柱状を呈した底部である。丸みを帯びた平底を呈し、外底面にはナデ調整を施す。体部外面には叩き調整後ナデ調整を施し、内面にはナデ調整を施す。976は支脚である。円柱状の脚部から裾端部が大きくひろく。外底面は未調整にちかく、様々な圧痕がみられる。外面には叩き調整を施し、裾部は指頭により成形する。977は支脚である。断面形が台形状の低脚円柱状を呈する。底面は僅かに上げ底となり、ナデ調整を施す。

978は皿である。口縁部を僅かに外反させ、口唇部は丸くおさめる。外底面には回転ヘラ切り痕跡が認められる。混入品である。979は円盤状高台碗である。体部は緩やかに立ち上がる。外底面には静止糸切り痕跡が認められる。混入品である。980は碗である。断面形が台形の削り出し高台である。白色の釉薬を施し、外面は露胎となる。見込みには圏線がみられる。混入品である。981は管状土錘である。不整形な円筒形状を呈する。ナデ調整を施す。完存する。982は碗である。端部は僅かに内傾し凹面状に面取りを施した断面形が方形の輪高台を貼り付ける。混入品である。983は皿である。口縁部は外方へひろく。体部は有稜で立ち上がる。高台の断面形は逆三角形形状を呈する。乳白色の釉薬を施す。畳付は露胎である。混入品である。984は甕である。口縁部は短く外方へひらき、口唇部は肥厚し、面取りを施す。口縁部にはヨコハケ調整を施す。体部外面はタテハケ調整、内面は斜め方向のハケ調整を施す。混入品である。985は羽釜である。口縁部は内湾し、口唇部には面取りを施す。断面形が台形の鏝を貼り付ける。内外面ともナデ調整を施す。炭素吸着は弱い。混入品である。986は砂岩製の叩石である。扁平な棒状の河

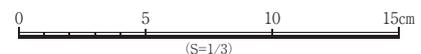
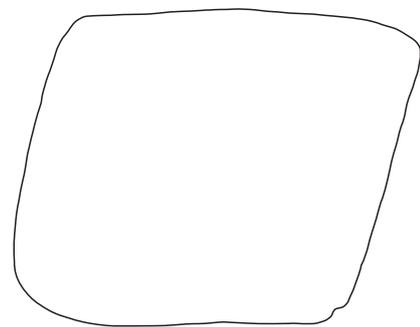
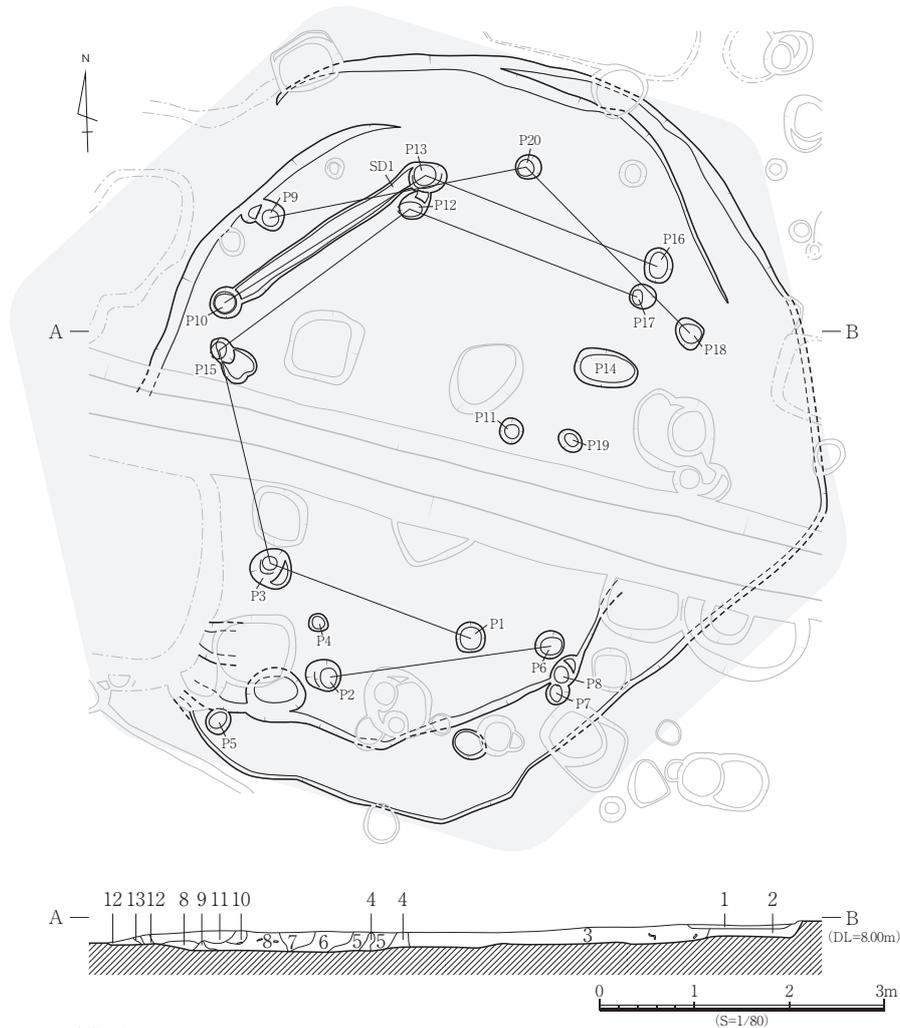


図259 7区 ST8 出土遺物実測図_2

原石を利用する。両側縁に敲打痕跡がみられる。完存である。987はST8_P13から出土した砂岩製の叩石である。棒状の河原石を利用する。両先端部と片側縁に敲打痕跡が認められる。完存である。988はST8_P13から出土した砂岩製の砥石である。厚みのある縦長の河原石を利用する。縦断面形は三角形を呈する。小口面以外の4面を使用する。

ST9

ST9は7-3区と7-4区にまたがって検出した竪穴建物跡である。攪乱等に切られる。平面形は一辺



遺構埋土

1. 暗褐色 (10YR3/3) シルト質細粒砂に0.5cm大以下の礫を含む
2. 黒褐色 (10YR2/3) シルト質細粒砂に黒褐色 (10YR2/2) シルト質細粒砂と褐色 (10YR4/4) シルト質細粒砂を少量含む
3. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトに褐色 (10YR4/6) 細粒砂質シルトブロック (地山) を含み炭化物を少量含む
4. 赤黒色 (2.5YR2/1) シルト質細粒砂に黄褐色 (10YR5/3) シルト質細粒砂ブロック (地山) を含む
5. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルト
6. 赤黒色 (2.5YR2/1) 細粒砂質シルト
7. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルト10.0cm大以下の礫を含む
8. 黒褐色 (10YR2/3) シルト質細粒砂に0.5cm大以下の礫を少量含む
9. 黒色 (10YR1/7) 細粒砂質シルトに地山ブロックを含む
10. 黒褐色 (10YR2/3) シルト質細粒砂に0.5cm大以下の礫を少量含む
11. 黒褐色 (10YR2/3) シルト質細粒砂に地山ブロックと0.5cm大以下の礫を含む
12. 暗褐色 (10YR3/3) シルト質細粒砂に0.5cm大以下の礫を含む
13. 黒褐色 (10YR3/1) シルト質細粒砂に0.5cm大以下の礫を含む

図260 7区 ST9 平面図・断面図

約 4.60m の六角形を呈する。床面積は約 54.9 m² と推測される。主軸方向は N-18° -E である。検出面から床面までの深さは約 26 cm であり、埋土は黒色 (10YR1.7/1) 細粒砂質シルト他である。床面では小溝 (ST9_SD1)、支柱穴を検出した。支柱穴の組み合わせは a (ST9_P1・3・12・15・17)、b (ST9_P10・13・16)、c (ST9_P9・18・20)、d (ST9_P2・6) である。支柱穴の可能性のあるピットについては表に規模等を記した。小溝 (ST9_SD1) は幅約 22 cm、床面からの深さは 4～6 cm を測る。検出長は約 2.38 m である。支柱穴 (ST9_P10) と (ST9_P13) を連結する。

図示した出土遺物は、弥生土器の壺 (989～996)・甕 (997～1001)・底部 (1002)・鉢 (1003～1013)、支脚 (1014～1016)、弥生土器の高杯 (1017)、土師質土器の皿 (1018～1020)・杯 (1021～1023)・不明 (1024)・柱状高台 (1025)・椀 (1026・1027)、須恵器の蓋 (1028～1032)・杯 (1033・1034)・皿 (1035)・鉢 (1036)・甕 (1037)、石包丁 (1038) である。

989 は壺である。口縁部は大きくひらき、口唇部は凹面状を呈する。口縁端部はヨコナデ調整で仕上げる。口縁部外面はやや粗いタテハケ調整、内面はやや粗いヨコハケ調整である。990 は壺である。口縁部は大きくひらき、口唇部は凹面状を呈する。口縁端部はヨコナデ調整で仕上げる。口縁部外面はタテハケ調整である。内面はヨコハケ調整であり、ヘラミガキ状となる部分がある。外面についてもミガキ状に光沢を帯びる部分がある。991 は壺である。口縁部は大きくひらき、口唇部は凹面状を呈する。口縁端部はヨコナデ調整で仕上げる。口縁部外面はタテハケ調整後、ヨコナデ調整を施す。内面はヘラミガキ調整である。992 は壺である。口唇部はヨコナデ調整により凹面状を呈する。口縁部外面はタテハケ調整、内面は斜め方向のハケ調整後ヘラミガキ調整を疎らに施す。993 は壺である。口唇部に粘土紐を貼付し、拡張する。外面には複合鋸歯文を施す。口縁部外面はハケ調整後ナデ調整か。内面はナデ調整を施す。994 は ST9_P10 から出土した壺である。口唇部には面取りを施し、竹管文を配置する。口縁部外面はヨコナデ調整、内面はヨコハケ調整後ヘラミガキ調整を施す。995 は複合口縁壺である。口縁部は内外面ともヨコナデ調整である。接合面で剥離する。996 は壺である。外面にはハケ調整を施す。内面は頸部がナデ調整、肩部がハケ調整、下半部がナデ調整である。摩耗する。

997 は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部にはハケ状原体による面取りを施す。口縁部外面は上胴部からの一連の叩き調整後、指頭により成形する。内面はハケ調整である。体部外面は叩き調整後、下半部にはタテハケ調整を施す。肩部内面には接合痕跡が認められる。998 は甕である。口縁部は緩やかな「く」の字状を呈し、口唇部はハケ状原体により面取りを施す。口縁部外面は叩き調整後、粗いタテハケ調整を密に施す。内面は粗いハケ調整である。体部外面には叩き調整後ハケ調整を施し、内面にはナデ調整を施す。999 は ST9_P18 から出土した甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部には面取りを施す。口縁部外面は上胴部からの一連の叩き調整後、指頭により成形する。内面にはハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後、タテハケ調整を疎らに施す。内面にはハケ調整を施す。1000 は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部には面取りを施す。口縁部は内外面ともハケ調整を施す。体部外面は叩き調整、内面はハケ調整である。1001 は甕である。口縁部は「く」の字状を呈する。口唇部を摘み上げ、面取りを施す。口縁部外面はヨコナデ調整、内面はハケ調整である。1002 は底部である。角の取れた平底を呈し、外底面には、叩き調整後ナデ調整を施す。体部外面には叩き調整後、タテハケ調整を密に施す。内面はナデ調整である。1003 は深めの鉢である。体部外面は叩き調整後ナデ調整、内面はハケ調整である。底部はナデ調整により丸底とする。1004 は鉢である。



图261 7区 ST9 出土遺物実測図_1

体部は直線的にのびる。底部は角の取れた平底で、外底面には様々な圧痕がみられる。体部外面には叩き調整後、ハケ調整を密に施す。内面はハケ調整後、ナデ調整を施す。1005は鉢である。口唇部にはルーズな面取りを施す。体部外面は叩き調整後ナデ調整、内面はハケ調整である。底部はケズリ調整により丸底とする。器壁はうすい。1006は鉢である。体部は半球形を呈し、口縁端部をごく僅かに外反させる。体部外面はタテハケ調整、内面は斜め方向のハケ調整である。1007は浅い鉢である。口唇部にはハケ状原体による面取りを施す。体部外面はナデ調整である。内面はハケ調整後、ヘラミガキ調整を密に施す。底部は丸底を呈し、外底面には叩き目がみられる。1008は鉢である。口縁端部を僅かに外反させる。口縁部はヨコナデ調整で仕上げる。体部は内外面ともハケ調整である。1009は鉢である。口唇部を尖らせる。体部外面は叩き調整後、丁寧にナデ調整を施す。内面はナデ調整およびヘラミガキ調整である。1010は鉢である。口唇部はナデ調整により面取りを施し、尖らせる。体部外面の上半部にはナデ調整、下半部にはタテハケ調整を密に施す。内面はタテハケ調整後、ヘラミガキ調整を施す。底部は内底面から押し出すことで丸底とする。1011は鉢である。口唇部にはハケ状原体による面取りを施す。外面は叩き調整後ハケ調整を施し、内面にはストロークの短いヨコハケ調整を施す。1012はST9_P10から出土した鉢である。口縁部に粘土紐を貼付し肥厚させる。内外面とも

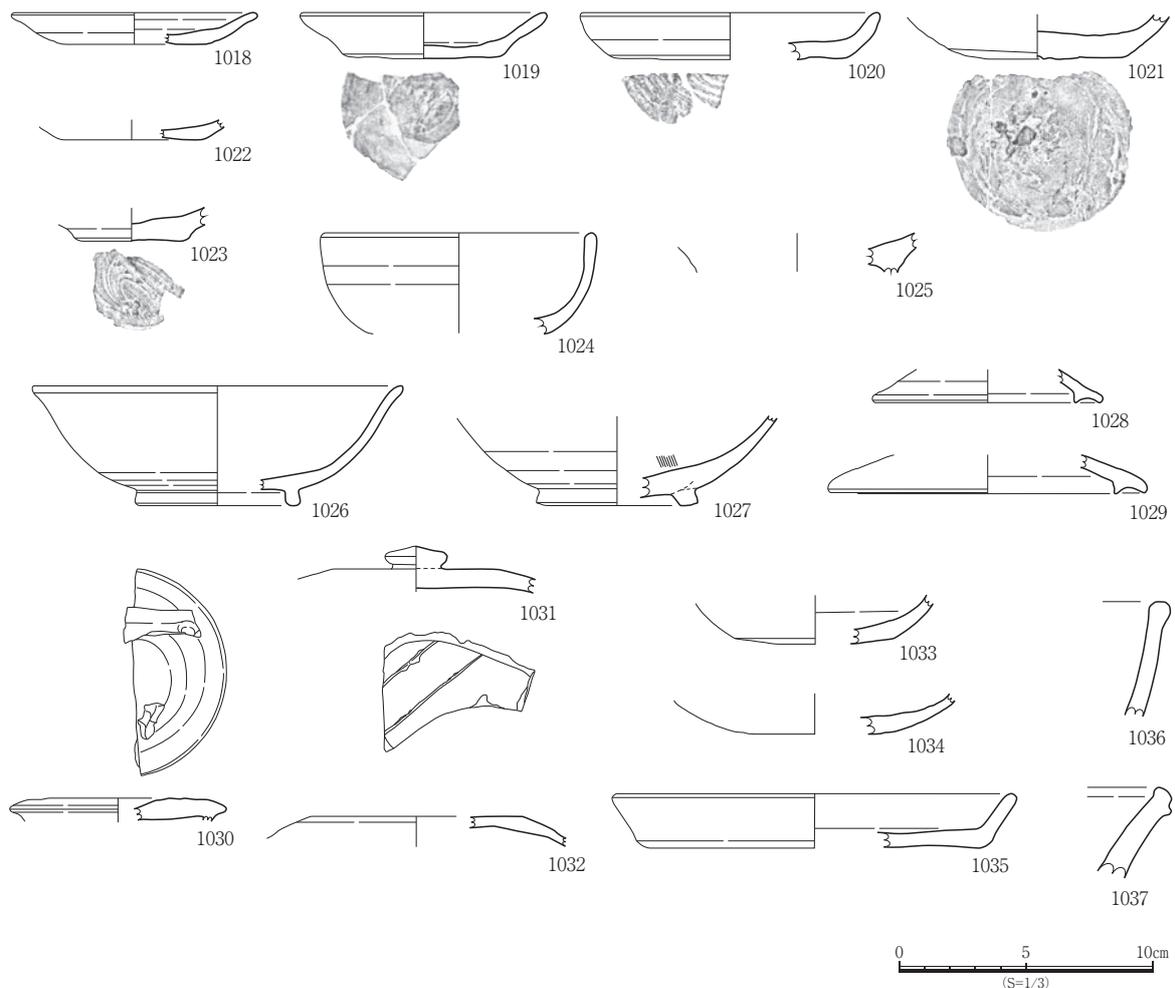


図262 7区 ST9 出土遺物実測_2

ヨコナデ調整で仕上げる。外面は下地に叩き目がみられる。1013は鉢である。低平な円盤状の平底で、外底面にはナデ調整を施す。体部外面には叩き調整後ナデ調整を丁寧に施し、内面にはハケ調整を施す。1014は支脚である。手捏ね成形であり、指頭圧痕が認められる。残存部は中空である。1015は支脚

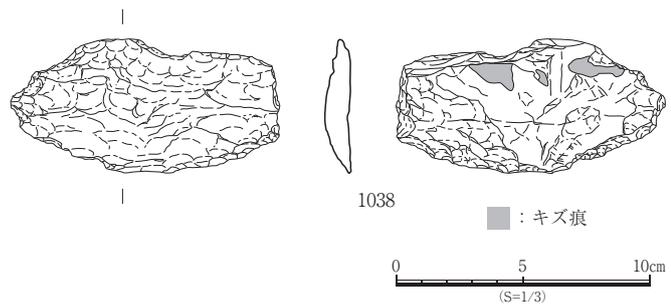
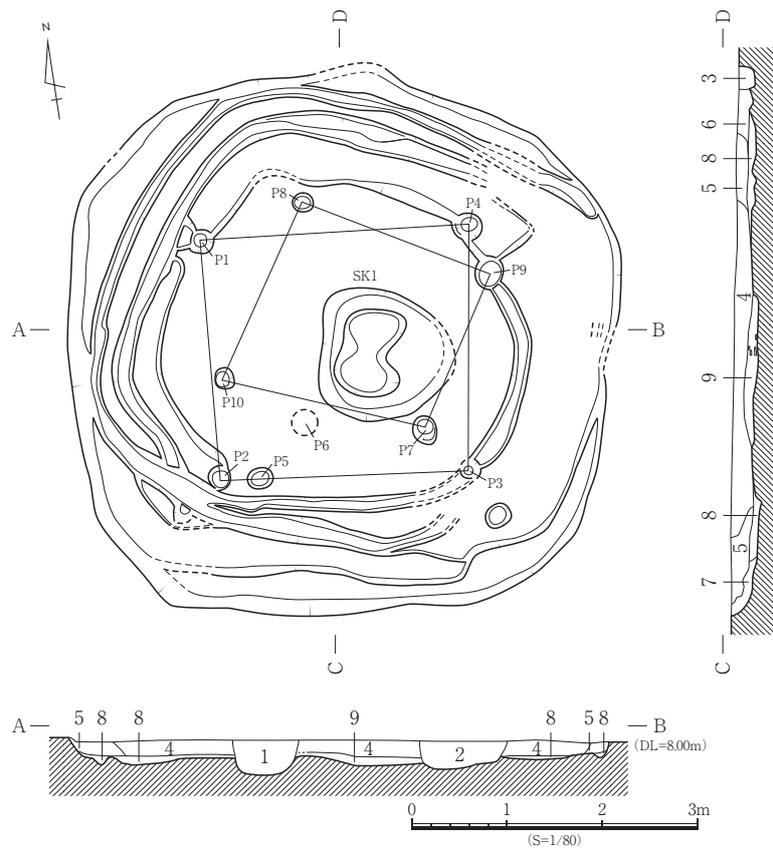


図263 7区 ST9 出土遺物実測図_3

である。手捏ね成形であり、指頭圧痕が認められる。体部は円柱状を呈し、残存部は中空である。外底面は上から押し付けることで平坦となる。1016は支脚である。手捏ね成形であり、指頭圧痕が認められる。体部は円柱状を呈し、底部は上げ底状となる。上部は粘土接合面で剥離か。1017は高杯である。裾部は「ハ」の字形を呈する。外面は縦方向のヘラミガキ調整、内面は斜め方向のヘラミガキ調整を施す。直径1.1cmの円孔を穿つ。胎土に砂粒をほとんど含まない。

1018は皿である。口縁部は外方へのびる。内外面とも回転ナデ調整を施す。切離し手法は回転ヘラ切りか。赤色顔料が付着する。混入品である。1019は皿である。口縁部は外上方へのびる。内外面とも回転ナデ調整を施す。内底面にはナデ調整を施す。外底面は回転ヘラ切り後ナデ調整を施す。混入品である。1020は皿である。口縁部は短く上方へのびる。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。混入品である。1021は杯である。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転ヘラ切り後ナデ調整を施す。混入品である。1022はST9_P17から出土した杯である。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には丁寧なナデ調整を施す。切離し手法は不明である。混入品である。1023は杯である。扁平な円盤状の底部である。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。混入品である。1024は不明である。体部は直立気味に立ち上がり、口唇部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施す。混入品である。1025は柱状高台である。高台を貼り付ける。内外面とも回転ナデ調整を施す。混入品である。1026は椀である。体部は丸みを持ち、口縁部は外反する。外底面には断面形が長方形の高台を貼り付ける。腰部外面には回転ヘラケズリ調整を施す。内外面とも摩耗する。混入品である。1027は椀である。外底面には断面形が方形の高台を「ハ」の字形に貼り付ける。内外面とも摩耗する。混入品である。1028はかえりを付した蓋である。内外面とも回転ナデ調整を施す。笠部径は9.1cmを測る。混入品である。1029はかえりを付した蓋である。内外面とも回転ナデ調整を施す。口縁部外面には砂粒の移動痕跡が認められる。笠部径は12.6cmを測る。混入品である。1030はかえりを付した蓋である。内外面とも回転ナデ調整を施す。天井部外面は回転ヘラケズリ調整か。笠部径は8.6cmを測る。また、別個体片が溶着する。歪む。天井部には自然釉が付着する。混入品である。1031は蓋である。扁平な擬宝珠様の摘みを付す。内外面とも回転ナデ調整を施す。内面には焼成前の線刻が認められる。混入品である。1032は蓋である。口縁部の内外面には回転ナデ調整を施し、天井部外面には回転ヘラケズリ調整を施す。また、天井部には自然釉が付着する。混入品である。1033は杯である。体部外面および内面には回転ナデ調整を施し、腰部外面には回転ヘラケズリ調整を施す。やや焼成不良である。混入品である。1034は杯である。体部は内外面とも回転ナデ調整を施す。底部外面には回転ヘラケズリ調整を施す。内面に自然釉が付着する。混入品である。1035は皿である。口縁部は外上方に直線的にのびる。内外面とも回転ナデ調整



遺構埋土

1. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに暗褐色 (10YR3/3) 細粒砂質シルトと黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトを少量含み0.5~3.0cm大の礫を含む (P487)
2. 黒色 (10YR2/1) 細粒砂質シルトに暗褐色 (10YR3/3) 細粒砂質シルトと0.5~3.0cm大の礫を含み炭化物を多く含む (P172)
3. (P505)
4. 黒色 (10YR1.7/1) 細粒砂質シルトに褐色 (10YR4/4) 砂質シルトブロックと0.5~5.0cm大の礫を含む (ST10)
5. 黒色 (10YR1.7/1) 細粒砂質シルト・黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに褐色 (10YR4/4) 細粒砂質シルトブロックを多く含み0.5~3.0cm大の礫を含む (ST10)
6. 黒色 (10YR1.7/1) 細粒砂質シルト・黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルト・褐色 (10YR4/4) 細粒砂質シルト (ST10)
7. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルト・暗褐色 (10YR3/3) 細粒砂質シルトに黒褐色 (10YR3/2) 細粒砂質シルトブロックを含む (ST10)
8. 黒色 (10YR1.7/1) 細粒砂質シルト・暗褐色 (10YR3/4) 細粒砂質シルト (ST10)
9. 黒色 (10YR1.7/1) 細粒砂質シルトに明赤褐色 (5YR5/8) 細粒砂質シルト (焼土) ブロックと炭化物を含む (ST10_SK1)

図264 7区 ST10 平面図・断面図

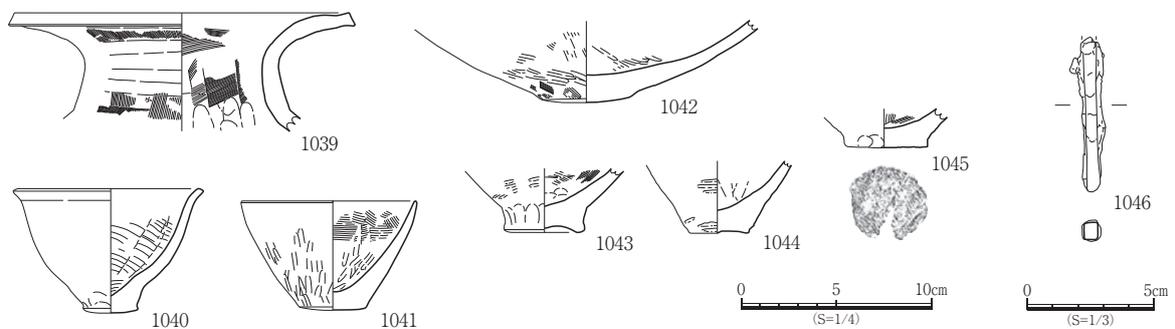
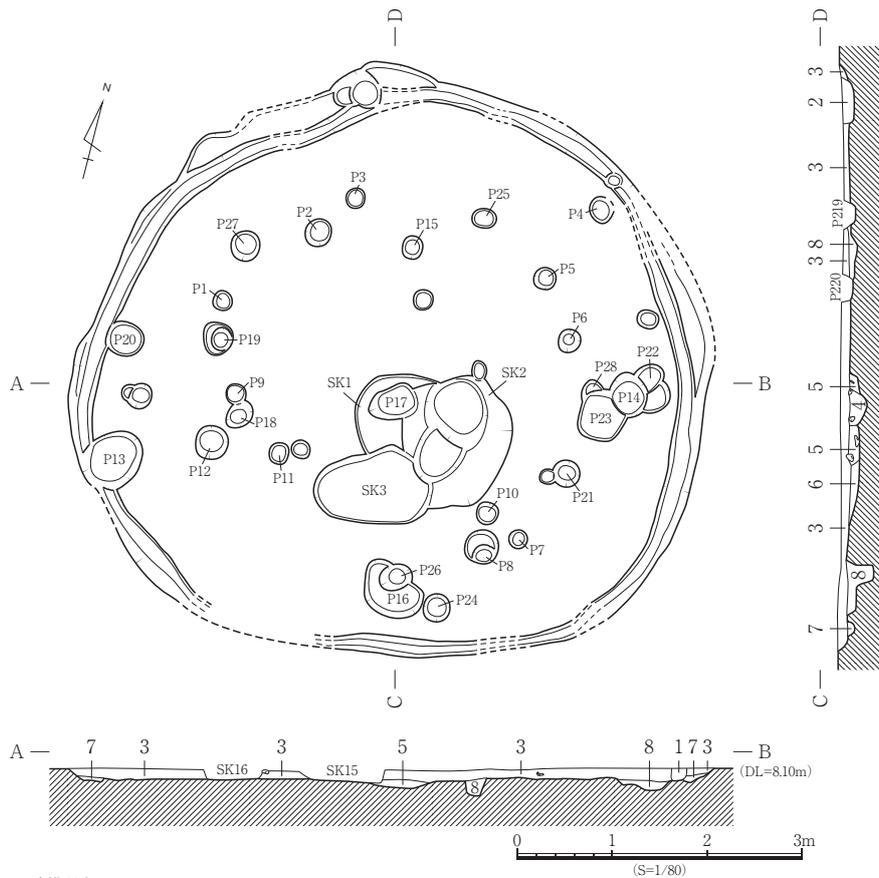


図265 7区 ST10 出土遺物実測図



遺構埋土

1. 黒褐色(10YR2/2) 細粒砂質シルトに暗褐色(10YR3/3) 細粒砂質シルトと黒褐色(10YR2/3) 細粒砂質シルトを少量含み0.5~3.0cm大の礫を含む(ピット)
2. 黒褐色(10YR2/2) 細粒砂質シルトに暗褐色(10YR3/3) 細粒砂質シルトと黒褐色(10YR2/3) 細粒砂質シルトを少量含み0.5~3.0cm大の礫を含む(P446)
3. 黒色(10YR2/1) 細粒砂質シルト・黒褐色(10YR3/1) 細粒砂質シルトに暗褐色(10YR3/3) 細粒砂質シルトブロックを含み0.5~4.0cm大の礫を含む(ST11)
4. 黒色(10YR2/1) 細粒砂質シルトに暗褐色(10YR3/3) 細粒砂質シルトブロックと黒褐色(10YR3/1) 細粒砂質シルトと炭化物を含む(ST11_P17)
5. 黒色(10YR2/1) 細粒砂質シルトに暗褐色(10YR3/3) 細粒砂質シルトブロックを多く含み黒褐色(10YR3/1) 細粒砂質シルトと炭化物を含む(ST11_SK1・2)
6. 黒色(10YR2/1) 細粒砂質シルトに暗褐色(10YR3/3) 細粒砂質シルトブロックと黒褐色(10YR3/1) 細粒砂質シルトを含む(ST11_SK3)
7. 黒褐色(10YR2/2) 細粒砂質シルトと暗褐色(10YR3/3) 細粒砂質シルト(ST11_壁溝)
8. 黒褐色(10YR2/2) 細粒砂質シルトに暗褐色(10YR3/3) 細粒砂質シルトと黒褐色(10YR2/3) 細粒砂質シルトを少量含み炭化物と0.5~3.0cm大の礫を含む(ST11_P16・26)

図266 7区 ST11 平面図・断面図

表2 7区ST11 支柱穴計測表

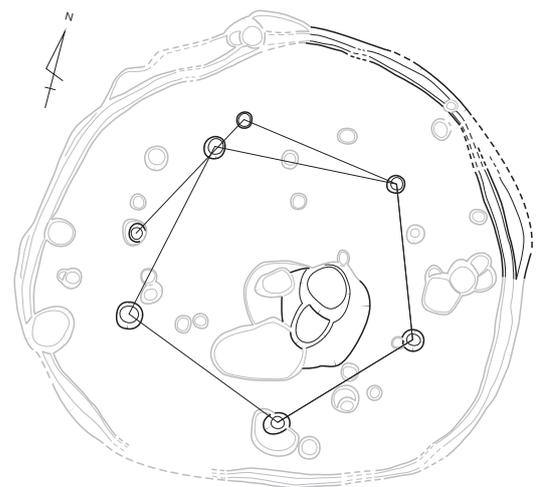
遺構番号	長径/直径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	埋土	遺構番号	長径/直径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	埋土
P1	20	-	11	黒褐色(10YR2/2) 細粒砂質シルト	P11	22	20	17	黒褐色(10YR2/2) 細粒砂質シルトに炭化物を含む
P2	30	27	52	黒褐色(10YR2/2) 細粒砂質シルトに炭化物を含む	P12	36	34	43	黒褐色(10YR2/2) 細粒砂質シルトに炭化物を含む
P3	22	20	5	黒褐色(10YR2/2) 細粒砂質シルト	P19	34	32	20	黒褐色(10YR2/2) 細粒砂質シルトに炭化物を含む
P5	23	-	31	黒褐色(10YR2/2) 細粒砂質シルトに炭化物を含む	P21	29	28	41	黒褐色(10YR2/2) 細粒砂質シルトに炭化物を含む
P6	25	23	18	黒褐色(10YR2/2) 細粒砂質シルト	P25	25	20	6	黒褐色(10YR2/2) 細粒砂質シルト
P7	20	-	10	黒褐色(10YR2/2) 細粒砂質シルト	P26	37	32	46	黒褐色(10YR2/2) 細粒砂質シルトに炭化物を含む
P8	20	-	12	黒褐色(10YR2/2) 細粒砂質シルトに炭化物を含む	P27	32	30	19	黒褐色(10YR2/2) 細粒砂質シルトに炭化物を含む
P10	24	-	12	黒褐色(10YR2/2) 細粒砂質シルトに炭化物を含む	P28	25	-	4	黒褐色(10YR2/2) 細粒砂質シルトに炭化物を含む

を施す。底部には回転ヘラ切り後、ナデ調整を施す。焼成不良である。混入品である。1036は鉢である。口縁部は肥厚させる。内外面とも回転ナデ調整を施す。混入品である。1037は甕である。口縁部外面には突帯および凹線をめぐらせる。内外面とも回転ナデ調整を施す。自然釉が付着する。混入品である。1038は結晶片岩製の石包丁の可能性はある。表面は自然面を大きく残す。一方、裏面は主要剥離面を大きく残す。打製石包丁の未成品か。

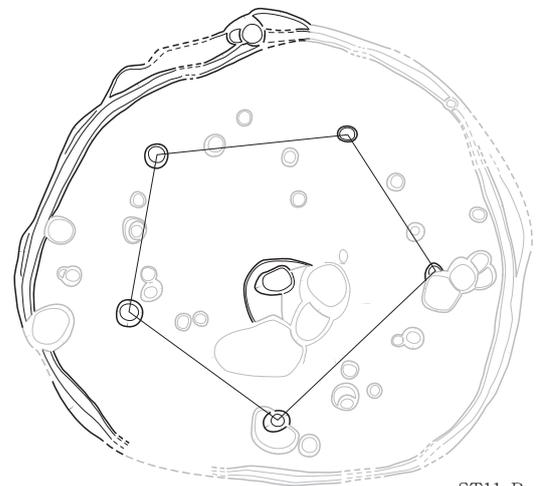
ST10

ST10は7-3区中央部で検出した。少なくとも2棟の竪穴建物跡が重複している。ST10_AとST10_Bに分けて記述する。ST10_Aは一辺約5.70mの隅丸方形を呈している。床面積は約32.4㎡と推測される。主軸方向はN-6°-Eである。検出面から床面までの深さは約20cmであり、埋土は黒色(10YR1.7/1)細粒砂質シルト他である。床面では支柱穴(ST10_P1~4)を検出した。支柱穴(ST10_P1)は北西部隅で検出した。直径約24cmの不整円形を呈し、床面からの深さは約24cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。支柱穴(ST10_P2)は南西部隅で検出した。直径約22cmの不整円形を呈し、床面からの深さは約38cmである。埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトである。支柱穴(ST10_P3)は南東部隅で検出した。直径約21cmの不整円形を呈し、床面からの深さは約47cmである。支柱穴(ST10_P4)は北東部隅で検出した。直径約30cmの不整円形を呈し、床面からの深さは約36cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトで炭化物を含む。

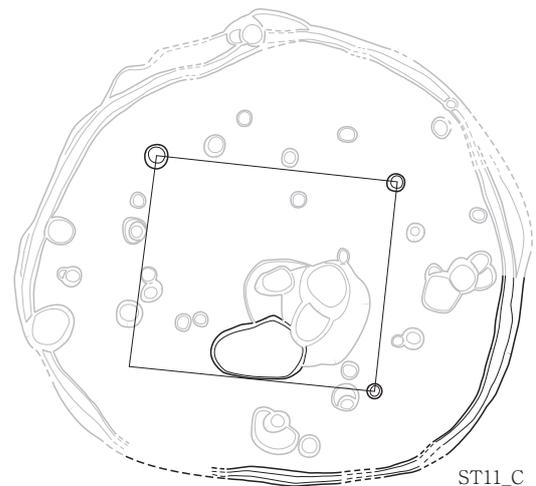
ST10_Bは一辺約4.80mの隅丸方形を呈している。床面積は約23.0㎡と推測される。主軸方向はN-31°-Eである。検出面から床面までの深さは約23cmであり、埋土は黒色(10YR1.7/1)細粒砂質シルト他である。床面では支柱穴(ST10_P7~10)、壁溝あるいは小溝が複数条巡ることから建て替えがあったものと推測される。支柱穴(ST10_P7)は南



ST11_A



ST11_B



ST11_C

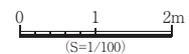


図267 7区 ST11 平面図

東部隅で検出した。長軸約30cm, 短軸約25cmの不整円形を呈し, 床面からの深さは約53cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトで炭化物を含む。主柱穴(ST10_P8)は北西部隅で検出した。直径約22cmの不整円形を呈し, 床面からの深さは約40cmである。埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトである。主柱穴(ST10_P9)は北東部隅で検出した。長軸約34cm, 短軸約30cmの不整円形を呈し, 床面からの深さは約36cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトで炭化物を含む。主柱穴(ST10_P10)は南西部隅で検出した。長軸約22cm, 短軸約19cmの不整円形を呈し, 床面からの深さは約35cmである。中央ピット(ST10_SK1)は床面のほぼ中央で検出した。長軸約1.40m, 短軸約1.20mの隅丸方形を呈し, 約7cmの深さで瓢箪型に掘り込みを検出した。床面から底面まで深さは約12cmである。埋土は黒色(10YR1.7/1)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物は, 弥生土器の壺(1039)・鉢(1040・1041)・底部(1042~1045), 鉄釘(1046)である。

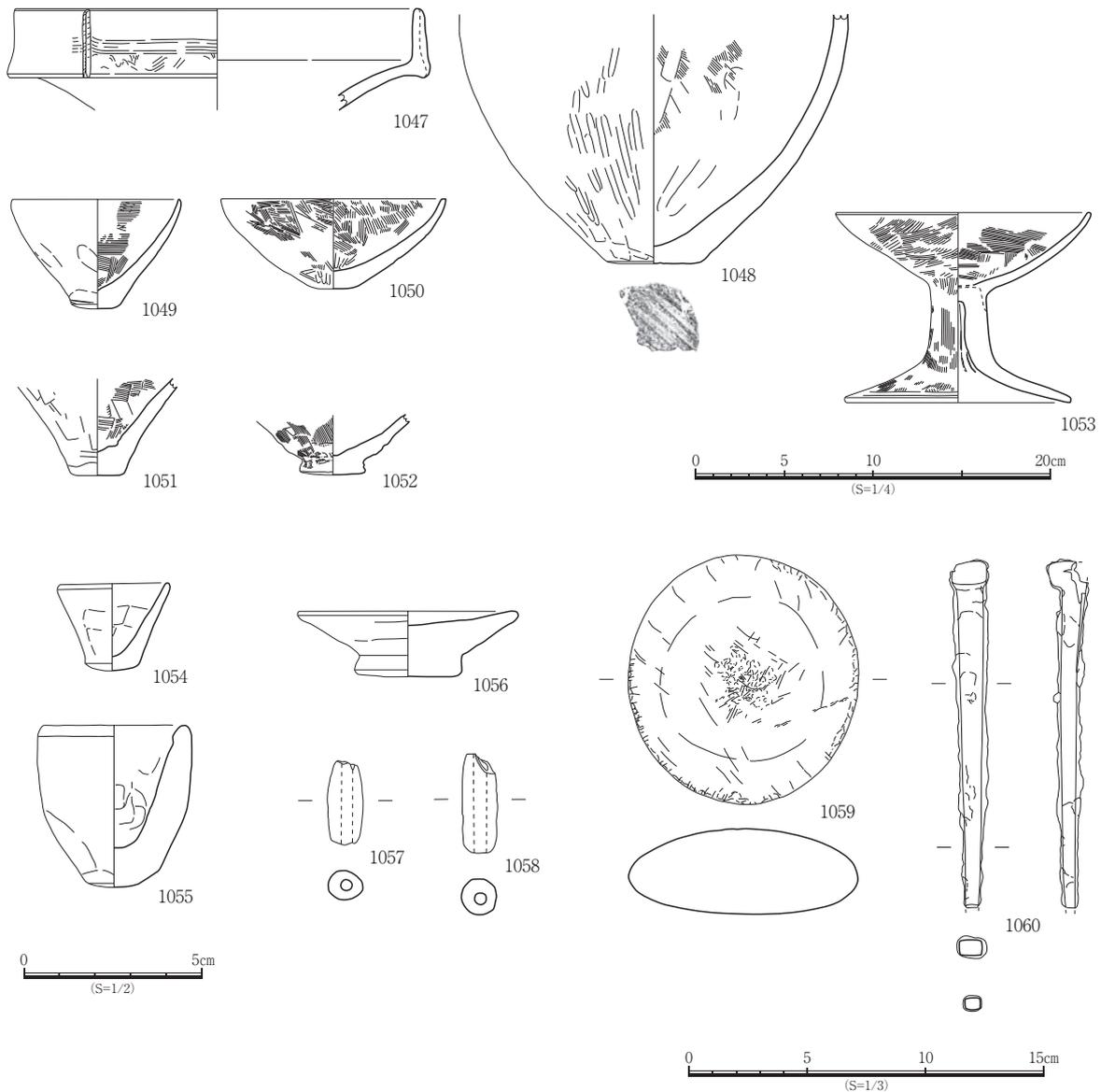
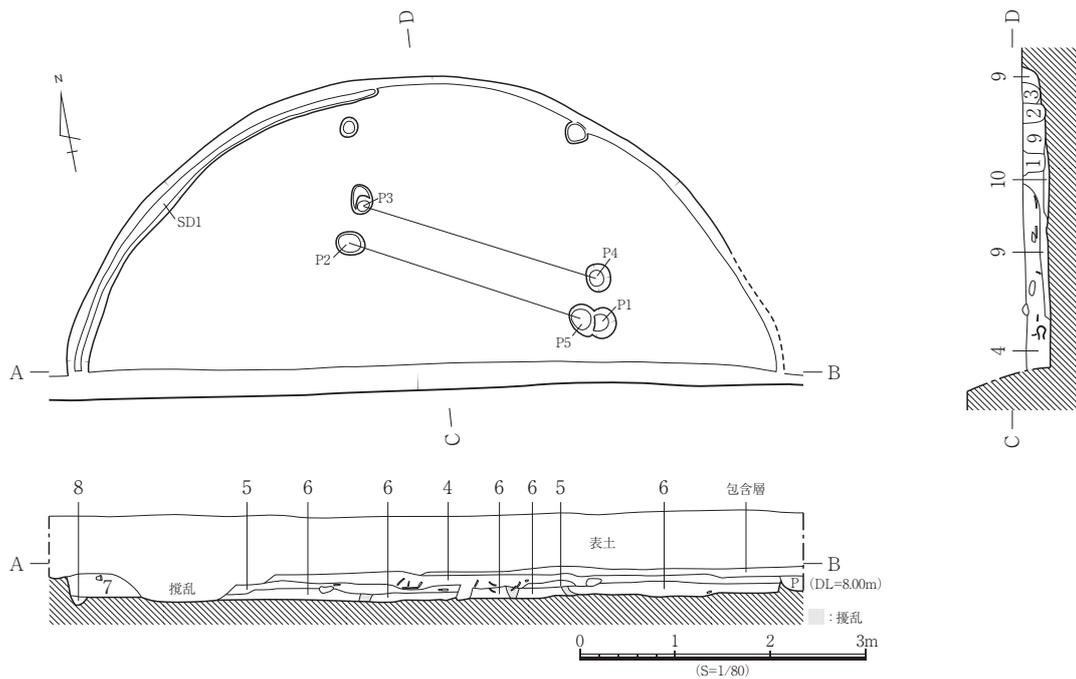


図268 7区 ST11 出土遺物実測図



遺構埋土

1. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに暗褐色 (10YR3/3) 細粒砂質シルトと黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトを少量含み0.5~3.0cm大の礫を含む(ピット)
2. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに暗褐色 (10YR3/3) 細粒砂質シルトと黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトを少量含み0.5~3.0cm大の礫を含む (P514)
3. 黒色 (10YR2/1) 細粒砂質シルトに0.5~3.0cm大の礫と炭化物を含む(ピット)
4. 黒色 (10YR2/1) 細粒砂質シルトに黒褐色 (10YR3/1) 細粒砂質シルトブロックと1.0~12.0cm大の礫を少量含む (ST12)
5. 黒色 (10YR1.7/1) 細粒砂質シルトに1.0~3.5cm大の礫を含む (ST12)
6. 黒色 (10YR2/1) 細粒砂質シルトと黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに褐色 (10YR4/4) 細粒砂質シルトブロックと1.0~7.0cm大の礫を含む (ST12)
7. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに0.5~3.0cm大の礫を多く含む (ST12)
8. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに褐色 (10YR4/4) 細粒砂質シルトを少量含み0.5~1.5cm大の礫を含む (ST12_SD1)
9. 暗褐色 (10YR3/3) 細粒砂質シルトに褐色 (10YR4/4) 砂質シルトブロックを少量含む (ST12)
10. 暗褐色 (10YR3/4) 細粒砂質シルトに暗褐色 (10YR3/3) 細粒砂質シルトを少量含む (ST12)

図269 7区 ST12 平面図・断面図

1039は壺である。内傾気味の頸部から口縁部は大きくひらく。口唇部には面取りを施し、摘み上げ、摘み出す。口縁部は内外面ともヨコナデ調整を施す。頸部外面はヨコナデ調整、内面はヨコハケ調整およびヘラナデ調整を施す。体部外面はハケ調整、内面はナデ調整である。シャープなつくりである。1040は外反口縁の鉢である。口縁部はヨコナデ調整で仕上げる。体部外面は丁寧なナデ調整、内面は粗いハケ調整を施す。底部は直立部を持った平底で、外底面にはナデ調整を施す。キレツが認められる。1041は鉢である。体部外面は縦方向のヘラミガキ調整、内面はヨコハケ調整後、縦方向のヘラミガキ調整を施す。底部はやや大きめの平底で、外底面にはナデ調整を施す。1042は壺の底部である。丸みを持った平底を呈し、外底面にはハケ調整およびナデ調整を施す。体部外面はハケ調整後ヘラミガキ調整、内面はヘラミガキ調整である。1043は鉢の底部である。指頭により短い脚を作出する。体部外面には叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はハケ調整である。1044は底部である。僅かに上げ底となり、外底面には(ヘラ)ナデ調整を施す。体部外面には叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はナデ調整である。1045は底部である。平底で外底面にはハケ調整を施す。体部外面はハケ調整か。内面はハケ調整である。1046は鉄釘である。頭部は欠損する。体部の断面形は方形状を呈する。混入品か。

ST11

ST11は7-3区中央部で検出した豎穴建物跡である。ST16を切る(切られる)。平面形・中央ピット・

壁溝・支柱穴から3棟の竪穴建物跡が重複していると考えられる。支柱穴の可能性のあるピットについては表に規模等を記した。ST11_Aは、平面形が直径約6.40mの円形の竪穴建物跡である。床面積は約32.1㎡と推測される。検出面から床面までの深さは約5cmであり、埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト他である。中央ピット(ST11_SK2)は長軸約1.35m、短軸約1.13mの不整隅丸方形を呈する。床面からの深さは約20cmであり、埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト他である。幅約20cmの壁溝が巡る。床面からの深さは1~2cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト他である。支柱穴(ST11_P2・5・12・21・26,あるいはST11_P3・5・19)と考えられる。

ST11_Bは一辺約3.36mの六角形の竪穴建物跡である。床面積は約29.3㎡と推測される。主軸方向



図270 7区 ST12 出土遺物実測図_1

はN-7° -Eである。検出面から床面までの深さは約11cmであり、埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト他である。中央ピット(ST11_SK1)は長軸約1.20m、短軸約1.06mの不整円形を呈する。床面からの深さは約13cmであり、埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト他である。幅約20cmの壁溝が巡る。床面からの深さは1~4cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト他である。支柱穴(ST11_P12・25~28)と考えられる。

ST11_Cは平面形が隅丸方形の竪穴建物跡と推測されるものの、規模等は不明である。主軸方向はN-7° -Wである。検出面から床面までの深さは約12cmであり、埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト他である。中央ピット(ST11_SK3)は長軸約1.24m、短軸約0.74mの楕円形を呈する。床面からの深さは約6cmであり、埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト他である。幅約20cmの壁溝が巡る。床面からの深さは3~12cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト他である。支柱穴(ST11_P5・7・27)と考えられる。

図示した出土遺物は、弥生土器の壺(1047・1048)・鉢(1049~1052)・高杯(1053)、ミニチュア土器(1054・1055)、土師質土器の柱状高台(1056)、土錘(1057・1058)、叩石(1059)、鉄釘(1060)である。

1047は弥生土器の複合口縁壺である。内傾気味に二次口縁部を付加する。外面には両側面に短沈線を充填した断面形が三角形の棒状浮文を貼り付ける。剥離痕跡がみられることから2本1対であった可能性がある。また、5条1単位

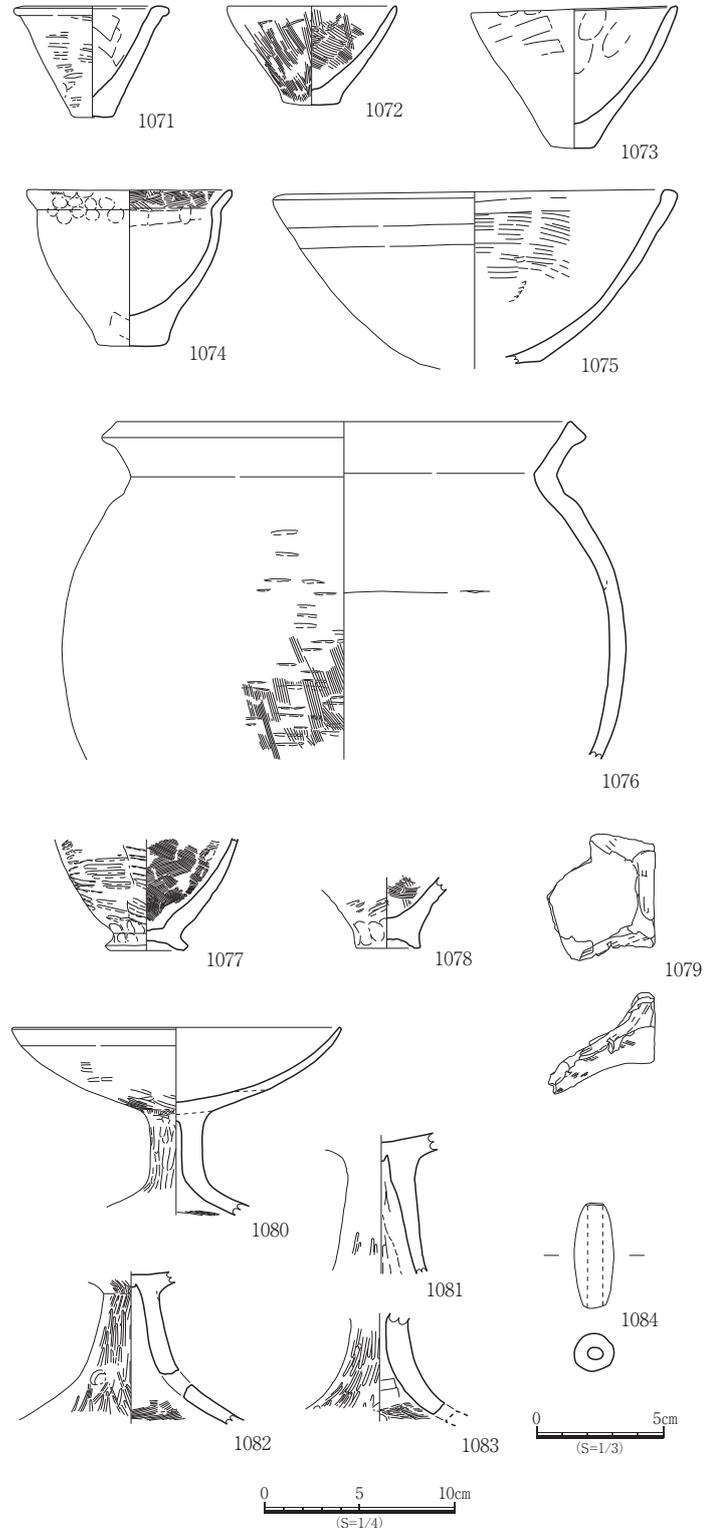


図271 7区 ST12 出土遺物実測図_2

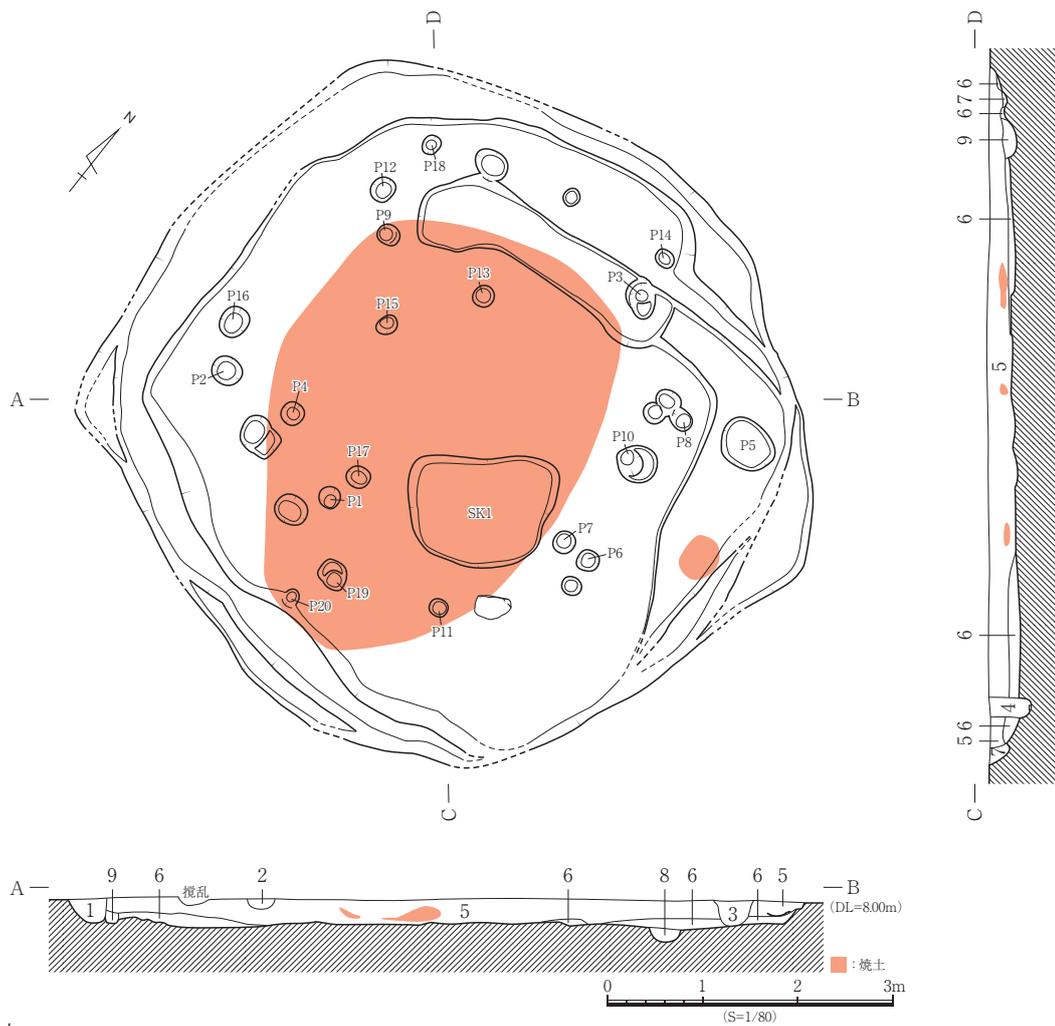
の櫛描直線文および3～4条1単位の櫛描波状文を施す。摩耗のため調整等は不明である。1048は壺の底部である。平底で、外底面は叩き調整後、ナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後ハケ調整およびヘラミガキ調整を施す。内面はハケ調整およびナデ調整を施す。1049は鉢である。口唇部は尖らせる。体部外面はナデ調整、内面は全面ハケ調整である。外面の一次調整は叩き調整の可能性がある。底部は丸みを帯び、外底面にはナデ調整を施す。1050は浅い鉢である。口唇部にはルーズな面取りを施す。体部は内外面ともハケ調整後、ヘラミガキ調整を施す。底部は角の取れた平底で、外底面には一部がミガキ状を呈するナデ調整を施す。キレツが認められる。1051は鉢の底部である。底部は平底で外底面にはナデ調整を施す。体部は内外面ともヘラナデ調整を施す。内底面は未調整である。1052は鉢の底部である。底部は円盤状に突出した平底を呈し、外底面にはナデ調整を施す。体部外面はハケ調整、内面はナデ調整を施す。1053は高杯である。杯部は浅鉢状を呈する。外面はハケ調整、内面はハケ調整後、ヘラミガキ調整を疎らに施す。円筒形状の脚部から裾部は大きくひらく。脚柱部外面はタテハケ調整を施し、ミガキ状を呈する。内面にはしぼり目が認められる。裾部外面はハケ調整、内面はナデ調整である。1054はミニチュア土器であり、鉢形土器をモデルとする。体部は直線状に立ち上がり、口唇部は丸くおさめる。底部は丸みを帯びる。内外面ともナデ調整で仕上げる。ほぼ完存する。1055はミニチュア土器であり、鉢形土器をモデルとする。手捏ね成形である。1056は柱状高台である。杯皿部は浅く外方へひらく。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には篲状圧痕が認められる。混入品である。1057は管状土錘である。円筒形で、断面形は扁円形を呈する。ほぼ完存する。混入品か。1058は管状土錘である。円筒形で、断面形は円形を呈する。両端部は欠損する。混入品か。1059は砂岩製の叩石である。扁平な円礫を使用する。両面の中央部および周縁部に敲打痕跡が認められる。完存する。1060は鉄釘である。頭部は逆「L」の字形を呈する。体部の断面形は長方形を呈する。先端部は欠損する。混入品である。

ST12

ST12は7-3区南東部で検出した竪穴建物跡である。調査区外へひろがる。平面形は直径約7.60mの円形を呈する。床面積は約45.3㎡と推測される。検出面から床面までの深さは約21cmであり、埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト他である。床面では壁溝(ST12_SD1)、支柱穴(ST12_P2～5)を検出した。壁溝(ST12_SD1)は西部で検出した。幅20～28cm、床面からの深さは1～5cmである。検出長は約4.68mである。支柱穴はST12_P3とST12_P4、ST12_P2とST12_P5の組み合わせがあり、建て替えがあった可能性がある。支柱穴(ST12_P3)は長軸約32cm、短軸約22cmの不整楕円形を呈し、床面からの深さは約22cmである。支柱穴(ST12_P4)は長軸約30cm、短軸約25cmの不整円形を呈し、床面からの深さは約15cmである。支柱穴(ST12_P2)は長軸約30cm、短軸約24cmの不整円形を呈し、床面からの深さは約54cmである。支柱穴(ST12_P5)は長軸約36cm、短軸約28cmの不整円形を呈し、床面からの深さは約46cmである。

図示した出土遺物は、弥生土器の壺(1061・1062)・甕(1063～1070)・鉢(1071～1078)・把手付広片口皿(1079)・高杯(1080～1083)、土錘(1084)である。

1061は壺である。頸部は直立し、内外面ともナデ調整を施す。体部外面はヘラナデ調整、内面はナデ調整である。1062は壺である。底部は僅かに上げ底状となり、外底面にはナデ調整を施す。体部外面はヘラナデ調整、内面はハケ調整およびナデ調整である。内面は剥離する。1063は凹線文系の甕で



遺構埋土

1. 黒褐色(10YR2/2) 細粒砂質シルトに暗褐色(10YR3/3) 細粒砂質シルトと黒褐色(10YR2/3) 細粒砂質シルトを少量含み0.5~3.0cm大の礫を含む (P559)
2. 黒褐色(10YR2/2) 細粒砂質シルトに暗褐色(10YR3/3) 細粒砂質シルトと黒褐色(10YR2/3) 細粒砂質シルトを少量含み0.5~3.0cm大の礫を含む (SD1)
3. 黒褐色(10YR2/2) 細粒砂質シルトに暗褐色(10YR3/3) 細粒砂質シルトと黒褐色(10YR2/3) 細粒砂質シルトを少量含み0.5~3.0cm大の礫を含む (P558)
4. 黒褐色(10YR2/2) 細粒砂質シルトに暗褐色(10YR3/3) 細粒砂質シルトと黒褐色(10YR2/3) 細粒砂質シルトを少量含み0.5~3.0cm大の礫を含む (P557)
5. 黒褐色(10YR2/2) 細粒砂質シルトに褐灰色(10YR4/1) シルトを少量と明赤褐色(5YR5/8) 細粒砂質シルト(焼土) ブロックを含み炭化物を多く含む (ST13)
6. 黒褐色(10YR2/2) 細粒砂質シルト・黒褐色(10YR3/2) 細粒砂質シルトににぶい黄褐色(10YR5/4) 砂質シルトブロックを少量含み0.5~4.5cm大の礫を含む (ST13)
7. 暗褐色(10YR3/4) 細粒砂質シルトに黒色(10YR2/1) 細粒砂質シルトと黒褐色(10YR2/2) 細粒砂質シルトを少量含む (ST13_壁溝)
8. 黒褐色(10YR2/2) 細粒砂質シルト (ST13_ピット)
9. 黒色(10YR1.7/1) 細粒砂質シルト・黒褐色(10YR2/2) 細粒砂質シルト・黒褐色(10YR2/3) 細粒砂質シルト (ST13_ピット)

図272 7区 ST13 平面図・断面図

表3 7区ST13 主柱穴計測表

遺構番号	長径/短径直径 (cm)	長さ (cm)	埋土	遺構番号	長径/短径直径 (cm)	長さ (cm)	埋土		
P2	32	29	26	黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト	P13	23	-	41	-
P3	33	-	34	-	P14	20	17	8	黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト
P4	24	-	40	-	P15	23	19	8	-
P8	25	20	48	黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト	P16	30	28	7	黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト
P9	24	21	34	黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト	P17	24	-	6	黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト
P10	30	25	36	黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに炭化物を含む	P18	21	18	5	黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト
P11	19	-	33	黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト	P19	20	-	32	黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに炭化物を含む
P12	27	24	37	黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト	P20	19	16	7	黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト

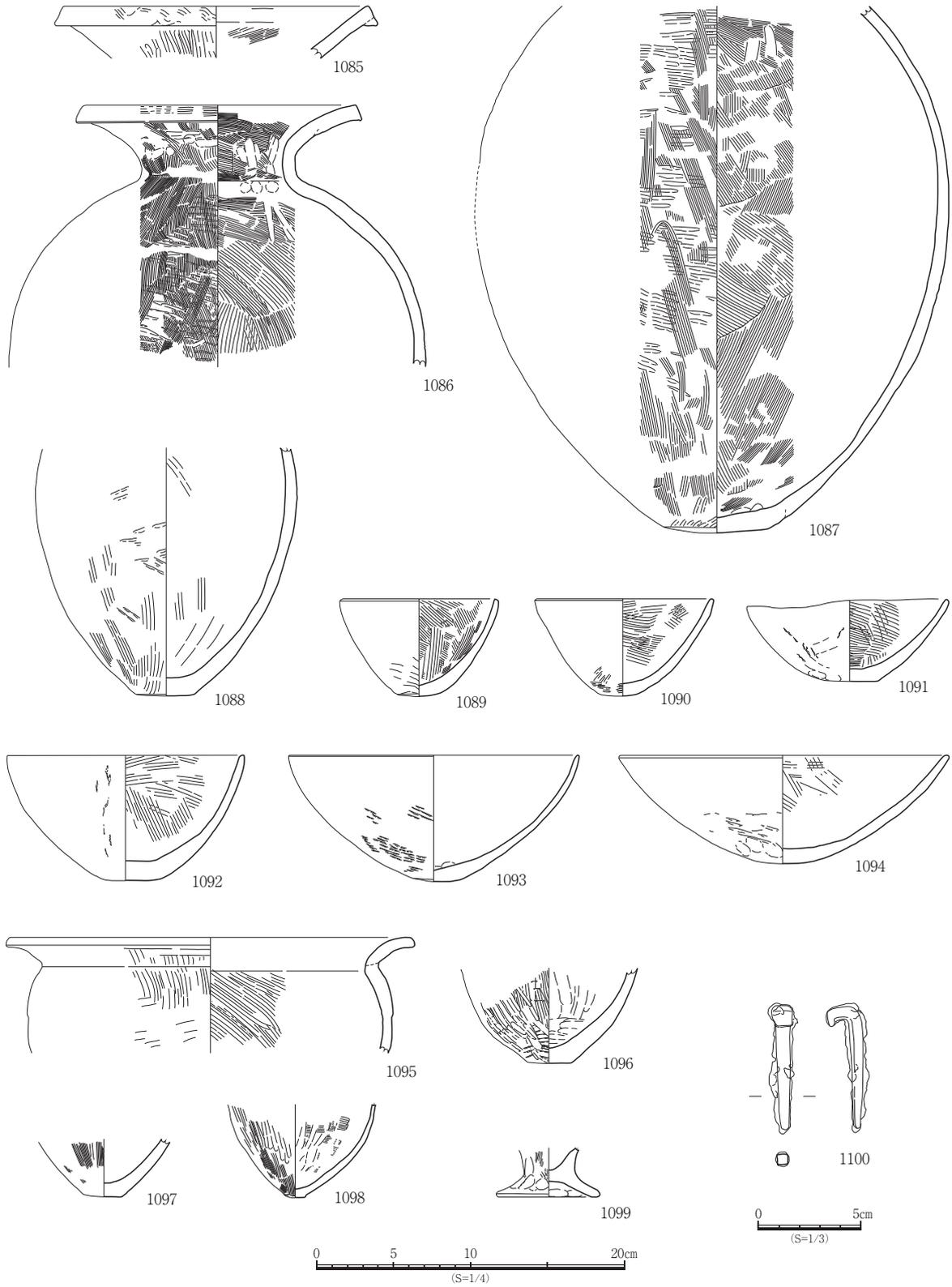
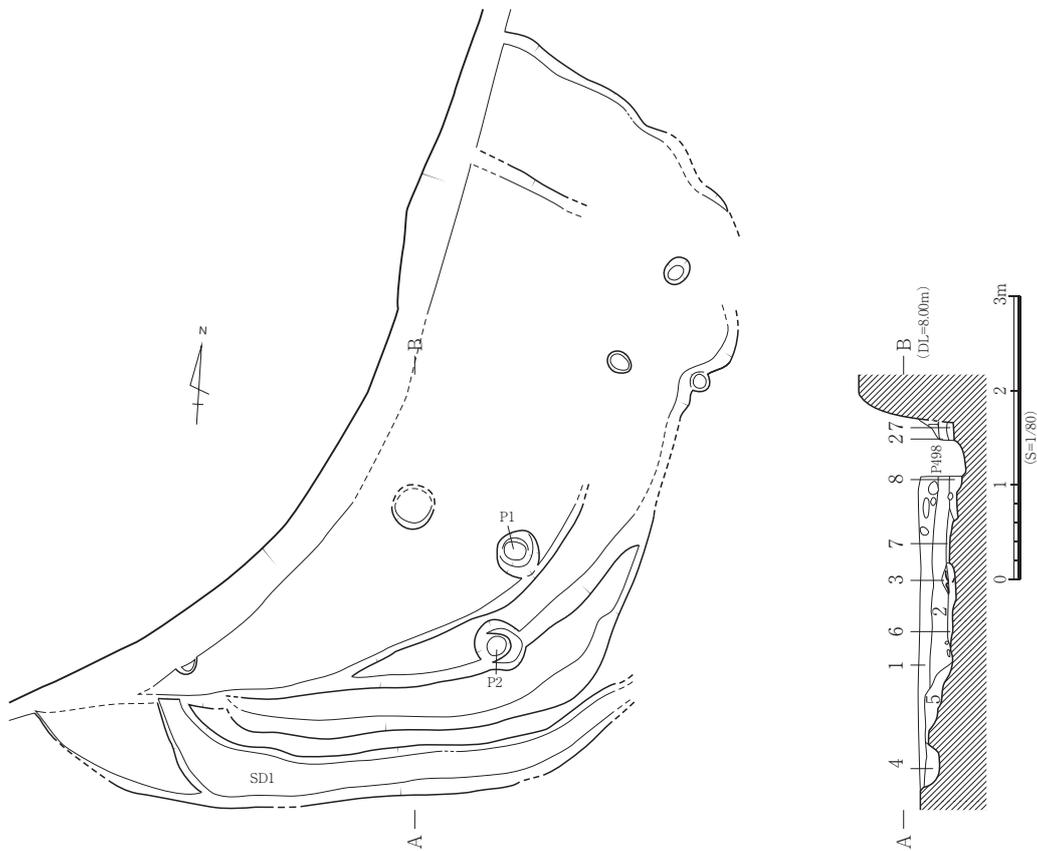


图273 7区 ST13 出土遺物実測図

ある。口縁部は「く」の字状を呈し、内外面ともヨコナデ調整を施す。口縁端部を上方へ拡張し、2条の凹線文を施す。体部外面はタテハケ調整、内面はヘラケズリ調整か。肩部外面には竹管文を4つ上下に配置する。1064は凹線文系の甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、内外面ともヨコナデ調整で仕上げる。口縁端部を上方へ拡張する。体部外面はハケ調整後、ヘラミガキ調整を施す。内面は肩部にはハケ調整、下半部にはヘラケズリ調整を施す。肩部外面には上下に4つ配置した刺突文を2列配置する。1065は凹線文系の甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、内外面ともヨコナデ調整を施す。口縁端部を上方へ拡張し、2条の凹線文を施す。体部外面はタテハケ調整後、下半部にヘラミガキ調整を施す。内面は上半部にはハケ調整およびナデ調整、下半部にはヘラケズリ調整を施す。1066は凹線文系の甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、内外面ともヨコナデ調整で仕上げ、口唇部は凹面状を呈する。体部外面はタテハケ調整後、下半部にヘラミガキ調整か。内面は上半部にはナデ調整を施し指頭圧痕がみられる。下半部にはヘラケズリ調整を施す。1067は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部には面取りを施す。口縁部は内外面ともナデ調整である。体部は内外面ともヘラナデ調整を施し、ハケメがみられる。1068は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部にはハケ状原体による面取りを施す。口縁部外面は叩き調整後タテハケ調整を施し、内面にはヨコハケ調整を施す。体部外面には叩き調整後、タテハケ調整を施す。内面は肩部にはハケ調整を施し、肩部以下にはヘラケズリ調整を施す。1069は甕である。口縁部は「く」の字状を呈する。口縁部外面は叩き調整後、ヨコナデ調整を施す。内面はヨコハケ調整である。体部外面には叩き調整後、タテハケ調整を施す。内面にはハケ調整を施す。肩部内面には指頭圧痕がみられる。1070は甕である。底部は平底で、外底面にはナデ調整を施すものの凹凸が認められる。体部外面には叩き調整後、ナデ調整を施す。また、縦方向の粗い調整痕跡が認められる。内面は横方向のヘラケズリ調整を施す。内底面は強いナデ調整により凹凸が激しい。

1071は鉢である。体部は直線的に外上方へのびる。口縁部は水平に折れる。体部外面には叩き調整後ナデ調整を施し、内面にはナデ調整を施す。底部は丸みを帯びた平底で、外底面にはナデ調整を施す。1072は鉢である。体部は直線的に外上方へのびる。体部外面にはナデ調整およびタテハケ調整、内面にはハケ調整を施す。底部は平底で、外底面にはナデ調整を施す。ほぼ完存である。1073は鉢である。体部外面にはナデ調整を丁寧に施す。一次調整は叩き調整か。内面はナデ調整である。底部は丸みを帯び、外底面にはナデ調整を施す。1074は外反口縁の鉢である。口縁部外面はナデ調整、内面はヨコハケ調整である。体部は内外面ともナデ調整を施す。底部は厚い平底で、外底面にはナデ調整を施す。1075は鉢である。口唇部はハケ状原体による面取りを施す。体部外面は上半部にヨコナデ調整、下半部は横方向のヘラケズリ調整を施す。内面は上半部に粗いヨコハケ調整、下半部に横方向のヘラケズリ調整を施す。底部は平底で、外底面はヘラケズリ調整か。器形および調整とも珍しい。1076は外反口縁の大型鉢である。口唇部には面取りを施し、凹面状を呈する。口縁部は内外面ともヨコナデ調整である。体部外面には叩き調整後、上半部にはナデ調整を施し、下半部にはタテハケ調整を施す。内面はナデ調整か。内面には接合痕跡が認められる。1077は鉢である。指頭により短い脚を作出する。外底面にはナデ調整を施す。体部外面には叩き調整後ナデ調整を施し、内面にはハケ調整を施す。製塩土器か。1078は鉢である。指頭により短い脚を作出する。外底面にはナデ調整を施す。体部外面には叩き調整後ナデ調整を施し、内面にはハケ調整を施す。製塩土器か。1079は把手付広片口皿である。側辺等をヘラ状工具によりカットする。側面はヘラケズリ調整後、ハケ調整を施す。内

面はナデ調整である。赤色顔料の付着は認められない。1080は高杯である。杯部は浅鉢状を呈し、外面はハケ調整後、ヘラミガキ調整を施す。内面は荒れている。ヘラミガキ調整か。脚部は円柱状を呈する。竹管を差し込み、中空とするか。外面は縦方向のヘラミガキ調整を密に施す。裾部外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整およびハケ調整である。1081は高杯である。脚部は中空で円筒形状を呈する。杯部内面はヘラミガキ調整を施す。脚部外面はヘラミガキ調整を施し、内面にはしぼり目がみられる。1082は高杯である。杯部内面はヘラミガキ調整である。脚部は中空で直線的に僅かにひろがる。外面は縦方向のヘラミガキ調整、内面は横方向のヘラナデ調整である。裾部は「ハ」の字形にひろがる。外面はヘラミガキ調整、内面はヨコハケ調整である。裾部と脚柱部の境に直径約0.9cmの円孔を穿つ。1083は高杯である。脚部は中空で直線的に僅かにひろがる。外面は縦方向のヘラミガキ調整、内面はしぼり目がみられ、横方向のヘラナデ調整を施す。裾部外面はヘラミガキ調整、内面はヨコハ



遺構埋土

1. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに褐色 (10YR4/4) 細粒砂質シルトを少量含み1.0~20.0cm大の礫を含む
2. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに褐色 (10YR4/4) 細粒砂質シルトを多く含み炭化物と1.0~10.0cm大の礫を少量含む
3. 黒色 (10YR2/1) 細粒砂質シルトに炭化物を含む
4. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに暗褐色 (10YR3/3) 細粒砂質シルトを少量含む (ST14_SD1)
5. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに暗褐色 (10YR3/3) 細粒砂質シルトを少量と褐色 (10YR4/4) 細粒砂質シルトブロックを含み炭化物を少量含む
6. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルト・褐色 (10YR4/4) 細粒砂質シルト・黒色 (10YR1.7/1) 細粒砂質シルト
7. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルト・黒色 (10YR2/1) 細粒砂質シルトに黒色 (10YR1.7/1) 粘土質シルトを少量含む
8. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに褐色 (10YR4/4) 細粒砂質シルトを少量含み黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトブロックと黒色 (10YR1.7/1) 細粒砂質シルトブロックを含む

図274 7区 ST14 平面図・断面図



図275 7区 ST14 出土遺物実測図

ケ調整である。裾部に円孔を6～8ヶ所穿つ。1084は管状土錘である。僅かに紡錘形を呈する。断面形は楕円形を呈する。ほぼ完存である。

ST13

ST13は7-3区西部で検出した竪穴建物跡である。複数の竪穴建物跡が重複しているものの、個々の形状・規模および新旧関係を明らかにできなかった。一辺約6.00mの隅丸方形のものが2棟か、あるいは多角形のものも重複するか。主軸方向はN-2°-W他である。検出面から床面までの深さは4～28cmであり、埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト他である。床面では中央ピット(ST13_SK1)、支柱穴(ST13_P2～4・8～20)を検出した。中央ピット(ST13_SK1)は長軸約1.54m、短軸約1.08mの不整隅丸長方形を呈し、床面からの深さは約5cmである。支柱穴の可能性のあるピットについては表に規模等を記した。

図示した出土遺物は、弥生土器の壺(1085～1087)・甕(1088)・鉢(1089～1098)・脚部(1099)、鉄釘(1100)である。

1085は壺である。口唇部に粘土紐を貼付し、外面に櫛描波状文を施す。摩耗のため、条数は不明である。口縁部外面にはタテハケ調整を施し、ミガキ状を呈する部分がある。内面はヨコハケ調整であ

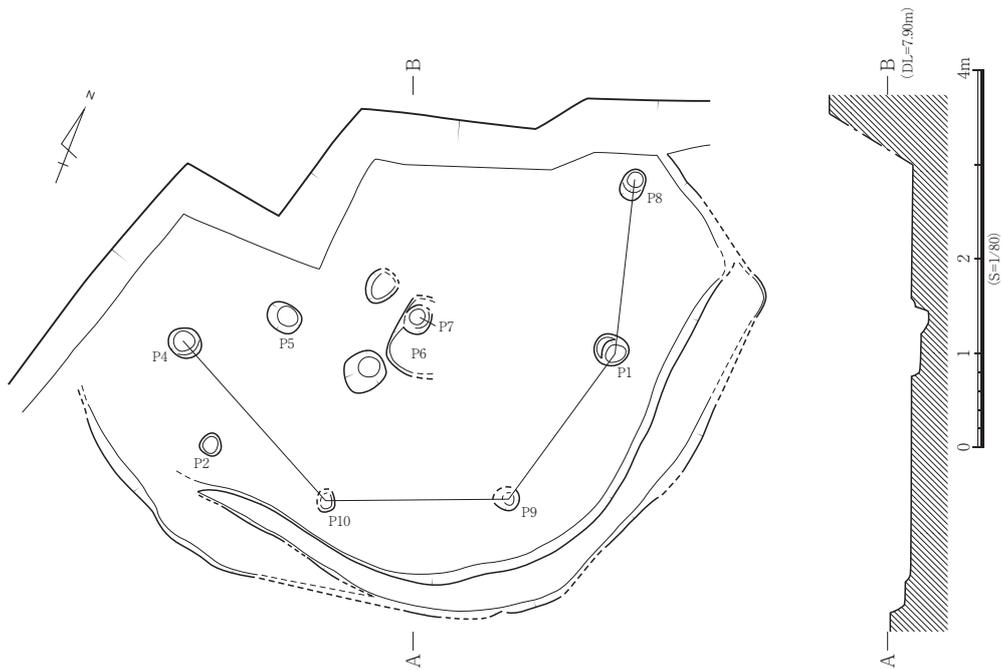


図276 7区 ST15 平面図・エレベーション図

表4 7区ST15 支柱穴計測表

遺構番号	長径 / 直径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	埋土
P8	34	24	41	黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトに炭化物を含む
P9	26	-	26	黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト
P10	(20)	18	18	-
P1	37	32	40	黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト
P4	33	-	43	-
P5	37	30	15	-

る。1086は壺である。口縁部は大きく外反させ、口唇部はハケ状原体による面取りを施す。口縁部外面はタテハケ調整、内面はヨコハケ調整である。体部外面には叩き調整後、タテハケ調整を密に施し、内面にはハケ調整を施す。口縁部外面には接合痕跡が認められる。1087は壺である。底部は角の取れた平底で、外底面にはナデ調整を施す。体部外面には叩き調整後、タテハケ調整を施す。内面にはハケ調整を施し、内底面には指頭圧痕が認められる。1088は甕である。底部は角の取れた平底で、外底面にはナデ調整を施す。体部外面には叩き調整後、タテハケ調整を施す。内面は上半部にはハケ調整を施し、下半部にはナデ調整を施す。

1089は鉢である。底部は強いナデ調整によりほぼ丸底とする。体部外面には叩き調整後、ナデ調整を施し、内面にはハケ調整を施す。キレツが認められる。1090は鉢である。底部はほぼ丸底を呈し、外底面にはナデ調整を施す。体部外面には叩き調整後、ナデ調整を施す。内面にはハケ調整を施し、内底面にはナデ調整を施す。キレツが認められる。1091は鉢である。底部はほぼ丸底を呈し、外底面にはナデ調整を施す。体部外面はナデ調整、内面はハケ調整である。1092は半球形を呈する鉢である。底部は角の取れた平底で、外底面にはナデ調整を施す。体部外面にはナデ調整を施す。内面には粗いハケ調整を施し、内底面にはナデ調整を施す。歪む。1093は鉢である。底部はほぼ丸底である。体部外面には叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はハケ調整およびナデ調整か。1094は浅い鉢である。丸底で外底面にはナデ調整を施す。体部外面には叩き調整後ナデ調整を施す。内面は上半部には粗いハケ調整、下半部にはナデ調整を施す。1095は外反口縁の鉢である。口唇部には面取りを施す。口縁端部はヨコナデ調整で仕上げる。外面は粗いタテハケ調整、内面はヨコハケ調整である。体部外面には叩き調整後ナデ調整を施し、内面にはハケ調整を施す。1096は鉢の底部か。平底で、外底面は叩き調整後ナデ調整を施すか。体部外面には叩き調整後、ハケ調整およびヘラミガキ調整を施す。内面はナデ調整である。1097は鉢の底部である。平底で外底面にはナデ調整を施す。体部外面はタテハケ調整、内面はナデ調整である。1098は鉢である。ボタン状の小径な平底で、外底面にはナデ調整を施す。体部外面にはタテハケ調整後、縦方向のヘラミガキ調整を施す。内面はヨコハケ調整およびナデ調整を施す。丁寧な仕上げである。1099は脚部である。指頭により脚部を作出する。底部は上げ底で、外底

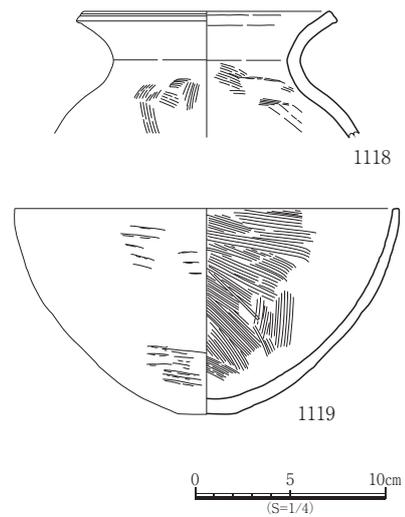


図277 7区 ST15 出土遺物実測図_1

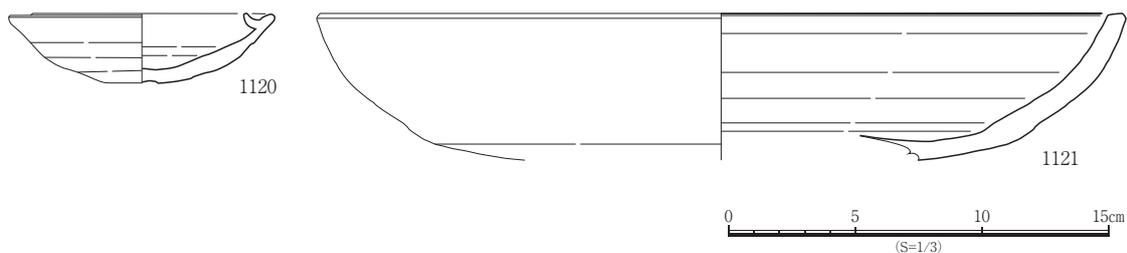


図278 7区 ST15 出土遺物実測図_2

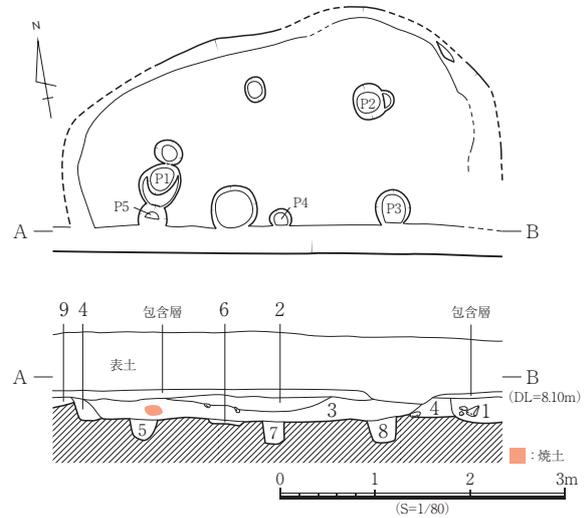
面にはナデ調整を施す。外面はタテハケ調整、内面はナデ調整である。製塩土器か。1100 は鉄釘である。頭部は逆「L」の字形を呈する。体部の断面形は方形を呈する。

ST14

ST14 は 7-3 区と 7-4 区にまたがり検出した竪穴建物跡である。調査区外へひろがる。攪乱等に切られる。7-4 区の攪乱は床面まで達していた。平面形・規模等は不明瞭であるものの、一辺約 5.00m の六角形を呈すると考えられ、床面積は約 64.9m²と推測される。主軸方向は N-5° -W である。検出面から床面までの深さは約 36cm であり、埋土は黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルト他である。床面では壁溝 (ST14_SD1)、支柱穴 (ST14_P1・2) を検出した。また、南辺には 3 段のテラスがみられた。一方、北辺にはベッド状遺構がみられた。壁溝 (ST14_SD1) は南辺で検出した。幅約 50cm、テラスからの深さは 2~10cm である。埋土は黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトである。支柱穴 (ST14_P1) は長軸約 49cm、短軸約 45cm の不整形円形を呈し、床面からの深さは約 38cm である。埋土は黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトである。支柱穴 (ST14_P2) は長軸約 55cm、短軸約 50cm の不整形円形を呈し、床面からの深さは約 45cm である。埋土は黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに炭化物を含む。

図示した出土遺物は、弥生土器の壺 (1101・1102)・甕 (1103~1107)・鉢 (1108~1116)、製塩土器 (1117) である。

1101 は複合口縁壺である。口縁端部に粘土帯を付加し、口唇部にはハケ状原体による面取りを施す。外面には 2 条 1 単位の波状文を施す。二次口縁部は内外面ともヨコナデ調整で仕上げる。一次口縁部外面は叩き調整後、タテハケ調整を密に施す。内面は横方向のヘラミガキ調整である。1102 は壺である。口唇部には面取りを施し、凹面状を呈する。5 条 1 単位の櫛描波状文と 3~4 条 1 単位の櫛描波状文を上下に配置する。外面にはヨコハケ調整を施し、内面にはヨコナデ調整後、縦方向のヘラミガキ調整を施す。1103 は甕である。底部はほぼ丸底で外底面にはナデ調整を施す。体部外面には叩き調整後、タテハケ調整を施す。内面にはハケ調整を施し、内底面付近にはナデ調整を施す。1104 は甕である。口縁部は緩やかな「く」の字状を呈する。口縁部外面には叩き調整後、ハケ調整を施す。内面にはハケ調整を施す。体部外面には叩き調整後タテハケ調整を施し、内面にはハケ調整後ナデ調整を施す。底部は角の取れた平底で、外底面にはナデ調整を施す。1105 は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部にはハケ状原体による面取りを施す。口縁部外面には叩き調整後タテ



- 遺構埋土
1. 黒色 (10YR2/1) 細粒砂質シルトに 1.0~15.0cm 大の礫と炭化物を含む (P388)
 2. 黒色 (10YR1.7/1) 細粒砂質シルトに 1.0~5.0cm 大の礫を少量含む (ST16)
 3. 黒色 (10YR1.7/1) 細粒砂質シルト・黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに焼土を少量含み 0.5~7.0cm 大の礫を含む (ST16)
 4. 黒色 (10YR2/1) 細粒砂質シルトに黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトブロックを少量含み 0.5~3.0cm 大の礫を含む (ST16)
 5. 黒色 (10YR2/1) 細粒砂質シルトに 0.5~3.0cm 大の礫を含む (ST16_P5)
 6. 黒色 (10YR2/1) 細粒砂質シルトに 0.5~3.0cm 大の礫を含む (ST16_ピット)
 7. 黒色 (10YR2/1) 細粒砂質シルトに 0.5~3.0cm 大の礫を含む (ST16_P4)
 8. 黒色 (10YR2/1) 細粒砂質シルトに 0.5~3.0cm 大の礫を含む (ST16_P3)
 9. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに暗褐色 (10YR3/3) 細粒砂質シルトと黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトを少量含み 0.5~3.0cm 大の礫を含む (ピット)

図 279 7 区 ST16 平面図・断面図

ハケ調整を施し、内面にはハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後、タテハケ調整を下半部に疎らに施す。内面は上半部にはハケ調整、下半部にはナデ調整を施す。1106は甕である。口縁部は緩やかな「く」の字状を呈する。口唇部には刻目を施す。丸みを持った工具によるか。口縁部外面は叩き調整後、斜め方向のハケ調整を密に施す。内面にはヨコハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後、下半部にはタテハケ調整を疎らに施す。内面にはハケ調整を施し、肩部には指頭圧痕がみられる。1107は甕であ

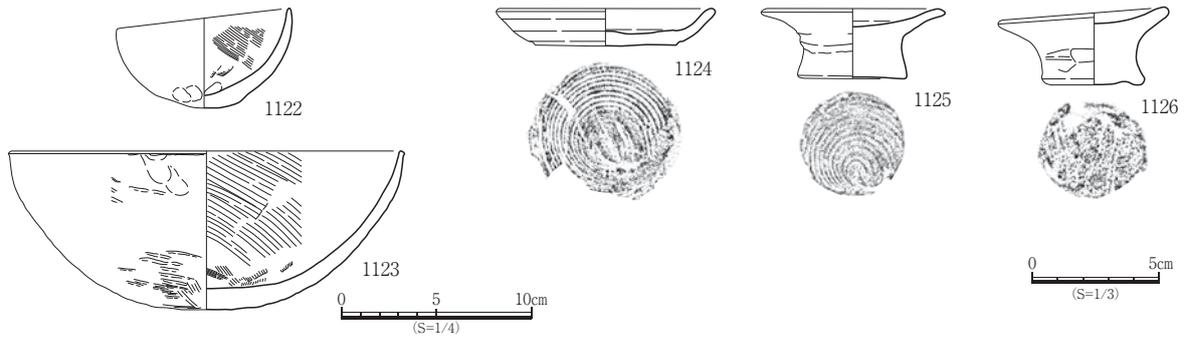


図280 7区 ST16 出土遺物実測図_1

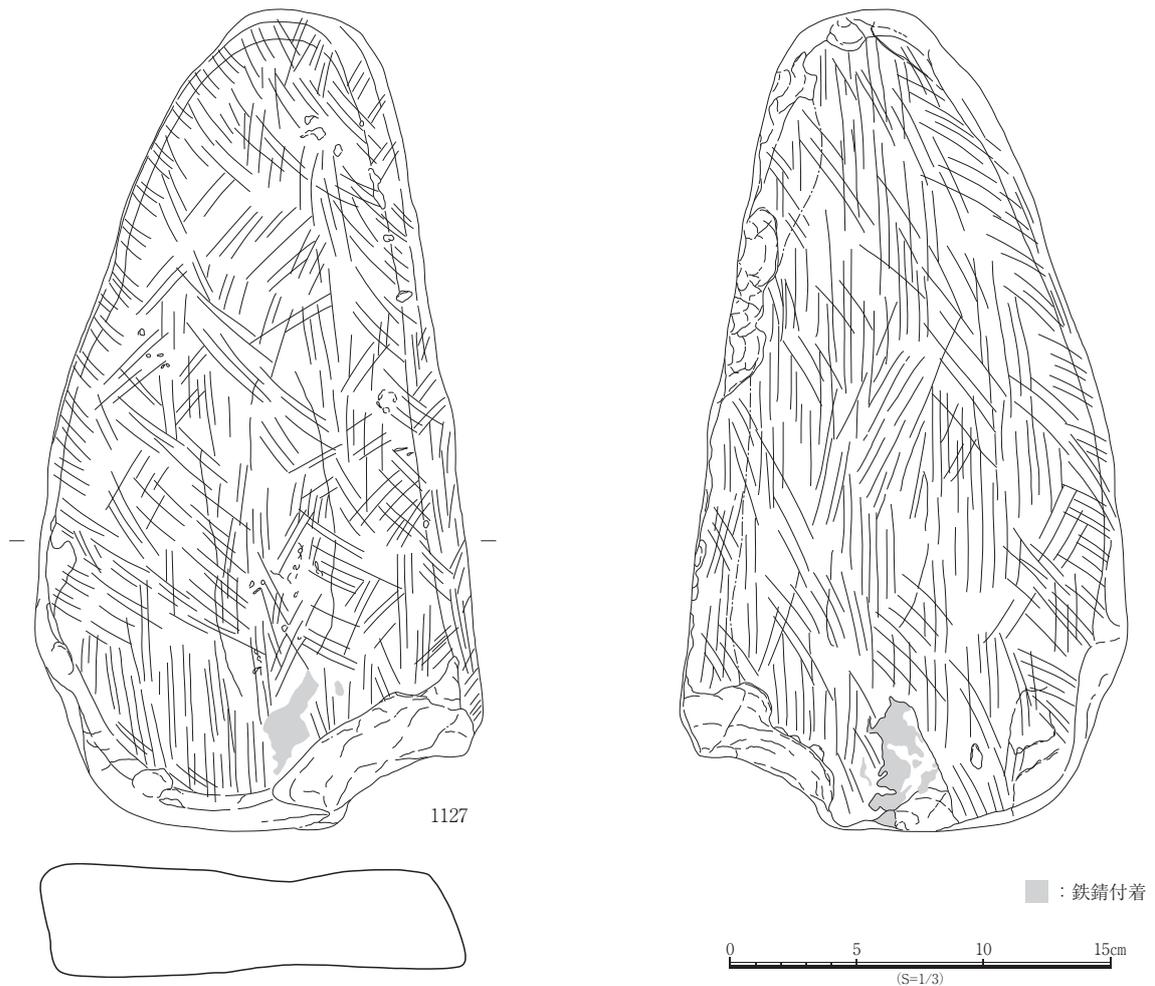


図281 7区 ST16 出土遺物実測図_2

る。底部は平底で外底面には叩き目がみられる。体部外面には叩き調整後、粗いハケ調整を施す。内面は上半部にはナデ調整、下半部にはハケ調整を施す。1108は半球形を呈する鉢である。底部は丸底である。体部外面はナデ調整、内面はハケ調整である。ほぼ完存である。1109は半球形を呈する鉢である。底部は丸底で、外底面にはナデ調整を施す。体部外面には叩き調整後ナデ調整を施す。内面はハケ調整およびナデ調整を施す。

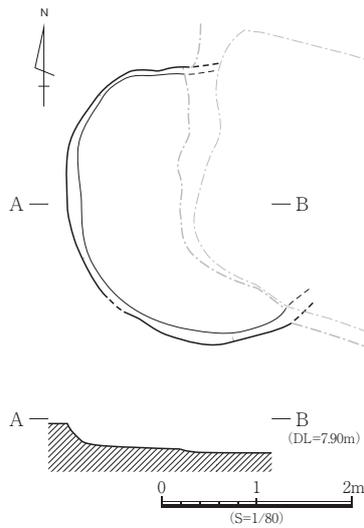


図282 7区 ST17
平面図・エレベーション図

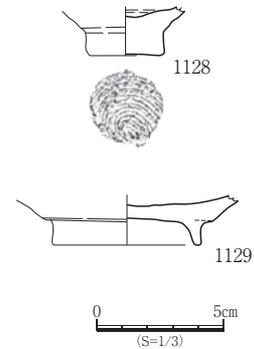


図283 7区 ST17
出土遺物実測図

歪む。ほぼ完存である。1110は半球形を呈する鉢である。底部は強いナデ調整により尖底気味の丸底とする。体部外面には叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はハケ調整およびナデ調整を施す。1111は浅めの鉢である。口唇部には面取りを施す。底部はナデ調整により丸底とする。体部外面には叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はハケ調整およびナデ調整を施す。1112は浅い鉢である。口唇部には面取りを施す。底部は強いナデ調整により尖底気味の丸底とする。体部外面には叩き調整後、ヨコハケ調整を密に施す。内面にはヘラミガキ調整を施す。1113は鉢である。口唇部には面取りを施す。底部は丸底で外底面には叩き目が認められる。体部外面には叩き調整後、ハケ調整を施す。内面にはハケ調整後、ヘラミガキ調整を密に施す。内底面にはナデ調整を施す。ほぼ完存である。1114は外反口縁の鉢である。口唇部には面取りを施す。底部は丸底で外底面にはナデ調整を施す。体部外面には叩き調整後、タテハケ調整を施す。一部はミガキ状を呈する。内面は粗いハケ調整およびナデ調整を施す。1115は外反口縁の鉢である。口唇部には面取りを施す。口縁部外面には叩き調整後ナデ調整を施し、内面にはヨコハケ調整を施す。体部外面には叩き調整後、ナデ調整およびハケ調整を施す。内面にはハケ調整を施し、下半部にはヘラナデ調整を施す。器壁は厚い。1116は鉢である。底部は平底で、外底面にはハケ調整およびナデ調整を施す。体部外面はハケ調整、内面はヘラナデ調整である。1117は製塩土器である。口唇部を尖らせる。外面はナデ調整、内面には布目の圧痕がみられる。混入品である。

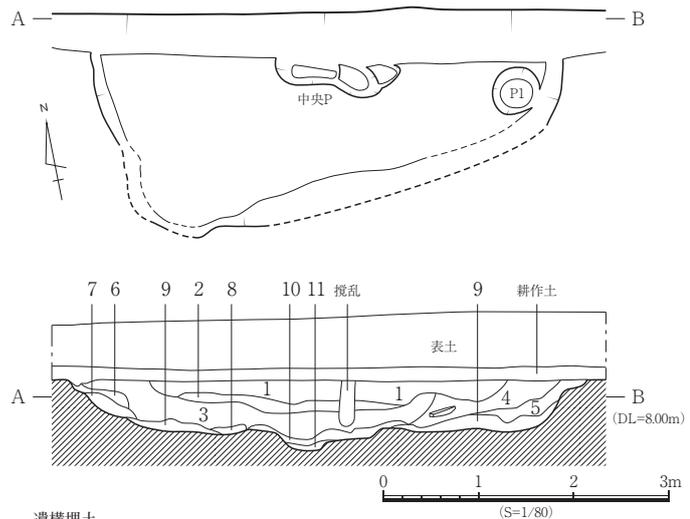
ST15

ST15は7-3区東部で検出した竪穴建物跡である。調査区外へひろがる。攪乱等に切られる。平面形は、一辺約6.00mの隅丸方形あるいは一辺約3.70mの六角形を呈すると推測される。床面積は概ね36.0㎡と推測される。主軸方向はN-7° -Eである。検出面から床面までの深さは約33cmであり、埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト他である。中央ピット(ST15_P6)は長軸の検出長は約0.70m、短軸約0.62mの隅丸長方形を呈する。床面からの深さは約10cmである。支柱穴の可能性のあるピット

については表に規模等を記した。

図示した出土遺物は、弥生土器の壺(1118)・鉢(1119), 須恵器の杯(1120)・盤(1121)である。

1118は壺である。短く内傾する頸部から口縁部は外反する。口唇部には面取りを施し、沈線がみられる。口縁部外面にはハケ調整後ナデ調整を施し、内面にはヘラナデ調整を施す。体部外面にはハケ調整後、ヘラナデ調整を施す。頸部内面にはヨコハケ調整、体部内面にはナデ調整を施す。1119は半球形を呈する鉢である。口唇部は指頭で摘み成形する。底部は角の取れた平底で、外底面にはナデ調整を施す。体部外面には叩き調整後ナデ調整を施し、内面にはハケ調整を施す。1120は杯である。立ち上がりは短く内傾する。体部は内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転ヘラケズリ調整後、ナデ調整を施す。内底面には仕上げナデ調整を施す。ほぼ完存である。混入品である。1121は盤である。やや深めの皿状を呈する。口唇部には面取りを施す。体部は内外面とも回転ナデ調整を施す。内底面には仕上げナデ調整を施す。外底面には回転ヘラケズリ調整後、ナデ調整を施す。脚部は剥離したと考えられる。混入品である。



- 遺構埋土
1. 黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトに15.0cm以下の礫を含む
 2. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに15.0cm以下の礫を含む
 3. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに10.0cm以下の礫を含む
 4. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに10.0cm以下の礫を含む
 5. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトに10.0cm以下の礫を含む
 6. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトに5.0cm以下の礫を含む
 7. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに5.0cm以下の礫を含む
 8. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに炭化物を含む
 9. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに10.0cm以下の礫を含む
 10. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに炭化物を含む
 11. ぶい黄褐色(10YR5/4)シルト質細粒砂に黒色(10YR1.7/1)シルト質細粒砂を含む

図284 7区 ST16 平面図・断面図

ST16

ST16は7-3区中央部で検出した堅穴建物跡である。ST11_Cに切られる。調査区外へひろがる。平面形は一辺約4.50mの隅丸長方形を呈する。床面積は約20.2㎡と推測される。主軸方向はN-35°-Wである。検出面から床面までの深さは約28cmであり、埋土は黒色(10YR1.7/1)細粒砂質シルト他である。床面では支柱穴(ST16_P1・2)等の遺構を検出した。支柱穴(ST16_P1)は北西部隅で検出した。長軸約49cm、短軸約43cmの不整円形を呈し、南にテラスを持つ。他のピットと重複しているか。床面からの深さは約33cmである。支柱穴

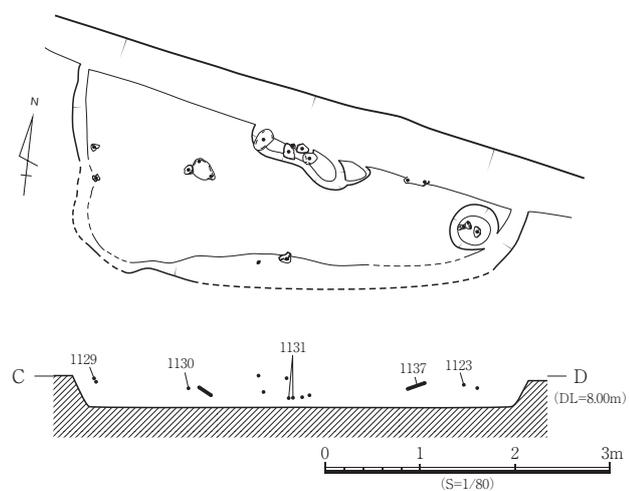


図285 7区 ST16 遺物出土状態図

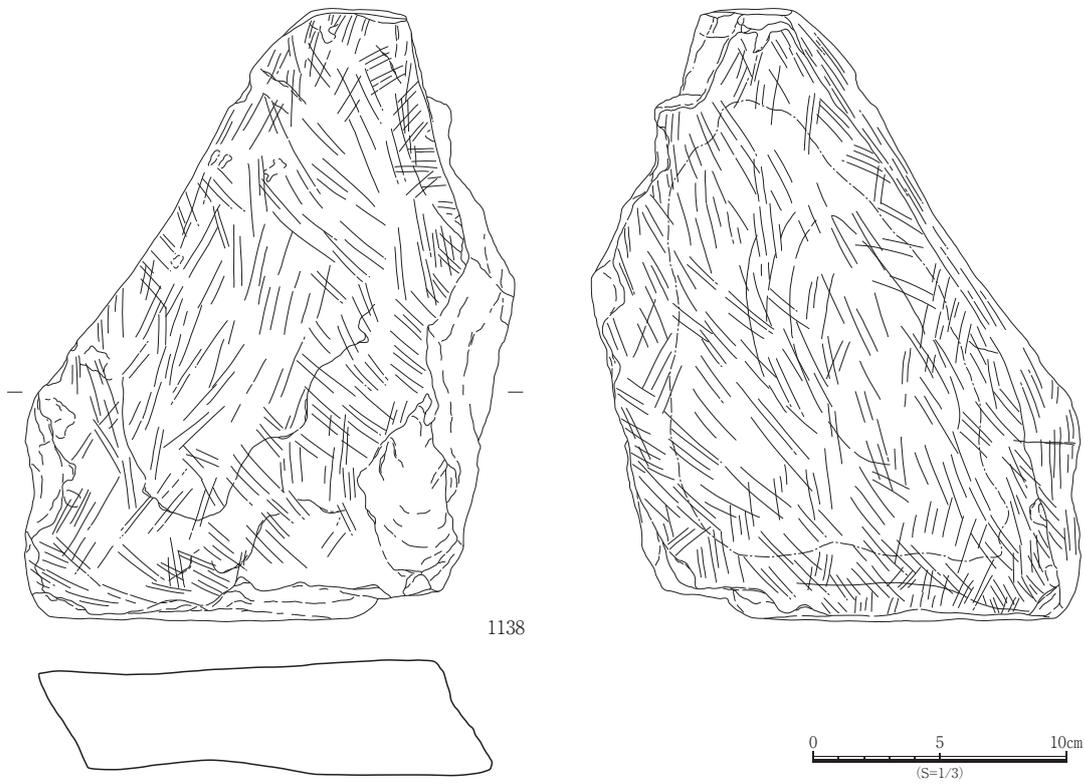
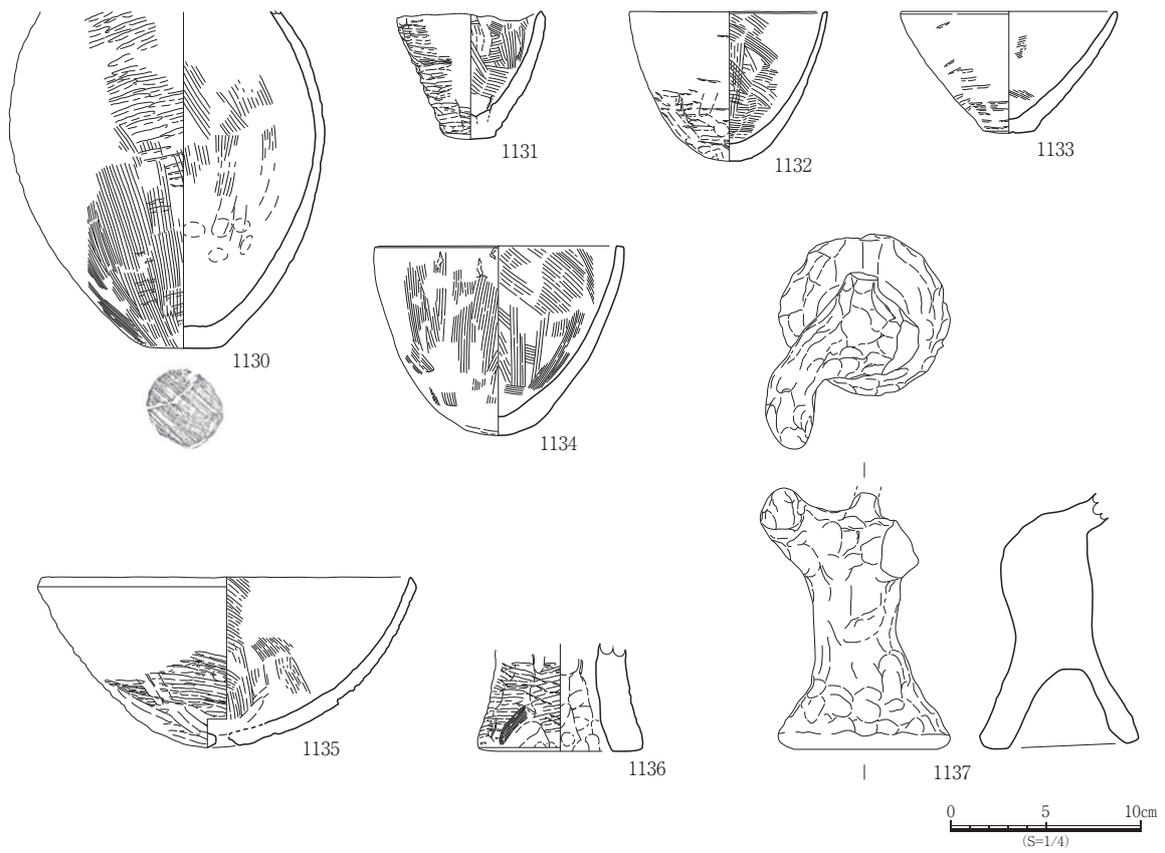


图286 7区 ST18 出土遺物実測図

(ST16_P2)は北東部隅で検出した。長軸約38cm, 短軸約32cmの不整円形を呈し, 床面からの深さは約41cmである。

図示した出土遺物は, 弥生土器の鉢(1122・1123), 土師質土器の皿(1124)・柱状高台(1125・1126), 砥石(1127)である。

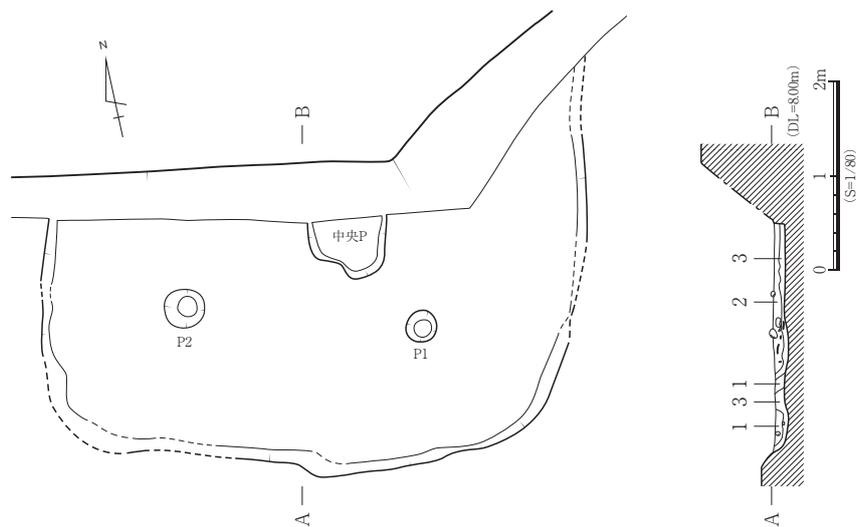
1122は半球形を呈する鉢である。底部は丸底で外底面にはナデ調整を施す。体部外面にはナデ調整を施す。一次調整は叩き調整か。内面はハケ調整である。腰部外面には指頭圧痕が認められる。ほぼ完存である。1123は半球形を呈する鉢である。口唇部にはルーズな面取りを施す。底部は丸底で, 外底面には叩き調整後, ナデ調整を施す。体部外面には叩き調整後, ナデ調整を施す。内面にはハケ調整を施す。体部内面と内底面では異なるハケ原体を使用する。1124は皿である。体部は浅く斜め上方へひらく。内外面とも回転ナデ調整を施す。内底面にはヨコナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。1125は柱状高台である。体部は浅く外方へひらく。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。高台には粘土の撚れ痕跡が認められる。1126は柱状高台である。体部は浅く外方へひらく。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面は切り離した後, ナデ調整を施す。ほぼ完存である。1127は砂岩製の砥石である。

ST17

ST17は7-3区北西部で検出した土坑である。平面形は直径約2.90mの不整円形と推測される。床面積は約6.6㎡と推測される。検出面から床面までの深さは約25cmである。

図示した出土遺物は, 土師質土器の柱状高台(1128)・椀(1129)である。

1128は柱状高台である。台部は円柱状を呈する。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。1129は椀である。外底面に輪高台を貼り付ける。内底面には螺旋状の回転



遺構埋土

1. 黒褐色(10YR2/2) 細粒砂質シルトに黒褐色(10YR3/3)シルト質細粒砂を少量含む
2. 黒褐色(10YR2/3) 細粒砂質シルトに2.0cm大以下の礫を少量含む
3. 暗褐色(10YR3/3)シルト質細粒砂に黒褐色(10YR2/2) 細粒砂質シルトを少量含む

図287 7区 ST17 平面図・断面図

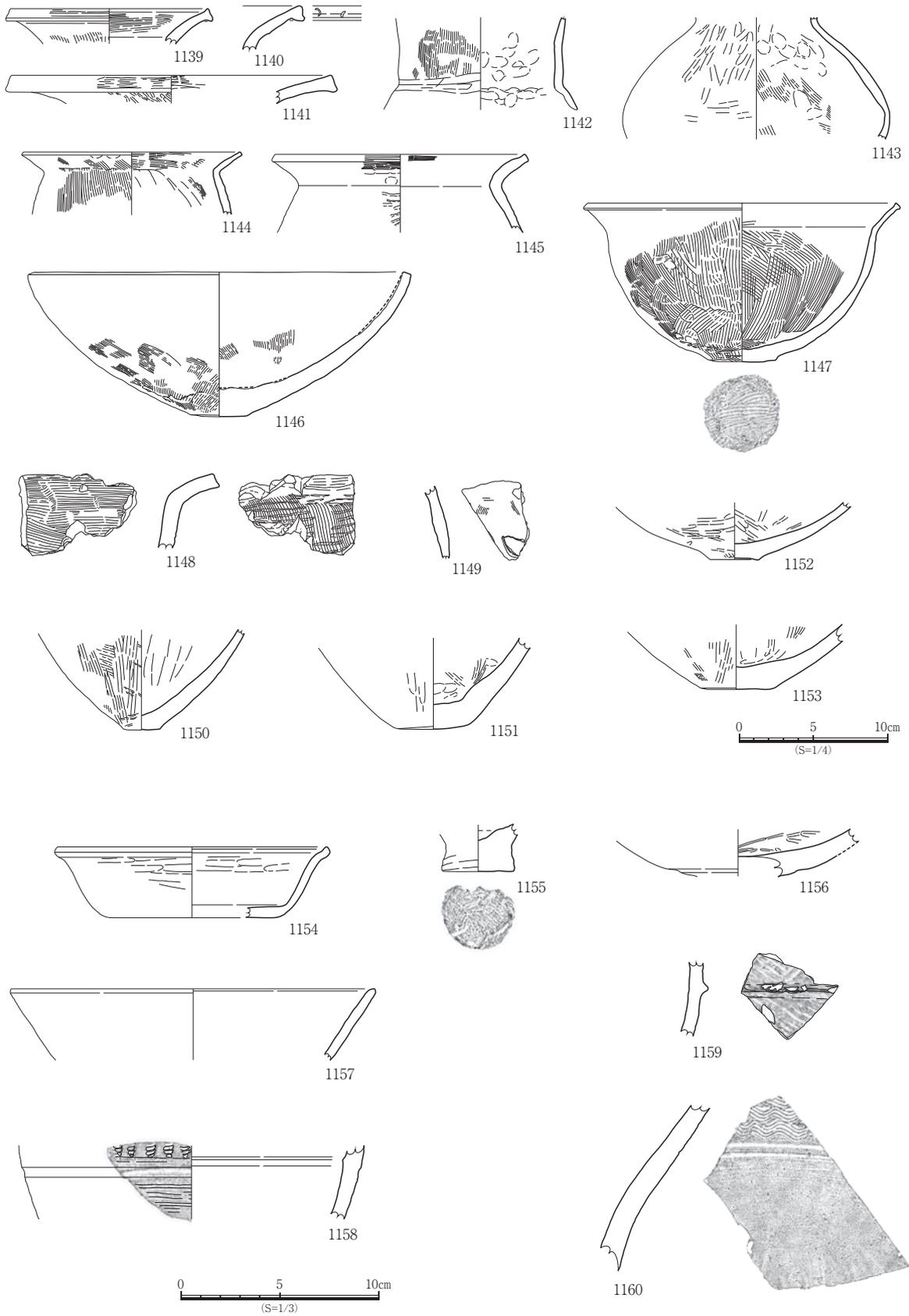


図288 7区 ST19 出土遺物実測図

痕跡が認められる。柱状高台か。

ST18

ST18は7-4区北西部で検出した竪穴建物跡である。調査区外へひろがる。平面形は一辺約4.80mの隅丸方形を呈する。床面積は約23.0㎡と推測される。主軸方向はN-2°-Wである。検出面から床面までの深さは約37cmであり、埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルト他である。床面では中央ピット(ST18_中央P)、支柱穴(ST18_P1)を検出した。中央ピット(ST18_中央P)は長軸約1.26m、短軸の検出長は約0.37mを測る。床面からの深さは約24cmを測り、埋土は炭化物が混じった黒色(10YR1.7/1)シルト質細粒砂他である。支柱穴(ST18_P1)は南東部隅で検出した。直径約48cmの円形を呈し、床面からの深さは約28cmである。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は、弥生土器の甕(1130)・鉢(1131~1135)、支脚(1136・1137)、砥石(1138)である。

1130はST18_中央Pから出土した甕である。底部は角の取れた平底で、外底面には叩き目が認められる。体部外面には叩き調整後、タテハケ調整を施す。内面はハケ調整およびナデ調整を施す。煮沸に供され、内面にはおこげが付着する。1131はコップ形の鉢である。底部は丸みを帯び、外底面は未調整で砂が付着する。体部外面には叩き調整後ナデ調整を施し、内面にはハケ調整を施す。また、

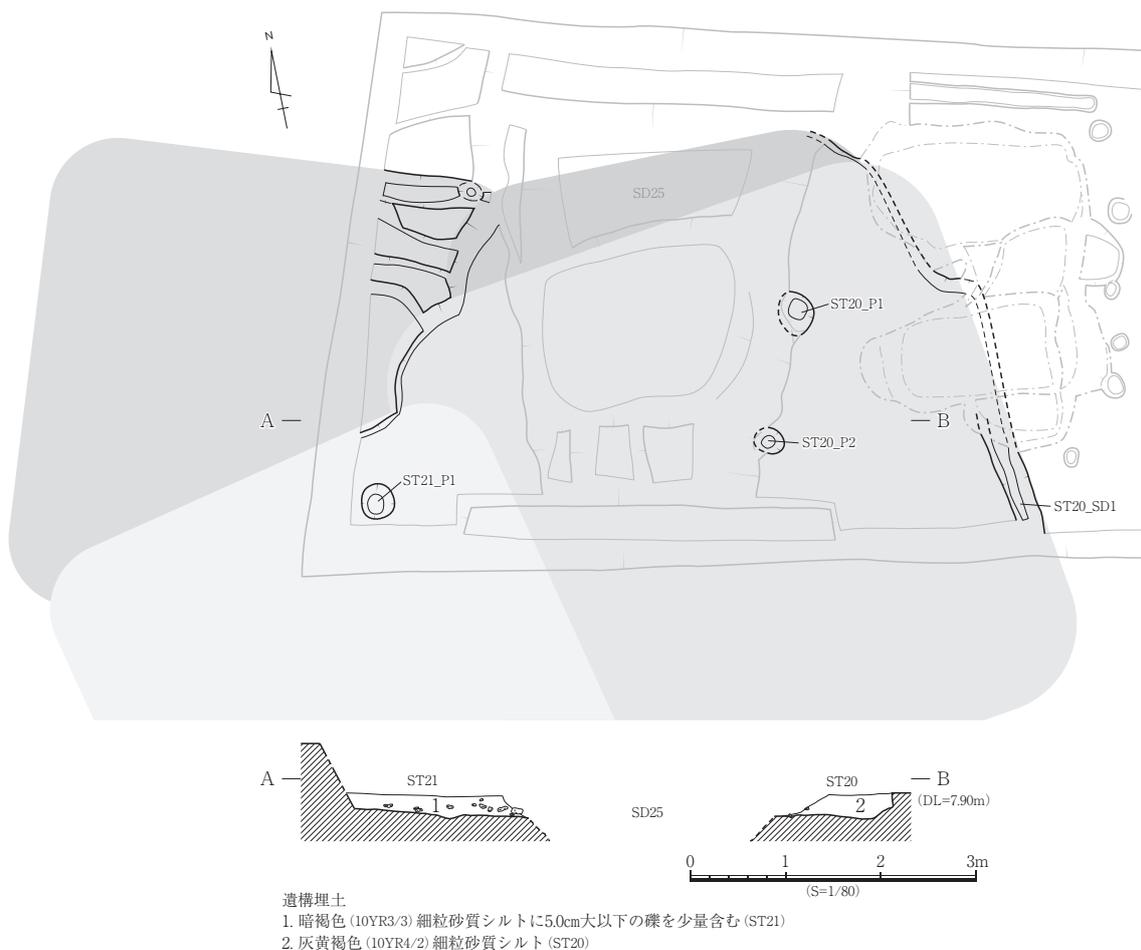


図289 7区 ST20・21 平面図・断面図

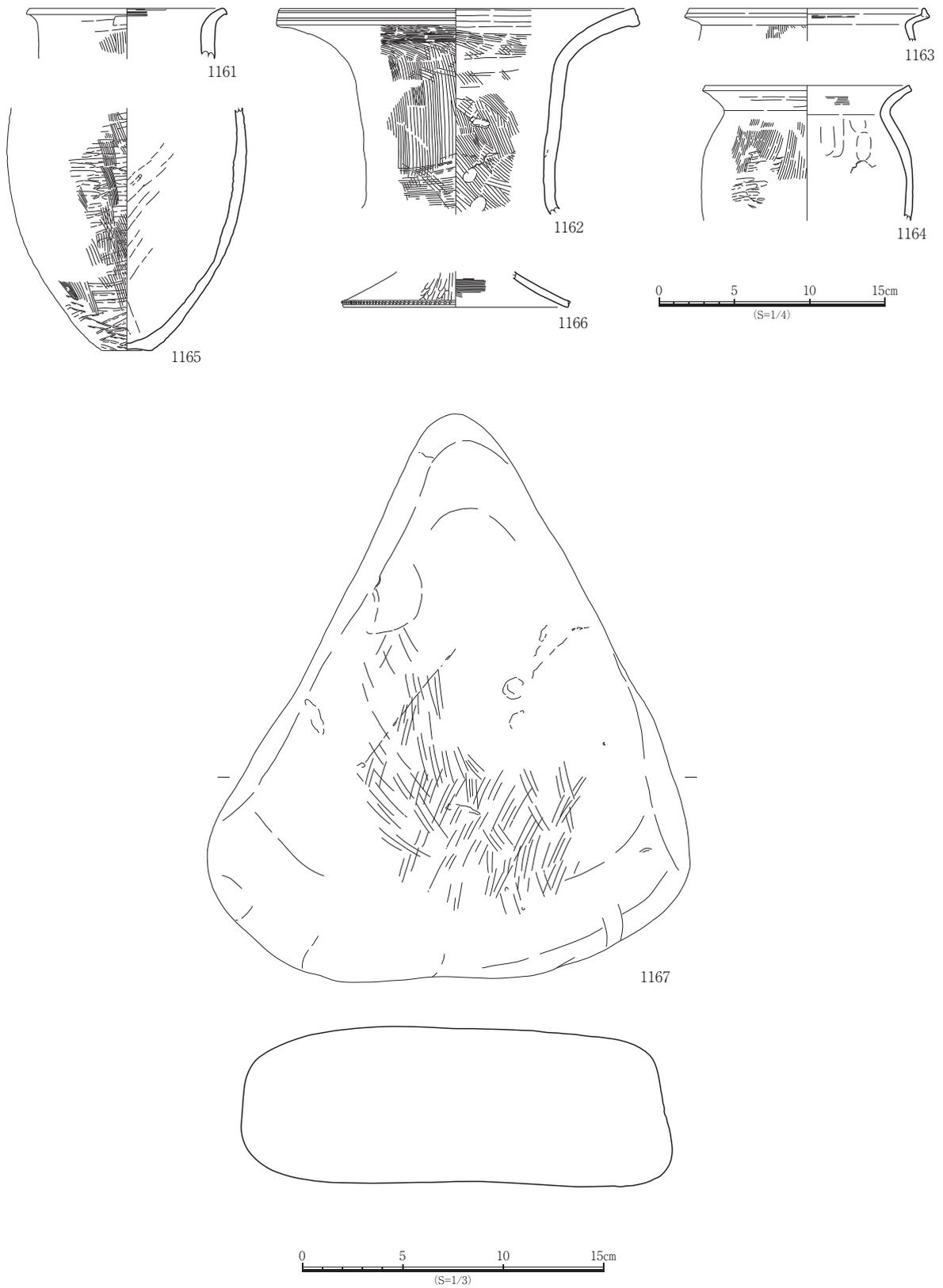


図290 7区 ST20 出土遺物実測図

内底面にはしぼり目がみられる。1132はコップ形の鉢である。底部は丸底で外底面にはナデ調整を施す。体部外面には叩き調整後、ナデ調整を施す。内面にはハケ調整を施す。1133は鉢である。底部は平底で外底面にはナデ調整を施す。体部外面には叩き調整後ナデ調整を施す。内面はハケ調整およびナデ調整である。1134はコップ形の鉢である。口唇部には面取りを施す。底部は強いナデ調整により丸底とする。体部外面にはタテハケ調整、内面にはハケ調整を施す。また、内底面にはナデ調整を施す。1135は半球形を呈する鉢である。底部は強いナデ調整により丸底とする。体部外面には叩き調整、内面にはハケ調整を施す。底部には焼成後穿孔が認められる。1136は支脚である。外面は叩き調整後ナデ調整、内面はナデ調整を施し指頭圧痕が認められる。脚端部は上から押し付け、平坦面となる。1137は支脚である。手捏ね成形である。2本の指で受け部とする。背部には摘みを付す。体部は中実で脚部は中空である。指紋が付着する。1138は砂岩製の砥石である。扁平な石を利用する。両面とも使用により平滑となる。一部の側面も砥石として使用する。線状の使用痕跡、浅い窪みが楕円形を描く使用痕跡が認められる。また、鉄錆が付着する。黒褐色を呈する部分がある。

ST19

ST19は7-4区北東部で検出した竪穴建物跡である。調査区外へひろがる。平面形は一辺約4.90mの隅丸方形を呈する。床面積は約24.0㎡と推測される。主軸方向はN-12°-Eである。検出面から床面までの深さは約16cmであり、埋土は黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルト他である。床面では中央ピット(ST19_中央P)、支柱穴(ST19_P1・2)の遺構を検出した。中央ピット(ST19_中央P)は長軸約0.82m、短軸の検出長は約0.65mを測る。床面からの深さは約9cmを測り、埋土は暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトである。支柱穴(ST19_P1)は南東部隅で検出した。直径約34cmの円形を呈し、床面からの深さは約51cmである。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。支柱穴(ST19_P2)は南西部隅で検出した。直径約42cmの円形を呈し、床面からの深さは約45cmである。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は、弥生土器の壺(1139～1143)・甕(1144・1145)・鉢(1146～1148)・体部(1149)・底部(1150～1153)、土師器の杯(1154)、土師質土器の柱状高台(1155)・不明(1156)、須恵器の杯(1157)・壺(1158)・体部(1159・1160)である。

1139はST19・SK48から出土した壺である。口唇部にはハケ状原体による面取りを施し、上下に拡張する。口縁部外面にはタテハケ調整、内面にはヨコハケ調整を施す。1140は壺である。口唇部に粘土紐を貼り付け、拡張し凹面状を呈する。外面に竹管文を配置する。1141は壺である。口唇部には面取りを施す。口縁部外面にはハケ調整後、ミガキ調整を施す。内面にはナデ調整を施し、一部はミガキ状を呈する。1142は壺である。頸部外面はタテハケ調整、内面はナデ調整である。接合面で剥離する。1143はST19_P1から出土した壺である。体部外面にはミガキ調整を施す。頸部内面にはしぼり目がみられ、上半部はナデ調整を施し指頭圧痕が認められる。下半部にはハケ調整を施す。1144は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部には面取りを施す。口縁部外面はハケ調整、

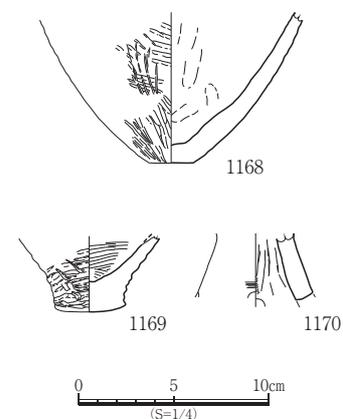
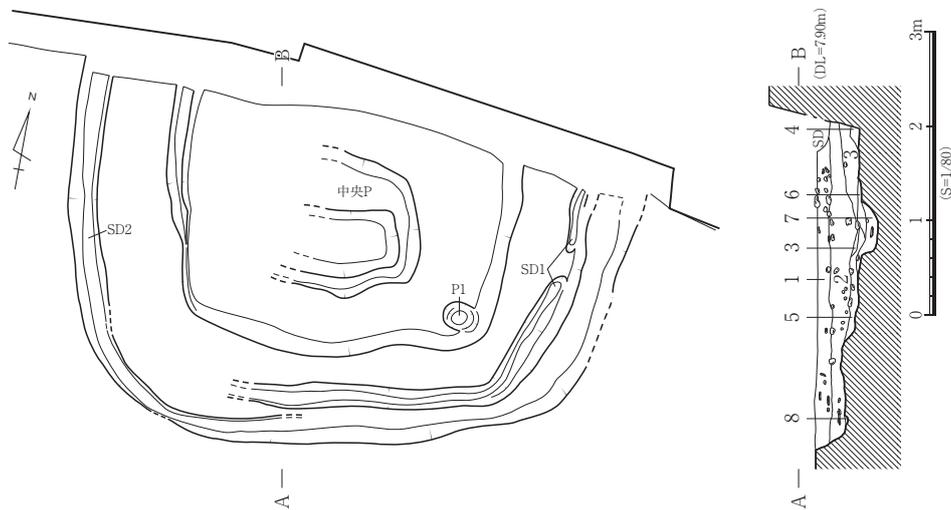


図291 7区 ST21
出土遺物実測図

内面はヨコハケ調整である。体部外面にはハケ調整を施し、内面にはハケ調整あるいはヘラナデ調整を施す。1145は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部にはハケ状原体による面取りを施す。端部を摘み上げる。口縁部外面はヨコナデ調整、内面はナデ調整である。体部外面には叩き調整後ハケ調整およびナデ調整を施し、内面にはハケ調整およびナデ調整を施す。1146は浅い鉢である。口唇部には面取りを施す。体部外面にはハケ調整、内面にはハケ調整後ミガキ調整を施す。底部は丸みを持った平底で、外底面にはナデ調整を施す。1147はST19_P1から出土した外反口縁の鉢である。口唇部には面取りを施す。口縁部外面にはタテハケ調整後ナデ調整を施し、内面にはヨコハケ調整後ナデ調整を施す。体部外面には叩き調整後ハケ調整を施し、内面にはハケ調整を施す。底部は円盤状の平底で、外底面にはハケ調整を施す。1148は外反口縁の鉢である。口唇部にはハケ状原体による面取りを施す。口縁部外面には叩き調整後ナデ調整を施し、内面にはヨコハケ調整を施す。体部外面には叩き調整後タテハケ調整を施し、内面にはハケ調整を施す。1149は体部である。外面はハケ調整、内面はナデ調整およびヘラナデ調整を施す。外面に焼成前の線刻か。1150は平底の底部である。外底面にはナデ調整を施す。体部外面には叩き調整後粗いタテハケ調整を施し、内面にはナデ調整を施す。1151はST19・SK48から出土した底部である。角の取れた平底で、外底面にはナデ調整を施す。体部外面にはヘラナデ調整を施し、ミガキ状を呈する部分がある。内面はハケ調整で、内底面には指頭圧痕が認められる。外面に焼成前のキズか。1152はST19・SK48から出土した底部である。ごく僅かな上げ底を呈し、外底面には強いナデ調整を施す。体部は内外面ともナデ調整後、ミガキ調整を施す。1153はST19_P1から出土した壺の底部である。角の取れた平底で、外底面にはナデ調整を施す。体部外面には叩き調整後、タテハケ調整およびミガキ調整を施す。内面にはハケ調整を施し、内底面



遺構埋土

1. 黒褐色 (7.5YR3/1) 細粒砂質シルトに3.0cm大以下の礫を少量含む
2. 黒褐色 (10YR3/2) 細粒砂質シルトに3.0cm大以下の礫を少量含む
3. 黒褐色 (2.5Y3/2) 細粒砂～粗粒砂質シルトに3.0cm大以下の礫を少量含む
4. 黒褐色 (10YR3/1) 細粒砂質シルト
5. 黒褐色 (10YR3/1) 細粒砂質シルトに中粒砂を含む
6. 黒褐色 (10YR3/2) 細粒砂質シルトに明黄褐色 (10YR6/6) 細粒砂質シルトブロックを少量含む (中央P)
7. 黒色 (10YR2/1) 細粒砂質シルト (中央P)
8. 黒褐色 (10YR3/1) 細粒砂質シルト (ST22_SD1)

図292 7区 ST22 平面図・断面図

にはナデ調整を施す。1154は折り曲げ口縁の杯である。内外面ともヘラミガキ調整を施す。外底面は回転ヘラ切り後、ナデ調整を施す。1155はST19・SK48から出土した柱状高台である。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。1156は不明である。内外面ともヘラミガキ調整を施し、腰部外面には回転ナデ調整を施す。外底面には高台の剥離痕跡か。1157は杯である。内外面とも回転ナデ調整を施す。1158は壺である。外面はカキ目調整および回転ナデ調整を施し、列点文、1条の凹線文をめぐらせる。内面は回転ナデ調整である。1159は体部片であり、断面形が三角形の突帯を貼付する。外面は叩き調整、内面は回転ナデ調整である。1160は甕の体部片である。内外面とも回転ナデ調整を施す。外面には5条1単位の櫛描波状文を3単位以上、2条の凹線を施す。

ST20

ST20は7-1-3区で検出した竪穴建物跡である。調査区外へひろがる。ST21と重複する。SD25・攪乱に切られる。平面形は一辺約6.00mの隅丸方形を呈する。床面積は約36.0㎡と推測される。主軸方向はN-5°-Wである。検出面から床面までの深さは約22cmであり、埋土は灰黄褐色(10YR4/2)細粒砂質シルト他である。床面では壁溝(ST20_SD1)、主柱穴(ST20_P1)等を検出した。壁溝(ST20_SD1)は東辺で検出した。幅約38cm、床面からの深さは約4cmを測る。埋土は黒褐色(7.5YR3/1)細粒砂質シルトである。検出長は約4.10mである。主柱穴(ST20_P1)は壁から60~80cm内側の北東部で検出した。長軸約48cm、短軸約31cmの不整円形を呈し、床面からの深さは約37cmである。

図示した出土遺物は、弥生土器の壺(1161・1162)・甕(1163~1165)・高杯(1166)、台石(1167)である。

1161は壺である。直立する頸部から口縁部は短く外反する。口唇部には面取りを施す。口縁部外面はヨコナデ調整、内面はヨコハケ調整あるいはナデ調整である。頸部外面はタテハケ調整、内面はナデ調整である。1162は壺である。直立する頸部から口縁部は大きく外反する。口唇部には面取りを施し、2条の凹線文をめぐらせる。口縁部は内外面ともハケ調整を施す。頸部外面はタテハケ調整を施し、一部はヨコナデ調整を重ねる。内面はタテハケ調整を基本とする。1163は甕である。口縁端部を摘み上げ、口唇部は沈線状となる。口縁部は内外面とも斜め方向のハケ調整後ヨコナデ調整を施す。体部外面はタテハケ調整、内面はナデ調整である。1164は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部には面取りを施す。口縁部は内外面ともヨコハケ調整を施す。体部外面には叩き調整後ハケ調整を施し、内面にはナデ調整を施す。肩部内面には粘土接合痕跡が認められる。また、肩部内面にモミ圧痕がみられる。1165は甕である。底部は僅かに上げ底となり、外底面にはハケ調整およびナデ調整を施す。体部外面には叩き調整後、タテハケ調整を施す。内面は上半部にはナデ調整、下半部にはヘラケズリ調整を施す。1166は高杯の裾部である。端部にハケ状原体による面取りを施し、上端部には刻目を入れる。外面は縦方向のヘラミガキ調整、内面はヨコハケ調整およびヨコナデ調整を施す。1167は砂岩製の台石である。平面形が三角形の扁平な河原石を利用する。表面は使用により平滑となり、裏面の一部も使用により平滑となる。鉄錆が付着する。

ST21

ST21は7-1-3区で検出した竪穴建物跡である。建物跡の北東部を検出したのみであることから、平面形および規模は不明である。ST20と重複する。主軸方向はN-3°-Wである。検出面から床面までの深さは約14cmであり、埋土は暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトである。床面では主柱穴(ST21_

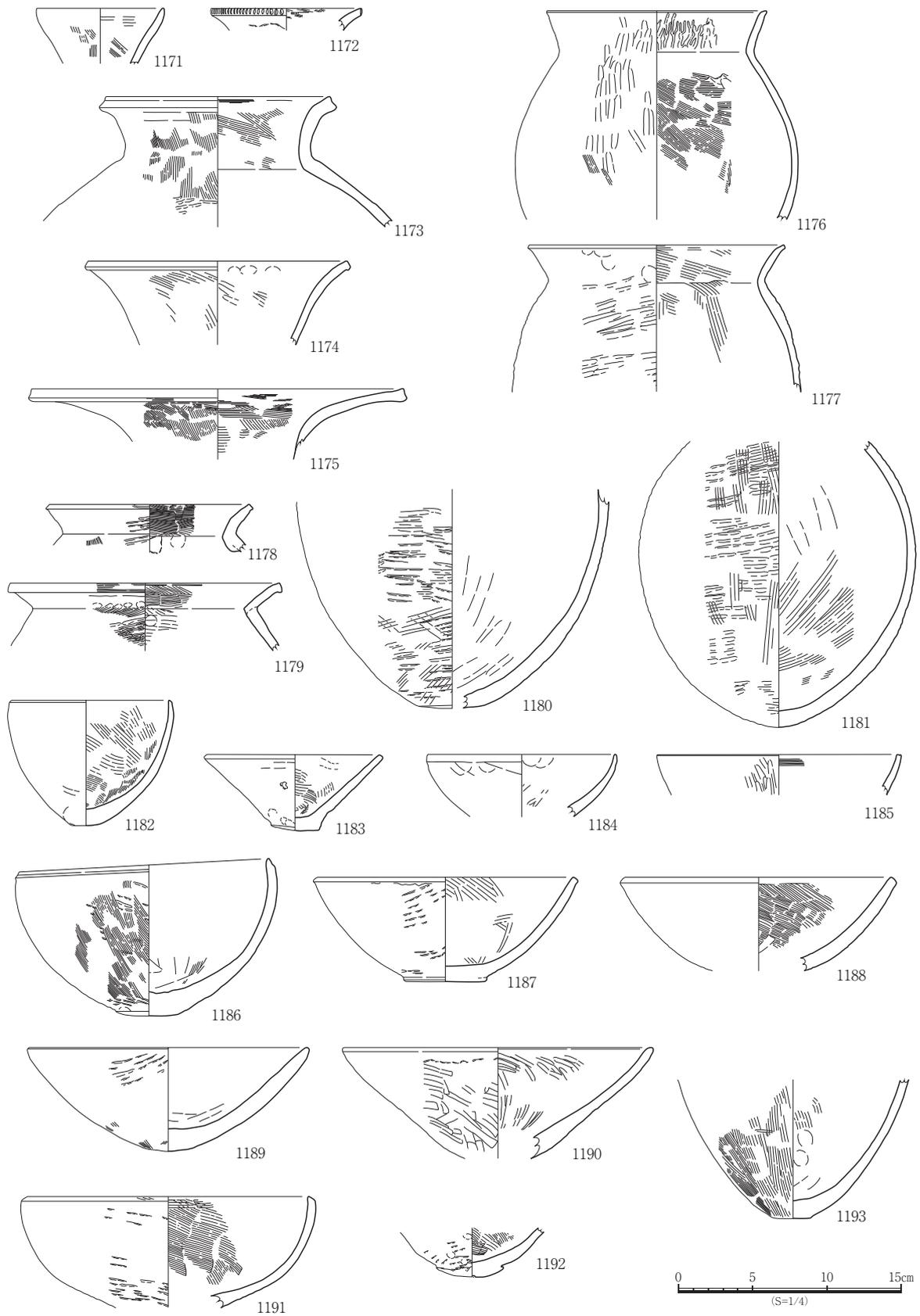


图293 7区 ST22 出土遺物実測図_1

P1)等を検出した。支柱穴(ST21_P1)は壁から約70cm内側の北東部で検出した。長軸約44cm, 短軸約35cmの不整円形を呈し, 床面からの深さは約45cmである。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

このST21以外にも竪穴建物跡の一部と考えられる平坦部を検出しているものの, 検出範囲が狭く確定することはできない。当調査区は, 5区から続く竪穴建物群の一部を構成している。

図示した出土遺物は, 弥生土器の底部(1168・1169)・高杯(1170)である。

1168は底部である。角の取れた平底で, 外底面にはナデ調整を施す。体部外面には叩き調整

後, ナデ調整を施す。内面はナデ調整である。1169は柱状の底部である。角の取れた平底で, 外底面にはハケ調整およびナデ調整を施す。体部外面には叩き調整後ナデ調整を施し, 内面にはハケ調整を施す。1170は高杯である。脚部外面にはハケ調整後, ヘラミガキ調整を施す。内面はしぼり目がみられ, ハケ調整後ナデ調整を施す。直径約0.8cmの円孔を穿つ。

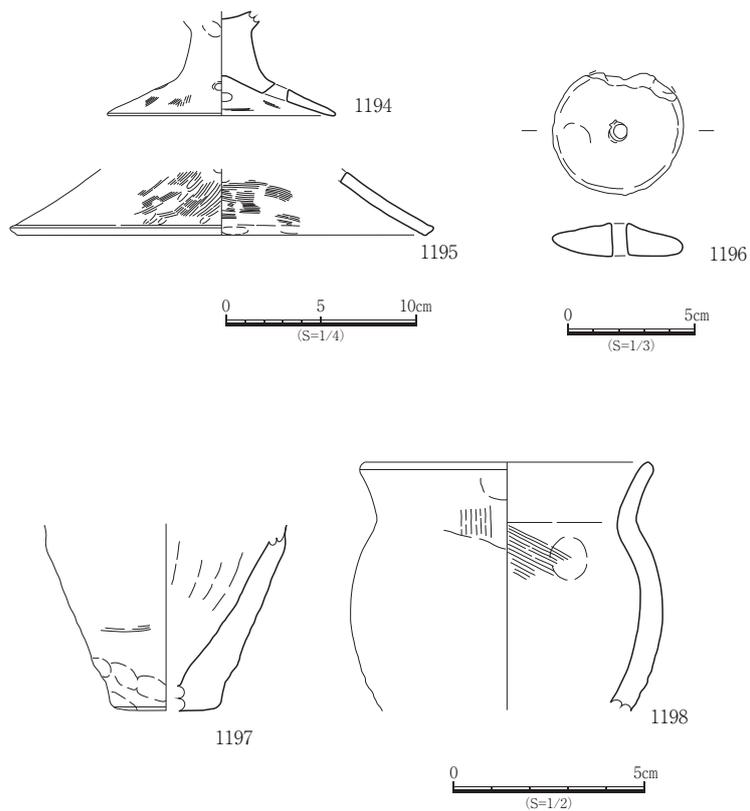


図294 7区 ST22 出土遺物実測図_2

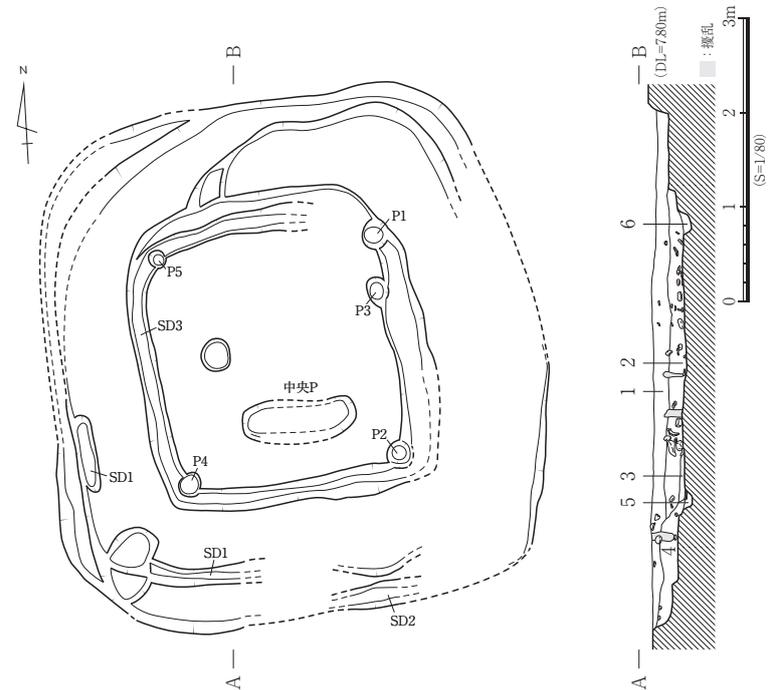
ST22

ST22は7-2区北端部で検出した竪穴建物跡である。ST25を切る。平面形は一辺約5.90mの隅丸方形を呈する。床面積は約34.8㎡と推測される。主軸方向はN-12°-Wである。検出面から床面までの深さは約45cmであり, 埋土は黒褐色(7.5YR3/1)細粒砂質シルト他である。床面では中央ピット(ST22_中央P), ベッド状遺構, 壁溝(ST22_SD1・2), 支柱穴(ST22_P1)等を検出した。中央ピット(ST22_中央P)は床面中央やや南寄りで検出した。平面形は隅丸方形を呈するものと推測され, テラスを有し南側は隅丸長方形に一段深くなる。長軸の検出長約1.30m, 短軸約1.50mを測る。床面からの深さは7~9cmを測り, 埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルト他である。隅丸長方形の土坑は長軸の検出長約0.92m, 短軸約0.72mを測る。床面からの深さは約24cmを測り, 埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトである。ベッド状遺構は検出した全範囲でみられた。幅約70cm, 低床部との比高差約10cmを測る。東辺から南辺では壁溝(ST22_SD1), 西辺から南辺では壁溝(ST22_SD2)を検出した。東辺では幅約30cmのステップを持ち階段状を呈することと壁溝がズレていることから推測して竪穴建物跡が重複していると考えられる。壁溝(ST22_SD2)はベッド上で検出した。幅約20cm, ベッド上面からの

深さは2～7cmを測り、検出長は約4.68mである。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。壁溝(ST22_SD1)はベッド上で検出した。幅約32cm、ベッド上面からの深さは1～6cmを測り、検出長は約4.12mである。主柱穴(ST22_P1)は低床部の南東部隅で検出した。長軸約38cm、短軸約29cmの楕円形を呈し、床面からの深さは約36cmである。埋土は黒褐色(7.5YR3/1)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は、弥生土器の壺(1171～1176)・甕(1177～1181)・鉢(1182～1192)・底部(1193)・高杯(1194・1195)、土製紡錘車(1196)、ミニチュア土器(1197・1198)である。

1171は壺である。口縁部は内外面ともヨコナデ調整で仕上げる。頸部外面はハケ調整、内面はハケ調整およびナデ調整を施す。内面に焼成前のキズがみられる。1172は壺である。口唇部に刻目を施す。外面はナデ調整、内面はハケ調整である。1173は壺である。球形の肩部から頸部は直立気味にのび、口縁部は短く外反する。口唇部は凹面状から沈線状となる。口縁部は内外面ともヨコナデ調整およびハケ調整を施す。頸部外面はタテハケ調整、内面はヨコハケ調整を基調とする。体部外面には叩き調整後、ハケ調整を施す。内面はナデ調整か。1174は壺である。口縁部は外上方へ直線的にひらき、口唇部には面取りを施す。口縁端部はヨコナデ調整で仕上げる。内外面ともハケ調整を施す。1175は壺である。口縁部は大きくひらき、口唇部には面取りを施し、僅かに肥厚させる。外面はヨコハケ調整後、タテハケ調整を施し、内面にはヨコハケ調整を施す。1176は壺である。口縁部は緩やかな「く」の字状を呈する。口縁部外面はナデ調整後ミガキ調整、内面はヨコナデ調整後ミガキ調整である。体部外面にはハケ調整後、ミガキ調整を施す。一次調整は叩き調整か。内面は肩部にはハケ調整、肩部以下にはナデ調整を施す。内面には幅約3cmの粘土帯接合痕跡が認められる。珍しい器形および調整である。1177は甕である。口縁部は「く」の字状を呈する。口縁部外面は叩き調整後ナデ調整、内面はハケ調整である。体部外面には叩き調整後ナデ調整を施し、内面にはハケ調整およびナデ調整を施す。1178は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部にはハケ状原体によるルーズな面取りを施す。口縁部外面には叩き調整後ナデ調整を施し、内面にはハケ調整を密に施す。体部外面には叩き調整後ナデ調整およびハケ調整を



遺構埋土

1. 暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトに黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトを10.0cm以下の礫を少量含む
2. 黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルト
3. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルト
4. 灰黄褐色(10YR4/2)細粒砂質シルト
5. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトに灰黄褐色(10YR4/2)細粒砂質シルトブロックを含む(ST23_SD3)
6. にぶい黄色(2.5Y6/4)細粒砂質シルトに中粒砂を少量含む(ST23_SD3)

図295 7区 ST23 平面図・断面図

施す。内面はナデ調整である。内面には口縁部を付加した際の粘土接合痕跡が認められる。1179は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部には面取りを施す。口縁部外面はナデ調整、内面はハケ調整である。体部外面には叩き調整後ナデ調整を施し、内面には粗いハケ調整を施す。シャープなつくりである。1180は甕である。底部は角の取れた平底である。外底面にはハケ調整後、ナデ調整を施す。体部外面には叩き調整後、上半部にはナデ調整、下半部にはハケ調整を施す。内面はナデ調整である。1181は甕である。体部は球形を指向し、底部は丸底である。外底面にはナデ調整を施す。体部外面には叩き調整後、ハケ調整を施す。内面は上半部にはナデ調整、下半部にはハケ調整を施す。

1182は深めの鉢である。底部は平らな部分が残る丸底で、外底面にはナデ調整を施す。口縁部は内外面ともナデ調整で仕上げる。体部外面には叩き調整後ナデ調整を施し、内面にはハケ調整を施す。1183は鉢である。体部は直線的に外上方へのびる。底部は平底で、外底面にはナデ調整を施す。体部外面はナデ調整、内面はハケ調整である。1184は鉢である。体部は丸みを持つ。内外面ともナデ調整を施し、内底面はミガキ調整か。1185は鉢である。口唇部には面取りを施す。体部外面にはミガキ調整を密に施す。内面はナデ調整である。内面は黒褐色を呈する。低脚高杯か。1186は半球形を呈する鉢である。口唇部を摘み上げ、尖らせる。底部はほぼ丸底で、外底面にはナデ調整を施す。体部外面には叩き調整後ハケ調整を施し、内面にはナデ調整およびハケ調整を施す。内底面はヘラナデ調整後、ナデ調整を施す。1187は浅めの鉢である。口唇部には面取りを施す。底部は円盤状の平底で、外底面にはナデ調整を施す。体部外面には叩き調整後、ナデ調整を施す。内面にはハケ調整およびナデ調整を施す。1188は鉢である。口唇部には面取りを施す。体部外面はナデ調整である。内面にはハケ調整を施し、内底面にはナデ調整を施す。1189は鉢である。底部はほぼ丸底である。体部外面には叩き調整後、上半部にはナデ調整、下半部にはハケ調整を施す。内面は摩耗のため調整等は不明である。1190は鉢である。体部は直線的に大きくひらき、口唇部は丸くおさめる。体部は内外面とも幅の狭いヘラナデ調整を施す。1191は鉢である。口唇部には面取りを施し、外傾させる。体部外面には叩き調整後、ナデ調整を施す。上半部のナデ調整は丁寧に施す。内面はハケ調整である。内底面にはナデ調整を施す。1192は鉢である。底部は丸底で外底面にはナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後ナデ調整、内面はハケ調整である。内底面にはナデ調整を施す。1193は甕の底部である。角の取れた平底で外底面にはナデ調整を施す。体部外面には叩き調整後、タテハケ調整を施す。内面はハケ調整およびナデ調整を施す。1194は高杯である。脚部は短い中実の円柱状を呈する。摩耗のため調整等は不明である。裾部は「ハ」の字形にひらく。内外面ともハケ調整を施す。裾部に直径約0.8cmの円孔を穿つ。1195はST22・SD35から出土した高杯である。端部には面取りを施す。裾部外面にはハケ調整後、ミガキ調整を疎らに施す。内面はヨコハケ調整である。裾部に直径約1cmの円孔を穿つ。裾端部内面に煤が端部に沿って弧を描くように付着していることから蓋として使用した可能性がある。1196は紡錘車である。平面形は円形、断面形は扁平な算盤玉を呈する。内外面ともナデ調整を施す。中央に焼成前に穿孔する。1197はミニチュア土器である。鉢形土器がモデルか。体部は直線的に外上方へのびる。底部は角の取れた平底である。手捏ね成形で、外面には指頭圧痕が顕著である。1198はミニチュア土器である。壺形土器がモデルである。口縁部は内外面ともナデ調整を施す。外面の口頸部境にはタテハケ調整を施す。体部外面はナデ調整か。内面は肩部にハケ調整、肩部以下にはナデ調整を施す。

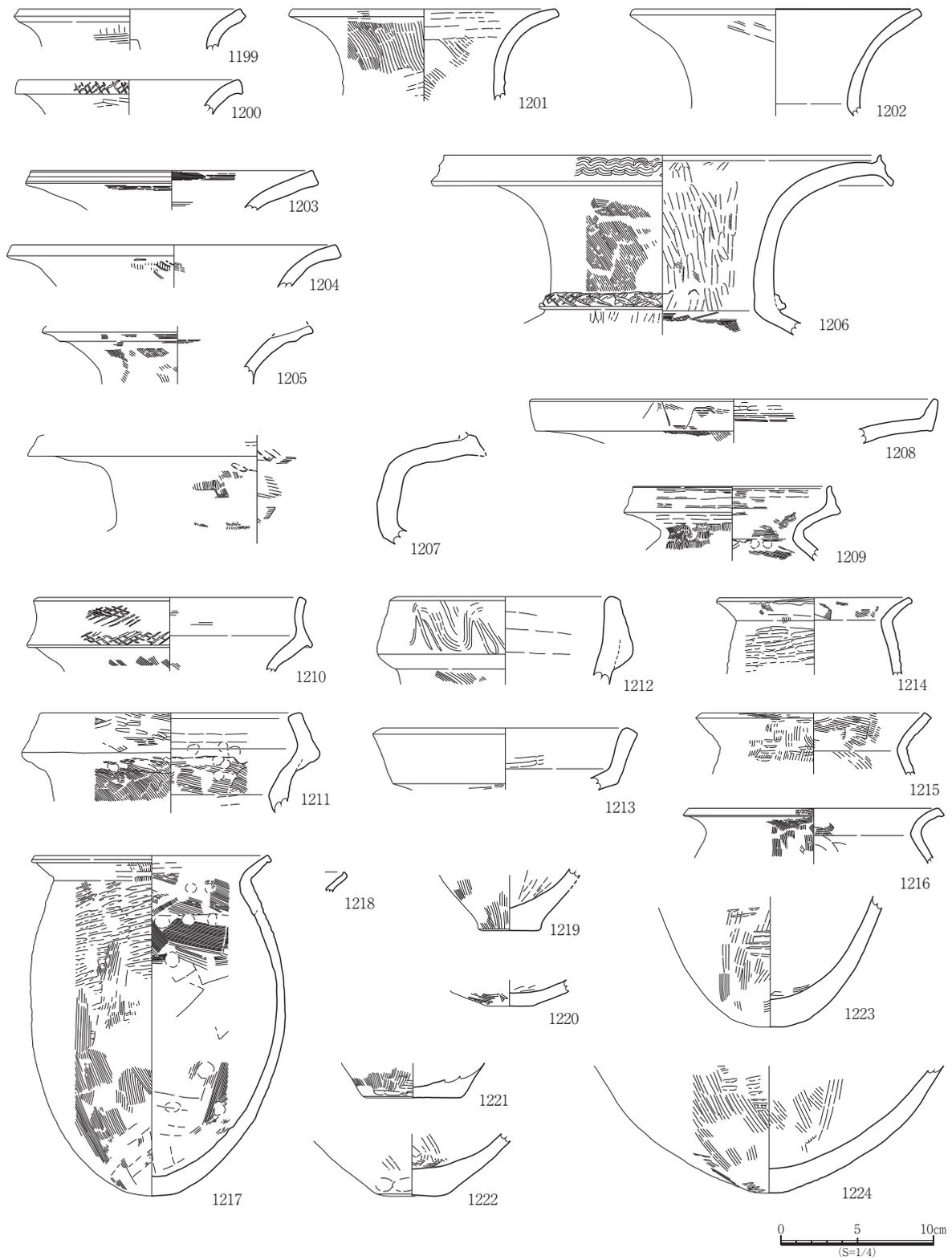


図296 7区 ST23 出土遺物実測図_1

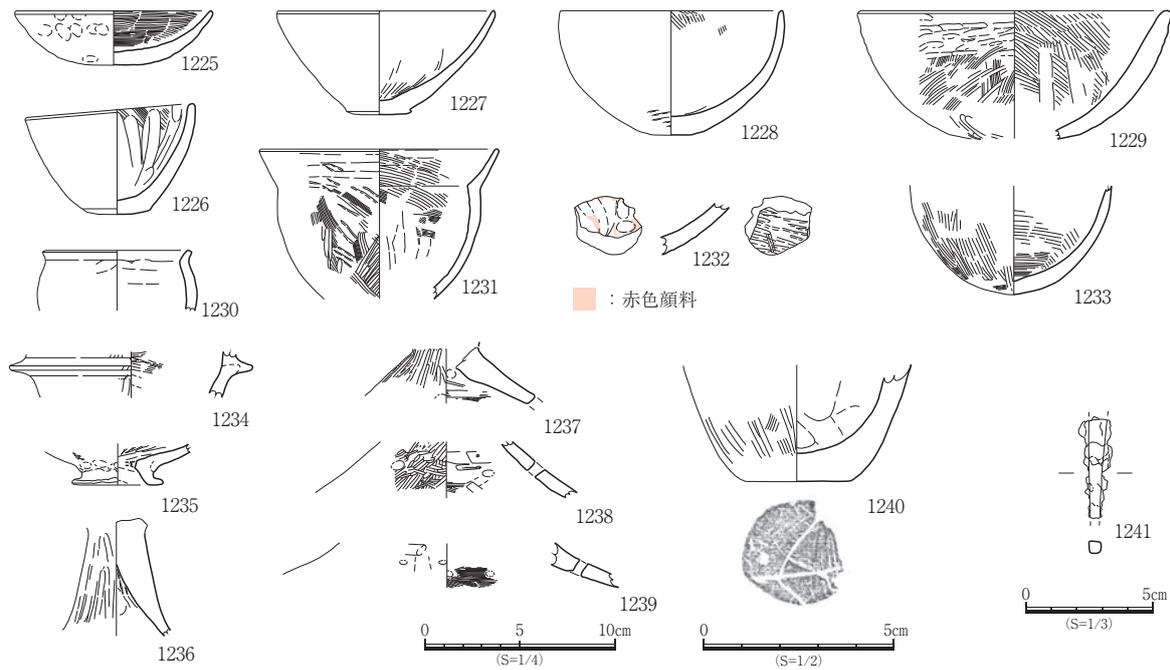


図297 7区 ST23 出土遺物実測図_2

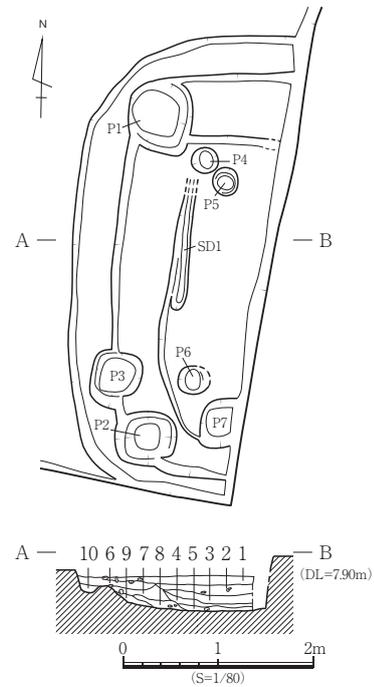
ST23

ST23は7-2区西部で検出した竪穴建物跡である。調査段階で使用されていた埋設管を避けて発掘調査を実施した。平面形は長軸約5.50m、短軸約5.30mの隅丸長方形を呈する。床面積は約29.1㎡と推測される。主軸方向はN-5°-Wである。検出面から床面までの深さは約38cmであり、埋土は暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルト他である。床面では中央ピット(ST23_中央P)、ベッド状遺構、壁溝(ST23_SD1・2)、小溝(ST23_SD3)、支柱穴(ST23_P1・2・4・5)等を検出した。中央ピット(ST23_中央P)は床面中央やや南寄り検出した。長軸約1.20m、短軸約0.42mの長楕円形を呈する。床面からの深さは約9cmを測り、埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトである。ベッド状遺構は全周でみられた。幅約80cm、低床部との比高差約8cmを測る。壁溝(ST23_SD1)は南辺と西辺のベッド上で検出した。幅約20cm、ベッド上面からの深さは1~2cmを測り、埋土は黄灰色(2.5Y4/1)細粒砂質シルト他である。検出長は約1.83mである。壁溝(ST23_SD2)は南辺のベッド上で検出した。幅約27cm、ベッド上面からの深さは約3cmを測り、埋土は黄灰色(2.5Y4/1)細粒砂質シルト他である。検出長は約0.54mである。小溝(ST23_SD3)は低床部に沿い全周で検出した。幅20~33cm、床面からの深さは3~8cmを測る。各支柱穴を結ぶ。埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト他である。支柱穴(ST23_P1)は低床部の北東部隅で検出した。直径約31cmの不整円形を呈し、床面からの深さは約27cmである。支柱穴(ST23_P2)は低床部の南東部隅で検出した。直径約33cmの不整円形を呈し、床面からの深さは約45cmである。支柱穴(ST23_P4)は低床部の南西部隅で検出した。長軸約27cm、短軸約22cmの不整円形を呈し、床面からの深さは約34cmである。支柱穴(ST23_P5)は低床部の北西部隅で検出した。直径約19cmの円形を呈し、床面からの深さは約40cmである。

図示した出土遺物は、弥生土器の壺(1199~1213)・甕(1214~1218)・底部(1219~1224)・鉢(1225~1233)・不明(1234)・脚付き鉢(1235)・高杯(1236~1239)、ミニチュア土器(1240)、鉄鏃(1241)である。

1199は壺である。口唇部には面取りを施す。口縁部外面はハケ調整後ナデ調整, 内面はナデ調整である。1200は壺である。口唇部には斜格子の刻目を施す。口縁部外面はヨコナデ調整, 内面はナデ調整である。1201は壺である。口唇部にはハケ状原体による面取りを施す。口縁部外面はヨコナデ調整およびタテハケ調整, 内面はヨコナデ調整である。頸部外面にはヨコナデ調整, 内面にはハケ調整を施す。1202は壺である。口唇部には面取りを施す。摩耗により調整等は不明瞭である。口縁部外面はハケ調整か。1203は壺である。口唇部に面取りを施す。外面に2条の退化した凹線文をめぐらせる。口縁部外面にはヨコナデ調整, 内面にはヨコハケ調整を施す。1204は壺である。口唇部には面取りを施す。口縁端部はヨコナデ調整で仕上げる。口縁部外面にはタテハケ調整後ナデ調整を施し, 内面にはヨコナデ調整を施す。頸部外面には焼成前の線刻がみられる。1205は壺である。口縁部外面はヨコナデ調整であり, 内面は接合面で剥離している。頸部は内外面ともハケ調整を施す。1206は壺である。直立気味の頸部から口縁部は大きくひろく。口唇部を拡張し, 6条1単位の櫛描波状文を施す。口縁部外面にはヨコナデ調整, 内面にはミガキ調整を施す。頸部外面はハケ調整後ナデ調整, 内面にはハケ調整後ミガキ調整を施す。頸部にはハケ状原体による斜格子の刻目突帯を貼り付ける。頸部内面に接合痕跡が認められる。1207は壺である。口唇部にはハケ状原体による面取りを施す。口縁部外面はヨコハケ調整か。頸部は内外面ともハケ調整を施す。1208は複合口縁壺である。上方へ拡張する二次口縁部を付加し, 外面には1条のヘラ描波状文を施す。一次口縁部は内外面ともハケ調整を施す。二次口縁部外面はハケ調整後ナデ調整, 内面はヨコナデ調整を施す。1209は複合口縁壺である。内傾する二次口縁部を付加する。一次口縁部外面はヨコナデ調整およびタテハケ調整, 内面はハケ調整である。二次口縁部外面にはヨコハケ調整後ヨコナデ調整を施し, 内面にはヨコナデ調整を施す。1210は複合口縁壺である。内湾する二次口縁部を付加し, 外面には斜格子の刻目を施す。一次口縁部外面はハケ調整およびヨコナデ調整である。内面は荒れる。二次口縁部外面はナデ調整, 内面はヨコナデ調整である。1211は複合口縁壺である。内傾する二次口縁部を付加し, 口唇部にはハケ状原体による面取りを施す。一次口縁部は内外面ともハケ調整を施す。二次口縁部外面にはハケ調整後ミガキ調整を施し, 内面にはヨコナデ調整を施す。頸部は接合面で剥離か。1212は複合口縁壺か。口縁部は僅かに内傾し, ハケ調整およびヨコナデ調整で仕上げる。外面には3~4条の櫛描波状文を施す。1213は二重口縁壺である。外反する二次口縁部を付加し, 口唇部には面取りを施す。外面にはヨコナデ調整を施す。内面はミガキ調整か。

1214は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し, 口唇部に



- 遺構埋土
1. 黒褐色 (10YR3/1) 細粒砂質シルト
 2. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルト
 3. 黒色 (10YR2/1) 細粒砂質シルト
 4. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルト
 5. 黒褐色 (10YR3/2) 細粒砂質シルトに明黄褐色 (10YR6/6) 細粒砂質シルトの地山ブロックを少量含む
 6. 黒褐色 (10YR3/2) 細粒砂質シルトに明黄褐色 (10YR6/6) 細粒砂質シルトの地山ブロックを少量含む
 7. 灰黄褐色 (10YR4/2) 細粒砂質シルトに明黄褐色 (10YR6/6) 細粒砂質シルトブロックを少量含む
 8. 黒色 (10YR2/1) 細粒砂質シルト
 9. 黒色 (10YR1/1) 細粒砂質シルト
 10. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに明黄褐色 (10YR6/6) 細粒砂質シルトの地山ブロックを少量含む (ST24_壁溝)

図298 7区 ST24 平面図・断面図

はルーズな面取りを施す。口縁部外面は叩き調整後タテハケ調整を施し、内面はヨコナデ調整およびヨコハケ調整を施す。体部外面には叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はナデ調整である。1215は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部にはハケ状原体による面取りを施す。外面は叩き調整後、タテハケ調整を施す。内面にはハケ調整を施す。1216は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部には面取りを施す。口縁部外面はハケ調整、内面はハケ調整およびナデ調整である。体部外面にはハケ調整を施し、内面にはナデ調整を施す。1217は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部には面取りを施す。口縁部外面はタテハケ調整後ヨコナデ調整を施し、内面はハケ調整後ヨコナデ調整を施す。体部外面には叩き調整後、タテハケ調整を施す。内面にはハケ調整およびナデ調整を施す。底部は丸底で、外底面にはナデ調整を施す。1218は甕である。口縁部を摘み上げ、内外面ともヨコナデ調整か。搬入品であり、庄内式か。1219は底部である。平底で外底面は叩き調整後ナデ調整を施すか。体部外面にはタテハケ調整、内面にはナデ調整を施す。破断面には粘土接合痕跡が認められる。1220は底部である。角の取れた平底で、外底面にはナデ調整を施し平滑に仕上げる。体部外面はミガキ調整か。内面はナデ調整である。内底面には円形の圧痕が重なる。1221は底部である。平底で外底面にはハケ調整およびナデ調整を施す。体部外面には叩き調整後タテハケ調整を施し、内面にはナデ調整を施す。接合面で剥離か。1222は底部である。角の取れた平底で、外底面にはナデ調整を施す。体部外面にはナデ調整およびヘラミガキ調整を施す。内面はナデ調整でナデ痕跡がみられる。破断面に粘土接合痕跡がみられる。1223は底部である。丸底で外底面には叩き目およびハケメがみられる。体部外面には叩き調整後タテハケ調整を施し、内面にはナデ調整を施す。1224は底部である。ほぼ丸底で外底面には叩き調整後、ナデ調整を施す。体部外面には叩き調整後タテハケ調整を施し、内面にはハケ調整およびナデ調整を施す。

1225は皿状の鉢である。底部は丸底で外底面にはナデ調整を施す。体部外面はナデ調整で指頭圧痕が認められる。内面は全面にハケ調整を施す。1226は鉢である。底部は角の取れた平底で、外底面にはナデ調整を施し平滑とする。体部外面はナデ調整であり、内面はハケ調整後ナデ調整を施す。1227は鉢である。底部は平底で外底面にはナデ調整を施す。摩耗のため調整等は不明である。1228は半球形を呈した鉢である。底部は強いナデ調整により丸底とする。体部外面には叩き調整後ナデ調整を施し、内面にはナデ調整を施す。口縁部内面にハケメか。外面に深いキレツが認められる。1229は半球形を呈した鉢である。底部はヘラケズリ調整により丸底とする。体部外面は叩き調整後、ハケ調整を施す。内面にはハケ調整後、下半部にナデ調整を施す。器壁が厚い。1230は外反口縁の鉢である。口縁部はヨコナデ調整で仕上げ、口唇部には面取りを施す。体部外面はナデ調整、内面は(ヘラ)ナデ調整である。1231は外反口縁の鉢である。口縁部外面は叩き調整後ヨコナデ調整、内面はヨコハケ調整を施す。体部外面には叩き調整後、ハケ調整を施す。内面にはハケ調整およびナデ調整を施す。1232は鉢の体部片である。外面には叩き調整後、ハケ調整およびナデ調整を施す。内面はナデ調整である。内面には赤色顔料が付着する。1233は鉢である。底部はハケ調整により丸底とする。体部は内外面ともハケ調整を施す。1234は全体の器形は不明である。鏝状の突帯を貼り付ける。外面はヨコナデ調整を施し、突帯以下は粗いハケ調整を施す。内面はハケ調整およびナデ調整を施す。1235は脚付き鉢である。指頭により短い脚を作出する。外底面にはナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後ナデ調整か。内面はナデ調整である。製塩土器か。1236は高杯である。直線的に僅かにひらく。上部は中実となる。外面はハケ調整後ミガキ調整を施す。内面はしぼり目がみられ、ナデ調整を施す。

脚部上面は接合面で剥離する。1237は高杯である。裾部は「ハ」の字形に大きくひらく。外面はミガキ調整, 内面はハケ調整およびナデ調整を施す。円孔を穿つ。また, 上部は接合面で剥離する。1238は高杯である。裾部は「ハ」の字形に大きくひらく。外面はハケ調整後, ミガキ調整を施す。内面はヘラケズリ調整およびハケ調整およびナデ調整を施す。直径約0.7cmの円孔を穿つ。1239は高杯である。裾部は「ハ」の字形に大きくひらく。外面はナデ調整, 内面はハケ調整である。直径約0.5cmの円孔を穿つ。1240はミニチュア土器である。底部は角の取れた平底で, 外底面には葉脈痕が認められる。体部外面はハケ調整, 内面はナデ調整を施す。1241は鉄鏝の茎部か。鏝身および基部は欠損する。基部にむかって幅が狭くなる。断面形は方形を呈する。

ST24

ST24は7-2区南東部で検出した竪穴建物跡である。長軸の検出長は約4.70m, 短軸の検出長は約2.70mであり, 平面形は一辺約5.10mの隅丸長方形を呈する。床面積は約26.0㎡と推測される。主軸

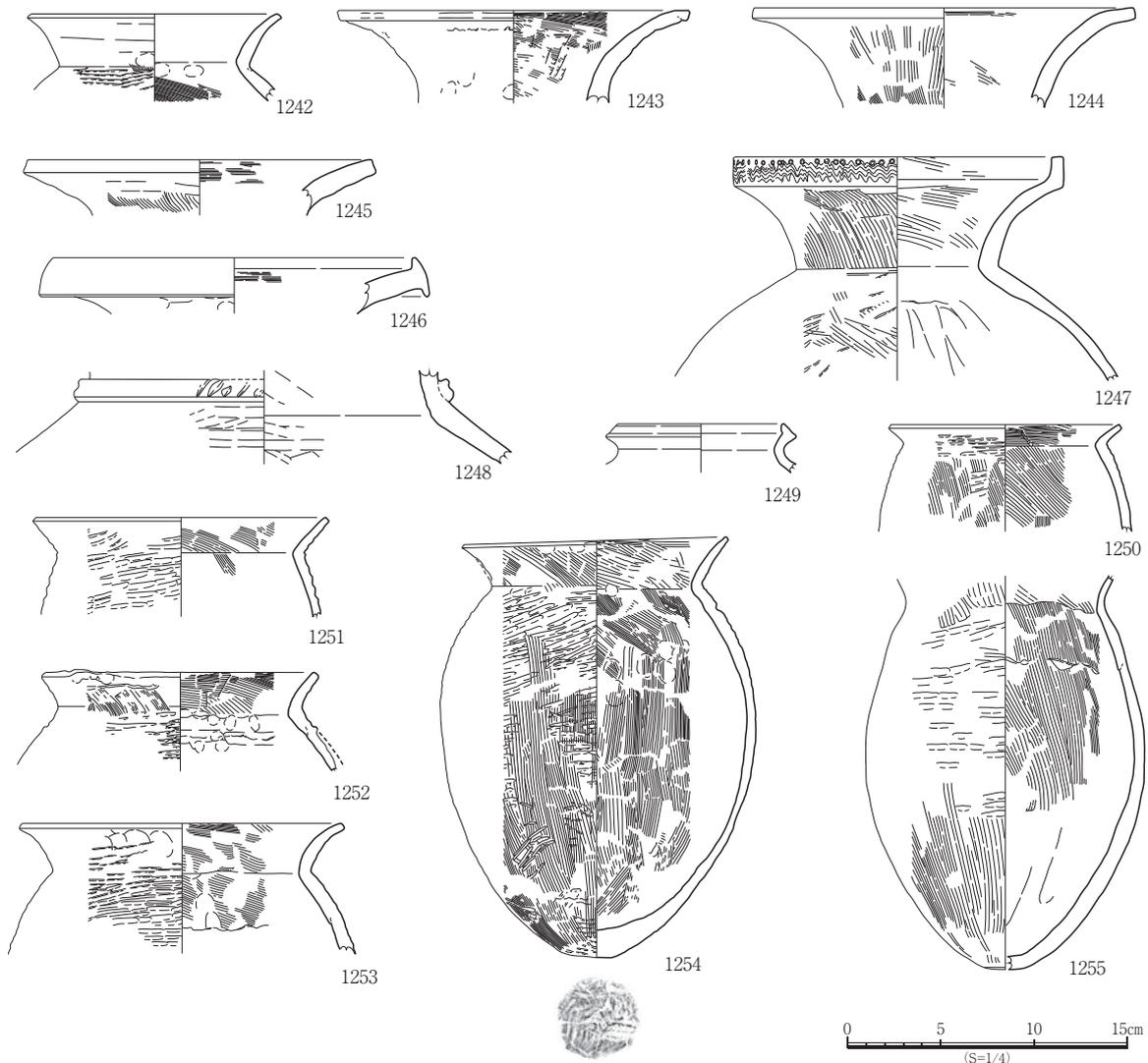


図299 7区 ST24 出土遺物実測図_1

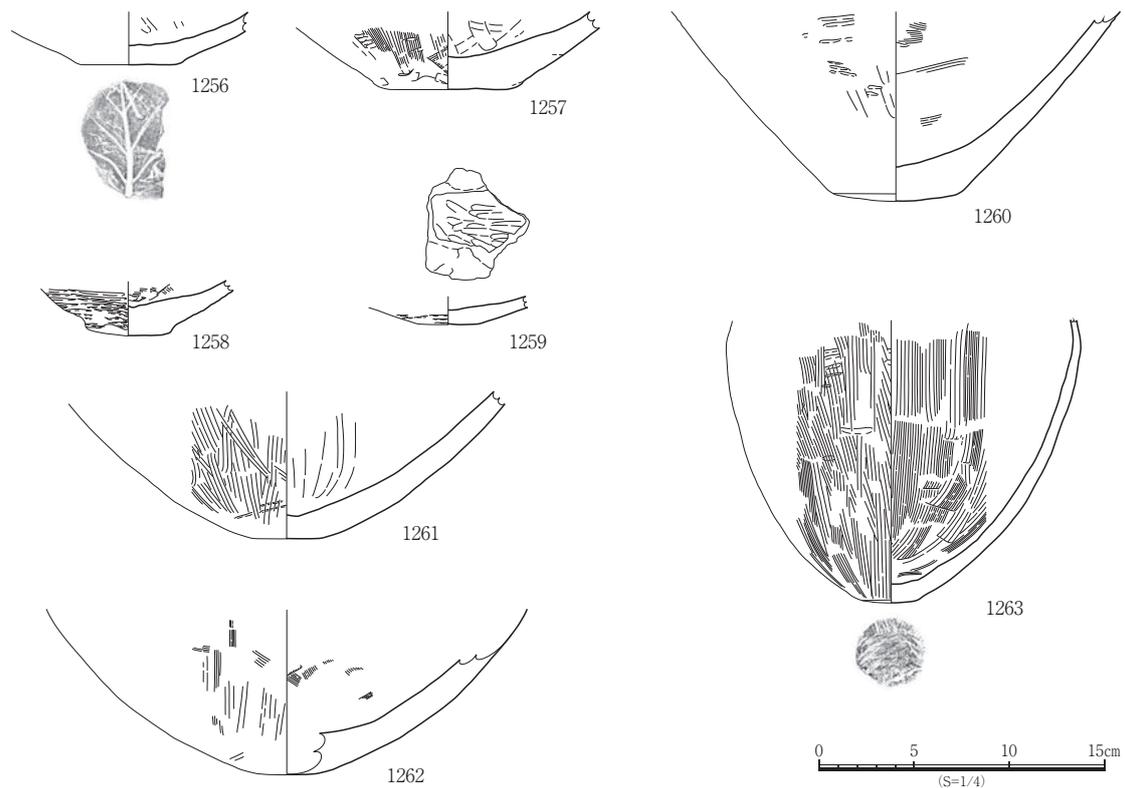


図300 7区 ST24 出土遺物実測図_2

方向はN-1°-Eである。検出面から床面までの深さは約36cmであり、埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルト他である。床面ではベッド状遺構、支柱穴(ST24_P4~6)、小溝(ST24_SD1)、貯蔵穴(ST24_P1~3)等を検出した。ベッド状遺構は検出した範囲全周でみられた。ステップを持ち階段状を呈する。1段目が幅20~40cm, 比高差約20cm, 2段目が幅50~60cm, 比高差約15cmである。2段目のベッド状遺構の上に1段目のベッド状遺構の上面まで盛り土し、幅約1.00mのベッド状遺構として構築していた可能性がある。支柱穴(ST24_P4)は低床部の北西部隅で検出した。直径約28cmの円形を呈する。床面からの深さは約30cmである。支柱穴(ST24_P5)は低床部の北西部隅で検出した。直径約30cmの円形を呈する。床面からの深さは約21cmである。いずれかが支柱穴と考えられる。支柱穴(ST24_P6)は低床部の南西部隅で検出した。直径約34cmの円形を呈する。床面からの深さは約41cmである。小溝(ST24_SD1)は低床部で検出した。幅約16cm, 床面からの深さ3~4cmを測り、埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト他である。検出長は約1.22mである。支柱穴を連結するものと推測される。貯蔵穴(ST24_P1)は北西部で検出した。長軸約73cm, 短軸約68cmの不整隅丸方形を呈する。ベッド上面からの深さは約74cmを測り、埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。この遺構からは土器(1259・1267~1269・1273・1275・1282)が出土した。貯蔵穴(ST24_P2)は南西部で検出した。長軸約67cm, 短軸約58cmの隅丸方形を呈する。ベッド上面からの深さは約42cmを測り、埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。この遺構からはベンガラ付きの磨石(1280)が出土した。貯蔵穴(ST24_P3)は南西部で検出した。長軸約58cm, 短軸約52cmの隅丸方形を呈する。ベッド上面からの深さは約55cmを測る。

図示した出土遺物は、弥生土器の壺(1242~1248)・甕(1249~1255)・底部(1256~1263)・体部(1264)・鉢(1265~1274)・高杯(1275), 支脚(1276・1277), ミニチュア土器(1278・1279), 磨石(1280・1281)・台石

(1282・1283)である。

1242は壺である。口縁部は「く」の字状を呈する。口縁部外面にはヨコナデ調整, 内面にはナデ調整を施す。体部外面には叩き調整後, ナデ調整を施す。内面は肩部にはナデ調整, 肩部以下にはハケ調整を施す。1243は壺である。口縁部は大きく外反させる。口縁部外面は摩耗のため調整等は不明瞭である。ナデ調整およびハケ調整か。内面はハケ調整である。1244は壺である。口縁部は大きくひらき, 口唇部には面取りを施す。口縁端部外面はヨコナデ調整, 内面はヨコハケ調整である。頸部外面はタテハケ調整, 内面はハケ調整を施す。接合面で剥離する。内面は荒れる。1245は壺である。口縁部は大きくひらき, 口唇部には面取りを施す。外面はヨコナデ調整およびハケ調整を施し, 内面はヨコハケ調整を施す。1246は壺である。口縁部は大きくひらき, 口唇部は上下に拡張する。外面は摩耗のため, 文様の有無は不明である。口縁部外面にはナデ調整あるいはミガキ調整を施し, 内面にはヨコハケ調整を施す。接合面

で剥離する。1247は複合口縁壺である。短く直立する二次口縁部を付加し, 口唇部には面取りを施す。外面には竹管文, 5条1単位の櫛描波状文を上下に配置する。一次口縁部外面はタテハケ調整, 内面はハケ調整を施す。二次口縁部内面はハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後ハケ調整を施し, 内面はナデ調整を施す。肩部内面には接合痕跡が認められる。1248は壺である。頸部内面はナデ調整を施す。体部外面はナデ調整か。内面はヨコナデ調整およびヘラナデ調整を施す。頸部外面には斜め方向の刻目突帯を貼り付ける。

1249は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し, 口唇部を上方に拡

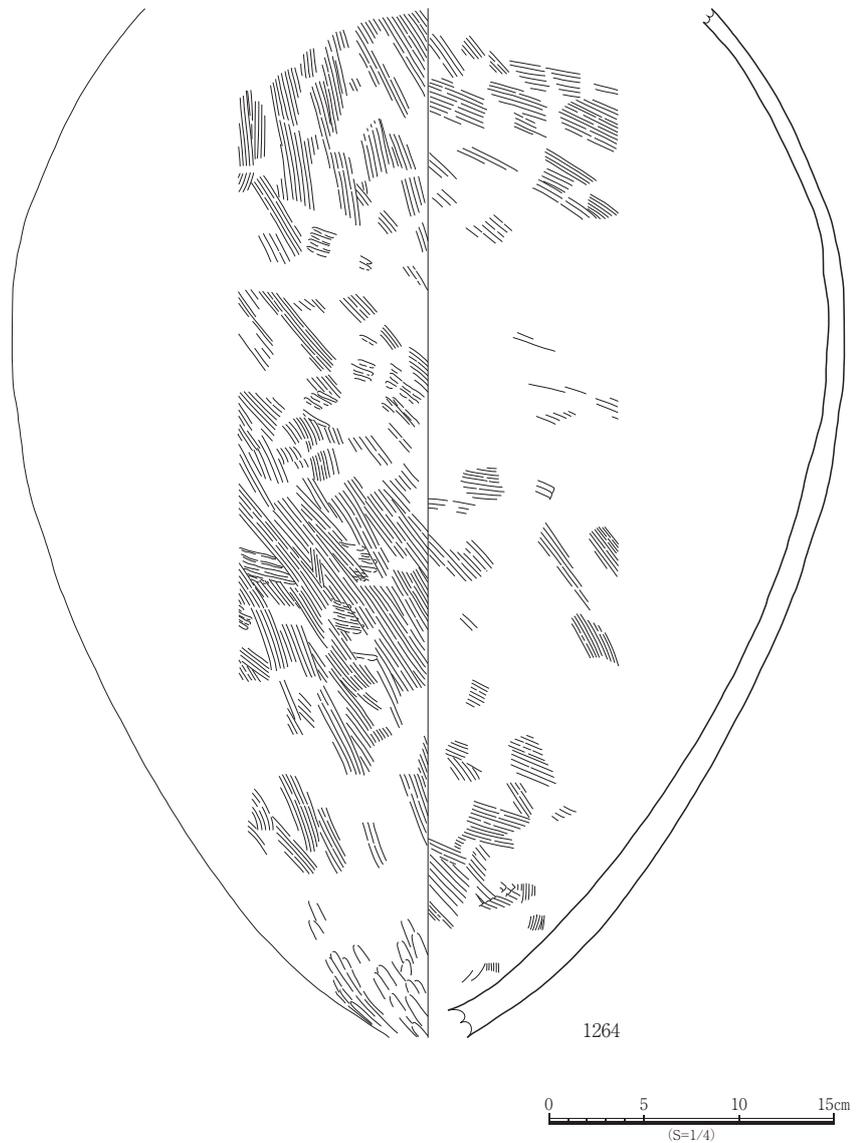


図301 7区 ST24 出土遺物実測図_3

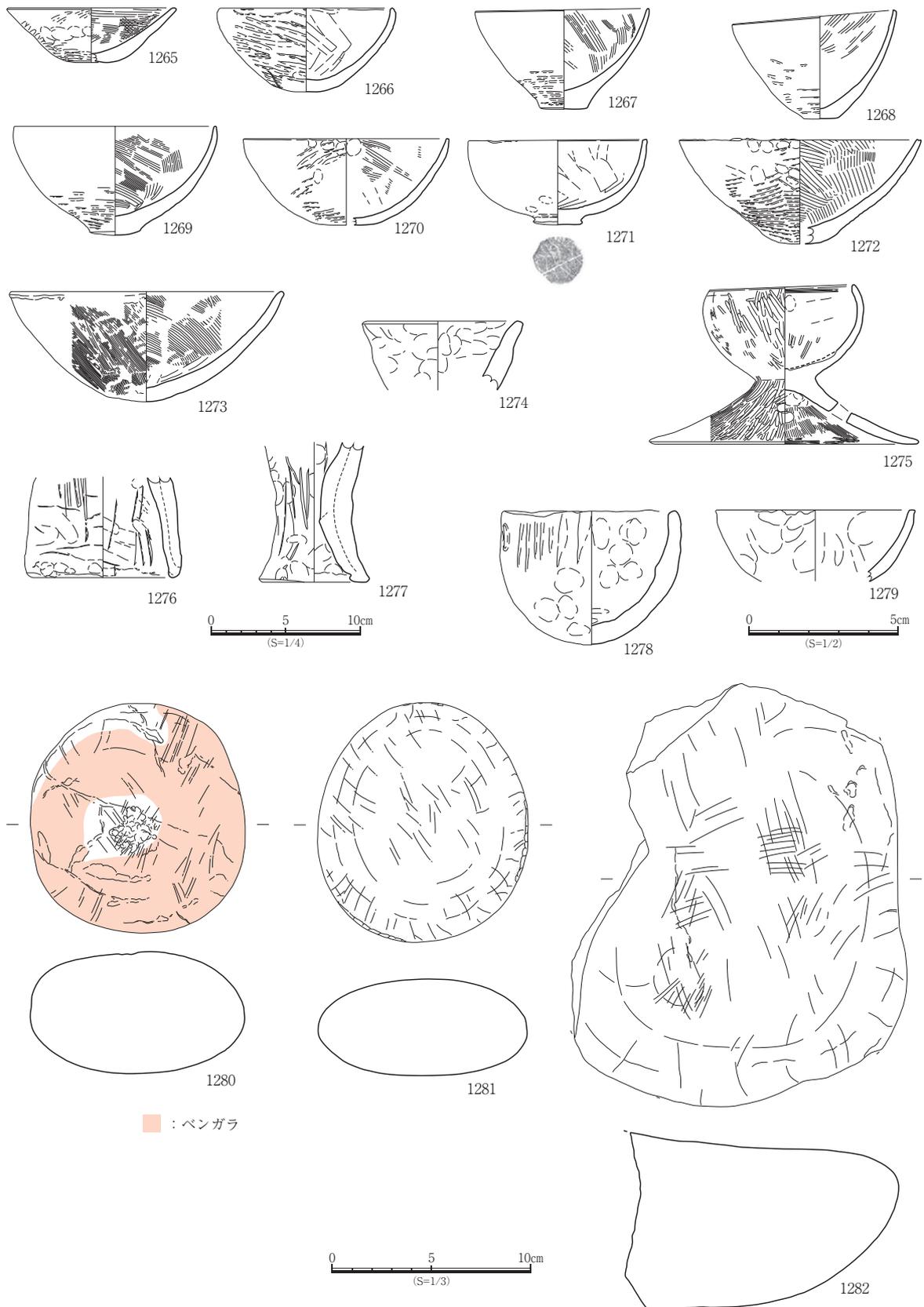


図302 7区 ST24 出土遺物実測図_4

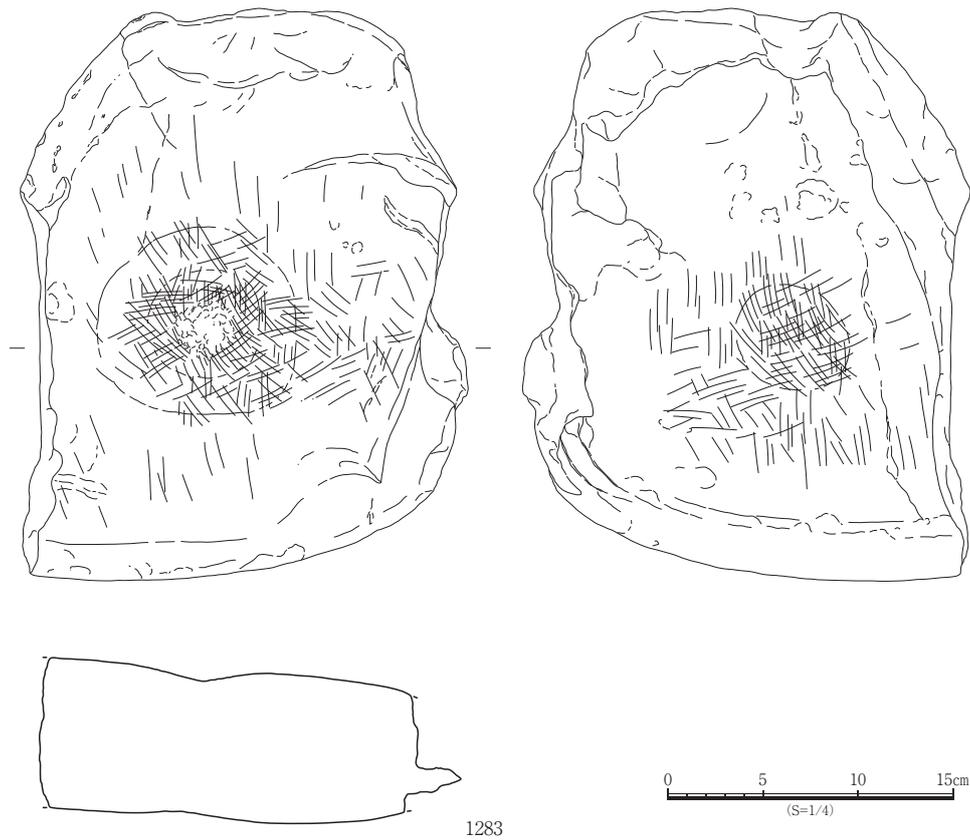


図303 7区 ST24 出土遺物実測図_5

張させる。外面に2条の退化した凹線文を施す。内外面ともヨコナデ調整を施す。1250は甕である。口縁部は「く」の字状を呈する。口縁部外面には叩き調整後ナデ調整を施し、内面にはヨコハケ調整を施す。体部外面には叩き調整後ハケ調整を施し、内面には斜め方向のハケ調整を施す。1251は甕である。口縁部は「く」の字状を呈する。口縁部外面は上胴部からの一連の叩き調整後、指頭により成形する。内面はハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後ナデ調整を施し、内面はハケ調整およびナデ調整を施す。1252は甕である。口縁部は「く」の字状を呈する。口縁部外面は上胴部からの一連の叩き調整後、ハケ調整を施す。内面はハケ調整を施す。体部外面には叩き調整後ナデ調整を施し、内面にはナデ調整を施す。肩部内面には粘土接合痕跡がみられ、指頭圧痕が顕著である。被熱により発泡状態である。1253は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部にはルーズな面取りを施す。口縁部外面は上胴部からの一連の叩き調整後、指頭により成形する。内面にはハケ調整を施す。体部外面には叩き調整後ナデ調整を施し、内面にはナデ調整を施す。肩部内面には粘土接合痕跡がみられる。1254は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部にはルーズな面取りを施す。口縁部外面は斜め方向の粗いハケ調整を施し、内面にはハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後ハケ調整を施し、内面はハケ調整およびナデ調整を施す。底部は角の取れた平底で、外底面には叩き調整後ナデ調整を施す。1255は甕である。口縁部外面はタテハケ調整、内面はハケ調整およびナデ調整を施す。体部外面には叩き調整後、下半部にタテハケ調整を施す。内面にはハケ調整を施し、下半部にはナデ調整を施す。底部は角の取れた平底である。内面には幅約3cmの粘土帯接合痕跡が認められる。1256は壺の底部である。角の取れた平底で、外底面には葉脈痕が認められる。体部外面はナデ調整で平滑に仕上

げる。内面にはナデ調整およびミガキ調整を施し、器面は荒れる。1257は壺の底部である。角の取れた平底で、外底面にはナデ調整を施す。体部外面には叩き調整後、タテハケ調整を施す。内面はナデ調整である。1258は底部である。円盤状の平底で外底面にはナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後ナデ調整を施し、内面にはハケ調整を施す。1259はST24_P1から出土した底部である。強いナデ調整により丸底とする。体部外面には叩き調整後ナデ調整を施し、内面にはミガキ調整を施す。1260は壺の底部である。丸みを帯びた平底で、外底面にはナデ調整を施す。体部外面には叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はハケ調整およびナデ調整である。1261は壺の底部である。ほぼ丸底で外底面にはナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後ハケ調整、内面はナデ調整を施す。1262は壺の底部である。

丸底で外底面にはナデ調整を施す。体部は内外面ともハケ調整およびナデ調整である。1263は甕の底部である。ほぼ丸底で、外底面には叩き目が認められる。体部外面は叩き調整後タテハケ調整を施し、内面にはタテハケ調整を施す。1264は壺の体部である。中位から上胴部に最大径部を持つ。外面は叩き調整後、ハケ調整を施しミガキ状を呈する部分がみられる。また、底部付近は縦方向のヘラミガキ調整を密に施す。内面は横方向から斜め方向の粗いハケ調整を施す。

1265は浅い鉢である。体部は直線的に外上方へのびる。底部はほぼ丸底で、外底面にはナデ調整を施す。体部外面には叩き調整後ナデ調整を施し、内面にはハケ調整を施し、内底面にはナデ調整を施す。1266は鉢である。底部は丸底で、外底面にはナデ調整を施す。体部外面には叩き調整後ナデ調整を施し、内面にはヘラナデ調整を施す。1267はST24_P1から出土した鉢である。底部は円盤状の平底で、外底面にはナデ調整を施す。体部外面には叩き調整後ナデ調整を施し、内面にはハケ調整を施す。1268はST24_P1から出土した鉢である。底部は角の取れた平底で外底面にはナデ調整を施し、ハケメがみられる。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はハケ調整後、下半部にナデ調整を施す。歪む。ほぼ完存である。1269はST24_P1から出土した半球形を呈する鉢である。底部は丸みを持った平底で、外底面にはナデ調整を施す。体部外面には叩き調整後ナデ調整を施す。上半部のナデ調整は丁寧である。内面にはハケ調整を施し、内底面にはナデ調整を施す。1270は半球形を呈する鉢である。底部は平らな部分が残る丸底で、外底面にはナデ調整を施す。体部外面には叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はハケ調整を施し、底部付近にはナデ調整を施す。1271は鉢である。底部は円

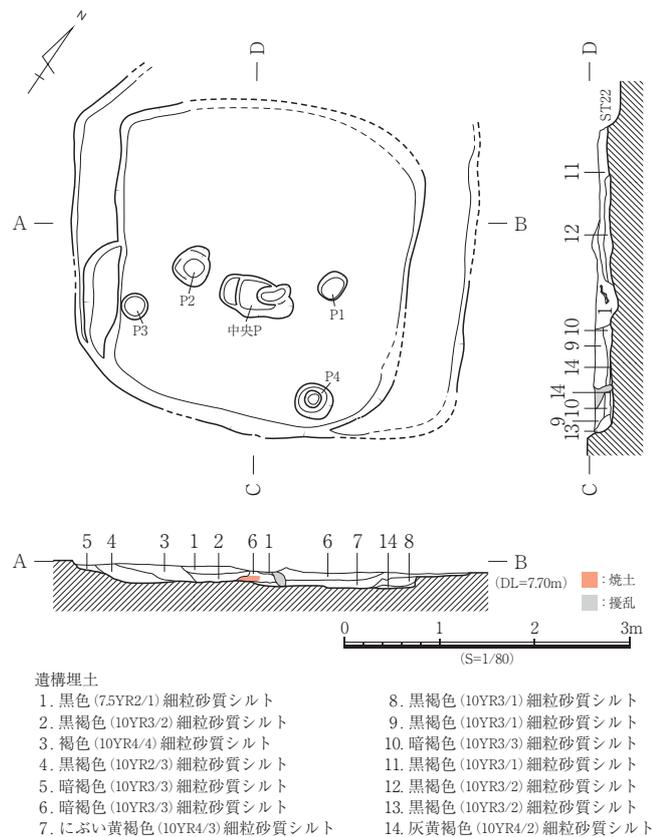


図304 7区 ST25 平面図・断面図

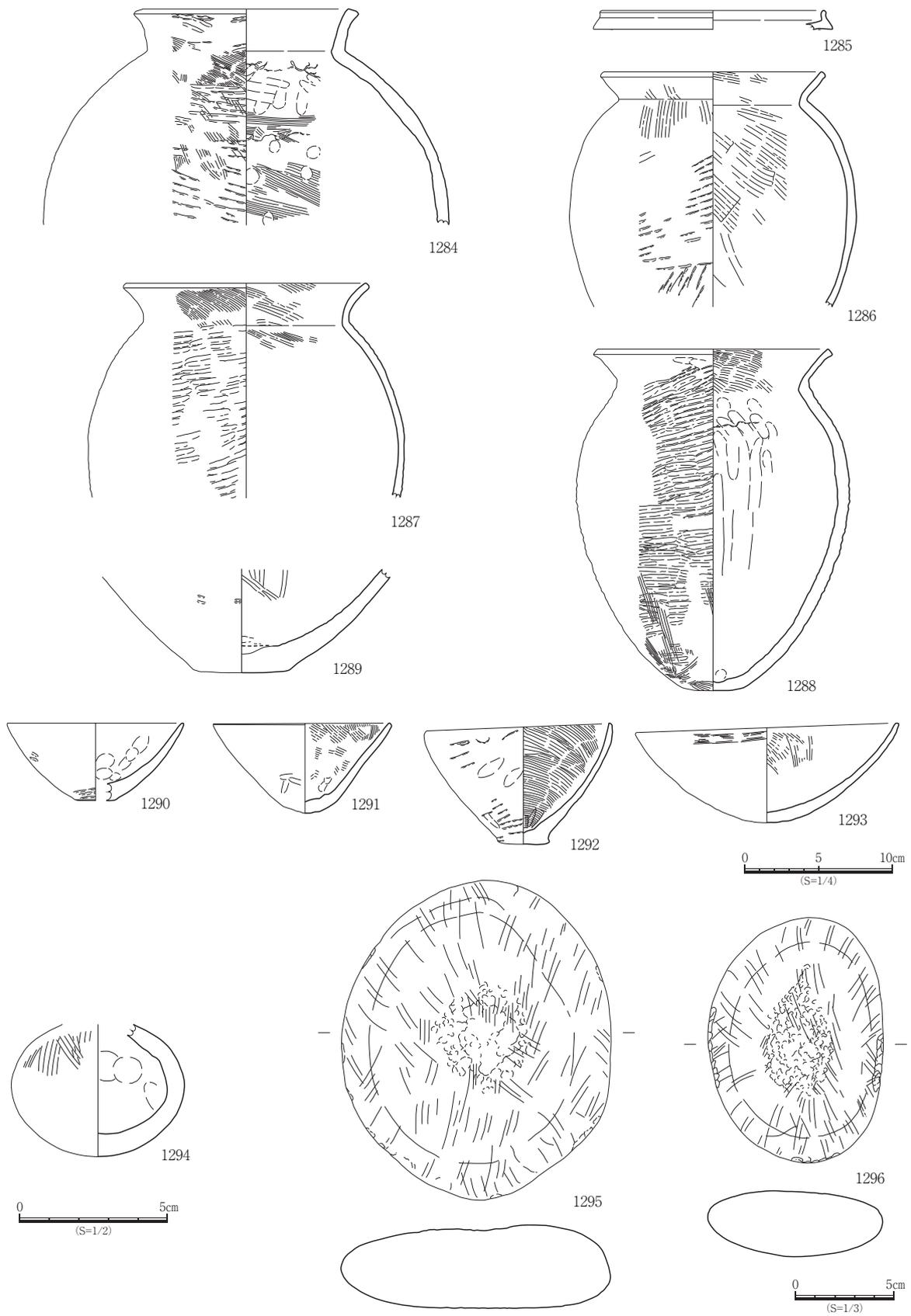


图305 7区 ST25 出土遺物実測図

盤状の平底で、外底面には葉脈痕が認められる。体部外面にはナデ調整を施し、内面にはヘラナデ調整を施す。外面にはキレットが多くみられる。1272は鉢である。底部は強いナデ調整により丸底とする。体部外面には叩き調整後ナデ調整を施し、内面は全面にハケ調整を施す。1273はST24_P1から出土した浅い鉢である。底部はハケ調整により丸底とする。体部外面にはハケ調整を施す。内面には斜め方向のハケ調整を施し、内底面付近にはナデ調整を施す。1274は鉢である。器壁は厚く、指頭圧痕が顕著である。天地が逆の可能性がある。1275はST24_P1から出土した低脚高杯である。杯部は丸みを持つ。口唇部はシャープに仕上げる。外面はミガキ調整を密に施し、内面にはナデ調整およびミガキ調整を施す。脚部外面には縦方向のヘラミガキ調整を密に施す。内面はハケ調整である。四方に直径1.1cmの円孔を穿つ。1276は支脚である。残存部は中空の円筒状を呈する。外面は叩き調整後ナデ

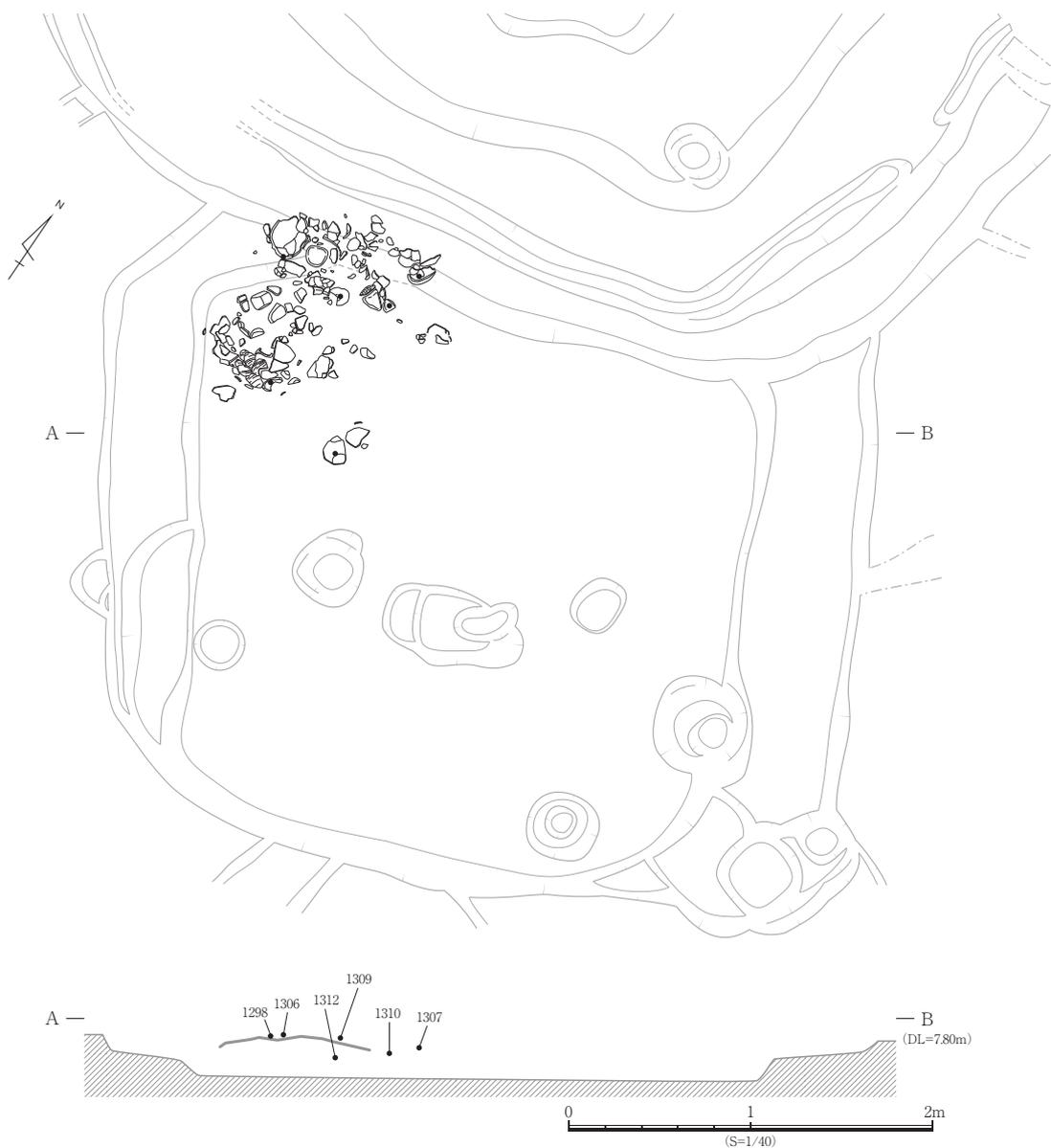


図306 7区 土器集中 遺物出土状態図

調整か。内面はナデ調整を施す。内外面とも縦方向のヘラナデ調整の痕跡がみられる。粘土接合痕跡が明瞭である。1277は支脚である。残存部は中空で円筒状を呈し、端部は上から押し付けることで平坦面となる。手捏ね成形である。外面には縦方向のヘラナデ調整の痕跡がみられる。粘土接合痕跡は明瞭である。1278はミニチュア土器である。鉢形土器がモデルである。手捏ね成形である。外面は叩き板での調整か。1279はミニチュア土器である。鉢形土器がモデルである。手捏ね成形で内面はミガキ状を呈する。1280はST24_P2から出土した砂岩製の磨石である。平面形が円形の扁平な河原石を利用する。断面形は長楕円形を呈する。中央部および側面に敲打痕跡が認められる。ベンガラが付着する。1281はST24_P2から出土した砂岩製の磨石である。平面形が円形の扁平な河原石を利用する。断面形は楕円形を呈する。側面に弱い敲打痕跡が認められる。赤色顔料が付着か。1282はST24_P1

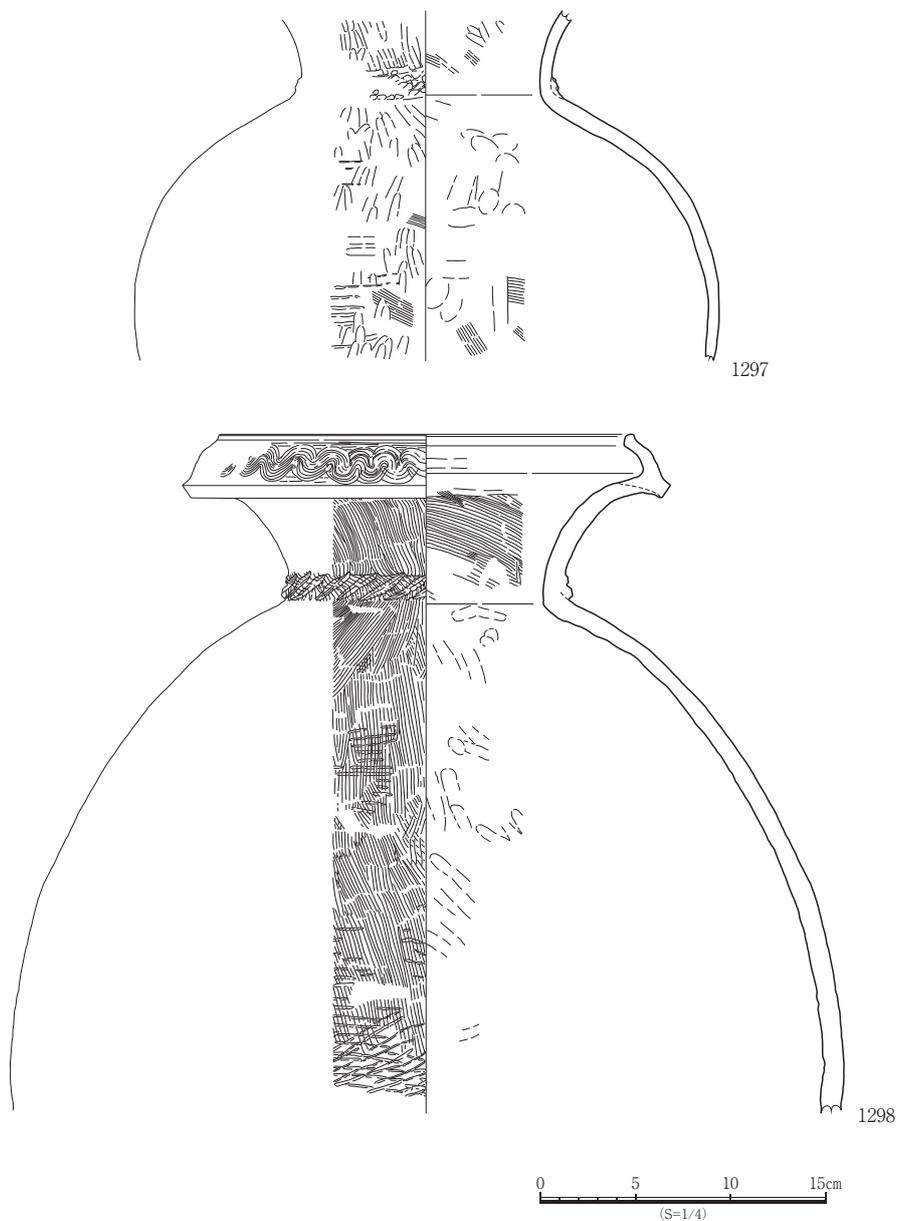


図307 7区 土器集中 出土遺物実測図_1

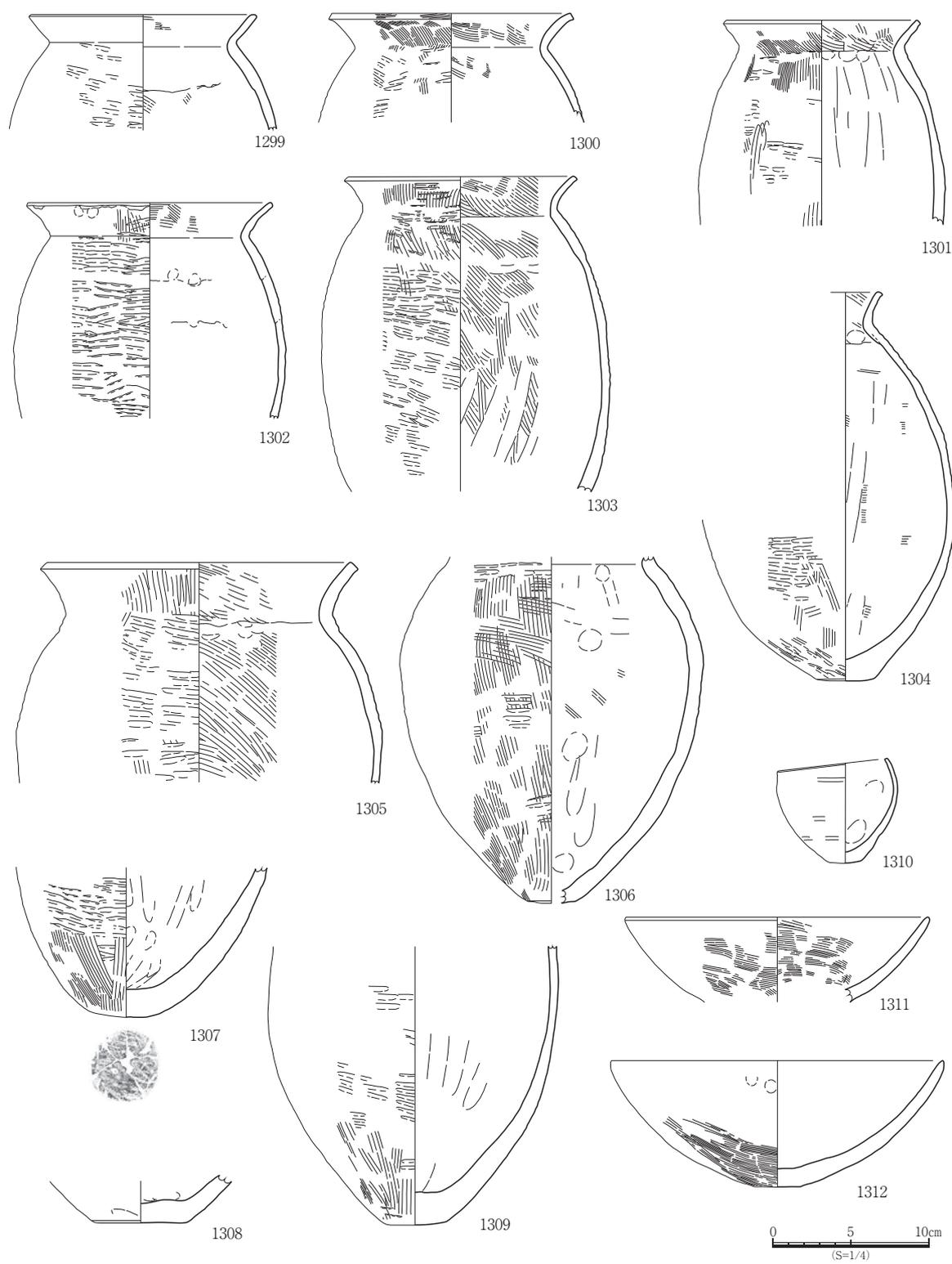


图308 7区 土器集中 出土遺物実測図_2

から出土した礫岩製の台石である。扁平な河原石を利用する。数ヶ所に使用による弱い凹みが認められる。裏面には鉄錆が付着か。1283は砂岩製の台石である。扁平な河原石を利用する。使用による凹み、その周囲は変色する。裏面にも使用により凹む部分がある。

ST25

ST25は7-2区中央部やや東寄りで検出した竪穴建物跡である。ST22に切られる。長軸約4.20m、短軸の検出長は約3.30mであり、平面形は一辺約4.20mの隅丸長方形を呈する。床面積は約17.6㎡と推測される。主軸方向はN-26°-Wである。検出面から床面までの深さは約24cmであり、埋土は暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルト他である。床面では中央ピット(ST25_中央P)、ベッド状遺構、支柱穴(ST25_P1・2)等を検出した。中央ピット(ST25_中央P)は床面中央やや南寄りで検出した。長軸約0.79m、短軸約0.43mの不整長楕円形を呈し、西端部にテラスを有する。床面からの深さは約12cmであり、埋土は黒色(7.5YR2/1)細粒砂質シルトである。ベッド状遺構は南辺を除く3辺で検出した。幅40～60cm、低床部からの比高差約8cmを測る。支柱穴(ST25_P1)と支柱穴(ST25_P2)は床面のほぼ中央に位置しており、床面の四隅に支柱穴となり得るピットを検出していないことから本STは2本柱で上屋を支える構造の建物と推測される。支柱穴(ST25_P1)は長軸約31cm、短軸約26cmの不整円形を呈する。床面からの深さは約40cmであり、埋土は黒褐色(7.5YR3/1)細粒砂質シルトである。支柱穴(ST25_P2)は直径約38cmの不整円形を呈する。床面からの深さは約38cmであり、埋土は黒褐色(7.5YR3/1)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は、弥生土器の壺(1284)・甕(1285～1288)・底部(1289)・鉢(1290～1293)、ミニチュア土器(1294)、叩石(1295・1296)である。

1284は壺である。口縁部は直線的に短く外上方へ立ち上がり、口唇部には面取りを施す。口縁部外面には叩き調整後ヨコハケ調整を施し、内面にはヨコハケ調整を施す。体部外面には叩き調整後、ハケ調整を施す。内面にはナデ調整およびハケ調整を施し、指頭圧痕が認められる。肩部内面には粘土接合痕跡がみられる。1285は凹線文系の甕である。口唇部を上方に拡張し、2条の退化した凹線文を施すか。口縁部は内外面ともヨコナデ調整を施す。1286は甕である。口縁部は「く」の字状を呈する。口縁部外面にはタテハケ調整を施し、内面には粗いハケ調整を施す。体部外面には叩き調整後、ハケ調整およびナデ調整を施す。内面には粗いハケ調整を施す。煤が激しく付着する。1287は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部にはハケ状原体による面取りを施す。口縁部外面には叩き調整後ハケ調整、内面にはハケ調整を施す。体部外面には叩き調整後、ナデ調整を施す。内面は肩部にはハケ調整、肩部以下にはナデ調整を施す。キレツが認められる。1288は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部にはルーズな面取りを施す。口縁部外面は上胴部からの一連の叩き調整後、指頭により成形する。内面にはハケ調整を施す。体部外面には叩き調整後ナデ調整を施し、下半部にはハケ調整を施す。内面はナデ調整であり、内底面には指頭圧痕が認められる。底部はほぼ丸底で、外底面にはハケ調整を施す。また、肩部内面には粘土接合痕跡が認められる。1289は壺の底部である。角の取れた平底で、外底面にはナデ調整を施す。体部外面には叩き調整後、丁寧なナデ調整を施す。内面にはハケ調整後、ナデ調整を施す。内底面には凹凸がみられる。1290は半球形を呈した鉢である。底部は角の取れた平底である。体部外面には叩き調整後ナデ調整を施し、内面にはナデ調整を施す。1291はST25_P4から出土した鉢である。体部は直線的に外上方へのびる。底部は丸底で、外底面に

はナデ調整を施す。体部外面にはナデ調整を施し、内面にはハケ調整を施す。内底面は未調整か。キレツが認められる。全体的に歪み、雑なつくりである。1292は鉢である。底部は円盤状の平底で、外底面にはナデ調整を施す。体部外面には叩き調整後、ナデ調整を施す。内面は全面にハケ調整を施す。歪む。1293は浅い鉢である。底部は丸底で、外底面にはナデ調整を施す。体部外面は幅の狭いヘラナデ調整か。内面にはハケ調整を施す。1294はミニチュア土器である。壺形土器がモデルである。体部は偏球形を呈する。外面はハケ調整およびナデ調整である。内面はナデ調整である。1295は砂岩製の叩石である。平面形が円形の扁平な河原石を利用する。断面形は長楕円形を呈する。両面とも中央部に敲打痕跡が認められる。縁辺の一部にも敲打痕跡が認められる。完存である。1296は砂岩製の叩石である。平面形が円形の扁平な河原石を利用する。断面形は長楕円形を呈する。中央部および縁辺に敲打痕跡が認められる。完存である。

ST26

ST26は7-1-2区で検出した竪穴建物跡である。ST2を切る。大部分が調査区外であり、平面形および規模等は不明である。溝跡の可能性はある。

図示した出土遺物はない。

土器集中

7-2区ST22とST25にわたって検出した。両STの掘削後の状況等を考慮に入れるとST25に属する可能性が高い。その場合、層位的には検出面付近である。

図示した出土遺物は、弥生土器の壺(1297・1298)・甕(1299~1306)・底部(1307~1309)・鉢(1310~1312)である。

1297は壺である。頸部外面はタテミガキ調整、内面はハケ調整後ミガキ調整を疎らに施す。体

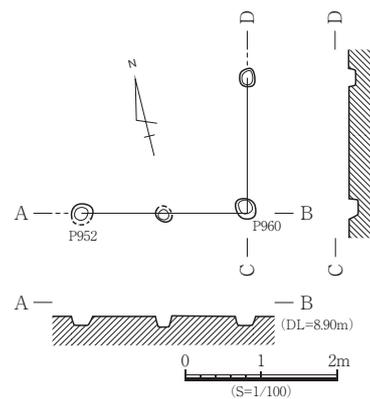


図309 7区 SB1 平面図・エレベーション図

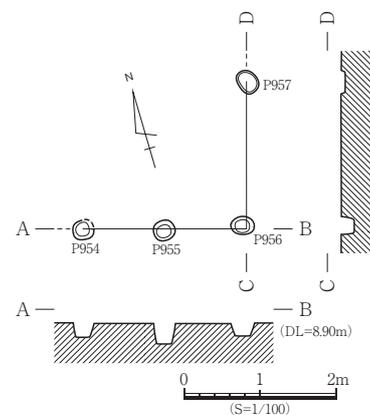


図310 7区 SB2 平面図・エレベーション図

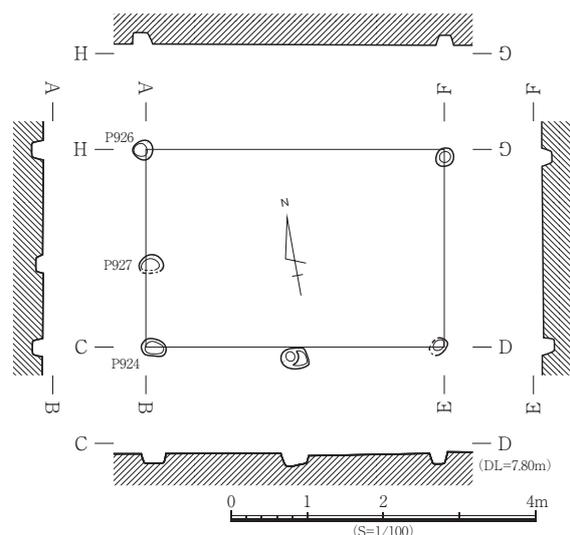


図311 7区 SB3 平面図・エレベーション図

部外面には叩き調整後ハケ調整を施し、さらにミガキ調整を施す。内面は肩部にはナデ調整を施し、指頭圧痕がみられる。肩部以下にはハケ調整後ナデ調整を施す。頸部には刺突文を施した扁平な突帯を貼り付ける。また、肩部内面には接合痕跡が認められる。1298は大型の複合口縁壺である。内傾する二次口縁部を付加する。口縁端部を折り曲げ、口唇部には面取りを施す。外面には櫛描波状文を施す。二次口縁部の胎土は他の部位のものとは異なる。二次口縁部は内外面ともにヨコナデ調整を施す。一次口縁部外面はタテハケ調整、内面は斜め方向のハケ調整である。頸部外面にはヘラによる斜め方向の刻目を施す。体部外面には叩き調整後ハケ調整を施し、内面にはナデ調整を施す。1299は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部は丸くおさめる。口縁部外面はナデ調整、内面はハケ調整を施す。体部外面には叩き調整後ナデ調整を施す。肩部内面にはナデ調整を施し、肩部以下にはハケ調整を施す。また、

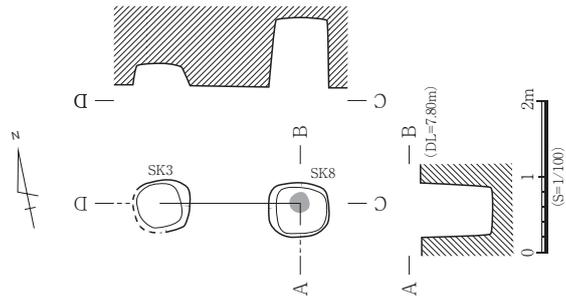


図312 7区 SB4 平面図・エレベーション図

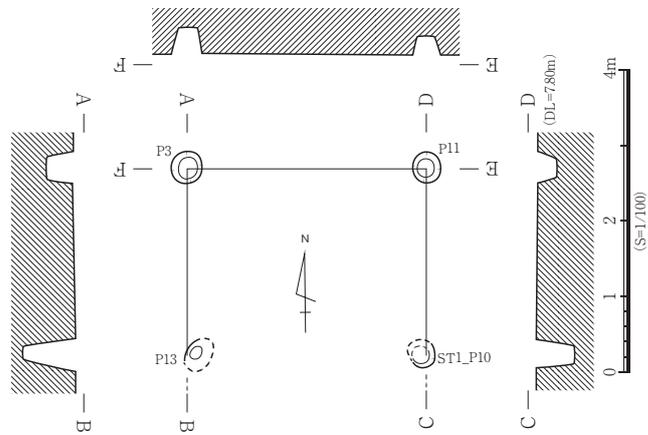


図313 7区 SB5 平面図・エレベーション図

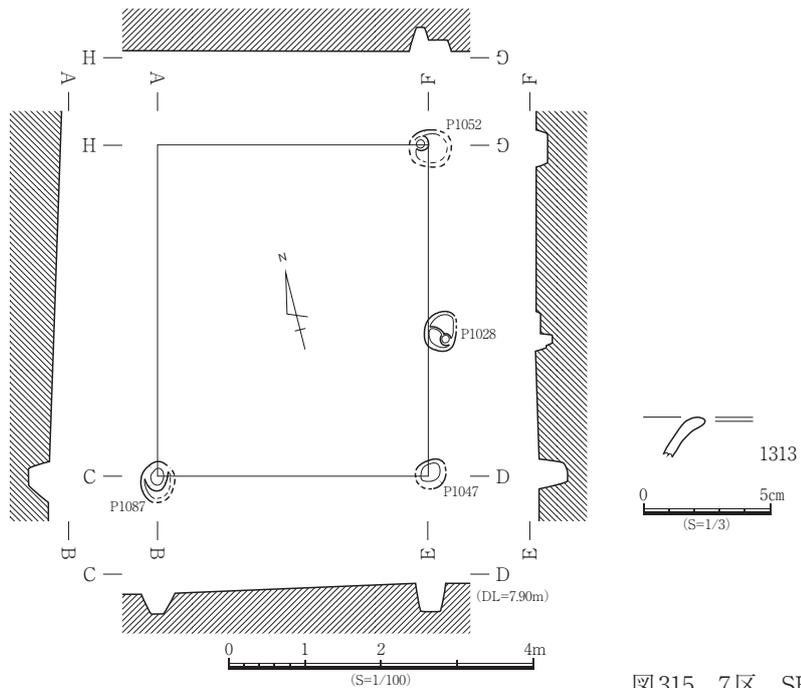


図314 7区 SB6 平面図・エレベーション図

図315 7区 SB6
出土遺物実測図

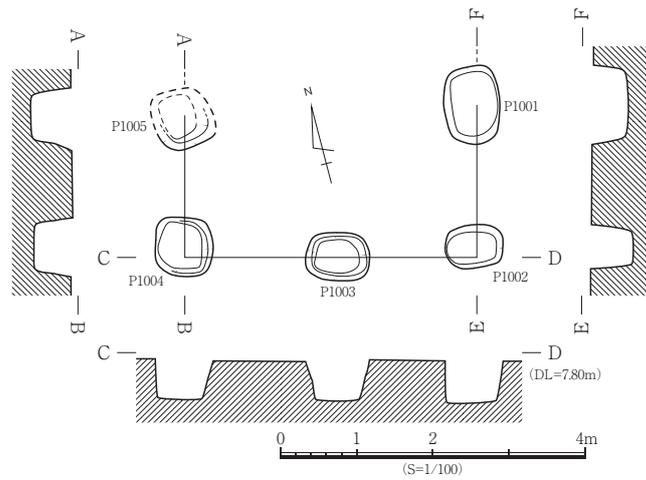


図316 7区 SB7 平面図・エレベーション図

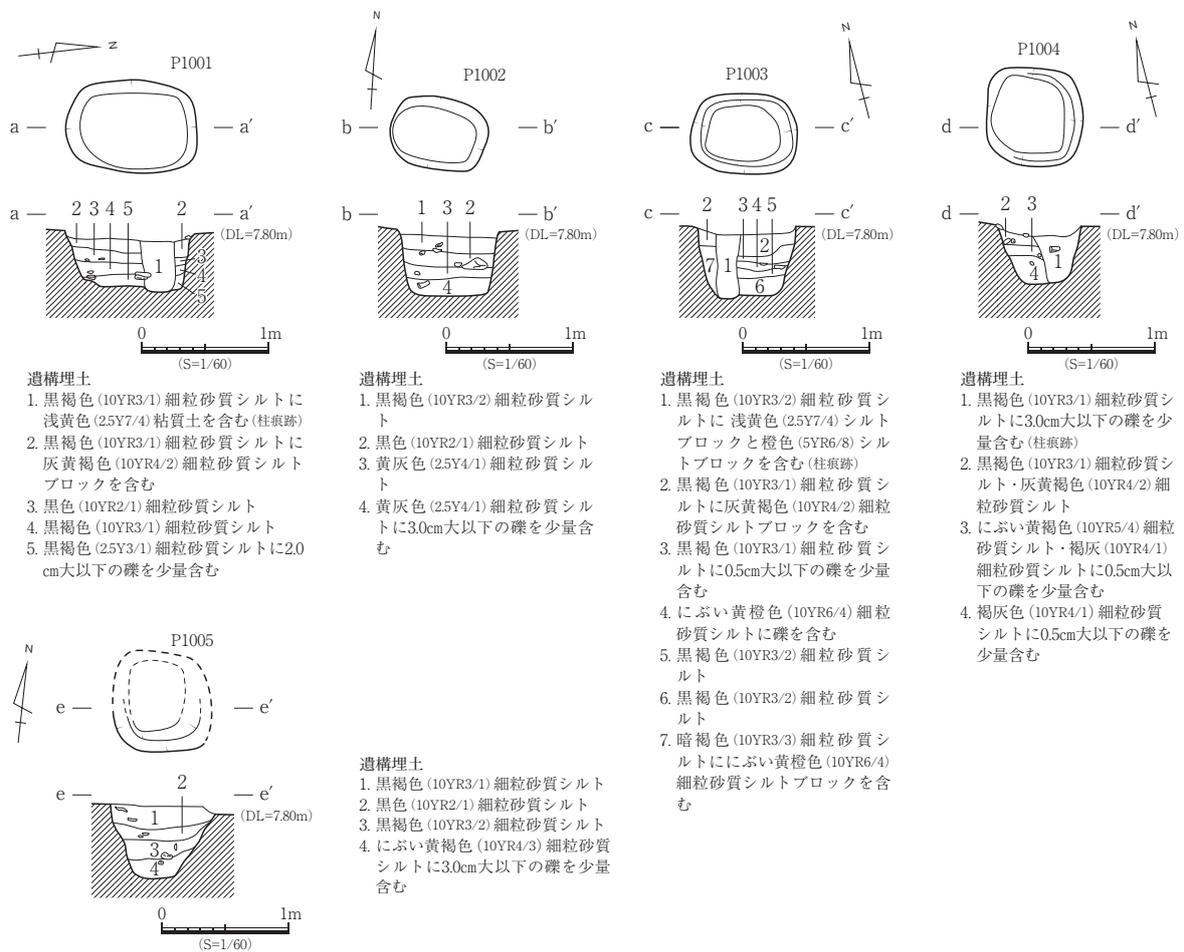


図317 7区 SB7 断面図

肩部内面には接合痕跡がみられる。1300は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部にはハケ状原体による面取りを施す。口縁部外面にはハケ調整、内面にはヨコナデ調整およびハケ調整を施す。体部外面には叩き調整後ハケ調整を施し、内面にはハケ調整およびナデ調整を施す。1301は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部にはルーズな面取りを施す。口縁部外面は叩き調整後ハケ調整を施し、内面にはハケ調整を施す。体部外面には叩き調整後タテハケ調整を施し、内面にはナデ調整を施す。1302は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部にはルーズな面取りを施す。口縁部外面には叩き調整後ハケ調整を施し、内面にはハケ調整を施す。体部外面には叩き調整後ナデ調整を施し、内面にはナデ調整を施す。肩部内面には幅約2.5cmの粘土接合痕跡が認められる。1303は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部には面取りを施す。口縁部外面には叩き調整後ハケ調整を施し、内面にはハケ調整を施す。体部外面には叩き調整後、ハケ調整を施す。内面はハケ調整後、下半部にナデ調整を施す。肩部内面には接合痕跡が認められる。1304は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部にはルーズな面取りを施す。口縁部外面は上胴部からの一連の叩き調整後、指頭により成形する。内面はハケ調整である。体部外面は叩き調整後ナデ調整を施し、下半部にはハケ調整を施す。内面にはハケ調整後ナデ調整を施す。肩部内面には接合痕跡が認められる。底部は角の取れた平底で、外底面には叩き調整後ハケ調整およびナデ調整を施す。全体的に歪む。1305は甕である。口縁部は緩やかな「く」の字状を呈し、口唇部にはハケ状原体による面取りを施す。口縁部外面には叩き調整後タテハケ調整を施し、内面にはハケ調整を施す。体部外面には叩き調整後ナデ調整を施し、下半部にはタテハケ調整を疎らに施す。内面はハケ調整である。1306は甕である。底部は、ほぼ丸

肩部内面には接合痕跡が認められる。1300は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部には面取りを施す。口縁部外面には叩き調整後ハケ調整を施し、内面にはハケ調整を施す。体部外面には叩き調整後、ハケ調整を施す。内面はハケ調整後、下半部にナデ調整を施す。肩部内面には接合痕跡が認められる。1304は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部にはルーズな面取りを施す。口縁部外面は上胴部からの一連の叩き調整後、指頭により成形する。内面はハケ調整である。体部外面は叩き調整後ナデ調整を施し、下半部にはハケ調整を施す。内面にはハケ調整後ナデ調整を施す。肩部内面には接合痕跡が認められる。底部は角の取れた平底で、外底面には叩き調整後ハケ調整およびナデ調整を施す。全体的に歪む。1305は甕である。口縁部は緩やかな「く」の字状を呈し、口唇部にはハケ状原体による面取りを施す。口縁部外面には叩き調整後タテハケ調整を施し、内面にはハケ調整を施す。体部外面には叩き調整後ナデ調整を施し、下半部にはタテハケ調整を疎らに施す。内面はハケ調整である。1306は甕である。底部は、ほぼ丸

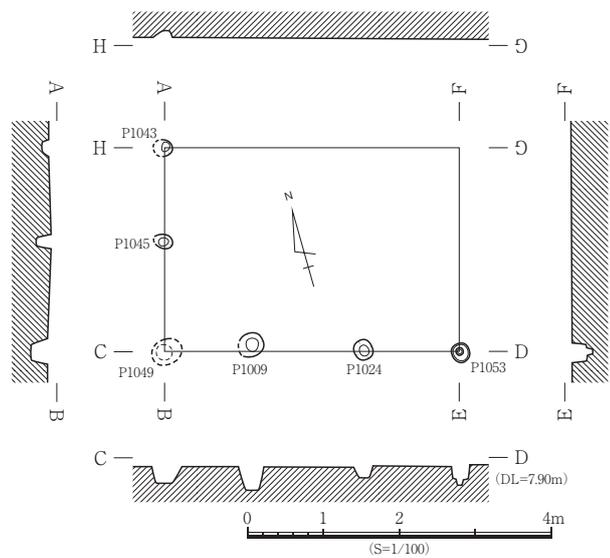


図318 7区 SB8 平面図・エレベーション図

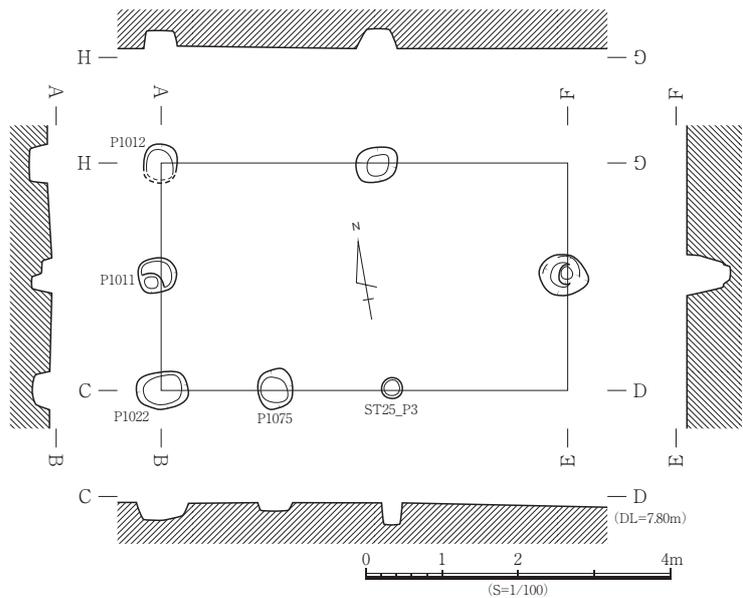


図319 7区 SB9 平面図・エレベーション図

底で外底面は叩き調整後ナデ調整か。体部外面には叩き調整後タテハケ調整を施し、内面にはハケ調整およびナデ調整を施す。肩部内面には接合痕跡が認められる。内外面の調整の違いと微細な傾斜変換点および器壁がうすくなっている部分が一致しており、分割成形の状況がわかる。重い土器である。1307は底部である。丸みを帯びた厚い平底で、外底面には叩き調整後ナデ調整を施す。体部外面には叩き調整後、ハケ調整を施す。内面には強いナデ調整を施す。1308は底部である。角の取れた平底で、外底面にはナデ調整を施す。体部は内外面ともナデ調整で、内底面には指頭圧痕がみられ

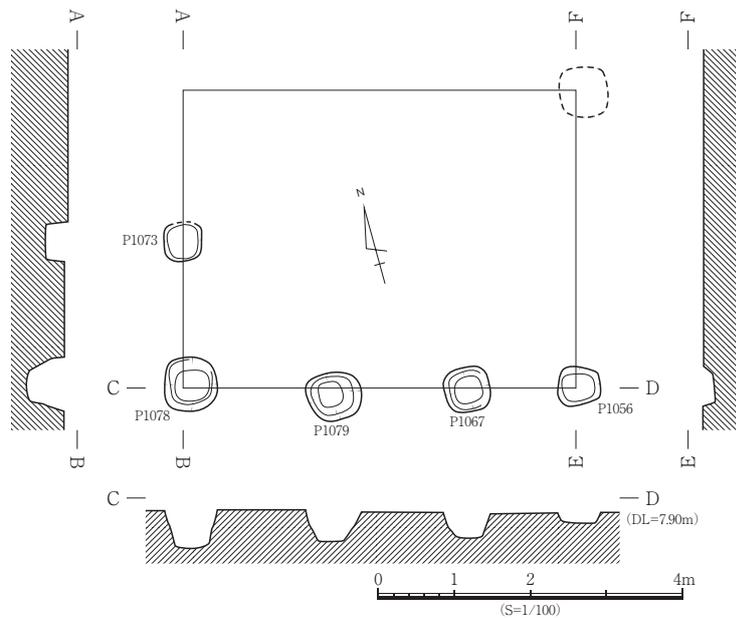


図320 7区 SB10 平面図・エレベーション図

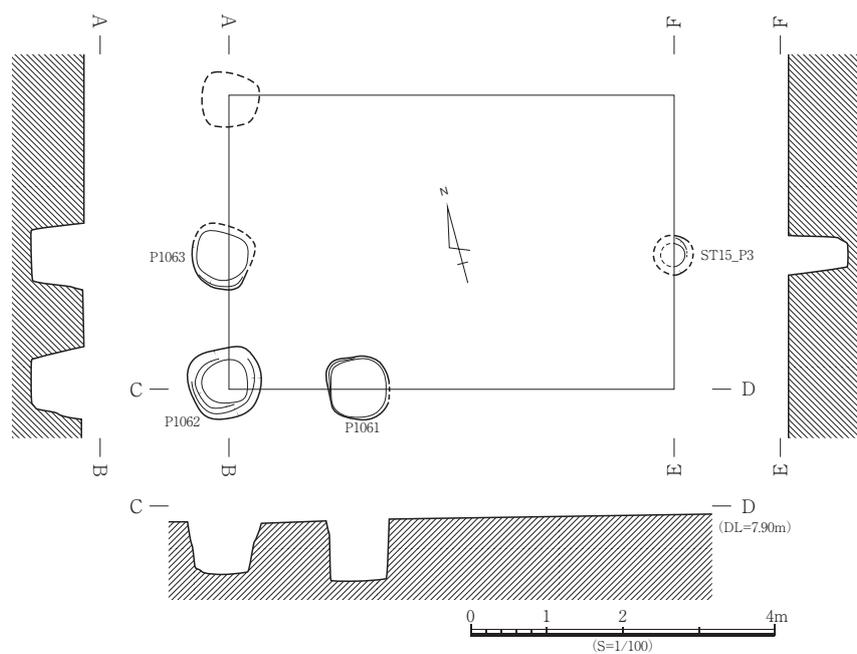


図321 7区 SB11 平面図・エレベーション図

る。1309は底部である。角の取れた平底で、外底面は叩き調整後ナデ調整を施す。体部外面には叩き調整後タテハケ調整を施し、内面にはナデ調整を施す。1310は口縁部が内湾する深めの鉢である。底部は角の取れた平底で、外底面にはナデ調整を施す。体部外面には叩き調整後ナデ調整を施し、内面にはナデ調整を施す。全体的に歪む。内外面とも荒れる。1311は浅めの鉢である。内外面ともハケ調

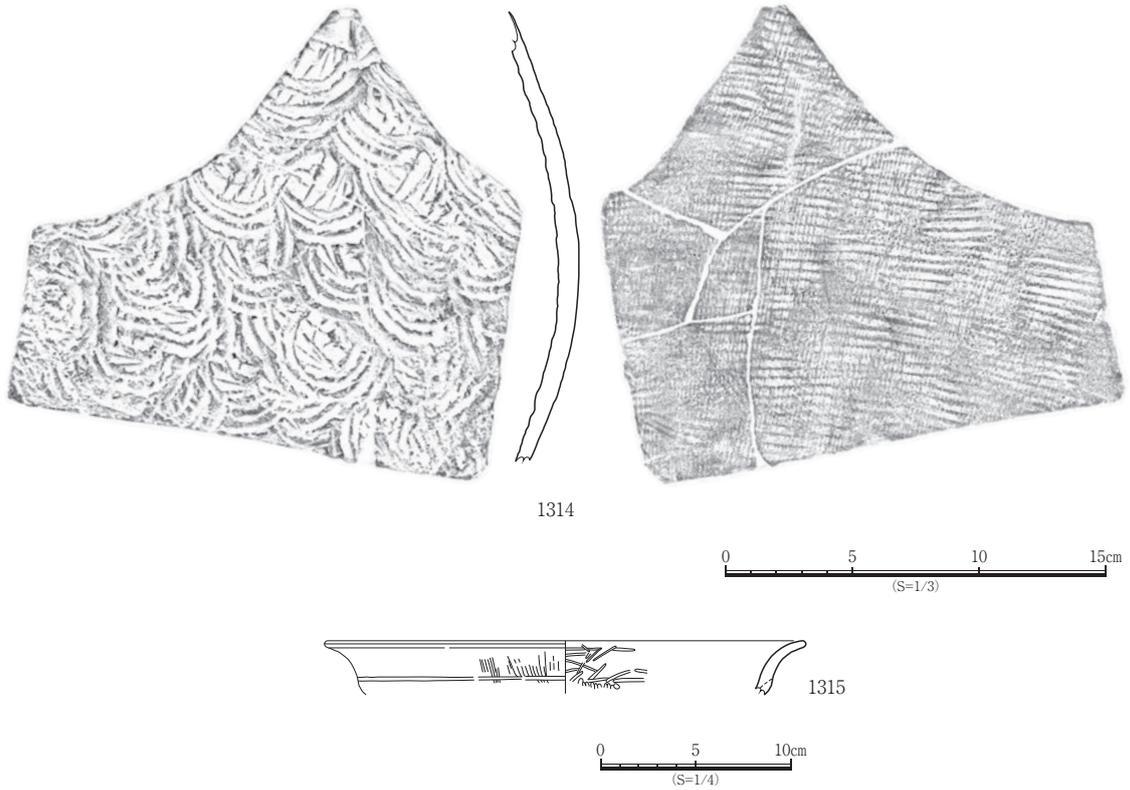


図322 7区 SB11 出土遺物実測図

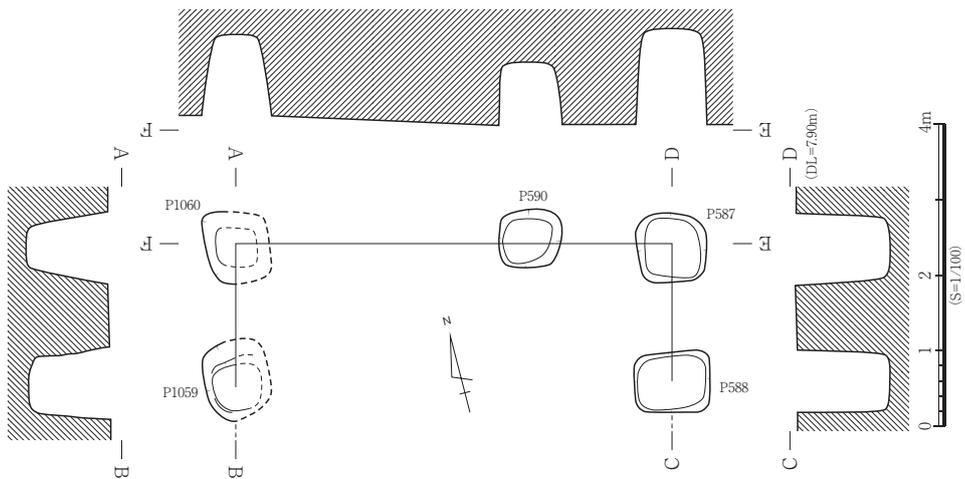


図323 7区 SB12 平面図・エレベーション図

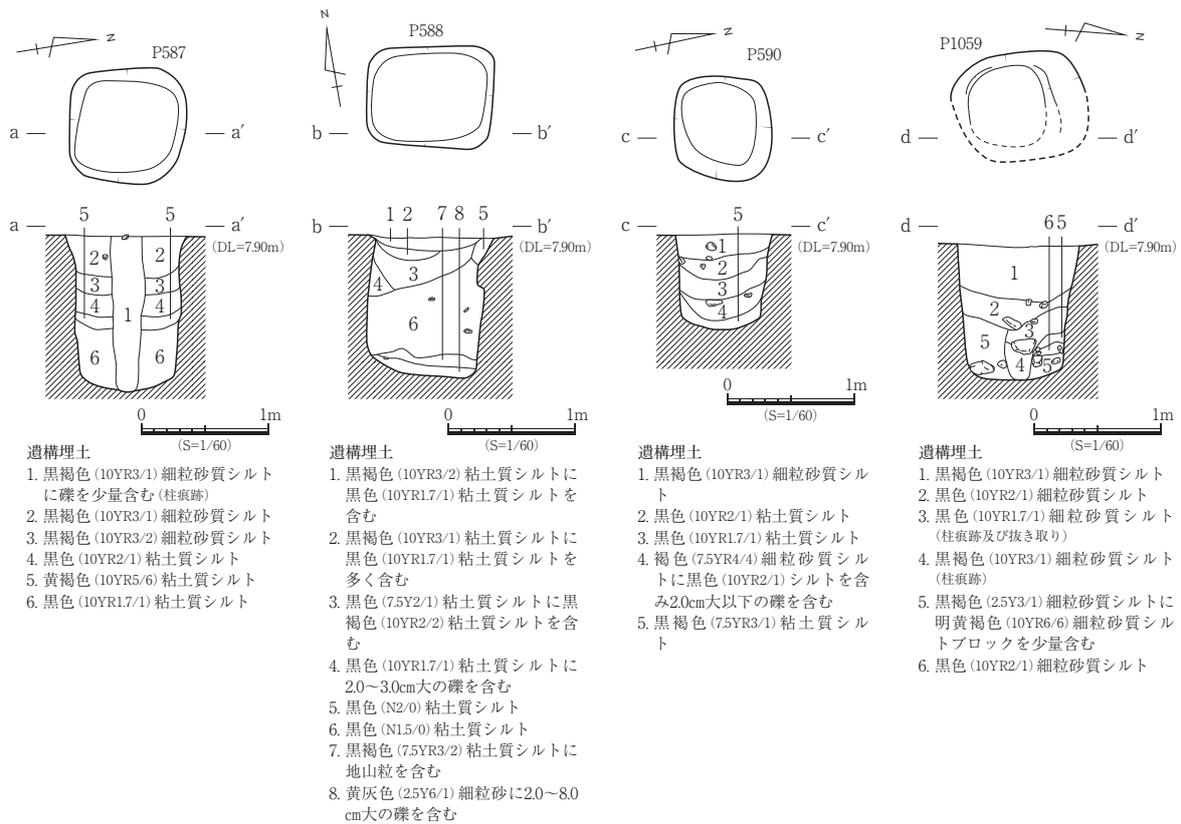


図324 7区 SB12 断面図

整である。キレッツが認められる。1312は浅めの鉢である。口唇部を尖らせる。体部外面には叩き調整後、上半部にはナデ調整、下半部には粗いハケ調整を施す。内面はナデ調整で仕上げる。底部は角の取れた平底で、外底面にはナデ調整を施す。

2.SB

SB1

SB1は7-1-3区西端部で検出した掘立柱建物跡である。桁行は1間(約1.79m)以上、梁行は2間(約2.17m)以上を検出した。主軸方向は南北棟とした場合はN-13° 42' -Eである。P952・960他で構成される。柱穴は直径20~30cmの不整円形であり、検出面からの深さは9~15cmである。埋土は黒色(10YR1.7/1)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物はない。

SB2

SB2は7-1-3区西端部で検出した掘立柱建物跡である。桁行は1間(約1.94m)以上、梁行は2間(約2.13m)以上を検出した。主軸方向は南北棟とした場合はN-16° 10' -Eである。P954~957で構成される。柱穴は直径25~35cmの不整円形であり、検出面からの深さは5~27cmである。埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト他である。

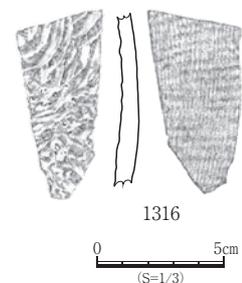


図325 7区 SB12 出土遺物実測図

図示した出土遺物はない。

SB3

SB3は7-1-2区中央部で検出した桁行2間(約3.92m)、梁行2間(約2.62m)の東西棟の掘立柱建物跡であり、床面積は約10.2㎡である。主軸方向はN-79° 57' -Wである。P924・926・927他で構成される。柱穴は直径15～40cmの不整円形であり、検出面からの深さは10～17cmである。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物はない。

SB4

SB4は7-1-1区中央部やや東寄りで検出した掘立柱建物跡である。桁行は1間(約1.85m)以上を検出した。主軸方向は東西棟とした場合はN-78° 30' -Wである。SK3・8で構成される。柱穴は一辺70～80cmの隅丸方形であり、検出面からの深さは29～95cmである。埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物はない。

SB5

SB5は7-1-1区東部で検出した掘立柱建物跡である。桁行は1間(約2.47m)以上、梁行1間(約3.14m)

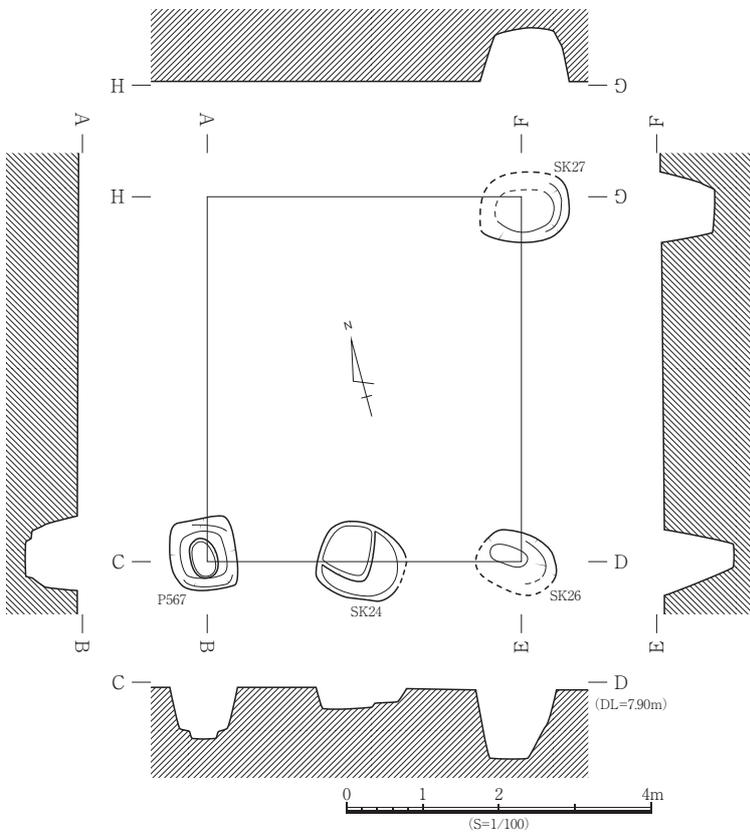


図326 7区 SB13 平面図・エレベーション図

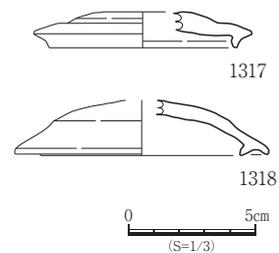


図327 7区 SB13
出土遺物実測図

を検出した。主軸方向は南北棟とした場合はN-0° 40' -Eである。P3・11・13・ST1_P10で構成される。柱穴は直径30～40cmの不整円形であり、検出面からの深さは25～80cmである。埋土は黒色(10YR2/1)極細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物はない。

SB6

SB6は7-2区西部で検出した桁行2間(約4.39m)、梁行1間(約3.56m)の南北棟の掘立柱建物跡であり、床面積は約15.6㎡である。主軸方向はN-14° 02' -Eである。P1028・1047・1052・1087で構成される。柱穴は直径35～60cmの不整円形であり、検出面からの深さは14～37cmである。埋土は黒褐色(7.5YR3/1)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物は、P1047から出土した土師質土器の杯(1313)か。内外面ともに回転ナデ調整で仕上げる。

SB7

SB7は7-2区中央部で検出した掘立柱建物跡である。桁行は1間(約2.02m)以上、梁行2間(約3.84m)である。主軸方向は南北棟とした場合はN-14° 28' -Eである。P1001～1005で構成される。柱穴は直径55～105cmの不整形であり、検出面からの深さは48～61cmである。埋土は黒褐色(7.5YR3/1)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物はない。

SB8

SB8は7-2区中央部で検出した桁行3間(約3.87m)、梁行2間(約2.70m)の東西棟の掘立柱建物跡であり、床面積は約10.4㎡である。主軸方向はN-74° 23' -Wである。P1009・1024・1043・1045・1049・1053で構成される。柱穴は直径20～50cmの不整円形であり、検出面からの深さは9～31cmである。埋土は黒褐色(7.5YR3/1)細粒砂質シルト他である。

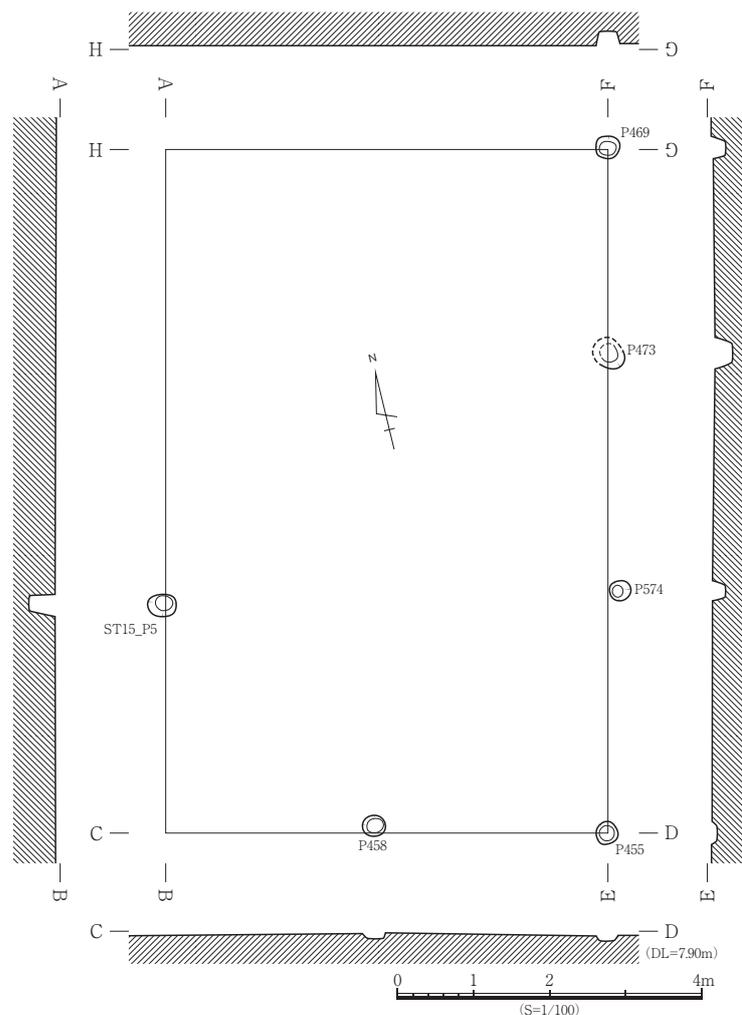


図328 7区 SB14 平面図・エレベーション図

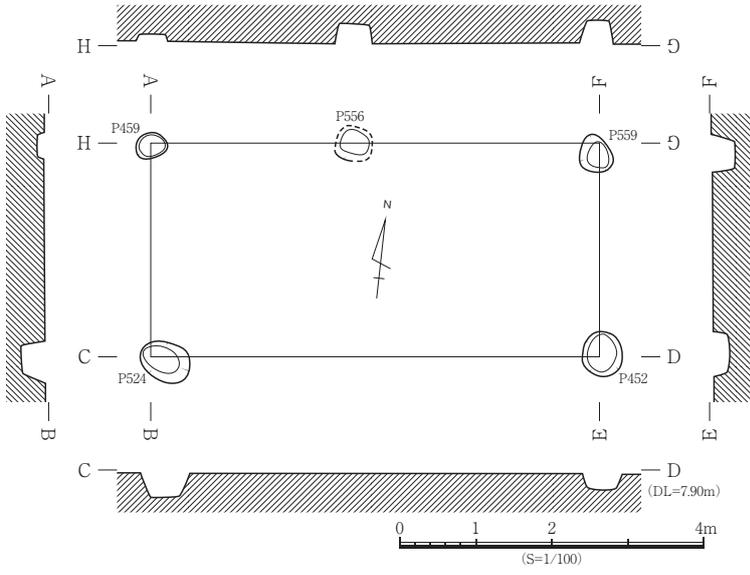


図329 7区 SB15 平面図・エレベーション図

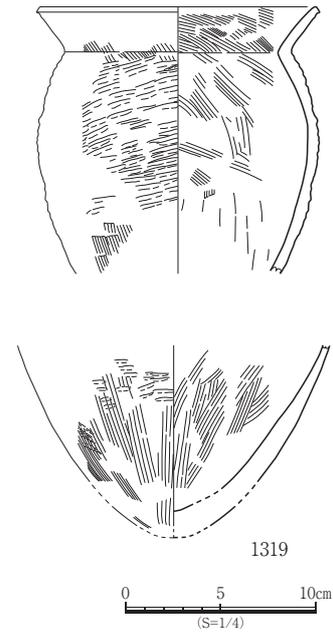


図330 7区 SB15
出土遺物実測図

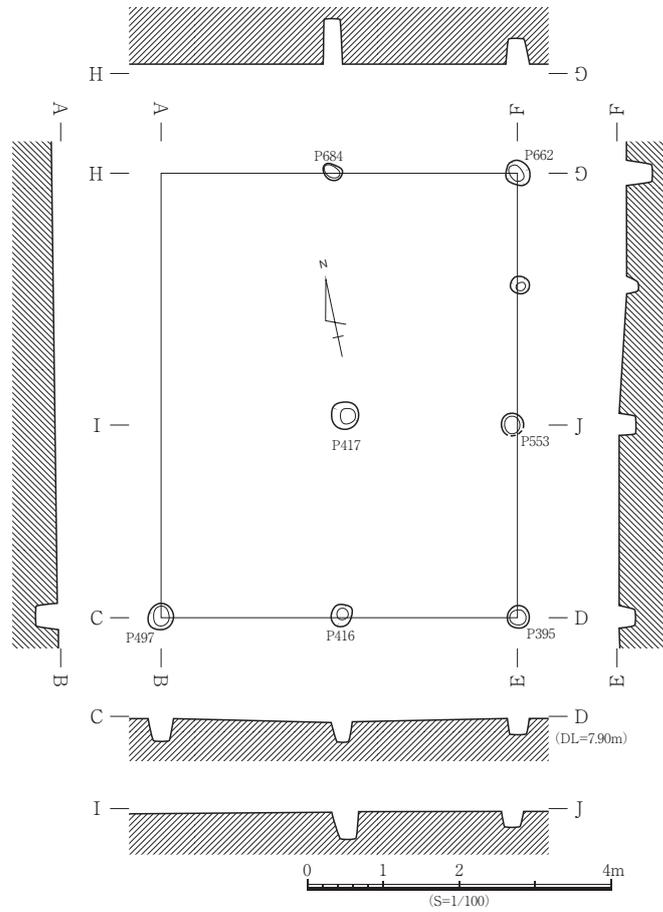


図331 7区 SB16 平面図・エレベーション図

図示した出土遺物はない。

SB9

SB9は7-2区中央部で検出した桁行3間(約5.34m)、梁行2間(約3.01m)の東西棟の掘立柱建物跡であり、床面積は約16.1㎡である。主軸方向はN-80°12'-Wである。P1011・1012・1022・1075・ST25_P3他で構成される。柱穴は直径30~70cmの不整円形であり、検出面からの深さは11~57cmである。埋土は黒褐色(7.5YR3/1)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物はない。

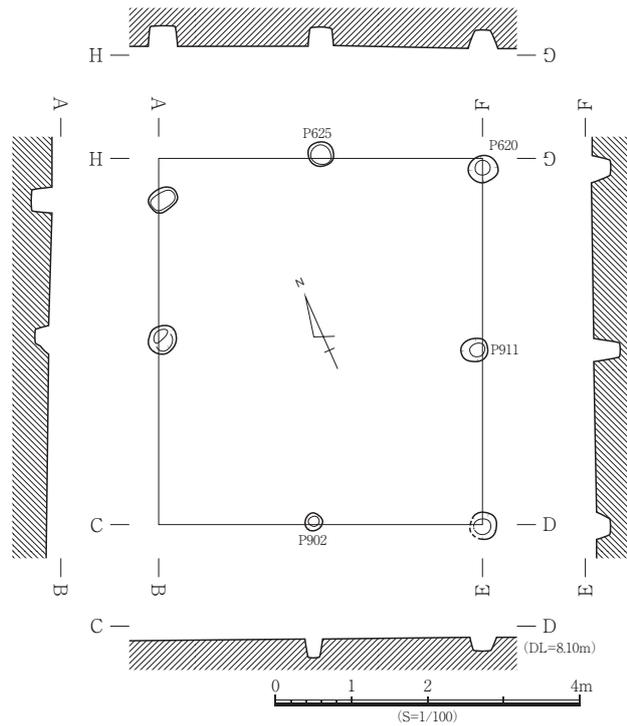


図332 7区 SB17 平面図・エレベーション図

SB10

SB10は7-2区中央部で検出した桁行3間(約5.16m)、梁行2間(約3.94m)の東西棟の掘立柱建物跡であり、床面積は約20.4㎡である。主軸方向はN-74°47'-Wである。P1056・1067・1073・1078・1079他で構成される。柱穴は一辺50~100cmの隅丸方形であり、検出面からの深さは14~70cmである。埋土は黒褐色(7.5YR3/1)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物はない。

SB11

SB11は7-2区と7-3区にまたがって検出した桁行2間(約5.85m)、梁行2間(約3.89m)の東西棟の掘立柱建物跡である。主軸方向はN-75°08'-Wである。P1061~1063・ST15_P3他で構成される。柱穴は一辺50~100cmの隅丸方形であり、検出面からの深さは68~82cmである。

図示した出土遺物は、須恵器の甕(1314)、弥生土器の高杯(1315)である。

1314はP1062から出土した甕である。外面には格子叩き調整を施し、内面には同心

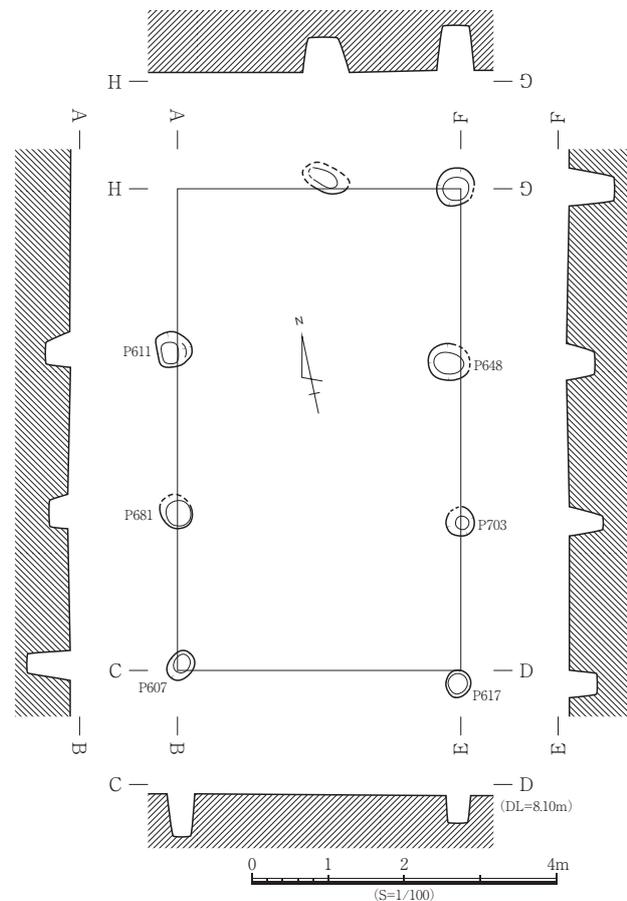


図333 7区 SB18 平面図・エレベーション図

円形の当て具痕跡が認められる。焼成不良である。1315はP1062から出土した高杯である。口唇部は丸くおさめる。外面にはヨコナデ調整およびヘラミガキ調整を施し、内面にはヘラミガキ調整を施す。口縁部と杯部の境には凹線状の沈線がみられる。

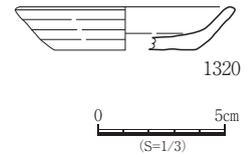


図334 7区 SB18
出土遺物実測図

SB12

SB12は7-2区と7-3区にまたがって検出した東西棟の掘立柱建物跡である。桁行2間(約5.74m)、梁行は1間(約1.95m)以上を検出した。主軸方向はN-75° 41' -Wである。P587・588・590・1059・1060で構成される。柱穴は一辺70~100cmの隅丸方形であり、検出面からの深さは84~127cmである。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物は、P1059から出土した須恵器の甕(1316)である。外面には格子叩き調整を施し、内面には同心円形の当て具痕跡が認められる。

SB13

SB13は7-3区西端部で検出した桁行1間(約4.83m)、梁行2間(約4.13m)の南北棟の掘立柱建物跡であり、床面積は約19.9㎡である。主軸方向はN-14° 51' -Eである。P567・SK24・26・27で構成され

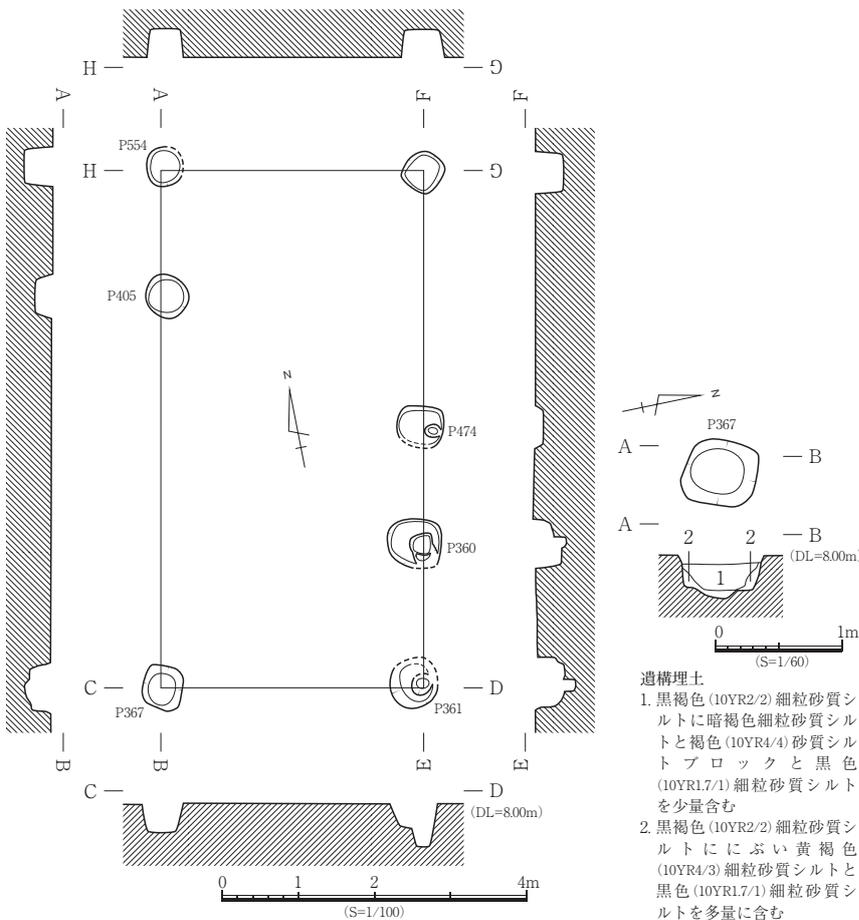
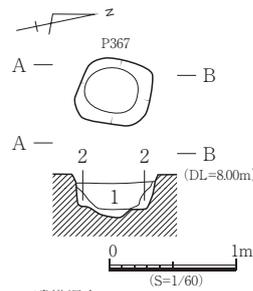


図335 7区 SB19 平面図・エレベーション図



- 遺構埋土
1. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに暗褐色細粒砂質シルトと褐色(10YR4/4)砂質シルトブロックと黒色(10YR1.7/1)細粒砂質シルトを少量含む
 2. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトにふい黄褐色(10YR4/3)細粒砂質シルトと黒色(10YR1.7/1)細粒砂質シルトを多量に含む

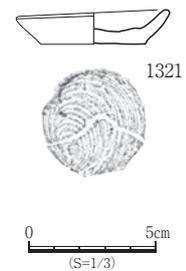


図336 7区 SB19
出土遺物実測図

る。柱穴は一辺 80～120 cmの隅丸方形であり、検出面からの深さは 28～71 cmである。埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物は、須恵器の蓋(1317・1318)である。

1317はP567から出土した蓋である。天井部は扁平で、内面に短小なかえりを付す。内外面とも回転ナデ調整を施す。1318はP567から出土した蓋である。天井部は丸みを帯びる。内面に短小なかえりを付す。天井部外面には回転ヘラケズリ調整、口縁部および内面には回転ナデ調整を施す。

SB14

SB14は7-3区西端部で検出した桁行3間(約9.06m)、梁行2間(約5.81m)の南北棟の掘立柱建物跡であり、床面積は約52.7㎡である。主軸方向はN-13°30'-Eである。P455・458・469・473・574・ST15_P5で構成される。柱穴は直径25～50 cmの円形であり、検出面からの深さは8～35 cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物はない。

SB15

SB15は7-3区西端部で検出した桁行2間(約5.90m)、梁行1間(約2.83m)の東西棟の掘立柱建物跡であり、床面積は約16.7㎡である。主軸方向はN-83°44'-Eである。P452・459・524・556・559で構成される。柱穴は直径30～70 cmの不整円形であり、検出面からの深さは9～32 cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物は、P452から出土した弥生土器の甕(1319)である。口縁部は、「く」の字状を呈する。口縁部外面はナデ調整、内面はハケ調整である。体部外面には叩き調整後、タテハケ調整を下半部に施す。内面はハケ調整である。

SB16

SB16は7-3・4区西端部で検出した桁行3間(約5.89m)、梁行2間(約4.68m)の南北棟の掘立柱建物跡であり、床面積は約27.5㎡である。主軸方向はN-11°51'-Eである。P395・416・417・497・553・662・684他で構成される。柱穴は直径20～40 cmの円形であり、検出面からの深さは12～60 cmである。P417は床束柱か。埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト他である。

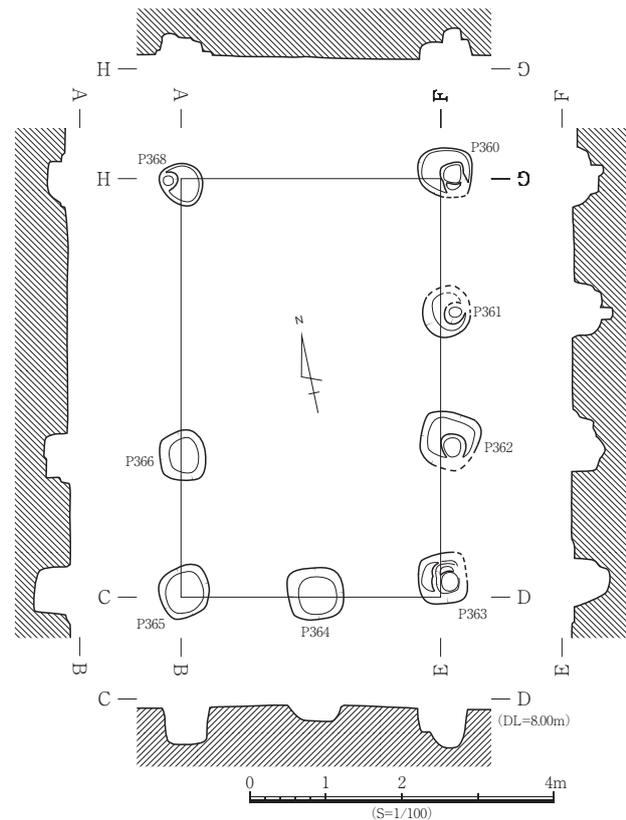


図337 7区 SB20 平面図・エレベーション図

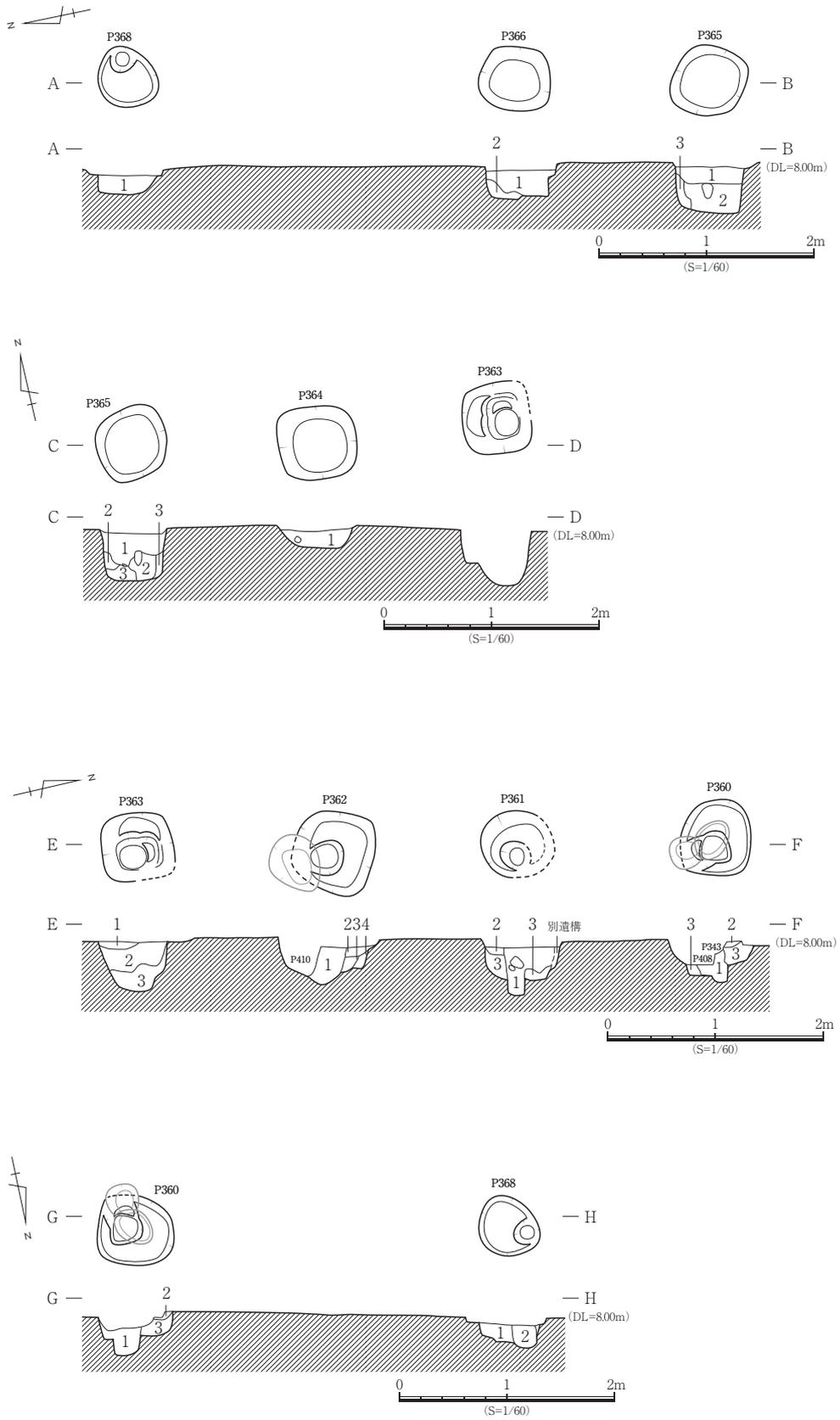


图338 7区 SB20 断面图

遺構埋土 (P360)

1. 黒色 (10YR2/1) 細粒砂質シルトに黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトを少量含む
2. 黒褐色 (10YR3/2) 細粒砂質シルトに黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトを少量含む
3. 黒色 (10YR2/1) 細粒砂質シルト・黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルト・暗褐色 (10YR3/4) 細粒砂質シルト

遺構埋土 (P361)

1. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルト
2. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトににぶい黄褐色 (10YR4/3) 細粒砂質シルトと黒色 (10YR1.7/1) 細粒砂質シルトを少量含む
3. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトににぶい黄褐色 (10YR4/3) 細粒砂質シルトと黒色 (10YR1.7/1) 細粒砂質シルトを多く含む

遺構埋土 (P362)

1. 黒褐色 (10YR3/1) 細粒砂質シルトに黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトと1.0～5.0cm大の礫を少量含む
2. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトににぶい黄褐色 (10YR4/3) 細粒砂質シルトと黒色 (10YR1.7/1) 細粒砂質シルトを少量含む
3. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトににぶい黄褐色 (10YR4/3) 細粒砂質シルトを少量含む
4. 黒色 (10YR1.7/1) 細粒砂質シルト・黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルト・褐色 (10YR4/4) 砂質シルト

遺構埋土 (P363)

1. 黒色 (10YR2/1) 細粒砂質シルトに黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトと黒色 (10YR1.7/1) 細粒砂質シルトを少量含む
2. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトに黒色 (10YR2/1) 細粒砂質シルトと暗褐色 (10YR3/4) 細粒砂質シルトと黒色 (10YR1.7/1) 細粒砂質シルトを少量含む1.0～6.0cm大の礫を含む
3. 暗褐色 (10YR3/3) 細粒砂質シルトに黒色 (10YR2/1) 細粒砂質シルトと黒色 (10YR1.7/1) 細粒砂質シルトと褐色 (10YR4/6) 細粒砂質シルトを少量含む

遺構埋土 (P364)

1. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトににぶい黄褐色 (10YR4/3) 細粒砂質シルトと黒色 (10YR1.7/1) 細粒砂質シルトを少量含む0.5～5.0cm大の礫を含む

遺構埋土 (P365)

1. 黒色 (10YR1.7/1) 細粒砂質シルト・黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルト・褐色 (10YR4/4) 砂質シルトに黒色 (10YR1.7/1) 細粒砂質シルトを少量含む
2. 黒色 (10YR1.7/1) 細粒砂質シルトに褐色 (10YR4/4) 細粒砂質シルトブロックを少量含む
3. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトににぶい黄褐色 (10YR4/3) 細粒砂質シルトと黒色 (10YR1.7/1) 細粒砂質シルトを少量含む

遺構埋土 (P366)

1. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに暗褐色細粒砂質シルトと褐色 (10YR4/4) 砂質シルトブロックと黒色 (10YR1.7/1) 細粒砂質シルトを少量含む
2. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトににぶい黄褐色 (10YR4/3) 細粒砂質シルトと黒色 (10YR1.7/1) 細粒砂質シルトを多く含む

遺構埋土 (P368)

1. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルト
2. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに暗褐色細粒砂質シルトと褐色 (10YR4/4) 砂質シルトブロックと黒色 (10YR1.7/1) 細粒砂質シルトを少量含む

図示した出土遺物はない。

SB17

SB17は7-4区西部で検出した桁行2間(約4.85m)、梁行2間(約4.26m)の南北棟の掘立柱建物跡であり、床面積は約20.6㎡である。主軸方向はN-23° 51' -Eである。P620・625・902・911他で構成される。柱穴は直径25～40cmの不整円形であり、検出面からの深さは18～35cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物はない。

SB18

SB18は7-4区西部で検出した桁行3間(約6.38m)、梁行2間(約3.72m)の南北棟の掘立柱建物跡であり、床面積は約23.8㎡である。主軸方向はN-11° 55' -Eである。P607・611・617・648・681・703他で構成される。柱穴は直径30～65cmの不整円形であり、検出面からの深さは25～60cmである。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物はP648から出土した土師質土器の皿(1320)である。内外面には回転ナデ調整を施す。外底面は回転ヘラ切り後、ナデ調整である。

SB19

SB19は7-3区西部で検出した桁行3間(約6.85m), 梁行1間(約3.45m)の南北棟の掘立柱建物跡であり, 床面積は約 23.7 m²である。主軸方向はN-10° 59' -Eである。P360 (P343柱痕跡か)・361・367・405・474・554 他で構成される。柱穴は直径あるいは一辺 50～70cmの不整円形から不整隅丸方形であり, 検出面からの深さは12～56cmである。埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物はP361 から出土した土師質土器の皿(1321)である。口縁部は浅く斜め上方へひらき, 口唇部を丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。

SB20

SB20は7-3区西部で検出した桁行3間(約5.54m), 梁行2間(約3.41m)の南北棟の掘立柱建物跡であり, 床面積は約 18.9 m²である。主軸方向はN-11° 51' -Eである。P360 (P343柱痕跡か)～366・368で構成される。柱穴は直径あるいは一辺 55～80cmの不整円形から不整隅丸方形であり, 検出面からの深さは23～50cmである。埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物はない。

SB21

SB21は7-3区西部で検出した桁行1間(約4.13m), 梁行2間(約3.73m)の東西棟の掘立柱建物跡であり, 床面積は約 15.4 m²である。主軸方向はN-78° 00' -Wである。P189・369～371・449で構成される。柱穴は一辺 65～90cmの隅丸方形を指向し, 検出面からの深さは14～46cmである。埋土は黒色

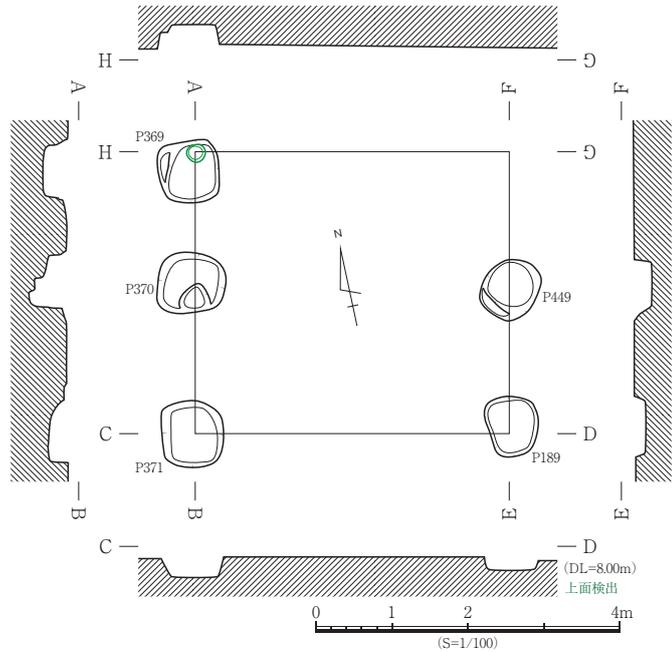
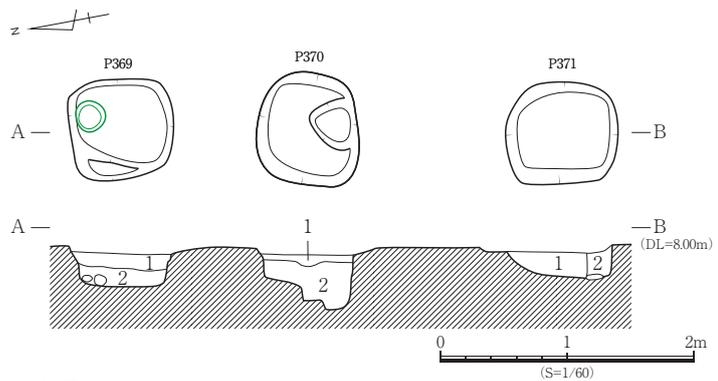


図339 7区 SB21 平面図・エレベーション図



遺構埋土 (P369)

1. 黒色 (10YR2/1) 細粒砂質シルトに黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトを少量含む
2. 黒色 (10YR2/1) 細粒砂質シルトに黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトと褐色 (10YR4/6) 砂質シルトブロックを含み10.0cm大の礫を少量含む

遺構埋土 (P370)

1. 黒色 (10YR2/1) 細粒砂質シルトに黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトを少量含む
2. 黒色 (10YR2/1) 細粒砂質シルトに黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトと褐色 (10YR4/6) 砂質シルトブロックを含み0.5～4.0cm大の礫を少量含む

遺構埋土 (P371)

1. 黒色 (10YR2/1) 細粒砂質シルトに黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトと褐色 (10YR4/6) 砂質シルトブロックを含み1.0～2.5cm大の礫を含む
2. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに1.0～5.0cm大の礫を少量含む

図340 7区 SB21 断面図

(10YR2/1)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物はない。

SB22

SB22は7-3区西部で検出した桁行4間(約6.08m)、梁行1間(約3.47m)の東西棟の掘立柱建物跡であり、床面積は約21.1㎡である。

主軸方向はN-84°45'-Wである。P400・447・557他で構成される。柱穴は直径20～35cmの円形であり、検出面からの深さは24～44cmである。埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物はない。

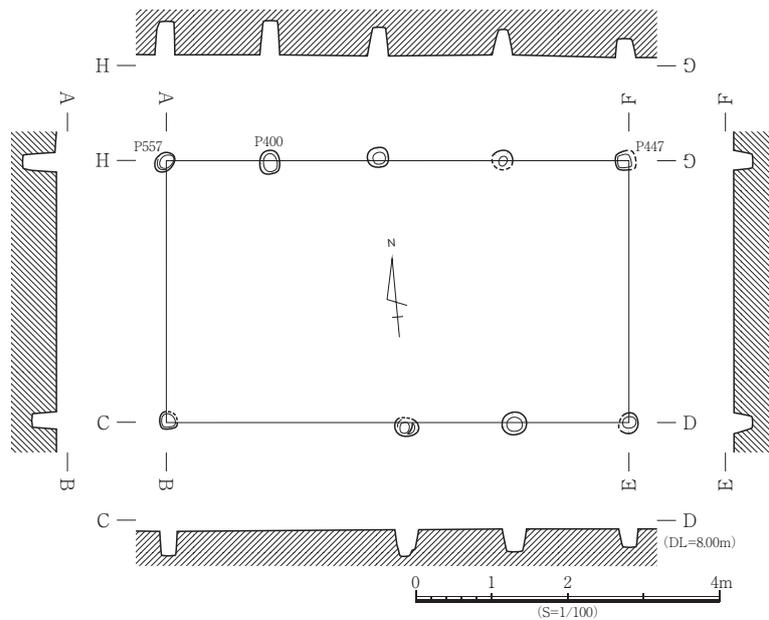


図341 7区 SB22 平面図・エレベーション図

SB23

SB23は7-3区西部で検出した掘立柱建物跡である。桁行は1間(約2.37m)以上、梁行1間(約4.11m)を検出した。主軸方向は南北棟とした場合はN-12°54'-Eである。P393・401・535・537で構成される。柱穴は直径30～60cmの不整形円形であり、検出面からの深さは17～56cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物はない。

SB24

SB24は7-3区中央部で検出した桁行4間(約7.70m)、梁行2間(約3.54m)の東西棟の掘立柱建物跡であり、床面積は約27.3㎡である。主軸方向はN-77°13'-Wである。P162・166a・168・172・177・347・441・465・SK14

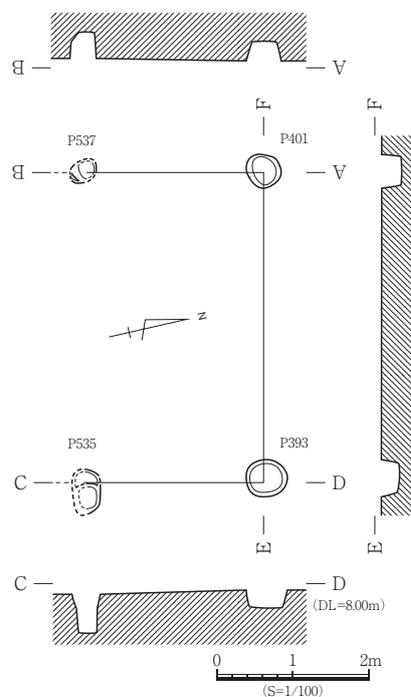


図342 7区 SB23 平面図・エレベーション図

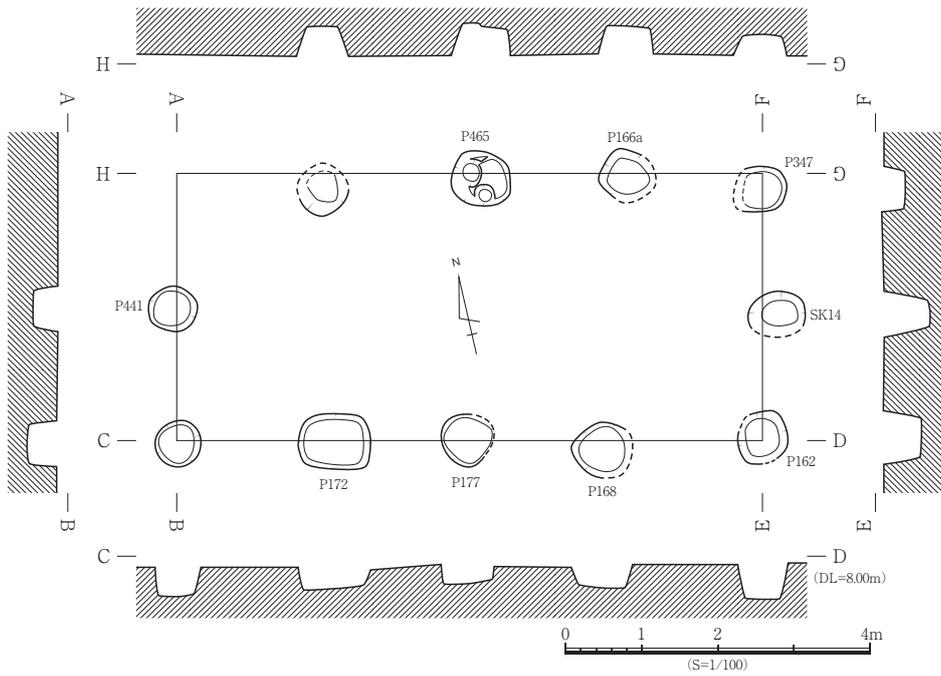


図343 7区 SB24 平面図・エレベーション図

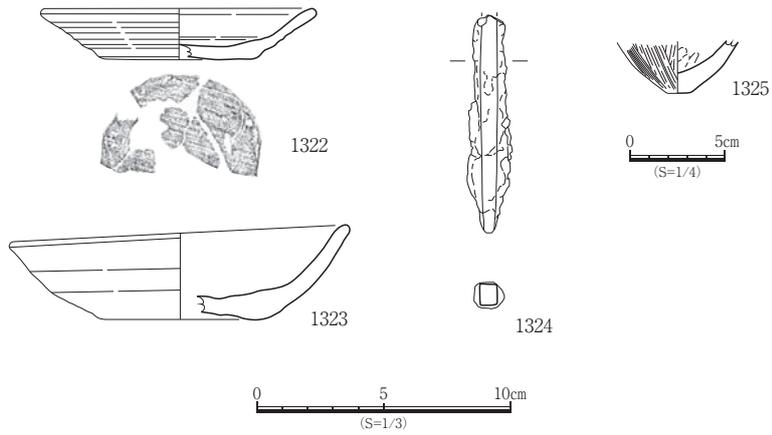


図344 7区 SB24 出土遺物実測図

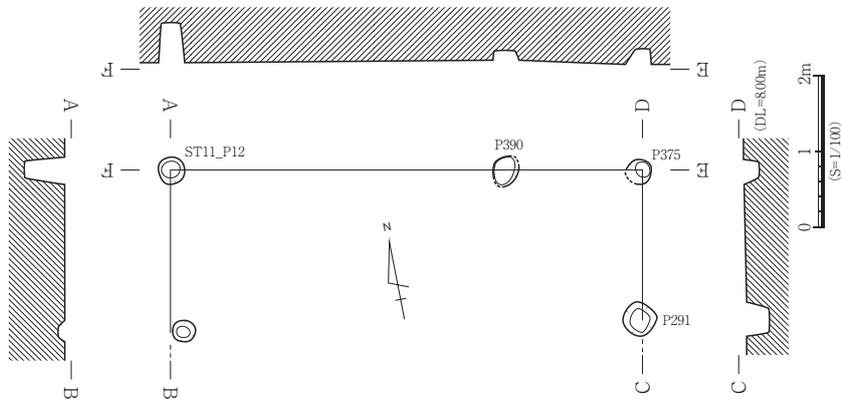


図345 7区 SB25 平面図・エレベーション図

他で構成される。柱穴は直径60～95cmの不整円形であり、検出面からの深さは25～52cmである。埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物は、土師質土器の皿(1322)・杯(1323), 鉄釘(1324), 弥生土器の底部(1325)である。

1322はSK14から出土した皿である。口縁部は斜め外方へひらき、口唇部はやや面状を呈する。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には簀状圧痕がみられる。1323はSK14から出土した杯である。体部は内湾気味で、口唇部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転ヘラ切り痕跡がみられる。1324はSK14から出土した鉄釘である。体部の断面形は方形を呈する。頭部は欠損する。1325はP441から出土した底部である。尖底状の小径な平底を呈する。体部外面はタテハケ調整、内面はナデ調整で指頭圧痕が認められる。丁寧な仕上げである。小型の鉢か。

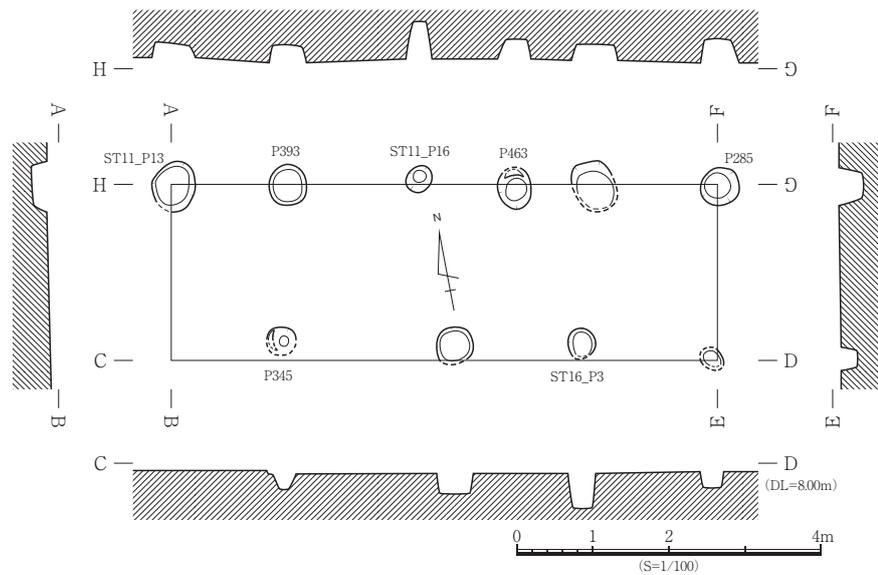


図346 7区 SB26 平面図・エレベーション図

SB25

SB25は7-3区中央部で検出した掘立柱建物跡である。桁行2間(約6.21m), 梁行は1間(約1.99m)以上を検出した。主軸方向は東西棟とした場合はN-79° 02' -Wである。ST11_P12・P291・375・390他で構成される。柱穴は直径30～45cmの不整円形であり、検出面からの深さは9～53cmである。埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物はない。

SB26

SB26は7-3区中央部で検出した桁行5間(約7.18m), 梁行1間(約2.33m)の東西棟の掘立柱建物跡であり、床面積は約16.7㎡である。主軸方向はN-79° 23' -Wである。ST16_P3・ST11_P13・ST11_P16・P285・345・393・463他で構成される。柱穴は直径30～70cmの不整円形であり、検出面からの深さは17～52cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物は、ST11_P16から出土した須恵器の円盤状高台椀(1326)である。体部は内湾気味に立ち上がる。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。

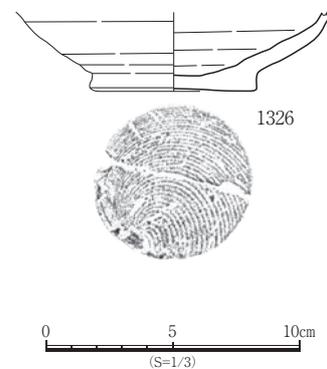


図347 7区 SB26 出土遺物実測図

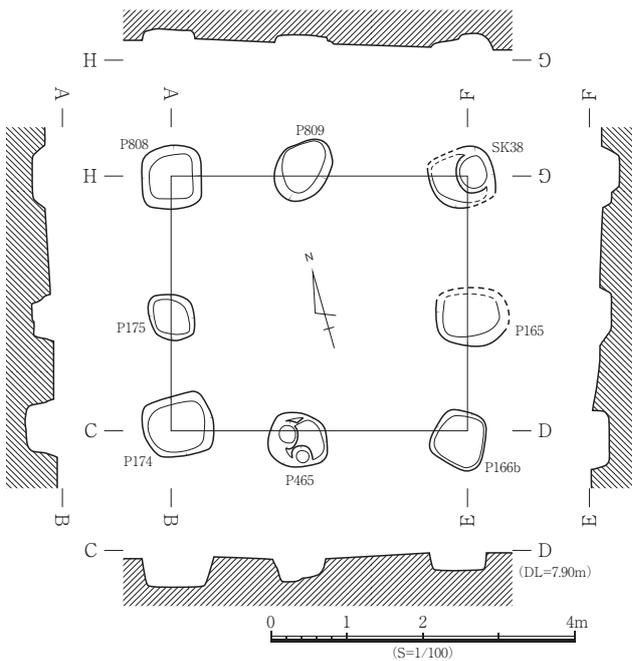


図348 7区 SB27 平面図・エレベーション図

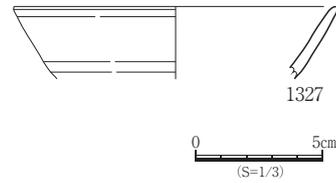


図349 7区 SB27 出土遺物実測図

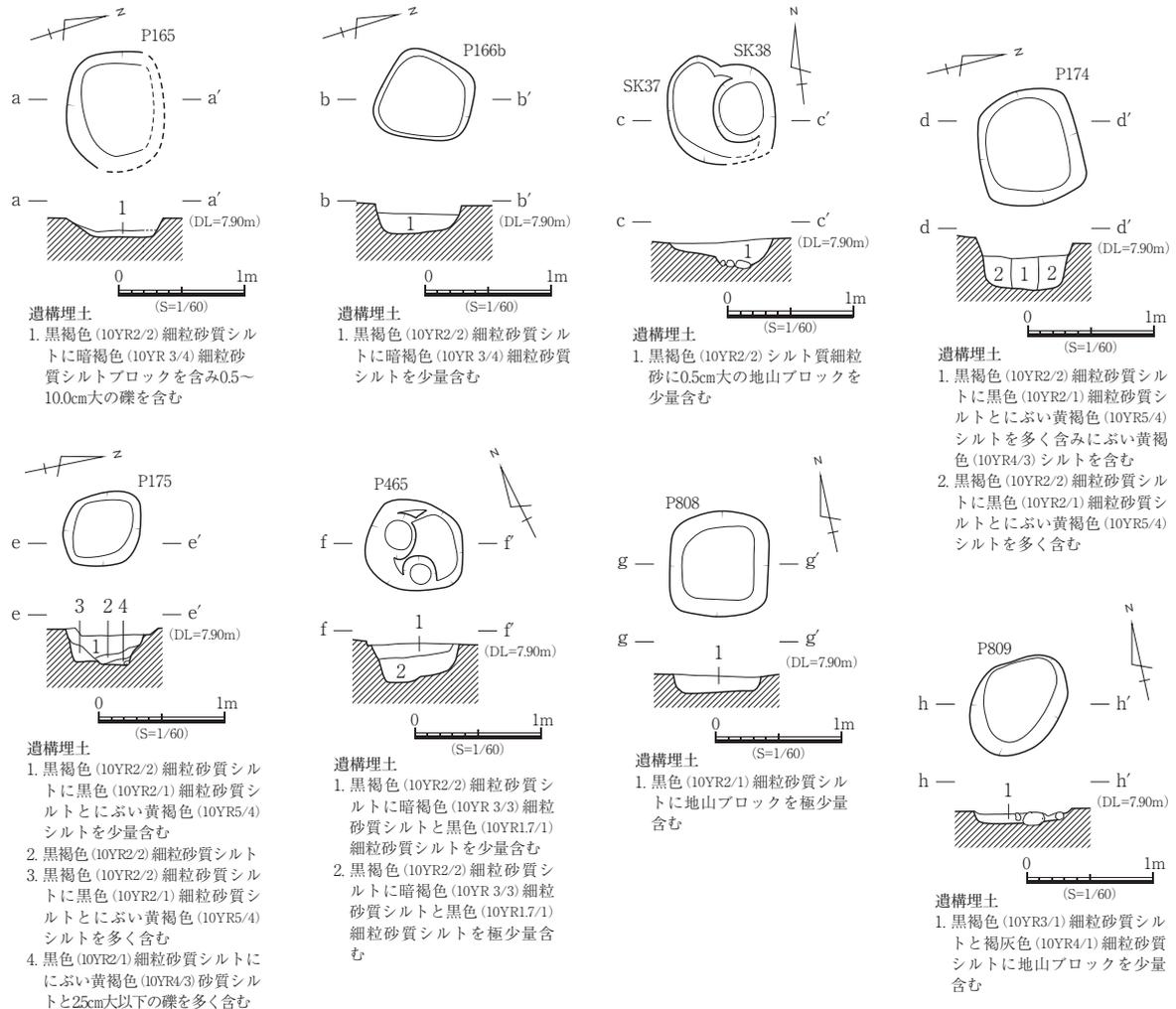


図350 7区 SB27 断面図

SB27

SB27は7-3・4区中央部で検出した桁行2間(約3.90m)、梁行2間(約3.37m)の東西棟の掘立柱建物跡であり、床面積は約13.1㎡である。主軸方向はN-74°21'-Wである。P165・166b・174・175・465・808・809・SK37・38で構成される。柱穴は直径あるいは一辺60～100cmの不整円形あるいは隅丸方形であり、検出面からの深さは12～43cmである。埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物はP809から出土した須恵器の杯(1327)である。体部は斜め上方へ内湾気味に立ち上がり、口唇部を丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施す。

SB28

SB28は7-3区中央部で検出した桁行2間(約3.81m)、梁行2間(約3.30m)の東西棟の掘立柱建物跡であり、床面積は約12.6㎡である。主軸方向はN-72°35'-Wである。P167～173で構成される。柱穴は一辺60～125cmの隅丸方形であり、検出面からの深さは21～58cmである。埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物はP167から出土した須恵器の杯(1328)である。受け部は短く、立ち上がりは短小である。内外面とも回転ナデ調整を施し、天井部外面には回転ヘラケズリ調整を施す。焼成不良である。

SB29(付図9)

SB29は7-3・4区中央部で検出した桁行6間(約13.96m)、梁行5間(約11.19m)の東西棟の掘立柱建物跡として復元した。床面積は約156.2㎡である。主軸方向はN-74°18'-Wである。なお、別の復元案も想定される。P41・42・44・78・83・98・120・146・152・164・176・193・239・270・277・283・326・418・

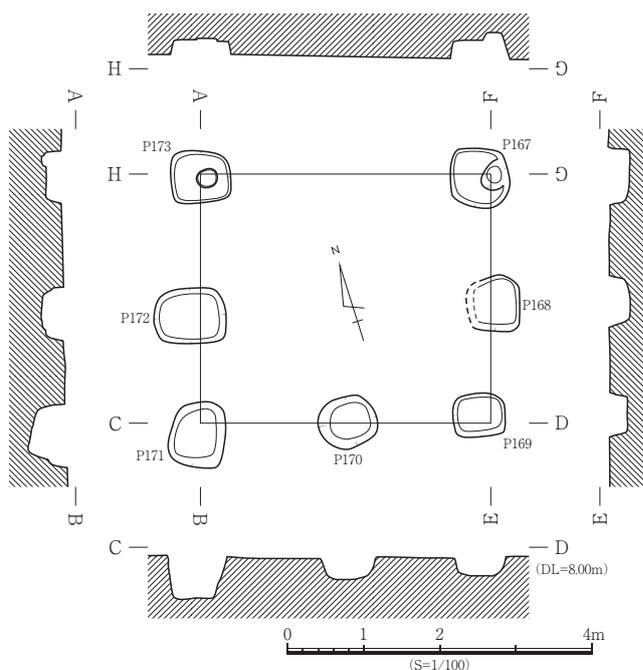


図351 7区 SB28 平面図・エレベーション図

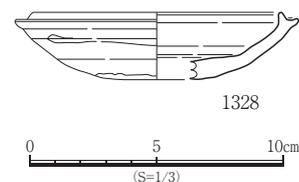
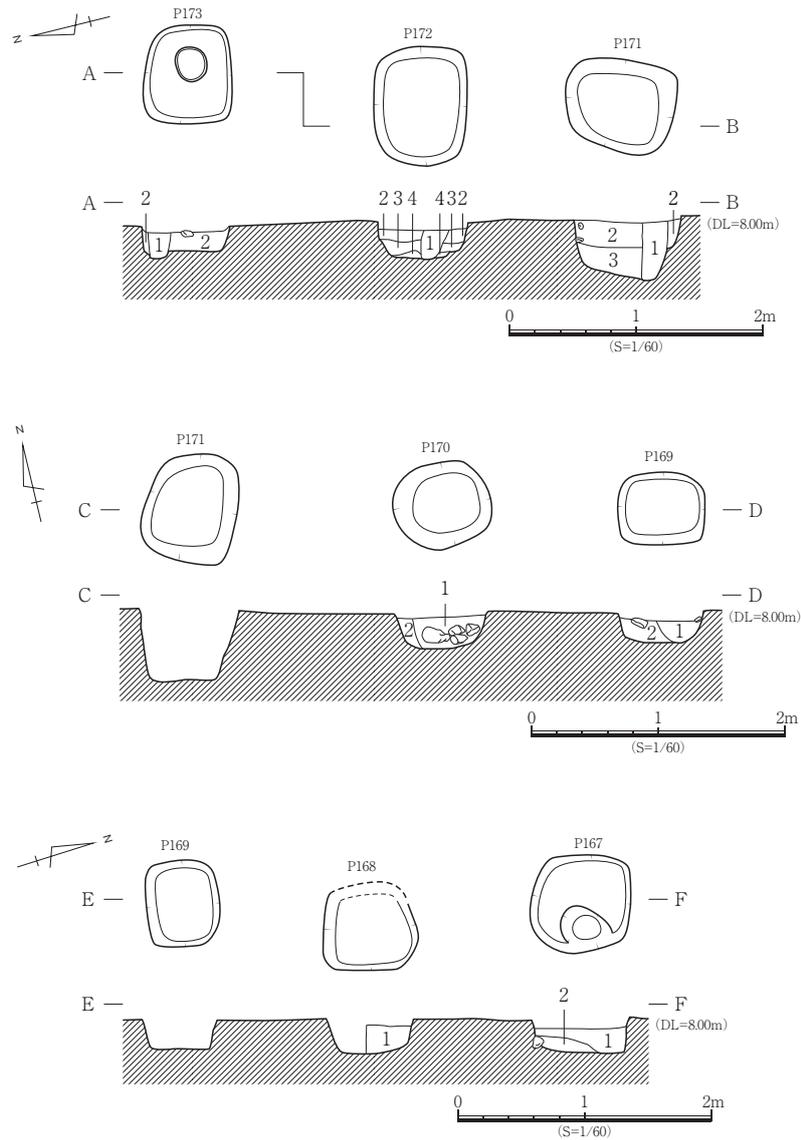


図352 7区 SB28 出土遺物実測図



遺構埋土 (P167)

1. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに暗褐色 (10YR3/4) 細粒砂質シルトと黒色 (10YR2/1) シルトを少量含み0.5~5.0cm大の礫を含む
2. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに暗褐色 (10YR3/4) 細粒砂質シルトを少量含み0.5~10.0cm大の礫を多く含む

遺構埋土 (P168)

1. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに暗褐色 (10YR3/4) 細粒砂質シルトを少量含み0.5~10.0cm大の礫を含む

遺構埋土 (P169)

1. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに暗褐色 (10YR3/4) 細粒砂質シルトとにぶい黄褐色 (10YR4/3) 細粒砂質シルトを少量含み0.5~10.0cm大の礫を含む
2. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに暗褐色 (10YR3/4) 細粒砂質シルトを少量と0.5~10.0cm大の礫を含む

遺構埋土 (P170)

1. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに暗褐色 (10YR3/4) 細粒砂質シルトを少量含み10.0cm大以上の礫を多く含む
2. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに暗褐色 (10YR3/4) 細粒砂質シルトを少量含み10.0cm大以上の礫を少量含む

遺構埋土 (P171)

1. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに黒色 (10YR2/1) 細粒砂質シルトとにぶい黄褐色 (10YR5/4) シルトを多量に含み0.5~4.0cm大の礫を少量含む
2. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトに黒色 (10YR2/1) 細粒砂質シルトとにぶい黄褐色 (10YR5/4) シルトを多量に含み0.5~4.0cm大の礫を少量含む
3. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに黒色 (10YR2/1) 細粒砂質シルトとにぶい黄褐色 (10YR5/4) シルトと0.5~4.0cm大の礫を少量含む

遺構埋土 (P172)

1. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに黒色 (10YR2/1) 細粒砂質シルトとにぶい黄褐色 (10YR5/4) シルトと0.5~4.0cm大の礫を少量含む (柱痕跡)
2. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに黒色 (10YR2/1) 細粒砂質シルトとにぶい黄褐色 (10YR5/4) シルトを多量に含み0.5~4.0cm大の礫を少量含む
3. 黒色 (10YR2/1) 細粒砂質シルトに黒色 (10YR2/1) 細粒砂質シルトとにぶい黄褐色 (10YR5/4) シルトと0.5~4.0cm大の礫を少量含む
4. 黒色 (10YR2/1) 細粒砂質シルトににぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質シルトと0.5~2.5cm大の礫を多く含む

遺構埋土 (P173)

1. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに黒色 (10YR2/1) 細粒砂質シルトとにぶい黄褐色 (10YR5/4) シルトと0.5~4.0cm大の礫を少量含む (柱痕跡)
2. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに黒色 (10YR2/1) 細粒砂質シルトとにぶい黄褐色 (10YR5/4) シルトを多量に含み0.5~4.0cm大の礫を少量含む

図353 7区 SB28 断面図

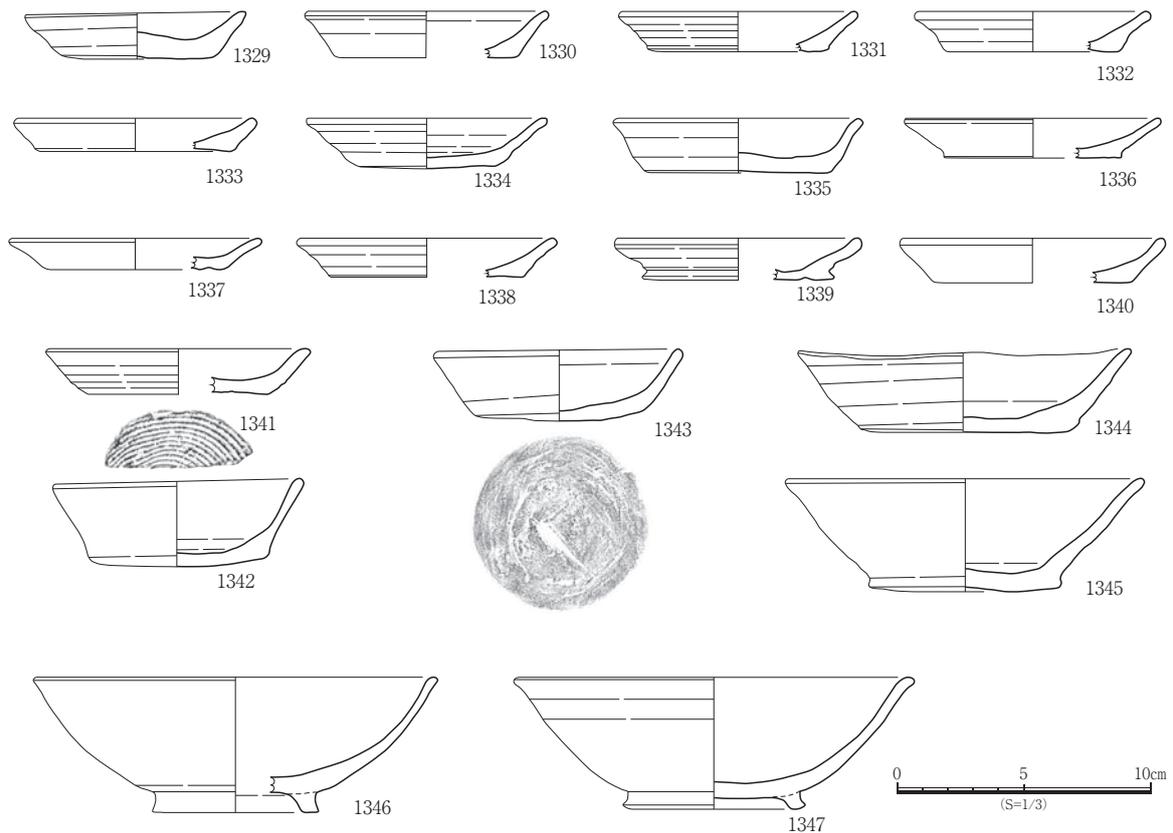


図354 7区 SB29 出土遺物実測図

424・485・545・551・599・653・756・840・922他で構成される。柱穴は直径15～60cmの不整円形であり、検出面からの深さは9～69cmである。埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物は、土師質土器の皿(1329～1341)・杯(1342～1345)・椀(1346・1347)である。

1329はP653から出土した皿である。口縁部は斜め上方へひらき、口唇部は丸みを帯びた尖端状を呈する。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面は回転ヘラ切り後、ナデ調整を施す。1330はP756から出土した皿である。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面にはナデ調整を施す。1331はP756から出土した皿である。口縁部は外方へひらき、口唇部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面は切り離した後、ナデ調整を施す。1332はP756から出土した皿である。口縁部は上方へ立ち上がり、端部を外反させ、口唇部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面は回転ヘラ切り後、ナデ調整を施す。1333はP756から出土した皿である。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面は回転ヘラ切り後、ナデ調整を施す。1334はP42から出土した皿である。口縁部は斜め上方へひらき、口唇部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面は回転ヘラ切り後ナデ調整か。内面には煤が付着しており、灯明皿として使用された可能性がある。1335はP418から出土した皿である。口縁部は内湾気味に低く立ち上がり、口縁端部を僅かに外反させる。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面は切り離した後、ナデ調整を施す。1336はP756から出土した皿である。口縁部は外方へひらき、口唇部は丸くおさめる。底部は扁平な平高台状を呈する。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転ヘラ切り痕跡か。1337はP840から出土した皿である。内外面とも回転ナデ調整か。外底面は回転ヘラ切り痕跡か。1338はP756から出土した皿である。口縁部は外方へひらく、口

唇部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面は切り離した後、ナデ調整を施す。1339はP756から出土した皿である。口縁部は外方へひらき、口唇部は丸くおさめる。底端部は外方へ突出気味である。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転ヘラ切り後、ナデ調整を施す。1340はP756から出土した皿である。口縁部は内湾気味に立ち上がり、口唇部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面は切り離した後、ナデ調整を施す。1341はP42から出土した皿である。口縁部は斜め上方へひらき、口唇部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。1342はP41から出土した杯である。体部は外反気味に立ち上がり、口唇部は丸くおさめる。底部は丸みを帯びる。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面は切り離した後、ナデ調整を施す。1343はP756から出土した杯である。体部は斜め上方へ低く立ち上がり、口唇部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面は回転ヘラ切り後ナデ調整を施す。1344はP42から出土した杯である。体部は斜め上方へ低く立ち上がり、口唇部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施す。粗大な仕上げである。1345はP756から出土した杯である。体部は内湾気味に斜め上方へ立ち上がる。底部は低平な円盤状高台である。外底面は回転ヘ

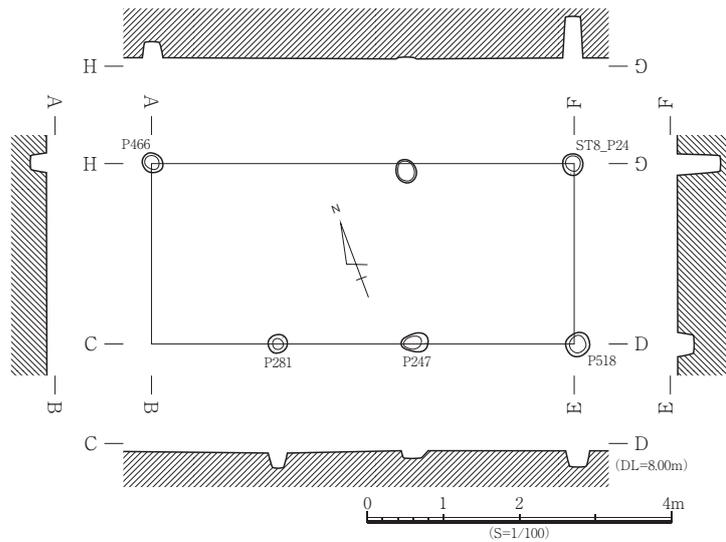


図355 7区 SB30 平面図・エレベーション図

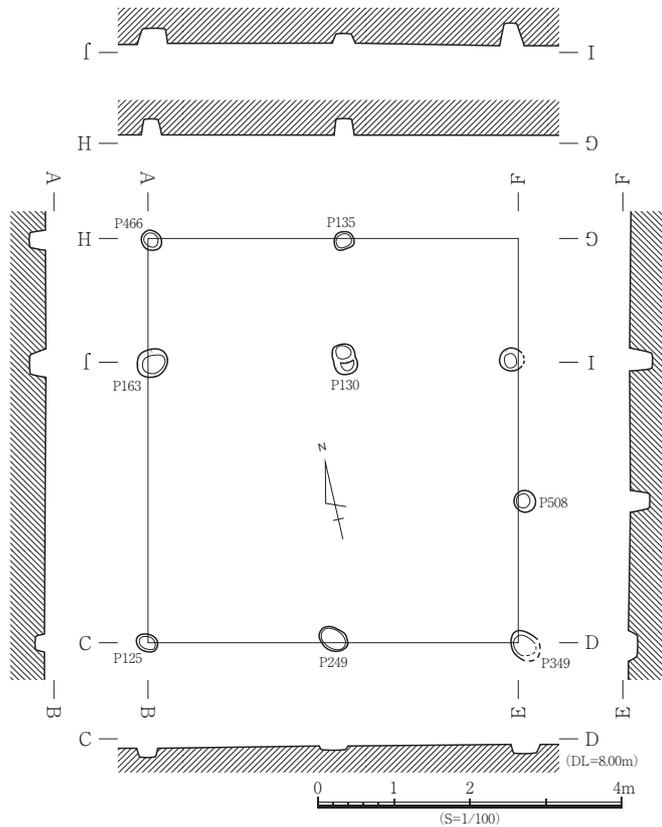


図356 7区 SB31 平面図・エレベーション図

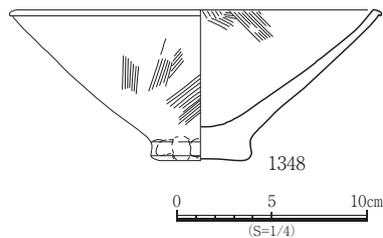


図357 7区 SB31 出土遺物実測図

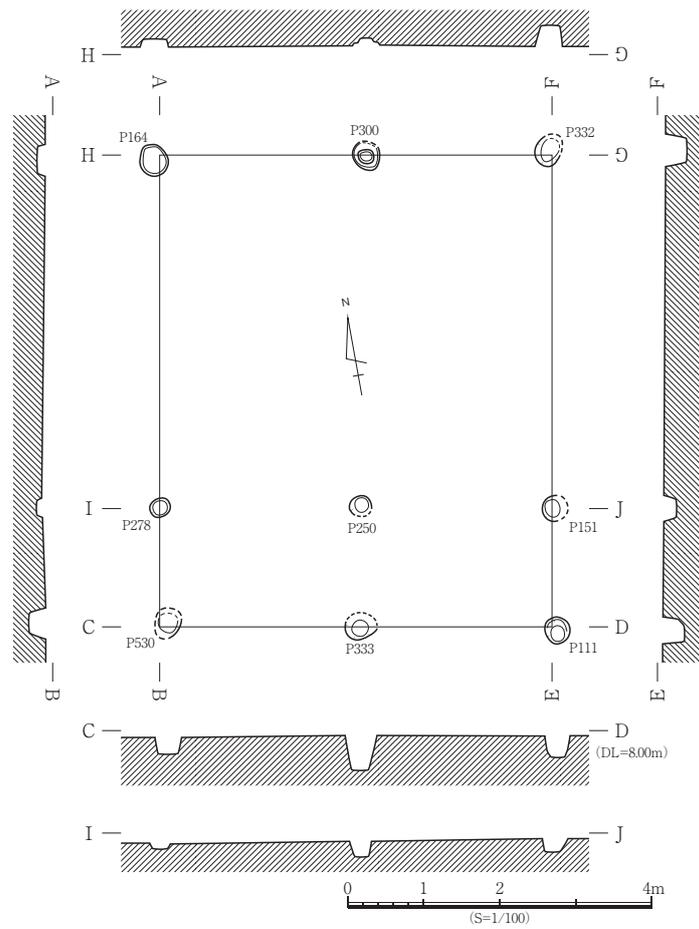


図358 7区 SB32 平面図・エレベーション図

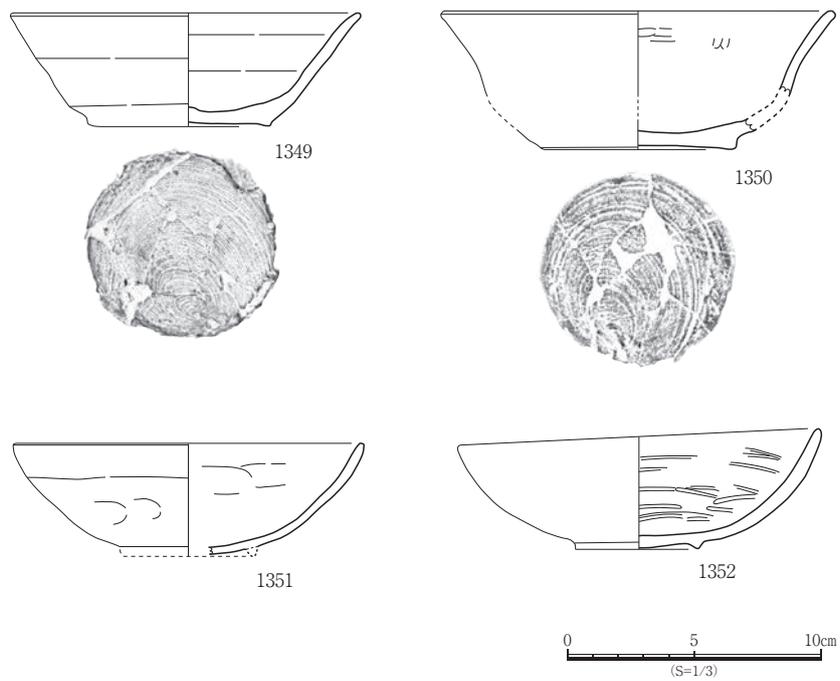


図359 7区 SB32 出土遺物実測図

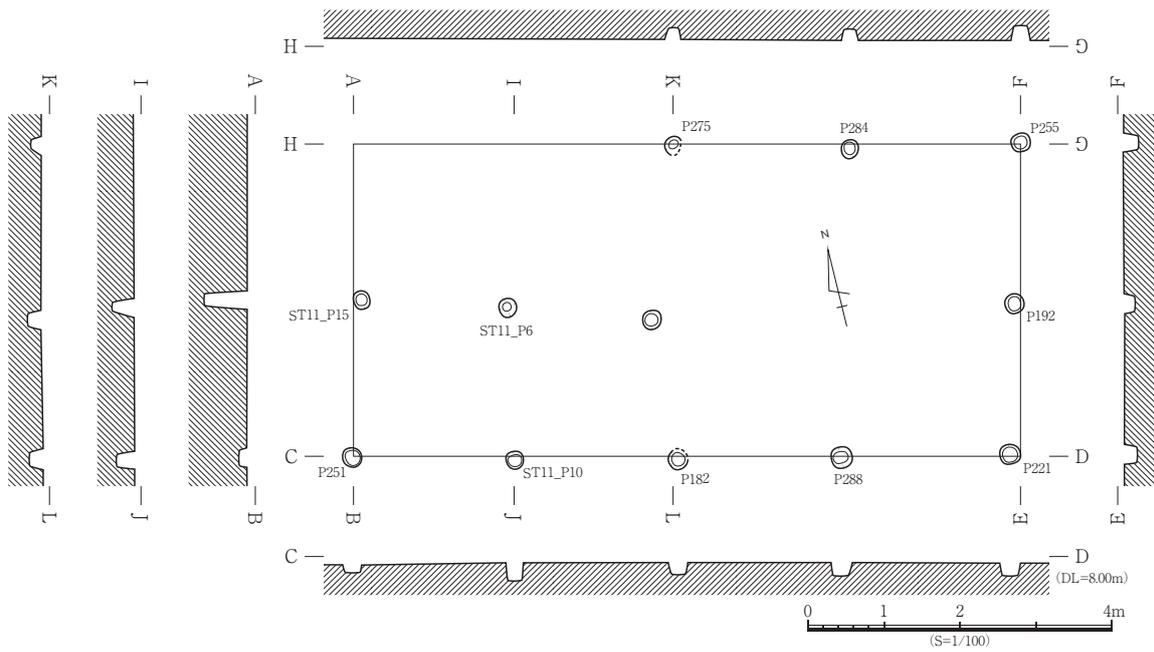


図360 7区 SB33 平面図・エレベーション図

ラ切り後ナデ調整か。1346はP922から出土した椀である。体部は内湾気味に立ち上がり、口唇部上端は丸みを帯びた面状を呈する。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面に断面形が方形の輪高台を貼り付ける。器面の一部は荒れる。1347はP83から出土した椀である。体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部は外反気味で口唇部は丸くおさめる。外底面に外傾気味の輪高台を貼り付ける。外面下半部には回転ヘラケズリ調整を施す。

SB30

SB30は7-3区中央部で検出した桁行3間(約5.56m)、梁行1間(約2.39m)の東西棟の掘立柱建物跡であり、床面積は約13.3㎡である。主軸方向はN-69° 33' -Wである。ST8_P24・P247・281・466・518他で構成される。柱穴は直径25～40cmの不整形円形であり、検出面からの深さは2～55cmである。埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物はない。

SB31

SB31は7-3区中央部で検出した桁行3間(約5.36m)、梁行2間(約4.87m)の南北棟の掘立柱建物跡であり、床面積は約26.1㎡である。主軸方向はN-77° 11' -Eである。P125・130・135・163・249・349・466・508他で構成される。柱穴は直径25～50cmの不整形円形であり、検出面からの深さは5～30cmである。埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物は、P508から出土した弥生土器の鉢(1348)である。体部は斜め上方へ直線的に立ち上がる。底部は円盤高台状を呈する。体部外面はハケ調整、内面はハケ調整およびナデ調整である。

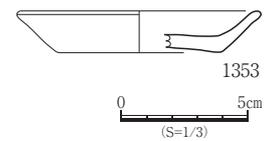


図361 7区 SB33 出土遺物実測図

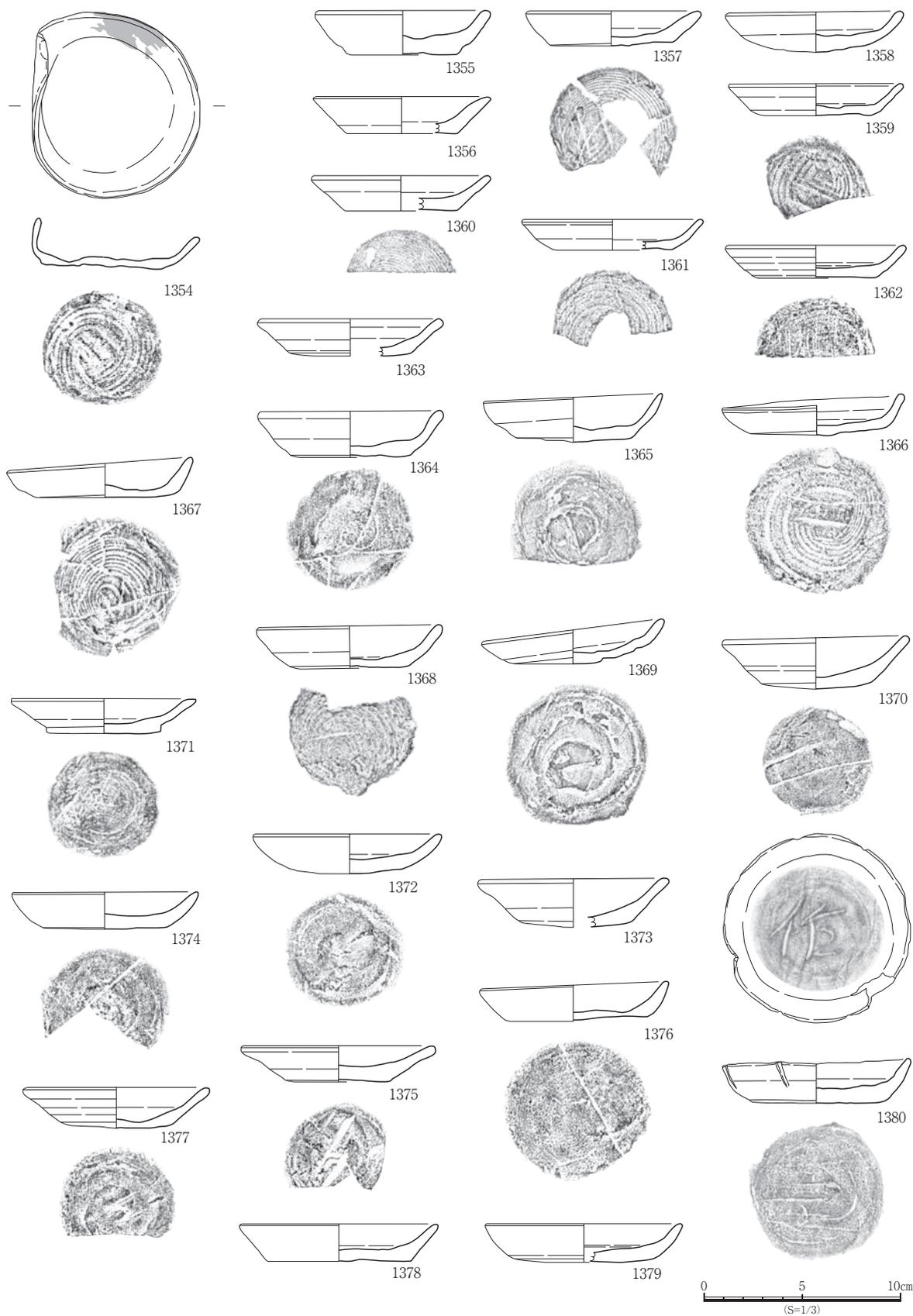


図362 7区 SB34 出土遺物実測図_1

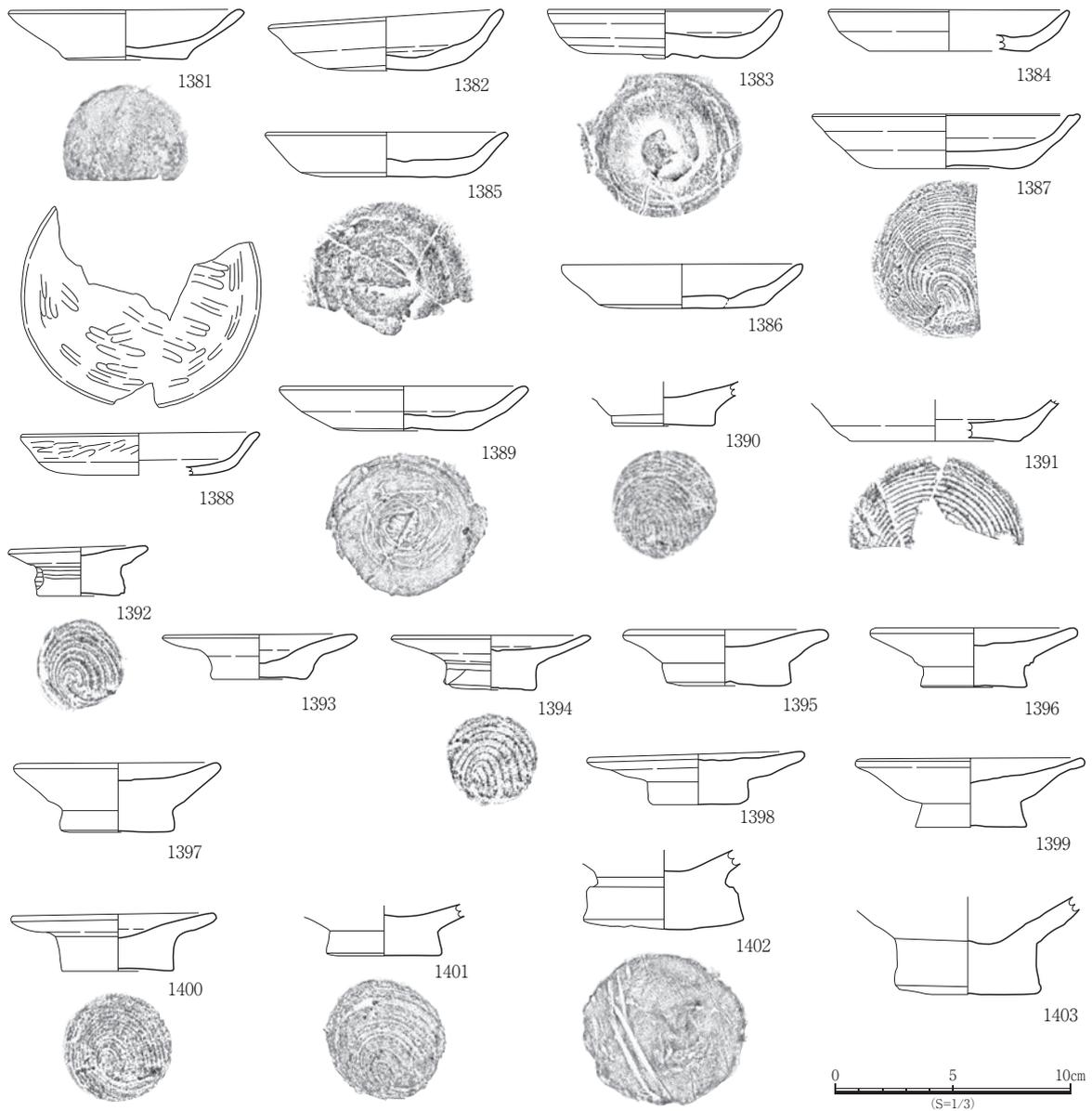


図363 7区 SB34 出土遺物実測図_2

SB32

SB32は7-3区中央部で検出した桁行2間(約6.25m)、梁行2間(約5.16m)の南北棟の掘立柱建物跡であり、床面積は約32.2㎡である。主軸方向はN-10° 08' -Eである。P111・151・164・250・278・300・332・333・530で構成される。柱穴は直径25～50cmの不整円形であり、検出面からの深さは8～46cmである。埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物は、土師質土器の杯(1349・1350)、瓦器の椀(1351・1352)である。

1349はP151から出土した杯である。体部は斜め上方へ立ち上がり、口唇部は丸くおさめる。底部は円盤状を呈する。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。完存する。1350はP151から出土した杯である。体部は外反気味に立ち上がる。底部は円盤状を呈する。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。1351はP151から出土した椀である。体部は丸みを帯び、口

縁部は僅かに立つ。外底面の貼付輪高台は剥離する。外面下半部には指頭圧痕が認められる。1352はP151から出土した椀である。体部は丸みを帯びる。外底面には短小な断面形が逆三角形形状の輪高台を貼り付ける。外面下半部には指頭圧痕が認められ、内面にはヘラミガキ調整を施す。炭素の吸着は弱い。完存である。

SB33

SB33は7-3区中央部で検出した桁行4間(約8.77m)、梁行2間(約4.14m)の東西棟の掘立柱建物跡であり、床面積は約36.3㎡である。主軸方向はN-76° 22' -Wである。P182・192・221・251・255・275・284・288・ST11_P6・ST11_P10・ST11_P15他で構成される。ST11_P6等は床束柱と考えられる。また、北西角は柱穴を欠く。柱穴は直径約25cmの円形であり、検出面からの深さは10～44cmである。埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物は、P255から出土した土師器の皿(1353)である。口縁部は斜め上方へひらき、端部を僅かに外反させ、口唇部は丸くおさめる。内外面とも摩耗のため調整等は不明である。

SB34(付図9)

SB34は7-3区中央部で検出した掘立柱建物跡である。桁行6間(約11.99m)、梁行は3間(約6.80m)以上検出した東西棟の総柱の掘立柱建物跡である。主軸方向はN-77° 57' -Wである。P17・73・99・

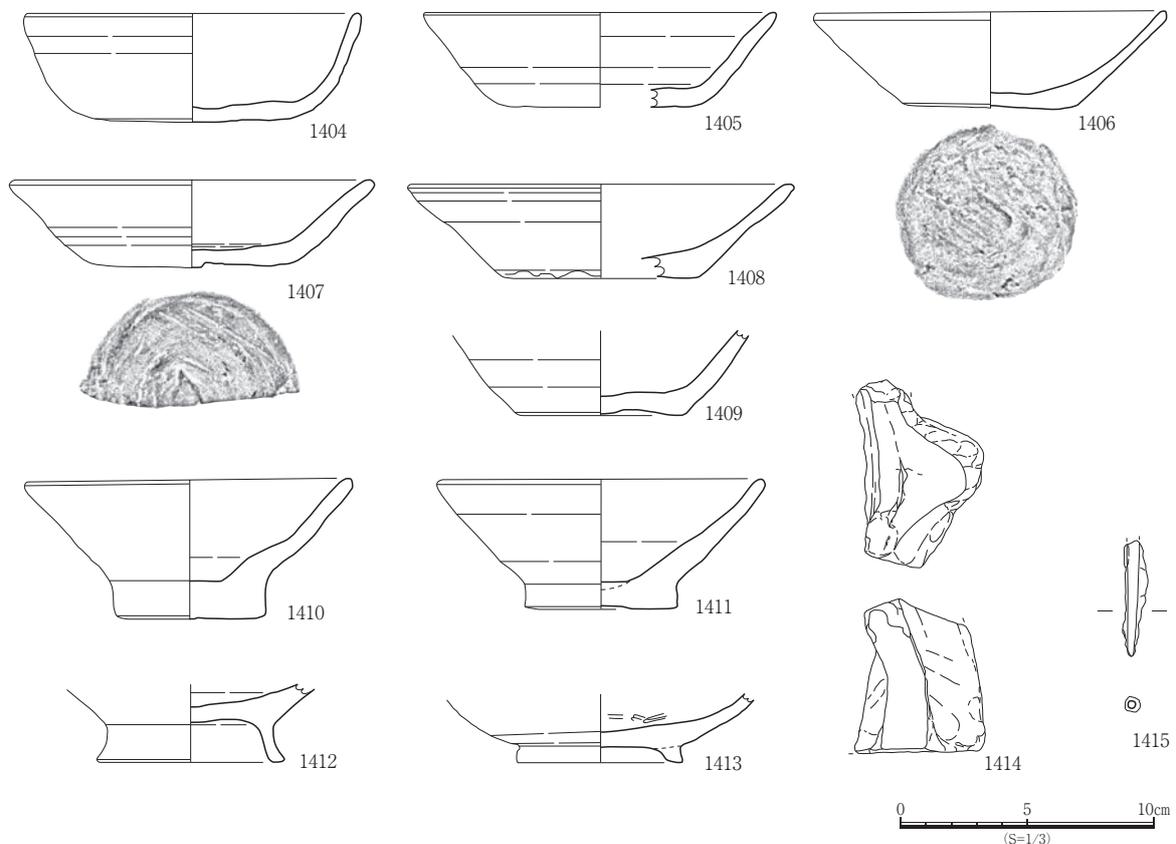


図364 7区 SB34 出土遺物実測図_3

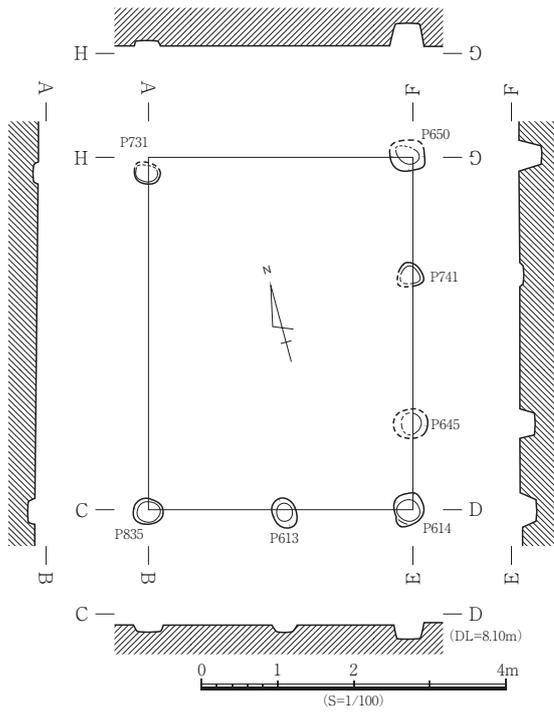


図365 7区 SB35 平面図・エレベーション図

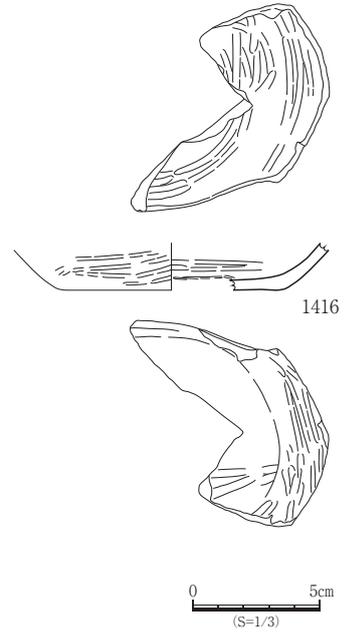


図366 7区 SB35 出土遺物実測図

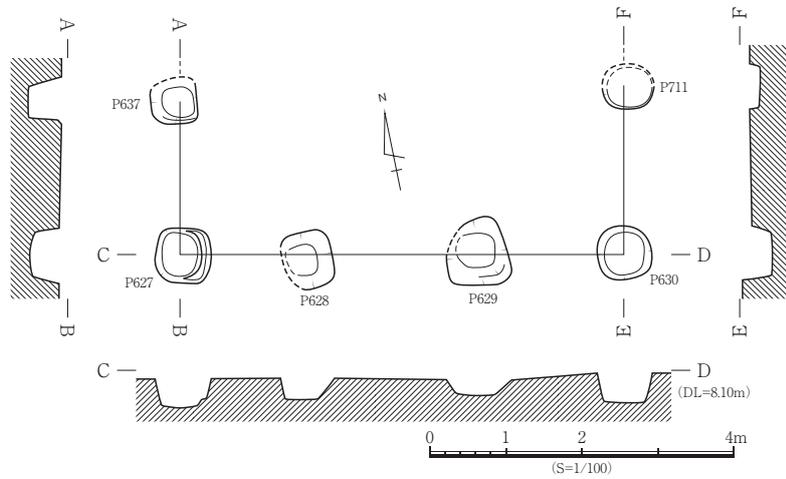


図367 7区 SB36 平面図・エレベーション図

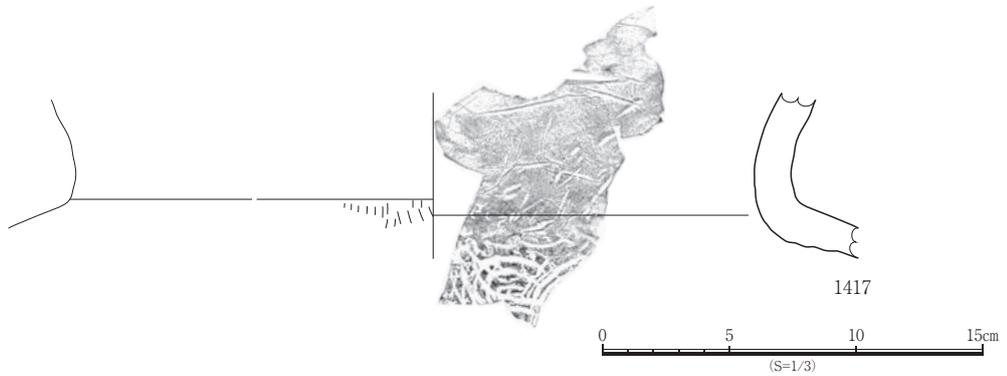


図368 7区 SB36 出土遺物実測図

110・144・145・150・181・184・186・274・320・334・335・372・374・391・601・ST6_P2・ST11_P23他で構成される。柱穴は直径40～80cmの不整円形であり、検出面からの深さは9～51cmである。埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物は、土師質土器の皿(1354～1387・1389～1391)・柱状高台(1392～1403)・杯(1404～1411)・椀(1412・1413)、黒色土器の皿(1388)、移動式カマド(1414)、鉄釘(1415)である。

1354はP145から出土した皿である。口縁部は一方が直立気味に立ち上がり、端部を内湾させる。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。口縁部に煤が付着しており、灯明皿として使用されたと考えられる。完存する。1355はP184から出土した皿である。体部は内湾気味にひらき、口唇部は丸くおさめる。底部は円盤状を呈する。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面は切り離した後、ナデ調整を施す。1356はP320から出土した皿である。口縁部は斜め上方へ直線的にひらく。1357はP320から出土した皿である。口縁部は斜め上方へひらき、口唇部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。口縁部には煤が付着しており、灯明皿として使用されたと考えられる。1358はP320から出土した皿である。口縁部は緩やかにひらき、口唇部は丸くおさめる。底部は丸みを帯びる。内外面とも回転ナデ調整を施す。1359はP144から出土した皿である。口縁部は斜め上方へひらき、口唇部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡および箕状圧痕が認められる。1360はP320から出土した皿である。口縁部は斜め上方へひらき、口唇部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。1361はP320から出土した皿である。口縁部は斜め上方へひらき、口唇部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施す。内底面には指頭圧痕がみられる。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。1362はP320から出土した皿である。口縁部は斜め上方へひらき、口唇部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施す。内底面にはヨコナデ調整を施す。外底面は切り離した後、ナデ調整を施す。1363はP17から出土した皿である。口縁部は斜め上方へひらき、端部は外反気味に仕上げる。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面は切り離した後ナデ調整か。1364はP99から出土した皿である。口縁部は斜め上方へひらき、口唇部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転ヘラ切り痕跡が認められる。1365はP320から出土した皿である。口縁部は斜め上方へひらき、口唇部は僅かに尖らせる。内外面とも回転ナデ調整を施す。内底面には指頭圧痕が認められる。外底面には回転ヘラ切り痕跡がみられる。1366はP184から出土した皿である。口縁部は歪む。内外面とも回転ナデ調整を施す。内底面には渦状にナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。また、外底面には箕状圧痕が認められる。1367はP181から出土した皿である。口縁部の立ち上がりは不均等である。口唇部は丸くおさめる。内底面は凸状を呈する。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。1368はP320から出土した皿である。口縁部は斜め上方へひらき、口唇部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。1369はP372から出土した皿である。口縁部は斜め上方へひらく。内外面とも回転ナデ調整を施す。内底面には指頭圧痕が認められる。外底面には粗い回転ヘラ切り痕跡がみられる。内底面にはタールが付着する。ほぼ完存である。1370はP320から出土した皿である。口縁部は外反気味にひらき、口唇部は丸くおさめる。底部はやや不安定である。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面は回転ヘラ切り後、ナデ調整を施す。器高は高めである。1371はP145から出土した皿である。口縁部は外反気味にひらき、口唇部上端は面状を呈する。底部は円盤状を呈する。内外面と

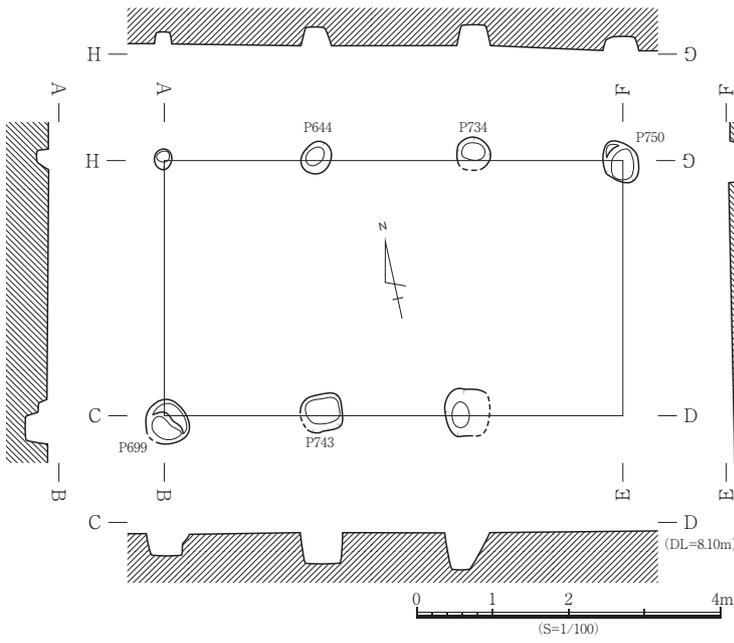


図369 7区 SB37 平面図・エレベーション図

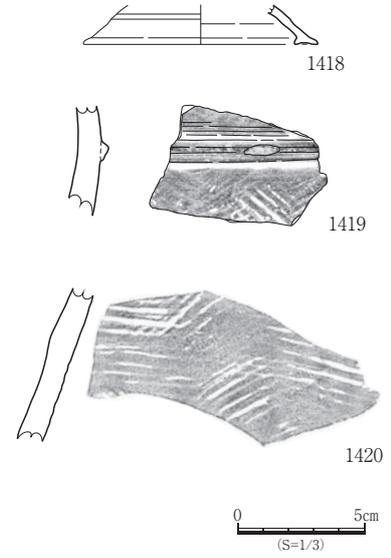


図370 7区 SB37 出土遺物実測図

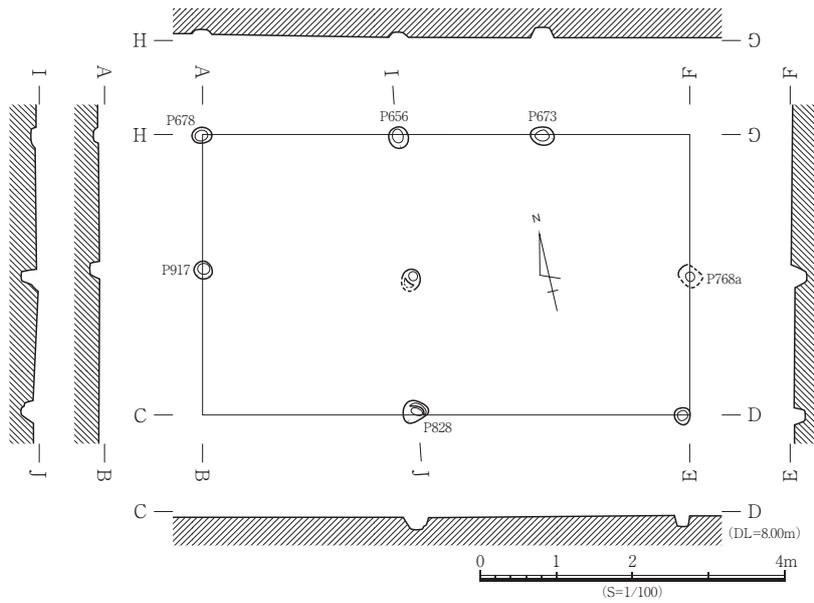


図371 7区 SB38 平面図・エレベーション図

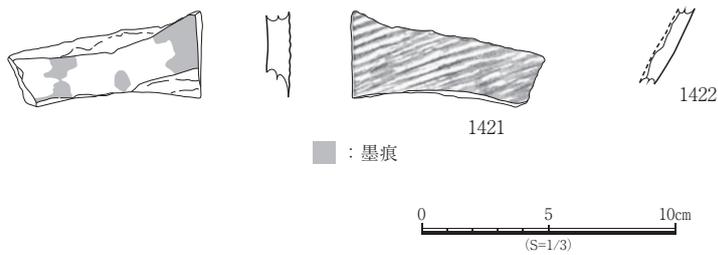


図372 7区 SB38 出土遺物実測図

も回転ナデ調整を施す。外底面には回転ヘラ切り痕跡が認められる。1372はP320から出土した皿である。口縁部は内湾気味にひらき、口唇部は丸くおさめる。底部は丸みを帯びる。内外面とも回転ナデ調整を施す。1373はP320から出土した皿である。口縁部は外反気味にひらき、口唇部は丸くおさめる。底部はやや不安定である。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面は切り離した後、ナデ調整を施す。器高は高めである。1374はP320から出土した皿である。口縁部は斜め上方へひらき、口唇部は丸くおさめる。外底面は回転ヘラ切り後、ナデ調整を施す。1375はP144から出土した皿である。口縁部は斜め上方へひらき、端部を僅かに外反させ、口唇部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施す。1376はP320から出土した皿である。口縁部は斜め上方へひらく。内外面とも回転ナデ調整を施す。内底縁には強いヨコナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。完存する。1377はP145から出土した皿

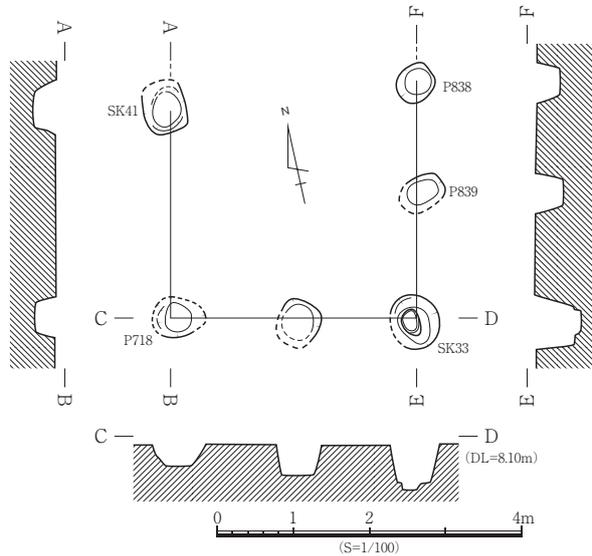


図373 7区 SB39 平面図・エレベーション図

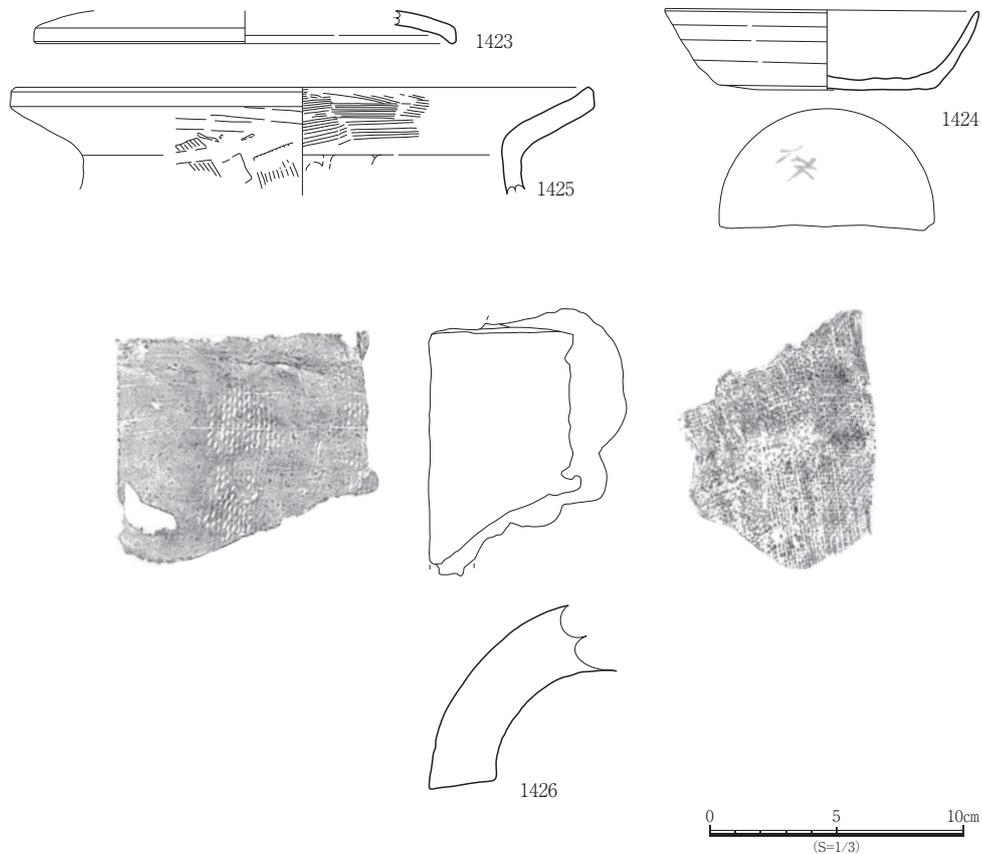


図374 7区 SB39 出土遺物実測図

である。口縁部は斜め上方へひらき、口唇部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施す。内底面にはヨコナデ調整を施す。外底面には回転ヘラ切り痕跡が認められる。1378はP320から出土した皿である。口縁部は斜め上方へ直線的にひらき、口唇部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施す。内底面には指頭圧痕がみられる。外底面は切り離した後、ナデ調整を施す。1379はP17から出土した皿である。口縁部は内湾気味にひらき、口唇部は丸くおさめる。外底面は切り離した後ナデ調整を施す。1380はP320から出土した輪花皿である。8ヶ所に縦位の沈線状の切込みをいれ、輪花とする。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面は回転ヘラ切りか。外底面には篲状圧痕がみられる。また、内底面に「作」の字を焼成前に刻書する。1381はP150から出土した皿である。口縁部は斜め上方へひらき、口唇部は丸くおさめる。底部は円盤状を呈する。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面は回転ヘラ切り後、ナデ調整を施す。1382はP320から出土した皿である。口縁部は内湾気味にひらき、端部を外反させる。底部は丸みを帯びる。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面は切り離した後、ナデ調整を施す。1383はP17から出土した皿である。口縁部は内湾気味にひらき、口唇部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転ヘラ切り痕跡が認められる。1384はP320から出土した皿である。口縁部はやや内湾気味に外方へひらき、口唇部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面は切り離した後、ナデ調整を施す。1385はP145から出土した皿である。口縁部は斜め上方へひらき、口唇部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転ヘラ切り痕跡が認められる。1386はP320から出土した皿である。口縁部は斜め上方へひらき、口唇部は丸くおさめる。1387はP17から出土した皿である。口縁部は斜め上方へひらき、口唇部上端は僅かに凹面状を呈する。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。1388はP320から出土した皿である。口縁部は外反気味にひらき、口唇部は丸くおさめる。内外面ともヘラミガキ調整を施す。ヘラミガキ調整は内底面、外底面にも及ぶ。両面とも黒色を呈する。1389はP320

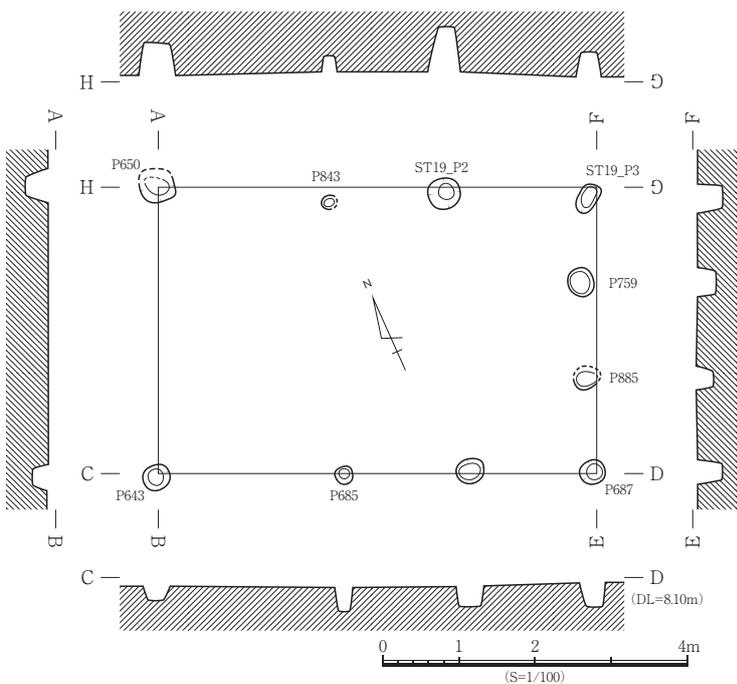


図375 7区 SB40 平面図・エレベーション図

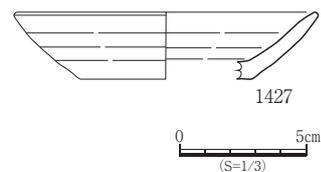


図376 7区 SB40 出土遺物実測図

から出土した皿である。口縁部は斜め外方へひらき、口唇部上端はナデ調整により面状となる。底部は扁平な円盤状を呈する。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転ヘラ切り痕跡が認められる。1390はP145から出土した円盤状高台皿である。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。1391はP17から出土した皿あるいは杯か。体部は斜め上方へ立ち上がる。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。

1392はP184から出土した柱状高台である。杯皿部は浅く外方へひらき、口唇部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施す。台部は低い円柱状を呈し、ヘラナデ調整を施す。外底面には回転ヘラ切り痕跡が認められる。1393はP320から出土した柱状高台である。杯皿部は浅く外方へひらき、口唇部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整か。1394はP150から出土した柱状高台である。杯皿部は浅い皿状、台部は低い円柱状を呈する。内外面とも回転ナデ調整である。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。1395はP184から出土した柱状高台である。杯皿部は浅く外方へひらき、口唇部は丸くおさめる。台部は低い円柱状を呈する。外底面は切り離した後、ナデ調整を施す。1396はP110から出土した柱状高台である。杯皿部は浅く外方へひらき、口唇部は丸くおさめる。台部は断面形が台形の低い円柱状を呈する。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。1397はP145から出土した柱状高台である。杯皿部は浅く外方へひらき、口唇部は丸くおさめる。台部は低い円柱状を呈する。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転ヘラ切り後、ナデ調整を施す。1398はP110から出土した柱状高台である。杯皿部は浅く外方へひらき、口唇部は丸くおさめる。台部は低い円柱状を呈する。内外面とも回転ナデ調整か。外底面は切り離した後、ナデ調整を施す。1399はP145から出土した柱状高台である。口縁部は浅く外方へひらき、口唇部は丸くおさめる。台部は断面形が台形の低い円柱状を呈する。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面は切り離した後、ナデ調整を施す。1400はP184から出土した柱状高台である。杯皿部は浅く外方へひらき、口唇部を僅かに肥厚させる。台部は低い円柱状を呈する。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。完存する。1401はP150から出土した柱状高台である。台部は断面形が台形の低い円柱状を呈する。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。1402はP150から出土した柱状高台である。台部は低い円柱状を呈し、杯皿部との境には凹線がめぐる。内外面とも回転ナデ調整か。外底面には篲状圧痕が認められる。1403はP150から出土した柱状高台である。台部は低い円柱状を呈する。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には篲状圧痕が認められる。

1404はP320から出土した杯である。体部は上方へ立ち上がり、口唇部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施す。内底面には指頭圧痕が認められる。外底面は切り離した後、ナデ調整を施す。1405はP320から出土した杯である。体部は斜め上方へ直線的に立ち上がり、口唇部は丸くおさめる。1406はP186から出土した杯である。体部は斜め上方へ直線的に立ち上がる。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面は回転ヘラ切り痕跡か。1407はP320から出土した杯である。体部は斜め上方へ低く立ち上がり、口唇部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転ヘラ切り痕跡が認められる。また、外底面には篲状圧痕が認められる。1408はP150から出土した杯である。体部は斜め上方へ低く立ち上がり、口唇部を僅かに肥厚させる。内外面とも回転ナデ調整を施す。1409はP150から出土した杯である。体部は斜め上方へ立ち上がる。内外面とも回転ナデ調整を施す。内底面には指頭圧痕が認められる。底部はヘラ起しか。外底面には篲状圧痕が認められる。1410はP186

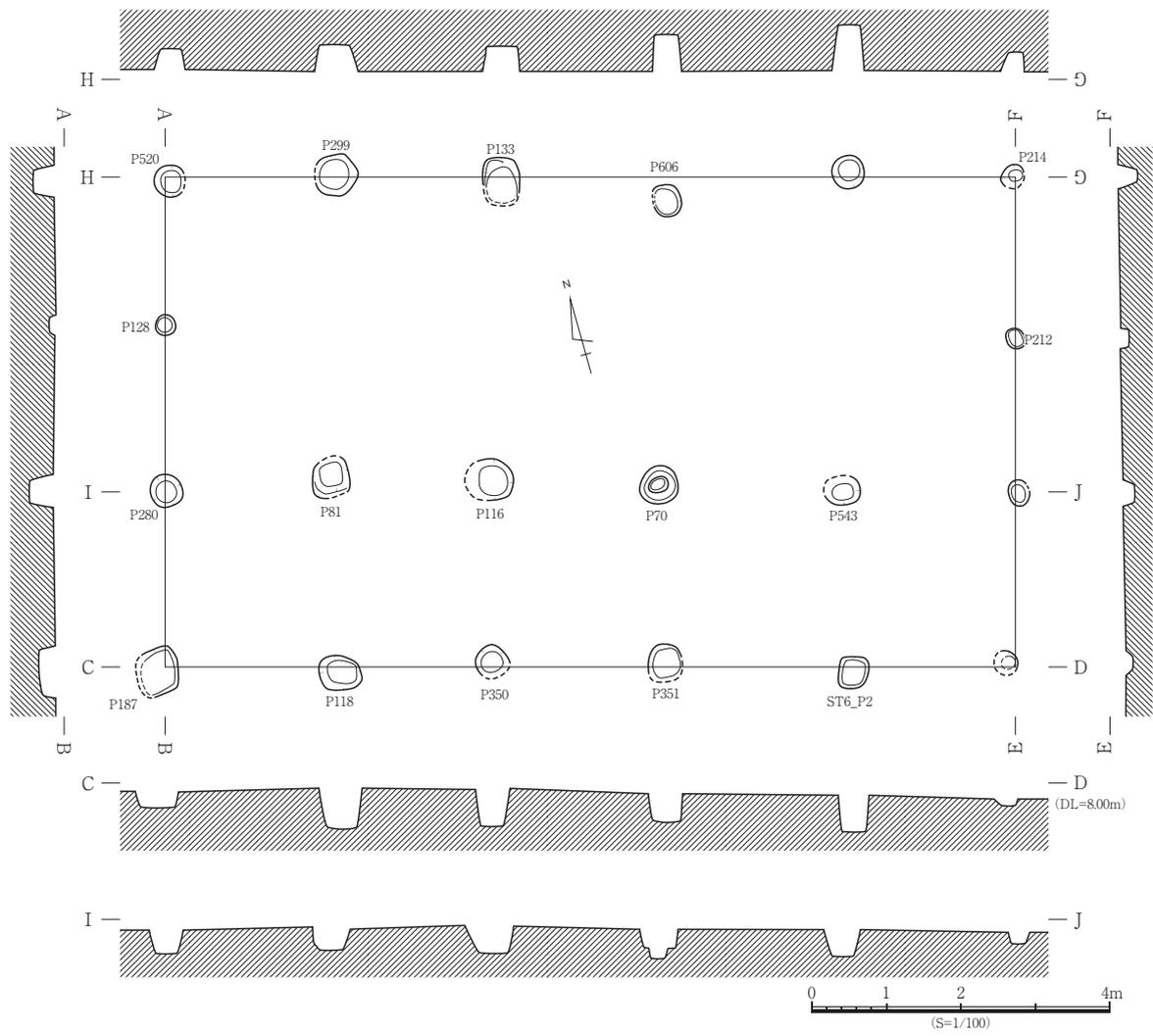


図377 7区 SB41 平面図・エレベーション図

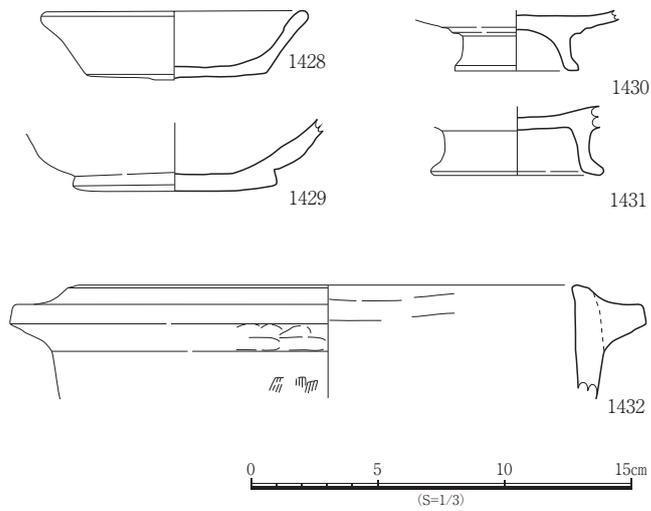


図378 7区 SB41 出土遺物実測図

から出土した杯である。底部は円盤状高台である。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面は切り離した後、ナデ調整を施す。また、外底面には篲状圧痕が認められる。柱状高台か。1411はP184から出土した杯である。体部は斜め上方へ立ち上がり、口唇部は丸くおさめる。底部は円盤状高台である。外底面は切り離した後ナデ調整を施す。柱状高台か。1412はP184から出土した椀である。外底面には高脚の輪高台を貼り付ける。柱状高台か。1413はP144から出土した椀である。体部は内湾気味に立ち上がる。外底面に輪高台を貼り付ける。内外面とも回転ナデ調整を施し、内面にはヘラミガキ調整を施す。1414はP184から出土した移動式カマドである。断面形が丸みを帯びた三角形の裾部を付加する。内外面ともナデ調整で仕上げる。接地面は安定感があり、外底面には板目状の圧痕が認められる。被熱赤変する。1415はP181から出土した鉄釘である。体部の断面形は方形を呈する。頭部は欠損する。

SB35

SB35は7-4区中央部で検出した桁行3間(約4.67m)、梁行2間(約3.47m)の南北棟の掘立柱建物跡であり、床面積は約16.2㎡である。主軸方向はN-14° 54' -Eである。P613・614・645・650・731・741・835で構成される。柱穴は直径30～45cmの不整円形であり、検出面からの深さは5～31cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物は、P614から出土した土師器の杯(1416)である。体部は斜め上方へ立ち上がる。内外面とも回転ナデ調整を施す。内面にヘラミガキ調整を施す。外底面は回転ヘラ切り後ナデ調整を施し、さらにヘラミガキ調整を加える。

SB36

SB36は7-4区中央部で検出した掘立柱建物跡である。桁行は1間(約2.24m)以上、梁行3間(約5.83m)を検出した。南北棟の掘立柱建物跡と推測され、主軸方向はN-11° 23' -Eである。P627・630・637・711で構成される。柱穴は一辺60～90cmの隅丸方形であり、検出面からの深さは21～44cmである。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物は、P629から出土した須恵器の甕(1417)である。頸部は内外面とも回転ナデ調整を施す。肩部外面には平行叩き、内面には同心円状の当て具痕跡がみられる。

SB37

SB37は7-4区中央部で検出した桁行3間(約6.03m)、梁行1間(約3.38m)の東西棟の掘立柱建物跡であり、床面積は約20.4㎡である。主軸方向はN-77° 50' -Eである。P644・699・734・743・750他で構成される。柱穴は

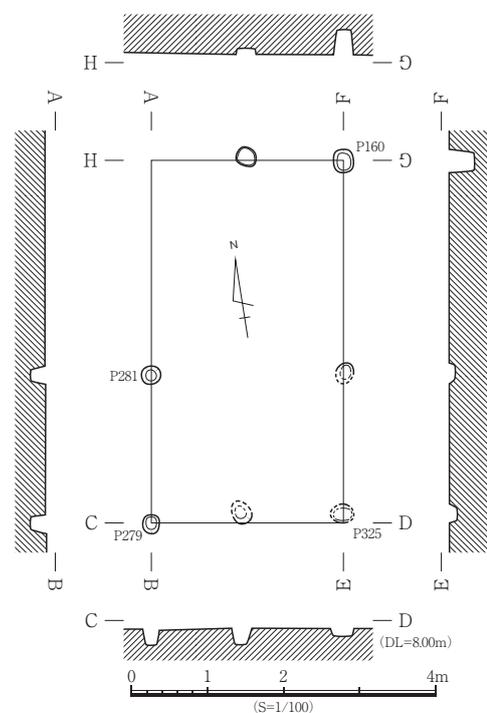


図379 7区 SB42
平面図・エレベーション図

直径 25 ～ 65 cmの不整円形であり、検出面からの深さは 16 ～ 49 cmである。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物は、須恵器の蓋(1418)・体部片(1419・1420)である。

1418はP750から出土した蓋である。内面にかえりを付す。内外面とも回転ナデ調整を施す。1419はP644から出土した壺の体部片か。突帯を貼付し、外面は突帯よりも上は回転ナデ調整を施し、下は叩き調整後ナデ調整を施す。内面には回転ナデ調整を施す。やや焼成不良である。1420はP750から出土した体部片である。外面は平行叩き調整後ナデ調整を施し、内面はナデ調整である。墨ではなく、煤が付着か。

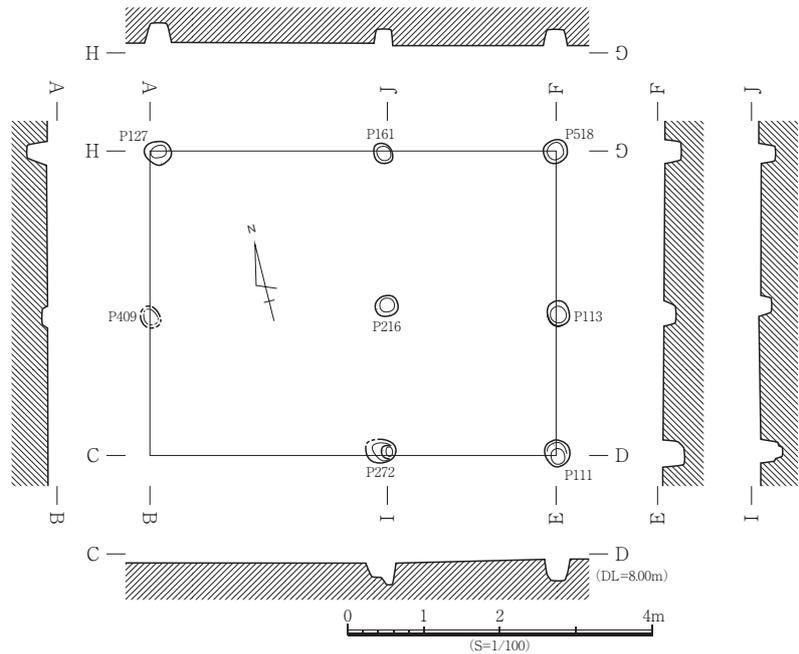


図380 7区 SB43 平面図・エレベーション図

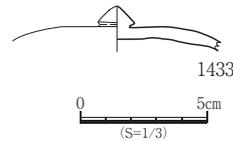


図381 7区 SB43 出土遺物実測図

SB38

SB38は7-4区中央部で検出した桁行3間(約6.40m)、梁行2間(約3.71m)の東西棟の掘立柱建物跡であり、床面積は約23.8㎡である。主軸方向はN-77°09'-Wである。P656・673・678・768a・828・917他で構成される。柱穴は直径20～35cmの不整円形であり、検出面からの深さは6～21cmである。埋土は黒褐色(10YR3/1)極細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物は、須恵

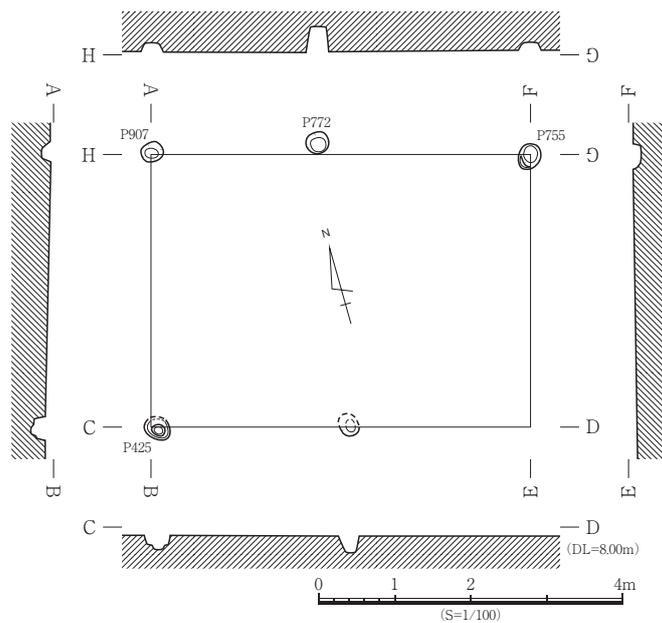


図382 7区 SB44 平面図・エレベーション図

器の体部片(1421), 灰釉陶器(1422)である。

1421はP656から出土した体部片である。外面には平行叩き調整, 内面には回転ナデ調整を施す。また, 内面には墨が付着しており転用硯と考えられる。1422はP678から出土した。器形は不明である。外面には回転ナデ調整を施す。内面は剥離する。

SB39

SB39は7-4区中央部で検出した掘立柱建物跡である。桁行は2間(約3.13m)以上, 梁行2間(約3.23m)の掘立柱建物跡である。主軸方向は南北棟とした場合は $N-12^{\circ}19'-E$ である。SK33・41・P718・838・839他で構成される。柱穴は直径45~85cmの隅丸方形あるいは不整形円形であり, 検出面からの深さは29~61cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物は, 須恵器の蓋(1423)・杯(1424), 土師器の甕(1425), 丸瓦(1426)である。

1423はP838から出土した蓋である。内外面とも回転ナデ調整を施す。外面には自然釉が付着する。1424はSK33から出土した杯である。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転ヘラ切り痕跡が認められる。また, 外底面には, 「休」の墨書が認められる。1425はSK33から出土した甕である。口唇部上面を僅かに肥厚させ凹面状を呈する。口縁部外面はタ

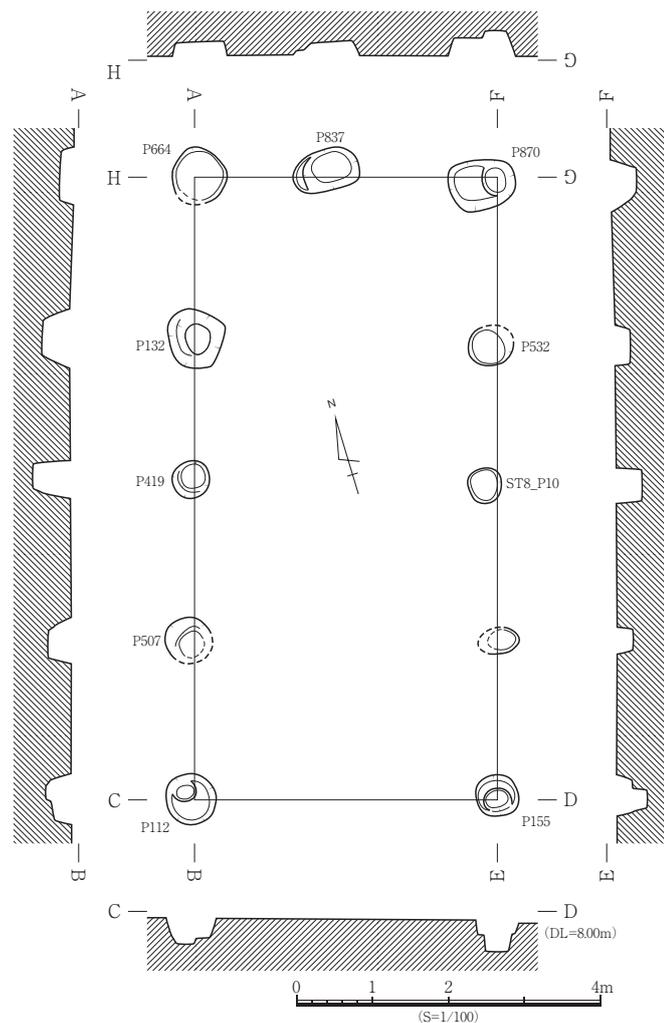


図383 7区 SB45 平面図・エレベーション図

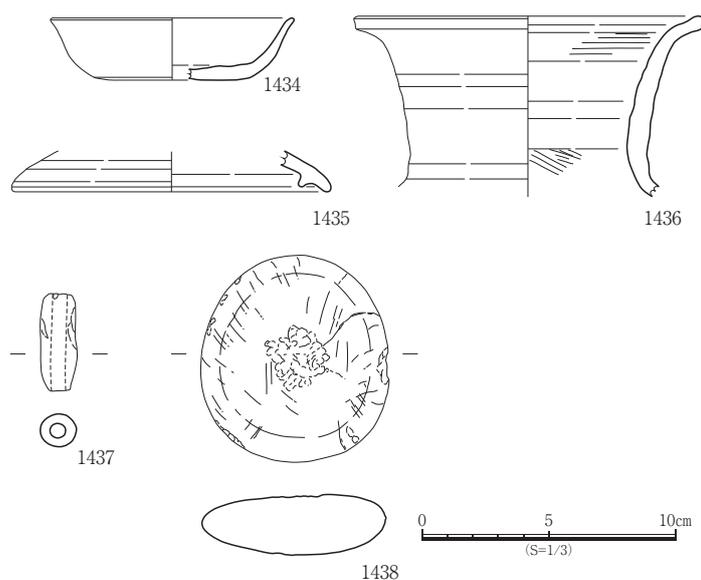


図384 7区 SB45 出土遺物実測図

テハケ調整, 内面はヨコハケ調整である。1426はSK33から出土した丸瓦である。凸面には縄目痕, 凹面には布目の圧痕が認められる。焼成不良である。

SB40

SB40は7-4区中央部で検出した桁行3間(約5.76m), 梁行3間(約3.79m)の東西棟の掘立柱建物跡であり, 床面積は約21.8㎡である。主軸方向はN-66° 00' -Wである。P643・650・685・687・759・843・885・ST19_P2・3他で構成される。柱穴は直径20~50cmの不整円形であり, 検出面からの深さは19~60cmである。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物は, P643から出土した須恵器の杯(1427)である。内外面とも回転ナデ調整を施す。

SB41

SB41は7-3区中央部で検出した桁行5間(約11.40m), 梁行3間(約6.62m)の東西棟の掘立柱建物跡であり, 床面積は約75.6㎡である。主軸方向はN-74° 23' -Wである。P70・81・116・118・128・133・187・212・214・280・299・350・351・520・543・606, ST6_P2他で構成される。P70・81・116・543は床束柱と考えられる。柱穴は直径25~65cmの不整形であり, 検出面からの深さは9~62cmである。埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物は, 土師質土器の杯(1428)・椀(1429)・柱状高台(1430・1431)・羽釜(1432)である。

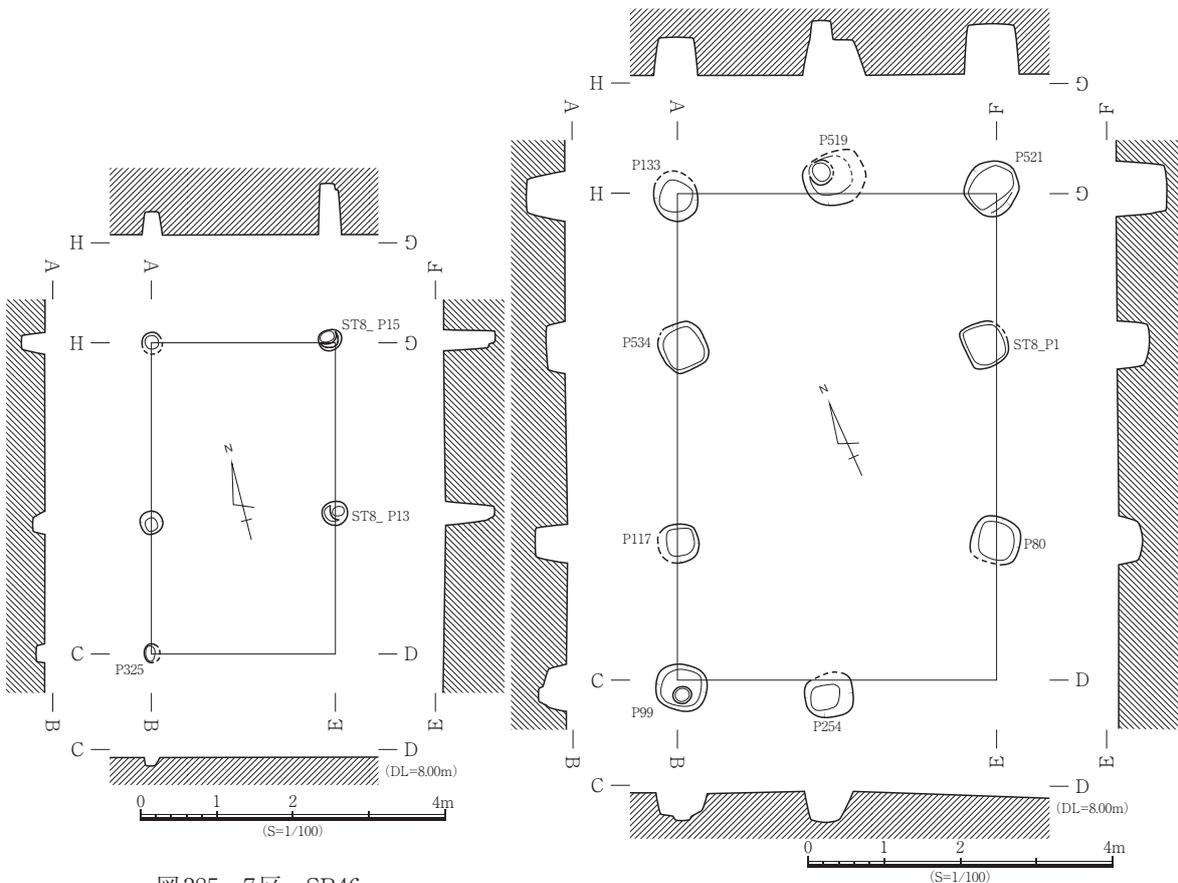


図385 7区 SB46
平面図・エレベーション図

図386 7区 SB47 平面図・エレベーション図

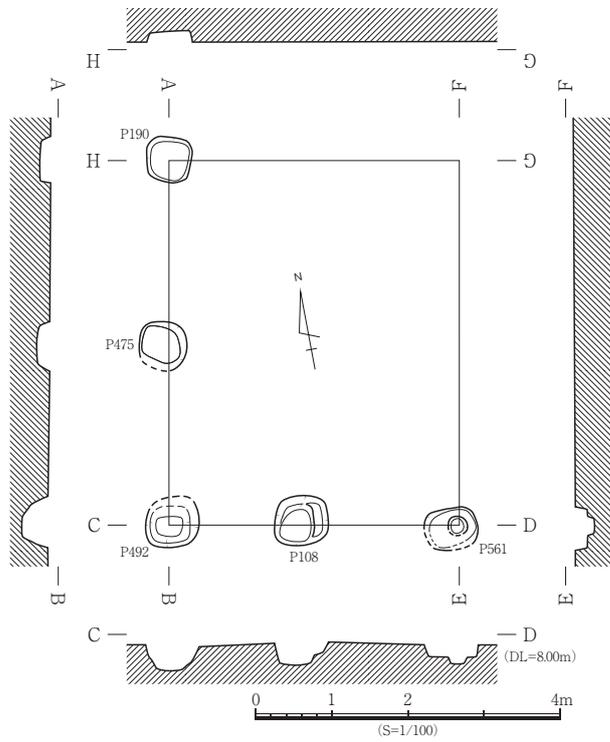


図387 7区 SB48 平面図・エレベーション図

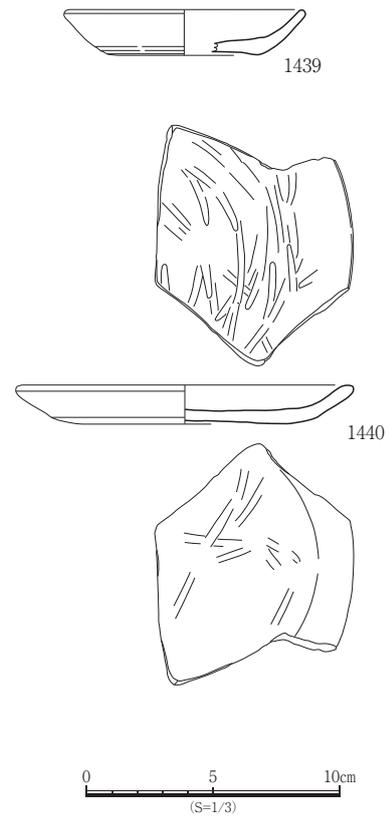


図388 7区 SB48 出土遺物実測図

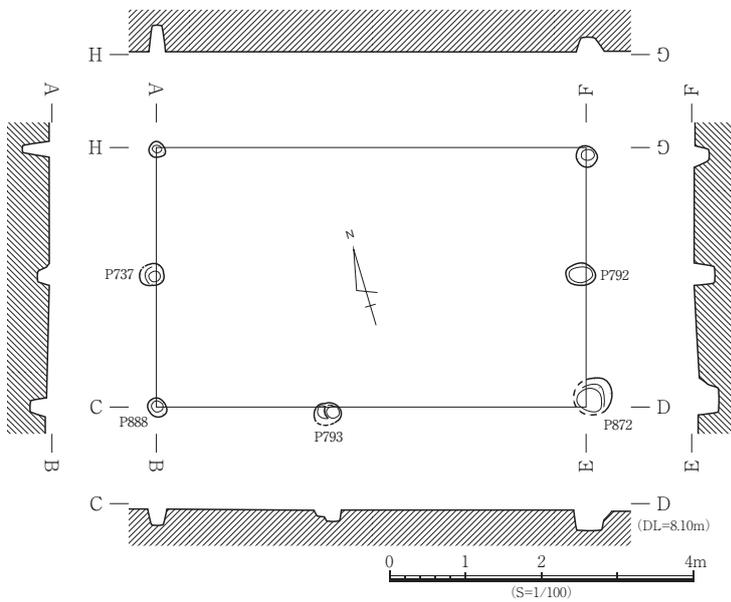


図389 7区 SB49 平面図・エレベーション図

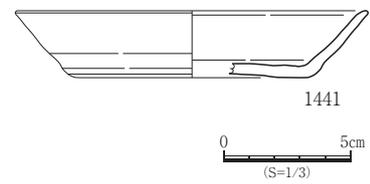


図390 7区 SB49 出土遺物実測図

1428はP543から出土した杯である。体部は外反気味に斜め上方へ立ち上がり、口唇部を僅かに肥厚させ丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転ヘラ切り痕跡が認められる。1429はP81から出土した円盤状高台椀である。体部は内湾気味に立ち上がる。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面は切り離した後、ナデ調整を施す。1430はP520から出土した柱状高台である。外底面に高脚の輪高台を貼り付ける。高台端部は外方に僅かにひらく。内外面とも回転ナデ調整を施す。1431はP299から出土した柱状高台である。外底面に高脚の輪高台を貼り付ける。内外面とも回転ナデ調整を施す。1432はP543から出土した羽釜である。口唇部はやや外傾し面状と成す。口縁端部に断面形が台形の鏝を貼り付ける。口縁部内面はヨコナデ調整、体部外面はタテハケ調整である。

SB42

SB42は7-3区中央部で検出した桁行2間(約4.80m)、梁行2間(約2.52m)の南北棟の掘立柱建物跡であり、床面積は約12.1㎡である。主軸方向はN-8° 54' -Eである。P160・279・281・325他で構成される。柱穴は直径20～35cmの不整円形であり、検出面からの深さは8～33cmである。埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物はない。

SB43

SB43は7-3区中央部で検出した桁行2間(約5.34m)、梁行2間(約4.03m)の東西棟の掘立柱建物跡であり、床面積は約21.5㎡である。主軸方向はN-76° 07' -Wである。P111・113・127・161・216・272・409・518で構成される。柱穴は直径25～40cmの不整円形であり、検出面からの深さは7～28cmである。埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物は、P127から出土した須恵器の蓋(1433)である。天井部は緩やかな弧状を描く。天井部に宝珠形の摘みを付す。天井部外面には回転ヘラケズリ調整、内外面に回転ナデ調整を施す。内底面には仕上げナデ調整を施す。

SB44

SB44は7-3・4区中央部で検出した桁行2間(約4.99m)、梁行1間(約3.61m)の東西棟の掘立柱建物跡であり、床面積は約18.0㎡である。主軸方向はN-74° 23' -Wである。P425・755・772・907他で構成される。柱穴

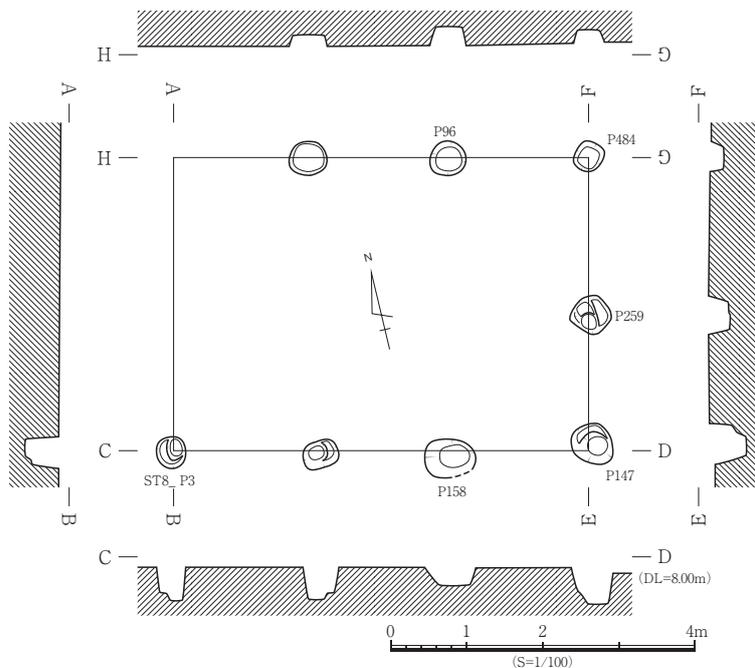


図391 7区 SB50 平面図・エレベーション図

は直径約25～35cmの不整形円形であり、検出面からの深さは11～42cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物はない。

SB45

SB45は7-3区中央部で検出した桁行4間(約8.25m)、梁行2間(約3.98m)の南北棟の掘立柱建物跡であり、床面積は約32.8㎡である。主軸方向はN-16°35'-Eである。ST8_P10・P112・132・155・419・507・532・664・837・870他で構成される。柱穴は直径約35～100cmの不整形であり、検出面からの深さは16～49cmである。埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物は、土師器の杯(1434)、須恵器の蓋(1435)・壺(1436)、土錘(1437)、叩石(1438)である。

1434はP664から出土した杯である。体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部は外反気味となる。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面は回転ヘラ切り後ナデ調整か。1435はP664から出土した蓋である。天井部は丸みを帯び、内面に短小なかえりを付す。内外面とも回転ナデ調整を施す。1436はP870から出土した壺である。口唇部には面取りを施す。内外面とも回転ナデ調整を施す。1437はP870から出土した管状土錘である。ほぼ円柱状を呈する。孔径は約0.6cmである。ナデ調整で仕上げ、凹凸がみられる。ほぼ完存する。1438はP870から出土した砂岩製の叩石である。内外面とも中央部および側面の一部に敲打痕跡が認められる。被熱変色する。

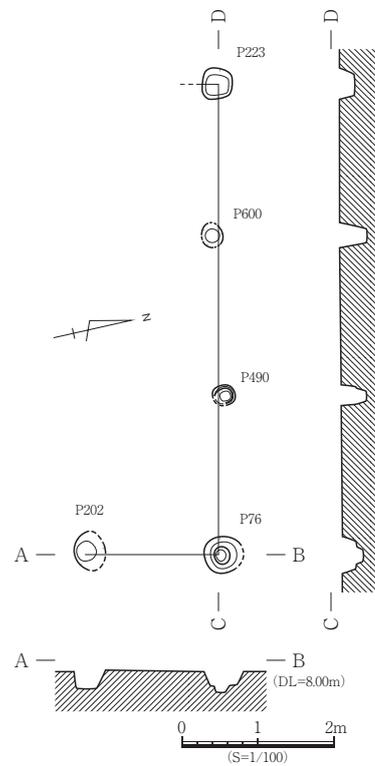


図392 7区 SB51 平面図・エレベーション図

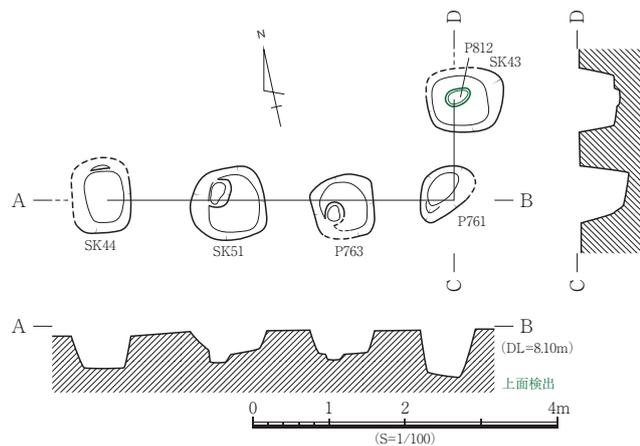


図393 7区 SB52 平面図・エレベーション図

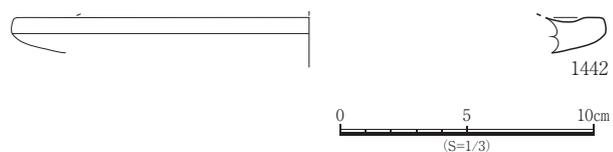


図394 7区 SB52 出土遺物実測図

SB46

SB46は7-3区中央部で検出した桁行2間(約4.12m), 梁行1間(約2.42m)の南北棟の掘立柱建物跡であり, 床面積は約9.9㎡である。主軸方向はN-14°08'-Eである。ST8_P13・15・P325他で構成される。柱穴は直径20~35cmの不整形円形であり, 検出面からの深さは11~68cmである。埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物はない。

SB47

SB47は7-3区中央部で検出した桁行3間(約6.45m), 梁行2間(約4.20m)の南北棟の掘立柱建物跡であり, 床面積は約27.1㎡である。主軸方向はN-24°00'-Eである。P80・99・117・133・254・519・521・534・ST8_P1で構成される。柱穴は一辺50~80cmの隅丸方形であり, 検出面からの深さは25~67cmである。埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物はない。

SB48

SB48は7-3区中央部で検出した桁行2間(約4.83m), 梁行2間(約3.82m)の南北棟の掘立柱建物跡であり, 床面積は約18.4㎡である。主軸方向はN-10°32'-Eである。P108・190・475・492・561で構成される。柱穴は一辺55~70cmの隅丸方形であり, 検出面からの深さは14~35cmである。埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物は, 土師質土器の皿(1439・1440)である。

1439はP108から出土した皿である。口縁部は斜め上方へひらき, 口唇部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。1440はP108から出土した皿である。口縁部は浅く斜め上方へひらき, 口唇部は丸くおさめる。内外面とも回転

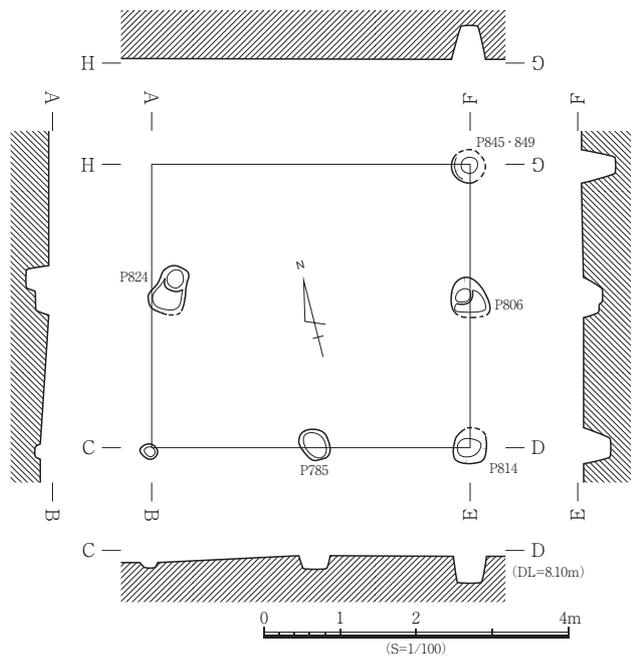


図395 7区 SB53 平面図・エレベーション図

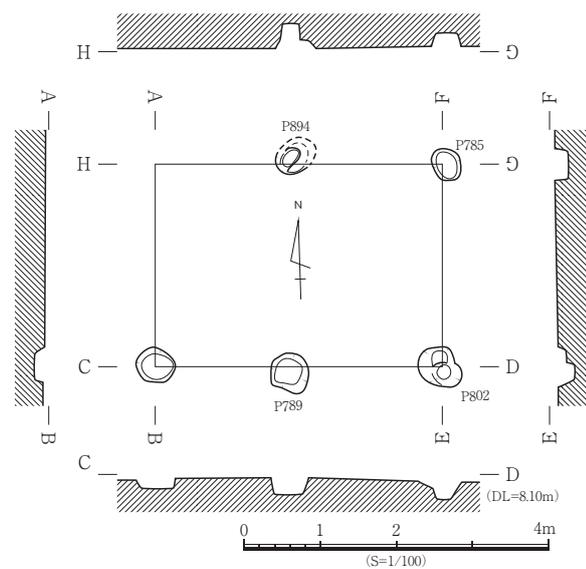


図396 7区 SB54 平面図・エレベーション図

ナデ調整を施し、内底面にはヘラミガキ調整を施す。外底面には回転ヘラ切り後、ヘラミガキ調整を施す。

SB49

SB49は7-3区中央部で検出した桁行2間(約5.65m)、梁行2間(約3.44m)の東西棟の掘立柱建物跡であり、床面積は約19.4㎡である。主軸方向はN-73° 39' -Wである。P737・792・793・872・888他で構成される。柱穴は直径20～50cmの不整円形であり、検出面からの深さは15～35cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物は、P872から出土した土師器の杯(1441)である。体部は斜め上方へ低く立ち上がり、口唇部は尖らせる。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面は回転ヘラ切り後ナデ調整か。また、外底面には篲状圧痕が認められる。

SB50

SB50は7-3区中央部で検出した桁行3間(約5.46m)、梁行2間(約3.88m)の東西棟の掘立柱建物跡であり、床面積は約21.2㎡である。主軸方向はN-76° 42' -Wである。ST8_P3・P96・147・158・259・484他で構成される。柱穴は直径35～60cmの不整円形であり、検出面からの深さは15～48cmである。埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物はない。

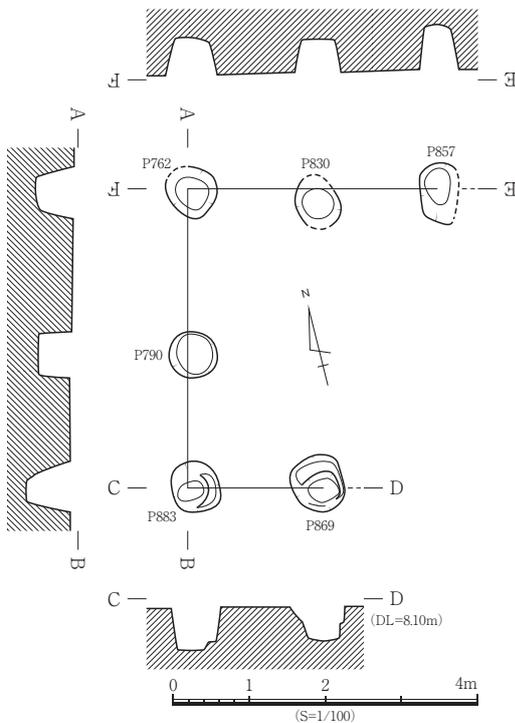


図397 7区 SB55 平面図・エレベーション図

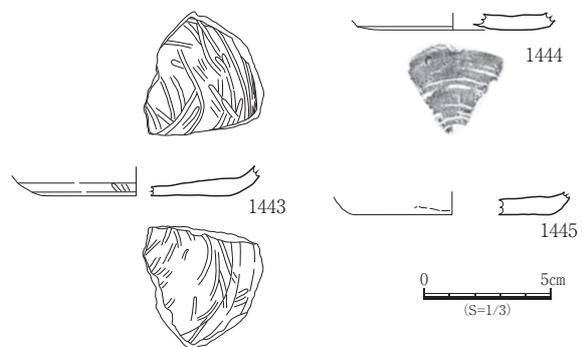


図398 7区 SB55 出土遺物実測図

SB51

SB51は7-3区中央部で検出した掘立柱建物跡である。桁行3間(約6.23m)、梁行は1間(約1.74m)以上を検出した。主軸方向は東西棟とした場合は $N-77^{\circ}14'-W$ である。P76・202・223・490・600で構成される。柱穴は直径30~55cmの不整形であり、検出面からの深さは19~36cmである。埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物はない。

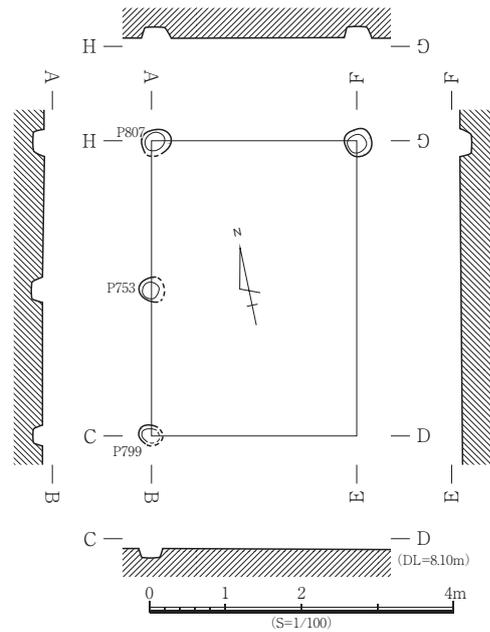


図399 7区 SB56 平面図・エレベーション図

SB52

SB52は7-4区東部で検出した掘立柱建物跡である。桁行は1間(約1.33m)以上、梁行は3間(約4.56m)以上を検出した。南北棟の建物跡と推測される。主軸方向は $N-12^{\circ}16'-E$ である。SK43 (P812は柱痕跡か)・44・51・P761・763で構成される。柱穴は一辺60~100cmの隅丸方形であり、検出面からの深さは32~60cmである。埋土は黒色(10YR1.7/1)細粒砂

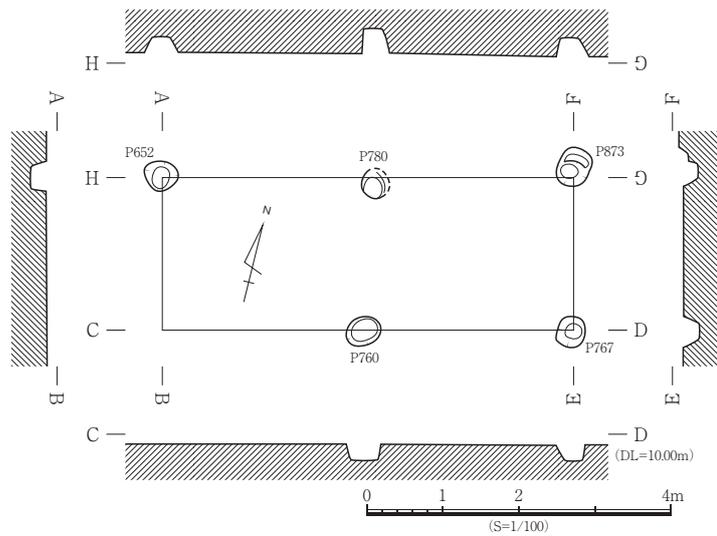


図400 7区 SB57 平面図・エレベーション図

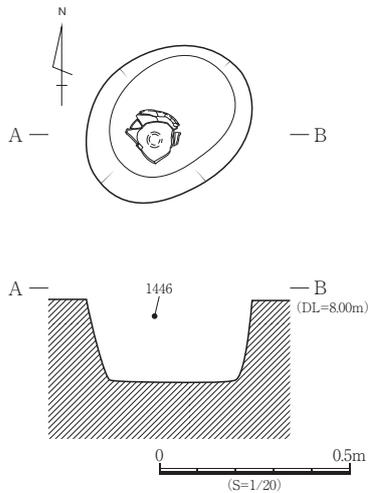


図401 7区 SB57_P760 遺物出土状態図

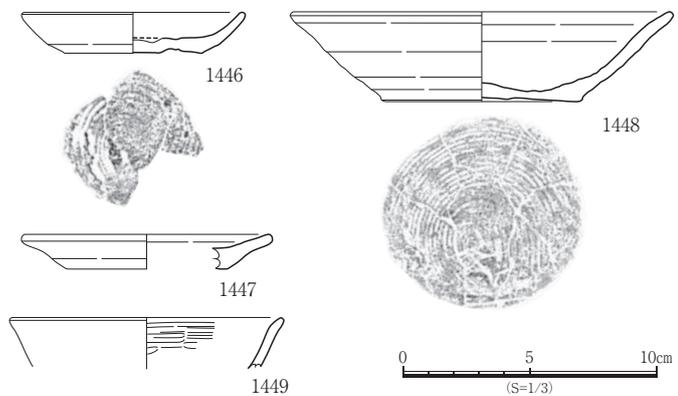


図402 7区 SB57 出土遺物実測図

質シルト他である。

図示した出土遺物は、P761・762 から出土した土師器の羽釜(1442)である。鏝を付し、上面には軽く面取りを施す。内外面ともヨコナデ調整を施す。

SB53

SB53は7-4区東部で検出した掘立柱建物跡である。桁行は2間(約3.75m)以上、梁行2間(約4.19m)を検出した。主軸方向は南北棟とした場合はN-14° 07' -Eである。P785・806・814・824・845・849他で構成される。柱穴は直径20～65cmの不整円形であり、検出面からの深さは18～45cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物はない。

SB54

SB54は7-4区東部で検出した桁行2間(約3.77m)、梁行1間(約2.68m)の東西棟の掘立柱建物跡であり、床面積は約10.1㎡である。主軸方向はN-88° 10' -Eである。P785・789・802・894他で構成される。柱穴は直径40～60cmの不整円形であり、検出面からの深さは14～33cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物はない。

SB55

SB55は7-4区東端部で検出した掘立柱建物跡である。桁行は2間(約3.28m)以上、梁行2間(約3.96m)

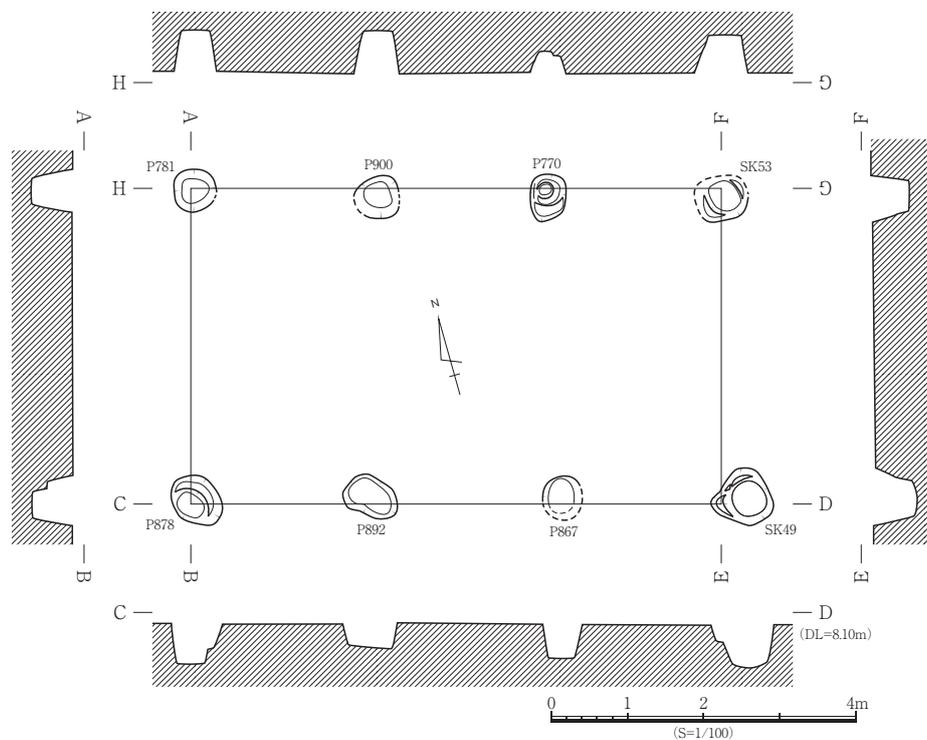


図403 7区 SB58 平面図・エレベーション図

第4節 7区

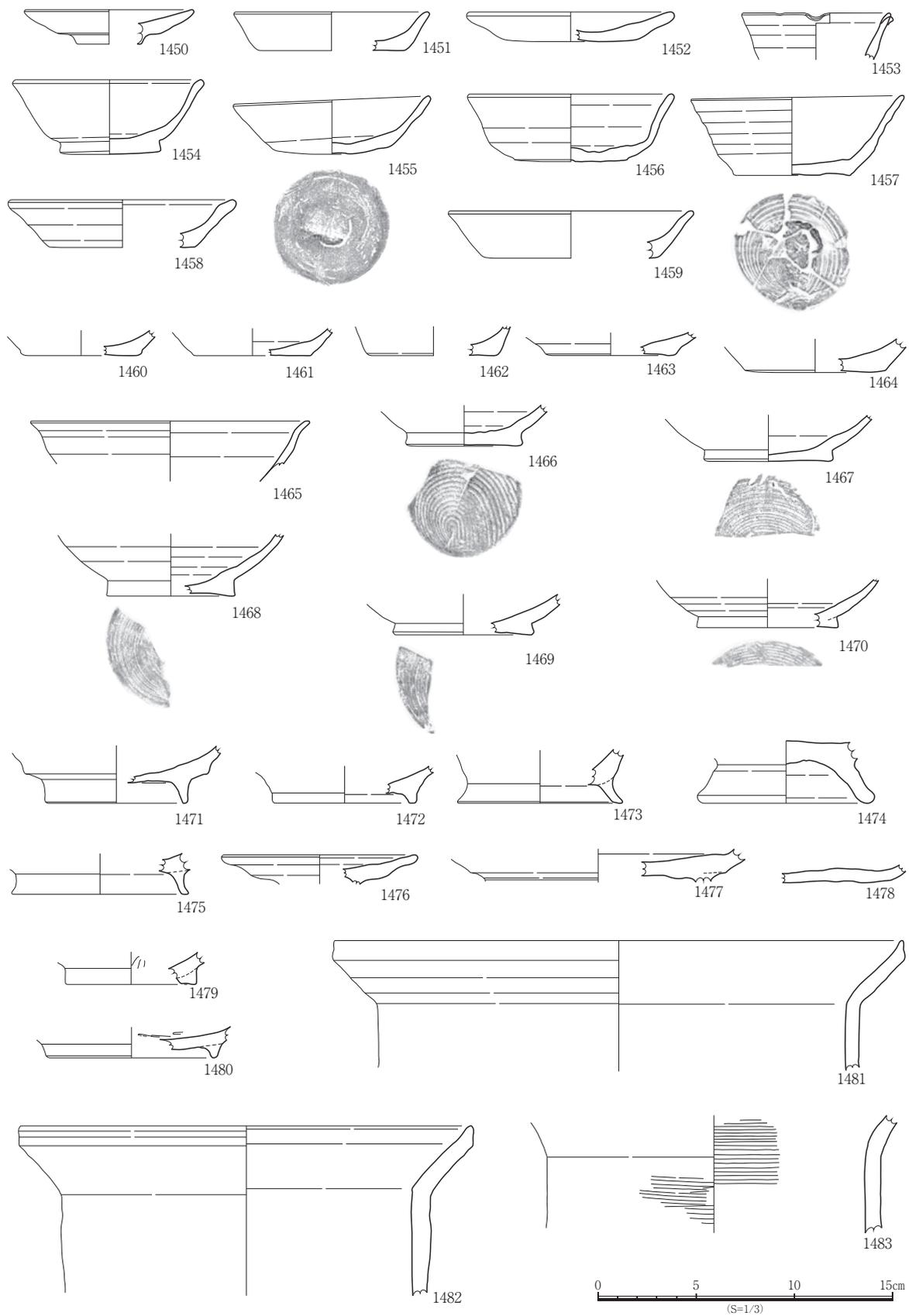


图404 7区 SB58 出土遺物実測図

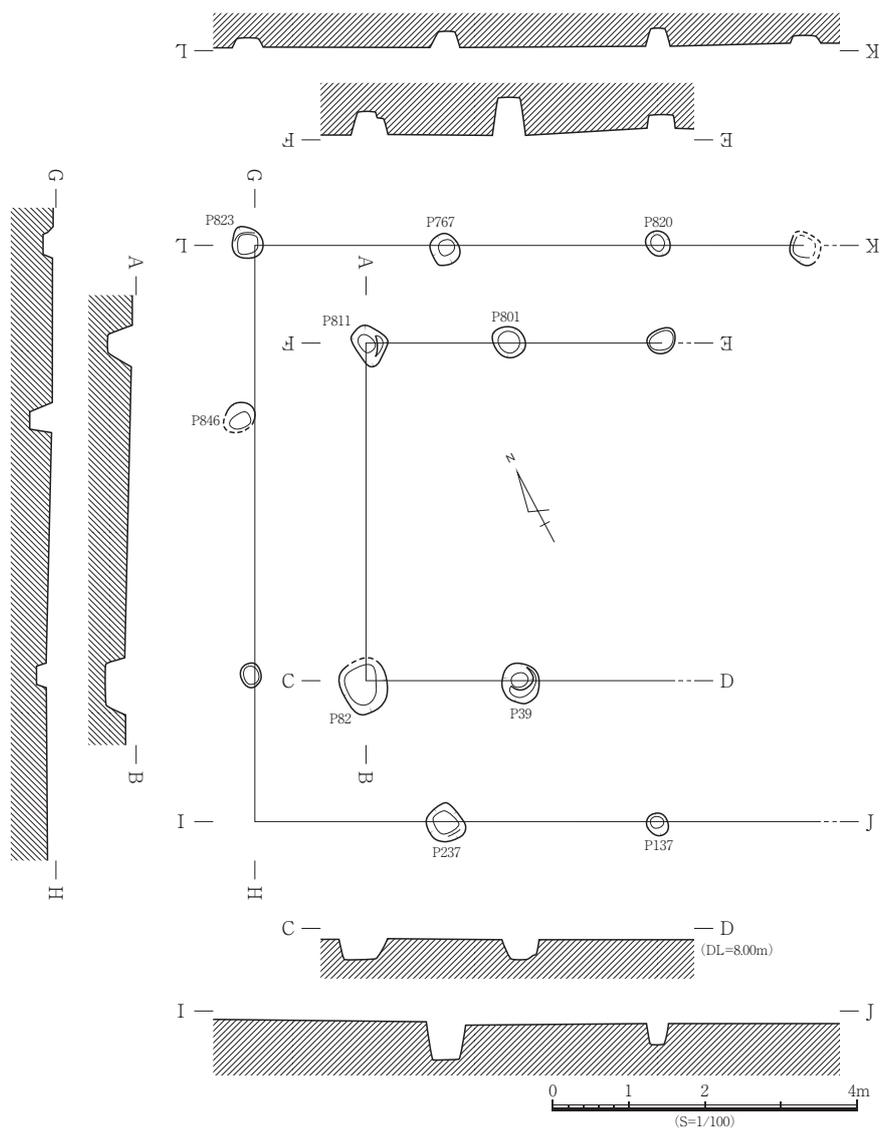


図405 7区 SB59 平面図・エレベーション図

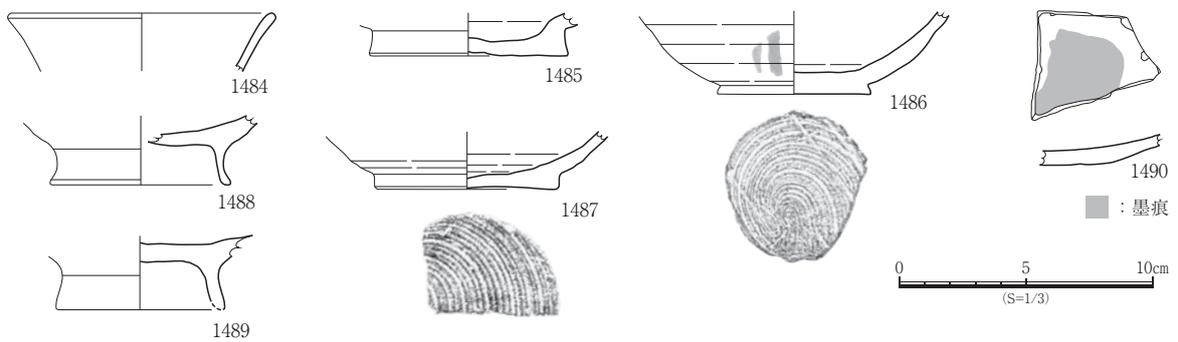


図406 7区 SB59 出土遺物実測図

を検出した。主軸方向は東西棟とした場合はN-76° 08' -Wである。P762・790・830・857・869・883で構成される。柱穴は直径60～85cmの不整円形であり、検出面からの深さは44～63cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物は、土師器の杯(1443)、土師質土器の杯(1444・1445)である。

1443はP790から出土した杯である。内底面にはミガキ調整を施す。外底面は回転ヘラ切り後ヘラミガキ調整か。1444はP857から出土した杯である。内底面には回転ナデ調整を施す。外底面は回転ヘラ切り後、ナデ調整を施す。1445はP830から出土した杯である。外底面は回転ヘラ切り後ナデ調整か。摩耗のため調整等は不明瞭である。

SB56

SB56は7-4区東部で検出した桁行2間(約3.91m)、梁行1間(約2.70m)の南北棟の掘立柱建物跡であり、床面積は約10.5㎡である。主軸方向はN-11° 46' -Eである。P753・799・807他で構成される。柱穴は直径30～40cmの不整円形であり、検出面からの深さは12～17cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物はない。

SB57

SB57は7-4区東部で検出した桁行2間(約5.41m)、梁行1間(約2.02m)の東西棟の掘立柱建物跡であり、床面積は約10.9㎡である。主軸方向はN-76° 13' -Eである。P652・760・767・780・873で構成される。柱穴は直径35～55cmの不整円形であり、検出面からの深さは21～32cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物は、土師質土器の皿(1446・1447)・杯(1448)、黒色土器の椀(1449)である。

1446はP760から出土した皿である。内底面には回転ナデ調整を施し、外底面には回転糸切り痕跡が認められる。1447はP760から出土した皿である。内底面には回転ナデ調整を施す。柱状高台か。1448はP760から出土した杯である。体部は内湾気味に低く立ち上がる。内外面とも回転ナデ調整を施す。ロクロ目痕がみられ、内底面は渦状を呈する。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。1449はP780から出土した椀である。口縁端部を僅かに外反させる。外面はヨコナデ調整、内面には横方向のミガキ調整を施す。黒色土器A類である。

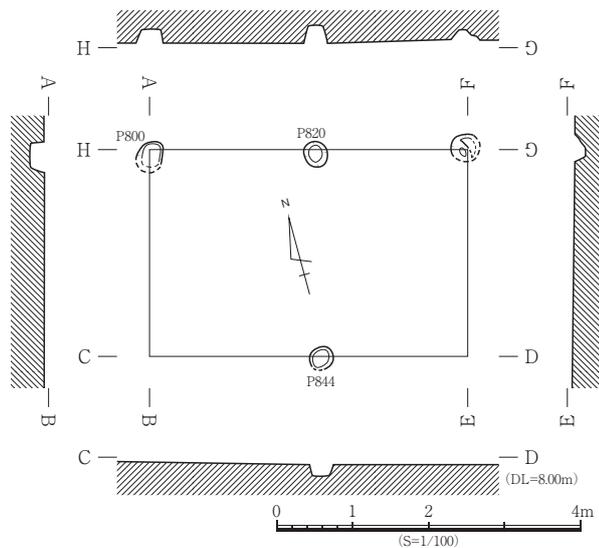


図407 7区 SB60 平面図・エレベーション図

SB58

SB58は7-4区東部で検出した桁行3間(約6.98m)、梁行1間(約4.18m)の東

西棟の掘立柱建物跡であり、床面積は約29.2㎡である。主軸方向はN-74°27'-Wである。SK49・53・P770・781・867・878・892・900で構成される。柱穴は直径45～80cmの不整形であり、検出面からの深さは23～57cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物は、土師質土器の皿(1450～1452)・杯(1453～1465)・椀(1466～1470)・柱状高台(1471～1477)、須恵器の杯(1478)、黒色土器の椀(1479・1480)、土師器の甕(1481～1483)である。

1450はP878から出土した皿である。口縁部は外上方へひらき、浅い。摩耗のため調整等は不明である。1451はP781から出土した皿である。口縁部は直線的にのびる。摩耗のため調整等は不明である。1452はSK53から出土した皿である。口縁部は外方へひらく。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面は回転ヘラ切り後、ナデ調整を施す。1453はSK49から出土した杯である。口縁部は輪花状を呈する。内外面とも回転ナデ調整を施す。1454はSK53から出土した杯である。体部は丸みを持つ。底部は円盤状高台である。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面は回転ヘラ切り後ナデ調整を施す。1455はSK49から出土した杯である。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転ヘラ切り痕跡が認められる。ほぼ完存である。1456はP878から出土した杯である。体部は内湾気味に上方へ立ち上がり、口縁部は外反する。内外面とも回転ナデ調整

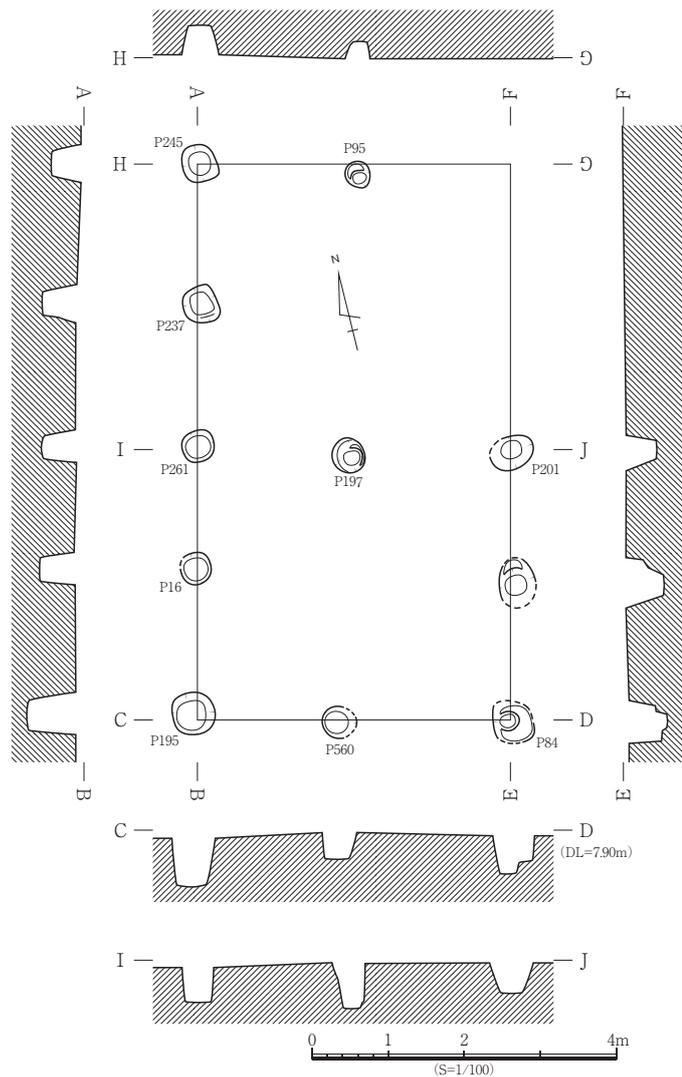


図408 7区 SB61 平面図・エレベーション図

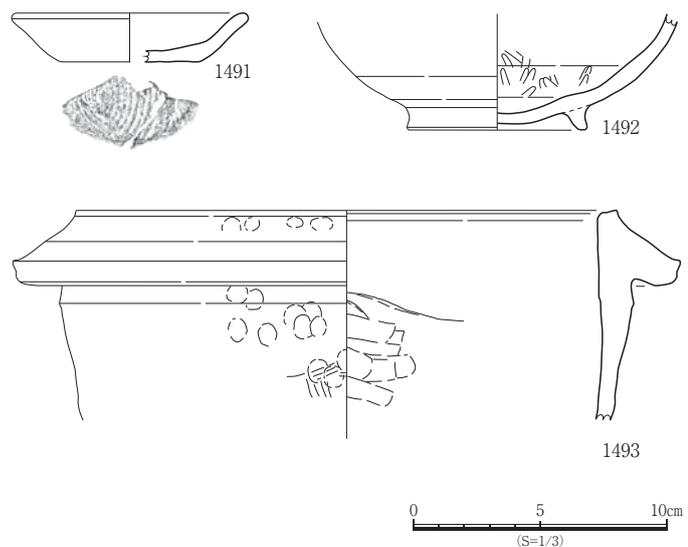


図409 7区 SB61 出土遺物実測図

を施す。内底面は渦状を呈する。外底面には回転ヘラ切り痕跡が認められる。1457はSK49から出土した杯である。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。1458はSK49から出土した杯である。内外面とも回転ナデ調整を施す。切離し手法は不明である。器壁は厚い。1459はSK49から出土した杯である。内外面とも回転ナデ調整を施す。切離し手法は不明である。1460はSK50から出土した杯である。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。1461はSK53から出土した杯である。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面は回転ヘラ切り後、ナデ調整を施す。1462はP900から出土した杯である。摩耗のため、調整および切離し手法は不明である。1463はSK50から出土した杯である。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面はナデ調整である。切離し手法は不明である。1464はSK53から出土した杯である。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面は回転ヘラ切り後、ナデ調整を施す。1465はSK49から出土した杯である。内外面とも回転ナデ調整を施す。椀か。1466はSK53から出土した円盤状高台椀である。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。1467はSK53から出土した円盤状高台椀である。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。1468はSK49から出土した円盤状高台椀である。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。1469はSK53から出土した円盤状高台椀である。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。1470はP867から出土した円盤状高台椀である。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。

1471はP770から出土した柱状高台である。外底面に高脚の輪高台を貼り付ける。内外面とも回転ナデ調整を施す。1472はSK53から出土した柱状高台である。外底面に断面形が逆台形の輪高台を貼り付ける。内外面とも回転ナデ調整を施す。1473はSK49から出土した柱状高台である。外底面に「ハ」の字形にひらく高脚の輪高台を貼り付ける。内外面とも回転ナデ調整を施す。1474はP878から出土した柱状高台である。外底面に「ハ」の字形の高脚の輪高台を貼り付ける。内外面とも回転ナデ調整を施す。1475はSK50から出土した柱状高台である。外底面に「ハ」の字形の輪高台を貼り付ける。外面には回転ナデ調整を施す。内面はナデ調整か。体部と高台で色調が異なる。1476はSK49から出土した柱状高台である。杯皿部は皿状を呈する。内外面とも回転ナデ調整を施す。1477はSK49から出土した柱状高台である。杯皿部は皿状を呈する。高台は剥離する。外面には回転ナデ調整を施す。内面にはナデ調整を施す。1478

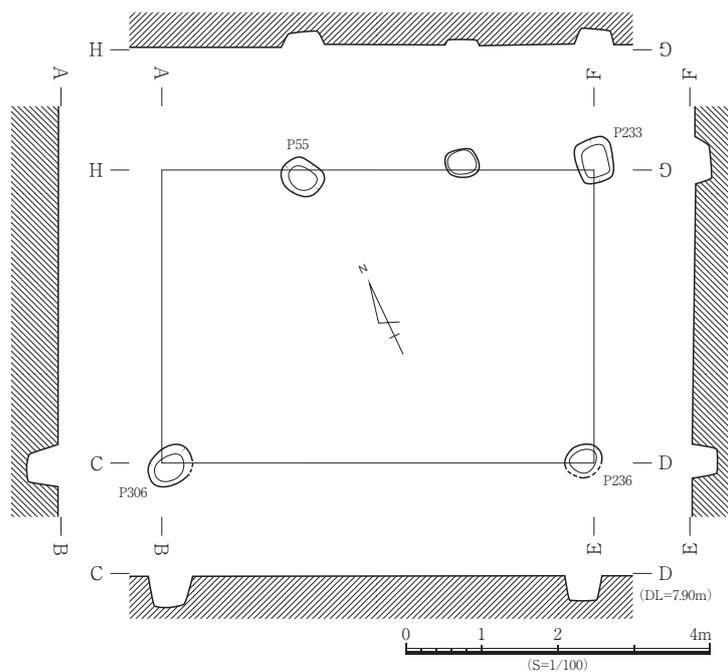


図410 7区 SB62 平面図・エレベーション図

はP892から出土した杯である。内外面とも回転ナデ調整を施す。内底面には仕上げナデ調整を施す。外底面は回転ヘラ切り後、ナデ調整を施す。外面には火襷がみられる。雑なつくりである。1479はSK49から出土した椀である。外底面に幅がひろい安定感のある輪高台を貼り付ける。外面には回転ナデ調整を施す。内面はヘラミガキ調整で仕上げる。黒色土器A類である。1480はP878から出土した椀である。外底面に断面形が三角形状の輪高台を貼り付ける。内面にはヘラミガキ調整を施す。黒

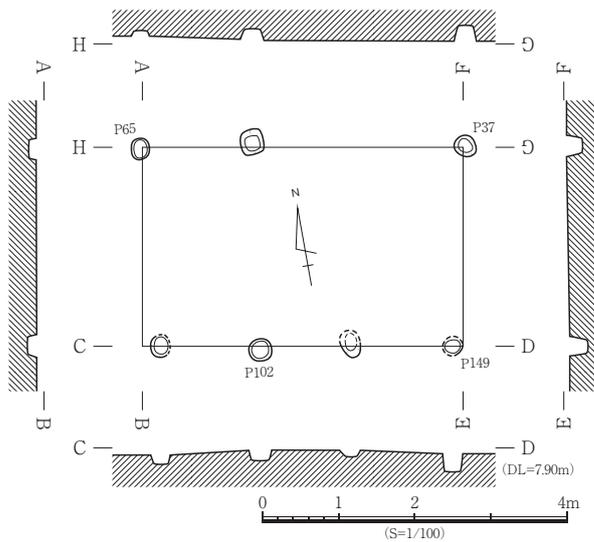


図411 7区 SB63 平面図・エレベーション図

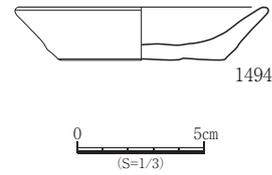


図412 7区 SB63 出土遺物実測図

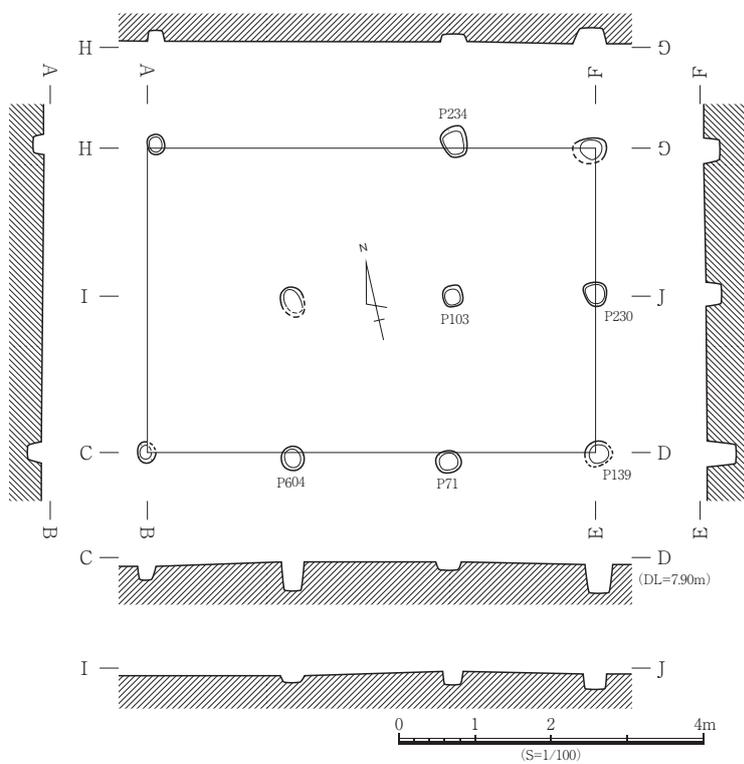


図413 7区 SB64 平面図・エレベーション図

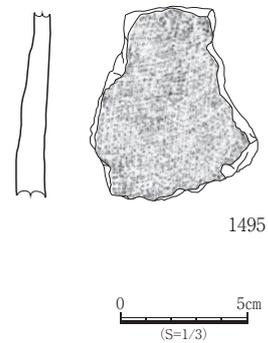


図414 7区 SB64 出土遺物実測図

色土器A類である。1481はSK49から出土した甕である。口縁端部を摘み上げる。口縁部および体部は内外面ともヨコナデ調整で仕上げる。1482はP781から出土した甕である。口縁端部を摘み上げる。口縁部および体部は内外面ともヨコナデ調整で仕上げる。1483はP770から出土した甕である。口縁部外面はヨコナデ調整、内面はヨコハケ調整である。体部外面にはヨコハケ調整を施し、内面にはヨコナデ調整を施す。

SB59

SB59は7-3・4区東部で検出した掘立柱建物跡である。桁行は2間(3.89m)以上、梁行1間(4.47m)を検出した。主軸方向は東西棟とした場合はN-62° 20' -Wである。P39・82・801・811他、P137・237・767・820・823・846他で構成される。柱穴は直径20~70cmの不整円形であり、検出面からの深さは13~50cmである。埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物は、土師質土器の皿(1484)・椀(1485~1487)・柱状高台(1488・1489)、須恵器の口縁部片(1490)である。

1484はP811から出土した皿である。口縁部は斜め上方へ立ち上がり、口唇部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施す。1485はP82から出土した円盤状高台椀である。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面は切り離した後、ナデ調整を施す。1486はP82から出土した円盤状高台椀である。体部は内湾気味に立ち上がる。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。外面には火轆がみられる。1487はP237から出土した円盤状高台椀である。体部は斜め上方へ立ち上がる。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。1488はP82から出土した柱状高台である。体部は内湾気味に立ち上がる。外底面には高脚の輪高台を貼り付ける。内外面とも回転ナデ調整を施す。1489はP82から出土した柱状高台である。外底面に高脚の輪

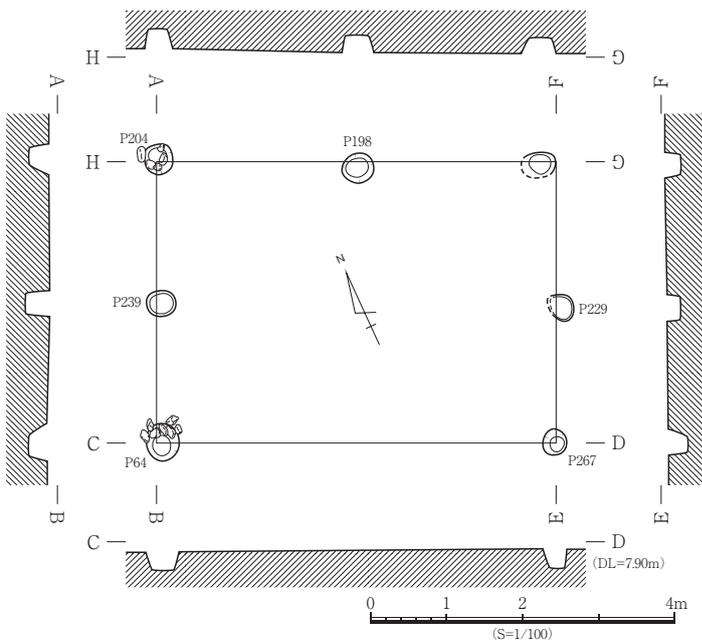


図415 7区 SB65 平面図・エレベーション図

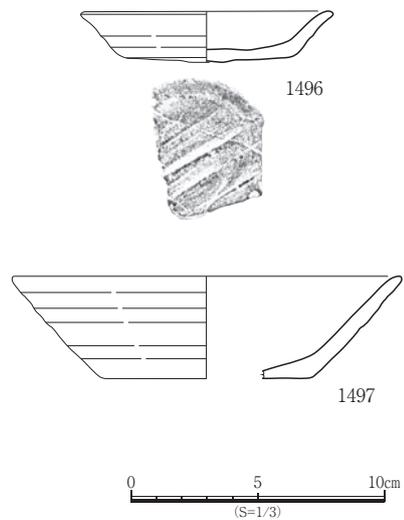


図416 7区 SB65 出土遺物実測図

高台を貼り付ける。内外面とも回転ナデ調整を施す。1490はP811から出土した口縁部片である。内面は平滑となり墨痕がみられる。杯蓋を利用した転用硯である。

SB60

SB60は7-4区東部で検出した掘立柱建物跡である。桁行は2間(4.18m)以上、梁行1間(2.74m)を検出した。主軸方向は東西棟とした場合はN-74°59'-Wである。P800・820・844他で構成される。柱穴は直径約30~45cmの不整円形であり、検出面からの深さは14~24cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物はない。

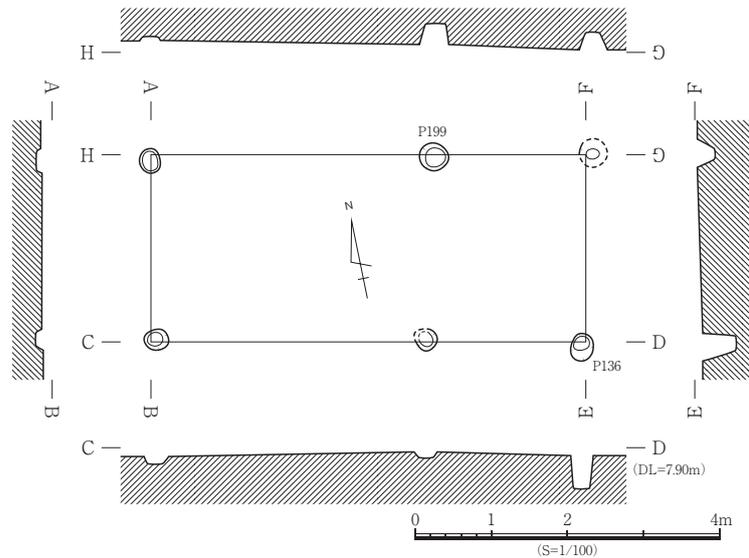


図417 7区 SB66 平面図・エレベーション図

SB61

SB61は7-3区東部で検出した桁行4間(約7.37m)、梁行2間(約4.11m)の南北棟の掘立柱建物跡であり、床面積は約30.3㎡である。主軸方向はN-78°02'-Eである。P16・84・95・195・197・201・237・245・261・560他で構成される。柱穴は直径35~70cmの不整円形であり、検出面からの深さは24~61cmである。埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物は、土師質土器の皿(1491)、黒色土器の椀(1492)、土師質土器の羽釜(1493)である。

1491はP84から出土した皿である。口縁部は外反気味にひらき、口唇部を丸くおさめる。外底面には回転糸切り痕跡が認め

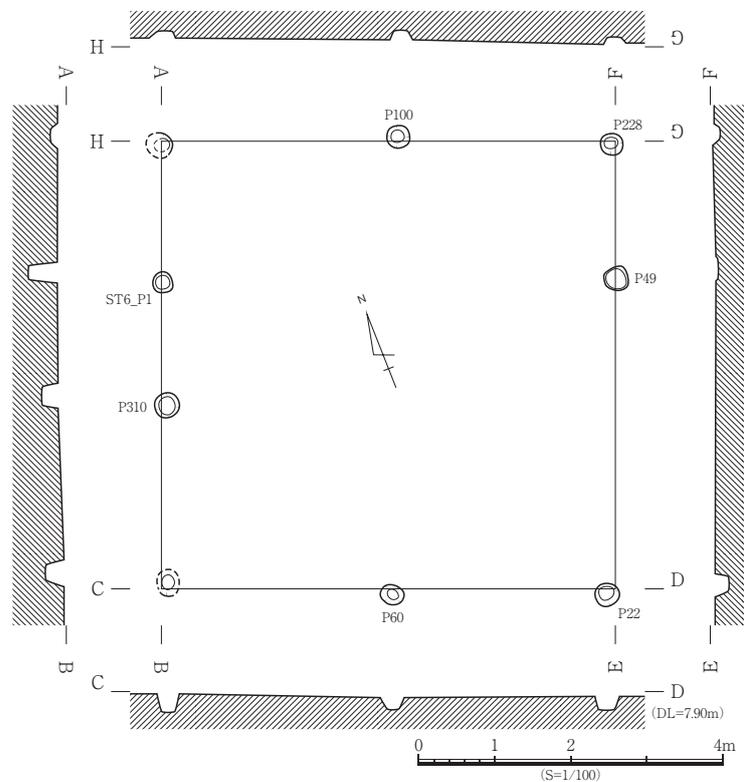


図418 7区 SB67 平面図・エレベーション図

られる。1492はP201から出土した椀である。体部は内湾気味に立ち上がる。外底面には輪高台を貼り付ける。外面には回転ヘラナデ調整を施し、内面には指頭圧痕がみられる。ヘラミガキ調整か。黒色土器A類である。1493はP201から出土した羽釜である。口唇部は面状を呈する。鏝は口縁端部から庇状に付し、端部は微凹面状を呈する。体部は直立気味である。鏝にはヨコナデ調整を施す。内面には煤が付着する。

SB62

SB62は7-3区東部で検出した桁行3間(約5.68m)、梁行1間(約3.88m)の東西棟の掘立柱建物跡であり、床面積は約22.0㎡である。主軸方向はN-64° 51' -Wである。P55・233・236・306他で構成される。柱穴は直径40～60cmの不整形であり、検出面からの深さは8～41cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物はない。

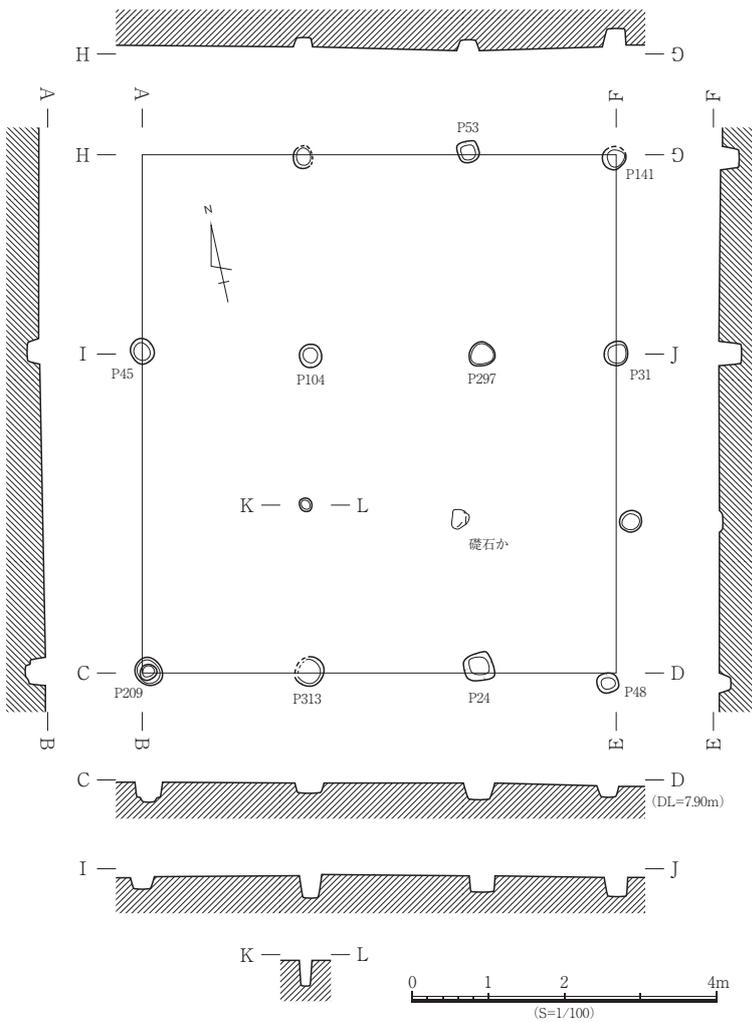


図419 7区 SB68 平面図・エレベーション図

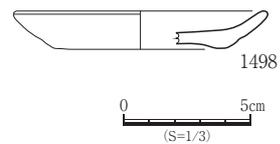


図420 7区 SB68
出土遺物実測図

SB63

SB63は7-3区東部で検出した桁行3間(約4.21m)、梁行1間(約2.63m)の東西棟の掘立柱建物跡であり、床面積は約11.1㎡である。主軸方向はN-79°56'-Wである。P37・65・102・149他で構成される。柱穴は直径20~40cmの不整円形であり、検出面からの深さは7~24cmである。埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物は、P149から出土した土師質土器の皿(1494)である。口縁部は斜め上方へひらき、口唇部を丸くおさめる。内底面には指頭圧痕がみられる。外底面には回転ヘラ切り痕跡が認められる。

SB64

SB64は7-3区東部で検出した桁行3間(約5.89m)、梁行2間(約4.03m)の東西棟の掘立柱建物跡であり、床面積は約23.7㎡である。主軸方向はN-77°23'-Wである。P71・103・139・230・234・604他で構成される。P103等は床東柱と考えられる。柱穴は直径20~45の不整形であり、検出面からの深さは9~21cmである。埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物は、P71から出土した製塩土器(1495)である。内面には布目の圧痕が認められる。

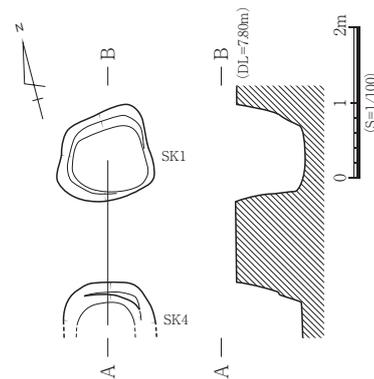


図421 7区 SA1 平面図・エレベーション図

SB65

SB65は7-3区東部で検出した桁行2間(約5.25m)、梁行2間(約3.73m)の東西棟の掘立柱建物跡であり、床面積は約19.6㎡である。主軸方向はN-78°08'-Wである。P64・198・204・229・239・267他で構成される。柱穴は直径30~50cmの不整円形であり、検出面からの深さは18~32cmである。埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物は、土師質土器の皿(1496)・杯(1497)である。

1496はP64から出土した皿である。口縁部は外反気味にひらき、口唇部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施す。内底面にはヨコナデ調整を施す。外底面は切り離し後、ナデ調整を施す。また、外底面には簀状圧痕が認められる。1497はP64から出土した杯である。体部は直線的に斜め上方へ立ち上がり、口唇部は丸くおさめる。内外

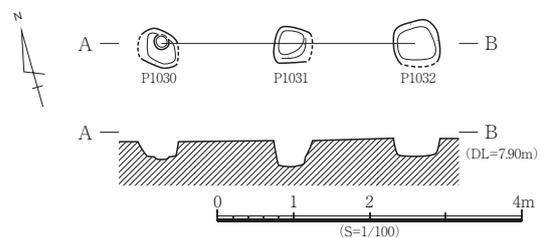


図422 7区 SA2 平面図・エレベーション図

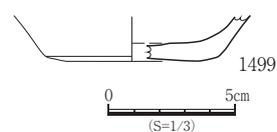


図423 7区 SA4 出土遺物実測図

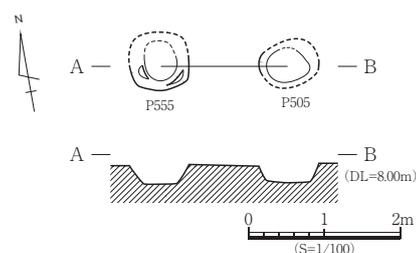


図424 7区 SA5 平面図・エレベーション図

面とも回転ナデ調整を施す。外底面は切り離し後、ナデ調整を施す。

SB66

SB66は7-3区東部で検出した桁行2間(約5.72m), 梁行1間(約2.48m)の東西棟の掘立柱建物跡であり, 床面積は約14.2㎡である。主軸方向はN-78° 32' -Wである。P136・199他で構成される。柱穴は直径30～40cmの不整円形であり, 検出面からの深さは8～44cmである。埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物はない。

SB67

SB67は7-3区東部で検出した桁行3間(約5.97m), 梁行2間(約5.93m)の南北棟の掘立柱建物跡であり, 床面積は約35.4㎡である。主軸方向はN-79° 09' -Wである。P22・49・60・100・228・310・ST6_P1他で構成される。柱穴は直径25～40cmの不整円形であり, 検出面からの深さは9～34cmである。埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物はない。

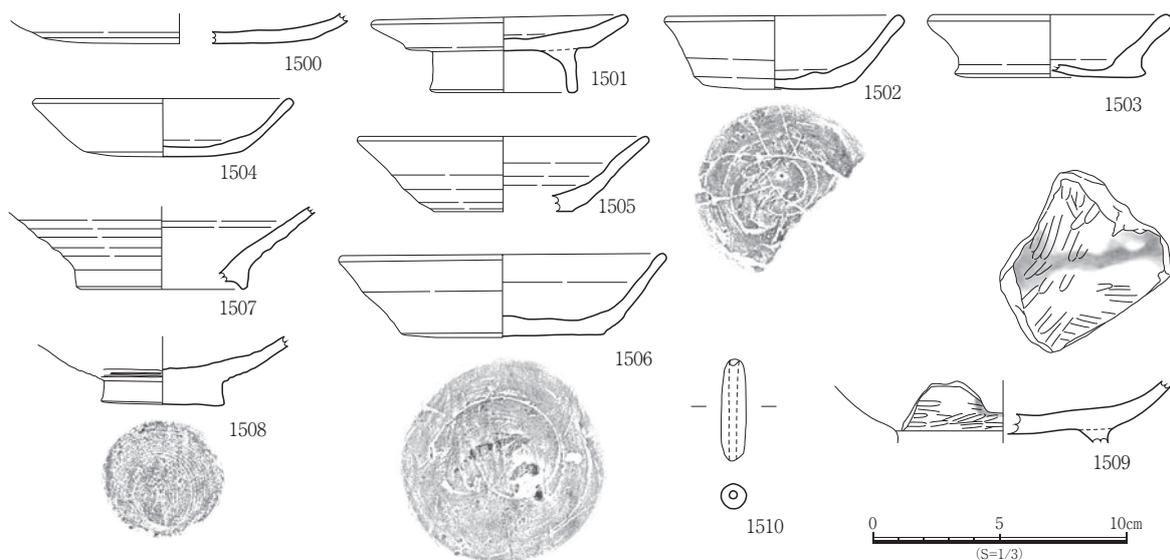


図425 7区 SA6 出土遺物実測図

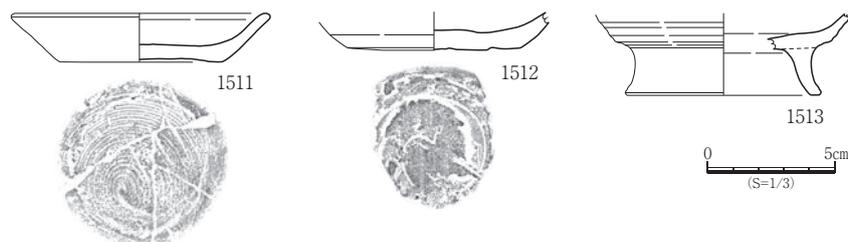


図426 7区 SA7 出土遺物実測図

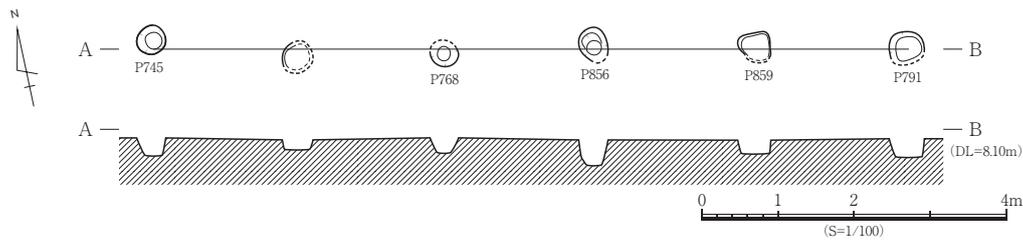


図427 7区 SA8 平面図・エレベーション図

SB68

SB68は7-3区東部で検出した桁行3間(約6.87m), 梁行3間(約6.23m)の南北棟の掘立柱建物跡であり, 床面積は約42.8㎡である。主軸方向はN-12° 16' -Eである。P24・31・45・48・53・104・141・209・297・313他で構成される。P104・297等は床束柱と考えられる。柱穴は直径15~40cmの不整円形であり, 検出面からの深さは4~33cmである。埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物はP104から出土した土師質土器の皿(1498)である。口縁部は浅く斜め上方へひらき, 口唇部を丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面は回転糸切り痕跡か。

3.SA

SA1

SA1は7-1区東部で検出した南北方向の柵である。SK1・4で構成され, 検出長は約2.15mである。主軸方向はN-14° 28' -Eである。柱間寸法は約2.15mである。柱穴は一辺1.15~1.35mの隅丸方形であり, 検出面からの深さは90~92cmを測り, 埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SA2

SA2は7-2区南部で検出した東西方向の柵である。P1030~1032で構成され, 検出長は約3.31mである。主軸方向はN-74° 26' -Wである。柱間寸法は約1.65・1.70mである。柱穴は一辺50~65cmの隅丸方形であり, 検出面からの深さは20~35cmを測り, 埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SA3 (付図9)

SA3は7-4区南部で検出した東西方向の柵である。P674・677・719・772・787・868・907・ST9_P16他で構成され, 検出長は約34.01mである。主軸方向はN-79° 35' -Wである。柱間寸法は1.80~8.70mである。柱穴は直径20~45cmであり, 検出面からの深さは12~75cmを測り, 埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂

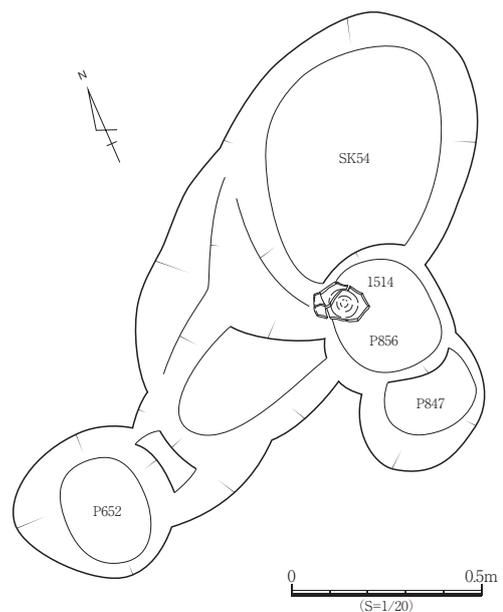


図428 7区 SA8_P856 遺物出土状態図

質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SA4 (付図9)

SA4は7-4区南部で検出した東西方向の柵である。P652・851・863・881・906・913・ST9_P17他で構成され、検出長は約22.35mである。主軸方向はN-79° 35' -Wである。柱間寸法は2.05～4.45mである。柱穴は直径15～45cmであり、検出面からの深さは6～74cmを測り、埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は、P652から出土した土師質土器の杯(1499)である。摩耗のため、調整等は不明である。

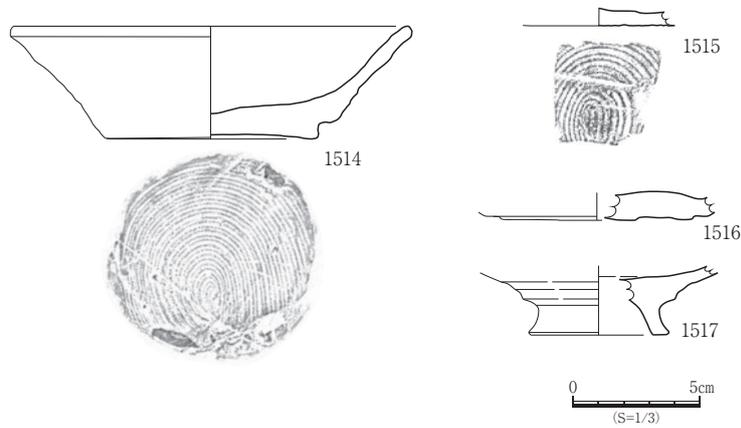


図429 7区 SA8 出土遺物実測図

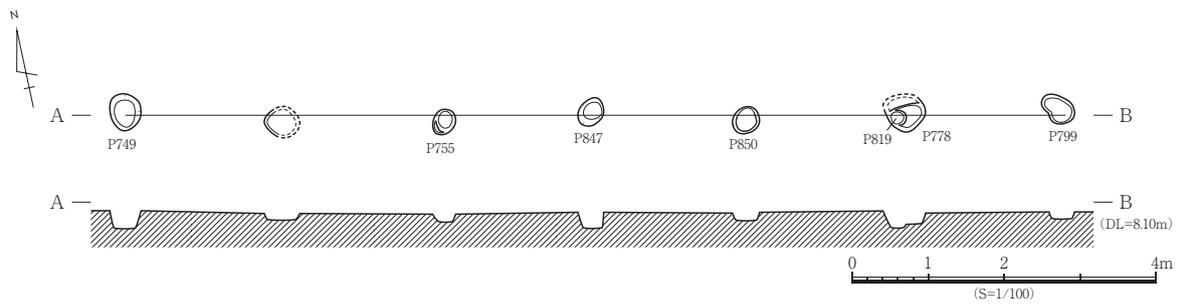


図430 7区 SA9 平面図・エレベーション図

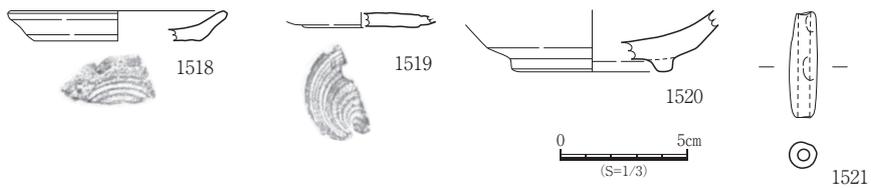


図431 7区 SA9 出土遺物実測図

SA5

SA5は7-3区北部で検出した東西方向の柵である。P505・555で構成され、検出長は約1.65mである。主軸方向はN-80° 30' -Wである。柱間寸法は約1.65mである。柱穴は一辺(直径)60～80cmの隅丸方形あるいは不整形円形であり、検出面からの深さは25cmを測り、埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SA6 (付図9)

SA6は7-3・4区で検出した柵である。P107・258・483・486・547・604・615・668・689・725・747・782・796・803・811・893・899で構成され、検出長は約50.07mである。主軸方向はN-15° 41' -Eである。柱間寸法は1.10～6.75mである。柱穴は直径20～75cmであり、検出面からの深さは9～57cmを測り、埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は、土師質土器の皿(1500)・柱状高台(1501)・杯(1502～1506)・椀(1507・1508)、須恵器の椀(1509)、土錘(1510)である。

1500はP782・783から出土した皿である。内外面とも回転ナデ調整を施し、内底面には仕上げナデ調整を施す。外底面は回転ヘラ切り後、ナデ調整を施す。1501はP803から出土した柱状高台である。杯皿部は外方へ浅くひろく。外底面に高脚の輪高台を貼り付ける。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転ヘラ切り痕跡が認められる。1502はP747から出土した杯である。体部は斜め上方へ

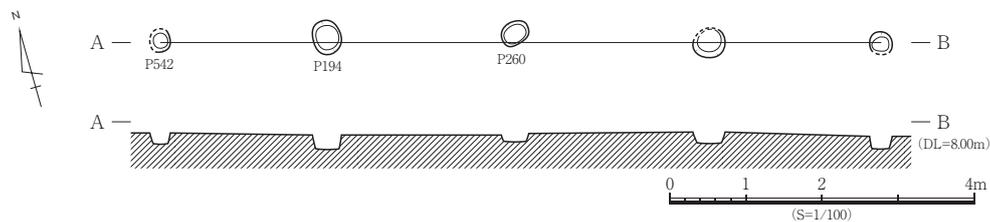


図432 7区 SA10 平面図・エレベーション図

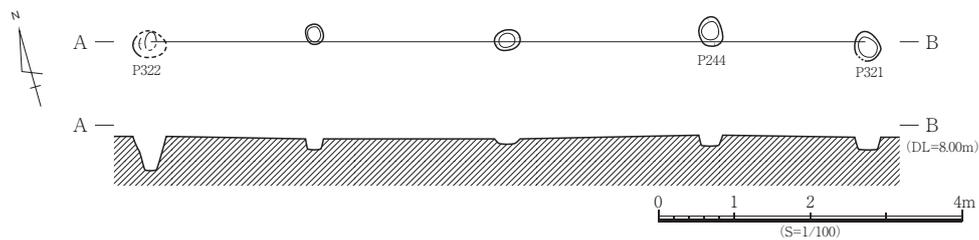


図433 7区 SA11 平面図・エレベーション図

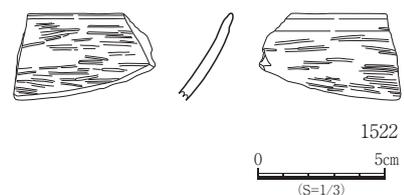


図434 7区 SA11 出土遺物実測図

立ち上がり口縁部を外反させ、口唇部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施し、内底面は凹状を呈する。外底面には回転ヘラ切り後ナデ調整か。1503はP615から出土した杯である。体部は直立気味に斜め上方へひらく。口唇部は僅かに肥厚し丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施す。1504はP615から出土した杯である。体部は斜め上方へ立ち上がり、口唇部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施し、内底面は僅かに凹状を呈する。外底面には回転ヘラ切り痕跡が認められる。1505はP893から出土した杯である。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面は回転ヘラ切り後ナデ調整か。1506はP803から出土した杯である。体部は斜め上方へ直線的に立ち上がり、口唇部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施す。内底面には「の」の字状のナデ調整を施す。また、外底面には回転ヘラ切り痕跡が認められる。1507はP747から出土した椀である。内外面とも回転ナデ調整を施し、外面にはロクロ目痕がみられる。1508はP803から出土した円盤状高台椀である。体部は緩やかに立ち上がる。内外面とも回転ナデ調整を施し、腰部外面には工具ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。1509はP893から出土した椀である。外底面には高台を付すものの欠損する。外面は回転ナデ調整および回転ヘラケズリ調整後、ヘラミガキ調整を施す。外底面にもヘラミガキ調整を施す。内面にはヘラミガキ調整を施す。また、火襷も認められる。1510はP615から出土した管状土錘である。細身の円筒形を呈し、断面形は歪な円形である。両端および一部が欠損する。

SA7 (付図9)

SA7は7-3・4区で検出した柵である。P41・76・146・179・222・239・286・485・490・600・647・714・728・794・818・823・840・852・865・890・ST11_P24で構成され、検出長は約46.33mである。主軸方向はN-15°41'-Eである。柱間寸法は1.10～6.00mか。柱穴は直径25～65cmであり、検出面からの深さは6～47cmを測り、埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトである。

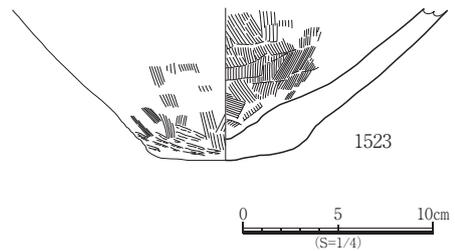


図435 7区 SK2 出土遺物実測図

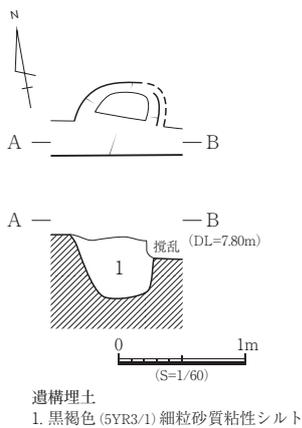


図436 7区 SK7
平面図・断面図

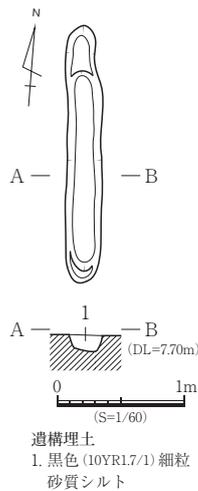


図437 7区 SK9
平面図・断面図

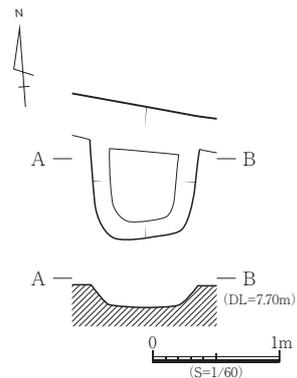


図438 7区 SK10
平面図・エレベーション図

図示した出土遺物は、土師質土器の皿(1511)・杯(1512)・柱状高台(1513)である。

1511はP647から出土した皿である。内外面とも回転ナデ調整を施す。内底面は「の」の字状のナデ調整か。外底面には回転糸切り痕跡および簀状圧痕がみられる。1512はP890から出土した杯である。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面は回転ヘラ切り後、ナデ調整を施す。1513はP714から出土した柱状高台である。外底面には「ハ」の字形の高脚の輪高台を貼り付ける。内外面とも回転ナデ調整を施し、外面にはロクロ目痕が認められる。

SA8

SA8は7-4区南部で検出した東西方向の柵である。P745・768・791・856・859他で構成され、検出長は約9.94mである。主軸方向はN-78° 02' -Wである。柱間寸法は1.90～2.10mである。柱穴は直径35～50cmであり、検出面からの深さは13～35cmを測り、埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は、土師質土器の杯(1514～1516)・柱状高台(1517)である。

1514はP856から出土した杯である。体部は斜め上方へ立ち上がり、口唇部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。1515はP856から出土した杯である。内底面に「の」の字状のナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡および簀状圧痕がみられる。1516はP856から出土した杯である。外底面には回転ヘラ切り痕跡が認められる。1517はP791から出土した柱状高台である。外底面に「ハ」の字形にひらく高脚の輪高台を貼り付ける。内外面とも回転ナデ調整を施す。

SA9

SA9は7-4区東部で検出した東西方向の柵である。P749・755・778・799・819・847・850他で構成され、検出長は約12.37mである。主軸方向はN-78° 02' -Wである。柱間寸法は1.90～2.20mである。柱穴は直径30～55cmであり、検出面からの深さは9～24cmを測り、埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は、土師質土器の皿(1518)・杯(1519)・椀(1520)、土錘(1521)である。

1518はP778から出土した皿である。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。1519はP847から出土した杯である。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。1520はP847から出土した椀である。内外面とも回転ナデ調整か。外底面には断面形が逆台形の低い輪高台を貼り付ける。1521はP847から出土した管状土錘である。内外面ともナデ調整を施す。孔径は0.4cmである。ほぼ完存である。

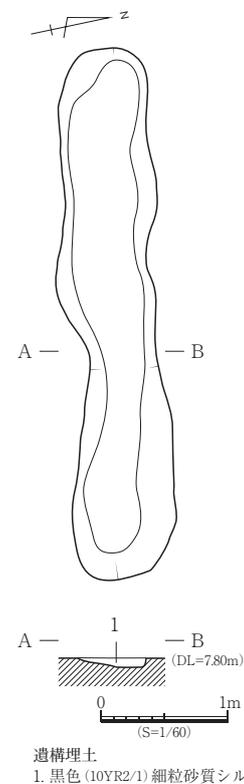


図439 7区 SK11
平面図・断面図

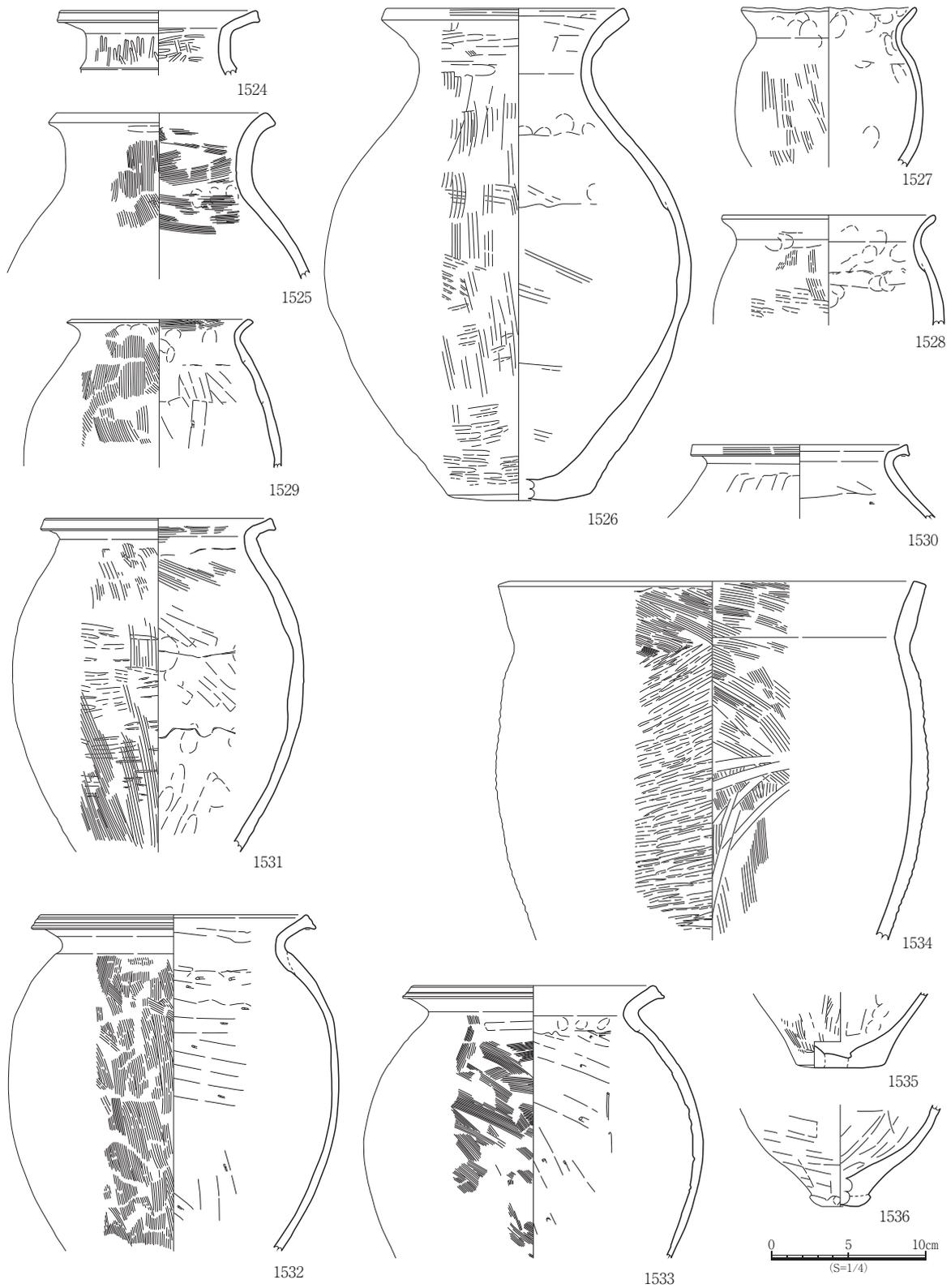


図440 7区 SK11 出土遺物実測図

SA10

SA10は7-3区東部で検出した東西方向の柵である。P194・260・542他で構成され、検出長は約9.48mである。主軸方向はN-74° 21' -Wである。柱間寸法は2.25～2.55mである。柱穴は直径30～50cmであり、検出面からの深さは11～19cmを測り、埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SA11

SA11は7-3区東部で検出した東西方向の柵である。P244・321・322他で構成され、検出長は約9.40mである。主軸方向はN-74° 21' -Wである。柱間寸法は2.00～2.70mである。柱穴は直径25～45cmであり、検出面からの深さは7～45cmを測り、埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は、P321から出土した黒色土器の椀(1522)である。口縁部内面に沈線状の凹みがみられる。内外面とも横方向のヘラミガキ調整を施す。黒色土器B類である。搬入品か。

4.SK

SK2

SK2は7-1区の西部で検出した平面形が不明の土坑である。長軸の検出長は約0.48m、短軸の検出

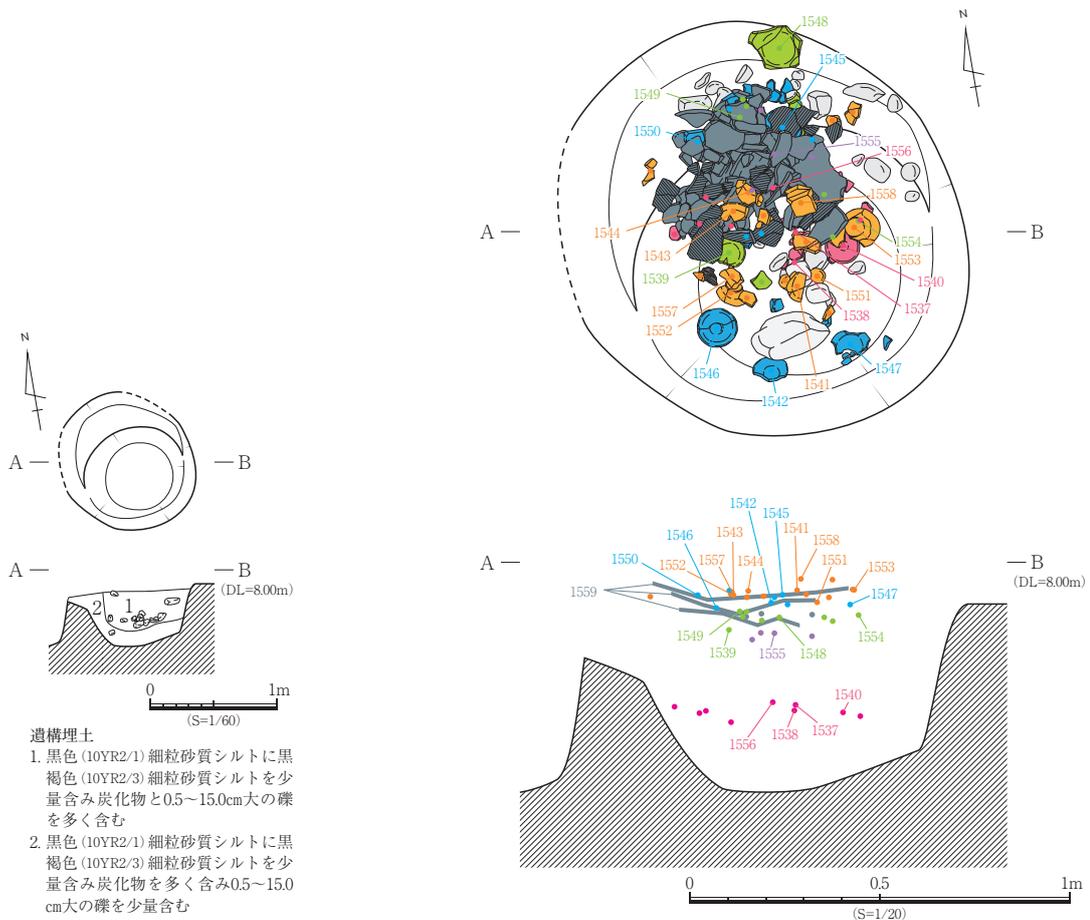


図441 7区 SK12 平面図・断面図

図442 7区 SK12 遺物出土状態図

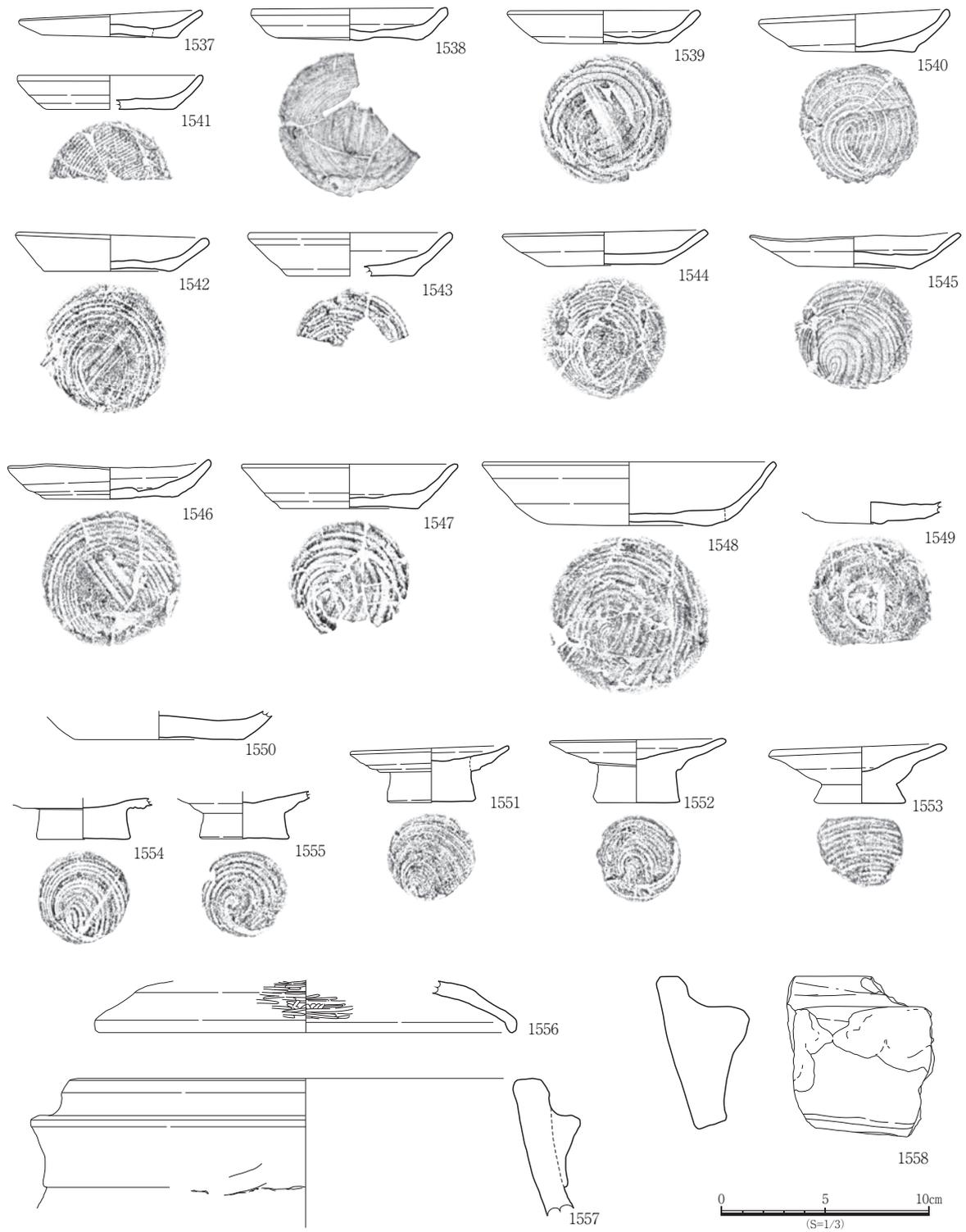


图443 7区 SK12 出土遺物実測図_1

長は約 0.34 m を測り，検出面からの深さは約 5 cm である。埋土は黒色 (10YR2/1) 極細粒砂質シルトである。主軸方向は N-39° -W である。

図示した出土遺物は弥生土器の壺の底部 (1523) である。厚い平底状を呈する。体部外面は叩き調整後ハケ調整，内面はハケ調整である。

SK7

SK7 は 7-1-1 区の西部で検出した土坑である。平面形は隅丸長方形か。長軸の検出長は約 0.32 m，短軸の検出長は約 0.58 m を測り，検出面からの深さは約 45 cm である。埋土は黒褐色 (5YR3/1) 細粒砂質粘性シルトである。主軸方向は N-31° -E である。

図示した出土遺物はない。

SK9

SK9 は 7-1-1 区西部で検出した平面形が溝状の土坑である。長軸の検出長は約 2.04 m，短軸の検出長は約 0.22 m を測り，検出面からの深さは約 5・13cm である。埋土は黒色 (10YR1.7/1) 細粒砂質シルトである。主軸方向は N-4° -W である。

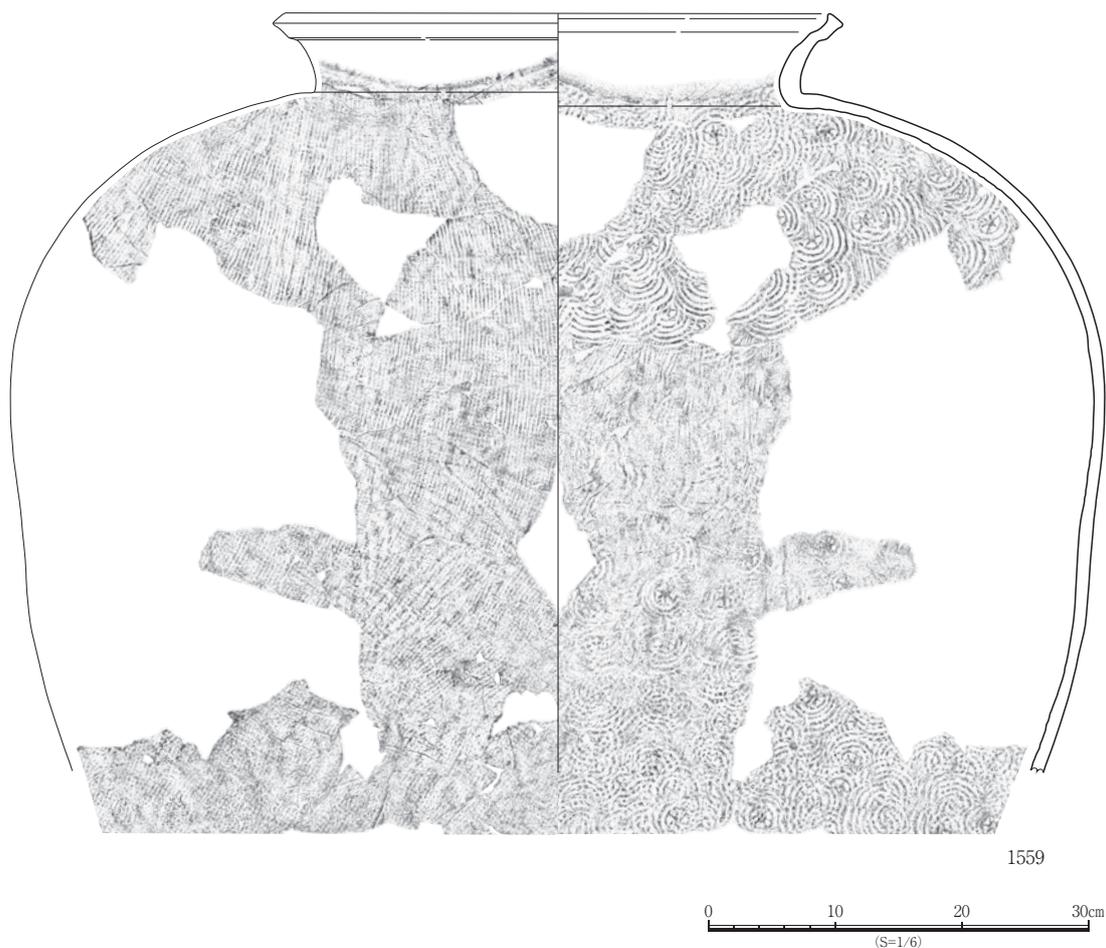


図444 7区 SK12 出土遺物実測図_2

図示した出土遺物はない。

SK10

SK10は7-1-1区西部で検出した土坑である。平面形は隅丸長方形か。長軸の検出長は約0.76 m, 短軸の検出長は約0.84 mを測り, 検出面からの深さは約18cmである。埋土は黒褐色(10YR3/1)極細粒砂質シルトである。主軸方向はN-3° -Eである。

図示した出土遺物はない。

SK11

SK11は7-1-1区東部で検出した平面形が溝状の土坑である。長軸の検出長は約4.22 m, 短軸の検出長は約0.52 mを測り, 検出面からの深さは4~14cmである。埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-79° -Wである。

図示した出土遺物は, 弥生土器の壺(1524~1526)・甕(1527~1535)・鉢(1536)である。

1524は壺である。口縁部は短い頸部から外方へひらき, 口唇部は凹面状を呈する。頸部外面は縦方向のヘラミガキ調整, 内面は横方向のヘラミガキ調整を施す。また, 頸胴部境に突帯状の微隆起をめぐらせる。全体的に丁寧な作りである。1525は壺である。体部は撫で肩を呈する。口縁部は直立気味の頸部から短く外反し, 口唇部は面状を呈する。頸部外面はタテハケ調整, 内面はヨコハケ調整で指頭圧痕がみられる。1526は壺である。口縁部は僅かに肥厚し斜め上方へひらき, 口唇部は面状を呈する。底部は厚い平底である。体部外面には叩き調整後タテハケ調整を施し, 内面にはヨコハケ調整を施す。1527は甕である。口縁部は緩やかな「く」の字状を呈する。体部は丸みを帯びる。1528は甕である。口縁部は緩やかに外反する。体部外面は叩き調整後タテハケ調整を施し, 内面にはナデ調整を施し指頭圧痕がみられる。肩部内面には口縁部を付加した際の粘土接合痕跡が認められる。1529は甕である。口縁部は短くひらく。口縁部内面にはヨコハケ調整を施す。体部外面にはタテハケ調整, 内面にはヘラナデ調整を施す。内面には粘土帯接合痕跡が認められる。1530は凹線文系の甕である。口縁部は短く外方へひらき, 口唇部は僅かに拡張し凹面状を呈する。口縁部外面はナデ調整, 内面はヘラナデ調整である。讃岐からの搬入品と考えられる。1531は甕である。体部の中位に最大径部を持つ凹線文系の器形である。口縁部は短く外方へひらき, 口唇部は僅かに拡張し凹面状を呈する。体部外面には叩き調整後, タテハケ調整を施す。内面はハケ調整およびナデ調整で指頭圧痕がみられる。1532は甕である。体部の中位に最大径部を持つ凹線文系の器形である。口縁部は「く」の字状を呈し, 口唇部は僅かに拡張し, 2条の凹線文を施す。体部外面はタテハケ調整, 内面はヘラケズリ調整である。1533は凹線文系の甕である。口縁部は「く」

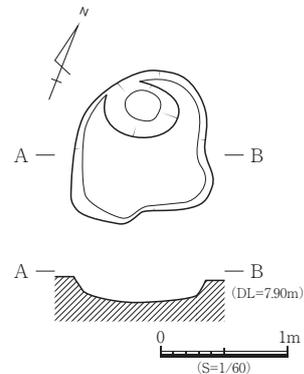


図445 7区 SK13
平面図・エレベーション図

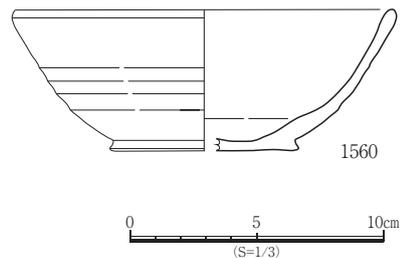


図446 7区 SK13 出土遺物実測図

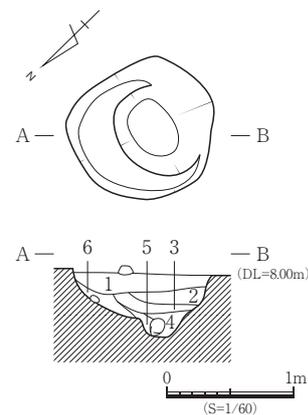
の字状を呈し、口唇部下端を拡張し、2条の凹線文を施す。体部外面はハケ調整、内面はヘラケズリ調整である。1534は深鉢形の甕である。口縁部は僅かに外傾し、口唇部は面状を呈する。口縁部は内外面とも斜め方向のハケ調整を施す。体部外面は叩き調整、内面はハケ調整およびナデ調整である。器壁は厚い。1536は鉢である。体部は内湾気味に立ち上がる。底部は粘土盤を貼付し突出する小径な平底である。体部外面には叩き調整後ハケ調整を施し、内面にはヘラナデ調整を施す。

SK12

SK12は7-3区中央部で検出した平面形が不整円形の土坑である。長軸の検出長は約1.14m、短軸の検出長は約1.03mを測り、検出面からの深さは約17・50cmである。埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-29°-Wである。

図示した出土遺物は、土師質土器の皿(1537~1548)・底部(1549・1550)・柱状高台(1551~1555)、土師器の蓋(1556)・移動式カマド(1557・1558)、須恵器の甕(1559)である。

1537は皿である。口縁部は浅く外反気味にひらき、口唇部はやや面状となる。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転ヘラ切り痕跡が認められる。1538は皿である。口縁部は浅く斜め上方へひらく。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面は回転糸切り痕跡か。1539は皿である。口縁部は斜め上方へひらき、口唇部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施し、内底面には同心円状に凹む。外底面は回転ヘラ切りか。1540は皿である。口縁部は内湾気味にひらき、口唇部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。完存する。1541は皿である。口縁部は斜め上方へひらき、口唇部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には静止糸切り痕跡が認められる。1542は皿である。口縁部は斜め上方へひらき、口唇部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。1543は皿である。口唇部は斜め上方へひらく。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。1544は皿である。口縁部は斜め上方へひらき、口唇部はやや面状を呈する。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。ほぼ完存である。1545は皿である。口縁部は斜め外方へひらき、口唇部はやや面状を呈する。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。ほぼ完存する。1546は皿である。口縁部は斜め上方へひらく。内外面とも回転ナデ調整を施し、内底面は渦状を呈する。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。また、外底面に篲状圧痕がみられる。ほぼ完存である。1547は皿である。口縁部は斜め上方へひらき、口唇部は尖端状を呈する。内外面とも回転ナデ調整を施し、内底面は凹状を呈する。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。1548は皿である。口縁部は斜め上方へ低く立ち上がり、口唇部はやや面状を呈する。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。杯か。1549は底部である。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転ヘラ切り痕跡が認



- 遺構埋土
1. オリーブ黒色(7.5Y3/1)細粒砂質シルト
 2. 黒褐色(2.5Y3/2)細粒砂質シルト
 3. 黒褐色(2.5Y3/1)細粒砂質シルト
 4. 暗オリーブ色(5Y4/3)細粒砂質シルトに3.0~5.0cm大の礫を含む
 5. 黒褐色(2.5Y3/1)細粒砂質粘性シルト
 6. 暗灰黄色(2.5Y4/2)細粒砂質シルトに黒色土を含む

図447 7区 SK14 平面図・断面図

められる。1550 は底部である。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転ヘラ切り後、ナデ調整を施す。1551 は柱状高台である。杯皿部は浅く外方へひらく。台部は円柱状を呈する。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。1552 は柱状高台である。杯皿部は浅く外方へひらく。台部は円柱状を呈する。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。ほぼ完存する。1553 は柱状高台である。杯皿部は浅く外方へひらく。台部は断面形が台形の低い円柱状を呈する。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。1554 は柱状高台である。台部は低い円柱状を呈する。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。1555 は柱状高台である。台部は低い円柱状を呈する。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。

1556 は蓋である。口縁端部は下方へ、短く折り曲げる。内外面とも横方向のヘラミガキ調整を施す。

1557 は移動式カマドである。口唇部上端は面状を呈し、上端部からやや下がった位置に鏝を貼付する。内外面ともヨコナデ調整を施す。被熱赤変する。1558 は移動式カマドである。上端部および下端部ともに平坦面とする。外面には突帯を貼付する。焚口から掛口にかけての破片と考えられる。1559 は甕である。口縁部は外反させ、口唇部を肥厚させ面状を呈する。体部外面には格子叩き調整、内面には車輪文の当て具痕跡がみられる。

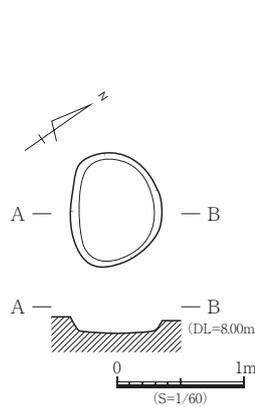


図448 7区 SK16
平面図・エレベーション図

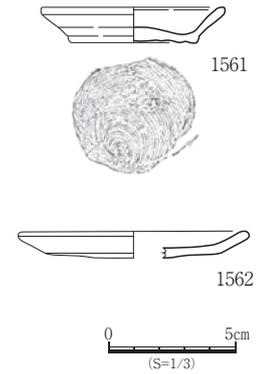


図449 7区 SK16
出土遺物実測図

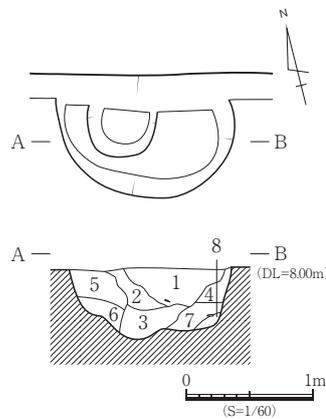


図450 7区 SK19 平面図・断面図

- 遺構埋土
1. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトに10.0cm大以下の礫を含む
 2. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトに黄色粘質土ブロック状を含む
 3. 黒褐色(2.5Y3/1)細粒砂質シルトに黄色粘質土ブロック状を多く含む
 4. オリーブ黒色(GY2/2)細粒砂質粘性シルト
 5. 黒色(GY2/1)細粒砂質粘性シルトに黄色土粒を少量含む
 6. 黒褐色(2.5Y3/1)細粒砂質粘性シルトに黄色土粒を少量含む
 7. オリーブ黒色(5Y2/2)細粒砂質粘性シルトに黄色粘質土ブロック状を含む
 8. オリーブ黒色(GY2/2)細粒砂質粘性シルト

SK13

SK13 は7-3区東部で検出した平面形が不整形の土坑である。長軸の検出長は約1.32m、短軸の検出長は約1.04mを測り、検出面からの深さは約21・40cmである。埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-23°-W

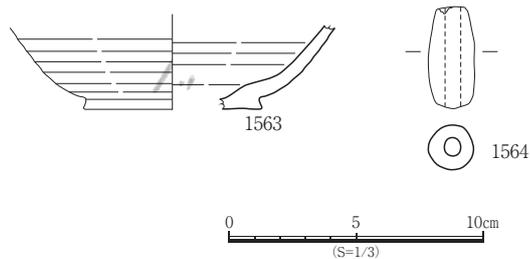


図451 7区 SK19 出土遺物実測図

である。

図示した出土遺物は、須恵器の円盤状高台椀(1560)である。体部は内湾気味に立ち上がる。口唇部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には切り離し後、ナデ調整を施す。

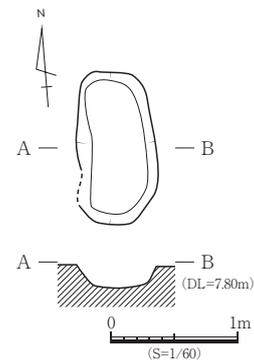


図452 7区 SK20
平面図・エレベーション図

SK14

SK14は7-3区中央部で検出した平面形が不整円形の土坑である。長軸の検出長は約1.17m、短軸の検出長は約1.08mを測り、検出面からの深さは約34.63cmである。埋土はオリブ黒色(7.5Y3/1)細粒砂質シルト他である。主軸方向はN-21°-Eである。

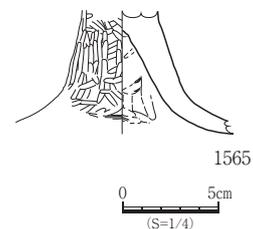


図453 7区 SK20
出土遺物実測図

図示した出土遺物はない。

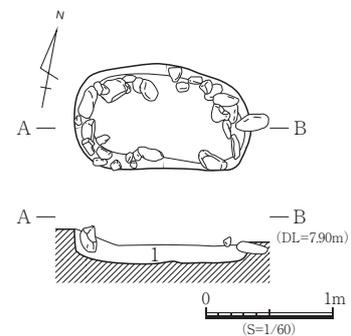
SK15

SK15は7-3区中央部で検出した平面形が不整形の土坑である。長軸の検出長は約1.14m、短軸の検出長は約1.20mを測り、検出面からの深さは約12cmである。主軸方向はN-46°-Wである。

図示した出土遺物はない。

SK16

SK16は7-3区中央部で検出した平面形が不整楕円形の土坑である。長軸の検出長は約0.91m、短軸の検出長は約0.74mを測り、検出面からの深さは約12cmである。埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-49°-Wである。



遺構埋土
1. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトにふい黄褐色(10YR4/3)細粒砂質シルトを少量含む

図454 7区 SK21
平面図・断面図

図示した出土遺物は、土師質土器の皿(1561)、瓦器の皿(1562)である。

1561は皿である。口縁部は浅く斜め上方へひらく。外面は回転ナデ調整を施し、内底面にはヨコナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。1562は皿である。口縁部は浅く斜め外方へひらき、口唇部は丸くおさめる。口縁部外面にはヨコナデ調整を施す。底部には指頭圧痕がみられる。炭素吸着はほとんど認められない。

SK17

SK17は7-3区中央部で検出した平面形が不整形の土坑である。長軸の検出長は約1.02m、短軸の検出長は約0.89mを測り、検出面からの深さは約10cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-56°-Wである。

図示した出土遺物はない。

SK18

SK18は7-3区中央部で検出した平面形が不整隅丸方形の土坑である。長軸の検出長は約1.00m, 短軸の検出長は約0.98mを測り, 検出面からの深さは約11cmである。埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-34°-Eである。

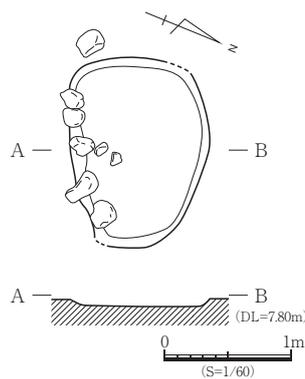


図455 7区 SK25
平面図・エレベーション図

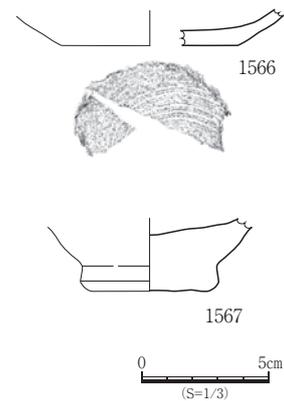


図456 7区 SK25
出土遺物実測図

図示した出土遺物はない。

SK19

SK19は7-3区の中央部で検出した土坑である。平面形は楕円形か。長軸の検出長は約1.42m, 短軸の検出長は約0.78mを測り, 検出面からの深さは約54・66cmである。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-66°-Wである。

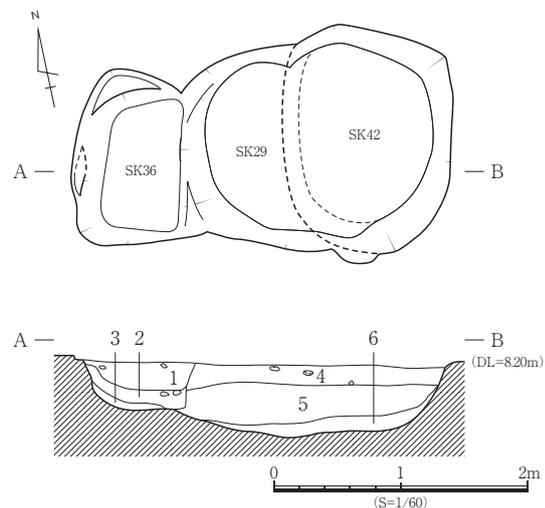
図示した出土遺物は, 土師器の椀(1563), 管状土錘(1564)である。

1563は円盤状高台椀である。体部は内湾気味に立ち上がる。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。火襷がみられる。須恵器か。1564は管状土錘である。僅かに紡錘形状を呈した円筒形で, 断面形は円形を呈する。端部は欠損する。

SK20

SK20は7-3区東部で検出した平面形が楕円形の土坑である。長軸の検出長は約1.22m, 短軸の検出長は約0.62mを測り, 検出面からの深さは約20cmである。埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-3°-Eである。

図示した出土遺物は, 弥生土器の高杯(1565)である。裾部は円筒状の脚部から大きくひろく。脚部外面には縦方向のヘラミガキ調整を施し, 内面はヘラナデ調整である。



- 遺構埋土
1. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトに地山ブロックを少量含む(SK36)
 2. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトに地山ブロックをやや多く含む(SK36)
 3. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトに地山ブロックを少量含む(SK36)
 4. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトに5.0cm以下の礫と地山ブロックを少量含む(SK29・42)
 5. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトに5.0cm以下の礫をやや多く含む(SK29・42)
 6. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトに2.0cm以下の礫を少量含む(SK29・42)

図457 7区 SK29・36・42 平面図・断面図

SK21

SK21は7-3区東部で検出した平面形が隅丸長方形の土坑である。長軸の

検出長は約1.40 m, 短軸の検出長は約0.84 mを測り, 検出面からの深さは約26cmである。埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-82° -Eである。

図示した出土遺物はない。

SK22

SK22は7-3区中央部で検出した土坑である。平面形は不整楕円形か。長軸の検出長は約1.10 m, 短軸の検出長は約0.70 mを測り, 検出面からの深さは約11cmである。埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-79° -Wである。

図示した出土遺物はない。

SK23

SK23は7-3区西部で検出した平面形が隅丸長方形の土坑である。長軸の検出長は約1.72 m, 短軸の検出長は約1.40 mを測り, 検出面からの深さは約4 cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-4° -Wである。

図示した出土遺物はない。

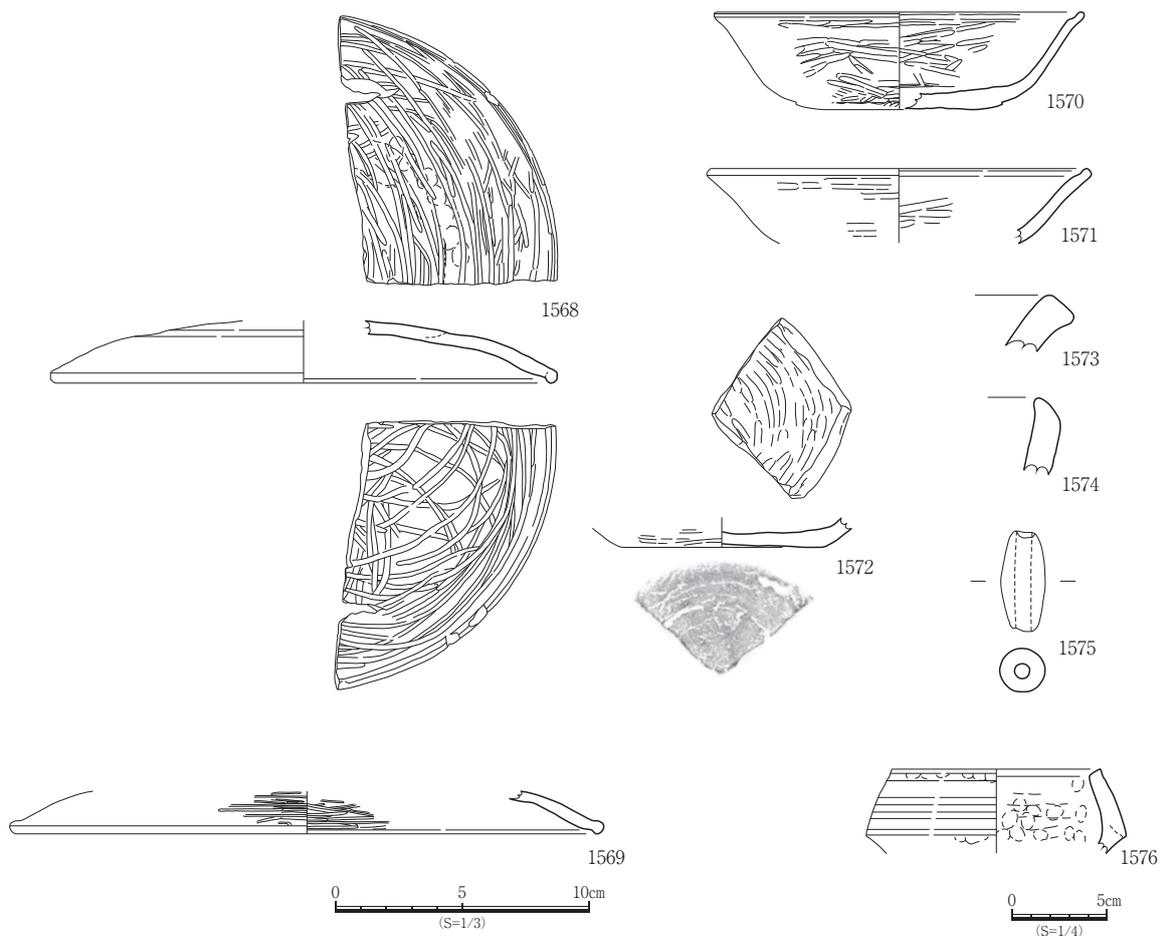


図458 7区 SK29 出土遺物実測図

SK25

SK25は7-3区中央部で検出した平面形が不整形の土坑である。長軸の検出長は約1.52m、短軸の検出長は約1.10mを測り、検出面からの深さは約9cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-63°-Wである。

図示した出土遺物は、土師質土器の底部(1566)・柱状高台(1567)である。

1566は底部である。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。1567は柱状高台である。台部は円盤状を呈する。

SK28

SK28は、7-3区の東部で検出した平面形が不整形の土坑である。長軸の検出長は約1.89m、短軸の検出長は約0.46mを測り、検出面からの深さは約6~8cmである。埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-3°-Wである。

図示した出土遺物はない。

SK29

SK29は7-4区東部で検出した土坑である。平面形は不整円形か。長軸の検出長は約1.55m、短軸の検出長は約1.45mを測り、検出面からの深さは約63cmである。埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-7°-Eである。

図示した出土遺物は、土師器の蓋(1568・1569)・杯(1570~1572)・不明(1573)、製塩土器(1574)、土錘(1575)、弥生土器の壺(1576)である。

1568は蓋である。天井部は丸みを持ち、口縁端部を短く折り曲げる。口縁部は内外面とも回転ナデ調整後、ヘラミガキ調整を施す。天井部内面はナデ調整後、不定方向のヘラミガキ調整を疎らに施す。1570は折り曲げ口縁の杯である。内外面とも横方向のヘラミガキ調整を施す。外底面には回転ヘラ

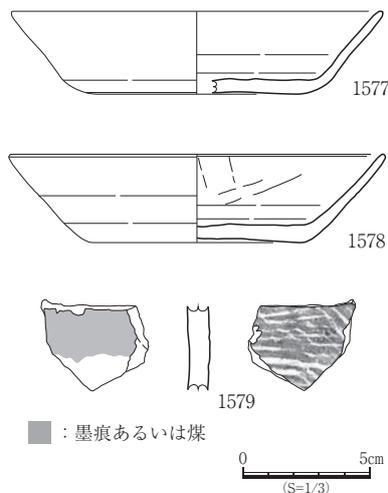


図459 7区 SK29・36
出土遺物実測図

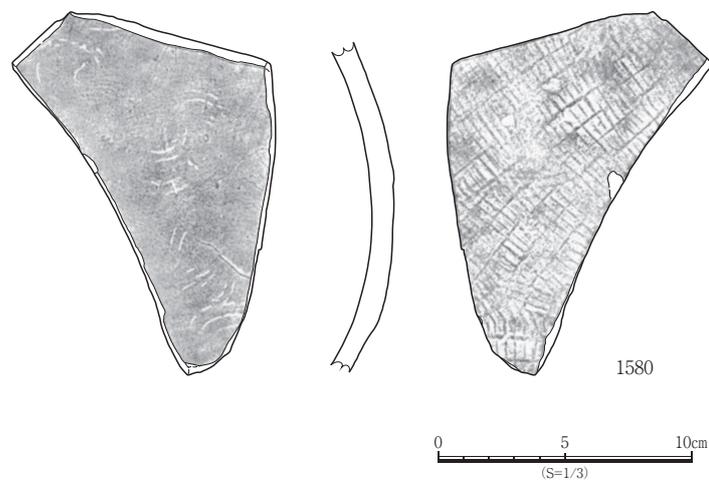
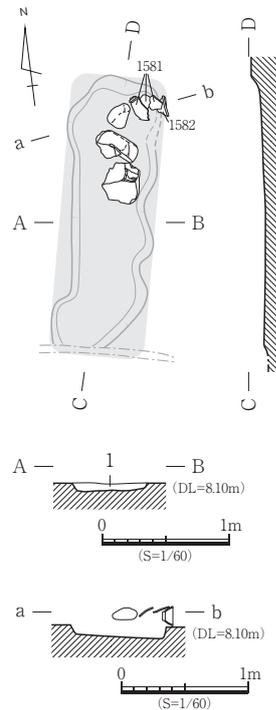


図460 7区 SK29・42 出土遺物実測図

切り後、ヘラミガキ調整を施す。1571は杯である。口縁端部を折り曲げる。内外面とも横方向のヘラミガキ調整を施す。1572は杯である。内底面にはヘラミガキ調整を施す。外底面には回転ヘラ切り痕跡が認められる。1573は全体の器形は不明である。口唇部は僅かに肥厚させ面取りを施す。内外面ともヨコナデ調整を施す。1574は製塩土器である。口唇部は内傾する。外面はナデ調整、内面には布目の圧痕が認められる。1575は管状土錘である。円筒形を呈し、断面形は円形である。孔径は約0.6cmである。1576は弥生土器の複合口縁壺である。内傾する二次口縁部を付加し、口唇部には面取りを施す。外面はヨコナデ調整、内面はナデ調整である。混入品である。

SK29・36

図示した出土遺物は、SK29かSK36のいずれかに属するものである。



遺構埋土
1. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに
黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトブ
ロックと0.5cm以下の礫を含む

図461 7区 SK30 平面図・断面図
・遺物出土状態図・エレベーション図

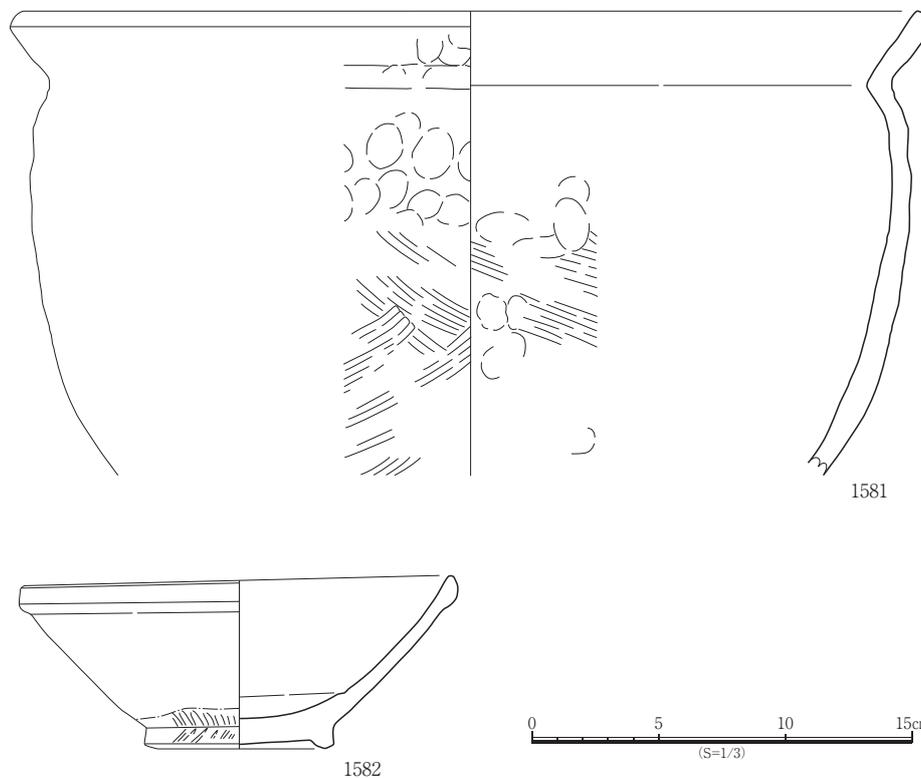


図462 7区 SK30 出土遺物実測図

1577は須恵器の杯である。体部は外上方へ立ち上がる。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面は回転ヘラ切り後、ナデ調整である。やや焼成不良である。1578は土師器の杯である。体部は外上方へ立ち上がる。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転

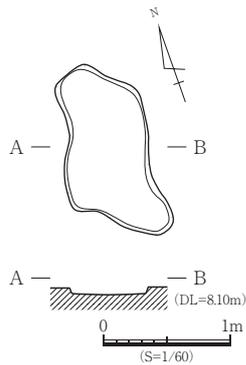


図463 7区 SK31
平面図・エレベーション図

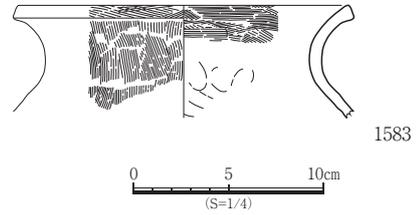


図464 7区 SK31 出土遺物実測図

す。焼成不良である。1579は須恵器の体部片である。外面には平行叩き調整,内面はナデ調整である。内面に墨痕か,あるいは煤が付着する。転用硯か。

SK29・42

図示した出土遺物は, SK29かSK42のいずれかに属するものである。

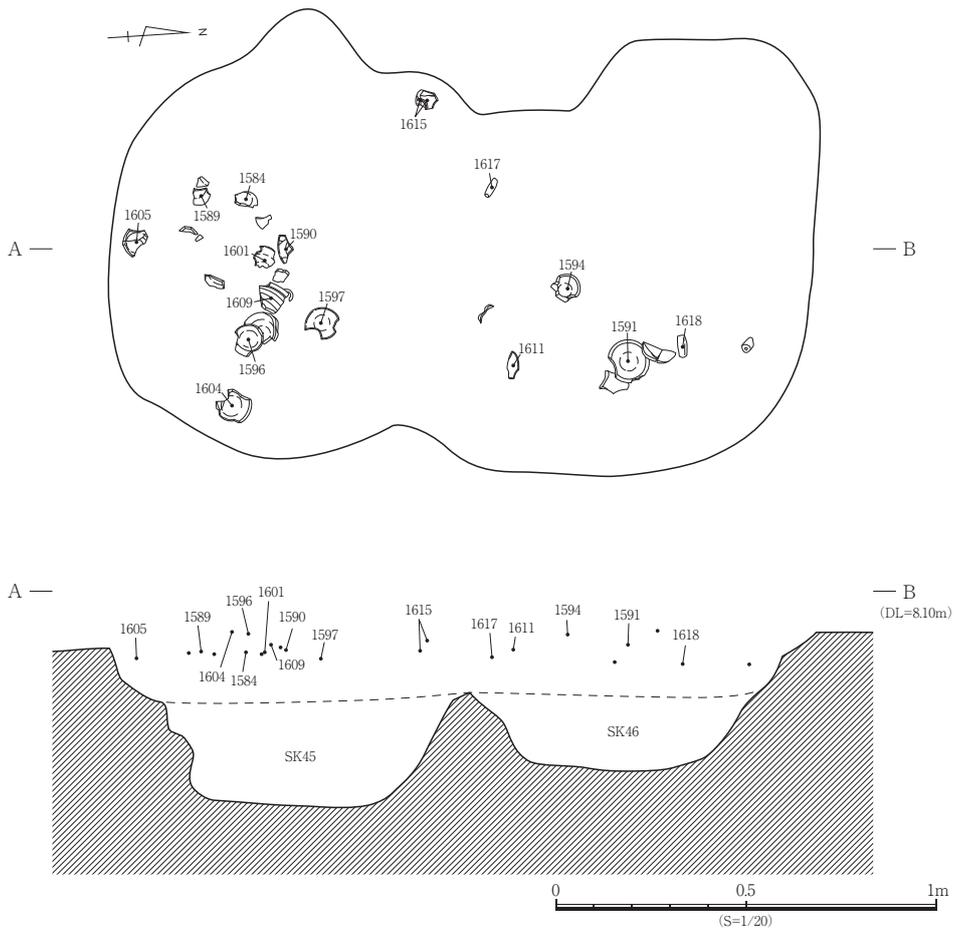


図465 7区 SK32 遺物出土状態図

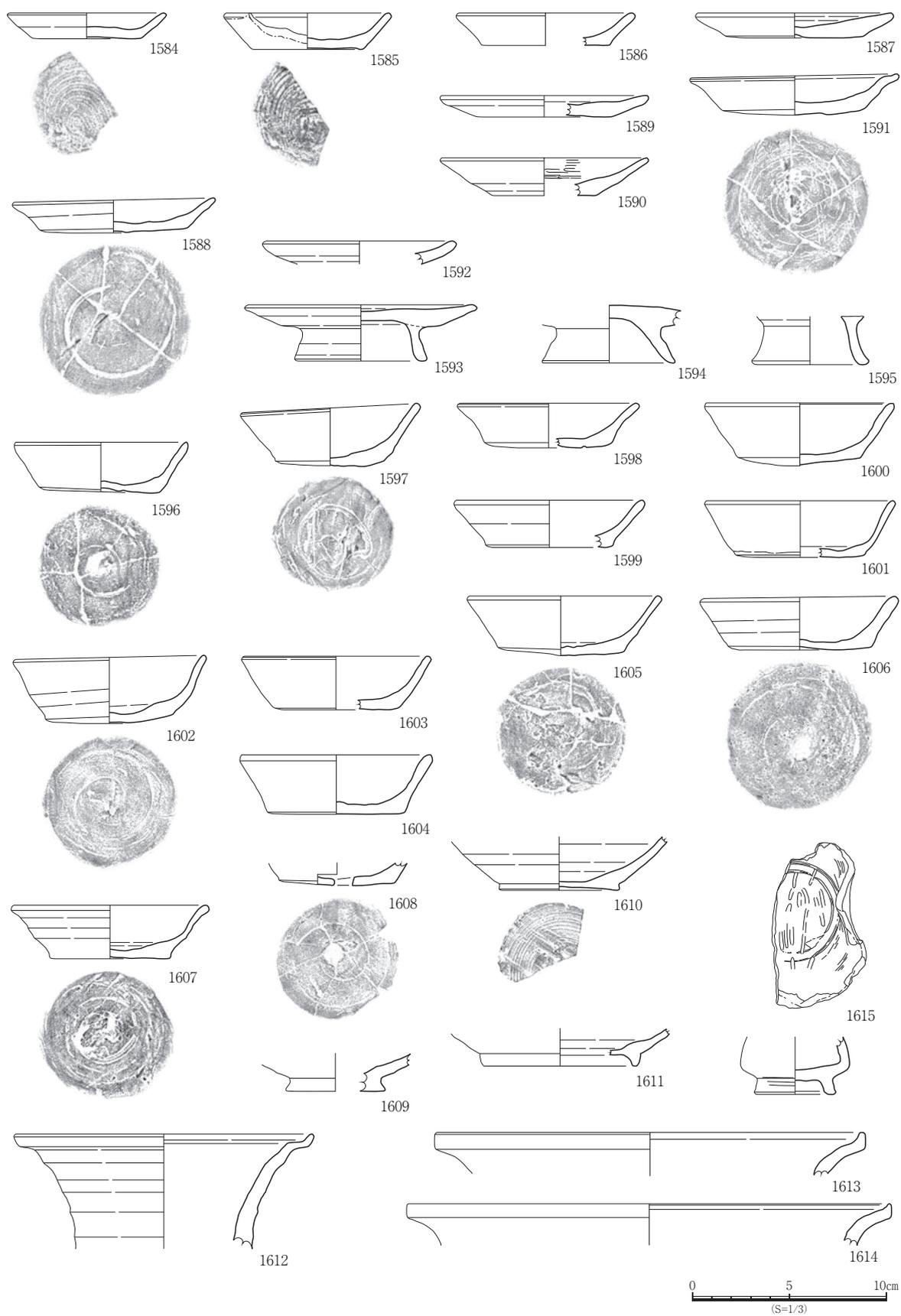


図466 7区 SK32 出土遺物実測図_1

1580は須恵器の体部片である。外面は格子叩き調整を施し、内面には同心円状の当て具痕跡が認められる。焼成不良である。

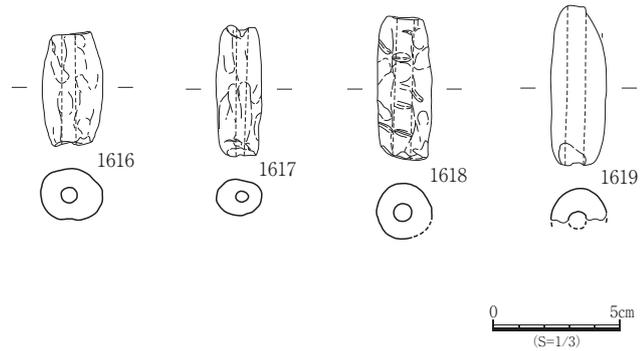


図467 7区 SK32 出土遺物実測図_2

SK30

SK30は7-4区西部で検出した平面形が溝状の土坑である。長軸の検出長は約2.16m、短軸の検出長は約0.54mを測り、検出面からの深さは8～13cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-12°-Eである。周囲に礫が置かれており、出土遺物等から墓と考えられる。

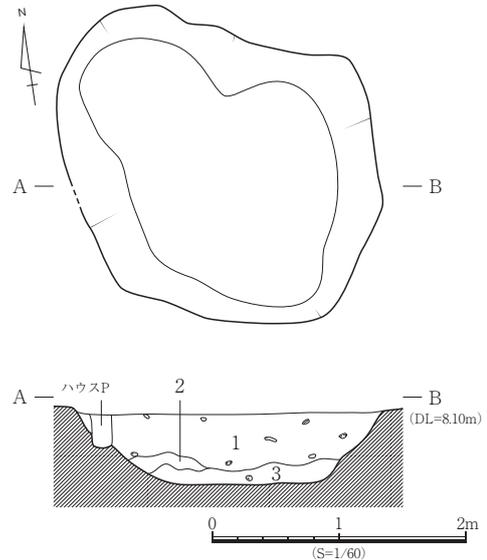
図示した出土遺物は、土師質土器の鍋(1581)、白磁の碗(1582)である。

1581は鍋である。体部は球形を呈し、口縁部を外反させ、口唇部は丸みを帯びる。口縁部外面はヨコナデ調整、内面はヘラナデ調整である。体部は内外面ともハケ調整である。指頭圧痕が認められる。搬入品である。1582は白磁の碗である。口縁部は玉縁状を呈する。高台は露胎である。口縁部には釉が垂れる。ピンホールがみられる。IV類である。

SK31

SK31は7-4区中央部で検出した平面形が不整形の土坑である。長軸の検出長は約1.24m、短軸の検出長は約0.66mを測り、検出面からの深さは約12cmである。主軸方向はN-9°-Eである。

図示した出土遺物は弥生土器の甕(1583)である。口縁部は緩やかに外反し、口唇部はハケ状原体による面取りを施す。口縁部外面にはタテハケ調整、内面にはハケ調整を施す。体部外面はタテハケ調整、内面はナデ調整であり、指頭圧痕がみられる。



- 遺構埋土
1. 黒色(10YR1.7/1)細粒砂質シルトに褐色(10YR4/1)細粒砂質シルトを少量含み黒色(7.5YR1.7/1)細粒砂質シルトを含む
 2. 黒色(10YR1.7/1)細粒砂質シルトに黒褐色(7.5YR2/2)細粒砂質シルトを含む
 3. 黒色(10YR1.7/1)細粒砂質シルト

図468 7区 SK34 平面図・断面図

SK32

SK32は7-4区中央部で検出した土坑である。長軸約1.85m、短軸約0.82mを測り、検出面からの深さは約16cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は、土師質土器の皿(1584～1591)・柱状高台(1592～1595)・杯(1596～1608)・椀(1609～1611)、須恵器の壺(1612～1614)、緑釉陶器の耳皿(1615)、管状土錘(1616～1619)である。

1584は皿である。口縁部は外方へひらき、口唇部は

丸みを帯びる。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。1585は皿である。口縁部は斜め上方へ立ち上がり、口唇部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。外面には釉薬が付着か。1586は皿である。口縁部は斜め上方へひらき、口唇部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施す。切離し手法は回転ヘラ切りか。1587は皿である。口縁部は低平状を成し、口唇部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転ヘラ切り痕跡が認められる。1588は皿である。口縁部は弱く外反気味にひらき、口唇部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転ヘラ切り痕跡が認められる。1589は皿である。口縁部は低平状を成し、口唇部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転ヘラ切り痕跡が認められる。1590は皿である。口縁部は外方へ大きくひらき、口唇部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施す。内面にはヘラミガキ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。丁寧な仕上げである。1591は皿である。口縁部は斜め上方へひらき、口縁端部は水平近く外反させ、上面は僅かに凹む。内外面とも回転ナデ調整を施す。内面にはミガキ調整を施す。外底面は回転ヘラ切り後、ナデ調整を施す。1592は柱状高台である。杯皿部は皿状を呈する。口唇部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施す。丁寧な仕上げである。1593は柱状高台である。杯皿部は皿状を呈する。外底面には「ハ」の字形にひらく高脚の輪高台を貼り付ける。内外

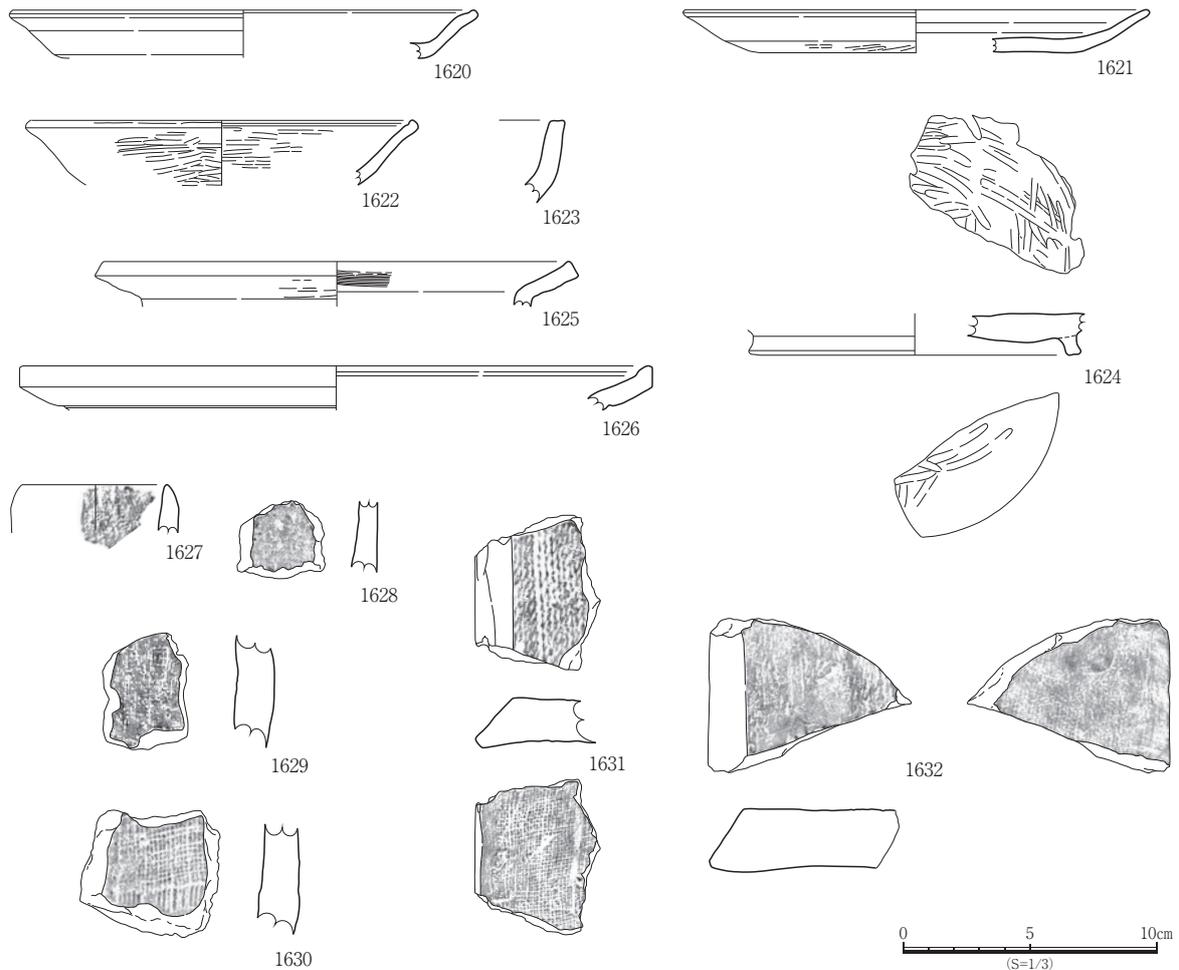


図469 7区 SK34 出土遺物実測図

面とも回転ナデ調整を施す。1594は柱状高台である。外底面に「ハ」の字形にひらく高脚の輪高台を貼り付ける。内外面とも回転ナデ調整を施す。1595は柱状高台である。外底面にはひらき気味の高脚の輪高台を貼り付ける。内外面とも回転ナデ調整を施す。1596は杯である。体部は斜め上方へ立ち上がり、口唇部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施す。内底面には若干の凹凸がみられる。外底面には回転ヘラ切り痕跡が認められる。1597は杯である。体部は斜め上方へ立ち上がり、口唇部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施す。さらにヘラミガキ調整を施すか。外底面には回転ヘラ切り痕跡が認められる。1598は杯である。体部は外反気味に立ち上がり、口唇部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転ヘラ切り後、ナデ調整を施す。1599は杯である。体部は斜め上方へ立ち上がり、口唇部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施す。底端部はやや張り出し気味であり、外底面には回転ヘラ切り痕跡が認められる。1600は杯である。体部は斜め上方へ立ち上がり、口唇部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転ヘラ切り痕跡が認められる。1601は杯である。体部は直線的に立ち上がり、口唇部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転ヘラ切り痕跡が認められる。1602は杯である。体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部を僅かに外反させ、口唇部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施す。内底面には凹凸がみられる。外底面には回転ヘラ切り痕跡が認められる。完存する。1603は杯である。体部は直線的に立ち上がり、口唇部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施す。底部の切離し手法は不明である。1604は杯である。体部は斜め上方へ立ち上がり、口唇部は僅かに肥厚し丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施す。底部の切離し手法は不明である。1605は杯である。体部は斜め上方へ立ち上がり、口唇部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施す。内底面には凹凸が認められる。外底面には回転ヘラ切り痕跡が認められる。1606は杯である。体部は斜め上方へ立ち上がり、口唇部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施す。内底面には凹凸が認められる。外底面には回転ヘラ切り痕跡が認められる。1607は杯である。体部は屈曲

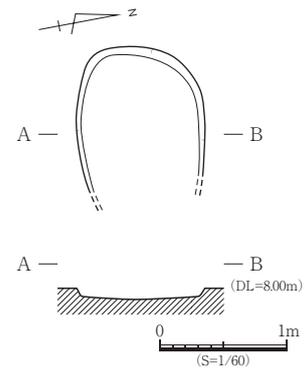


図470 7区 SK35
平面図・エレベーション図

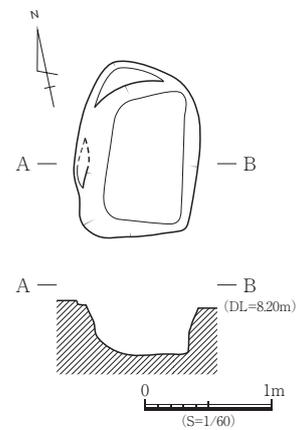


図471 7区 SK36
平面図・エレベーション図

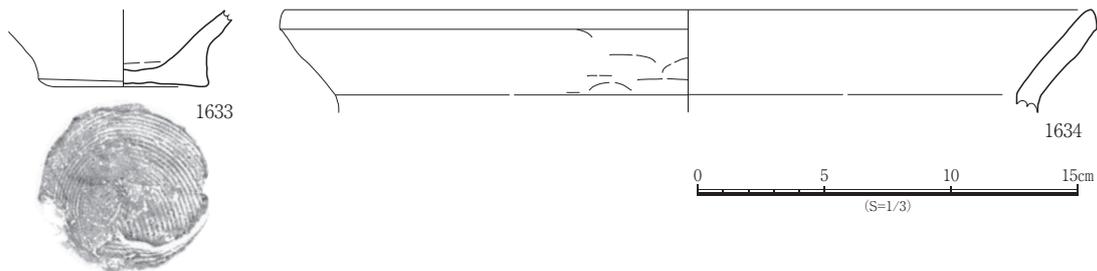


図472 7区 SK36 出土遺物実測図

し立ち上がり、口縁部を僅かに外反させ、口唇部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施す。ロクロ目痕は顕著である。外底面には回転ヘラ切り痕跡が認められる。1608は杯である。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転ヘラ切り痕跡が認められる。底部には焼成後に穿孔する。1609は円盤状高台椀である。内外面とも回転ナデ調整を施す。底部の切離し手法は不明である。1610は円盤状高台椀である。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。1611は椀である。外底面に輪高台を貼り付ける。内外面とも回転ナデ調整を施す。1612は壺である。口縁部は受け口状を呈する。内外面とも回転ナデ調整を施す。内面には自然釉が付着する。1613は壺である。口縁部上端を摘み上げる。内外面とも回転ナデ調整を施す。内面には自然釉が付着する。1614は壺である。口縁部上端を摘み上げ、内外面とも回転ナデ調整を施す。1615は耳皿である。口縁部の一部を内側に折り曲げる。外底面には輪高台を貼り付ける。内外面とも回転ナデ調整を施し、内底面にはミガキ調整を施す。やや明るいオリーブ灰色の釉薬を全面に施す。

SK34

SK34は7-4区東部で検出した平面形が不整形の土坑である。長軸の検出長は約2.66m、短軸の検出長は約2.22mを測り、検出面からの深さは約65cmである。埋土は黒色(10YR1.7/1)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-65°-Wである。

図示した出土遺物は、土師器の皿(1620・1621)・杯(1622)、須恵器の盤(1623)、土師器の杯(1624)・甕(1625・1626)、製塩土器(1627～

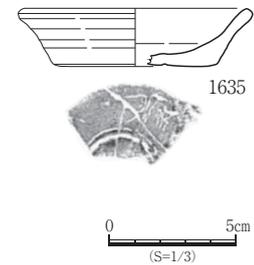
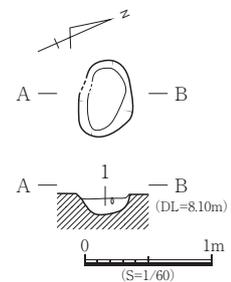
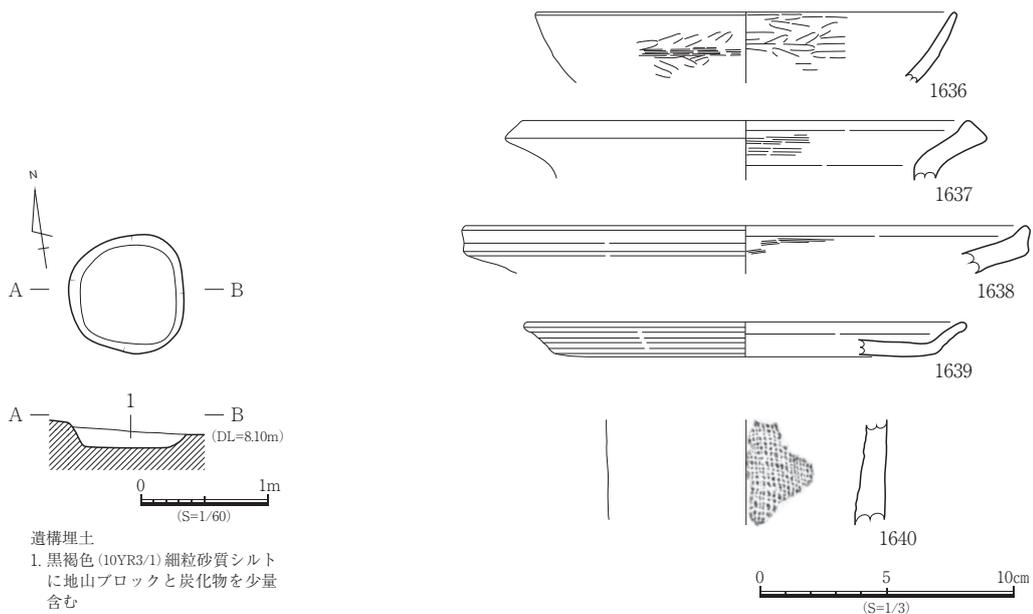


図473 7区 SK37・38
出土遺物実測図



遺構埋土
1. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトに明黄褐色(10YR6/6)細粒砂質シルトブロックを含む

図474 7区 SK39
平面図・断面図



遺構埋土
1. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトに地山ブロックと炭化物を少量含む

図475 7区 SK40 平面図・断面図

図476 7区 SK40 出土遺物実測図

1630), 平瓦 (1631・1632) である。

1620 は皿である。内外面とも回転ナデ調整を施す。口縁部内面は凹む。1621 は皿である。口縁部は外方へひらき, 口唇部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整後, ミガキ調整を加える。内面は摩耗する。外底面は回転ヘラ切り後, ミガキ調整である。1622 は杯である。口縁部は外上方へひらき, 口縁部内面は凹む。内外面とも横方向のヘラミガキ調整を施す。1623 は盤である。口唇部には面取りを施す。内外面とも回転ナデ調整およびナデ調整を施す。1624 は杯である。外底面には断面形が方形の高台を貼付する。内外面ともヘラミガキ調整である。1625 は甕である。口唇部には面取りを施す。口縁部外面はヨコナデ調整, 内面はヨコハケ調整である。1626 は甕である。口縁端部を上方へ拡張し, 面取りを施す。口縁部外面はヨコナデ調整か。内面はヨコハケ調整である。1627 ~ 1630 は製塩土器である。外面はナデ調整であり, 内面には布目の圧痕が認められる。1629 と 1630 の器壁は厚い。1631・1632 は平瓦である。凸面は縄目痕, 凹面には布目の圧痕が認められる。

SK35

SK35 は 7-4 区中央部で検出した土坑である。平面形は隅丸長方形か。長軸の検出長は約 1.13 m, 短軸の検出長は約 1.02 m を測り, 検出面からの深さは約 12 cm である。主軸方向は N-83° -W である。

図示した出土遺物はない。

SK36

SK36 は 7-4 区東部で検出した平面形が隅丸長方形の土坑である。長軸の検出長は約 1.36 m, 短軸の検出長は約 1.00 m を測り, 検出面からの深さは約 43 cm である。埋土は黒褐色 (10YR3/1) 細粒砂質シルトである。主軸方向は N-19° -E である。

図示した出土遺物は, 土師質土器の底部 (1633) ・甕 (1634) である。

1633 は底部である。内外面とも回転ナデ調整を施し, 外底面には回転糸切り痕跡が認められる。柱状高台か。1634 は甕である。口唇部に面取りを施し, 尖らせる。外面はヨコナデ調整か。内面は荒れ, 調整等は不明である。また, 被熱

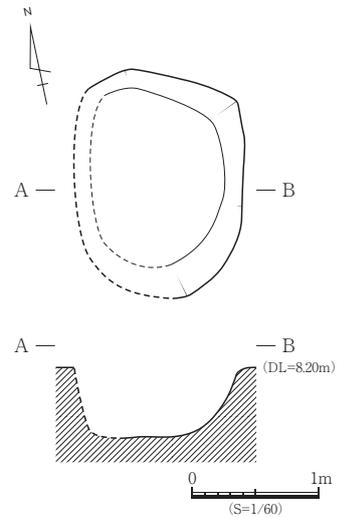


図477 7区 SK42

平面図・エレベーション図

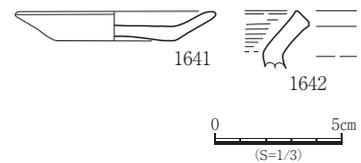
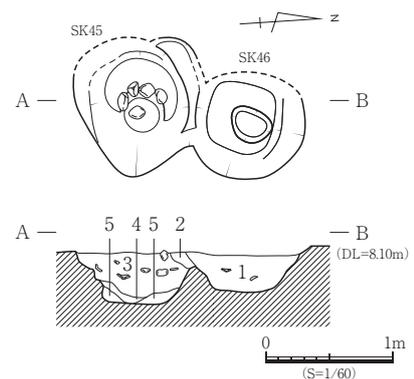


図478 7区 SK42

出土遺物実測図



遺構埋土

1. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに炭化物を含む (SK46)
2. 黒色 (10YR2/1) 細粒砂質シルト
3. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに暗褐色 (10YR3/3) 細粒砂質シルトを多量に含む (SK45)
4. 暗褐色 (10YR3/3) 細粒砂質シルト (SK45)
5. 暗褐色 (10YR3/3) シルト質細粒砂 (SK45)

図479 7区 SK45・46

平面図・断面図

により発泡する。

SK37・38

SK37・38は重複して検出した遺構であり、これらの遺構の一部がSB27の柱穴の一つとなると考えられる。

図示した土師質土器の杯(1635)はSK37・38から出土したものであるものの、SB27の柱穴から出土したのかどうか判然としないため、ここで記載した。1635の体部は外上方へ立ち上がり、口縁部は外反する。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転ヘラ切り痕跡が認められる。

SK39

SK39は7-4区中央部西北で検出した平面形が楕円形の土坑である。長軸の検出長は約0.61m、短軸の検出長は約0.44mを測り、検出面からの深さは約17cmである。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-59°-Wである。

図示した出土遺物はない。

SK40

SK40は7-4区東部中央で検出した平面形が不整隅丸方形の土坑である。長軸の検出長は約0.94m、短軸の検出長は約0.90mを測り、検出面からの深さは約22cmである。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-6°-Eである。

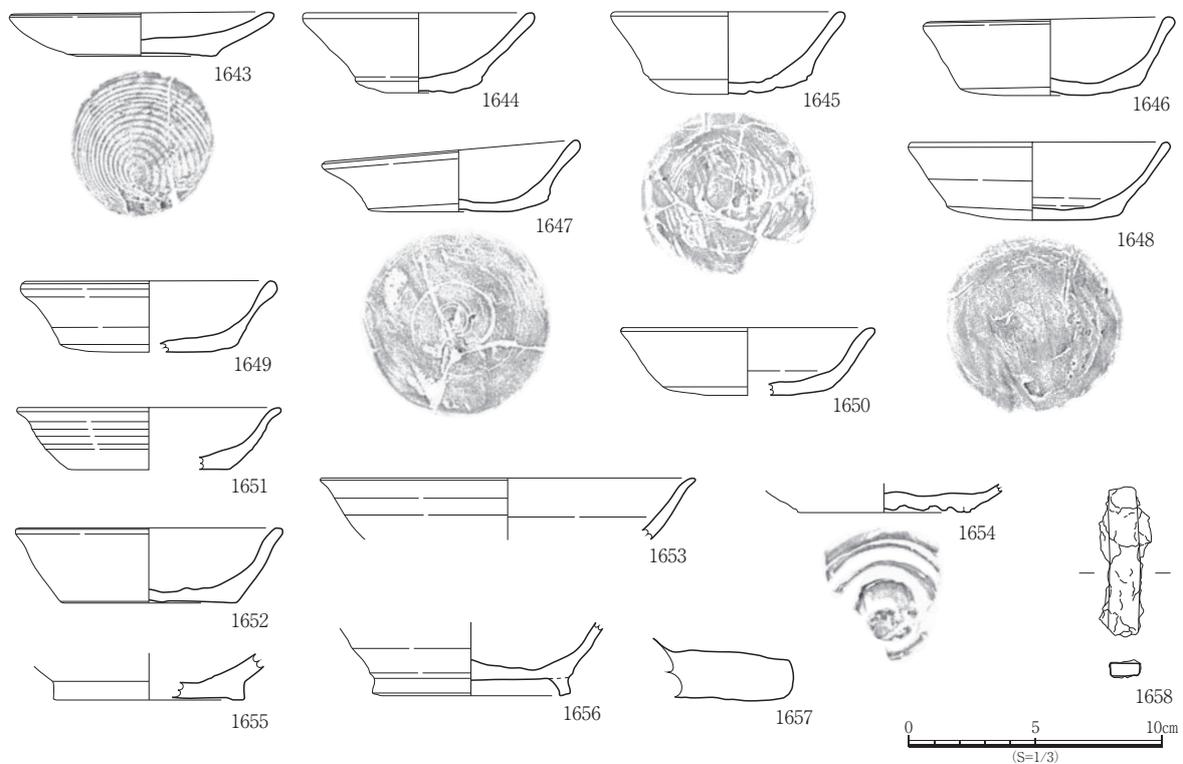


図480 7区 SK45 出土遺物実測図

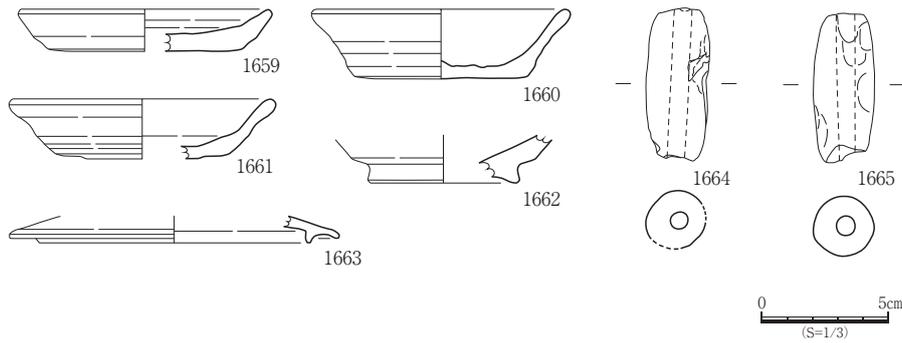


図481 7区 SK46 出土遺物実測図

図示した出土遺物は、土師質土器の椀(1636)、土師器の甕(1637・1638)、須恵器の皿(1639)、製塩土器(1640)である。

1636は椀である。体部は丸みを帯びる。口唇部は丸くおさめる。内外面ともヘラミガキ調整を施し、外面にはヘラナデ調整を施す。1637は甕である。口唇部は面取りを施し、僅かに拡張させる。外面はヨコナデ調整、内面はヨコハケ調整である。1638は甕である。口縁部は上方へ拡張し、凹面状を呈する。内外面ともヨコナデ調整を施す。1639は皿である。口縁部は斜め上方へのび、口唇部は丸くおさめる。外底面には回転ヘラ切り後、ナデ調整を施す。1640は製塩土器である。内面には布目の圧痕が認められる。

SK42

SK42は7-4区東部で検出した平面形が不整隅丸方形の土坑である。長軸の検出長は約1.75m、短軸の検出長は約1.45mを測り、検出面からの深さは約65cmである。埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-8°-Eである。

図示した出土遺物は、土師質土器の皿(1641)・甕(1642)である。

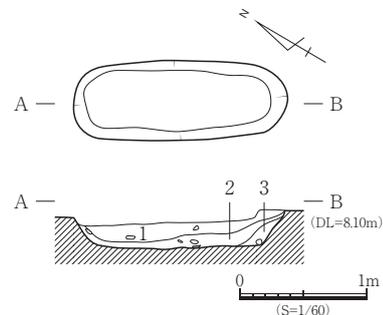
1641は皿である。口縁部は斜め上方へのび、口唇部は丸くおさめる。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。ほぼ完存である。1642は甕である。口唇部には面取りを施し、外面はヨコナデ調整、内面はヨコハケ調整である。

SK45

SK45は7-4区中央部東で検出した平面形が不整形の土坑である。長軸の検出長は約1.03m、短軸の検出長は約0.84mを測り、検出面からの深さは約40・48cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト他である。主軸方向はN-74°-Eである。

図示した出土遺物は、土師質土器の皿(1643)・杯(1644～1652・1654)、須恵器の杯(1653)、土師器の椀(1655・1656)・移動式カマド(1657)、鉢(1658)である。

1643は皿である。口縁部は外方へ内湾気味にひらき、



- 遺構埋土
1. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトを少量含む
 2. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに15.0cm大以下の礫を含む
 3. 黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルト

図482 7区 SK48 平面図・断面図

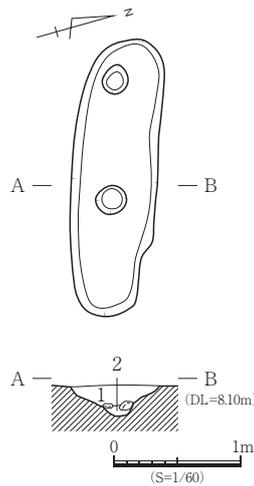
口唇部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整およびヘラミガキ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。1644は杯である。体部は逆「ハ」の字形に立ち上がり、口唇部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施す。底部は丸みを帯びる。外底面には回転ヘラ切り痕跡が認められる。1645は杯である。体部は斜め上方へ立ち上がり、口唇部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施し、内底面は渦状を呈する。外底面は回転ヘラ切り後ナデ調整か。1646は杯である。体部は斜め

上方へ立ち上がり、口唇部は僅かに肥厚し丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面は回転ヘラ切り後ナデ調整か。1647は杯である。体部は斜め上方に立ち上がり、口縁部にかけて外反し、口唇部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施す。

外底面には回転ヘラ切り痕跡が認められる。1648は杯である。体部は斜め上方へ立ち上がり、口唇部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面は回転ヘラ切り後、ナデ調整を施す。1649は杯である。体部は斜め上方へ立ち上がり、口唇部は玉縁状に肥厚し丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施す。

外底面は回転ヘラ切り後ナデ調整か。1650は杯である。体部は斜め上方へ立ち上がり、口縁部は外反気味で口唇部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面は回転ヘラ切り後ナデ調整か。

1651は杯である。体部は内湾気味で口縁部は外反し、口唇部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施す。1652は杯である。体部は内湾気味で口縁部は僅かに外反し、口



遺構埋土
1. 黒褐色 (10YR3/2) 細粒砂質シルトにふい黄褐色 (10YR4/3) 細粒砂質シルトの地山ブロックを含む
2. にふい黄褐色 (10YR4/3) 細粒砂質シルトに15.0cm大以下の礫を含む

図483 7区 SK52
平面図・断面図

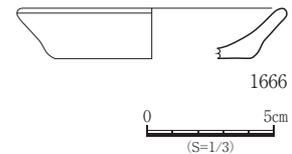


図484 7区 SK52
出土遺物実測図

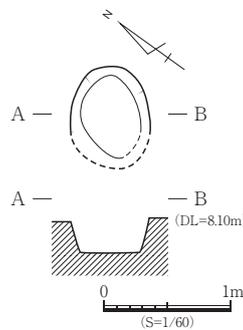


図485 7区 SK54
平面図・エレベーション図

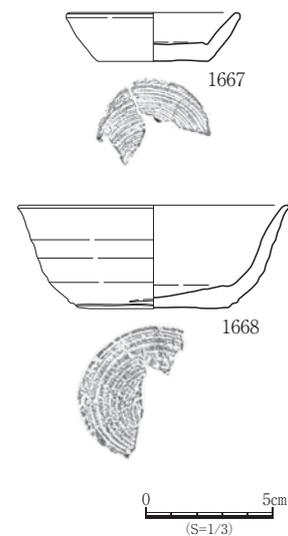


図486 7区 SK54
出土遺物実測図

唇部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施し、内底面は渦状を呈する。外底面はヘラ切り痕跡か。1653は杯である。体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部は外反気味で口唇部は先端状を呈する。内外面とも回転ナデ調整を施す。外面に帯状に煤が付着する。1654は杯である。内外面とも回転ナデ調整を施す。底部の切離し手法は回転ヘラ切りか。1655は円盤状高台椀である。外底面はヘラ切り痕跡か。1656は椀である。体部は稜を持ち斜め上方へ立ち上がる。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には断面形が方形の輪高台を貼り付ける。1657は移動式カマドである。鏝状を呈し、内外面ともヨコナデ調整を施す。1658は鉢である。体部の断面形は長方形を呈する。

SK46

SK46は7-4区中央部で検出した平面形が隅丸方形の土坑である。長軸の検出長は約0.94m、短軸の検出長は約0.88mを測り、検出面からの深さは約36・37cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-14°-Eである。

図示した出土遺物は、土師質土器の皿(1659)・杯(1660~1662)、須恵器の蓋(1663)、土鍾(1664・1665)である。

1659は皿である。口縁部は内湾気味にひらき、口唇部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施す。器壁は厚い。1660は杯である。口唇部は僅かに肥厚し丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施し、内底面は渦状を呈する。外底面は回転ヘラ切り後、ナデ調整を施す。1661は杯である。体部は内湾気味で、口縁部は外反気味となり口唇部は僅かに肥厚し丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転ヘラ切り痕跡が認められる。1662は杯である。内外面とも回転ナデ調整を施す。1663は蓋である。内面にかえりを付す。内外面とも回転ナデ調整を施す。1664・1665は管状土鍾である。

SK48

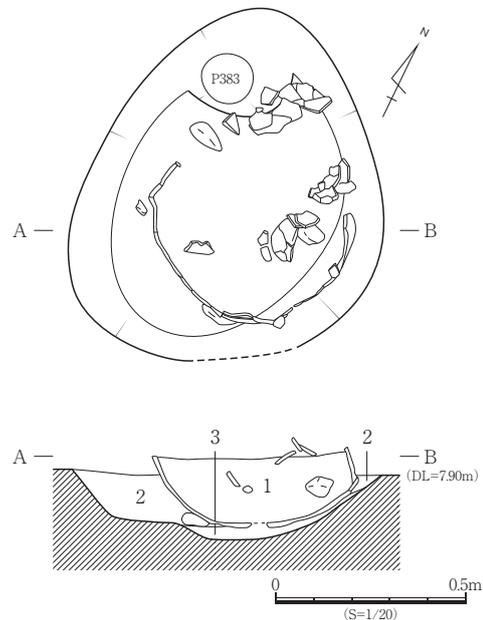
SK48は7-4区東部で検出した平面形が溝状の土坑である。長軸の検出長は約1.70m、短軸の検出長は約0.64mを測り、検出面からの深さは約31cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト他である。主軸方向はN-33°-Wである。

図示した出土遺物はない。

SK52

SK52は7-4区東部で検出した平面形が溝状の土坑である。長軸の検出長は約2.22m、短軸の検出長は約0.68mを測り、検出面からの深さは約16cmである。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルト他である。主軸方向はN-67°-Wである。

図示した出土遺物は、土師質土器の皿(1666)であ



- 遺構埋土
1. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトに濃い黄褐色(10YR5/4)細粒砂質シルトブロックを含む
 2. 黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルト・黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに明褐色(7.5YR5/6)細粒砂質シルトブロックを少量含み0.5~3.0cm大の礫を含む
 3. 褐色(7.5YR4/4)細粒砂質シルト・黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト

図487 7区 SG1 平面図・断面図

る。口縁部は斜め上方へのび、口唇部は丸くおさめる。外底面にはナデ調整を施す。底部の切離し手法は不明である。

SK54

SK54は7-4区東部で検出した平面形が楕円形の土坑である。長軸の検出長は約0.80m、短軸の検出長は約0.60mを測り、検出面からの深さは約27cmである。主軸方向はN-44°-Eである。

図示した出土遺物は、土師質土器の皿(1667)・杯(1668)である。

1667は皿である。口縁部は斜め上方へのび、口唇部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施す。内面周縁は沈線状となる。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。1668は杯である。体部は内

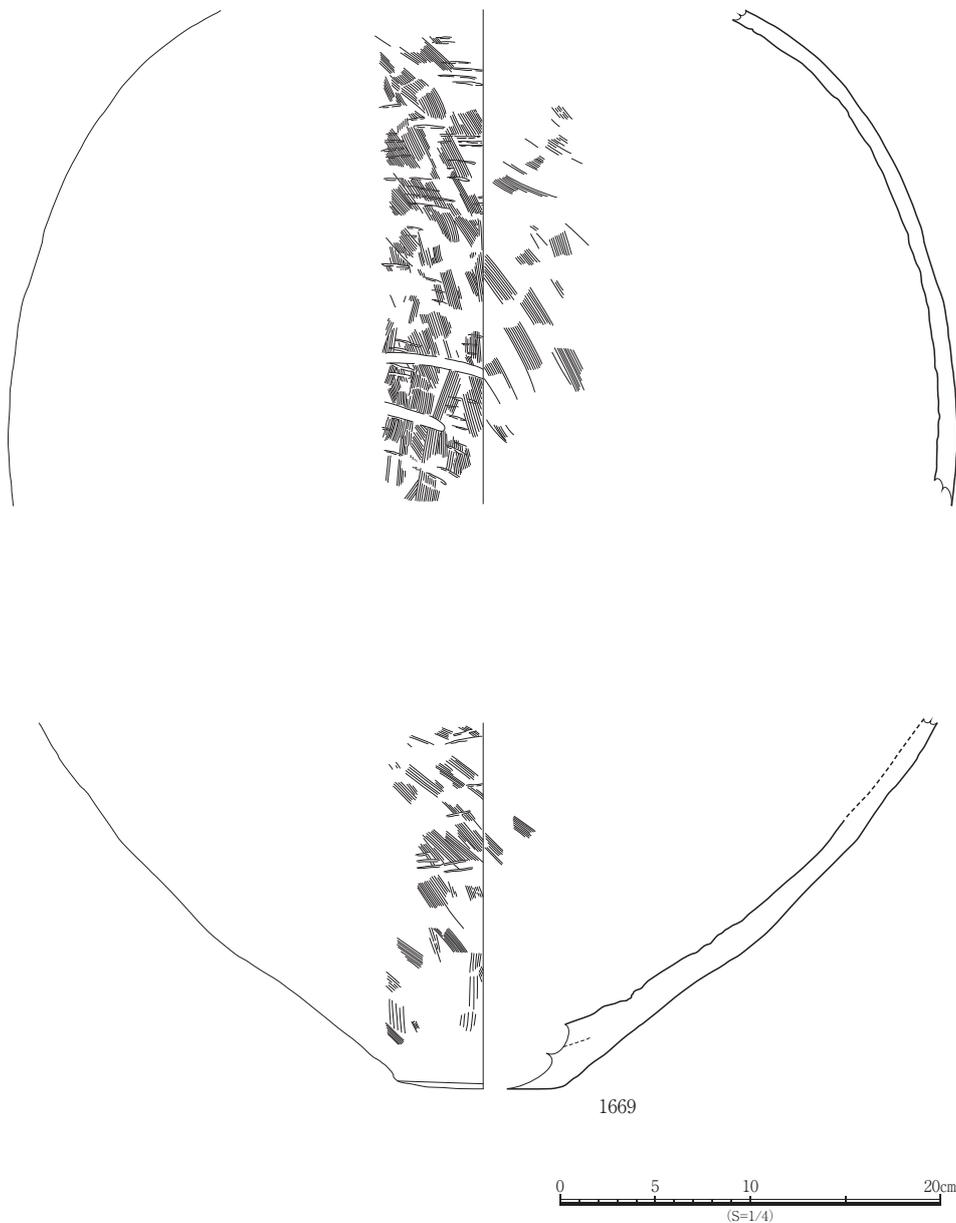


図488 7区 SG1 出土遺物実測図

湾気味に立ち上がり、口縁部は外反する。内外面とも回転ナデ調整を施す。内底面はナデ調整により凹凸が認められる。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。

SK61

SK61は7-2区西部で検出した土坑である。平面形は溝状か。長軸の検出長は約2.12m、短軸の検出長は約0.22mを測り、検出面からの深さは約17cmである。埋土は黒褐色(7.5YR3/1)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-80°-Wである。

図示した出土遺物はない。

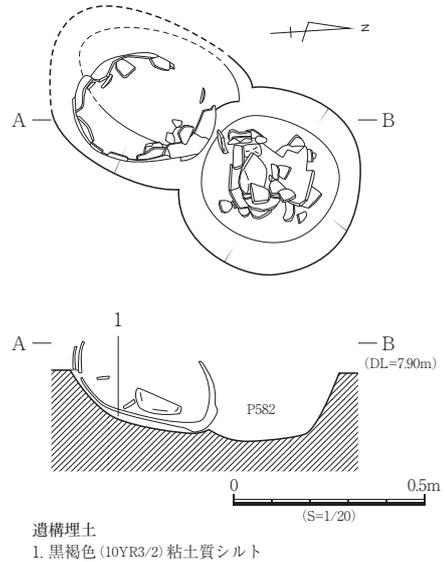
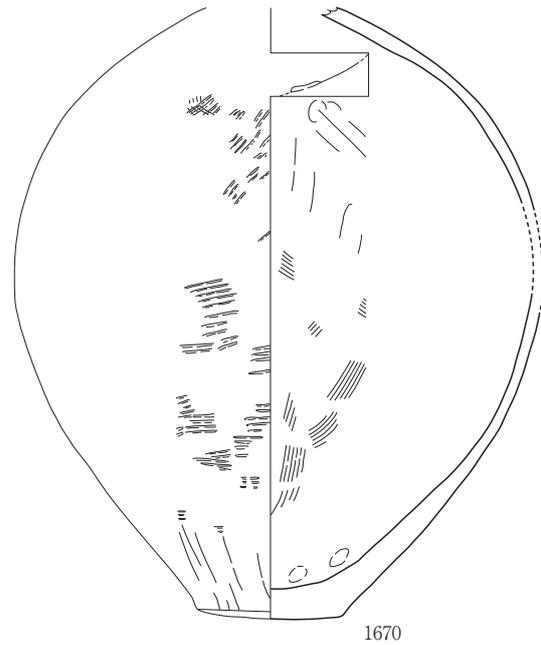


図489 7区 SG2 平面図・断面図

SK62

SK62は7-2区中央部で検出した土坑である。平面形は隅丸長方形か。長軸の検出長は約0.72m、短軸の検出長は約0.49mを測り、検出面からの深さは6~14cmである。埋土は黒褐色(7.5YR3/1)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-3°-Wである。SD37と一連の遺構か。

図示した出土遺物はない。



5.SG

SG1

SG1は7-3区南東部で検出した土器棺墓である。長軸の検出長は約0.95m、短軸の検出長は約0.79mを測り、平面形は不整形である。検出面からの深さは約15cmである。埋土は黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルト他である。主軸方向はN-8°-Eである。

図示した出土遺物は、棺として使用されていた弥生土器の壺(1669)である。壺は斜位に設置していた。設置に際し、礫を用いて角度等を調整している。体部は丸みを帯び、底部は厚い平底である。体部外面には叩き調整後、タテハケ調整を施し、内面にはハケ調整を施す。

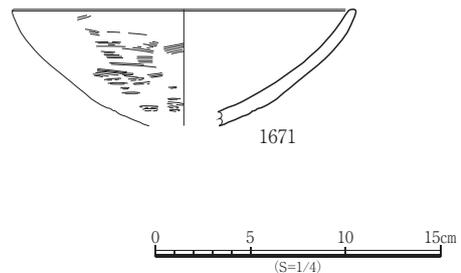


図490 7区 SG2 出土遺物実測図

SG2

SG2は7-3区西端部で検出した土器棺墓である。長軸の検出長は約0.38m、短軸の検出長は約0.42mを測り、検出面からの深さは約15cmである。埋土は黒褐色(10YR3/2)粘土質シルトである。主軸方向はN-29°-Eである。

図示した出土遺物は、弥生土器の壺(1670)・鉢(1671)である。

1670は壺である。体部は球形状を呈し、底部は厚い平底である。体部外面は叩き調整、内面はハケ調整である。1671は浅鉢状の鉢である。口縁部外面にはヨコハケ調整を施す。体部外面は叩き調整、内面はタテハケ調整である。

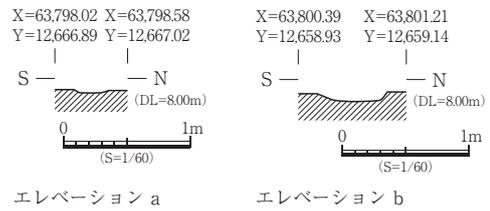


図491 7区 SD2 エレベーション図

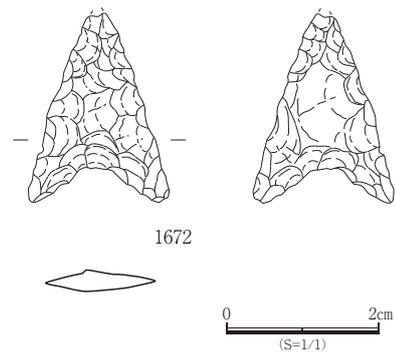


図492 7区 SD2 出土遺物実測図

6.SD

SD1

SD1は7-3区西部で検出した東西方向の溝跡である。幅0.12～0.47mである。検出長は約14.00mである。主軸方向はN-46°-Wである。検出面からの深さは4～13cmであり、埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SD1Wは7-3区西部で検出した東西方向の溝跡である。幅0.26～0.31mである。検出長は約1.14mである。主軸方向はN-72°-Wである。検出面からの深さは3～8cmである。

図示した出土遺物はない。

SD2

SD2aは7-3区西部で検出した東西方向の溝跡である。幅0.20～0.28mである。検出長は約5.50mである。主軸方向はN-70°-Wである。検出面からの深さは2～5cmであり、埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SD2bは、7-3区西部で検出した東西方向の溝跡である。幅0.42～0.82mである。検出長は約6.30mである。主軸方向はN-71°-Wである。検出面からの深さ

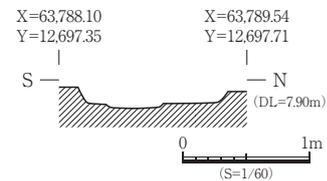


図493 7区 SD5
エレベーション図

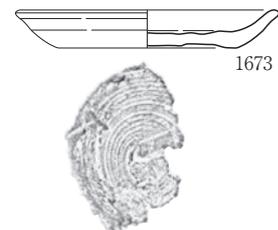


図494 7区 SD5 出土遺物実測図

は3～11cmであり、埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は、サヌカイト製の凹基式の石鏃(1672)である。断面形は扁平で、調整剥離を施す。先端部は欠損する。

SD3

SD3は7-3区西部で検出した東西方向の溝跡である。幅0.26～0.36mである。検出長は約2.30mである。主軸方向はN-75°-Wである。検出面からの深さは1～3cmであり、埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質細粒砂である。

図示した出土遺物はない。

SD4

SD4は7-3区西北部で検出した東西方向の溝跡である。幅0.26～0.56mである。検出長は約8.25mである。主軸方向はN-70°-Wである。検出面からの深さは4～7cmであり、埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SD5

SD5は7-3区東部で検出した「L」の字形の溝跡である。幅0.84～1.54mである。検出長は約5.12mである。検出面からの深さは4～13・17～20cmである。

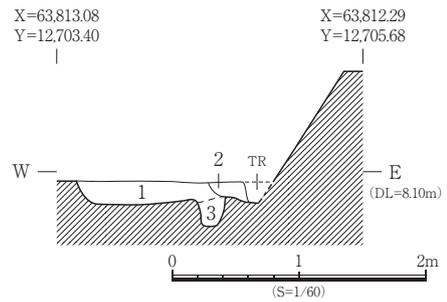
図示した出土遺物は、土師質土器の皿(1673)、須恵器の杯(1674)である。

1673は皿である。口縁部は浅く斜め上方へひらき、口縁部は外反気味である。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。1674は杯である。体部は斜め上方へ立ち上がり、口唇部は先端気味となる。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面は回転ヘラ切り後ナデ調整か。

SD6

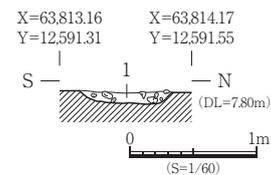
SD6は7-3区西部で検出した南北方向の溝跡である。幅0.19～0.58mである。検出長は約5.10mである。主軸方向はN-18°-Eである。検出面からの深さは4～7cmであり、埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。



- 遺構埋土
1. 黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトに10.0cm大以下の礫を含む
 2. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに褐色(10YR4/4)細粒砂質シルトの地山ブロックと15.0cm大以下の礫を含む
 3. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト

図495 7区 SD12 断面図



- 遺構埋土
1. 黒褐色(7.5YR3/1)細粒砂質シルトに褐灰色(10YR5/1)細粒砂質シルトブロックと明黄褐色(10YR6/6)細粒砂質シルトの地山ブロックを少量含む

図496 7区 SD24 断面図

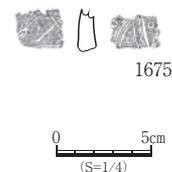
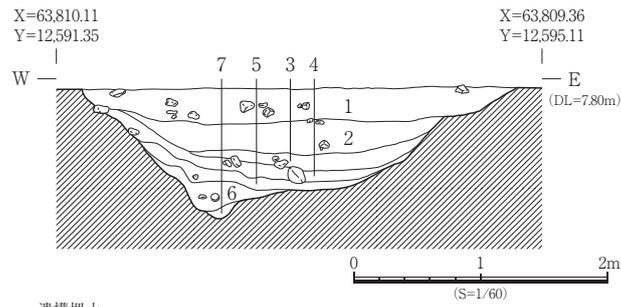


図497 7区 SD24
出土遺物実測図



遺構埋土

1. 黒色 (10YR2/1) 細粒砂質シルトに20.0cm以下の礫を少量含む
2. 黒褐色 (10YR3/1) 細粒砂質シルトに10.0cm大以下の礫を少量含む
3. 黒褐色 (7.5YR3/1) 細粒砂質シルトに10.0cm大以下の礫を少量含む
4. 黒褐色 (10YR3/2) 細粒砂質シルトに明黄褐色 (10YR7/6) 細粒砂質シルトを少量含む
5. 暗褐色 (10YR3/3) 細粒砂質シルトに3.0cm大以下の礫を少量含む
6. 黒褐色 (10YR3/2) 細粒砂質シルトに3.0cm大以下の礫を少量含む
7. 黄灰色 (2.5Y4/1) 細粒砂質シルト

図498 7区 SD25 断面図

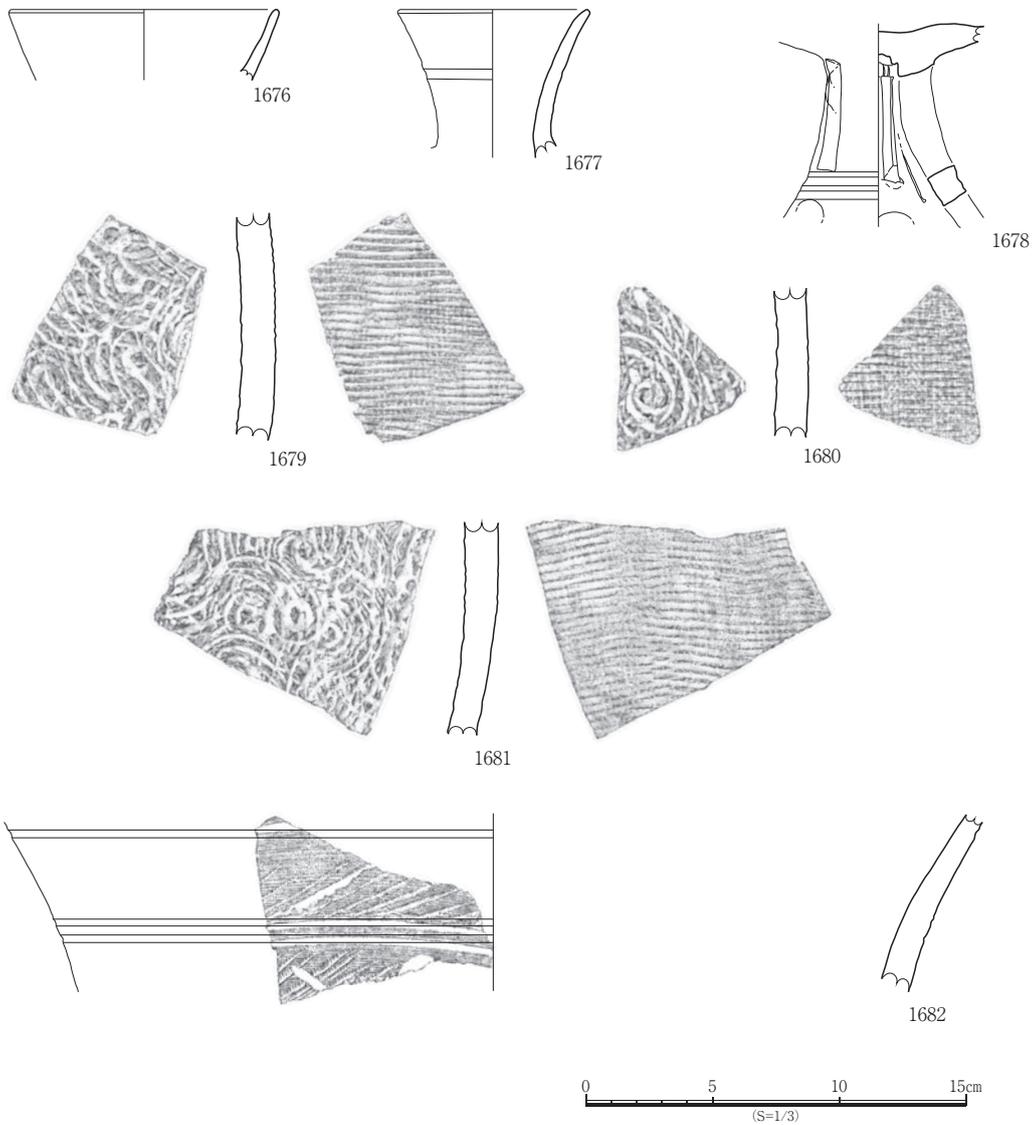
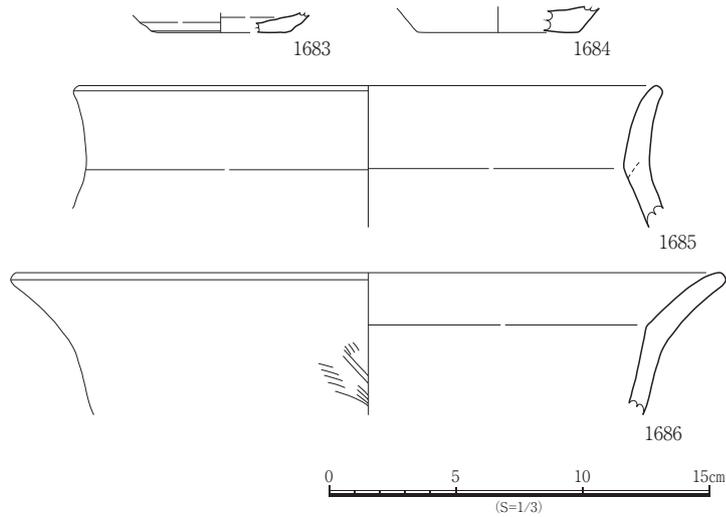


図499 7区 SD25 出土遺物実測図_1

SD7

SD7は7-3区西部で検出した南北方向の溝跡である。幅0.18~0.23mである。検出長は約2.00mである。主軸方向はN-10°-Eである。検出面からの深さは3~5cmである。

図示した出土遺物はない。



SD8

SD8は7-3区西部で検出した南北方向の溝跡である。幅0.28~0.38mである。検出長は約0.82mである。主軸方向はN-18°-Eである。検出面からの深さは5~6cmであり、埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

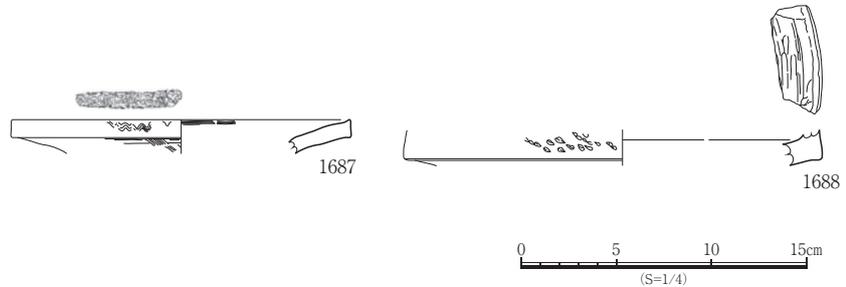


図500 7区 SD25 出土遺物実測図_2

SD9

SD9は7-3区西部で検出した南北方向の溝跡である。幅0.52~0.56mである。検出長は約1.30mである。主軸方向はN-4°-Eである。検出面からの深さは約3cmであり、埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

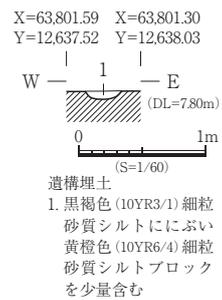


図501 7区 SD32 断面図

SD10

SD10は7-3区西部で検出した東西方向の溝跡である。幅0.24~0.54mである。検出長は約3.29mである。主軸方向はN-74°-Wである。検出面からの深さは5.9cmであり、埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

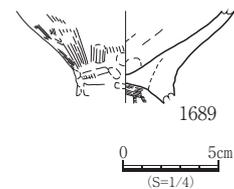


図502 7区 SD32 出土遺物実測図

SD11

SD11は7-3区西部で検出した「L」の字形に掘削された溝跡である。幅0.19～0.27 mである。検出長は約2.74 mである。主軸方向はN-70° -W・N-15° -Eである。検出面からの深さは5～6cmであり、埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

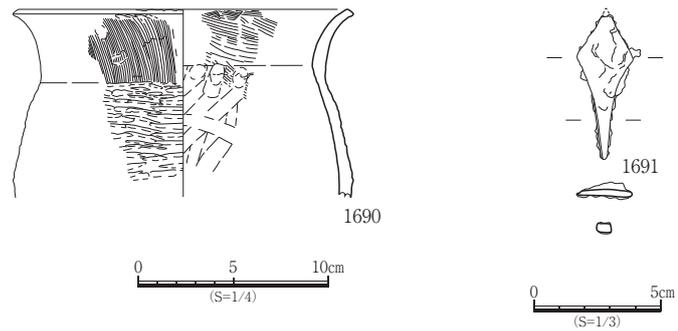


図503 7区 SD33 出土遺物実測図

SD12

SD12は7-4区東部で検出した南北方向の溝跡である。幅0.77～1.44 mである。検出長は約8.75 mである。主軸方向はN-21° -Eである。検出面からの深さは13～23・35 cmであり、埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物はない。

SD21

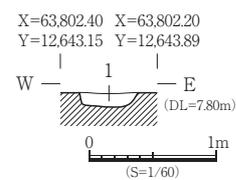
SD21は7-1-3区西部で検出した南北方向の溝跡である。幅0.16～0.22 mである。検出長は約1.09 mである。主軸方向はN-14° -Eである。検出面からの深さは約1 cmであり、埋土は褐灰色(10YR5/1)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SD22

SD22は7-1-3区西部で検出した東西方向の溝跡である。幅0.20～0.38 mである。検出長は約5.25 mである。主軸方向はN-75° -Wである。検出面からの深さは2～5 cmであり、埋土は褐灰色(10YR5/1)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。



遺構埋土
1. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトに褐灰色(10YR5/1)細粒砂質シルトブロックを少量含む

図504 7区 SD34 断面図

SD23

SD23は7-1-3区西部で検出した東西方向の溝跡である。幅0.14～0.28 mである。検出長は約5.35 mである。主軸方向はN-76° -Wである。検出面からの深さは1～2 cmであり、埋土は褐灰色(10YR5/1)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

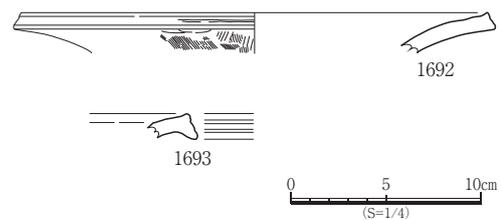


図505 7区 SD34 出土遺物実測図

SD24

SD24は7-1-3区西部で検出した溝跡である。幅0.60～0.71mである。検出長は約1.40mである。主軸方向はN-70°-Eである。検出面からの深さは18～36cmであり、埋土は黒褐色(7.5YR3/1)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は、弥生土器の複合口縁壺(1675)である。外面には4条1単位の櫛描波状文および竹管文を施す。内外面ともナデ調整である。接合面で剥離する。

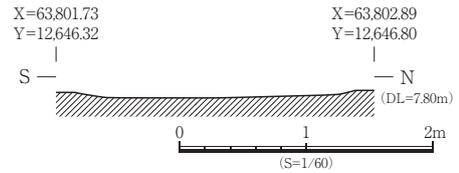


図506 7区 SD35
エレベーション図

SD25

SD25は7-1-3区西部で検出した南北方向の溝跡である。検出面の幅3.15～4.32m、溝底の幅は約2.00mを測る。断面形は上層で稜を持つことから埋土1はSD25とは別の溝跡の可能性がある。また、溝底は平坦ではなく、長軸幅約2.50m、短軸幅約2.10mの隅丸形状に落ち込む。6-1区SK23～25も同様の性格のものと考えられる。検出長は約4.30mである。主軸方向はN-16°-Eである。検出面からの深さは97～115・122cmであり、埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物は、須恵器の杯(1676)・提瓶(1677)・高杯(1678)・体部(1679～1682)、土師質土器の杯(1683・1684)、土師器の甕(1685・1686)、弥生土器の壺(1687・1688)である。

1676は杯である。内外面とも回転ナデ調整を施す。1677は提瓶である。内外面とも回転ナデ調整を施す。外面に1条の凹線をめぐらせる。1678は高杯である。杯部は内外面とも回転ナデ調整を施す。内底面には仕上げナデ調整を施す。脚部は内外面とも回転ナデ調整を施す。脚部には長方形透孔を3方向に、円孔を3方向に穿つ。また、凹線をめぐらせる。杯部内面に黒色物の付着が認められる。1679～1681は体部片である。外面には叩き調整、内面には当て具痕跡が認められる。1682は体部片である。内外面とも回転ナデ調整を施す。外面に凹線と列点文を交互に配置する。1683は杯である。内外面とも回転ナデ調整を施す。底部の切離し手法は不明である。1684は杯である。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面にはナデ調整を施す。1685は甕である。口縁部は緩やかに外反させる。口縁部は内外

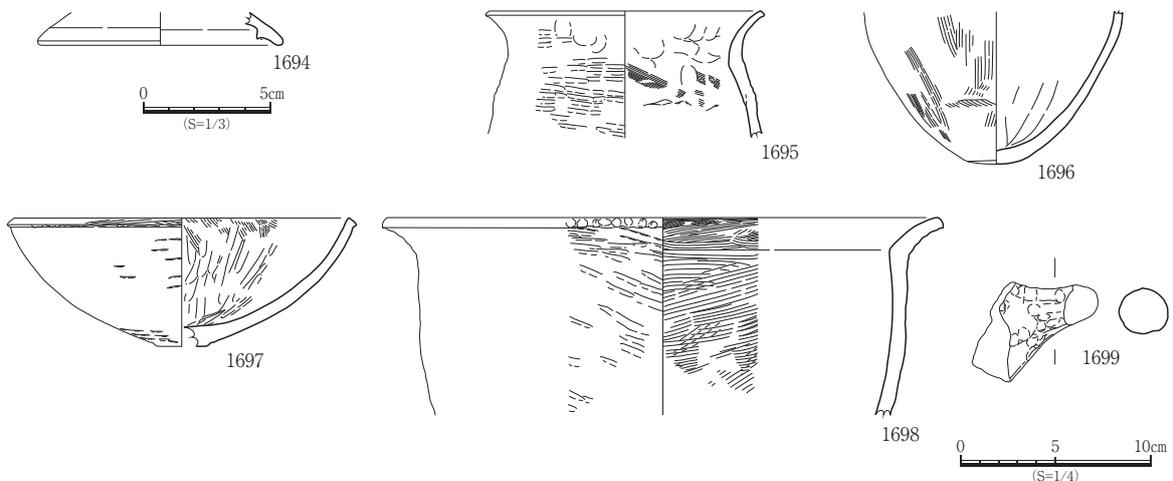


図507 7区 SD35 出土遺物実測図

面ともヨコナデ調整, 体部は内外面ともナデ調整を施す。1686は甕である。口縁部は大きく外反させ, 内外面ともヨコナデ調整を施す。体部外面はハケ調整, 内面はナデ調整である。1687は壺である。口唇部には面取りを施す。外面には櫛描波状文を描く。口縁部は内外面ともヨコナデ調整を施す。頸部外面はハケ調整であり, 内面はミガキ調整か。混入品である。1688は複合口縁壺である。外面に不規則な刺突文を施す。外面はナデ調整であり, 内面はミガキ調整か。混入品である。

SD26

SD26は7-1-3区西部で検出した東西方向の溝跡である。幅0.32～0.35mである。検出長は約4.70mである。主軸方向はN-74°-Wである。検出面からの深さは3～8cmであり, 埋土は暗褐色(7.5YR3/3)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SD31

SD31は7-2区中央部で検出した東西方向の溝跡である。幅0.16～0.22mである。検出長は約2.08mである。主軸方向はN-80°-Eである。検出面からの深さは1～2cmであり, 埋土は黒褐色(7.5YR3/1)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SD32

SD32は7-2区中央部で検出した南北方向の溝跡である。幅0.18～0.30mである。検出長は約10.45mである。主軸方向はN-30°-Eである。検出面からの深さは4～10cmであり, 埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は, 弥生土器の脚付き鉢(1689)である。杯部は内湾気味に立ち上がる。杯部外面はハケ調整, 内面はナデ調整である。脚部は指頭により作出する。

SD33

SD33は7-2区中央部で検出した東西方向の溝跡である。幅約0.29mである。検出長は約1.05mである。主軸方向はN-75°-Wである。検出面からの深さは約6cmであり, 埋土は黒褐色(7.5YR3/1)細粒砂質シルトである。

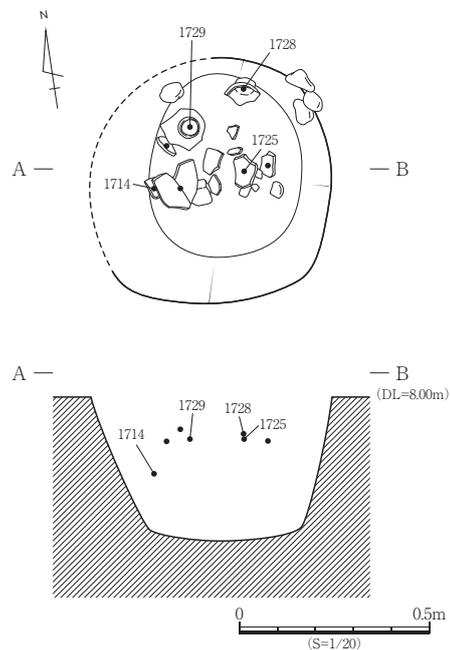
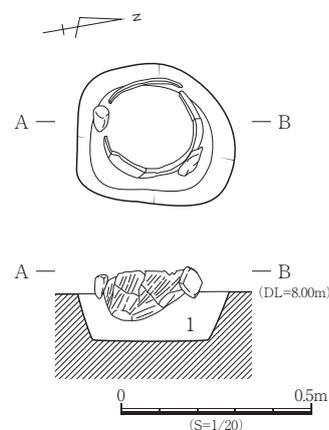


図508 7区 P119 遺物出土状態図



遺構埋土
1. 黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトに2.0cm大以下の礫を含む

図509 7区 P766 平面図・断面図

第4節 7区

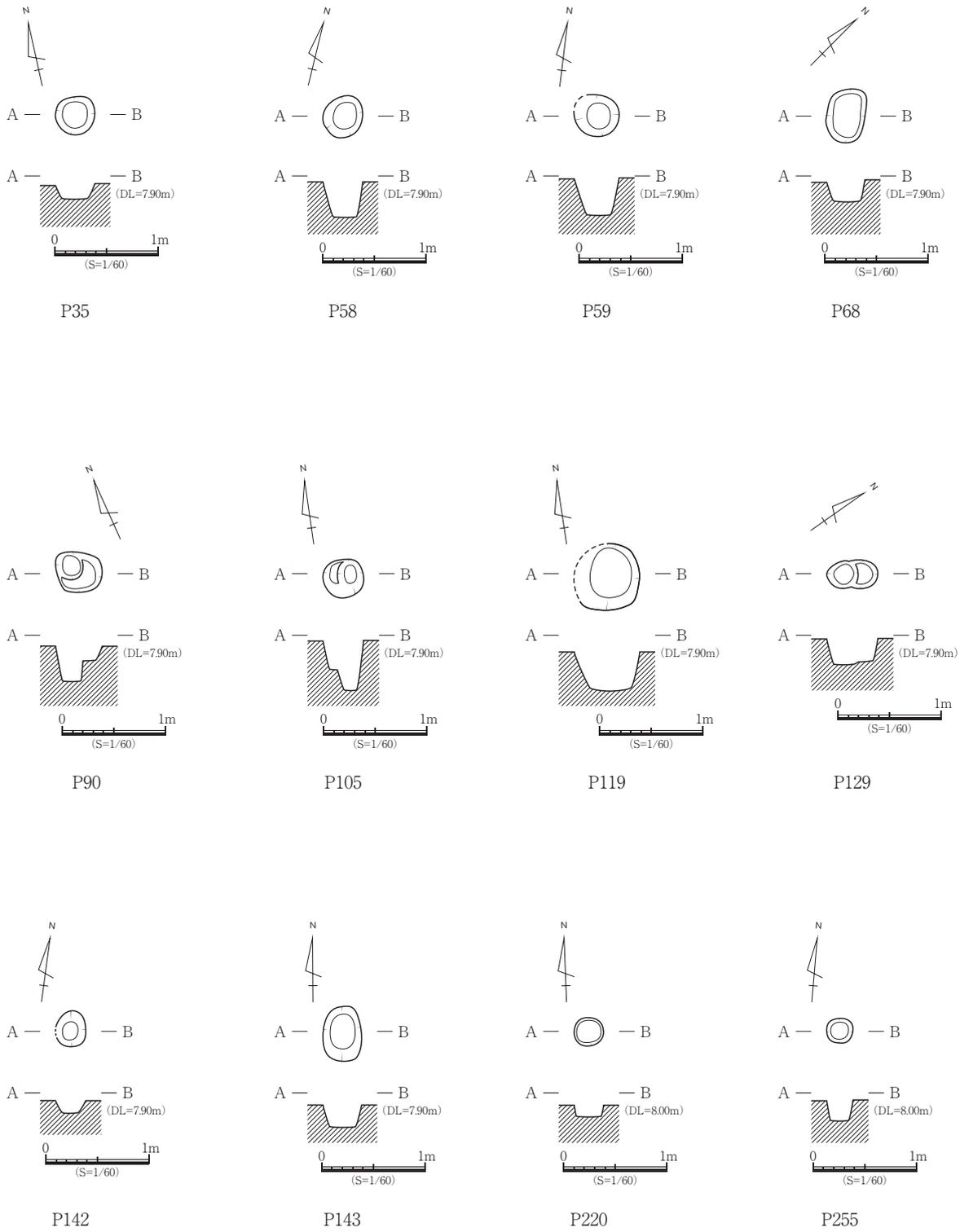


図510 7区 ピット 平面図・エレベーション図_1

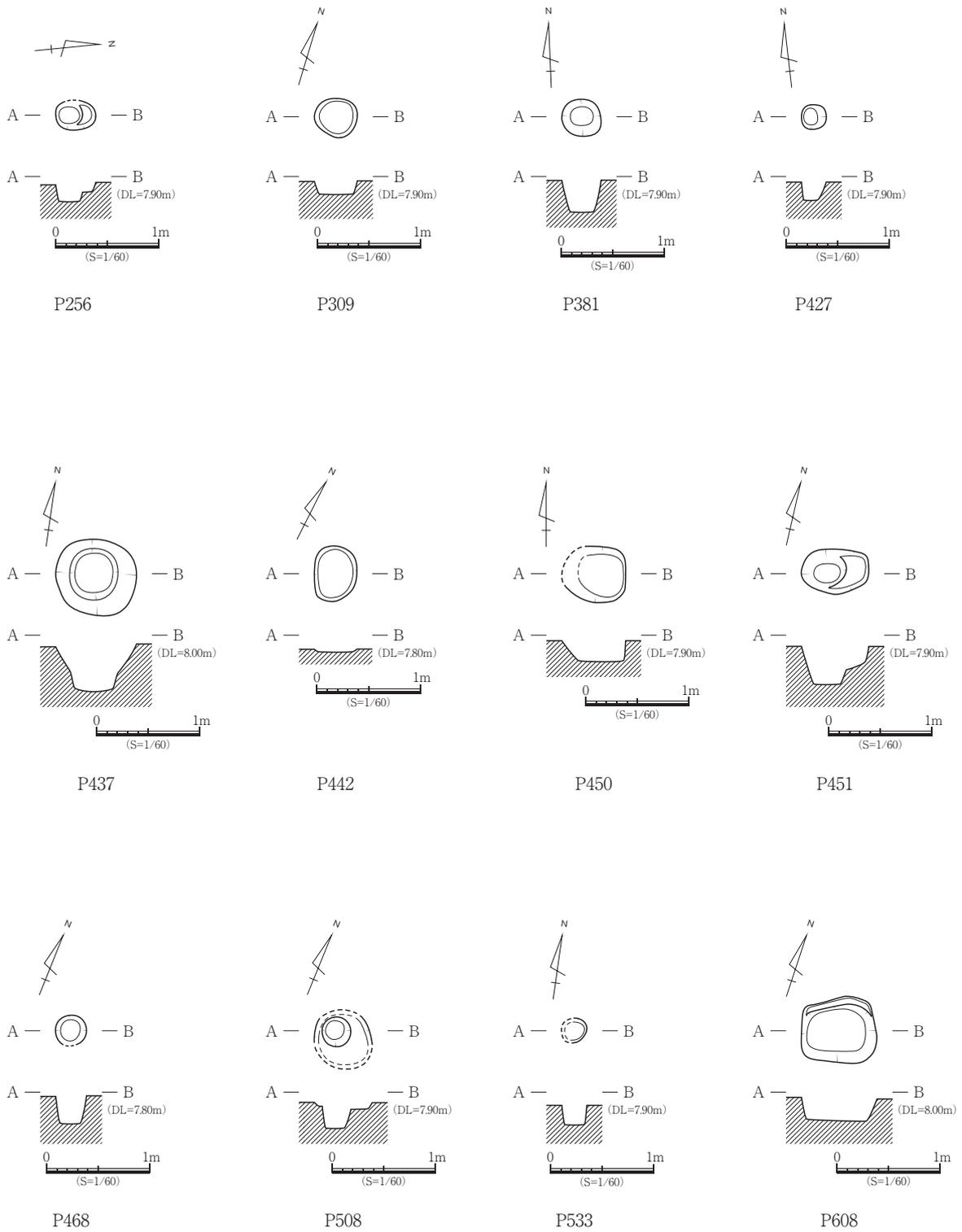


図511 7区 ピット 平面図・エレベーション図_2

第4節 7区

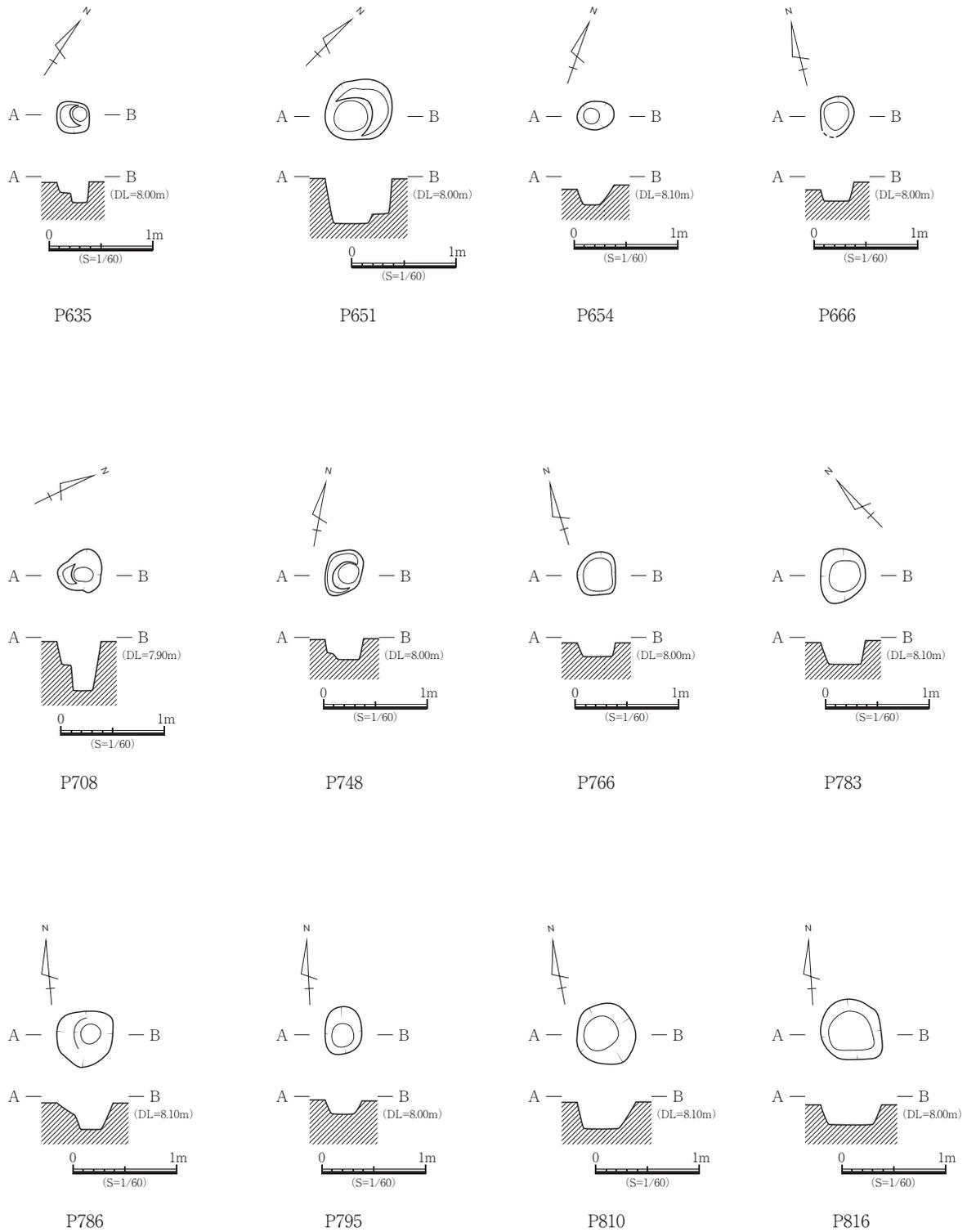


図512 7区 ピット 平面図・エレベーション図_3

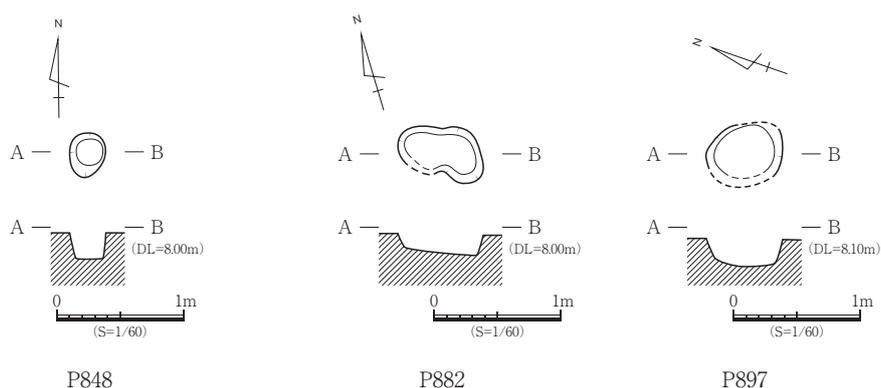


図513 7区 ピット 平面図・エレベーション図_4

図示した出土遺物は弥生土器の甕(1690), 鉄鎌(1691)である。

1690は甕である。口縁部は緩やかに外反する。口縁部外面はタテハケ調整, 内面は粗いハケ調整である。体部外面には叩き調整後ナデ調整を施し, 内面にはハケ調整およびナデ調整を施す。1691は圭頭式の鉄鎌である。茎部の断面形は長方形を呈する。鎌身は扁平で茎部よりもうすい。ほぼ完存する。

SD34

SD34は7-2区中央部で検出した東南北方向の溝跡である。幅0.38～0.52mである。検出長は約2.56mである。主軸方向はN-12° -Eである。検出面からの深さは6～12cmであり, 埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は, 弥生土器の壺(1692・1693)である。

1692は壺である。口縁部を大きく外反させ, 口唇部には面取りを施し, 凹面状となる。ナデ痕跡がみられる。1693は壺である。口唇部を拡張し, 2条のしっかりとした凹線文をめぐらせる。口縁部は内外面ともヨコナデ調整である。

SD35

SD35は7-2区東部で検出した東西方向の溝跡である。幅1.94～2.70mである。検出長は約5.00mである。主軸方向はN-75° -Wである。検出面からの深さは8～9cmである。

図示した出土遺物は, 須恵器の蓋(1694), 弥生土器の甕(1695・1696)・鉢(1697・1698), 支脚(1699)である。

1694は蓋である。内面にかえりを付す。内外面とも回転ナデ調整を施す。1695は甕である。口縁部は緩やかな「く」の字状を呈する。口縁部は上胴部からの一連の叩き調整後, 指頭により成形する。体部外面には叩き調整後ナデ調整を施し, 内面にはハケ調整およびナデ調整を施す。肩部内面には接合痕跡が認められる。1696は甕である。底部は丸みを帯びた平底で, 外底面にはナデ調整を施す。体部外面には叩き調整後タテハケ調整を施し, 外面にはナデ調整を施す。また, 白吹き痕跡が認められる。1697は浅鉢形の鉢である。口唇部はハケ状原体による面取りを施す。底部はほぼ丸底か。体部外面には叩き調整後ナデ調整を施し, 内面にはハケ調整後ミガキ調整を施す。1698は外反口縁の鉢である。口唇部は指頭により刻目を施す。口縁部は上胴部からの一連の叩き調整後指頭により成形し,



図514 7区 ピット 出土遺物実測図_1

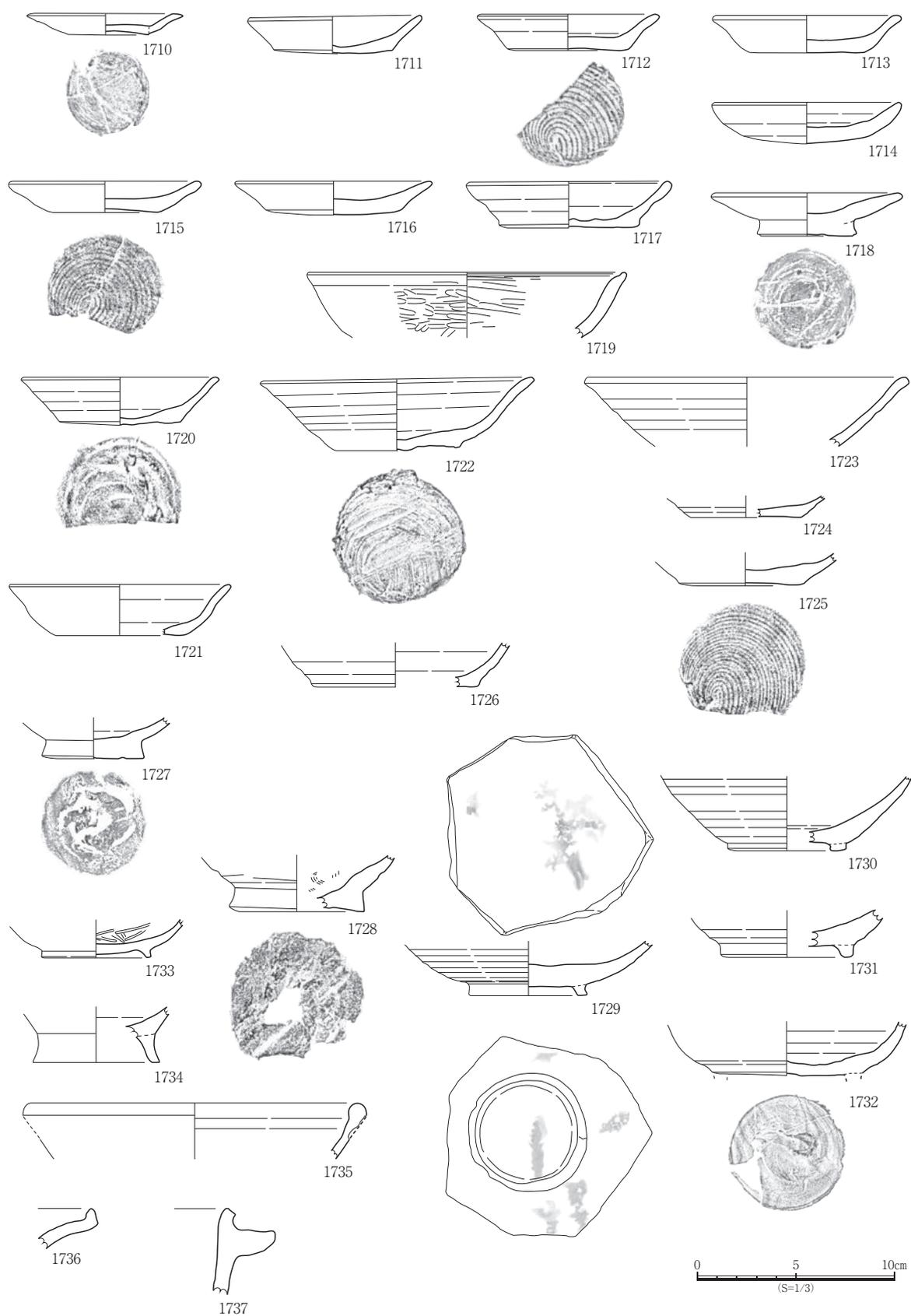


図515 7区 ピット 出土遺物実測図_2

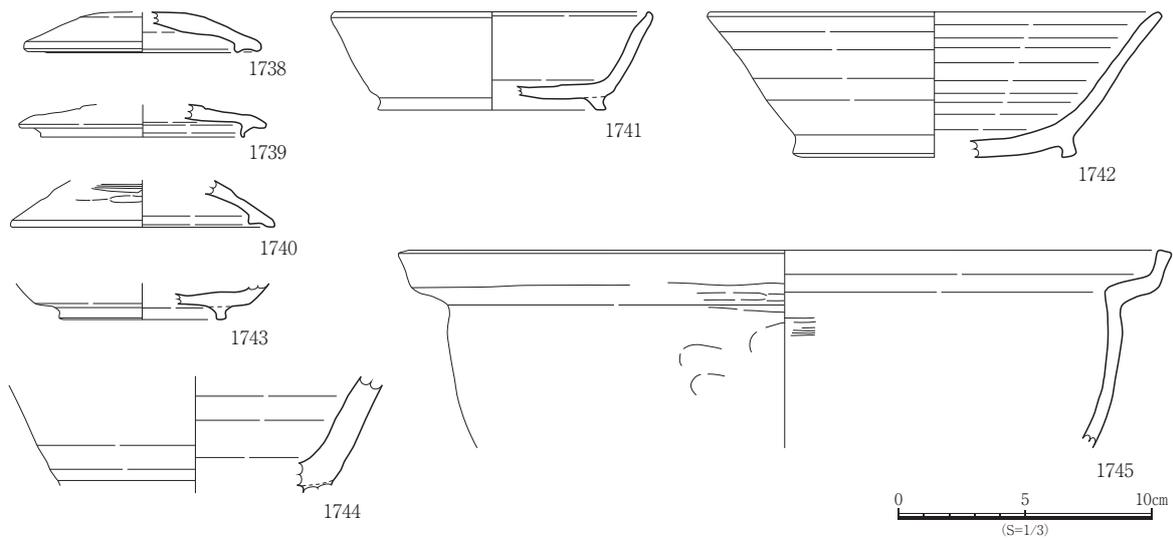


図516 7区 ピット 出土遺物実測図_3

内面はハケ調整である。体部外面には叩き調整後ナデ調整を施し、内面にはハケ調整およびナデ調整を施す。1699は支脚である。手捏ね成形で、接合面で剥離する。被熱により変色し、煤が付着する。

SD36

SD36は7-2区中央部で検出した南北方向の溝跡である。幅約0.32mである。検出長は約1.06mである。主軸方向はN-15°-Eである。検出面からの深さは約4cmであり、埋土は黒褐色(7.5YR3/1)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SD37

SD37は7-2区中央部で検出した東西方向の溝跡である。幅約0.42mである。検出長は約0.94mである。主軸方向はN-83°-Wである。検出面からの深さは8～10cmであり、埋土は黒褐色(7.5YR3/1)細粒砂質シルトである。SK62と一連の遺構か。

図示した出土遺物はない。

7.ピット

1700はP498から出土した弥生土器の甕である。口縁部は外傾気味にひらく。底部は小径な平底状を呈する。体部外面には叩き調整後、下半部にタテハケ調整を施す。内面はナデ調整である。1701はP582から出土した弥生土器の体部である。底部は平底で、体部外面には叩き調整後、タテハケ調整を下半部に施す。内面にはハケ調整後、ナデ調整を施す。1702はP766から出土した弥生土器の体部である。倒卵形を呈し、底部は平底である。体部外面には叩き調整後タテハケ調整を施し、内面にはナデ調整を施す。外底面には叩き目がみられる。1703はP105から出土した弥生土器の体部片である。外面には叩き調整を施す。焼成前に穿孔か。1704はP608から出土した弥生土器の鉢である。底部は

ほぼ丸底である。体部外面には叩き調整後ナデ調整を施し、内面にはハケ調整およびナデ調整を施す。1705はP608から出土した弥生土器の鉢である。底部は角の取れた平底で、外底面にはナデ調整を施す。体部外面には叩き調整後ハケ調整を施し、内面は全面にハケ調整を施す。歪む。1706はP608から出土した弥生土器の鉢である。底部は丸底で、外底面にはハケ調整後ナデ調整を施す。体部外面にはハケ調整後ナデ調整を施し、内面は全面にハケ調整を施す。1707はP608から出土した弥生土器の鉢である。体部は内湾気味である。体部外面には叩き調整、内面にはハケ調整を施す。1708はP582から出土した弥生土器の鉢である。体部は半球形を呈し、口唇部には面取りを施す。体部外面はハケ

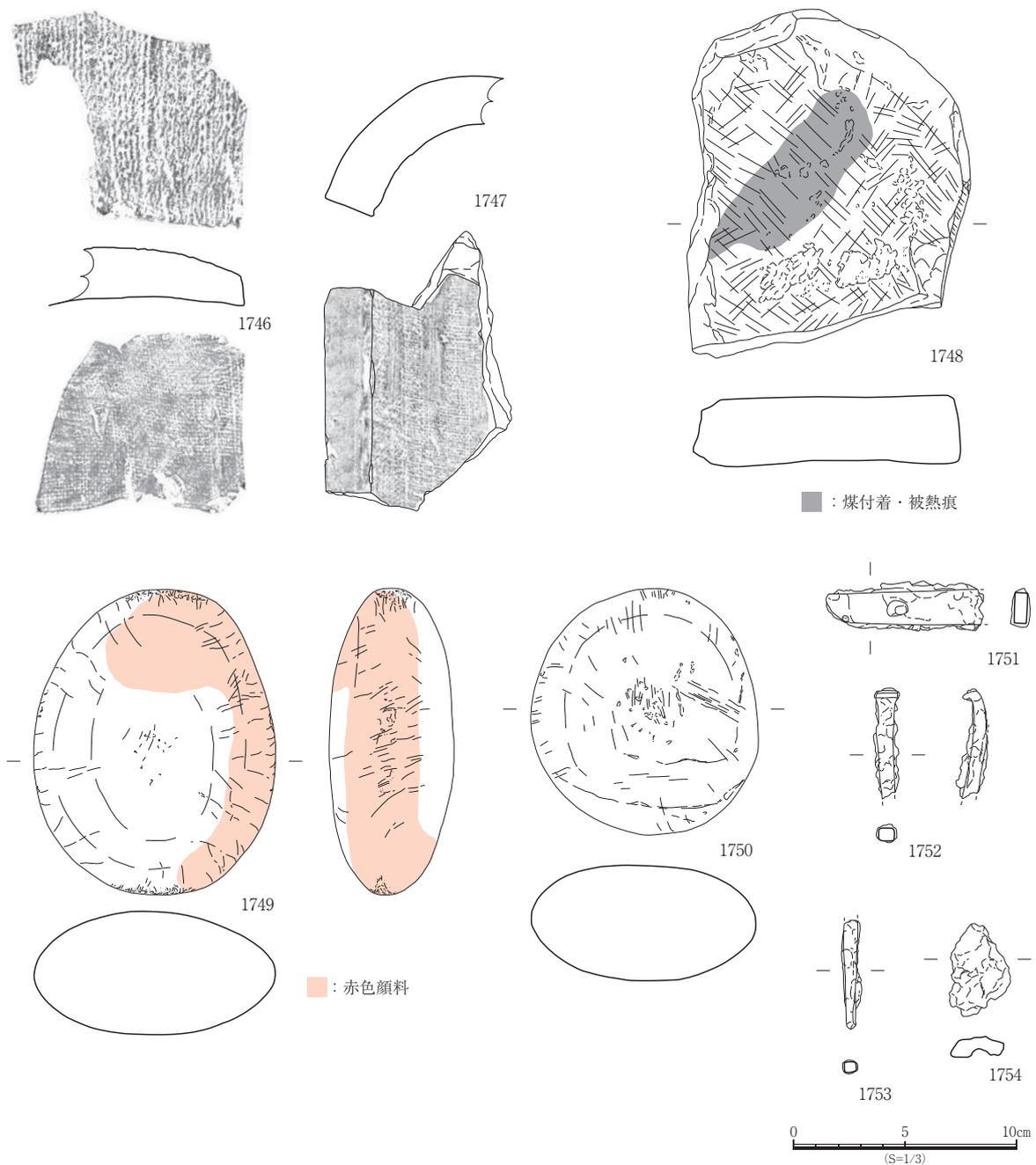


図517 7区 ピット 出土遺物実測図_4

調整, 内面はヘラナデ調整である。1709 はP256 から出土したミニチュア土器である。口縁部は屈曲し内傾する。体部は算盤珠状を呈し, 底部は尖底化を指向する。完存する。

1710 はP468 から出土した土師質土器の皿である。口縁部は浅く外方へひらき, 口唇部上端は面状を呈する。内外面とも回転ナデ調整を施し, 内底縁は凹状を呈する。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。1711 はP783 から出土した土師質土器の皿である。口縁部は斜め上方へひらき, 口唇部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施し, 内底面は凹状を呈する。外底面は回転ヘラ切り後ナデ調整か。1712 はP35 から出土した土師質土器の皿である。口縁部は外反気味に屈曲し, 口唇部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整である。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。1713 はP105 から出土した土師質土器の皿である。口縁部は斜め上方へひらき, 口縁端部を外反させ, 口唇部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転ヘラ切り痕跡が認められる。1714 はP119 から出土した土師質土器の皿である。口縁部は緩やかにひらく。底部は丸みを帯びる。内外面とも回転ナデ調整を施し, 内底面には指頭圧痕がみられる。1715 はP129 から出土した土師質土器の皿である。口縁部は緩やかにひらき, 端部を僅かに外反させ, 口唇部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。1716 はP897 から出土した土師質土器の皿である。摩耗のため調整および切離し手法は不明である。1717 はP142 から出土した土師質土器の皿である。口縁部は斜め上方へひらき, 口唇部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面は回転ヘラ切り後, ナデ調整である。1718 はP836 から出土した土師質土器の柱状高台である。杯皿部は外方へ浅くひらく。台部は扁平な円盤状を呈する。外底面は回転糸切りか。1719 はP786 から出土した土師器の杯である。体部は丸みを帯び, 口縁部内面には沈線が認められる。内外面とも横方向のミガキ調整である。1720 はP58 から出土した土師質土器の杯である。体部は斜め上方へ低く立ち上がり, 口唇部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施し, 内底面は凹状を呈する。外底面には回転ヘラ切り痕跡が認められる。1721 はP666 から出土した土師質土器の杯である。体部は屈曲して外反する。摩耗のため調整および切離し手法は不明である。1722 はP437 から出土した土師質土器の杯である。体部は斜め外方へ立ち上がる。内外面とも回転ナデ調整を施し, 内底面はヨコナデ調整により凹状を呈する。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。また, 外底面に簧状圧痕がみられる。ほぼ完存する。1723 はP654 から出土した土師質土器の杯である。内外面に回転ナデ調整を施し, 外面にはロクロ目痕がみられる。内面は摩耗する。1724 はP816 から出土した土師質土器の杯である。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面は回転ヘラ切り後, ナデ調整を施す。1725 はP119 から出土した土師質土器の杯である。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。1726 はP635 から出土した土師質土器の杯である。内外面とも回転ナデを施す。切離し手法は回転糸切りか。1727 はP816 から出土した土師質土器の椀である。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転ヘラ切り後, ナデ調整を施す。1728 はP119 から出土した土師質土器の椀である。体部は斜め上方へ立ち上がる。ヘラによる回転ナデ調整を施す。外底面には簧状圧痕がみられる。1729 はP119 から出土した土師質土器の椀である。体部は内湾気味に立ち上がる。外底面に断面形が方形の輪高台を貼り付ける。体部外面には回転ヘラナデ調整を施す。また, 内外面に火襷がみられる。1730 はP309 から出土した土師質土器の椀である。体部は内湾気味に立ち上がる。外底面に断面形が方形の輪高台を貼り付ける。体部外面には回転ナデ調整を施す。1731 はP381 から出土した土師質土器の椀である。体部は斜め上方へ立ち上がる。外底面には断面形が台形の輪高台を貼り付ける。内外面とも回転ナデ調整

を施す。1732はP451から出土した土師質土器の椀である。体部は内湾気味に上方へ立ち上がる。輪高台は接合面から剥離する。内外面とも回転ナデ調整を施し、内底面には指頭圧痕がみられる。外底面は回転ヘラ切りか。1733はP90から出土した土師質土器の椀である。体部は内湾気味に立ち上がる。外底面に外傾気味の短小な輪高台を貼り付ける。内外面ともヘラミガキ調整を密に施す。1734はP882から出土した土師質土器の椀である。外底面には輪高台を貼り付ける。内外面とも回転ナデ調整を施す。1735はP735から出土した瓦質の鉢である。口縁部は玉縁状を呈する。内外面とも回転ナデ調整を施す。1736はP810から出土した土師器の甕である。口縁部は外方へひらき、口唇部上端を拡張し面状を呈する。口縁部内面にはヨコハケ調整を施す。外面は摩耗のため調整不明である。1737はP90から出土した土師質土器の撰津系羽釜である。口縁部は短く外反し、口唇部は面状を呈する。鏝の断面形はスプーンバウ状を呈する。体部は僅かに内傾し直立気味である。

1738はP143から出土した須恵器の蓋である。天井部は緩やかな弧状を描く。内面に短小なかえりを付す。天井部外面には回転ヘラケズリを施す。口縁部外面および内面には回転ナデ調整を施す。1739はP442から出土した須恵器の蓋である。天井部は緩やかな弧状を描く。内面に短小なかえりを

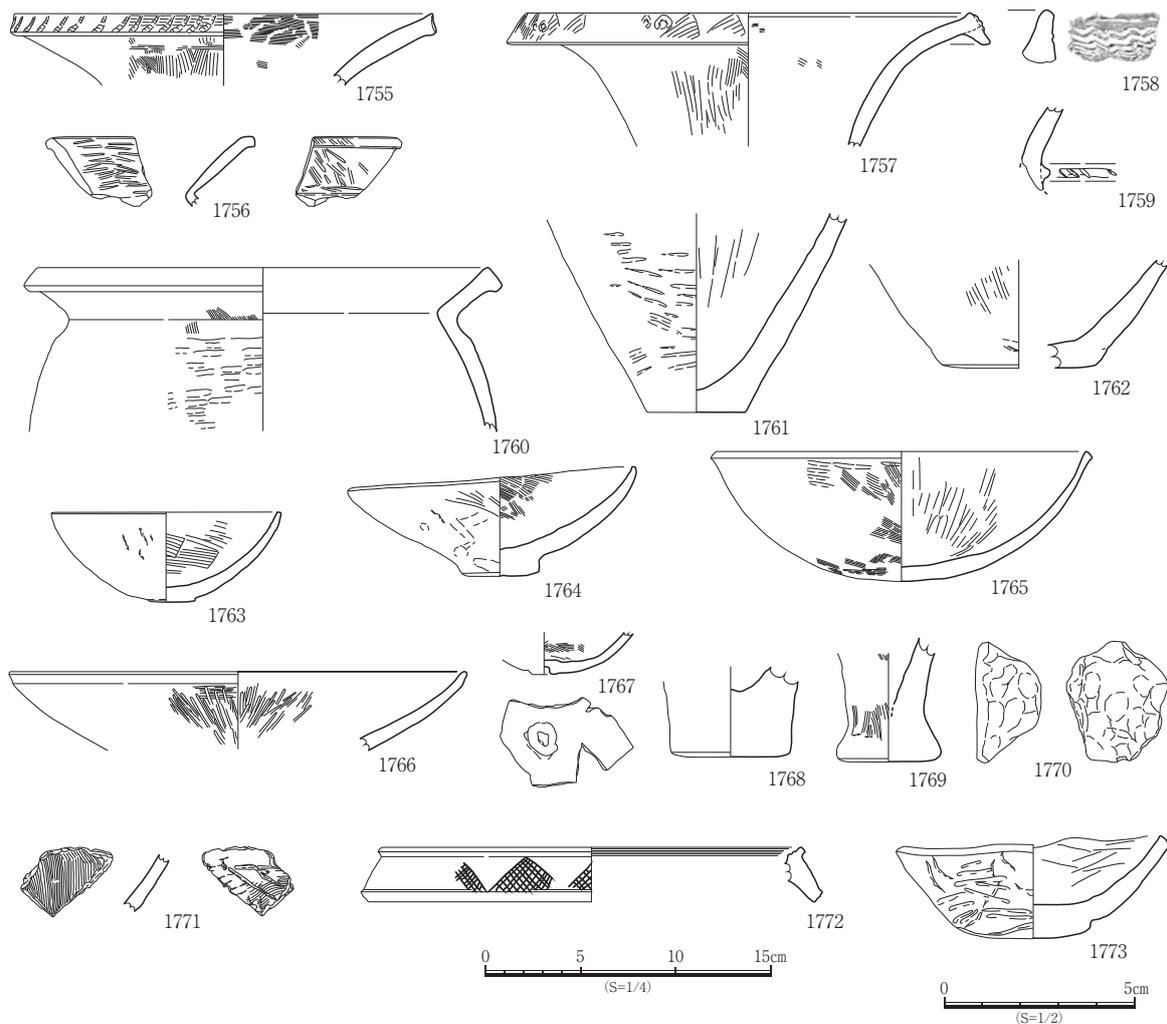


図518 7区 遺構外出土遺物実測図_1

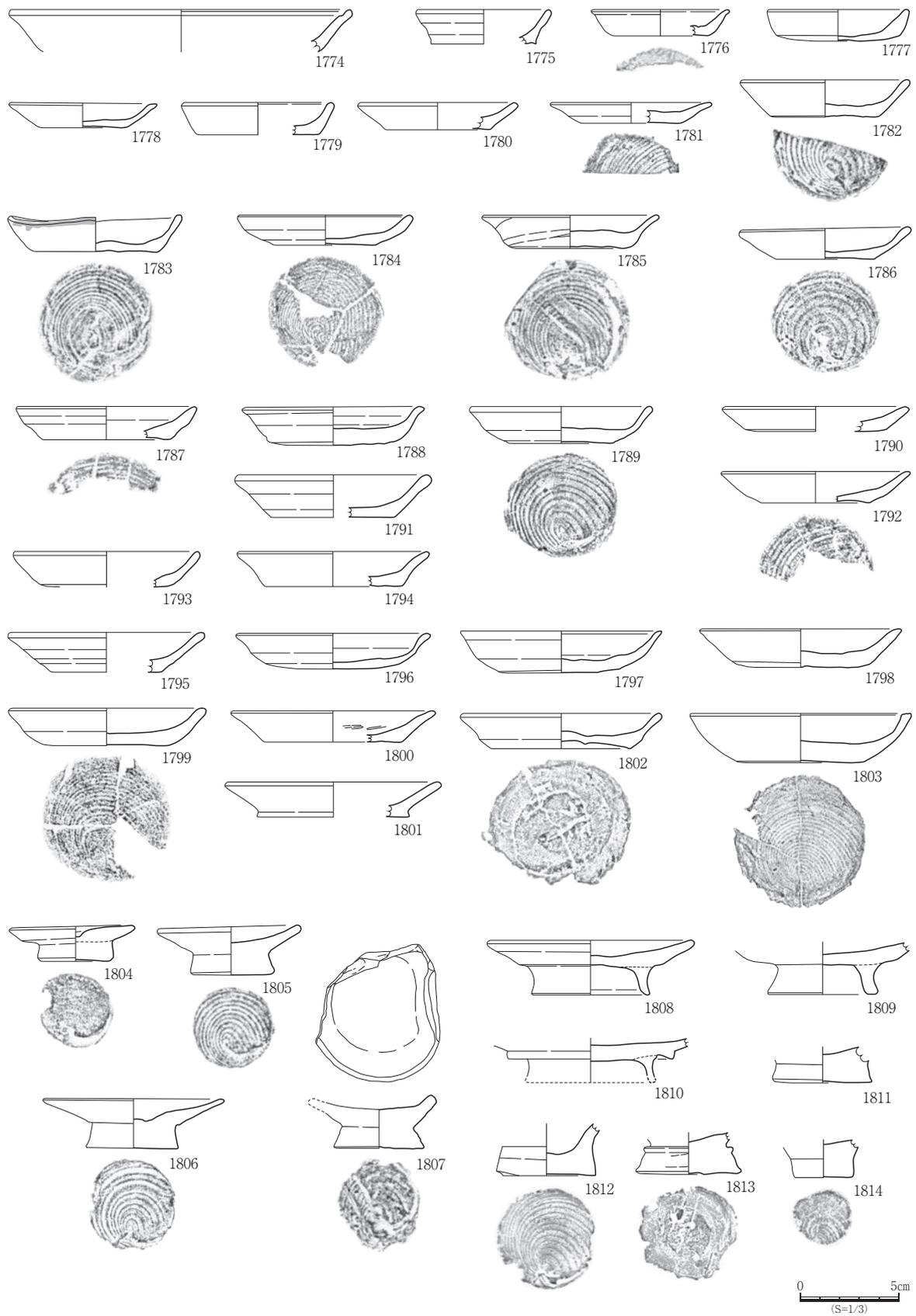


图519 7区 遺構外出土遺物実測図_2

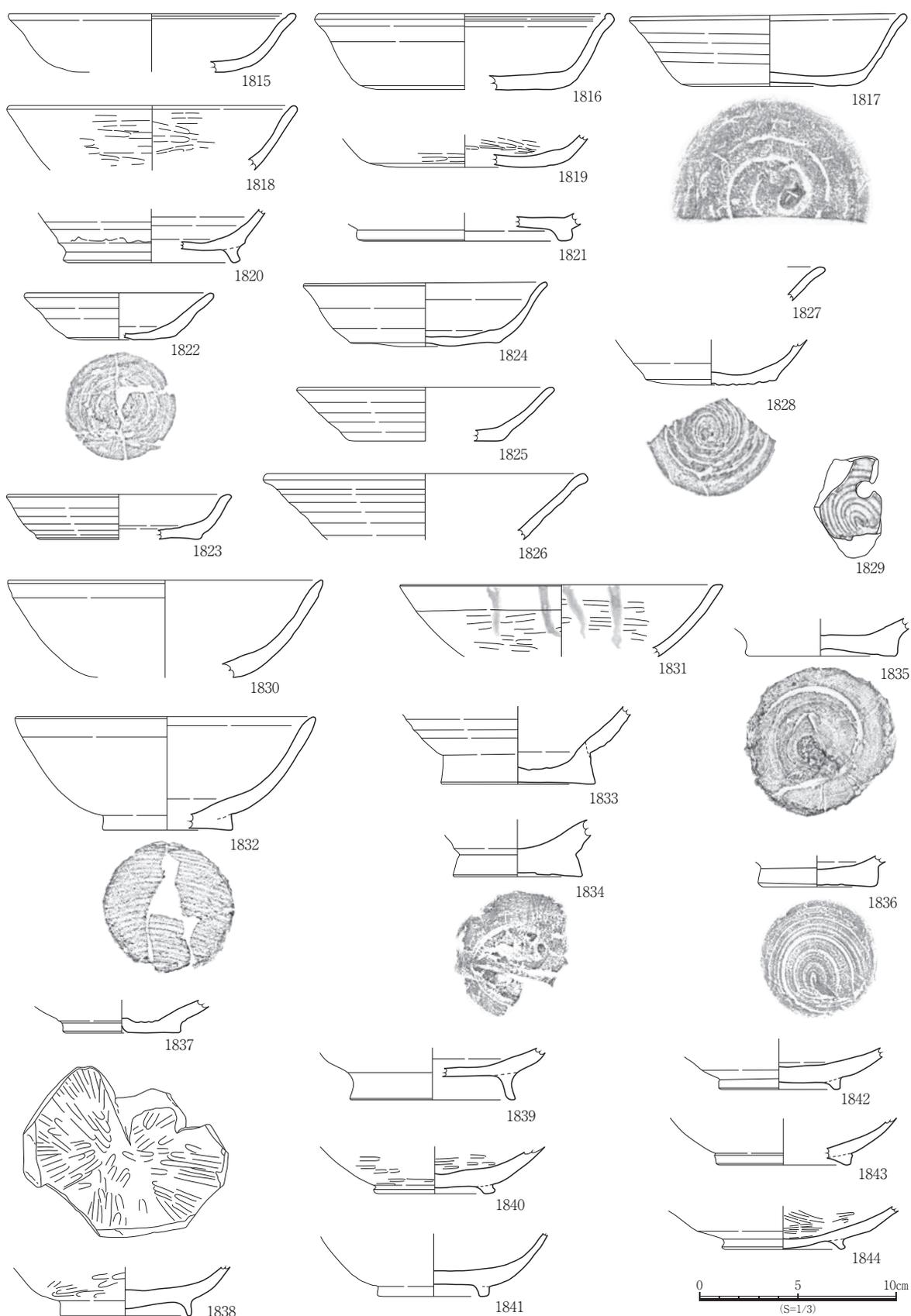


图520 7区 遺構外出土遺物実測図_3

付す。天井部外面には回転ヘラケズリ調整を施す。口縁部外面および内面には回転ナデ調整を施す。1740はP836から出土した須恵器の蓋である。丸みを帯びた短小なかえりを付す。天井部外面には回転ヘラケズリ調整を施す。口縁部外面および内面には回転ナデ調整を施す。1741はP795から出土した須恵器の杯である。口縁端部を僅かに巻き込む。内外面とも回転ナデ調整を施し、内底面には仕上げナデ調整を施す。外底面にはナデ調整を施す。外底端部には外側にやや張り出した高台を貼り付ける。また、外底面には火襷がみられる。1742はP651から出土した須恵器の杯である。体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部は外反気味である。外底面には断面形が方形の輪高台を貼り付ける。内外面とも回転ナデ調整を施す。焼成不良である。1743はP848から出土した須恵器の杯である。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面にはナデ調整を施し、幅の狭い高台を貼り付ける。1744はP666から出土した陶器の鉢である。内外面ともロクロナデ調整を施す。外底面縁辺には高台の剥離痕跡が認められる。1745はP220から出土した瓦質土器の鍋である。口縁端部から外傾気味に上方へ拡張する受け口状を成し、口唇部は面状を呈する。口縁部は内外面ともヨコナデ調整を施す。体部外面はナデ調整で指頭圧痕がみられる。内面はヨコハケ調整である。

1746はP708から出土した平瓦である。凸面には縄目痕、凹面にはナデ調整を施し、布目の圧痕がみられる。端部にはヘラケズリ調整で面取りを施す。1747はP59から出土した丸瓦である。凸面にはナデ調整を施し、凹面には布目の圧痕がみられる。1748はP897から出土した細粒砂岩製の砥石である。3面が使用され平滑となり、擦痕が認められる。また、平坦面に敲打痕跡がみられる。被熱し煤が付着する。1749はP533から出土した砂岩製の叩石である。扁円状の円礫を利用する。両端部には敲打痕跡、表面には磨滅が認められる。また、片面および側縁に赤褐色を呈する。赤色顔料が付着か。完存する。1750はP427から出土した砂岩製の磨石である。扁円状の円礫を利用する。全面に磨滅痕が認められる。完存する。1751はP437から出土した鉄製の刀子である。茎部か。茎尻は丸みを帯びる。断面形は長方形を呈する。1752はP437から出土した鉄釘である。頭部は逆「L」の字形を呈する。首部はやや屈曲する。体部の断面形は方形を呈する。先端部は欠損する。1753はP450から出土した鉄釘である。頭部は欠損する。体部の断面形は方形を呈する。1754はP746から出土したスラグである。

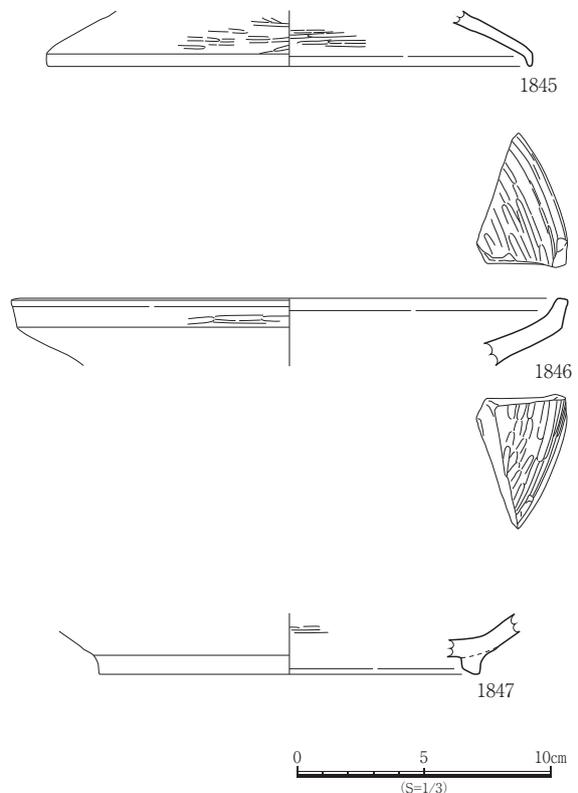


図521 7区 遺構外出土遺物実測図_4

8. 遺構外出土遺物

図示した出土遺物は、弥生土器の壺・鉢・高杯・器台・底部・体部, ミニチュア土器, 土師器の皿・杯・椀・蓋・盤・甕, 土師質土器の皿・杯・椀・柱状高台・鍋・羽釜, 須恵器の蓋・皿・

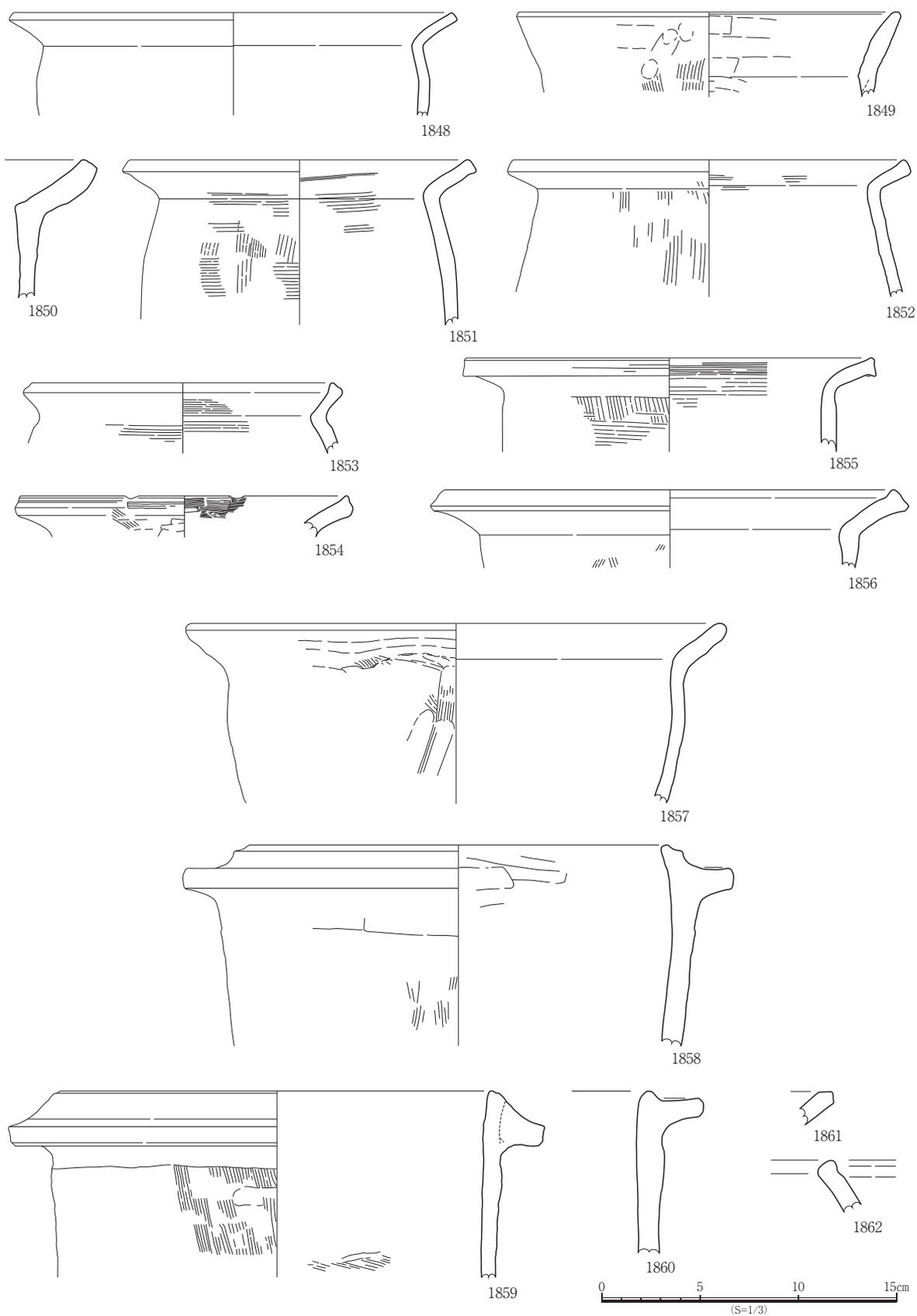


图522 7区 遺構外出土遺物実測図_5

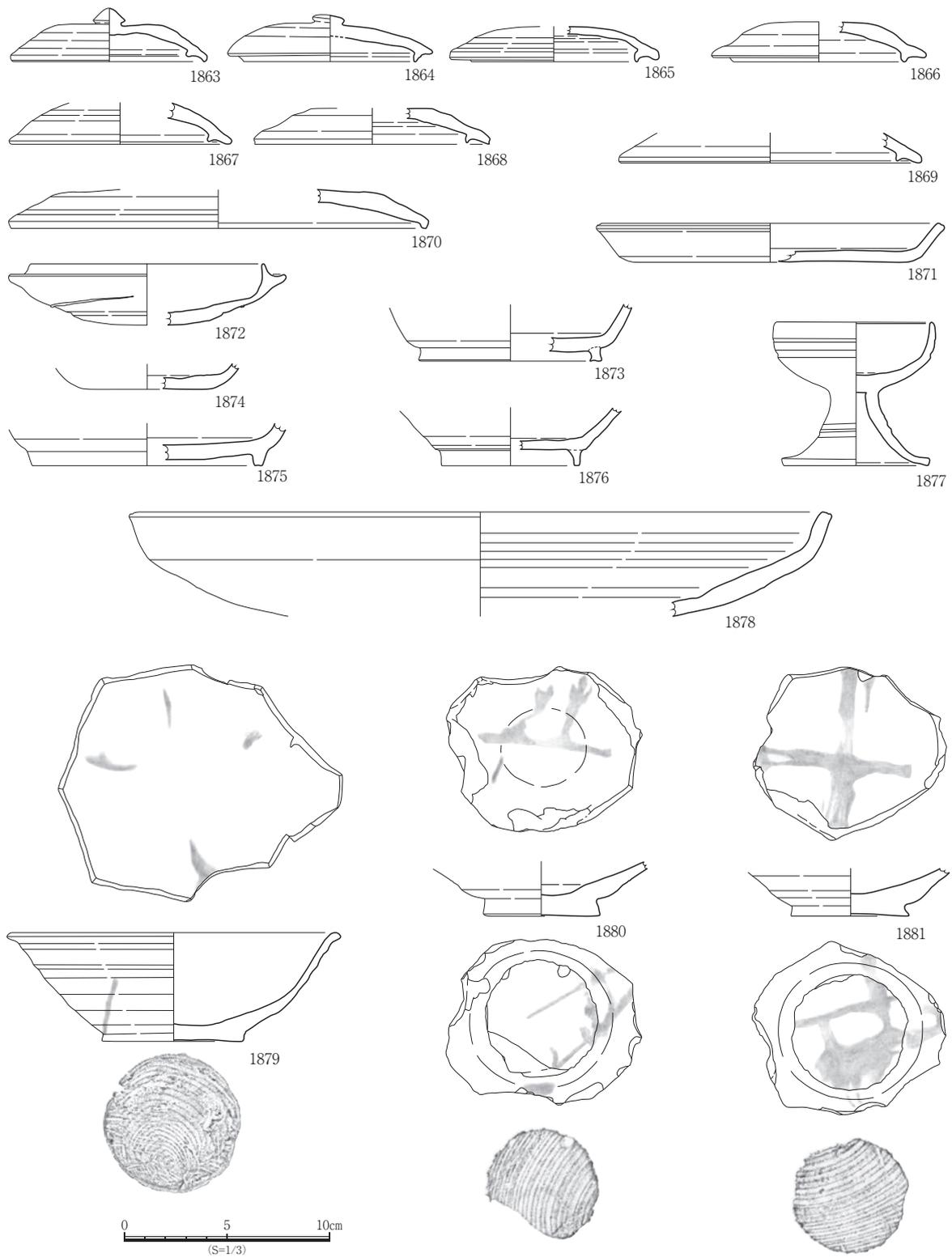


图523 7区 遺構外出土遺物実測图_6

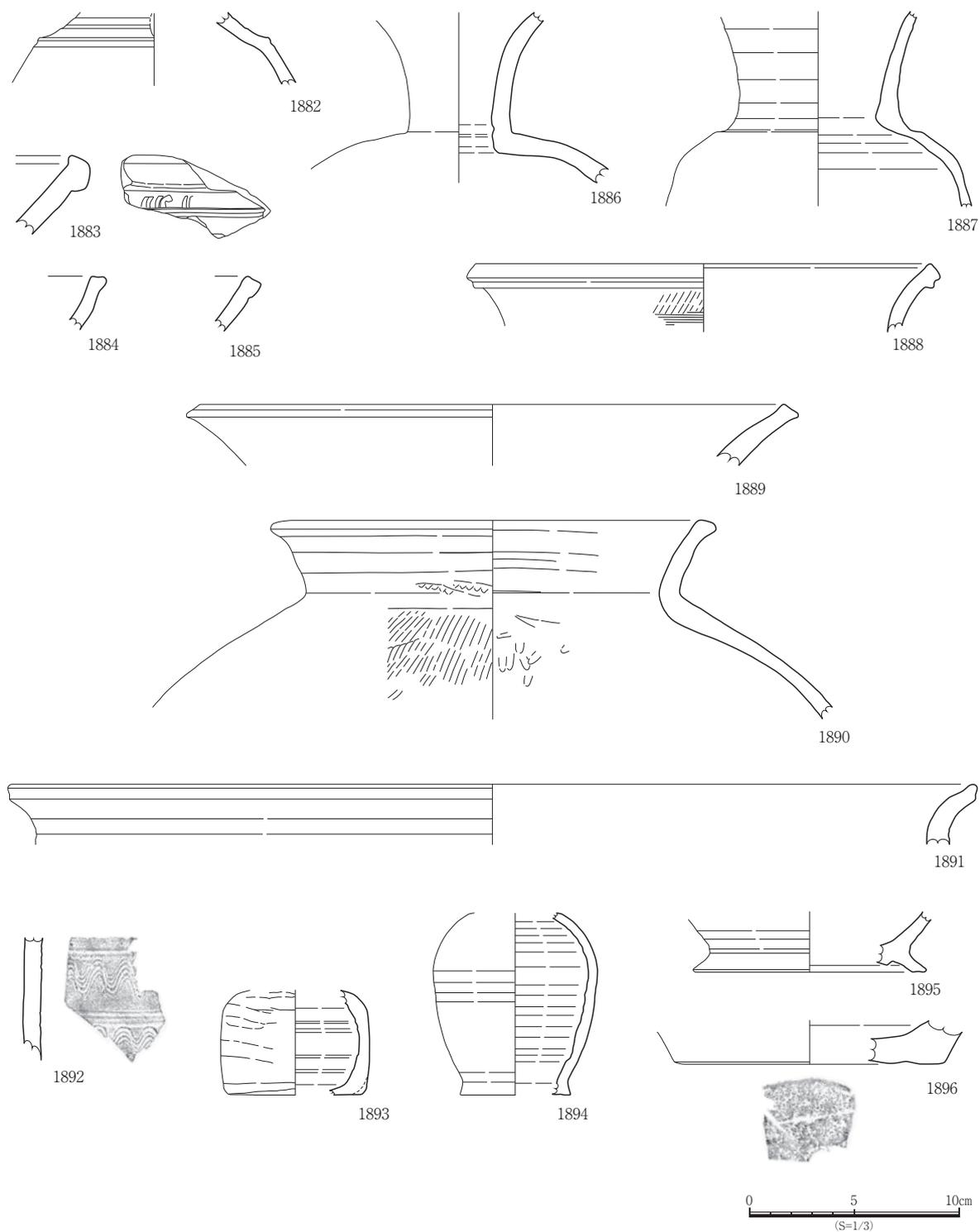


图524 7区 遺構外出土遺物実測図_7

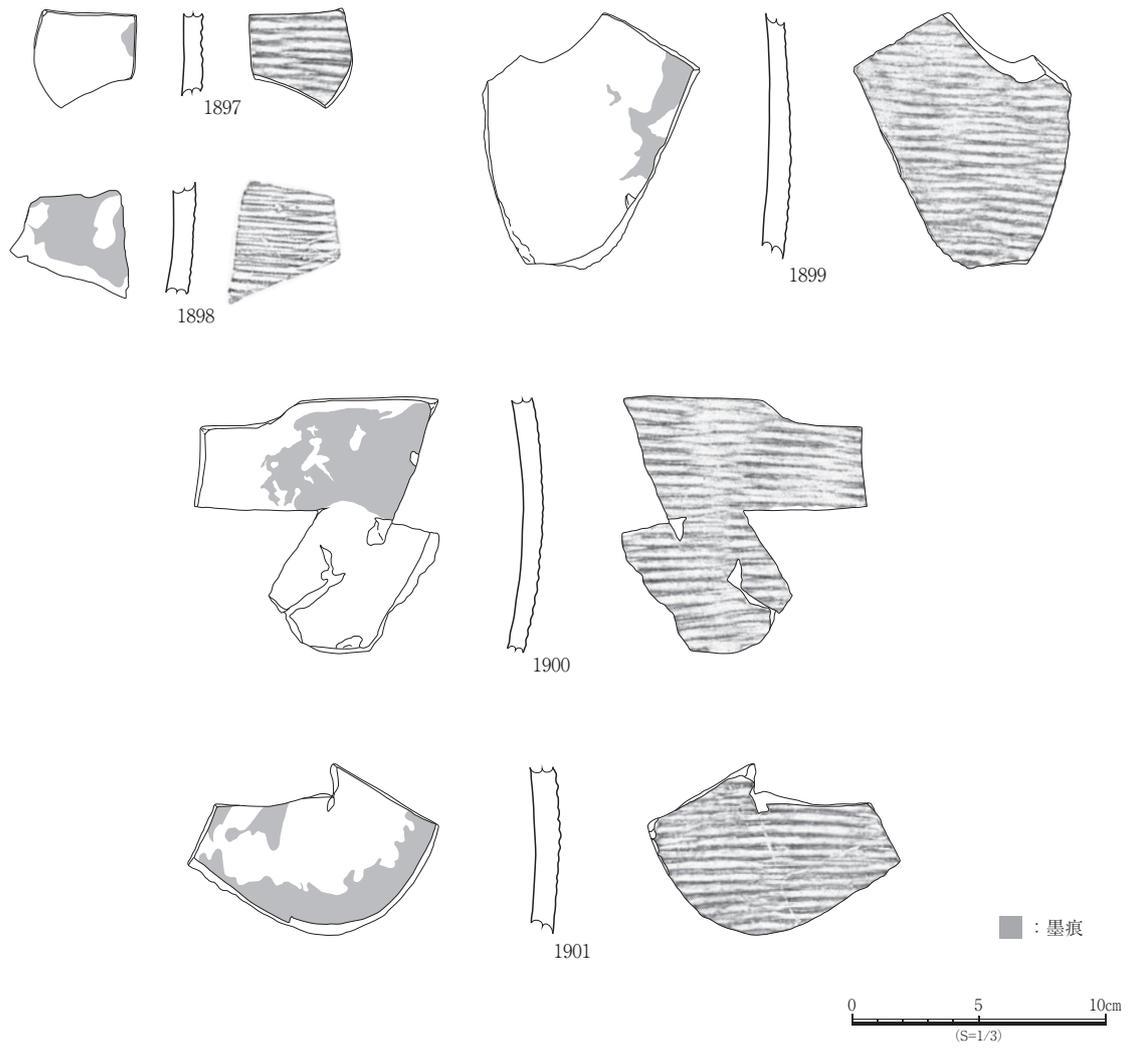


图525 7区 遺構外出土遺物実測图_8

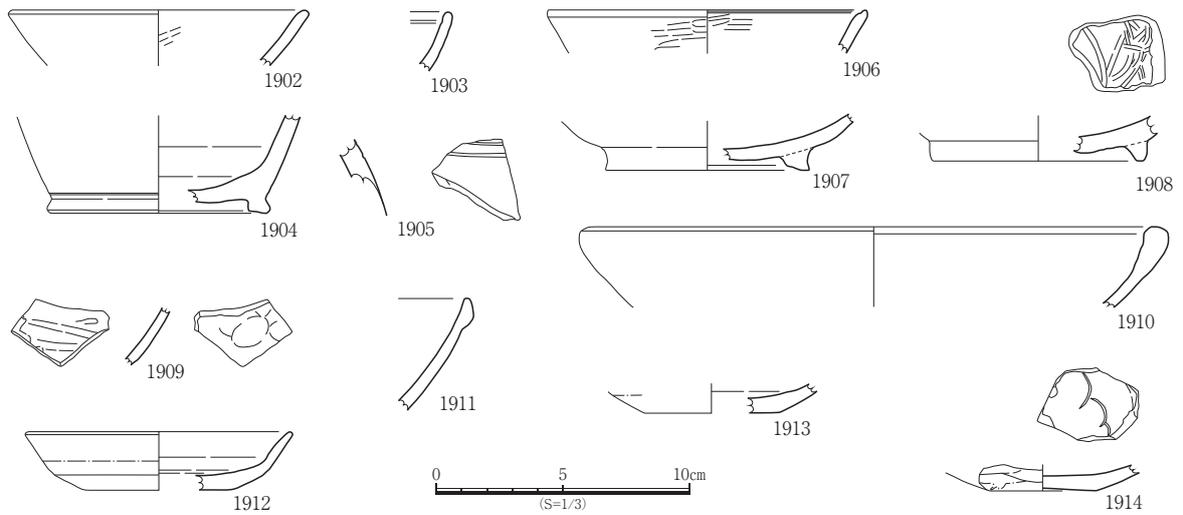


图526 7区 遺構外出土遺物実測图_9

杯・盤・高杯・椀・甕・壺・体部, 緑釉陶器の碗・壺, 灰釉陶器, 黒色土器の椀, 瓦器の椀, 瓦質土器の鉢, 青磁の皿, 白磁の碗・皿, 製塩土器, 管状土錘, 瓦, 移動式カマド, 羽口, 叩石, 砥石, 鉄釘, スラグである。

1757 は弥生土器の壺である。口縁部は大きく外反し, 口唇部を下方に拡張する。外面には複合鋸歯文をめぐらせ, 竹管文を施した円形浮文を2個1対で8ヶ所に配置する。全体的に摩耗する。頸部外面および口縁部内面にはヘラミガキ調整を施す。1770 は器種器形が不明の粘土塊である。手捏ね成形で指頭圧痕が全面にみられる。接合面から剥離する。接合面にはハケメが認められる。把手か。1771 は弥生土器の鉢の体部片である。外面は叩き調整後ハケ調整およびナデ調整を施し, 内面にはハケ調整を施す。外面には焼成前にヘラ状工具により線刻を施す。1772 は弥生土器の器台である。口縁端部に粘土帯を貼付し, 上面を僅かに拡張させ, 2条の凹線文をめぐらせる。下面もごく僅かに拡張し面状を呈し, 2条の凹線文をめぐらせる。外面には複合鋸歯文を配置する。内外面ともヨコナデ調整を施す。1776 は土師質土器の皿である。口縁部は斜め上方にひらき, 口縁端部を僅かに外反させる。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。1783 は土師質土器の皿である。口縁部は斜め上方へ立ち上がる。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。内底面の一部にタールがうすく付着する。完存である。1789 は土師質土器の皿である。口縁部は斜め上方へ立ち上がり, 口唇部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施す。内底面には渦状の凹みがみられる。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。1794 は土師質土器の皿である。口縁部は外反気味にひらく。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転ヘラ切り後, ナデ調整を施す。1804 は土師質土器の柱状高台である。杯皿部は浅く外方へひらき, 内底面は凹む。台部は低い円柱状を呈する。外底面には回転糸切り後, ナデ調整を施す。1807 は土師質土器の柱状高台である。杯皿部は浅い皿状を呈し, 一方を折り曲げる。台部の断面形は台形を呈する。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡がみられる。耳皿か。1815 は土師器の杯である。口縁端部は外反気味で, 口縁端部内面に凹線がめぐる。口縁部は内外面とも回転ナデ調整後, 横方向のヘラミガキ調整を密に施す。内底面にもヘラミガキ調整を施す。外底面は回転ヘラ切り後, ヘラミガキ調整を施す。全体的に丁寧なつくりである。1816 は土師器の杯である。口縁端部は外反気味で, 凹線がめぐる。口縁部は内外面とも回転ナデ調整後, 横方向のヘラミガキ調整を施す。内底面はナデ調整後, ヘラミガキ調整を疎らに施す。外底面は回転ヘラ切り後, ナデ調整を施す。1817 は土師器の杯である。口縁部は外上方に直線的にのびる。口縁端部内面に凹線をめぐらせる。口縁部は内外面とも回転ナデ調整か。外底面は回転ヘラ切り後, ナデ調整を施す。1818 は土師器の杯である。口縁部は外上方に直線的にのびる。口縁端部内面に凹線をめぐらせる。口縁部は内外面とも回転ナデ調整後, 横方向のヘラミガキ調整を施す。1819 は土師器の杯である。口縁部は内外面とも回転ナデ調整後, 横方向のヘラミガキ調整を施す。内底面はヘラミガキ調整を施す。外底面は回転ヘラ切り後, ナデ調整を施す。ヘラミガキ調整を施しているか。1845 は土師器の蓋である。口縁部を短く折り曲げる。内外面とも回転ナデ調整後, ヘラミガキ調整を疎らに施す。1846 は土師器の盤である。杯部は水平ちかく直線的にのび, 口縁部を短く折り曲げる。口唇部には面取りを施す。内外面とも回転ナデ調整後, 横方向のヘラミガキ調整を密に施す。1847 は土師器の盤である。外底面に断面形が内傾した台形の高台を貼付する。内外面とも回転ナデ調整を施す。内底面にはヘラミガキ調整を施すか。1852 は土師器の甕である。長胴形の体部から口縁部は斜め外方へひらく。口唇部は平坦面を成し, 僅かに拡張する。口唇部はハケ状原体により面取りを施す。口縁部外面はヨコナデ調整, 内面はヨコハケ調整である。

体部外面にはタテハケ調整を施す。1853は土師器の甕である。口縁部は「く」の字状を呈する。口唇部は上方へ拡張し、丸くおさめる。口縁部外面はヨコナデ調整, 内面はヨコハケ調整である。体部外面はヨコハケ調整を施し, 内面はナデ調整を施す。1855は土師器の甕である。体部は直立する。口縁部は斜め外方へひらき, 口唇部はヨコナデ調整により凹面状を呈する。口縁部外面はヨコナデ調整, 内面はヨコハケ調整である。体部外面はタテハケ調整後ヨコハケ調整を施す。内面はヨコナデ調整である。1857は土師質土器の鍋である。口縁部は屈曲度合いが弱く外反し, 口唇部は丸くおさめる。口



図527 7区 遺構外出土遺物実測図_10

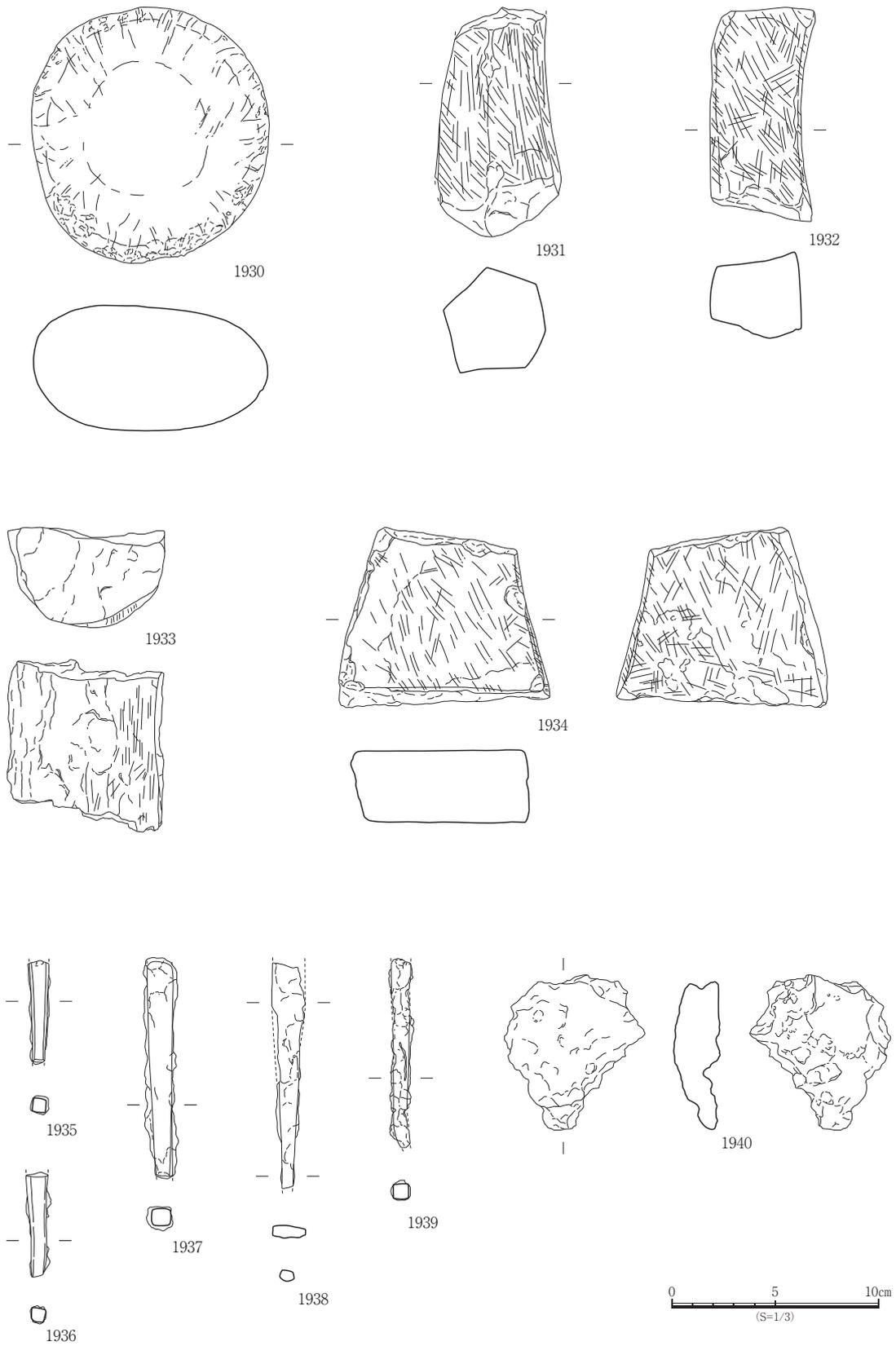


図528 7区 遺構外出土遺物実測図_11

縁部は内外面ともヨコナデ調整を施す。外面には指頭圧痕がみられる。体部外面はヘラナデ調整、内面はナデ調整である。1858は土師質土器の羽釜である。口唇部からやや下がった位置に鏝を付す。内外面ともヨコナデ調整で仕上げる。口縁部は内外面ともヨコナデ調整を施す。体部外面は粗いタテハケ調整、内面はナデ調整である。1859は土師質土器の羽釜である。体部は直立し、口唇部は面取りを施す。口唇部直下に鏝を付す。内外面ともヨコナデ調整で仕上げ、鏝の端部には面取りを施す。口縁部は内外面ともヨコナデ調整を施す。体部外面はタテハケ調整を施し、内面はナデ調整およびハケ調整を施す。1862は土師質土器の鍋である。口縁部は内傾する。口唇部には面取りを施し、外面は強いヨコナデ調整により凹む。内外面ともヨコナデ調整を施す。

1863は須恵器の蓋である。天井部は平坦で口縁部は斜め下方へのびる。天井部外面には宝珠形の摘みを付す。口縁部内面には短小なかえりを付す。天井部外面は回転ヘラケズリ調整後、ナデ調整を施す。口縁部は内外面とも回転ナデ調整を施す。天井部内面には仕上げナデ調整を施す。1865は須恵器の蓋である。天井部はやや扁平である。口縁部内面には短小なかえりを付す。内外面とも回転ナデ調整を施す。外面に自然釉が付着し、天井部外面の調整については観察できない。1866は須恵器の蓋である。天井部は扁平であり、口縁部は外反する。口縁部内面には短小なかえりを付す。かえりの先端部は丸くおさめる。天井部外面は回転ヘラケズリ調整後、ナデ調整を施す。口縁部は内外面とも回転ナデ調整を施す。天井部内面には仕上げナデ調整を施す。焼成不良である。1870は須恵器の蓋である。天井部は扁平状で、口縁部は斜め下方へのび、端部を折り曲げる。天井部外面は回転ヘラ切り後、ナデ調整を施す。口縁部は内外面とも回転ナデ調整を施す。天井部内面には仕上げナデ調整を施す。焼成不良である。1877は須恵器の高杯である。杯底部は丸みを帯び、口縁部は内湾気味となる。杯部外面には2条の凹線をめぐらせる。内外面とも回転ナデ調整を施す。脚部は円錐形を呈し、裾部は「ハ」の字形にひらく。端部には面取りを施す。脚部外面には2条の凹線をめぐらせる。内外面とも回転ナデ調整を施す。自然釉が付着する。1878は須恵器の盤である。杯部は緩やかに斜め上方へのび、口縁部は短く屈曲する。口唇部には面取りを施す。口縁部および内底面は回転ナデ調整である。外底面には回転ヘラケズリ調整を施す。内面は荒れる。1879は須恵器の円盤状高台椀である。体部は内湾気味に立ち上がり、口縁端部を外反させる。内外面とも回転ナデ調整を施す。内底面は渦状となる。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。内外面に火襷がみられる。焼成はやや不良である。1882は須恵器の壺の脚部である。内外面とも回転ナデ調整を施す。外面には3条の凹線をめぐらせる。また、直径約1cmの円孔を穿つ。1897～1901は転用硯の可能性のある体部片である。須恵器の甕あるいは壺の体部で平らな部分を使用する。いずれも使い込まれた状況はみられない。外面は平行叩き、内面はナデ調整である。1897は内面の端に墨痕のようなものが付着する。1898は内面全体に濃淡はあるものの墨痕が付着する。1899は内面のごく一部に墨痕のようなものが付着する。1900は内面の一部に墨痕が付着する。1901は内面に墨痕が付着する。付着範囲はやや平滑となる。1903は緑釉陶器の碗である。口縁部内面には1条の沈線がめぐる。内面にオリーブ灰色の釉薬を施す。1910は瓦質土器の鉢である。口縁端部は玉縁状を呈する。内外面とも回転ナデ調整を施す。重ね焼きの痕跡が認められる。

第5節 小結 東部官衙群の様相

1.はじめに

今次の調査対象範囲の全域において掘立柱建物跡を検出している。これらの建物跡には柱掘方が方形を呈し、建物配置に企画性を持つものもみられる。また、施釉陶器、墨書土器、転用硯などが出土することから律令期の官衙に関連するものも含まれていると考えられる。これらの建物跡は1区・5～7区と4・8区にまとまりがみられ、前者を東部官衙群、後者を西部官衙群と仮称する。建物跡の

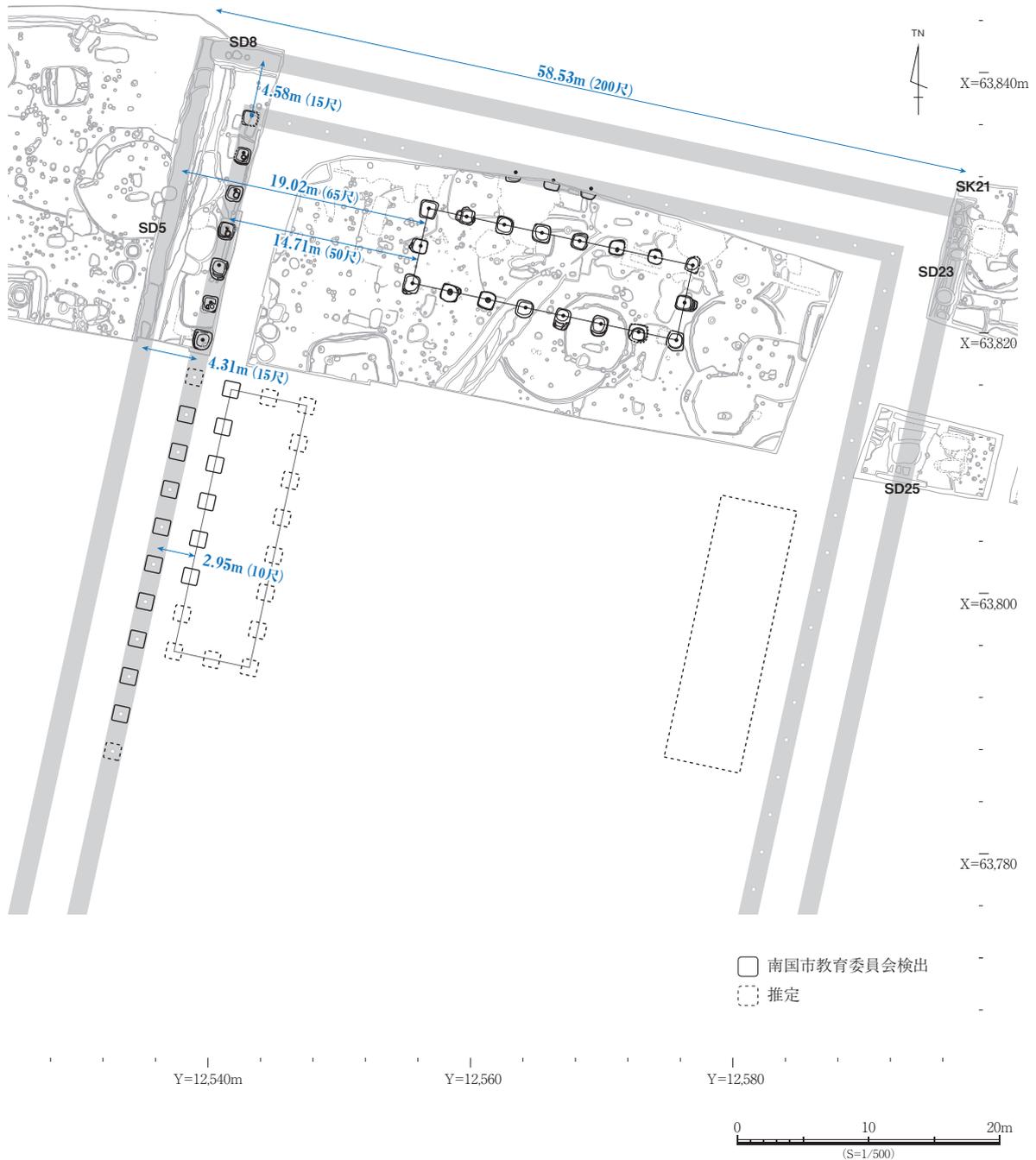


図529 若宮ノ東遺跡_官衙跡1

規模、井戸跡の有無など両官衙群には差異がみられ、機能差・性格差・時期差を反映していると推測される。ここでは既刊の『若宮ノ東遺跡Ⅰ』⁽¹⁾と本書での報告分である東部官衙群について、概ね7～8世紀代の方形の柱掘方(方形を指向するものを含む)を持つ掘立柱建物跡を対象として、若干、整理しておきたい。この東部官衙群には県内最大規模の掘立柱建物跡(5区SB1)、正倉とみられる総柱の建物跡(1区SB1)等の重要なものを含んでいる。

まず、立地について簡単に触れておきたい⁽²⁾。若宮ノ東遺跡は長岡台地の縁辺部に位置し、北東方向から南西方向にむかって標高が徐々に下がり、浦戸湾から続く潟が遺跡の近辺までせまっていたと推測される。東部官衙群は今調査範囲では最も標高が高い場所に立地し、北側には独立丘陵で遮られるものの、東・西・南の3方向はひらける好位置を占地している。

2. 官衙跡1の構造について

5区では桁行7間×梁行2間の大型掘立柱建物跡を検出した。県内で最大規模のものであり、1区の柱穴列、溝跡、そして6-1区で検出した溝跡が一つの官衙跡(仮称官衙跡1)を形成していたことが明らかとなった。このような明確に官衙的な配置を持つものは県内では初めての発見であり注目を集めた。また、令和3年度に発掘調査を実施した7-1-3区においても6-1区で検出した東辺を区画する溝跡の続きを検出した⁽³⁾。今調査計画路線内において未調査地点があるものの、既報告分と今回の報告分で概ね全体像を把握することができる。また、隣接地点において南国市教育委員会が発掘調査を実施している。西辺を区画する溝跡の延長、掘立柱塀の延長、さらに脇殿の可能性ある掘立柱建物跡の西側柱列が検出されている。その成果も含めて現状について述べてみたい⁽⁴⁾。

今調査によって南限以外は確定できそうである。南限については東西幅約58mを一辺とする正方形であったと仮定すると南辺に該当する付近には東西方向の幅の狭い道が残り、南辺を区画する溝跡あるいは掘立柱塀の名残りの可能性がある。

官衙跡1の復元案の一つとして図529に示した。5区SB1を南向きの主殿、南国市教育委員会によるものを西脇殿の西側柱とし、5区SB1と同じ桁行7間、梁行2間の南北棟建物とした。また、同じ構造・規模のものを東脇殿とした。さらに周囲を掘立柱塀と溝跡で囲繞した。

主殿とした5区SB1の柱間寸法は10尺で、県内の掘立柱建物跡で柱間寸法が10尺のものはない。無庇ではあるものの、主殿に相応しいと考えられる。また、掘立柱塀の柱間寸法も10尺であり、SB1と同じである。両者の主軸方位も同じであり、両者は密接な関係を有している。SB1の西側柱列と掘立柱塀を構成する柱穴の心々距離は50尺である。掘立柱塀と溝跡の心々距離は15尺である。1区

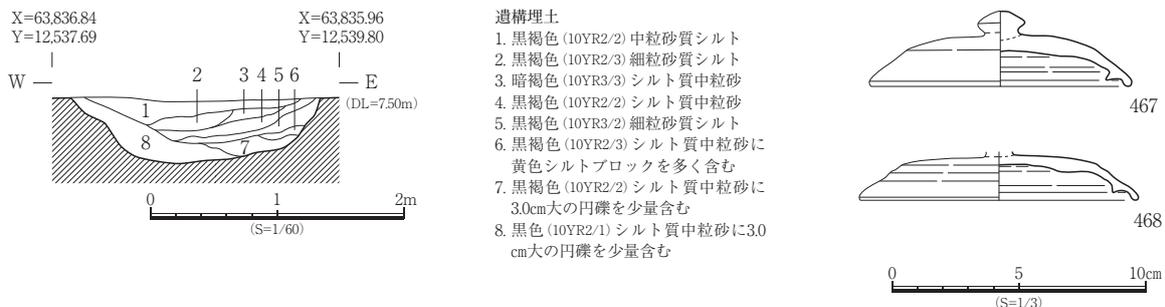


図530 1区SD5 断面図・出土遺物実測図

の掘立柱塀を構成する柱穴の最北端の柱穴と東西方向の溝跡(1区SD8)の心々距離は約4.58m(15尺), 南北方向の溝跡と掘立柱塀を構成する柱穴の心々距離は同じ15尺である⁽⁵⁾。

(1) 主殿

SB1は5区中央部で検出した桁行7間(約20.58m), 梁行2間(約5.88m)の東西棟の掘立柱建物跡であり, 床面積は約121.0㎡である。主軸方向はN-77°44'-Wを示し, 香長条里の方向と一致している。P1~18で構成され, 柱間寸法は桁行は約3.00m(10尺), 梁行は約3.00m(10尺)である。すべての柱筋の通りはよく, 整然と配置されている。平面形は一辺1m強の隅丸方形を呈する。柱は断面観察から直径約40cmと推測される。

(2) 区画溝

区画溝は東辺, 北辺, 西辺の規模・形状に若干違いがみられ, 同規模・同形状では巡っていない。西辺を区画する溝跡(1区SD5)は幅約2.00mを測る。底面の標高は北側では約7.10mであり, 調査区の中央付近が最も低く, 標高約6.70mとなり, 調査区の南端では約7.00mである。底面は平らではなく, 凹凸がみられる。北辺を区画する溝跡(1区SD8)は幅約2.00mであり, 西辺を区画する溝跡と同じ幅である。底面の標高は約7.10mであり, 西辺を区画する溝跡の深い部分よりも0.20~0.40m高く, 意

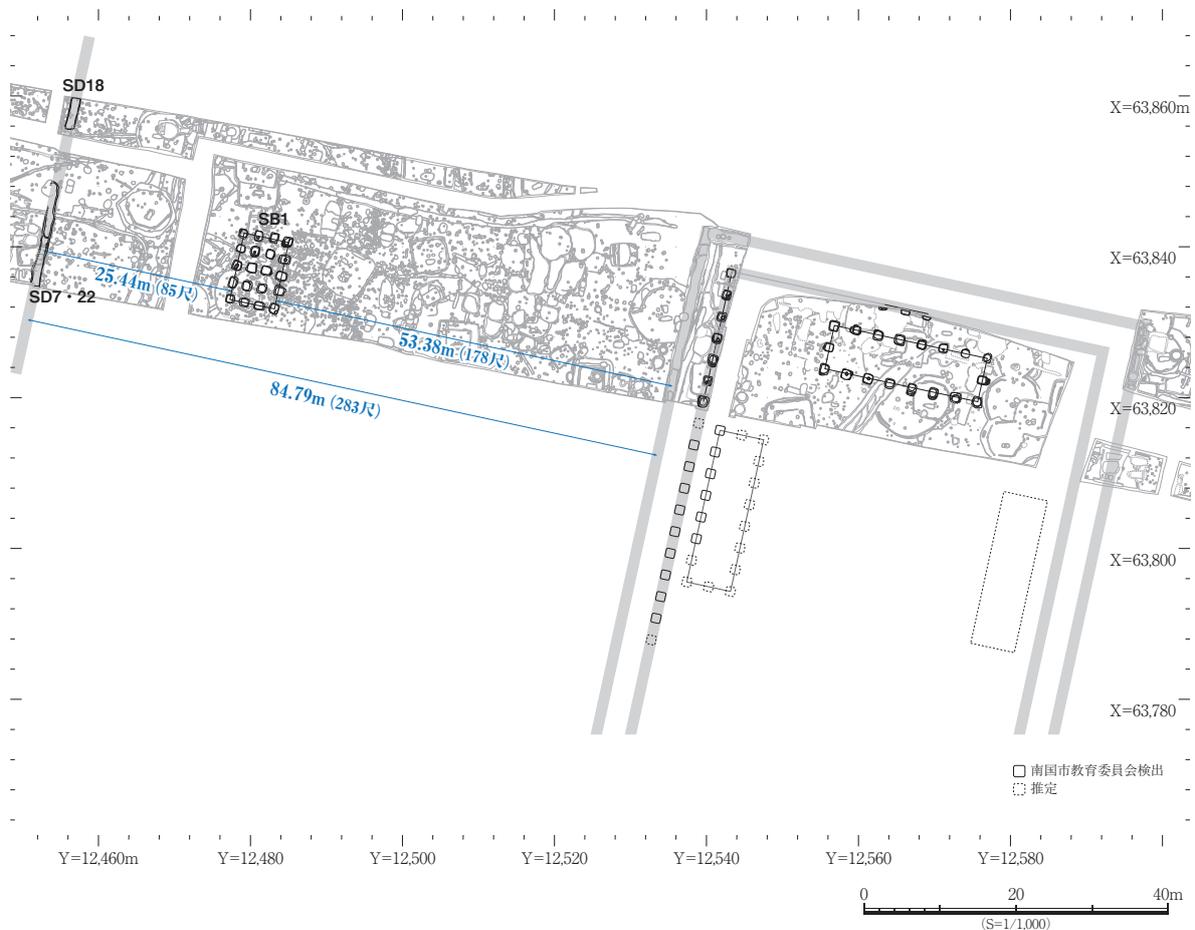


図531 1区SB1と官衙跡1

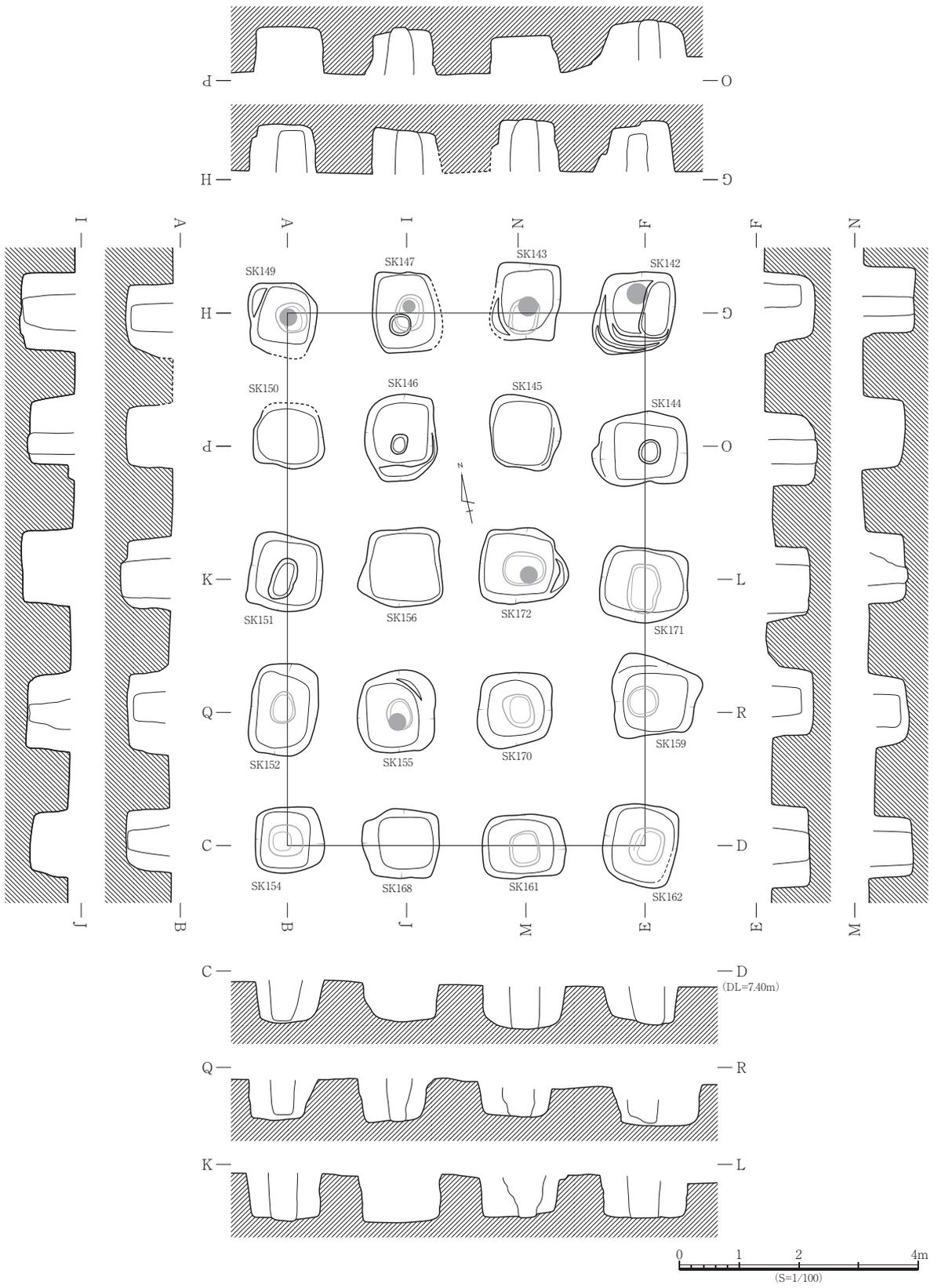


図532 1区SB1 平面図・エレベーション図

図的に段差を設けている。この溝の延長を6-1区(6-1区SK21)で検出している。区画の北東隅部にあたるため、約1.60mしか検出していない。また、溝の東端は幅を減じるとともに浅くなっている。断面形は箱形から逆台形を呈していることから区画溝と考えられる。底面の標高は約7.30mであり、1区SD8の底面の標高よりも僅かに高く、底面は平らでない可能性がある。東辺を区画する溝跡(6-1区SD23)の東肩と6-1区SK21の東端が一致していること、6-1区SD23はSK21よりも北では検出していないことから、両溝跡はともに区画溝を構成している。ただし、両遺構が接続する箇所は遺構の重複が激しく、検出等は困難であった。また、6-1区ではSD23の西肩は調査区外となっている。底面の標高は6-1区では約6.90mであり、西辺を区画する溝跡(1区SD5)の北端部の底面の標高と同じである。6-1区の南端部では底面に土坑が掘り込まれている。この溝に伴うものか、別の時期のものが重複しているものかを確定することは難しいものの、後述する7-1-3区の状況と類似していることから溝跡に伴う可能性が高い。6-1区の南に位置する7-1-3区でこの溝跡の延長(7区SD25)を検出している。この調査区では両肩を検出し、幅を確定できた。上層で重複している溝跡を考慮にいと幅約2.60mと考えられる。北辺及び西辺を区画する溝跡よりも幅はひろいものの、遺構検出面の状況等による違いと考えられ、本来の規模によりちかいものと推測される。底面の標高は6.50～6.70mであり、底面には段差や6-1区でみられたように土坑が掘り込まれている。土坑の壁面が溝跡の肩部に食い込んでいる部分がみられることから、底面からではなく、さらに上の方から掘り込まれた可能性がある。これらの土坑の性格については不明である。区画溝について冗長に述べてきたが、四方を囲む一連の区画溝として同じ規模・規格で掘削したのではなく、それぞれに異なった様相がみられる。

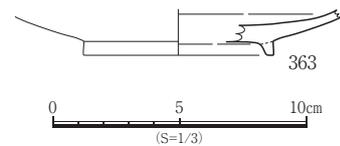


図533 1区SB1 出土遺物実測図

(3) 掘立柱塀

西辺を区画する溝跡1区SD5に平行して、7基の柱穴を検出している(1区SA1)。1区SD5と柱穴の心々距離は約4.31m(15尺)を測る。柱穴は一辺1.05～1.58mの方形から長方形を呈する。検出面からの深さは約1.00mを測る。柱の直径は断面から20～30cmと推定される。柱間寸法は約3.00m(10尺)を測る。南国市教育委員会による調査でも、この掘立柱塀の延長の柱穴を9基検出している。また、5区の北端でもこの塀の続きとみられる柱穴を東西方向に3基検出している。

(4) 時期について

官衙跡1の時期は西辺を区画する1区SD5および東辺を区画する7-1-3区SD25から出土した遺物から7世紀後葉と考えている。掘立柱建物跡、掘立柱塀を構成する柱穴からは時期を決めることができる遺物は出土しておらず、掘立柱建物跡、柵、溝跡が一連のものであるという想定が成り立たなくなると年代についても再考しなければならない。

(5) 正倉跡(1区SB1)との関連について

1区において3×4間の総柱の掘立柱建物跡(1区SB1)を検出し、南国市教育委員会の調査においても同規模・同構造の建物跡が軸を同じくして南北方向に配置されていたことが明らかとなり、正倉

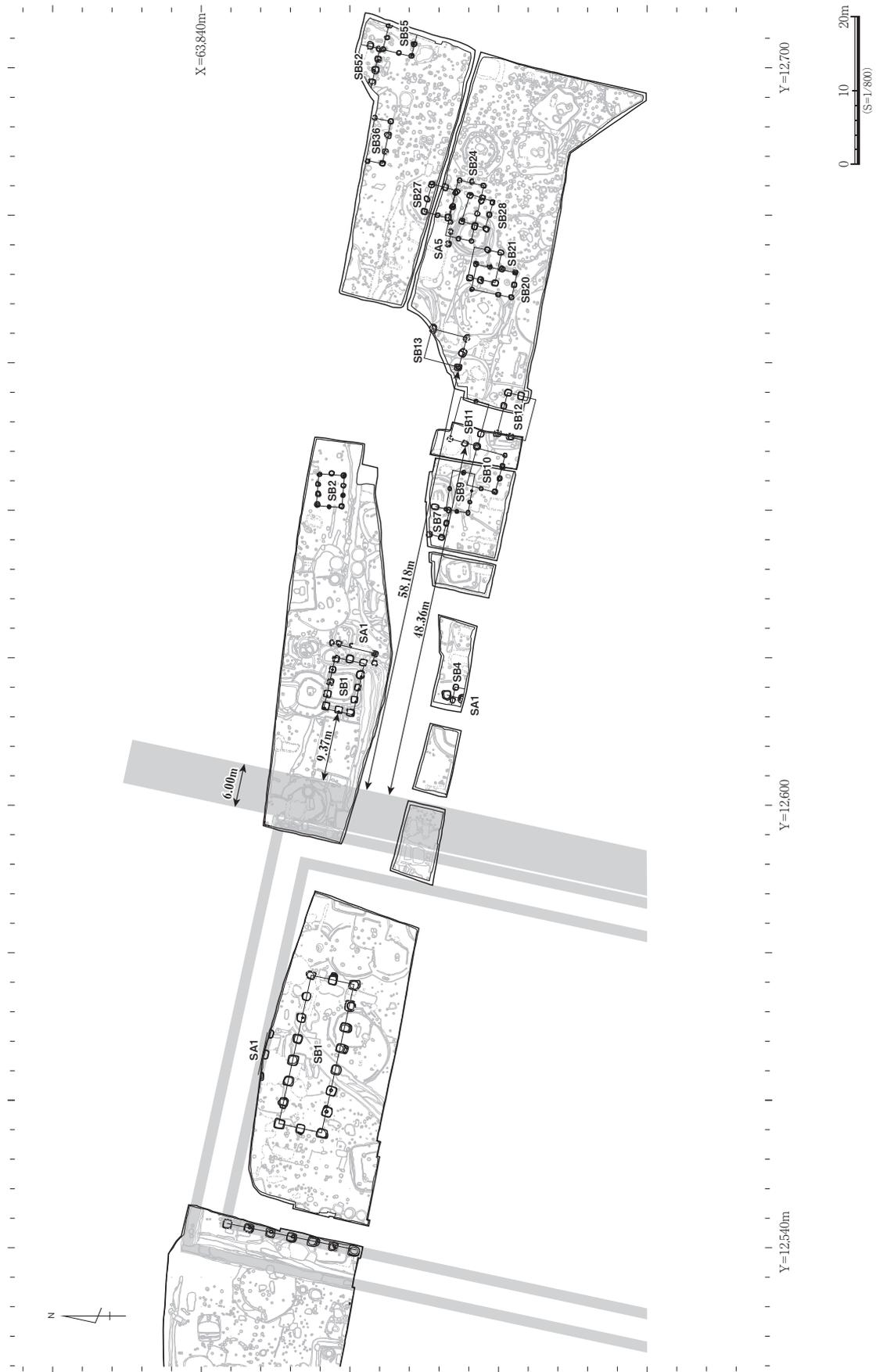


図534 東部官衙群掘立柱建物跡配置図_1

別院と考えられている⁽⁶⁾。上述の官衙跡1との関連が問題となる。1区SB1を構成する柱穴SK150の柱抜き取り穴から緑釉陶器片(363 図533)が出土し、廃絶時期を示すものであり、官衙跡1の時期とは異なる。

官衙跡1の西辺を区画する溝跡(1区SD5)と正倉跡(1区SB1)の東側柱列の心々距離は53.38m(178尺)である。正倉別院を区画すると推定される溝跡(2区SD18・3区SD7・22)と正倉跡(1区SB1)の東側柱列の心々距離は25.44m(85尺)、さらに官衙跡1の西辺を区画する溝跡(1区SD5)と正倉別院を区画すると推定される溝跡(2区SD18, 3区SD7・22)との心々距離は84.79m(283尺)である。正倉別院を区画すると推定される溝跡(2区SD18, 3区SD7・22)と正倉跡(1区SB1)の東側柱列の心々距離は25.44m(85尺)と切りのいい距離となっており、両者は同時併存の可能性は高く、正倉別院を区画する溝跡であった蓋然性は高い。一方、官衙跡1の西辺を区画する溝跡(1区SD5)とのそれぞれの距離は端数を生じ、関連性は低いのではないかと考える。出土遺物からの時期、距離等からも両者の関連は低いと現段階では考えている。ただ、両者の配置をみると正倉別院とそれを管理する官衙という関係も十分考えられる。

3. 東部官衙群の構造

(1) 概要

東部官衙群内を国府域へつながる道路跡が南北に走っている⁽⁷⁾。この道路の延長は祈年遺跡V区においても検出されている⁽⁸⁾。6-1区で検出したSD16・17の心々間の距離、概ね約6.00m(20尺)幅で図示した。5区の施設が機能していた時期にこの道路が存在していたかどうかは不明であるが、官衙跡1の東辺に接していることから強い関連性が認められる。道路敷設以後、東部官衙群は東西に区分される。また、祈年遺跡で検出された道路跡につながり、物部川を渡り、若干傾きを変え、土佐国分寺跡の東端を通る。いつ敷設されたのかは、今後さらに検討が必要である。6-1区で検出したSD16・17の時期、祈年遺跡V区の時期は不明瞭である。この南北道を挟んで東西では若干様相が異なる。西側は官衙跡1、正倉跡など規模の大きな施設が構築され、その他の掘立柱建物跡はみられない。一方、東側は西側に比べ各掘立柱建物跡の規模は小さいものの、多くの建物跡が位置を変えて建て替え、継続的に構築されている。東部官衙群内でも機能差をみることができる。また、西側のものには囲繞施設はみられない。

(2) 建物跡の組み合わせ

主に7区では柱筋が通る3組の組み合わせを抽出した。いずれも「L」の字形の配置を想定しているが判然としない。主軸方向については香長条里施行以降、僅かな違いはあるものの総じて同方位を指向する。

①SB20とSB24

SB20とSB24は7-3区のほぼ中央で検出した。SB20は桁行3間×梁行2間の南北棟の建物跡であり、床面積は約18.9㎡である。SB24は桁行4間×梁行2間の東西棟の建物跡であり、床面積は約27.3㎡である。若宮ノ東遺跡における古代の掘立柱建物跡の中では比較的大型に属する。両建物跡も時期を比定できる遺物は出土していない。SB20の南側にさらに掘立柱建物跡が存在する可能性はある。

②SB27とSB28とSB36

SB27とSB28とSB36は7-3区と7-4区の中央北よりで検出した。SB27は桁行2間×梁行2間の東西棟の建物跡であり、床面積は約13.1㎡である。SB28は桁行2間×梁行2間の東西棟の建物跡であり、床面積は約12.6㎡である。同じ構造ではほぼ同規模の建物跡が柱筋を通して南北に配置される。SB27とSB28で一つの建物跡となる可能性もある。SB36は調査区外へのびる。単独で考えた場合、南北棟と復元したものの、SB27・28との組み合わせは再考が必要である。東西棟とした場合は桁行3間×梁行2間か。いずれにしてもSB36の西側柱列とSB27・28の東側柱列の柱筋の通りは良く、SB36とSB27の間隔は概ね20尺である。何らかの関係性を有すると考えられる。

③SB12とSB13

SB12とSB13は7-2区と7-3区にまたがって検出した。SB12は調査区外へひろがる。東西棟とした場合は桁行3間×梁行2間となる。一方、南北棟とした場合は梁行3間となる。どちらかが3間となることは確定できる。SB13は調査区外へひろがる。北方向と西方向ともにのびる可能性があり、建物規模・構造は不明である。SB12とSB13の間隔は概ね20尺である。ただし、不確定な要素があり、①・②よりも可能性の低い組み合わせ案である。

④その他の建物跡

今回、触れることはできなかったが、6-1区のSB1は単独で設置された掘立柱建物跡である。桁行4間×梁行2間の東西棟の建物跡であり、柱掘方は整然と配置されている。西側柱列から国府域への道路跡まで概ね30尺の位置にある。単独での検出ではあるものの、南には後世の溝跡が掘削されており、仮にSB1に組み合う掘立柱建物跡が存在していたとしても完全に削平された可能性もある。

また、6-1区のSB2の主軸方向はN-4°23'-Eをとる。香長条里の方向ではなく、野中廃寺跡の主軸方向に類似する⁽⁹⁾。この建物跡は調査区の北東部に位置し、調査区外にこの建物跡と組み合うものが存在している可能性がある。

4. 7世紀代の様相

7-3区と7-4区では須恵器の杯Gの蓋がまとまって出土している。県内では散発的な出土にとどまる遺跡が多いなか、7-3区と7-4区での出土量は特異な状況である。7-3区で7世紀代の竪穴建物跡が1棟(ST5)検出されているのみである。SB13を構成する柱穴の一つから須恵器の杯Gの蓋が2点(1317・1318)出土し、7世紀代の掘立柱建物跡の可能性はある。いずれにしても遺物の出土量に見合う遺構は検出していない。古墳時代後期の竪穴建物跡は掘り込みが浅く、削平されている可能性がある。竪穴建物跡が1棟のみとは考えにくく、本来は多くの竪穴建物跡が存在しており、これらに伴っていたものが後世の遺構や遺物包含層に含まれた可能性も考えられる。杯蓋ばかりが目立ち、その他の器種器形のもの少ないことには注意を払っておきたい。この場所に官衙跡1に先行する時期の集落跡が存在するのか、あるいは同時期の官衙に関連する掘立柱建物跡が存在するのかは、官衙跡1の性格及びこの場所に設置された理由を考えるうえで重要な問題である。仮に官衙跡1が機能していた時期が7世紀代でなかったとしても、7世紀代にこの場所が何らかの形で利用されていたことは確かであろう。

5.まとめにかえて

以上，東部官衙群について官衙跡1を中心にして思いつくままに述べてきた。

官衙跡1は現状では7世紀後葉に廃絶されたと考えている。しかしながら，時期比定の根拠とした遺物は溝跡出土であること，平安期とされた正倉とは時期差があるとともに正倉を管理する官衙跡が未検出であること等から官衙跡1の時期については検討の余地がある。時期の問題は，官衙跡1の主軸方向が香長条里の方向と一致しており，香長平野への条里制施行時期，南海道の敷設時期の問題等に派生する重要な問題である。官衙跡1の性格については，一連の調査が終了した時点で改めて検討したい。

東部官衙群は7世紀段階に溝と柵で圍繞された中に前庭空間を囲むように大型の掘立柱建物が配置されている。その後も正倉と考えられる掘立柱建物，企画的に配置された掘立柱建物群が継続して構築される。9世紀以降も掘立柱建物跡，出土遺物等の状況から官衙的な性格を維持していたと考えられる。しかしながら12世紀段階になると掘立柱建物跡に隣接して墓(7-4区SK30)が造られるようになる等，遺跡の性格が変化すると推測される。このように若宮ノ東遺跡は土佐国における律令体制の整備段階から衰退までを遺構・遺物を通して具体的に検討できる重要な遺跡である。西部官衙群の状況

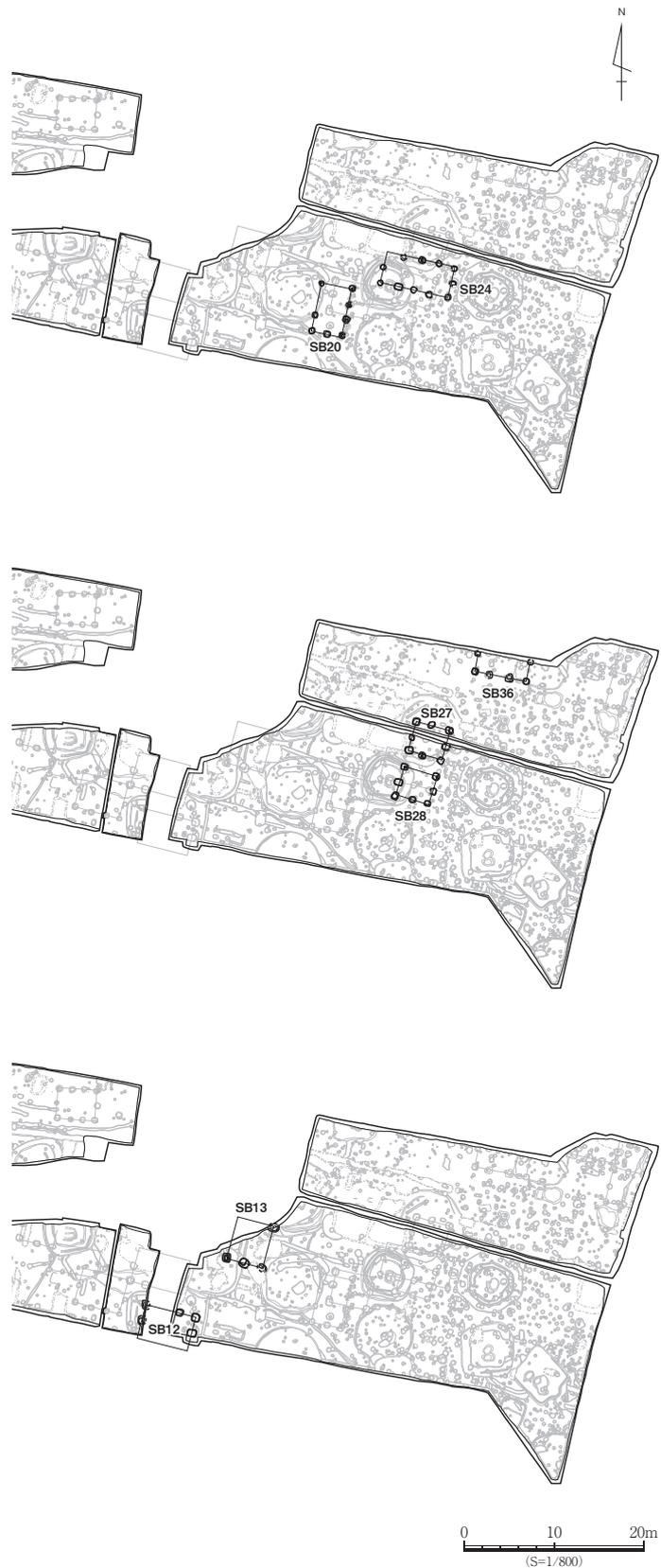


図535 東部官衙群掘立柱建物配置図_2

及び出土遺物の様相を加味するとともに周辺遺跡の状況を含めて検討することでさらに鮮明に描くことができる考える。

注

- (1) 2022年『若宮ノ東遺跡Ⅰ』（公財）高知県文化財団埋蔵文化財センター
- (2) 前掲注(1)第Ⅱ章
- (3) 各調査成果の詳細については、1区は前掲注(1)、5区、6-1区、7-1-3区は本書を参考されたい。
- (4) 南国市教育委員会から調査成果の提供を受け、図529・531を作成し、本書への掲載の許可を得た。
- (5) 約4.31m(14尺)の可能性はある。
- (6) 南国市教育委員会2022年「高知県南国市若宮ノ東遺跡の発掘調査」『考古学研究』第69巻第2号考古学研究会
- (7) 現在の住吉通りはその名残りと推測される。
- (8) 2011年『祈年遺跡Ⅰ』（財）高知県文化財団埋蔵文化財センター
- (9) 油利崇氏(南国市教育委員会)のご教示による。

第Ⅲ章 自然科学分析

第1節 若宮ノ東遺跡の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

若宮ノ東遺跡から検出された、炭化米ならびに炭化材に関して、その年代を知るために放射性炭素年代測定を行う。炭化材については樹種同定を行う。また、礫表面の微細な凹部に付着、残存した赤色顔料について、その種類を知る目的で蛍光X線分析を行う。

1. 年代測定と樹種同定

(1) 試料

分析試料は炭化材6-1区ST9と、炭化米7-3区P181の2点である。

炭化材は柁目板状を呈し、年輪数は12-14年、樹皮は残っていない。両端部に破損が認められる。年代測定試料および樹種同定試料は、端部の破損部を利用し、採取部位が目立たないように、残存する最外年輪からは2-3年ほど古い部分から小片を採取した。このうち、年代測定には50mg程度を用いる。

炭化米は大量にあるが、大部分が単粒で穎が付着していない。表面には土壌が付着しており、保存状態は悪い。このなかから8粒(50mg)を採取し、分析に用いる。

(2) 分析方法

① 放射性炭素年代測定

試料は、塩酸(HCl)により炭酸塩等酸可溶成分を除去、水酸化ナトリウム(NaOH)により腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、塩酸によりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する(酸・アルカリ・酸処理 AAA: Acid Alkali Acid)。濃度は塩酸、水酸化ナトリウム共に最大1mol/Lである。なお、試料が少量、脆弱等の理由で十分な炭素を回収できない恐れがある場合、アルカリの濃度を薄めて実施する(AaAと記載)。

試料の燃焼・熱分解、二酸化炭素の精製、グラファイト化(鉄を触媒とし水素で還元する)はElementar社のvario ISOTOPE cubeとIonplus社のAge3を連結した自動化装置を用いる。処理後のグラファイト・鉄粉混合試料をNEC社製のハンドプレス機を用いて内径1mmの孔にプレスし、測定試料とする。

測定はタンデム加速器をベースとした14C-AMS専用装置(NEC社製)を用いて、14Cの計数、13C濃度(13C/12C)、14C濃度(14C/12C)を測定する。AMS測定時に、米国国立標準局(NIST)から提供される標準試料(HOX-II)、国際原子力機関から提供される標準試料(IAEA-C6等)、バックグラウンド試料(IAEA-C1等)の測定も行う。

δ 13Cは試料炭素の13C濃度(13C/12C)を測定し、基準試料からのずれを千分偏差(‰)で表したものである。放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5568年を使用する。また、測定年代は1950年を基

点とした年代(BP)であり、誤差は標準偏差(One Sigma ; 68.2%)に相当する年代である。測定年代の表示方法は、国際学会での勧告に従う(Stuiver & Polach,1977)。また、暦年較正用に一桁目まで表した値も記す。

暦年較正に用いるソフトウェアは、Oxcal4.32 (Bronk,2009)を用いる。較正曲線はIntcal13 (Reimer et al.2013)を用いる。

②炭化材同定

試料を自然乾燥させた後、木口(横断面)・柁目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類(分類群)を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東(1982)やWheeler他(1998)を参考にする。また、日本産樹木の木材組織については、林(1991)や伊東(1995,1996,1997,1998,1999)を参考にする。

表5 放射性炭素年代測定結果

試料	種別/ 性状	方法	補正年代 (暦年較正用) BP	δ 13C (‰)	暦年較正年代								Code No.		
					年代値										確率
					σ	cal BC		cal AD				cal BP			
6-1区 ST9	炭化材	AaA (0.1M)	2030 ± 25 (2030 ± 23)	-26.93 ± 0.45	σ	54	-	5	2003	-	1945	cal BP	0.682	YU- 7058	pal- 10921
					2σ	104	-	28	2053	-	1922	cal BP	0.940		
						40	-	49	1911	-	1902	cal BP	0.014		
7-3区 P181	炭化米	AaA (0.01M)	885 ± 20 (883 ± 22)	-25.80 ± 0.38	σ	1058	-	1075	892	-	875	cal BP	0.124	YU- 7059	pal- 10922
					2σ	1154	-	1207	796	-	743	cal BP	0.558		
						1046	-	1093	905	-	858	cal BP	0.246		
			1120	-	1140	830	-	810	cal BP	0.062					
			1147	-	1219	804	-	732	cal BP	0.645					

- 1) 年代値の算出には、Libbyの半減期 5,568年を使用。
- 2) BP年代値は、1950年を基点として何年前であることを示す。
- 3) 付記した誤差は、測定誤差σ(測定値の68.2%が入る範囲)を年代値に換算した値。
- 4) AAAは、酸・アルカリ・酸処理を示す。AaAは試料が脆弱なため、アルカリの濃度を薄くして処理したことを示す。
- 5) 暦年の計算には、Oxcal v4.3.2を使用。
- 6) 暦年の計算には、補正年代に()で暦年較正用年代として示した、一桁目を丸める前の値を使用している。
- 7) 1桁目を丸めるのが慣例だが、較正曲線や較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1桁目を丸めていない。
- 8) 統計的に真の値が入る確率は、σが68.2%、2σが95.4%である。

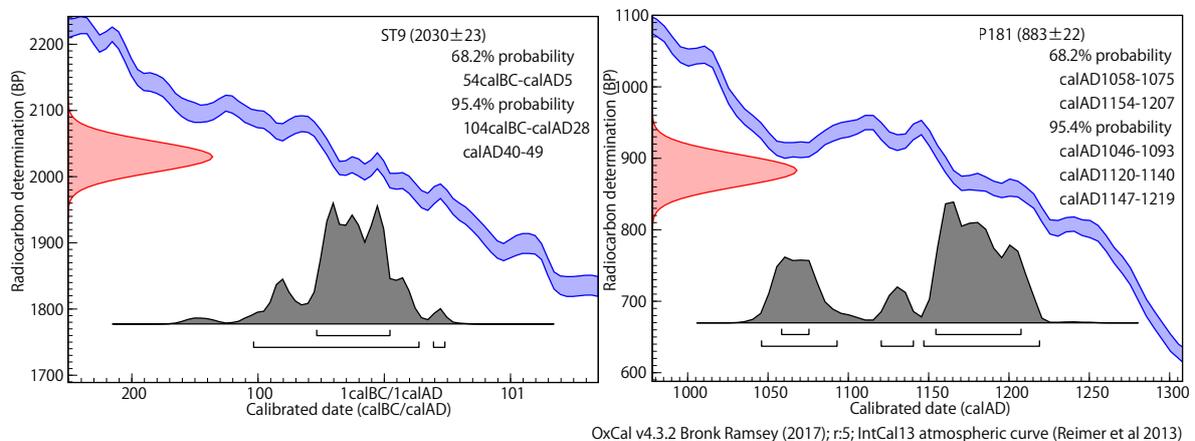


図536 暦年較正結果

(3)結果および考察

①放射性炭素年代測定

結果を表5, 図536に示す。ST9の炭化材, P181の炭化米共に, 脆弱で炭素を回収できない恐れがあったことから, アルカリ処理の濃度を薄くして前処理する(AaAと記載)。いずれも年代測定を行うのに十分な炭素が回収されている。

同位体補正を行った年代値は, ST9の炭化材が 2030 ± 25 BP, P181の炭化米が 885 ± 20 BPである。

暦年較正とは, 大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が5568年として算出された年代値に対し, 過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動, 及び半減期の違い(^{14}C の半減期 5730 ± 40 年)を較正することによって, 暦年代に近づける手法である。較正のもとになる直線は暦時代がわかっている遺物や年輪(年輪は細胞壁のみなので, 形成当時の ^{14}C 年代を反映している)等を用いて作られており, 最新のものは2013年に発表されたIntcall3 (Reimer et al.,2013)である。なお, 年代測定値に関しては, 国際的な取り決めにより, 測定誤差の大きさによって値を丸めるのが普通であるが(Stuiver & Polach 1977), 将来的な較正曲線ならびにソフトウェアの更新に伴う比較, 再計算がしやすいように, 表には丸めない値(1年単位)を記す。

2σ の値は, ST9の炭化材がcal BC 104~AD49, P181の炭化米がcal AD 1046~1219である。

②炭化材同定

炭化材は広葉樹のコナラ属アカガシ亜属に同定された。解剖学的特徴等を記す。

・コナラ属アカガシ亜属(*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*) ブナ科

放射孔材で, 管壁厚は中庸~厚く, 横断面では楕円形, 単独で放射方向に配列する。道管は単穿孔を有し, 壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性, 単列, 1 - 15細胞高のものと複合放射組織とがある。

同定を行った炭化材は, 残存長約9.5cm, 幅約3cm, 厚さ約1cmの柁目板状を呈する。両端部に破損が認められ, 実際には9.5cm以上の長さを持つと考えられる。

炭化材については, 広葉樹のアカガシ亜属に同定された。アカガシ亜属は, 暖温帯性常緑広葉樹林の主要な構成種の一つとなる常緑高木であり, 木材は重硬で強度が高いことから, 木製品は強度を必要とする用途・部位に利用された可能性がある。

2. 蛍光X線分析

(1)試料

分析対象は, 試料番号1(755), 試料番号2(756)の磨石2点に付着する赤色顔料である。実体顕微鏡下で観察後, 非破壊で赤色顔料付着部位を測定した。測定位置を示した写真と, 測定位置を拡大した実体顕微鏡写真を図版に示す。

(2)分析方法

実体顕微鏡下で観察後, 非破壊で赤色顔料付着部位を測定する。測定位置と, 測定位置を拡大した実体顕微鏡写真を図版に示す。分析装置は, エネルギー分散型蛍光X線分析装置である(株)堀場製作所製分析顕微鏡XGT-5000Type IIを使用する。装置の仕様は, X線管が最大50kV・1mAのロジウムターゲット, X線ビーム径が $100\ \mu\text{m}$ または $10\ \mu\text{m}$, 検出器は高純度Si検出器(Xerophy)である。

検出可能元素はナトリウム～ウランであるが、ナトリウム、マグネシウムといった軽元素は蛍光X線分析装置の性質上、検出感が悪い。

本分析での測定条件は、50kV、0.18～0.26mA(自動設定による)、ビーム径100 μm、測定時間500sに設定した。定量分析は、標準試料を用いないファンダメンタル・パラメータ法(FP法)による半定量分析を装置付属ソフトで行った。

(3)結果および考察

分析により得られたスペクトルおよびFP法による半定量分析結果を図539に示す。

いずれもケイ素(Si)、鉄(Fe)を中心に、アルミニウム(Al)、硫黄(S)、カリウム(K)、カルシウム(Ca)、チタン(Ti)、ルビジウム(Rb)、ストロンチウム(Sr)等が検出された。

赤色顔料の代表的なものとしては、朱(水銀朱)とベンガラが挙げられる。水銀朱は硫化水銀(HgS)で、鉱物としては辰砂と呼ばれ、産出地はある程度限定される。一方のベンガラは、狭義には三酸化二鉄(Fe₂O₃、鉱物名は赤鉄鉱)を指すが、広義には鉄(Ⅲ)の発色に伴う赤色顔料全般を指し(成瀬, 2004)、広範な地域で採取可能である。また、ベンガラは直径約1 μmのパイプ状の粒子形状からなるものも多く報告されている。このパイプ状の粒子形状は鉄バクテリア起源であると判明しており(岡田, 1997)、含水水酸化鉄を焼いて得た赤鉄鉱がこのような形状を示す(成瀬, 1998)。鉄バクテリア起源のパイプ状粒子は、湿地などで採集できる。

今回分析した試料は、いずれもケイ素など土中成分に由来すると考えられる元素は検出されたものの、水銀は検出されなかった。鉄が多く検出されており、赤い発色は鉄によるものと推定できる。すなわち、顔料としてはベンガラにあたる。

引用文献

- Bronk RC.,2009,Bayesian analysis of radiocarbon dates. Radiocarbon, 51, 337-360.
- 林 昭三,1991,日本産木材 顕微鏡写真集.京都大学木質科学研究所.
- 伊東隆夫,1995-1999,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ,Ⅳ,Ⅴ.木材研究・資料,31,32,33,34,35,京都大学木質科学研究所,81-181,66-176,83-201,30-166,47-216.
- 伊東隆夫・山田昌久(編),2012,木の考古学 出土木製品用材データベース.海青社,449p.
- 成瀬正和,1998,縄文時代の赤色顔料Ⅰ—赤彩土器—.考古学ジャーナル,438,ニューサイエンス社,10-14.
- 成瀬正和,2004,正倉院宝物に用いられた無機顔料.正倉院紀要,26,宮内庁正倉院事務所,13-61.
- 岡田文男,1997,パイプ状ベンガラ粒子の復元.日本文化財科学会第14回大会研究発表要旨集,38-39.
- Reimer PJ. et al,2013,IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves 0-50,000 years cal BP. Radiocarbon, 55, 1869-1887.
- 島地 謙・伊東隆夫,1982,図説木材組織.地球社,176p.
- Stuiver M.,& Polach AH.,1977,Radiocarbon 1977 Discussion Reporting of 14C Data. Radiocarbon, 19, 355-363.
- Wheeler EA.,Bass P. and Gasson PE (編),1998,広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト.伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩(日本語版監修),海青社,122p.



P181 全体

2cm

P181 年代測定試料

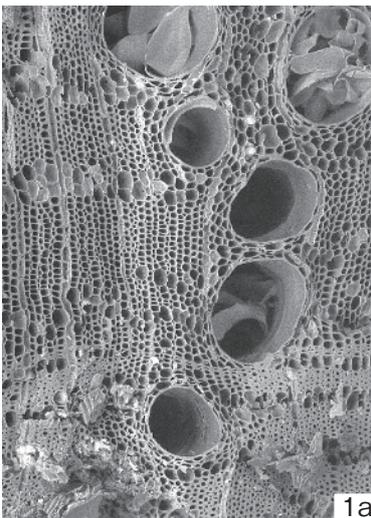
5mm



採取位置

ST9 全体

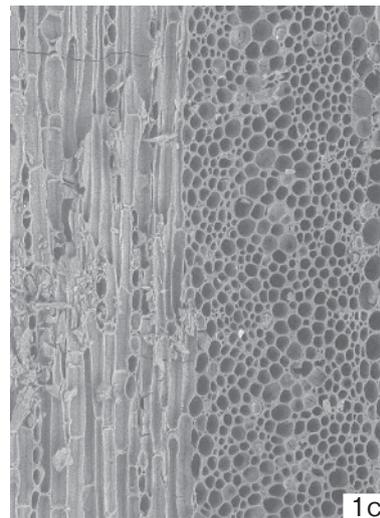
2cm



1a



1b



1c

1.コナラ属アカガシ亜属(ST9;木製品)
a:木口,b:柁目,c:板目

100 μ m:a

100 μ m:b,c

図537 年代測定試料・炭化材の顕微鏡写真

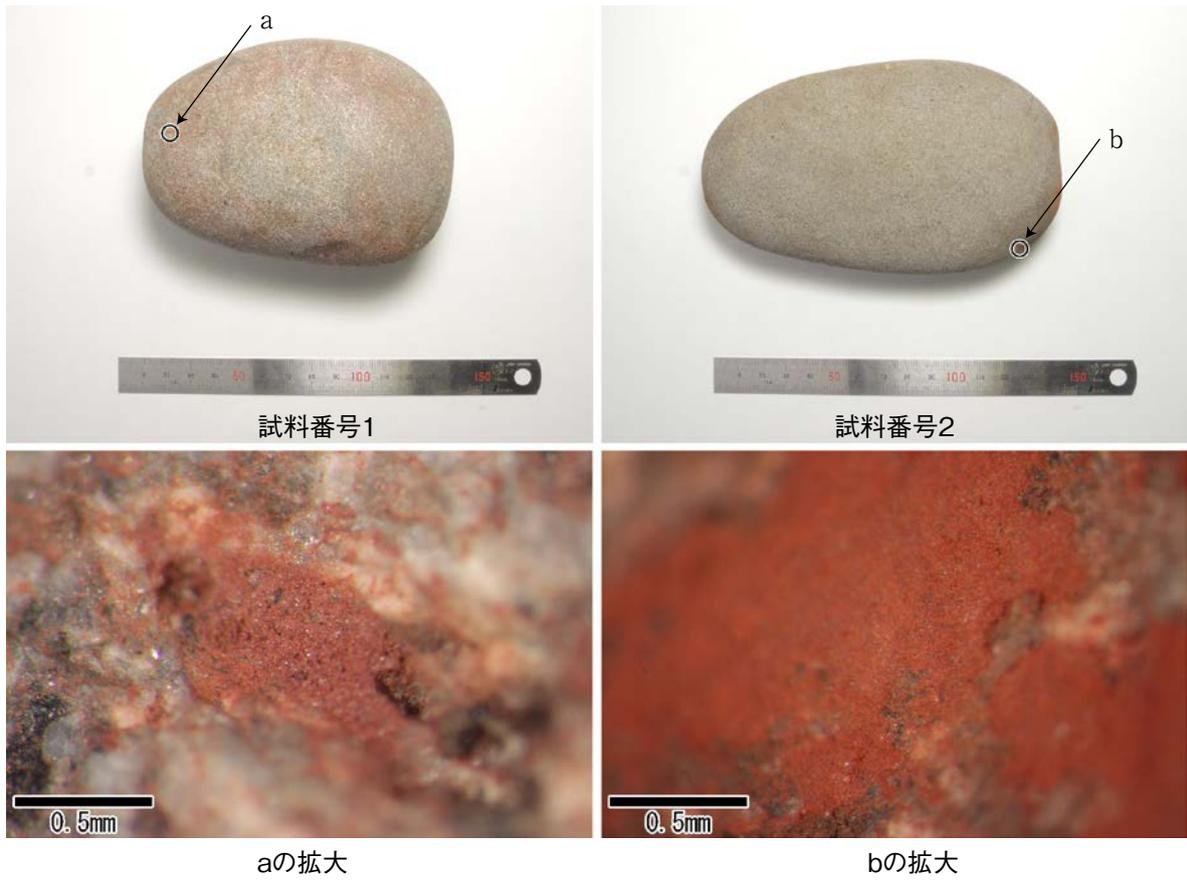


図538 測定位置と測定位置の実体顕微鏡写真

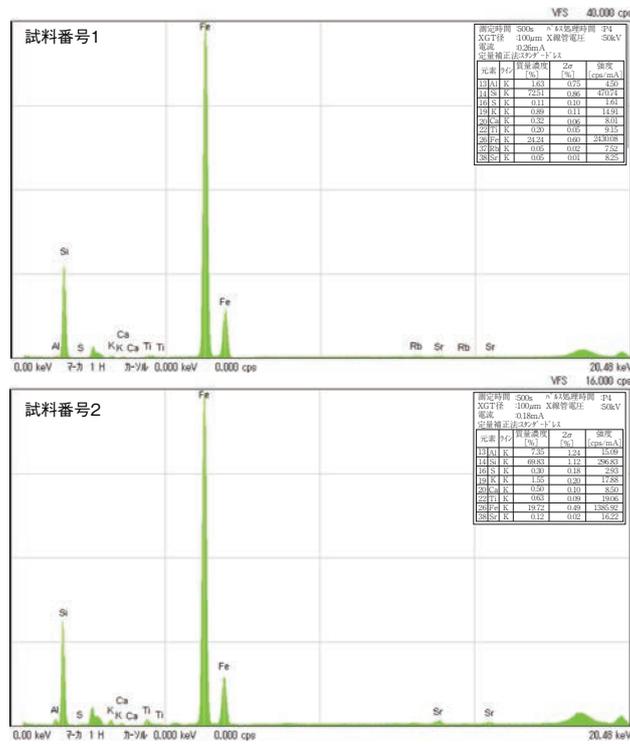


図539 赤色顔料の蛍光X線分析結果

第2節 若宮ノ東遺跡出土の赤色顔料の自然科学分析

竹原弘展(パレオ・ラボ)

1. はじめに

若宮ノ東遺跡で出土した弥生時代後期末から古墳時代初頭の赤色顔料について、蛍光X線分析を行い、顔料の種類を検討した。

2. 試料と方法

分析対象は、表6、図541に示す赤色顔料2点である。分析No.1は、竪穴建物跡ST9の埋土中の赤色顔料である。分析No.2は、竪穴建物跡ST24のP2より出土した叩き石に付着する赤色顔料である。実体顕微鏡下で赤色物を確認の上、極微量を採取してセロハンテープに貼り付け、分析試料とした。

表6 赤色顔料分析対象一覧

分析No.	調査区	出土遺構	種別	時期
1	4区	ST9	土	弥生時代後期末～古墳時代初頭
2	7-2区	ST24_P2	叩石	(弥生時代後期末～)古墳時代初頭

分析装置は、エネルギー分散型蛍光X線分析装置である株式会社堀場製作所製分析顕微鏡XGT-5000Type IIを使用した。装置の仕様は、X線管が最大50kV・1mAのロジウムターゲット、X線ビーム径が100 μmまたは10 μm、検出器は高純度Si検出器(Xerophy)である。検出可能元素はナトリウム～ウランであるが、ナトリウム、マグネシウムといった軽元素は蛍光X線分析装置の性質上、検出感度が悪い。

本分析での測定条件は、50kV、1.00mA(自動設定による)、ビーム径100 μm、測定時間500sに設定した。定量分析は、標準試料を用いないファンダメンタル・パラメータ法(FP法)による半定量分析を装置付属ソフトで行った。

さらに、蛍光X線分析用に採取した試料を観察試料として、生物顕微鏡で赤色顔料の粒子形状を確認した。

3. 結果

分析により得られたスペクトルおよびFP法による半定量分析結果を図540に示す。

分析の結果、アルミニウム(Al)、ケイ素(Si)、リン(P)、硫黄(S)、カリウム(K)、カルシウム(Ca)、マンガン(Mn)、鉄(Fe)等が検出された。

生物顕微鏡観察により得られた画像を図版1-1b、2bに示す。赤色パイプ状の粒子は、いずれも観察されなかった。

4. 考察

赤色顔料の代表的なものとしては、朱(水銀朱)とベンガラが挙げられる。水銀朱は硫化水銀(HgS)で、鉱物としては辰砂と呼ばれ、産出地はある程度限定される。ベンガラは狭義には三酸化二鉄(Fe₂O₃、鉱物名は赤鉄鉱)を指すが、広義には鉄(Ⅲ)の発色に伴う赤色顔料全般を指し(成瀬, 2004)、広範な地域で採取可能である。また、ベンガラは直径約1 μmのパイプ状の粒子形状からなるもの

も多く報告されている。このパイプ状の粒子形状は鉄バクテリア起源であると判明しており(岡田, 1997), 鉄バクテリア起源の含水水酸化鉄を焼いて得た赤鉄鉱がこのような形状を示す(成瀬, 1998)。鉄バクテリア起源のパイプ状粒子は, 湿地などで採集できる。

今回分析した試料からは, いずれもケイ素など土中成分に由来すると考えられる元素は検出されたものの, 水銀は検出されなかった。一方で鉄が検出されているため, 赤い発色は鉄によるものと推定できる。すなわち, 顔料としてはベンガラにあたる。パイプ状粒子は観察されず, いわゆるパイプ状ベンガラではなかった(図541)。

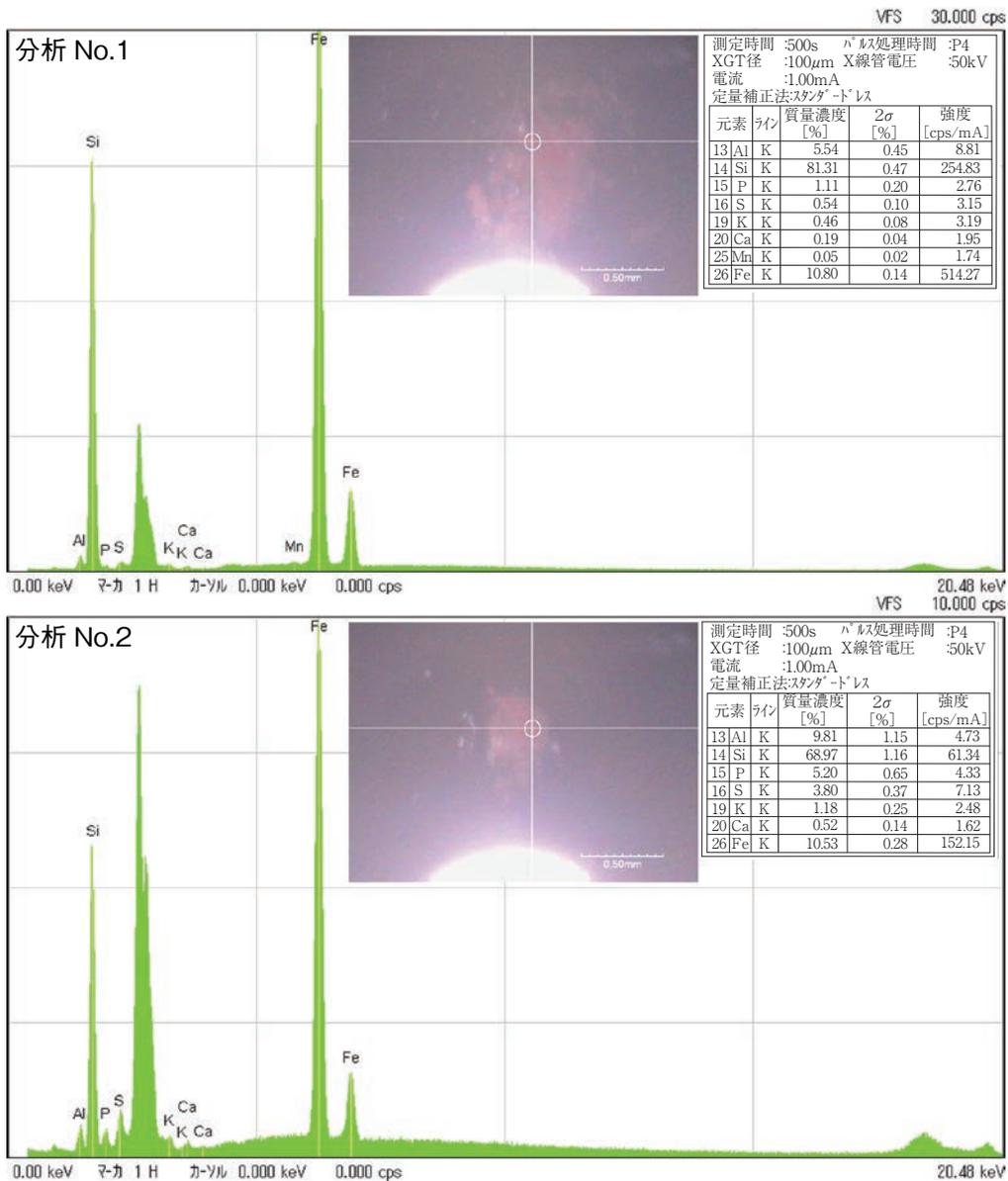


図540 赤色顔料の蛍光X線分析結果

5. おわりに

竪穴建物跡より出土した赤色顔料と叩き石に付着する赤色顔料の2点を分析した結果、いずれも鉄(Ⅲ)による発色と推定された。顔料としてはベンガラにあたる。

引用文献

成瀬正和 「縄文時代の赤色顔料Ⅰ—赤彩土器—」 『考古学ジャーナル』 438 10-14頁 1998年.

成瀬正和 「正倉院宝物に用いられた無機顔料」 『正倉院紀要』 26 13-61頁 2004年.

岡田文男 「パイプ状ベンガラ粒子の復元」 『日本文化財科学会第14回大会研究発表要旨集』 38-39頁 1997年.

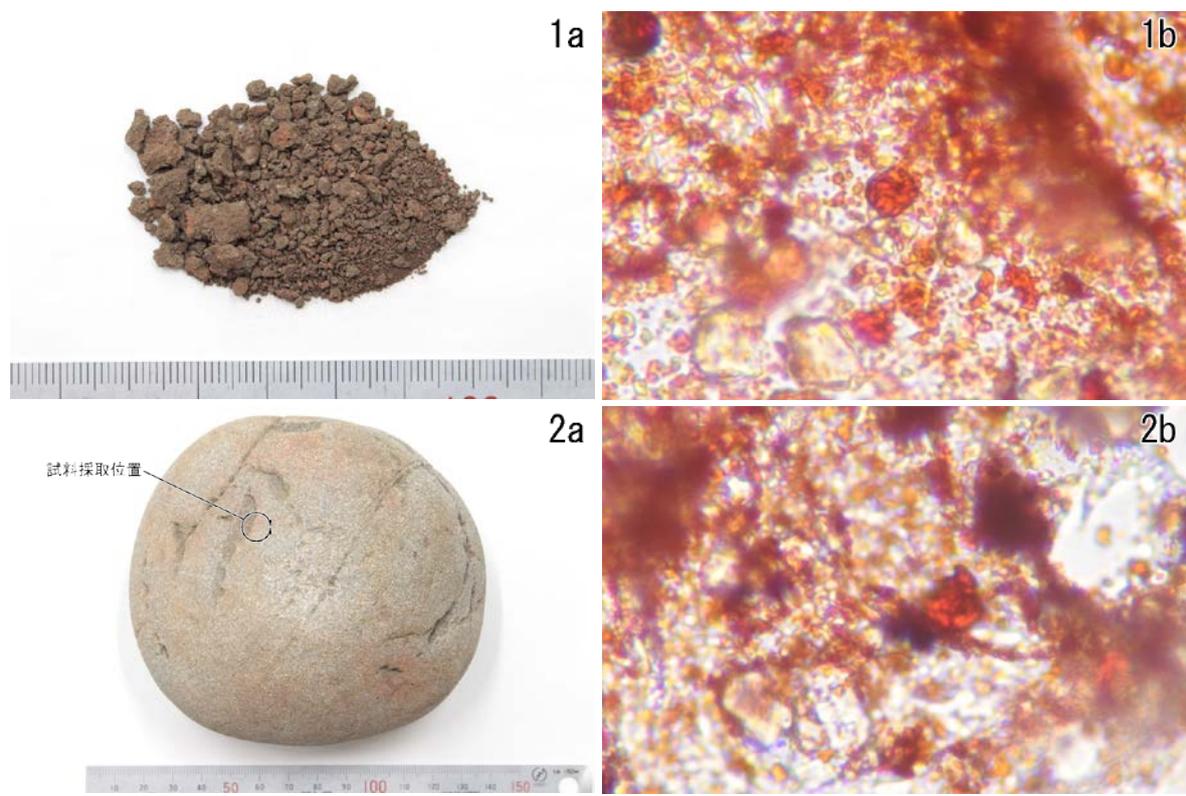


図541 分析対象試料(a)および赤色顔料の生物顕微鏡写真(b)

遺構計測表

表7 ST計測表

調査区名	遺構番号	調査年度	平面形	規模				床面標高 (m)	主軸方位	時期
				長軸 (m)	短軸 (m)	床面積 (㎡)	規模			
1E区	ST1	H28	隅丸方形	6.60	(4.00)	43.5	大型	7.3	N - 10° - W	後Ⅲ - 3
5区	ST1	H30	六角形	2.50	-	16.2	小型	7.5	-	古式土師器 I
〃	ST2	〃	-	-	-	-	-	7.4	-	-
〃	ST3	〃	隅丸方形	4.85	(1.60)	23.5	標準	7.4	N - 12° - E	後Ⅲ - 3
〃	ST4	〃	隅丸方形	4.94	4.68	23.1	標準	7.4	N - 18° - E	後Ⅲ - 3 ~ 古式土師器 I
〃	ST5	〃	-	-	-	-	-	7.5	-	-
〃	ST6	〃	六角形	3.00	-	23.3	標準	7.4	N - 90°	古式土師器 I
〃	ST7	〃	円形	7.80	-	47.7	特大型	7.5	-	-
〃	ST8	〃	隅丸方形か不整円形	8.00	-	50.2	特大型	7.4	N - 78° - W	古式土師器 I
〃	ST9	〃	不整円形	9.00	-	63.5	特大型	7.4	-	-
〃	ST10	〃	隅丸方形	5.20	(3.30)	27.0	標準	7.3	N - 13° - E	古式土師器 I
〃	ST11	〃	隅丸方形	4.92	(2.60)	24.2	標準	7.4	N - 9° - E	-
〃	ST12	〃	隅丸方形	6.15	(2.66)	37.8	大型	7.4	N - 20° - W	-
〃	ST13	〃	隅丸方形	4.00	(3.84)	16.0	小型	7.3	N - 14° - E	後Ⅲ - 3
〃	ST14	〃	隅丸方形	(2.26)	(1.30)	-	-	7.2	N - 10° - W	-
〃	ST15	〃	隅丸方形	4.36	(3.60)	19.0	小型	7.3	N - 20° - W	古式土師器 I
〃	ST16	〃	円形	7.50	-	44.1	大型	7.5	-	-
〃	ST17	〃	隅丸方形か	-	-	-	-	7.5	N - 74° - W	-
〃	ST18	〃	五角形	-	-	-	-	7.5	-	-
〃	ST19	〃	隅丸方形	(4.70)	-	-	標準	7.4	N - 16° - E	-
6.1区	ST1	H29	方形	7.86	(5.27)	61.7	特大型	7.5	N - 11° - E	後Ⅲ - 1
〃	ST2A	〃	隅丸方形	5.60	5.60	31.3	大型	7.2	N - 3° - E	後Ⅲ - 2
〃	ST2B	〃	隅丸方形	4.80	4.80	23.0	標準	7.4	N - 4° - W	-
〃	ST3	〃	不整隅丸方形	6.55	6.15	40.0	大型	7.2	N - 28° - E	後Ⅲ - 3
〃	ST4 (土坑)	〃	-	-	-	-	-	7.4	-	-
〃	ST5	〃	方形	(3.20)	(2.90)	-	-	7.4	N - 7° - E	-
〃	ST6 (欠番)	〃	-	-	-	-	-	-	-	-
〃	ST7 (欠番)	〃	-	-	-	-	-	-	-	-
〃	ST8 (欠番)	〃	-	-	-	-	-	-	-	-
〃	ST9	〃	隅丸方形 or 六角形	4.60	4.30	19.7	小型	7.6	N - 33° - W	-
〃	ST10	〃	-	-	-	-	-	7.7	N - 29° - W	-
〃	ST11	〃	五角形	7.50	7.20	40.0	大型	7.3	N - 11° - W	後Ⅲ - 3 ~ 古式土師器 I

ST 計測表

調査区	遺構 番号	調査 年度	平面形	規模				床面標高 (m)	主軸方位	時期
				長軸 (m)	短軸 (m)	床面積 (㎡)	規模			
6-1区	ST12	H29	方形	5.60	(3.90)	31.3	大型	7.2	N - 2° - W	-
〃	ST13	〃	隅丸方形	6.00	(2.80)	36.0	大型	7.3	N - 16° - W	-
〃	ST14	〃	凹形 or 隅丸方形	(4.30)	(2.90)	-	-	7.6	N - 35° - E	後Ⅲ - 3
〃	ST15	〃	六角形か	5.00	-	64.9	特大型	7.3	N - 3° - W	-
7-1-1区	ST1	〃	隅丸方形	4.00	(3.20)	16.0	小型	7.3	N - 8° - W	-
7-1-1・2区	ST2	〃	凹形	直径 7.90	-	49.0	特大型	7.3	-	-
7-3区	ST3	〃	凹形	直径 5.20	-	21.2	標準	7.6	-	-
〃	ST4	〃	隅丸長方形	(3.10)	2.97	10.0	小型	7.5	N - 22° - E	-
〃	ST5	〃	隅丸長方形	5.10	4.90	24.9	標準	7.5	N - 44° - W	7世紀
〃	ST6	〃	隅丸方形	5.90	5.80	34.2	大型	7.4	N - 3° - W	古式土師器Ⅰ
〃	ST7	〃	隅丸方形か	一辺 5.60	-	31.3	大型	7.7	N - 25° - E	後Ⅱ - 2
〃	ST8	〃	六角形	一辺 3.80	-	38.3	大型	7.6	N - 60° - W N - 82° - W	-
7-3区・ 7-4区	ST9	H29・30	六角形	一辺 4.60	-	54.9	特大型	7.6	N - 18° - E	後Ⅲ - 3
7-3区	ST10A	H29	隅丸方形	5.70	5.70	32.4	大型	7.6	N - 6° - E	-
〃	ST10B	〃	隅丸方形	4.80	4.80	23.0	標準	7.6	N - 31° - E	-
〃	ST11A	〃	凹形	直径 6.40	-	32.1	大型	7.7	-	-
〃	ST11B	〃	六角形	一辺 3.36	-	29.3	標準	7.7	N - 7° - E	-
〃	ST11C	〃	隅丸方形	(3.90)	(2.90)	-	-	7.7	N - 7° - W	-
〃	ST12	〃	凹形	直径 7.60	-	45.3	特大型	7.6	-	後Ⅰ・Ⅱ - 3
〃	ST13	〃	隅丸方形他	6.00	6.00	-	-	7.5	N - 2° - W	後Ⅲ - 3
7-3区・ 7-4区	ST14	H29・30	六角形	一辺 5.00	-	64.9	特大型	7.4	N - 5° - W	後Ⅲ - 3
7-3区	ST15	H29	隅丸方形 or 六角形	6.00	(6.00)	36.0	大型	7.6	N - 7° - E	-
〃	ST16	〃	隅丸方形	4.50	(1.40)	20.2	標準	7.6	N - 35° - W	-
〃	ST17	〃	不整凹形	直径 2.90	(2.20)	(6.6)	-	7.6	-	-
7-4区	ST18	H30	隅丸方形	4.80	(2.20)	23.0	標準	7.6	N - 2° - W	後Ⅲ - 3～ 古式土師器Ⅰ
〃	ST19	〃	隅丸方形	4.90	(2.50)	24.0	標準	7.7	N - 12° - E	後Ⅲ - 3
7-1-3区	ST20	R3	隅丸方形	(6.00)	-	(36.0)	大型	7.4	N - 5° - W	後Ⅱ - 3
〃	ST21	〃	隅丸方形か	-	-	-	-	7.4	N - 3° - W	-
7-2区	ST22	〃	隅丸方形	5.90	(4.10)	34.8	大型	7.2	N - 12° - W	古式土師器Ⅰ
〃	ST23	〃	隅丸長方形	5.50	5.30	29.1	標準	7.3	N - 5° - W	古式土師器Ⅰ
〃	ST24	〃	隅丸方形	(4.70)	(2.70)	26.0	標準	7.2	N - 1° - E	後Ⅲ - 3
〃	ST25	〃	隅丸方形	4.20	(3.30)	17.6	小型	7.4	N - 26° - W	後Ⅲ - 3
7-1-2区	ST26	H29	不明	-	(0.40)	-	-	7.6	-	後Ⅲ - 3

表 8 SB 計測表

調査 区名	遺構 番号	調査 年度	規模 (m)		床面積 (㎡)	主軸方位	棟方向	時 期
			桁行	梁行				
5 区	SB1	H30	7 × 2	20.58 × 5.88	121.0	N - 77° 44' - W	東西棟	7 世紀後葉か
〃	SB2	〃	4 × 2	7.24 × 3.74	27.1	N - 78° 59' - W	東西棟	-
〃	SB3	〃	3 × 1	7.36 × 2.66	19.6	N - 77° 37' - W	東西棟	-
〃	SB4	〃	2 × (1)	5.62 × (2.81)	-	N - 84° 31' - W	東西棟	-
〃	SB5	〃	2 × (1)	7.62 × (2.89)	-	N - 75° 52' - W	東西棟	-
〃	SB6	〃	1 × 2	3.68 × 3.73	13.7	N - 11° 36' - E	南北棟	-
〃	SB7	〃	1 × 2	3.63 × 3.40	12.3	N - 11° 48' - E	南北棟	-
〃	SB8	〃	2 × 2	6.82 × 3.66	24.9	N - 75° 28' - W	東西棟	-
〃	SB9	〃	3 × 1	6.04 × 4.44	26.8	N - 14° 36' - E	南北棟	-
〃	SB10	〃	4 × 2	7.33 × 3.45	25.3	N - 79° 04' - W	東西棟	近世以降
〃	SB11	〃	1 × 2	4.54 × 3.75	17.0	N - 14° 16' - E	南北棟	-
〃	SB12	〃	2 × 2	6.76 × 3.71	25.1	N - 75° 41' - W	東西棟	-
〃	SB13	〃	3 × 2	5.30 × 3.64	19.3	N - 84° 16' - W	東西棟	-
〃	SB14	〃	(2) × 1	(1.92) × 3.84	-	N - 13° 19' - E	南北棟	-
〃	SB15	〃	3 × 1	8.43 × 4.61	38.8	N - 15° 04' - E	南北棟	-
6-1 区	SB1	H29	4 × 2	7.09 × 4.01	28.4	N - 12° 32' - W	東西棟	-
〃	SB2	〃	3 × 2	4.36 × 3.48	15.2	N - 4° 23' - E	東西棟	-
〃	SB3	〃	2 × 2	5.80 × 4.95	28.7	N - 2° 54' - E	南北棟	-
〃	SB4	〃	2 × 2	5.03 × 3.31	16.6	N - 73° 31' - W	東西棟	-
〃	SB5	〃	3 × 1	5.59 × 3.36	18.8	N - 76° 30' - W	東西棟	-
〃	SB6	〃	2 × 2	6.04 × 2.99	18.0	N - 77° 8' - W	東西棟	-
〃	SB7	〃	2 × 2	5.07 × 3.66	18.6	N - 78° 39' - W	東西棟	-
〃	SB8	〃	2 × 2	4.85 × 3.70	17.9	N - 79° 27' - W	東西棟	-
〃	SB9	〃	(3) × 2	(6.66) × 3.72	-	N - 17° 17' - E	南北棟	-
〃	SB10	〃	3 × 2	6.16 × 3.41	21.0	N - 16° 29' - E	南北棟	-
〃	SB11	〃	4 × 3	10.14 × 6.11	62.0	N - 77° 14' - W	東西棟	-
〃	SB12	〃	4 × 1	8.49 × 4.59	38.9	N - 77° 14' - W	東西棟	10 世紀後半～11 世紀初頭
7-1-3 区	SB1	R3	(1) × (2)	(1.79) × (2.17)	-	N - 13° 42' - E	南北棟	-

SB 計測表

調査 区名	遺構 番号	調査 年度	規模 (m)		床面積 (㎡)	主軸方位	棟方向	時 期
			桁行×梁行					
7-1-3区	SB2	R3	(1) × (2)	(1.94) × (2.13)	-	N - 16° 10' - E	南北棟	-
7-1-2区	SB3	H29	2 × 2	3.92 × 2.62	10.2	N - 79° 57' - W	東西棟	-
7-1-1区	SB4	〃	(1) × -	(1.85) × -	-	N - 78° 30' - W	-	-
〃	SB5	〃	(1) × 1	(2.47) × 3.14	-	N - 0° 40' - E	南北棟	-
7-2区	SB6	R3	2 × 1	4.39 × 3.56	15.6	N - 14° 02' - E	南北棟	-
〃	SB7	〃	(1) × 2	(2.02) × 3.84	-	N - 14° 28' - E	南北棟	-
〃	SB8	〃	3 × 2	3.87 × 2.70	10.4	N - 74° 23' - W	東西棟	-
〃	SB9	〃	3 × 2	5.34 × 3.01	16.1	N - 80° 12' - W	東西棟	-
〃	SB10	〃	3 × 2	5.16 × 3.94	20.4	N - 74° 47' - W	東西棟	-
7-2・3区	SB11	H29・R3	2 × 2	5.85 × 3.89	-	N - 75° 08' - W	東西棟	-
〃	SB12	〃	2 × (1)	5.74 × (1.95)	-	N - 75° 41' - W	東西棟	-
7-3区	SB13	H29	1 × 2	4.83 × 4.13	19.9	N - 14° 51' - E	南北棟	7世紀か
〃	SB14	〃	3 × 2	9.06 × 5.81	52.7	N - 13° 30' - E	南北棟	-
〃	SB15	〃	2 × 1	5.90 × 2.83	16.7	N - 83° 44' - E	東西棟	-
7-3・4区	SB16	H29・H30	3 × 2	5.89 × 4.68	27.5	N - 11° 51' - E	南北棟	-
7-4区	SB17	H30	2 × 2	4.85 × 4.26	20.6	N - 23° 51' - E	南北棟	-
〃	SB18	〃	3 × 2	6.38 × 3.72	23.8	N - 11° 55' - E	南北棟	-
7-3区	SB19	H29	3 × 1	6.85 × 3.45	23.7	N - 10° 59' - E	南北棟	13世紀か
〃	SB20	〃	3 × 2	5.54 × 3.41	18.9	N - 11° 51' - E	南北棟	-
〃	SB21	〃	1 × 2	4.13 × 3.73	15.4	N - 78° 00' - W	東西棟	-
〃	SB22	〃	4 × 1	6.08 × 3.47	21.1	N - 84° 45' - W	東西棟	-
〃	SB23	〃	(1) × 1	(2.37) × 4.11	-	N - 12° 54' - E	南北棟	-
〃	SB24	〃	4 × 2	7.70 × 3.54	27.3	N - 77° 13' - W	東西棟	10世紀前半
〃	SB25	〃	2 × (1)	6.21 × (1.99)	-	N - 79° 02' - W	東西棟	-
〃	SB26	〃	5 × 1	7.18 × 2.33	16.7	N - 79° 23' - W	東西棟	10世紀後半～11世紀初頭
7-3・4区	SB27	H29・H30	2 × 2	3.90 × 3.37	13.1	N - 74° 21' - W	東西棟	-
7-3区	SB28	H29	2 × 2	3.81 × 3.30	12.6	N - 72° 35' - W	東西棟	-
7-3・4区	SB29	H29・H30	6 × 5	13.96 × 11.19	156.2	N - 74° 18' - W	東西棟	11世紀後半

調査 区名	遺構 番号	調査 年度	規模 (m)		床面積 (㎡)	主軸方位	棟方向	時 期
			桁行	梁行				
7-3 区	SB30	H29	3 × 1	5.56 × 2.39	13.3	N - 69° 33' - W	東西棟	-
〃	SB31	〃	3 × 2	5.36 × 4.87	26.1	N - 77° 11' - E	南北棟	-
〃	SB32	〃	2 × 2	6.25 × 5.16	32.2	N - 10° 08' - E	南北棟	12 世紀後半
〃	SB33	〃	4 × 2	8.77 × 4.14	36.3	N - 76° 22' - W	東西棟	-
〃	SB34	〃	6 × (3)	11.99 × (6.80)	-	N - 77° 57' - W	東西棟	10 世紀後半
7-4 区	SB35	H30	3 × 2	4.67 × 3.47	16.2	N - 14° 54' - E	南北棟	-
〃	SB36	〃	(1) × 3	(2.24) × 5.83	-	N - 11° 23' - E	南北棟	-
〃	SB37	〃	3 × 1	6.03 × 3.38	20.4	N - 77° 50' - E	東西棟	-
〃	SB38	〃	3 × 2	6.40 × 3.71	23.8	N - 77° 09' - W	東西棟	-
〃	SB39	〃	(2) × 2	(3.13) × 3.23	-	N - 12° 19' - E	南北棟	-
〃	SB40	〃	3 × 3	5.76 × 3.79	21.8	N - 66° 00' - W	東西棟	-
7-3 区	SB41	H29	5 × 3	11.40 × 6.62	75.6	N - 74° 23' - W	東西棟	10 世紀後半～11 世紀後半
〃	SB42	〃	2 × 2	4.80 × 2.52	12.1	N - 8° 54' - E	南北棟	-
〃	SB43	〃	2 × 2	5.34 × 4.03	21.5	N - 76° 07' - W	東西棟	-
7-3・4 区	SB44	H29・30	2 × 1	4.99 × 3.61	18.0	N - 74° 23' - W	東西棟	-
7-3 区	SB45	H29	4 × 2	8.25 × 3.98	32.8	N - 16° 35' - E	南北棟	7 世紀か
〃	SB46	〃	2 × 1	4.12 × 2.42	9.9	N - 14° 08' - E	南北棟	-
〃	SB47	〃	3 × 2	6.45 × 4.20	27.1	N - 24° 00' - E	南北棟	-
〃	SB48	〃	2 × 2	4.83 × 3.82	18.4	N - 10° 32' - E	南北棟	-
〃	SB49	〃	2 × 2	5.65 × 3.44	19.4	N - 73° 39' - W	東西棟	-
〃	SB50	〃	3 × 2	5.46 × 3.88	21.2	N - 76° 42' - W	東西棟	-
〃	SB51	〃	3 × (1)	6.23 × (1.74)	-	N - 77° 14' - W	東西棟	-
7-4 区	SB52	H30	(1) × (3)	(1.33) × (4.56)	-	N - 12° 16' - E	南北棟	-
〃	SB53	〃	(2) × 2	(3.75) × 4.19	-	N - 14° 07' - E	南北棟	-
〃	SB54	〃	2 × 1	3.77 × 2.68	10.1	N - 88° 10' - E	東西棟	-
〃	SB55	〃	(2) × 2	(3.28) × 3.96	-	N - 76° 08' - W	東西棟	8 世紀後半
〃	SB56	〃	2 × 1	3.91 × 2.70	10.5	N - 11° 46' - E	南北棟	-
〃	SB57	〃	2 × 1	5.41 × 2.02	10.9	N - 76° 13' - E	東西棟	11 世紀後半～12 世紀前半

SB・SA 計測表

調査 区名	遺構 番号	調査 年度	規模 (m)		床面積 (m ²)	主軸方位	棟方向	時 期
			桁行	梁行				
7-4区	SB58	H30	3 × 1	6.98 × 4.18	29.2	N - 74° 27' - W	東西棟	10世紀後半～11世紀前半
7-3・4区	SB59	H29・30	(2) × 1	(3.89) × 4.47	-	N - 62° 20' - W	東西棟	10世紀後半～11世紀前半
7-4区	SB60	H30	(2) × 1	(4.18) × 2.74	-	N - 74° 59' - W	東西棟	-
7-3区	SB61	H29	4 × 2	7.37 × 4.11	30.3	N - 78° 02' - E	南北棟	10世紀後半～11世紀前半
〃	SB62	〃	3 × 1	5.68 × 3.88	22.0	N - 64° 51' - W	東西棟	-
〃	SB63	〃	3 × 1	4.21 × 2.63	11.1	N - 79° 56' - W	東西棟	-
〃	SB64	〃	3 × 2	5.89 × 4.03	23.7	N - 77° 23' - W	東西棟	-
〃	SB65	〃	2 × 2	5.25 × 3.73	19.6	N - 78° 08' - W	東西棟	12世紀後半
〃	SB66	〃	2 × 1	5.72 × 2.48	14.2	N - 78° 32' - W	東西棟	-
〃	SB67	〃	3 × 2	5.97 × 5.93	35.4	N - 79° 09' - W	南北棟	-
〃	SB68	〃	3 × 3	6.87 × 6.23	42.8	N - 12° 16' - E	南北棟	-

表9 SA計測表

調査区名	遺構 番号	調査 年度	構成ピット	規模		主軸方位	時 期
				検出長 (m)	柱間寸法 (m)		
6-1区	SA1	H29	P41・72・73・90・164	7.25	0.9～3.30	N - 13° 29' - E	-
7-1区	SA1	〃	SK1・4	2.15	2.15	N - 14° 28' - E	-
7-2区	SA2	R3	P1030～1032	3.31	1.65・1.70	N - 74° 26' - W	-
7-4区	SA3	H30	P674・677・719・772・787・868・907・ST9_P16 他	34.01	1.80～8.70	N - 79° 35' - W	-
〃	SA4	〃	P652・851・863・881・906・913・ST9_P17他	22.35	2.05～4.45	N - 79° 35' - W	-
7-3区	SA5	H29	P505・555	1.65	1.65	N - 80° 30' - W	-
7-3・4区	SA6	H29・30	P107・258・483・486・547・604・615・668・ 689・725・747・782・796・803・811・893・899	50.07	1.10～6.75	N - 15° 41' - E	10世紀前半
〃	SA7	〃	P41・76・146・179・222・239・286・485・490・ 600・647・714・728・794・818・823・840・852・ 865・890・ST11_P24	46.33	1.10～6.00	N - 15° 41' - E	10世紀後半～11世紀前半
7-4区	SA8	H30	P745・768・791・856・859	9.94	1.90～2.10	N - 78° 02' - W	-
〃	SA9	〃	P749・755・778・799・819・847・850他	12.37	1.90～2.20	N - 78° 02' - W	-
7-3区	SA10	H29	P194・260・542他	9.48	2.25～2.55	N - 74° 21' - W	-
〃	SA11	〃	P244・321・322他	9.40	2.00～2.70	N - 74° 21' - W	-

表 10 SK 計測

調査区名	遺構 番号	調査 年度	平面形	規模			主軸方位	時期等
				長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (cm)		
1E 区	SK1	H28	円形	1.58	1.42	53	-	近世以降
〃	SK2	〃	楕円形	1.57	1.43	62	-	近世以降
〃	SK3	〃	隅丸方形	1.46	1.28	41	N - 16° - E	近世以降
〃	SK4	〃	-	(1.17)	(0.54)	53	-	近世以降
〃	SK5	〃	-	(0.73)	(0.47)	22	-	-
〃	SK6	〃	円形か	(1.35)	(0.76)	41	-	近世以降
〃	SK7	〃	不整隅丸長方形か	(1.32)	(0.50)	5	N - 12° - E	-
〃	SK8	〃	楕円形	1.56	(0.85)	9	N - 10° - E	-
〃	SK9	〃	長方形か	(1.75)	0.76	23	N - 75° - E	-
〃	SK10	〃	隅丸方形	0.92	0.79	23	N - 74° - W	-
〃	SK11	〃	隅丸方形か	0.79	0.70	12	N - 19° - E	-
〃	SK12	〃	楕円形	0.88	0.70	6	N - 16° - W	-
〃	SK13	〃	円形 or 隅丸長方形	(2.02)	(0.83)	43	-	-
〃	SK14	〃	-	(1.69)	(0.74)	63	-	近世以降
〃	SK15	〃	円形	0.82	(0.48)	23	-	近世以降
5 区	SK1	H30	不整隅丸方形	1.64	1.42	23	N - 84° - E	-
〃	SK2	〃	不整隅丸方形	1.24	(0.98)	10	N - 17° - E	-
〃	SK3	〃	-	-	-	-	-	攪乱
〃	SK4	〃	円形	1.09	1.06	7	N - 26° - E	-
〃	SK5	〃	隅丸方形	1.85	1.06	10	N - 78° - W	-
〃	SK6	〃	不整楕円形	1.24	0.88	6 ~ 28	N - 88° - W	-
〃	SK7	〃	不整隅丸三角形	(1.14)	0.84	26	N - 20° - E	-
〃	SK8	〃	不整隅丸長方形	1.84	0.82 ~ 1.00	11	N - 21° - E	-
〃	SK9 西	〃	-	0.56	-	5	-	-
〃	SK9 東	〃	-	0.48	-	5	-	-
〃	SK10	〃	隅丸方形	-	-	-	-	SA
〃	SK11	〃	隅丸長方形	(2.26)	1.40	10	N - 72° - W	-
〃	SK12	〃	長楕円形	1.21	0.48	21	N - 7° - E	-

SK 計測表

調査区名	遺構番号	調査年度	平面形	規模			主軸方位	時期等
				長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (cm)		
5区	SK13	H30	隅丸長方形	1.39	1.18	10	N - 74° - W	-
〃	SK14	〃	長楕円形	1.08	0.39	29	N - 73° - W	-
〃	SK15	〃	不整隅丸長方形か	(1.36)	1.46	10	N - 23° - E	-
〃	SK16	〃	-	-	-	-	-	倒木痕
〃	SK17	〃	不整楕円形	0.77	0.52	7	N - 71° - W	-
〃	SK18	〃	楕円形	1.27	0.70	8	N - 79° - W	-
〃	SK19	〃	-	(1.90)	0.56*0.94	6	N - 10° - E	溝跡か
〃	SK20	〃	-	(0.36)	0.33	6	N - 11° - E	-
〃	SK21	〃	-	(0.35)	0.44	12	N - 15° - E	-
〃	SK22	〃	隅丸長方形か	(2.90)	1.32	8	N - 17° - E	-
〃	SK23	〃	不整隅丸方形	1.04	0.91	6	N - 2° - W	攪乱か
〃	SK24	〃	不整楕円形	1.55	(1.20)	11	N - 74° - E	-
〃	SK25	〃	不整円形	1.14	0.96	(121)	N - 25° - E	-
〃	SK26	〃	隅丸長方形	(2.16)	(1.50)	(4)	N - 75° - E	-
〃	SK27	〃	不整形	(3.58)	(2.01)	7	N - 83° - W	-
〃	SK28	〃	-	-	-	-	-	ST11の一部
〃	SK29	〃	不整隅丸方形	1.04	0.89	5	N - 25° - W	-
〃	SK30	〃	隅丸方形	0.62	0.58	12	N - 14° - E	-
〃	SK31 北	〃	円形	直径 0.36	-	13	-	-
〃	SK31 南	〃	円形	直径 0.38	-	11	-	-
〃	SK32	〃	不整形	0.87	0.25	5	N - 13° - W	-
6-1区	SK1	H29	不整円形	1.95	1.93	45	-	近世以降
〃	SK2	〃	不整円形	2.47	2.39	46	-	近世以降
〃	SK3 南	〃	不整円形	2.72	(2.03)	48	-	近世以降
〃	SK3 北	〃	不整円形	2.14	(1.16)	44	-	近世以降
〃	SK4	〃	不整形か	2.71	(1.34)	66	N - 82° - W	-
〃	SK5	〃	不整円形	1.90	(1.78)	44	-	-
〃	SK6	〃	不整円形	2.72	(2.23)	44	-	-

調査区名	遺構 番号	調査 年度	平面形	規模			主軸方位	時期等
				長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (cm)		
6-1 区	SK7	H29	不整円形か	(2.30)	(1.64)	39	-	-
〃	SK8	〃	溝状	(4.29)	0.90	14	N - 28° - E N - 82° - W	-
〃	SK9	〃	不整円形か	1.48	(1.24)	18	N - 22° - E	-
〃	SK10	〃	楕円形か	2.00	(0.98)	7	N - 75° - W	-
〃	SK11	〃	不整円形	2.03	1.92	37	-	近世以降
〃	SK12	〃	隅丸長方形	1.96	1.52	13	N - 5° - E	-
〃	SK13	〃	不整円形	2.13	1.95	60	-	近世以降
〃	SK14	〃	不整楕円形	(2.26)	1.96	64	-	-
〃	SK15	〃	不整円形	(2.12)	2.10	60	-	-
〃	SK16	〃	溝状	(0.98)	0.37	13	N - 9° - E	-
〃	SK17	〃	隅丸長方形	(1.23)	1.02	9	N - 2° - W	-
〃	SK18	〃	溝状か	(1.28)	0.97	16	N - 5° - E	-
〃	SK19	〃	溝状	6.12	0.84 ~ 1.59	13 ~ 24	N - 68° - W	-
〃	SK20	〃	溝状	(2.03)	0.56	5 ~ 10	N - 77° - E	-
〃	SK21	〃	不整形	(2.14)	0.68 ~ (1.60)	45・51	N - 80° - E	-
〃	SK22	〃	溝状	1.72	0.38 ~ 0.41	22	N - 12° - E	-
〃	SK23	〃	楕円形	1.45	1.00	31	N - 85° - W	-
〃	SK24	〃	不整円形	1.46	1.37	60	-	-
〃	SK25	〃	不整円形か	(1.44)	(0.67)	25	N - 71° - W	-
〃	SK26	〃	不整隅丸方形	1.08	(0.92)	15	N - 77° - W	-
〃	SK27	〃	不整隅丸方形	(0.83)	0.88	20	N - 10° - E	-
〃	SK28	〃	不明	(2.56)	1.30	10・20	N - 6° - E	-
〃	SK29	〃	溝状	(2.64)	0.73	13	N - 2° - E	-
〃	SK30	〃	不整形か	(4.12)	(4.10)	5・18	N - 76° - W	-
7-1 区	SK1	〃	不整隅丸方形	-	-	-	-	SA1 の柱穴
〃	SK2	〃	不明	(0.48)	(0.34)	5	N - 39° - W	-
〃	SK3	〃	隅丸方形	-	-	-	-	SK4
〃	SK4	〃	隅丸方形か	-	-	-	-	SA1 の柱穴

SK 計測表

調査区名	遺構 番号	調査 年度	平面形	規模			主軸方位	時期等
				長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (cm)		
7-1 区	SK5	H29	-	-	-	-	-	ST2
〃	SK6	〃	-	-	-	-	-	欠番
7-1-1 区	SK7	〃	隅丸長方形か	(0.32)	(0.58)	45	N - 31° - E	-
7-1 区	SK8	〃	隅丸方形	-	-	-	-	SB4 の柱穴
7-1-1 区	SK9	〃	溝状	2.04	0.22	5・13	N - 4° - W	-
〃	SK10	〃	隅丸長方形か	(0.76)	0.84	18	N - 3° - E	-
〃	SK11	〃	溝状	4.22	0.52	4 ~ 14	N - 79° - W	-
7-3 区	SK12	〃	不整形	1.14	1.03	17・50	N - 29° - W	-
〃	SK13	〃	不整形	1.32	1.04	21・40	N - 23° - W	-
〃	SK14	〃	不整形	1.17	1.08	34・63	N - 21° - E	-
〃	SK15	〃	不整形	1.14	1.20	12	N - 46° - W	-
〃	SK16	〃	不整形	0.91	0.74	12	N - 49° - W	-
〃	SK17	〃	不整形	1.02	0.89	10	N - 56° - W	-
〃	SK18	〃	不整形隅丸方形	1.00	0.98	11	N - 34° - E	-
〃	SK19	〃	楕円形か	1.42	(0.78)	54・66	N - 66° - W	-
〃	SK20	〃	楕円形	1.22	0.62	20	N - 3° - E	-
〃	SK21	〃	隅丸長方形	1.40	0.84	26	N - 82° - E	-
〃	SK22	〃	不整形楕円形か	(1.10)	(0.70)	11	N - 79° - W	-
〃	SK23	〃	隅丸長方形	1.72	1.40	4	N - 4° - W	-
〃	SK24	〃	隅丸方形	-	-	-	-	SB13 の柱穴
〃	SK25	〃	不整形	1.52	1.10	9	N - 63° - W	-
〃	SK26	〃	楕円形	-	-	-	-	SB13 の柱穴
〃	SK27	〃	楕円形か	-	-	-	-	SB13 の柱穴
〃	SK28	〃	不整形	(1.89)	(0.46)	6 ~ 8	N - 3° - W	-
7-4 区	SK29	H30	不整形	1.55	(1.45)	63	N - 7° - E	-
〃	SK30	〃	溝状	(2.16)	0.54	8 ~ 13	N - 12° - E	-
〃	SK31	〃	不整形	1.24	0.66	12	N - 9° - E	-
〃	SK32	〃	-	1.85	0.82	16	-	SK45・46

調査区名	遺構 番号	調査 年度	平面形	規模			主軸方位	時期等
				長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (cm)		
7-4 区	SK33	H30	不整形	-	-	-	-	SB40 の柱穴
〃	SK34	〃	不整形	2.66	2.22	65	N - 65° - W	-
〃	SK35	〃	隅丸長方形か	(1.13)	1.02	12	N - 83° - W	-
〃	SK36	〃	隅丸長方形	1.36	(1.00)	43	N - 19° - E	-
〃	SK37	〃	楕円形か	-	-	-	-	SB27 の柱穴
〃	SK38	〃	楕円形か	-	-	-	-	SB27 の柱穴
〃	SK39	〃	楕円形	0.61	0.44	17	N - 59° - W	-
〃	SK40	〃	不整隅丸方形	0.94	0.90	22	N - 6° - E	-
〃	SK41	〃	楕円形	-	-	-	-	SB41 の柱穴
〃	SK42	〃	不整隅丸方形	1.75	(1.45)	65	N - 8° - E	-
〃	SK43	〃	隅丸方形	-	-	-	-	SB52 の柱穴
〃	SK44	〃	不整隅丸方形	-	-	-	-	SB52 の柱穴
〃	SK45	〃	不整形	1.03	0.84	40・48	N - 74° - E	-
〃	SK46	〃	隅丸方形	0.94	(0.88)	36・37	N - 14° - E	-
〃	SK47	〃	-	-	-	-	-	攪乱
〃	SK48	〃	溝状	1.70	0.64	31	N - 33° - W	-
〃	SK49	〃	不整形	-	-	-	-	SB60 の柱穴
〃	SK50	〃	楕円形か	-	-	-	-	SB60 の柱穴
〃	SK51	〃	隅丸方形	-	-	-	-	SB52 の柱穴
〃	SK52	〃	溝状	2.22	0.68	16	N - 67° - W	-
〃	SK53	〃	楕円形	-	-	-	-	SB60 の柱穴
〃	SK54	〃	楕円形	(0.80)	0.60	27	N - 44° - E	-
7-2 区	SK61	R3	溝状か	(2.12)	(0.22)	17	N - 80° - W	SD37 と一連か
〃	SK62	〃	隅丸長方形か	0.72	(0.49)	6 ~ 14	N - 3° - W	-

表 11 SG 計測表

調査区名	遺構 番号	調査 年度	平面形	規模			主軸方位	時期等
				長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (cm)		
7-3 区	SG1	H29	不整楕円形	0.95	0.79	15	N - 8° - E	後Ⅲ - 3 ~ 古式土師器 I
〃	SG2	〃	不整楕円形	(0.38)	(0.42)	15	N - 29° - E	後Ⅲ - 3 ~ 古式土師器 I

表 12 SX 計測表

調査区	遺構 番号	調査 年度	平面形	規模			主軸方位	時期等
				長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (cm)		
5 区	SX1	H30	-	-	-	-	-	ST4 ~ 7
〃	SX2	〃	-	-	-	-	-	ST8・9
〃	SX3	〃	-	-	-	-	-	ST11・12・13・15
〃	SX4	〃	-	(2.80)	0.64	5 ~ 6	N - 4° - E	-
6-1 区	SX1	H29	溝状	(22.62)	(1.36 ~ 1.88)	24 ~ 53	N - 82° - W	
〃	SX2	〃	溝状	(10.56)	1.38 ~ 2.28	17 ~ 29	N - 82° - W	
〃	SX3	〃	-	(3.34)	5.60	50	N - 5° - E	
〃	SX4	〃	-	(1.20)	0.63 ~ 1.38	20	N - 10° - E	
7-3 区	SX1	〃	溝状	(0.72)	0.42 ~ 0.51	25	N - 38° - E	-

遺物觀察表

凡例

器種：以下のように略記した。

弥生	弥生土器
ミニ	ミニチュア土器
土師	土師器
土質	土師質土器
須恵	須恵器
黒色	黒色土器
緑釉	緑釉陶器
灰釉	灰釉陶器
瓦質	瓦質土器
手捏ね	手捏ね土器

器形：以下のように略記した。

柱高	柱状高台
----	------

法量：()内は残存値, []内は復元値。

色調：標準土色帖を使用した。

調整：弥生土器については、外面/内面で表記した。

特徴：櫛波文	櫛描波状文
へら沈文	へら描沈線文
黒斑	黒斑有り。
被熱	被熱変色有り。
キレツ	器面に亀裂がみられる。
煤	煤が付着する。
おこげ	おこげが付着する。
赤色顔料	赤色顔料が付着する。
指圧	指頭圧痕がみられる。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図8 1	5区	1EST1	弥生 壺	橙色 5YR6/6	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	188	(8.7)	-	-	口唇, 面取り。ハケ / ナデ。頸部, ヘラによる線刻。
2	〃	〃	〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/8	暗灰黄色 2.5Y5/2	202	(4.9)	-	-	口唇, 面取り。ハケ / ナデか。仁淀川流域からの搬入品か。
3	1E区	〃	〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	灰黄褐色 10YR5/2	196	(9.5)	-	-	口唇, 面取り, 2条の凹線文。口縁: ナデ。頸部: タテハケ / ナデ。被熱・煤。
4	〃	1EST1 集4	〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	黄灰色 2.5Y4/1	156	(28.9)	24.5	-	口唇, ハケ状原体による面取り。摘み上げ。体部: 叩き後ハケ・ミガキ状 / ハケ・ナデ。
5	〃	1EST1 集3	〃	浅黄橙色 10YR8/4	浅黄橙色 10YR8/4	灰色 N4/0	224	(18.4)	27.8	-	口唇, 面取り。叩き後ハケ / ハケ・ナデ。
6	〃	1EST1 集3・4	〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	褐灰色 10YR5/1	198	(7.7)	-	-	口唇, ハケ状原体による面取り。摘み上げ。口縁: ヨコナデ / ヨコナデ。頸部: ハケ / ハケ後ミガキ。
7	〃	1EST1 集2	〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	褐灰色 10YR5/1	242	(9.7)	-	-	口唇, 面取り, 下方へ拡張。櫛波文・刺突文。口縁: / ハケ後ミガキ。煤。
8	5区	〃	〃	灰色 N4/0	にぶい黄褐色 10YR7/4	灰色 N4/0	21.3	36.0	29.9	7.1	複合口縁壺か。口唇, 面取り。角の取れた平底。体部: 叩き後ハケ・ナデ / ハケ・ナデ。刺突文。肩内接合痕。黒斑。
9	〃	1EST1	〃	浅黄橙色 10YR8/4	橙色 5YR7/6	褐灰色 10YR5/1	162	(13.1)	-	-	短頸広口壺。口唇, 面取り, 凹面状。ハケ / ハケ・ナデ。
図9 10	1E区	〃	〃	浅黄橙色 10YR8/3	にぶい黄褐色 10YR7/3	灰色 N5/0	163	38.8	25.9	5.8	口唇, 面取り。平底。叩き後ハケ / ナデ。外底面, 叩き目。粘土接合痕。黒斑。煤。おこげ。
11	〃	1EST1 集2	〃	にぶい黄褐色 10YR7/3	橙色 5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR6/4	125	302	22.2	4.9	角の取れた平底。短い口縁。叩き後ナデ / ハケ・ナデ。外底面, 叩き目。接合痕。黒斑。被熱。煤。
12	〃	1EST1 集4	〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	黄灰色 2.5Y5/1	161	(5.8)	-	-	口唇, ハケ状原体による面取り, 上下に僅かに拡張。ハケ / ハケ。煤。
13	〃	1EST1 集2・4	〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 5YR7/6	灰色 5Y6/1	142	25.9	21.8	4.1	口縁, 短く外反。口唇, 面取り。丸底。体部: 叩き後ナデ / ナデ。内面接合痕。黒斑。
14	〃	1EST1 集2	〃	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい橙色 7.5YR7/4	灰色 5Y4/1	162	38.3	26.6	6.0	「く」。口唇, 面取り, 摘み上げ。角の取れた平底。体部: 叩き後ハケ / 粗いハケ。内面接合痕。黒斑。線刻。
図10 15	〃	1EST1	〃	浅黄褐色 2.5Y7/3	浅黄褐色 2.5Y7/3	灰色 5Y5/1	140	(12.3)	13.6	-	「く」。口唇, 面取り。口縁: タテハケ後ヨコナデ / ヨコハケ。体部: 叩き後ハケ / 粗いヨコハケ後ナデ。内面接合痕。煤。
16	〃	〃	〃	明赤褐色 5YR5/6	にぶい褐色 7.5YR5/4	明赤褐色 5YR5/6	134	(13.5)	18.1	-	口唇, 連続した摘みで成形。叩き後ハケ / ヨコハケ・ナデ。内面接合痕。煤。
17	〃	1EST1 集2	〃	にぶい橙色 5YR6/4	橙色 5YR6/6	黄灰色 2.5Y5/1	145	(14.0)	-	-	口唇, 面取り。体部: 叩き板によるナデ / ナデ。頸部外面, ナデ。黒斑。
18	〃	1EST1 集1	〃	にぶい褐色 7.5YR6/3	にぶい橙色 7.5YR7/4	褐灰色 10YR4/1	114	(10.8)	-	-	口縁, 短く外反。口唇, ルーズな面取り。叩き後ハケ / ハケ後ナデ。頸内接合痕。煤。
19	〃	1EST1 集2	〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	150	(14.0)	-	-	口唇, ルーズな面取り。ハケ / ハケ後ナデ。
20	〃	1EST1 集1	〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	褐灰色 10YR5/1	156	(21.4)	30.2	-	「く」。口唇, 面取り, 下方へ拡張。叩き後ハケ / ヨコハケ後ナデ。肩内接合痕。黒斑。
21	〃	1EST1 集2・4	〃	灰黄褐色 10YR5/2	橙色 5YR6/6	黄灰色 2.5Y4/1	17.0	38.5	29.5	5.4	「く」。口唇, 面取り。叩き後ハケ / 粗いハケ。焼成後穿孔か。
22	〃	1EST1 集1	〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/8	橙色 5YR6/6	131	(27.1)	20.5	-	「く」。口唇, 面取り。口縁: タテハケ後ナデ。体部: 叩き後ハケ / ハケ後ナデ。肩内接合痕。被熱。煤。
図11 23	〃	〃	〃	にぶい黄褐色 10YR6/3	橙色 7.5YR6/6	灰色 N4/0	126	(15.1)	16.0	-	「く」。口唇, 面取り。口縁: ハケ。体部: 叩き後ハケ・ミガキ / ナデ。接合痕。黒斑。被熱。煤。
24	〃	1EST1	〃	灰黄褐色 10YR6/2	橙色 7.5YR7/6	黄灰色 2.5Y5/1	126	(14.5)	-	-	「く」。口唇, ハケ状原体による面取り。口縁: ハケ。体部: 叩き後ハケ / ハケ後ナデ。肩内接合痕。
25	5区	〃	〃	にぶい黄褐色 10YR7/3	浅黄褐色 10YR8/3	黄灰色 2.5Y5/1	160	(27.5)	26.2	-	「く」。口唇, ハケ状原体による面取り。叩き後ハケ・ナデ / 粗いハケ。肩内接合痕。黒斑。煤。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 11 26	1E 区	1EST1	弥生 壺	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	褐灰色 10YR4/1	21.7	(5.9)	-	-	「く」。口唇、面取り。口縁：ヨコナデ/ハケ後ヨコナ デ。体部：ハケ/ナデ。内面接合痕。被熱か。
27	〃	1EST1 集 4	〃 〃	橙色 5YR6/8	橙色 5YR6/6	にぶい黄橙色 10YR6/3	17.2	(13.4)	-	-	「く」。口唇、ハケ状原体による面取り。体部：叩き後 ハケ/ハケ。口縁部、キレツ。黒斑。被熱。煤。搬入。
28	〃	1EST1	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	暗灰黄色 2.5Y5/2	17.4	(9.0)	-	-	複合口縁壺。一次口縁：ヘラナデ/ヨコミガキ。二次 口縁：ヘラナデ/ヘラナデ。体部：ミガキ/ハケ。被熱。
29	5 区	1EST1 集 2	〃 〃	にぶい赤褐色 5YR5/6	にぶい黄褐色 10YR7/4	褐灰色 10YR4/1	-	(28.0)	25.8	-	頸部：ハケ後ミガキ/ハケ。体部：叩き後ハケ・ミ ガキ/ナデ。肩内接合痕。黒斑。煤。
30	1E 区	1EST1 集 1	〃 〃	灰白色 2.5Y8/2	淡黄色 2.5Y8/3	黄灰色 2.5Y4/1	-	(24.3)	25.7	-	体部：叩き後ハケ/ハケ・ナデ。頸部内面、網目か。 しぼり目。内面接合痕。煤。
図 12 31	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	黄灰色 2.5Y5/1	-	(37.1)	43.3	-	叩き後ハケ・ミガキ/ヨコハケ後ナデ・ヨコハケ。 刻目突帯。内面接合痕。黒斑。
32	5 区	1EST1	〃 〃	浅黄褐色 10YR8/3	浅黄褐色 10YR8/3	灰色 5Y6/1	-	(21.5)	27.0	6.4	角の取れた平底。外底面、ナデ。叩き後ハケ・ナデ/ ハケ・ナデ。接合痕。黒斑。煤。
33	〃	1EST1 集 4	〃 〃	にぶい黄褐色 10YR7/3	橙色 7.5YR7/6	褐灰色 10YR6/1	-	(21.7)	26.5	4.5	偏球形。平らな部分の残る丸底。外底面、叩き目。叩き 後ハケ/ナデ・ハケ。黒斑。
図 13 34	1E 区	1EST1 集 3	〃 甕	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	黄灰色 2.5Y4/1	9.8	15.1	11.9	1.4	口縁、短く外反。尖底。タテハケ/ハケ。黒斑。
35	〃	1EST1	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	黄灰色 2.5Y4/1	9.8	12.8	10.2	2.4	「く」。口唇、ハケ状原体による面取り。平底。叩き後ハ ケ/ヨコハケ・ナデ。接合痕。被熱。煤。おこげ。
36	〃	〃	〃 〃	にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい黄褐色 10YR5/3	灰黄褐色 10YR5/2	14.7	(17.8)	14.2	-	緩やかな「く」。口唇、面取り。叩き後ハケ/ハケ。内 面接合痕。煤。
37	〃	1EST1 集 1	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	灰色 5Y6/1	12.9	17.8	14.2	3.0	「く」。口唇、ルーズな面取り。口縁：叩き後ハケ/ハ ケ。煤。体部：叩き後ハケ/ハケ。
38	5 区	1EST1	〃 〃	灰黄褐色 10YR5/2	にぶい褐色 7.5YR5/3	褐灰色 10YR5/1	13.5	19.4	13.8	3.0	「く」。口唇、面取り。平底。外底面、ナデ。叩き後ハケ/ ナデ。煤。
39	1E 区	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	褐灰色 7.5YR4/1	15.4	(19.6)	14.6	-	「く」。口唇、面取り。叩き後ハケ/ハケ・ナデ。内面接 合痕。黒斑。煤。
40	〃	1EST1 集 1	〃 〃	明赤褐色 5YR5/6	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい黄色 2.5Y6/3	15.6	(20.7)	15.7	-	「く」。口唇、ハケ状原体による面取り。叩き後ハケ/ ハケ・ナデ。黒斑。被熱。煤。
41	〃	1EST1	〃 〃	灰色 5Y5/1	にぶい橙色 7.5YR7/4	灰オリーブ色 5Y6/2	12.3	22.2	15.0	2.9	「く」。角の取れた平底。外底面、ナデ。体部：叩き後ハ ケ/ナデ・ハケ。肩内接合痕。黒斑。被熱。煤。
42	〃	1EST1 集 2・4	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	灰色 5Y4/1	13.1	21.6	15.5	3.6	「く」。上端、摘み上げ。平底。外底面、叩き目。体部：叩 き後ハケ・ナデ/ハケ・ナデ。黒斑。煤。
43	〃	1EST1	〃 〃	灰黄褐色 10YR5/2	橙色 7.5YR7/6	褐灰色 10YR4/1	14.0	21.9	15.6	4.4	「く」。内外面、ハケ。角の取れた平底。外底面、ハケ。体 部：叩き後ハケ/ケズリ・ナデ。肩内接合痕。黒斑。煤。
図 14 44	〃	1EST1 集 2	〃 〃	明赤褐色 2.5YR5/6	にぶい褐色 7.5YR5/3	褐灰色 7.5YR5/1	15.4	22.6	16.9	3.8	「く」。上端、摘み上げ。ほぼ丸底。外底面、ハケ。体部： 叩き後下半ハケ/ハケ。肩内接合痕。黒斑。煤。
45	〃	〃	〃 〃	浅黄褐色 7.5YR8/6	橙色 7.5YR7/6	灰白色 10YR8/2	12.5	22.5	15.9	3.2	「く」。内外面、ハケ。平底。外底面、叩き後ハケ・ナデ か。体部：叩き後ハケ/ナデ。肩内接合痕。黒斑。
46	〃	1EST1 集 1	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	14.0	22.0	15.3	3.8	緩やかな「く」。口縁：叩き後ナデ/ハケ。平底。外底面、 叩き目。体部：叩き後ハケ/ナデ。肩内接合痕。黒斑。
47	〃	1EST1	〃 〃	にぶい黄褐色 10YR5/3	にぶい橙色 7.5YR5/4	褐灰色 10YR5/1	16.3	24.0	17.5	5.3	「く」。口唇、面取り。口縁：叩き後ナデ/ハケ。角の取 れた平底。体部：叩き後ナデ/ナデ。黒斑。被熱。煤。
48	〃	〃	〃 〃	橙色 2.5YR5/6	橙色 2.5YR5/6	橙色 2.5YR5/6	13.0	26.5	18.4	3.2	「く」。口唇、面取り。口縁：叩き後ハケ/ハケ。体部： 叩き後ハケ/ハケ後ナデ。肩内接合痕。黒斑。被熱。煤。
49	5 区	〃	〃 〃	浅黄褐色 10YR8/4	橙色 5YR6/6	褐灰色 10YR5/1	13.2	25.7	20.3	4.2	「く」。口唇、面取り。口縁：叩き後ナデ。角の取れた平 底。体部：叩き後ハケ/ナデ。肩内接合痕。黒斑。煤。
50	1E 区	1EST1 集 4	〃 〃	灰白色 10YR8/2	浅黄褐色 10YR8/3	灰白色 10YR8/2	15.8	27.9	19.6	3.7	緩やかな「く」。口唇、面取り。口縁：タテハケ後ナデ /ヨコハケ。体部：叩き後ハケ/ハケ・ナデ。被熱。煤。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 14 51	1E 区	1EST1 集 1	弥生 甕	にぶい褐色 7.5YR5/3	にぶい赤褐色 5YR5/4	灰黄褐色 10YR5/2	16.8	(23.2)	16.7	-	「く」。口唇、面取り。口縁：/ハケ。体部：叩き後ハケ/ ハケ・ナデ。黒斑。被熱。煤。
52	〃	1EST1 集 4	〃 〃	橙色 5YR7/6	灰褐色 7.5YR5/2	浅黄褐色 10YR8/3	15.0	(23.9)	18.3	-	「く」。口唇、面取り。口縁：ハケ。体部：叩き後ハケ/ ケズリ・ハケ・ナデ。器壁、うすい。煤。おこげ。
図 15 53	〃	1EST1 集 1	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR6/3	にぶい黄褐色 10YR6/4	灰色 7.5Y5/1	15.3	25.0	17.1	4.5	「く」。口唇、面取り。角の取れた平底。外底面、叩き 目。体部：叩き後ハケ/ナデ・ハケ。黒斑。被熱。煤。
54	〃	1EST1	〃 〃	にぶい赤褐色 5YR5/4	にぶい橙色 5YR6/4	灰黄色 2.5Y6/2	14.6	24.0	17.7	3.4	「く」。口唇、面取り。角の取れた平底。外底面、叩き目。 体部：叩き後ハケ/ハケ・ナデ。黒斑。被熱。煤。
55	5 区	〃	〃 〃	浅黄褐色 10YR8/4	橙色 7.5YR7/6	黄灰色 2.5Y6/1	14.9	26.9	19.4	3.8	「く」。口縁：叩き後ナデ/ハケ。丸みを持った平底。 体部：叩き後ハケ/ハケ・ナデ。接合痕。黒斑。煤。
56	1E 区	1EST1 集 1	〃 〃	にぶい赤褐色 5YR5/3	灰褐色 7.5YR5/2	灰黄褐色 10YR5/2	18.4	(26.4)	21.5	-	「く」。口唇、面取り。口縁：タテハケ後ヨコナデ/ヨ コハケ。体部：叩き後ハケ/ハケ。肩内接合痕。煤。
57	〃	1EST1	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 7.5YR7/6	黄灰色 2.5Y4/1	18.1	26.5	22.4	-	緩やかな「く」。口唇、面取り。口縁：タテハケ後ナ デ/ヨコハケ。体部：叩き後ハケ/ナデ。肩内接合痕。煤。
58	〃	1EST1 集 1	〃 〃	にぶい黄褐色 10YR7/2	にぶい橙色 7.5YR7/4	黄灰色 2.5Y5/1	19.6	27.3	22.7	6.9	「く」。口縁：叩き後ナデ/ヨコハケ。体部：叩き後ナ デ/ナデ。外底面、叩き目。肩内接合痕。黒斑。煤。おこげ。
59	〃	1EST1	〃 〃	にぶい橙色 5YR6/4	橙色 5YR6/6	褐灰色 10YR4/1	20.2	(31.0)	21.8	-	「く」。口唇、面取り。口縁：叩き後ナデ/ヨコハケ。体 部：叩き後ハケ/ハケ・ナデ。黒斑。被熱。煤。
図 16 60	〃	1EST1 集 4	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	褐灰色 10YR4/1	17.0	(28.7)	20.3	-	「く」。口唇、面取り。口縁：叩き後ハケ/ヨコハケ。体 部：叩き後ハケ/ハケ・ナデ。肩内接合痕。被熱。煤。
61	〃	1EST1 集 1	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	褐灰色 10YR4/1	12.8	(6.1)	-	-	「く」。口唇、面取り。口縁：叩き後ナデ/ヨコナデ。体 部：叩き後ナデ/ハケ。肩内接合痕。煤。
62	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 5YR6/4	灰褐色 7.5YR5/2	13.4	(7.6)	-	-	「く」。口唇、面取り。口縁：叩き後ヨコナデ/。体部： 叩き後タテハケ/ナデ。黒斑。煤。
63	〃	1EST1 集 3	〃 〃	にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	褐灰色 10YR5/1	14.0	(9.9)	15.7	-	「く」。口縁：粗いタテハケ/ヨコハケ後ナデ。体部： 叩き後ナデ/粗いハケ・ナデ。黒斑。煤。
64	〃	1EST1	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	褐灰色 10YR4/1	12.7	(11.6)	16.2	-	「く」。口唇、ハケ状原体による面取り。口縁：叩き後 ナデ/ヨコハケ。体部：叩き後ナデ/ナデ・ハケ。煤。
65	〃	1EST1 集 1	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい褐色 7.5YR5/3	黄灰色 2.5Y5/1	13.3	(15.1)	14.5	-	「く」。口唇、面取り。口縁：叩き後ナデ/ハケ。体部： 叩き後ハケ/ハケ・ナデ。煤。
66	〃	1EST1 集 5	〃 〃	にぶい黄褐色 10YR7/2	にぶい黄褐色 10YR7/3	灰色 N5/0	12.4	(16.2)	14.2	-	「く」。口唇、面取り。口縁：叩き後ナデ/ヨコハケ。体 部：叩き後ハケ/ケズリ・ナデ。肩内接合痕。黒斑。煤。
67	〃	1EST1 集 2	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 7.5YR7/6	褐灰色 10YR4/1	12.4	(16.1)	16.8	-	「く」。口縁：ナデ/ハケ。体部：叩き後ハケ/ハケ・ ナデ。黒斑。被熱。煤。
68	〃	1EST1	〃 〃	にぶい黄褐色 10YR7/3	浅黄褐色 7.5YR8/3	灰色 N6/0	14.0	(15.0)	16.4	-	「く」。口唇、面取り。口縁：ハケ後ナデ/ヨコハケ。体部： 叩き後ハケ/ハケ・ナデ。肩内接合痕。黒斑。被熱。煤。
69	〃	〃	〃 〃	浅黄褐色 10YR8/3	にぶい黄褐色 10YR7/3	灰色 5Y4/1	13.4	(14.3)	19.1	-	「く」。口唇、ハケ状原体による面取り。口縁：叩き後ナ デ/ヨコハケ。体部：叩き後ハケ/ハケ・ナデ。煤。
70	〃	1EST1 集 1	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	橙色 5YR6/6	灰黄色 2.5Y6/2	14.0	(16.6)	14.9	-	「く」。口唇、面取り。口縁：ヨコナデ/ハケ。内面、口 頸部境、稜が立つ。体部：叩き後ハケ/ハケ・ナデ。煤。
71	〃	1EST1 集 5	〃 〃	にぶい黄褐色 10YR7/2	にぶい黄褐色 10YR5/3	黄灰色 2.5Y5/1	14.2	18.6	14.9	-	「く」。口唇、面取り。口縁：ハケ。体部：右下がり叩き 後ハケ/ハケ・ナデ。肩内接合痕。被熱。煤。
72	〃	1EST1	〃 〃	にぶい黄褐色 10YR7/3	橙色 7.5YR7/6	褐灰色 10YR5/1	14.2	(24.3)	20.3	-	「く」。口唇、ルーズな面取り。口縁：叩き後タテハケ/ ヨコハケ。体部：叩き後ハケ/ハケ・ナデ。
73	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	黄灰色 2.5Y4/1	14.4	(19.8)	16.4	-	「く」。口唇、面取り。摘み上げ。口縁：ヨコナデ。体部： 叩き後ヘラナデ/ナデ。黒斑。被熱。煤。
74	〃	1EST1 集 1	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	暗灰黄色 2.5Y5/2	14.6	(15.3)	16.4	-	「く」。口唇、面取り。口縁：叩き後ハケ/ヨコハケ。体 部：叩き後ハケ/ナデ。肩内接合痕。煤。
図 17 75	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	灰黄褐色 10YR5/2	14.6	(9.6)	17.2	-	「く」。口縁：叩き後ナデ/ヨコハケ。体部：叩き/ナ デ。煤。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 17 76	1E 区	1EST1	弥生 甕	にぶい赤褐色 5YR5/4	橙色 2.5YR6/6	灰褐色 7.5YR5/2	14.8	(9.2)	16.2	-	「く」。口縁：叩き後ナデ / ヨコハケ。体部：叩き後ハケ / ハケ・ナデ。肩内接合痕。
77	〃	〃	〃	にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい褐色 7.5YR5/4	灰色 N4/0	14.8	(10.5)	15.7	-	「く」。口唇、面取り。口縁：叩き後ハケ / ヨコハケ。体部：叩き後ハケ / ハケ。肩内接合痕。煤。
78	5 区	〃	〃	橙色 7.5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	褐灰色 10YR4/1	15.6	(12.1)	18.6	-	「く」。口唇、面取り。口縁：叩き後ナデ / ヨコハケ。体部：ハケ。煤。
79	1E 区	〃	〃	にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい赤褐色 5YR5/4	褐灰色 10YR4/1	15.2	(13.8)	15.2	-	緩やかな「く」。口唇、面取り。口縁：叩き後ハケ / ヨコハケ。体部：叩き後ハケ / ハケ・ナデ。肩内接合痕。煤。
80	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい黄褐色 10YR7/3	15.3	(15.8)	18.6	-	「く」。口唇、面取り。口縁：ハケ。体部：叩き後ハケ / ハケ・ナデ・ケズリ。肩内接合痕。煤。搬入か。
81	〃	1EST1 集 2	〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい褐色 7.5YR5/4	灰色 5Y4/1	15.4	(7.7)	-	-	「く」。口唇、面取り。口縁：ナデ / ヨコハケ。体部：タテハケ / 斜め方向のハケ。煤。
82	〃	1EST1	〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	橙色 5YR6/6	にぶい褐色 7.5YR6/4	15.6	(7.5)	-	-	「く」。口唇、面取り。口縁：叩き後ナデ / ヨコハケ。体部：叩き後ハケ / ハケ・ナデ。指圧。黒斑。被熱。煤。
83	〃	〃	〃	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい黄褐色 10YR7/3	15.1	(12.5)	16.7	-	「く」。口縁：叩き後ハケ / ヨコハケ。体部：叩き後ナデ / ハケ・ナデ。肩部内面、ヨコハケ。煤。
84	〃	1EST1 集 1	〃	にぶい褐色 7.5YR5/3	にぶい赤褐色 5YR5/4	褐灰色 10YR4/1	15.9	(12.4)	16.9	-	「く」。面取り。連続摘み。口縁：叩き後ナデ / ハケ。体部：叩き後ハケ / ナデ・ハケ。肩内接合痕。黒斑。煤。
85	〃	〃	〃	にぶい赤褐色 5YR5/4	にぶい褐色 7.5YR5/4	灰黄褐色 10YR4/2	16.2	(7.8)	13.5	-	「く」。口唇、面取り。口縁：叩き後ナデ / ヨコハケ。体部：叩き後ハケ / ナデ・ハケ。
86	〃	1EST1 集 3	〃	にぶい赤褐色 5YR5/4	にぶい赤褐色 5YR5/4	褐灰色 10YR4/1	17.2	(9.2)	-	-	「く」。口唇、面取り。口縁：叩き後ナデ / ヨコハケ。体部：叩き後ハケ / ナデ・ハケ。口頭内接合痕。煤。
87	〃	1EST1 集 4	〃	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい黄褐色 10YR7/3	褐灰色 10YR5/1	17.7	(11.4)	18.0	-	「く」。口唇、面取り。口縁：タテハケ / ヨコハケ。体部：叩き / ナデ・ハケ。肩内接合痕。煤。
88	〃	1EST1	〃	にぶい黄褐色 10YR7/4	橙色 5YR7/6	灰色 5Y5/1	17.1	(13.1)	19.4	-	「く」。ルーズな面取り。口縁：ヨコナデ / ヨコハケ。体部：叩き後ハケ / ハケ・ナデ。被熱。煤。搬入か。
図 18 89	〃	〃	〃	にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい赤褐色 5YR5/4	黄灰色 2.5Y4/1	18.4	(17.0)	20.0	-	「く」。上端、摘み上げ。口縁：叩き後ナデ / ヨコハケ。体部：叩き後ハケ / ナデ・ハケ。口頭内接合痕。煤。
90	〃	1EST1 集 3	〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	灰黄褐色 10YR4/2	18.7	(16.1)	19.6	-	「く」。口唇、ルーズな面取り。口縁：叩き後ナデ / ヨコハケ。体部：叩き後ハケ / ナデ・ハケ。被熱。煤。
91	〃	1EST1 集 1	〃	にぶい黄褐色 10YR7/4	橙色 5YR6/6	にぶい黄褐色 10YR7/4	18.0	(19.5)	23.5	-	「く」。口縁：ハケ。体部：叩き後ハケ / ナデ・ハケ。肩内接合痕。被熱。煤。おこげ。
92	〃	〃	〃	にぶい褐色 7.5YR6/4	にぶい褐色 7.5YR6/3	褐灰色 10YR5/1	20.0	(11.9)	19.3	-	「く」。ハケ状原体による面取り。口縁：叩き後ナデ / ヨコハケ。体部：叩き後ハケ / ナデ・ハケ。肩内接合痕。煤。
図 19 93	〃	1EST1 集 2	〃	にぶい褐色 7.5YR6/4	にぶい褐色 7.5YR6/4	黄灰色 2.5Y4/1	-	(14.6)	17.8	-	体部：縦方向のヘラナデ。ヘラは叩き板か / ナデ。被熱。煤。
94	〃	1EST1	〃	にぶい褐色 7.5YR7/4	橙色 7.5YR6/6	黄灰色 2.5Y5/1	-	(15.3)	18.2	3.6	直立部を持つ平底。外底面、叩き後ナデ。体部：叩き後ヘラナデ / ナデ。黒斑。被熱。煤。
95	〃	1EST1 集 1	〃	浅黄褐色 10YR8/3	にぶい黄褐色 10YR7/3	褐灰色 10YR5/1	-	(18.1)	19.0	3.8	平底。外底面、叩き目。体部：叩き後ハケ / ナデ・ハケ。煤。
96	〃	〃	〃	黒褐色 2.5Y3/1	にぶい褐色 7.5YR7/4	黄灰色 2.5Y4/1	-	(11.9)	-	3.8	平底。外底面、叩き目。叩き後ナデ / ナデ。黒斑。被熱。煤。
97	〃	〃	〃	黒褐色 2.5Y3/1	にぶい褐色 7.5YR6/4	灰黄褐色 10YR5/2	-	(13.5)	-	4.7	角の取れた平底。外底面、叩き目。体部：叩き後ハケ / ナデ。黒斑。被熱。煤。
98	〃	1EST1	〃	にぶい褐色 7.5YR7/4	橙色 7.5YR7/6	黄灰色 2.5Y5/1	-	(23.4)	19.3	3.8	上胴部に最大径。平底。外底面、ナデ。体部：叩き後ハケ・ナデ / ナデ・ハケ。黒斑。被熱。煤。
99	〃	〃	〃	灰褐色 7.5YR4/2	灰黄褐色 10YR5/2	灰黄褐色 10YR5/2	-	(18.7)	14.4	4.0	角の取れた平底。外底面、ハケ・ナデ。体部：叩き後ハケ / ナデ。頸部、ハケ。黒斑。被熱。
100	〃	〃	〃	にぶい黄褐色 10YR7/4	にぶい赤褐色 5YR5/4	黄灰色 2.5Y5/1	-	(15.6)	20.1	4.5	角の取れた平底。外底面、叩き目。体部：叩き後ハケ / ナデ・ハケ。黒斑。被熱。煤。おこげ。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図20 101	1E区	1EST1 集1	弥生 鉢	明赤褐色 5YR5/6	明赤褐色 5YR5/6	黄灰色 2.5Y5/1	10.4	6.1	-	2.5	角の取れた平底。外底面、ナデ。体部：ナデ・タテハケ/ハケ・ナデ。キレット。黒斑。煤。
102	〃	1EST1	〃	浅黄橙色 10YR8/4	浅黄橙色 10YR8/4	浅黄橙色 10YR8/4	12.1	5.5	-	2.5	角の取れた平底。叩き後ナデ/ナデか。摩耗。
103	〃	〃	〃	にぶい赤褐色 5YR5/4	にぶい赤褐色 5YR5/4	にぶい黄褐色 10YR5/4	10.6	5.7	-	2.2	平底。外底面、ナデ。体部：叩き後ナデ/ハケ。キレット。黒斑。
104	〃	1EST1 集3	〃	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい黄褐色 10YR7/3	褐灰色 10YR5/1	10.6	6.3	-	2.8	平底。体部：叩き後ナデ/ハケ。摩耗。黒斑。歪む。
105	〃	1EST1	〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR7/6	灰色 5Y5/1	11.4	6.2	-	-	尖底。口唇、尖らせる。体部：叩き後粗いタテハケ・ナデ/ハケ。被熱。
106	5区	〃	〃	橙色 7.5YR7/6	明赤褐色 5YR5/6	橙色 5YR6/6	10.6	4.9	-	1.4	平底。口唇、尖らせる。体部：ナデ・ヘラナデ、ミガキ状/ヘラナデ。キレット。黒斑。
107	〃	〃	〃	橙色 5YR6/8	橙色 5YR6/8	褐色 5YR7/6	15.0	7.6	-	2.0	角の取れた平底。外底面、ナデ。体部：叩き後ヘラナデ/ヘラナデ・指ナデ。歪む。
108	〃	〃	〃	褐色 5YR6/6	褐色 5YR6/6	褐色 7.5YR7/6	12.5	5.4	-	1.8	ほぼ丸底。体部：ハケ・ナデ/ヘラナデ。キレット。黒斑。
109	1E区	1EST1 集1	〃	にぶい黄褐色 10YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/4	黄灰色 2.5Y5/1	10.7	9.1	-	4.1	外反口縁。口唇、尖らせる。円盤状の平底。外底面の周囲が凹む。体部：叩き後ナデ/ナデ。キレット。黒斑。
110	〃	1EST1 _P3	〃	にぶい褐色 7.5YR6/4	明赤褐色 5YR5/6	褐色 10YR5/1	11.7	8.5	-	2.3	ほぼ丸底。体部：タテハケ後ミガキ/丁寧ミガキ。
111	〃	1EST1 集2	〃	にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい褐色 7.5YR5/3	褐色 10YR4/1	12.7	11.8	-	3.4	外反口縁。角の取れた平底。外底面、叩き目。体部：叩き後ナデ/ナデ・ハケ。黒斑。
112	5区	1EST1	〃	褐色 5YR6/6	褐色 5YR6/6	褐色 7.5YR5/1	13.2	7.6	-	3.0	平底。外底面、ナデ。体部：叩き後ナデ/ハケ。棒状工具によるナデ。黒斑。
113	〃	〃	〃	にぶい褐色 7.5YR7/4	褐色 5YR6/6	褐色 5YR6/6	15.3	5.4	-	2.5	角の取れた平底。腰部に弱い屈曲。体部：ナデか/ハケ。内底面、指圧。被熱。煤。
114	〃	〃	〃	褐色 7.5YR6/6	明黄褐色 10YR7/6	褐色 7.5YR7/6	17.4	8.2	-	1.9	丸みを持った平底。口唇、ハケ状原体による面取りし、内傾。内外面、ハケ。黒斑。
115	1E区	〃	〃	明赤褐色 2.5YR5/6	褐色 2.5YR6/6	にぶい黄褐色 10YR5/3	18.3	10.3	-	4.7	柱状に突出した底部。外底面、ナデ。体部、半球形。体部：ナデ/ハケ。キレット。黒斑。
116	〃	1EST1 集1	〃	褐色 7.5YR7/6	にぶい褐色 7.5YR7/4	にぶい褐色 7.5YR7/4	17.7	10.0	-	3.3	角の取れた平底。外底面、叩き目。体部：叩き後ハケ/ハケ。内底面、指圧。黒斑。
117	〃	1EST1 _P3	〃	浅黄褐色 7.5YR8/4	浅黄褐色 10YR8/4	黄灰色 2.5Y4/1	15.3	11.1	-	4.5	外反口縁。口唇、面取り。口縁：ヨコナデ。角の取れた平底。外底面、ナデ。体部：叩き後ナデ/ミガキ。黒斑。
図21 118	5区	1EST1	〃	褐色 5YR7/6	褐色 5YR7/6	褐色 5YR7/6	17.6	7.0	-	-	丸底。外底面、ナデ。体部：叩き後ナデ/粗いハケ。内底面、指圧。キレット。被熱。煤。
119	1E区	1EST1 集1	〃	浅黄褐色 10YR8/3	浅黄褐色 10YR8/4	灰色 N4/0	19.3	7.6	-	3.0	丸底。口唇、丸くおさめる。外底面、ナデ。体部：ハケ・ナデ/ハケ。内底面、ナデ。黒斑。
120	5区	1EST1	〃	褐色 5YR7/6	にぶい褐色 7.5YR7/4	黒褐色 7.5YR3/1	19.2	7.1	-	-	口縁、摘み上げ、摘み出し。丸底。外底面、ハケ。体部：叩き後ナデ/ハケ。被熱。煤。
121	1E区	1EST1 集1	〃	にぶい赤褐色 5YR5/4	にぶい赤褐色 5YR5/4	にぶい黄褐色 10YR7/3	19.5	7.1	-	3.4	口縁、摘み上げ、摘み出し。角の取れた平底。外底面、ナデ・ハケ。体部：ハケ/ナデ・ハケ。黒斑。被熱。煤。
122	5区	1EST1	〃	褐色 5YR6/6	褐色 5YR6/6	褐色 5YR6/6	19.6	8.4	-	2.4	口縁、摘み上げ。丸底。外底面、ナデ。体部：叩き後ハケ/ハケ。被熱。
123	1E区	1EST1 集1	〃	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい黄褐色 10YR7/3	浅黄褐色 10YR8/3	17.3	8.3	-	3.7	口唇、面取り。角の取れた平底。外底面、ナデ、片側を押し潰す。体部：叩き後ナデ/ハケ。黒斑。
124	〃	1EST1 集3	〃	にぶい黄褐色 10YR7/4	褐色 5YR6/6	灰色 N5/0	20.4	7.2	-	2.2	口縁、ルーズな摘み上げ。丸底。外底面、ナデ。体部：叩き後ナデ/ハケ。黒斑。被熱。
125	〃	〃	〃	にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい褐色 7.5YR6/4	褐色 10YR4/1	23.4	(4.1)	-	-	口唇、丸みを帯びた面取り。体部：ハケ/ハケ後ミガキ。被熱。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 21 126	1E 区	1EST1	弥生 鉢	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	暗灰黄色 2.5Y5/2	22.4	(6.4)	-	-	外反口縁。口唇、ハケ状原体による面取り。体部：叩 き後ハケ/ハケ・ナデ。
127	〃	1EST1 集 1	〃 〃	橙色 5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	明黄褐色 10YR7/6	21.7	14.2	-	2.3	外反口縁。口唇、面取り。口縁：叩き後ナデ/ヨコハケ。 外底面、叩き目。体部：叩き後ハケ/ハケ・ナデ。黒斑。
128	〃	1EST1 集 3	〃 〃	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい橙色 7.5YR7/4	褐灰色 10YR6/1	29.1	14.8	-	7.1	外反口縁。口縁：叩き後ナデ/ナデ。外底面、叩き目。 体部：叩き後ナデ・ハケ/ハケ・ナデ。黒斑。被熱。
129	〃	1EST1	〃 〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	浅黄褐色 7.5YR8/4	29.3	16.1	-	7.4	外反口縁。注口が付く。角の取れた平底。外底面、叩 き目。体部：叩き後ハケ/荒れる、ナデか。黒斑。
130	〃	〃	〃 〃	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい橙色 7.5YR7/4	褐灰色 10YR5/1	12.4	(8.4)	13.0	-	「く」。口唇、面取り。口縁：ヨコナデ。体部：ハケ後ミ ガキ/ヨコハケ。煤。
図 22 131	〃	1EST1 集 1	〃 高杯	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	黄灰色 2.5Y5/1	-	(7.8)	-	12.5	杯部：/ミガキ。脚部：ナデ・ミガキ/ナデ。4ヶ所、 円孔。裾部：ナデ後ミガキ/ナデ。煤。
132	〃	〃	〃 〃	浅黄褐色 10YR8/3	にぶい橙色 7.5YR7/4	灰色 5Y5/1	-	(6.2)	-	-	杯部：ミガキ/摩耗、ミガキか。脚部：ミガキ/ナデ。 弱いしぼり目。円孔。
133	5 区	1EST1	〃 有孔鉢	にぶい赤褐色 5YR5/4	にぶい褐色 7.5YR5/4	褐灰色 10YR5/1	-	(21.6)	-	4.8	角の取れた平底。外底面、叩き目。体部：叩き後ハケ /ナデ。底部に焼成前穿孔。黒斑。被熱。
134	1E 区	〃	製塩 土器	橙色 5YR6/8	橙色 5YR6/8	褐灰色 10YR5/1	7.6	5.5	-	1.8	杯部、椀形。中空の脚付き。器壁、うすく脆い。
135	5 区	〃	ミニ	明赤褐色 5YR5/6	明褐色 7.5YR5/6	褐灰色 10YR4/1	7.1	6.7	-	1.2	甕形。体部：叩き後ハケ/ナデ・ハケ。底部付近、ミ ガキ状。外底面、ミガキ。黒斑。
136	1E 区	1EST1 集 1	〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	灰色 5Y5/1	6.5	4.2	-	2.0	鉢形。体部：叩き後ナデ/ナデ。口縁外面接合痕。黒 斑。
137	〃	1EST1	〃	浅黄褐色 10YR8/3	灰白色 10YR8/2	褐灰色 10YR4/1	4.0	3.5	-	2.3	羽釜形。内外面、ナデ。外面に突帯が付く。黒斑。
図 26 145	5 区	ST1	弥生 壺	橙色 5YR6/8	橙色 5YR6/6	灰黄色 2.5Y6/2	-	(2.0)	-	-	口唇、ハケ状原体による面取り、凹面状。口縁：ハケ /ナデ後ミガキ。
146	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	明赤褐色 5YR5/8	-	(1.6)	-	-	口唇、ハケ状原体による面取り、僅かに拡張。口縁： ナデ/ナデ。
147	〃	〃	〃 〃	黄灰色 2.5Y4/1	黄灰色 2.5Y4/1	灰黄褐色 10YR5/2	-	(3.5)	-	-	複合口縁壺。口唇、ハケ状原体による面取り。二次口 縁：ナデ/ハケ。4条1単位の櫛波文。
148	〃	〃	〃 〃	灰黄色 2.5Y6/2	にぶい橙色 7.5YR7/4	黄灰色 2.5Y5/1	17.7	(7.2)	-	-	複合口縁壺。二次口縁：ヨコハケ/ヨコハケ。一次口 縁：タテハケ/ハケ。
149	〃	〃	〃 〃	にぶい黄褐色 10YR7/3	橙色 5YR6/6	灰黄色 2.5Y6/2	18.4	(7.3)	-	-	複合口縁壺。ハケ/ハケ・ナデ。
150	〃	〃	〃 甕	明赤褐色 5YR5/6	明赤褐色 5YR5/6	橙色 5YR6/6	14.6	23.7	17.4	-	緩やかな「く」。口唇、面取り。口縁：叩き後ナデ/ハケ。 体部：叩き後ハケ/ハケ・ナデ。外底面、叩き目。被熱。煤。
151	〃	〃	〃 〃	明褐色 7.5YR5/6	にぶい黄褐色 10YR6/4	褐灰色 10YR5/1	16.4	24.8	19.7	1.8	「く」。口唇、面取り。口縁：叩き後ナデ/ハケ。丸底。 体部：叩き後ハケ/ハケ・ナデ。黒斑。被熱。煤。
152	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR6/6	にぶい赤褐色 5YR5/4	暗灰色 N3/0	-	(7.4)	-	2.8	丸みを持った平底。外底面、叩き目。体部：叩き後ハ ケ/ナデ。被熱。
153	〃	〃	〃 鉢	橙色 7.5YR7/6	橙色 5YR6/6	橙色 7.5YR7/6	10.9	5.1	-	3.8	突出した平底。体部：ナデ/ナデ。内外面とも凹凸有 り。
154	〃	〃	〃 〃	橙色 2.5YR6/8	橙色 2.5YR6/6	灰黄色 2.5Y6/2	10.4	6.1	-	2.6	角の取れた平底。内外面、摩耗。ナデか。
155	〃	〃	〃 〃	浅黄褐色 10YR8/3	浅黄褐色 10YR8/3	暗灰色 N3/0	10.6	6.6	-	1.9	角の取れた平底。口縁：ヨコナデ。体部：タテハケ/ ナデ・ハケ。
156	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 5YR6/4	灰白色 10YR8/2	19.6	7.0	-	3.5	ほぼ丸底。口唇、面取り。口縁：ヨコナデ。体部：ナデ /タテハケ。キレット。黒斑。
157	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR7/8	橙色 5YR7/8	灰白色 2.5Y7/1	18.7	7.6	-	-	丸底。底部、厚い。口唇、面取り、凹面状。体部：叩き後 ナデ/ナデ。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 26 158	5 区	ST1	弥生 鉢	にぶい橙色 5YR6/4	灰白色 2.5Y8/2	灰白色 2.5Y8/2	168	(4.5)	-	-	体部：叩き後ナデ / ヨコハケ。
159	〃	〃	〃 〃	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄褐色 10YR8/3	浅黄褐色 10YR8/3	-	(4.4)	-	4.0	丸底。外底面、ナデ。体部：叩き後ナデ / ナデ。黒斑。
160	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい褐色 7.5YR7/4	オリーブ黒色 7.5Y3/1	-	(4.2)	-	3.3	平底。外底面、葉脈痕。体部：叩き後ナデ / ヨコハケ。
161	〃	〃	〃 高杯	橙色 5YR6/8	褐色 5YR6/8	灰黄色 2.5Y6/2	-	(7.1)	-	-	1 条の凹線文。杯部：タテハケ後ミガキ / ナデ。脚部： タテハケ後ミガキ / ハケ・ナデ。
162	〃	〃	〃 鉢	にぶい褐色 7.5YR6/3	灰黄褐色 10YR6/2	灰黄褐色 10YR6/2	-	(3.3)	-	3.2	脚付き鉢。脚、指頭で成形。僅かに上げ底。体部：ナデ / ナデ。被熱。蓋か。
図 29 167	〃	ST2	〃 壺	にぶい褐色 7.5YR6/4	にぶい褐色 7.5YR6/4	黄灰色 2.5Y6/1	-	(2.3)	-	-	口唇、面取り。口縁：ヨコハケ / ヨコハケ。
168	〃	〃	〃 鉢	褐色 5YR7/6	褐色 5YR7/6	浅黄褐色 7.5YR8/4	-	(3.7)	-	-	体部：ハケ / ナデ。
169	〃	〃	〃 〃	にぶい黄褐色 10YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/4	褐灰色 10YR5/1	-	(2.7)	-	-	外反口縁。口縁：ヨコナデ / ヨコハケ。体部：ハケ / ヨコハケ。
170	〃	〃	〃 〃	褐色 5YR6/6	にぶい黄褐色 10YR7/4	灰色 N5/0	-	(5.8)	-	4.6	平底。外底面、葉脈痕。体部：叩き後ナデ / ナデ。
171	〃	〃	ミニ	にぶい褐色 7.5YR6/4	にぶい褐色 7.5YR7/4	褐灰色 7.5YR5/1	-	(3.1)	-	-	鉢形。体部：ナデ / ヨコハケ。
図 31 172	〃	ST3	弥生 壺	褐色 7.5YR6/6	褐色 7.5YR6/6	にぶい黄褐色 10YR7/4	-	(3.2)	-	-	内外面、摩耗。調整不明。
173	〃	〃	〃 甕	にぶい黄褐色 10YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/4	154	(5.5)	-	-	「く」。口唇、面取り。口縁：叩き後ナデ / ヨコナデ。体 部：叩き後ナデ / ハケ。煤。
174	〃	〃	〃 〃	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい褐色 7.5YR7/4	黄灰色 2.5Y6/1	152	(7.2)	-	-	「く」。口唇、ハケ状原体による面取り。口縁：叩き後 ナデ / ヨコハケ。体部：叩き後ナデ / ハケ後ナデ。被熱。
175	〃	〃	〃 〃	褐色 5YR6/6	灰白色 2.5Y8/2	浅黄褐色 10YR8/3	153	(7.3)	-	-	「く」。口唇、面取り。口縁：叩き後ナデ / ヨコハケ。体 部：叩き後ナデ / ハケ・ナデ。黒斑。被熱。
176	〃	〃	〃 〃	明赤褐色 5YR5/6	明赤褐色 2.5YR5/6	褐色 5YR6/6	-	(2.6)	-	-	口縁端部、摘み上げ。口縁：タテハケ後ヨコナデ / ヨ コナデ。搬入か。
177	〃	ST3_ SD1	〃 底部	褐色 5YR6/6	にぶい褐色 7.5YR6/4	褐色 5YR6/6	-	(9.0)	-	4.0	平底。外底面、ナデ。体部：叩き後タテハケ / ナデ。黒 斑。
178	〃	ST3	〃 〃	オリーブ黒色 5Y3/1	にぶい黄褐色 10YR6/3	黄灰色 2.5Y5/1	-	(4.2)	-	3.2	角の取れた平底。外底面、ナデ。体部：叩き後ナデ / ナデ。煤。
179	〃	〃	〃 鉢	褐色 7.5YR6/6	褐色 7.5YR7/6	灰色 5Y5/1	-	(4.8)	-	-	外反口縁。口縁：ヨコハケ / ヨコハケ。体部：ヨコハ ケ / ヨコハケ後ミガキ。
180	〃	〃	〃 〃	褐色 5YR6/6	褐色 5YR6/6	灰黄褐色 10YR5/2	-	(3.7)	-	-	口唇、面取り。体部：ナデ / ナデ。キレット。
図 33 181	〃	ST4	〃 壺	褐色 5YR7/6	褐色 5YR7/6	褐色 7.5YR7/6	11.0	(4.6)	-	-	口縁：ナデ / 指ナデ・ヘラナデ。
182	〃	〃	〃 〃	褐色 7.5YR7/6	褐色 7.5YR7/6	黄灰色 2.5Y6/1	164	(5.5)	-	-	口唇、ハケ状原体による面取り。口縁：タテハケ / ヨ コハケ。体部：ハケ / ナデ。接合痕。
183	〃	〃	〃 〃	にぶい黄褐色 10YR7/4	灰黄褐色 10YR6/2	灰黄褐色 10YR6/2	-	(2.6)	-	-	口唇、上方へ拡張、刺突文。口縁：ヨコナデ / ヨコハ ケ・ナデ後ミガキ。
184	〃	〃	〃 〃	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい黄褐色 10YR7/3	黄灰色 2.5Y6/1	22.0	(2.0)	-	-	口唇、拡張、6 条 1 単位の櫛波文・刺突文。口縁：叩 き後タテハケ / ヨコハケ後ミガキ。
185	〃	〃	〃 甕	にぶい黄褐色 10YR7/4	褐色 7.5YR7/6	にぶい黄褐色 10YR7/4	-	(15.8)	20.5	-	口縁：叩き後ハケ / ハケ。体部：叩き後ハケ / ハケ 後ナデ。内外面、摩耗。
186	〃	〃	〃 〃	にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい褐色 7.5YR6/4	-	(13.2)	14.2	3.2	角の取れた平底。体部：叩き後ナデ / ハケ。キレット。 黒斑。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 33 187	5 区	ST4_ P7	弥生 底部	浅黄橙色 10YR8/3	にぶい黄橙色 10YR7/2	黄灰色 2.5Y5/1	-	(3.8)	-	5.4	角の取れた平底。外底面，叩き目。体部：叩き後ハケ / ナデか。
188	〃	ST4	鉢	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	黄灰色 2.5Y5/1	11.4	7.3	-	3.8	口唇，うすく仕上げる。平底。体部：ナデ/ハケ。黒斑。
189	〃	〃	鉢	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	-	11.3	7.1	-	-	丸底。体部：ナデ/ハケ。内底面，ナデ。ほぼ完存。
190	〃	〃	鉢	にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	12.5	5.4	-	2.0	ほぼ丸底。体部：ヘラナデ/タテハケ。キレツ。被熱 か。
191	〃	〃	鉢	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	褐灰色 10YR4/1	14.0	4.9	-	3.8	突出した平底，片側を潰す。体部：叩き後ナデ/ナ デ。歪む。
192	〃	〃	鉢	橙色 7.5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	灰黄褐色 10YR5/2	16.3	(4.9)	-	-	体部：叩き後ナデ/ハケ後ミガキ。
193	〃	〃	鉢	橙色 5YR7/6	浅黄褐色 7.5YR8/4	黄灰色 2.5Y6/1	19.0	7.4	-	-	口唇，面取り。丸底。強いナデにより丸底化。体部：ナ デか/ハケ。外面，やや摩耗。黒斑。
194	〃	〃	鉢	橙色 5YR6/8	橙色 5YR7/6	浅黄褐色 10YR8/4	17.6	8.9	-	3.5	口唇，面取り。角の取れた平底。外底面，叩き目。体部： 叩き後ナデ・ハケ/ハケ・ミガキ。黒斑。
195	〃	〃	鉢	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	灰色 N5/0	19.6	(6.3)	-	-	口唇，摘み上げ。体部：ハケ後ミガキ/ハケ後ミガ キ。キレツ。
196	〃	〃	鉢	橙色 5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR6/4	暗灰黄色 2.5Y5/2	19.9	(4.7)	-	-	口唇，ハケ状原体による面取り。体部：叩き後ハケ/ ハケ後ミガキ。
197	〃	〃	鉢	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	黄灰色 2.5Y6/1	23.4	(5.9)	-	-	口唇，面取り。体部：叩き後ナデ/ハケ後ミガキ。キ レツ。
198	〃	〃	鉢	にぶい黄褐色 10YR6/4	にぶい黄褐色 10YR6/4	灰黄色 2.5Y6/2	27.0	(3.2)	-	-	外反口縁。口唇，面取り。内外面，摩耗，調整不明。
199	〃	〃	鉢	灰黄褐色 10YR4/2	黒色 10YR2/1	灰黄褐色 10YR5/2	-	(3.6)	-	-	体部：ミガキ/ヨコナデ・ハケ。黒色磨研状。搬入か。
200	〃	〃	底部	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい黄褐色 10YR7/3	褐灰色 10YR4/1	-	(3.4)	-	3.5	平らな部分の残る丸底。体部：叩き後ナデ/ハケ・ ナデ。黒斑。
201	〃	〃	鉢	橙色 7.5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	灰色 5Y5/1	-	(5.7)	-	2.1	平らな部分の残る丸底。叩くことで丸底化。体部：叩 き後ナデ/ハケ・ナデ。被熱。煤。
202	〃	〃	高杯	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	黄灰色 2.5Y5/1	-	(2.9)	-	-	裾部：ミガキ/ハケ。円孔。
203	〃	ST4_ P5	鉢	橙色 5YR6/6	橙色 7.5YR7/6	黄灰色 2.5Y5/1	-	(5.4)	-	-	脚付き鉢。体部：ナデ/ナデ。
図 35 204	〃	ST6	壺	浅黄褐色 7.5YR8/4	橙色 5YR7/6	灰白色 2.5Y8/2	14.2	(4.3)	-	-	口唇，ハケ状原体による面取り。口縁：ナデ/ハケ・ ナデ。
205	〃	〃	鉢	橙色 5YR6/6	橙色 7.5YR7/6	褐色 7.5YR7/6	-	(2.5)	-	-	口縁：ハケ/。内面，摩耗。
206	〃	〃	鉢	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	灰白色 10YR8/2	21.4	(2.0)	-	-	口唇，面取り。口縁：ハケ/ハケ。
207	〃	ST6_ SK1	鉢	明赤褐色 2.5YR5/6	明赤褐色 2.5YR5/6	明赤褐色 2.5YR5/6	13.8	(1.4)	-	-	口唇，面取り。口縁：ハケ後ナデ/ハケ。
208	〃	ST6	鉢	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	黄灰色 2.5Y5/1	19.9	(9.6)	-	-	口唇，面取り。口縁：ヨコナデ。頸部：ハケ/ヨコハ ケ。体部：叩き後ハケ/ヨコハケ・ナデ。肩内接合痕。
209	〃	〃	鉢	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	暗灰黄色 2.5Y5/2	25.6	(3.3)	-	-	口唇，面取り，凹面状。4条1単位の櫛波文。口縁： ハケ/ハケ後ミガキ。
210	〃	〃	鉢	橙色 5YR6/6	褐色 5YR6/6	黄灰色 2.5Y5/1	-	(2.1)	-	-	口唇，面取り，凹面状。口縁：ヨコナデ/ヨコナデ。
211	〃	〃	鉢	にぶい橙色 7.5YR7/4	浅黄褐色 7.5YR8/4	黄灰色 2.5Y5/1	14.0	(2.8)	-	-	二重口縁壺。二次口縁：ミガキ/ナデ。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 35 212	5 区	ST6	弥生 壺	にぶい赤褐色 5YR5/4	にぶい黄褐色 10YR7/4	黄灰色 2.5Y6/1	-	(6.0)	-	-	口唇、面取り、刻目か。口縁：ナデ/ナデ。貼付突帯。 外面、摩耗。
213	〃	〃	〃 〃	にぶい黄褐色 10YR6/3	にぶい黄褐色 10YR6/3	灰黄褐色 10YR6/2	13.7	(4.0)	-	-	二重口縁壺。二次口縁：ミガキ/ミガキ。
214	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR6/6	灰白色 5Y7/1	13.2	(5.7)	-	-	口縁、内湾。口唇、凹面状。口縁：ミガキ/ヨコナデ。 頸部：ハケ後ミガキ/ハケ後ミガキ。煤。
215	〃	〃	〃 〃	橙色 2.5YR6/6	橙色 7.5YR7/6	灰色 5Y4/1	12.2	(6.0)	-	-	複合口縁壺。口唇、ルーズな面取り。一次口縁：タテ ハケ/ハケか。二次口縁：ヨコハケ/ハケか。
216	〃	〃	〃 甕	橙色 5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	灰色 N5/0	-	(2.0)	-	-	口縁、上方へ拡張。口縁：ヨコナデ/ヨコナデ。
217	〃	〃	〃 〃	浅黄褐色 10YR8/4	浅黄褐色 10YR8/4	暗黄褐色 2.5Y5/2	9.9	(6.2)	10.0	-	小型甕。緩やかな「く」。口縁：ナデ/ナデ。体部：ナ デ/ハケ・ナデ。
218	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	灰色 5Y4/1	11.4	(7.4)	11.9	-	「く」。口縁：ナデ/ハケ。体部：叩き後ナデ・ヘラナ デ/ハケ・ナデ。
219	〃	〃	〃 〃	にぶい黄褐色 10YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/4	灰黄褐色 10YR6/2	13.0	(11.1)	13.2	-	緩やかな「く」。口縁：叩き後ナデ/ハケ。体部：叩 き後ハケ/ハケ。
220	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	褐灰色 10YR4/1	14.4	(7.1)	-	-	「く」。口唇、ハケ状原体による面取り。口縁：叩き後 ハケ/ハケ。体部：叩き後ナデ/ハケ。頸内接合痕。煤。
221	〃	〃	〃 〃	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい黄褐色 10YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/3	15.8	(12.0)	-	-	緩やかな「く」。口唇、面取り。口縁：叩き後ナデ/ハ ケ。体部：叩き後ナデ/ハケ・ナデ。肩内接合痕。黒斑。
222	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい褐色 7.5YR5/3	にぶい黄褐色 10YR6/3	18.0	(11.7)	17.7	-	「く」。口唇、ハケ状原体による面取り。口縁：叩き後 ハケ/ハケ。体部：叩き後ナデ/ハケ後ナデ。煤。
223	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい褐色 7.5YR5/3	にぶい橙色 7.5YR6/4	16.9	(11.9)	17.2	-	「く」。口唇、ルーズな面取り。口縁：叩き後ナデ/ハ ケ。体部：叩き後ナデ・ハケ/ハケ・ナデ。煤。
224	〃	〃	〃 〃	にぶい黄褐色 10YR7/4	橙色 7.5YR7/6	灰白色 5Y8/1	16.2	(9.7)	-	-	「く」。口唇、ハケ状原体による面取り。口縁：叩き後 ナデ/ハケ。体部：叩き後ハケ・ナデ/ハケ・ナデ。
225	〃	〃	〃 〃	にぶい赤褐色 5YR5/4	にぶい褐色 7.5YR5/4	暗黄褐色 2.5Y5/2	18.0	(7.3)	-	-	「く」。口唇、ハケ状原体による面取り。口縁：叩き後 ナデ/ハケ。体部：叩き後ナデ/ナデ。煤。
226	〃	〃	〃 〃	灰黄褐色 10YR6/2	灰黄褐色 10YR6/2	灰黄褐色 10YR6/2	15.6	(15.2)	-	-	「く」。口唇、面取り。口縁：叩き後ナデ/ハケ。丸底。体 部：叩き後ハケ/ハケ・ナデ・ケズリ。キレット。黒斑。煤。
227	〃	〃	〃 〃	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい黄褐色 10YR7/3	浅黄褐色 10YR8/3	14.1	(14.0)	15.9	-	「く」。口縁：叩き後ナデ/ハケ。体部：叩き後ナデ/ ハケ・ナデ。煤。
228	〃	〃	〃 〃	にぶい黄褐色 10YR7/2	にぶい黄褐色 10YR7/3	灰白色 10YR8/2	19.8	(9.2)	17.1	-	「く」。口唇、面取り。口縁：叩き後ハケ/ハケ。体部： 叩き後ナデ/ハケ・ナデ。肩内接合痕。煤。
図 36 229	〃	〃	〃 底部	浅黄褐色 7.5YR8/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	黄灰色 2.5Y4/1	-	(2.7)	-	4.2	平底。外底面、ナデ。体部：叩き後ハケ・ナデ/ナデ。
230	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR6/6	褐灰色 10YR4/1	黄灰色 2.5Y5/1	-	(2.9)	-	4.3	丸底。ナデにより丸底化。体部：叩き後ナデ/ナデ。 内底面、ヘラの静止痕。黒斑。
231	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	灰色 10Y5/1	-	(4.6)	-	3.8	角の取れた平底。片側を潰す。外底面、ナデ。体部：叩 き後ナデ/ハケ。
232	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	浅黄褐色 10YR8/3	-	(5.6)	-	-	丸底。ナデにより丸底化。体部：叩き後ナデ/ハケ・ ナデ。黒斑。
233	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	橙色 5YR7/6	黄灰色 2.5Y6/1	-	(6.4)	-	3.0	丸底。ナデにより丸底化。体部：叩き後ナデ/ナデ。 黒斑。
234	〃	〃	〃 〃	にぶい黄褐色 10YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/4	灰黄褐色 10YR6/2	-	(4.3)	-	6.6	丸底。ナデにより丸底化。体部：ハケ後ナデ/ハケ。 黒斑。
235	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	褐灰色 7.5YR6/1	-	(3.2)	-	7.8	ほぼ丸底か。外底面、叩き目。体部：ハケ/ハケ・ナデ。
236	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	浅黄褐色 7.5YR8/4	-	(6.6)	-	5.0	角の取れた平底。外底面、ナデ。体部：叩き後ナデ・ ハケ/ハケ後ナデ。キレット。黒斑。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 36 237	5区	ST6	弥生 底部	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	-	(2.5)	-	-	角の取れた平底。外底面, ナデ。体部: /ハケ。
238	〃	〃	〃	灰白色 10YR8/2	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	-	(6.8)	-	4.8	角の取れた平底。外底面, 叩き目。体部: 叩き/ナデ・ハケ。黒斑。
239	〃	〃	〃	黒色 N2/0	浅黄橙色 10YR8/4	灰色 N5/0	-	(8.7)	-	1.8	僅かに上げ底。外底面, ナデ。体部: 叩き後ハケ/ナデ。黒斑。
240	〃	〃	〃	黄灰色 2.5Y4/1	にぶい橙色 7.5YR6/4	褐灰色 10YR6/1	-	(8.9)	-	-	丸底。体部: 叩き後ハケ/ハケ・ナデ。
図 37 241	〃	〃	鉢	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい黄橙色 10YR7/4	黄灰色 2.5Y6/1	8.8	4.5	-	2.3	角の取れた平底。体部: 叩き後ナデ/ハケ。黒斑。歪む。
242	〃	〃	〃	灰黄褐色 10YR6/2	灰黄褐色 10YR5/2	褐灰色 10YR5/1	8.7	4.8	-	-	体部: ナデ/ナデ。外面, 指圧顕著。キレツ。黒斑。歪む。
243	〃	〃	〃	灰黄褐色 10YR6/2	明黄褐色 10YR7/6	褐灰色 10YR6/1	10.2	6.6	-	-	口唇, ルーズな面取り。丸底。内底面から押し出し。体部: 叩き後ナデ/ヘラナデ。キレツ。黒斑。
244	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	浅黄褐色 10YR8/3	11.7	(7.1)	-	-	体部: 叩き後ナデ/ハケ・ナデ。キレツ。
245	〃	〃	〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	11.8	6.2	-	2.4	平らな部分の残る丸底。体部: 叩き後ナデ/ハケ・ナデ。
246	〃	〃	〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	灰白色 10YR7/1	12.8	(4.9)	-	-	体部: 叩き後ナデ/ナデ・ミガキか。
247	〃	〃	〃	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい黄褐色 10YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/3	13.0	(6.1)	-	-	体部: ナデ/ナデ。黒斑。
248	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	14.2	6.9	-	4.8	角の取れた平底。体部: 叩き後ナデ/ナデ・ハケ。
249	〃	ST6_P5	〃	橙色 7.5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR6/4	灰黄褐色 10YR5/2	12.6	(5.0)	-	-	緩やかな「く」。口唇, 摘み上げ。口縁: ハケ/ハケ。体部: ハケ/ナデ。
250	〃	ST6	〃	橙色 5YR6/6	にぶい黄褐色 10YR7/4	灰色 5Y5/1	(17.7)	(5.8)	-	-	体部: 叩き後ナデ/ハケ後ナデ。キレツ。
251	〃	〃	〃	橙色 5YR7/8	橙色 5YR7/6	浅黄褐色 10YR8/3	20.5	7.2	-	-	丸底。外底面, 凹凸有り。口唇, 面取り。体部: 叩き後ナデ/ハケ・ミガキ。キレツ。黒斑。
252	〃	〃	〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	黄灰色 2.5Y6/1	13.0	(7.2)	-	-	緩やかな「く」。口唇, 面取り。口縁: ハケ/ハケ。体部: 叩き後ハケ/ナデ。黒斑。
253	〃	〃	有孔鉢	にぶい橙色 7.5YR6/4	橙色 5YR7/6	浅黄褐色 7.5YR8/3	-	(7.5)	-	1.8	体部: 叩き後ナデ/ハケ・ナデ。焼成前, 1穴穿孔。
254	〃	〃	鉢	浅黄褐色 7.5YR8/4	浅黄褐色 7.5YR8/4	灰色 N4/0	-	(2.9)	-	-	脚付き鉢。製塩土器か。杯部: 叩き後ナデ/ヘラナデ。脚部: /ハケ・ナデ。
255	〃	〃	高杯	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/3	-	(3.1)	-	-	焼成前円孔。脚部: ミガキ/ナデ・ハケ。
256	〃	〃	〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	-	(5.1)	-	-	焼成前円孔。脚部: ミガキ/ナデ・ハケ。
257	〃	〃	〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 2.5YR6/6	-	(2.7)	-	11.2	脚端部, ハケ状原体による面取り。脚部: ハケ/ハケ。
図 38 263	〃	〃	ミニ	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい黄褐色 10YR6/3	黄灰色 2.5Y6/1	6.1	3.0	-	-	鉢形。体部: ナデ/ナデ。外面, 指頭圧痕顕著。歪む。
図 40 265	〃	ST7	弥生 壺	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	浅黄褐色 7.5YR8/3	13.3	(4.1)	-	-	口唇, 面取り。口縁: タテハケ/ハケ。
266	〃	〃	〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	浅黄褐色 7.5YR8/3	16.0	(3.6)	-	-	口縁: タテハケ/ヨコハケ。
267	〃	〃	〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	黄灰色 2.5Y6/1	18.0	(1.6)	-	-	口唇, 面取り, 拡張。口縁: ヨコナデ/ヨコナデ。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図40 268	5区	ST7	弥生 壺	橙色 5YR7/6	にぶい橙色 5YR6/3	褐灰色 10YR5/1	25.0	(1.4)	-	-	口唇, ハケ状原体による面取り, 拡張。口縁: ヨコナ デ・ハケ / ヨコナデ・ハケ。
269	〃	ST7_ P4	〃 〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR7/6	23.7	(4.4)	-	-	外反口縁。口唇, 面取り。口縁: ハケ / ハケ。被熱か。 煤。
270	〃	ST7	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい黄橙色 10YR7/4	灰色 N4/0	16.8	(2.2)	-	-	口縁: ハケ・ナデ / ヨコハケ後ミガキ。7条1単位 の櫛波文。小判形の浮文。黒斑。
271	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR7/8	橙色 5YR7/8	褐灰色 7.5YR5/1	20.4	(4.3)	-	-	二重口縁壺。口唇, 面取り。一次口縁: ナデかミガキ / ナデか。二次口縁: ヨコナデ / ナデか。接合痕。
272	〃	ST7_ P3	〃 甕	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	浅黄褐色 7.5YR8/6	15.3	(3.2)	-	-	口唇, 面取り。口縁: 叩き後ナデ / ヨコハケ。煤。
273	〃	ST7	〃 〃	にぶい橙色 5YR6/4	にぶい橙色 5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	14.0	(3.5)	-	-	「く」。口縁: ヨコナデ / ヨコナデ。体部: ヨコナデ / ナデ。内面, 剥離。煤。
274	〃	ST7_ 中央P1	〃 〃	浅黄褐色 10YR8/4	浅黄褐色 10YR8/3	浅黄褐色 10YR8/4	19.0	(4.1)	-	-	「く」。口唇, ハケ状原体による面取り。口縁: 叩き後 ナデ / ハケ。体部: 叩き後ハケ / ハケ。
275	〃	ST7	〃 〃	灰黄褐色 10YR6/2	橙色 7.5YR7/6	暗灰色 N3/0	-	(1.6)	-	-	「く」。口唇, 摘み上げ, 凹面状。口縁: ナデ / ナデ。
276	〃	〃	〃 〃	にぶい赤褐色 5YR5/4	明赤褐色 2.5YR5/6	明赤褐色 2.5YR5/6	-	(1.5)	-	-	口唇, 摘み上げ。口縁: ヨコナデ / ヨコナデ。
277	〃	〃	〃 底部	橙色 5YR7/8	橙色 5YR7/6	灰白色 2.5Y7/1	-	(5.2)	-	4.0	平底。体部: 叩き後ハケ / ナデ。黒斑。
278	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 5YR6/4	赤色 10R5/6	-	(2.7)	-	6.0	上げ底か。体部: 叩き後ナデ / ナデ。被熱。
279	〃	〃	〃 鉢	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい黄褐色 10YR7/2	にぶい黄褐色 10YR7/2	11.9	(4.6)	-	-	口唇, 刻目。体部: ナデ / ハケ・ナデ。キレット。黒斑。
280	〃	ST7_ 中央P1	〃 〃	橙色 2.5YR6/8	橙色 5YR6/6	橙色 5YR7/8	14.9	5.0	-	-	口唇, 凹面状。口縁: ヨコハケ / ヨコハケ。体部: ハ ケ / ハケ。
281	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR7/8	橙色 5YR7/8	橙色 5YR7/6	21.6	(2.7)	-	-	口唇, 面取り。体部: ハケ・ナデ / ハケ。内外面, 摩耗。 キレット。
282	〃	ST7	〃 〃	明赤褐色 2.5YR5/6	明赤褐色 2.5YR5/6	黒褐色 2.5Y3/1	16.0	(1.9)	-	-	口唇, 摘み上げ。口縁: ヨコナデ / ハケ。体部: 叩き 後ナデ / ハケ。搬入か。
283	〃	ST7_ P6	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	浅黄褐色 10YR8/3	16.0	(2.8)	-	-	口唇, 僅かに摘み上げ。体部: 叩き後ナデ / ハケ。
284	〃	ST7	〃 〃	にぶい黄褐色 10YR7/2	にぶい黄褐色 10YR7/2	にぶい黄褐色 10YR7/2	21.5	(4.0)	-	-	口唇, 面取り。口縁: ヨコナデ / ヨコナデ。体部: ハ ケ / ハケ。
286	〃	ST7_ 中央P1	〃 高杯	浅黄褐色 7.5YR8/4	浅黄褐色 7.5YR8/4	灰白色 10YR8/2	13.0	(3.0)	-	-	杯部: ミガキ / ハケ後ヨコナデ。
287	〃	ST7	〃 〃	浅黄褐色 10YR8/3	浅黄褐色 10YR8/3	灰色 N4/0	16.5	(3.0)	-	-	杯部: ヨコナデ後ミガキ / ハケ後ミガキ。
288	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	灰色 5Y5/1	-	(2.8)	-	-	内外面, 摩耗。調整不明。接合痕, 明瞭。
289	〃	〃	〃 〃	灰黄褐色 10YR6/2	にぶい黄褐色 10YR6/4	灰黄褐色 10YR6/2	-	(5.3)	-	-	脚部: ミガキ / しぼり目。ベンガラ塗布か。
290	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 5YR6/6	にぶい黄褐色 10YR7/3	-	(5.0)	-	-	端部, 面取り。円孔。裾部: ミガキ / ナデ・ハケ。
291	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	-	(1.4)	-	17.0	端部, ハケ状原体による面取り。摘み上げ。裾部: ハ ケ・ヨコナデ / ハケ・ヨコナデ。搬入か。
292	〃	ST7_ P3	〃 器台	灰色 N4/0	にぶい橙色 7.5YR7/4	灰色 N4/0	28.6	(3.5)	-	-	口唇, 面取り。口縁: ハケ後ヨコナデ / ハケ。4条1 単位の櫛波文・竹管文。黒斑。
図41 293	〃	ST4・6	〃 壺	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	浅黄褐色 10YR8/3	-	(1.2)	-	-	口縁: ハケ後ナデか / ナデ。櫛波文。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 41 294	5区	ST4・6	弥生 高杯	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	黄灰色 2.5Y6/1	12.3	(6.2)	-	-	低脚高杯。杯部：ハケ / ナデ。内底面, ハケ。
図 42 295	〃	ST4・7	〃 底部	黒褐色 10YR3/2	にぶい橙色 7.5YR6/4	灰黄褐色 10YR5/2	-	(4.5)	-	5.4	角の取れた平底。外底面, ナデ。体部：タテハケ / ナデ。被熱。
296	〃	〃	〃 鉢	にぶい黄橙色 10YR7/2	浅黄橙色 7.5YR8/4	明赤褐色 5YR5/6	-	(3.2)	-	-	体部：ナデか / ハケ後ナデ。
297	〃	〃	〃 高杯	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	褐灰色 10YR5/1	-	(3.3)	-	-	細い脚柱部。ミガキ / ナデ。
298	〃	〃	〃 器台	橙色 7.5YR7/6	橙色 5YR6/6	灰色 5Y6/1	31.6	(4.2)	-	-	口唇, 拡張。5条1単位の櫛波文・竹管文を施した双頭 渦文。口縁：ハケ後ミガキ / ミガキ。黒斑。伊予型器台。
図 43 300	〃	SX1	〃 壺	にぶい黄橙色 10YR7/4	橙色 7.5YR7/6	黄灰色 2.5Y4/1	20.2	(2.4)	-	-	口唇, 面取り。口縁： / ヨコハケ・ミガキ。外面, 摩耗。
301	〃	〃	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR6/3	橙色 5YR6/6	にぶい黄橙色 10YR6/3	15.8	(4.0)	-	-	複合口縁壺。口唇, ルーズな面取り。一次口縁：ハケ / ハケ・ナデ。二次口縁：ハケ / ヨコナデ。被熱。
302	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	灰白色 10YR8/2	17.7	(3.8)	-	-	口唇, 面取り。突帯。口縁：ハケ / ハケ。3～5条1 単位の櫛波文。
303	〃	〃	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR6/3	橙色 5YR6/6	灰色 5Y6/1	-	(12.0)	-	-	丸底。体部：叩き後ナデ・ハケ / ハケ。摩耗。黒斑。
304	〃	〃	〃 甕	橙色 7.5YR7/6	にぶい褐色 7.5YR6/4	黒褐色 10YR3/1	13.4	(2.8)	-	-	口唇, 面取り。摘み上げ。口縁：タテハケ / ヨコナデ。 煤。
305	〃	〃	〃 〃	浅黄橙色 10YR8/4	にぶい黄橙色 10YR7/3	黄灰色 2.5Y5/1	14.4	(1.5)	-	-	口唇, 拡張, 2条の凹線文。煤。
306	〃	〃	〃 鉢	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	浅黄橙色 10YR8/4	10.2	9.0	-	-	丸底。体部：叩き後ナデ / ハケ・ナデ。キレツ。黒斑。
307	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	灰黄色 2.5Y6/2	20.0	(5.3)	-	-	口唇, 面取り。体部：叩き後ナデ・ハケ / ハケ・ナデ。
308	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	浅黄橙色 10YR8/4	14.8	6.2	-	4.3	突出した平底。外底面, ナデ。体部：叩き後ナデ / ハ ケ。キレツ。内面, 大きく剥離。黒斑。被熱。
309	〃	〃	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	黄灰色 2.5Y5/1	17.4	(6.1)	-	-	外反口縁。口縁：ヨコナデ / ヨコナデ。体部：ナデ後 ミガキ / ナデ後ミガキ。
310	〃	〃	〃 高杯	にぶい黄褐色 10YR5/3	にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい黄褐色 10YR6/4	-	(5.7)	-	-	円孔。脚部：タテハケ後ミガキ / しぼり目・ナデ。
311	〃	〃	〃 器台	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	灰黄色 2.5Y6/2	18.0	(1.7)	-	-	口唇, ハケ状原体による面取り。上方へ拡張。口縁： ヨコナデ / ヨコナデ。やや摩耗。
図 48 314	〃	ST8	〃 壺	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	黄灰色 2.5Y6/1	20.0	(3.4)	-	-	口唇, 面取り。口縁：ハケ・ナデ / ハケ・ナデ。
315	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	灰色 5Y4/1	19.9	(2.3)	-	-	口唇, 面取り。口縁：ハケ / 。内面, 摩耗。
316	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい黄褐色 10YR7/4	19.0	(1.8)	-	-	口唇, 面取り。僅かに拡張。5条1単位の櫛波文。口縁： ハケ / ハケ。煤。
317	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	橙色 2.5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	22.5	(1.4)	-	-	口唇, 面取り。僅かに拡張。3条1単位の櫛波文を2 段。口縁：ヨコナデ / ミガキ。
318	〃	〃	〃 〃	灰白色 2.5Y8/2	浅黄橙色 10YR8/3	褐灰色 10YR5/1	-	(1.1)	-	-	口唇, 面取り。僅かに拡張。5条1単位の櫛波文。口縁： ハケ / ハケ。煤。
319	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 7.5YR7/6	灰色 N4/0	32.0	(2.4)	-	-	口唇, ハケ状原体による面取り, 凹面状。摘み上げ。口 縁：ハケ / ミガキ。
320	〃	〃	〃 〃	明赤褐色 2.5YR5/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	明赤褐色 2.5YR5/6	11.0	(3.1)	-	-	突帯状。口縁：ナデ・ハケ / ナデ。外面, 摩耗。内面, ヘラによる調整痕。
321	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR6/6	橙色 7.5YR7/6	10.2	(5.0)	-	-	口縁, 内湾。頸部：ハケ / ナデ。外面, 摩耗。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 48 322	5 区	ST8	弥生 壺	橙色 5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	浅黄橙色 7.5YR8/4	10.0	(5.3)	-	-	直口壺。口唇、面取り。口縁：ハケ / ハケ。
323	〃	〃	〃 甕	にぶい黄橙色 10YR7/3	浅黄橙色 10YR8/4	浅黄橙色 10YR8/3	18.0	(5.0)	-	-	「く」。口唇、ハケ状原体による面取り。口縁：叩き後 ナデ / ハケ。体部：ハケ / ナデ・ヘラによる調整痕。
324	〃	〃	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR6/3	橙色 7.5YR6/6	にぶい黄橙色 10YR7/4	14.2	(13.6)	18.9	-	「く」。口唇、ルーズな面取り。口縁：叩き後ナデ / ハケ。 体部：叩き後ナデ / ハケ後ナデ。煤。内面、モミ圧痕。
325	〃	〃	〃 底部	灰色 N4/0	にぶい黄橙色 10YR7/2	黄灰色 2.5Y4/1	-	(3.2)	-	4.6	平底。外底面、ナデ。体部：ハケ / ナデ。
326	〃	〃	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR7/3	暗灰色 N3/0	黄灰色 2.5Y5/1	-	(3.0)	-	3.5	底部、若干、凸状。外底面、ナデ。体部：ヨコハケ / ナ デ。黒斑。
327	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	橙色 7.5YR7/6	褐灰色 10YR5/1	-	(2.3)	-	6.0	平底。外底面、ナデ。体部：ハケ後ミガキ / ナデか。内 面、荒れる。煤。
328	〃	〃	〃 〃	灰色 N4/0	にぶい橙色 7.5YR7/3	灰色 5Y5/1	-	(3.2)	-	5.3	僅かに上げ底。外底面、ナデ。体部：叩き後ナデ / ナ デ。黒斑。
329	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	灰色 5Y5/1	-	(5.3)	-	-	ほぼ丸底。ナデにより丸底化。体部：叩き後ナデ / ハ ケ後ナデ。
330	〃	〃	〃 鉢	橙色 5YR7/6	橙色 5YR6/6	浅黄橙色 10YR8/3	13.5	8.1	-	3.9	平らな部分の残る丸底。外底面、ナデ。体部：ナデ / ハケ・ナデ。キレット。
331	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR7/6	にぶい黄橙色 10YR7/4	黄灰色 2.5Y6/1	10.2	5.6	-	4.2	角の取れた平底。外底面、ナデ。体部：ナデ / ハケ。キ レット。黒斑。
332	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 7.5YR7/6	灰黄色 2.5Y6/2	-	(3.6)	-	-	体部：ハケ・ナデ / ハケ。黒斑。赤色顔料付着。
333	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 5YR7/4	橙色 5YR7/6	黄灰色 2.5Y5/1	-	(7.2)	-	-	口唇、凹面状。体部：叩き後ナデ / ハケ後ナデ。外面、 摩耗。
334	〃	〃	〃 〃	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 10YR8/3	26.2	(4.4)	-	-	口唇、面取り、凹面状。体部：叩き後ハケ・ナデ / ハケ。
335	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	灰色 N6/0	11.9	(10.2)	-	3.2	外反口縁。口縁：叩き後ナデ / ハケ。平らな部分が残る丸 底。外底面、叩き後ナデ。体部：叩き後ハケ / ナデ。黒斑。
336	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR7/6	橙色 7.5YR6/6	橙色 5YR7/6	8.8	(5.0)	-	-	外反口縁。口縁：叩き後ナデか / ナデか。体部：叩き 後ナデか / ナデか。肩内接合痕。内外面、摩耗。
337	〃	〃	〃 〃	黒褐色 10YR3/1	にぶい橙色 7.5YR7/3	にぶい褐色 7.5YR6/3	-	(4.2)	-	7.6	脚付き鉢。杯部： / ミガキ。脚部：ミガキ / ナデ。
338	〃	〃	〃 蓋か	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	暗灰黄色 2.5Y5/2	-	(2.7)	-	-	頂部外面、ナデか。叩き後ナデか / ハケ。摩耗。
図 50 340	〃	ST9	〃 高杯	にぶい橙色 7.5YR7/4	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	-	(4.1)	-	13.4	端部、面取り。脚部：ミガキ / ハケ・ナデ。外面、やや 摩耗。
図 51 342	〃	〃	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい黄橙色 10YR7/4	褐灰色 10YR5/1	10.9	9.4	-	12.8	杯部：ハケ / ナデ。指圧。脚部：ミガキ・ナデ / ハケ・ ナデ。キレット。高杯の未成品か。
図 52 344	〃	ST8・9	〃 壺	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	11.0	(7.7)	-	-	口縁：ヨコナデ / ヨコナデ。頸部：ハケ後ミガキ / ハケ・ナデ。
345	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 7.5YR7/6	14.0	(4.8)	-	-	口唇、面取り。口縁：ヨコナデ / ヨコナデ。頸部：ハ ケ / ハケ後ナデ。
346	〃	〃	〃 〃	浅黄橙色 10YR8/3	にぶい黄橙色 10YR7/2	灰白色 10YR7/1	-	(1.7)	-	-	口唇、拡張、5 条 1 単位の櫛波文。口縁：ヨコナデ・ ミガキか / ヨコナデ・ミガキか。
347	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	灰色 5Y5/1	9.5	(3.3)	-	-	口縁、内傾。内外面、摩耗、調整不明。
348	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい黄橙色 10YR7/4	黄灰色 2.5Y6/1	-	(10.3)	16.1	-	偏球形。体部：ミガキか / ナデ・ハケ。外面、摩耗。肩 内接合痕。内面、しぼり目。
349	〃	〃	〃 甕	橙色 5YR6/6	にぶい橙色 5YR6/4	褐灰色 10YR4/1	11.5	(2.4)	-	-	「く」。口唇、摘み上げ、2 条の凹線文。口縁：ヨコナ デ / ヨコナデ。体部：ヨコナデ / ヨコナデ。煤。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 52 350	5 区	ST8・9	弥生 底部	灰黄褐色 10YR6/2	にぶい黄橙色 10YR7/2	褐灰色 10YR6/1	-	(4.1)	-	3.6	丸底。外底面、ハケ。ハケにより丸底化。体部：叩き後ハケ/ナデ。被熱。
351	〃	〃	鉢	灰黄褐色 10YR6/2	灰黄褐色 10YR6/2	褐灰色 10YR6/1	15.4	9.2	-	1.4	口唇、面取り。平底。外底面、凹凸有り。体部：叩き後ナデ・ケズリ/ハケ。黒斑。
352	〃	〃	〃	橙色 7.5YR7/6	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	20.3	7.4	-	4.4	口唇、面取り。突出した平底。外底面、ナデ。体部：ナデ/ハケ・ナデ。キレツ。黒斑。
353	〃	〃	高杯	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	灰白色 2.5Y8/2	-	(1.7)	-	-	杯部：ヘラナデか/ハケ後ナデあるいはミガキ。
図 53 354	〃	SX2	壺	にぶい橙色 5YR7/4	橙色 5YR7/6	灰白色 10YR8/2	13.4	(3.4)	-	-	口唇、2条の凹線文。内外面、摩耗、調整不明。
355	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	灰黄褐色 10YR6/2	12.5	(4.3)	-	-	口唇、面取り。口縁：ハケ/ハケ。
356	〃	〃	〃	にぶい黄橙色 10YR7/2	にぶい橙色 7.5YR7/3	灰色 N5/0	13.4	(6.1)	-	-	口縁：ハケ/ナデ・ハケ。
357	〃	〃	〃	橙色 5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	橙色 2.5YR6/8	14.0	(4.7)	-	-	口唇、面取り。口縁：タテハケ/ハケ・ナデか。
358	〃	〃	〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 5YR7/6	灰白色 10YR7/1	15.3	(5.4)	-	-	口唇、面取り。口縁：タテハケ/ハケ。内外面、摩耗。
359	〃	〃	〃	浅黄褐色 7.5YR8/4	浅黄褐色 7.5YR8/4	灰色 5Y5/1	16.0	(5.4)	-	-	口唇、ハケ状原体による面取り。口縁：叩き後ハケ/ハケ後ナデ。体部：叩き後ハケ/ナデ。キレツ。
360	〃	〃	〃	橙色 5YR6/6	橙色 7.5YR7/6	灰色 5Y6/1	16.2	(5.0)	-	-	口唇、ハケ状原体による面取り。摘み上げ。口縁：ハケ/ヨコナデ・ハケ。被熱。
361	〃	〃	〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	灰黄褐色 10YR6/2	23.5	(3.6)	-	-	内外面、摩耗。調整不明。
362	〃	〃	〃	にぶい黄橙色 10YR6/3	にぶい橙色 7.5YR6/4	黄灰色 2.5Y4/1	-	(1.8)	-	-	口唇、ハケ状原体による面取り。口縁：ハケ/ハケ。
363	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR7/3	にぶい橙色 7.5YR7/3	暗灰色 N3/0	16.6	(1.7)	-	-	口唇、面取り、ハケ状原体による刻目。口縁：ハケか/ハケか。内外面、摩耗。
364	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR7/3	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/2	21.0	(1.1)	-	-	口唇、ハケ状原体による面取り、下方へ拡張。口縁：ナデ/ハケ。
365	〃	〃	〃	橙色 7.5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	12.8	(1.3)	-	-	口唇、面取り、拡張。5条1単位の櫛波文。口縁：ヨコナデ・ミガキ/ミガキ。
366	〃	〃	〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	にぶい黄褐色 10YR7/4	-	(1.9)	-	-	口唇、面取り、拡張。複合鋸歯文。口縁：ヨコナデ/ナデ。
367	〃	SX2_P17	〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	浅黄褐色 7.5YR8/4	-	(2.0)	-	-	口唇、面取り、凹面状。口縁：ハケ/ヨコナデ。
368	〃	SX2	〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 7.5YR7/6	-	(1.3)	-	-	口唇、面取り、拡張。4～6条1単位の櫛波文。口縁：ミガキ/ナデ。
369	〃	〃	〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR6/6	黄灰色 2.5Y5/1	20.0	(2.7)	-	-	口唇、ハケ状原体による面取り。口縁：ヨコナデ/ハケ。沈線。
370	〃	〃	〃	にぶい赤褐色 5YR5/4	にぶい赤褐色 5YR5/4	灰黄褐色 10YR5/2	13.7	(1.4)	-	-	口唇、摘み上げ。口縁：ヨコナデ/ヨコナデ。
371	〃	〃	〃	黄褐色 10YR8/6	灰白色 10YR8/2	灰白色 2.5Y7/1	15.0	(1.9)	-	-	口唇、面取り。口縁：ヨコナデ/ヨコナデ。
372	〃	SX2_P6	〃	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい橙色 7.5YR7/4	浅黄褐色 10YR8/3	10.9	(3.2)	-	-	口縁端部、外反。口縁：ナデか/ナデ。煤。
373	〃	SX2	壺か	にぶい橙色 7.5YR7/4	浅黄褐色 10YR8/3	オリーブ黒色 5Y3/1	18.6	(2.9)	-	-	二重口縁か。口縁：ヨコナデ・ハケ/ヨコナデ。
374	〃	〃	壺	にぶい橙色 7.5YR7/4	橙色 7.5YR7/6	黄灰色 2.5Y5/1	15.4	(7.2)	-	-	口唇、面取り。口縁：/ミガキ。体部：/ナデ。外面、摩耗、調整不明。黒斑。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図53 375	5区	SX2_ P30	弥生 壺か	橙色 5YR6/8	にぶい橙色 7.5YR7/4	橙色 5YR7/6	-	(2.3)	-	-	口縁：ヨコナデ。内面、摩耗、調整不明。煤。土師か。
376	〃	〃	〃 壺	橙色 7.5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	にぶい黄橙色 10YR7/4	-	(2.5)	-	-	口縁：ミガキ/ハケ・ナデ。
377	〃	SX2	〃 〃	橙色 5YR7/6	にぶい褐色 7.5YR5/3	褐灰色 10YR4/1	-	(2.3)	-	-	口唇、2条の凹線文。口縁：ヨコナデ/ヨコナデ。煤。
378	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR6/6	橙色 5YR6/6	灰色 5Y5/1	14.2	(5.2)	-	-	複合口縁壺。一次口縁：ハケ/ナデ・ハケ。二次口縁： ナデ/ナデ・ハケ。煤。
379	〃	〃	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR7/4	橙色 7.5YR7/6	にぶい黄橙色 10YR7/4	-	(5.4)	-	-	複合口縁壺。一次口縁：ハケ/ハケ後ナデ。二次口縁： ヨコナデ/ヨコナデ。黒斑。
380	〃	〃	〃 〃	灰黄色 2.5Y7/2	にぶい橙色 5YR7/4	黄灰色 2.5Y6/1	17.6	(4.8)	-	-	複合口縁壺。一次口縁：ハケ/ハケ・ナデ。二次口縁： ハケ/ヘラナデ。ナデ痕。
381	〃	〃	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR7/2	にぶい黄橙色 10YR7/2	灰色 N5/0	-	(4.6)	-	-	複合口縁壺。口唇、面取り。ヨコナデ/ハケ・ナデ。5 条1単位の櫛直文、1段。5条1単位の櫛波文、2段。
382	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	浅黄褐色 7.5YR8/4	9.6	13.7	10.2	-	口縁：ハケ後ミガキ/ハケ。丸底。外底面、ケズリ・ ヘラナデ。体部：ハケ後ミガキ/ケズリ・ナデ。
383	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	暗灰色 N3/0	-	(4.3)	-	-	頸部：ハケ後ミガキ/ハケ後ナデ。斜格子の刻目突 帯。
384	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	黄灰色 2.5Y5/1	-	(7.0)	11.4	-	丸底。外底面、ナデ。体部：叩き後ナデ/ハケ。体部、 焼成後穿孔か。
385	〃	〃	〃 〃	黒褐色 10YR3/1	にぶい黄褐色 10YR7/3	灰色 5Y6/1	-	(1.4)	-	1.1	ボタン状の突出した平底。外底面、ミガキ。体部：ミ ガキ/ハケ。
386	〃	〃	〃 〃	にぶい黄褐色 10YR6/3	橙色 5YR7/6	灰黄色 2.5Y6/2	-	(5.5)	-	-	体部：叩き後ハケ/ハケ後ナデ。
図54 387	〃	〃	〃 〃	灰色 N5/0	浅黄褐色 7.5YR8/6	灰色 N6/0	-	-	-	-	体部：ハケか/ハケ後ナデ。外面に刻書。
388	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR6/6	灰色 N4/0	-	(3.6)	-	-	体部：ハケ/ハケ。外面に刻書。
図55 389	〃	〃	〃 大壺	にぶい赤褐色 5YR5/4	橙色 7.5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR6/4	-	(48.0)	49.6	-	体部：叩き後ハケ・ミガキ/ハケ。黒斑。
390	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/3	にぶい橙色 5YR7/4	黄灰色 2.5Y6/1	-	(26.8)	-	-	体部：叩き後ハケ・ナデ/ハケ・ナデ。黒斑。
図56 391	〃	〃	〃 甕	橙色 5YR6/8	橙色 5YR6/8	黄褐色 2.5Y5/3	14.4	(1.7)	-	-	口縁端部を上方へ拡張。2条の凹線文。口縁：ヨコ ナデ/ヨコナデ。煤。
392	〃	〃	〃 〃	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい黄褐色 10YR7/3	灰色 N4/0	14.5	(4.4)	-	-	緩やかな「く」。口唇、ハケ状原体による面取り。口縁： ハケ/ハケ。体部：ハケ/ハケ・ナデ。
393	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR6/4	浅黄褐色 7.5YR8/4	13.2	(2.9)	-	-	「く」。口唇、面取り、凹面状。口縁：ヨコナデ/ヨコナ デ・ハケ。体部：叩き後ハケ/ハケ。煤。
394	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR6/4	灰黄褐色 10YR5/2	14.6	(2.9)	-	-	「く」。口唇、摘み上げ。口縁：ヨコナデ/ヨコナデ。体 部：タテハケ/ケズリか。
395	〃	〃	〃 〃	褐灰色 10YR4/1	黒色 10YR2/1	褐灰色 10YR4/1	14.0	(2.3)	-	-	緩やかな「く」。口縁：ナデ/ナデ。煤。
396	〃	〃	〃 〃	にぶい黄褐色 7.5YR6/4	橙色 5YR6/6	にぶい黄褐色 10YR7/2	13.0	(2.1)	-	-	「く」。口唇、凹面状。摘み上げ。口縁：ヨコナデ/ヨコ ナデ。煤。
397	〃	〃	〃 〃	にぶい黄褐色 7.5YR6/4	にぶい黄褐色 7.5YR6/4	明黄褐色 10YR7/6	15.1	(5.9)	-	-	「く」。口唇、面取り。口縁：叩き後ナデ/ハケ。体部： 叩き後ナデ/ハケ。煤。
398	〃	SX2_ P33	〃 〃	浅黄褐色 7.5YR8/4	浅黄褐色 10YR8/4	黄灰色 2.5Y4/1	15.2	(4.1)	-	-	「く」。口唇、ルーズな面取り。口縁：叩き後ナデか/ ハケ。体部：叩き後ナデか/ハケ。外面、摩耗。
399	〃	SX2	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR7/8	黄灰色 2.5Y6/1	17.0	(4.9)	-	-	「く」。口唇、面取り。口縁：叩き後ナデ/ヨコハケ。体 部：ハケ/ケズリ。線刻か。煤。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 56 400	5 区	SX2_ P5	弥生 甕	橙色 7.5YR7/6	橙色 5YR7/6	黄灰色 2.5Y5/1	20.2	(3.1)	-	-	「く」。口唇, 面取り。口縁: 叩き後ナデ/ハケ。体部: 叩き後ナデ/ナデ。
401	〃	SX2	〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	浅黄橙色 10YR8/3	15.7	26.0	19.2	4.0	「く」。口唇, 摘み上げ。口縁: ナデ/ハケ。平らな部分 が残る丸底。体部: 叩き後ハケ/ハケ後ナデ。被熱。煤。
402	〃	〃	〃	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/2	-	(4.1)	-	-	口縁: ナデ/ヨコナデ。体部: ハケ/ケズリ。煤。搬 入か。
403	〃	〃	〃	褐灰色 7.5YR4/1	にぶい褐色 7.5YR5/3	にぶい褐色 7.5YR5/3	-	(4.6)	-	-	体部: ヨコナデ・ハケ/ナデ・しほり目。搬入。
404	〃	〃	〃	橙色 7.5YR6/6	にぶい褐色 7.5YR5/4	褐灰色 10YR4/1	-	(19.9)	15.8	2.5	角の取れた平底か。体部: 叩き後ハケ/ハケ。内底 面, ナデ。黒斑。
図 57 405	〃	〃	〃 鉢	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい黄橙色 10YR7/4	9.0	(3.5)	-	-	口縁: ヨコナデ/ヨコナデ。体部: ナデ/ナデ。キレ ツ。黒斑。
406	〃	SX2_ P17	〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	浅黄橙色 10YR8/3	10.8	(4.2)	-	-	口縁外面, 沈線状。体部: ナデ/ナデ。
407	〃	SX2	〃	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	黄灰色 2.5Y5/1	10.6	4.3	-	2.3	角の取れた平底。外底面, ナデ。体部: ナデ/ハケ・ ナデ。キレツ。黒斑。
408	〃	〃	〃	にぶい橙色 5YR6/4	橙色 7.5YR7/6	浅黄橙色 7.5YR8/4	9.6	6.8	-	2.8	角の取れた平底。外底面, ナデ。体部: 叩き後ナデ/ ナデ。キレツ。黒斑。
409	〃	〃	〃	浅黄橙色 7.5YR8/3	浅黄橙色 7.5YR8/4	灰白色 2.5Y7/1	12.4	6.9	-	4.0	角の取れた平底。外底面, ナデ。体部: ナデか/ナデ か。キレツ。黒斑。内外面, 摩耗。
410	〃	〃	〃	橙色 5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	灰色 N4/0	14.0	(7.0)	-	-	体部: 叩き後ナデ/ハケ・ナデ。
411	〃	SX2_ SD1	〃	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい黄橙色 10YR7/4	灰黄色 2.5Y6/2	17.4	8.1	-	-	ほぼ丸底。体部: ナデ・ハケ/ハケ。キレツ。
412	〃	SX2	〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR6/6	灰色 5Y5/1	20.4	(8.6)	-	-	口唇, 摘み上げ。体部: 叩き後ハケ/ハケ後ミガキ。 キレツ。黒斑。
413	〃	SX2_ P5	〃	橙色 5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	黄灰色 2.5Y5/1	18.3	5.1	-	-	ほぼ丸底。強いナデにより丸底化。体部: 叩き後ナデ/ ハケ。被熱。煤。内面, 荒れる。
414	〃	SX2	〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 5YR6/4	浅黄橙色 10YR8/4	8.6	7.1	-	2.4	外反口縁。口縁: ヨコナデ/ハケ。平らな部分が残る 丸底。外底面, ナデ。体部: 叩き後ハケ/ナデ。
415	〃	〃	〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	灰色 N4/0	10.6	(6.5)	-	-	外反口縁。口唇, ルーズな面取り。口縁: 叩き後ナデ/ ハケ。体部: 叩き後ナデ/ハケ。
416	〃	SX2_ P6	〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	橙色 5YR7/6	灰白色 10YR8/2	13.1	(3.4)	-	-	体部: ミガキ/ミガキ。
417	〃	SX2	〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	浅黄橙色 7.5YR8/6	27.7	(4.9)	-	-	外反口縁。口唇, 面取り。口縁: ナデ/ハケ。体部: 叩 き後ハケ/ケズリ。黒斑。
418	〃	〃	〃	明赤褐色 2.5YR5/6	明赤褐色 2.5YR5/6	橙色 5YR6/6	-	(1.3)	-	-	口縁: ミガキ/ナデ。
419	〃	〃	〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	褐灰色 5YR5/1	-	(2.4)	-	-	口縁外面, 4～5条1単位の櫛波文, 2段。体部: ミ ガキ/ナデ。内面, 摩耗。
420	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	灰色 5Y5/1	13.8	(6.0)	-	-	脚付き鉢。体部: ナデ/ハケ。キレツ。
421	〃	〃	〃	浅黄橙色 7.5YR8/4	にぶい黄橙色 10YR7/4	黄灰色 2.5Y4/1	-	(5.0)	-	3.6	脚付き鉢。体部: ナデ/ナデ・ミガキ。内面, 荒れる。
422	〃	SX2_ P6	〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	灰色 N4/0	13.2	(8.3)	-	-	体部: 叩き後ナデ/ヨコハケ後ナデ。焼成前穿孔。 煤。支脚か。
423	〃	SX2	〃 有孔鉢	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい黄橙色 10YR6/3	13.5	15.2	-	3.9	角の取れた平底。外底面, ナデ。体部: 叩き後ナデ/ ハケ・ナデ。接合痕。底部, 焼成前1穴穿孔。黒斑。
図 58 424	〃	〃	〃 体部	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	黄灰色 2.5Y5/1	-	(2.8)	-	-	叩き後ハケ/ハケ。内面, モミ丘痕。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 58 425	5 区	SX2	弥生 体部	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	灰黄褐色 10YR5/2	-	(4.7)	-	-	ナデか / ナデか。焼成後、内面から穿孔。黒斑。
426	〃	〃	〃 〃	浅黄褐色 10YR8/3	にぶい黄褐色 10YR7/3	灰色 N5/0	-	(6.2)	-	-	叩き後ハケ / ナデ・ハケ。外面、モミ圧痕。
427	〃	SX2_ P24	〃 底部	にぶい黄褐色 10YR7/2	にぶい黄褐色 10YR7/4	褐灰色 10YR6/1	-	(6.3)	-	3.8	平底。外底面、ナデ。体部：叩き後ナデ / ハケ・ナデ。
428	〃	SX2	〃 〃	橙色 7.5YR6/6	浅黄褐色 10YR8/3	灰色 N4/0	-	4.2	-	4.3	平底。外底面、ハケ。体部：叩き後ハケ / ナデ。黒斑。被熱。
429	〃	SX2_ P19	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 7.5YR7/6	黄灰色 2.5Y6/1	-	(3.7)	-	3.8	平底。外底面、ナデ。体部：ハケ / ナデ。内面、摩耗。黒斑。
430	〃	SX2	〃 〃	にぶい黄褐色 10YR6/3	灰黄褐色 10YR5/2	にぶい黄褐色 10YR6/3	-	(1.0)	-	4.4	角の取れた平底。外底面、ナデ。体部：ナデ / ナデ。黒斑か。内面、剥離。
431	〃	SX2_ P21	〃 〃	にぶい黄褐色 10YR6/3	にぶい黄褐色 10YR7/3	灰黄褐色 10YR5/2	-	(3.7)	-	5.0	平底。外底面、ハケ・ナデ。体部：叩き後ナデ / ハケ。
432	〃	SX2_ SD1	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	黄灰色 2.5Y5/1	-	(3.6)	-	7.0	平底。外底面、ハケ。体部：ヘラナデ / ハケ・ナデ。
433	〃	SX2	〃 〃	明赤褐色 2.5YR5/6	明褐色 7.5YR5/6	にぶい橙色 7.5YR6/4	-	(7.5)	-	5.0	平底。外底面、ナデ。体部：ハケ / ナデ。黒斑。
434	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい褐色 7.5YR5/4	灰色 5Y4/1	-	(2.2)	-	6.0	角の取れた平底。外底面、ハケ・ナデ。体部：ハケ後ミガキ / ナデか。内面、剥離。
435	〃	SX2_ P19	〃 〃	浅黄褐色 10YR8/4	浅黄褐色 10YR8/4	灰色 5Y4/1	-	(2.6)	-	3.1	角の取れた平底。外底面、ナデ。体部：叩き後ナデ / ナデ。
436	〃	SX2_ P40	〃 〃	灰黄色 2.5Y6/2	にぶい黄褐色 10YR7/3	浅黄褐色 10YR8/3	-	(3.2)	-	3.0	ほぼ丸底。体部：叩き後ナデ / ナデ。
437	〃	SX2	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/4	浅黄褐色 10YR8/3	-	(5.9)	-	2.2	丸底。ナデにより丸底化。体部：叩き後ナデ / ミガキか。キレツ。黒斑。
438	〃	〃	〃 〃	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい黄褐色 10YR7/3	黄灰色 2.5Y6/1	-	(10.8)	18.4	2.8	平らな部分の残る丸底。体部：叩き後ハケ / ナデ。黒斑。煤。おこげ。
439	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	灰色 5Y6/1	-	(6.5)	-	-	丸底。体部：叩き後ナデ / ハケ後ナデ。
440	〃	SX2_ P35	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/3	黄灰色 2.5Y4/1	-	(3.3)	-	-	丸底。端部を潰して丸底化。体部：叩き後ナデ / ハケ。
図 59 441	〃	SX2	〃 高杯	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	灰色 5Y5/1	-	(1.7)	-	-	杯部：ハケ後ミガキ / ミガキ。搬入か。
442	〃	〃	〃 器台	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	灰色 N5/0	-	(2.3)	-	-	端部、面取り、斜格子文。ミガキ / ミガキ。
443	〃	SX2_ 中央 P1	〃 脚部	灰色 5Y4/1	にぶい橙色 7.5YR7/4	灰黄褐色 10YR5/2	-	(3.2)	-	13.0	端部、面取り。ナデ / ナデ。内面、しほり目。支脚か。
450	〃	SX2	ミニ	にぶい黄褐色 10YR7/2	にぶい橙色 7.5YR7/3	黄灰色 2.5Y5/1	6.6	3.0	-	-	鉢形。手捏ね成形。
451	〃	〃	〃	橙色 5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	浅黄褐色 7.5YR8/4	6.5	4.1	-	2.5	鉢形。手捏ね成形。キレツ。
452	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	橙色 7.5YR7/6	黄灰色 2.5Y6/1	7.6	7.6	-	1.9	鉢形。手捏ね成形。キレツ。黒斑。
453	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	灰黄褐色 10YR6/2	4.0	(3.9)	-	-	手捏ね成形。内面、ナデ。黒斑。
454	〃	〃	〃	浅黄褐色 10YR8/3	にぶい黄褐色 10YR7/4	浅黄褐色 10YR8/3	-	(1.6)	-	2.4	手捏ね成形。
455	〃	SX2_ 中央 P1	〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	灰黄褐色 10YR6/2	-	(3.3)	-	4.2	体部：叩き後ナデ / ナデ。内面、爪圧痕。黒斑。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 59 456	5区	SX2	ミニ	橙色 5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	褐灰色 10YR5/1	-	(9.6)	-	2.4	壺形。体部：叩き後ナデ/ナデ。黒斑。
図 63 463	〃	〃	土師 皿	にぶい黄橙色 10YR7/3	橙色 5YR7/6	灰白色 10YR7/1	19.2	2.1	-	-	口縁、ヨコナデ・ミガキ。底部、ナデ・ハケ。弥生土器 の鉢か。
図 65 464	〃	ST10	弥生 壺	橙色 5YR6/8	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	14.0	(3.8)	-	-	口唇、ハケ状原体による面取り。口縁：ヨコナデ/ 。頸部：ハケ/。内面、摩耗、調整不明。
465	〃	〃	〃 甕	にぶい黄橙色 10YR7/4	灰黄褐色 10YR4/2	灰白色 10YR8/2	13.3	(3.2)	-	-	口唇、面取り。口縁：ヨコナデ/ハケ後ナデ。体部： ヨコナデ/ナデ。煤。
466	〃	〃	〃 鉢	浅黄橙色 10YR8/4	浅黄褐色 10YR8/4	褐灰色 10YR5/1	-	(2.3)	-	-	「く」。2条の凹線文。口縁：ナデ・ハケ/ハケ。
467	〃	〃	〃 鉢	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	灰色 N4/0	13.9	7.1	-	-	口唇、面取り。丸底。ハケにより丸底化。体部：叩き後 ナデ/ハケ後ミガキ。黒斑。摩耗。
468	〃	〃	〃 鉢	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	黄灰色 2.5Y6/1	30.0	(7.6)	-	-	口唇、摘み上げ、摘み出し、凹面状。体部：叩き後ナデ/ ミガキ。
469	〃	〃	〃 底部	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR8/4	-	(9.2)	-	-	丸底。体部：叩き後ナデ/ヘラナデ・ナデ。
470	〃	〃	〃 鉢	浅黄褐色 10YR8/3	にぶい橙色 7.5YR6/4	灰色 5Y5/1	-	(2.7)	-	2.0	平底。外底面、ナデ。体部：叩き後ハケ/ナデ。
471	〃	〃	〃 鉢	にぶい橙色 5YR6/4	にぶい橙色 5YR6/4	黄灰色 2.5Y5/1	-	(3.5)	-	4.8	突出した平底、片側を潰す。外底面、ナデ。体部：叩き 後ナデ/ヘラナデ。黒斑。
472	〃	〃	〃 鉢	浅黄褐色 10YR8/4	にぶい黄褐色 10YR7/4	黄灰色 2.5Y5/1	-	(3.4)	-	4.7	角の取れた平底。外底面、ハケ。体部：ハケ/ナデ。
図 68 474	〃	ST11	〃 壺	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/8	橙色 7.5YR7/6	13.4	(4.3)	-	-	口唇、面取り。口縁：ナデか/ナデか。内外面、摩耗。
475	〃	〃	〃 鉢	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	褐灰色 10YR6/1	19.6	(2.4)	-	-	口唇、凹面状。口縁：ミガキ/。内面、摩耗。
476	〃	〃	〃 鉢	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	黄灰色 2.5Y5/1	14.4	(3.2)	-	-	体部：ナデ/ハケ。キレツ。
477	〃	〃	〃 鉢	にぶい黄褐色 10YR7/3	灰白色 N4/0	灰白色 N4/0	17.7	(5.0)	-	-	体部：叩き後ナデ/ハケ。黒斑。
478	〃	〃	〃 鉢	橙色 5YR7/8	橙色 5YR7/8	橙色 5YR7/6	18.4	(3.3)	-	-	体部：叩き後ナデ/ナデか。キレツ。内面、摩耗。
479	〃	〃	〃 底部	褐灰色 10YR6/1	にぶい橙色 7.5YR7/4	黒色 N2/0	-	(3.4)	-	4.9	平底。外底面、ナデ。体部：叩き後ハケ/ナデ。被熱。
480	〃	〃	〃 脚部	橙色 5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR6/4	黄灰色 2.5Y6/1	-	(4.3)	-	8.0	脚部：ハケ後ナデ/ナデ・ハケ。杯部、剥離。
図 69 481	〃	ST12	〃 壺	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	灰色 N4/0	16.2	(3.9)	-	-	口唇、面取り、凹面状。口縁：ヨコナデ/ヨコナデ。頸 部：ハケ/ヨコナデ。
482	〃	〃	〃 甕	オリーブ黒色 5YR3/1	褐灰色 7.5YR4/1	にぶい褐色 7.5YR6/3	14.0	(3.9)	-	-	口縁：ヘラナデ/ナデ。体部：ハケ/ハケ。
483	〃	〃	〃 底部	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい黄褐色 10YR7/3	褐灰色 10YR4/1	-	(2.6)	-	6.2	平底。外底面、ケズリあるいは強いナデ。体部：ミガ キ/ナデ・ミガキ。黒斑。
484	〃	〃	〃 高杯	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	黄灰色 2.5Y6/1	-	(6.6)	-	-	杯部：ミガキ/ミガキ。脚部：ミガキ/ケズリ・ナデ。
図 70 486	〃	ST11・ 12_中 央P	〃 壺	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	灰褐色 7.5YR5/2	7.8	(2.5)	-	-	口縁：ヨコナデ/ヨコナデ。頸部：ハケ/ナデ。
487	〃	ST11・ 12_SK1	〃 甕	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい褐色 7.5YR7/4	13.9	1.6	-	-	口唇、ハケ状原体による面取り。口縁：叩き後ナデ/ ハケ。煤。
488	〃	ST11・ 12	〃 壺	橙色 5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	灰色 5Y5/1	25.8	(1.3)	-	-	口唇、ハケ状原体による面取り、凹面状。口縁：ハケ 後ミガキ/ミガキ。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 70 489	5 区	ST11・12 中央 P	弥生 甕	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR6/6	黄灰色 2.5Y4/1	-	-	-	-	口唇, 上方へ拡張。口縁: ヨコナデ / ヨコナデ。煤。
490	〃	ST11・ 12	〃 〃	にぶい橙色 5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	灰黄褐色 10YR5/2	13.6	(5.6)	-	-	「く」。口縁: ハケ後ヨコナデ / ヨコナデ。体部: 叩き 後ナデ / ナデ。煤。
491	〃	〃	〃 鉢	にぶい赤褐色 2.5YR5/4	明赤褐色 2.5YR5/6	明赤褐色 2.5YR5/6	10.0	(5.6)	-	-	体部: ナデ / ナデ。キレツ。
492	〃	ST11・ 12_P2	〃 〃	橙色 5YR6/8	橙色 7.5YR6/6	暗灰黄色 2.5Y5/2	16.7	(8.3)	-	-	体部: 叩き後ナデか / ナデ・ミガキ。外面, 荒れる。
493	〃	ST11・ 12	〃 〃	橙色 2.5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	黄灰色 2.5Y5/1	19.0	6.7	-	4.0	口唇, 面取り。角の取れた平底。外底面, ナデ。内底 面, 指圧。体部: ナデ / ナデ。黒斑。
494	〃	〃	〃 〃	橙色 2.5YR6/8	橙色 5YR6/6	灰色 7.5Y4/1	19.4	(4.0)	-	-	口唇, 面取り。体部: 叩き後ナデ / ハケ。
495	〃	〃	〃 底部	灰褐色 7.5YR4/2	灰黄褐色 10YR5/2	明褐色 7.5YR5/6	-	(3.9)	-	2.4	上げ底。外底面, ナデ。体部: ハケ / ハケ。内底面, 指 圧。黒斑。
496	〃	〃	〃 〃	浅黄褐色 10YR8/3	浅黄褐色 10YR8/3	灰色 N4/0	-	(2.0)	-	5.6	角の取れた平底。外底面, ナデ。体部: ナデ / ナデ。
497	〃	ST11・12 中央 P	〃 〃	暗灰色 N3/0	橙色 7.5YR7/6	暗灰色 N3/0	-	(2.7)	-	5.6	角の取れた平底。外底面, ナデ。体部: ハケ / ケズリ。
498	〃	ST11・ 12	〃 〃	暗灰色 N3/0	にぶい赤褐色 5YR5/4	にぶい赤褐色 5YR5/4	-	(2.7)	-	3.2	角の取れた平底。外底面, ナデ。体部: ナデ / ナデ。黒 斑。
499	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/3	黄灰色 2.5Y5/1	-	(3.2)	-	9.0	角の取れた平底。外底面, ナデ。体部: 叩き後ハケ・ ナデ / ハケ。
500	〃	〃	ミニ	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	浅黄褐色 7.5YR8/4	5.4	(2.6)	-	-	鉢形。体部: ミガキ / ナデ・ミガキ。
501	〃	ST11・ 12_SK1	〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	橙色 7.5YR7/6	7.4	(2.7)	-	-	鉢形。体部: 叩き後ナデ / ナデ。キレツ。
図 72 502	〃	ST13_ P1	弥生 壺	橙色 5YR6/8	橙色 5YR6/8	灰黄褐色 10YR6/2	10.2	(4.3)	-	-	口縁, 内湾。口縁: タテハケ後ミガキ / ミガキ。口頸 部境, ヘラ沈文。
503	〃	ST13	〃 甕	にぶい黄褐色 10YR7/4	橙色 7.5YR7/6	灰色 5Y5/1	13.6	24.8	19.1	3.3	「く」。口唇, ルーズな面取り。口縁: ナデか / ヨコハ ケ。平らな部分が残る丸底。体部: 叩き後ハケ / ハケ。
504	〃	〃	〃 〃	にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい赤褐色 5YR5/4	明褐色 5YR5/6	14.8	15.8	14.7	3.6	緩やかな「く」。口縁: 叩き後ナデ / ハケ。外底面, 叩き 目。体部: 叩き後ナデ・ハケ / ハケ。黒斑。煤。
505	〃	〃	〃 〃	明赤褐色 5YR5/6	橙色 5YR6/6	明赤褐色 5YR5/6	15.4	19.7	17.7	2.6	「く」。口唇, 面取り。口縁: ハケ後ナデ / ハケ。体部: 叩き後ハケ / ハケ・ナデ。平底。外底面, 叩き目。煤。
506	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	灰色 5Y5/1	14.5	(5.8)	-	-	「く」。口縁: 叩き後ナデ / ヘラナデ。体部: 叩き後ナ デ / ヘラナデ。被熱。煤。
507	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	黄灰色 2.5Y6/1	24.0	(12.8)	-	-	「く」。口唇, ハケ状原体による面取り。口縁: 叩き後 ナデ / ハケ。体部: 叩き後ハケ / ハケ。肩内接合痕。
508	〃	〃	〃 鉢	橙色 7.5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	10.7	7.0	-	-	丸底。体部: ハケ / 〃。内外面, 摩耗。黒斑。搬入か。
509	〃	〃	〃 底部	橙色 5YR6/8	橙色 5YR6/8	灰黄褐色 10YR6/2	-	(8.7)	-	3.0	角の取れた平底。外底面, ナデ。体部: 叩き後ハケ・ ナデ / ナデ・ハケ。黒斑。内外面, 摩耗。
510	〃	〃	〃 〃	灰黄褐色 10YR5/2	にぶい黄褐色 10YR5/3	黄灰色 2.5Y5/1	-	(2.5)	-	4.2	平底。外底面, ナデ。体部: 叩き後ナデ / ナデ。内底 面, 指圧。黒斑。
511	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR6/4	暗灰黄色 2.5Y5/2	-	(3.8)	-	4.8	平底。外底面, ナデ。体部: ハケ・ナデ / ナデ。内面, 摩耗。
図 73 513	〃	〃	ミニ	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	黄灰色 2.5Y5/1	7.6	5.3	-	-	鉢形。丸底。体部: 叩き後ナデ / ナデ・ハケ。キレツ。 黒斑。
図 75 515	〃	ST14	弥生 壺	橙色 5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	黄灰色 2.5Y5/1	16.2	(1.7)	-	-	口唇, 面取り。口縁: ハケ / ハケ。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 75 516	5 区	ST14	弥生 壺	にぶい黄橙色 10YR6/3	橙色 5YR6/6	灰色 7.5Y4/1	-	(9.4)	21.2	-	頭部：ハケ／ヘラナデ。体部：叩き後ハケ／ハケ後ナデ。内面接合痕。黒斑。
517	〃	〃	〃 甕	明赤褐色 5YR5/6	明赤褐色 5YR5/6	にぶい黄褐色 10YR5/3	11.8	(4.0)	-	-	緩やかな「く」。口唇、面取り。口縁：ハケか／ナデか。体部：ハケか／ナデか。内外面、摩耗。
518	〃	〃	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄褐色 10YR7/3	灰色 5Y4/1	17.1	(5.4)	-	-	緩やかな「く」。口唇、面取り。口縁：ヘラナデ／ヘラナデ。体部：ヘラナデ／ナデ。
519	〃	〃	〃 〃	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい橙色 7.5YR7/3	黒褐色 10YR4/1	-	(12.7)	18.0	-	体部：叩き後ハケ・ヘラナデ／ハケ。煤。
520	〃	〃	〃 鉢	褐灰色 10YR4/1	橙色 7.5YR6/6	灰黄褐色 10YR5/2	12.7	(3.6)	-	-	体部：叩き後ナデ／ハケ。黒斑。
521	〃	〃	〃 体部	にぶい黄褐色 10YR6/3	にぶい橙色 7.5YR7/4	褐灰色 10YR6/1	-	-	-	-	体部：ミガキ／ハケ。線刻か。
522	〃	〃	〃 底部	橙色 7.5YR7/6	にぶい黄褐色 10YR7/4	黄灰色 2.5Y6/1	-	(3.1)	-	5.8	僅かに上げ底。外底面、ハケ。体部：ハケ・ナデ／ヘラナデ。
523	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	にぶい黄褐色 10YR6/3	にぶい橙色 7.5YR6/4	-	(2.8)	-	-	ほぼ丸底。体部：ヘラナデ／ヘラナデ。被熱。
524	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい黄褐色 10YR7/2	-	(5.5)	-	3.2	角の取れた平底。外底面、叩き目。体部：叩き後ハケ／ヘラナデ。被熱。
図 77 525	〃	ST15	〃 壺	灰黄褐色 10YR5/2	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	12.2	(13.0)	-	-	口唇、面取り。口縁：叩き後ハケ／ハケ。体部：叩き後ハケ／ハケ。肩内接合痕。
526	〃	〃	〃 〃	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい黄褐色 10YR7/3	12.4	(31.0)	23.6	-	口唇、面取り。口縁：叩き後ハケ／ヘラナデ。体部：叩き後ハケ・ナデ／ハケ・ナデ。丸底。被熱。煤。
527	〃	〃	〃 〃	浅黄褐色 7.5YR8/6	橙色 7.5YR7/6	灰色 7.5Y5/1	11.6	(3.9)	-	-	口縁：ヨコナデ。頭部：ハケ／ナデ。
528	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 5YR6/4	橙色 5YR6/6	褐灰色 10YR4/1	11.4	(2.0)	-	-	口唇、ハケ状原体による面取り。口縁：ヨコナデ。頭部：ハケ／ハケ。
529	〃	〃	〃 〃	にぶい褐色 7.5YR6/3	にぶい黄褐色 10YR6/3	褐灰色 7.5YR4/1	12.3	(6.7)	-	-	口唇、ハケ状原体による面取り。口縁：ハケ／ハケ後ナデ。体部：ヘラナデ／ナデ。肩内接合痕。被熱。煤。
530	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	灰黄褐色 10YR5/2	18.4	(3.2)	-	-	口唇、面取り。2段の刺突文。口縁：ハケ／ハケ後ミガキ。
531	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	-	(1.6)	-	-	口唇、上方へ拡張。4条の凹線文。摩耗、調整不明。
532	〃	〃	〃 〃	灰白色 10YR8/2	浅黄褐色 10YR8/3	浅黄褐色 10YR8/3	-	(3.0)	-	-	3段の竹管文。摩耗、調整不明。接合面で剥離。
533	〃	〃	〃 〃	灰色 N4/0	にぶい黄褐色 10YR6/3	暗灰色 N3/0	-	(3.8)	-	3.7	平底。外底面、ナデ。体部：ミガキ／ナデ。黒斑。全体的に雑なつくり。
534	〃	〃	〃 〃	灰黄褐色 10YR6/2	にぶい橙色 7.5YR6/4	灰黄褐色 10YR5/2	-	(5.2)	-	-	丸底。体部：叩き後ナデ／ナデ。黒斑。
535	〃	〃	〃 〃	黄灰色 2.5Y6/1	橙色 7.5YR7/6	灰色 N5/0	-	(12.0)	-	5.5	ほぼ丸底。外底面、ハケ。体部：叩き後ハケ／ハケ・ナデ。黒斑。
536	〃	〃	〃 〃	褐灰色 10YR4/1	灰褐色 7.5YR5/2	灰褐色 7.5YR6/2	-	(8.6)	-	-	丸底。外底面、叩き目。体部：叩き後ハケ・ナデ／ハケ・ナデ。煤。
537	〃	〃	〃 〃	黄灰色 2.5Y4/1	にぶい橙色 7.5YR6/4	橙色 5YR6/6	-	(12.5)	-	7.2	角の取れた平底。外底面、ハケ。体部：ハケ／ハケ。黒斑。
538	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	明赤褐色 5YR5/6	黄灰色 2.5Y5/1	-	(21.1)	28.0	-	体部、球形。体部：叩き後ハケ・ミガキ／ハケ後ナデ・ミガキ。黒斑。煤。
図 78 539	〃	〃	〃 甕	灰黄褐色 10YR6/2	にぶい褐色 7.5YR6/4	灰黄褐色 10YR6/2	15.2	(7.7)	14.2	-	緩やかな「く」。口唇、面取り。口縁：叩き後ナデ／ハケ。体部：叩き／ハケ。被熱。
540	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	14.7	(9.8)	-	-	緩やかな「く」。口縁：叩き後ハケ／ハケ。体部：叩き後ナデ／ハケ。肩内接合痕。被熱。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図78 541	5区	ST15	弥生 甕	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	灰色 5Y6/1	17.9	(10.5)	19.7	-	緩やかな「く」。口縁：叩き後ハケ/ハケ。体部：叩き後ハケ/ハケ。キレツ。煤。
542	〃	〃	〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	灰白色 10YR7/1	13.9	(7.2)	-	-	「く」。口縁：叩き後ナデ/ハケ。体部：叩き後ハケ/ハケ。肩内接合痕。
543	〃	〃	〃	浅黄橙色 7.5YR8/6	浅黄橙色 7.5YR8/6	褐灰色 10YR6/1	15.6	(11.5)	18.3	-	緩やかな「く」。口唇、面取り。口縁：叩き後ハケ/ハケ。体部：叩き後ハケ・ナデ/ナデ・ハケ。接合痕。煤。
544	〃	〃	〃	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR6/3	黄灰色 2.5Y6/1	13.4	(19.1)	15.7	-	「く」。口縁：叩き後ハケ/ハケ。体部：叩き後ハケ/ハケ。頭内接合痕。黒斑。煤。
545	〃	〃	〃	にぶい黄橙色 10YR7/4	灰黄色 2.5Y7/2	灰黄色 2.5Y7/2	14.0	23.7	18.4	2.4	「く」。口唇、ハケ・面取り。口縁：叩き後ナデ/ハケ。体部：叩き後ハケ・ナデ/ハケ・ナデ。ほぼ丸底。叩き目。
546	〃	〃	〃	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい橙色 7.5YR7/4	灰黄褐色 10YR6/2	14.6	(16.0)	15.9	-	「く」。口縁：叩き後ナデ/ハケ。体部：叩き後ナデ・ハケ/ハケ・ナデ。黒斑。煤。
547	〃	〃	〃	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	浅黄褐色 10YR8/3	13.1	(13.8)	17.0	-	「く」。口唇、面取り。口縁：叩き後ナデ/ハケ。体部：叩き後ナデ/ハケ・ナデ。被熱。煤。白吹き痕。
548	〃	〃	〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 5YR7/6	黄灰色 2.5Y5/1	14.0	(13.3)	14.1	-	「く」。口縁：叩き後ナデ/ハケ。体部：叩き後ハケ/ハケ・ナデ。煤。
549	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	14.2	(16.8)	13.1	-	「く」。口唇、ルーズな面取り。口縁：ハケ/ハケ。体部：叩き後ハケ/ハケ・ナデ。煤。
550	〃	〃	〃	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい橙色 7.5YR7/4	黄灰色 2.5Y6/1	18.3	(13.0)	18.4	-	「く」。口縁：叩き後ハケ・ナデ/ハケ・ナデ。体部：叩き後ナデ/ハケ。煤。白吹き痕。
551	〃	〃	〃	にぶい黄橙色 10YR7/3	浅黄褐色 7.5YR8/4	暗灰色 N3/0	-	(9.9)	16.5	-	体部：叩き後ハケ・ナデ/ハケ・ナデ・ケズリ。
552	〃	〃	〃	にぶい黄橙色 10YR7/4	橙色 7.5YR7/6	黄褐色 7.5YR8/6	-	(11.0)	-	2.8	丸みを持った平底。外底面、ナデ。体部：ハケ・ナデ/ナデ。外面、やや摩耗。被熱。煤。
553	〃	〃	〃	浅黄褐色 7.5YR8/6	橙色 5YR7/6	灰色 5Y5/1	-	(17.0)	17.1	3.3	平らな部分が残る丸底。外底面、叩き後ナデ。体部：叩き後ハケ/ハケ・ナデ。煤。
図79 554	〃	〃	〃 底部	灰黄褐色 10YR5/2	にぶい黄褐色 10YR6/4	黄灰色 2.5Y6/1	-	(4.1)	-	4.0	平らな部分が残る丸底。ナデにより丸底化。体部：叩き後ナデ/ハケ。キレツ。黒斑。
555	〃	〃	〃	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい橙色 7.5YR7/4	褐灰色 10YR5/1	-	(3.7)	-	3.6	角の取れた平底。外底面、ナデ。体部：叩き後ハケ/ハケ・ナデ。煤。
556	〃	〃	〃	橙色 7.5YR6/6	橙色 2.5YR6/6	黄灰色 2.5Y5/1	-	(3.2)	-	5.6	平底。外底面、ハケ・ナデ。体部：叩き後ハケ/ナデか。被熱。内面、摩耗。
557	〃	〃	〃	灰色 5Y5/1	灰黄褐色 10YR6/2	灰白色 10YR7/1	-	(5.4)	-	3.6	平底。外底面、ナデか。体部：叩き後ナデ/ヨコハケ・ナデ。キレツ。黒斑。煤。
558	〃	〃	〃	橙色 5YR7/8	橙色 5YR6/8	黄灰色 2.5Y5/1	-	(6.9)	-	4.1	平底。外底面、葉脈痕。体部：叩き後ナデ/ハケ。やや摩耗。
559	〃	〃	〃	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい黄褐色 10YR6/3	褐灰色 10YR5/1	-	(9.6)	-	2.6	角の取れた平底。外底面、凹凸有り。体部：叩き後ハケ/ハケ・ナデ。黒斑。被熱か。
図80 560	〃	〃	〃 体部	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	黄灰色 2.5Y4/1	-	-	-	-	体部：叩き後ハケ/ハケ。外面、刻書か。
図81 561	〃	〃	〃 鉢	にぶい橙色 7.5YR7/4	浅黄褐色 7.5YR8/4	黄灰色 2.5Y6/1	13.2	(5.2)	-	-	体部：粗いハケ・ナデ/ハケ後ミガキ。煤。高杯か。
562	〃	〃	〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	灰白色 5Y7/1	13.5	6.1	-	3.5	丸底か。外底面、強いナデ。体部：叩き後ナデ/ハケ・ナデ。キレツ。
563	〃	〃	〃	橙色 7.5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	灰色 N4/0	14.0	(6.2)	-	-	体部：叩き後ナデ/ハケ後ナデ。キレツ。黒斑。やや摩耗。
564	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	灰色 5Y4/1	18.0	(4.5)	-	-	体部：叩き後ナデ/ハケ。黒斑。摩耗。
565	〃	〃	〃	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい黄褐色 10YR7/4	黒褐色 10YR3/1	22.8	(4.8)	-	-	体部：叩き後ナデ/ハケ後ミガキ。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 81 566	5 区	ST15	弥生 鉢	橙色 5YR7/6	橙色 5YR6/6	黄灰色 2.5Y6/1	-	(1.9)	-	2.0	丸底。外底面, 叩き目か。体部: 叩き後ハケ / ハケ。
567	〃	〃	〃	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい黄橙色 10YR7/4	灰色 N4/0	-	(2.2)	-	3.4	丸底か。外底面, ナデ。体部: 叩き後ナデ / ハケ。
568	〃	〃	〃 高杯	浅黄橙色 7.5YR8/6	浅黄橙色 7.5YR8/6	浅黄褐色 7.5YR8/6	20.6	(3.7)	-	-	やや摩耗。調整不明。
569	〃	〃	〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	褐灰色 10YR5/1	-	(3.9)	-	-	脚部: ミガキ / ナデ。しばり目。杯部は接合面で剥離。
図 83 570	〃	SX3	〃 壺	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 5YR7/4	黄灰色 2.5Y6/1	15.0	(2.9)	-	-	口縁, 受け口状。口縁: ヨコナデ / ハケ。頸部: ハケ / ハケ後ナデ。
571	〃	〃	〃 皿	明赤褐色 2.5YR5/6	橙色 5YR6/6	橙色 2.5YR6/8	-	(2.4)	-	-	把手付広片口皿。口縁外面, 指頭による成形。体部: ミガキ / ナデ・ミガキ。
572	〃	〃	〃 甕	にぶい赤褐色 5YR5/4	にぶい赤褐色 2.5YR5/4	灰黄褐色 10YR5/2	-	(2.0)	-	-	口縁: ヨコナデ / ヨコナデ。
573	〃	〃	〃 壺	にぶい橙色 7.5YR7/3	橙色 5YR7/6	黄灰色 2.5Y5/1	-	(8.2)	-	-	体部: タテハケ後ミガキ / ナデ・粗いハケ。頸胴部境, 斜格子刻目の扁平な突帯。
574	〃	〃	〃 甕	橙色 7.5YR7/6	にぶい橙色 5YR7/4	褐灰色 7.5YR6/1	13.5	(16.0)	16.4	-	緩やかな「く」。口唇, 面取り。口縁: 叩き後ナデ / ハケ。体部: 叩き後ナデ / ハケ。接合痕。煤。
575	〃	〃	〃 鉢	にぶい黄橙色 10YR7/4	橙色 7.5YR6/6	灰黄色 2.5Y6/2	8.0	(4.0)	-	-	外反口縁。口縁: ヨコナデ / ヨコハケ。体部: ミガキ / ナデ。器壁, うすい。
576	〃	〃	〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	黄灰色 2.5Y5/1	9.3	5.0	-	2.2	丸底。体部: 叩き / ナデ。外面, 凹凸有り。
577	〃	〃	〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	灰色 5Y5/1	16.7	8.2	-	-	丸底。ナデにより丸底化。口唇, 面取り。体部: 叩き後ナデ / ハケ・ナデ。キレツ。黒斑。
578	〃	〃	〃	にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい黄褐色 10YR6/4	22.6	(9.4)	-	-	体部: ナデ / ハケ。底部: ハケ・強いナデ / ハケ・ナデ。キレツ。胎土も器形もレア。
579	〃	〃	〃	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい橙色 7.5YR7/4	黄灰色 2.5Y5/1	23.4	(4.7)	-	-	口唇, ルーズな面取り。体部: 叩き後ナデ / ハケ。
580	〃	〃	〃 底部	にぶい褐色 7.5YR6/3	にぶい褐色 7.5YR6/3	にぶい黄褐色 10YR7/3	-	(3.0)	-	2.6	丸底。ナデ・ハケにより丸底化。体部: 叩き後ハケ / ハケ。黒斑。
581	〃	〃	〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	-	(5.0)	-	-	丸底。外底面, 叩き目。体部: 叩き後ナデ / ハケ・ナデ。キレツ。黒斑。煤。
582	〃	〃	〃	にぶい黄褐色 10YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	灰黄褐色 10YR6/2	-	(9.4)	-	6.2	平らな部分が残る丸底。ナデにより丸底化。体部: 叩き後ナデ / ハケ・ナデ。黒斑。煤。
583	〃	〃	〃	灰色 N4/0	にぶい黄褐色 10YR7/4	灰色 5Y4/1	-	(6.6)	-	4.9	角が取れた平底。外底面, 平滑。体部: 叩き後ハケ / ナデ。黒斑。
584	〃	〃	土質 焙烙	にぶい黄褐色 10YR5/3	黒褐色 10YR3/1	にぶい黄褐色 10YR5/3	46.0	(5.2)	-	-	口縁: ロクロナデ / ロクロナデ。体部: ナデ / ヨコハケ。煤。
図 86 585	〃	SB1	須恵 体部	灰白色 2.5Y8/1	灰色 N5/0	灰白色 N7/0	-	(6.7)	-	-	P1 出土。平行叩き / 同心円状の当て具痕。
586	〃	〃	〃	褐灰色 10YR6/1	黒色 N1.5/0	褐灰色 10YR6/1	-	(4.8)	-	-	P5 出土。平行叩き / 同心円状の当て具痕。自然釉。
587	〃	〃	〃	灰白色 2.5Y7/1	灰色 N6/0	灰色 N6/0	-	(8.2)	-	-	P5 出土。平行叩き後カキ目 / 同心円状の当て具痕。
588	〃	〃	〃	灰色 N6/0	灰色 7.5Y6/1	灰色 5Y6/1	-	-	-	-	P8 他出土。格子叩き / 同心円状の当て具痕。
図 87 589	〃	〃	弥生 壺	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	11.2	(2.7)	-	-	P4 出土。口唇, 玉縁状。口縁: 叩き後粗いハケ・ナデ / ヨコハケ。黒斑。
590	〃	〃	〃	にぶい橙色 5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	黄灰色 2.5Y5/1	-	(1.8)	-	-	P1 出土。口唇, 面取り。口縁: ヨコナデ / ヨコナデ。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 87 591	5 区	SB1	弥生 壺	橙色 5YR6/6	橙色 7.5YR7/6	黒褐色 2.5Y3/1	-	(3.0)	-	-	P1 の柱痕跡出土。摩耗, 調整不明。
592	〃	〃	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR7/4	橙色 7.5YR7/6	灰色 7.5Y4/1	20.6	(3.8)	-	-	P3 出土。口唇, 面取り。口縁: ヨコナデ / ヨコナデ。 頸部: タテハケ / ヨコハケ。キレツ。黒斑。
593	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	16.2	(1.1)	-	-	P1 出土。口唇, ハケ状原体による面取り。口縁: ハケ 後ナデ / ヨコハケ。
594	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	にぶい黄橙色 10YR7/4	17.0	(1.5)	-	-	P4 出土。口唇, 面取り。口縁: ヨコナデ / ヨコナデ。 頸部: ミガキ / ミガキ。
595	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	浅黄褐色 10YR8/3	12.2	(1.3)	-	-	P14 出土。口唇, 摘み上げ。口縁: ヨコナデ / ヨコナデ。
596	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 5YR6/6	灰白色 2.5Y7/1	21.0	(2.9)	-	-	P8 出土。口唇, 摘み出し。頸部: 粗いタテハケ / 摩耗。
597	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	橙色 5YR7/6	にぶい黄褐色 10YR7/2	-	(3.0)	-	-	P9 出土。口縁, 受け口状。口縁: ミガキ / ヨコナデ。 頸部: ハケ後ミガキ / ハケ後ミガキ。
598	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	黄灰色 2.5Y5/1	-	(1.8)	-	-	P1 出土。口唇下端, 摘み出し。口唇, 7 条 1 単位の櫛 波文。ヨコハケ後ミガキ / ミガキ。
599	〃	〃	〃 〃	灰褐色 7.5YR6/2	橙色 5YR7/6	黄灰色 2.5Y5/1	-	(2.9)	-	-	P13 出土。複合口縁壺。接合部, 突出。ヨコナデ / ヨコ ナデ。
600	〃	〃	〃 甕	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	灰黄褐色 10YR5/2	12.4	(1.5)	-	-	P3 出土。口唇, 摘み上げ。3 条の沈線。口縁: ヨコナ デ / ヨコナデ。
601	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	灰白色 2.5Y7/1	14.0	(2.6)	-	-	P1 出土。口縁: 叩き後ナデ / ヨコハケ。煤。
602	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 5YR7/6	灰黄色 2.5Y6/2	15.4	(4.7)	-	-	P4 出土。「く」。口唇下端, 摘み出し。口縁: ヨコナデ / ナデ。体部: ナデ / ナデ。やや摩耗。煤。
603	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 2.5YR6/6	橙色 7.5YR7/6	13.9	(7.4)	-	-	P4 出土。「く」。口唇, 摘み上げ。口縁: ヨコハケ / ヨ コハケか。体部: 叩き後タテハケ / ナデ。接合痕。煤。
604	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 5YR7/6	にぶい黄褐色 10YR7/4	-	-	-	-	P5 出土。緩やかな「く」。摩耗, 調整不明。
605	〃	〃	〃 〃	にぶい赤褐色 5YR5/4	にぶい赤褐色 5YR5/4	灰黄褐色 10YR5/2	21.0	(2.3)	-	-	P14 出土。口唇, 摘み上げ。口縁: ヨコナデ / ヨコナ デ。頸部: ヨコナデ / ナデ。煤。壺か。
606	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	にぶい橙色 5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR7/3	17.0	(2.5)	-	-	P5 出土。「く」。口縁: ヨコナデ / ヨコナデ。体部: / ケズリか。庄内式甕に類似。
607	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	灰褐色 5YR5/2	灰黄色 2.5Y7/2	-	(1.7)	-	-	P14 出土。口唇, ハケ状原体による面取り。口縁: 叩 き後ナデ / ヨコハケ。煤。
608	〃	〃	〃 鉢	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	灰黄色 2.5Y6/2	10.5	(2.2)	-	-	P5 出土。口縁外面, 6 条 1 単位の櫛波文。体部: ナデ あるいはミガキ / ヨコナデ。
609	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 5YR7/6	灰色 5Y5/1	14.4	(6.0)	-	-	P2 出土。口縁: ヨコハケ / ヨコハケ。体部: タテハ ケ / ハケ後ミガキ。
610	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR7/8	橙色 5YR7/8	橙色 7.5YR7/6	11.0	(7.2)	-	-	P9 出土。外反口縁。口唇, 尖らせる。口縁: ナデか/ ハケ。体部: 叩き後ナデ / ナデか。摩耗。
611	〃	〃	〃 高杯	明褐色 7.5YR5/6	にぶい褐色 7.5YR5/4	黄灰色 2.5Y5/1	18.6	(2.5)	-	-	P5 出土。口唇, 丸くおさめる。杯部: ヨコハケ / ヨコ ハケ・ナデ。内面, やや摩耗。
612	〃	〃	〃 底部	にぶい橙色 5YR6/4	褐灰色 5YR4/1	橙色 5YR6/6	-	(2.1)	-	6.8	P5 出土。端部, 接合面で剥離。外底面, 未調整か。内 面, ナデ。被熱。
613	〃	〃	〃 不明	橙色 7.5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	灰黄褐色 10YR6/2	-	(1.5)	-	-	P10 出土。口唇, ハケ状原体による面取り。弱い沈 線。口縁: ヨコナデ / ヨコナデ。
614	〃	〃	〃 壺	橙色 7.5YR7/6	橙色 5YR6/6	褐灰色 10YR4/1	-	(3.5)	-	-	P17 出土。二重口縁か。杯部: タテハケ後ナデ・ミガ キ / ヨコハケ後ミガキ。
615	〃	〃	〃 高杯	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	灰色 N5/0	-	(7.0)	-	-	P5 出土。円孔。脚部: タテハケ後ミガキ / しぼり目・ ナデ・ヨコハケ。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 87 616	5 区	SB1	弥生 高杯	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	褐灰色 10YR4/1	-	(3.2)	-	17.7	P2 の柱痕跡出土。脚端部、凹面状。裾部：ハケ後ミガキ / ヘラナデ・ヨコナデ。煤。
617	〃	〃	ミニ	橙色 5YR6/8	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	-	(3.4)	-	3.8	P8 出土。高杯形。脚部：ナデ / ナデ。指頭により成形。
図 90 620	〃	SB3	青磁 碗	灰色 10Y6/1	灰色 10Y6/1	灰白色 5Y7/1	12.4	(3.2)	-	-	P142 出土。内面、劃花文。貫入。
図 93 621	〃	SB5	弥生 甕	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい黄橙色 10YR7/3	黄灰色 2.5Y5/1	-	(2.0)	-	-	P65 出土。口唇、ハケ状原体による面取り。口縁：叩き後ナデ / ナデ。
図 95 622	〃	SB6	〃 鉢	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい黄橙色 10YR7/4	褐灰色 10YR5/1	9.8	(3.5)	-	-	P135 出土。体部：叩き後ナデ / ハケ。
図 110 625	〃	SK2	〃 底部	黒褐色 2.5Y3/1	浅黄橙色 10YR8/4	黄灰色 2.5Y4/1	-	(2.9)	-	6.0	平底。外底面、ナデ。体部：ナデ / ナデ。黒斑。
図 111 626	〃	SK3	〃 体部	にぶい橙色 7.5YR7/4	赤橙色 10R6/6	にぶい黄橙色 10YR6/3	-	(2.2)	-	-	ミガキ / ナデ。外面、ベンガラ塗布。高杯の脚部か壺の頸部か。
図 112 627	〃	SK4	須恵 蓋	灰色 5Y6/1	灰色 5Y6/1	灰色 5Y6/1	10.2	(1.6)	-	-	かえりを付す。外面天井部、回転ヘラケズリか。口縁、回転ナデ。内面、回転ナデ。
図 113 628	〃	SK5	弥生 底部	灰白色 10YR8/2	にぶい橙色 7.5YR7/4	褐灰色 10YR4/1	-	(1.4)	-	3.2	平底。外底面、ナデ。内面、ナデ。端部、接合面で剥離。被熱。
図 114 629	〃	SK6	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR7/2	にぶい黄橙色 10YR7/2	褐灰色 10YR5/1	-	(3.0)	-	3.6	角の取れた平底。外底面、ナデ。体部：タテハケ / ナデ。黒斑。
図 115 630	〃	SK7	〃 壺	褐灰色 10YR4/1	にぶい褐色 7.5YR6/3	灰黄褐色 10YR6/2	19.2	(2.4)	-	-	口唇、ハケ状原体による面取り。口縁：ヨコナデ / ヨコナデ。頸部：ナデ / 。
631	〃	〃	〃 鉢	橙色 7.5YR7/6	橙色 5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	13.7	(2.4)	-	-	体部：叩き後ナデ / ヨコハケ・ナデ。キレツ。
図 117 632	〃	SK8	陶器 皿	オリーブ灰色 10Y4/2	灰オリーブ色 7.5Y5/3	灰白色 2.5Y7/1	11.6	(1.2)	-	-	ロクロ成形。
図 119 633	〃	SK11	青磁 碗	灰色 5Y6/1	灰色 5Y6/1	灰白色 5Y7/1	-	(1.4)	-	4.4	内面、透明感のある灰オリーブ色の釉。削り出し高台。高台・外底面、露胎。畳付、摩滅。
図 121 635	〃	SK14	陶器 皿	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y6/1	11.2	(1.6)	-	-	ロクロ成形。口縁内面・内底面境、沈線。透明釉。
図 123 636	〃	SK15	弥生 甕	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	黒褐色 2.5Y3/1	15.0	(1.6)	-	-	「く」。口唇、丸くおさめる。口縁：タテハケ後ヨコナデ / ヨコハケ後ミガキ。
637	〃	〃	〃 鉢	橙色 5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	灰黄色 2.5Y6/2	12.0	6.0	-	2.6	角の取れた平底。外底面、ナデ。体部：叩き後ナデ / ハケ・ナデ。キレツ。黒斑。
638	〃	〃	〃 高杯	にぶい褐色 7.5YR5/3	にぶい褐色 7.5YR6/3	にぶい褐色 7.5YR6/3	-	(1.8)	-	17.1	脚端、ハケ状原体による面取り。脚端：ヨコナデ / ヨコナデ。裾：タテハケ / ヨコハケ。煤。蓋として使用か。
図 126 639	〃	SK18	〃 甕	灰白色 10YR8/2	にぶい黄橙色 10YR7/3	黄灰色 2.5Y6/1	15.5	(3.1)	-	-	「く」。口唇、ルーズな面取り。口縁：タテハケ / ヨコハケ。体部：タテハケ / ナデ。煤。
640	〃	〃	〃 底部	黄灰色 2.5Y4/1	にぶい黄橙色 10YR7/3	褐灰色 10YR5/1	-	(2.1)	-	4.0	角の取れた平底。外底面、ナデ。体部：ナデ / ナデ。
641	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	黄灰色 2.5Y5/1	-	(2.4)	-	5.6	角の取れた平底。外底面、ナデ。体部：叩き後ナデ / ナデ。
図 128 642	〃	SK19	〃 鉢	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい黄橙色 10YR7/3	灰オリーブ色 5Y6/2	12.6	(4.3)	-	-	口唇、丸くおさめる。体部：ナデ・ハケ / ハケ。
643	〃	〃	〃 底部	灰色 N4/0	灰黄褐色 10YR6/2	灰色 N4/0	-	(2.4)	-	2.4	角の取れた平底。外底面、叩き後ナデ。体部：叩き後ナデ / ヘラナデ。
図 129 645	〃	SK22・ SX2	〃 壺	にぶい橙色 7.5YR7/4	橙色 5YR7/6	灰白色 10YR8/2	-	(1.2)	-	-	口唇、面取り。口縁：ヨコナデ / ヨコナデ。頸部：タテハケ / ヨコハケ。
646	〃	〃	〃 底部	にぶい橙色 7.5YR7/4	橙色 5YR7/6	黄灰色 2.5Y6/1	-	(4.4)	-	2.3	体部：叩き後ハケ / ナデ・ハケ。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 131 650	5 区	SK26	弥生 甕	明赤褐色 2.5YR5/6	にぶい赤褐色 5YR5/4	橙色 5YR6/6	18.0	(2.1)	-	-	「く」。口縁：ヨコナデ / ナデ。煤。
651	〃	〃	〃 底部	灰色 N4/0	にぶい黄褐色 10YR7/3	黄灰色 2.5Y5/1	-	(1.8)	-	2.6	角の取れた平底。外底面, ナデ。体部：叩き後ナデ / ナデ。黒斑。
図 132 652	〃	SK27	〃 甕	橙色 5YR6/6	にぶい橙色 5YR6/4	黄灰色 2.5Y6/1	15.0	(6.0)	-	-	緩やかな「く」。口唇, 面取り。口縁：叩き後タテハケ / ヨコハケ。体部：叩き後ナデ / ハケ。煤。
653	〃	〃	〃 鉢	にぶい黄褐色 10YR6/3	にぶい黄褐色 10YR7/4	黄灰色 2.5Y4/1	13.2	(4.7)	-	-	口唇, 尖らせる。体部：ナデ / ヨコハケ後ナデ。黒斑。
654	〃	〃	〃 底部	浅黄褐色 10YR8/3	橙色 5YR7/6	黄灰色 2.5Y4/1	-	(3.3)	-	7.4	角の取れた平底。外底面, ハケ。体部：叩き後タテハケ / ナデ。
655	〃	〃	ミニ	にぶい黄褐色 10YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/4	浅黄褐色 10YR8/4	3.2	3.9	-	-	甕形か。手捏ね成形。内面, しぼり目。
図 134 656	〃	SK29	弥生 壺	橙色 5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	灰色 5Y5/1	19.2	(2.6)	-	-	口唇, ハケ状原体による面取り。口縁：ヨコハケ / ヨコナデ。
657	〃	〃	〃 鉢	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい黄褐色 10YR7/4	灰黄褐色 10YR6/2	13.9	7.5	-	4.3	口唇, 丸くおさめる。角の取れた平底。外底面, ナデ。体部：ナデ / ナデ。黒斑。
658	〃	〃	〃 底部	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	黄灰色 2.5Y6/1	-	(6.6)	-	4.9	平底。外底面, ナデ。体部：叩き後ナデ / ナデ。黒斑。
図 136 659	〃	SD1	陶器 碗	にぶい黄色 2.5Y6/3	にぶい黄色 2.5Y6/3	にぶい黄褐色 10YR7/2	18.2	(3.8)	-	-	ロクロ成形。ピンホール。
660	〃	〃	土師 碗	橙色 2.5YR7/6	赤褐色 10R6/6	灰色 5Y6/1	-	(1.7)	-	6.1	摩耗。調整, 切離し手法, 不明。被熱。
661	〃	〃	磁器 瓶	明緑灰色 10GY8/1	明緑灰色 10GY8/1	灰白色 5Y8/1	-	(3.6)	-	2.1	外面, 縦方向のケズリ。「寿」の染付け。高台, 露胎。貫入。
663	〃	〃	弥生 壺	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	黄灰色 2.5Y6/1	-	(4.0)	-	-	頭部：タテハケ / ハケ。体部：ハケ / ヨコハケ。頸胴部境, ハケ状原体による緩杉文を施した扁平な突帯。
図 137 664	〃	SD2	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	橙色 5YR6/6	黄灰色 2.5Y4/1	18.0	(1.4)	-	-	口唇, ハケ状原体による刻目。口縁：ヨコナデ。頭部：ナデ / ミガキ。
図 138 665	〃	SD1・2	陶器 皿	灰白色 10YR8/2	灰褐色 5YR6/2	灰褐色 5YR6/2	-	(1.8)	-	3.6	被熱。ピンホール。発泡状態。溶着片付着。外面, 露胎。被熱により釉が溶けたか。
666	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR7/6	にぶい橙色 5YR6/4	にぶい褐色 7.5YR7/4	-	(1.4)	-	6.8	ロクロ成形。
667	〃	〃	弥生 鉢	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	黄灰色 2.5Y5/1	-	(9.2)	-	2.8	口縁, 短く外反。ほぼ丸底。体部：ナデ / ナデ。黒斑。
図 139 668	〃	SX4	〃 甕	灰黄褐色 10YR6/2	にぶい黄褐色 10YR7/3	灰黄褐色 10YR6/2	10.8	7.3	9.8	-	緩やかな「く」。口唇, 面取り。口縁：ハケ後ナデ / ヨコハケ。体部：叩き後ナデ / ハケ後ナデ。キレット。黒斑。
図 140 669	〃	P20	〃 壺	にぶい褐色 7.5YR6/4	にぶい褐色 7.5YR6/4	灰色 7.5Y5/1	13.8	(3.0)	-	-	口唇, 丸くおさめる。頭部：ミガキ / ヨコナデ。
670	〃	P45	〃 甕	橙色 5YR6/6	にぶい褐色 7.5YR6/3	にぶい黄褐色 10YR7/4	-	(2.0)	-	-	口唇, ハケ状原体による面取り。口縁：ヨコナデ / ヨコナデ。煤。
671	〃	P95	〃 壺	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	灰白色 10YR8/2	20.4	(3.1)	-	-	口唇, 摘み上げ。口縁：ナデ / ナデ。
672	〃	P20	〃 〃	にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい褐色 7.5YR7/4	13.1	(1.3)	-	-	口唇, 下方へ拡張。5条1単位の櫛波文。刺突文。口縁：ミガキ / ヨコナデ。
673	〃	〃	〃 甕	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	褐灰色 10YR4/1	15.1	(1.8)	-	-	口唇, 上方へ拡張。2条の凹線文。口縁：ヨコナデ / ヨコナデ。煤。
674	〃	P95	〃 〃	橙色 5YR6/6	暗灰黄色 2.5Y5/2	橙色 5YR6/6	15.4	-	15.5	3.4	「く」。口縁：叩き後ハケ / ナデ。体部：叩き後ナデ / ハケ後ナデ。角の取れた平底。外底面, 叩き後ナデ。煤。
675	〃	〃	〃 鉢	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい黄褐色 10YR7/3	灰白色 10YR8/2	12.0	5.6	-	-	口唇, 摘み上げ。体部：叩き後ナデ / ハケ。ほぼ丸底。ヘラナデにより丸底化。黒斑。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 140 676	5 区	P158	弥生 鉢	にぶい黄橙色 10YR7/4	浅黄橙色 7.5YR8/6	浅黄橙色 10YR8/3	11.6	7.1	-	3.8	口唇, 面取り。体部: 叩き後ナデ / ナデ後ミガキ。角 の取れた平底。キレツ。黒斑。被熱。
677	〃	P74	〃 底部	にぶい黄橙色 10YR7/2	にぶい黄褐色 10YR7/3	灰色 5Y5/1	-	(2.7)	-	3.6	角の取れた平底。外底面, ナデ。体部: 叩き後ナデ / ヘラナデか。被熱。
678	〃	P151	〃 〃	にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい褐色 7.5YR5/4	灰黄褐色 10YR5/2	-	(3.2)	-	3.4	ほぼ丸底。外底面, ナデ。体部: ハケ・ナデ / ナデ。被 熱。煤。
680	〃	P92	〃 高杯	橙色 5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	暗灰色 N3/0	-	(2.6)	-	-	低脚高杯。杯部内底面, 工具の静止痕。脚部: ミガキ / ナデ・ハケ。
681	〃	P101	〃 甕	にぶい黄褐色 10YR7/3	褐灰色 7.5YR4/2	灰白色 10YR8/2	-	(2.1)	-	-	「く」。口唇, ハケ状原体による面取り。口縁: ヨコナ デ / ヨコハケ。煤。
682	〃	P83	土師 杯	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい黄褐色 10YR7/3	灰色 5Y5/1	-	(1.4)	-	-	内外面, 回転ナデ。
683	〃	P34	土質 皿	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	-	(0.7)	-	5.8	内外面, 回転ナデ。外底面, 丁寧なナデ。
684	〃	P115	陶器 鉢	灰褐色 7.5YR5/2	にぶい褐色 7.5YR5/3	褐灰色 10YR5/1	-	(2.7)	-	-	内外面, ロクロナデ。
図 141 689	〃	検出面	弥生 壺	浅黄褐色 7.5YR8/4	にぶい褐色 7.5YR6/4	灰オリーブ色 5Y5/2	15.2	(8.2)	-	-	口唇, 面取り。頸部: 叩き後タテハケ / ナデ・ハケ
690	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい褐色 7.5YR7/4	黄灰色 2.5Y5/1	17.0	(4.1)	-	-	内湾口縁。口唇, ルーズな面取り。口縁: ハケ / ハケ。
691	〃	〃	〃 〃	にぶい褐色 5YR7/4	にぶい褐色 7.5YR7/4	灰色 5Y5/1	19.2	(2.3)	-	-	口唇, ハケ状原体による面取り・刻目。口縁: ミガキ / ヨコナデ・ミガキ。
692	〃	〃	〃 〃	にぶい褐色 7.5YR7/4	にぶい褐色 7.5YR7/4	灰黄色 2.5Y7/2	15.4	(5.2)	-	-	複合口縁壺。口縁: ヨコハケ / ヨコナデ。頸部: ミガ キ / ハケ後ミガキ。
693	〃	〃	〃 〃	にぶい褐色 7.5YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/4	灰黄色 2.5Y6/2	-	(2.1)	-	-	複合口縁壺。口唇, ハケ状原体による面取り。口縁: ヨコナデ / ヨコナデ。二次口縁, 接合面で剥離。
694	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	にぶい褐色 5YR6/4	灰色 N4/0	-	(2.7)	-	-	頸部: ハケ / ハケ。体部: ハケ / ヨコハケ。頸部境 域, ハケ状原体による斜格子文を施した扁平な突帯。
695	〃	包含層	〃 〃	灰白色 2.5Y7/1	浅黄褐色 10YR8/3	褐色 7.5YR7/6	-	(18.5)	18.2	5.5	角の取れた平底。外底面, ミガキ。体部: タテハケ・ ミガキ / ケズリ。黒斑。
696	〃	攪乱	〃 甕	褐色 5YR7/6	褐色 5YR7/6	灰色 N4/0	13.0	(2.6)	-	-	口唇, ルーズな面取り。口縁: ヨコナデ / ヨコナデ。 体部: 叩き / ナデ。
697	〃	〃	〃 〃	にぶい黄褐色 10YR7/4	褐色 5YR7/6	灰黄色 2.5Y6/2	15.6	(10.5)	15.1	-	「く」。口唇, ルーズな面取り。口縁: 叩き後ナデ / ハ ケ。体部: 叩き後ナデ / ハケ。煤。
698	〃	検出面	〃 鉢	褐色 7.5YR7/6	灰黄褐色 10YR6/2	灰黄褐色 10YR5/2	-	(1.6)	-	-	体部: 叩き後ナデ / ナデ。内面, 摩耗。赤色顔料付着。
699	〃	〃	〃 底部	灰褐色 7.5YR4/2	にぶい赤褐色 5YR5/4	にぶい赤褐色 5YR5/4	-	(3.0)	-	5.9	上げ底。外底面, ミガキ。体部: ナデか / ミガキ。外 面, 荒れる。
700	〃	包含層	〃 壺	にぶい褐色 7.5YR7/4	褐色 5YR6/6	灰色 N5/0	-	(3.6)	-	8.3	角の取れた平底。外底面, ナデ。体部: タテハケ後ミ ガキ / 強いナデ。黒斑。
701	〃	検出面	〃 〃	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい褐色 7.5YR7/4	黄灰色 2.5Y6/1	-	(6.4)	-	6.4	丸底。外底面, 叩き後ナデ。ハケにより丸底化。体部: 叩き後ハケ / ナデ。黒斑。
702	〃	攪乱	〃 底部	褐灰色 7.5YR5/1	にぶい褐色 7.5YR7/4	黄灰色 2.5Y5/1	-	(1.8)	-	4.7	底部, 突出。外底面, 未調整にちかい。体部: 叩き後ナ デ / ハケ。
703	〃	検出面	〃 高杯	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい褐色 7.5YR7/4	黄灰色 2.5Y6/1	-	(4.0)	-	-	脚部: ミガキ / ナデ。杯部, 接合面で剥離。
704	〃	攪乱	〃 器台	褐色 5YR7/6	浅黄褐色 7.5YR8/4	灰色 N4/0	29.1	(2.2)	-	-	列点文, 半裁竹管文を 2 段に組み合わせ, 「S」の字 状。口縁: ヨコハケ / ミガキ。
705	〃	検出面	ミニ	褐色 5YR7/6	にぶい褐色 7.5YR6/4	褐灰色 10YR5/1	-	(2.2)	-	2.1	鉢形か。体部: ナデ / ナデ。黒斑。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 141 706	5 区	包含層	土師 甕	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	浅黄橙色 10YR8/3	15.0	(4.0)	-	-	口縁, 上方へ拡張。口縁: ヨコハケ / ヨコナデ。体部: タテハケ / ナデ。煤。
707	〃	検出面	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 5YR6/4	褐灰色 10YR4/1	24.4	(4.7)	-	-	口縁, 内湾気味に外反。口唇, ハケ状原体による面取 り。口縁: ナデ / ヨコハケ。体部: タテハケ / ヨコハケ。
708	〃	〃	須恵 蓋	灰白色 2.5Y7/1	灰白色 2.5Y7/1	黄灰色 2.5Y5/1	8.9	(1.0)	-	-	かえりを付す。内外面, 回転ナデ。
709	〃	〃	〃 壺	灰色 N5/0	灰色 N5/0	灰色 N5/0	14.2	(2.3)	-	-	口縁端部, 僅かに肥厚。内外面, 回転ナデ。
710	〃	〃	緑釉 碗	灰黄色 2.5Y7/2	灰黄色 2.5Y7/2	灰白色 2.5Y7/1	-	(1.6)	-	6.0	内外面, 回転ナデ。残存部, 全面に施釉。
711	〃	攪乱	土質 皿	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	-	(0.9)	-	4.3	内外面, 回転ナデ。外底面, 回転糸切り痕。
712	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	-	(0.6)	-	4.2	内外面, 回転ナデ。外底面, 回転糸切り痕。
713	〃	検出面	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	灰黄褐色 10YR6/2	8.2	1.5	-	4.8	内外面, 回転ナデ。外底面, 回転糸切り痕。被熱。煤。
714	〃	攪乱	瓦器 〃	灰色 N5/0	灰色 N5/0	灰黄色 2.5Y6/2	8.2	(1.3)	-	-	口縁: ヨコナデ / ヨコナデ。体部: 指圧 / ミガキ。炭 素の吸着, 弱い。
715	〃	検出面	青磁 碗	オリーブ灰色 2.5GY6/1	オリーブ灰色 2.5GY6/1	灰白色 5Y7/1	-	-	-	-	外面, 蓮弁文。
716	〃	〃	〃 〃	灰色 7.5Y6/1	オリーブ灰色 2.5GY6/1	灰白色 N7/0	-	-	-	-	口縁, 僅かに玉縁状。内面, 劃花文。貫入。
717	〃	〃	〃 〃	にぶい黄色 2.5Y6/4	にぶい黄色 2.5Y6/3	灰白色 5Y7/1	15.4	(3.1)	-	-	内面, 劃花文。貫入。
718	〃	攪乱	〃 〃	灰色 10Y6/1	灰色 10Y6/1	灰白色 2.5Y7/1	16.4	(2.2)	-	-	光沢の有るオリーブ灰色の釉薬を施す。内面, 劃花 文。
719	〃	検出面	〃 〃	灰オリーブ色 5Y6/2	灰オリーブ色 5Y6/2	灰白色 5Y7/1	-	(2.8)	-	-	光沢のある釉薬。貫入。
図 142 720	〃	〃	陶器 皿	灰褐色 5YR5/2	灰赤色 2.5YR5/2	褐灰色 7.5YR6/1	10.3	1.5	-	-	ロクロ成形。口縁に灯芯油痕。灯明皿として使用。
721	〃	〃	磁器 ミニ	灰白色 N8/0	灰白色 N8/0	灰白色 N8/0	3.6	1.7	-	1.4	外面, 染付け。量付, 釉剥ぎか。
図 144 723	6.1 区	ST1_ P12	弥生 壺	明赤褐色 2.5YR5/6	橙色 5YR6/6	暗灰黄色 2.5Y5/2	7.5	(8.1)	-	-	口縁, 外反気味に伸長。頸部: タテハケ / 。
724	〃	ST1_ P11	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR7/6	にぶい橙色 10YR7/3	13.5	(6.0)	-	-	口縁, やや内傾気味の頸部から外反。口縁: ナデ後タ テハケ / ヨコハケ。頸部: ハケ / ナデ。
725	〃	〃	〃 〃	橙色 2.5YR6/6	橙色 2.5YR6/6	黄灰色 2.5Y5/1	18.2	(5.8)	-	-	口縁, ひらき気味に外反。口縁: ナデ / ヨコハケ。
726	〃	ST1	〃 〃	黄灰色 2.5Y5/1	橙色 5YR6/8	にぶい黄色 2.5Y6/3	-	(35.4)	29.0	3.8	やや尖底状の丸底。体部: 叩き後ナデ / ハケ後ナデ。
727	〃	〃	〃 〃	灰黄色 2.5Y7/2	橙色 7.5YR7/6	黄灰色 2.5Y5/1	-	(26.5)	-	7.9	厚い平底。体部: ハケ / ハケ・ナデ。
728	〃	〃	〃 甕	浅黄褐色 10YR8/4	黒褐色 10YR2/2	暗灰色 N3/0	11.3	(17.5)	15.7	-	口唇, 面取り。体部: 叩き後ハケ / ナデ・ケズリ。
729	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR6/4	13.5	20.6	15.8	3.8	「く」。平底。口唇, ハケ状原体による面取り。口縁: ナ デ / ナデ。体部: 叩き後ハケ / ナデ・ケズリか。煤。
730	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	褐灰色 10YR4/1	13.3	22.5	15.6	4.5	小径な平底。体部: 叩き後タテハケ / ナデ・ケズリ。 煤。
731	〃	〃	〃 〃	橙色 2.5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	-	(8.6)	-	-	体部: ハケ / 粗いケズリ。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図144 732	6-1区	ST1	弥生 高杯	にぶい 橙色 5YR7/4	橙色 5YR7/6	黄灰色 2.5Y4/1	-	(6.6)	-	-	脚部：縦方向のヘラミガキ。上部粘土充填。分割成形。
図145 734	〃	〃	〃 壺	浅黄 橙色 10YR8/4	橙色 7.5YR7/6	灰色 N6/0	-	(64.4)	-	11.5	大型壺。斜格子の刻目突帯を貼付。体部：ハケ後ミガキ/ハケ・ナデ。火摺状。
図149 736	〃	ST2	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	褐灰色 10YR5/1	13.2	(4.7)	-	-	口縁、外反気味に斜めにひらく。口縁：タテハケ/ナデ。
737	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	浅黄 橙色 7.5YR8/6	灰色 N4/0	13.7	(3.5)	-	-	口縁、直立気味の頸部から大きくひらく。口唇、上方へ拡張し弱い凹線状。口縁：ヨコナデ/。
738	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 7.5YR7/6	17.2	(5.2)	-	-	口縁、端部から緩やかに外反する二次口縁を付加。摩耗。
739	〃	〃	〃 〃	灰黄色 2.5Y7/2	にぶい 橙色 7.5YR7/4	灰色 5Y5/1	9.7	(18.0)	29.6	-	口縁、端部から緩やかに内傾する二次口縁を付加。体部、球形状。体部：叩き後ハケ/タテハケ。
740	〃	〃	〃 〃	にぶい 褐色 7.5YR5/4	黒褐色 2.5Y3/1	にぶい 褐色 7.5YR5/4	22.8	(3.5)	-	-	口縁、直線気味に内傾。口唇、僅かに凹面状。台付き鉢か。
741	〃	〃	〃 甕	にぶい 黄橙色 10YR7/4	にぶい 褐色 7.5YR6/3	黄灰色 2.5Y4/1	10.8	(11.9)	-	-	口縁、屈曲弱く直立気味に外反。口縁：タテハケ/ヨコハケ。体部：叩き後タテハケ/ヘラナデ。煤。
742	〃	〃	〃 底部	にぶい 橙色 7.5YR7/4	にぶい 褐色 7.5YR7/4	にぶい 褐色 7.5YR7/4	-	(4.5)	-	3.6	角の取れた平底。体部：/放射状のハケ。
743	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	にぶい 褐色 7.5YR7/4	褐灰色 10YR4/1	-	(2.9)	-	4.2	角の取れた平底。外底面、葉脈痕。体部：ナデ/ナデ。
744	〃	〃	〃 〃	黄灰色 2.5Y6/1	浅黄 褐色 7.5YR8/4	暗灰色 N3/0	-	(8.0)	-	2.6	小径な平底。体部：叩き後タテハケ/ハケ・ナデ・指圧。
745	〃	〃	〃 〃	にぶい 黄褐色 10YR7/3	にぶい 褐色 7.5YR7/4	黄灰色 2.5Y4/1	-	(3.1)	-	3.0	角の取れた平底。外底面、葉脈痕。
746	〃	〃	〃 鉢	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	褐灰色 10YR4/1	9.4	6.3	-	3.2	体部、内湾気味。高台状の平底。体部：ヘラミガキ/ケズリ。キレット。
747	〃	〃	〃 〃	にぶい 褐色 7.5YR7/4	にぶい 黄褐色 10YR7/3	灰色 5Y5/1	11.4	8.3	-	1.6	尖底気味。体部：叩き後タテハケ/タテハケ。
748	〃	〃	〃 〃	にぶい 黄褐色 10YR6/3	にぶい 黄褐色 10YR7/4	褐灰色 10YR4/1	12.4	6.2	-	-	丸底。体部：叩き後粗いハケ/不定方向のハケ。
749	〃	〃	〃 〃	暗灰 黄色 2.5Y5/2	橙色 5YR6/6	暗灰 黄色 2.5Y5/2	15.5	(6.8)	-	-	口縁、内湾気味。体部：ハケ/。表面剥離。
750	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR7/6	浅黄 褐色 7.5YR8/4	-	18.6	8.3	-	3.0	体部、内湾気味。底部、突出気味。体部：ナデ/タテハケ。キレット。
751	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	にぶい 褐色 7.5YR7/4	にぶい 褐色 7.5YR7/3	-	(4.9)	-	3.1	体部、斜め上方へ立ち上がる。小径な平底。体部：ナデ/ハケ。
752	〃	〃	〃 高杯	にぶい 褐色 7.5YR7/4	褐灰色 7.5YR4/1	黄灰色 2.5Y6/1	-	(3.3)	-	-	円柱状(中実)。脚部：タテハケ/。
754	〃	〃	ミニ	橙色 5YR6/6	橙色 7.5YR7/6	褐色 7.5YR7/6	4.9	3.1	-	2.2	体部：叩き/ナデ。
図152 757	〃	ST3	弥生 壺	橙色 5YR7/6	褐色 5YR7/6	暗灰色 N3/0	15.0	(7.6)	-	-	「く」。口唇、僅かに拡張し面取り。体部：タテハケ/ナデ。
758	〃	〃	〃 〃	黄 褐色 7.5YR7/8	黄 褐色 7.5YR7/8	浅黄 褐色 10YR8/3	12.6	(4.7)	-	-	口縁、大きく外反し端部から直立気味に上方へ拡張する二次口縁を付加。口唇、丸くおさめる。摩耗。
759	〃	〃	〃 〃	浅黄 褐色 7.5YR8/6	にぶい 褐色 7.5YR7/4	褐灰色 10YR4/1	22.7	(3.3)	-	-	口縁、外方へひらき端部は内傾気味に上方へ拡張。口唇、面取り。ヘラミガキ。口縁に歪な櫛波文。
760	〃	〃	〃 〃	黄 灰色 2.5Y4/1	明赤 褐色 2.5YR5/6	黄 灰色 2.5Y4/1	-	(16.0)	-	-	体部、算盤玉形～楕円形状。体部：タテ方向のヘラミガキ/しぼり目。赤色顔料塗布。
761	〃	〃	〃 甕	にぶい 褐色 5YR6/4	にぶい 褐色 5YR6/4	褐灰色 10YR4/1	13.6	(10.2)	13.3	-	口縁、外方へひらく。体部、丸みを帯びる。体部：叩き後タテハケ/ハケ・ヘラナデ。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 152 762	6-1 区	ST3_ P1	弥生 甕	にぶい黄褐色 10YR7/3	灰黄褐色 10YR6/2	灰色 7.5Y4/1	15.7	16.9	14.3	2.2	口縁、ひらき気味に外反。口唇、面取り。小径な平底。 体部：叩き後タテハケ / タテハケ。煤。摩耗。
763	〃	ST3	〃 〃	明赤褐色 5YR5/6	にぶい橙色 7.5YR6/4	明赤褐色 5YR5/6	15.8	(10.8)	15.8	—	口縁、短く外反。口唇、面取り。体部：叩き後粗いハケ / ハケ。
764	〃	〃	〃 〃	にぶい黄褐色 10YR6/3	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	14.2	(22.5)	19.0	—	「く」。体部：叩き後タテハケ / ケズリ。煤。
765	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	黄灰色 2.5Y5/1	12.9	(20.6)	15.2	—	「く」。体部：ハケ / ハケ・ナデ。煤。
766	〃	〃	〃 底部	にぶい橙色 7.5YR6/4	橙色 7.5YR6/6	灰白色 2.5Y7/1	—	(6.2)	—	2.9	厚く小径な平底。体部：叩き後ハケ / ハケ。
767	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	にぶい橙色 5YR6//4	灰黄褐色 10YR5/2	—	(4.3)	—	6.8	僅かに上げ底。外底面、ナデ。体部：ヘラナデ / ナデ。 黒斑。
図 153 768	〃	〃	〃 鉢	浅黄褐色 10YR8/4	浅黄褐色 10YR8/4	灰色 N5/0	12.0	5.5	—	3.2	円盤状に突出気味の小径な平底。外底面、ナデ。体部： 叩き後ナデ / ミガキ。黒斑。
769	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	褐灰色 10YR4/1	15.0	10.4	—	3.8	口縁、内湾気味。高台状の小径な平底。体部：ナデ。内 底面に放射状の静止痕。
770	〃	〃	〃 〃	浅黄褐色 10YR8/4	浅黄褐色 10YR8/4s	浅黄褐色 10YR8/4	23.2	9.5	—	3.0	口唇、丸い。体部、浅鉢状。円盤状に突出気味の 小径な平底。体部：叩き後タテハケ / ハケ。
771	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 5YR6/4	橙色 5YR7/6	灰色 N4/0	19.1	(5.4)	—	—	口唇、僅かに上方へ拡張し弱い凹面状。口縁：ナデ。 体部：ハケ後ミガキ / ミガキ。
772	〃	〃	〃 〃	灰黄褐色 10YR5/2	にぶい橙色 7.5YR7/4	灰黄褐色 10YR5/2	—	(5.5)	—	—	脚付き鉢。体部：ナデ / 粗いヨコハケ。
773	〃	〃	〃 高杯	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/3	灰黄褐色 10YR6/2	—	(7.6)	—	—	脚部：ナデ・弱い叩き / しぼり目。
774	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	灰黄褐色 10YR5/2	—	(5.0)	—	19.2	裾部、大きくひらく。直径約 0.7cm の円孔。裾部：ミガ キ / ヘラナデ。
図 155 780	〃	ST2・3	〃 鉢	橙色 5YR6/6	橙色 5YR7/6	灰黄褐色 10YR6/2	11.4	4.4	—	3.2	碗状。体部：叩き後ナデ / ハケ・ナデ。
781	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 5YR7/6	黄灰色 2.5Y4/1	18.5	7.3	—	—	口唇、僅かに上方を向き凹面状。摘み出し状の歪な底 部。体部：叩き後ナデ / ハケ。
図 157 782	〃	ST4	ミニ	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/8	にぶい黄褐色 10YR7/4	7.0	4.1	—	—	杯状。底部、丸みを帯びる。体部：叩き後ナデ / ナデ。
図 159 783	〃	ST5	弥生 高杯	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	—	(7.1)	—	—	竹管状工具による貫通痕。杯部、剥離。脚部：ヘラナ デ / しぼり目。
図 161 784	〃	ST9_ 中央 P	〃 壺	にぶい橙色 7.5YR7/4	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	15.8	(4.9)	—	—	口縁、緩やかに外反。口唇、上方に面取り。口縁：タテ ハケ / ヨコハケ。
785	〃	ST9	〃 甕	にぶい黄褐色 10YR6/4	橙色 2.5YR7/8	灰色 7.5Y5/1	17.5	(12.1)	18.7	—	口縁、外反。口唇、面取り。口縁：ナデ / ヨコハケ。体 部：叩き後ナデ / ハケ。煤
786	〃	〃	〃 鉢	浅黄褐色 7.5YR8/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	浅黄褐色 7.5YR8/3	9.8	8.5	—	3.5	コップ形。丸底化を指向。体部：叩き後ナデ / ヨコハ ケ。キレット。
787	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	浅黄褐色 10YR8/3	10.3	7.2	—	—	体部、碗状。丸底。体部：ナデ / ハケ。内底面に放射状 のハケ（当て具痕）。キレット。
788	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい褐色 7.5YR6/3	にぶい橙色 7.5YR7/4	11.9	4.5	—	4.0	口唇、面取り。平底状。口縁：ヨコハケ。体部：弱い 叩き後ナデ / ナデ。焼成後穿孔。
789	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	橙色 5YR7/6	—	(5.1)	—	1.7	底部、丸みを帯びた尖底状。体部：ナデ / ヨコハケ。 キレット。
790	〃	〃	ミニ	橙色 5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	黄灰色 2.5Y6/1	6.2	4.6	—	1.2	壺状。丸底。手捏ね成形。体部：叩き後ナデ / ナデ。キ レット。
図 162 791	〃	ST10	弥生 鉢	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	10.8	3.9	—	—	浅鉢状。口唇、面取り。丸底。体部：叩き後ナデ / ヨコ ハケ。内底面にハケ状工具痕。キレット。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 165 792	6-1 区	ST11	弥生 壺	灰黄色 2.5Y6/2	橙色 7.5YR7/6	灰白色 2.5Y8/2	-	(11.5)	-	-	頸部、直口気味に立ち上がる。頸部：タテミガキ / ナデ。肩部：ミガキ / ヨコハケ・ナデ。
793	〃	ST11_ P11	〃 甕	にぶい橙色 7.5YR6/4	灰黄褐色 10YR6/2	にぶい橙色 7.5YR7/3	15.8	(5.3)	-	-	口縁、短く外反。口唇、僅かに凹面状。体部：叩き後ハケ / タテハケ。煤。
794	〃	ST11	〃 〃	にぶい黄褐色 10YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/4	褐灰色 10YR5/1	15.6	(4.3)	-	-	口縁、丸みを帯びて外反。口唇、僅かに拡張し凹面状。口縁外面にタール附着。
795	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR6/6	にぶい褐色 7.5YR5/4	黄灰色 2.5Y4/1	13.2	(5.8)	-	-	口縁、短く外方へひらく。口唇、面取り。口縁：叩き後ナデ / ヨコハケ。体部：叩き後ハケ / ナデ。煤。
796	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	褐灰色 10YR5/1	13.4	(9.5)	15.4	-	「く」。口唇、丸い。口縁： / ヨコハケ。体部：叩き後ナデ / ハケ・ナデ。
797	〃	〃	〃 〃	灰白色 2.5Y7/1	橙色 7.5YR7/6	浅黄褐色 10YR8/4	-	(13.8)	-	2.1	小径な平底。体部：叩き後タテハケ / ハケ。
798	〃	〃	〃 鉢	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	灰黄色 2.5Y6/2	8.2	7.9	-	-	口縁、内湾気味。口唇、僅かに外反し内面に面取り。丸底。口縁：ヨコハケ。体部：タテハケ / ナデ。
799	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	橙色 7.5YR7/6	浅黄褐色 10YR8/3	12.2	7.7	-	24	口縁、内湾気味。碗状。丸みを帯びた尖底状。体部：叩き後ナデ / ハケ。キレツ。
800	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	橙色 5YR7/6	灰色 N4/0	13.8	5.6	-	22	口唇、摘み上げ。丸みを帯びた小径な平底状。体部：ハケ・ナデ後ミガキ / ナデ後ミガキ。
801	〃	〃	〃 〃	浅黄褐色 7.5YR8/6	浅黄褐色 7.5YR8/6	浅黄褐色 7.5YR8/6	9.0	7.1	-	-	口縁、緩やかに外反。口唇、面取り。尖底状。口縁：タテハケ / ヨコハケ。体部：タテハケ / ナデ。
802	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	浅黄褐色 7.5YR8/4	21.5	9.2	-	-	碗状。口唇、丸い。厚い丸底。体部：粗いハケ・指圧。キレツ。
803	〃	ST11_ 中央 P	〃 底部	にぶい橙色 7.5YR7/4	橙色 5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	-	(7.3)	-	44	コップ状。丸底化を指向。外底面、ナデ。体部：叩き後ナデ / ハケ。キレツ。
804	〃	ST11	〃 〃	橙色 7.5YR6/6	橙色 5YR6/6	暗灰黄色 2.5Y5/2	-	(3.7)	-	1.0	尖底状の小径な平底。体部：タテハケ / ハケ・ナデ。丁寧な仕上げ。
805	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR6/6	にぶい黄褐色 10YR7/4	-	(4.5)	-	2.3	丸底。体部：ハケ / 。
806	〃	〃	〃 〃	にぶい赤褐色 5YR4/4	赤褐色 5YR4/6	明赤褐色 5YR5/6	-	(4.2)	-	2.0	碗状。底部、丸みを帯びる。体部：ヘラナデ / ハケ・ナデ。
807	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	褐灰色 10YR4/1	-	(5.4)	-	2.8	小径な平底。体部：叩き後ナデ / ハケ・ナデ。煤。
図 167 814	〃	ST12	〃 鉢	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	10.2	7.4	-	2.8	小径な平底。体部：叩き後ハケ / ハケ。内底面に放射状のハケ。キレツ。
815	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	11.9	4.9	-	3.4	口唇、面取り。浅鉢状。角の取れた平底。体部：ナデ / ハケ。キレツ。
図 168 816	〃	ST11_ 12	〃 壺	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	-	(5.1)	-	-	頸部、斜格子状に刻目を施した小幅の粘土帯を貼付。体部：ハケ・ナデ。体部に焼成後穿孔か。
817	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	-	-	-	-	体部：ハケ・ナデ / ハケ・ナデ。黒斑。体部、焼成後穿孔。
818	〃	〃	〃 甕	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR6/4	13.6	(9.4)	14.8	-	口唇、面取り。口縁：ハケ / ヨコハケ。体部：叩き後タテハケ / ヨコハケ。
図 170 819	〃	ST13	〃 壺	浅黄褐色 7.5YR8/6	浅黄褐色 7.5YR8/6	灰色 5Y6/1	15.6	(6.4)	-	-	口縁、短くひらき端部から外反気味に上方へ拡張する二次口縁を付加。口縁に1条の不連続波状文。摩耗。
820	〃	ST13_ P3	〃 甕	にぶい黄褐色 10YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	灰色 N4/0	15.7	(4.6)	-	-	口縁、屈曲弱く外反。口唇、貼付し僅かに肥厚。口縁：叩き / ヨコハケ。体部：叩き / タテハケ。
821	〃	ST13	〃 〃	橙色 5YR6/6	明赤褐色 2.5YR5/6	-	16.0	(10.1)	-	-	口縁、短く外反。口唇、面取り。口縁：ナデ / ヘラナデ。体部：叩き後ナデ / ヘラナデ。
822	〃	〃	〃 鉢	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	16.7	6.6	-	4.6	碗状。底部、丸みを帯びる。体部：叩き後ナデ / ナデ。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 172 826	6-1 区	ST14	弥生 甕	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	褐灰色 10YR4/1	14.5	-	17.5	2.6	口縁、屈曲弱い。厚く小径な平底。体部：叩き後タテハケ/ヘラナデ。外底面、叩き目。煤。
827	〃	〃	〃 〃	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	灰色 N4/0	14.4	(7.5)	-	-	口縁、斜め上方へひらく。口唇、面取り。口縁：叩き後ハケ/ヨコハケ。体部：叩き後ナデ/ハケ。
図 174 829	〃	ST15	〃 鉢	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	10.4	7.3	-	2.9	平底。体部：叩き後ナデ/ハケ。内底面、ヘラナデ。
830	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 7.5YR7/6	浅黄褐色 7.5YR8/4	19.2	8.6	-	3.0	丸みを帯びた平底。体部：ハケ。キレツ。
図 177 831	〃	SB1_ P5	須恵 杯	灰色 N5/0	灰色 N5/0	灰色 N5/0	8.4	(2.0)	-	-	口縁、内傾気味の短小な立ち上がり。受け部は斜め上方へのびる。内外面、回転ナデ。
図 180 834	〃	SB3	ミニ	橙色 2.5YR7/8	橙色 2.5YR7/8	橙色 2.5YR7/8	5.9	3.9	-	3.6	ST9_P3 出土。平底。体部：指圧。
図 186 835	〃	SB8	土質 皿	浅黄褐色 10YR8/3	浅黄褐色 10YR8/3	浅黄褐色 10YR8/3	7.2	1.2	-	4.6	P29 出土。内外面、回転ナデ。外底面、回転糸切り痕。
図 190 836	〃	SB11	弥生 底部	にぶい黄褐色 10YR7/4	橙色 7.5YR7/6	灰色 5Y4/1	-	(2.7)	-	3.4	P143 出土。小径な上げ底。体部：ナデ/ナデ。黒斑。
図 192 837	〃	SB12	土師 椀	灰白色 10YR8/2	にぶい黄褐色 10YR7/3	灰白色 10YR8/2	12.8	5.1	-	6.1	P136 出土。口縁、僅かに外反。外底面に輪高台を貼付。回転ヘラケズリ。外底面、回転ヘラ切り痕。
図 196 838	〃	SK2	陶器 皿	黄灰色 2.5Y6/1	明赤褐色 2.5YR5/6	明赤褐色 2.5YR5/6	11.8	3.4	-	5.2	口縁、輪花状。低い削り出し高台。ケズリ/。外面下半、露胎。見込みに砂目積み痕。
図 197 839	〃	SK3	〃 碗	淡黄色 2.5Y8/3	淡黄色 2.5Y8/3	灰白色 10YR8/1	12.4	7.9	-	5.2	黄色みがかかった透明釉。貫入。曇付、露胎。
840	〃	〃	〃 〃	-	-	灰白色 N8/0	-	(3.0)	-	4.5	内面に透明釉。外面に銅緑釉を施釉し、下位は露胎。
図 201 841	〃	SK11	備前焼 播鉢	灰色 N6/0	灰色 N6/0	灰褐色 5YR5/2	25.2	(4.2)	-	-	口縁、肥厚し外面に2条の凹線。口唇内面、凹面状。飾状原体による播目。焼成須恵質。
842	〃	〃	〃 〃	赤灰色 2.5YR4/1	にぶい赤褐色 2.5YR5/3	灰色 N6/0	-	(4.6)	-	-	口縁、端部から大きく上方へ拡張し外面に2条の凹線。
図 204 843	〃	SK14	陶器 碗	黄灰色 2.5Y6/1	灰白色 2.5Y7/1	橙色 2.5YR6/6	15.5	3.3	-	6.8	曇付の一部まで施釉。内面に貫入。見込みに砂目積み痕。
図 212 844	〃	SK26	弥生 底部	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	浅黄褐色 10YR8/4	-	(9.8)	-	4.5	壺の底部。丸底。体部：ハケ/ハケ・ナデ。
図 214 845	〃	SK27	〃 高杯	浅黄褐色 7.5YR8/4	浅黄褐色 7.5YR8/4	灰色 N4/0	-	(5.4)	-	-	裾部に直径約0.9cmの円孔。脚部：タテミガキ/しぼり目。
図 215 846	〃	SK28	〃 壺	にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい褐色 7.5YR5/4	-	(3.0)	-	-	口縁、上方へ拡張。外面に2条の凹線文。口縁：ヨコナデ/ヨコナデ。
図 217 847	〃	SK29	〃 鉢	灰白色 10YR8/2	灰白色 10YR8/2	灰白色 10YR8/2	8.4	9.4	-	2.8	口縁、やや受け口状。平底。口縁：叩き後ナデ/ヨコハケ。体部：叩き後ハケ/ハケ。
図 220 848	〃	SD1	〃 甕	浅黄褐色 7.5YR8/6	浅黄褐色 7.5YR8/4	灰色 N4/0	12.9	(3.8)	-	-	「く」。口唇、尖り気味。体部：叩き/ナデ。接合痕。
849	〃	〃	〃 体部片	にぶい黄褐色 10YR7/2	橙色 5YR6/6	黄灰色 2.5Y5/1	-	(5.4)	-	-	体部：ナデ/ナデ・ミガキ。外面に線刻か。
図 223 851	〃	SD3	土質 杯	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	10.6	3.9	-	5.0	内外面、回転ナデ。外底面、回転糸切り痕。
852	〃	〃	陶器 碗	暗褐色 10YR3/3	淡黄色 2.5Y8/3	淡黄色 2.5Y8/3	11.0	7.3	-	4.7	天目茶碗。腰部から斜め上方へ立上がり、体部で屈折。口縁、短くひらく。施釉。外面下部、釉剥ぎ。煤。
853	〃	〃	〃 皿	灰オリーブ色 5Y6/2	灰黄色 2.5Y6/2	灰白色 2.5Y7/1	-	(2.4)	-	4.6	外面上位に透明釉を施釉し、下位は露胎。内面に銅緑釉を施釉し、見込みに蛇の目釉剥ぎ・砂目。
854	〃	〃	磁器 〃	灰黄色 2.5Y6/2	灰黄色 2.5Y6/2	灰褐色 7.5YR6/2	-	(5.8)	-	6.8	断面方形の輪高台。ロクロ目/圏線。外面下部、露胎。見込みに4ヶ所の砂目積み痕。鉢か。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色調			法量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 223 855	6-1 区	SD3	備前焼 播鉢	灰色 N6/0	灰色 N6/0	にぶい赤褐色 2.5YR5/4	26.0	9.9	-	8.5	口縁、肥厚し頸部は拡張。外面に2条の凹線。回転ナ デ・ケズリノ。間断のない放射状の播目。
図 224 857	〃	〃	弥生 甕	にぶい橙色 7.5YR6/4	黒褐色 10YR3/2	にぶい橙色 7.5YR6/4	-	(22.5)	22.0	-	口縁、外反気味にひらく。短胴気味。口縁：ノヨコハ ケ。体部：叩き後ハケノハケ。外面、タール・煤。
図 227 858	〃	SD4	陶器 皿	灰白色 10YR8/1	橙色 7.5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	12.5	3.9	-	4.0	白濁釉。内面と口縁外面を除き露胎。見込みに高台豊 付状の釉剥げ。
図 228 860	〃	SD5	磁器 〃	灰白色 10Y8/0	浅黄褐色 10YR8/3	灰白色 N8/0	11.9	3.7	-	4.1	断面逆三角形の削り出し輪高台。回転ナデ。白濁 釉。外面下部露胎。見込みに松葉文・蛇の目釉刺ぎ。
図 229 861	〃	SD14	土師 甕	にぶい褐色 7.5YR5/3	灰黄褐色 10YR5/2	にぶい赤褐色 5YR5/4	-	(4.8)	-	-	口縁、外方へひらく。体部、下方へ向かう。口縁部外面 に炭化物付着。
図 234 863	〃	SX1	陶器 皿	灰白色 7.5Y8/1	明赤褐色 2.5YR5/6	明赤褐色 2.5YR5/6	-	(2.8)	-	4.9	透明灰釉を全面に施釉。見込みに砂目積み痕。高台内 の4ヶ所に粗砂が付着。
864	〃	〃	〃 碗	灰白色 5Y7/2	灰白色 5Y7/2	灰白色 2.5Y7/1	-	(5.0)	-	4.9	透明灰釉を豊付を除き全面に施釉。豊付に粗砂が付 着。
865	〃	〃	〃 鉢	にぶい黄褐色 10YR7/2	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR7/3	-	(4.0)	-	8.1	高台脇・腰部に1条の沈線。内面に刷毛目文。外面下 位露胎。砂目積み痕。
866	〃	〃	〃 〃	暗赤褐色 10R3/2	灰赤色 2.5YR5/2	-	19.5	(6.0)	19.8	-	口縁、屈曲し玉縁状。鉄釉。
867	〃	〃	備前焼 播鉢	灰褐色 5YR4/2	灰褐色 5YR4/2	明褐色 5YR7/1	31.2	(5.8)	-	-	口縁、肥厚し外面に1条の凹線。口唇内面、凹面状。回 転ナデ。幅広の播目。
図 235 868	〃	SX2	土質 皿	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	8.5	1.8	-	3.8	内外面、回転ナデ。外底面、回転糸切り痕。口縁部に タール。
869	〃	〃	弥生 底部	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	-	(3.1)	-	6.0	ほぼ丸底。体部：叩きノナデ。
870	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	-	(3.2)	-	2.6	小径で厚い平底。体部：叩き後粗いハケノナデ。煤。
図 237 871	〃	SX3	陶器 皿	灰白色 5Y7/2	灰白色 N7/0	灰白色 N7/0	-	(1.9)	-	4.0	灰釉を全面に施釉。豊付の3ヶ所に粗砂が付着。
872	〃	〃	須恵 蓋	灰白色 N8/0	灰白色 N8/0	灰白色 N8/0	10.1	(1.6)	-	-	丸みを帯びた器形。短小なかえりを付す。内外面、回 転ナデ。
873	〃	〃	瓦質 三足鍋	-	灰色 N4/0	灰色 N6/0	10.3	3.2	2.5	-	脚部断面は歪な多角形状。付け根部分から剥離。
図 238 874	〃	P162	弥生 壺	橙色 2.5YR6/6	橙色 7.5YR7/6	灰色 5Y4/1	12.4	(4.5)	-	-	口縁、直立気味の頸部から大きく外方へひらく。口 唇、端部は上方へ拡張し凹面状。口縁：ヨコナデノ。
875	〃	P177	〃 有孔鉢	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	褐色 10YR4/1	-	(4.6)	-	-	僅かに平坦面を有する丸底。体部：叩き後タテハケ ノ指圧ノナデ。底部に焼成後穿孔。
876	〃	P180	土師 碗か	にぶい黄褐色 10YR7/3	浅黄褐色 10YR8/3	淡赤褐色 2.5YR7/4	-	(2.3)	-	5.8	低い円盤状高台。内外面、回転ナデ。外底面、回転糸切 り痕。
877	〃	P165	〃 杯	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	15.4	3.2	-	11.8	口縁、僅かに外反。体部、底部から丸みを帯びて立ち 上がる。回転ナデ。
878	〃	P133	青磁 碗	灰色 10Y6/1	灰色 7.5Y5/1	黄灰色 2.5Y6/1	15.6	(5.1)	-	-	全体に施釉。外面、蓮弁文。
図 239 881	〃	包含層	弥生 鉢	橙色 5YR7/6	橙色 5YR6/6	褐色 5YR7/6	10.5	5.2	-	3.4	碗状。小径の円盤状の平底。体部：叩き後ナデノナ デ。外面に微小な粘土粒付着。
882	〃	〃	〃 〃	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい黄褐色 10YR7/3	褐色 10YR5/1	18.0	(5.6)	-	-	口縁、短く外方へひらく。口唇、面取り。体部：ナデノ 粗いハケノナデ。
883	〃	検出面	〃 底部	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	-	(2.3)	-	3.8	平底。体部：叩き後ナデノナデ。
884	〃	〃	〃 〃	橙色 2.5YR6/8	にぶい橙色 7.5YR7/4	褐色 2.5YR6/8	-	(4.5)	-	5.2	平底。体部：ヘラナデノナデ。摩耗。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色調			法量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 239 885	6-1 区	トレン チ	須恵 壺	灰色 5Y6/1	黄灰色 2.5Y5/1	灰褐色 7.5YR6/2	21.4	(5.8)	-	-	口縁、肩部から短く外反。口唇、下方へ拡張。体部：格子状叩き / 同心円状の当て具痕。自然釉。
886	〃	攪乱	備前焼 甕	にぶい赤褐色 2.5YR5/4	にぶい赤褐色 5YR5/3	にぶい赤褐色 2.5YR5/4	-	(7.1)	-	-	口縁、屈曲し玉縁状（中空）。肥厚部下半は稜状に面取り。
887	〃	〃	〃 体部	赤橙色 10R6/6	灰赤色 10R5/2	赤橙色 10R6/6	-	(9.0)	-	-	体部外面に「大」の刻書。
888	〃	包含層	陶器 碗	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい黄褐色 10YR7/3	-	11.5	7.8	-	5.2	高台脇から丸みを帯びて立ち上がり、体部は上方へのびる。量付露胎。細微な貫入。
図 241 896	7-1-1 区	ST1	弥生 甕	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	浅黄褐色 10YR8/3	16.0	(7.1)	-	-	「く」。口縁：叩き後粗いタテハケ / 粗いヨコハケ。体部：叩き後ナデ / ヨコハケ後ナデ。肩部内面、指圧。
897	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい褐色 7.5YR5/4	灰黄褐色 10YR4/2	16.2	(9.1)	-	-	「く」。口唇、面取り。口縁：叩き後ナデ / ハケ。体部：叩き後ナデ・タテハケ / ハケ後ナデ。煤。
898	〃	〃	〃 鉢	橙色 7.5YR7/6	橙色 5YR7/6	暗灰黄色 2.5Y5/2	33.2	(7.2)	-	-	口縁、外反。口唇、面取り。口縁：ミガキ / ヨコハケ。体部：ヘラナデ / タテハケ。被熱。煤。
899	〃	〃	〃 底部	橙色 7.5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	橙色 7.5YR7/6	-	(3.4)	-	3.8	平底。外底面、葉脈痕。体部：叩き後ナデ / ヘラナデ。
900	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	-	(3.8)	-	3.2	平底。外底面、様々な圧痕。体部：叩き後ナデ / ヘラナデ。黒斑。
図 243 901	7-1-2 区	ST2	〃 壺	明赤褐色 5YR5/6	明赤褐色 2.5YR5/6	明赤褐色 5YR5/6	13.6	(9.4)	-	-	緩やかな「く」。口唇、面取り。口縁：叩き後ハケ・ナデ / ヨコハケ。体部：叩き後ナデ / ヨコハケ。
902	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR6/6	暗灰黄色 2.5Y5/2	-	(4.1)	-	-	頸部、ハケ状原体による斜格子の刻目突帯を貼付。体部：ヨコハケ後ミガキ / ヨコハケ。
903	〃	〃	〃 甕	橙色 7.5YR7/6	橙色 5YR6/6	橙色 7.5YR7/6	12.6	(7.8)	12.0	-	「く」。口縁：ハケ / ヨコハケ。体部：叩き後タテハケ / ヨコハケ。肩内接合痕。904 と同一個体か。
904	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	13.6	(7.5)	-	-	「く」。口縁：ハケ / ヨコハケ。体部：叩き後タテハケ / ヨコハケ。肩内接合痕。903 と同一個体か。
905	〃	〃	〃 鉢	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	灰黄色 2.5Y6/2	-	(4.2)	-	3.4	上げ底状。指頭により短い脚を作出。体部：タテミガキ / ヨコミガキ。
906	〃	〃	〃 〃	にぶい赤褐色 5YR5/4	にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい褐色 7.5YR5/4	-	(3.4)	-	-	丸底。強いナデにより丸底化。体部：叩き後ナデ / ヘラナデ。
図 245 907	7-3 区	ST3	〃 甕	灰色 N4/0	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/3	-	(12.7)	-	3.0	角の取れた平底。外底、ハケか。体部：叩き後タテハケ / ハケ・ナデ。黒斑。煤。
908	〃	〃	〃 鉢	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい褐色 7.5YR6/4	にぶい褐色 7.5YR7/4	6.9	6.7	-	3.4	口唇、尖らせる。角の取れた平底。直立部を持つ。外底、ナデ。体部：ナデ / ナデ。
909	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい褐色 7.5YR6/4	にぶい褐色 7.5YR6/4	-	(4.5)	-	3.8	僅かに上げ底状。指頭により短い脚を作出。体部：タテハケ / ナデ。黒斑。
910	〃	〃	〃 体部	黄灰色 2.5Y4/1	浅黄褐色 10YR8/4	浅黄褐色 10YR8/3	-	-	-	-	体部：叩き後ミガキ / ナデ。半截竹管文・線刻。黒斑。
911	〃	〃	〃 底部	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい褐色 7.5YR7/4	褐灰色 10YR5/1	-	(5.4)	-	10.3	大型壺。平底。直立部を持つ。外底面、ナデ。僅かに上げ底状。体部：叩き後ナデ / ナデ。黒斑。
912	〃	〃	〃 〃	にぶい褐色 7.5YR6/4	にぶい褐色 7.5YR5/3	にぶい褐色 7.5YR5/3	-	(7.9)	-	6.0	角の取れた平底。外底面、叩き後ナデか。体部：叩き後タテハケ / ハケ・ナデ。器壁、うすい。被熱赤変。煤。
913	〃	〃	須恵 蓋	灰白色 10YR7/1	灰白色 10YR7/1	灰白色 10YR7/1	10.2	(2.0)	-	-	短小なかえりを付す。内外面、回転ナデ。外面に自然釉、付着。
図 247 914	〃	ST4	弥生 壺	にぶい褐色 7.5YR7/4	褐色 7.5YR7/6	灰色 5Y5/1	6.0	(9.2)	8.9	-	小型壺。「く」。体部、球形。口縁：ミガキ / ミガキ。体部：上半ヨコミガキ・下半タテミガキ / ナデ。
915	〃	〃	〃 甕	褐色 7.5YR7/6	にぶい褐色 7.5YR7/4	-	22.4	12.6	22.1	-	「く」。口唇、面取り。口縁：叩き後ナデ / ヨコハケ。体部：叩き後タテハケ / ハケ（二種類の原体か。）
916	〃	〃	〃 鉢	にぶい黄褐色 10YR6/4	褐色 5YR6/6	褐灰色 10YR4/1	14.7	11.6	-	3.6	口唇、面取り。角の取れた平底。外底面、叩き後ナデ。体部：叩き後ハケ / 粗いハケ・ヘラナデ。被熱。黒斑。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色調			法量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 249 917	7-3 区	ST5	須恵 蓋	灰色 N5/0	黄灰色 2.5Y5/1	灰赤色 2.5YR5/2	100	(2.3)	-	-	かえりを付す。内外面、回転ナデ。外面に自然釉、付着。
918	〃	〃	土師 甔	明褐色 7.5YR5/6	橙色 5YR6/6	灰白色 2.5Y7/1	-	(4.1)	-	-	端部、面取り。体部：ヨコナデ / ヨコナデ。煤。
919	〃	〃	土質 皿	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	浅黄褐色 7.5YR8/4	9.0	1.5	-	6.0	口縁、浅く斜め上方へひらく。内外面、回転ナデ。内底面、「の」の字状ナデ上げ。外底面、回転糸切り痕。
920	〃	〃	〃 椀	灰白色 2.5Y8/2	灰白色 10YR8/2	灰白色 2.5Y8/2	-	(5.6)	-	6.0	「ハ」の字形にひらく有段の貼付輪高台。体部：回転ナデ・回転ヘラケズリ / ミガキ。外底面、回転糸切りか。
922	〃	〃	弥生 底部	にぶい橙色 7.5YR7/4	浅黄褐色 7.5YR8/4	灰色 7.5Y6/1	-	(4.8)	-	3.4	平底、中央が僅かに突出。外底面、ナデ。体部：ナデ / ヘラナデ。外底面、モミ圧痕か。
923	〃	〃	〃 〃	灰黄褐色 10YR5/2	にぶい橙色 7.5YR6/4	褐灰色 10YR4/1	-	(6.4)	-	6.2	平底。外底面、ナデ。体部：ミガキ / ハケ・ナデ。黒斑。
図 251 925	〃	ST6	〃 壺	浅黄色 2.5Y7/3	橙色 5YR7/6	浅黄褐色 10YR8/3	11.8	(6.3)	-	-	口縁、肥厚。口唇、沈線状。口縁：ナデ後ミガキ / ヨコナデ。体部：ハケ後ミガキ / ナデ。
926	〃	〃	〃 〃	浅黄褐色 7.5YR8/4	橙色 5YR7/6	褐灰色 10YR5/1	13.2	(14.0)	-	-	口縁、僅かに外反。口唇、ルーズな面取り。口縁：ハケ / ヨコハケ。体部：叩き後ハケ / ハケ。内面、接合痕。
927	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	灰白色 10YR8/2	19.0	(8.0)	-	-	口縁、大きく外反。口唇、ハケ状原体による面取り。頭部：タテハケ / ヨコハケ。体部：タテハケ / ナデ。
928	〃	〃	〃 〃	浅黄褐色 7.5YR8/4	浅黄褐色 7.5YR8/4	橙色 5YR7/6	22.0	(2.2)	-	-	口唇、面取り。外面に3～6条の1単位の櫛波。内面屈曲部に粘土帯を貼付。口縁：ヨコナデ / ハケ。
929	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	-	(24.4)	24.8	-	体部：叩き後タテハケ / ハケ。内底面、ナデ。外底面、剥離。
930	〃	〃	〃 甕	灰黄褐色 10YR5/2	にぶい橙色 7.5YR7/4	黄灰色 2.5Y5/1	17.9	(9.3)	-	-	「く」。口唇、ルーズな面取り。口縁：ハケ後ナデ / ナデ。体部：叩き後ナデ / 粗いハケ。煤。
931	〃	〃	〃 〃	にぶい黄褐色 10YR7/2	にぶい橙色 7.5YR7/4	黄灰色 2.5Y5/1	14.6	24.0	17.3	-	緩やかな「く」。口縁：ナデ / ハケ。体部：叩き後タテハケ / ハケ。ほぼ丸底。ハケにより丸底化。黒斑。煤。
932	〃	〃	〃 〃	にぶい黄褐色 10YR6/3	にぶい黄褐色 10YR6/3	にぶい黄褐色 10YR7/3	13.6	(8.4)	-	-	「く」。口唇、ルーズな面取り。口縁：叩き後タテハケ / 粗いハケ。体部：叩き後ナデ・ハケ / タテハケ。煤。
933	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	浅黄褐色 7.5YR8/4	12.5	(11.9)	14.1	-	緩やかな「く」。口唇、ルーズな面取り。口縁：タテハケ / ヨコハケ。体部：叩き後ナデ / ハケ。煤。
934	〃	〃	〃 鉢	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	9.6	5.8	-	2.3	口縁、僅かに外反。口縁：ナデ / ハケ。体部：叩き後ナデ / ヘラナデ。丸底。外底面、ナデ。黒斑。
935	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 5YR6/6	灰黄褐色 10YR5/2	8.8	(8.2)	-	-	口唇、内傾し面取り。口縁：ナデ / ハケ。体部：ハケ後ナデ / ハケ後ナデ。
936	〃	〃	〃 〃	にぶい黄褐色 10YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/4	黄灰色 2.5Y4/1	10.8	4.5	-	2.0	丸底。ナデにより丸底化。体部：叩き後ナデ / ハケ・ナデ。キレット。煤。
937	〃	〃	〃 〃	にぶい黄褐色 10YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/4	10.8	7.0	-	3.9	角の取れた平底。外底面、ナデ。体部：叩き後ナデ / ハケ。内底面、渦状のナデ。黒斑。
938	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/4	11.3	9.1	-	4.1	体部、内湾気味。円盤状の平底。体部：叩き後ナデ / ナデ。キレット。被熱、火燻状。
939	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	11.7	10.7	-	3.9	口唇、尖らせる。平底。体部：ナデ / ナデ。深いキレット。黒斑。器壁、厚い。
940	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	14.0	(7.2)	-	-	丸底。体部：叩き後タテハケ / ハケ・ナデ。
941	〃	〃	〃 〃	明橙褐色 10YR7/6	明橙褐色 10YR7/6	明橙褐色 10YR7/6	17.2	6.6	-	5.1	口唇、内傾。平底。外底面、ナデ。体部：叩き後ナデ / ハケ。内底面、強いナデ。黒斑。
942	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 2.5YR7/8	灰色 5Y5/1	25.4	(18.3)	-	-	片口鉢。外反口縁。口唇、面取り、注口を付す。口縁：ヨコハケ / ヨコハケ。体部：叩き後ハケ / ハケ。
図 252 943	〃	〃	〃 底部	灰黄褐色 10YR6/2	橙色 5YR6/6	灰黄色 2.5Y6/2	-	(9.6)	-	4.0	ほぼ丸底。体部：ナデ / ハケ・ナデ。対向位置に煤。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色調			法量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 252 944	7-3 区	ST6	弥生 底部	明黄褐色 10YR7/6	橙色 5YR7/8	灰白色 5Y7/1	-	(9.5)	-	3.3	角の取れた平底。外底面、ナデ。体部：叩き後タテハケ/ナデ。黒斑。
945	〃	〃	〃	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい橙色 7.5YR7/4	灰色 N5/0	-	(13.2)	15.4	2.7	ほぼ丸底。外底面、ナデ。体部：叩き後タテハケ/ハケ・ナデ。煤。煮沸の用に供している。
946	〃	〃	〃	浅黄褐色 10YR8/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	浅黄褐色 10YR8/4	-	(4.2)	-	-	丸底。強いナデにより丸底化。体部：ナデ/タテハケ。深いキレツ。
947	〃	〃	〃	にぶい橙色 5YR7/4	にぶい橙色 5YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/4	-	(4.4)	-	-	丸底。外底面、ハケにより丸底化。体部：ハケ/ハケ。被熱。煤。
948	〃	〃	〃 高杯	にぶい黄褐色 10YR6/3	にぶい黄褐色 10YR5/3	灰黄褐色 10YR5/2	-	(6.4)	-	-	杯部：/ミガキ。脚部：ミガキ/ケズリ・ナデ。分割成形。黒斑。
図 254 951	〃	〃	土質 皿	浅黄褐色 7.5YR8/4	浅黄褐色 7.5YR8/4	浅黄褐色 7.5YR8/4	9.5	2.7	-	6.4	口唇、丸くおさめる。底部、丸みを帯びる。内外面、回転ナデ。外底面、簧状圧痕。混入。
952	〃	〃	〃	浅黄褐色 10YR8/3	浅黄褐色 10YR8/3	浅黄褐色 10YR8/3	9.6	2.0	-	7.7	口唇、丸くおさめる。体部、外反気味にひらく。底部、丸みを帯びる。内外面、回転ナデ。混入。
953	〃	〃	〃	浅黄褐色 10YR8/3	浅黄褐色 10YR8/3	浅黄褐色 10YR8/3	10.1	2.2	-	6.9	口縁、内湾気味。口唇、丸くおさめる。内外面、回転ナデ。外底面、静止糸切り痕。混入。ほぼ完存。
954	〃	〃	〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	9.0	1.0	-	7.2	体部、浅く外反気味にひらく。内外面、回転ナデ。外底面、回転糸切り痕。煤。内外面に火樫。灯明皿か。混入。
955	〃	〃	〃	浅黄褐色 10YR8/3	浅黄褐色 10YR8/3	灰色 N4/0	9.5	1.9	-	5.5	口唇、丸くおさめる。内外面、回転ナデ(内底凹状)。外底面、ヘラ切りか。混入。
956	〃	〃	〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	9.2	1.6	-	5.4	口縁、僅かに外反。体部、斜め上方へひらく。内外面、回転ナデ。外底面、回転糸切り痕。摩擦。被熱か。混入。
957	〃	〃	〃	浅黄褐色 7.5YR8/3	浅黄褐色 10YR8/3	灰白色 10YR8/2	9.6	2.1	-	5.5	口唇、丸くおさめる。内外面、回転ナデ。内底面、ヨコナデ、円盤状。外底面、回転ヘラ切り痕。混入。
958	〃	〃	〃	灰白色 10YR8/2	灰白色 10YR8/2	灰白色 10YR8/2	9.4	1.7	-	6.6	口唇、丸くおさめる。体部、内湾気味にひらく。内外面、回転ナデ。外底面、回転糸切り痕。赤色塗彩か。混入。
959	〃	〃	〃 柱高	浅黄褐色 10YR8/3	浅黄褐色 7.5YR8/3	浅黄褐色 7.5YR8/3	-	(2.1)	-	4.6	断面台形状の柱状高台。混入。
960	〃	〃	〃 杯	浅黄褐色 10YR8/3	浅黄褐色 10YR8/3	浅黄褐色 10YR8/3	13.5	3.5	-	7.6	体部、斜め上方へ低く立上がる。底部、平高台。内外面、回転ナデ。外底面、回転ヘラ切り痕。混入。
961	〃	〃	〃	浅黄褐色 10YR8/3	浅黄褐色 10YR8/3	浅黄褐色 10YR8/3	13.1	3.3	-	7.0	口唇、丸くおさめる。体部、斜め上方へ低く立上がる。内外面、回転ナデ。外底面、回転ヘラ切り痕。混入。
962	〃	〃	〃 椀	橙色 5YR7/6	浅黄褐色 7.5YR8/6	橙色 5YR7/6	13.8	(4.6)	-	-	口唇、短小な玉縁状。体部、内湾気味。内外面、回転ナデ。内底面に火樫。混入。
963	〃	〃	〃	淡黄色 2.5Y8/3	淡黄色 2.5Y8/3	淡黄色 2.5Y8/3	-	(2.2)	-	6.5	断面方形の貼付輪高台。内外面、回転ナデ。内外面に火樫。混入。
964	〃	〃	須恵 杯	灰黄色 2.5Y6/2	灰黄色 2.5Y6/2	灰黄色 2.5Y6/2	14.8	3.8	-	8.0	口唇、丸くおさめる。体部、斜め上方へ低く立上がる。内外面、回転ナデ。底部、粘土盤接合痕。外面に火樫。混入。
965	〃	〃	〃 甕	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y6/1	-	-	-	-	外面、格子状叩き。混入。
図 256 967	〃	ST7	弥生 甕	橙色 5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	浅黄褐色 7.5YR8/4	14.7	21.0	16.3	3.6	「く」。口唇、摘み上げ。口縁：ナデ/ハケ。体部：叩き後ハケ/ハケ・ケズリ。平底。外底面、ナデ。被熱。煤。
968	〃	〃	土質 杯	にぶい橙色 7.5YR7/3	にぶい橙色 7.5YR7/3	浅黄褐色 10YR8/3	-	(3.0)	-	7.2	扁平な円盤状の平底。内外面、回転ナデ。外底面、回転糸切り痕。混入。
969	〃	〃	製塩 土器	黄褐色 2.5Y5/3	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y6/1	-	(4.0)	-	-	口唇、やや尖端状。内面、布目圧痕。混入。
図 258 970	〃	ST8	弥生 鉢	橙色 5YR7/8	橙色 5YR7/8	暗灰黄色 2.5Y5/2	8.4	(5.1)	-	-	口縁、内傾気味。砂粒をほとんど含まない胎土。摩擦、調整等不明。
971	〃	〃	〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	灰黄褐色 10YR5/2	10.0	6.2	-	-	口唇、尖らせる。体部：叩き後タテハケ/ハケ・ナデ。丸底。ハケ・ナデにより丸底化。キレツ。黒斑。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色調			法量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 258 972	7-3 区	ST8	弥生 鉢	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	灰色 10YR5/1	14.8	6.7	-	2.9	体部：ナデ/ハケ。ほぼ丸底。外底面、ナデ。キレット。 黒斑。内外面、摩耗。
973	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	褐灰色 10YR4/1	-	(6.4)	-	3.2	体部：叩き後ナデ/粗いハケ・ミガキ。ほぼ丸底。外 底面、ナデ。キレット。被熱。
974	〃	〃	〃	灰色 5Y4/1	にぶい黄橙色 10YR7/4	黄灰色 2.5Y5/1	20.4	10.9	-	3.9	口唇、ルーズな面取り。体部：叩き後ナデ/ハケ後ミ ガキ。ほぼ丸底。外底面、叩き後ナデ。黒斑。
975	〃	〃	〃 底部	にぶい橙色 7.5YR7/4	橙色 5YR7/6	にぶい黄橙色 10YR7/4	-	(3.2)	-	3.5	丸みを帯びた平底、多角形状の柱状。外底面、ナデ。体 部：叩き後ナデ/ナデ。
978	〃	〃	土質 皿	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	9.9	1.9	-	6.7	口縁、僅かに外反。口唇、丸くおさめる。外底面、回転 ヘラ切り痕。混入。
979	〃	〃	〃 椀	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	-	(3.0)	-	7.0	円盤状高台。外底面、静止糸切り痕。混入。
980	〃	〃	白磁 碗	灰白色 N8/0	灰白色 5Y7/1	灰白色 5Y8/1	-	(1.7)	-	6.4	断面台形の削り出し高台。白色の釉薬。外面、露胎。見 込みに圏線。混入。
982	〃	〃	土質 椀	灰白色 2.5Y8/2	灰白色 10YR8/2	灰白色 2.5Y8/2	-	(1.6)	-	6.8	断面方形形状の貼付輪高台。混入。
983	〃	〃	白磁 皿	灰白色 7.5Y8/1	灰白色 7.5Y8/1	灰白色 5Y8/1	-	(3.5)	-	8.8	口縁、外方へひらく。断面逆三角形形状の輪高台。乳白 色の釉薬。外底面、畳付露胎。混入。
984	〃	〃	土師 甕	にぶい赤褐色 5YR4/3	にぶい赤褐色 5YR4/3	にぶい赤褐色 5YR4/4	24.0	(7.7)	-	-	口縁、短く外方へひらく。口唇、上端肥厚し面取り。口 縁、ヨコハケ。体部：タテハケ/ハケ。混入。
985	〃	〃	瓦質 羽釜	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y6/1	灰白色 2.5Y7/1	24.1	(4.5)	-	-	口縁、内湾気味。口唇、面取り。断面台形の鈎を貼付。 ナデ。炭素吸着は弱い。混入。
図 261 989	7-4 区	ST9	弥生 壺	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR6/6	浅黄橙色 10YR8/3	17.8	(3.3)	-	-	口唇、凹面状。口縁：やや粗いタテハケ/やや粗いヨ コハケ。
990	〃	〃	〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	褐灰色 10YR4/1	18.4	(4.3)	-	-	口唇、摘み出す。凹面状。口縁：タテハケ/ヨコハケ。 ミガキ状となる部分有り。
991	〃	〃	〃	橙色 5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	褐灰色 10YR6/1	20.0	(2.6)	-	-	口唇、凹面状。口縁：タテハケ後ヨコナデ/ミガキ。
992	〃	〃	〃	橙色 5YR6/6	にぶい橙色 5YR6/4	褐灰色 10YR6/1	-	(2.6)	-	-	口唇、凹面状。口縁：タテハケ/ハケ後ミガキ。
993	〃	〃	〃	にぶい黄橙色 10YR6/4	にぶい黄橙色 10YR6/4	黄灰色 2.5Y5/1	-	(1.9)	-	-	口唇、粘土紐貼付、拡張。複合鋸歯文。口縁：ハケ後ナ デ/ナデ。
994	〃	ST9_ P10	〃	橙色 5YR6/8	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい黄橙色 10YR7/4	-	(0.9)	-	-	口唇、面取り、竹管文。口縁：ヨコナデ/ヨコハケ後 ミガキ。
995	〃	ST9	〃	にぶい褐色 7.5YR5/4	黄褐色 7.5YR7/8	灰色 5Y5/1	-	(3.0)	-	-	複合口縁壺。二次口縁：ヨコナデ/ヨコナデ。接合面 で剥離。
996	〃	〃	〃	にぶい黄橙色 10YR7/4	橙色 5YR7/6	褐色 5YR7/6	-	(10.3)	-	-	頸部：タテハケ/ナデ。体部：タテハケ・斜めハケ /タテハケ・ナデ。内外面、摩耗。
997	〃	〃	〃 甕	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	黄灰色 2.5Y5/1	14.1	(11.4)	13.9	-	「く」。口唇、面取り。口縁：叩き後ナデ/ハケ。体部： 叩き後ナデ・ハケ/ハケ。肩内接合痕。煤。
998	〃	〃	〃	明赤褐色 5YR5/6	明赤褐色 5YR5/6	黄灰色 2.5Y5/1	14.8	(6.8)	-	-	緩やかな「く」。口唇、面取り。口縁：叩き後ハケ/ヨ コナデ・ハケ。体部：叩き後ハケ/ナデ。
999	〃	ST9_ P18	〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	褐色 7.5YR7/6	14.8	(7.1)	12.8	-	「く」。口唇、面取り。口縁：叩き後ナデ/ハケ。体部： 叩き後ハケ/ハケ。煤。
1000	〃	ST9	〃	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	灰色 N5/0	15.8	(5.6)	-	-	「く」。口唇、面取り。口縁：ハケ/ハケ。体部：叩き/ ハケ。煤。
1001	〃	〃	〃	明赤褐色 2.5YR5/6	にぶい赤褐色 5YR5/4	明赤褐色 2.5YR5/6	-	(2.5)	-	-	「く」。口唇、面取り、摘み上げ。口縁：ヨコナデ/ハ ケ。煤。
1002	〃	〃	〃 底部	灰黄褐色 10YR6/2	にぶい褐色 7.5YR6/3	黄灰色 2.5Y5/1	-	(3.6)	-	5.3	角の取れた平底。外底面、叩き後ナデ。体部：叩き後 タテハケ/ナデ。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色調			法量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 261 1003	7-4 区	ST9	弥生 鉢	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	灰黄褐色 10YR5/2	8.4	(5.9)	-	-	体部：叩き後ナデ/ハケ。ナデにより丸底化。キレツ。黒斑。煤。
1004	〃	〃	〃	橙色 5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	浅黄褐色 10YR8/4	12.0	7.3	-	2.8	角の取れた平底。外底面、様々な圧痕。体部：叩き後ハケ/ハケ・ナデ。
1005	〃	〃	〃	にぶい黄褐色 10YR5/4	にぶい黄褐色 10YR6/3	にぶい黄褐色 10YR7/3	10.5	7.2	-	-	口唇、ルーズな面取り。体部：叩き後ナデ/ハケ。ケズリにより丸底化。器壁、うすい。被熱。
1006	〃	〃	〃	にぶい黄褐色 10YR7/3	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	11.8	(7.0)	12.2	-	口縁端部、ごく僅かに外反。体部：タテハケ/ハケ。
1007	〃	〃	〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	13.6	5.5	-	-	口唇、ハケ状原体による面取り。体部：ナデ/ハケ後ミガキ。丸底。外底面、叩き目。キレツ。被熱。
1008	〃	〃	〃	橙色 5YR6/8	橙色 5YR6/6	橙色 7.5YR7/6	16.0	(4.5)	-	-	口縁端部、僅かに外反。口縁：ヨコナデ/ヨコナデ。体部：ハケ/ハケ。
1009	〃	〃	〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	褐灰色 10YR5/1	14.6	(5.3)	-	-	口唇、尖らせる。体部：叩き後ナデ/ナデ・ミガキ。キレツ。
1010	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	橙色 5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	17.0	7.7	-	-	口唇、面取り、尖らせる。体部：ナデ・タテハケ/タテハケ・ミガキ。丸底。キレツ。廃棄後被熱。
1011	〃	〃	〃	橙色 5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR6/4	浅黄褐色 7.5YR8/3	-	(3.2)	-	-	口唇、ハケ状原体による面取り。体部：叩き後ハケ/ヨコハケ。被熱。
1012	〃	ST9_ P10	〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	浅黄褐色 7.5YR8/4	15.2	(2.1)	-	-	口縁、粘土貼付により肥厚。体部：叩き後ヨコナデ/ヨコナデ。
1013	〃	ST9	〃	橙色 7.5YR6/6	橙色 7.5YR7/6	灰色 5Y6/1	-	(3.6)	-	2.7	低平な円盤状の平底。外底面、ナデ。体部：叩き後ナデ/ハケ。キレツ。
1017	〃	〃	〃 高杯	にぶい橙色 7.5YR7/4	橙色 7.5YR6/6	褐灰色 10YR4/1	-	(4.3)	-	-	裾部：タテミガキ/ミガキ。直径約 1.1cm の円孔。砂粒をほとんど含まない胎土。黒斑。
図 262 1018	〃	〃	土質 皿	浅黄褐色 7.5YR8/4	浅黄褐色 7.5YR8/4	浅黄褐色 7.5YR8/3	9.4	1.3	-	5.6	内外面、回転ナデ。外底面、回転ヘラ切りか。赤色顔料付着。混入。
1019	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/4	浅黄褐色 10YR8/4	9.5	1.8	-	6.4	内外面、回転ナデ。外底面、回転ヘラ切り後ナデ。混入。
1020	〃	〃	〃	にぶい黄褐色 10YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/4	11.6	1.9	-	9.0	内外面、回転ナデ。外底面、回転糸切り痕。混入。
1021	〃	〃	〃 杯	浅黄褐色 7.5YR8/4	浅黄褐色 10YR8/4	浅黄褐色 10YR8/4	-	(1.7)	-	7.1	内外面、回転ナデ。外底面、回転ヘラ切り後ナデ。混入。
1022	〃	ST9_ P17	〃	にぶい黄褐色 10YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/4	-	(0.8)	-	5.6	内外面、回転ナデ。外底面、丁寧なナデ。切離し手法、不明。混入。
1023	〃	ST9	〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	-	(1.4)	-	4.5	内外面、回転ナデ。外底面、回転糸切り痕。混入。
1024	〃	〃	〃 不明	浅黄褐色 10YR8/4	にぶい黄褐色 10YR7/4	浅黄褐色 10YR8/3	10.6	(4.0)	-	-	内外面、回転ナデ。混入。
1025	〃	〃	〃 柱高	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	褐灰色 10YR4/1	-	(1.6)	-	-	高台、貼付。回転ナデ。混入。
1026	〃	〃	〃 椀	灰白色 2.5Y8/2	灰白色 2.5Y8/2	灰白色 2.5Y8/2	14.6	4.8	-	6.3	口縁、外反。断面長方形の高台を貼付。腰部外面、回転ヘラケズリ。内外面、摩耗。混入。
1027	〃	〃	〃	にぶい橙色 2.5YR6/4	淡赤褐色 2.5YR7/4	浅黄褐色 10YR8/4	-	(3.6)	-	6.4	断面方形の高台を「ハ」の字に貼付。内外面、摩耗。被熱。混入。
1028	〃	〃	須恵 蓋	灰色 N5/0	灰色 N5/0	灰褐色 5YR4/2	7.0	(1.3)	-	笠部径 9.1	かえりを付す。内外面、回転ナデ。混入。
1029	〃	〃	〃	褐灰色 10YR6/1	灰白色 N7/0	灰黄褐色 10YR6/2	10.0	(1.6)	-	笠部径 12.6	かえりを付す。内外面、回転ナデ。口縁外面、砂粒の移動痕。混入。
1030	〃	〃	〃	灰白色 2.5Y7/1	灰白色 2.5Y7/1	黄灰色 2.5Y6/1	-	(1.0)	-	笠部径 8.6	かえりを付す。回転ナデ。天井、回転ヘラケズリか。別個体片が溶着。歪む。天井、自然釉が付着。混入。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色調			法量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 262 1031	7-4 区	ST9	須恵 蓋	黄灰色 2.5Y5/1	灰黄褐色 10YR6/2	灰黄褐色 10YR6/2	-	1.7	-	-	扁平な擬宝珠様の摘み。内外面、回転ナデ。内面、焼成前線刻。混入。
1032	〃	〃	〃	灰白色 2.5Y7/1	灰白色 2.5Y7/1	灰白色 2.5Y7/1	-	(1.2)	-	-	内外面、回転ナデ。天井、回転ヘラケズリ。天井、自然釉が付着。混入。
1033	〃	〃	〃	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y6/1	灰黄色 2.5Y6/2	-	(1.9)	-	(6.2)	体部：内外面、回転ナデ。腰部、回転ヘラケズリ。外底面、ナデ。焼成、やや不良。混入。
1034	〃	〃	〃	灰白色 N7/0	灰白色 N7/0	灰色 N6/0	-	(1.6)	-	-	外面、回転ナデ。外底面、回転ヘラケズリ。内面、自然釉が付着。混入。
1035	〃	〃	〃	にぶい黄橙色 10YR6/4	にぶい黄橙色 10YR6/4	にぶい黄褐色 10YR6/4	15.5	2.1	-	13.4	内外面、回転ナデ。外底面、回転ヘラ切り後ナデ。焼成、不良。混入。
1036	〃	〃	〃	灰黄褐色 10YR5/2	褐灰色 10YR4/1	灰黄褐色 10YR5/2	-	(4.6)	-	-	口縁、肥厚。内外面、回転ナデ。混入。
1037	〃	〃	〃	褐灰色 10YR6/1	灰黄褐色 10YR6/2	褐灰色 10YR6/1	-	(3.6)	-	-	口縁外面、突帯・凹線。内外面、回転ナデ。自然釉が付着。混入。
図 265 1039	7-3 区	ST10	弥生 壺	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	黄灰色 2.5Y5/1	17.6	(6.3)	-	-	口唇、面取り。口縁：ヨコナデ / ヨコナデ。頸部：ヨコナデ / ヨコハケかヘラナデ。体部：ハケ / ナデ。
1040	〃	〃	〃	灰黄褐色 10YR6/2	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい黄褐色 10YR7/3	9.4	6.6	-	2.9	外反口縁。口縁：ヨコナデ / ヨコナデ。体部：ナデ / 粗いハケ。平底。外底面、ナデ。キレツ。黒斑。
1041	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	褐灰色 10YR4/1	9.1	5.8	-	3.5	大きめの平底。外底面、ナデ。体部：タテミガキ / ヨコハケ後ミガキ。キレツ。煤。
1042	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	橙色 5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	-	(4.4)	-	4.6	丸みを持った平底。外底面、ハケ・ナデ。体部：ハケ後ミガキ / ミガキ。黒斑。
1043	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	-	-	(3.4)	-	3.4	指頭により短い脚を作出。体部：叩き後ナデ / ハケ。
1044	〃	〃	〃	にぶい黄褐色 10YR7/2	浅黄褐色 10YR8/3	黄灰色 2.5Y6/1	-	(3.8)	-	3.1	僅かに上げ底。外底面、(ヘラ) ナデ。体部：叩き後ナデ / ナデ。
1045	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい赤褐色 5YR5/4	にぶい褐色 7.5YR5/3	-	(2.1)	-	4.3	平底。外底面、ハケ。体部：ハケか / ハケ。被熱。
図 268 1047	〃	ST11	〃	にぶい黄褐色 10YR7/4	浅黄褐色 10YR8/4	浅黄褐色 10YR8/3	22.4	(5.8)	-	-	複合口縁壺。内傾気味に上方へ拡張する二次口縁を付加。外面に棒状浮文・櫛描波。摩耗、調整等不明。
1048	〃	〃	〃	灰黄褐色 10YR6/2	にぶい橙色 7.5YR7/4	黄灰色 2.5Y4/1	-	(14.2)	-	5.2	平底。外底面、叩き後ナデ。体部：叩き後ハケ・ミガキ / ハケ・ナデ。黒斑。煤。
1049	〃	〃	〃	橙色 7.5YR7/6	浅黄褐色 7.5YR8/4	浅黄褐色 7.5YR8/4	9.4	6.2	-	2.7	口唇、尖らせる。体部：ナデ / ハケ。底部、丸みを帯びる。外底面、ナデ。キレツ。
1050	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	12.7	5.1	-	2.1	口唇、ルーズな面取り。体部：ハケ後ミガキ。角の取れた平底。外底面、ナデ。キレツ。黒斑。
1051	〃	〃	〃	にぶい橙色 5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	灰白色 10YR8/2	-	(5.5)	-	3.0	平底。外底面、ナデ。体部：ヘラナデ / ヘラナデ。黒斑。
1052	〃	〃	〃	橙色 5YR6/8	橙色 5YR6/8	褐色 5YR7/8	-	(3.4)	-	3.6	円盤状に突出した平底。外底面、ナデ。体部：ハケ / ナデ。摩耗。
1053	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	褐灰色 10YR5/1	14.2	10.8	-	12.6	浅鉢。杯部：ハケ / ハケ・ミガキ。脚柱部：タテハケ / しぼり目。裾部：ハケ / ナデ。
1054	〃	〃	ミニ	褐色 5YR6/6	褐色 5YR6/6	灰黄褐色 10YR5/2	6.0	5.0	-	3.0	鉢形。ナデ。口唇、丸くおさめる。底部、丸みを帯びる。内面に爪状圧痕。黒斑。ほぼ完存。
1055	〃	〃	〃	黄灰色 2.5Y4/1	黄灰色 2.5Y4/1	黄灰色 2.5Y5/1	4.0	4.6	-	1.4	鉢形。手握ね成形。
1056	〃	〃	土質 柱高	浅黄褐色 7.5YR8/4	浅黄褐色 7.5YR8/4	浅黄褐色 7.5YR8/4	9.2	2.8	-	4.2	杯皿部、皿状。台部、低い円柱状。内外面、回転ナデ。外底面、贅状圧痕。
図 270 1061	〃	ST12	弥生 壺	灰黄褐色 10YR5/2	褐色 5YR7/6	灰黄褐色 10YR5/2	-	(10.2)	-	-	頸部：ナデ / ナデ。体部：ヘラナデ / ナデ。煤。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色 調			法 量			特 徴	
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径		底径
図 270 1062	7-3 区	ST12	弥生 壺	浅黄橙色 10YR8/3	にぶい黄橙色 10YR7/4	黒褐色 2.5Y3/1	-	(18.0)	-	6.2	斜め上方へ立上がる下体部。僅かに上り底。外底面、ナデ。体部：ヘラナデ / ハケ・ナデ。内面、剥離。黒斑。
1063	〃	〃	〃 甕	にぶい橙色 7.5YR7/4	浅黄橙色 10YR8/4	褐灰色 10YR4/1	15.0	(11.5)	-	-	凹線文系。2条の凹線文。口縁：ヨコナデ。体部：タテハケ / ケズリか。内面、剥離。4個の竹管文。煤。
1064	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	明赤褐色 2.5YR5/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	-	(13.8)	23.9	-	凹線文系。口縁：ヨコナデ。体部：ハケ後ミガキ / ハケ・ケズリ。縦4個1単位の刺突文を横2列に配置。
1065	〃	〃	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	褐灰色 10YR5/1	-	(14.0)	20.7	-	凹線文系。2条の弱い凹線文。口縁：ヨコナデ。体部：タテハケ後ミガキ / ハケ・ナデ・ケズリ。煤。
1066	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 5YR6/6	浅黄褐色 10YR8/3	12.6	(11.1)	17.0	-	凹線文系。「く」。口唇、拡張、凹面状。口縁：ヨコナデ。体部：タテハケ後ミガキか / ナデ・ケズリ。煤。
1067	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 5YR6/6	暗灰黄色 2.5Y5/2	11.0	(7.5)	-	-	「く」。口唇、面取り。口縁：ナデ。体部：ヘラナデ / ヘラナデ・ハケ。被熱。煤。
1068	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	褐色 7.5YR7/6	15.5	(6.7)	-	-	「く」。口唇、面取り。口縁：叩き後ハケ / ヨコハケ。体部：叩き後タテハケ / ハケ・ケズリ。煤。
1069	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	褐灰色 10YR5/1	-	(4.7)	-	-	「く」。口縁：叩き後ヨコナデ / ヨコハケ。体部：叩き後ハケ / ハケ。煤。
1070	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	褐色 5YR6/6	黄褐色 2.5Y5/3	-	(14.3)	12.9	3.8	平底。外底面、ナデ。体部：叩き後ナデ / ヘラケズリ。黒斑。煤。
図 271 1071	〃	〃	〃 鉢	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	黄灰色 2.5Y5/1	8.2	5.9	-	2.2	平底（丸みを帯びる）。外底面、ナデ。体部：叩き後ナデ / ナデ。
1072	〃	〃	〃 〃	浅黄褐色 10YR8/3	浅黄褐色 10YR8/3	浅黄褐色 10YR8/3	8.9	5.3	-	3.0	平底。外底面、ナデ。体部：ナデ・タテハケ / ハケ。キレット。ほぼ完存。
1073	〃	〃	〃 〃	褐色 7.5YR7/6	褐色 5YR7/6	浅黄褐色 10YR8/4	10.8	7.6	-	2.3	平底（丸みを帯びる）。外底面、ナデ。体部：ナデ / ナデ。黒斑。
1074	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	褐色 5YR7/6	にぶい黄褐色 10YR7/4	10.7	8.3	-	3.6	外反口縁。厚い平底。外底面、ナデ。口縁：ナデ / ヨコハケ。体部：ナデ / ナデ。黒斑。
1075	〃	〃	〃 〃	褐色 5YR6/8	褐色 5YR6/8	褐色 5YR6/8	19.8	(9.5)	-	-	口唇、ハケ状原体による面取り。平底。外底面、ケズリか。体部：ヨコナデ・ケズリ / ヨコハケ・ケズリ。
1076	〃	〃	〃 〃	褐色 5YR7/8	褐色 5YR7/8	にぶい黄褐色 10YR6/4	23.9	(18.0)	29.6	-	外反口縁。口唇、面取り、凹面状。口縁：ヨコナデ。体部：叩き後ナデ・タテハケ / ナデか。内面接合痕。煤。
1077	〃	〃	〃 〃	にぶい褐色 7.5YR7/4	褐色 5YR7/6	灰色 5Y5/1	-	(6.0)	-	3.8	指頭により短い脚を作出。外底面、ナデ。体部：叩き後ナデ / ハケ。被熱。製塩土器か。
1078	〃	〃	〃 〃	にぶい褐色 7.5YR7/7	褐色 7.5YR7/6	黄灰色 2.5Y5/1	-	(3.8)	-	3.2	指頭により短い脚を作出。外底面、ナデ。体部：叩き後ナデ / ハケ。黒斑。製塩土器か。
1079	〃	〃	〃 皿	褐色 5YR6/6	褐色 5YR6/6	褐色 5YR7/8	-	-	-	-	把手付広片口皿。側辺等3面が残存。外底面、ケズリ後ハケ。測辺、ヘラケズリ後ハケ。内面、ナデ。
1080	〃	〃	〃 高杯	褐色 5YR6/6	褐色 7.5YR7/6	褐灰色 7.5YR4/1	17.2	(10.0)	-	-	杯部、浅鉢状。杯部：ハケ後ミガキ / ミガキか。脚部：ミガキ / 裾部：ミガキ / ナデ・ハケ。黒斑。
1081	〃	〃	〃 〃	褐色 5YR6/6	褐色 5YR6/6	暗灰黄色 2.5Y5/2	-	(7.5)	-	-	脚部、円筒形状。杯部：ミガキ / ミガキ。脚部：ミガキ / しばり目。摩擦。
1082	〃	〃	〃 〃	にぶい褐色 7.5YR6/4	褐色 5YR6/6	黄灰色 2.5Y5/1	-	(8.2)	-	-	杯部：ミガキ。裾部、直径約0.9cmの円孔。脚部：ミガキ / ヘラナデ。裾部：ミガキ / ヨコハケ。丁寧な仕上げ。
1083	〃	〃	〃 〃	にぶい褐色 7.5YR6/4	灰黄褐色 10YR6/2	褐灰色 10YR4/1	-	(5.5)	-	-	脚部：ミガキ / しばり目・ヘラナデ。裾部、円孔（6～8ヶ所か）。裾部：ミガキ / ヨコハケ。煤。
図 273 1085	〃	ST13	〃 壺	にぶい褐色 7.5YR7/4	にぶい褐色 7.5YR7/4	にぶい褐色 7.5YR7/4	19.8	(3.4)	-	-	口唇、粘土紐貼付。櫛波文。口縁：タテハケ・ミガキ / ヨコハケ。摩擦。
1086	〃	〃	〃 〃	灰色 N5/0	浅黄褐色 7.5YR8/4	灰白色 7.5YR8/2	17.6	(17.2)	-	-	口唇、ハケ状原体による面取り。口縁：タテハケ / ヨコハケ。体部：叩き後タテハケ / ハケ。口接合痕。煤。
1087	〃	〃	〃 〃	オリーブ黒色 5Y3/1	にぶい褐色 7.5YR7/4	黄灰色 2.5Y5/1	-	(34.5)	-	6.8	角の取れた平底。外底面、ナデ。体部：叩き後タテハケ / ハケ。内底面、指圧。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 273 1088	7-3 区	ST13	弥生 甕	橙色 7.5YR6/6	橙色 5YR6/6	暗灰黄色 2.5Y5/2	-	(16.3)	16.9	3.8	角の取れた平底。外底面、ナデ。体部：叩き後タテハケ / ハケ・ナデ。黒斑。
1089	〃	〃	鉢	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	9.8	6.4	-	2.8	ほぼ丸底。外底面、強いナデ。体部：叩き後ナデ / ハケ。キレツ。黒斑。
1090	〃	〃	〃	橙色 7.5YR6/6	にぶい黄橙色 10YR7/4	黄灰色 2.5Y4/1	11.4	6.4	-	2.4	ほぼ丸底。外底面、ナデ。体部：叩き後ナデ / ハケ。内底面、ナデ。キレツ。黒斑。
1091	〃	〃	〃	橙色 5YR6/6	橙色 7.5YR7/6	にぶい黄橙色 10YR7/4	12.9	5.4	-	3.5	ほぼ丸底。外底面、ナデ。体部：ナデ / ハケ。キレツ。黒斑。被熱。
1092	〃	〃	〃	橙色 2.5YR6/6	橙色 2.5YR6/6	-	15.3	8.2	-	3.6	角の取れた平底。外底面、ナデ。体部：ナデ / 粗いハケ。内底面、ナデ。キレツ。歪む。
1093	〃	〃	〃	橙色 5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	浅黄橙色 7.5YR8/4	18.7	8.3	-	2.7	ほぼ丸底。体部：叩き後ナデ / ハケ・ナデか。黒斑。摩耗。
1094	〃	〃	〃	橙色 5YR6/6	浅黄橙色 10YR8/4	褐灰色 10YR5/1	21.2	7.1	-	-	丸底。外底面、ナデ。体部：叩き後ナデ / 粗いハケ・ナデ。黒斑。
1095	〃	〃	〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	褐灰色 10YR4/1	26.0	(7.6)	-	-	口唇、面取り。口縁：ナデ・粗いタテハケ / ナデ・ヨコハケ。体部：叩き後ナデ・粗いタテハケ / ハケ。
1096	〃	〃	〃	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい橙色 7.5YR6/4	褐灰色 10YR5/1	-	(6.2)	-	2.9	平底。外底面、叩き後ナデか。体部：叩き後ハケ・ヘラミガキ / ナデ。黒斑。
1097	〃	〃	〃	暗灰色 N3/0	橙色 5YR7/6	灰白色 10YR8/1	-	(3.8)	-	2.5	平底。外底面、ナデ。体部：タテハケ / ナデ。黒斑。
1098	〃	〃	〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	褐灰色 10YR4/1	-	(6.1)	-	1.4	ボタン状の小径な平底。外底面、ナデ。体部：タテハケ後ヘラミガキ / ヨコハケ・ナデ。丁寧な仕上げ。
1099	〃	〃	脚部	黄灰色 2.5Y5/1	にぶい黄橙色 10YR7/3	灰白色 10YR8/2	-	(3.2)	-	6.7	脚付き鉢。指頭により脚を作出。上げ底。外底面、ナデ。脚部：タテハケ / ナデ。被熱。製塩土器か。
図 275 1101	7-4 区	ST14	壺	黒褐色 7.5YR3/1	橙色 7.5YR6/6	灰色 N4/0	22.0	(4.5)	-	-	口縁、粘土帯付加。口唇、ハケ状原体による面取り。波状文。口縁：ヨコナデ。頸部：叩き後ハケ / ミガキ。煤。
1102	〃	〃	〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	にぶい黄橙色 10YR7/4	29.8	(2.6)	-	-	口唇、面取り、凹面状。薔波文。口縁：ヨコハケ / ヨコナデ後タテミガキ。
1103	7-3 区	〃	甕	にぶい黄橙色 10YR6/4	にぶい橙色 5YR6/4	灰色 N5/0	-	(23.0)	22.8	6.2	ほぼ丸底。外底面、ナデ。体部：叩き後タテハケ / ハケ後ナデ。黒斑。
1104	〃	〃	〃	灰黄褐色 10YR5/2	にぶい橙色 7.5YR7/4	黄灰色 2.5Y4/1	12.6	20.7	13.8	3.2	緩やかな「く」。口縁：叩き後ハケ / ハケ。体部：叩き後ハケ / ハケ後ナデ。角の取れた平底。外底面、ナデ。黒斑。煤。
1105	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	褐灰色 10YR4/1	15.6	(18.2)	19.9	-	「く」。口唇、面取り。口縁：叩き後タテハケ / ハケ。体部：叩き後タテハケ / ハケ・ナデ。黒斑。煤。
1106	7-4 区	〃	〃	明赤褐色 2.5YR5/8	橙色 5YR6/6	灰黄色 2.5Y6/2	26.4	(21.2)	27.0	-	緩やかな「く」。口唇、刻目。口縁：叩き後ハケ / ヨコハケ。体部：叩き後タテハケ / ハケ。煤。
1107	7-3 区	〃	〃	橙色 7.5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 7.5YR7/6	-	(12.5)	-	4.1	平底。外底面、叩き目。体部：叩き後粗いハケ / ナデ・ハケ。煤。
1108	〃	〃	鉢	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	にぶい黄橙色 10YR6/4	10.7	6.8	-	2.4	丸底。体部：ナデ / ハケ。キレツ。黒斑。ほぼ完存。
1109	〃	〃	〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	12.6	6.9	-	1.1	丸底。外底面、ナデ。体部：叩き後ナデ / ハケ・ナデ。キレツ。歪む。黒斑。ほぼ完存。
1110	〃	〃	〃	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい黄橙色 10YR7/4	12.0	7.7	-	1.4	丸底（尖底気味）。強いナデにより丸底化。体部：叩き後ナデ / ハケ・ナデ。キレツ。黒斑。煤。
1111	〃	〃	〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 7.5YR7/6	16.6	7.1	-	-	口唇、面取り。丸底。ナデにより丸底化。体部：叩き後ナデ / ハケ・ナデ。キレツ。黒斑。
1112	〃	〃	〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	18.9	6.2	-	2.8	口唇、面取り。丸底（尖底気味）。強いナデにより丸底化。体部：叩き後ヨコハケ / ミガキ。キレツ。
1113	〃	〃	〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	暗灰黄色 2.5Y5/2	19.8	7.8	-	-	丸底。外底面、叩き目。体部：叩き後ハケ / ハケ後ミガキ・ナデ。ほぼ完存。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 275 1114	7-3 区	ST14	弥生 鉢	橙色 2.5YR6/8	橙色 2.5YR6/8	橙色 2.5YR6/8	23.2	11.2	-	-	外反口縁。口唇、面取り。丸底。外底面、ナデ。体部：叩 き後タテハケ/ハケ・ナデ。黒斑。被熱。
1115	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	浅黄橙色 10YR8/3	23.8	(6.5)	-	-	外反口縁。口唇、面取り。口縁：叩き後ナデ/ヨコハ ケ。体部：叩き後ナデ・ハケ/ハケ・ヘラナデ。
1116	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	-	(7.0)	-	2.3	平底。外底面、ハケ・ナデ。体部：ハケ/ヘラナデ。黒 斑。
1117	7-4 区	〃	製塩 土器	橙色 5YR6/8	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	-	(3.6)	-	-	外面、ナデ。内面、布目圧痕。混入。
図 277 1118	7-3 区	ST15	弥生 壺	橙色 2.5YR6/6	橙色 5YR6/6	にぶい黄褐色 10YR5/3	12.8	(6.7)	-	-	口唇、沈線状。口縁：ハケ後ナデ/ヘラナデ。体部： ハケ後ヘラナデ/ハケ・ナデ。煤。
1119	〃	〃	〃 鉢	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	褐灰色 10YR4/1	20.1	10.9	-	3.2	角の取れた平底。外底面、ナデ。体部：叩き後ナデ/ ハケ。
図 278 1120	〃	〃	須恵 杯	灰色 N5/0	灰色 N5/0	灰色 N5/0	8.5	2.3	-	-	体部、回転ナデ。内底面、仕上げナデ。外底面、回転ヘ ラケズリ後ナデ。器高低い。ほぼ完存。混入。
1121	〃	〃	〃 盤	黄灰色 2.5Y6/1	灰白色 N7/0	灰白色 N7/0	31.6	5.9	-	22.6	口唇、面取り。体部、回転ナデ。内底面、仕上げナデ。外 底面、回転ヘラケズリ後ナデ。脚部、剥離か。混入。
図 280 1122	〃	ST16	弥生 鉢	橙色 5YR6/8	橙色 5YR7/8	橙色 5YR7/8	9.0	5.3	-	-	丸底。外底面、ナデ。体部：叩き後ナデか/ハケ。腰部 外面、指圧。キレツ。ほぼ完存。
1123	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/8	橙色 5YR6/8	橙色 5YR7/6	20.4	8.4	-	-	丸底。外底面、叩き後ナデ。体部：叩き後ナデ/ハケ。 内面、異なる原体を使用。キレツ。黒斑。
1124	〃	〃	土質 皿	にぶい黄褐色 10YR7/2	にぶい黄褐色 10YR7/2	灰白色 10YR8/2	8.4	1.5	-	5.6	内外面、回転ナデ。内底面、ヨコナデ。外底面、回転糸 切り痕。
1125	〃	〃	〃 柱高	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	6.7	2.8	-	4.2	杯皿部、皿状。台部、円柱状。内外面、回転ナデ。外底 面、回転糸切り痕。
1126	〃	〃	〃 〃	浅黄褐色 10YR8/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	浅黄褐色 10YR8/4	6.4	3.1	-	3.9	杯皿部、皿状。台部、円柱状。内外面、回転ナデ。外底 面、切り離し後ナデ。ほぼ完存。
図 283 1128	〃	ST17	〃 〃	浅黄褐色 7.5YR8/3	浅黄褐色 7.5YR8/3	浅黄褐色 10YR8/3	-	(1.9)	-	2.8	台部、円柱状。内外面、回転ナデ。外底面、回転糸切り 痕。
1129	〃	〃	〃 椀	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい褐色 7.5YR6/3	-	(2.0)	-	5.8	外底面に輪高台を貼付。内外面、回転ナデ。内底面、螺 旋状回転痕。柱状高台か。
図 286 1130	7-4 区	ST18_ 中央 P	弥生 甕	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	-	(17.9)	16.5	4.0	角の取れた平底。外底面、叩き目。体部：叩き後タテ ハケ/ハケ・ナデ。煤。おこげ。煮沸に供される。
1131	〃	ST18	〃 鉢	にぶい橙色 7.5YR7/4	褐灰色 7.5YR5/1	明褐灰色 7.5YR7/2	7.6	6.7	-	2.8	底部、丸みを帯びる。外底面、未調整、砂付着。体部： 叩き後ナデ/ハケ。内底面、しぼり目。煤。
1132	〃	〃	〃 〃	浅黄褐色 7.5YR8/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	浅黄褐色 7.5YR8/4	10.3	7.9	-	1.2	丸底。外底面、ナデ。体部：叩き後ナデ/ハケ。キレ ツ。黒斑。
1133	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	灰オリーブ色 5Y5/2	11.3	6.5	-	2.6	平底。外底面、ナデ。体部：叩き後ナデ/ハケ・ナデ。 黒斑。
1134	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	暗灰黄色 2.5Y5/2	12.4	10.1	-	-	口唇、面取り。丸底。外底面、強いナデにより丸底化。 体部：タテハケ/ハケ。内底面、ナデ。キレツ。
1135	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	19.3	9.1	-	-	丸底。外底面、強いナデにより丸底化。体部：叩き/ ハケ。キレツ。煤。底部、焼成後穿孔。
図 288 1139	〃	ST19・ SK48	〃 壺	にぶい赤褐色 5YR5/4	にぶい赤褐色 5YR5/4	灰黄褐色 10YR4/2	13.3	(2.4)	-	-	口唇、ハケ状原体による面取り。上下に拡張。口縁： タテハケ/ヨコハケ。黒斑。
1140	〃	ST19	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	浅黄褐色 7.5YR8/4	浅黄褐色 7.5YR8/4	-	(3.0)	-	-	口唇、粘土紐貼付、拡張、凹面状。竹管文。口縁：ヨコ ナデか/ナデか。摩耗。
1141	〃	〃	〃 〃	浅黄褐色 7.5YR8/4	浅黄褐色 7.5YR8/3	灰白色 10YR8/2	21.4	(1.9)	-	-	口唇、面取り。口縁：ハケ後ミガキ/ナデ。
1142	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	黄灰色 2.5Y4/1	13.0	(6.3)	-	-	頸部：タテハケ/ナデ。接合面で剥離。摩耗。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 288 1143	7-4 区	ST19 _P1	弥生 壺	灰白色 2.5Y7/1	橙色 5YR6/6	灰白色 10YR8/2	-	(8.3)	17.9	-	体部：ミガキ / しぼり目・ナデ (指圧)・ハケ。黒斑。
1144	〃	ST19	〃 甕	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	黄灰色 2.5Y4/1	14.6	(4.3)	-	-	「く」。口唇, 面取り。口縁：ハケ / ヨコハケ。体部：ハケ / ハケあるいはヘラナデ。黒斑。
1145	〃	〃	〃 鉢	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	浅黄橙色 7.5YR8/6	16.8	(5.3)	-	-	口唇, ハケ状原体による面取り。端部, 摘み上げ。口縁：ヨコナデ / ナデ。体部：叩き後ハケ / ナデ。煤。
1146	〃	〃	〃 鉢	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	24.8	9.8	-	3.8	口唇, 面取り。体部：ハケ / ハケ後ミガキ。丸みを持った平底。外底面, ナデ。黒斑。煤。
1147	〃	ST19 _P1	〃 鉢	にぶい橙色 5YR6/4	にぶい橙色 5YR6/4	黄灰色 2.5Y5/1	20.7	10.8	-	4.5	外反口縁。口縁：タテハケ後ナデ / ヨコハケ後ナデ。体部：叩き後ハケ / ハケ。平底。外底面, ハケ。黒斑。
1148	〃	ST19	〃 鉢	褐灰色 10YR6/1	にぶい黄褐色 10YR7/2	灰色 N4/0	-	(5.0)	-	-	外反口縁。口唇, ハケ状原体による面取り。口縁：叩き後ナデ / ヨコハケ。体部：叩き後タテハケ / ハケ。
1149	〃	〃	〃 体部	灰黄褐色 10YR5/2	浅黄褐色 10YR8/3	浅黄褐色 10YR8/3	-	(4.9)	-	-	体部：ハケ / ナデ・ヘラナデ。外面, 焼成前の線刻か。摩耗。
1150	〃	〃	〃 底部	にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい褐色 7.5YR5/4	黒褐色 7.5YR3/1	-	(6.8)	-	2.5	平底。外底面, ナデ。体部：叩き後粗いタテハケ / ナデ。被熱。
1151	〃	ST19・ SK48	〃 鉢	黄灰色 2.5Y5/1	橙色 5YR6/6	黄灰色 2.5Y5/1	-	(6.2)	-	4.8	角の取れた平底。外底面, ナデ。体部：ヘラナデ / ハケ。内底面, 指圧。外面, 焼成前のキズか。
1152	〃	〃	〃 鉢	明赤褐色 2.5YR5/6	明赤褐色 2.5YR5/6	褐灰色 7.5YR4/1	-	(3.9)	-	3.3	ごく僅かな上げ底。外底面, 強いナデ。体部：ナデ後ミガキ / ナデ後ミガキ。
1153	〃	ST19 _P1	〃 鉢	にぶい黄褐色 10YR7/2	灰黄褐色 10YR5/2	黄灰色 2.5Y5/1	-	(4.4)	-	4.8	角の取れた平底。外底面, ナデ。体部：叩き後タテハケ・ミガキ / ハケ。内底面, ナデ。被熱。
1154	〃	ST19	土師 杯	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR6/4	13.6	3.6	-	8.6	折り曲げ口縁。内外面, ミガキ。外底面, 回転ヘラ切り後ナデ。
1155	〃	ST19・ SK48	土質 柱高	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	浅黄褐色 10YR8/4	-	(2.4)	-	3.7	内外面, 回転ナデ。外底面, 回転糸切り痕。
1156	〃	ST19	〃 不明	明赤褐色 2.5YR5/6	明赤褐色 2.5YR5/6	明赤褐色 5YR5/6	-	(2.4)	-	-	ミガキか・回転ナデ / ミガキ。外底面, 剥離。
1157	〃	〃	須恵 杯	灰白色 2.5Y7/1	灰白色 10YR7/1	灰白色 2.5Y7/1	18.3	(3.7)	-	-	内外面, 回転ナデ。摩耗。
1158	〃	〃	〃 壺	灰色 N5/0	灰色 N5/0	灰赤色 7.5R5/2	-	(3.8)	-	-	カキ目・回転ナデ / 回転ナデ。外面, 列点文, 1 条の凹線。
1159	〃	〃	〃 体部	灰色 N6/0	灰色 N5/0	灰色 N6/0	-	(3.3)	-	-	断面形三角形の突帯。叩き / 回転ナデ。
1160	〃	〃	〃 鉢	灰白色 N7/0	灰白色 N7/0	褐灰色 10YR6/1	-	(8.5)	-	-	内外面, 回転ナデ。外面, 5 条 1 単位の櫛波文 3 単位以上, 2 条の凹線。内面, 自然軸。
図 290 1161	7-1-3 区	ST20	弥生 壺	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	黄灰色 2.5Y6/1	12.8	(3.4)	-	-	口唇, 面取り。口縁：ヨコナデ / ヨコハケ。頸部：ハケ / ナデ。
1162	〃	〃	〃 鉢	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	浅黄褐色 7.5YR8/3	23.4	(13.8)	-	-	口唇, 面取り, 2 条の凹線文。口縁：ハケ。頸部：ハケ・ヨコナデ / ハケ。
1163	〃	〃	〃 甕	橙色 5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	浅黄褐色 7.5YR8/3	15.6	(2.2)	-	-	口縁, 摘み上げ。口唇, 沈線状。口縁：ハケ後ヨコナデ / ハケ後ヨコナデ。体部：タテハケ / ナデ。煤。
1164	〃	〃	〃 鉢	にぶい黄褐色 10YR7/4	橙色 5YR7/6	黄灰色 2.5Y5/1	13.4	(9.1)	13.9	-	「く」。口唇, 面取り。口縁：ヨコハケ / ヨコハケ。体部：叩き後ハケ / ナデ。肩内接合痕。モミ圧痕。煤。
1165	〃	〃	〃 鉢	にぶい橙色 7.5YR7/4	浅黄褐色 7.5YR8/4	浅黄褐色 7.5YR8/4	-	(16.3)	15.8	3.4	僅かに上げ底。外底面, ハケ・ナデ。体部：叩き後タテハケ / ナデ・ケズリ。黒斑。煤。
1166	〃	〃	〃 高杯	にぶい橙色 7.5YR6/4	橙色 7.5YR7/6	褐灰色 10YR5/1	-	(2.4)	-	14.9	端部, ハケ状原体による面取り。刻目。裾部：タテミガキ / ヨコハケ・ヨコナデ。
図 291 1168	〃	ST21	〃 底部	灰白色 2.5Y7/1	浅黄褐色 10YR8/3	灰色 N5/0	-	(8.0)	-	2.4	角の取れた平底。外底面, ナデ。体部：叩き後ナデ / ナデ。黒斑。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 291 1169	7-1-3 区	ST21	弥生 底部	褐灰色 10YR6/1	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/4	-	(4.0)	-	3.7	柱状の底部。角の取れた平底。外底面、ハケ・ナデ。体 部：叩き後ナデ/ハケ。
1170	〃	〃	〃 高杯	にぶい橙色 7.5YR6/4	橙色 5YR6/6	褐灰色 10YR4/1	-	(3.9)	-	-	直径約 0.8cmの円孔。脚部：ハケ後ミガキ/しほり目・ ハケ後ナデ。摩耗。
図 293 1171	7-2 区	ST22	〃 壺	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	浅黄橙色 10YR8/4	8.4	(3.8)	-	-	口縁：ヨコナデ。頸部：ハケ/ヨコナデ・ハケ・ナデ。
1172	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	灰色 5Y6/1	10.0	(1.5)	-	-	口唇、刻目。口縁：ナデ/ハケ。
1173	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	橙色 5YR7/6	黒褐色 2.5Y3/1	15.0	(8.9)	-	-	口唇、沈線状。口縁：ヨコナデ/ヨコナデ。頸部：ハ ケ/ハケ。体部：叩き後ハケ/ナデか。煤。
1174	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	浅黄橙色 10YR8/3	17.4	(5.7)	-	-	口唇、面取り。口縁：ヨコナデ・ハケ/ヨコナデ・ハケ。
1175	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	暗灰黄色 2.5Y5/2	25.0	(4.8)	-	-	口唇、面取り。僅かに肥厚。口縁：ヨコハケ後タテハ ケ/ヨコハケ。
1176	〃	〃	〃 〃	オリーブ黒色 5Y3/1	橙色 7.5YR7/6	灰黄褐色 10YR5/2	14.6	(14.2)	18.9	-	緩やかな「く」。口縁：ナデ後ミガキ/ヨコナデ後ミ ガキ。体部：ハケ後ミガキ/ハケ・ナデ。接合痕。
1177	〃	〃	〃 甕	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	17.1	(10.0)	-	-	「く」。口縁：叩き後ナデ/ハケ。体部：叩き後ナデ/ ハケ・ナデ。煤。
1178	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	13.3	(3.2)	-	-	「く」。口唇、ハケ状原体によるルーズな面取り。口縁： 叩き後ナデ/ハケ。体部：叩き後ナデ・ハケ/ナデ。煤。
1179	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	にぶい褐色 7.5YR6/3	褐灰色 10YR5/1	18.1	(4.6)	-	-	「く」。口唇、面取り。口縁：ナデ/ハケ。体部：叩き後 ナデ/粗いハケ。
1180	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい黄褐色 10YR6/3	-	(14.9)	-	4.5	角の取れた平底。外底面、ハケ後ナデ。体部：叩き後 ナデ・ハケ/ナデ。被熱。煤。
1181	〃	〃	〃 〃	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	-	(19.4)	18.7	-	丸底。外底面、ナデ。体部：叩き後ハケ/ナデ・ハケ。 被熱。煤。
1182	〃	〃	〃 鉢	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	灰白色 10YR8/2	(10.6)	8.5	-	2.0	平らな部分が残る丸底。外底面、ナデ。体部：叩き後 ナデ/ハケ。キレツ。
1183	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	にぶい黄褐色 10YR7/3	11.6	5.2	-	3.3	平底。外底面、ナデ。体部：ナデ/ハケ。キレツ。
1184	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	12.6	(4.2)	-	-	体部：ナデ/ナデ・ミガキか。黒斑。
1185	〃	〃	〃 〃	黒褐色 10YR3/1	橙色 5YR6/6	浅黄橙色 10YR8/4	16.4	(2.7)	-	-	口唇、面取り。体部：ミガキ/ナデ。低脚高杯か。
1186	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	16.7	10.7	-	4.5	口唇、尖らせる。ほぼ丸底。外底面、ナデ。体部：叩き 後ハケ/ナデ。
1187	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR7/6	橙色 2.5YR6/6	暗灰黄色 2.5Y5/2	17.1	7.1	-	5.3	口唇、面取り。平底。外底面、ナデ。体部：叩き後ナデ /ハケ・ナデ。キレツ。被熱。
1188	〃	〃	〃 〃	にぶい黄褐色 10YR7/2	褐灰色 10YR6/1	褐灰色 10YR4/1	17.7	(6.3)	-	-	口唇、面取り。体部：ナデ/ハケ・ナデ。
1189	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	18.7	7.1	-	-	ほぼ丸底。体部：叩き後ナデ・ハケ/。摩耗。
1190	〃	〃	〃 〃	橙色 2.5YR6/6	橙色 2.5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	20.8	(7.5)	-	-	口唇、丸くおさめる。体部：ヘラナデ/ヘラナデ。キ レツ。被熱。
1191	〃	〃	〃 〃	橙色 2.5YR7/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR7/6	18.9	(7.6)	-	-	口唇、面取り、外傾。体部：叩き後ナデ/ハケ。内底 面、ナデ。キレツ。被熱。
1192	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	浅黄褐色 10YR8/3	-	(3.4)	-	4.5	丸底。外底面、ナデ。接合痕。体部：叩き後ナデ/ハ ケ。内底面、ナデ。キレツ。
1193	〃	〃	〃 底部	橙色 5YR6/6	にぶい橙色 5YR6/4	褐灰色 7.5YR4/1	-	(9.5)	-	2.4	角の取れた平底。外底面、ナデ。体部：叩き後ハケ/ ハケ・ナデ。被熱。煤。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 294 1194	7-2 区	ST22	弥生 高杯	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	-	(5.5)	-	11.8	脚部、中実。裾部：ハケ / ハケ。直径約 0.8cm の円孔。 黒斑。摩耗。
1195	〃	ST22・ SD35	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	暗灰黄色 2.5Y5/2	-	(3.5)	-	21.5	端部、面取り。裾部：ハケ後ミガキ / ヨコハケ。直径 1.0 cm の円孔。内面裾端部に煤が付着、蓋として使用か。
1197	〃	ST22	ミニ	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	暗灰色 N3/0	-	(4.9)	-	2.8	鉢形か。手握ね。外面、指圧が顕著。角の取れた平底。 キレット。
1198	〃	〃	〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	7.4	(6.6)	-	-	壺形。口縁：ナデ / ナデ。体部：タテハケ・ナデ / ハ ケ・ナデ。
図 296 1199	〃	ST23	弥生 壺	にぶい橙色 7.5YR6/4	橙色 5YR6/6	褐灰色 10YR4/1	14.5	(2.7)	-	-	口唇、面取り。口縁：ハケ後ナデ / ナデ。
1200	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	浅黄橙色 10YR8/3	14.4	(2.3)	-	-	口唇、斜格子刻目。口縁：ヨコナデ / ナデ。
1201	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい褐色 7.5YR6/3	黄灰色 2.5Y6/1	17.2	(6.0)	-	-	口唇、ハケ状原体による面取り。口縁：ヨコナデ・タ テハケ / ヨコナデ。頸部：ヨコナデ / ハケ。被熱。煤。
1202	〃	〃	〃	橙色 2.5YR6/8	橙色 2.5YR6/8	橙色 5YR7/6	18.6	(7.1)	-	-	口唇、面取り。口縁：ハケか / 〃。摩耗。
1203	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	18.4	(2.6)	-	-	口唇、面取り。2 条の退化した凹線文。口縁：ヨコナ デ / ヨコハケ。
1204	〃	〃	〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	21.2	(2.8)	-	-	口唇、面取り。口縁：タテハケ後ナデ / ヨコナデ。線 刻。摩耗。
1205	〃	〃	〃	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	灰色 5Y5/1	-	(3.9)	-	-	口縁：ヨコナデ。頸部：ハケ / ハケ。煤。接合面で剥 離。内面、荒れる。
1206	〃	〃	〃	明赤褐色 2.5YR5/6	明赤褐色 2.5YR5/6	灰黄褐色 10YR5/2	28.6	(11.9)	-	-	櫛波文。口縁：ナデ / ミガキ。頸部：ハケ後ナデ / ハ ケ後ミガキ。斜格子刻目突帯。頸内接合痕。黒斑。
1207	〃	〃	〃	橙色 5YR7/8	橙色 5YR7/8	灰黄色 2.5Y6/2	-	(7.2)	-	-	口唇、ハケ状原体による面取り。口縁：ヨコハケか / ハケ。頸部：ハケ / ハケ。
1208	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/3	黄灰色 2.5Y6/1	26.2	(3.0)	-	-	複合口縁壺。1 条のヘラ波文。一次口縁：ハケ / ハケ。 二次口縁：ハケ後ナデ / ヨコナデ。
1209	〃	〃	〃	橙色 2.5YR6/6	明赤褐色 2.5YR5/6	褐灰色 7.5YR4/1	12.8	(5.0)	-	-	複合口縁壺。一次口縁：ヨコナデ・ハケ / ハケ。体部： タテハケ / ハケ・ナデ。
1210	〃	〃	〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/8	橙色 5YR7/8	17.2	(4.9)	-	-	複合口縁壺。斜格子刻目。一次口縁：ハケ・ヨコナデ / 〃。二次口縁：ナデ / ヨコナデ。
1211	〃	〃	〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	灰白色 5Y7/1	17.1	(6.6)	-	-	複合口縁壺。口唇、面取り。一次口縁：ハケ。二次口縁： ハケ後ミガキ / ヨコナデ。体部：ハケ / ナデ。接合痕。
1212	〃	〃	〃	にぶい黄褐色 10YR7/3	黄灰色 2.5Y4/1	黄灰色 2.5Y4/1	14.0	(5.8)	-	-	複合口縁壺か。3～4 条の櫛波文。口縁：ハケ / ヨ コナデ。
1213	〃	〃	〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 5YR7/6	にぶい黄褐色 10YR7/3	16.0	(4.1)	-	-	二重口縁壺。口唇、面取り。一次口縁：ヨコナデ / ミ ガキか。二次口縁：ヨコナデ / ミガキか。摩耗。
1214	〃	〃	〃	にぶい褐色 7.5YR6/3	にぶい褐色 7.5YR6/3	にぶい褐色 7.5YR6/3	12.4	(5.1)	-	-	「く」。口唇、ルーズな面取り。口縁：叩き後タテハケ / ヨコナデ・ヨコハケ。体部：叩き後ナデ / ナデ。煤。
1215	〃	〃	〃	浅黄褐色 10YR8/3	浅黄褐色 10YR8/3	灰色 5Y6/1	14.6	(4.1)	-	-	「く」。口唇、ハケ状原体による面取り。口縁：叩き後 ハケ / ハケ。体部：叩き後ハケ / ハケ。
1216	〃	〃	〃	にぶい赤褐色 2.5YR4/4	にぶい赤褐色 2.5YR4/4	灰褐色 7.5YR4/2	16.4	(3.7)	-	-	「く」。口唇、面取り。口縁：ハケ / ハケ・ナデ。体部： ハケ / ナデ。煤。
1217	〃	〃	〃	にぶい黄褐色 10YR6/4	黄褐色 7.5YR7/8	浅黄褐色 7.5YR8/6	15.2	22.6	16.7	3.5	「く」。口唇、面取り。口縁：ハケ後ヨコナデ。体部：叩 き後ハケ / ハケ・ナデ。丸底。外底面、ナデ。黒斑。煤。
1218	〃	〃	〃	にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい褐色 7.5YR5/4	-	(1.3)	-	-	口縁、摘み上げ。口縁：ヨコナデ / ヨコナデ。摩耗。搬 入（庄内式か）。
1219	〃	〃	〃 底部	にぶい赤褐色 5YR5/4	にぶい赤褐色 2.5YR5/4	にぶい赤褐色 5YR5/4	-	(4.1)	-	3.7	平底。外底面、叩き後ナデか。体部：タテハケ / ナデ。 黒斑。被熱。接合痕。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 296 1220	7-2 区	ST23	弥生 底部	黄灰色 2.5Y5/1	にぶい橙色 7.5YR6/4	褐灰色 10YR5/1	-	(1.7)	-	2.8	角の取れた平底。外底面、ナデ。体部：ミガキか/ナデ。
1221	〃	〃	〃	灰色 N6/0	浅黄橙色 10YR8/3	灰色 N5/0	-	(2.3)	-	6.2	平底。外底面、ハケ・ナデ。体部：叩き後タテハケ/ナデ。接合面で剥離。
1222	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 5YR7/4	黄灰色 2.5Y4/1	-	(4.1)	-	4.6	角の取れた平底。外底面、ナデ。体部：ナデ・ミガキ/ナデ。接合痕。
1223	〃	〃	〃	橙色 7.5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	黒褐色 2.5Y3/1	-	(8.6)	-	-	丸底。外底面、叩き目・ハケメ。体部：叩き後タテハケ/ナデ。黒斑。煤。
1224	〃	〃	〃	にぶい黄橙色 10YR7/2	にぶい橙色 7.5YR7/4	黄灰色 2.5Y5/1	-	(8.4)	-	1.8	ほぼ丸底。外底面、叩き後ナデ。体部：叩き後タテハケ/ハケ・ナデ。黒斑。
図 297 1225	〃	〃	鉢	浅黄橙色 7.5YR8/6	浅黄橙色 7.5YR8/4	灰白色 7.5YR8/2	10.2	2.9	-	4.1	丸底。外底面、ナデ。体部：ナデ/ハケ。
1226	〃	〃	〃	橙色 5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	浅黄橙色 10YR8/4	8.8	5.9	-	3.6	角の取れた平底。外底面、ナデ。体部：ナデ/ハケ後ナデ。キレット。
1227	〃	〃	〃	橙色 7.5YR7/6	浅黄橙色 10YR8/4	黄灰色 2.5Y5/1	11.4	5.5	-	3.4	平底。外底面、ナデ。摩耗のため、調整不明。
1228	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	11.6	6.6	-	-	丸底。強いナデにより丸底化。体部：叩き後ナデ/ナデ。
1229	〃	〃	〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	浅黄橙色 10YR8/4	16.3	(6.8)	-	-	丸底。ケズリにより丸底化。体部：叩き後ハケ/ハケ・ナデ。器壁、厚い。
1230	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	7.4	(3.2)	-	-	外反口縁。口縁：ヨコナデ/ヨコナデ。体部：ナデ/(ヘラ)ナデ。
1231	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	灰色 5Y5/1	12.4	(8.0)	-	-	外反口縁。口縁：叩き後ヨコナデ/ヨコハケ。体部：叩き後ハケ/ハケ・ナデ。キレット。黒斑。
1232	〃	〃	〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	褐灰色 7.5YR5/1	-	(2.7)	-	-	体部：叩き後ハケ・ナデ/ナデ。赤色顔料付着。
1233	〃	〃	〃	橙色 7.5YR7/6	にぶい橙色 5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	-	(5.8)	-	-	丸底。ハケにより丸底化。体部：ハケ/ハケ。黒斑。
1234	〃	〃	不明	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 10YR8/3	-	(2.5)	-	-	鈎状の貼付け突帯。体部：ヨコナデ・粗いハケ/ハケ・ナデ。
1235	〃	〃	鉢	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	褐灰色 5YR5/1	-	(2.2)	-	4.7	指頭により短い脚を作出。外底面、ナデ。体部：叩き後ナデか/ナデ。被熱。製塩土器か。
1236	〃	〃	高杯	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	灰色 5Y5/1	-	(5.7)	-	-	脚部：ハケ後ミガキ/しほり目・ナデ。脚部上面は接合面で剥離。
1237	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	褐灰色 10YR6/1	-	(3.0)	-	-	裾部：ミガキ/ハケ・ナデ。円孔。接合面で剥離。
1238	〃	〃	〃	橙色 7.5YR6/6	橙色 5YR6/6	にぶい黄橙色 10YR6/3	-	(3.0)	-	-	裾部：ハケ後ミガキ/ケズリ・ハケ・ナデ。直径約 0.7cmの円孔。
1239	〃	〃	〃	橙色 7.5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR6/4	褐灰色 10YR4/1	-	(2.3)	-	-	裾部：ナデ/ハケ。直径約 0.5cmの円孔。
1240	〃	〃	ミニ	にぶい橙色 7.5YR7/4	橙色 5YR7/6	褐灰色 10YR5/1	-	(3.1)	-	2.8	角の取れた平底。外底面、葉脈痕。体部：ハケ/ナデ。
図 299 1242	〃	ST24	弥生 壺	橙色 5YR7/8	橙色 5YR7/8	橙色 5YR7/8	13.0	(4.7)	-	-	「く」。口縁：ヨコナデ/ナデ。体部：叩き後ナデ/ナデ・ハケ。
1243	〃	〃	〃	にぶい黄橙色 10YR6/3	橙色 5YR7/6	褐灰色 10YR6/1	18.7	(5.0)	-	-	口縁、大きく外反。口縁：ナデ・ハケか/ハケ。被熱。摩耗。
1244	〃	〃	〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	にぶい黄橙色 10YR7/4	20.2	(5.4)	-	-	口唇、面取り。口縁：ヨコナデ/ヨコハケ。接合面で剥離。内面、荒れる。
1245	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	橙色 5YR6/6	黄灰色 2.5Y5/1	18.4	(3.0)	-	-	口唇、面取り。口縁：ヨコナデ・ハケ/ヨコハケ。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 299 1246	7-2 区	ST24	弥生 壺	橙色 7.5YR7/6	にぶい橙色 5YR6/4	黄灰色 2.5Y5/1	19.4	(3.0)	-	-	口唇、上下に拡張。口縁：ナデ(ミガキカ)/ヨコハケ。 接合面で剥離。
1247	〃	〃	〃	浅黄褐色 10YR8/3	浅黄褐色 10YR8/3	黄灰色 2.5Y4/1	17.6	(12.1)	-	-	複合口縁壺。竹管文・5条の櫛波文。一次口縁：タテハ ケ/ハケ。体部：叩き後ハケ/ナデ。肩内接合痕。黒斑。
1248	〃	〃	〃	にぶい黄褐色 10YR7/4	にぶい黄褐色 10YR6/4	褐灰色 10YR5/1	-	(5.0)	-	-	頸部：/ナデ。体部：ナデか/ヨコナデ・ヘラナデ。 頸部、刻目突帯。被熱。
1249	〃	〃	〃	橙色 5YR6/6	にぶい赤褐色 5YR5/4	にぶい黄褐色 10YR7/3	-	(2.6)	-	-	口唇、上方に拡張。2条の退化した凹線文。口縁：ヨ コナデ/ヨコナデ。
1250	〃	〃	〃	明赤褐色 2.5YR5/6	明赤褐色 2.5YR5/6	明赤褐色 2.5YR5/6	12.2	(5.8)	-	-	「く」。口縁：叩き後ナデ/ヨコハケ。体部：叩き後ハ ケ/ハケ。煤。
1251	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	15.4	(5.4)	-	-	「く」。口縁：叩き後ナデ/ハケ。体部：叩き後ナデ/ ハケ・ナデ。煤。
1252	〃	〃	〃	にぶい橙色 5YR7/4	橙色 2.5YR6/6	褐灰色 5YR4/1	14.3	(5.4)	-	-	「く」。口縁：叩き後ハケ/ハケ。体部：叩き後ナデ/ ナデ・指圧顕著。肩内接合痕。被熱により発泡。
1253	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	褐灰色 10YR4/1	17.0	(7.0)	-	-	「く」。口唇、ルーズな面取り。口縁：叩き後ナデ/ハ ケ。体部：叩き後ナデ/ナデ。肩内接合痕。煤。
1254	〃	〃	〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	黄灰色 2.5Y5/1	14.0	22.7	16.8	3.2	「く」。口縁：ハケ/ハケ。体部：叩き後ハケ/ハケ・ ナデ。角の取れた平底。外底面、叩き後ナデ。被熱。煤。
1255	〃	〃	〃	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい橙色 7.5YR7/4	黒褐色 10YR3/1	-	(21.3)	14.8	2.3	口縁：タテハケ/ハケ・ナデ。体部：叩き後タテハ ケ/ハケ・ナデ。角の取れた平底。内接合痕。黒斑。
図 300 1256	〃	〃	〃	橙色 7.5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	明オリーブ灰色 2.5GY7/1	-	(2.8)	-	5.2	角の取れた平底。外底面、葉脈痕。体部：ナデ/ナデ・ ミガキ。内面、荒れる。廃棄後被熱・煤。
1257	〃	〃	〃	灰黄色 2.5Y7/2	明黄褐色 10YR7/6	黄灰色 2.5Y5/1	-	(4.1)	-	7.0	角の取れた平底。外底面、ナデ。体部：叩き後ハケ/ ナデ。
1258	〃	〃	〃	橙色 5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	-	(2.9)	-	4.5	円盤状の平底。外底面、ナデ。体部：叩き後ナデ/ハ ケ。黒斑。
1259	〃	ST24 _P1	〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	黄灰色 2.5Y4/1	-	(1.5)	-	-	丸底。強いナデにより丸底化。体部：叩き後ナデ/ ミガキ。
1260	〃	ST24	〃	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい橙色 7.5YR6/4	褐灰色 10YR4/1	-	10.1	-	6.6	丸みを帯びた平底。外底面、ナデ。体部：叩き後ナデ/ ハケ・ナデ。黒斑。
1261	〃	〃	〃	褐灰色 10YR4/1	にぶい黄褐色 10YR7/2	褐灰色 10YR4/1	-	(7.8)	-	3.8	ほぼ丸底。外底面、ナデ。体部：叩き後ハケ/ナデ。黒 斑。
1262	〃	〃	〃	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい橙色 7.5YR7/4	黄灰色 2.5Y5/1	-	(8.8)	-	-	丸底。外底面、ナデ。体部：ハケ・ナデ/ハケ・ナデ。 黒斑。
1263	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 5YR6/4	黄灰色 2.5Y4/1	-	(15.0)	-	3.0	ほぼ丸底。外底面、叩き目。体部：叩き後タテハケ/ タテハケ。黒斑。
図 301 1264	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	橙色 5YR6/6	灰黄色 2.5Y6/2	-	(54.8)	43.8	-	体部：叩き後ハケ・ミガキ/ハケ。黒斑。
図 302 1265	〃	〃	〃	浅黄褐色 10YR8/4	浅黄褐色 7.5YR8/4	浅黄褐色 10YR8/4	11.2	3.7	-	3.4	ほぼ丸底。外底面、ナデ。体部：叩き後ナデ/ハケ・ ナデ。黒斑。
1266	〃	〃	〃	橙色 7.5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	11.5	5.7	-	-	丸底。外底面、ナデ。体部：叩き後ナデ/ヘラナデ。
1267	〃	ST24 _P1	〃	橙色 2.5YR7/8	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	11.5	6.8	-	3.2	平底。外底面、ナデ。体部：叩き後ナデ/ハケ。キレツ。
1268	〃	〃	〃	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい黄褐色 10YR7/3	褐灰色 10YR4/1	10.8	7.4	-	2.2	角の取れた平底。外底面、ナデ・ハケメ。体部：叩き 後ナデ/ハケ・ナデ。歪む。黒斑。ほぼ完存。
1269	〃	〃	〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR7/6	13.5	7.4	-	3.4	丸みを持った平底。外底面、ナデ。体部：叩き後ナデ/ ハケ。内底面、ナデ。キレツ。
1270	〃	ST24	〃	にぶい黄褐色 10YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/3	黒色 10YR1.7/1	13.5	5.9	-	4.2	平らな部分が残る丸底。外底面、ナデ。体部：叩き後 ナデ/ハケ・ナデ。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 302 1271	7-2 区	ST24	弥生 鉢	橙色 5YR6/6	橙色 7.5YR7/6	橙色 5YR7/6	11.8	5.8	-	3.3	円盤状の平底。外底面、葉脈痕。体部：ナデ / ヘラナ デ。キレット。黒斑。
1272	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR6/6	褐灰色 7.5YR4/1	16.2	7.1	-	3.5	丸底。強いナデにより丸底化。体部：叩き後ナデ / ハ ケ。黒斑。
1273	〃	ST24 _P1	〃 〃	橙色 5YR7/8	橙色 5YR7/6	褐灰色 10YR5/1	18.1	7.5	-	-	丸底。ハケにより丸底化。体部：ハケ / ハケ・ナデ。 キレット。黒斑。
1274	〃	ST24	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	灰黄色 2.5Y6/2	10.0	(4.7)	-	-	手捏ね成形。指圧顕著。天地逆の可能性有り。
1275	〃	ST24 _P1	〃 高杯	橙色 5YR7/8	橙色 5YR7/8	橙色 5YR7/6	9.6	10.8	-	18.0	低脚高杯。杯部：ミガキ / ナデ・ミガキ。脚部：ミガ キ / ハケ。四方に直径約 1.1cm の円孔。黒斑。
1278	〃	ST24	ミニ	橙色 7.5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	5.7	4.5	-	-	鉢形。手捏ね成形。外面、叩き板で調整か。丸底。黒 斑。被熱。
1279	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 5YR6/4	黒褐色 2.5Y3/1	6.6	(2.4)	-	-	鉢形。手捏ね成形。内面、ミガキ状。
図 305 1284	〃	ST25	弥生 壺	にぶい黄橙色 10YR7/3	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	13.8	(14.8)	-	-	口唇、面取り。口縁：叩き後ヨコハケ / ヨコハケ。体 部：叩き後ハケ / ナデ・ハケ・指圧。肩内接合痕。
1285	〃	〃	〃 甕	橙色 5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	黄灰色 2.5Y4/1	15.0	(1.3)	-	-	口唇、上方に拡張。2 条の退化した凹線文か。口縁： ヨコナデ / ヨコナデ。
1286	〃	〃	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい褐色 7.5YR6/3	橙色 7.5YR7/6	14.6	(16.2)	19.9	-	「く」。口縁：タテハケ / 粗いハケ。体部：叩き後ハケ・ ナデ / 粗いハケ。被熱。煤。
1287	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/4	16.2	(14.7)	21.3	-	「く」。口唇、面取り。口縁：叩き後ハケ / ハケ。体部： 叩き後ナデ / ハケ・ナデ。キレット。煤。
1288	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	黄灰色 2.5Y4/1	15.4	23.4	18.4	4.3	「く」。口縁：叩き後ナデ / ハケ。体部：叩き後ナデ・ ハケ / ナデ。ほぼ丸底。肩内接合痕。被熱。煤。
1289	〃	〃	〃 底部	浅黄褐色 7.5YR8/3	浅黄褐色 7.5YR8/3	浅黄褐色 10YR8/3	-	(7.1)	-	6.1	角の取れた平底。外底面、ナデ。体部：叩き後ナデ / ハケ後ナデ。内底面、凹凸有り。黒斑。
1290	〃	〃	〃 鉢	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	浅黄褐色 10YR8/4	11.9	5.3	-	2.8	角の取れた平底。体部：叩き後ナデ / ナデ。摩耗。
1291	〃	ST25 _P4	〃 〃	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい黄褐色 10YR7/3	12.0	6.2	-	-	丸底。外底面、ナデ。体部：ナデ / ハケ。キレット。歪む。 黒斑。雑なつくり。
1292	〃	ST25	〃 〃	にぶい黄褐色 10YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/4	12.3	8.3	-	3.5	円盤状の平底。外底面、ナデ。体部：叩き後ナデ / ハ ケ。キレット。歪む。黒斑。雑なつくり。
1293	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	17.7	6.8	-	3.3	丸底。外底面、ナデ。体部：ヘラナデ / ハケ。キレット。 黒斑。摩耗。
1294	〃	〃	ミニ	にぶい黄褐色 10YR7/2	橙色 5YR6/6	にぶい黄褐色 10YR7/2	-	(4.5)	-	-	壺形。体部：ハケ・ナデ / ナデ。
図 307 1297	〃	土器 集中	弥生 壺	にぶい黄褐色 10YR7/3	橙色 5YR6/6	黄灰色 2.5Y4/1	-	(18.6)	30.8	-	頸部：タテミガキ / ハケ後ミガキ。体部：叩き後ハケ・ ミガキ / ハケ・ナデ。頸部、刺突文。肩内接合痕。
1298	〃	〃	〃 〃	灰色 5Y4/1	明赤褐色 2.5YR5/6	にぶい黄褐色 10YR7/3	21.8	(36.0)	44.0	-	複合口縁。口唇、面取り。1 単位の櫛波文。一次口縁： タテハケ / ハケ。刻目。体部：叩き後ハケ / ナデ。
図 308 1299	〃	〃	〃 甕	にぶい黄褐色 10YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	14.2	(7.5)	-	-	「く」。口唇、丸くおさめる。口縁：ナデ / ハケ。体部： 叩き後ナデ / ナデ・ハケ。肩内接合痕。煤。摩耗。
1300	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 5YR6/4	にぶい橙色 5YR6/4	にぶい黄褐色 10YR7/2	15.4	(7.1)	-	-	「く」。口唇、ハケ状原体による面取り。口縁：ハケ / ヨコナデ・ハケ。体部：叩き後ハケ / ハケ・ナデ。煤。
1301	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	12.2	(13.3)	15.8	-	「く」。口唇、ルーズな面取り。口縁：叩き後ハケ / ハ ケ。体部：叩き後ハケ / ナデ。煤。
1302	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	15.5	(14.0)	17.5	-	「く」。口唇、面取り。口縁：叩き後ハケ / ハケ。体部： 叩き後ナデ / ナデ。肩内、幅約 2.5cm の接合痕。煤。摩耗。
1303	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	褐灰色 10YR4/1	14.5	(20.5)	18.4	-	「く」。口唇、面取り。口縁：叩き後ハケ / ハケ。体部： 叩き後ハケ / ハケ後ナデ。肩内接合痕。煤。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 308 1304	7-2 区	土器 集中	弥生 甕	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	黄灰色 2.5Y4/1	-	25.3	-	3.7	「く」。体部：叩き後ナデ・ハケ / ハケ後ナデ。肩内接合痕。 角の取れた平底。外底面、ハケ・ナデ。歪む。黒斑。被熱。煤。
1305	〃	〃	〃	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい黄橙色 10YR7/3	19.4	(14.3)	23.6	-	緩やかな「く」。口唇、面取り。口縁：叩き後タテハケ / ハケ。体部：叩き後ナデ・タテハケ / ハケ。
1306	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい黄橙色 10YR7/4	黄灰色 2.5Y5/1	-	(22.5)	19.5	3.2	ほぼ丸底。外底面、叩き後ナデか。体部：叩き後タテ ハケ / ハケ・ナデ。肩内接合痕。黒斑。煤。重い。
1307	〃	〃	〃 底部	にぶい黄橙色 10YR7/2	にぶい黄橙色 10YR7/4	褐灰色 10YR5/1	-	(9.7)	-	4.3	丸みを帯びた平底。外底面、叩き後ナデ。体部：叩き 後ハケ / 強いナデ。黒斑。被熱。
1308	〃	〃	〃	にぶい黄橙色 10YR6/3	橙色 7.5YR6/6	灰褐色 7.5YR5/2	-	(3.1)	-	5.6	角の取れた平底。外底面、ナデ。体部：ナデ / ナデ。内 底面、指圧。
1309	〃	〃	〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	-	(18.1)	18.4	4.1	角の取れた平底。外底面、叩き後ナデ。体部：叩き後 タテハケ / ナデ。煤。
1310	〃	〃	〃 鉢	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	-	6.8	6.8	-	2.1	角の取れた平底。外底面、ナデ。体部：叩き後ナデ / ナデ。歪む。器面、荒れる。
1311	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	19.4	(5.5)	-	-	体部：ハケ / ハケ。キレツ。
1312	〃	〃	〃	橙色 2.5YR6/6	橙色 2.5YR6/6	にぶい黄橙色 10YR7/3	21.2	8.2	-	3.0	口唇、尖らせる。体部：叩き後ナデ・粗いハケ / ナデ。 内面、爪痕。角の取れた平底。外底面、ナデ。キレツ。
図 315 1313	〃	SB6	土質 杯	にぶい橙色 5YR7/4	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	-	(2.1)	-	-	P1047 出土。内外面、回転ナデ。
図 322 1314	〃	SB11	須恵 甕	にぶい黄橙色 10YR7/2	灰白色 2.5Y7/1	にぶい黄橙色 10YR7/2	-	(18.0)	-	-	P1062 出土。格子叩き / 同心円状の当て具痕。焼成不 良。摩耗。
1315	〃	〃	弥生 高杯	橙色 5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	褐灰色 7.5YR6/1	25.0	(2.9)	-	-	P1062 出土。口唇、丸くおさめる。ヨコナデ・ミガキ / ミガキ。口縁部と杯部の境、凹線状。
図 325 1316	〃	SB12	須恵 甕	灰黄色 2.5Y6/2	灰黄色 2.5Y6/2	にぶい黄橙色 10YR6/4	-	(7.4)	-	-	P1059 出土。格子叩き / 同心円状の当て具痕。
図 327 1317	7-3 区	SB13	〃 蓋	灰白色 10YR7/1	灰白色 10YR7/1	黄灰色 2.5Y5/1	7.2	1.4	8.6	-	P567 出土。天井部、扁平状。短小なかえりを付す。回 転ナデ。
1318	〃	〃	〃	灰色 N6/0	灰色 N6/0	灰色 7.5Y6/1	7.9	2.2	10.0	-	P567 出土。天井部、丸みを帯びる。短小なかえりを付 す。回転ヘラケズリ・回転ナデ。
図 330 1319	〃	SB15	弥生 甕	灰褐色 5YR4/2	にぶい赤褐色 5YR5/4	にぶい赤褐色 5YR5/4	14.4	-	14.8	-	P452 出土。「く」。口縁：ナデ / ハケ。体部：叩き後 ハケ / ハケ・ナデ。煤。尖底状（丸底化）。
図 334 1320	7-4 区	SB18	土質 皿	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	8.2	2.7	-	5.6	P648 出土。内外面、回転ナデ。外底面、回転ヘラ切り 後ナデ。
図 336 1321	7-3 区	SB19	〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	5.9	1.4	-	4.1	P361 出土。内外面、回転ナデ。外底面、回転糸切り 痕。摩耗。
図 344 1322	〃	SB24	〃	橙色 5YR6/8	橙色 5YR6/8	橙色 7.5YR7/6	10.5	2.1	-	6.3	SK14 出土。内外面、回転ナデ。外底面、糞状圧痕。
1323	〃	〃	〃 杯	橙色 7.5YR7/6	橙色 5YR6/6	橙色 7.5YR7/6	13.2	3.8	-	6.8	SK14 出土。内外面、回転ナデ（内底面凹状）。外底面、 回転ヘラ切り痕。
1325	〃	〃	弥生 底部	橙色 5YR7/6	にぶい黄橙色 10YR7/3	橙色 5YR6/6	-	(2.8)	-	1.3	P441 出土。尖底状の小径な平底。体部：タテハケ / ナデ。丁寧な仕上げ。
図 347 1326	〃	SB26	須恵 椀	淡黄色 2.5Y8/3	灰色 N5/0	灰色 N5/0	-	(3.1)	-	6.6	ST11_P16 出土。円盤状高台（内底面凹状）。内外面、 回転ナデ。外底面、回転糸切り痕。
図 349 1327	7-3・4 区	SB27	〃 杯	黄灰色 2.5Y6/1	灰色 N6/0	黄灰色 2.5Y6/1	12.8	(2.9)	-	-	P809 出土。内外面、回転ナデ。
図 352 1328	7-3 区	SB28	〃	灰褐色 7.5YR6/2	にぶい褐色 7.5YR6/3	にぶい橙色 7.5YR7/4	9.8	2.7	-	4.0	P167 出土。受け部、外方へ短くひらく。立上がりは短 小で内傾気味。回転ナデ・ケズリ痕。
図 354 1329	7-4 区	SB29	土質 皿	浅黄褐色 10YR8/3	浅黄褐色 10YR8/3	浅黄褐色 10YR8/3	8.7	1.8	-	6.0	P653 出土。内外面、回転ナデ。内底面、凸状。外底面、 回転ヘラ切り後ナデ。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 354 1330	7-4 区	SB29	土質 皿	にぶい 橙色 7.5YR7/4	にぶい 橙色 7.5YR7/4	にぶい 橙色 7.5YR7/4	9.4	1.9	-	7.2	P756 出土。内外面, 回転ナデ。外底面, ナデ。
1331	〃	〃	〃 〃	にぶい 橙色 7.5YR7/4	にぶい 橙色 7.5YR7/4	にぶい 橙色 7.5YR7/4	9.2	1.6	-	7.2	P756 出土。内外面, 回転ナデ。外底面, 切り離し後ナ デ。
1332	〃	〃	〃 〃	にぶい 黄橙色 10YR7/2	灰白色 10YR8/2	黄灰色 2.5Y5/1	9.0	1.6	-	6.8	P756 出土。内外面, 回転ナデ。外底面, 回転ヘラ切り 後ナデ。
1333	〃	〃	〃 〃	にぶい 黄橙色 10YR7/3	にぶい 黄橙色 10YR7/3	にぶい 黄橙色 10YR7/3	9.2	1.4	-	7.6	P756 出土。内外面, 回転ナデ。外底面, 回転ヘラ切り 後ナデ。
1334	7-3 区	〃	〃 〃	にぶい 黄橙色 10YR7/4	にぶい 黄橙色 10YR7/4	にぶい 黄橙色 10YR7/4	9.4	2.0	-	5.4	P42 出土。内外面, 回転ナデ (内底面凹状)。外底面, 回転ヘラ切り後ナデか。煤。灯明皿か。
1335	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	9.5	2.2	-	7.4	P418 出土。内外面, 回転ナデ。外底面, 切り離し後ナ デ。摩耗。
1336	7-4 区	〃	〃 〃	にぶい 橙色 7.5YR7/4	にぶい 橙色 7.5YR7/4	浅黄褐色 7.5YR8/3	-	1.6	-	7.0	P756 出土。扁平な平高台状。内外面, 回転ナデ。外底 面, 回転ヘラ切り痕か。若干摩耗。
1337	〃	〃	〃 〃	にぶい 褐色 7.5YR6/4	にぶい 褐色 7.5YR5/3	橙色 7.5YR7/6	9.8	1.2	-	6.8	P840 出土。内外面, 回転ナデか。外底面, 回転ヘラ切 り痕か。内面, 摩耗, 調整不明。
1338	〃	〃	〃 〃	灰黄褐色 10YR6/2	灰黄褐色 10YR6/2	黄灰色 2.5Y5/1	10	1.6	-	7.6	P756 出土。内外面, 回転ナデ。外底面, 切り離し後ナ デ。
1339	〃	〃	〃 〃	にぶい 褐色 7.5YR7/4	にぶい 褐色 7.5YR7/4	浅黄褐色 10YR8/3	9.4	1.7	-	7.4	P756 出土。内外面, 回転ナデ。外底面, 回転ヘラ切り 後ナデ。
1340	〃	〃	〃 〃	浅黄褐色 10YR8/4	浅黄褐色 10YR8/4	浅黄褐色 10YR8/4	10.2	1.8	-	7.8	P756 出土。内外面, 回転ナデ。外底面, 切り離し後ナ デ。
1341	7-3 区	〃	〃 〃	褐色 5YR6/8	褐色 5YR6/8	褐色 5YR6/8	10.0	1.8	-	7.0	P42 出土。内外面, 回転ナデ。外底面, 回転系切り痕。
1342	〃	〃	〃 杯	にぶい 褐色 2.5YR6/4	にぶい 褐色 5YR6/4	にぶい 褐色 7.5YR7/4	9.6	3.5	-	6.9	P41 出土。内外面, 回転ナデ。外底面, 切り離し後ナ デ。
1343	7-4 区	〃	〃 〃	浅黄褐色 7.5YR8/4	浅黄褐色 7.5YR8/4	浅黄褐色 7.5YR8/4	9.5	2.8	-	6.5	P756 出土。内外面, 回転ナデ。外底面, 回転ヘラ切り 後ナデ。
1344	7-3 区	〃	〃 〃	浅黄褐色 10YR8/3	浅黄褐色 7.5YR8/3	浅黄褐色 10YR8/3	13.1	3.3	-	8.2	P42 出土。内外面, 回転ナデ。
1345	7-4 区	〃	〃 〃	褐色 5YR6/6	明赤褐色 2.5YR5/6	褐色 7.5YR6/6	14.0	4.5	-	7.5	P756 出土。低平な円盤状高台 (内底中央僅かに凸状)。 外底面, 回転ヘラ切り後ナデか。
1346	〃	〃	〃 椀	褐色 5YR7/6	褐色 7.5YR7/6	褐色 7.5YR7/6	15.7	5.4	-	6.6	P922 出土。口径, 上端丸みを帯びた面状 (ナデ)。回 転ナデ。断面方形の貼付輪高台。器面一部荒れ。
1347	7-3 区	〃	〃 〃	にぶい 黄褐色 10YR7/2	にぶい 黄褐色 10YR7/2	にぶい 黄褐色 10YR7/2	15.4	5.3	-	6.5	P83 出土。外傾気味の貼付輪高台。外面下半部, 回転 ヘラケズリ。
図 357 1348	〃	SB31	弥生 鉢	にぶい 褐色 7.5YR7/3	にぶい 褐色 7.5YR7/4	にぶい 黄褐色 10YR7/4	18.7	8.0	-	5.2	P508 出土。口径, 僅かに外傾し下端微拡張。平底 (高 台状)。体部: ハケ / ハケ・ナデ。底部: ユビオサエ / 。
図 359 1349	〃	SB32	土質 杯	浅黄褐色 7.5YR8/4	浅黄褐色 7.5YR8/4	浅黄褐色 7.5YR8/4	13.6	4.5	-	7.2	P151 出土。内外面, 回転ナデ。外底面, 回転系切り 痕。完存。
1350	〃	〃	〃 〃	にぶい 黄褐色 10YR7/2	にぶい 黄褐色 10YR7/2	灰黄褐色 10YR6/2	15.2	-	-	7.5	P151 出土。体部, 外反気味。底部, 円盤状。外底面, 回 転系切り痕。
1351	〃	〃	瓦器 椀	灰色 5Y4/1	灰色 5Y4/1	暗灰黄色 2.5Y5/2	13.5	(4.4)	-	-	P151 出土。貼付輪高台剥離痕。指圧。摩耗。
1352	〃	〃	〃 〃	褐灰色 10YR4/1	褐灰色 10YR4/1	灰白色 10YR8/1	14.1	4.8	-	4.8	P151 出土。短小な断面逆三角形の貼付輪高台。指 圧 / ミガキ。炭素吸着, 弱い。完存。
図 361 1353	〃	SB33	土師 皿	褐色 5YR7/6	浅黄褐色 10YR8/4	浅黄褐色 10YR8/4	9.2	1.6	-	6.5	P255 出土。口縁, 僅かに外反。口径, 丸くおさめる。体 部, 斜め上方へひらく。摩耗。
図 362 1354	〃	SB34	土質 〃	浅黄褐色 7.5YR8/4	浅黄褐色 7.5YR8/4	-	8.2	2.6	-	6.1	P145 出土。内外面, 回転ナデ。外底面, 回転系切り 痕。口縁, 煤付着。完存。灯明皿か。

遺物観察表 1355～1379

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 362 1355	7-3 区	SB34	土質 皿	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	8.5	2.3	-	5.3	P184 出土。内外面、回転ナデ。外底面、切り離した後ナデ。摩耗。
1356	〃	〃	〃	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	褐灰色 10YR5/1	8.8	1.9	-	5.6	P320 出土。摩耗。
1357	〃	〃	〃	浅黄橙色 7.5YR8/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	浅黄橙色 10YR8/3	8.6	1.8	-	6.2	P320 出土。内外面、回転ナデ。外底面、回転糸切り痕。口縁、煤付着。灯明皿か。
1358	〃	〃	〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	8.7	2.1	-	5.6	P320 出土。底部、丸みを帯びる。内外面、回転ナデ。
1359	〃	〃	〃	浅黄橙色 7.5YR8/6	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	8.8	1.7	-	5.4	P144 出土。内外面、回転ナデ。外底面、回転糸切り痕・贅状圧痕。
1360	〃	〃	〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	褐色 7.5YR7/6	8.8	1.8	-	5.8	P320 出土。内外面、回転ナデ。外底面、回転糸切り痕。
1361	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	褐色 5YR7/6	浅黄褐色 7.5YR8/3	9.0	1.6	-	6.0	P320 出土。内外面、回転ナデ。内底面、指圧。外底面、回転糸切り痕。
1362	〃	〃	〃	浅黄褐色 10YR8/3	にぶい褐色 7.5YR7/4	灰白色 10YR8/2	9.0	1.7	-	6.0	P320 出土。内外面、回転ナデ。内底面、ヨコナデ。外底面、切り離した後ナデ。
1363	〃	〃	〃	にぶい褐色 7.5YR7/3	にぶい褐色 7.5YR7/3	褐灰色 10YR5/1	9.0	1.9	-	6.2	P17 出土。内外面、回転ナデ。外底面、切り離した後ナデか。
1364	〃	〃	〃	浅黄褐色 10YR8/3	褐色 5YR7/6	にぶい褐色 7.5YR7/4	9.0	2.3	-	6.0	P99 出土。内外面、回転ナデ。外底面、回転ヘラ切り痕。
1365	〃	〃	〃	褐色 5YR7/6	褐色 5YR7/6	褐色 5YR7/6	9.0	2.5	-	5.7	P320 出土。内外面、回転ナデ。内底面、指圧。外底面、回転ヘラ切り痕。
1366	〃	〃	〃	褐色 5YR6/6	褐色 5YR6/6	褐色 7.5YR7/6	9.1	2.1	-	6.9	P184 出土。内外面、回転ナデ。内底面、渦状。外底面、回転糸切り痕・贅状圧痕。
1367	〃	〃	〃	浅黄褐色 7.5YR8/4	浅黄褐色 7.5YR8/4	浅黄褐色 7.5YR8/4	9.2	2.1	-	7.2	P181 出土。内底面、凸状。外底面、回転糸切り痕。摩耗。
1368	〃	〃	〃	淡褐色 5YR8/4	浅黄褐色 7.5YR8/4	淡褐色 5YR8/4	9.2	2.1	-	6.1	P320 出土。内外面、回転ナデ。外底面、回転糸切り痕。
1369	〃	〃	〃	にぶい黄褐色 10YR6/3	灰黄褐色 10YR6/2	褐灰色 10YR5/1	9.2	2.3	-	6.1	P372 出土。内外面、回転ナデ。内底面、指圧。外底面、回転ヘラ切り痕。内底面にタール付着。ほぼ完存。
1370	〃	〃	〃	灰白色 10YR8/2	灰白色 10YR8/2	灰白色 10YR8/2	9.2	2.7	-	5.6	P320 出土。内外面、回転ナデ。外底面、ヘラ切り後ナデ。
1371	〃	〃	〃	浅黄褐色 7.5YR8/4	褐色 5YR7/8	褐色 5YR7/8	9.3	1.8	-	5.8	P145 出土。底部、円盤状。内外面、回転ナデ。外底面、回転ヘラ切り痕。
1372	〃	〃	〃	褐色 5YR6/6	褐色 5YR6/6	にぶい褐色 7.5YR7/4	9.3	2.0	-	-	P320 出土。内外面、回転ナデ。
1373	〃	〃	〃	灰白色 2.5Y8/2	灰白色 2.5Y8/2	灰白色 2.5Y8/2	9.3	2.5	-	5.7	P320 出土。内外面、回転ナデ。外底面、切り離した後ナデ。
1374	〃	〃	〃	にぶい褐色 7.5YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/4	褐灰色 10YR5/1	9.4	1.9	-	6.2	P320 出土。外底面、回転ヘラ切り後ナデ。摩耗。
1375	〃	〃	〃	淡褐色 5YR8/4	淡褐色 5YR8/4	灰白色 10YR8/2	9.8	1.8	-	5.4	P144 出土。内外面、回転ナデ。外底面、回転ヘラ切りか。
1376	〃	〃	〃	浅黄褐色 10YR8/4	褐色 2.5YR6/6	浅黄褐色 10YR8/4	9.4	2.0	-	7.0	P320 出土。内外面、回転ナデ。内底縁、凹状。外底面、回転糸切り痕。完存。
1377	〃	〃	〃	にぶい褐色 7.5YR7/4	にぶい褐色 7.5YR7/4	にぶい褐色 7.5YR7/4	9.5	2.1	-	5.9	P145 出土。内外面、回転ナデ。内底面、ヨコナデ。外底面、回転ヘラ切り痕。
1378	〃	〃	〃	浅黄褐色 7.5YR8/4	浅黄褐色 7.5YR8/4	浅黄褐色 7.5YR8/4	9.8	1.9	-	7.3	P320 出土。内外面、回転ナデ。内底面、指圧。外底面、切り離した後ナデ。
1379	〃	〃	〃	浅黄褐色 10YR8/3	浅黄褐色 10YR8/3	浅黄褐色 10YR8/3	9.8	2.0	-	7.0	P17 出土。外底面、切り離した後ナデ。摩耗。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 362 1380	7-3 区	SB34	土質 皿	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	9.5	2.3	-	6.8	P320 出土。8 弁の輪花皿。内外面, 回転ナデ。外底面, 回転ヘラ切りか・簀状圧痕。内底面に「作」の刻書。
図 363 1381	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/8	橙色 5YR6/8	橙色 5YR6/8	9.8	2.2	-	5.0	P150 出土。底部, 円盤状。内外面, 回転ナデ。外底面, 回転ヘラ切り後ナデ。摩耗。
1382	〃	〃	〃 〃	浅黄橙色 10YR8/4	浅黄橙色 10YR8/4	浅黄橙色 10YR8/4	9.8	2.6	-	5.8	P320 出土。内外面, 回転ナデ。内底面, 凹状。外底面, 切り離した後ナデ。
1383	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	9.9	2.1	-	6.5	P17 出土。内外面, 回転ナデ。内底面, 指圧。外底面, 回転ヘラ切り痕。
1384	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	7.5YR7/6	10.0	1.7	-	6.8	P320 出土。内外面, 回転ナデ。外底面, 切り離した後ナデ。
1385	〃	〃	〃 〃	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 10YR8/3	10.1	1.9	-	7.2	P145 出土。内外面, 回転ナデ。外底面, 回転ヘラ切り痕。
1386	〃	〃	〃 〃	褐灰色 10YR5/1	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	10.2	1.9	-	7.0	P320 出土。摩耗。
1387	〃	〃	〃 〃	灰白色 2.5Y8/1	灰白色 2.5Y8/1	灰白色 2.5Y8/1	11.2	2.3	-	6.6	P17 出土。内外面, 回転ナデ。外底面, 回転糸切り痕。
1388	〃	〃	黒色 〃	暗灰色 N3/0	暗灰色 N3/0	暗灰色 N3/0	10.0	1.9	-	7.4	P320 出土。内外面, ヘラミガキ。黒色土器 B 類。
1389	〃	〃	土質 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	10.2	1.9	-	6.0	P320 出土。底部, 扁平な円盤状。内外面, 回転ナデ。外底面, 回転ヘラ切り痕。
1390	〃	〃	〃 〃	灰白色 10YR8/1	灰白色 10YR8/1	灰白色 10YR8/1	-	(1.9)	-	4.4	P145 出土。円盤状高台。内外面, 回転ナデ。外底面, 回転糸切り痕。
1391	〃	〃	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR7/3	灰黄褐色 10YR5/2	灰黄褐色 10YR5/2	-	(1.7)	-	7.3	P17 出土。内外面, 回転ナデ。外底面, 回転糸切り痕。杯か。
1392	〃	〃	〃 柱高	褐灰色 10YR4/1	浅黄橙色 10YR8/4	にぶい黄橙色 10YR7/2	5.7	2.1	-	3.6	P184 出土。杯皿部, 皿状。台部, 低い円柱状。杯皿部, 回転ナデ。台部, ヘラナデ。外底面, 回転ヘラ切り痕。
1393	〃	〃	〃 〃	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 10YR8/3	8.0	1.9	-	4.0	P320 出土。杯皿部, 皿状。台部, 低い円柱状で内底面は凹状。内外面, 回転ナデか。摩耗。
1394	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	浅黄橙色 7.5YR8/4	8.2	2.3	-	3.8	P150 出土。杯皿部, 皿状。台部, 低い円柱状。内外面, 回転ナデ。外底面, 回転糸切り痕。
1395	〃	〃	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	8.2	2.4	-	5.3	P184 出土。杯皿部, 皿状。台部, 低い円柱状。外底面, 切り離した後ナデ。摩耗。
1396	〃	〃	〃 〃	橙色 2.5YR6/6	橙色 2.5YR6/6	橙色 2.5YR6/6	8.4	2.5	-	4.5	P110 出土。杯皿部, 皿状。台部, 断面台形の低い円柱状。内外面, 回転ナデ。外底面, 回転糸切り痕。摩耗。
1397	〃	〃	〃 〃	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	8.5	2.9	-	4.8	P145 出土。杯皿部, 皿状。台部, 低い円柱状。内外面, 回転ナデ。外底面, 回転ヘラ切り後ナデ。
1398	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	9.0	2.3	-	4.2	P110 出土。杯皿部, 皿状。台部, 低い円柱状。内外面, 回転ナデか。外底面, 切り離した後ナデ。摩耗。
1399	〃	〃	〃 〃	明褐灰色 7.5YR7/2	明褐灰色 7.5YR7/2	灰白色 7.5YR8/2	9.3	2.9	-	4.7	P145 出土。杯皿部, 皿状。台部, 断面台形の低い円柱状。内外面, 回転ナデ。外底面, 切り離した後ナデ。
1400	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	8.5	2.5	-	4.7	P184 出土。杯皿部, 皿状。台部, 低い円柱状。内外面, 回転ナデ。外底面, 回転糸切り痕。完存。
1401	〃	〃	〃 〃	灰白色 10YR8/2	灰白色 10YR8/2	灰白色 10YR8/2	-	(2.2)	-	4.9	P150 出土。台部, 断面台形の低い円柱状。内外面, 回転ナデ。外底面, 回転糸切り痕。
1402	〃	〃	〃 〃	浅黄橙色 10YR8/4	浅黄橙色 10YR8/4	浅黄橙色 10YR8/4	-	(3.4)	-	6.8	P150 出土。台部, 低い円柱状。内外面, 回転ナデか。外底面, 簀状圧痕。
1403	〃	〃	〃 〃	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	-	(4.2)	-	6.2	P150 出土。台部, 低い円柱状。内外面, 回転ナデ。外底面, 簀状圧痕。
図 364 1404	〃	〃	〃 杯	にぶい橙色 7.5YR7/3	褐灰色 10YR6/1	にぶい橙色 7.5YR7/3	13.0	4.3	-	7.5	P320 出土。内外面, 回転ナデ。内底面, 指圧。外底面, 切り離した後ナデ。摩耗。

遺物観察表 1405～1432

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 364 1405	7-3 区	SB34	土質 杯	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	褐灰色 10YR5/1	13.8	3.8	-	7.0	P320 出土。摩耗。
1406	〃	〃	〃 〃	浅黄橙色 7.5YR8/4	灰白色 10YR8/2	灰白色 10YR8/2	13.8	3.8	-	6.9	P186 出土。内外面、回転ナデか。外底面、回転ヘラ切り痕か。摩耗。
1407	〃	〃	〃 〃	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	褐灰色 10YR5/1	14.0	3.5	-	7.0	P320 出土。内外面、回転ナデ。外底面、回転ヘラ切り痕・簧状圧痕。
1408	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	14.9	3.8	-	7.6	P150 出土。内外面、回転ナデ。摩耗。
1409	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 10YR8/3	-	(3.4)	-	6.7	P150 出土。内外面、回転ナデ。内底面、指圧。底部ヘラ起しか。外底面、簧状圧痕。摩耗。
1410	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	浅黄橙色 10YR8/4	浅黄橙色 10YR8/4	12.6	5.6	-	5.8	P186 出土。円盤状高台。内底面、凹状。内外面、回転ナデ。外底面、切り離した後ナデ・簧状圧痕。柱状高台か。
1411	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	12.4	5.2	-	6.0	P184 出土。円盤状高台。外底面、切り離した後ナデ。柱状高台か。摩耗。
1412	〃	〃	〃 椀	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	-	(3.1)	-	7.0	P184 出土。外底面に高脚の輪高台を貼付。内外面、回転ナデか。摩耗。
1413	〃	〃	〃 〃	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	灰白色 10YR8/2	-	(2.8)	-	6.5	P144 出土。貼付輪高台。端部、僅かに凹状。外底面、回転ナデ。内面、ミガキ。
図 366 1416	7-4 区	SB35	〃 杯	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	-	(1.9)	-	9.0	P614 出土。回転ナデ・ミガキ。外底面、回転ヘラ切り後ナデ・ミガキ。
図 368 1417	〃	SB36	須恵 甕	灰色 5Y6/1	灰色 5Y6/1	黄灰色 2.5Y4/1	-	(6.6)	-	-	P629 出土。平行叩き / 同心円状の当て具痕。
図 370 1418	〃	SB37	〃 蓋	灰色 N6/0	灰色 N6/0	灰色 N5/0	9.2	(1.6)	-	-	P750 出土。かえりを付す。内外面とも、回転ナデ。
1419	〃	〃	〃 体部片	黄灰色 2.5Y6/1	灰黄色 2.5Y6/2	灰黄色 2.5Y6/2	-	(4.3)	-	-	P644 出土。突帯を貼付。外面、回転ナデ・叩き後ナデ。内面、回転ナデ。焼成やや不良。転用硯。
1420	〃	〃	〃 〃	褐灰色 10YR5/1	褐灰色 10YR5/1	褐灰色 10YR5/1	-	(6.1)	-	-	P750 出土。平行叩き後ナデ / ナデ。墨ではなく、煤が付着か。転用硯か。
図 372 1421	〃	SB38	〃 〃	灰色 N4/0	黄灰色 2.5Y5/1	灰色 5Y5/1	-	(3.4)	-	-	P656 出土。平行叩き / 回転ナデ。内面に墨が付着。転用硯。
1422	〃	〃	灰釉 不明		黄灰色 2.5Y6/1	灰白色 5Y7/1	-	(3.0)	-	-	P678 出土。外面、回転ナデ。内面、剥離。
図 374 1423	〃	SB39	須恵 蓋	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y4/1	黄灰色 2.5Y5/1	16.4	(1.3)	-	-	P838 出土。内外面、回転ナデ。外面、自然釉付着。
1424	〃	〃	〃 杯	黄灰色 2.5Y5/1	黄灰色 2.5Y5/1	黄灰色 2.5Y5/1	12.3	3.2	-	5.4	SK33 出土。内外面、回転ナデ。外底面、回転ヘラ切り痕。外底面に「休」の墨書。
1425	〃	〃	土師 甕	にぶい黄橙色 10YR6/4	にぶい黄橙色 10YR6/3	にぶい橙色 7.5YR6/4	22.6	(4.3)	-	-	SK33 出土。口唇、上面、僅かに肥厚、凹面状。口縁外面、タテハケ。内面、ヨコハケ。
図 376 1427	〃	SB40	須恵 杯	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y6/1	11.8	2.7	-	6.8	P643 出土。内外面、回転ナデ。
図 378 1428	7-3 区	SB41	土質 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	10.0	2.8	-	7.1	P543 出土。内外面、回転ナデ。外底面、回転ヘラ切り痕。
1429	〃	〃	〃 椀	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	-	(2.8)	-	8.0	P81 出土。円盤状高台。内外面、回転ナデ。外底面、切り離した後ナデ。
1430	〃	〃	〃 柱高	橙色 5YR7/8	橙色 5YR7/8	浅黄橙色 7.5YR8/6	-	(2.4)	-	4.9	P520 出土。外底面に高脚の輪高台を貼付。内外面、回転ナデ。
1431	〃	〃	〃 〃	浅黄橙色 10YR8/4	浅黄橙色 10YR8/4	浅黄橙色 10YR8/4	-	(2.7)	-	6.5	P299 出土。外底面に高脚の輪高台を貼付。内外面、回転ナデ。
1432	〃	〃	〃 羽釜	褐灰色 7.5YR4/1	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/2	19.4	(4.5)	-	-	P543 出土。断面台形の鑊を貼付。口縁内面、ヨコナデ。体部外面、タテハケ。煤。撰津系。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 381 1433	7-3 区	SB43	須恵 蓋	灰色 N6/0	灰色 N6/0	灰色 N6/0	-	(1.8)	-	-	P127 出土。天井部、緩やかな弧状。宝珠形の摘み。回転ヘラケズリ / 回転ナデ・ヨコナデ。
図 384 1434	〃	SB45	土師 杯	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	9.5	2.5	-	6.2	P664 出土。口唇、丸みを帯びた先端状。口縁、外反気味。体部、内湾気味。回転ナデ。外底面、ヘラ切り後ナデか。
1435	〃	〃	須恵 蓋	灰色 5Y6/1	灰白色 2.5Y7/1	灰白色 2.5Y7/1	12.5	(1.6)	-	-	P664 出土。天井部、丸みを帯びる。短小なかえりを付す。内外面、回転ナデ。
1436	〃	〃	〃 壺	褐灰色 10YR5/1	褐灰色 10YR5/1	褐灰色 10YR5/1	-	(7.2)	-	13.4	P870 出土。内外面、回転ナデ。
図 388 1439	〃	SB48	土師 皿	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	にぶい橙色 5YR7/4	9.2	1.8	-	6.0	P108 出土。内外面、回転ナデ。外底面、回転糸切り痕。
1440	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	12.8	1.5	-	10.5	P108 出土。内外面、回転ナデ。内底面・外底面、ミガキ。
図 390 1441	〃	SB49	〃 杯	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	13.8	2.7	-	9.8	P872 出土。内外面、回転ナデ。外底面、回転ヘラ切り後ナデか。外底面、簧状圧痕。
図 394 1442	7-4 区	SB52	〃 羽釜	灰褐色 7.5YR5/2	褐灰色 7.5YR4/1	にぶい褐色 7.5YR6/3	23.0	(2.0)	-	-	P761・762 出土。鐙を付し、上面、面取り。内外面、ヨコナデ。
図 398 1443	〃	SB55	〃 杯	にぶい橙色 7.5YR6/4	橙色 7.5YR6/6	褐灰色 7.5YR5/1	-	(1.2)	-	7.6	P790 出土。内底面、ミガキ。外底面、回転ヘラ切り後ミガキか。
1444	〃	〃	土質 〃	にぶい黄橙色 10YR7/3	橙色 5YR7/6	浅黄橙色 10YR8/3	-	(0.7)	-	7.6	P857 出土。内底面、回転ナデ。外底面、回転ヘラ切り後ナデ。
1445	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	明赤褐色 2.5YR5/6	-	(0.9)	-	7.8	P830 出土。外底面、回転ヘラ切り後ナデか。摩耗、調整等不明瞭。被熱か。
図 402 1446	〃	SB57	〃 皿	浅黄橙色 10YR8/3	橙色 5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	8.6	1.6	-	5.4	P760 出土。内底面、回転ナデ。外底面、回転糸切り痕。
1447	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	9.6	1.4	-	6.4	P760 出土。内底面、回転ナデ。柱状高台か。やや摩耗。
1448	〃	〃	〃 杯	浅黄橙色 7.5YR8/4	橙色 5YR7/6	にぶい橙色 5YR7/4	14.8	3.6	-	7.9	P760 出土。内外面、回転ナデ。ロクロ目。内底面、渦状。外底面、回転糸切り痕。器面若干荒れ。
1449	〃	〃	黒色 碗	黒褐色 2.5Y3/1	橙色 7.5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	10.7	(2.1)	-	-	P780 出土。口縁端部、僅かに外反。外面、ヨコナデ。内面、ヨコミガキ。黒色土器 A 類。
図 404 1450	〃	SB58	土質 皿	橙色 5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	8.5	1.8	-	3.3	P878 出土。摩耗、調整等不明。
1451	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	明赤褐色 5YR5/6	褐灰色 10YR4/1	9.8	2.0	-	7.6	P781 出土。摩耗、調整不明。
1452	〃	〃	〃 〃	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	黒褐色 10YR3/1	10.2	1.5	-	6.6	SK53 出土。内外面、回転ナデ。外底面、回転ヘラ切り後ナデ。
1453	〃	〃	〃 杯	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい橙色 7.5YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	7.4	2.4	-	-	SK49 出土。口縁、輪花状。内外面、回転ナデ。
1454	〃	〃	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	9.4	3.8	-	5.2	SK53 出土。円盤状高台。内外面、回転ナデ。外底面、回転ヘラ切り後ナデ。
1455	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	9.9	3.0	-	5.7	SK49 出土。内外面、回転ナデ。外底面、回転ヘラ切り痕。摩耗。ほぼ完存。
1456	〃	〃	〃 〃	浅黄橙色 7.5YR8/3	浅黄橙色 7.5YR8/3	灰白色 7.5YR8/2	10.4	3.5	-	5.8	P878 出土。内外面、回転ナデ。内底面、渦状。外底面、回転ヘラ切り痕。煤。
1457	〃	〃	〃 〃	浅黄橙色 10YR8/3	にぶい橙色 7.5YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/2	10.8	4.1	-	6.0	SK49 出土。内外面、回転ナデ。外底面、回転糸切り痕。
1458	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	褐灰色 7.5YR5/1	11.3	2.4	-	7.6	SK49 出土。内外面、回転ナデ。切離し手法、不明。器壁、厚い。黒斑。被熱。
1459	〃	〃	〃 〃	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	12.4	2.4	-	9.0	SK49 出土。内外面、回転ナデ。切離し手法、不明。摩耗。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 404 1460	7-4 区	SB58	土質 杯	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	浅黄橙色 7.5YR8/4	-	(1.3)	-	5.6	SK50 出土。内外面, 回転ナデ。外底面, 回転糸切り痕。
1461	〃	〃	〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	-	(1.4)	-	6.0	SK53 出土。内外面, 回転ナデ。外底面, 回転ヘラ切り 後ナデ。
1462	〃	〃	〃	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	灰白色 10YR8/2	-	(1.5)	-	6.4	P900 出土。摩耗, 調整・切離し手法, 不明。
1463	〃	〃	〃	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい黄橙色 10YR7/4	-	(1.2)	-	6.6	SK50 出土。内外面, 回転ナデ。外底面, ナデ, 切離し手 法, 不明。
1464	〃	〃	〃	にぶい褐色 7.5YR5/3	にぶい褐色 7.5YR5/3	にぶい褐色 7.5YR5/3	-	(1.7)	-	7.2	SK53 出土。内外面, 回転ナデ。外底面, ヘラ切り後ナ デ。
1465	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	14.2	(3.1)	-	-	SK49 出土。内外面, 回転ナデ。椀か。
1466	〃	〃	〃 椀	浅黄橙色 10YR8/4	浅黄橙色 10YR8/4	浅黄橙色 10YR8/4	-	(2.1)	-	5.9	SK53 出土。円盤状高台。内外面, 回転ナデ。外底面, 回 転糸切り痕。
1467	〃	〃	〃	灰白色 10YR8/2	灰白色 10YR8/2	灰白色 10YR8/2	-	(2.4)	-	6.6	SK53 出土。円盤状高台。内外面, 回転ナデ。外底面, 回 転糸切り痕。
1468	〃	〃	〃	灰褐色 7.5YR5/2	にぶい橙色 7.5YR7/3	にぶい褐色 7.5YR6/3	-	(3.2)	-	6.6	SK49 出土。円盤状高台。内外面, 回転ナデ。外底面, 回 転糸切り痕。
1469	〃	〃	〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	-	(2.1)	-	7.0	SK53 出土。円盤状高台。内外面, 回転ナデ。外底面, 回 転糸切り痕。
1470	〃	〃	〃	灰白色 2.5Y8/1	灰白色 10YR8/2	灰色 5Y6/1	-	(2.5)	-	7.0	P867 出土。円盤状高台。内外面, 回転ナデ。外底面, 回 転糸切り痕。
1471	〃	〃	〃 柱高	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	-	(3.0)	-	6.8	P770 出土。外底面に高脚の輪高台を貼付。内外面, 回 転ナデ。若干, 摩耗。
1472	〃	〃	〃	橙色 5YR7/6	橙色 2.5YR7/6	橙色 2.5YR7/6	-	(1.9)	-	7.2	SK53 出土。外底面に断面形逆台形の輪高台を貼付。 内外面, 回転ナデ。
1473	〃	〃	〃	にぶい黄橙色 10YR7/2	にぶい黄橙色 10YR7/2	にぶい黄橙色 10YR7/2	-	(2.7)	-	-	SK49 出土。外底面に「ハ」の字形の高脚の輪高台を 貼付。内外面, 回転ナデ。
1474	〃	〃	〃	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい褐色 7.5YR5/3	浅黄橙色 7.5YR8/3	-	(3.2)	-	8.3	P878 出土。外底面に「ハ」の字形の高脚の輪高台を 貼付。内外面, 回転ナデ。焼成堅緻。
1475	〃	〃	〃	橙色 5YR7/6	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	-	(2.1)	-	9.0	SK50 出土。外底面に高脚の輪高台を貼付。外面, 回転 ナデ。内面, ナデか。体部と高台で色調が異なる。
1476	〃	〃	〃	灰黄褐色 10YR6/2	灰黄褐色 10YR6/2	灰黄褐色 10YR6/2	9.8	(1.5)	-	-	SK49 出土。杯皿部, 皿状。内外面, 回転ナデ。
1477	〃	〃	〃	にぶい黄橙色 10YR7/3	橙色 5YR6/6	にぶい黄橙色 10YR7/3	-	(1.7)	-	-	SK49 出土。杯皿部, 皿状。高台, 剥離。外面, 回転ナ デ。内面, ナデ。
1478	〃	〃	須恵 杯	灰白色 2.5Y7/1	灰白色 2.5Y7/1	灰白色 2.5Y7/1	-	(0.9)	-	-	P892 出土。内外面, 回転ナデ。内底面, 仕上げナデ。外 底面, 回転ヘラ切り後ナデ。外面, 火樫。雑なつくり。
1479	〃	〃	黒色 椀	灰色 5Y4/1	橙色 5YR7/6	にぶい黄橙色 10YR7/3	-	(1.6)	-	6.6	SK49 出土。外底面に幅がひろい安定感のある輪高台 を貼付。外面, 回転ナデ。内面, ミガキ。黒色土器 A 類。
1480	〃	〃	〃	黒色 2.5Y2/1	橙色 5YR6/6	灰黄褐色 10YR6/2	-	(1.6)	-	8.4	P878 出土。外底面に断面三角形の輪高台を貼付。 ミガキ。内面黒色。摩耗。黒色土器 A 類。
1481	〃	〃	土師 甕	にぶい褐色 7.5YR5/3	にぶい褐色 7.5YR5/3	褐灰色 10YR4/1	28.8	(6.7)	-	-	SK49 出土。口縁端部, 摘み上げ。口縁, ヨコナデ。体 部, ヨコナデ。煤。
1482	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	23.0	(8.7)	-	-	P781 出土。口縁端部, 摘み上げ。口縁, ヨコナデ。体 部, ヨコナデ。煤。
1483	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	-	(6.1)	-	-	P770 出土。口縁外面, ヨコナデ。内面, ヨコハケ。体部 外面, ヨコハケ。内面, ヨコナデ。
図 406 1484	〃	SB59	土質 皿	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	10.3	(2.3)	-	-	P811 出土。内外面, 回転ナデ。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 406 1485	7-3 区	SB59	土質 椀	浅黄橙色 10YR8/4	橙色 5YR7/6	灰白色 10YR8/2	-	(1.7)	-	7.7	P82 出土。円盤状高台。内外面、回転ナデ。内底面、渦状。外底面、切り離した後ナデ。
1486	〃	〃	〃	灰白色 2.5Y8/2	灰白色 2.5Y8/2	灰白色 2.5Y8/2	-	(3.3)	-	6.0	P82 出土。円盤状高台。内外面、回転ナデ。外底面、回転糸切り痕。外面に火襷。
1487	〃	〃	〃	灰白色 2.5Y8/2	灰白色 2.5Y8/2	灰白色 2.5Y8/2	-	(2.3)	-	7.0	P237 出土。円盤状高台。内外面、回転ナデ。外底面、回転糸切り痕。摩耗。
1488	〃	〃	〃 柱高	橙色 5YR7/6	橙色 2.5YR6/8	橙色 5YR7/6	-	(2.7)	-	7.0	P82 出土。外底面に高脚の輪高台を貼付。内外面、回転ナデ。
1489	〃	〃	〃	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 7.5YR8/3	灰色 N5/0	-	(2.9)	-	6.6	P82 出土。外底面に高脚の輪高台を貼付。内外面、回転ナデ。
1490	〃	〃	須恵 口縁部片	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y5/1	-	(1.2)	-	-	P811 出土。内外面、回転ナデ。杯蓋を利用。内底面に墨痕。転用碗。
図 409 1491	〃	SB61	土質 皿	灰白色 10YR8/2	浅黄橙色 10YR8/3	褐灰色 10YR5/1	8.9	1.9	-	5.4	P84 出土。外底面、回転糸切り痕。内底面に爪状圧痕。摩耗。
1492	〃	〃	黒色 椀	黒色 10YR2/1	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	-	(4.6)	-	7.0	P201 出土。外底面に輪高台を貼付。外面、回転ヘラナデ。内面、ミガキか。内面黒色。黒色土器 A 類。
1493	〃	〃	土質 羽釜	褐灰色 7.5YR6/1	褐灰色 7.5YR6/1	褐灰色 7.5YR6/1	21.2	(8.4)	-	-	P201 出土。口唇、面状。鈔部、口縁端から庇状に付す。体部、直立気味。鈔部：ヨコナデ。煤。摂津系。
図 412 1494	〃	SB63	〃 皿	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	9.7	2.1	-	6.6	P149 出土。内底面、指圧。外底面、回転ヘラ切り痕。摩耗。
図 414 1495	〃	SB64	製塩 土器	明赤褐色 2.5YR5/8	にぶい黄褐色 10YR5/3	明黄褐色 10YR6/6	(7.7)	(6.6)	-	-	P71 出土。内面、布目圧痕。
図 416 1496	〃	SB65	土質 皿	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	灰白色 2.5Y7/1	9.6	2.0	-	6.5	P64 出土。内外面、回転ナデ。内底面、ヨコナデ。外底面、切り離した後ナデ・簀状圧痕。
1497	〃	〃	〃 杯	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	15.1	4.1	-	8.3	P64 出土。内外面、回転ナデ。外底面、切り離した後ナデ。
図 420 1498	〃	SB68	〃 皿	浅黄橙色 10YR8/3	にぶい橙色 7.5YR7/4	浅黄橙色 10YR8/3	9.8	1.5	-	6.8	P104 出土。内外面、回転ナデ。外底面、回転糸切りか。
図 423 1499	7-4 区	SA4	〃 杯	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	-	(1.8)	-	6.8	P652 出土。摩耗のため、調整不明。被熱。
図 425 1500	〃	SA6	〃 皿	にぶい橙色 5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	浅黄褐色 10YR8/3	-	(1.3)	-	10.8	P782・783 出土。体部、内外面、回転ナデ。内底面、仕上げナデ。外底面、回転ヘラ切り後ナデ。
1501	〃	〃	〃 柱高	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	9.7	-	-	5.8	P803 出土。外底面に高脚の輪高台を貼付。内外面、回転ナデ。外底面、回転ヘラ切り痕。
1502	〃	〃	〃 杯	浅黄褐色 10YR8/3	にぶい橙色 7.5YR7/4	浅黄褐色 10YR8/3	9.1	-	-	5.6	P747 出土。内外面、回転ナデ。内底面、凹状。外底面、回転ヘラ切り後ナデか。
1503	〃	〃	〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	9.2	2.5	-	7.5	P615 出土。内外面、回転ナデ。
1504	〃	〃	〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	10.0	2.3	-	6.0	P615 出土。内外面、回転ナデ。内底面、僅かに凹状。外底面、回転ヘラ切り痕。若干、摩耗。
1505	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR7/3	にぶい橙色 7.5YR6/3	にぶい橙色 7.5YR7/3	11.4	3.0	-	5.4	P893 出土。内外面、回転ナデ。外底面、回転ヘラ切り後ナデか。
1506	〃	〃	〃	橙色 2.5YR6/6	橙色 2.5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	12.6	3.4	-	8.0	P803 出土。内外面、回転ナデ。内底面、「の」の字状ナデ。外底面、回転ヘラ切り痕。
1507	〃	〃	〃 椀	にぶい橙色 7.5YR7/4	橙色 5YR7/6	浅黄褐色 10YR8/3	-	(3.3)	-	6.4	P747 出土。内外面、回転ナデ。外面、ロクロ目。
1508	〃	〃	〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	-	(2.8)	-	4.8	P803 出土。円盤状高台。内外面、回転ナデ。外底面、回転糸切り痕。器面、荒れる。
1509	〃	〃	須恵 〃	灰白色 2.5Y7/1	灰白色 2.5Y7/1	灰白色 2.5Y7/1	-	(2.5)	-	-	P893 出土。外面、回転ナデ・回転ヘラケズリ後ヘラミガキ。内面、ヘラミガキ。内面、火襷。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 426 1511	7-4 区	SA7	土質 皿	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 5YR7/4	灰白 7.5YR8/2	10.2	1.9	-	6.4	P647 出土。内外面, 回転ナデ。内面, 「の」の字状ナ デか。外底面, 回転糸切り痕・箕状圧痕。
1512	〃	〃	〃 杯	褐灰色 10YR4/1	灰黄褐色 10YR6/2	にぶい橙色 7.5YR7/4	-	(1.5)	-	6.8	P890 出土。内外面, 回転ナデ。外底面, 回転ヘラ切り 後ナデ。
1513	〃	〃	〃 柱高	にぶい黄褐色 10YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/4	-	(3.2)	-	7.6	P714 出土。外底面に「ハ」の字形の輪高台を貼付。 内外面, 回転ナデ。外面, ロクロ目。
図 429 1514	〃	SA8	土質 杯	浅黄褐色 10YR8/3	浅黄褐色 7.5YR8/4	浅黄褐色 10YR8/3	15.6	4.5	-	8.3	P856 出土。内外面, 回転ナデ。外底面, 回転糸切り痕。
1515	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	にぶい赤褐色 5YR5/4	褐灰色 10YR5/1	-	(0.7)	-	-	P856 出土。内底面, 「の」の字状ナデ。外底面, 回転 糸切り痕・箕状圧痕。
1516	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい黄褐色 10YR7/2	-	(1.1)	-	7.6	P856 出土。摩耗。外底面, 回転ヘラ切り痕。
1517	〃	〃	〃 柱高	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	-	(2.7)	-	5.4	P791 出土。外底面, 「ハ」の字形の高脚の輪高台を 貼付。内外面, 回転ナデ。
図 431 1518	〃	SA9	〃 皿	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい黄褐色 10YR7/3	浅黄褐色 7.5YR8/3	8.4	1.2	-	6.6	P778 出土。内外面, 回転ナデ。外底面, 回転糸切り痕。
1519	〃	〃	〃 杯	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	浅黄褐色 10YR8/3	-	(0.6)	-	4.6	P847 出土。内外面, 回転ナデ。外底面, 回転糸切り痕。
1520	〃	〃	〃 碗	橙色 5YR7/6	浅黄褐色 7.5YR8/4	橙色 5YR7/6	-	(2.4)	-	5.8	P847 出土。内外面, 回転ナデか。外底面, 断面形逆台 形の低い輪高台を貼付。やや摩耗。
図 434 1522	7-3 区	SA11	黒色 〃	黒色 10YR2/1	黒色 10YR2/1	褐灰色 10YR5/1	-	(3.4)	-	-	P321 出土。口縁, 内面に沈線状。ヨコミガキ。黒色土 器 B 類。
図 435 1523	7-1 区	SK2	弥生 壺	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	-	(8.1)	-	7.8	厚い平底。体部：叩き後ハケ / ハケ。底部：叩き / 放 射状の工具痕。
図 440 1524	7-1-1 区	SK11	〃 〃	明赤褐色 2.5YR5/6	赤褐色 5YR4/6	にぶい黄褐色 10YR6/3	12.6	(4.2)	-	-	口唇, 凹面状。頸部：タテミガキ / ヨコミガキ。突帯 状の微隆起。
1525	〃	〃	〃 〃	灰黄褐色 10YR5/2	明赤褐色 5YR5/6	黄灰色 2.5Y6/1	13.6	(10.9)	-	-	口縁, 短く外反。口唇, 面状。撫で肩状の上胴部。頸部： タテハケ / ヨコハケ・指圧。
1526	〃	〃	〃 〃	明赤褐色 2.5YR5/6	明赤褐色 2.5YR5/6	橙色 5YR6/6	15.4	32.2	23.8	9.3	口唇, 面状。厚い平底。胴部：叩き後タテハケ / ヨコ ハケ。接合痕。
1527	〃	〃	〃 甕	にぶい赤褐色 2.5YR5/4	にぶい赤褐色 5YR5/4	黒褐色 7.5YR3/1	11.2	(10.5)	12.1	-	口縁, 緩やかにひらく。体部：タテハケ / 指圧。煤。
1528	〃	〃	〃 〃	にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい赤褐色 5YR5/4	褐灰色 10YR4/1	13.6	(7.2)	-	-	口縁, 緩やかに外反。粘土帯を貼付し肥厚。体部：叩 き後タテハケ / ナデ・指圧。煤。接合痕。
1529	〃	〃	〃 〃	にぶい褐色 7.5YR5/3	にぶい黄褐色 10YR7/4	にぶい黄褐色 10YR6/3	11.4	(9.7)	-	-	口縁, 短くひらく。口縁：/ ヨコハケ。体部：タテハ ケ / ヘラナデ。接合痕。
1530	〃	〃	〃 〃	にぶい赤褐色 5YR4/4	にぶい赤褐色 5YR4/4	にぶい赤褐色 5YR5/4	13.9	(4.8)	-	-	凹線文系。口唇, 僅かに拡張し凹面状。口縁：ナデ / ヘラナデ。搬入品（讃岐産）の可能性。
1531	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	14.5	(21.9)	18.9	-	凹線文系。口唇, 僅かに拡張し凹面状。体部：叩き後 タテハケ / ハケ・ナデ。煤。
1532	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	明赤褐色 5YR5/6	暗灰黄色 2.5Y4/2	17.2	(22.0)	21.3	-	凹線文系。「く」。口唇, 僅かに拡張し 2 条凹線文。体 部：タテハケ / ヘラケズリ。煤。
1533	〃	〃	〃 〃	浅黄褐色 10YR8/3	にぶい橙色 7.5YR6/4	浅黄褐色 10YR8/3	15.5	(17.9)	22.0	-	凹線文系。「く」。口唇, 下端拡張し 2 条凹線文。体部： ハケ / ヘラケズリ・指圧。煤。
1534	〃	〃	〃 〃	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい橙色 7.5YR7/4	灰色 N5/0	26.2	(23.5)	28.0	-	口縁, 僅かに外傾。口唇, 面状。口縁：ハケ。体部：叩 き / ハケ・ナデ。煤。
1535	〃	〃	〃 〃	黒褐色 10YR3/2	にぶい褐色 7.5YR5/3	灰褐色 7.5YR4/2	-	(5.0)	-	5.6	凹線文系。平底。体部：ヘラナデ / ナデ。煤。
1536	〃	〃	〃 鉢	橙色 5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	褐灰色 10YR4/1	-	(6.6)	-	3.6	突出する小径な平底。体部：叩き後ハケ / ヘラナデ。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 443 1537	7-3 区	SK12	土質 皿	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	灰黄褐色 10YR5/2	8.6	1.4	-	6.5	内外面、回転ナデ。外底面、回転ヘラ切り痕。
1538	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	浅黄褐色 10YR8/3	9.3	1.5	-	7.0	内外面、回転ナデ。外底面、回転糸切りか。
1539	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	浅黄褐色 10YR8/3	9.1	1.6	-	6.2	内外面、回転ナデ。外底面、回転ヘラ切り痕。
1540	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	-	9.0	2.1	-	5.4	内外面、回転ナデ。外底面、回転糸切り痕。完存。
1541	〃	〃	〃 〃	橙色 2.5YR6/6	橙色 2.5YR6/6	橙色 2.5YR6/6	8.8	1.7	-	6.0	内外面、回転ナデ。外底面、静止糸切り痕。
1542	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	浅黄褐色 10YR8/3	9.0	1.9	-	6.0	内外面、回転ナデ。内底面、ヨコナデ、凹状。外底面、回転糸切り痕。
1543	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 5YR7/4	にぶい橙色 5YR7/4	にぶい橙色 5YR7/4	9.6	2.1	-	6.0	内外面、回転ナデ。外底面、回転糸切り痕。
1544	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	9.6	1.8	-	5.6	外底面、回転糸切り痕。摩耗。ほぼ完存。
1545	〃	〃	〃 〃	浅黄褐色 10YR8/3	浅黄褐色 10YR8/3	浅黄褐色 10YR8/3	10.0	1.7	-	5.6	内外面、回転ナデ。外底面、回転糸切り痕。ほぼ完存。
1546	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR7/8	橙色 5YR7/8	淡褐色 5YR8/4	9.7	2.0	-	6.4	内外面、回転ナデ。内底面、渦状。外底面、回転糸切り痕・贅状圧痕。ほぼ完存。
1547	〃	〃	〃 〃	橙色 2.5YR6/6	にぶい橙色 5YR6/4	浅黄褐色 10YR8/3	10.2	2.2	-	6.6	内外面、回転ナデ。内底面、凹状。外底面、回転糸切り痕。
1548	〃	〃	〃 〃	浅黄褐色 10YR8/3	浅黄褐色 10YR8/3	浅黄褐色 10YR8/3	13.9	3.1	-	7.8	内外面、回転ナデ。外底面、回転糸切り痕。摩耗。
1549	〃	〃	〃 底部	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR7/3	-	(1.1)	-	-	内外面、回転ナデ。外底面、回転ヘラ切り痕。
1550	〃	〃	〃 〃	浅黄褐色 7.5YR8/4	浅黄褐色 10YR8/4	褐灰色 10YR6/1	-	(1.4)	-	8.2	内外面、回転ナデ。外底面、回転ヘラ切り後ナデ。
1551	〃	〃	〃 柱高	浅黄褐色 7.5YR8/4	浅黄褐色 7.5YR8/4	浅黄褐色 7.5YR8/4	7.5	2.8	-	4.2	杯皿部、皿状。台部、円柱状。内外面、回転ナデ。外底面、回転糸切り痕。
1552	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	浅黄褐色 7.5YR8/3	8.5	3.1	-	4.0	杯皿部、皿状。台部、円柱状。内外面、回転ナデ。外底面、回転糸切り痕。ほぼ完存。
1553	〃	〃	〃 〃	浅黄褐色 10YR8/3	灰白色 10YR8/2	灰白色 10YR8/2	8.6	2.9	-	4.4	杯皿部、皿状。台部、断面台形の低い円柱状。内外面、回転ナデ。外底面、回転糸切り痕。摩耗。
1554	〃	〃	〃 〃	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい黄褐色 10YR7/3	-	(2.0)	-	5.4	台部、低い円柱状。内外面、回転ナデ。外底面、回転糸切り痕。
1555	〃	〃	〃 〃	灰黄褐色 10YR6/2	灰黄褐色 10YR6/2	灰黄褐色 10YR6/2	-	(2.3)	-	4.2	台部、低い円柱状。内外面、回転ナデ。外底面、回転糸切り痕。
1556	〃	〃	土師 蓋	灰褐色 5YR4/2	明赤褐色 2.5YR5/6	にぶい黄褐色 10YR6/4	19.8	(2.5)	-	-	口縁、下方へ短く折り曲げ。内外面、ミガキ。被熱赤変。
図 444 1559	〃	〃	須恵 甕	灰色 N4/0	灰色 N4/0	褐灰色 10YR4/1	42.8	(60.4)	86.2	-	格子叩き / 同心円状（車輪文）当て具痕。
図 446 1560	〃	SK13	〃 椀	灰白色 5Y8/1	灰白色 5Y8/1	灰白色 5Y8/1	14.9	5.6	-	7.1	外傾気味の円盤状高台。内外面、回転ナデ。内底面、凹状。外底面、切り離し後ナデ。
図 449 1561	〃	SK16	土質 皿	灰白色 10YR8/2	灰白色 10YR8/2	灰白色 10YR8/2	7.2	1.4	-	5.0	内外面、回転ナデ。内底面、ヨコナデ。外底面、回転糸切り痕。
1562	〃	〃	瓦器 〃	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y6/1	灰白色 2.5Y8/1	8.7	1.0	-	7.0	口縁：ヨコナデ。底部：指圧。炭素吸着は殆ど無し。
図 451 1563	〃	SK19	土師 椀	灰白色 2.5Y8/2	灰白色 2.5Y8/2	灰白色 2.5Y8/2	-	(3.3)	-	7.0	外傾気味の円盤状高台。内外面、回転ナデ（内底凹状）。外底面、回転糸切り痕。火摺。須恵器か。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 453 1565	7-3 区	SK20	弥生 高杯	にぶい 橙色 7.5YR7/3	橙色 5YR6/6	にぶい 橙色 7.5YR7/3	-	(6.5)	-	-	円筒状の脚部から大きくひらく裾部。脚部：ヘラミ ガキ（縦）/ 工具ナデ。
図 456 1566	〃	SK25	土質 底部	灰白色 2.5Y8/2	灰白色 2.5Y8/2	灰白色 2.5Y8/2	-	(14)	-	7.0	外底面、回転糸切り痕。摩耗。
1567	〃	〃	〃 柱高	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	-	(2.9)	-	4.7	台部、円盤状。摩耗。
図 458 1568	7-4 区	SK29	土師 蓋	にぶい 橙色 7.5YR7/4	橙色 7.5YR6/6	にぶい 橙色 7.5YR7/3	-	-	(2.5)	19.5	内外面、回転ナデ後ミガキ。天井部内面、ナデ後ミガ キ。
1569	〃	〃	〃 〃	にぶい 橙色 7.5YR7/4	にぶい 黄橙色 10YR7/4	褐灰色 10YR4/1	23.0	(1.7)	-	-	内外面、回転ナデ後ミガキ。
1570	〃	〃	〃 杯	橙色 2.5YR6/6	橙色 2.5YR6/6	橙色 2.5YR6/6	14.5	3.9	-	8.0	折り曲げ口縁。内外面、ヨコミガキ。外底面、回転ヘラ 切り後ミガキ。
1571	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	にぶい 橙色 7.5YR7/4	14.8	(3.0)	-	-	折り曲げ口縁。内外面、ヨコミガキ。
1572	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	-	(1.2)	-	8.2	内底面、ミガキ。外底面、回転ヘラ切り痕。
1573	〃	〃	〃 不明	にぶい 褐色 7.5YR5/4	灰褐色 7.5YR4/2	明褐色 7.5YR5/6	-	(2.2)	-	-	口唇、僅かに肥厚、面取り。内外面、ヨコナデ。
1574	〃	〃	製塩 土器	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	-	(3.1)	-	-	口唇、内傾。外面、ナデ。内面、布目圧痕。
1576	〃	〃	弥生 壺	にぶい 黄橙色 10YR7/3	にぶい 黄橙色 10YR7/3	褐灰色 10YR5/1	10.9	(4.5)	-	-	複合口縁壺。内傾する二次口縁を付加。口唇、面取 り。二次口縁：ヨコナデ/ナデ。
図 459 1577	〃	SK29・ 36	須恵 杯	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y6/1	14.6	3.3	-	8.8	口縁、外上方へ立ち上がる。内外面、回転ナデ。外底 面、回転ヘラ切り後ナデ。焼成やや不良。
1578	〃	〃	土師 〃	にぶい 黄橙色 10YR7/4	明黄褐色 10YR7/6	にぶい 黄橙色 10YR7/4	14.7	3.5	-	8.6	口縁、外上方へ立ち上がる。内外面、回転ナデ。外底 面、回転ヘラ切り後ナデ。焼成不良。
1579	〃	〃	須恵 体部	黄灰色 2.5Y5/1	黄灰色 2.5Y5/1	黄灰色 2.5Y6/1	-	(3.3)	-	-	平行叩き/ナデ。墨痕か煤が付着。転用碗か。
図 460 1580	〃	SK29・ 42	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 7.5YR7/6	橙色 5YR7/6	-	(13.2)	-	-	格子叩き/同心円状の当て具痕。焼成不良。
図 462 1581	〃	SK30	土質 鍋	褐灰色 10YR4/1	灰褐色 7.5YR5/2	褐灰色 10YR4/1	35.4	(18.5)	34.8	-	外反口縁。口唇、丸みを帯びる。口縁：ヨコナデ・指 圧/ヘラナデ。体部：ハケ/指圧/ハケ/指圧。煤。搬入。
1582	〃	〃	白磁 碗	灰黄色 2.5Y7/2	灰黄色 2.5Y7/2	灰白色 2.5Y8/1	16.7	6.9	-	6.6	口縁、玉縁。高台、露胎。口縁、釉が垂れる。ピンホー ル。IV類。
図 464 1583	〃	SK31	弥生 甕	にぶい 黄橙色 10YR7/2	にぶい 黄橙色 10YR7/3	灰白色 10YR8/2	17.4	(6.0)	-	-	口唇、ハケ状原体による面取り。口縁：タテハケ/ハ ケ。体部：タテハケ/ナデ・指圧。煤。
図 466 1584	〃	SK32	土質 皿	にぶい 黄橙色 10YR7/3	にぶい 黄橙色 10YR7/3	にぶい 黄橙色 10YR7/3	7.9	1.3	-	5.6	内外面、回転ナデ。外底面、回転糸切り痕。
1585	〃	〃	〃 〃	にぶい 橙色 7.5YR7/4	橙色 2.5YR6/6	褐灰色 10YR4/1	8.5	1.9	-	5.8	内外面、回転ナデ。外底面、回転糸切り痕。外面、釉葉 が付着か。
1586	〃	〃	〃 〃	橙色 2.5YR6/6	橙色 2.5YR6/6	褐色 7.5YR7/6	9.0	1.7	-	6.6	内外面、回転ナデ。外底面、回転ヘラ切りか。
1587	〃	〃	〃 〃	灰白色 10YR8/2	浅黄橙色 10YR8/3	灰白色 10YR8/2	10.0	1.3	-	7.0	内外面、回転ナデ。外底面、回転ヘラ切り痕。摩耗。
1588	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	褐色 5YR6/6	10.3	1.8	-	7.6	内外面、回転ナデ。内底面、回転ナデによる凹凸有 り。外底面、回転ヘラ切り痕。摩耗。
1589	〃	〃	〃 〃	にぶい 橙色 7.5YR6/4	にぶい 橙色 7.5YR6/4	灰黄褐色 10YR5/2	10.6	1.1	-	7.0	口縁、低平状を成し、口唇部は丸くおさめる。内外 面、回転ナデ。外底面、回転ヘラ切り痕。
1590	〃	〃	〃 〃	にぶい 黄橙色 10YR7/3	にぶい 橙色 7.5YR7/4	にぶい 黄橙色 10YR7/3	10.6	2.0	-	5.4	内外面、回転ナデ。内面、ヘラミガキ。外底面、回転糸 切り痕。丁寧な仕上げ。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 466 1591	7-4 区	SK32	土質 皿	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	10.8	2.1	-	7.3	外面, 回転ナデ。内面, ミガキ。外底面, 回転ヘラ切り 後ナデ。
1592	〃	〃	〃 柱高	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	9.6	(1.2)	-	-	皿状。口唇部は丸くおさめる。内外面, 回転ナデ。丁寧 な仕上げ。
1593	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 5YR7/4	にぶい橙色 5YR7/4	黄灰色 2.5Y4/1	11.6	2.9	-	6.6	杯皿部, 皿状。外底面には「ハ」の字形の高脚の輪高 台を貼付。内外面, 回転ナデ。
1594	〃	〃	〃 〃	灰白色 10YR8/2	灰白色 10YR8/2	黄灰色 2.5Y6/1	-	(3.0)	-	6.8	外底面に「ハ」の字形の高脚の輪高台を貼付。内外 面, 回転ナデ。
1595	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	-	(2.5)	-	5.8	外底面にひらき気味の高脚の輪高台を貼付。内外 面, 回転ナデ。
1596	〃	〃	〃 杯	黄橙色 10YR8/6	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	8.8	2.6	-	6.2	内外面, 回転ナデ。内底面, 若干の凹凸有り。外底面, 回転ヘラ切り痕。
1597	〃	〃	〃 〃	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	灰白色 10YR7/1	9.2	3.3	-	5.6	内外面, 回転ナデ。ヘラミガキか。外底面, 回転ヘラ切 り痕。
1598	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	9.3	2.3	-	6.5	内外面, 回転ナデ。外底面, 回転ヘラ切り後ナデ。
1599	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	浅黄橙色 7.5YR8/4	9.6	2.5	-	6.6	内外面, 回転ナデ。底端部, やや張り出し気味。外底 面, 回転ヘラ切り痕。摩耗。
1600	〃	〃	〃 〃	橙色 2.5YR7/8	橙色 2.5YR7/8	橙色 5YR7/6	9.6	3.3	-	6.3	内外面, 回転ナデ。外底面, 回転ヘラ切り痕。
1601	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	にぶい黄橙色 10YR7/3	9.6	3.0	-	6.6	内外面, 回転ナデ。外底面, 回転ヘラ切り痕。
1602	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	-	9.6	-	-	6.6	内外面, 回転ナデ。内底面, 凹凸有り。外底面, 回転ヘ ラ切り痕。完存。
1603	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	浅黄橙色 10YR8/3	9.7	2.8	-	6.2	内外面, 回転ナデ。外底面, 切離し手法, 不明。
1604	〃	〃	〃 〃	灰白色 10YR8/2	浅黄橙色 7.5YR8/3	灰白色 10YR8/2	9.7	3.1	-	7.1	内外面, 回転ナデ。外底面, 切離し手法, 不明。煤。
1605	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	9.8	3.1	-	6.5	内外面, 回転ナデ。内底面, 回転ナデによる凹凸有 り。外底面, 回転ヘラ切り痕。
1606	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	9.8	2.8	-	7.4	内外面, 回転ナデ。内底面, 回転ナデによる凹凸有 り。外底面, 回転ヘラ切り痕。
1607	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	10.0	2.8	-	6.2	内外面, 回転ナデ。ロクロ目, 顕著。内底面, 回転ナデ による凹凸有り。外底面, 回転ヘラ切り痕。
1608	〃	〃	〃 〃	灰白色 10YR8/2	灰白色 10YR8/2	灰白色 10YR8/2	-	(1.2)	-	6.0	内外面, 回転ナデ。外底面, 回転ヘラ切り痕。底部, 焼 成後穿孔。煤。
1609	〃	〃	〃 碗	にぶい橙色 7.5YR7/4	橙色 5YR7/6	褐灰色 10YR5/1	-	(2.0)	-	5.1	外傾する円盤状高台。内外面, 回転ナデ。外底面, 切離 し手法, 不明。
1610	〃	〃	〃 〃	灰白色 2.5Y7/1	灰白色 2.5Y7/1	灰白色 2.5Y7/1	-	(2.8)	-	6.2	円盤状高台。内外面, 回転ナデ。外底面, 回転糸切り 痕。
1611	〃	〃	〃 〃	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	-	(2.0)	-	7.9	外底面, 輪高台を貼付。内外面, 回転ナデ。
1612	〃	〃	須恵 壺	褐灰色 7.5YR5/1	灰褐色 5YR5/2	黄灰色 2.5Y5/1	15.3	(6.0)	-	-	口縁, 受け口状。内外面, 回転ナデ。内面, 自然釉。
1613	〃	〃	〃 〃	灰色 N5/0	灰色 N5/0	灰色 N5/0	21.9	(2.2)	-	-	口縁上端, 摘み上げ。内外面, 回転ナデ。内面, 自然釉。
1614	〃	〃	〃 〃	灰白色 2.5Y8/2	黒褐色 5YR3/1	褐灰色 10YR5/1	24.8	2.2	-	-	口縁上端, 摘み上げ。内外面, 回転ナデ。自然釉。
1615	〃	〃	緑釉 耳皿	オリーブ灰色 10Y6/2	オリーブ灰色 10Y6/2	灰白色 10YR8/1	-	(3.0)	-	4.0	外底面, 輪高台を貼付。内外面, 回転ナデ。内底面, ミ ガキ。やや明るいオリーブ灰色の釉薬。

遺物観察表 1620～1646

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 469 1620	7-4 区	SK34	土師 皿	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	18.3	(1.9)	-	-	内外面, 回転ナデ。口縁端部内面, 凹む。
1621	〃	〃	〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	18.3	1.7	-	13.0	外面, 回転ナデ後ミガキ。内面, 摩耗。外底面, 回転ヘ ラ切り後ミガキ。
1622	〃	〃	〃 杯	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	15.0	(2.6)	-	-	口縁内面, 凹む。内外面, ヨコミガキ。
1623	〃	〃	須恵 盤	灰白色 2.5Y7/1	灰白色 2.5Y7/1	黄灰色 2.5Y6/1	-	(3.3)	-	-	口唇, 面取り。口縁, 内外面, 回転ナデ・ナデ。
1624	〃	〃	土師 杯	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	-	(1.7)	-	12.9	外底面, 断面方形の高台を付す。内外面, ミガキ。
1625	〃	〃	〃 甕	灰黄褐色 10YR4/2	にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい褐色 7.5YR6/3	18.3	(1.8)	-	-	口唇, 面取り。口縁外面, ヨコナデ。内面, ヨコハケ。 煤。
1626	〃	〃	〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR7/6	25.0	(1.8)	-	-	口唇, 面取り。外面摩耗, ヨコナデか。口縁内面, ヨコ ハケ。
1627	〃	〃	製塩 土器	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	5.7	(1.9)	厚さ0.8	-	外面, ナデ。内面, 布目圧痕。
1628	〃	〃	〃	にぶい黄橙色 10YR6/3	にぶい黄橙色 10YR6/3	にぶい黄橙色 10YR6/3	-	(2.8)	厚さ1.0	-	外面, ナデ。内面, 布目圧痕。
1629	〃	〃	〃	橙色 5YR6/6	灰黄褐色 10YR6/2	黄灰色 2.5Y5/1	-	(4.5)	厚さ1.6	-	外面, ナデ。内面, 布目圧痕。器壁, 厚い。
1630	〃	〃	〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	-	(5.0)	厚さ1.6	-	外面, ナデ。内面, 布目圧痕。器壁, 厚い。
図 472 1633	〃	SK36	土質 底部	浅黄褐色 7.5YR8/4	浅黄褐色 7.5YR8/4	浅黄褐色 7.5YR8/4	-	(3.1)	-	6.7	内外面, 回転ナデ。外底面, 回転糸切り痕。柱状高台 か。
1634	〃	〃	〃 甕	淡赤褐色 2.5YR7/3	にぶい橙色 2.5YR6/4	淡赤褐色 2.5YR7/3	-	-	-	-	外面, ヨコナデか。内面, 調整不明。被熱により発泡す る。
図 473 1635	〃	SK37・ 38	〃 杯	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	8.8	2.3	-	6.4	内外面, 回転ナデ。外底面, 回転ヘラ切り痕。
図 476 1636	〃	SK40	土質 椀	灰黄褐色 10YR6/2	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい黄褐色 10YR7/3	16.5	(2.8)	-	-	内外面, ミガキ。外面, ヘラナデ。煤。
1637	〃	〃	土師 甕	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	浅黄褐色 7.5YR8/4	17.6	(2.4)	-	-	口唇, 面取り。外面, ヨコナデ。内面, ヨコハケ。
1638	〃	〃	〃	にぶい黄褐色 10YR6/3	にぶい黄褐色 10YR6/3	にぶい橙色 7.5YR6/4	22.2	(1.9)	-	-	内外面, ヨコナデ。
1639	〃	〃	須恵 皿	灰色 7.5Y5/1	灰色 7.5Y5/1	灰褐色 7.5YR5/2	17.2	1.4	-	15.0	外底面, 回転ヘラ切り後ナデ。
1640	〃	〃	製塩 土器	橙色 5YR6/6	灰黄褐色 10YR5/2	橙色 5YR6/6	-	(4.2)	厚さ1.1	-	内面, 布目圧痕。
図 478 1641	〃	SK42	土質 皿	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	浅黄褐色 10YR8/4	7.7	1.2	-	4.7	外底面, 回転糸切り痕。摩耗。ほぼ完存。
1642	〃	〃	〃 甕	にぶい赤褐色 5YR5/4	にぶい赤褐色 5YR5/4	にぶい赤褐色 5YR5/4	-	(2.3)	-	-	口唇, 面取り。外面, ヨコナデ。内面, ヨコハケ。煤。
図 480 1643	〃	SK45	〃 皿	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	10.1	1.8	-	5.8	回転ナデ・ヘラミガキ。外底面, 回転糸切り痕。煤。
1644	〃	〃	〃 杯	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	浅黄褐色 10YR8/3	9.0	3.2	-	5.0	内外面, 回転ナデ。底部, 丸みを帯びる。外底面, 回転 ヘラ切り痕。
1645	〃	〃	〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	浅黄褐色 10YR8/3	9.1	3.3	-	6.2	内外面, 回転ナデ。内底面, 渦状。外底面, 回転ヘラ切 り後ナデか。底部外縁突状。
1646	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	9.4	3.1	-	7.1	内外面, 回転ナデ。外底面, 回転ヘラ切り後ナデか。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 480 1647	7-4 区	SK45	土質 杯	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	9.8	2.8	-	7.1	内外面, 回転ナデ。外底面, 回転ヘラ切り痕。
1648	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR7/6	10.1	3.1	-	6.8	内外面, 回転ナデ。外底面, 回転ヘラ切り後ナデ。
1649	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	9.6	2.9	-	7.0	口唇, 玉縁状。内外面, 回転ナデ。外底面, 回転ヘラ切り後ナデか。
1650	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	10.0	2.7	-	6.7	内外面, 回転ナデ。外底面, 回転ヘラ切り後ナデか。
1651	〃	〃	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	10.3	2.5	-	6.4	内外面, 回転ナデ。
1652	〃	〃	〃 〃	浅黄橙色 7.5YR8/3	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	10.4	3.0	-	7.0	内外面, 回転ナデ。内底面, 渦状。外底面, ヘラ切り痕か。
1653	〃	〃	須恵 〃	黄灰色 2.5Y5/1	黄灰色 2.5Y5/1	黄灰色 2.5Y5/1	14.7	(2.5)	-	-	内外面, 回転ナデ。外面に帯状の煤付着。
1654	〃	〃	土質 〃	橙色 2.5YR6/8	橙色 2.5YR6/8	橙色 2.5YR6/8	-	(1.1)	-	6.8	内外面, 回転ナデ。外底面, 回転ヘラ切り痕か。
1655	〃	〃	〃 椀	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/4	浅黄橙色 10YR8/3	-	(1.8)	-	7.5	円盤状高台。外底面, ヘラ切り痕か。若干摩耗。
1656	〃	〃	〃 〃	明赤褐色 2.5YR5/6	明赤褐色 2.5YR5/6	橙色 7.5YR6/6	-	(2.9)	-	7.8	内外面, 回転ナデ (内底尖凸状)。断面方形の輪高台を貼付。摩耗。
図 481 1659	〃	SK46	〃 皿	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	褐灰色 10YR5/1	9.8	1.7	-	7.6	内外面, 回転ナデ。外底面, 回転ヘラ切り痕。若干摩耗。器壁厚い。
1660	〃	〃	〃 杯	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	9.8	2.8	-	6.8	内外面, 回転ナデ (工具状 / 内底面渦状, 底尖凸状)。外底面, 回転ヘラ切り後, ナデ。
1661	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	10.2	2.4	-	6.8	内外面, 回転ナデ。外底面, 回転ヘラ切り痕。
1662	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	褐灰色 10YR4/1	-	(1.9)	-	5.8	円盤状高台。内外面, 回転ナデ。若干摩耗。
1663	〃	〃	須恵 蓋	褐灰色 10YR6/1	灰白色 10YR7/1	灰白色 10YR7/1	10.7	(1.1)	-	-	かえりを付す。内外面, 回転ナデ。自然釉。
図 484 1666	〃	SK52	土質 皿	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい黄橙色 10YR7/3	10.2	2.0	-	7.8	外底面, ナデ。切離し手法, 不明。
図 486 1667	〃	SK54	〃 〃	灰黄褐色 10YR6/2	灰黄褐色 10YR6/2	浅黄褐色 7.5YR8/4	6.8	(1.9)	-	4.4	内外面, 回転ナデ。内面周縁に沈線状。外底面, 回転糸切り痕。
1668	〃	〃	〃 杯	浅黄褐色 10YR8/3	浅黄褐色 10YR8/3	浅黄褐色 10YR8/3	10.5	4.1	-	6.0	内外面, 回転ナデ。内底面, 回転ナデにより凹凸。外底面, 回転糸切り痕。
図 488 1669	7-3 区	SG1	弥生 壺	橙色 5YR6/6	橙色 2.5YR6/8	浅黄褐色 10YR8/3	-	(49.1)	50.0	8.8	体部, 丸みを帯びる。厚い平底。体部: 叩き後タテハケ / ハケ。
図 490 1670	〃	SG2	〃 〃	にぶい黄褐色 10YR6/4	橙色 5YR6/6	黄灰色 2.5Y5/1	-	(32.4)	-	7.7	厚い平底。体部: 叩き / ハケ。
1671	〃	〃	〃 鉢	橙色 5YR7/8	橙色 5YR7/6	灰黄色 2.5Y6/2	18.0	(6.2)	-	-	体部, 浅鉢状。口縁: ヨコハケ / 。体部: 叩き / タテハケ。摩耗。
図 494 1673	〃	SD5	土質 皿	橙色 5YR7/6	にぶい橙色 5YR7/4	灰白色 7.5YR8/2	10.0	1.5	-	7.0	内外面, 回転ナデ。外底面, 回転糸切り痕。
1674	〃	〃	須恵 杯	灰黄褐色 10YR6/2	にぶい橙色 7.5YR7/4	灰黄色 2.5Y6/2	13.5	3.4	-	9.0	内外面, 回転ナデ。外底面, 回転ヘラ切り後, ナデか。
図 497 1675	7-1-3 区	SD24	弥生 壺	褐灰色 10YR5/1	にぶい黄褐色 10YR7/3	褐灰色 10YR5/1	-	(2.0)	-	-	複合口縁壺。外面, 4 条 1 単位の櫛波文・竹管文。二次口縁: ナデ / ナデ。接合面で剥離。
図 499 1676	〃	SD25	須恵 杯	暗灰黄色 2.5Y5/2	黄灰色 2.5Y5/1	暗灰黄色 2.5Y5/2	10.4	(2.8)	-	-	内外面, 回転ナデ。

遺物観察表 1677～1703

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 499 1677	7-1-3 区	SD25	須恵 提瓶	灰色 N6/0	灰色 N6/0	灰白色 N7/0	7.4	(5.9)	-	-	内外面, 回転ナデ。外面, 1 条の凹線。
1678	〃	〃	〃 高杯	灰白色 2.5Y7/1	灰白色 2.5Y7/1	灰白色 2.5Y7/1	-	(8.1)	-	-	内外面, 回転ナデ。脚部, 3 方に長方形透孔・3 方に 円孔・凹線。黒色物, 付着。
1679	〃	〃	〃 体部	灰色 N6/0	灰色 N6/0	灰色 N6/0	-	(9.0)	-	-	叩き / 当て具痕。
1680	〃	〃	〃 〃	灰色 N6/0	灰色 N6/0	灰色 N6/0	-	(5.9)	-	-	叩き / 当て具痕。
1681	〃	〃	〃 〃	灰色 N6/0	灰色 N5/0	灰色 N6/0	-	(8.5)	-	-	叩き / 当て具痕。
1682	〃	〃	〃 〃	黄灰色 2.5Y5/1	灰色 N5/0	黄灰色 2.5Y6/1	-	(7.1)	-	-	内外面, 回転ナデ。外面, 凹線・列点文を交互に配置。
図 500 1683	〃	〃	土質 杯	にぶい橙色 7.5YR7/4	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	-	(0.8)	-	5.6	内外面, 回転ナデ。外底面, 切離し手法, 不明。
1684	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	-	(1.0)	-	6.4	内外面, 回転ナデ。外底面, ナデ。切離し手法, 不明。
1685	〃	〃	土師 甕	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	灰黄褐色 10YR6/2	22.8	5.6	-	-	口縁, 緩やかに外反。口縁, ヨコナデ。体部, ナデ。
1686	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい黄褐色 10YR6/3	27.8	(5.7)	-	-	口縁, 大きく外反。口縁, ヨコナデ。体部外面, ハケ。内 面, ナデ。
1687	〃	〃	弥生 壺	橙色 5YR6/6	にぶい橙色 5YR6/4	黄灰色 2.5Y6/1	17.7	(1.8)	-	-	口唇, 面取り。櫛波文。口縁: ヨコナデ / ヨコナデ。頸 部: ハケ / ミガキか。混入。
1688	〃	〃	〃 〃	浅黄褐色 10YR8/3	橙色 5YR7/6	褐灰色 10YR4/1	-	(1.9)	-	-	複合口縁。不規則な刺突文。口縁: ナデ / ミガキ か。混入。
図 502 1689	7-2 区	SD32	〃 鉢	にぶい橙色 7.5YR7/4	橙色 7.5YR7/6	褐灰色 7.5YR6/1	-	(4.9)	-	-	脚付き鉢。杯部: ハケ / ナデ。
図 503 1690	〃	SD33	〃 甕	橙色 7.5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR6/4	褐灰色 7.5YR5/1	17.2	(10.0)	-	-	緩やかに外反。口縁: タテハケ / 粗いハケ。体部: 叩 き後ナデ / ハケ・ナデ。
図 505 1692	〃	SD34	〃 壺	にぶい赤褐色 5YR5/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	24.6	(2.1)	-	-	口縁, 大きく外反し, 口唇, 面取り。凹面状。ナデ痕。口 縁: ハケ / ヨコナデ。ナデ痕。
1693	〃	〃	〃 〃	にぶい褐色 7.5YR5/3	にぶい黄褐色 10YR5/3	灰黄褐色 10YR4/2	-	(1.3)	-	-	口唇, 拡張, 2 条の凹線文。口縁: ヨコナデ / ヨコナデ。
図 507 1694	〃	SD35	須恵 蓋	灰色 N5/0	灰色 N5/0	黄灰色 2.5Y6/1	9.6	(1.3)	-	-	かえりを付す。内外面, 回転ナデ。
1695	〃	〃	弥生 甕	にぶい橙色 5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	黄灰色 2.5Y4/1	14.3	(6.7)	-	-	緩やかに外反。口縁: 叩き後ナデ / ナデ。体部: 叩 き後ナデ / ハケ・ナデ。肩内接合痕。煤。
1696	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR6/6	にぶい橙色 5YR6/4	黒褐色 10YR3/1	-	(8.1)	-	3.0	丸みを帯びた平底。外底面, ナデ。体部: 叩き後タテ ハケ / ナデ。黒斑。被熱。煤。白吹き痕。
1697	〃	〃	〃 鉢	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい赤褐色 5YR5/4	褐灰色 10YR4/1	17.6	6.8	-	-	口唇, ハケ状原体による面取り。ほぼ丸底か。体部: 叩き後ナデ / ハケ後ミガキ。被熱。煤。
1698	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	黄灰色 2.5Y5/1	29.0	(10.5)	-	-	外反口縁。口唇, 指頭による刻目。口縁: 叩き後ナデ / ハケ。体部: 叩き後ナデ / ハケ・ナデ。
図 514 1700	7-3 区	P498	〃 甕	浅黄褐色 7.5YR8/4	橙色 2.5YR7/8	灰色 N4/0	13.4	26.5	16.8	3.2	小径な平底状。体部: 叩き後タテハケ / ナデ。煤。
1701	〃	P582	〃 体部	にぶい黄褐色 10YR7/2	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	-	(26.9)	24.4	5.3	平底。体部: 叩き後タテハケ / ハケ後ナデ。
1702	7-4 区	P766	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	褐灰色 5YR4/1	-	(22.6)	22.6	5.7	平底。体部: 叩き後タテハケ / ナデ。外底面, 叩き目。
1703	7-3 区	P105	〃 〃	褐灰色 10YR4/1	灰褐色 7.5YR6/2	にぶい橙色 7.5YR7/3	-	(3.9)	-	-	体部: 叩き / 。焼成前穿孔か。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 514 1704	7-4 区	P608	弥生 鉢	橙色 5YR7/8	黄橙色 7.5YR7/8	浅黄橙色 7.5YR8/6	8.7	6.5	-	1.9	ほぼ丸底。体部：叩き後ナデ／ハケ・ナデ。摩耗。
1705	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	9.4	3.5	-	2.2	角の取れた平底。外底面、ナデ。体部：叩き後ハケ／ハケ。キレツ。黒斑。歪む。
1706	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	橙色 7.5YR7/6	14.0	6.2	-	-	丸底。外底面、ハケ後ナデ。体部：ハケ後ナデ／ハケ。摩耗。
1707	7-3 区	〃	〃 〃	浅黄橙色 10YR8/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	黄灰色 2.5Y5/1	15.1	(6.3)	-	-	口唇、面状。体部：叩き／ハケ。
1708	〃	P582	〃 〃	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	灰色 N4/0	22.0	(9.1)	-	-	口唇、面状。体部：ハケ／ヘラナデ。キレツ。器厚、うすい。
1709	〃	P256	ミニ	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	5.1	4.8	-	0.9	手捏ね成形。完存。
図 515 1710	〃	P468	土質 皿	灰褐色 7.5YR6/2	灰褐色 7.5YR6/2	灰白色 2.5Y7/1	7.0	1.1	-	4.1	内外面、回転ナデ。外底面、回転糸切り痕。摩耗。
1711	〃	P783	〃 〃	橙色 5YR7/8	橙色 5YR7/8	橙色 5YR7/8	8.7	2.0	-	6.0	内外面、回転ナデ。内底面、凹状。外底面、回転ヘラ切り後、ナデか。摩耗。
1712	〃	P35	〃 〃	灰白色 10YR8/2	灰白色 10YR8/2	灰白色 10YR8/2	9.2	1.8	-	6.0	内外面、回転ナデ。外底面、回転糸切り痕。
1713	〃	P105	〃 〃	灰白色 10YR8/2	灰白色 10YR8/2	灰白色 10YR8/2	9.3	1.9	-	6.0	内外面、回転ナデ。外底面、回転ヘラ切り痕。
1714	〃	P119	〃 〃	灰白色 10YR8/2	灰白色 10YR8/2	にぶい橙色 7.5YR7/4	9.3	2.1	-	6.4	内外面、回転ナデ。内底面、指圧。
1715	〃	P129	〃 〃	橙色 5YR6/8	橙色 5YR6/8	橙色 5YR6/8	9.4	1.6	-	5.8	内外面、回転ナデ。外底面、回転糸切り痕。
1716	7-4 区	P897	〃 〃	橙色 2.5YR6/6	橙色 2.5YR6/6	橙色 2.5YR6/6	9.8	1.7	-	6.8	摩耗のため、調整・切離し手法、不明。
1717	7-3 区	P142	〃 〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	10.0	2.4	-	7.1	内外面、回転ナデ。外底面、回転ヘラ切り後ナデ。
1718	7-4 区	P836	〃 柱高	にぶい橙色 5YR7/4	にぶい橙色 5YR7/4	浅黄橙色 10YR8/3	9.2	2.2	-	5.1	台部、円盤状。内外面、回転ナデか。外底面、回転糸切り痕か。摩耗。
1719	〃	P786	土師 杯	橙色 2.5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	16.0	(3.3)	-	-	口縁内面、沈線。内外面、ヨコミガキ。
1720	7-3 区	P58	土質 〃	浅黄橙色 7.5YR8/4	橙色 5YR7/6	浅黄橙色 7.5YR8/4	9.7	2.5	-	6.2	内外面、回転ナデ。内底面、凹状。外底面、回転ヘラ切り痕。
1721	7-4 区	P666	〃 〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	11.2	2.6	-	6.6	摩耗のため、調整・切離し手法、不明。
1722	7-3 区	P437	〃 〃	にぶい褐色 7.5YR6/3	にぶい黄橙色 10YR7/2	にぶい黄橙色 10YR7/2	13.6	3.8	-	6.3	回転ナデ。内底面、ヨコナデ、凹状。外底面、回転糸切り痕・簧状圧痕。ほぼ完存。
1723	7-4 区	P654	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR7/2	にぶい黄橙色 10YR7/2	灰白色 10YR8/2	16.2	(3.5)	-	-	内外面、回転ナデ。外面、ロクロ目。内面、摩耗。被熱。
1724	〃	P816	〃 〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	-	(1.1)	-	5.6	内外面、回転ナデ。外底面、回転ヘラ切り後ナデ。
1725	7-3 区	P119	〃 〃	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	-	(1.6)	-	6.3	外底面、回転糸切り痕。
1726	7-4 区	P635	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	-	(2.3)	-	8.3	内外面、回転ナデ。外底面、回転糸切りか。
1727	〃	P816	〃 椀	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	-	(2.1)	-	5.2	円盤状高台椀。内外面、回転ナデ。外底面、回転ヘラ切り後ナデ。
1728	7-3 区	P119	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	9.7	2.9	-	6.4	円盤状高台椀。内底面、凹状。内外面、回転ヘラナデ。外底面、簧状圧痕。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 515 1729	7-3 区	P119	土質 椀	灰白色 10YR8/2	灰白色 10YR8/2	灰白色 10YR8/2	-	(2.8)	-	5.9	外底面, 断面方形の輪高台を貼付。体部, 回転ヘラナ デ。火襷。
1730	〃	P309	〃 〃	浅黄橙色 10YR8/3	灰白色 2.5Y8/2	黄灰色 2.5Y5/1	-	(3.8)	-	6.0	断面方形の輪高台を貼付。体部, 回転ナデ。
1731	〃	P381	〃 〃	橙色 5YR7/6	淡橙色 5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	-	(2.4)	-	6.7	外底面に断面台形の輪高台を貼付。内外面, 回転ナ デ。
1732	〃	P451	〃 〃	にぶい橙色 5YR7/4	橙色 5YR7/6	浅黄橙色 10YR8/3	-	(2.8)	-	7.7	内外面, 回転ナデ。内底面, 指圧。外底面, 回転ヘラ切 りか。輪高台, 剥離。
1733	〃	P90	〃 〃	褐灰色 10YR5/1	にぶい黄橙色 10YR7/4	灰黄褐色 10YR6/2	-	(1.9)	-	5.2	外底面に外傾気味の短小な輪高台を貼付。内外面, ミ ガキ。搬入か。
1734	7-4 区	P882	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	-	(2.9)	-	6.4	外底面に輪高台を貼付。内外面, 回転ナデ。
1735	〃	P735	瓦質 鉢	灰白色 2.5Y8/1	灰色 5Y4/1	灰白色 2.5Y8/1	16.7	(2.9)	-	-	口縁部, 玉縁状。内外面, 回転ナデ。
1736	〃	P810	土師 甕	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	黄灰色 2.5Y5/1	-	-	-	-	口唇, 拡張し面状。口縁内面, ヨコハケ。
1737	7-3 区	P90	土質 羽釜	灰黄褐色 10YR6/2	にぶい橙色 7.5YR7/3	淡赤褐色 2.5YR7/4	15.8	(4.4)	-	-	口縁, 短く外反。口唇, 面状。体部, 僅かに内傾し直立 気味。撰津系。
図 516 1738	〃	P143	須恵 蓋	灰色 N6/0	灰白色 N8/0	黄灰色 2.5Y6/1	7.5	(1.6)	9.4	-	短小なかえりを付す。口縁, 回転ナデ。天井部外面, 回 転ヘラケズリ。
1739	〃	P442	〃 〃	灰白色 N7/0	灰白色 N7/0	灰白色 N7/0	8.0	(1.3)	-	9.8	短小なかえりを付す。口縁, 回転ナデ。天井部外面, 回 転ヘラケズリ。
1740	7-4 区	P836	〃 〃	灰色 N5/0	灰色 N5/0	灰色 N5/0	10.4	(1.9)	-	-	短小なかえりを付す。口縁, 回転ナデ。天井部外面, 回 転ヘラケズリ。
1741	〃	P795	〃 杯	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y6/1	12.4	3.9	9.0	-	内外面, 回転ナデ。内底面, 仕上げナデ。外底面, ナデ。 外面端部に外側にやや張り出す高台を貼付。火襷。
1742	〃	P651	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR6/4	にぶい黄橙色 10YR6/3	にぶい橙色 7.5YR7/3	17.7	5.8	-	11.2	外底面に断面方形の輪高台を貼付。内外面, 回転ナ デ。焼成不良。
1743	〃	P848	〃 〃	灰黄色 2.5Y7/2	黄灰色 2.5Y6/1	灰黄色 2.5Y6/2	-	(1.5)	-	6.0	内外面, 回転ナデ。外底面, ナデ。外底面に幅の狭い高 台を貼付。
1744	〃	P666	陶器 鉢	にぶい橙色 5YR6/4	灰黄褐色 10YR5/2	にぶい橙色 7.5YR6/4	-	(4.7)	-	-	内外面, ロクロナデ。高台, 剥離。
1745	7-3 区	P220	瓦質 鍋	灰白色 2.5Y7/1	黄灰色 2.5Y5/1	黄灰色 2.5Y6/1	29.4	(7.9)	-	-	口縁, 受け口状。口唇, 面状。口縁, ヨコナデ。体部外 面, ナデ。内面, ヨコハケ。
図 518 1755	7-4 区	包含層	弥生 壺	にぶい黄橙色 10YR6/3	にぶい橙色 7.5YR6/4	褐灰色 10YR4/1	22.0	(3.8)	-	-	口唇, 凹面状。ハケ状原体による刻目。口縁: タテハ ケ / ヨコハケ。
1756	〃	攪乱	〃 〃	明赤褐色 2.5YR5/6	明赤褐色 2.5YR5/6	黄灰色 2.5Y4/1	-	(3.7)	-	-	口唇, 面取り。口縁: ヨコナデ後ミガキ / ヨコナデ・ ヨコミガキ。黒斑。
1757	7-3 区	包含層	〃 〃	橙色 5YR7/8	橙色 5YR7/8	橙色 5YR7/6	23.2	(7.2)	-	-	口唇, 拡張。鋸歯文・円形浮文。口縁: ハケ / ハケ。頸 部: ミガキ / ミガキ。摩耗。
1758	7-4 区	〃	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR7/3	灰黄褐色 10YR6/2	褐灰色 10YR4/1	-	(2.8)	-	-	口唇, 丸くおさめる。僅かに沈線状。5条1単位の櫛 波。口縁: ヨコナデ。
1759	〃	攪乱	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR6/6	黄灰色 2.5Y5/1	-	(4.5)	-	-	口縁: ナデ / ナデ。刻目突帯貼付。接合面で剥離。
1760	7-3 区	包含層	〃 鉢	橙色 5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	にぶい黄橙色 10YR7/4	23.6	(8.7)	-	-	口唇, 下端肥厚し面状。口縁: ハケ・ナデ / 。体部: 叩き / 。
1761	〃	〃	〃 底部	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	黄灰色 2.5Y4/1	-	(10.6)	-	5.2	厚い平底。体部: 叩き / ヘラナデ。
1762	7-4 区	〃	〃 〃	赤灰色 2.5YR5/2	明赤褐色 2.5YR7/2	にぶい橙色 5YR6/4	-	(5.7)	-	8.0	平底。体部: ハケ後ナデ / 。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 518 1763	7-3 区	包含層	弥生 鉢	橙色 5YR7/6	橙色 5YR6/6	浅黄橙色 7.5YR8/4	11.7	4.8	-	2.4	口唇、面状。扁平状粘土盤の小径な平底。体部：/ヨコハケ。キレット。
1764	〃	〃	〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	14.8	5.8	-	4.1	口唇、面状。円盤状に突出した小径な平底。体部：ハケ。底部：ナデ。摩耗。
1765	7-4 区	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	黄灰色 2.5Y4/1	19.4	6.9	-	5.5	丸底。外外面、ハケ・ナデ。体部：叩き後ハケ・ナデ/ミガキか。
1766	7-3 区	〃	高杯	橙色 5YR6/6	橙色 2.5YR6/6	褐灰色 7.5YR4/1	17.8	(3.2)	-	-	口縁、外面僅かに凹状。杯部、丸みを帯びた浅鉢状。口縁：ヨコナデ。杯部：ミガキ。丁寧な仕上げ。
1767	7-4 区	〃	鉢	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい橙色 7.5YR7/4	黒褐色 2.5Y3/1	-	(2.2)	-	-	ほぼ丸底。外外面、ドーナツ状。体部：ナデ/ヘラナデ。黒斑。
1768	7-3 区	〃	器台	にぶい橙色 7.5YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	橙色 5YR6/6	-	(4.8)	-	6.2	厚い平底。粗放な仕上げ。
1769	〃	〃	不明	暗灰色 N3/0	橙色 7.5YR7/6	黄灰色 2.5Y5/1	-	(6.6)	-	5.2	脚、ひらき気味の円筒形。底部、外方へ厚みを増す。脚部：タテハケ/。
1771	7-4 区	攪乱	体部	にぶい黄橙色 10YR7/3	灰黄褐色 10YR6/2	にぶい黄橙色 10YR7/2	-	(3.0)	-	-	体部：叩き後ハケ・ナデ/ハケ。外面、焼成前線刻。
1772	7-3 区	包含層	器台	橙色 5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	黄灰色 2.5Y5/1	22.0	(2.9)	-	-	口唇、上端僅かに拡張、下端斜方へ拡張し面状。外面に凹線文・鋸歯文。
1773	〃	〃	ミニ	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	6.7	2.7	-	3.5	粘土盤を付し平底状。体部：叩き/ヘラナデ。キレット。
図 519 1774	7-4 区	〃	土師 皿	橙色 2.5YR6/6	橙色 2.5YR6/6	橙色 2.5YR6/6	17.2	(2.2)	-	-	口縁内面、凹む。内外面、ヨコミガキ。
1775	〃	〃	土質	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/3	6.7	1.7	-	5.4	内外面、回転ナデ。
1776	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	6.8	1.3	-	4.8	内外面、回転ナデ。外外面、回転糸切り痕。
1777	7-3 区	〃	〃	明赤褐色 2.5YR5/6	明赤褐色 2.5YR5/6	明赤褐色 2.5YR5/6	7.0	1.6	-	6.3	内外面、摩耗、調整等不明。
1778	〃	〃	〃	橙色 5YR7/8	橙色 5YR7/8	橙色 5YR7/8	7.4	1.2	-	4.6	内外面、摩耗、調整等不明。
1779	7-4 区	〃	〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	7.5	1.7	-	6.2	内外面、摩耗、調整等不明。
1780	〃	〃	〃	浅黄橙色 10YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	7.8	1.4	-	5.4	内外面、回転ナデ。外外面、切離し手法、不明。摩耗。
1781	7-3 区	〃	〃	橙色 5YR7/8	橙色 5YR7/8	橙色 5YR7/8	8.0	1.1	-	5.2	内外面、回転ナデ。外外面、回転糸切り痕。
1782	〃	〃	〃	橙色 2.5YR7/8	橙色 2.5YR6/6	黄褐色 7.5YR8/8	8.3	1.9	-	5.6	内外面、回転ナデ。外外面、回転糸切り痕。
1783	〃	〃	〃	橙色 5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	-	8.6	1.9	-	6.3	内外面、回転ナデ。外外面、回転糸切り痕。内底面にうすくタール付着。完存。
1784	〃	〃	〃	浅黄褐色 10YR8/3	にぶい橙色 5YR6/3	浅黄褐色 10YR8/3	8.6	1.6	-	5.2	内外面、回転ナデ。外外面、回転糸切り痕。
1785	〃	〃	〃	橙色 5YR6/8	橙色 5YR6/8	橙色 5YR6/8	8.6	1.7	-	6.2	内外面、回転ナデ。内底面、ヨコナデ。外外面、回転糸切り痕。
1786	〃	〃	〃	橙色 2.5YR6/6	黄灰色 2.5Y4/1	浅黄褐色 10YR8/3	8.4	1.7	-	5.0	内外面、回転ナデ。外外面、回転糸切り痕。
1787	7-4 区	〃	〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 5YR7/6	浅黄褐色 7.5YR8/4	9.0	1.7	-	6.4	内外面、回転ナデ。外外面、回転糸切り痕。
1788	7-3 区	〃	〃	浅黄褐色 10YR8/3	浅黄褐色 10YR8/3	浅黄褐色 10YR8/3	9.3	2.0	-	6.0	内外面、回転ナデ。内底面、渦状。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図519 1789	7-3区	包含層	土質 皿	橙色 5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	灰白色 2.5Y8/1	9.0	1.9	-	5.3	内外面, 回転ナデ。内底面, 渦状。外底面, 回転糸切り痕。
1790	7-4区	〃	〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	9.1	1.3	-	7.1	内外面, 摩耗, 調整等不明。
1791	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	9.6	2.2	-	6.4	内外面, 回転ナデ。外底面, 回転糸切り痕。
1792	7-3区	〃	〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR7/6	灰白色 10YR8/2	9.5	1.6	-	5.5	外底面, 回転糸切り痕。器壁, うすい。
1793	7-4区	〃	〃	橙色 2.5YR7/8	浅黄橙色 7.5YR8/3	浅黄橙色 7.5YR8/3	9.3	(1.8)	-	6.8	内外面, 回転ナデ。外底面, 切離し手法, 不明。
1794	〃	〃	〃	浅黄橙色 7.5YR8/4	橙色 5YR7/6	浅黄橙色 7.5YR8/3	9.8	1.8	-	7.0	内外面, 回転ナデ。外底面, 回転ヘラ切り後ナデ。
1795	〃	〃	〃	橙色 7.5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	浅黄橙色 10YR8/3	9.8	2.1	-	5.6	内外面, 回転ナデ。外底面, 回転糸切り痕か。
1796	7-3区	〃	〃	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	9.5	1.8	-	6.9	内外面, 回転ナデ。底部, 回転ヘラケズリ。内底縁, 指圧。
1797	〃	検面	〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/8	橙色 5YR7/6	10.2	2.1	-	6.2	内外面, 回転ナデ。内底面, 凹状。外底面, 回転ヘラ切り後ナデ。
1798	〃	包含層	〃	灰黄色 2.5Y7/2	浅黄色 2.5Y7/3		10.0	1.9	-	7.0	内外面, 回転ナデ。摩耗のため, 切離し手法, 不明。
1799	〃	トレンチ	〃	灰白色 2.5Y8/2	灰白色 2.5Y8/2	灰白色 2.5Y8/2	9.7	1.9	-	6.4	内外面, 回転ナデ。外底面, 回転糸切り痕。
1800	7-4区	攪乱	〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	-	1.6	-	7.0	ヘラミガキ。外底面, 回転ヘラ切り痕。
1801	〃	包含層	〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	10.8	1.8	-	7.8	内外面, 回転ナデ。外底面, 切離し手法, 不明。
1802	7-3区	〃	〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	浅黄橙色 10YR8/3	10.0	1.8	-	7.0	内外面, 回転ナデ。内底面, 指圧。外底面, 回転ヘラ切り痕。
1803	〃	〃	〃	灰白色 10YR8/2	灰白色 10YR8/2	灰白色 10YR8/2	11.1	2.5	-	6.5	内外面, 回転ナデ。外底面, 回転糸切り痕。
1804	〃	〃	〃 柱高	橙色 5YR6/6	にぶい橙色 5YR6/4	にぶい橙色 5YR6/4	6.0	1.8	-	3.6	上部, 低い円柱状。内外面, 回転ナデか。外底面, 回転糸切り後ナデ。摩耗。
1805	〃	トレンチ	〃	浅黄橙色 10YR8/3	橙色 5YR6/6	灰白色 2.5Y8/1	7.0	2.6	-	4.0	上部, 外傾気味の低い円柱状。内外面, 回転ナデ。外底面, 回転糸切り痕。
1806	〃	包含層	〃	明褐灰色 7.5YR7/2	にぶい橙色 5YR7/4	灰白色 7.5YR8/1	9.2	2.5	-	4.7	上部, 外傾気味の低い円柱状。内外面, 回転ナデ。外底面, 回転糸切り痕。
1807	〃	〃	〃	浅黄橙色 7.5YR8/3	浅黄橙色 7.5YR8/3	灰白色 10YR8/2	(6.0)	2.7	-	4.6	上部, 断面台形の円盤状。内外面, 回転ナデ。外底面, 回転糸切り痕。
1808	〃	〃	〃	浅黄橙色 7.5YR8/3	浅黄橙色 7.5YR8/3	褐灰色 10YR6/1	10.2	2.8	-	5.8	外底面に高脚の輪高台を貼付。内外面, 回転ナデ。外底面, 回転ヘラ切り痕。
1809	〃	〃	〃	にぶい橙色 5YR7/4	明赤褐色 2.5YR5/6	灰色 N4/0	-	(2.7)	-	5.5	外底面に「ハ」の字形の高脚の輪高台を貼付。内外面, 回転ナデ。器面に化粧土か。托か。
1810	〃	〃	〃	浅黄橙色 10YR8/4	浅黄橙色 10YR8/4	浅黄橙色 10YR8/3	-	(2.0)	-	-	外底縁に断面三角形の粘土帯を付す。外底面に高脚の輪高台を貼付。内外面, 回転ナデか。托か。摩耗。
1811	7-4区	〃	〃	にぶい黄橙色 10YR6/3	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/3	-	(1.8)	-	5.0	上部, 低い円柱状。内外面, 回転ナデ。外底面, 回転糸切り後ナデか。
1812	〃	検面	〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	-	(2.6)	-	5.0	上部, 低い円柱状。内外面, 回転ナデ。外底面, 回転糸切り痕。
1813	〃	包含層	〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	-	(2.1)	-	5.3	上部, 断面台形の低い円柱状。1条の突帯状。内外面, 回転ナデ。外底面, 回転ヘラ切り痕。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 519 1814	7-4 区	包含層	土質 柱高	浅黄橙色 10YR8/3	橙色 2.5YR6/6	浅黄橙色 10YR8/3	-	(1.9)	-	2.9	台部, 円柱状。内外面, 回転ナデ。丁寧な仕上げ。
図 520 1815	7-3 区	〃	土師 杯	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	浅黄橙色 7.5YR8/4	14.4	3.0	-	8.7	口縁内面, 凹線。内外面, 回転ナデ後ミガキ。外底面, 回転ヘラ切り後, ミガキ。
1816	〃	〃	〃 〃	にぶい褐色 7.5YR6/3	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	14.8	3.9	-	10.5	口縁内面, 凹線。内外面, 回転ナデ後, ミガキ。外底 面, 回転ヘラ切り後ナデ。内底面, ナデ後ミガキ。
1817	7-4 区	〃	〃 〃	橙色 5YR6/8	橙色 5YR6/8	橙色 5YR6/8	13.9	3.9	-	9.0	口縁内面, 凹む。内外面, 回転ナデか。外底面, 回転ヘ ラ切り後ナデ。摩耗。
1818	〃	〃	〃 〃	橙色 2.5YR6/6	橙色 5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	14.5	(3.3)	-	-	口縁内面, 凹線。内外面, 回転ナデ後ミガキ。
1819	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR6/4	-	(1.7)	-	9.9	内外面, 回転ナデ。内面, ミガキ。外底面, 回転ヘラ切 り後ミガキ。丁寧な仕上げ。
1820	〃	〃	土質 〃	明赤褐色 2.5YR5/6	にぶい赤褐色 2.5YR5/4	橙色 5YR6/6	-	(2.8)	-	8.4	外底面に高台を貼付。内外面, 回転ナデ。外底面, 回転 ヘラ切り後ナデ。須恵器の生焼けか。
1821	〃	〃	〃 〃	灰白色 2.5Y8/1	灰白色 2.5Y8/1	灰白色 2.5Y8/1	-	(1.4)	-	10.8	外底面に高台を貼付。内外面, 回転ナデ。摩耗。須恵器 の生焼けか。
1822	7-3 区	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	9.4	2.4	-	5.5	内外面, 回転ナデ。外底面, 回転ヘラ切り痕。
1823	7-4 区	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	橙色 2.5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR6/4	11.2	2.3	-	8.2	底部, 扁平な円盤状。内外面, 回転ナデ。外底面, 回転 糸切り痕。
1824	7-3 区	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	12.3	3.3	-	7.6	内外面, 回転ナデ。外底面, 切り離し後ナデ。
1825	7-4 区	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	浅黄褐色 10YR8/3	13.0	2.8	-	7.8	内外面, 回転ナデ。外底面, 切り離し後ナデ。
1826	〃	〃	〃 〃	灰白色 2.5Y7/1	灰白色 2.5Y7/1	灰白色 2.5Y7/1	16.1	(3.4)	-	-	内外面, 回転ナデ。若干, 摩耗。
1827	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/3	橙色 2.5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR7/3	-	(1.8)	-	-	内外面, 回転ナデ。
1828	7-3 区	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	灰白色 10YR8/2	-	(2.3)	-	6.6	内外面, 回転ナデ。外底面, 回転ヘラ切り痕。
1829	〃	〃	〃 〃	浅黄褐色 7.5YR8/4	浅黄褐色 7.5YR8/4	にぶい橙色 7.5YR7/3	5.2	3.4	-	-	外底面, 回転糸切り痕。底部に焼成前穿孔痕。
1830	〃	〃	〃 椀	橙色 5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	橙色 5YR7/6	16.0	(5.0)	-	-	内外面, 回転ナデ。
1831	〃	〃	〃 〃	灰白色 10YR8/2	灰白色 10YR8/2	灰白色 10YR8/2	16.2	(3.7)	-	-	回転ヘラケズリ。火襷。焼成堅緻。
1832	〃	〃	〃 〃	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい黄褐色 10YR7/4	橙色 5YR7/6	15.1	5.8	-	6.6	円盤状高台椀。内外面, 回転ナデ。内底面, 凹状。外底 面, 糸切り痕。
1833	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	浅黄褐色 10YR8/4	-	(4.0)	-	7.7	円盤状高台椀。内外面, 回転ナデ。外底面, 切り離し後 ナデ。
1834	7-4 区	検面	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	-	-	-	6.5	円盤状高台椀。内外面, 回転ナデ。内底面, 凹状。外底 面, 切離し手法, 不明。
1835	7-3 区	包含層	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	-	(1.9)	-	7.6	円盤状高台椀。回転ナデ。内底面, 凹状。外底面, 回転 ヘラ切り痕。
1836	7-4 区	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 7.5YR7/6	浅黄褐色 10YR8/3	-	(1.7)	-	6.0	円盤状高台椀。口唇, 玉縁状。口縁外面に浅い連続す る双状沈線。
1837	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	浅黄褐色 7.5YR8/4	浅黄褐色 7.5YR8/4	-	-	-	6.0	円盤状高台椀。内外面, 回転ナデ。外底面, 回転糸切り 痕。
1838	7-3 区	〃	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	暗灰黄色 2.5Y5/2	-	(2.5)	-	6.6	外底面に輪高台を貼付。内外面, ヘラミガキ。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図520 1839	7-4区	検面	土質 椀	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	-	(26)	-	8.2	内外面, 回転ナデ。外底面, 回転ヘラ切り痕。
1840	7-3区	包含層	〃 〃	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 7.5YR8/3	灰白色 10YR8/2	-	(24)	-	6.0	外底面に短小な輪高台を貼付。外底面, 切り離し後ナデ。
1841	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 2.5YR6/4	淡赤橙色 2.5YR7/4	淡赤橙色 2.5YR7/4	-	(32)	-	5.7	外底面に輪高台を貼付。回転ケズリ。内底面に重ね焼き痕跡か。
1842	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	浅黄橙色 7.5YR8/3	浅黄橙色 7.5YR8/3	-	(22)	-	6.2	外底面に輪高台を貼付。回転ケズリ。
1843	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/3	にぶい橙色 7.5YR7/3	黄灰色 2.5Y6/1	-	(24)	-	6.5	外底面に輪高台を貼付。回転工具ナデか。
1844	7-4区	〃	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR7/3	灰白色 10YR8/2	灰白色 10YR8/2	-	(22)	-	6.3	回転ナデ。内底面, 凹凸。外底面, ヘラ切り痕。完存。
図521 1845	〃	〃	土師 蓋	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	褐灰色 10YR4/1	19.1	(22)	-	-	内外面, 回転ナデ・ヨコミガキ。
1846	〃	〃	〃 盤	橙色 2.5YR6/6	橙色 2.5YR6/6	橙色 5YR6/6	21.3	(27)	-	-	口唇, 面取り。外面, 回転ナデ後ヨコミガキ。内面, 口縁, ヨコミガキ・回転ナデ。
1847	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	-	(24)	-	15.0	外底面に輪高台を貼付。内外面, 回転ナデ。内底面, ミガキか。
図522 1848	〃	〃	〃 甕	橙色 5YR6/8	橙色 5YR6/8	橙色 5YR6/8	22.4	(5.3)	-	-	口唇, 面取り, 僅かに肥厚。摩耗のため, 調整等は不明。
1849	7-2区	トレンチ	〃 〃	灰褐色 7.5YR5/2	にぶい褐色 7.5YR6/3	褐灰色 7.5YR4/1	19.0	(4.4)	-	-	口縁, ヨコナデ。体部: タテハケ。/ ヨコナデ。
1850	7-3区	包含層	〃 〃	灰褐色 7.5YR5/2	橙色 5YR6/6	赤褐色 5YR4/6	-	(7.1)	-	-	口唇, 面状。体部外面, タテハケ。
1851	〃	〃	〃 〃	明赤褐色 2.5YR5/6	明赤褐色 5YR5/6	にぶい橙色 5YR6/4	17.0	(8.5)	-	-	口唇, 面状。口縁, ヨコハケ。外面, ヨコハケ。内面, ナデか。
1852	7-4区	〃	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい褐色 7.5YR6/3	にぶい褐色 7.5YR6/3	20.0	7.0	-	-	口唇, 面取り。口縁外面, ヨコナデ。内面, ヨコハケ。体部外面, タテハケ。内面, ナデか。被熱。
1853	〃	〃	〃 〃	にぶい赤褐色 5YR5/4	にぶい褐色 7.5YR5/3	にぶい赤褐色 5YR5/4	15.4	(3.6)	-	-	口唇, 摘み上げ, 面取り。口縁, ヨコナデ。体部外面, ヨコハケ。内面, ヨコハケ・ナデ。
1854	7-2区	〃	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/4	16.5	(2.1)	-	-	口唇, 摘み上げ, 沈線。外面, ナデ。内面, ヨコハケ。被熱。
1855	7-4区	表土	〃 〃	灰褐色 5YR4/2	にぶい褐色 7.5YR5/3	灰褐色 7.5YR4/2	20.6	(4.8)	-	-	口縁外面, ヨコナデ。内面, ヨコハケ。体部外面, タテハケ後ヨコハケ。内面, ヨコナデ。煤。
1856	7-2区	トレンチ	〃 〃	明赤褐色 5YR5/6	にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい黄褐色 10YR6/3	22.8	(4.0)	-	-	口唇, 面取り, 僅かに拡張。口縁外面, ナデ/ヨコナデ。体部外面, タテハケ。内面, ヨコナデ。
1857	7-3区	包含層	土質 鍋	褐灰色 7.5YR5/1	にぶい橙色 5YR7/4	褐灰色 7.5YR5/1	27.2	(9.2)	23.2	-	口縁, 屈曲弱く外反。口唇, 丸くおさめる。ナデ。煤付着。口縁, ヨコナデ。体部外面, ヘラナデ。内面, ナデ。
1858	〃	〃	〃 羽釜	にぶい黄褐色 10YR5/3	にぶい黄褐色 10YR7/3	橙色 2.5YR7/6	21.3	(10.4)	-	-	口縁, 内傾気味。鏝を付す。口縁, ヨコナデ。体部外面, ハケ。内面, ナデ。
1859	〃	〃	〃 〃	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	21.9	(9.6)	-	-	口唇, 上端凹面状。鏝を付す。口縁, ヨコナデ。体部外面, タテハケ。内面, ハケ・ナデ。
1860	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	橙色 5YR6/6	浅黄褐色 7.5YR8/4	37.7	(8.3)	39.4	-	口唇, 尖らせる。鏝を付す。鏝, ヨコナデ。体部外面, ナデ。内面, ヨコナデ。
1861	7-4区	〃	〃 甕	にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい褐色 7.5YR5/4	-	(1.7)	-	-	口唇, 僅かに上下に拡張し凹面状。口縁, ヨコナデ。
1862	〃	〃	〃 鍋	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい黄褐色 10YR7/4	-	(2.7)	-	-	口縁, 内傾。内外面, ヨコナデ。
図523 1863	7-3区	〃	須恵 蓋	灰色 N6/0	灰色 N6/0	灰色 N6/0	9.2	2.6	-	-	天井部, 頂部平坦。短小なかえりを付す。宝珠形の摘み。回転ヘラケズリ・回転ナデ。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 523 1864	7-3 区	包含層	須恵 蓋	灰白色 N7/0	灰白色 N7/0	黄灰色 2.5Y6/1	8.3	2.3	10.0	1.5	天井部、歪みの有る弧状。摘み。短小なかえりを付す。回転ヘラケズリ・回転ナデ。
1865	〃	〃	〃 〃	灰白色 N7/0	オリーブ灰色 10Y4/2	褐灰色 10YR6/1	8.1	1.7	-	-	天井部、やや扁平。短小なかえりを付す。回転ナデ。外面に自然釉。
1866	〃	〃	〃 〃	灰白色 7.5Y7/1	灰白色 7.5Y7/1	灰白色 7.5Y7/1	8.3	2.0	10.5	-	天井部、扁平。短小なかえりを付す。回転ヘラケズリ・回転ナデ。
1867	7-4 区	〃	〃 〃	灰色 N4/0	灰褐色 5YR4/2	にぶい赤褐色 2.5YR5/3	10.7	(2.0)	-	-	短小なかえりを付す。回転ヘラケズリ・回転ナデ。
1868	〃	〃	〃 〃	灰白色 10YR7/1	灰白色 2.5Y8/1	黄灰色 2.5Y6/1	11.4	(1.7)	-	-	かえりを付す。天井部外面、回転ヘラケズリ。口縁部、内面、回転ナデ調整。外面、自然釉、付着。
1869	〃	〃	〃 〃	灰色 N5/0	灰色 N5/0	灰色 N5/0	-	(1.5)	-	-	かえりを付す。内外面、回転ナデ調整。
1870	7-3 区	〃	〃 〃	灰黄褐色 10YR6/2	灰黄褐色 10YR6/2	灰白色 2.5Y7/1	20.2	(1.9)	-	-	天井部、扁平。回転ヘラ切り。回転ナデ・ヨコナデ。
1871	〃	〃	〃 皿	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y6/1	16.4	1.9	-	13.2	口唇、下端僅かに肥厚・上端沈線状。内外面、回転ナデ。内底面、ヘラナデ。
1872	〃	〃	〃 杯	灰色 N6/0	灰色 N6/0	灰白色 2.5Y8/1	11.3	3.0	-	6.1	立上がりは短い。回転ヘラケズリ・回転ナデ。
1873	〃	〃	〃 〃	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y5/1	黄灰色 2.5Y6/1	-	(2.8)	-	8.7	外底面に輪高台を貼付。回転ナデ。内面に自然釉。
1874	7-2 区	攪乱	〃 〃	灰色 5Y6/1	灰色 5Y6/1	灰白色 2.5Y7/1	-	(1.3)	-	6.4	内外面、回転ナデ。外底面、回転ヘラ切り後ナデ。
1875	7-4 区	包含層	〃 〃	黄灰色 2.5Y5/1	灰色 N6/0	黄灰色 2.5Y6/1	-	(2.1)	-	11.2	外底面に高台を貼付。内外面、回転ナデ。内底面、仕上げナデ。外底面、回転ヘラ切り後ナデ。
1876	〃	〃	〃 〃	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y6/1	-	(2.8)	-	6.8	外底面に高台を貼付。内外面、回転ナデ。内底面、仕上げナデ。外底面、丁寧なナデ。
1877	7-3 区	〃	〃 高杯	灰白色 10YR8/1	灰黄褐色 10YR5/2	灰白色 10YR7/1	7.6	7.0	-	7.0	脚部、「ハ」の字形にひらき端面面状。杯・脚部外面に2条の沈線。回転ナデ。自然釉、付着。
1878	〃	〃	〃 盤	灰白色 N8/0	灰白色 N7/0	灰白色 N8/0	34.1	(5.2)	-	-	口縁、屈曲弱く外傾。口唇、面状。回転ヘラケズリ。
1879	〃	〃	〃 椀	灰色 5Y6/1	灰色 5Y6/1	灰色 5Y6/1	15.8	5.3	-	6.9	円盤状高台椀。回転ナデ。内底面、渦状。外底面、回転糸切り痕。火襷。
1880	〃	〃	〃 〃	灰白色 2.5Y7/1	灰白色 2.5Y7/1	灰白色 2.5Y7/1	-	(2.7)	-	5.6	円盤状高台椀。内底面、凹状。回転ナデ。外底面、静止糸切り痕。火襷。
1881	〃	〃	〃 〃	灰白色 2.5Y7/1	灰白色 2.5Y7/1	灰白色 2.5Y7/1	-	(2.4)	-	5.7	円盤状高台椀。回転ナデ。外底面、静止糸切り痕。火襷。
図 524 1882	7-2 区	攪乱	〃 壺	灰色 5Y5/1	灰色 5Y6/1	灰色 5Y6/1	-	(3.5)	-	-	内外面、回転ナデ。外面、3条の凹線。直径約1.0cmの円孔。
1883	7-4 区	〃	〃 〃	黄灰色 2.5Y6/1	灰色 N4/0	黄灰色 2.5Y6/1	-	(3.8)	-	-	口縁、肥厚。内外面、回転ナデ。2条の凹線。
1884	〃	包含層	〃 〃	暗灰黄色 2.5Y5/2	黄灰色 2.5Y5/1	暗灰黄色 2.5Y5/2	-	(2.6)	-	-	口縁端部を僅かに摘み出し。口唇部は凹面状。内外面、回転ナデ。焼成はやや不良。
1885	〃	〃	〃 〃	黄灰色 2.5Y5/1	黄灰色 2.5Y5/1	黄灰色 2.5Y6/1	-	(2.6)	-	-	口唇、面取り。内外面、回転ナデ。外面、ヘラナデか。
1886	7-3 区	〃	〃 〃	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y6/1	-	(8.2)	-	-	小径な頸部から口縁にかけて外反。回転ナデ。
1887	〃	〃	〃 〃	灰白色 N7/0	灰白色 N7/0	灰色 N5/0	-	(9.4)	-	-	頸部、緩やかに外反。回転ナデ。
1888	7-4 区	〃	〃 〃	灰色 N5/0	灰色 N5/0	灰色 N5/0	21.8	(3.3)	-	-	回転ナデ。外底面、ヘラ切り痕。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 524 1889	7-4 区	攪乱	須恵 壺	褐灰色 10YR4/1	黒色 N2/0	褐灰色 10YR4/1	27.7	(3.0)	-	-	口唇, 凹面状。内外面, 回転ナデ。
1890	7-3 区	包含層	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	19.5	(9.6)	-	-	口唇, 端部肥厚し面状。口縁, 回転ナデ。体部外面, 叩き。タール付着。
1891	7-4 区	〃	〃 〃	灰色 5Y5/1	灰色 5Y4/1	灰色 5Y5/1	46.0	(2.9)	-	-	内外面, 回転ナデ。凹線と 6 条 1 単位の櫛波文を交互に配置。
1892	〃	〃	〃 〃	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y6/1	-	(6.0)	-	-	内外面, 回転ナデ。外底面, 回転ヘラ切り痕。
1893	7-3 区	〃	〃 〃	浅黄橙色 10YR8/4	浅黄橙色 10YR8/4	浅黄橙色 10YR8/4	-	(5.1)	-	6.4	外面, ヘラナデ。内面, 回転ナデ。外底面, 回転糸切り痕。
1894	〃	〃	〃 〃	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y6/1	-	(8.8)	-	5.2	外傾する平高台状。回転ナデ。外底面, 回転糸切り痕。
1895	7-4 区	〃	〃 〃	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y5/1	-	(2.9)	-	11.0	内外面, 回転ナデ。内底面, 凹凸。外底面, 回転ヘラ切り痕。
1896	〃	〃	〃 〃	灰白色 2.5Y8/1	灰白色 2.5Y8/1	灰色 5Y5/1	-	-	-	-	円盤状高台。内外面, 回転ナデ。外底面, 回転糸切り痕。
図 525 1897	7-3 区	〃	〃 体部	灰色 5Y5/1	灰色 5Y5/1	灰色 5Y5/1	(4.0)	(4.1)	-	-	外面, 叩き。内面, 磨滅により平滑。淡い墨付着。転用硯か。
1898	7-4 区	〃	〃 〃	褐灰色 10YR5/1	灰褐色 7.5YR5/2	灰黄褐色 10YR6/2	-	(4.5)	-	-	外面, 平行叩き。内面, ナデ。焼成, やや不良。墨付着。転用硯か。
1899	7-3 区	〃	〃 〃	灰色 5Y5/1	灰色 5Y5/1	灰色 5Y5/1	(10.2)	(8.6)	-	-	外面, 平行叩き。内面, 磨滅により平滑。淡い墨付着。転用硯か。
1900	〃	〃	〃 〃	灰色 5Y5/1	黄灰色 2.5Y5/1	灰色 5Y6/1	(10.2)	(9.7)	-	-	外面, 平行叩き。内面, 磨滅により平滑。淡い墨付着。転用硯か。
1901	〃	〃	〃 〃	灰色 5Y5/1	灰色 5Y6/1	灰色 5Y6/1	(6.8)	(9.8)	-	-	外面, 平行叩き。内面, 磨滅により平滑。淡い墨付着。転用硯か。
図 526 1902	7-4 区	〃	緑釉か 碗	灰白色 10YR7/1	灰白色 10YR7/1	浅黄橙色 10YR8/3	11.6	(2.2)	-	-	内外面, 回転ナデ。灰白色の釉薬。被熱か。
1903	〃	〃	緑釉 〃	灰白色 10Y7/1	灰白色 2.5Y7/1	灰白色 5Y7/1	-	(2.4)	-	-	口縁内面に 1 条の沈線。内面にオリブ灰色の釉薬。外面は剥落したか。
1904	7-3 区	〃	〃 壺	にぶい黄橙色 10YR7/3	淡黄色 2.5Y8/3	灰黄褐色 10YR6/2	-	(3.9)	-	8.5	外底面に外側に張り出した高台を貼付。外面, 回転ヘラナデ。内面, 回転ナデ。外面に緑色の釉薬。
1905	7-4 区	〃	灰釉 不明	灰白色 5Y7/1	灰白色 5Y7/1	灰白色 5Y7/1	-	(3.1)	-	-	内外面, 回転ナデ。外面, 2 条の凹線。外面に施釉。
1906	〃	〃	黒色 椀	黒褐色 2.5Y3/1	黒褐色 2.5Y3/1	灰黄褐色 10YR5/2	12.6	(1.7)	-	-	口縁内面, 沈線。内外面, ココミガキ。黒色土器 B 類。楠葉型。
1907	7-3 区	〃	〃 〃	暗灰色 N3/0	橙色 5YR6/6	灰白色 10YR8/2	-	(2.2)	-	8.0	外底面に輪高台を貼付。黒色土器 B 類。
1908	7-4 区	〃	〃 〃	黒色 10YR2/1	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい黄橙色 10YR7/4	-	(1.8)	-	8.2	外底面に高台を貼付。回転ナデ。内底面, 暗文。黒色土器 A 類。やや摩耗。
1909	〃	〃	瓦器 〃	黄灰色 2.5Y5/1	黄灰色 2.5Y5/1	灰黄色 2.5Y7/2	-	(2.2)	-	-	外面, 弱い指圧。内面, 暗文。炭素の吸着, 弱い。
1910	7-3 区	〃	瓦質 鉢	灰白色 2.5Y8/1	灰色 N4/0	灰白色 2.5Y8/1	22.0	(3.2)	-	-	口唇, 玉縁状。内外面, 回転ナデ。外面, 炭素吸着。
1911	〃	〃	白磁 碗	灰白色 5Y7/1	灰白色 5Y7/1	灰白色 5Y8/1	-	(4.5)	-	-	口唇, 玉縁状。薄く施釉。ピンホール。IV 類
1912	7-4 区	〃	青磁 皿	灰白色 5Y7/1	灰黄色 2.5Y7/2	黄灰色 2.5Y6/1	10.4	2.3	-	6.0	腰部外面, 外底面, 露胎。貫入。
1913	〃	〃	白磁 〃	灰黄色 2.5Y6/2	灰黄褐色 10YR6/2	黄灰色 2.5Y6/1	-	(1.2)	-	5.4	回転ナデ。外底面, 僅かに外傾する削り出し高台。外底面, 回転糸切り痕。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 526 1914	7-4 区	包含層	青磁 皿	灰黄色 2.5Y7/2	灰黄色 2.5Y7/2	灰白色 2.5Y8/1	-	(1.0)	-	4.2	口唇, 上端拡張し面状。口縁, 外反気味に開く。回転ナ デ。自然袖, 付着。
図 527 1915	〃	〃	製塩 土器	橙色 5YR7/6	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR6/3	-	(2.7)	-	-	外面, ナデ。内面, 布目圧痕。
1916	〃	〃	〃	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	灰白色 2.5Y7/1	-	(5.7)	-	-	外面, ナデ。内面, 布目圧痕。

遺物観察表 土製品

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種	色 調			全長 (口径)	全幅 (器高)	全厚	重量 (底径)	特 徴
				内面	外面	断面					
図 23 138	1E 区	1EST1	紡錘車	-	橙色 5YR6/6	-	5.0	5.0	0.9	14.7	平面円形, 断面形扁平な三角形。中央に直径約 0.5cm の円孔。内外面, ナデ。
139	〃	〃	〃	黒色 10YR2/1	黒色 10YR2/1	-	5.2	5.1	0.9	21.0	平面円形, 断面形扁平な三角形。縁辺は面取りする。中央に直径約 0.7cm の円孔。全面, ミガキ。黒斑。
140	〃	〃	〃	褐灰色 7.5YR4/1	褐灰色 7.5YR4/1	灰黄褐色 10YR5/2	(4.9)	(3.4)	1.1	(18.0)	平面円形, 断面形扁平な三角形。縁辺は面取りする。中央に直径約 0.9cm の円孔。全面, ミガキ。黒斑。
141	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	6.6	6.6	1.1	37.0	平面円形, 断面形扁平な三角形。縁辺は面取りする。中央に直径約 0.9cm の円孔。全面, ミガキ。黒斑。
図 38 258	5 区	ST6	支脚	橙色 5YR6/6	橙色 7.5YR7/6	橙色 5YR6/8	-	15.7	-	8.4	指頭により成形。2本の指で受け部とする。背部, 摘み。脚部中空, 断面楕円形。被熱。煤。
259	〃	〃	〃	灰褐色 7.5YR4/2	にぶい黄褐色 10YR6/3	にぶい橙色 7.5YR6/4	-	(11.8)	-	-	指頭により成形。中空。上端を大きくひらき, 受け部とする。被熱。煤。
260	〃	〃	〃	にぶい黄褐色 10YR7/3	灰黄褐色 10YR6/2	にぶい黄褐色 10YR7/3	-	(7.4)	-	8.0	指頭により成形。中空。裾部を大きくひらく。
261	〃	〃	〃	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい黄褐色 10YR7/3	-	(8.2)	-	7.0	指頭により成形。裾部を大きくひらく。下から粘土を押し付け, 塞ぐ。体部, 中空。前傾。煤。
262	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	-	5.0	4.6	-	5.6	指頭により成形。低い円柱状。上端と下端, 僅かに拡張する。完存。被熱。煤。
264	〃	〃	粘土塊	橙色 5YR7/6	灰白色 10YR8/2	灰白色 10YR8/2	3.6	4.7	2.2	-	ヘラナデ・指ナデ。圧痕, 多数。パーツか。
図 40 285	〃	ST7	〃	にぶい黄褐色 10YR7/2	にぶい黄褐色 10YR7/4	黄灰色 2.5Y4/1	-	(3.0)	-	-	外面, ハケ・ナデ。内面, ハケ。粘土貼付。キレット。
図 48 339	〃	ST8	紡錘車	-	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 5YR6/4	(4.7)	5.1	0.8	(12.0)	指頭により成形。中央に1穴穿孔。キレット。
図 50 341	〃	ST9	パーツ か	にぶい褐色 7.5YR5/3	橙色 5YR6/6	橙色 7.5YR7/6	39.0	2.9	-	-	外面, 叩き後ハケ・ミガキ。内面, ハケ。
図 51 343	〃	〃	支脚	にぶい赤褐色 5YR5/4	にぶい赤褐色 2.5YR5/4	明赤褐色 5YR5/6	-	16.6	-	9.2	指頭により成形。2本の指で受け部とする。背部, 摘み。中空。被熱。煤。
図 59 444	〃	SX2	〃	-	橙色 7.5YR7/6	灰色 5Y5/1	-	(6.7)	-	-	指頭により成形。2本の指で受け部とする。背部の摘み, 剥離。指の付け根まで中空。
445	〃	SX2_ 中央 P1	〃	にぶい黄褐色 10YR7/3	褐灰色 10YR6/1	褐灰色 10YR6/1	-	(9.3)	-	-	指頭により成形。内面, しぼり目。中空。被熱。
446	〃	SX2	〃	橙色 2.5YR6/6	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	-	14.8	-	8.9	指頭により成形。2本の指で受け部とする。背部の摘み, 剥離。脚部, 断面楕円形, 中空。キレット。被熱。
447	〃	〃	〃	橙色 5YR6/6	橙色 7.5YR7/6	黄灰色 2.5Y6/1	-	(11.8)	-	-	指頭により成形。断面楕円形, 中空。上端を大きくひらき, 受け部とする。被熱。煤。
448	〃	〃	〃	-	橙色 2.5YR6/8	灰色 5Y6/1	6.4	5.5	-	(5.7)	指頭により成形。器高の低いタイプ。中実。上面, 僅かに凹み, 傾斜する。やや摩耗。
449	〃	〃	パーツ か	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	40.6	7.8	-	-	外面, 叩き後ハケ・ナデ・ミガキ。内面, ハケ・ナデ。黒斑。
図 72 512	〃	ST13	支脚	橙色 7.5YR7/6	にぶい黄褐色 10YR7/3	黄灰色 2.5Y6/1	6.0	3.2	-	7.6	器高の低いタイプ。指頭により成形。中空。被熱。
図 73 514	〃	〃	紡錘車	-	橙色 7.5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	(6.0)	6.2	1.1	(39.0)	平面円形, 断面形扁平な三角形。縁辺は面取りする。中央に直径約 1.0cm の円孔。全面, ナデ。
図 87 619	〃	SB1	土錘	浅黄褐色 10YR8/3	浅黄褐色 10YR8/4	浅黄褐色 10YR8/3	(2.8)	1.6	-	(4.0)	P5 出土。管状土錘。両端, 欠損。直径約 0.7cm の円孔。
図 95 623	〃	SB6	支脚	-	橙色 7.5YR6/6	明黄褐色 10YR7/6	-	(6.9)	-	-	P145 出土。指頭により成形。脚部, 中空。摘み部, 欠損。上端をひらき, 受け部とする。被熱。煤。
図 119 634	〃	SK11	平瓦	浅黄褐色 10YR8/3	灰白色 10YR8/2	灰色 N4/0	(5.6)	(5.5)	2.1	-	凸面, 縄目痕。凹面, 布目圧痕。煤。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種	色 調			全長 (口径)	全幅 (器高)	全厚	重量 (底径)	特 徴
				内面	外面	断面					
図 130 647	5 区	SK25	平瓦	褐灰色 10YR6/1	黄灰色 2.5Y5/1	灰白色 2.5Y7/1	(12.6)	(7.8)	1.8	-	凸面, ナデ。凹面, ナデ。煤。破断面にも煤が付着。
648	〃	〃	〃	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y6/1	にぶい黄橙色 10YR7/2	(9.3)	(6.6)	1.5	-	須恵質。凸面, 縄目痕。凹面, 布目圧痕。
図 136 662	〃	SD1	〃	灰色 N5/0	灰色 N5/0	黄灰色 2.5Y6/1	(1.6)	-	1.6	-	キラ粉。側面に銘有り。
図 140 679	〃	P95	支脚	にぶい褐色 7.5YR6/3	にぶい褐色 7.5YR6/3	灰黄褐色 10YR6/2	-	(4.4)	-	7.6	手捏ね成形。脚部, 上げ底。脚付き鉢か。
685	〃	P37	土錘	橙色 5YR6/6	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい黄橙色 10YR7/3	(4.7)	(3.0)	(1.9)	(24.0)	管状土錘。穿孔は小口面から斜めに入る。直径約 0.8 cmの円孔。
686	〃	P72	平瓦	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y5/1	(7.8)	(5.4)	2.2	-	凹面, 縄目痕。凸面, 摩耗のため調整不明瞭。
687	〃	P108	〃	灰白色 2.5Y7/1	灰白色 2.5Y7/1	灰色 5Y4/1	(7.1)	(5.4)	2.6	-	凸面, 縄目痕。凹面, 布目圧痕。摩耗。
688	〃	〃	〃	灰白色 10YR8/2	浅黄橙色 10YR8/4	灰白色 10YR8/2	(17.5)	(13.4)	1.9	-	凸面, 縄目痕。凹面, 布目圧痕。被熱。煤。破断面にも煤 が付着。
図 144 733	6-1 区	ST1_ P6	不明	-	にぶい橙色 10YR7/4	-	3.1	1.5	1.2	4.7	断面僅かに楕円形状。完存。
図 149 753	〃	ST2	土玉	-	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	(2.1)	(2.0)	(0.8)	(3.0)	指圧。中央部穿孔痕欠損。
図 153 775	〃	ST3	支脚	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/8	灰オリーブ色 5Y5/2	-	(5.7)	-	10.9	脚部, 「ハ」の字形にひらき底面は丸みを帯びた平 坦状。残存部中空。手捏ね成形。
776	〃	〃	土玉	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	-	2.4	2.7	2.6	16.0	断面円形状。中央部に焼成前穿孔痕。完存。
図 165 808	〃	ST11	支脚	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	-	(6.1)	-	-	受け部欠損。脚部中空。手捏ね成形。上部のみ残存。
809	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	橙色 2.5YR6/6	-	(6.5)	-	6.6	脚部, 円柱状。裾部, 僅かにひらく。残存部中空。脚部: 指圧・板状原体によるナデ。
810	〃	〃	〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	暗灰色 N3/0	-	(5.0)	-	8.5	脚部, 歪な「ハ」の字形にひらく。裾端部は不整形。 脚部: 指圧・板状の圧痕。手捏ね成形。
811	〃	〃	不明	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	(3.8)	2.1	0.9	(6.5)	断面扁平状。残存部蹄状。端部欠損。
図 170 823	〃	ST13	勾玉	-	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい黄褐色 10YR5/3	(2.6)	1.4	1.2	(5.0)	肥厚気味の頭部に直径約 0.4cmの円孔。腹部, 緩やか な曲線状。尾部欠損。
図 224 856	〃	SD3	平瓦	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y6/1	灰色 N5/0	(25.0)	(15.0)	2.7	-	凸面, 縄目痕。凹面, 布目圧痕。
図 227 859	〃	SD4	十能	浅黄褐色 7.5YR8/4	浅黄褐色 7.5YR8/4	灰白色 10YR8/2	(11.0)	(7.0)	-	-	先端は杓状。把手状の基部は筒状で残存下部に直径 0.5cmの目釘孔。
図 238 879	〃	P85	平瓦	浅黄色 2.5YR7/3	浅黄色 2.5YR7/3	黄灰色 2.5Y6/1	(12.2)	(12.4)	3.2	-	端部の一部残存。凸面, 縄目痕。凹面, ナデ。
図 239 889	〃	包含層	十能	浅黄褐色 7.5YR8/4	浅黄褐色 7.5YR8/4	浅黄褐色 7.5YR8/4	11.2	10.3	-	-	先端は杓状 (欠損)。把手状の基部は円筒状で上下に 直径約 0.5cmの目釘孔。外面にケール, 内面に煤。
890	〃	〃	軒丸瓦	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい黄褐色 10YR7/3	(6.9)	(16.1)	2.0	-	瓦当に左三巴文。尾部が圏線状を成す。
図 249 921	7-3 区	ST5	土錘	橙色 2.5YR6/6	橙色 7.5YR7/6	橙色 2.5YR6/6	(4.2)	1.3	1.1	(4.0)	管状土錘。僅かに紡錘形状を呈した円筒形, 断面楕円 形状。直径約 0.4cmの円孔。両端部欠損。摩耗。
924	〃	〃	支脚	にぶい橙色 5YR6/4	にぶい橙色 5YR6/4	黄灰色 2.5Y5/1	-	(10.4)	-	9.8	脚部, 僅かにひらく。残存部, 中空。叩き後指頭により 成形/ナデ。被熱。煤。
図 254 966	〃	ST6	丸瓦	にぶい褐色 7.5YR7/3	にぶい褐色 7.5YR7/3	明褐色 7.5YR7/2	(7.6)	(11.2)	(4.2)	-	凸面, 縄目痕。凹面, 布目圧痕。混入。

遺物観察表 土製品

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種	色 調			全長 (口径)	全幅 (器高)	全厚	重量 (底径)	特 徴
				内面	外面	断面					
図 258 976	7-3 区	ST8	支脚	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい黄橙色 10YR7/4	灰黄褐色 10YR5/2		(4.8)		12.0	脚部、円柱状。裾端部は大きくひろく。叩き・手捏ね成形。
977	〃	〃	〃	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄褐色 10YR7/3		4.2		7.0	断面台形状の低脚円柱状。底面は僅かに上げ底。ナデ。被熱。煤。
981	〃	〃	土錘	-	明黄褐色 10YR7/6	-	5.4	2.0	1.9	18.0	管状土錘。不整形な円筒形。直径約 0.5cmの円孔。ナデ。完存。
図 261 1014	7-4 区	ST9	支脚	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	褐灰色 10YR5/1		(6.6)		8.4	残存部、中空。手捏ね成形。廃棄後被熱。
1015	〃	〃	〃	橙色 5YR7/6	にぶい黄褐色 10YR7/4	橙色 7.5YR7/6		(7.9)		6.6	残存部、中空。底面、平坦。手捏ね成形。被熱。
1016	〃	〃	〃	-	にぶい黄褐色 10YR6/4	橙色 2.5YR6/6		(3.6)			円柱状。上げ底状。ナデ。上部は粘土接合面で剥離。手捏ね成形。被熱か。
図 268 1057	7-3 区	ST11	土錘	灰白色 10YR7/1	灰白色 10YR7/1	灰白色 10YR7/1	3.6	1.5	1.3	5.1	管状土錘。円筒形。断面、扁円形。直径約 0.5cmの円孔。ナデ。ほぼ完存。
1058	〃	〃	〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	4.2	1.5	1.5	7.8	管状土錘。円筒形。断面、円形。直径約 0.5cmの円孔。ナデ。両端部欠損。
図 271 1084	〃	ST12	〃	-	橙色 5YR7/6	-	4.2	1.6	1.5	8.0	管状土錘。僅かに紡錘形。断面、楕円形。直径約 0.5cmの円孔。ナデ。ほぼ完存。
図 286 1136	7-4 区	ST18	支脚	褐灰色 10YR6/1	橙色 5YR7/6	灰白色 10YR7/1	-	(5.7)	-	8.6	外面、叩き後ナデ。内面、ナデ・指圧。端部、上から押しつけ、平坦とする。煤。
1137	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい黄褐色 10YR7/4				7.6	手捏ね成形。2本の指で受け部とする。背部、摘み。体部、中実。脚部、中空。被熱。煤。
図 294 1196	7-2 区	ST22	紡錘車	-	橙色 5YR6/6	明黄褐色 10YR7/6	(4.9)	5.2	1.3	24.0	円形。断面形扁平な算盤玉。ナデ。中央に焼成前に1穴、穿孔。直径約 0.7cm。
図 302 1276	〃	ST24	支脚	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/3	褐灰色 7.5YR5/1	(6.8)		9.3		残存部、中空。外面、叩き後ナデか。内面、ナデ。内外面とも縦方向のヘラナデ痕。接合痕、明瞭。被熱。煤。
1277	〃	〃	〃	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい黄褐色 10YR7/3	黄灰色 2.5Y5/1	(9.5)		7.0		残存部、中空。内外面、ナデ。外面、縦方向のヘラナデ。接合痕、明瞭。煤。
図 364 1414	7-3 区	SB34	土師 カマド	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 5YR7/4	浅黄褐色 10YR8/3	(5.2)	(5.2)	-	-	P184 から出土。移動式カマド。裾部を付加。ナデ。被熱赤変。
図 374 1426	7-4 区	SB39	丸瓦	浅黄褐色 7.5YR8/3	灰白色 10YR7/1	灰白色 10YR7/1	(10.6)	(7.8)	2.5	-	SK33 から出土。凸面、縄目痕。凹面、布目圧痕。焼成不良。
図 384 1437	7-3 区	SB45	土錘	-	にぶい橙色 7.5YR7/4	-	3.9	1.5	1.3	7.0	P870 から出土。管状土錘。円筒形。断面、歪な円形。直径約 0.6cmの円孔。ナデ。外面、凹凸あり。ほぼ完存。
図 425 1510	7-4 区	SA6	〃	灰白色 10YR8/1	灰白色 10YR8/2	灰白色 10YR8/2	4.1	1.0	1.0	3.0	P615 から出土。管状土錘。細身の円筒形。断面、歪な円形。直径約 0.3cmの円孔。両端、欠損。外面に煤付着。
図 431 1521	〃	SA9	〃	明赤褐色 2.5YR5/6	明赤褐色 2.5YR5/6	-	4.2	1.1	1.1	4.0	P847 から出土。管状土錘。細身の円筒形。断面、歪な円形。直径約 0.4cmの円孔。ナデ。被熱。ほぼ完存。
図 443 1557	7-3 区	SK12	土師 カマド	にぶい橙色 7.5YR7/4	橙色 5YR7/6	淡赤褐色 2.5YR7/3	22.6	(6.7)	-	-	移動式カマド。口唇、上端面状。上端からやや下がった位置に鑊を貼付。被熱赤変。
1558	〃	〃	〃	浅黄褐色 7.5YR8/3	にぶい橙色 7.5YR7/4	灰色 N4/0	-	(7.4)	-	-	移動式カマド。焚口から掛口の破片か。突帯を貼付。
図 451 1564	〃	SK19	土錘	にぶい橙色 7.5YR6/4	橙色 7.5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	4.1	1.8	1.8	11.0	管状土錘。僅かに紡錘形状を呈した円筒形。断面、円形。直径約 0.6cmの円孔。ナデ。端部欠損。
図 458 1575	7-4 区	SK29	〃	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい黄褐色 10YR7/3	4.0	1.8	1.7	10.0	管状土錘。円筒形。断面、円形。直径約 0.6cmの円孔。ナデ。
図 467 1616	〃	SK32	〃	-	にぶい黄褐色 10YR7/3	-	4.6	2.4	2.1	21.8	管状土錘。歪な紡錘形を呈した円筒形。断面、歪な楕円形。直径約 0.6cmの円孔。ナデ。
1617	〃	〃	〃	-	にぶい橙色 7.5YR6/4	-	5.2	1.8	1.5	14.57	管状土錘。円筒形。断面、歪な円形。直径約 0.4cmの円孔。ナデ。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種	色 調			全長 (口径)	全幅 (器高)	全厚	重量 (底径)	特 徴
				内面	外面	断面					
図 467 1618	7-4 区	SK32	土鍾	-	にぶい褐色 7.5YR6/3	-	5.7	2.2	2.2	25.06	管状土鍾。円筒形。断面、歪な円形。直径約 0.7cmの円孔。ナデ。ほぼ完存。
1619	〃	〃	〃	にぶい黄褐色 10YR5/4	にぶい黄褐色 10YR5/4	橙色 7.5YR6/6	6.4	2.2	(1.4)	(17.0)	管状土鍾。歪な紡錘形。断面、楕円形。直径約 0.7cmの円孔。端部面状。ナデ。ほぼ完存。
図 469 1631	〃	SK34	平瓦	灰色 5Y6/1	灰色 5Y5/1	灰色 5Y6/1	(6.2)	(5.0)	1.8	-	凸面、縄目痕。凹面、布目圧痕。
1632	〃	〃	〃	灰白色 5Y7/2	灰白色 5Y7/2	灰色 5Y6/1	(6.2)	(8.0)	2.5	-	凸面、縄目痕。凹面、布目圧痕。
図 480 1657	〃	SK45	土師 カマド	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	(6.3)	(6.3)	(2.5)	-	移動式カマド。内外面とも、ヨコナデ。
図 481 1664	〃	SK46	土鍾	-	橙色 7.5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	6.1	2.5	2.3	29.0	管状土鍾。円筒形。断面、扁円形。直径約 0.7cmの円孔。端部面状。ナデ。
1665	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	橙色 5YR7/6	6.0	2.4	2.4	28.0	管状土鍾。円筒形。断面、歪な円形。直径約 0.7cmの円孔。端部面状。ナデ。
図 507 1699	7-2 区	SD35	支脚	にぶい黄褐色 10YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/4	褐灰色 10YR4/1					手捏ね成形。接合面で剥離。被熱。煤。
図 517 1746	7-4 区	P708	平瓦	灰白色 2.5Y7/1	黄灰色 2.5Y5/1	灰黄色 2.5Y7/2	(9.6)	(10.5)	2.3	-	凸面、縄目痕。凹面、布目圧痕・ナデ。端部、ヘラケズリで面取り。
1747	7-3 区	P59	丸瓦	灰白色 2.5Y8/2	灰白色 2.5Y8/1	灰色 N5/0	(12.6)	(8.3)	2.4	-	凸面、ナデ。凹面、布目圧痕。
図 518 1770	〃	包含層	粘土塊	-	にぶい橙色 7.5YR7/4	灰色 5Y4/1	6.4	5.3		77.0	手捏ね成形。接合面で剥離。弥生土器か。把手か。
図 527 1917	〃	〃	土鍾	-	橙色 5YR7/6	-	4.0	1.7	1.6	9.0	管状土鍾。紡錘形状を呈した円筒形。断面、円形。直径約 0.5cmの円孔。ナデ。完存。
1918	〃	〃	〃	-	にぶい橙色 7.5YR7/4	-	3.8	1.7	1.7	10.2	管状土鍾。歪な紡錘形状を呈した円筒形。断面、円形。直径約 0.6cmの円孔。ナデ。完存。
1919	〃	〃	〃	-	橙色 5YR6/6	-	4.1	1.6	1.6	9.0	管状土鍾。紡錘形状を呈した円筒形。断面、円形。直径約 0.5cmの円孔。ナデ。完存。
1920	7-4 区	〃	〃	明黄褐色 10YR7/6	赤褐色 10R5/4	明黄褐色 10YR7/6	(5.6)	1.8	1.9	(12.0)	管状土鍾。紡錘形状を呈した円筒形。断面、円形。直径約 0.6cmの円孔。ナデ。被熱。ほぼ完存。
1921	7-3 区	〃	〃	にぶい橙色 5YR6/4	にぶい橙色 5YR6/4	橙色 5YR7/6	3.9	2.8	2.6	(25.0)	管状土鍾。寸胴な紡錘形状を呈した円筒形。断面、扁円形。直径約 0.7cmの円孔。ナデ。端部欠損。
1922	7-4 区	〃	〃	-	にぶい褐色 7.5YR5/3	橙色 7.5YR6/6	4.1	3.0	2.7	(30.0)	管状土鍾。寸胴な紡錘形状を呈した円筒形。断面、扁円形。直径約 0.8cmの円孔。ナデ。端部欠損。
1923	7-3 区	〃	不明	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	浅黄褐色 10YR8/3	3.3	2.4			多角形の円柱状。裾部、ひらき気味。指圧。高杯をモデルとするミニチュア土器か。
1924	7-4 区	〃	丸瓦	灰白色 2.5Y8/2	灰白色 2.5Y7/1	黄灰色 2.5Y6/1	(8.6)	(9.0)	(2.6)	-	凸面、ヨコナデ。凹面、布目圧痕。やや摩耗。
1925	〃	検面	〃	灰色 5Y5/1	灰黄色 2.5Y6/2	黄灰色 2.5Y4/1	(10.2)	(5.2)	2.2	-	凸面、ナデ。凹面、布目圧痕。やや摩耗。
1926	〃	包含層	平瓦	灰白色 2.5Y8/2	灰白色 2.5Y7/1	灰黄色 2.5Y7/2	(5.2)	(4.3)	2.4	-	凸面、縄目痕・ナデ。凹面、布目圧痕。
1927	〃	〃	〃	灰白色 10YR7/1	褐灰色 10YR6/1	褐灰色 10YR5/1	(7.6)	(9.9)	1.8	-	凸面、縄目痕・ナデ。凹面、布目圧痕。側面、ナデ。
1928	7-3 区	〃	土師 カマド	にぶい褐色 7.5YR6/4	橙色 5YR7/6	灰白色 10YR8/1	(8.2)				手捏ね成形。焚口か。
1929	〃	〃	羽口	にぶい黄褐色 10YR7/4	灰黄色 2.5Y7/2	明赤褐色 2.5YR5/6	(8.8)	8.0	7.7		円筒形状。孔径約 2.0cm。炉側に鍛冶残滓熔着。

遺物観察表 石製品

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種	法 量				特 徴
				全長	全幅	全厚	重量	
図 23 142	5 区	1EST1	叩石	10.9	4.4	4.1	273	砂岩製。棒状の河原石を利用。両先端部に弱い敲打痕。
143	〃	〃	〃	9.6	7.2	3.0	310	砂岩製。扁平な河原石を利用。側面、4ヶ所に敲打痕。
144	〃	〃	〃	7.2	6.9	3.1	206	砂岩製。扁平な河原石を利用。激しい敲打により側面を中心に剥離する。
図 27 163	〃	ST1	石包丁	8.2	4.0	1.1	46	頁岩製。打製。片刃。自然面・主要剥離面を残す。両端に紐掛け用の抉り。コーングロス付着。
164	〃	ST1_ 中央 P	叩石	10.1	3.2	0.9	57	片岩製。棒状の河原石を利用。両先端部を使用。被熱。
165	〃	〃	砥石	17.1	(11.8)	4.4	(1.3kg)	砂岩製。両面とも砥石として使用。一面の中央部に敲打痕が集中。
図 42 299	〃	ST4・7	叩石	13.3	4.7	3.5	311	砂岩製。断面、三角形。一辺の側面に敲打痕。
図 60 457	〃	SX2_ P29	砥石	4.3	3.6	3.3	71	泥岩製。断面、五角形。上下、欠損。被熱か。
458	〃	SX2	叩石	11.5	7.7	3.4	444	砂岩製。周囲と両面の中央部を使用。赤色顔料付着か。
図 61 459	〃	〃	台石	37.8	19.9	13.2	15.6kg	砂岩製。中央部を中心に砥石として使用。赤色顔料付着。被熱。煤。完存。
図 66 473	〃	ST10	〃	33.3	30.2	11.7	17.2kg	砂岩製。扁平な自然石を利用。使用により平滑となっている部分がある。使用頻度は低い。
図 69 485	〃	ST12	石包丁	8.4	5.0	1.0	53	頁岩製。打製。両刃。主要剥離面を残す。両端に紐掛け用の抉り。コーングロス付着。
図 96 624	〃	SB6	石臼	(19.7)	(18.2)	6.8	(3.2kg)	P133 出土。砂岩製。中央に軸孔。把手は側方打ち込み、ホゾ有り。使用により擦り目は摩滅。
図 128 644	〃	SK19	石包丁	9.2	4.7	1.2	70	礫岩製。打製。片刃。一面は自然面、他面は主要剥離面を大きく残す。両端に紐掛け用の抉り。コーングロス付着。完存。
図 130 649	〃	SK25	砥石	(14.4)	(10.6)	6.0	(1.3kg)	砂岩製。両面および側面を使用。被熱。表面は被熱により剥離か。
図 142 722	〃	包含層	叩石	8.5	6.2	2.9	204	砂岩製。全面、敲打痕。完存。
図 146 735	6-1 区	ST1	投弾	5.3	5.4	5.3	182	砂岩製。一部表面剥離。
図 150 755	〃	ST2	磨石	11.2	8.4	5.8	797	砂岩製。石杵状。両面・端部に敲打痕。全体的に磨滅し、うすくベンガラが付着。
756	〃	〃	〃	13.8	8.4	3.8	643	砂岩製。扁平な小判状。断面、楕円形。両端部に敲打痕、ベンガラが濃く付着。側縁にも、うすく付着。
図 154 779	〃	ST3	台石	56.3	21.9	15.9	31.4kg	砂岩製。扁平な隅丸方形。3面に使用による擦痕がみられる。側面は砥石状に研磨。
図 165 812	〃	ST11	石包丁	(7.4)	5.2	1.0	(43)	砂岩製。円礫の打欠きによる剥片を使用する。剥離痕、自然面を残す。片側端部欠損。周縁に調整打痕。刃部打製。
813	〃	ST11_ 中央 P	叩石	9.2	8.8	3.6	420	砂岩製。扁平な円礫。両平坦面・周縁に敲打痕。完存。
図 170 824	〃	ST13	砥石	18.1	10.2	4.6	1.2kg	細粒砂岩製。直方体で一部欠損。長辺の両面と側面が研磨され、線状の擦痕を認める。
図 172 828	〃	ST14_ P4	〃	(5.5)	2.8	2.1	(45)	白色泥岩製。四角柱。片側端部欠損。長辺の4面が研磨され、線状の擦痕を認める。
図 177 832	〃	SB1_ P4	石包丁	(4.8)	3.8	0.8	(22)	結晶片岩製。打製。長方形。両端に抉りか。周縁に調整剥離痕。両刃。片側、欠損する。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種	法 量				特 徴
				全長	全幅	全厚	重量	
図 177 833	6-1 区	SB1_ P10	石包丁	8.1	5.2	1.7	84	砂岩製。打製。両刃。円礫を打欠き、楕円形の剥片を利用。自然面・主要剥離面を残す。両端に抉り。周縁に調整剥離痕。完存。
図 231 862	〃	SD23	砥石	12.0	10.9	1.9	436	細粒砂岩製。残存部は正方形の直方体。最大面の両面が研磨され、線状の擦痕を認める。
図 239 891	〃	包含層	石包丁	(3.6)	(3.7)	(0.7)	(11)	結晶片岩製。打製。両刃。長方形状か。周縁に調整剥離痕。
図 252 949	7-3 区	ST6	台石	45.2	36.3	13.4	26.0kg	砂岩製。中央部が淡い赤褐色。赤色顔料精製の可能性。
図 258 986	〃	ST8	叩石	14.3	6.1	2.6	377	砂岩製。扁平な棒状の河原石を利用。両側縁に敲打痕。完存。
987	〃	ST8 _P13	〃	12.5	4.8	3.5	358	砂岩製。棒状の河原石を利用。両端・片側縁に敲打痕。完存。
図 259 988	〃	〃	砥石	32.2	16.1	12.6	7.6kg	砂岩製。縦長の河原石を利用。4面を使用。幅 4cm、幅 5cmの溝状の使用痕が認められる。完存。
図 263 1038	7-4 区	ST9	石包丁 か	10.6	5.3	1.0	73	結晶片岩製。表面、自然面を大きく残す。裏面、主要剥離面を大きく残す。打製石包丁の未成品か。
図 268 1059	7-3 区	ST11	叩石	10.7	9.7	3.7	529	砂岩製。扁平な円礫を利用。両平坦面中央及び周縁部に敲打痕。完存。
図 281 1127	〃	ST16	砥石	32.7	17.7	4.5	4.0kg	砂岩製。扁平な河原石を利用。両平坦面、使用する。幅 5cm、幅 7cmの溝状の使用痕が認められる。また、鉄錆、付着。
図 286 1138	7-4 区	ST18	〃	24.4	19.4	4.6	3.0kg	砂岩製。両面、使用により平滑となる。一部の側面も砥石として使用。線状の使用痕。浅い窪みが楕円形を描く使用痕。鉄錆、付着。黒褐色を呈する。
図 290 1167	7-1-3 区	ST20	台石	28.5	24.1	8.1	7.0kg	砂岩製。使用により平滑となる。裏面も一部、使用により平滑となる。鉄錆、付着。
図 302 1280	7-2 区	ST24 _P2	磨石	11.7	10.8	6.2	1.145	砂岩製。円形の扁平な河原石を利用。断面、長楕円形。中央部・側面に敲打痕。ベンガラ付着。
1281	〃	〃	〃	12.2	10.6	4.9	891	砂岩製。円形の扁平な河原石を利用。断面、楕円形。側面に弱い敲打痕。赤色顔料が付着か。
1282	〃	ST24 _P1	台石	(21.4)	(16.9)	9.0	(3.968)	礫岩製。扁平な河原石を利用。2あるいは3ヶ所に使用による凹み有り。裏面に鉄錆が付着か。
図 303 1283	〃	ST24	〃	30.4	(23.5)	8.8	(9.6kg)	砂岩製。扁平な河原石を利用。使用による凹み、その周囲は変色する。裏面も使用により一部凹む。
図 305 1295	〃	ST25	叩石	16.4	13.7	4.3	1.406	砂岩製。円形の扁平な河原石を利用。断面、長楕円形。両面とも中央部・縁辺の一部に敲打痕。
1296	〃	〃	〃	12.6	8.9	3.4	538	砂岩製。円形の扁平な河原石を利用。断面、長楕円形。中央部、縁辺に敲打痕。被熱。煤。完存。
図 384 1438	7-3 区	SB45	〃	8.3	7.4	2.4	214	P870 出土。砂岩製。内外面とも中央部と側面の一部に敲打痕。被熱。
図 492 1672	〃	SD2	石鏃	2.5	1.8	0.3	1.0	サヌカイト製。凹基式。扁平。先端部欠損。
図 517 1748	7-4 区	P897	砥石	15.8	12.7	3.2	1.054	細粒砂岩製。3面が使用され凹面を呈する。平坦面に敲打痕。被熱痕。煤。
1749	7-3 区	P533	叩石	13.8	10.8	5.6	1.156	砂岩製。扁平な円礫を利用。両端部に敲打痕。表面に磨滅痕。片面・側縁が赤褐色（赤色顔料付着か）。完存。
1750	〃	P427	磨石	11.2	10.1	5.2	836	砂岩製。扁平な円礫を利用。全面に磨滅痕。完存。
図 528 1930	〃	包含層	叩石	12.5	11.5	6.1	1.235	砂岩製。扁平な円礫を利用。周縁部に敲打痕。完存。
1931	7-4 区	〃	砥石	(11.2)	(6.1)	5.1	(351)	細粒砂岩製。直方体。6面を使用。中央部は細くなる。両端、欠損。

遺物観察表 石製品

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種	法 量				特 徴
				全長	全幅	全厚	重量	
図 528 1932	7-4 区	検面	砥石	10.5	5.1	4.2	342	砂岩製。直方体を呈する。4面を使用し、うち1面はあまり使用していない。中央部は細くなる。
1933	7-3 区	包含層	不明	8.4	7.6	4.8	505	片岩製か。本来は円柱状か。大部分は欠損。被熱。煤。
1934	〃	〃	砥石	(10.2)	(8.8)	3.6	(524)	砂岩製。歪な台形に残存。断面、方形。3面が使用され、線状の擦痕を認める。1面は凹状。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種	法 量				特 徴
				全長	全幅	全厚	重量	
図 27 166	5 区	ST1	鉄鍔	5.1	(2.1)	0.3	5.0	圭頭式。ほぼ完存。鍔身の断面, 扁平。基部の断面, 正方形。
図 43 312	〃	SX1	鈍	(8.4)	0.4	0.9	18.7	先端部・基部, 欠損。断面, 楕円形。
図 45 313	〃	ST5	不明	(2.6)	0.6	0.3	1.0	青銅製。断面, 楕円形。先端, 尖る。
図 62 460	〃	SX2	鉄斧	3.1	2.4	0.3	7.0	小型の鉄斧か。平面, 台形。断面, 扁平な長方形。
461	〃	〃	鈍	2.8	1.4	0.3	4.0	断面, 扁平な長方形。先端部・基部, 欠損。
462	〃	〃	〃	18.2	0.9	0.4	33.4	断面, 扁平な長方形。先端部, 欠損。基部は幅を減じる。
図 87 618	〃	SB1	楔か	(7.2)	1.3	0.5	(17.0)	P8 出土。鉄製。先端部, 欠損。断面, 長方形。先端部の断面, 正方形。
図 153 777	6-1 区	ST3	鉄鍔	4.5	1.9	0.8	5.0	圭頭式。鍔身部, 短い菱形。基部の断面, 方形。
778	〃	〃	〃	(4.6)	0.8	0.3	(4.0)	圭頭式か。基部の断面, 長方形。鍔身部・基部, 欠損。
図 170 825	〃	ST13	〃	5.0	1.7	0.5	4.0	圭頭式。基部の断面, 長方形。
図 221 850	〃	SD2	鉄釘	(3.5)	0.6	0.7	(3.0)	体部の断面, 方形。端部, 欠損。
図 238 880	〃	P87	鉄鍔	3.7	1.2	0.3	2.0	圭頭式。基部の断面, 方形。
図 239 892	〃	検出面	〃	(5.3)	2.0	0.6	(14.0)	方頭式。基部, 欠損。
893	〃	包含層	鉄釘	(10.0)	1.7	1.4	(37.0)	頭部, 逆「L」の字形。体部の断面, 長方形。両端, 欠損。
894	〃	〃	〃	10.2	0.8	0.8	19.0	頭部, 僅かに逆「L」の字形。体部の断面, 方形。
895	〃	〃	〃	9.6	1.0	0.8	18.0	頭部, 僅かに肥厚。体部の断面, 楕円から長方形。
図 253 950	7-3 区	ST6	鉄鍔	(5.5)	2.1	0.6	(9.0)	圭頭式。基部の断面, 長方形。
図 265 1046	〃	ST10	鉄釘	(6.2)	0.8	0.9	(9.0)	頭部欠損。体部の断面, 方形。鉄鍔の茎か。
図 268 1060	〃	ST11	〃	(14.9)	1.3	1.0	(55.0)	頭部, 逆「L」の字形 (一部欠損)。体部の断面, 長方形。先端, 欠損。
図 273 1100	〃	ST13	〃	6.4	0.8	0.7	(9.0)	頭部, 逆「L」の字形。体部の断面, 方形。
図 297 1241	7-2 区	ST23	鉄鍔	(3.9)	(0.7)	0.5	(4.6)	茎部か。鍔身・基部, 欠損。基部に向かって幅が狭くなる。断面, 方形。
図 344 1324	7-3 区	SB24	鉄釘	(8.7)	1.2	1.1	(32)	SK14 出土。頭部欠損。体部の断面, 方形。
図 364 1415	〃	SB34	〃	(4.6)	0.6	0.6	(3.2)	P181 出土。頭部欠損。体部の断面, 方形。
図 480 1658	7-4 区	SK45	鈍	6.0	2.0	1.4	14.1	体部の断面, 長方形。
図 503 1691	7-2 区	SD33	鉄鍔	5.7	2.2	0.3	9.4	圭頭式。基部の断面, 長方形。鍔身は扁平, 基部よりもうすい。ほぼ完存。

遺物観察表 金属製品

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種	法 量				特 徴
				全長	全幅	全厚	重量	
図 517 1751	7-3 区	P437	刀子	(7.1)	1.8	0.9	(32.0)	茎部か。茎尻は丸みを帯びる。断面, 長方形。
1752	〃	〃	鉄釘	(4.9)	0.9	0.8	(8.0)	頭部, 逆「L」の字形。首部, やや屈曲。体部の断面, 方形。先端, 欠損。
1753	〃	P450	〃	(4.9)	0.7	0.6	(4.0)	体部の断面, 方形。頭部, 欠損。
1754	7-4 区	P746	スラグ	4.2	2.8	0.9	16.0	扁平で不整形を呈する。全体的に凹凸がみられる。気泡はほとんどない。
図 528 1935	7-3 区	包含層	鉄釘	(5.1)	0.9	0.9	(9.0)	体部の断面, 方形。両端, 欠損。
1936	〃	〃	〃	(5.2)	0.7	0.9	(8.9)	体部の断面, 方形から長方形。上端, 欠損。
1937	〃	〃	〃	(10.8)	1.3	1.2	(42.0)	体部の断面, 方形。両端, 欠損。
1938	〃	〃	不明	(11.0)	1.6	0.6	(16.0)	下部の断面, 方形。上部の断面, 長方形。両端, 欠損。
1939	〃	〃	〃	(9.3)	0.9	1.0	(14.0)	体部の断面, 方形。両端, 欠損。鉄釘か。
1940	7-4 区	〃	スラグ	7.6	6.8	2.2	134.0	楕形滓。上面は凹凸がある。気泡がみられる。黄白色から薄紫色に発色する。

高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第157集

若宮ノ東遺跡Ⅱ

都市計画道路高知南国線建設工事に伴う発掘調査報告書Ⅱ

2023年3月10日

発行 (公財)高知県文化財団埋蔵文化財センター
高知県南国市篠原1437-1

Tel. 088-864-0671

印刷 川北印刷株式会社

